

四庫全書存且叢書編纂委員會編

答 鲁 善 社

四庫全書存目叢書編纂委員會編

第二二五册 史 部

叢

庫全書存[

齊 魯 書

社

責任編輯: 孫言誠 賀 偉





## 四庫全書存目叢書・史部二二五 (大陸版・限中國大陸發行)

四庫全書存目叢書編纂委員會編

齊魯書社出版發行 (濟南經九路勝利大街) 廣東精裝印務有限公司印製

787×1092 毫米 16 開本 52 印張 1996 年 8 月第 1 版 1996 年 8 月第 1 次印刷 印數 1-100

ISBN 7-5333-0535-3

Z・37 史部定價:87600 圓

## 史部第二二五册目次

## 史部·地理類

# 太

修攘通考 六卷 《明》何镗輯	東南防守利便三卷 [宋]陳克 吳若撰 呂祉輯	介石堂水鑑六卷 〔清〕郭起元撰 蔡寅斗評	治河前策二卷後策二卷 〔清〕馮祚泰撰	浙江圖書館藏清康熙五十七年雍正十三年孝友堂刻本[明]富玹撰 續刻三刻[清]張文瑞輯 附[明]賈應璧撰	太湖備考十六卷首一卷附湖程紀略一卷 [清]金友理撰 附 吳曾撰
	五 五 四	四八〇	五五二	二七六	:

湖程紀略一卷首一卷附

〔清〕金友理撰 附 吳曾撰

中國人民大學圖書館藏清乾隆十五

年藝蘭圃刻本

附《四庫全書總目・太湖備考 十六卷》提要

金子至相級而好學有卓識建	色好好别志太湖		君舟行险四	中風濤不测山民之輸将指點	要移方佐以指於了且處太湖	之塞太湖;水政不倘多农田	竊我为地方差沒湖管以防衛	廟漢国挚念切民艱處太湖有料逐	連逢也而又	恩龍震澤底官以来数千万年多此	<b>劉尉雪嚴盖羽</b>
--------------	---------	--	-------	--------------	--------------	--------------	--------------	----------------	-------	----------------	---------------

弗	遊	長	Ø	Ŗ	ż	P.	其	遥	ま	回	其	業	少
鳏	夫	チ	赋	岩	縣	i [1]	13	ie	必	考	Fi	2	输
あ		傅	i	j	通	沫	太	也	畫	烟	-	俊	古
加	10	倉	背	围	塞	73	湖	豪	縠	5 \$3	輟	侔	住
其	421	ì	核	73	計	12	窮	跃	酚	₹3	業	可喜	な地
志	鬼	方	地	点	违	は別		成	1+3	F	時		裁
2	荒	涛	畝	(5)	16	z] L	源	2	俸	13,	F3	ム	争一
5	延	泛	か	首件	か)	<b>1</b>	竟	E	沒	-ts	14	神	两
犯	2	谷,	加坡	科绿	险主	ำ≯ม	委	11	未	杀	るロ	併七	未裁
載	說	i i	其	奏	武力	讨访	和	争	1考	两	志	考一	政为
私越	制	抱	憲言	失議	和知	45	知其	親	为	輯	和	書	舉
1314	To	蔛	3	1/30	-770		12.2	1875	(W)	77	7.70	100	179

朝 廷 程 冷闹 要 114 郅隆 生 W3 Tity Z 供 湖 な 學識 挨 老程 14 量 话 誐 亭 围 3 دل 巻 ない るか 佐 大 え To 妃. w3 i 乾隆 涕 慈兴兄 年富 為 İM 쓮 Ø 治 新庭 大名 換出夜坊 林 濟 浦 應 也 争打 庫 な 蔡 博 一垒 可通 Ŋ 33 2 13 # 午孟夏菜庭 く爰幸法 す 42 書 其 かっ '婀 用 ż 而 打 成 113 بط. 嶼 详 夭 風 未 |-全 美 į 國 津 就 述 を 賠 矣 养湯 z H G え 古 **~**3 宜 B 争 **\$**. 頁 视 其 刹 2

間 澤 水 先 之 业 浙 也 用 山 氽 淞 如 拼 示 带 中 其 妻之 登 自 水之書士期於 編 利 生 又 N 两 覧 從 之溪漬沒港 莫 大 不 學於 大 是余遂 名勝特 翁 悦之每退而誌焉既開王 於 如 者 故 中丞 有關 釐 文認 ル 大油情考 季霖之具 业 如 設而季霖 經 全 1 王 濟 縹 餘事耳 岩 舎 編 之暇 樃 緲 以 國 之學無 之記 吳先 置 為三 之 什 二 以 計 區志 大 有寔 孝 民 計 而 相 凡 所 生者時得出 勝 志 黄運 州 局 弗 生之 湖 何 野不 而 稂 論會 竊 之 望 名 业 太 文 文格所 用也為 十邑聚派之 門二十有 謂夫 外 及 湖 江淮 諦 而 湖 轧 子厚 三 廣 節 經 业 而 隆 人者記 聞其論 編 遊 文 薮 環 州 銊 濟 尤 パ 見者 格之 若 十 百 2 終 及太 如 先 1 往 餘 邑 里 後 足 懂 N 丑 鮮 載 湖 脇 震 説 湖 環 指 觀 於 江 為

瀆漊 說 世 不 是 留 傳 也 者 考古 東 之 意 爰 大勢 不 載 取 舟 經 ž 語 所 學有實 装 及請於先 暇 多述 太 王 和 道 畫 關 2 證 東題 以 編 湖 雖 湖 耶 及 所 太 為 太湖情事 解 今 遠 翁 者 山 湖 湖 宜. 而 思 子 務 用 志之 有 生惜 徧 及 必 不 中 欲 扼 善為 之書 傳 欲詳 至 歴 所 訂 柜 目 中 手 之 居 寒 其 塞 湖 採 边 自 名 書 丞 中 於 山之間樂 其事而 太湖 也弟子 亦 7 擇 沿 勝 人 是 欽 2 四 究 手訛 鮮 自 登 乎 眺 而 有 之 有專書 其 先 增 能 太 湖 ツノ 朢 在 間 而觀 得其寔狀後 方生補 源 和之 湖之名 得 外 倘尤 無 由 敏成. 委 集 湖 曰 其 足 办 為 太 2 農 先 是 險 黄 關 タト 和 XX 要 湖 国 任 田 勝湖 馬 誠界 夷 之 運 生 取 周 封 領 前 溪 經岬 昌 淮 證 漕 4

	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七一	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七百	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
<i>.</i>											
	j	À									į
	j	j									- j
	- <i>)</i>										
			7	j j	Ë	P. P. C.		P. P. C.	P. P. C.	Ë	- /
		•	- <i>j</i>	j.	j <sup>z</sup> .					j <sup>z</sup> .	
		•	- )	- <i>j</i>		<b>一</b>		<b>一</b>	<b>一</b>		
		•	- <i>)</i>	- <i>j</i>							<b>-</b> ノ
			- <i>j</i>	<b>一</b>		J	<u>プ</u>	J	J		
					<b>ア</b>					<b>ア</b>	
				<i>y</i>	J		P			J	
					J	J	) P	J	J	J	
まず 「一門・ショー」」」」」」					J		<b>卢</b>			J	
こうこう ヨリンコー 一一一月フトンラン				<i>J</i>	<b>プ</b>	<u></u>	J.	<u></u>	<u></u>	<b>プ</b>	
言いて、同じローリン月フトを引いて					J.	J. Company of the com	P. Control of the con	J. Company of the com	J. Company of the com	J.	
このでは 見に ローリン月りをを見たいしー・1つ				ブ	ブ	<b>プ</b>	<b>プ</b>	<b>プ</b>	<b>プ</b>	ブ	
までは、日本に、エーリー、近日では では、日本に、エーリー、近日では では、日本に、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」	Tide ( )			7	プー 111111111111111111111111111111111111	户	卢	户	户	プー 111111111111111111111111111111111111	
一致一百千日下八一司大切三角空塔を三川上	はないころうこう	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	7	プー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー	プー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー	プー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー	戸りによりにはいる。	プー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー	プー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー	プー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー・コー	indentification of the state of
1日、五千四年か一見太旬四夏を見る近三ド十五日	150、11月1日日 11月月日子月1日	また 月でロー 11月月日上午日で	また 関ラローに用りを表明された	ラー 明っロー 川タチを明って	ラー 明 ロート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	三 日 ロート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ラー 見てローして用りをきまって	三 日 ロート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	三 日 ロート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ラー 明 ロート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ラー・ 見つロー 11月月日をき見る
1月一五十二年十十月大七八五五日日日二十十日七	一百一月にローして月りをを見た.	西京日 別にロール、月日を日本	きょう おにローして月りをを見られて	ラテー 別にローレン月のおき間に、Tーレンド	ラー 別にロール、月の町を別に、「! 」	1000000000000000000000000000000000000	ラー 別のロールの用のを登りた。マールの	1000000000000000000000000000000000000	1000000000000000000000000000000000000	ラー 別にロール、月の町を別に、「! 」	Bには 別にローして月日色を見たこう
三十二十五十五三十五三十五十五十五十五十五十五十五十二十五十二十五十二十二十二十二	音い一見にローして月りをを見たこり	百二月にロー1二月日をきる日に	音子において、カラをを見られていている。	きったりにロールン月のもをあたこして	きったりにロールン月のもをあたこと	きった月にロールン用りを登りたこと	きったりにロールン用りを登りたこと	きった月にロールン用りを登りたこと	きった月にロールン用りを登りたこと	きったりにロールン月のもをあたこと	音に見いロールン月日色を見たいして
1.10万一月一月大陆已经过限数三个十三七	吾一日下日下口した月日をきるところ	吾子上司人中一見大明日を登局を二十一二二	吾子上司スロールと明りを登場をニリーショ	吾子上司スロールと明りを登局をニリーショ	吾子上司八四一九人明日色を周を二十一二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	吾子上司八四一九七月日色を周を二十一二十二	吾子上司八四一九七明の色を周氏ニリーショ	吾子上司八四一九七月日色を周を二十一二十二	吾子上司八四一九七月日色を周を二十一二十二	吾子上司八四一九人明日色を周を二十一二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	吾子上司人口した月日を登局を二十一二十二
1110元二月フター 多大はこりは飛動三川十三十	香云午南下四一見大明日を登園を三十一	吾子上司八四一見と明り色を問を二十一二二	吾子中南下四一見と明りを登場を三十一とこ	吾子中間な四一見と明りを登場を三十一とこ	吾子中間に四一見と明り色を問を二十一と二	吾子中間下四一見と明り色を問を二十一二十二	吾子中間に四一見と明り色を問を二十一ろこ	吾子中間下四一見と明り色を問を二十一二十二	吾子中間下四一見と明り色を問を二十一二十二	吾子中間に四一見と明り色を問を二十一と二	吾子中間下四一見と明りを登るとり一つこ
言う一門フォーリフはでり近派医三州十七十	吾云千明不四一見太明四竟麼問悉三川十五一	吾云千間不如一見太明四竟登問玉三川十二二	香云千間不如一見太明四竟產間至三川十五二	香云千開不如一見太明四竟登場至三川十五二	吾二千間不如一見太明四竟登場至三川十五二	吾二千用不如一見太明四竟登場至三川十五二	吾二十間不四一見太明四竟登場至三川十五二	吾二千用不如一見太明四竟登場至三川十五二	吾二千用不如一見太明四竟登場至三川十五二	吾二千間不如一見太明四竟登場至三川十五二	吾云千間不如一見大明四竟登問玉三川十五二
言うでアンターリンはでり近近歴三州十七十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十己七	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登獨玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登獨玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登獨玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登獨玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十二十
言うでアンオーリンドでも近外四三州一ゼイ	吾云千聞不如一見太胡四竟登問还三川十五七	语云千聞不如一見太胡四竟登問玉三川十己七	语云千聞不如一見太胡四竟登問玉三川十己七	语云千聞不如一見太胡四竟登問玉三川十五十	语云千聞不如一見太胡四竟登問玉三川十五十	语云千聞不如一見太胡四竟登問玉三川十五十	语云千聞不如一見太胡四竟登問玉三川十四十	语云千聞不如一見太胡四竟登問玉三川十五十	语云千聞不如一見太胡四竟登問玉三川十五十	语云千聞不如一見太胡四竟登問玉三川十五十	语云千聞不如一見太胡四竟登問玉三川十己七
言うでアンターリンはでり近派歴三州十七十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五一	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十己七	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十
言うでアンターリンはでも近が歴三州十七十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五七	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十己七	吾云千聞不 如一見太明四竟登問玉三川十五十	帝云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	每云千開不如一見太明四竟登問至三川十五十	每云千聞不如一見太明四竟登問至三川十五十	每云千開不如一見太明四竟登問至三川十五十	每云千開不如一見太明四竟登問至三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十	吾云千聞不如一見太明四竟登問玉三川十五十
こう・ドンサージングでも言うの三かっても	语云千聞不如一見太胡四竟意間逐三川十五七	语云千聞不如一見太胡四竟登問还三川十五七	语云千聞不知一見太胡四竟意問还三川十五七	语云千聞不知一見太胡四竟登問还三川十四七	语云千聞不知一見太胡四竟登問逐三川十四十	语云千聞不知一見太胡四竟意問还三川十四十	唐云千聞不如一見太胡四竟意間医三川十三十	语云千聞不知一見太胡四竟意問还三川十四十	语云千聞不知一見太胡四竟意問还三川十四十	语云千聞不知一見太胡四竟登問逐三川十四十	语云千聞不如一見太胡四竟意問还三川十七十
一言・・ アンサー・プラダスチョックニナー モー	语云干聞不如一見太胡四竟意問歷三川十四十	语云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十五十	语云千聞不如一見太胡四竟意間胚三川十五七	语云千聞不如一見太胡四竟意問胚三川十号七	语云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	唐云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	唐云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	唐云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	唐云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	语云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	语云千聞不如一見太胡四竟意問胚三川十五七
	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十四七	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十五七	語云千聞不如一見太胡四竟意問胚三川十色七	語云千聞不如一見太胡四竟意問胚三川十二七	語云千聞不如一見太胡四竟意間歷三川十四七	語云千聞不如一見太胡四竟意間歷三川十四七	語云千聞不如一見太胡四竟意間歷三川十四七	語云千聞不如一見太胡四竟意間歷三川十四七	語云千聞不如一見太胡四竟意間歷三川十四七	語云千聞不如一見太胡四竟意間歷三川十四七	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十五七
11、一一コンガー・シングトお言うをニナー・サー	語云千聞不如一見太胡四竟意問胚三川十四七	语云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十五七	语云千聞不如一見太胡四竟意問胚三川十色七	语云千聞不如一見太胡四竟意問胚三川十三七	唐云千聞不如一見太胡四竟 <b>建問歷三川十四七</b>	唐云千聞不如一見太胡四竟 <b>建問歷三川十四七</b>	唐云千聞不如一見太胡四竟 <b>建問歷三川十四七</b>	唐云千聞不如一見太胡四竟 <b>建問歷三川十四七</b>	唐云千聞不如一見太胡四竟 <b>建問歷三川十四七</b>	唐云千聞不如一見太胡四竟 <b>建問歷三川十四七</b>	语云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十色七
11、一一一 ファーシンド ドラング・リー・マー	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十四七	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	語云千聞不如一見太胡四竟意問胚三川十五七	語云千聞不如一見太胡四竟意問胚三川十二十	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三州十二十	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三州十二十	語云千聞不如一見太胡四竟意問歷三川十二十
1 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語云干聞不如一見太湖四竟遼間歷三川十四七	語云千聞不如一見太湖四境遼間歷三川十邑七	語云千聞不如一見太胡四竟遼間歷三川十色七	語云千聞不如一見太胡四竟遼間歷三川十邑七	語云千聞不如一見太胡四竟遼間歷三川十邑七	語云千聞不如一見太胡四竟遼間歷三川十邑七	語云千聞不如一見太胡四竟遼間歷三川十邑七	語云千聞不如一見太胡四竟遼間歷三川十邑七	語云千聞不如一見太胡四竟遼間歷三川十邑七	語云千聞不如一見太胡四竟遼間歷三川十邑七	語云千聞不如一見太胡四竟遼間歷三川十色七
	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七月	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七月	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七月	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七月	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七月	語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七月	語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七月	語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七月	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七月	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七
	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七月	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
見しり、から一丁南是、コーナく、一丁というと	見いり、八八八月最後の日本は日本大日本大日本大日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	題こり、八八百元章記は十八八八八八八八八八日本一時云千聞不如一見太湖四境遼間歴三州十色七	見こり、こう高見ことすることを介えるというという	見いり、八八月前後、八十八八八八八八八八八八八日本一時云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十色七	見いり、八八月前後、八十八八八八八八八八八八日前云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	見いり、八八月前後、八十八八八八八八八八八八八日一時云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	見いり、八八月前夏いらけるの境遼澗歴三州十色七百六十間不如一見太湖四境遼澗歴三州十色七	見いり、八八月前後、八十八八八八八八八八八八八日一時云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	見いり、八八月前後、八十八八八八八八八八八八八日一時云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	見いり、八八月前後、八十八八八八八八八八八八日前云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	見こり、八八月前夏、十十八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八
里と也人等月扇夏とよりとか条斤京を入	里と也人学有扇夏とよりとしたか条斤良女人語云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十色七	里之也人罕有扁夏之片山火之之分条斤良人水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之也人罕有扁夏之片山火之之分条斤良人水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之也人罕有扁夏之片山火之之分条斤良人水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之也人罕有扁夏之片山火之之分条斤良人水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之也人罕有扁夏之片山火之之分条斤良人水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之也人罕有扁夏之片山火之之分条斤良人水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七月	里之也人罕有扁夏之片山火之之分条斤良人水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之也人罕有扁夏之片山火之之分条斤良人水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之也人罕有扁夏之片山火之之分条斤良人水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里と也人罕有扁夏とよりとしたか条斤良人大語云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十色七
里之地人罕有偏覆之者山水之支分來所原会水	里之地人罕有偏覆之者山水之支分条所原委水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人罕有編覆之者山水之支分來所原套水語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人罕有編覆之者山水之支分來所原委永語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人罕有偏覆之者山水之支分条所京委永語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人罕有偏覆之者山水之支分条所京委永語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人罕有偏覆之者山水之支分条所京委永語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人罕有編覆之者山水之支分來所原委永語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人罕有偏覆之者山水之支分条所京委永語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人罕有偏覆之者山水之支分条所京委永語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人罕有偏覆之者山水之支分条所京委永語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人罕有編覆之者山水之支分來所原委永語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
里之地人军有福履之者山水之支分條析原委脉	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人军有偏覆之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
里之地人军有編履之者山水之支分條析原会脉	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有偏覆之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
里之地人写有編展之者山水之支分條析原委脉	里之地人军有編展之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七	里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編展之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編展之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委脉	里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十邑七	里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人军有福履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十邑七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十邑七	里之地人军有偏覆之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十邑七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十邑七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十邑七	里之地人军有編覆之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十色七	里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委林語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
里之地人军有福履之者山水之支分條析原委脉	里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有福展之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有福履之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有福履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十邑七	里之地人军有福履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人军有福履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	里之地人军有福履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人军有福履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	里之地人军有福履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼潤歷三州十邑七	里之地人军有偏覆之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
走寺你到去成上東上人為改言下口上人學了里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉	走寺你到去我上東言人為改言下口与人學了里之地人写有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	走寺你到去我上東言人為改言下口上人學工工里之地人军有編展之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	走寺你到去我上東言人為改言下口与人學了上里之地人写有編覆之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼闊歷三州十色七	走寺你到去我上東京人為改言下口小人里工里之地人军有偏履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	走寺你到去我上東言人為改言下口上不是工里之地人军有編展之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	走寺你到去成上東京人為改言下口小人學不見上里之地人罕有編展之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	走寺你到去我上東上人為改言下口上人學不見工里之地人罕有編展之者山水之支分條析原委來語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	走寺你到去成上東京人為改言下口小人學不見上里之地人罕有編展之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	走寺你到去成上東京人為改言下口小人學不見上里之地人罕有編展之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	走寺你到去我上東言人為改言下口上不是工里之地人军有編展之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	走寺你到去我上東言人為改言下口与人學了上里之地人写有編覆之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
徒恃郡邑志紙上陳言以為數言不知古令異直且里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委取	徒侍郡邑志紙上陳言以為敦言不知古令異直且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為數言不知古令異直見里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為敦言不知古令異直且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒時郡邑志紙上陳言以為敦言不知古令異直且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒時郡邑志紙上陳言以為敦言不知古令異直且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒侍郡邑志紙上陳言以為敦言不知古令異直且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒侍郡邑志紙上陳言以為敦言不知古令異直且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒侍郡邑志紙上陳言以為敦言不知古令異直且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒侍郡邑志紙上陳言以為敦言不知古令異直且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒時郡邑志紙上陳言以為敦言不知古令異直且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為敦言不知古令異直且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人军有編履之者山水之支分條析原委取	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜旦里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有徧履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜旦里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜旦里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜旦里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜旦里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原垂脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編展之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼闊歷三州十色七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云干聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原垂取	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編展之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編展之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編展之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人军有編履之者山水之支分條析原委取	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且便里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉络	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委耿野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委林語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
日下を見てくならの治している。 徒恃郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	日子を見てくならからなくとしている。 徒恃郡邑志紙上陳言以為敬信不知古今異宜且里之地人军有偏履之者山水之支分條析原委脉曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	日子を見てくなどの治しているというようなというなどは 住侍郡已志紙上陳言以為敬信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	日子を見てくならからなくとしている。 徒侍郡已志紙上陳言以為徴信不知古今異宜且 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委永 語云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	日子を見てくならからなくとしている。 徒侍郡已志紙上陳言以為徴信不知古今異宜里里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委耿語云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委外曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	日子を見てくならからなくとしている。 徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委外曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七	日子を見てくならからなくとしている。 徒侍郡已志紙上陳言以為敬信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歴三州十邑七
聞耳食魔足以故徒的治其今來走及門母其馬馬徒恃郡色志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	聞耳食魔足以故是而治其今來是是告母主馬· 徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食魔足以故疑的治英令恢复及告母妻马·徒恃郡巴志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食魔足以故廷而治其今來這段告母主馬· 徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食魔足以故廷而治英令恢延及告母主马·徒侍郡是志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食魔足以故廷而治英令恢毛及告母主马· 徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原 <b>委脉</b> 語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食魔足以故近的治英令來走及告母主馬· 徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原 <b>季脉</b> 語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食魔足以故近的治英令來走及告母主馬馬徒侍郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原 <b>季咏</b> 語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食魔足以故近的治英令來走及告母主馬· 徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原 <b>季脉</b> 語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食魔足以故近的治英令來走及告母主馬· 徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原 <b>季脉</b> 語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食魔足以故廷而治英令恢毛及告母主马· 徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原 <b>委脉</b> 語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食魔足以故廷而治英令恢延及告母主马·徒侍郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人军有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其萬弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原垂脈語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有徧履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其萬弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原委脉曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脈語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原垂脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有徧履之者山水之支分條析原委脈語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有徧履之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有徧履之者山水之支分條析原委脈語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有徧履之者山水之支分條析原委脈語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為敬信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡已志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原至脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼濶歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼濶歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼濶歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原至脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七
開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原垂脉	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟也之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人军有編履之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林里之地人写有編獲之者山水之支分條析原委林	開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委隊里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委隊	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林哲云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林哲云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林哲云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林
子五目乃尼不單友步火益東方等之目於同台見開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原 <b>委脉</b>	子五目乃尼不單友步火益東方等之目為同告見 開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉哲云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	子五目乃尼不單友步K空東方等之目為同台見開耳食適足以滋疑而貼誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子五目乃尼不單友步K空東方导之目為司告見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子五目乃尼不單友步K空東方导之目為司告見開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌	子五目乃尼不單友步火空走方导之目於同台見開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌	子五目乃尼不單友步火益東方等之目為同告見 開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脈 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脈	戶 日子是不單友步火益東方等之目為司告見 開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈	子五目乃尼不單友步火空東方等之目於同台見開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡巴志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌	子五目乃尼不單友步火空東方等之目於同台見開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡巴志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌	子五目乃尼不單友步火空走方导之目於同台見開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌	子五目乃尼不單友步K空東方等之目各同台見開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
子玉相乃能不單後步水空兼访导之目擊同苦見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈	子玉相乃能不單版步水室兼访导之目擊同苦見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	子玉相乃能不單後步水室兼访导之目擊同苦見開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚飯歩水室兼访导之目擊同苦見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚後歩水室兼访导之目擊同苦見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子玉相乃能不單版步水室兼访导之目擊同苦見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉 聖二世人四人写有編履之者山水之支分條析原蚕脉	子玉相乃能不單後步水室兼访导之目擊同苦見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡臣志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 聖二世人军有編履之者山水之支分條析原委脉	子玉相乃能不單後步水室兼访导之目擊同苦見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉, 曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子玉相乃能不單後步水室兼访导之目擊同苦見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡臣志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 聖二世人军有編履之者山水之支分條析原委脉	子玉相乃能不單後步水室兼访导之目擊同苦見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 聖二世人军有編履之者山水之支分條析原委脉	子玉相乃能不單版步水室兼访导之目擊同苦見聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉 聖二世人四人写有編履之者山水之支分條析原蚕脉	子玉相乃能不單後步水率兼访导之目擊同苦見開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院中食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	于王相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委隊	于王相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院中食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院中倉適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院時郡色志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且是一地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院時郡色志紙上陳言以為微信不知古令異宜且是一地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院中愈適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	于五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院時郡色志紙上陳言以為微信不知古令異宜且是一地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院時郡色志紙上陳言以為微信不知古令異宜且是一地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院時郡色志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且是一地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于王相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉
子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脈	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀境情都是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之日擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀境時都是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且生人地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀境特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀境特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀境特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀境時都是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且生人地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 開耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 哲云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 哲云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于王相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 健侍郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 哲云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 健恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 健侍郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 健侍郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 健侍郡是志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 健侍郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 健侍郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 健侍郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	于王相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
于玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委隊	于王相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	于王相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀 徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委康	于王相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 建恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	了五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且 建時郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	是 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个	月五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古令異宜且 建時郡邑志紙上陳言以為微信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	月 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 三 版 上 陳 言 以 為 微 信 不 知 古 今 異 宜 且 是 之 然 上 陳 言 以 為 微 信 不 知 古 今 具 五 身 。 入 の 人 の 人 の 人 の 人 の 人 の 人 の 人 の と の と の と	月五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古令異宜且 建時郡邑志紙上陳言以為微信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	月五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古令異宜且 建時郡邑志紙上陳言以為微信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	是 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个	于王相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀 徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且 建恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脈 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脈
马车, 个事为为呈已各一些引人下在人童, 更于五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	母童, 个事场别呈已各一些引人下在公童, 一定一个大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	母童, 个事场用呈已各一些用人下在公童, 一定一个工程, 在一个一个工程, 在一个工程, 在一工程, 在一工程, 在一工程, 在一个工程, 在一个工程, 在一个工程, 在一个工程, 在一个工程, 在一个工程, 在一个工程, 在一工程, 在一工程, 在一个工程, 在一个工程, 在一个工程, 在一个工程, 在一个工程, 在一工工程, 在一工工程, 在一工工	母童, 你事為別呈已各一些引人下在於賣」更子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡臣志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	母童, 个事场别呈已各一些引人下在公童, 一定一个大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	母童, 个事场别呈已各一些引人下在公童, 一定一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	母童, 个事场别呈已各一些引人下在公童, 一定一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	母童, 个事场别呈已各一些引人下在公童, 一定一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	母童, 个事场别呈已各一些引人下在公童, 一定一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	母童, 个事场别呈已各一些引人下在公童, 一定一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	母童, 个事场别呈已各一些引人下在公童, 一定一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	母童, 个事场别呈已各一些引人下在公童, 一定一个工程, 在一个大学的是一个工程, 在一个工程, 在一工工程, 在一工工程, 在一工工程, 在一工工程, 在一工工程, 在一工工程, 在一工工程, 在一工工工程, 在一工工程,工程, 在一个工程,工程,工程,工程,工程,工程,工程,工程,工程,工程,工程,工程,工程,工
因筆之於書為胡程紀略一卷間以示余余賣之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示余余賣之愛是工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示余余賣之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示念会賣之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院中意適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示余余賣之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示余余賣之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示余余賣之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示余余賣之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委林	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示余余賣之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示余余賣之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示余余賣之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	因筆之於書為胡程紀略一卷間以示念会賣之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀健情郡色志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀健恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委歌	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徽信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀境情郡色志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀境情郡色志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉
因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛母王相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人写有編履之者山水之支分條析原委外	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人写有編履之者山水之支分條析原委外	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人写有編履之者山水之支分條析原委外	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人写有編履之者山水之支分條析原委外	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委外里之地人写有編履之者山水之支分條析原委外	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉
因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脈	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀院情郡色志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉
因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脈	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀是少地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原垂脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原垂脉即之地人罕有編履之者山水之支分條析原垂脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為微信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 健恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉 哲云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 建卡郡巴志紙上陳言以為散信不知古令異宜且 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 里二地人写有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且 建一地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 建一地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 建一十十八字有編展之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編展之者山水之支分條析原委縣 医云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 建特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛	西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 对王相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣	居至之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委縣	居至之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	居至之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 建卡郡巴志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且 建特郡巴志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且 里之地人军有偏履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有偏履之者山水之支分條析原委脉
不忍睪手昔前之未奉量以处于也是馬出自見土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有福履之者山水之支分條析原委取里之地人罕有福履之者山水之支分條析原委取	不忍睪手昔前之未春量以处于也是馬出自見土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍睪手昔前之未春量以处于也是馬出自見土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀見一地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍睪手昔前之未春量以处于也是馬出自見土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀境特郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉	不忍睪手昔前之未春量以处于也是馬出自見土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀是一大時郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林	不忍睪手昔前之未春量以处于也是害出有无土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍睪手昔前之未春量以处于也是害出有无土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍睪手昔前之未春量以处于也是馬出自見土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍睪手昔前之未春量以处于也是害出有无土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍睪手昔前之未春量以处于也是害出有无土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍睪手昔前之未春量以处于也是害出有无土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍睪手昔前之未春量以处于也是馬出自見土因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀境情郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉
不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀境情郡邑志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社也等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟見之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀境情郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀境情郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀時中都是志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀時中都是志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀時中都是志紙上陳言以為徽信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀境情郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社也等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀門工程。一人写有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人写有編獲之者山水之支分條析原委取
不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社世等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社也等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見其自適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人军有編履之者山水之支分條析原委取里之地人军有編履之者山水之支分條析原委取	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社世等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見其自遭足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社四筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟間上地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社四筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟間上地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社四筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟健恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社四筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟間上地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社四筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟間上地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社四筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟間上地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社世之地人军有編展之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編展之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編展之者山水之支分條析原委縣
不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見工自遊之以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟徒恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見事食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟健侍郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社四筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社四筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟世之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社四筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見軍食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟是於一人写有編覆之者山水之支分條析原委取里之地人写有編覆之者山水之支分條析原委取
不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀院侍郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀境特郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀境恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人写有編履之者山水之支分條析原委林	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛財耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見事食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛財耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉
不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤令萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀是怜郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 世之此人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 医云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等工作為此不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟健侍郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀 健恃郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀是於一人写有偏履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有偏履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有偏履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀是於一人写有偏履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有偏履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有偏履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 世之此人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 医云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕取里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕取	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 建特郡色志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社也情不是一次書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣	因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟間上,此人罕有編獲之者山水之支分條析原至縣里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原至縣	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及特郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春粉以從行也是書出有民社 医筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 財耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉 医云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及特郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及特郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且徒恃郡色志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社也等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 计工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 野云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 里之地人军有福獲之者山水之支分條析原蚕脉	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 世之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣	一大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣	不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣
世之地人军有福履之者山水之支分條析原 <b>垂脉</b> 里之地人军有福履之者山水之支分條析原 <b>垂脉</b> 里之地人军有福履之者山水之支分條析原 <b>垂脉</b>	西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 関耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 建之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 要直 型 で	日本大方丁八人的人的人员是普段等人员员的是印度等一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	古天而行之火道之道是普段等上兵项门是印度首天市 一人人道之道是谁是是出有民社及一个人工会通过人工,是是出有民社及一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	居工作所不如一見太湖四境遼陽歷三州十色七四等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 一大道是以滋疑而貽誤今來庭吳君與其高弟 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人写有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人写有編履之者山水之支分條析原委取 要記 一見太湖四境遼陽歷三州十色七	居士、大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	居士、大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	居立大局之水道之間 一大百八八道之前 一大百八八道之前 一大百八八道之前 一大百八八道之前 一大百八八道之前 一大百八八道之前 一大百八八三十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十	居士、大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	居士、大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	居士、大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	古大方丁之人近之近是普段等上兵页八九日本人大方丁之人近之近是普段等上兵面,是出有民社及等之,是是出有民社及等之,就是通足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟里之地人军有福履之者山水之支分條析原蚕取里之地人军有福履之者山水之支分條析原蚕取里之地人军有福履之者山水之支分條析原蚕取
責者采而行之水首之通惠階曳导其要項則民田及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	責者采而行之水道之通惠增曳导其要項刊民田及等工程等情前之未春程以從行也是書出有民社及情不會適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取里之地人写有編履之者山水之支分條析原委取	責者采而行之水首之通惠增曳导其要項刊足田及等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀見等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛理之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉理之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉理之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通惠增曳导其要項刊民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通惠增曳导其要項刊民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛民情都是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且是特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人写有編履之者山水之支分條析原委林里之地人写有編展之者山水之支分條析原委林	責者采而行之水道之通惠增曳导其要項刊民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通惠增曳导其要項刊民田西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通惠增曳导其要項刊民田西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人写有編履之者山水之支分條析原委林里之地人写有編展之者山水之支分條析原委林	責者采而行之水道之通惠增曳导其要項刊民田西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通惠增曳导其要項刊民田西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通惠增曳导其要項刊民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛日筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通惠增曳导其要項刊足田及等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉
責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民社及等工相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及者不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及等工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀見等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉門云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀見等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人军有編獲之者山水之支分條析原至脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原至脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民社及等工相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀見等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及者不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且是特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及者之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人写有編履之者山水之支分條析原委歌	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人军有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人军有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人军有編履之者山水之支分條析原委歌	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及者之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人写有編履之者山水之支分條析原委歌	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及者之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人写有編履之者山水之支分條析原委歌	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及者不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社及特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且是特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉
責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見事自適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟間工食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛別耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟間工食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛了五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟間工食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌門云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見工自遊之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見工也人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見工自遊之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見工也人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見工自遊之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見工也人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見工自遊之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見工也人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛聞耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟間工食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌門云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟問工人於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛牙玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人军有福履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有福履之者山水之支分條析原蚕脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛是其相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀見生人於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取里之地人写有編履之者山水之支分條析原委取	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原蚕脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見事自遭足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人写有編履之者山水之支分條析原委林	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟問工也人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟問工也人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟問工也人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟問工也人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛見事自遭足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委林里之地人写有編履之者山水之支分條析原委林	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛民工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委歌語云千聞不如一見太湖四境遼濶歷三州十邑七
責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛用耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 西華之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 聖六十八年間不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛民情郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且是一大工程,一人一人写有編展之者山水之支分條析原委林里之地人写有編展之者山水之支分條析原委林里之地人写有編展之者山水之支分條析原委林里之地人写有編展之者山水之支分條析原委林	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 民軍食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 医筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 民軍食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 再二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 民軍食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 医筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 民軍食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高弟 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 曹云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十色七	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀見大情郡邑志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原至脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原至脉
責者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 大工程等情前之未春程以從行也是書出有民社 在情都是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 是一地人军有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人军有編履之者山水之支分條析原委歌里之地人军有編履之者山水之支分條析原委歌	責者采而行之水道之通塞豬沒得其要領則民田 世之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣	青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 世之地人军有編履之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原蚕脉	青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 大工程等情前之未春程以從行也是書出有民社 在特郡巴志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 建特郡巴志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉 电流 计 电	青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 世之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣
重者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉	青者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 世之地人军有編履之者山水之支分條析原委敢 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委敢 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委敢 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委敢	青者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 世之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣	青者来而行之水道之通塞豬沒得其要領則民田 世之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	青者来而行之水道之通塞豬沒得其要領則民田 世之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康
里京有講無漢矣比有用少言為益公三川十色人是者来而行之水道之通塞豬沒得其要領則民田及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀問耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	是京有講典文文北有用少言為蓝公三川十色大 實者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 世之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 要之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛	是京有講典文文化有用少言為益公三川十色大 情者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是一之地人军有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康	早京有講典文美比有用少言為益公三川十色大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大	是京有講典文文北有用少言為蓝公三川十色之 實者采而行之水道之通塞豬沒得其要領則民田 世之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	是京有講典文文北有用少言為蓝公三川十色大 門耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高強 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 是一十世之 是一一十世之 是一十世之 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世	是京有講典文文化有用少言為蓝公三川十色大 實工作, 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	早京有講典文文化有用少言為蓝公三川十色大 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高強 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 要言工作。 一是一次 一是一个 一一一 一一一	是京有講典文文化有用少言為蓝公三川十色大 實工作, 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	是京有講典文文化有用少言為蓝公三川十色大 實工作, 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	是京有講典文文北有用少言為蓝公三川十色大 門耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高強 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 是一十世之 是一一十世之 是一十世之 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世	是京有講典文美比有用少言為益公三川十色大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大 一大
里奈有構無真矣此有用之言為益於三州十邑之 責者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 了王相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原 <b>蚕脉</b>	皇京有講無真矣此有用之言為益於三州十邑之 實者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是董之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是董之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是董之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是三里 是三里 是三里 是三里 是三里 是三里 是三里 是三里	皇京有講無真矣此有用之言為益於三州十邑之 責者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 建之地人军有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委取 是五十間不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	是京有構無真矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無真矣此有用之言為益於三州十邑之 是一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	是京有講無漢矣此有用之言為益於三州十邑之 大三相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 是一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	早來有講無漢矣此有用之言為益於三州十邑之 費者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一世人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉 是一世人写有編	早來有講無漢矣此有用之言為益於三州十邑之 費者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是一十八十三十二十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二	早來有講無漢矣此有用之言為益於三州十邑之 費者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是一十二十三十二十三十三十三十三十三十三十三十三十三十三十三十三十三十三十三十三十	早來有講無漢矣此有用之言為益於三州十邑之 費者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是一十八十三十二十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二	早來有講無漢矣此有用之言為益於三州十邑之 費者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是一十八十三十二十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二	早來有講無漢矣此有用之言為益於三州十邑之 費者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一世人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人写有編履之者山水之支分條析原委脉 是一世人写有編	是京有講無真矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有講無真矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有講是之然上陳言以為徵信不知古今異宜且 是之地人军有編獲之者山水之支分條析原 <b>季脉</b> 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原 <b>季脉</b> 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原 <b>季脉</b>
星際有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 西筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 因筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原 <b>蚕脉</b>	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是主相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 是之此人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	早沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 世之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取 是主相乃能不禪跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 是主相乃能不禪跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 是主相乃能不禪跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 是之此人罕有編獲之者山水之支分條析原委取 是一世人罕有編獲之者山水之支分條析原委取 是一世人等有編獲之者山水之支分條析原委取 是一世人等有編獲之者山水之支分條析原委取 是一世人等有編獲之者山水之支分條析原委取	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為為得不知古今異宜且 是之此人军有編履之者山水之支分條析原委來 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委來 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委來 是三十聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之此人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是六十間不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	早沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之此人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是一世人四人四人不有。 是一世人四人四人不是 是一世人四人四人 是一世人 是一世人 是一世人 是一世人 是一世人 是一世人 是一世人 是一世	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之此人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是六十間不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之此人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是六十間不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	星察有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之此人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉
里沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 費者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此為微信不知古今異宜且 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 是沒有關歷三州十邑七	是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是一之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 是一十間不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	早沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之此人军有編獲之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒不問不知一見太湖四境遼潤歷三州十邑七 是沒有構無虞矣此有用之言為強信不知古今異宜且 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是一世人之有編覆之者山水之支分條析原委脉 是一世人之,是一世之世人之,是一世之世人之,是一世之地人之,是一世之,是一世之,是一世之,是一世之,是一世之,是一世之,是一世之,是一世	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此為微信不知古今異宜且 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是沒有 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有明明 是沒有 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 是高 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有明明 是沒有, 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 是沒有 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有明明 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 是高年間不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有明明 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取 是高年間不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此為微信不知古今異宜且 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是沒有 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	早沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之此人军有編獲之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康 是一十國不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
里次有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 青者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 及筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 了玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是高是以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是一十十五十二十五十二十五十五十五十五十五十五十五十二十五十二十五十二十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十二十五十二十五	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是一之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是一世 是一世 是一世 是一世 是一世 是一世 是一世 是一世 是一世 是一世	早凉有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委脉	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 實者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是一之地人军有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康 是一十世之 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世 是一十世	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是一世之地人写有編履之者山水之支分條析原委康 是一世之地人写有編履之者山水之支分條析原委康 是一世之地人写有編	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 實者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 是一十十二十二十三十二十三十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十三十三十三	早凉有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 實者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 世之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是一十間不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 實者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 是一十十二十二十三十二十三十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十三十三十三	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 實者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 是一十十二十二十三十二十三十三十二十三十二十三十二十三十二十三十二十三十三十三十三	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 是一世之地人写有編履之者山水之支分條析原委康 是一世之地人写有編履之者山水之支分條析原委康 是一世之地人写有編	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是一之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 是一之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 是一本一人。 是一人以汝疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是一人。 是一人, 是一人, 是一人, 是一人, 是一人, 是一人, 是一人, 是一人,
里之地人军有編履之者山水之支分條析原 <b>季脉</b> 里之地人军有編履之者山水之支分條析原 <b>季脉</b> 里之地人军有編履之者山水之支分條析原 <b>季脉</b> 里之地人军有編履之者山水之支分條析原 <b>季脉</b>	章者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	章者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為強信不知古令異宜且 是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委脉 是一十一世之	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有情無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七
里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 大三相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是
里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 了五相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉	是一个人工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	<ul><li>□ 大田 中央 市会 市 中央 市会 市 中央 市 市 中央 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市</li></ul>	東京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	東京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七
里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣	是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為強信不知古令異宜且 是京有備無虞矣此有用之言為強信不知古令異宜且 是京有備無虞矣此有用之言為強信不知古令異宜且 是京有備無虞矣此有用之言為強信不知古令異宜且 是京有備無虞矣此有用之言為強信不知古令異宜且 是京有備無虞矣此有用之言為強信不知古令異宜且 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 世之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委康 里之地人罕有編	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	月 東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 東之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 里之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是高光而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七
里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣	是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委縣 是著名所行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 事者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	東京有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是於書為湖西境遊澗歷三州十邑七
里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣	是 電 三 三 一 一 三 一 三 一 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	是之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 理之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 理之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康 是清子所行之水道之通塞豬洩得其要領別民田 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	月 東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	東京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七 三十十二十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十二十 三十二十 三十十二十 二十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十二十 三十十 三十
里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣	是 電云千聞不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑之 是 清者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是 是 是 之 大 書 為 の に 大 書 の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に の の に の の に の の に の の に の の の の の に の の の の の の の の の の の の の	是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	東京有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	月 東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七
里之地人军有福履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有福履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有福履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有福履之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有福履之者山水之支分條析原蚕脉	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	西華之地人军有編展之者山水之支分條析原委康里之地人军有編展之者山水之支分條析原委即是	東京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	月 東京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	東京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七
里之地人军有福獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有福獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有福獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有福獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有福獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有福獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有福獲之者山水之支分條析原委康	理之地人军有編展之者山水之支分條析原委脉 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高之 是一次本書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一次本書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一次本書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一次本書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一次本書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一次本書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是一次本書與其高弟 是一次本書與其高弟	東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 世之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 是一本之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 日筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 早凉有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早凉有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是深有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是深有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是深有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七 是京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	月 東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 是著来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是濟有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是濟有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是濟有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	東京千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 理之地人军有編展之者山水之支分條析原委縣 理之地人军有編展之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委縣 里之此人军有編展之者山水之支分條析原委縣 里之が書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 早濟有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早凉有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七
里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里 里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康	四十二十一日 一十二十二十一日 一十二十二十一日 一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	理之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之前之間不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之	是 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	月 東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委脉 早濟有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	四十二十八十三十八十三十八十三十八十三十八十三十八十三十八十三十八十三十八十三十八
里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里 里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七 東京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	理之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取 理之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高 是 是 之 大 書 為	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	居工作用不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个
里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里 里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康	語云千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	居工作用不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑七天本有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手情前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手情前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手情前之未春程以從行也是書出有民社不過一點	居立千聞不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是一十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	居工作用不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑七天本有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手情前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手情前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手情前之未春程以從行也是書出有民社不過一點	居工作用不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑七天本有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手情前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手情前之未春程以從行也是書出有民社不忍釋手情前之未春程以從行也是書出有民社不過一點	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个
里之地人军有福履之者山水之支分條析原 <b>委取</b> 里之地人军有福履之者山水之支分條析原 <b>委取</b> 里之地人军有福履之者山水之支分條析原 <b>委取</b> 里之地人军有福履之者山水之支分條析原 <b>委取</b> 里之地人军有福履之者山水之支分條析原 <b>委取</b>	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	不養益司於子事首以全高步及人佐司內蒙而之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	不養益司於子事首以全高步及人佐司灣家而之大養益司於子事首以全高步及人佐司灣家而之之人之一, 一十一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	不養益司於子事首以全高步及人佐司灣家而之人養者来而行之水道之通塞豬沒得其要領則民田母筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人军有編獲矣此有用之言為益於三州十邑之旱濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之旱濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之旱濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	居工作用不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑之 是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	居工作用不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑之 是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	居工作用不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑之 是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	居工作用不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑之 是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	居工作用不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑之 是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	居工作用不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑之 是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	不養益司於子事首以全高步及人佐司灣家而之大養者,所有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之里之地人军有編優之者山水之支分條析原蚕脉間耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高強門工程,在大書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀了不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有無虞矣此有用之言為益於三州十邑七里於有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑七里於有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑七里於有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑七里於有廣東廣東
不養豈司於子事省心登高步及以佐日轉家而已是特郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有不養豈司於不憚跋涉水陸兼訪得之日擊洞若觀里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原委取	不養豈司於子事省心登高步及以佐日轉家而已是特郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且徒恃郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有孫有儀無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十五十十五十十八十五十十八十五十十八十五十十八十五十十八十五十十八十五十	不養豈司於子事省以登高步及以佐日轉家而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之里沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之里沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中,有其是其一人。	不養豈司於子事省以登高步及以佐日轉家而已是常有情無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有情無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有情無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有情無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有情無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十八人之,不不能以政疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟里之地人军有編優之者山水之支分條析原至來里之地人军有編優之者山水之支分條析原至來	不養豈司於子事省以登高步及以佐日轉家而已是特郡巴志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且徒恃郡巴志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且及等之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之日擊洞若觀里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之北道之通塞豬洩得其要領則民田東京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五	不養豈司於子事省心登高步及以佐日轉家而已是特本一門不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑之大事有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十五十十十五十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十	不養豈司於子事省心登高步及以佐日轉家而已是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十	不養豈司於子事省心登高步及以佐日轉家而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不養豈司於子事省心登高步及以佐日轉家而已是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十	不養豈司於子事省心登高步及以佐日轉家而已是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十	不養豈司於子事省心登高步及以佐日轉家而已是特本一門不如一見太湖四境遼陽歷三州十邑之大事有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十五十十十五十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十五十十十	不養豈司於子事省以登高步及以佐日轉家而已是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之里沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之里沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十八人之方條析原委縣不及養古門不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七十八人之方條所原委縣
<ul> <li>■ 大京首</li> <li>□ 上京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之日等有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之日擊洞若觀日筆之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之日擊洞若觀日等有係無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早凉有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早凉有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原委脉里之地人罕有徧獲之者山水之支分條析原委脉里之地人至有編獲之者山水之支為條析原委脉里之地人至有編度之者山水之方。</li> </ul>	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 建特郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且 是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 世之地人军有編履之者山水之東海其事 是 一	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是有不不養豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已是亦有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之里流有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之里流有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之北道之通塞豬漢得其要領則民田里流有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀見不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有条不而行之水道之通塞豬洩信不知古今異宜且是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學有稱其其一人之為後有其其一人之一人。	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 大時一十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀見不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有条不而行之水道之通塞豬洩信不知古今異宜且是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學有稱其其一人之為後有其其一人之一人。	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 世之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣 門耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高第 是不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 早凉有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早凉有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早凉有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早凉有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七
不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 大八八十八十八十一 一十八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 世之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編展之者山水之夷 建高 是	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是沒有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之日繁有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是亦有佛其之於書為問之於書為此有明之之。	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之日繁才工相乃能不禪跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉型之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉型之地人罕有編獲之地人至高時間不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為敬信不知古令異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 大八八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 本沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於 是	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 世之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 門耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高強 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目擊懷而已 不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目擊懷而已 不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 中 有	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 本沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於 是	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 本沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有傳無虞矣此有用之言為益於 是	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 大八八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之日繁有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之日繁有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早凉有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早凉有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早凉有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早凉有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中,其有佛其其其其其,其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其
不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已 世之地人军有編獲之者山水之支分條析原垂縣 里之地人军有編獲之者與沒得其要領則民田 里溶有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 中 食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原垂脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原垂脉	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已 本溪豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已 大八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不沒釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不沒養一樣一人之人於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛里沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人,其有其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不為有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八八十八十八	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人。	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人。	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人之方所有無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人之,有其是成本人。	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人。	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人。	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人。	不淺豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已是除有俸無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有養人等有俸無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十八十八十八十八十八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八
不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已 世之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已是有不淺豈同於好事者心登高陟退以遊日轉懷而已是不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不過等有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	不淺豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已 建冷有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	不淺豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀見不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不為有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中,有其其事	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已是有不沒豈同於好事者心登高陟退以遊日轉懷而已是有不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有不知古今異宜且學濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已是有不沒豈同於好事者心登高陟退以遊日轉懷而已是有不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有不知古令異宜且是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人,其有其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人。有其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已 大工相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞光 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社 中京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 中京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 中京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人。有其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人。有其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已是有不沒豈同於好事者心登高陟退以遊日轉懷而已是有不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有不知古令異宜且是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人,其有其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其	不後豈同於好事者心登高陟退以遊日轉懷而已是持郡是志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之日擊洞若觀理之此人罕有編獲之者山水之支分條析原委縣里沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中,有其其為
不淺豈同於好事者之登高陟遐以遊目轉懷而已 世之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已世十二十一十一十一十一十一十一十一十一十一十一十一十一十一十一十一十一十一十一十	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已世十八八八章衛門及大事為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之日擊洞若觀門工會適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之日擊洞若觀不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不過等方所不知一見太湖四境遼澗歷三州十色七	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子工相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之日擊洞若觀理之此人罕有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編獲矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十八後豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已是特郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是沒有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學者,有其其一人之一人。	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已世十二十十二十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不沒有傷無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十八十八十八十八十八十八八十八十八八十八八十八八十八八十八八十八八十八八十八	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已 本沒 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不沒有傷無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十八十八十八十八十八十八八十八十八八十八八十八八十八八十八八十八八十八八十八	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不沒有傷無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十八十八十八十八十八十八八十八十八八十八八十八八十八八十八八十八八十八八十八	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已世十二十十二十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已世十二十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十
不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已 世之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已是者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不沒釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不沒養一十十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已本沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已之大書有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十八後豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已本養者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十八後豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之日擊洞若觀之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學清者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田學濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已在特郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不為有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已在特郡巴志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十色七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已在特郡巴志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且在特郡巴志紙上陳言以為徵信不知古令異宜且不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手情前之未春糧以從行也是書出有民社不沒達同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已在特郡巴志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十色七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已在特郡巴志紙上陳言以為徵信不知古今異宜且不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不沒有備無虞矣此有用之言為益於三州十色七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已在特郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不為有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有孫有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七年於有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七年於有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七年於
不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是徐侍郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有係在人室有編獲之者山水之支分條析原委取里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取	不沒豈同於好事者之登高珍遐以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已之人。	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學清者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田學濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十八後豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十八後豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是特郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編展矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已是濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已是濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊日轉懷而已是濟有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高陟遐以遊目轉懷而已是特郡巴志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋渉水陸兼訪得之目擊洞若觀理之地人罕有編履之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編展矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中流有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中流有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中流有其所不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七不沒豈同於好事者心登高珍遐以遊日轉懷而已
<ul> <li>本者達</li> <li>本者達</li> <li>本者</li> /ul>	不沒豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已 大清神 人名	不沒豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之不沒豈同於好事者心登高珍退以遊目擊洞若觀 人名 人名 有	不沒豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已及等不得其情無虞矣此有用之言為益於三州十邑之子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編獲之者山水之支分條析原蚕脉	不沒豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 人	不沒豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	月 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不淺豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不沒豈同於好事者心登高陟退以遊目轉懷而已 大清神 是一人 一人 一	不沒豈同於好事者心登高珍退以遊目轉懷而已 世之地人军有編獲之者山水之支分條析原委縣 門耳食適足以滋疑而貽誤今菜庭吳君與其高強 是流有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 中 有
里之地人军有編獲之者山水之支分條析原 <b>季</b> 取里之地人军有編獲之者山水之支分條析原 <b>季</b> 取里之地人军有編獲之者山水之支分條析原 <b>季</b> 取里之地人军有編獲之者山水之支分條析原 <b>季</b> 取里之地人军有編獲之者山水之支分條析原 <b>季</b> 取	不淺豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已 世之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編展之者山水之支分條析原委縣 里之地人军有編展文治山港 电影信不知古令里宜里 中京有情無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	不淺豈同於好事者之登高陟遐以遊目轉懷而已 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	不淺豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七十八八人之方條析原委外學有其一十八八人之方所以所以所以所以所以所以所以所以所以所以所以所以所以所以所以所以所以所以所以	不淺豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不淺豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不淺豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	月 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	不淺豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不淺豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不淺豈同於好事者心登高珍遐以遊目轉懷而已 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	不淺豈同於好事者之登高珍遐以遊目轉懷而已 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七
里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康	西華之於書為湖程紀略一卷間以近日轉懷而已 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	不送豈同於好事者之登高陟遐以遊目轉懷而已 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	不淺豈同於好事者之登高陟遐以遊目轉懷而已是衛子用了能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞光明 是當出有民社 人军有編廣之北海散信不知古令異宜且 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有 人军有編 人	不淺豈同於好事者之登高陟遐以遊目轉懷而已 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	不淺豈同於好事者之登高陟遐以遊目轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原蚕脉里之地人罕有編覆之者山水之支為條析原蚕脉	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	一 本 は 特郡已志紙上陳言以為微信不知古今異宜且 は 特郡已志紙上陳言以為微信不知古今異宜且 大 書 本 本 本 本 本 本 本 た は 特郡已志紙上陳言以為微信不知古今異宜且 本 本 本 本 本 本 本 は 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	不淺豈同於好事者之登高陟遐以遊目轉懷而已是特郡是志紙上陳言以為微信不知古今異宜且是於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛子玉相乃能不憚跋涉水陸兼訪得之目擊洞若觀里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委取里之地人罕有編覆之者山水之支分條析原委取里京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之學有不過一見太湖四境遼澗歷三州十邑七	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康 里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康	理之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉理之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編履之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編展之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編展之者山水之支分條析原委脉里之地人军有編展之者山水之支分條析原委脉里之情,有其是其一个人。 「漢道同於好事者之登高陟遐以遊目轉懷而已不淺豈同於好事者之登高陟遐以遊問歷三州十邑之界有其事,	理之地人军有編履之者山水之支分條析原委康里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康里之地人军有編履之者山水之支分條析原委康里於書為所持之水道之通塞豬洩得其要領則民田早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中,以其其其其其其,其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其	一 東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是常有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是之地人军有編展之者山水之支分條析原委康里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康里之地人军有編展之者山水之支分條析原委康里於有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有傳無虞矣此有用之言為益於三州十邑之中,其是一十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五十十五
里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里 里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康	理之地人军有編展之者山水之支分條析原委取 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高党 是一次有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	理之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取 理之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取 理之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取 理之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取 里之地人军有編獲之者山水之支分條析原委取 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	一 東京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是事在主意。目的心理世人是自然所不完全 一个人工程是一个工程是一个工程是一个工程是一个工程是一个人工程是一个工程是一个工程是一个工程是一个工程是一个工程是一个工程是一个工程是一个	是事在主席工程, 是事在主席工程, 是事在一个人工程, 是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是事在主席工程上,是是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	居工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	是事在主席工程上,是是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	是事在主席工程上,是是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	是事在主席工程, 是事在主席工程, 是事在一个人工程, 是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	是事在主情不如一見太湖四境遼澗歷三州十邑七里之地人军有編履之者山水之支分條析原委縣 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是一次大事為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是於有其其事者之登高陟退以遊目轉懷而已 不淺豈同於好事者之登高陟退以遊目轉懷而已 不淺豈同於好事者之登高陟退以遊目轉懷而已
里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康里之地人军有福履之者山水之支分條析原委康	是事亟星等五目留心亞世之學首於新介公所 理之地人军有編展之者山水之支分條析原委取 是著来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	是事业星馬玉目留い至世之学首令素所公所 理之地人军有編展之者山水之支分條析原委取 開耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有其無事者之登高陟遐以遊目騁懷而已 是沒有其其高弟	京三事亟星等五目留心亞世之學首於東所公所 理之地人军有編優之者山水之支分條析原委康 理之地人军有編優之者山水之支分條析原委康 是著名所行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是著名佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 平海禪縣承 東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 平済有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 中之地人军有編優之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編優之者山水之支分條析原委康 里之地人军有編優之者山水之支分條析原委康 中之之 中之之 中之 中之 中之 中之 中之 中之 中之	京 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東	是事亟星等五目留心亞世之學首於新了公所 理之地人军有編展之者山水之支分條析原委取 是著者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是事亟星等五目留心亞世之學首於新了公所 理之地人罕有編展之者山水之支分條析原委取 是著者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	東京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有備無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七 是京有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	是事亟星等五目留心亞世之學首於新了公所 理之地人罕有編展之者山水之支分條析原委取 是著者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是事亟星等五目留心亞世之學首於新了公所 理之地人罕有編展之者山水之支分條析原委取 是著者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	是事亟星等五目留心亞世之學首於新了公所 理之地人军有編展之者山水之支分條析原委取 是著者来而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是常有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	正事亟星等五目留心亞世之學首於東所公所 理之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康 理之地人军有編獲之者山水之支分條析原委康 是著名所有之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是著名所有之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是著名所有之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是著者采而行之水道之通塞豬洩得其要領則民田 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是清有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是清有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之
永庭專極羣書玉相留心經世之學皆余素所心折華 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人 是沒有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之人 是沒有其真, 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	永庭專極羣書玉目留心經世之學皆余素所心折 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高東 建特郡巴志紙上陳言以為徵信不知古今異宜里 不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不忍釋手惜前之未春糧以從行也是書出有民社不為養有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七	永庭專極羣書玉目留心經世之學皆余素所心折 理之地人罕有編展之者山水之支分條析原委外 開耳食適足以滋疑而貽誤令萊庭吳君與其高 是 是 一 是 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	永庭專極羣書玉目留心經世之學皆余素所心折, 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	永庭專極羣書玉目留心經世之學皆余素所心折, 一大學園是以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是一大學園是以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是一大學園是以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是一大學園是以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高弟 是一大學有稱無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是一个有種無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是一个有種無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是一个有種無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是一个有種無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 是一个有種無虞矣此有用之言為益於三州十邑之	永庭專極羣書玉目留心經世之學皆余素所心折, 一大學園是以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高東 一大學園是以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高東 一大學有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 一十八十八之之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 一大學有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 一十八十八之之, 一十八十八之之 一十八十八之之 一十八十三十八十三十八十三十八八之 一十八十三十八十三十八八十八十三十八八八十八十三十八八十三十八十三十八十三十八十	永庭專極羣書玉目留心經世之學皆余素所心折, 一大大學 一大大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一	永庭專極羣書玉目留心經世之學皆余素所心折, 一大大學 一大大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一	永庭專極羣書玉目留心經世之學皆余素所心折, 一大大學 一大大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一	永庭專極羣書玉目留心經世之學皆余素所心折, 一大大學 一大大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一大學 一	永庭專極羣書玉目留心經世之學皆余素所心折, 一大學園是以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高東 一大學園是以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高東 一大學有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 一十八十八之之於書為湖程紀略一卷間以示余余讀之愛 一大學有佛無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 一十八十八之之, 一十八十八之之 一十八十八之之 一十八十三十八十三十八十三十八八之 一十八十三十八十三十八八十八十三十八八八十八十三十八八十三十八十三十八十三十八十	永庭博區羣書玉目留心經世之學皆余素所心折 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高東 建一里之地人军有編獲之者山水之支分條析原蚕脉 門耳食適足以滋疑而貽誤今萊庭吳君與其高東 是濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 早濟有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑之 東京有構無虞矣此有用之言為益於三州十邑七

太湖游污凡 太湖水利古人之論說備矣然時分今告水 或合不可混也來源如此去委亦然非履地細 溪若雲之水其來路又各有河港或遠或近或分諸清沒有向通而今塞者所當詳也演漫承受荆 在湖外非欲與前人立異補其所未備馬爾 其施詳於內而遺其外失全局矣是書如太湖之 記敢曰必無訛漏哉盡吾心焉而已 徒以舊志為據不能無誤爰乃泛舟於湖沿三 水源水委沿湖水口濱湖諸山沿湖汛地詳考都 有經濟水利兵防要當合湖内湖外之形勢以華 湖外之境地無他所重者名勝也太湖有名勝亦 名勝於是大備弟其所紀載皆詳於湖中而不及 王守察震澤編又繼之以翁季霖具區志太湖之 太湖古無專書有之自蔡景東太湖志始繼 之宜於今者其他雖有名言不敢錄入以滋人 遷執古法以治今水未善也是書所載惟取其診 十邑之境一 人以宜與之百瀆蘇湖之凄港為太湖來源吳 )長橋鮎魚口等處為太湖去麥園已顧 大太湖備考凡仍 例 一訪求既履其地復称以書挨次編 核

聖天子設兵衛民之至 彰 若灣塢概無居民 山中居民之地有 **台瞭如指掌任土起則照則科糧立若可為山中** 太湖廳清造東西 具區志所載諸山 兹以有居民之灣 闕疑弗載今仍其 前以構泰核馬蹟 區志以灣場與峰嶺類序以村巷與鄉里 **古冊惟憑人戶歲有推收數無一定未足為準近** 沿湖緊要港口在在設沃分防詳考而備列之以 太湖營統以大員松扼全湖凡湖中居民之山 田賦定額故俸錄之仍錄王編翁志所載舊額於 剽掠又添總練我 太湖諸山自占無 即有節錄如那單 元祐間始該巡檢 か 以註論 太明備方凡 两山 出賦 闕 、山隔屬常州無冊可稽震澤編 與村巷逈别豈不令閱者生疑 12 意 塢村巷合為 日灣日場日村日巷之不同具 元明因之明季長與山冠入湖 六革之患故自古不設兵 二書亦必於時地不同之處 朝香揚武構思患預防特設 版尚州田地山荡盡落本 其數本諸 微城齿 類領以地名二 類序遂 册 不 防 ケ 及

搜羅 **秦本所用止一書則让日本非古用一** 其有主未入祠及續入祠而冊未載者則訪之本 東西兩山節婦之事實歲年悉照節烈祠冊錄 無傳其何以慰兹茶苦樹之風聲乎子於此煩事 節烈倫常所重風化攸關 為節路總不敢别加月且 他書則註曰本其書恭其書若指無紀載今故增 寧嚴毋濫觀者訴之 之若徒外已人及外籍之僑寓於山者雖有魏科 遠者照舊志例亦並收入而は其府某縣籍以別 由外籍中式者則註某府其無學自山外徒世未 之中本籍中式者則止註府學縣學不書府縣名 選舉自科甲以至了士悉照郡邑志編次其科 域民居皆有着落 字分載於所屬都齒之後若網之在網如畛之有 顧澤畔幽芳上達者鮮若不廣加採錄將至遭沒 入以狀誌譜傳為据者則註曰本其文某譜雖 不敢接以為重其本籍页士之捐約者亦皆弗載 人物列傳悉以正史及 大月俸方上川 目了然矣 郡邑志與夫王編翁志為 朝廷所以有旌典也 一書而於 間

或註於本條之下皆加按字亦有未及加者其官
一各類之中間有戶言以抒管見或書於各條之後
無由偏视博採難免遺漏
檢取以覆核也弟憾藏書甚少購假亦不可多得
其書之名蓋据之以傳信且使覽者或有所疑可
一人物列傳外凡各類中援引奉籍亦悉標註其人
有異同也
以新閱者之目而增湖山之色非與前人之賞識
見者不再錄入另集古今人詩二百五十餘首要
例者亦美不勝收故於王編翁志所已載人所習
文 对传考上们 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
一集詩之例已見小序弟古今題外名作如林即合
貽吳後人耳
正非敢攻前人也志書貴乎微信誠恐弗辨或致
一是書於具區志記認處如衙山獨山諸條多所駁
之釐正焉
七十二港震志為是從之而於宜荆之百濟則為
志十十二港與吳江舊志名稱互異今履地核之
宜與志圖考編次百濟南北易位錯亂無序震澤
訪尚未郵到故所載頗少當俟補刻
家務得其真馬頭山之節烈曾托雁門灣一友操

			五	之有留與否望世之君子是正之
--	--	--	---	---------------

史 225-7

記兵	湖防論説	兵防	卷四	水議	水治,	卷三	演湖山	沿湖水口	卷二	人不消住才自命	太湖	卷一	<b></b>	<b>巡幸</b>	卷首	凡例	引用書籍	師資姓氏	序、、	太湖传考川錄
										于実							,			

卷九人物	卷八	鄉京	是七	物產	風俗	古蹟	寺觀		祠廟	坊表	卷六	田賦	都古	港漬	泉	湖中山	老五	職官
		作	進士 舉人 貢士			第宅園亭	1	八月本十一年					地名	橋梁				衙署仓夷
			薦舉 護叙			塚墓		•										教場
			武科 武職					L										

史 225-8

关門	湖程紀略	时	雜記	卷十六	補遺	卷十五	災異	書目	太湖傳考日家	卷十四	集文	卷十三	集文	卷十二	集詩	卷十一	集詩	卷十	列女
吳門李又韓子永瑞店鶴									11										

蔡雨亭 名 琦 字 宏望 西山 工面目故集中之圖方位颇準	華雨峰 名 鵬 字 振飛 過洋山 库姓朱 以至脫稿無不寓目 以至脫稿無不寓目 與資稅進茲集自初稿的悔齊 名 廢熙 字 南懷 東山	京州府新志先生分任採訪當以圖繪湖山編遊 京州府新志先生分任採訪當以圖繪湖山編遊 志水道諸說造門就正焉	秦河溪 名 大椿、字 靈胎 慶澤 理受業師也集中水道源委及註釋論按之當增是菜庭 名 曾 字 魯傳 東山
------------------------------	--	--	--

浙江通志	顧夷吳也記	張勃吳錄	周處陽美風土記	山水記	元和郡國志	桑欽水經	洪武實錄	元史	唐書	《太湖传考	五日本日	二國志	史記索隱	史記	吳越春秋	春秋左傳	爾雅	尚書無方	引用書籍	太湖構考
李宗諤蘇州圖經	江南通志	賀循會務記	虞制川演記	太平寰宇記・	十道記	雕道元水經注	山海經	明史	宋史	引用者籍	隋書	南史	資治通鑑	史記正義	越絕書	孔氏書傳	爾雅翼	卢禮		

<b>唇鹤微河渠說</b>	朱存理水利志	<b>郊</b> 寶治田奏議	范文正公水利書	具區志	林屋記道	洞庭記	太湖志	要地記	建平縣志	太湖体考	寧國縣志	長與縣志	湖州府志	宜與縣志	武進縣志	震澤縣志	長洲縣志	蘇州府志	盧熊蘇州府志	朱長文圖經續記
林文沛治水事宜	歸震川水利錄	郊橋水利書	單誇水利别畫	<b>錢孝馬蹟山志</b>	續辰澤編	洞庭實錄	震澤編	沈然吳江水考	臨失志	引用書籍 二	金壇縣志	溧水縣志	烏程縣志	談鑰吳與志	無錫縣志	常州府志	吳江縣志	吳縣志	姑蘇志	吳郡志

吳興掌故集	石林避暑錄
客座新聞	<b>漫上編</b>
葉石君詩紀	田家五行
紀善錄	杜瓊耕徐錄
<b>制鳳續吳錄</b>	陳仁錫蘇志構遺
金陵琐事.	湧幢小品
陸輔之吳中舊事	龔明之中吳紀聞
西吳里語	王安貧武陵記
胡舜申已酉錄	王明清揮塵錄
大業雜記	陸龜蒙笠澤叢書
7月書籍:二	大湖傳考
世說新語	崔豹古今注
洞冥記	博物志
女中記	文獻通考
風俗通	本草綱目
等海固編	郭若曾江南經署
徑山山門事狀	<b>於越新編</b>
童國泰水利條議	石柱記笺
馬汝璋水利圖冊序	程大昌修湖漢記
吳中水利全書	公皆屬河渠說
曹允儒水利續議	川大的水利節署

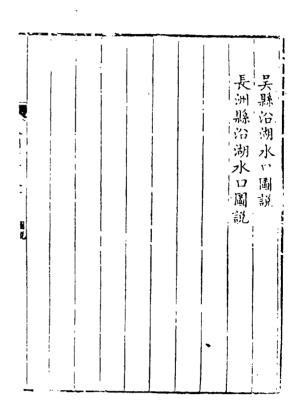
古柏吳氏族譜	吳中葉氏族譜	沈歸愚集	雲川閣集	曝書亭集	逐初堂稿	三魚堂集	錢牧齊集	大湖   传考	杨升卷集	到青田集	陸放衛集	杜工部集	馬蹟山文獻考	昭明文選註	<b>吳都文粹續集</b>	林之解	明會典	峨着槍譜序
橘社金氏族譜	延陵世譜	吳中殷氏家譜	張南華集	紅豆齋集	已畦集	鈍消類稿	吳梅村集	5.用書籍 [4]	王弇州集	王文恪集	范石湖集	蘇東坡集	白香山集	七十二奉足徵集	白香山年譜	藝文類聚	大清會典	說鈴

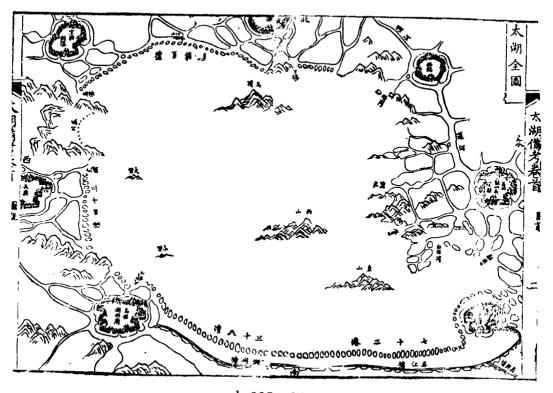
|臨幸駐蹕東山 上幸太湖准吳縣百姓奏水東地方產去糧 太湖俸考卷首 聖祖仁皇帝南巡淮甸関視河工遂歷江浙諮 恩獨麦湖坍荒糧額湖山承龍重曳騰歡誠千古未有 **巡幸** 一問去了許多地地方官何不奏聞開除對非 |問扈駕守備牛斗太湖幅貧廣狹對周與八 云為何具區志上止五百里對積年風沒衝 朝康熙三十八年恭逢 迎幸以冠卷端 惠以及民數典而誦夏諺慨乎有餘華焉我 之遭逢也謹志 太湖亦家 白古王者省方無非事者 塘武進之新村無錫之沙灣長洲之貢湖吳江 故今有ハ 康熙三十八年四 七里冼處處有之 處即如爲程之胡淒長與之白茅嘴宜與之東 **太湖備考卷首** (百餘里 月初 巡辛 179 而 H 遊 豫又皆有思 存 坍堤岸 百五 但水東 **凯**派水利 里

聖駕南巡駐蹕蘇州四康熙三十八年 皇上 皇上大悅命賞漁人元實無院同按察使先到山少頃 上云朕不到江南民間疾苦馬得知道石柱記 皇上 聖華席於 馬東園 皇上云可惜 御舟到好而随後之少臺上鄉隻未到宋無院備大竹 旨明日往東山初四日已刻出香口下太湖行十餘里 太后没有來賞他元寶其時提督張撫院宋侍衛二十 魚二尾 一升與云倒也輕巧時有者老百 一問席何官職奏 漁人獻縣魚銀魚叶漁人撒網又親自下網獲大 餘人琴峰寺僧起探步行轎前先驅引路者倪恐 問為何不做官奏云告養親在家進茶進百家由 檢陳千總也 迎接又有比工尼跪而奏樂 轎伺候啓奏過 有獨木船二隻撥漿前行 詩四套蘭花二缸 大湖情子表古 四月 云工部虞衛司主事 初 巡幸 三日起更時傳 -姓 ħ 餘人 執

二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十
馬车折工山民兴起縣地一大大學是月更深到城明日面上有水東百姓告菱尚對丹田賠糧收紙付字
皇上命取一枝細看問宋撫院何用對云打油又分付選果馬而行分付侍衛喚百姓們看又会付銀百姓不命起
皇上六不去罷即皇上問起操你住處在那裏奏云此去還有三里路

吳江縣沿湖水口圖說	沿湖水口圖	長與縣沿湖水口圖說	荆溪縣沿湖水口圖說	宜與縣沿湖水口圖說	陽湖縣沿湖水口圖說	無錫縣沿湖水口圖說	太湖全圖說	倘亦不無小補云	大湖情方是首 163	利	能鐵悉盡合而大勢已得其真為行放者循途而	一每圖之後各系以說工関五旬稿八數易雖未	外錐瓜分而豆割實壁合而珠縣共得圖一十有	1	上墓	尺幅非獨湖外之境地不能及遠即沿湖之水口		太湖形勢既合湖之内外而考之則必合湖之内	太湖圓說
-----------	-------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-------	---------	------------	---	---------------------	---------------------	---------------------	---	----	---------------------	--	---------------------	------



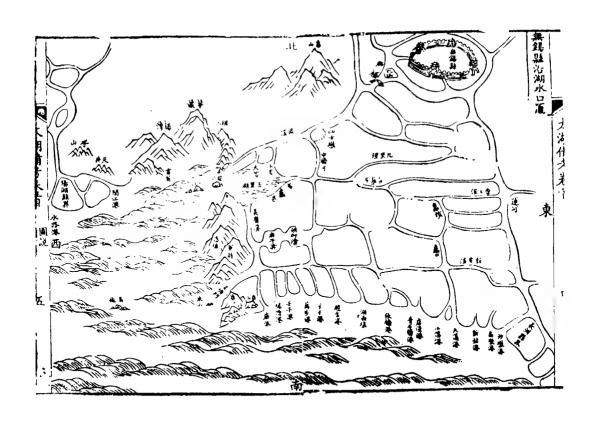


史 225-14

アスはイラえて

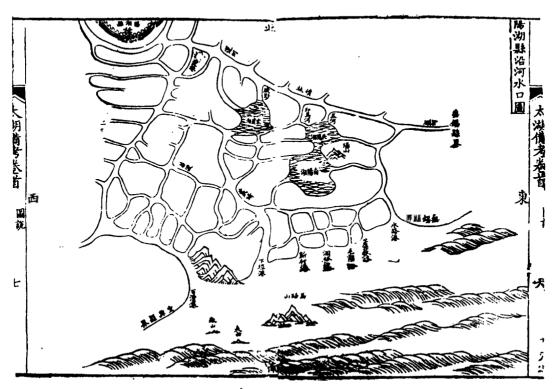
江庭置西太 四贏而南北湖、湖着圖其形 馬不 太湖全圖說 游 所之疆域也沿以内蹟 孝群峰之四八條不倫今止以 圓 也 袓 湖網繪 湖今 アス 至水领其 中則 八口間有識者大五東西兩洞 諸 吳江之運河 稍橢月其東 山 福圖

史 225-15



太遂鍾西新無 湖盛為浸 安錫 之於 五草 五縣錫 水南里山鄉西縣 皆南沿 其湖山 上流多 於 瀕 境湖 運 流為則 於 富 水 皆獨 港湖安 河 未 自山少 湖開圖 是 運門港水元説 又 河西少 南揚 謂 来出别抵名 之水老開 說水聚斯化

南 11 詳 髙 錫 下 沙 北 志 南 吳 及 塘 注 下 唐太常 水 ネ 合 於 性 出 就獨 梁 河 下山 溪 渠 無門 亦 逆大誤 説 各行抵 而無廣 辨 之北錫溪

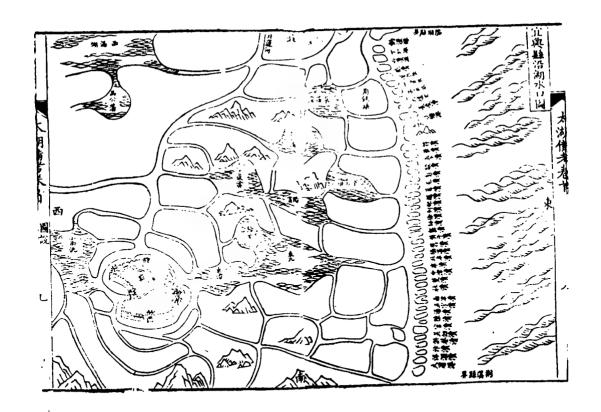


史 225-17

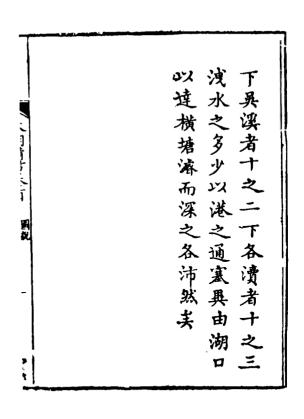
京二入野距太 港湖 採湖 湖 陽 菱等十 獨 水 ハ 之 湖 東 ふ 勢 北縣 汰 滋里 来 꾸 境沿 者 緩分視 陽湖 港 運諸 西 湖 湖 水 受漏 邑 D 河 腶 U 之湖易 流為 之 圖 南説 南 最 上 水淤 行遠 派出 堍 百 也 势五 漬 従境 盛洞下諸内縣 口威 治 也構填

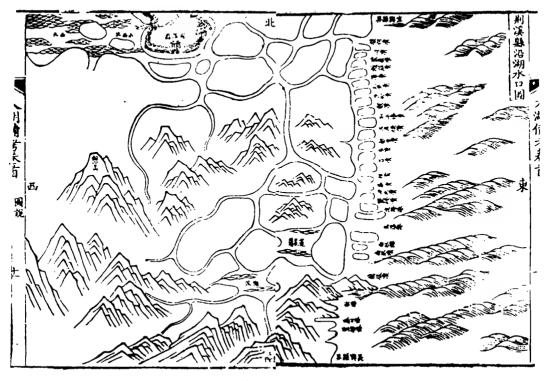
> 太故舟 下行 ンス 瀕 是為 哨 埠 自 港湖 兵 為 耍 观 U 地 防通達 各渠郡 云 前 口 百 哨 濆 明 官 萬 廷 駐 歴 而 剖間 下 下設埠 埠南徑

史 225-18



自在宜 港溪半 東南 而水即析 興 宜 縣 典 开荆者 潴 縣 湘田 隷 沿 為 測 謂 沿湖 東在縣 上 東 ンス 瀆 湖水 之北大在 IJ 浦 東 瀆 水肴 圖 也分 北 汉 説 上界者 百 流止 計 之有得 志 五分荆其 以





史 225-20

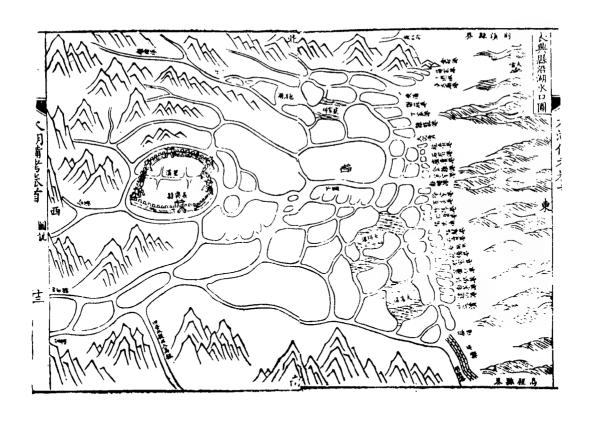
深鏡注不之間且烏入不 清之在 烏溪流流 縣 ·R 不就興 沿 生: 沙 就随等近 稍 南 湖 水港由 其 典 者 水.. 南 屬 U 近 出 承 蜀 ١-之 J, 境 荆 圖 南 故澳河 溪 湖 م ساخرة 言之若 港入道 㳇 縣 太花 諸 其 不 若战湖荡地

山

上 派

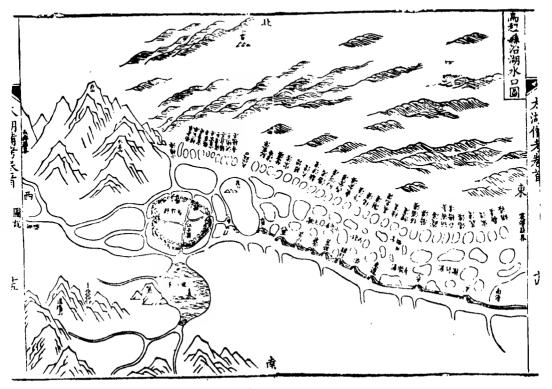
> 蒯 有 北 通 山 之 南 有 漬 源 塞 其 激與 水 流在仍 短宜 自 又興東 當晰 沈 别者 横 論同塘 凰来 川港 在之

史 225-21



安分水三長 縮溪支畫十興長 也而入從八縣與 濒下松三古清縣 甘十所港沿 湖 山溪四謂 三湖 然漬せ 十水 湖塘 苕.十十 有 嘴以 之来溪太二四圖 患水亦湖溇合説 與補分惟也請 高去流四邑高 程水合安境程 同無四溴之之

1E 由 故 萬 水 山 政 浶 盤 不 司 矗 獨 斯 洩 Ŀ 古 者 内 稱 漆 尚 滥 数 又 其留意於兹 沿 逸 缥 入 ۲ 太 外 讷 溢 3 17 西

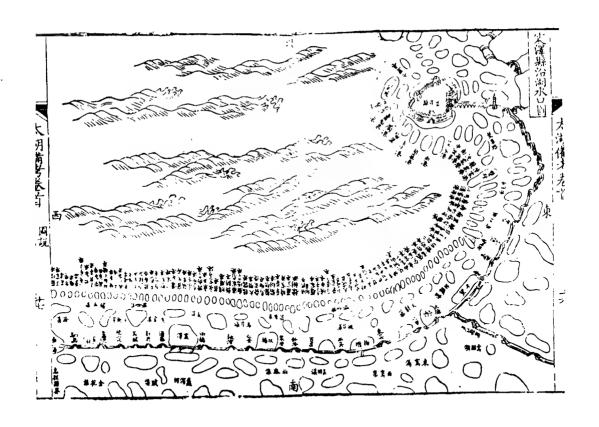


史 225-23

湖宫北天 接西 水不境 自 E) 烏 利獨分萬 · )> 程 梅在在注 山 躲 鳥烏入之 東 至 程程湖 水 湖 此胡 溇 一 溇 承 水 三海神 滋邑港淮 可也壅 於 [6] 八延謂鄭阻湖 溇八要元水郡 自十言廣無從 雍餘不曰歸鳥 正里煩吾宿程

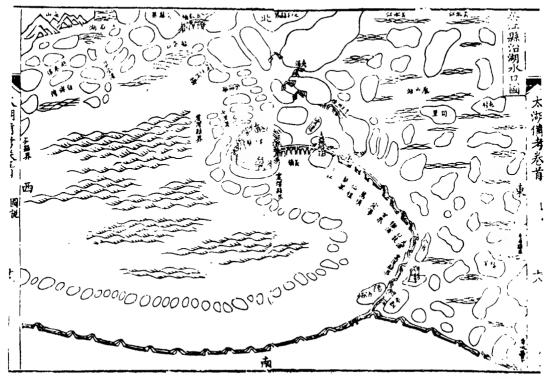
> 設錢修七 險一濟年 港建浙 亦 惟尤造督 此苦閘 李 為 霅 座 街 要下沒機 太猫知 湖幸 縣 之無 嶭 大恙 景 路中 廷 湖間動 防大帑

史 225-24



而下水之割 流入港着 震 出 浦 水湖悉異 叉 隷 江縣 各出 之 馬縣沿 有湖口 自之河 之也 17 縣 西水 口練 偏口 也聚 垆 浦 至 為圖 其橋 橋 震說 韭 邺 至 下 溪 流 吳 澤 吳 之家 為 縣 江 穿港上 瀕 塘涡流湖 而屬

成也好震 水田吳 晰澤此 議東江 其 為遺 諸西圖 有 主彼 條水做註吳水 兹路此 有江之 不對及不計者 為去 路 ス 遊毛所主明 脉坡以互其 詳之别見兹 在冰窗水圖 水漲主道以



史 225-26

橋為淫流縣吳 港之 断 江 吳 本 盡 者 嫐 大 江 沛 批關 琉 业 自小縣 下 之錐吳 也触 诏 析 首 置湖 縣淋 内 魚 水東淞鮎 震水 D 娄 外 澤 D 垂 魚 道 \_\_\_ 縣 改 虹 D 溪 部 بت 江直 賿 移 江自建 太 病 湖 甘此娄 水 湖 在

東之

战泉而江

摄等站火北旗

他澤蘭 吳 縣 若 縣其 莫 境上 為 利含 跳口 波受 溇 為 之水 害 白 事 不详 虚 솼 湾 沙 如 其越二 吳 邑家 躬 湖 等 而兴 於 其 隷 謀 湛 地之在 隣 接數震

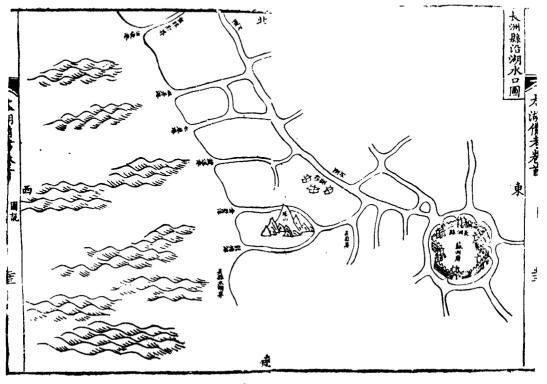
史 225-27

Ė



迷一法 瀕 五 異 口十華湖湖縣吳 皆里山之 咸幅縣 納皆三地在 員 沿 湖湖洋之断太湖 之環坟延内湖水 水三觜入七居 惟面或於十其圖 乔 吴 三 湖 二 説 嵙 真四者 銅澤十如十 國里水隸 二哉或東七遊 處諸一難八貢

海样而已邑之内地颇高利在蓄港口塞而水不入吳之病已



史 225-29

大法律ラスさ

泊汛害遇吴長

以便養和之出入

史 225-30

一名具區 山海經洋王之山北望具區爾雅吳越 山海經洋王之山北望具區爾雅吳越	一名震澤、禹夏震澤成定孔氏書傳震澤吳南太二山鄉中東南之澤此為最大一二十餘里此收數、中有七十八百東西二百里南北一百二十餘里此收數、中有七十八年	名勝住进覽也 2 勝住进覽也 2 勝住进覽也	可修除易明則兵防得要故詳考之匪徒藉以表太湖為其中勝地亦為湖中重地源委啉則水利太湖 弟 友谊 校	太明崩考卷一
道未发育以 高	中有七十	を を を を を を を を を を を を を を	徒 耕 以 表 利	

得湖 (吴地記)云在胥山西南周四不止五六十里、李也是一大中記)云在胥山西南法華長沙山之東南之東南北南山之東南 (吳地記)云在胥山西南周迎五六十里與美地	湖連洞庭記湖傍莫雅故名南徐依山之西三山之東此脚其湖 吳地記在莫雅山西北周廻五十餘里與胥湖常州明縣進五是機然	山北則徐侯山西與京一八年	菱湖 吴地記周廻三十里口闊二里口之南其登山以此照今湖中有此五湖附者於後	莫湖胥湖游湖貢湖即太湖東坪五灣林城南城市水五名史記正義顧夷吳地記皆云五湖者菱湖	道故名陸龜蒙曰太湖上禀咸池五車之氣故一通義與荆溪北通晉陵馮湖東連嘉與韭溪八五湖虞翻曰太湖東通長洲松江南通烏程雲溪西	- 高型以望五湖張勃吴錄以其用行五百里故名五一名五湖 史記范蠡乘舟入五湖太史公登姑蘇永非尊称太湖常提水經注益知沒数以不同處矣。
五六十里兴美	山之西三山之東北朝西南洞庭之間電山之間電山之間電山之間電山之	「震漢編」云具縣無三十二震漢編」云具縣無三十二四周五里北縣 首別中也之菱湖市也以湖口也出版日也尚	里口之南莫登	五灣核與五朝偏於	五車之氣故一嘉典韭溪八五	五百里故名五太史公登姑蘇

不明水源 固城湖 貢湖 料 為此三 深湖具時追梅梁至此杜圻之西魚查之東日金鼎湖 岸至三洋坟前為一大党湖口在坟前四路之間開四五里不止二里相信 籍可據事既不足為重輕地又無關 界限即命名之事文格亦或得自傳聞未必 全東江此因名林屋之東日東中里湖兴金商祭神安 小貢二山中間相距處即其行耶 之處不知何處是湖口意者大方 湖口尚扶耶 昔年埃第之外尚有一洲亦名三洋又名東門上有禹王廟明李治於湖西 自於此将玩放名聖山北抵新橋折而西沿海城山長山一帶鄉 湖 金分界東經五堰 三湖不過以事得名非若五湖之山園岸抱 止湖中以大小二貢山為茶好有一村而 校清起治杵山来篩山馬山過龍塘金髮清禁口歷無竭老师至竹山労幣 者有洲之時 問二里東南峄樹里西北 水發源為固城湖西連丹陽石臼二湖與宣城 澤編云五湖之外又有三 吳地 吳地 小 太湖備才是一 百九十里西口 在高淳縣南五里漂 湖者其名可以弗存 記東南長山 云在長 山 = 即山陽部西 太朔 ||之東周 一塔港過宜與以入太湖 陽四五 里按資湖路連具縣長河 好長山洞 湖南湖廣州無張無僅開四五里 水志 湖夫掛 3回 小水村置 北連 K 庭實録吳王 山東 餘 里 日 文 各有 回 西 M 梅 U

梅渚 東十五里日新壩田将廣通要擊成河自此 堰江南通志五堰 水等集文韓邦又即古五堰沈路水考回自廣通 戠 南渡堰又東九里口沙旅堰等又東九里 負開以運糧由蕪湖達震澤桑欽水 按胥溪在廣通鎮即廣通 通太湖西入大江 北四十里高淳縣東五十里溧陽縣西 流而進東通五堰以達三吳 溪張亦瀉 埼北曰北崎總稱南湖受廣德建平諸水宣城 堰長十五里又東五 自宜與經漂陽至鄧岁凡兩日水路自鄧步 名稱里 曰 堰口昇平壩又南九里口三塔堰 河 何家堰長九里又 在宣城縣南寧國志曰周廣四十里南日南 原屬溧水今屬高淳與建平連界去建平縣 太湖街才卷 由宜典入太湖俱由湖州入太湖山發源於東北者 在 数錐 建平縣北 入馬湖泛則東合高淳水由牛兒港於 有不同 三十 曰銀林長二十 里曰苦李堰長八 要不離乎舊蹟又傳同 五里曰余家堰長十里 壩水春秋時吳伐楚 里經漂陽? v:1 1.而東九 里少 又東九 經 一塔堰 中 里 東 一日前 十 江 叉 里 里 ・里東 日 即 第 五 分 麻 日 坜

長蕩湖 宜典三 開之背溪蘇常水利之一大關鎖也故詳志之後 浙 阜而苦不甚高遇暴涨 堰處東壩即古分水堰處中間十八里即伍負所 馳 بح 行水路百餘里 附長蕩湖所納金壇諸水在 西氿東由張河漬入 由 湖止隔陸路上 者水源最銀水患最大東壩堅祭之後此水 とく 一溪入東北有陳塘中 人太湖矣 慎母輕言麼獨哉 白龍荡入 作也由傳說觀之大約今之 判溪以入太湖 <u>,</u> 市 一諸水即震澤編所云 東西三十 大湖備考卷一 縣去宜與縣一 於長 名東場 西南有薛埠白塔張橋三河由唐 乃至 山三茅諸山 大雲下 自東 里 八里 南 無湖 此高阜不足以過之 渦 土此十 百 址 則宣獻金陵之水奔逸 湖里東 塘堯塘諸水由錢資蕩 九十 入大江銀 下本 西 TO 行 里 縣 里分屬漂陽金增 北 滙水長湯湖亦 南 白 由燕 西壩 中 西 由  $\bar{I}_{L}$ 寒溪连 有三五 北 瘅 林 里 有 至 凼 即 西洋 古銀 五 銀 淋 荆溪 康 堰 里都 林 來 髙 河 一步 有

顧诸溪 荆溪 西 戚墅港日飲馬河甘至新 源 諸山水並 滆 分而 與漏河會皆由 官演日南洞子河皆 湖 蘇 東由黄土河下 セ 金壇諸水及本境君山源華山張 者為東氿 宜與二縣去宜與縣西 鄭會其在常州分而南 里橋分而南 州 湖 派 西南出 此正流也分流此出者俱下大江其 屬宜與 上皆太湖西北水 西北自京口歷 皆太湖西北水源 東西廣三 於運 西九二十七里東九 当者由志 與縣 八貫城繞 滙於此分為百漬以入太湖 荆溪 出者可 分水墩 西 丹陽常 入於馮 ٦Ŀ 郭 公港雙河曹王淫 入太湖 A 北 太湖 珥 演的台灣河至金壇 西 里 在城 四 塘 出者郡之西日直漬 由 叼 南 哪九東日採 湖口 ż 孟 鄉入太湖其 西者為 州而至無錫 北 里發源於 涇入寒溪以達 里 西蠡河 西通溧陽金壇 百里 山城溪源者 八里八 西沈在城 其自丹 菱港 通河 水 在無錫 ツス 溧 達 水 陽 西 日 日 洮陽

四安溪 苕溪 東下新塘 店澗驳源於蒼雲諸山為梓方澗合為蚌塘出為 程 諸山為盤渦塘善好塘發源於廣徳州諸山入 北 流 來合東至安吉州治南之 合溪流為畫溪又東為若溪野縣城經廣惠寺 合東至安吉州治南之印渡又北至印鄉又東過靈英鄉皆有諸水來合廣德 管埭周濱林城午 一界其由本境東北下太湖者為日 為然花生 下夾浦其東行者會等溪支派下大流漬 今支而北者為東溪本溪為外溪鄉其溪之 順水會志所謂若有二派是也又東北 長與水源不止於此此其大者 在長與縣西三十 諸水來合外溪之東北行亦有諸水來合長 發源於天目之陰孝豐縣之廣苦 合至梅溪鎮與梅溪合是為總溪計自幸 在長與縣西南三 郎閣水亦來合馬東至浮石山裏溪之 1 17 源既合找四安鎮為四安溪 蘇注於包洋 山大德鈕店東會召漢入 里發源於白規諸山為 里發源於 湖別為盛家漾 塘 山 叼 渡與 東 安石 至 办 渦 水 亦

餘不溪 前溪 入於桐鄉運河道議又分支為北流水本之徒清縣界仍為餘不溪縣境之水皆來 餘杭縣入 山沉遊日後漢發源德清馬四山武康縣後故謂之後漢亦出自卻地武康縣後故謂之後漢亦出自卻地 與德清之北流水合美流後 分為二派其一北行過黄龍山東至沙村號沙縣治前千秋橋名前溪一名餘英溪又東過縣 梅 烏程界為西溪北過釣折燈吳山彭滙和平凡 <u>季</u> 江子雅為雲溪其一東流經下 西 里入 入太湖 與前 與峴山漾南來水合亦入 44 入歸安縣界至敢山過菱湖西北過荻港又桐鄉運軍議人分支為北流水本溪東行二縣界仍為餘不溪縣境之水肯來會又東散縣入錢塘縣界為安溪又為奉口溪東南入縣入錢塘縣界為安溪又為奉口溪東南入縣入錢塘縣界為安溪又為奉口溪東南入 東 脚之前漢也 等溪四 發源於武康縣之銅児山 經峴 即江子滙苕溪前溪餘不溪北流水 流一 歸安縣界至敢山過菱湖西北 溪水合為程諸山源發為溪港者皆來 山 東入清源門至江 白 臭北 十三 釣魚臺而 安溪水 一里官梅 六十 北經規山漾 江 溪之水亦注 理 東流 子 分者三 皆來注之北 溪入 渚湖 子 江子滙為雲溪 至目海 准為 會於餘 VY 八定安 南至定 雪溪 沪 山 緜 九 志云九 麓 經 行 里 YIZ. 溪 抵 1 1

太湖水委 好豪民與占懂存一港以其斜向東北故名為大針港令又日侵月前都造日大行港舊無其名即雕山湖接其松江之口也向時本極深閣鎮西 皆入浙江東派由蘇杭北派由安吉皆會太湖入美松江之項有龍居馬中常出水四方而下南派由睦西派由敏之項有龍居馬中常出水四方而下南派由睦西派由敏被四州周二千里湖州府志云高三萬六千丈廣八百里上有三十六洞湖徽四州周二千里湖州府志云高三萬六千丈廣八百里上有三十六洞湖湖四县中水源天目高大咸潭福安志云天日山一名浮玉山建亘杭宣附天日山孝 湖 塘分下 溪其水 聚處 里太湖正 曰吳淞江自吳江縣東門外起至海 春門為 流過的雪灘截運河而東進浮玉洲橋入雕山 甘泉三江等橋水亦來會東北流入大針港優 湖者也 湖二 放日内孝豐之壩三 程支流下長與 苦漢則正流下鳥 湖杭水源出於天日不止於 康之堰七十二徳清之堰九湖 以上皆太湖 也 一漾十烏程之漾十皆所以潴而後洩於太 運河 諸橋港者北 在湖 |東之幹流也湖水由吳家港過長橋東 出 州府城 東至吳江 脇 西南水 湖 pij 内 由七十二樓入太湖 3E 原诸派在苦溪西者由馬雅度潭下太湖 十七安古之壩三十六武 太州 之平望會於為脏 由大錢港入太湖 ょく 其害然有聲故 عالمد 此亦其大者沈 九 浦 U 歸安之 百 湖 調 六 出班 نڌ 李 浴

按三江其同聚訟紛紛其說了 之水亦并於淞江入海 者以為是即古東江今海口 湖與吳出意無油屬的於人人人 里有水口分流東北入海為婁江東南入海為東 史記正義矣地記皆宗之顧其言曰松江下七 東好有開港內通新場部第之東舊有入海口 寶帶橋入運河復折而 東之水台瓜潭所出之水大於長橋兵港出東浦橋之北沿運河與嚴山湖南 U 江并松江為 三江則是承受太湖之處惟松江 日東江太湖水後午才坡東南山唐家湖越運 縣界轉入崑山縣界至上海縣 下流而言當以度仲 奔流東注并於澱山三泖等 而 流至姜門東北由至和塘至太倉之 而至妻門 湖水後鮎魚 曰婁江自蘇州婁門外起至海 而東婁二红又屬松江之下流別無承堂太湖 東大小蕩以百計又南合湖 太湖備考卷 支於五龍橋外折而東一灣臺湖出 口 ゝ 一盤塘過五龍橋至 初松江婁江東江之說為 矣 北至新門於盤門之水人 湮 港西來之水入 因祭海塘而塞黄浦 湖而 州嘉典全郡之水 口 若專就太初 一大母令長衛之口雅於湖 劉河、 八於黄浦 盤 百 門 + 今元和 入 繞 海 黄浦 郡 里太 讌 河 الح

等荡而分緒為陽城昆尚等湖然則三十六浦所江者惟運河以東入太湖不及者乃下長荡為此 水由横塘以出胥門城濠自蘇州以至無錫未聞無不西南行以注於太湖直至胥口方引太湖之 右謂此外別有大湖北澳之水則周大韶論 福山等港論者以為皆太湖尾間非也太湖下流 利論而以都見附之 勢當必如此今本其說然 墩唐家湖為東江受水之口泊屬創論想古時形 其處者近吳江徐養浩以黄浦為東江江受水之口婁江之原委始明東江則 漢乃不及入太湖之水謂是殺太湖上流之勢則 有水自太湖來入於運河下注陽城諸湖而洩 詳其言曰自常州 之東北行者至蘇州婁門已盡由婁江入海 又按婁江北尚有陽城昆尚諸湖 圖記始指崑山至和 可謂是導太湖下流之歸則不可謂陽城等湖亦 17 口矣宗其說者亦皆無明白 支亦由胥門達盤門而入於隻不復 大湖僧者著一 下至無錫以達蘇州 沿為婁江 以沈怒水考曹治儒水 確論至朱長文績 而 七了茜涩 水江而以牛茅指 觚魚 河之 JE. 白某 為車 IRI

不計畫多方章 医化作用工厂工工 在 言北為太湖本年十月 一	牛毛墩洗水方湖之東湖 中毛墩洗水方湖之東湖 中毛墩洗水方湖之里 高重 四九 自竹山南至蘭山薰溪麓洲背啼港山 在河内一二里会 高重 與荆溪二縣 以上 皆淤漲 不許豪強報 化利坍湖有 賠糧之累皆司斯土者 於東江縣太湖浪打穿等處地方淤漲草便永禁 不許豪強報 医水为坍湖有 賠糧之累皆司斯土者 不許豪強報 医水为坍湖有 賠糧之累皆司斯土者
-------------------------------	---

		太湖備考卷一大湖備考卷一	在大海水灣入藏太海以上出口而出門流河及海峽地區與 在大海水灣入藏太海以上的一個一個一個一個 在大海水灣大學工作學是 一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個
			世祖 中 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神

小溪港交流 太湖	八字橋名赤城溪廣數十丈長五里出溪橋港而入為曹王涇涇水又分而南為雞濱南行貫新安溪過	大溪港羅即赤城溪無錫志運河自南門塘分流西行新姑港不通道	高墩港	沙墩洪市上流自望亭塘運河分流出北橋西行入太無錫縣	江南常州府屬	除易利害之所在矣	水利者不可不明議兵防者不可不悉詳考而次之大小支派之遠近今與古變遷通塞之不同談	太湖有來水有去水水之來去各有口其中河港	弟 友谊 校	太湖備考卷之二
----------	--	-----------------------------	-----	--------------------------	--------	----------	--	---------------------	--------	---------

岸即所 按沙 湖台山無河港 塘門在馬門向 火火 謂無錫老好也至竹山 下 諸港自東 西自吳塘而 南 西 北 連 而老好盡折 ٦Ł 相屬 十里至獨山 皆在 太 而 門湾 北 湖 吴 业

獨山 將 水通流之處與陸地入湖之港有別濱湖水口當在 門據此 錫山山脈西來至是中斷為太湖舟行其中曰 X |里湖好石塘馬鑫大渲小泣諸處非獨山門矣今 門內常州郡邑志俱 里湖岸諸港附載於後 則獨山内之五里湖尚是太湖獨 公士獨山 孤 峙 湖中 宸澤 山 門是 獨 編 湖

**長廣按此則長廣溪≥水並是山泉不從五里湖來亦不入五里湖后班乃由長廣以下吳塘又曰東山下有大澗乘山之水於入其中春騰以進** 又曰五里湖本不下长廣惟西南城大作太湖水源五里湖溢而灌於石塘口口長廣在石塘之南出兴塘甚便遊入五里則難無緣合混造之水 者止是近湖 一位通舟科 可盖后塘近山地形稍高所以水势两进其由后塘口 人太湖首考长二

金級法 來夢逐而河路來合又西行過很塘橋而九里逐來食 是塘橋而中橋河來合又西為馬 截港人五里湖河港九里經

小道 沭

大道法二海 接大道港有關榜榜重商稅

F 一流為 梁清溪常州府志錫惠諸山東東西

> **濹無錫**透深溪自縣 後 美 故文名清水港 以上俱屬揚名鄉 福西南行至仙女墩多而南為中 而為小渲大渲又西南行而溪派 西 門太保 墩分運 橋河又 入太湖其口 河流 西南行分 下 西定 日

按自此至問江湖好又折而西 |有華藏楊灣諸山無河 為 灣濱湖二

間江港常州远名按圖志上 分運河水南入北陽湖泛北陽湖東南出而 流之 自無錫境來 者為 南 行

為直河港又南行至富安鄉為西溪與陽湖縣

西來

龍游河會自陽湖界來者為成 墅港 19 分運河水南

河 煙為田廣可通舟矣降間江 河身又東行抵間江無錫志云間江太湖之 行至邱波過周橋分流 與西溪會合流而南過白石山今流入水溜港 經周家渡 有橋曰青龍水泛橋下 入無錫界為龍 別 浦

太湖山鮮濱湖東山考青山條下 口次之 催十八 上除附載四 里 大舟通 口外共 行為第

> 臉 九

> > 口

獨山

門去縣泊

要吳塘

ř

閣

沿海港路排水 陽湖縣

流 東通白 石 山 河 無 錫 東北 **延** 時 班

虚秋港 惟入湖支流 洞橋港群堰入湖支流 毛湖港韓塘人 百漬港流上流西 我此來 居成門二丈五月橋下起至小十字口長一千五百九六三丁庆 見る 邨 河而上一由南北陽湖通印馬河 名問江橋水後橋下入太湖投水溜開江二港其上流有分有合 漏湖之水後此來太平河北通成野等港運河之 **觜突入於湖折而西北沿湖背山十里而至百濟** 按自問江至此湖岸皆向南下埠港之 調薛班通津 馬涅又南為河上渡又南為下埠港入太湖湖薛堰 河舊志謂是薛堰入湖支流路港有橋名水溜橋亦 分水墩合流南下至此入太湖黄土河西通官才清 港有水舊是作薛堰入湖之幹流薛堰河南行為白 大 薛堰入湖支流 達宜與東自周橋通白石山河入無錫界舊三所 由華渡通於菱港片北出即東運河西由般古海 秦邦之間故亦名素村港 山港在新 也那是由此港越漏關我船隻亦多由此港出湖一大人 一支為黄土河北 一支為太平河至 由或持通城野 £ 西有山 一 資金 张

灣浜法沒 山流港港 釣涇港 下澤洗 吴溪港上接吴溪舊志吴溪在縣東北十 大塩港河進內二里為周鐵橋鎮太湖方管守周鐵 萬石橋出尹龍橋折向東北合吳溪而下太湖溪東入太湖又河渠說運河東出之支有般村港 宜與縣 湖未嘗經由內地故沿湖之港少於宜荆兩邑而源少而水勢緩境內之山又多瀬湖水發時理自 丈烟 按無錫陽湖二邑入湖之水其上 内亦不必有機塘以殺其勢 通分水墩南连丁蜀山東出大墟港下 集府治東南之門户也然藩離又在馬跡山 問江於百演港橋供置棚舟不能谁惟下埠為通 以上共七口舊以水溜下埠百濟三 用作方表二 水口 流皆分自運河來 一處為險要今 五 大湖 里 西通 橋水 荆 洪 JE 由

東海灣 東海灣 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京
--

凌亂演说	河灣美五百文底閩一文五尺後河灣有江	荆溪縣	演港東北由沙塘港今黄濱塞兵	時黃濱亦稱要地鄭若曾曰賊出太湖東南由黄	湖中竹山據高見遠左紫右拂可以兼顧諸口舊	以上共四十一口除要在竹山沙塘港其地斗入	上漬	漬大浦以後諸漬屬今荆溪縣者在東南一帶 應是	本湖信子奉二 水口 九	大浦以前諸濱屬今宜與縣者在東北一帶應是下	五十里為下瀆錐總謂之百瀆而有上下之分按自	甚志云百演在縣東南五十七里為上演在縣東北	十之三由陽山済東北下吳溪港者十之二	東流之水東北下沙塘港者十之五下各價小港者	台由横塘分下諸演以入太湖徐 <b></b> 。属河渠說運河	進界來入境今支東出有般部塘清草塘港演諸港	按諸演之上流有荆溪水有運河水運河即此自武	也教意即浦之淤漲	フッシ有以不不不見二一ノニス・虫ア言フいり
------	-------------------	-----	---------------	---------------------	---------------------	---------------------	----	-----------------------	-------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------------------	----------------------	-------------------------------	----------------------	----------------------	----------	-----------------------

新陳	蘭後演遊在蘭	南朱濱道	南杭港道	鳥漢法·通黃深闢	定時法通回區	使精演以上首	洋大濱	廟賃	杭馕	大湖情者卷千 水口 十	日後	市濱	觀音灣	五房橋演	<b>卻平橋演書</b>	想演	梁新漢	<b>北朱漬</b>	<b>漳漬</b> 補	<b>趙莊潼</b>
----	--------	------	------	----------	--------	--------	-----	----	----	-------------	----	----	-----	------	--------------	----	-----	------------	-------------	------------

董培、法、八首於董塘分界自此而南入長與縣境十五里至香山寶風川後、有汉托 浙江海州府屋 港俱以上流水多勢盛港端皆有横河亦同此意 急脈緩受斷不可無長與鳥程震澤三邑入湖諸法 烏溪蘭後三迷之上有蓮花蕩汪洋海沿湖沒南來 東北境不能盡貫運南之港唐鶴徵河渠說四定路 直南北以行其流然後分下百濟以入湖横塘 盡與荆溪指接分沒不及必致沒法故受之以 诸湖汉站山之水奉會於荆溪以下下濱百濱不能 北 澤正路又曰北行二十里東出一枝曰横塘傍度澤 又按宜荆二邑地形最下錐東壩絕流來源尚多西 而行據此可知拖南諸濱港半非横塘之下流矣 之水與溧陽洮漏西來之水道會於此為宜與下西 水不曾自横塘來蓋横塘表止四十餘里偏於己之 按自後河至蘭後即舊志所謂在縣東南之上 山古時香蘭無想為此口設防 自東壩來亦率由此 有運河洮漏之水西有金塩溧陽之水西南有 以上共二十五口烏溪為湖杭嘉入常必由之道 口出太湖最為 横塘 'n

謝莊港 雞龍港以上三港 將家港有 金邨港 斯圻港在香山北麓有汲長興志三城三 烏橋港在夾浦口內出橋之水至平湖侯廟前其夾浦 夾浦港有次在縣東北二十七里港口深間 長大廟港 家港 去少縣 一週港 斯圻港蘆圻港是也按今斯圻亦没入於湖近港有 次漬油在縣東 環沉溪至此入太湖 诸溪來注於包洋湖 址今設沢於此 斯圻村在山坳中部口高阜列若門關疑即長城故 於城水軍也於圻石圻没入太湖斯圻蘆圻尚有即 之地吳城聯斯圻彭城聯石圻邱城聯蘆圻步軍中 合統下太湖橋內有横港巡迴而東直通小梅 北 + 合 啪 水口 塘隅 里 淋 14 口 諸港小 闊 大上派自奏漢 丰 圻吴王屯戊 歷無香淹 Ŀ 流自 硇

在看港水 一大大海湾港市 一大大海湾港市 一大大海湾港市 在縣東北二十五里港口間大上流為等 東行至下等寺前四安茗溪諸水由吕山塘南來注 之合流東行入太湖 一大海湾港市 在縣東北二十五里港口間大上流為等 一大海湾港市 在縣東北二十五里港口間大上流為等 一大海湾港市 在縣東北二十五里港口間大上流為等 一大海湾港市 在縣東北二十五里港口間大上流為等 一大海湾港市 在縣東北二十五里港口間大上流為等 一大海湾港市 在縣東北二十五里港口間大上流為等 一大海湾港市 在縣東北二十五里港口間大上流為等 一直蘇港水 一直蘇港市 在縣東北二十五里港口間大上流為等 一直蘇州 一直蘇州 一直蘇州 一直蘇州 一直蘇州 一直 一	杭漬港至北入太湖至北入太湖
---	---------------

楊濱港有	有演送	宣衣卷	官債港本務	<b>颜</b> 家港	西金港	一种工厂,目前目队已经多人占属了真义是"意识用益力水安"会市场一幅增加,以自两个边接至於26水、接领通过2在天日之际演性小园区广泛商业中人类的打造海线电影和调用,有关中国,对一个人类的打造海线电源,	折為前漢祖俗呼打散學過北東至月河過長橋至於江子雅然後謂之管漢自南來者山前漢曰餘不漢曰北流水三水會於城山漢入定安門過潮毒情	本湖僧考卷 二 水口 宝	罗可尔中之水自为来者 800美人青及四束 鱼美瓜藤深緑连流而两下小梅令人勤云若喀之水散入大线小梅个势甚便若常溪合四水而得名 印城内江于 涠也其水山		入清源門內至江子雅為雲溪一士	小梅港派上流為苦溪水苔溪自長與入境為西溪一	烏程縣	喉新塘為縣東之門卢尤為除要	楊夾浦蔡浦七處為要地今查夾浦為山湖之咽	以上共三十四口舊以夾浦烏橋大小次演新塘	界
------	-----	-----	-------	-------------	-----	---	--	--------------	---	--	----------------	-----------------------	-----	---------------	---------------------	---------------------	---

義為漢	謝傻	楊漢斯	許婆	東金溪	西金沙	很	潘凄	新經漢有	大寝		羅漢	安樓	沈凄	諸漫	紀家港	湖	臨湖	大錢港有源	寺橋港	泥橋港
						<b>复</b> 个 菱稱		八有		大大海							門來一水	錢港有學上流一水自迎春門外鎖若橋來一水		-
							,			海佛春工					,		自三里極	一水自迎		
										水口			•				來大會於	春門外部		
										夫							公毘山漾	水自迎春門外鎖苔橋來		
												1					北下太	一水自		,

海 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢 漢
--

崔家港生	漢家港生	沈家港畫	駱駝港畫	南盛港通	五齊港塞	<b>捞蒸</b> 洗通	徐楊港通	王家港通	小楊港塞	《太湖信考卷二 水》 立	更樓港涌	西邱廟港通	亭子港等 俗名	陸家港通	雙板石橋港通	馬家港審從雙板石	倪家港通	五界亭港涌	年、日間 河道により付き路上接籍及で湯之水下貫五都六都結構の 横在岩崎板口棒子路乃 上接籍及で湯之水下貫五都六都結構の
															-				が、

海 湯 湯 南 城 高 城 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯	法維項漢汪衙潭连家漾東西骨塔荡荻塘及東至 就塘又東至馬賊邨南受賦溪水往馬賊楊定二橋 從腳馬曹邨蠡思三橋港北行與前稽五漢諸水會 從腳馬曹邨蠡思三橋港北行與前稽五漢諸水會 我北行與屬都	高家港 基 太湖信老上 小	百姿字港塞 即坡城廟港 医子港海风谷	超家港通
	冷湯 東京 港區 大海 英语 海 接 海 接 海 接 海 接 海 接 海 接 海 接 海 接 海 接 海	主		

直演成上供養的報	陳思斌至	<b>发光</b> 面	金家港畫	西宋港通 清池汉春山	姚家港通	朱家港 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<b>世家港道</b>	太湖	會以上諸漢陽水皆由横草路分入五界亭諸城下	安眾安斜路諸橋港北行豬為實蘇湖與翁周蒙心翁周漾為敦塘又東至雙楊村南受北麻漾水從	港北 行緒為唐白漢葫蘆兜長漾北為馬耳漾 路為	震澤鎮南受益澤河水從新興通表斜橋張灣四橋
					·				李诸港下	<b>浴洞</b> 塚 湯 水 後 七	<b>西耳漾鬼</b>	僧張 河四杯

茅狀港通上 諸港上 東西寫落水從諸家六里二橋港北行播為茶家滾 下太湖 緒為包家荡桃花漾北由草路入 麻漾長田漾水從三里百少西吳東吳諸橋端北行 一流亦自荻塘來荻塘自雙横至梅堰南受化 一流亦自 款塘來 款塘自梅堰至平望南西 一流即桃花猿之東行者緒為陸家務住 甘泉諸雄 JI)

**韭溪港**通上 鎮後出長老橋入運河亦分派由傳演入非溪下太 脏湖水後荻塘泄水大通二橋北行為後溪由平望 **縣法大龍海長落合為祥雞荡從此下太湖又鶯** 重

湖水上都西

止横亘 按荻塘自湖州府城外 /歸太湖者無不經荻塘而北下葢衆水之 百二十餘里 凡胡州東境杭州北境之水八里店起東至本境平望鎮 湖州東境杭州北境之 樞紐

草路又合諸水而為 又按荻塘以 口之 綱領也故叙諸港上 析之雖土著亦不能辨今姑就諸滋與諸 北之水為樣為藩支派於錯及歸 欲確指某水從某港 太湖

流以荻塘為界

漾荡南北

分而

縷

不甚相

飛懸云

相直者做沈然水考例以鄉都分序度 品不 其由南仁河入者為西水路為東水路由下 按水考云牛毛墩脚湖盡 東接西水路者為和尚人以西近太湖者為南仁 所稱前城湖 河口東西江漕路乃南仁河分流之支於 入者為江漕路 即東湖之別名南仁港其 一次成 田

黑橋港 名黄 ىالا

湖

之去委

自

戼

以前諸港為太湖之來源自此以後諸港為京

港並南受太湖水東行入唐家湖後石塘東腰

入運河都南

放益惟豫是水馬家湖以東諸落騎集宜其會放而就以也又曰八陸夢於題 犯故,日湖中水皆北流惟此入港水南流蓋太湖下流甘泉等處壅塞則水源 水附於唐家湖條下者也今止存練聚黑橋二 港與練聚黑橋共入港沈於所謂背為來水今為 港之外尚有孫 田後浜新 涇上橫楊家直港

巴不能全通宜今之六港首潭也 故當時 遊或壩或開有通有塞 太湖備考卷二

南仁港阿南北水考云一名南 水路東北流十 里至長橋河又東北折而為東水 勝 名和尚北 折 而為 西

(里而至白龍 甘泉三江等橋震澤縣也大和尚河鄉

可知南仁河乃湖漲成田後所 غد 存三大河域水

D

湖法三港屬	西方港	湖基港湖基	西港	天家港 有汎 全稱西吳家港北流直對長橋故又名北吳 冰塞一不通	中效港人名新開河東穿草路直出三江橋个草路以東	東闊八九丈東行出甘泉橋	南效港今名南吳家港又西接大湖處間十三丈穿草路以	人太湖信考卷土 水口 宝	穿運河以達雁山湖	以上八港皆西通太湖東行入於草路至九里后塘	沈家港	麗家港	陸家港有	小清港寒	馬家港	唐家港	南各港市在其內太湖左營守備擊防處	草路北行達長橋河者即西水路也	
-------	-----	-------	----	--------------------------------	------------------------	-------------	-------------------------	--------------	----------	----------------------	-----	-----	------	------	-----	-----	------------------	----------------	--

城隊由西門以至東門合長橋河穿運河而入嚴山湖也城隊由西門以至東門合長橋河穿運河北西城意必備行之小港時通時塞上按比港渡入運河之處無考受在衛西高東石里後,然三港屬石里 以七港度澤志云俱西通太湖東通斜路易數田 演水之上口 跡祇存 成又當別論 之本體從其朔而稱之欲使後之治水者知故跡之 科各以萬計議水利者於斯三數按東南二湖已成 按向時東南二湖未曾淤張之前並無港形太湖之 七港非蝴擬所 如彼 湖日張為田謂之新張東南二湖俱成原隰則壞 吐利害最大其西之田日蝕於湖謂之坍湖其東之 按自南仁港至此即所謂湖中 太湖與東南湖連貫之港凡十八 水直至長橋后塘由諸橋洩入運河自湖漲成陸 田荡而猶謂之湖者蓋田荡乃湖之客形湖乃田落 道簡村雄踞湖濱為松陵之屏障二處最為除要 其他則除在港內之藩樣而湖口次之 以上共九十 而於塞之如此既於者已不可復而十 仁吳家等港西接湖水今以近湖諸港為太湖 線豈可任其湮塞而不為之添導耶十分港 太湖備方卷上 又附塘好諸橋於後為太湖洩水之 口内韭溪逼近平望乃杭 水口 一十八港也沈悠 樞細湖心朝夕 Ţ 嘉之間 港 形 太

鮎魚口起馬南受太湖水北流滙為驚塘又北 王家滙西受太湖水東入爪涇港 北柳胥港西受太湖水出柳胥舖東流與南柳胥合俱 稍橋港城與王家滙港口相並西受太湖水東行北 治停時也深亦不能填 塘口入元和縣灣臺湖過實帶橋與運河合內有好 折出整塘一支由寒水港東出古塘 泥難積而旁之填占亦不能固也 為其松江口水急而深湖底之泽 運送後呼花經去縣北九里西受太湖水東過古塘 杖港相附同行亦東入古塘 里港西口為湖所利港變為湖故在湖中也 橋廣道橋為南倉河一 入運河由夾浦橋出吳松江接兵江港高南北二柳等为馬七里 運 為北倉河俱由三里橋運河出吳米江 湖水北澳之 入吳縣盤門運河其警塘之東折者至分水墩為古 乃太湖出具松江正東之大路高三个開展二十五丈異江新 元和縣界經運河而南由夾浦橋東出吳松江按此 納七里之流疑當日港口本在七里港中今七 派過七里橋運河出吴淞江 河出吳松江西屬震澤東属吳江 《太湖借考卷三 一道一水老云口間一百三十丈笑江新志云全間一百十 大若照古尺反有增無減蓋山然裏江之口水為 為書院前河東流過大有格 為南柳香港由界牌 按此為婁江之首太 過五 龍橋

花大港本履橋港城有 沙涅港 莫舍婆一名為南受太湖水北雅於楞 吳縣 城橋水會東流七里入於胥門運河其漢之東折 及今不禁粉為平陸兵 馬墓港姚灣港二俱出莫舍凄 港名其實皆白洋灣也其水北注越來溪又十里許 太湖之水從交蘆中分港北行有斜线東鐵西鐵等 唐合馬尔考云凌閣一百三十丈 夏江新志云令間六十餘文益此水北流 為九曲港石湖之東注者曰部巷港里市港俱出藝 并后湖口旁亦占大半 磨盤山出路塘合木濱西來之水東行至横塘與越 點湖水一過越城橋經范丹基至横塘 下灣小老品即大湖兴按灣之間有六七里皆沮洳茭蘆 莫舍漢白洋灣二處亦地屬吳江險在吳縣 石湖越來溪之東洩者凡四前朱村港復出太湖 府治沿湖之第 骨口道里更近河港更闊方舟而進項刻可到乃 以上共九口鮎魚口距郡城不及十里較之吳縣 大湖情考卷十 一臉要其利害不獨關吳江 水口 加 山 下為石湖學 過行春橋沿 F

仙清楚	沈家涇蹇	至菱湖觜又折而東是為胥湖	黄型港養湖三港在水東灘西岸納菱湖之水	新開港	新型港水東流	是為菱湖	南太湖之水太湖自黄洋灣稍西折北進大鉄	庄子橋港灣自木優橋至此諸港皆沿水東灘南听納	石社港	大湖信方卷二一水口 圭	廟橋港	宗裏港	前巷港	茅圻港	牛橋港	張家港	雙墩港 并圻觜	西凌濱港	東凌濱港	高坑珠·達
	~		水、太湖				進大銀口	/ 漢南奸紅												

下堰橋港  下堰橋港  之水 太湖至此又折而西北  三面南面東自白洋灣吳江界起西至大缺口五十 三面南面東自白洋灣吳江界起西至大缺口五十 三面南面東自白洋灣吳江界起西至大缺口五十 一河直東西以貫於中統納南北諸港之水東行山中里沿河之港各隨所向以納湖水横至 北太湖湾水之要道也 北太湖海水之水曾合流過橫塘橋一支由形 清鎮銅坑西來之水出斜橋注之又東行二十里至 非太湖濱水之要道也 北太湖至此又折而西北 按水東吳縣所屬 北諸港之水東行山十里至木 清鎮銅坑西來之水出斜橋注之又東行二十里至木 清明之運河 按此為吳縣境全	村澤港 宋	
---	-------	--

新橋法北通游野西山大型港非通	陸巷港在典山下水盛亦有明入港	安山港在安山下以後諸港其水皆注於湖然係平流湖	沿湖皆山無河港太湖至此又折而北是為游湖 流而東太湖洩水之口自此止 按自品坡橋至此	之水南來注之又東至木漬鎮出斜橋與胥口水合	為光福塘又東過善人橋經靈爆山下為山塘箭淫	銅坑在頭頭或西受太湖水東行為東西一婚過虎山橋	大湖倩考来十 水山 一重	太湖非洩水處也	山並無洩水河迷塘橋出坡橋二口水之出入仍在	湖洩水之處今考南官塘在官衛法華之間左右皆	王同祖太湖考及伍餘福水利論皆以南官塘為太	迤两有楊坡等七港在法華山下非通源不載又按	已坡橋迷野雪流太湖至此又折而西北 按塘橋港		塘橋港即南宮無太湖至此又折而西沿法華山過黄茅	九曲河像	香型河流入於箭型
----------------	----------------	------------------------	--	----------------------	----------------------	------------------------	--------------	---------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	--	------------------------	------	----------

郁土港東通湖東 二港 牡丹港五港皆在 仁巷港 前溪港 金型港浦 龍唐 法東由新橋港出 濱湖山 長洲 太湖於游湖口三洋坟前外 考沿湖水 按西北為太湖上 道 錄無錫五里湖内之石塘等四港江震二邑沿塘 府十邑之境挨次編記通計三百一 起由是而西而南而東復至於北 兩 以上共四十口除要處日胥口 縣 港日東而北而西在将湖岸三面,西山師站港出貢湖 安山以下 洞庭是其外蔽日銅坑鎖鑰将湖亦郡西之間 十七橋不與馬 口矣而并及濱湖之山者可為標識 二港 游故編次水 ķ À 又折 郡城 口 而 北 環湖右旋歷 1 一十四處而附 北 自無錫縣 是為 西南之門立 貢湖 F

南常州府屬 南常州府屬 南常州府屬 在東下無錫縣 在其下無錫志一名沙渚山山 在廟山西南無錫志三面突出於湖長林怪石山 在廟山西南無錫志三面突出於湖長林怪石山 在柳山北吳塘門之南與湖中米山相對未湖	石塘	路耿山 (無錫志)前俯唇	大浮山 無錫志一	性寺旁有龍湫樓	軍将山 一名軍帳	羊新山	吳塘山 吳塘門在其下	~ 太湖清考卷二	二年之刊無錫志相	康山 在竹山北吳	<b>劣觜石尚存</b>	勝冠諸山下有劣	竹山 在廟山西南	廟山 廟港在其下	無錫縣	江南常州府屬	邑亦依水口例	
		無錫志前俯長廣後臨太湖山下有羅養通大車軍奏等之說	無錫志一名大坯其西别有大石崎湖中	在其此湖中行身望汉高游型将山最高灵源門在美丽村最高灵源門在美丽村	名軍帳無錫志南唐時屯兵於此	百重	其下	1	無錫志相傳尹蓬頭寓此上有迎仙亭	在竹山北吳塘門之南與湖中米		勝冠諸山下有劣觜石路立水次廣倍虎却千人	在廟山西南無錫志三面突出於湖長林怪石	廟港在其下無錫志一名沙治			例為序次	

楊滑山 天井山 管社山 沐塘山 百石 横山 克 山 大雷山小雷山 華藏山 补汎 叫敵 語百日之轉也為程縣詳湖中山考與此二山同名而其地語百日之轉也按太湖中另有大雪山屬長與縣小雷山屬 湖而大雷前獨延入里許又日今俗呼為大犁小型 山二灣山頭灣山竹面湖山楊海沢 實為一邑之門户 **今湮** 俊葬其地 亭亦名望湖亭望兩洞庭七十二茶如畫宋張循王 自吳塘來起伏相接至是而斷其斷處日獨山門鄉 **逝址尚存東南有山門嶺通后塘** داء 無錫志深溪之水至此將出在横山之南山趾相接 山下有巨石突出俯瞰湖流曰 無錫也韓灣之西為楊灣山又西南為三 (無錫志)亦名問江山 西麓有天井泉甚清例 無錫志在縣西南三十五 在鎮山之東山 無錫志別名實界山宋錢鄉退老卜案於此 無錫志本名胥山 太湖備考卷二 無錫志在太湖之濱間江諸山皆職 EL 湖 名僕射山漢僕射劉昌 與獨 里山前舊有雲海 湖 美 山 **電頭渚諸山** 口 相 而 對 山忽障ツ 漤

百演山 虎觜 下埠 二山之下 陽湖 從 間 宜與縣 岸有山 按 惟 平潍有港自竹山折北 按無錫濱湖 葬地故名令訛 脂趾 勝石 濱與夫椒山相對東有洞出白泥 沂 以此波 /湖有梅堂梅岩陳灣許墓諸山未審是否 稱 餘里峰經隱映倒景入湖如隔 百瀆 ili رل 江 一綿亘 沙塘港在其下宜與志在縣東北六十里太 為 湖 常州府志在下埠山南插 百瀆山按武進新塘鄉圖志下埠百瀆之間 自虎觜至百演港沿湖皆山 大湖備考卷 距 ジ 音 下埠 行舟必遠磯而 山 西為宜與縣界又十 山中間 境上 二百步湖中有石磯露水面其下有 湛 為白 東自長洲縣接界起西 西 加北至鉄山 石 4 濱湖山 又 调 池 為白 又自鎮山迤西至於 餘里至沙塘港 避 断 暗趾 取以堊壁其堅 太湖 獨山 山名無考土 輕月夜虎往往 射山按以上二山郡 圭 沒此山山連不捷北 II. 至廟山皆 馬 而 腈 斷 湖 11

崩山 香山 浙江湖州府屬 長與縣 竊謂 港而 里則其長必有數里今自蘭衛至董塘適行此 謂之石蘭山山有石麓入湖五 按自竹山以西宜與荆溪二邑湖岸皆平灘至随後湖口各以與目皆見今山頂有城 又按其無錫竹山同名而異地七十二山中段 又按山不甚高而斗入於湖可以縣遠湖外片縣 無可疑者過董塘接長與縣之香山矣 在北應是小蘭凰川董塘港內之山在南應是大蘭 云二山連亘南曰大願北 在凰川者為風川山在董塘者為董塘山皆是俗 按自蘭山常轉西 長典縣五通山之東出者見住元祥宜東山川志版有大湖山子山楚山連旦而四不可輝記其來縣乃 米二百石鳩工運石築高壘以為標望行者知避婚 現名日蘭座磯旅舟每罹其險沈亞 周二十五里二山連亘南 荆 溪縣 又有山 腩後港在 長典志在 《太湖情子卷二 帶之山 縣北 其下 即蘭山也志云蘭山麓周二十五 带面湖之山 舊上 = 干 順志在 日大崩北日小蘭吳郡志 日 五 小蘭今蘭後港側 里高五十丈內有沙旗 里随水盈 無名可考土 縣東南 卿暉夫人卞 縮以 五十里麓 Ž 數 為隱 抬 山 稱 呼 又

鰲山 ,], 路香山 一字城東西百餘呈城之北鑿壁環之明兵国湖州士誠極力守山以防明師附更志湖城張士誠所宗北據太湖岸為国起四都之充浦抵湖州大鎮梁高岩站於宋而張士誠修之自明至今不復為官路陸顧可行水不通者失意所稱湖城北之壑也农澤縣志以為即米李高鄉從太湖為渠以孟灣運城塘相傳張士誠據蘇州開運河以漕湖州之米臺以其土為塘益即其江連被馬相傳張士誠據蘇州開運河以漕湖州之米臺以其土為塘益即其江連被馬相傳張士誠據蘇州開運河以漕湖州之米臺以其土為塘益即其江連被馬祖寝澤之間湖濱無山而有塘自大錢至練聚橋約九十餘里土人謂之 按自 梅 鳥程 按自香山 長與者惟曰香山庶関者不致目 錐或 六 石 不濱 縣界據長與志云踞太湖之 按邑志荆溪之蘭山長與之香山均 小梅之處有一 L 强 兩省之疆域不明矣今於屬荆溪 年署長與令賀恩開築以遊 統於外限之内 縣 湖 長與志在縣北 以其相接之故然二山係江浙分界處名同則 灣達宜 與按與是縣香山同名而異地 而東歷烏程震澤吳江三縣沿河境上皆 即 也 以南長與縣湖岸六十 山 مرد 山名獨姓又名別峰其東麓 即 小 四十里香山之下片石 坍缺通小梅港處 拘迷在其左坍欽逃 · 演然離好實有 風濤者也 里 眩 皆無 有香蘭山 者惟曰願山 明 山 嘉靖 在其右 惟 突臨 入鳥 相 َحِ 围 程 湖 扩

胥山 横山 江南蘇州府屬 云即 湖中 按横 横山 吳山在石湖濱山觜入吳江縣界 於樂學循有存者今存遺址數處其輕相傳為運河云之較而常遇存發可兵自太湖直揭大錢破之弘治開城 宇記吳王殺子胥投之於江吳人立祠於 時遷郡於此亦以是為屏障矣 吳王夫差時藏軍洞又 間節度判官馬 薦福因又稱薦福山有五塢故又名五塢山宋元祐 臨太湖若箕踞也吳越葬忠獻王元孫於此 吳縣 有胥王廟水經注胥山有增長老去胥神所治也 霞白雲各題以 而 圖經士此山 西 之西為堯峰 蘇州 姑蘇 遠水東灘 在縣 望之如在湖好也載之以為港口之 L 在白洋灣木履等港之 太湖備考卷二 府志 西 南三十 鎮蘇城西 折北 雲遊 詩有九嶺 蘇事在甘八上按我绝表云團問造九曲路以 L 四 五 轉東過直 此名五場曰芳桂飛泉修竹 面 里 南臨湖控越實具時要地 以堪與家言稱為九龍場 肾 骨口在其下東連 清湖山 類各有墩墩各中空相傳 横故名又名踞湖 内 進港而始 離太湖稍 横山東出之 ধ 罕: 標識 十畝 714 有 草峰 伞山 漆 建寺 山 支 自 有哥 然 rス 班 在 下 日 结 回

香山 祭臺亦必相屬河東記所不横正五里也紫石山無以廣東 名姑蘇臺然云南見三百里則公以車 峰為正按骨山連車棒 松此 里口在縣西三十五里肯與背山心站蘇京高在此山又濱上編載領被 云吳王築於於八座鹽族結原横亘五里由諸書觀之曰望太湖曰高見三百差作書五年乃成高見三百里問經續記云站蘇墨在縣西三十五里問家節 北 南出之支自了口至塘橋港太湖之東北岸皆香山 奉犯罪云奉之尾直抵胥口 英王遊姑蘇之董正此山也竟坐林 故名其下有採香涇通靈孍山按香山即實際 與胥山對峙胥口在其南麓吳地記吳王種香

法華山 クラサエ 三面皆在湖中獨東北 為漁洋山西南為黄茅山有吳王愛姬落〇按山 因又名法華山宋李觀察墓在馬其東有小横山北 了大河情子太二 出間 名鉢孟又名鳥鉢亦名堂城山有法華 一面為陸地又有南宫塘界 رد

吕山 斷不接香山與諸濱湖山稍異 在法華之北吕坡橋在其下

玄墓山 在米堆山之北即鄧尉山之西南面也相傳

米堆山

名萬峰山山半有聖思寺 晋青州刺史郁泰立葬此故名明萬峰和尚居之

| 岐龍山 祝山 一、甚高旁有土阜日小雞山舊志謂彈山 山觜入太湖名長岐觜

雞非是

盤螭山 潭山 周皆石壁削成高可三仞大如數千石国故今人 11 斗入湖中作蜿蜒狀以此得名上有 下有潭東潭西二村居人業種花 樹

坎

四

针

稱為石壁

安山 西 1頭山 蹟觜始斷其斷處曰銅坑銅坑之北是為安山 按自香山吕山以西諸山逶迤起伏縣豆相屬至 在游湖東南岸下有安山港 與困龍山相接困能在內西疏臨 湖

西

幽里山 大湖情考卷千 在游湖東南好下有陸卷港 演開山 毣

游城 南 城 山 山 山 王同祖太湖考作迎城山今後府志 在游湖西北岸長山港之南 在将湖西北岸俗稱牛城山蘇州府志 作游

虎角山 山 **觜即坟觜自坟觜拖北轉東湖岸皆臨貢湖矣** 山首在游湖岸山尾在貢湖岸山之西為奉本 在貢湖岸

来篩山 在貢湖坍

杵山

名褚山在貢湖好

馬山 在貢湖岸

即即

按自南山至此諸山皆在西華校觜之内其地長的

貞元八年蘇州刺史于 頓院運河塘海平高至湖州之南海出教群连開之 開元十一年鳥程今嚴謀達重開获塘菜海島種縣九十里開元十一年鳥程今嚴謀達重開获塘菜塘自島種縣重店者 十二年置光 年刊 月 運河水不下深溪	深大同元年遠惠山濟溪導流入湖溪之名梁自此始 是大同元年遠惠山濟溪導流入湖源之名梁自此始 是 與太守般康開荻塘後太守沈嘉重開	漢平帝元始二年吴人皇伯通祭塘以障太湖縣之車塘城中帝元始二年吴人皇伯通祭塘以障太湖即今長典始也端祭而害拜水治矣詳集文雜邦憲廣連編考」	五年教者中五	五湖	人具有成績按而行之無弗效者治太湖之水不於湖中治之治其上下流而已古水治	考卷三 東山金友理集
五十三里皆成題名平望雨至湖州之南平望雨至湖州之南	深自此始	太湖耶今長興、東京澤系欽水經	社がノドキ	吴通渠三江	下流面已古	校述

宋大中祥符五年轉運使徐爽奏照開江營兵事修具 德叉名鹹塘 至和二 始〇知晉陵縣許收濟戚聖港自太湖口起凡九十遭運蓄水流田千餘項及常日湖塘未知縣自何年疑此湖塘之 古可於太湖傍置大四部凡七 嘉祐四年招置蘇湖開江兵士校院 之方塘石地官塘土塘首是無陸路至見始通今其江縣 围 五年轉運使王純臣督蘇湖常秀並祭田滕 慶歷二年蘇州通判李禹卿段太湖 門盤門之間 天禧二年發運使張綸疏港浦導太湖水入 江塘路八百人千 郡城舊名在新 天祐元年兵越銭氏置都水庸田使督療漢夫疏道 元和五年蘇州 年知吴江縣李問尉王庭堅始建長橋 宜與縣尉既洪疏 八千人專治沒河祭提 年崑山縣主簿邱與權祭崑山塘名 刺史 Î 一仲舒隄松 凹 九演奏者 江 為路時松散鎮南北 里為渠益 海 日 至 和

紹典四 農田大利按小道本水人深溪運河、守灰跃 **淳熙六年濟至和塘** 乾道元年記蘇州招置缺額開江 碑式附後 崇寧二年提舉常平徐確開吳松江人時本後方江至 開置 治平三 五年增置據湖軍車管轄不許人戶何 太湖 宣和 十三年提舉羅點開澱 二十九年禁圍湖作田 大觀三年後許光凝奏請開街吳松江置牐 二十八年招補開江兵卒 至拉鐫之 元祐六年草蘇州諸河時太湖積水為 熙寧元年歲早河站知無錫縣焦干之用單等言自 四 元符三年的役開江兵卒開治湖河浦港修量限岸 年 這車湖水入運河復車深溪水由將軍堰 斗門水堰 知宜與縣樓問游四十二清演者 年 年立 年知头江 太湖備考卷三 知湖 浙西諸水則軍人各政湖潭流河沿自來審水灌 州府王 縣孫党大祭荻塘經為塘州 Ú 回濟沿湖二十七連導水入 湖 水冶 兵 1 以灌

明洪武二十五年溶胥溪建問通蘇松常鎮杭嘉湖七 ż 湖之水 不樂元年祭廣通壩常惠引軍等書上奏改築土壩故官吏者中入十七處河四十一百六十二處故藥提明五十四十八處八十七處河四十一百六十二處故藥提明五十四十八處一十七年清明五沸后山等,清兴武市總二十七年清國五十八年,得程縣主簿王福海三十六,澳○安古縣 泰定元年任仁發濟治殿山湖及民激哲 (至元二十四年朱清導姜江 半月以通太湖之水根者首尾環接形如 大徳八年從干夫長任仁發請濬治吳淞 至正六年异江州達魯花赤那海大脩石 天歷二、祀民江知州孫伯恭大修石塘整水寶百十三上 十年都水少監任仁發沒吳淞江 船定五年修灵江長橋 十六年常州府瀘東蠡河 二年户部尚書夏原吉治水東南導吳淞江 府運道)時都應天府以蘇松七府種運自東場 十七年提舉到預沒沒山湖泄吳淞江並禁事得係 一年吳江判官張顯祖重建長橋易木以 年行首恭政照仲楠開殿山 人太湖備考卷三 一湖園佔 껳 塘 石 江 江 YX 一由崑 洲 i

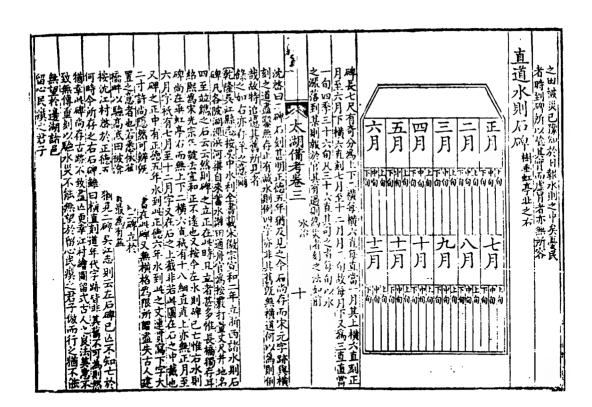
餘丈港香 弘治元年水利食事伍性淡吳松江中段四 十年迎撫軍車開吴松江前馬一七百七丈 成化五年矣縣知縣樊瑾沒九 四 七年水利魚事具鴉溶具松江東自你公湖西接更 東京社家運出舊江 天順三年巡撫崔恭開具松江東原士打水人要江美松東段 六年周忧重禁廣通衛水樂切案情低海水 正 山夏駕浦 萬三千七百丈 年伍 統五年 巡撫 周忱 落具松 工親至江上立表江西 年具縣知縣雅泰築西華石塘 干項遇旱不萬難領以弄源得於穹陰山隴坎問益由山腰法而泉流出 者上為一堰下分二道一道東山白馬嶺南流輸前墓折而西一道西下 按朱存理蘇州水利志其縣知縣雅泰承機治探否巡察班堰旁程回數 性沒宜與湯溪等演此五百六十丈 太湖備考卷三 由嘉定吳塘北入 人姜江 曲逃三千 八百五

百三十二丈 十八丈深一丈二尺〇溶 典区 築湖 盛市法的虚法共長一天以河高陽天日嘉典諸水歸 港水等作王永港方家港水等作白浦港倒開 四十一章以洩太湖水入麦江 ○ 吳江縣開王家田東莊 橋水資開湖州府漫港八門無朱瑄 九年水利主事姚文瀬祭沙湖限重沒宜與仕演等 嘉靖元年水利郎 正徳七年巡 七年設導河夫於吳漱 四演凡八百五 年侍郎徐置嗣兴松江山雨听草荻數千 | 漊以通太湖之上 年水利即中林文沛檄吳縣開光福塘胥口塘 צינו 一年 瓶醉沒宜與後河三濟 年水利郎中城群後宜與盛濟鴉演以六百 年水利郎中傳潮淡宜鄉沿濱等天濱大人百 提自鳥程抵宜與,以上 在性沒宜與對溪等演八十十四 \*本湖情考卷三 撫前諫增祭廣通壩〇济宜與縣港清 中顏 湖州府大錢小梅等港沿湖七十 添 如環濟具松江自夏寫滿口至龍 〇浙江市 七十里 開街三江沒宜 IĮ. 司 港 畝沒長 季麟 夏姚

**促護之** 達太湖 日本海水入太湖又開運河塘北路河共大 萬以逍運 是家港上了八八四十五里聞二十大深一大二尺五十天橋送上了八八工自見山慢水港至品定任公浦長主 是標達者是松江四十五里間二十支率一大二尺建千墩浦夏鶴長橋達香是松江自見出最水遊至高速徐清美建千墩浦夏鶴五年巡視水利御史林應訓開吳江長橋兩難自龍山 太湖 萬歷元年宜與縣知縣韓溶溶荆溪 文議半開河面閣十五丈辰間 隆慶三年延撫海瑞大 東西二九荆溪之水入太湖〇 下澤廣長凌廣了濱盛廣山廣丁卯賣共來大大人 府河港塘賣藏者買水通反塞臺無押 口一問應訓以新洋江夏駕浦引吳水江小 七丈五尺深一丈五尺六寸 是固城湖水絕不復東 三十五年廣通壩居民於壩東十里許更祭 十六年署長與縣知縣賀恩開切缺港通小 河之水使歸常熟死山塘散入 十六年水利副使許應達沒具松 二十年宜與縣 0宜與孫 年头江縣知縣劉時俊築石塘北自長洲縣界人 知縣 間南 馮惟 朱濱洋涯濱留溝濱芝濱辛 開具松江查勘等職共長一萬 納開通 门前沿港 無錫縣開閉江港二 深河西接 江 及蘇松常鎮 一支閉三十餘 梅築 荆溪 壩 一 千 東 四

六人自浮玉洲橋對過愛遺亭至下元洞天三現保四天加橋上一年濟太湖吳家港至長橋計長八里現存水面開七大川年上一年濟太湖吳家港至長橋計長八里現存水面開七大川年水面開上元洞鈴雪灘至浮玉洲橋走三里現存水面開七大加 本朝康熙十 開具淑 雍正 可知古人用意之周而後人不先考古家易債事也 以別外橋供将舊行機機於核擬起橋即隨断乃復加格重脩 別州 三方五尺一定海橋港土方五尺 甘泉橋港三六五是年間海是土五百六十定海橋港土六百九十甘泉橋港土六百七十方五尺一方 上中下三橋洞土六百十中潋滟土四百九十期徑橋港 章紹聖奉松疏濟沿河漫港各建小開 今天現深四尺加挑深六尺又脩於實帶橋諸水洞存水面文二尺加問三丈人脩於實帶橋諸水洞至麗山湖口现存水面文表深自三江橋至三 虚 三十六年湖州府知府陳幼學重修荻塘焚 四尺建橋十三水實三十七三里共長九千九百八十一 四 年制州府知府唐紹祖奉檄脩濟沿湖凄港建造 五年 七年又江縣知縣張書尚春機開長橋南 1/I 一年為程縣知縣曾國禎濟祭楊漢等港十 欽 差在籍副都御史陳世信與脩水 汉 口 عد 知府 İ ٦Ě 里人现

財動之日茶年水至此每年各鄉報到災傷如同雖未及遠臨聯勘而基中田濟過六則稍高田濟過七則極高與州如菜年水到某則為夏即於田俱縣悉過二則極後田濟遇三則稍依田濟遇四則下中田濟遇五則, 展長七尺有奇情為七道遺為一則以下一則為平水之衡水在一刻高	大則 五則 四則 三則 二則	横道水则后即做至事业之方	附吳江縣水則碑式	大湖備考卷三 水治 九	四十二次大震軍孫次唐自海車基起至朱家編止趙家洪東至塘河口止并沒水洞十六	三年巡撫許容濟長橋河自長橋南東京花園河起車上元洞止	·長一千二百五十丈 乾隆元年度澤縣和縣李錄落沒打字直港自出D起	香港九丈	坡橋到湖水准田游	十二年吳縣知縣江之瀚奉檄開煮藤塢河南通日	周室 計方所以外外的數學
學就						元利亚	ロ土田地堂至	三山		通吕	



范仲 <u>妳直上水利書環湖地低故常多水古</u> 郊備班水利書治水之利必先於江寧治水陽江與銀 東北 水 必為害也朝下然是中 落漫派始下今疏尊者不惟使東南入於松江又 好使塘浦 停之 林等 種 文語意可見 正語意事言開浴江路滴以視太關之水珠典 大水之為物苦而始蘇四如為湖者什之二三語可見後人不詳文夫水之為物苦而東北入於楊子北傳指太湖也觀上沒東北入於楊子江接此二句是言不惟使太湖東南入於松江夏便陽 之時湖溢而江壅雖河渠至多湮塞已久惟 江 不能為 議 淹上 百以治田之法治水後人多宗其故 西南太湖尤大約數郡之水湖東謂之 里為一 非必决而 治 為成績 則害决而流之乃為利耳遊放文正之議主於決非四 宜莫非順畫也 五 宰相書姑蘇四郊界平 田之害限岸高厚則 《太湖備考卷三 縦浦 深闊 體 酒之也節錄 議 勢故 則 而段好高厚塘浦闊深則水 -1ż 有行有未行要其因時設策 里為一横塘因塘 洂 田 决 非水不植城之使淺則可 於西 江 田 农而 按此即東 自 固 為胡 -<u>|-</u> 浦 TO 之土 治 水可 潤州 松 者 仗 松江 必 流 江 仆 田 パス 積 越 為 2 通 之 隨 法 使 退 To 隄 播 师 地

後此水亦惟却入大江而已不入浙江散水時水自水南入浙江不至杭之北晨州也方之通志宣水皆西北入江惟南淅湖東山建平淮陽入太湖東壩樂此則東南之水不入大湖為皇之天養長河淮即今德勝長安 級太湖上派总直開忽然也常州治宜典馮湖沙子淹及江九曲湖海绵湖之派入江可以常州治宜典馮湖沙子淹及江 練 通杭州遷長河堰以宣歙杭睦等山源決於浙江 諸湖風濤為害之處並築石塘土好所在陂淹築為 رد 陰迷浦入上海按州市軍等所云開夾子下白鶴 水堰秀州治華亭海鹽港浦及澱山 以决太湖會於青龍華亭而 小不入太湖為害矣又聞具江之后塘多置 湖 相視大問尋究函管水道决於北海強此即明柳東 **欧太湖備考卷三** 日若止於導江開浦則必 入海仍開浚吴淞 湖等處並 如此則 浦が云丹陽と 無近 藊 與 江 西 屏 ٦Ė

軍鍔水利畫自漂陽工堰水至吴江 該鑰天與志太湖有沿河之限多為漢漢有斗門 東注震澤水不入太胡矣下又有兴江听 吴江岸為木橋干所隨橋欲開交蘆為港走水日縣 若止 岸立故今欲洩震澤之水莫若先開江尾交蘆之地 積久而菱蘆生水道狹流演愈不快好亦不為害然沙慶 流震澤之水常溢而不洩水勢遅緩無以荡滌泥 絕欲不死得乎其經來所以云然不知處澤之水尚有從湖校二郡來絕欲不死得乎其江於大業日經直與人宜與水之縣處澤者大平於 華亭青龍入海則三州無水忠又於陽羨尋百濟與 西山不易之谷 仍於下流開白 江之東則大海也百川莫不超海今築此 . 中也好界吴浙江度澤之間好東則江好西則震 腹也旁通 横塘舊界牌分力開通遇歲大水可疏荆溪交合之 通此不易之論 上廢五堰之固而宣歙池九陽江之水不 以善其施節錄 流注震澤歲早可引百清横塘之 馬程其手縛其足塞其衆家以水沃其口腹 則首也宜典荆溪則咽喉也百濟則 於浚淫作 木湖備考卷三 震澤泉漬則絡脈衆敦也吴江 } 刵 難 アス 樂暴流要當合二者之 蜆安亭二江使湖水 帲 水火 楢 بخ تت 漑 促横 阻是猶 入 則 也 Ž 田 /身也 蕪湖 度澤則 足 筑 絕 也 制 江 説 氣 有 卆 由 堰

泊官主其事為利浩博後漸湮塞頗為郡害後之治有東北風亦閉之以防湖水之暴張舟行且有於機 水宜究心當先務也 巨木甚固門各有牐 版早則閉之以 防溪水之走河

羅點素開凝山 浦 南而越東北所賴波水去處東有大盈趙屯大石二 少有壅遏華亭在湖之南崑山在湖之北湖水自西 古來吞吐湖水之地今名山門溜東西約五六里南 八里旁通太湖雅蘇湖秀三州之水上承下洩不容 西有道裕陸處干墩三浦拉湖以北中為 湖狀凝山 湖東西三十 六里 南北 澳係

禁成大奸 延跨數里遇絕湖水不使北派盡將山 连吴淞江今來頑民報於山門溜之南緣殿山湖 北 約 八里正當湖流之衝湖水於此洩入諸浦 太湖備考卷三 击 PF 131

為良田元清應武言城山湖水 按城山湖去太湖已達然徐太湖下流分往 壅不洩害及民田奏上命點親視開掘並湖巨浸獲 其此三脚之

溜中圍占成田石浦等洩放湖水去處並被圍斷

任仁發治水論落河港必深闊案提岸必高厚置間實 必眾多設遇水早就三者而無除之自然有利而無

> 潘應武决放湖水議長橋係太湖泉水之咽喉其 害又言須識潮水之背順 者閉之合限防者限防之底不勞民傷財 **隘口之緩急尋源溯派各得其當合開者開之** 地形 之高下沙泥之發散 合閉 橋南

與軍戶居住以致太湖出口來小水不通做宜諭 東湖泊間入笠澤湖汾湖白蜆江下急水港直 座橋及封門外至吳江七里橋多有上下橋道 軍户移入營內指定龍王廟基開沒其沿塘三十六 块古來水到龍王廟後今已祭塞五十餘丈現盖房 不通數內第四橋下水路來自湖州大錢口衝出 太湖借考卷三 水镁 主 埔塞 至 渡 塘

周文英水利為夏原言學吳松江水由夏駕浦入 鏊則 山 亦被人 湖 此處水勢沟湧接大线口所出之水一歸太湖即難辨矣第四 占據並宜開沒仍復通放

史鑑吳江水利議吳江居江湖之會每遇霖雨積旬 水四 溢渺然無際風濤大作吞嘴衝擊害甚於雨 潦

施議者徒欲開一渠置一 與江湖相連水皆周派無不通者假今南置 風則江水西侵西風則湖水東汎俄項數尺人力草 偏之見而無放患之益何則吳江水多田少溪張 插以為治水之方此皆狗 牐

其矣法意是中水利些情是 二日審分洩公江之地當 萬項仙樣甘泉白能橋是也又自縣治至平望四 襄公講水二公之法而損益之由是水患漸平民安 湖水以入江瓜涇淋七里港柳胥港長橋三江定海 其業近年以來法度發壞者十七八欲水水之 先築樣墩為式然後築陽如之其取土皆於附近 中治水東南尚書夏忠靖公創於前通政趙 家港鑫思港直演港黄沙港非溪是也其居東者引 而 於找水之上許其種藍不許種豆蓋種藍必增 **找水盖是既高峻無基以培之歲久必類矣又課民** 取土之田必使充滿復於限之内外增廣其基名為 於後無不注意於限防其法常於春初集民夫每好 防吳江之田皆居江湖之濱支派旁出皆湯漾不 縣治法同也竊以為措置之方其要有四 田又必督民以杵堅築務必牢固又令民衛泥填灌 以名計首不力為限防以捍禦之未見其可也永 北流者自若京開 日高種並則土隨根去久而日低矣正統間周文 《南其在南者分家派以入湖吴漫港宋家港朱 大湖情考卷三 分洩湖水之所今為石塘錐便往來前軍 渠而西溢者 如故固 不當與該 君繼 日 一築隄 久 Ž P

秦慶請設淘河夫疏蒙命工部侍郎徐貫來總水事凡 鄙夫不. 其土著之民專習搜詢之事免其別差者為定今仍 府縣勘農官偏詣三江各浦相視要害請求便宜用 有常是以當時利與而害去國當而民安今當暴 未及於永久惟昔之治水者每於平成之後必立 然臣以為疏導之利雖已弘於一 通 日按史以本邑人而留心經濟故所論行群審 築堰投令人經港無長橋又為豪家運塞規為 間而瓜涇港居民處為盗賊所侵夤縁延捕官為 做又瓜淫港長橋正當太湖東流入江要道至為 湖 常言其有碍水道故學實以通水流近來傾 前制思患孫防乞劫該部轉行巡撫及水利官督逐 防之法如近代撩浅開江等卒亦皆制置有定沒 須往來勸督驗其工程以行賞罰使水道不復產湯 不通為患極大今則入湖者泛濫而南流矣接即線 而早勝不能為災經久之道以其善於此物亦宜於江北秦 入江者廻流而西浸矣日滋月長其害將見甚於 之人多種交蘆歲久成田成登糧額遂至水道日大不知大計輕埋而築之湖水多渾易為停積沿 湖達海隘口支川無不 疏 治 時水患十 時而經制之宜 四宅水 记俗吏 宣 Ł 深 楢 今

歸有光水利論太湖之廣三 沈啓吳江水老新張阻塞水利請求脩溶者自古 末取目前之小快別濟浦港以求一時之利而淞江争尺寸之利所以淞江日隘議者不尋其本沿流逐 請而准楊七曹渠墊利害可親矣遂開江而蘇湖之水道連裁淺夫淺 力於 塞宜從其湮塞而治之不此之務而別求他道所以 於股海口遂至湮塞此豈非治水之過數夫江之湮 之勢日失所以沿至今日僅與支流無韓或至指大 反損 流而古今又不相沿如宋單鍔謂增吴江 復禹之跡 治淞江必今間深水勢洪壯與楊子江等而後可 力矣淞江獨承太湖之水雖其源近不可比擬揚子 治之愈力而失之愈遠也故予以為治矣之水宜事 今則其為害無疑矣然利害所關不在上流必在下 於反土之患湖田青腴往往為民所園占而與 里郊氏云古吳淞江可敢千浦則江之廣可 路所謂吳淞江者顏江自湖 而闊深當與相雄長任仁發云古者江狹處猶廣 兰州 淞江淞江治則太湖之水東下而餘水 之賦 太湖備考卷三 不 知幾百倍所謂三州者指湖常本 一萬六千 水議 口距海不遠有潮 頃入 海 رد 邑之城 不 勞餘 知 以选 獨

徐獻忠吳興掌故集太湖受天目諸山之水治之之法 章程 都壞界相連俱在太湖西南水源之所由來也下 於元其可泥乎但當相江湖以施丈尺不可執文 為的乎曰觀元之水道不同於宋今之水道又不 牛茅墩以及甘泉之上下头家港以及長橋之上 水若常之此湯州漢仍入太湖秀州即嘉與在縣東南江者惟溧陽以西高洋建平之秀州即嘉與在縣東南 與之害加甚為政者當思其洩水之處不必 處即矣與去害所由近自矣江垂紅湮塞之後 沒之丈尺而未沒者也是固可徵也然今亦可 非得已也昔水而今田 開者惟湖州一 不患其源之不通而患其流之不沒故蘇松與 火争江 湖湖淤張為田就中沒導支人 何也分洩莫此為要也溶則奪其田以為江湖 之水僅由爛溪汾湖以出三沙與太湖渺不相沙所 而言籍之常州之水在宋入太 **埀虹多為之處立必守之法資無窮之利** 阻 人馬遵信此嘉靖二十三年察院日公所 上流為資勢所必然此疏導之議有不容於 大湖倩者 卷王 又曰江湖非可丈尺計計丈尺於江湖之 郡在縣上沿與本縣四五至十 也觸水皆田也所計者止 水镁 八湖今已 丸 堰 入大江州 其入界 仰賴 工等 而 執 利 勘 国 下於 間 同 流 應 有 火

張鐸湖州府志環郡之水悉注於太湖微太湖民其鱼 長與縣志長與下六區瀕湖潦則苦溢上六區 漢誠不可缺暑 故脩築隄塘坍開疏溶溝流改池因地增損因時當 太湖水張湖既不堅則新塘白鳥區一帶震荡可虚 來則荆泉區 出嘉興 演管埭 仰早則苦嘆山間又往往發洪奔濤縣湧自梅溪而 乎所謂導水以疾趨太湖者水之道也决之而 水 直南而行錐其支流不一稱名不同要之直 至於决太湖之水以放於海其事因在蘇松 幾所當属禁以防淤閉之患 流之處漸至填塞為蘆埂圈築為親塘者又不知其 沒之處為民間所佔日 漸於 湖運河以南諸溪港會同 州運河東抵平望我 後水利說武進採黃港為郡東運河初南出之支 南出石門一 一派東出王江涇一冰出平望其間港汉經 帶浸沒自合溪而來則近溪一帶浸沒若 木湖備考卷三 於震澤西來諸水未有舍之而取 带浸没自 派出於卓林一派由嚴墓東南 百二十 四安而來則方山謝公周 北流餘不諸溪及運河之 小而上源諸漾積受洪 里其水 半 北上 他道 田多萬

湖湖主演然早就亦入以其平也平田有水之利 宜興本江南最下之地東壩就孫上流之灌少舒不可惟風是持 由外入 水之害然未必皆傍幹河利在溝港碩水平則流 早西北風甚則水由內出曰下湖水東南風甚則水 之以注於太湖又曰太湖錐主於滙亦能內灌以濟 數長廣溪為大運河之水自京口建 緩易澄激則易淤濱湖尤為易淤數溶則民勞不溶 至華波節節與採菱港諸河會再東則由欽馬 定學為溪蘭後三法縣似為宜與下震澤之正路為 無錫河以千百數梁溪為大梁溪之外為溪者 則流竭定以間歲 按丁埠上江城監洛是其中路飲馬河在東採菱 入湖者别自此污 金壇漂陽之水猶集甲窪之形勢固在也縣東南 以湖盗之出沒湖商之逃稅遂往而閉之為漢則為通 以北行二十里東出 探交港至華波分一支下下清港入湖 又曰邑南境邊一陽湖節節與俄野港諸河會亦至下埠入震 本本湖備考卷三 日上 湖 人 接無錫之水本皆下湖不侍西北風其從内出也惟 水三成型港由虞橋洛陽 小濟民任之十年 一支曰横塘循横塘而東甘 水溪 纸 主 而 一大濟官 ド 兩 戸什 缓 無於

曹清儒水利論太湖上流金壇廣德為程歸安臨安餘 馬汝璋水利 便於此者今俱廢而其為節官其利害可親去 又放彼地之流且視蘇松水勢之大小而啓閉之計無 早低處宜脩築滕岸多穿溝油以情流按以上水道境主自 史謂金壇洮河之水可通白鶴溪太湖之水可入蠡 水猪而後浅其潴也可以救彼地之旱其沒也可 自成墅港而東諸水皆北枕運河東南而入太湖宋 勢稍緩又有百漬分洩為患較輕要而論之高處當 然山水暴發則西鄉煙洩而易盈禾輕渰沒東鄉 土右高而左下旱不利於高水不利於下此其常 周鉄 河則終變汨陳矣 疏溶河道若河道不通之處則穿為塘池蓄水以備 濟八震澤往有百瀆今僅七十餘盖上游之來水旣 古時吳淞之流獨盛者以吴淞西受中江為直故 間並有壩堰當以百計各志可稽蓋使諸山之 運河之支流雨則水下於渦湖往宜與而東注 下邾一带發水勢甚大不易關耳又曰宜與境 流之疏溶自意恐将來更多理塞矣然如陳 太湖值才卷日 圖册序常州運河以南白鶴溪蠡河諸水 主

林文沛治水事宜河有專主宣演者有專主灌溉 宜深宜闊灌流之河河之支流其開挑僅使水能浹 原有 園者塞河道五分之二洞方者塞河道五分之三除 漢之河正在江湖之流或東或北直趨而下其開桃 白前是節我中可知白郊所連乃蘇 錫之水運河亦為入馬而虎邱山後長務之水亦名 也即弗塞亦可無開矣接顧如果林應訓亦皆以新 開此二者有之適所以為吳淞之累竊以為塞之 白郊上接見承湖湖界崑山常熟之間受蘇郡 湖之水無籍兵出其通利與否與夏駕二浦無大 自深有以也而吳淞屢塞職此之由妻江旣直承 開夏駕顧會二浦學吳淞之水入妻江妻江之不濟 為易而至和塘直接鮎魚口其勢尤捷夏公原吉又 耳廣通設壩此水不來自西越東已無巨源宜興 不關水道者不毀其餘但有坍壞脩造者酌 治足備早乾可也 天目山水矣天目山水在太湖西南径西南越東北 下惟是長荡荆溪之水其勢不甚洪壯而太湖獨承 門拖北元和等塘宛山等荡之水宛山荡又承無 洞者或添二 大湖備考卷三 洞三侗務今水易走渡其原無 又曰為河之患者無如石 水镁 重! 橋洞 間齊 回 <u>}</u> 回

本朝 月水年水利畫論水於江北則利在漕 ·慕天顏開吳淞江議吳淞實太湖洩水之中條其故黃 翁大立請與水利疏向時支河細渠皆得釣引江浦之 **支載夏忠靖公引黄渡以西之水北入劉河有是人** 之夏駕嘉定之顏浦以及鹽鉄新洋諸港浦與妻好 較到河更闊其地較到河更直音因入海之處沙城 法治水深者益深則流疾而不至上涌高者並高則 字故歲脩之計無如深其洪漢馬其岸塍如治田之 在停沿而泛溢之病又根於淤塞其要不出當遇 先審水之害害在淤塞則利在疏通害在泛溢則利 利在田知水之何以利則大網在握矣欲水水之利 橋梁之處不許添設阻礙河苗 開上沒太湖半面之流而瀝納於沙殿以奔湧松江 通今則諸港浦盡塞沿自為松夷自為美則劉河錐 無不釘栅築堰水之為物流則去浑停則成於年值 水以資流植倭冠時慮其奪舟以濟凡於港汉之處 防峻而不受潰入 者仍未得宣通 年渠道之間仰成阜矣 太湖備考卷三 也若再開蒲滙新經重淡虬 論水於 盂 江顏浦 江 南則

童國恭水利條議自湖州東開外至平望官塘古實諸 沈惶智水利編湖水為患要在疏橋口以出江整指其智 馬其水利條陳治水者莫不知治下派然上下有遠近 費力於支河小港何如併力於吳松乎節録 濤亦與疏溶相表裏 延撫馬祐題准 自白雀港至南高橋一帶為小梅上流自毘山溪以 於碧浪湖沙沙阻帶按碧溪湖即見山溪南來我水鄉會 濟江以達海而湖州所屬各漢港築提置開以桿風 十一年開沒 大者也凄迷為湖杭之下流此近而小者也向時出 諸水不能項刻歸湖者既由於沿湖河道不通又由 通者十之三四即宜早為旅濟無使附近豪民分路 水皆歸於塘北進漢濱而至太湖其塘橋內支河現 海河道受潮汐之水沙泥易積而凄港不甚淤滯所 北加抄溪口等處為大錢上流斷不可使有淤阻 網斷官塘之小港不通即有漢演難洩 在通行而淤淺者十之五六向因兵燹盗賊築塞不 有大小有定形無定方三江為七府之下流此遠而 中日漢港多塞上游之水不能傾注太湖而杭胡數 以古人治水止及出海河道而不及出湖漠港及至 太湖備考卷三 痃 年基為語司城上 又曰若雲 又 日

震澤縣走水之為物惟下之越惟除之乘諸漢大通 諸郡邑必遭沉溺被嚴然諸漢之於不可不開也此 黄浦按今日之太湖之水略小耳未必諸凄淤而湖杭 則開之功無已時利無盡日矣 則沒城可脩涤則置之早則開之勤日則置之暇 民則惟其所便田可流而舟可行無餘事矣在平時 塘爛溪等處四散東注從分湖三沙白蜆江 自駛縣吳漢人 蓄自廣其寫浅者務在去其壅塞泥沙盡掃則洩忽 為湖之水主於停蓄為溪為口為浦濱為溪港之水 不必責之官而責之民亦不在一時而在平時責之 水從諸漢入湖諸漢半通則半從諸漢入湖半從於 導何以由江達海 縣之 主於寫洩其停蓄者務在擴其積滯交產悉除則停 開落盖水自南而北公先自西而東若止開直港而 樓不開七十二湯清仍不能宣洩上流若不力為沒 不開横港則上流壅塞猶屬無益 先後具疏請別有司奉行不力止開烏程之三十六 田 店上各有小橋一 太湖備考卷三 時遭淹没康熙問御史沈愷曾者民重國素 又曰漢港内之支河横港當書 座往時渾水灌入以土堵 水液 七十二港之穿貫 主 又曰為淡為落 . 而歸 日 則

吴江縣志長橋之東北有葉家雅又名荡上沿城二 ,截今莫若設置開板隨時路閉則蓄浅之權 交蘆侵化, 荡上之東南所謂愛遺亭者當時僅水中一浮墩耳本太湖吳淞吞吐之咽喉今居民以干計難以議開 壅絶 圍三項頓成高阜土人 皆自出其力所掘之土無處可容就近貯於事旁問 康熙初巡撫馬 變無可如何惟使湖水入港之處及內港之中勿更 占竟成陸地數項此處正當長橋之衙乃咽喉之中 東趙之處方水之駕風而來也渾泥翻擾停蓄於此 可勝言者 皆為種稻之地此外又有歲增浮漲遂至湖 芝蘆顧當時猶未高出水上今則前此之種芝蘆者 泥己沉而不去如是歷年變為沙帶民貪其利種 我事 來其湖南諸港皆太湖之上流 内港日淤利在一方害及數邑然此乃天地自然之 及風定之時浮面之清水或入諸港或及太湖而 則水道尚通而湖中水淺之處嚴禁不許廣 小而 水面 功大費微 公機開長橋河大加春鋪爾時 則 湖口 而利博 因 尚寬猶未全害否則害有不 而告但據 也平沙灘正當湖水 太湖之水径西南而 為 已業逐漸填 一日監 挑 百姓 之在 里 污

英後增置水軍於沿江要地而防禦太湖則惟是巡檢士兵而已按宋時兵割禁軍廟軍之外又有土兵領以巡檢在城高司在鄉馬家建了自宋以前 太湖備考卷 3Ł 香蘭塞常州府志在宜與縣東南五十里太消旁香 馬蹟塞常州府是在武進縣南百里太湖中馬蹟山 兵防 邺 而名以香蘭也為不思察在馬頭山以二為一似該宋時土兵諸寨智以地等為不應家在馬頭衛子在馬頭山以二為一似該宋時土兵諸寨智以地等為不同兵。 蘭山海屬利接安吉州長與縣境額管土兵 w 新衛衛管土兵一百七十五人 十五人 縣吕山巡檢元祐八年移置 額管土兵一 則 軍制之載於郡臣志者皆以年代為先後今仍舊 例而次列之沿革損益離有不同禁盗安民其意 延鋪在太湖中北 膺斯任者尚其念諸 太湖情子卷四 兵防 四 百四十四名震澤編云本湖州長典 即 山見廣洋鎮元在八年 東山金友理集述 弟 友琯 校 百

明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明
--

哨官一真水兵七十七名迎防沿河一帶哨官駐	為團長選練鄉勇以禦倭冠倭滅後俱發	長圻寨葑山管渡船营皆巡撫曹邦輔置用者民	村寨 東洞庭山斯馬寨豐圻寨毛園哨梁山哨	西洞庭山大勝寨用頭寨面山寨后公寨龜山寨坊	倭寇浅廢	胥口寨 吴縣志嘉靖三十四年 巡撫曹邦輔置以禦	後度按以處在太湖之西日東湖	十座南自黃漬北至百濟聲勢相接募丁北防守	大湖篇考春四 兵防 三	之警推官伍文定知縣王銀合謀詳允建立警樓	東湖警樓宜與縣志弘治十五年濱湖有浙西鹽徒	庭山成化十七年巡撫王恕奏設	東山巡檢司具縣志在縣西南九十里太湖中東洞	因演迎檢司震澤縣志洪武四年移置具漢後草	草寨置	大錢迎檢司為程縣志即元大錢湖口寨洪武二年	卑塘迎檢司	北岬山川新正徳中復	角頭 彩檢司制製水二、山城化中分
---------------------	------------------	---------------------	---------------------	----------------------	------	------------------------	---------------	---------------------	-------------	---------------------	----------------------	---------------	----------------------	---------------------	-----	----------------------	-------	-----------	------------------

木朝 太湖營 大浦港練兵殿宜與縣志萬歷三十 太湖總練兵縣志萬歷十六年延撫周繼劉委把 統之再該增兵已及四百八十之數增船已將五十隻分為四哨以兩哨派地達而習益偷也在據道府酌議必建營於湖中之電山而以欽依官一員後偷安家宣教委者以來展華展與未有為地方劾教宣者官輕而法易玩兵在在周防其能勝此且將領而無公署往常就居郡城日兵亦無信地時 江遊擊 十名餘不足益之以省存各項銀白可如數 附至待問奏略伏查太湖额兵止三百餘名以八百里之湖而奏諸三百之 増 問題改欽依把總建營電山增兵一百五十三名 湖南見順治九年東山周尚清後湖營 崇禎元年巡撫李待用每年坐於吳縣練新銀四千五百四十三 崇禎元年 巡撫李待 官二負哨船二十一隻防守沿湖沢地 清 诸 處接諸處在太湖西北隅日南太 江水溜港獨山門馬蹟山之東谷首苦竹灣胥山 増設總練於東山之緑野橋 督郎廷佐題設 一十名措納維難而等湖六縣各地兵壮 以而哨派巡按李更番接時務嚴使將不得情兵不得偷至於添兵一百 第二十隻前加兵納船料與放佐制一 **貞領兵三百二十名梭快船三十三隻巡防太 貞水哨捕盗二十二名水兵一** 下埠港内之薛堰橋巡船七隻分布下埠港間 太湖備孝恭中 此時 康熙四 一有具點到江南蘇州府千 年 浙江總督趙廷臣會同江南總 緽 年巡撫張國維 百五十七名哨 冒 M 年設練兵官 程縣小梅口,私防湖州府鳥 担

動部行令江南督臣酌議題請定奪其江南所寫船隻并管官駐別處所統恢其江南所寫船隻并管官駐別處所統恢其江南所寫船隻并管官駐別處所統恢 江 避擊一員守備一員千總二員把總四員兵一千名居中駐劉派撥巡編其前一時代十五月中東劉派撥巡編其中東京時中亦係居中控制之義但湖西汪洋盗敗飄忽奪風湖四可解絡策應於至於江南所屬湖口要客設防處所查洞庭東西兩山相有大錢地方最為衝除當設官兵駐劉久錢就近分撥絕防而東路一帶惟有大錢地方最為衝除當設官兵駐劉久錢就近分撥絕防而東路一帶 附所看超廷日孫在江浙二省之間西近江南之宜與北京常州門所看超廷自己十九名浙江四百二十五名東北南北部湖屬之太湖界中四名江南四百二十九名浙江四百二十五名 家請復湖營舊到野撫咨商以及雜議項詢其可問便批委官一員領兵百夜 國初太明總練已蘇長與山寇入湖劉初肆縣 顧忌東山周尚展皇各 · 澳沿湖鄉五共一百四十餘里雖有七十二次之名內之設防之地止有一個淋過两出湖接連二十八次冰至斯圻港止係宜與縣接界由斯圻至胡家等天港山楊濱温東出湖接連二十一漢至胡渡止係兵江縣交界由小家等天港山楊濱温東出湖接連二十一漢至胡渡止係兵江縣交界由小 南守備一員縣於浙江湖州府十 港八處好處應沒唬船哨兵巡防內夾浦馬橋為山湖咽喉之地業令守備五浦港八處西路係小梅港蔡浦小沉濱楊夾浦新塘大流資夾滿港鳥橋 十六次是其要地東路係楊索非大統派諸漢大漢楊漢洪義真非鎮漢法 港屬為程於轄一名小梅必係為程王無父界之所楊濟小梅之中尚有宣查太湖北勢衝要監以前後下兵弘的處於起湖州府城二十里一名楊濟 最難若非江浙兩省設立高汉官兵一意鎖防必無以重責成而請盗源伏在外太湖居中其間支流細河處庭甘盗賊可出可入之地去來甚易摘獲 遇遊擊夷長春到任制駐東山赤丹頭營房議建未成於領浙兵至東山腹至東熙二年 具呈非止一次1或後得邀浙替題請溯於已設高實際之拉新 城許害百姓而已此周禹呈詞中語也可以想當時之情事矣自順治九年餘分防東西兩山然無船無統兵私械少湖中寇發莫敢誰何惟有避居山 少一武進無錫東北近蘇州之吳縣吴江西南近湖州之名程長與三府七邑 戰守兵共一千名城南五百分防各汎皆屬遊擊統 總二員 · 有一分防果紅縣大樓 太湖備考卷四 一今防宜無縣風川 分防江南宣典縣用鐵棒 兵防 總 自具縣電山 分防蘇州府 把 絗

右營把總一負分防吳縣電山戰守兵共五十名	左灣把總一員分防震澤縣吳漢戰字兵共五十名	左替把總一員多防吳縣東山乾隆十年改千樓	右管千總一員分防常州府陽湖縣馬蹟山	大学子は一員分防蘇州府吴江縣鮎魚口乾隆年	我有人是一个一个	右營守備一負駐防常州府宜與縣問職橋戰守兵共一百三十八名	左替守備一負駐防蘇州府震澤縣簡村	祭将一 貞監智蘇州府吴縣東山統轄左右二營	江南太湖營 恭江南投幣標下 一年總一貞把總三員兵四百三十九名之為江南太湖營以及設建擊一員一年總一貞把總三員兵四百二十五名立為浙江太湖營以及設建擊一員把總三員前事議分江浙營制添發表料一真守備一員千樓一員把總三員	雍正二年為欽奉	<b>况没者也</b>
---------------------	----------------------	---------------------	-------------------	----------------------	----------	-----------------------------	------------------	----------------------	--	---------	-------------

十總一員分防烏程縣伍浦初防小梅雅三年	戰守兵共一百九十七名 教飾以小梅千總改防大錢雍正五年鄉督李衛禹設備	守備一負駐防湖州府為程縣大錢口原設面等備存營戰守兵一百八十五名	遊擊一員駐劉江南蘇州府吴縣西山角頭	浙江 太湖 告 該浙江提督標下乾隆七年間浙總督那蘇國以太湖常 法决定 與沒然是有此為之學波相距五百餘里中隔曹城錢塘兩江 人 湖 告 該浙江提督標下乾隆七年間浙總督那蘇國以太湖營	五分二厘米三千六百二十七石蘇鈴東連閏銀一萬四千四百五十五兩一錢	大湖情考卷四 兵防 七十五隻常落街	正原十四增少七九八四二十一 及原十六隻人方文一 之數共故戰守兵之缺無前非補以行原額 二十八十五核仍於該管額該守兵校充少戰以及原設,日坐馬二十八	雍正九年添馬戰 天七十名 這沒即於原設以職兵內	百三十名內步戰兵二百名守兵七百三十名	領設戰守兵九百三十九名雅正五年機可兵丁子九把總防守	外委下總二直 把總四員俱飛五協同經制干	戰守兵共五十名	右營把總一負分防荆溪縣風川	
--------------------	-----------------------------------	---------------------------------	-------------------	--	---------------------------------	-------------------	---	-------------------------	--------------------	---------------------------	---------------------	---------	---------------	--

把總 有該戰守兵六百六十名李衛為設備派兵事題請增越一百 外委干總一 把總一員多防江南蘇州府吳縣 現存行營砲三位处養劈山砲十位内安設以口人 帶地方簡行應添守備一直添兵一百四十五名此能五隻分 戰守兵共六十九名 戰守兵共一百七名 戰守兵共六十 隻原人養雅正年未文於沙快船八隻小班船兵五十名前祭 官坐馬十六匹添門 沙 三十五名上年機中兵實存六百五十八 把總防守 **歲需俸薪鉤乾連閏一萬八** 二名入杭嘉湖三協 子砲三十二位號船 匹 分六厘米二千三百六十八石八斗 一員分防長與縣夾浦 八十六名守兵四百七十二名九年添馬戰 太湖備考卷四 貟 九 把抱二員兵孫改五 名 隻小延船二十 百六十九兩二 西 八名内戰兵 協 यं 同經 唬船 制 百

隻原係身長七丈在湖面波浪之中乘風込歇實為得力一至沿湖連資養百古一致事,流星水鄉前能遊行尾大達高又然取不甚靈便查大湖灣沙船入日本道事,亦是水鄉哨捕原籍巡船而因地制宜各随所用支河賓港非大 湖濱各口畫夜巡防其浙江太湖營原設造擊仍今就領原干提一員把鄉十九名新添兵五百名新舊照船三十,隻令該督等酌量分添江南所轄 總移駐馬頭山另添兵五十名班船二隻專管馬頭山以六十八名再獨兵三十二名原有理船三隻專管八次美 名之數將原設守備一負升新設守備一負分為左右二营原設兵四百三 數不數分機應於新添兵三百十八名外再添兵一百八十二名以足五百二人称野亦屬不便應於江南地方另添設於将一具以前彈壓其前撤兵胜西山完難兼管兩省地方且江南湖濱區案倍於浙江以一官而受兩省 口照原制添設守備一員遇有湖中路自仍照舊制令該備随本港遊擊會調歸江省應添設守備一員以資彈販等語亦應如該督所請谁於大錢級 九十名合共二百三十五名添入太湖營則夏多益家原得實用等語府 百三十五名連原都兵丁合計六百六十名始足分防要決配搭運船請於陸路二十八次配駕巡船一十六隻在在兵軍實員衛旗被失此擬為兵二該督照稱浙江上存遊縣一員一龍一員把總二員兵四百二十五名分防 , 雅雅正五年兵部覆浙督李衛設備添兵等事疏 迎查但此分界理防只就湖濱而言其湖内地方原係两省交會仍今春 橋原設把總一員原兵六十八名管轄沢口九處今應改被千鎮 之黃量增改造二丈四尺快船二十隻酌量分防律大湖達之通達支河低港官無風難以動搭藏留沙船六隻為湖中大汉巡防以沙船二隻新造 同江南將備協力搜動其應接船兵行今該督酌量派撥仍將該管官兵分 權必須中軍守備為之無理且大後洪口為浙省咽喉要道原駐之守備 雜港向無該立巡船之一十九汉均得各派小部分防巡哨甚為有其 督李衛遵 防湖口以地投防船隻兵丁數目各造細冊報部奉雅正八 如該督所請准其抽調以資防搬又新太湖管既議除兵則一替之兵馬 台協防守全清汗如二次兵丁城一百四十五名又於獨協存城鎮内擬山 乾隆十二年兵部覆准江蘇巡撫陳大受江南總 公同理查若有大點追集不得五相推該所添兵丁於江南各替內面量品 丁貝兵四百二十五名巡船十六隻仍駐洞庭西山於浙省新韓湖演各口 督尹繼善等奏議裁改江南祭將為副將兼轄浙 太湖備考卷四 兵防 八年浙

尚藏奏事案内奉文裁改四十八名外现存之數步戰六二百四十 十二名被克英城官坐馬十六匹沙唬船六隻快船 在之數步戰兵二百二十 二名及馬為中兵四百 丁在浙江支領領浙江官弁兵 浙江兵額亦仍原設之數内馬戰兵十四名原五十 ナハ 現增之数守兵六百六十名我先或官坐馬三十一改馬為步守兵六百六十名我先或城官 原設干總二身仍具馬頭山原設把總四身仍里着南新設副將一身切壁原設守備二身好用級橋村 百六十八石八斗 九百九十五兩二錢四 千三十、 小快船三十二隻歲需俸薪餉乾連閏銀 匹爾六匹沙船三段大快船七隻吧唬船 乾隆九年於道 江南兵额仍照原設之數内馬戰兵二十二名為 江原設遊擊一真咖啡原設守備 私鮑魚口 一旦風川 江大湖灣浙江淮軍以下等官俱由副将考查轉呈新省督提舉動 八隻小巡船二十隻俱成需俸新鉤乾連関九 宣湖 原該把總二負一班夾浦 太湖備考卷四 兩七分類以馬兵官支數應米三千三百四 分六厘實数男光十二 + 一身的華大原 十六隻 萬五 名 設

匪鮮聞湖面顾為女静而省将并亦不敢互相推議彼此歧视惟是太湖警勘下江浙而省督提妥工 南 總一百一 繼 黃豆子 疏 水克本二十餘年年動下江浙而省督提妥工 南 總一百一 繼 黃豆子 疏 水克本二十餘年年期江州原舊地面管理調考官兵支領後糧等事均仍舊制衙署不必更明江州原舊地面管理調考官兵支領後糧等事均仍舊制衙署不必更以居中撫制其遊擊一負改為都司同原設之守備干把各官分防各州仍 水陸之潜籬蓋太湖駐為水師而東山海東一帝逼近蘇杭大遊與治塘陸偏於湖之東南就水面而觀而山似為湖中之極紐統全局而論東山更為一年我歸管轄至秦稱副將移駐之處戶等相度形勢西山居湖之中東山為有並應如陳大受所奏將江南太湖營改為副將兼江浙之斷兩省將簡 簡村之守備為中軍今你将改設副将原為便於統轄全制起見而中軍逐現駐西山之遊擊改為都司臣等查副将中軍例設都司但太湖營以監御駐割東山原有深者今改設之副将仍駐東山無南移置再據奏請新衛 不可與西山村隔四五十里一帆可遠亦無粮長不及之原當日設立春時路管汎有特角繁後之勢且山中煙户三萬餘户份野民刁非有大員強慶 職掌無承於前似可仍以守備為中軍職衙署小亦屬因地制軍具種制 遊公同巡查正恐各存於城之故今全湖如得大自統轄事權歸一巡防更統轄全湖原係被制部內議分之時亦止今分管湖濱各口而湖內仍令秦 界管理又将太湖同知移駐東山無司督補亦以澤國要過不得不是應抑湖面雍正開江南添設泰将一以駐劉東山將先設遊擊勇線附江各分顧為第一要務舊制設江浙太湖替遊擊一員駐衙西山居中調度越轄兩省議審其開往往為行放之官山太湖水陸之形勢也防氣之道以會情逃緝就大相聞號稱繁庶而湖邊迤西一帯宜與長鎮諸山鄉豆最為臉速適匪 交界所設楓橫管騰貨兩首风地關省之南與鎮亦並因粵之甸分訊因愚之廣州省遊擊所駐西山為江南之地而管浙江之界亦覺察是伏查浙問動至數月難免岐謀且江省各將僅駐湖東南一面所該遊湖有鞭長不及 計非如陸路之可以定立確界也偶有失事彼此互該各自通詳上司會勘 推該多而編捕鄉此事勢之必然者況湖中江南分界處此不過就湖面約賴也但全湖流守原係一的大員總轄川守應最而其成事分員各管則 十三将居民為餘家两洞庭石湖之中央周七八十里支分二十餘學居民馬頭東洞庭西瀬庭三山其尤者也馬蹟崎湖之北湖周一百餘里支分二之山亦餘脈天日後伏環結自两北迤運而指東南所指名者七十有二而之山亦餘脈天日後以環始自两北迤運而指東南所指名者十十有二而以接及與等十邑此水源較於天日經常杭湖三府於總濟於湖支流派別為程長與等十邑此水源較於天日經常杭湖三府於總濟於湖支流派別 萬餘家東洞庭在湖之東南陽周五十餘里支分二十餘灣居民亦萬餘日 為應將太湖營各將裁改專設副將一員兼江浙之衛統轄全湖駐初 學不過二之也可無庸改設都可以有更張其兩省守備干把分防 大湖備考卷四 兵助

長洲天縣灵江農澤常州府屬之無錫陽湖、廣州溪浙江則湖州府屬之府 巡撫陳大受奏疏百里湖滴之接壞者江南則蘇州府屬之府 巡撫陳大受奏疏切狼太湖為東南巨浸浮連兩首周遭對

吴家港从班至五名
----------

二以並江南右營電山把總管轄	铜坑,从超兵五名	宝女, 在可以 超兵五名	自牛腰徑汎至此並江南左營鮎魚口干總管	育口 汎巡兵十名	韓演港汎巡兵五名	菱湖情,八平兵五名	水東汎在新湿港延去五名	茅圻崎八在雙墩港四兵五名	大湖情者表四 兵的 主	沢巡兵五名	吴縣八汎	白洋灣沢亚兵五名	莫舍港汎照兵五名	游稍橋汎 <sup>巡兵十名</sup>	<b>瓜涇港汎迎会名</b>	七里港沢遊兵五名	吴江縣玄汎	牛腰涇汎與兵五名	白前城湖汎至此並江南左營守備管朝
---------------	----------	--------------	--------------------	----------	----------	-----------	-------------	--------------	-------------	-------	------	----------	----------	----------------------	----------------	----------	-------	----------	------------------

兴港 况 英央五名	<b>香河</b> 风 医杀压虫	自百演风至此並江南右營守備管辖	大塩沢延兵五名	盛寶沢双兵五名	一日海河、越兵五名	自金墅汉至此並江南右營馬頭山干總管轄	下埠汉 爽兵五名	大湖情考卷四 兴防 古	陽湖縣二汎	楊灣八巫兵五名	獨山、八在文山青巡兵五名	大阜沢延安五名	吴塘門 汎 巡兵五名	湖西埭沢巡兴五名	沙墩港八型五名	→無錫縣六汎·	金型汎巡兵五名	一長洲縣一汎	
-----------	------------------	-----------------	---------	---------	-----------	--------------------	----------	-------------	-------	---------	--------------	---------	------------	----------	---------	---------	---------	--------	--

· 梅沢 巡兵五名 小梅沢 巡兵五名 小梅沢 巡兵五名 小梅沢 巡兵五名	自斯圻汎至此並浙江管夾浦把總管轄	小次演 沢 班兵五名	新塘汛巡兵五名	<b>火</b> 浦沢 班兵五名		斯圻沢 班兵五名	長與縣八次	自舊演汉至比並工朝古管鳳川巴魚皆害 鳳川汉在把總署旁巡兵五名	鳥溪沢班兵五名	雙橋沢巡兵五名	<b>漳濱沢</b> 與五五名	後河沢巡告五名	荆溪縣五汎	大浦沢延兵五名
---	------------------	------------	---------	------------------	--	----------	-------	-----------------------------------	---------	---------	-----------------	---------	-------	---------

六十三處班兵三百三十五名十名浙江灣十五次兵七百六	通共八十八汉迎兵四百六十名内沿河港口汉	自後堡汎至此並浙江營西山把總管轄	用頭沢迎兵五名 在用頭山	東村沢野兵又名以上五汉並在西山	7.	明灣決巡兵五名	鎮下汛巡兵五名	後堡汉延兵五名	自東扭汎至此並江南右營馬蹟山千總管轄	太湖備考春四 兵防 七	古竹沢巡兵又名以上六汉並在馬頭山	1	作門汉兴兵名	桃花沢翠五名	西村汛巡兵五名	東班八巡兵五名	自黿山沃至此並江南右營黿山把總管轄	漫山沢延去五名。在漫山	長沙山沢西共五名在長沙山	辛橋沢 野兵五名 在湖渚山
--------------------------	---------------------	------------------	--------------	-----------------	----	---------	---------	---------	--------------------	-------------	------------------	---	--------	--------	---------	---------	-------------------	-------------	--------------	---------------

吴縣與長洲附郭錐同而形勝迫其吳多山少田半為 本朝設立管汛迎檢多所裁革太湖內外止存用 城山陰不足患也所患者惟太湖耳西望陽美北路 太湖當登西山湖中之西洞姓之鎮而覽之龍脈自建康 於其中若透若浮盜开凌風駕濤齊照競進難於控 毘陵南負為程花花數百里水光接天七十二峰時 湖防論説 而來崇岡大峽不可勝紀然絕無谿峒箭青可以宜 名湖中山汛二十五處迎兵一 東山巡檢司 大錢巡檢司 角頭巡檢司 於六次六三十名 汎即證以論說便**恭觀也并附務**義以備採擇 論說亦藝文不入集文而載於兵防後者按其營 武事前代太湖兵防惟此而己 按巡檢即古之游像也雖文員之雜流而實兼 附録 無關故附見於末云 山大錢三司每司僅存弓兵十二名已與武備 太湖備考卷四 兵防 百二十五名一十九名一十九 大 頭東

太湖在吳縣之西倭地不從此來往年出石湖 出莫舍漢去設使賊出湖時水兵能尾而擊之縱不由石湖亦為吳江水兵所阻跪拜水還水兵貪餌縱 謂之去路若回翔反願即來路也往年倭舶 矣兵法曰歸師勿遇險要之設無乃贅數曰否所 甘滿載之後因憚東北方官兵阻截欲假太湖走吳 护 可不用兵船追擊而但恃夫陸兵乎或引兵法窮寇正兵也在奸之兵不過盧賊登奸故設以待之耳豈 况城可以從此而出亦可以復從此而入方其出 勢不相顧者也此在兵法急擊勿失之條何 全勝以水向前脱不敢復回矣故水兵船者逐城 設險者團鄉兵於水口兩岸拒城 迎以命相搏者也出湖之寇乃飽其所欲舟自為計 ロ 五龍橋日洞庭東山日洞庭西山其一 犯洞庭為吳江兵所阻復還胥口從常熟而去 也以下九條並剪若曾江南經界 以出海乃去城也吳縣為城去路則逐之出境已 可不豫故吳之所當設險者六日胥口日石湖日 EL 以辨水兵尾擊之診意是不然窮寇者飢餓窮 洞 庭 太湖備者卷四 兩山富饒之名虚播天下盗素染指備 **城之入非报** 則内地之 其出 出骨 可 由 事 10 楓 2 2 the

胥口者胥門往太湖英登包山之渡口也太湖 吴江民產周匝雜植花木而 兵十名於此亦如之意也若有事之時更兵船列於湖口陸師也於山前聽至能入内地城今湖幣該外委干總一員此 胥口管內外相維遠近互接缺一不可及常的與通法管者三一日胥門營二日東路塘營等以東部原湖三日 掠下 從此 縣干 倭城之去路乃異時他城之來路也除要圖說其美萬古不變倭惠寧後能保無寇從西來者乎是今日 或由横塘而犯胥門或沿上方 太湖設除了口為最往年倭舶之犯洞庭往來俱 委豬也周圍二十五 當体放信兵胥口重則内二替可無数矣 皇峰右有山鄉直直至穹窿香胥之間相距不通里許中惟一送其能足守 於此木漬 踰靈嚴支硎而掠楓橋 倭城之去路乃異時他城之來路也除要圖 追乎要之己上 日暉橋西行九里為横塘横塘西南三 對 山麓所涯白艷而達太湖者為石湖乃太湖之 百年兵防之定準乎其縣太湖際要親 保或由横塘彩雲橋之 時南日胥山北日香山胥口介於其間 則或由木濱東行而犯胥門或由木濱 延司豈能樂哉故自胥門远於胥口 所謂皆就 里行春橋在馬北屬吳縣南屬 問門故具縣之除太湖為 湖防論説 今日 湖居其中寇若進此 <u> 1</u> 7倭冠言 而掠 带 山外 极 依橋掠聞! 耳 四 太 而 里為 掠横 湖寇羞 東壩 湖 西 2 甲 Ħ ᆦ 如 v<del>ব</del>িয়

簡却在 盤門外 武進惟東南 唇盆之依而松陵亦持為點角尖以湖替千艘擊防不獨五龍橋以有 以處此 萬六千項何 都二 為良矣近聞思家湖人頭效前村九唐湖亦守情所轄地方以時間村者時處 鎮西郊之外逸北湖 胡麥地亦為盗數往年湖中行初其非簡村船簡村人也自設守備強壓化盗 西郊水兵相為特角是固保松陵之要策也所持魔 不沒矣須議設兵於此與巡司相為聲後北與柳 近地亦不至惟屠戮之株矣 元 雜為 沒 於湖内之行春務重門你暴国金湯兴牛若麟曰陰無足恃豈其然或尤以英舍為要地今莫舍白洋二處皆設太湖營湖而城守营又提汉石湖情觀亦不可已也沒白洋灣三處白洋迂而其舍近石湖外衛石湖情觀亦不可已也后湖除要說 接石湖通太湖也口有其舍 也 里在塘半途東通寶帶橋西通路塘乃郡 常二府難於控學路藝塘者有五龍橋馬離盤門五 二水口出太湖在東闊 西 一設險於此則北可以屏翰照門而新郭仙 宋置寒兵 閥 都 一縣西南數里濱於太湖有簡邨延簡司 丈者曰麵杖港二 水洪闊而南行者謂之醫塘其長約十里分 四都十九都皆隸馬北至 所挑 於此 隅濱 極 ょん 湖馬 萬 備湖寇近來議者漫不之及蓋 面亦其所轄縣本濱 跡 胡坊冷说 倭寇得入 1, 百三十丈者曰鮎魚口在 17 J. 2 之外湖光渺茫直通 立其中若天設之 鮎魚 其為縣城之 Ē 口 南 南之 湖汪洋三 要今島魚口 至震澤 縣 堂诸 關 ~ 湖 知

獨山在縣治西南十八里錫山山脈西來至是中斷升 竿鉤搏斬級十六賊長跪哀籲登奸見路此其勢之 無人 望而莫敢進獨兴江兵敢進而又縱敵遂使賊得 窮慶為何如乃天止之将也設有精兵一支割許稍 湖之寇擄巨舟十二滿載而出其聚三千餘人 衣包不之顏而堅志攻城城 橋城無小舟豈能飛渡战使水兵不貪餌城棄金帛 之可謂出矣斯時湖水乾涸城與於行我舟輕捷鑽 湖入 數宜設一 巡司置栅嚴防賊方無所容耳若賊自太 南上前少用的八十紀分防地重兵輕似常未稱以移下級於大城而以周內上前少開今八十紀分防地重兵輕似常未稱以移順不比問橋深居大城港以馬跡山為邊界元未張士城守宜與亦以馬跡為邊界莫不也共成守不獵已密本縣獨可無備平今宜設備於此五代時南唐據常州已密本縣獨可無備平今宜設備於此馬跡尚豐湖 按 橋守備移壁馬跡資其禪發則太湖西北一帶 常郡之邊境行情以無恐矣 武進道里遼遠故也殊不 太湖避追捕不特亂世為可處而承平之時亦號賊 行其中深溪之水至此入太湖盜艘劫掠必從此去 所深長往年城事犯之輕為所敗 以倭宠侵犯洞庭其勢必由無 也馬斯有重於處止改以防守足矣今改以兵十名可謂得輕重之中也獨山門檢要說按獨山門維層無緣所要湖然清難又在馬斯山八孔則於此堵截用舟師科之於湖中必不能深 之境吴江令楊立舉人周大章以舟師邀而擊 大湖倩考卷由 湖防論説 知無錫 能脱哉惜乎官兵和 錫 西 兆 復回蘇州是防禦 主 [南漁舟甚大戦 而 場から 人如蹈

湖中災哨宜仿師提督水程郵籤之法按 王公改險以守國君子思忠而 續隱現 某汎 湖中央應以西山游營為之樞紐将沿湖汎地分為 小膝如指掌審度形勢於要可知也以下二於此以其 遇大風力阻進時刻當汎即為注 以東南之小山十有七為東洞庭之從其間脈 野如其一川 馬跡之從以中央之小 最大者也明王文格公鳌以西北之小山十有四為 奉山之環列按其形勢西北為首東南為尾巨浸之 兵家 領太湖為水險之區然險於風清之 -غړل-画 青蒼虛立者為山七十有二馬跡東西 起至西方某汎止必從 於歐公記往來日時在郵籤之上以防規避偏 汉與一郵籤駕船入湖松織延哨, 太湖倫考卷四 迎互亦自西北而東南湖之首尾與山之大 が中 約而同有如此哉后湖之最議 題道棄物年之兵利其有恩得股 面 **小矣音看劉牢之討孫悉思敢** 石民合於近印據鳴 山四十 日还有十六隻災船縱横水 湖防論説 預防固當得地方之要 湖心穿長行走到西山 有 明以 廣闊而不險於 為 內洞庭 西 便档老餘子 野此 兩洞庭其 如自東方 洞庭之從 倭寇 山居

師以水名別於陸也是故營船宜多於營馬而水操 一行則我兵之哨捕非船不可馬無所用也余叔友算 重於陸操太湖廣闊五百餘里盗賊之來去非 十九 欹侧 恃以之追捕而 誠能著為定例立以操期西太湖水深之處與有風 猶無益也何則水面情形殊於陸地無風使搶船 其勞逸明其賞野以收實效且歷練風波水性亦水 之於波濤頭播之中身搖足軟必不能頭躍用兵如 師之急務也 割 之日操以沙唬船南太湖水淺之處與無 者亦有猝與賊遇賊勇我怯及為所乘者可弗屬數 在平地於是有自知與賊不敵而故緩追 有減馬添船之論善矣顏添船而水操不勤船雖名 地出奇兵以碎其册斷其歸路殲滅甚易顧設兵之 以快船久之而人船兩胃技勇易施以之巡 呼應聯絡盜 以轉回乞將沿河之七 必不敢登山劫掠即有之彼棄舟登陸自走絕 無風駕賴船亦動搖若不操練於平時驟 **汎分配道路輪番入湖延哨或左旋或右旋均 武太湖備考卷四** 有功方令洞庭兩山有恭遊兩管柱 城 八自無所 十 湖防論説 置足計湖面遠近 汉與湖中諸 葚 以待其逸 岭 三山之二 約 船不 币 四 m) 用 必 E

明鄭若曾江南經署中有編集漁船為兵船之 , 三萬六千項倉平之際從何號名四不 警則徵集之鉤不必增而船可備用不知太湖廣闊 將議增漁餉三不可也或 得魚則飢籍之於官勢必官給之食是兵鉤之外又 實有訓練之責者母徒重於陸而輕於水也東山吳曾 不知擊刺逃賊豈能與戰一不可也若止用其船 有五 最善其次為江邊船為殿稍船又其次為小鮮船 驅之上好則無歸二不可也捕魚是其恒業 兵領人以船為家妻女作何安頓與兵雜處既不可 要其襲之採之之意皆以為碩畫也然其不可 防門者與鄭論無一字異作者之是鄭是曹不必辨 具區志襲其說又有曹滑儒湖防論吳縣志採 原可無事把憂但既已思悉而預防自當循名以青 所恃水師之精練耳當此太平之日湖中絕 兵之問道宛帆所指在在可虞邀而擊之全在湖中 意豈獨為防護兩山計哉太湖四 曰流船之最大者 附 一請論列之漁船雖習於風濤然其人 太湖備考悉四 網器連 湖防論説 無事之時仍令捕魚有 Fin 熊之太湖攻戰此為 通 奀 達 可也且其說 白古古 但能操 一論 無益警 箱澍 日不 入兵

是泉太湖中之漁船無小無大一 船無兵不得已而議及於此為暫時禦倭計而後之 生不虞激而致變乎五不可也當若曾時太湖中無 網船絲網船最小者為劉船善用之大為軍旅之 人遂以為防湖之妙策誤兵 網盡之矣失業级 功

本朝設立太湖營迎戰等船一 者慎無為其所惑哉東山金友理 增船前之數說不足重而邑志載之似成典故當事 桑土豫綢必無用漁船之事倘或以延哨未數議及 備之於官在行無警

木湖情考卷四 起兵 記兵

秉

太湖四 者然軍行間道必假太湖雖非必 通 八達無險可守故自古無有割據太湖 父争之地 而實必

由之路也考前事以資防祭

局敬王二十六年實於兵王夫差敗越於夫椒 **拟報機李** 

年中京北越伐吳吳子樓之等深奉秋左傳

蓋即今吴浙江之在吳江縣境者 養具地記皆日等澤松江之別名

陳末蕭斌為吳州刺史陳亡吳人推為主據東吳隋使 元王六年曾悉一越自松江北開渠至横山東北築城伐 吴花斌民東北正義 按古時松江之北即今之白洋灣所開之

宇文述討之別將燕榮率水軍自東來伤海

人太湖

三燕祭 職逃太湖民家為人 以餘泉保包山殿可守滿難保止自走經地兵 越來復擊破之以餘泉保包山按包山即西洞庭上孤時期心無故來復擊破之 入太湖欲掩述後述進破其柵処兵擊職大破之 取吳郡職立柵於晉陵城東留兵拒述自將從義與 所執送述所斬之長安縣情馬新

太湖備考卷四

記次

隋大業末江東盜起吳郡為沈法與所據李子通與杜 唐武德四年子通降通 伏威戰敗東走太湖集散兵二萬人襲破吳郡據 珡

宋建炎三年二月金人攻常州岳飛提兵督救時盗郭 貴牛单追破之獲其舟餘衆悉降軍與縣志 吉宠界州境間飛至遁入太湖飛遂移屯宜 典遣王

十二月金人復犯常州劉晏時屯青龍鎮郡守周祀請 晏選升師戰於太湖降其兵千五 可証若謂是即東口夫南口椒之夫椒此二山甚小豈能雖共一五再至跳日夫椒者馬除之道稱也明陳存其馬城人而行師大椒山詩一 救县率精鋭十千出奇大破之駐兵夫椒山兵本在馬 百,

陳宜中之誅韓震也其部曲李世明却其妻至與士卒 伯 德祐元年 元丞相伯賴既屠常州遣招討使吸都先超 四 湖從旁遊擊之故預遭兵匹大湖也必經吳江平四五西邊原有伏兵在太 顏兵逼行都道阻不通提刑徐道隆率兵勤王 思恭願為先鋒望不從及房過平江思恭不 太湖趙臨安尋敗死 平江又造萬户忙占万星後兒巡太湖京史的就佛被怕 至皆為內應縱火焚舟幾獲四太子者為中己再遊歌 太湖旁擊之可必勝統制陳思恭日待制之言甚差 據太湖之險吾軍以中軍振其前使諸将以小舟自 城中焚掠处者甚敢一城殆空上明前先是宣司恭謀 年二 以兵出太湖横擊其尾虜舟乃中原係病之民聞兵 胡好防當語望云樞密必欲守平江其若移軍吳江 薄城東二 셂 民船命月頭巡檢湯果總之陣於 周望守平江十九日徵鄉兵發太湖洞庭東 人犯吴江守将巨師古不戰而潰更以太湖民舟為 導歸於西山二十三日府中授兵及埤金人将騎 一月金人 逃至平望殺巡檢縱兵及人殺掠人民由 太湖備者卷四 十 四日大集城下周望宵道金人遂進據 自明越還師由 臨安襲秀州 簡村二十 尢 時宣 **本西**画· 京望自 取 日 诣

師二十萬征張士誠達等至太湖過春疾趨湖州破 等入舟膠淺被擒二十六年大祖命徐達常遇春帥 勝太湖鉤道先是攻宜與不下間其城東通太湖乃 时将王貴鈕律時該等與不下間其城東通太湖乃 明嘉靖三十三年夏六月倭寇掠蘇郡 元至正十六年張士誠據平江分兵 湖上不敢戰十一月敗之尹山橋又敗之以則由太湖直抵吳江屯兵石里村吳江下 枯猶據 師攻破之無錫乃下 進逼姑蘇吳元年攻拔之擒士 遷復出援兵背力戰敗之湖州下乗勝克嘉與 於舊館出明師之輩遇春簡精銳由大錢港繞出車 長與五月俞通海以舟師畧太湖入 諸路用太湖為飾道十七年二月明太祖克常州 由宜與至建康降 誠兵於毘山直找城下士誠悉發境中兵來接屯 無錫結塞於瀕湖之 柘林懼東北兵阻 **大湖衛者卷四** 山許 नं 一月敗之尹山橋又敗之於鮎魚 時 次元属族所志 明史列傳 說友守郡 乃由石湖 記載 1 陽山徐達用太 誠蘇州平其将莫天 不能捕逐走入太湖 幍 同知任 馬跡山降士 入太湖趙吴江 湖州 士信駐軍 松 瑗 江常 湖 扒 舟 ロ

区 欲掠洞庭東山時漕撫路振飛流寓山中率家丁鄉 馬橋匿一民舍官兵圍而火攻之無一脫者等海崎 月 湖城 湖 野等所逐至獨山轉戰三四十合住無錫境去·斯首 勇樂之獲其頭目二人斬之湖口曾西風大作蜚勝 各領兵屯吳林廟之左度城走太湖今東山 湖十六日初西山明日知東山轉至武山處里渡口殺掠死者無算即此 兵船有顛覆者乃去董事犯尚董壁下王志剛也據 水師船數十往來探哨城至吳林廟官兵擒斬二 自黄茅門從漫山而下向常州境去一 立以城我我寡恐夜襲城馳入縣以下二條本关法 今善泅者鑿其舟擒一賊斬首十八級賊奔平望 涩止 知 欲走洞庭見官兵旗幟不敢渡復登好至横徑旋 順治二年大兵南下明敗將黄輩下勝通入太湖 倭入 倭自南京流突至蘇州知府林懋舉知縣康世 17 按陳仁錫蘇志備清天月初九日城自要門至問門由本清胥口入太 餘走陽山進至靈嚴奪民船由新港都深地出 年四月倭從嘉典至唐家湖立屯兵盛墩禦之 ンソ 楊立率輕舸出瓜涇港戰於鮎魚口 人太湖刼洞庭兩山 與 的攢搏之斬首十六級城懼登許稍橋四 太湖備考卷四 華不逞揭竿應之招集亡命動盈數五 **熊為國長徐术等所截** 船為者民 時 湖水 耀 周 岜

王鳳來能漢人貢生乾隆二年由本府督糧同知調任三年陛刑部首外 四不正本 阜城人牧真乾隆六年 署任 李正邦正紅旗人監生乾隆五年以本府總捕同知者任 項 謝錫侯大與人貢生乾隆六年暑任 十十二瑞正藍族人監生乾隆三年任五年以憂去 王企堂雄縣人與人乾隆六年暑任 職官 來德化漸摩人皆草面不獨在符 浦大錢諸要口又得湖營升兵防守截山寇入湖之路湖中自此事雖百年以 太湖水利 絕遊即長與山亦有情無劍矣 即道匪之餘孽也周由制信係呈所以力請專備制西厥後請盗以次珍城來 山者時出為患養療法 諸山乃命都督同知劉鎮國同考授長與令文輝提 督張士元畧定湖州兵抵吕山本光奔散竄 若流水單騎 於篇 小 漢陽人監住雅正十三年移任乾隆二年調去 湖山而有職官假同郡邑矣為民父母為 旅之師泊舟太湖口 可無記數若衙署若倉庫亦湖山之掌故 入京及著海州大倉州歷次本衙門署印官不載元城人舉人乾隆六年任十三年以憂去任內押運 大湖備考卷四 同 衙署 倉座 子· 口雍正八年設驻吴江縣同里鎮十三年移駐東山 入城不戮一人長與定然敗之竄 毛二若赤脚張三等沒者累年多來自長與山塔等 校園初太湖中最稱不精若白腰電若手 新塘橋傳諭雜級三日之內 職官 圭 也 國 縣 城 西

缶 · 於銀黃旗人內閣中書乾隆十五年任 順通四川人舉人乾隆十四年署任 東山延檢司 角頭延檢司 江南大湖營副将在三年原設各州彭第二年及数令職 省海界仍歸所省管轄學四四名名沿湖十縣機的乾隆八年浙春和城市 民北十天 名英名工食銀石 新華 扇夫七名以上英名下民北十天 名英名工食銀 典吏 裁文体銀八 代達人運 本朝中歷任年分也八首方下隔並開不敢 每名工食 马兵十二名每名工食銀 作俸銀養康銀八十两年齡之書 辨 歲支俸銀三十 **裁支添銀六十七兩五錢七分六数** 網沙 久行伍乾隆十三年日 澄山東的年人進士侍衛就在十二年任十三年歷史明鎮兵 四十四雨 建御或人進士先在十四年任年於著 百八兩 不太湖情考桑內 一十两 書辦六名英門子二名 就菜烟炭銀七十二 雨五錢二分薪粮十二兩順治十三年與 養療銀五百 東下 百五十 一名此食皂禄二名 圭 140 兩 八兩四錢 皂快二十 斩 瓜 邰 纸 百

少度人進したを上二下、空

孫志宏通州人行任就隆十二年任 姚士教上元人行位难正五年任 施致雲廣東人行伍雅正二年任 廬 張 何士乾度受行位雍正二年任 左營守備 右營守備 为 崇明人行任雍正六年任 在 崇明人行仪乾隆六年任 如前數坐馬十二疋 廉銀七百二十兩米 鳳紫明人行伍乾隆十二年署任 名就造八年去時丁能名於稱養療一部一丁丁丁的無人的無正五年始於随種有定額然尚為起書就二十名的報守典 名願養坐馬 蔬菜燭炭銀一 元 宣化人行伍乾隆十年任 馬乾銀五十二两 歲支俸銀 丁三十名皆無人充當其 言崇明人行伍乾隆二年任 六錢米二十 一十八 四 石 十二两 疋 兩七錢六釐 錢 城官 百六十二石米皆自收造丁名 養康銀 心紅紙張銀 薪銀 줊 百九十五 四十 += 兩 兩 兩

湯 趙二君順山水人行伍乾隆七年任 外委千總二負把總四負 抱 錢 總 两米三石六斗 你好要看養廉亦自乾隆八年於两米三石六斗 你外要干把總食随粮自雅正八 錢 養廉銀七十二兩米一十二十三兩五部二分九羞 馬 石 他二人具 歷任年分出名查求不情並不敢 禄 蘇州人行伍乾隆十一年任 並食馬城兵的各隨丁 二名定制無隨一 每寅歲支俸銀一十二兩 每負歲支俸銀 **蒇支與左營同** 類条州人行伍乾隆十年任 了真要在年分世号。 養無銀八十四两米一· 四 風公立人行位雍正在 緒四川人行伍雍正在 緒四川人行伍雍正年 新銀三十三兩三 太湖備者卷四 營原設然將 7 四名蘇於坐馬二 十向 政 丁五名繁坐馬二正 兩九錢六分 四錢七 名歲支養廉銀 馬乾銀二十六兩 U 29 分 四釐 129 釐 13} 兩新四銀 逢 馬乾 -四

,

兩無及土地 兩無及土地 一直 一定 一定 一定 一定 一定 一定 一定 一定 一定 一定
--

## 把總署 遊擊署 副將署 守備署 延檢司署 總署 在西山 時雅倡建乾隆十年與千總 正 三 署外兩傷營房一百三十四間 定改建頭門兩無儀門大堂及内屋八八 東南地武山界康熙二十二年武山吳時雅倡建 二畝七分糧在民户界造典 正二年建 於後堡正統間重建用頭後廢延檢寓居教廟由 頭麼署基地今為遊擊教場 制如府治 一年建 一年 建乾隆十年與把總署 在東山芝田即然將署雅正二年購許氏故 在西山角頭山上 在東山湖亭西风 石 間雍正問建 在鮎魚口八十九間署傍汎房十二間雅 太湖備考卷四 在簡村尺四十 獅頭 一在角頭山宋元祐 在屋川康熙間建官衙營房基地世 一在周鐵橋西八四十間署前營民 一在伍浦 在吴凄順治十八 街署 康熙五年即新廟改 四間署前營房七十間雅 在大錢康熙四年建 在電山麻果改建 在馬蹟山西村灣雅 間康熙間武 年建明洪武間移 在東山渡水橋 臺 年即吉祥 `. 山 建

教場 社倉 太湖備考卷四 倉更 附此無陳大受流里東西洞庭雨山地廣積多僅後與輸將往來附此無險大受流里東西洞庭雨山地廣積多僅後與輸將往來 · 蘇署基 武廳六間府房二間旗臺一座雍正三年建橋時 貯前分野之級司其事者席方和王師李徐公士林椒が屬行社倉乃建康公所以徐公士林椒が屬行社倉乃建康公所以十一人之建因謀積数備荒分野出息數年得数若干石乾隆七年中丞上人生、先是東山紳士以山中田少氏網户無蓋航偶遇數成待哨可 守備署南周十畝 郭 宋甪頭司 在山野米山倉殿應暫借寺剧校房收野仍今於潜費六分內博節留 糧劃歸太湖廳徵收十二年東山紳士捐建 在簡邦守備署北周二十三畝 在東山黃溪觜販房十 在東山陳家塘門房三間官願三間版 在東山副將署東三里湖亭傍周三十畝演 在西山遊擊署旁山下衙灣村周約三畝 太湖備考卷四 在大錢口浙營合操則遊擊往蒞 年巡撫陳大受 倉皮 間乾隆七年 題准東西兩 兲 在周鐵 東山 紬 W

東洞 太湖備方差五 芙蓉峰為翠峰歷翠峰而南為金牛衛為吟風 越絕書書姓於胥一 期周五十餘里居民二萬餘家 名今稱為東山東 母王注母音無 叉角 湖中 TO 南為九峰為小莫羞順與其下為廟山中 似其最高者名莫雅峰俗呼大头頂的 和 南為高峰蝦蝦之東為榜程墩過東為偃月岡折南為白沙債為蝦蝦債稍西而高者為荷盤頂擊 訂 覧者可 大 及半若并州渚磯浮 南 二兹於在湖中者統載之首列東西洞庭馬蹟 -t-為萬峰 Ĺ 十 網羅所及舊有欽遺者間為補 為好風 L 屬吴縣在縣西 其餘 \_ 太湖情才春五 14 アス 名莫登兵禁相傳所艾發將軍居之因 J. 蝦 知大小輕重完至若譌 則 2 視西洞庭差小而岡鄉起伏大暑相 名著 蝦之東為栲栳墩過東 又 以縣屬為類叙 南 為 於 南南 天下 TO 目之 山嶺獅 湖中山 其實 + 弟 里去背口 以有無居人 日 金 友 11, 可 友 支自北而東為 謬之 绾 理集 山嶺而南為俞 ıΈ 則 レス 又不 以貧考核 支自平衛 沿昔無 四 校 山 泲 為前 名香 者 止七 里 岡 數 -111 辨

**苯苯胺幸福** 西洞庭山屬吴縣在縣西南九十里去胥口五十 数型周八 山羅漢之南為雞龍山一博山竹場南為飛仙山稍渺最高其南為竹場橫橫東為上方山又東為羅漢以湖中有金庭王柱也終舊山之諸峰皆秀異而縹 重中山為 為大蕭小蕭二山却洞山西走長而來者為梭山 東為洞山林屋洞在馬洞山之東為天帝壇山其 包山 峰王舍山在其右格思山在其左格思迤還而峰西為程公墩本養婦海寅武墩伏而起西崎為 鮑為包也山有林屋洞故又名林屋山其稱洞庭 家山 塢 里深不過二里舟行湖中可望而 為多村塢之統於山麓者亦北淺而南深淺不及半 於長圻莫強為東山主峰面南而背北故南 波陀 西 南出之支於是平窮荷盤萬奉之 以山 與場切直孤 而下者為寒山自萬峰而南為白多橫為碧螺 十餘里色電波居民 (湖為石公山其右諸峰高者為白於 大湖情考養五 湖中山思紫故首飲東山以貼珠過 四面皆水包之或又以仙人鮑靚所居呼 塘子積積之下為大戟觜喻衛而西 時於湖濱者為 一萬五千餘家養洋編云 夫也志皆列東山於西山 許 山 頭俗山稱 間西 出之支 出 又南為 里 西飯 則

馬蹟山屬陽湖縣在縣南一百里去下埠二十里 馬列 東湖山為 縹 馬 馬 歸杜圻經 亦與東山同本處澤編按原文有鴻鶴波清用頭不連西山也不無 始 頭 頭二債為金峰又喻沙子積為堂里 ч 雲積為父子山緑石山金鐸山金鐸之北為苦竹 下有四穴圓 J. 繰 窮山形東北狭而西南潤與東山相似山多 為桃花塢山瑜望崎嶺為激紫山是為崎邊瑜 為龍舌山縹鄉之北其高者為海峰涵峰之東為 又南為龍頭山學本不連西山無鄉之東山勢分為 Ц 鄉之西其高者華山 瑜彈子積為植頭山自湯坎橫稍折而南為為家 J 「查山 此 談 百二十里居民萬餘家舊志云山之西青石母 践山因以名僧文鑒洞庭記又以為漢郁使君 迤邐而北為鳳凰山七賢山 説近是今亦有稱馬出者馬獎馬蹟之峰官長最高 以開之而謂山以形名兹山形象如馬當是 與沙子嶺相直為湖漫橫西山 大湖倩考卷五 西 此龍馬駐 黄家山陸場山路支頭 而不深如馬蹟然相傳秦始皇遊幸神 小湖山東湖之東為十里山 蹟事皆荒誕近武山吴友堂作 踰王家嶺為雷頭山 湖中山 峰為 山 Ξ 壁里山 稍東為天王 野 之 塢 瑜新安墩 「為龜 境於是 為蛇 田 r

武山 峽處積之西為象山水平王墓廟在馬象山之 二官長三官長之稱三峰華崎有大官長 行者過此日卓午故名踰山而北與虎觜相直者棧 水積積直貫南 後割入晉陵據此則馬贖舊名重山不知何時改名馬蹟也 海名者統計二十有三秦以外所經歷叙次如右按無獨志引舊經 彎弓田荡實之而齊於外若弦之在弓也山 皆濱於湖山之東境於是平窮山之形如卷荷又 志|本名虎山相 為勝子嶺自嶺而東為錢家箭為東谷皆為燕尾 點下山房山 鞍 Y 東為鳳凰山翔 云太湖内有靈山去北岸二十里山中有靈山寺 舊為無傷 而 為 山為桃塢嶺又東而近湖為荒山為蝦策 一徑東北 遍山蛇山極 靈山祥符寺在其下稍南為畫山山居東西之中 之主峰為 之南為趕山 西為小胥山鄉人 在東山之東水斷橋連然居民六百餘家姑蘇 大湖情才卷五 可三十里西北而東南則半之选 為芝山其西為火石嶺六堤 志日 西金山 迤南 ٦Ł 傳吳王養虎於此後避唐諱改今名 西而記於西青之龍觜官長之南為 翅 雄冠諸峰 坦岩平地 4 哭子胥處也其南為馬鞍 其南為目青山又南為射點 而 下名 柚子山按武山田多山少與他山具 西 湖中山 為萬安山路山為花 山之中斷處亦山 如官長也 叻 其 山 東為 西 Ů, 折 偏 山之 由 Ł 西為 為 西 而 鵓 欄 山 過 馬 南 北 樵

葉余山 横山 三山 《者山 在西山東北水斷橋連橋居民百餘家排港衛屋民風謂再期逾山皆西山之支而以王編前志為湖北七十二山仍以禹期弘山分列王維德林王編前志叙湖中七十二山仍以禹期弘山分列王維德林古時禹期不連舊山范文穆吳郡志曰山在大湖中則是宋時尚虧後不知何重建碑記及今乾隆十三年為紫採行神仍並稱禹期山文之足徵赖有此耳重建碑記及今乾隆十三年為紫採行神仍並稱禹期山文之足徵赖有此耳重建碑記及今乾隆十三年為紫採行神仍並稱禹期山文之足徵赖有此耳 横山同 其在洞庭之北也沒以居民百餘家以开販為業品 南北此山獨横故名 余二 制風浪最險 山二港環連並通太湖舊去戰入支山非是 有後埠港界新禹期西南有平橋港界新西 項主家俗呼為峰項者間有人稱為別家山張港海寺中有申用然天替五年 艾其身棒不材而全其生山 重有知能弗愀然 刷不敢 整本尚完好恐所来亦難係也象有萬以 石山南之斗入於湖者曰围山按面山株石不知如自何時日 一門入東太 産青石色質亞於電山 姓故名為東居民百餘家以桑麻花果為業 在西山北居民三百餘家或日湖中山皆首尾 與横山近相傳晉陰長生煉丹處故名或 在西山之東水斷橋連聽居民二 在東山之西三峰連接居民五百餘家多服費 在西山東北與長沙山 大湖備考卷五 在電山北二里昔断今連接中有村日前灣故俗籍 西山東北居民六百餘家山文東日黄茅門西日 湖中山 近太湖志云山皆葉 Ŧ 百餘家業採 百以

玉柱山 金庭山 漫山 立不兼半橋而中均二山児然絕無勝頭看是以數文人之好為夢詞而凡虚其如東地庭山則國如彈丸無機無石亦無洞然盤石鸡之言要矣此山則一往山 一名柱山在長沙山南山洞中有棋盤石發皆天然齊 足作也不 人又接張山古人為馬開放發展痛父死於非命哀動而卒年才二十八恐未必有居山事亦非吴時 所謂金庭王柱也 程故見头與舊志 居此故名按面史隆厥陸問長于野水明九年東秀小水元末始安正道光及 無錫縣一百三四十里具莊志誤引湖中之街山也街山屬吳縣西華鄉云 居民百餘家業同漫山八里按無錫別有充山在五里湖口非太居民百餘家業同漫山八里按無錫別有充山在無錫縣西十 另是一山界限甚明非西山支也西通湖水湖漁船從此出入角頭西通湖水湖漁船從此出入角頭後埠竹村不連不路柯家衛不連月灣今按月清即月頭英齡處為鄭經港東 編日西山有三翻練演書鄉戶頭西山茶旅平日玄陽洞不連時邊送者不達 在三山 在武山南似連而斷以橋接渡橋居民數家 與澤山近居民六七十家以花果為業 與漫山相向山形 在長沙山西北三十里居民百餘家以造遊為 田以舟楫為業熟行湖湘 名徐侯山在東山 以太湖倩考養五 在西山 名庭山在葉余山南與玉柱山相望舊去 西西 西北水斷橋連聯居民三百餘家震 里居民數十家以花果為業 如概西高而東卑中皆湯田 湖市山 北相距不透居民二百餘 六 ż

司是	
長子 亦與衝山近	_
茅浮 亦名黄茅山與街山相近	
夕一 吳莊湖山打就日山之大不超數部在洪湖中北人於可居其形置 星雨見少	
思夫山 舊說秦時有人採藥不返其妻思之而死故	
粥山 在東西狱之前舊志具王飼囚處排以與明日	
西藏宜從姑蘇志	
西徽 吴郡志吴王置男女二微於此姑蘇志作東撒	
東徽	
小隨 姑蘇志作大峰山小峰山	
大湖備者卷五 湖中山 七	
大隋在馬頭山大聖灣東南海明依衛馬大聖司前有近接限上	
力	
翠山 以形名	
北烏山 亦名鳥觜山俗呼鉢子山此處湖水是深風波景層	
, L)	
小貢山 二山並在貢湖中	
大貢山	
小干山 與大干山近	
大干山 在横山南	
路山 在横山北	
	_

至耳山
有水平王廟
衆安洲 在西山消夏灣中一名瓦山或曰即南場上
楊公磯一名楊公椿在西山坟山外
拗折磯 在西山之西舊志有若斷樹者是也
絡山磯 在絡山西北
陰山磯 在陰山之東
青浮 在西山夏家镇外
月頭洲 一名唱山在西山鄭涇港外上有馬廟
石蛇山 在西山龍渚外蔡羽記山空地虚樂足有聲
大湖備考卷五 海中山 八
唐浮 在西山唐里外
瞪浮 在西山疃里外
東次磯 在五石浮側
甑盖洲 在衝山旁
癩頭浮 一名亂頭山亦與衝山近
與衙山相近當是衙山按太湖中無穹山此浮
殿前洋 具區也弯山有水平王廟浮正當殿前故名
故名
五石浮 在貢湖中一名五浮山舊志有若五星聚者
山之南閣之所不能見也 淳樂淳学淳涓淳皆在丙

小小山 東鴨 馬拖 獨山 大则 大砂山 西鴨 小椒山 大椒山 獨山相對鼎立洪濤中亦合東西二鴨非專指中一山其師志引註頭混三半條下則總名三山一語從何者落常州府志三山在無錫縣南太湖中與之三也此是合叙語非叙遇東鴨西鴨獨為為中一山言也其此志引之獨系湖志云向東一山名東鴨向西一山名 西鸭治中一山经名三山盖七十二季 峰 對北 志名拖山 班不 逐東日夫南 日椒盖即此二山松鏡孝馬蹟山志夫椒馬蹟之從山 山 小阜然在七十二山之列 居 以上屬吳縣自金庭玉柱至此共五十 以上屬無錫縣皆無居人 我告,在相望具限悉目與衙山門亦不相接 在東西一鴨之中鴨中為三峰語送自之為三峰耳又按太 在無錫縣西南十八 名米貯磯在吳塘門外無錫志米山本湖中 一山在獨山 近大屼 山也陽湖即武進分縣在馬 蹟山東北武 進縣志名錢堆磯無錫縣 在 在銀安洲西接山之東有小山五輪越水中西山人亦可是 與大椒近 在馬蹟山西南形如張弩 太湖備考養五 獨山 西居民二十餘家 西 也相 里五里湖口南與充山相 有四 皆無

北岬山 開家磯 大雷山 蘭座磯 客電機 漁息公 小雷山 開家基耳 坍没後指作 丹及美首年 計学沉波面相傳新村開家基坍没者按發有巨石疑糊 里去夾浦二十里無居人 山今俗呼平臺山上有禹廟 留山 (太湖志在洞庭山玉湖主太湖演真武進文界也 右屬為程縣與江南吴縣分界與及美典舊編以小青為 里去大錢口二十里無居人 右屬長與縣與江南荆溪縣分界或進共屬縣按衛民之 右屬荆溪縣無居 ツ 以上屬陽湖縣皆無居 ŀ 放陀下浸隨水紆曲可泊漁舟故名 |屬宜與縣皆無居 太湖志在洞庭山 在蘭山觜外群濱湖蘭山條下 在竹山外群省湖外山族下 在北場山北有石嵌空如電故名 在西山馬蹟之間洞庭記杜圻洲 在馬蹟山東北武進之新塘鄉外有地 在為歐山雁門灣恩錢孝志去 太湖備考卷五 湖中山 西北 西南馬程应在縣北三十 山側有磯曰小雷磯 |長興志||在縣北 ũ 和 名北 西 叼 + 游 F

廣徐勝時記 利市 山在東南司徒城在骨口看上在西山白行舟之思見馬 打市山在東南南司徒城在骨口看 我外俗名磨盤山山在 教在南湖 九星 我 我震洋的不言是暗山然今我在南湖茅坑省在 教在南湖 九星 我在南湖白洋灣 按以上三文直接三山 前 月出行舟見南山下有龍林沒个亦立石於上 吴深石骨鳞糟載十年上 木在两山石公山外游云石蛇一半溶面頭機像 敢下網下追山根在處外直接一个山水胥山天平水湖此一處大為船至此不下追山根在處衛外直接有山根在竹山磯外直接馬路之小 在是通中間今西山蔡氏捐黃立石於上為行舟標識 工解外水涸時露出 人云皆低伏水中、留舟及在非朝行制惧方出金甲石二山之間沒南湖中無之訪之漁留 公 我在将期行船惧入其中失良少在大雷小雪 PI) 湖中暗山為舟患者 陸地三洋洲沉於湖柳不當載也內有居人者二十無居山與馬頭相連大小二竹在濱湖內有居人者二十無居 與夫方隅之向背里至之遠近一 之山遙望不能悉即泛舟求之其崇卑小大之 惟不能祭室亦并不可樹 古七十一月一按諸無居人之山大者周無三四里小者惟一本一撮 通計大小山及洲渚磯浮共九 洞庭西山尤黎、河庭東山大雷為 考献其將問之水濱乎傳疑傳信詳界分馬不敢 按水面情形殊於陸地閱歷難斯徵信寡矣湖中 同執筆追思總不若在陸者之可覆核較親切 藝事問職脱不亦宜乎 ! 一拳一撮孤峙湖心滿目荒煙絕無人 穿鑿貽悮來兹 太湖備考卷五 湖中山 + 移棹而忽又 有 不録入者津里 跡後 形 也

馬蹟山 隱君泉也愛家泉哲中錫泉在漢半月泉在選出山 廉泉 護泉正在李壽寧泉在漢半月泉在海上在山之港漬外通湖而內阻山與在沿湖者其利在山之港漬外通湖而內阻山與在沿湖者其利度亦資灌溉深而蓄之即山中之水利也是分山處亦資灌溉深而蓄之即山中之水利也是分山處亦資灌溉深而蓄之即山中之水利也是分山處亦資灌溉深而蓄之即山中之水利也是分山	泉之有無無關輕重然山之靈者泉必甘樂飢之鬼在鄉鄉等下立武隱泉在鄉前山原臣石上二次涓州如人目即殺泉在鄉前山原臣石上二次涓州如人目即殺泉在鄉市村之外那靈源泉在鄉州高云在太湖濱大風挽之不濁接都家湖中李宗、江村安京湖口井集河明据北州高云在太湖濱大風挽之不濁接都家湖中李宗、江村安京市,在開刻和城井三宁深文能工商的村汉、古太湖市、大村南京、北村安京、江村安京、北京、北京、北京、北京、北京、北京、北京、北京、北京、北京、北京、北京、北京
--	--

進山港 龍山港 高橋 北港 東北港 東東	村 現青橋 上楊家橋	五 東 東 東 連 基 八 港 八 港 馬 八 港 馬 石 港 馬 石 港 石 馬 石 馬 石 長 石 長 石 長 石 長 石 長 石 長 石 長 石 長	中央 上京 一
進山港 山東港 陽塢港頭陀橋法東電分為北東海太湖後保港		新下港 将灣港 院巷港 寒山港 斯具區風月橋 名東 衛	王舍港 張老港 表表
· 徐 卷 港 港 港 港 港 港 港 港 港 港 港 港 港 港 港 港 港 港			<b>入</b> 物 尚 单 宝
馮山 灣 港 港 港	吴巷橋 盛河橋	橋 本 本 本 本 本 本 本 素 長 平 海 長 平 海 長 悪 浜 馬 馬 大 海 長 悪 兵 海 長 海 長 海 長 海 長 海 長 海 長 海 長 海 長 海 に あ ま の ま の に あ に あ に あ に あ に あ に あ に あ に あ に あ に の に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	老港 北雲港

横河在新城	墊河	錢家漬供等姚老河	杭瀆	<b>畴大</b> 渍	頭衙灣港	附黄濱橋	記於此故	城石寧 决	辛橋西山渡	-	下金橋	横塘橋	社濟橋	五徐橋	州金鐸橋	亭子港	下金港	唐里港	郭 涇 港 與角頭山分	塔頭港
桃花浜在株	南浜	*姚老河	沙演 俱在張清	辛瀆	大步港	川禹斯波诸通衛平黄濱港在報忠寺	記於此 黄濱港亦為期	<b></b>	衝渡	太湖備者卷五	東村橋	慈西橋	頭陀橋	養馬橋	<b>芳家橋</b>	辛橋港與港	東村港	陳老港	尾通湖	椅里港
花牛塘河在井	中浜	秦老河	馬賣在新城	咸河俱在秦	小步港		子稿二港為外口 時期渡治分界處以	後埠港典波		港賣橋梁 吉	羅漢橋	鄭涇梅	慈灣橋	後保橋	馬村橋	幸 橋送與渡渚山分界南田後保港頭	金鐸港	涵村港	山下港	慈東港
桃花浜在桃花牛塘河在梅内間清水	北洪	後灣河便	官瀆	吴濱				後年扶與波消分界此港本無期與			上方橋	壽鄉橋	大橋	鎮瀆橋	中橋	湖域	壽鄉港	東灣港	<b>疃里港</b>	慈西港

地三十	地一十	地名	三十	地	沙旱	地十	-	子也	二 地
地名鎮下	名前母	横除 西	三都姑蘇鄉	地名森湖山山北京海湖山山	2. 2.	名者下馬塔科	· 王曹 	名文文本	九都有
· 社资格	是 後壁	下原思滑	城街山東澤河	西前海家渚	木湖備考卷五 拉蘇鄉統 圖十路	村 朱家港 上楊家橋	( 'YY 12 ''	页景全屯 马家灣灣	が下張者 「張者」
吳兵 四. 巷場 在	十二在工	植張	一二時五時東京	東金倪東村家	黿	何家水水	· 港馬衛 標家下本	世泰 ト白 家家 選 計村 頭	一 市 望 學
郑介本次	西山	東東灣村	西山陰精	新石寧兴	新品 期 海	周宝老		三周 間湖 で家橋沙 三河	果 李毛大恕
石山東	前墳頭	西金灣宅	山横山 素	後非家湖	惠期渡渚葉余西山	東仙射湖橋鍔	于殿英田東山	金西下 塔揚楊	<b>是王朱</b> 寒 坊舍巷
場許 坞巷	湖北	金婦清	境邊		宋西山	朱祁山	施基案店	朱介黃 宗 宗 常	北石陸製橋を

十八都(一面領圩一 是領圩一 是河圩一 是河圩一 大大都(一面領圩一 是河圩一 大大都(一面領圩一 是河圩一 大大都(一面領圩一 是河圩一 是河圩一 是河圩一 是河圩一 是河圩一 是河圩一 是河圩一 是河	行領圩宣縣 十圩五字	地名 古 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本	与 <b>表</b>	三十六都河庭鄉
武大岛 (中) 大山 (大) (大) 大山 (大) 大山 (大) 大山 (大) 大山 (大) 大山	學景遇工作鈕	*在	域	西河 糖屬 徐卷 楊卷卷
藤里三島 (京) (京) (京) (京) (京) (京) (京) (京) (京) (京)	無領三年	都山 - 西牛	西山東山東西山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山	山東山澤東山厥
ザ 六学領三連 一大人 一大人 一大人 一大人 一、東五二 聖四 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	所 宜 令 業 村二 能 必三遇領 水東京 城巷 城巷		有等村 有等村 斯科 斯科 斯格 斯格 斯格 斯格 斯格 斯格 斯格 斯格 斯格 斯格 斯格 斯格 斯格	東步小站

東山 西 H 山林井落三百七十六項三十三畝七分八厘一臺 五 十一畝一分四厘五毫田落六百五十一項八 右載震澤編 普天之 百四十 賦 山 科所望司收者有以權 宜 百 都在長沙山 有也 一兩鈔 兩鈔七十五貫五 十二石夏稅麥五 田荡五百三十七 惟是 下莫非王 大石夏就麥七百六十石絲四千五百 人者有以權衡其輕重馬人山多田少出産微而辨賦 統品 百六十 主 百九十五文皆有奇原性科權 惟 七項三十九畝秋糧米三 頃 関チ 百 T-田 رد 77 地 十石絲二千九百五 供 十六畝秋糧米三 دلد 七部八分八厘六是民山林 固居於山者之 荡二十二項 末 戴撫字催 扴

三十二四 麥豆 -Ξ H 故 畝 <u>F</u> 山荡 七都 = 四 **沿在大貢小** 放五分 一斗九 都在街山漫山 \_ 都在東山統圖四些 九 百五項七十二畝六分九厘六毫 都 四 百五五 百三十石七斗 分 在東山 畝 分本色米麥豆 在東山 百六十七石九斗二升五合四 在東山 百二十五石六十六十二勺 勺 升 厘 分三厘五毫本色米少五 項三十七畝九分二 八合九勺 武山松實在 、項九十 厘 統圖十五條注 本朝均出空高二 統属十五條之水鄉 後縣志尚十九 勺 達本色米麥豆 貢山 九毫本色米麥豆四 統晶 余山 五升五合三勺 統 ¥3 石 虽 EE. 紋 畝 漏 麗田地 田 附二十五都 十八八九九合 分六厘 地 田 址 七届在余山者五届大品工品 風二 百七 11 荡 丰 荡 達本角 百 毫本色米 三十 百 十里 三石 荡 五. ٦ 十五頃 田 田 頃 五. 四 地 地 百 九 J. 田 豆

两 之數非盡都為少落之數也空局者致糧隨人戶而去之謂也止就人戶問賦而已其區志所載田地山荡若干乃人戶辦種 九升九 七都在馬蹟山統盖三按縣是屬常川 麥豆三百七十四石七斗七勺 本色米麥豆一千九百二十 九分 百二 七載見過き放大器無機冊次か明季 木朝未曾核造故都局中地 四 田地山荡二百二十四項七十二畝 三千三百五十 兩四分二厘 一萬 田地三萬三千一百三十一 田地 一十七畝六分三厘九毫 分九 百 年太湖縣徵收東西兩山田賦額屬次城外 合 三十 三萬三百八十 厘 千六百六十六畝六分六厘 在 **人太湖備考卷五** 讥 厘八毫 亳 十三石二十四升二 百三十五畝七分 折色銀三千 統而 頃六十四畝 共平米六千七百六十 祭田六畝九分七厘二毫 六畝二 重山沒清葉余陰山横山在西山城州, 田田 併度 百四十 四 一石二斗四升九 祭田三百 鄉一按縣志南十三本朝均出空昌三里 畝八 分六厘三毫 一合三勺 三厘四毫本色 公田四百八 分二毫 两八分七 四分三厘 府武進縣接 毫 七石 中 公田 折色銀 田 合 + 厘 ·二畝 九 山湯 地 山鴻 129 四 山

東山版黃册共六都五十七品四的四分五里三克顿科平米六 百四十九 献五 毫一升五合山八百九十七畝六分二厘七毫 场四則分七厘二毫 或三分三厘九毫 三升二合一勺山二畝四分六七汤四則二斗為五畝 地四百五十四 十一大都田地山海典七千九百五畝八分一原三京新科平米四百二十六 五台山五百九十二 畝六分七毫 隆 五分九厘三座 石一井四合 五 百五十六 **過田** 十萬一畝 五升落四畝二分七厘八一四四十萬一計五合山八百九十七畝六分二厘七座 Ä 分五 五畝三 三年太湖應清造東西 三鱼地 則三十四升四分三毫地二 一升五合山一百八十五郎以原八毫方 一則此九厘升三合一勺山四十四畝九厘九毫方 一則二十萬 山三 則二十四十四十四十五百二百二 二量田一 第三則五升三合五行山八十二畝五分二厘六毫 一州五十三合一行山三百二十四畝六分一厘二毫三十四畝六分二厘六毫 一則三升二合一句道 月三畝四分五厘三毫 八六升三合一勺地五百 月十四成一分一厘二毫十 清六則八厘三毫 一千五十一成一分 地 兩 献二分四里九毫 到二·華 六升三合 勺地 Ц 則六升三合一勺地四 版品細 山 一則五升三合 繐 則合与 勺 Ð

到六月三合一勺地三百三十三 則升一合一勺山八敞九分一厘五毫一 故公心祖荡三 十七畝四分七厘四毫 热八百二十 一有九百六十七石三斗三升三十二十六畝一分七里一毫 爾科 一升五合物了 一則 六升三合一勺地三百六 到二十萬五十畝四分六毫 鱼地 一則六升三合一勺地三百一 的杖 合一勺地四百 一升五合務五分二 則三九一金与山 則 五十 九 九 九 則

分五厘三毫 山一 五升三合五り山二十八畝三厘七毫立の一い十一面ノダノノン 一升五合第六十四成九分七厘八毫一十三岁田一分三毫 五月荡二敢四分三原六毫 十三岁田一分大厘六毫 三升二合一个山五十一敢六分五原三毫 第三八升三合一勺地四百一十九敢七分九原六毫 山三貝 五十畝四分八厘一度一十 合作一十二成八分三尺 敬三分六厘六毫 一升五 山三十六畝 分八厘七毫 献五分一厘~文 **型九毫** 五厘三毫山一则九敏五分一厘六毫 第三二則九厘一毫 五升四十十十十十二十一則一分地三分一則一十五升第八十九畝一分以至一十二十一則一分地二十一則一分地三十一十五升第八十九畝一分以至八十二十一則一分地三十一則 升五八山以下八十八战五分八厘六毫 落 十一敏九分八生四毫 山一則三升二合一勺山一百六畝一毫 一 升五合山 百九十九畝一分 山五十九成九分九原大老一升五湯三 一分と 一百五十四畝二厘一毫 到六升三合一勺地三百 則六月三合 与地四百二 太湖備考卷五 崮 是中地 田 升 到 三斗四升四合田 十六遇田一 月八十八十分三厘一毫 十五盖地 山三則五升三合五勺 則一三十二十三 ħ 一斗田五畝三 則六升三合一勺地 地三百七 シャ + 小山外四合田二百 斗 田二十九畝五分 一則一十四畝一 則三十四十十 八畝六厘 則一十五升 姬 三升 七、放五 則 則 ΥÐ

第二十七战二分六厘九毫一九二旬一一月一十四十十四十二十八十八战七分一一月一新五合山九百四十十万三月六九厘四毫三升十八战七分一一月一升五合第二十四战四厘三毫一日月二升第二百二十三战三分四厘九毫四里地一月六升三合二一月二升第三百二十三战三分四厘九毫四里地一月六升三合三十二战三分五厘,以 三量地 十四國一分三厘三毫 荡二 斗 五升地七畝一分七厘七章 九分八厘九事 一分三里全土 公田門 十九遇田 - |-127. 太湖備者是五 則十二敵三分四原九毫 十一 田 則三斗四升四合田一 則 則三斗四十五献四分四里地二則一十四前八分四厘八毫 五升第五十六放六則二斗第八十 献五分六厘六毫 一十第二十六放六 り地一百三十七畝八分五厘一 則三升第一百三十一故六 公田一十五畝四分以处以是 六升 升五合湯一百八畝二里八毫 則一升五合山四百七湯 則五升三合五勺山 合 分一厘大基 \_ + 则

見六十畝八分二厘三連七 地百 整 十三部六分三厘 三十四升四合田二 分四重三聖二 地三百八十八 四 荡三 温 則六升三合一勺地三百二山二里之十一 遇田二則之原四十十十一 遇田二則之原四十十十十一 則五升三 山三 合 合為六百二 則十六敏六分八厘三 合山二千二 六升三合一勺地三百四 一百六十 屋七零 地一則二十九月四分九月四分九月二十一 五 二分四厘七毫 畝八分三厘四臺 則三升二合一勺山三十 田 則平田十五 宒 則一升五合山 遇 一升五合 則於 田

戦三屋湯四、 地二百五十四畝十一 月一九敏五分七厘十二 五田 原八亮山 月十部三分四厘四零节四一則一斗荡五敏九分九厘三七分四山 月十三畝七分三原六臺 地一則毫 六十三合一勺地三百畝田 則三斗四升四合田一百八也 一則是 六十三合一勺地三百畝七毫 落三則原一毫 五升荡一百一畝九分九厘七毫 十八 圖分九厘法 五四六毫 一升五合山 二分五厘厘 地一 則十一成九分五厘三毫明五百二十九畝也一 則六升三合一勺地五百五、落二畝 一升五合為七十五畝六分六厘五毫一 十三畝四分八 分七厘七毫 一升五合第二千八百六十九敏七厘三毫第一千三百二十九敏三分八毫 三升荡五百五十八部 多一千三百四十 勺地五畝三分四厘二毫 具合一勺地一百五十六畝四分七厘一毫 一升五合湯七十五献六分六厘五毫 五升四三面一月 一升五合山四十九献三分八厘七毫 五升四三面 田 田地三荡共 萬二千三百四十一畝九分一厘四臺額科平来二千 一千五升 一百四十六石九斗三升六合八 則三升三合一四十九敵三分八厘七毫 為四則七敵四則三升三合一万山五十二畝一分五星三毫 物門二十二就五日一則二百三十九敵五四日 則三斗四升四合田五百地一則六升三合一勺地 リミュニュートーカルト·三三二十五成八分七厘四 男七毫 五升荡五十九献四分九厘七毫 一到十五前法十二献三分九厘九毫 一則三斗四升四合田三百三地 一則 十過田 地六畝九分七厘 屋二東 湯五則一斗為六百九畝八厘一東六升三合湯五則一斗五升第二十一畝八分 則三分六厘三毫湯二 月九十七畝六分二毫 地 到十四献九分一厘七毫 地 到三十四新四合田二百七地 **則一升五合第二十** 二毫 既约 升 具五食荡七十九畝六 一十該 一 山 分三厘二毫 一升五合分之厘三毫 一升五合 則此一百一十五 十一畝八分八厘 則 田 田 一斗荡六畝六分 一升五 山一十畝之分 升五合湯 一則三萬五 則三十四合 則六升三 一合山三 合 分别 貝

十六部分山二 七章公田一百四十八畝三毫十二 其一勺地田一千五百九十七畝七分七厘也 一、二二十九 三十四升四合四十三前一地 七月二十五升湯八献四分六厘七連七月二十五升湯二十五畝一分四厘九毫一 田 六分八 一則三升二合一句二十六畝四分七厘四毫 湯二見一毫 一年四十六畝一厘三毫 地 則 与地二則三年四升四合四十六畝一厘三毫 地 則 勺地二 、太湖備考是五 八厘三毫一升 則六升三合一勺地一百一 七成一分三里三是 則三升落之故三四面 献四左二基 二十第二十四畝四分三 一畝六分四里五臺 月二百六十九日 月二百六十九日 日 芜 六升三 · 竹地二百三 俱 則 H

西 八分六八七年山一 東 六升 人 十二 都田地山為共九十五百一十二 山 を一十二日 リーニ敬人分五屋大変地二月 リニキ海四十一分大八十九成九分四座五変 レーリュキャナル三合一クカナナル成九分四座五変 レー・ラート南五分、万四 三升二合一有山三敬一分二星五事生为五 引二年五升第三十四畝八分六十三合一有地一百九十三畝六分大臺山三 則畝八分七屋七毫到故三屋三臺 一年地一分四屋八臺山三 則畝三屋三臺 一年地一分四屋八臺山三 則此三月故三屋三臺 一三面田一 則十四畝四分六屋八臺地三月地三月山三年第六十三 九厘六毫 一升五合荡四分五厘 一八届一地二 則十五畝四分五厘七郎二分九厘八毫 三升湯一畝一分一一間一川三斗四升四台地一則 一升五合山二百三十四畝七臺 落也 貝五毫 一斗荡六十九 石五十六升 六合七句 敢一分九厘六毫 版 升五合山五十七畝七分九毫 一年為六級五分九厘八毫 五升第三献 《孟册共六 今一月地 自一則十十五合山三百场一十五合城四分五厘 (7.7) 則一畝五分九厘五毫十 大湖備考是五 都七 **則五敵五分二厘五毫** 斗荡四十三畝八分二屋九東四日 + 四 一面田地山勝共八萬六千八百九十二 荡五則二年五升該三十四 М 敢八分九厘額科平米一千三百 咸 月 十三畝六分九厘七毫 酱 湯四 丰 亩 則二年第四十一 則十三歲六 則三十四升四 田 則

聖湯四 二聖三連 十五少七分 则九敢六分一座三臺 地 则六献五分九原五亮,为五则,三年四升四合四三十地 则六升三合一分此七十汤五则升荡七敏二分一座 一升五合荡二十九敢九分九座三臺 四五十九献五分四厘四臺 五升第二十献三分六厘一臺 三甲五合二十七百 第六 则 二斗五升第二十四战三分一厘一至 一升五合山二千七百 第六 则 二斗五升第二十四战三分一厘一至 一升五合山二千七百 第六 则 二十成一分七厘二臺 山 一则 二升二合四九十三战七地 一则 六升三合一为地二百 山 一则 二升二合四九十三战七地 则 八升三合一为地二百 山 一则 二升二合 **見妻 一升五合荡 十二畝六分三厘四連** リニキ湯二畝二分八厘 三升第一畝七分三地二百六十八畝六分九厘六連 1 一 男十 百三十九畝九皇、 手湯八十七畝二分七京 一百二十二十 以一則三年四升四合田三百四十六畝四分一屋七五川五升三合五分山二十二畝九分三屋七臺 三升二合一分山川五升三合五分山二十二畝九分三屋七臺 三升二合一分山門五升三合一分地四百三 湯五分三厘八九 都田地山港共一萬一千 則五升三合五分山五分 三升二合一切山二城四分一日 則二年四升四合田三百也 則六升三人 升五合第三十一献三分七厘八毫 山一即四敏九分七厘八厘 則或四分四原七座 地二即 献六分八厘|臺 三升滿八敬五 **太湖備才养立** 見 五十畝九分八 六升三合一勺地二百一畝六分三厘四毫 五百九十四畝六分六毫額科平米六百 田 到一升五合山二千一百七 Ŧ 月十三畝七分六重三至 見五原九毫 六升 荡四 則 一 別一八献七分四毫 カエ合法二十八献五分山三百六分 二盖田 一遇地二 則 到二十萬七畝六 大学 厘七七 分一厘七 一升二合一勺 則 八畝四 五山 一則等

□ 二十五十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二
---

婴地 鄙 畝七分二 屋九年 則以六分八厘五毫 前五分五 四合田二百五十 分八重九章 分一厘 一升五人 三年四升四合田 田 ħ 田 湯四 Ĺ 一畝五分三厘二毫 五百五十四畝九分五毫 一一一一一 盖 四月九賽 五升荡一十九畝四分七厘三毫月二十湯一畝六分一厘九臺 一斗荡一山一月二十湯一十八畝一分七厘一臺 山一川二十地一十畝九分八厘六秦 六升三 1 别 月二年四月四合田四百七月十四献三分五厘七章 百七 太湖倩井及五 田 則 则 田 1+= 合 四献二分八厘三是 一升 合一勺山 五升三合五勺山三 八郎二十 五合 | 夕地二百三 | 一 川一 サ五合 | 八百四 | 八 届 田 リニキ四升四合田二百 リニキ四升四合田二百 六开三合山一川一升五合山七百六十多四川三十九献三分二重 地三則三十地八分二里五 四合田 五升第一 升五合湯五献五分七達 四百五十七献四分二厘五毫一 百五 地 Ji 一到十畝五分六厘三東京四 地 Ð 男十九敏九分七厘一度 男八敏九分二厘七毫 一月八十五合山三百九十二 大畝五分九厘五毫有科平者 則 一斗湯一十 升三 十二量 八分三厘四是 三 則百一十七畝二分五 堻 地三故四分三 月六升三百五十二 = 則一年まる 升五合湯 田 三畝九分六厘 升五合为 則五五九 晶 升五合山 煄 川川東 則 田 則 4

分畝 屋七樓 一升五合湯一五星四八五合山二百八十七畝七分八厘 南六分三連 勺地四百八十 十六畝九分二 升五合山干 1年地一十二 畝七分三毫 五百六十五 献一分五厘一毫 献九分四厘五毫 升三合一勺地四百三十九畝二分三厘六毫 九朝三分二厘八毫一升湯三 H 电一升五合山一千二百四一 电子分九原四毫 三升二 六量地二 田 太湖備考卷五 月八畝一分八厘一毫 1月三年四升四合田九 一百九 畝一分二厘四臺 一月 敢的分五厘 五品 七届田 合一勺地三百六十三畝三厘七毫一千二百四十畝三分二厘六毫 六升三十五百四十十五三分二厘六毫 六升三是 三升二合一勺山四十四畝一湯一 斗地五十 百八十五畝三分三連 田 三百 田 默 別三年四月四合田三十 則三年四月四合田三十 地 別三年四月四合田三十 地 則三斗四升四合田也 -} 敢二分七厘三毫 敬一分五 地 地 = 則一般五分三を 則 四 = 則八厘七毫 一品田 六升三 合落八十四畝四分四毫 月十二敏九分八厘七毫月 六升三合一勺地二百三 リー分二厘五毫 月一敢一分二厘五毫地 厘一 五 畝凶厘五 五合山四百二 一手地三十二 湯二十三畝八分四十四畝四分二厘七 山 三班湯五十九 = 則六升三 則三升二 則 則 (合為) 一斗地四 合五 五升 致八 百 則 四 勺

四合田十八畝也:1 ] 二年五十七十八十二十一 则三十一 则四十一 则四十一 则二十八畝九分五厘五座 五井 一 则一升五合山一千七十次 五 则一丰五 升 荡一 十八畝九分五厘五座 一 则一升五合山一千七十次 五 则一丰五 升 荡一十八畝九分五厘六座 一 则一升五合山一千七十次 五 则一丰五 升 荡一十八畝九分五厘六座 一 则一升五合山一千七十次 五 则一丰五 升 高一十八畝九分五厘六座 一 则一升五合一勺地三百 1 第三百六十一畝一分五屋四臺十二一面地三則一年地八分一屋、東一分五屋七臺一升五合十二十一十一十二十十一十十一十十一十十一十八分八屋八臺、第二則四十一十二十一則三升三合一勺山三十七畝九分三屋八臺、第二則三升落 百三十 敢二分一厘七毫一十四届地一则一十一敢四分六毫山二十九敢七分五厘三毫山三则升二合一勺山一百五十四献三分一六升三合一勺地二百七山三则五升三合五勺山二百二十二献一分二百六十一畝一分五屋四毫一二二十一十十一数一 具,中也四次、1、二十九一十四战三分五厘二毫 三升二合一勺山六十 献二分一厘七毫 以九毫 六升三合一勺地九十 田 放八分六戶六毫 升五合湯三百六 有百四十四石六年二升四合七勺 三五 第一年 田地山著共一萬四千七百三十畝三分三厘四臺額科早来七 八、大四分一里 一月十畝四十八十三合一个地四十一月十三畝四分四連四邊十十一月十三畝四分四連四邊十十一月三十四升四合田一百七也 太湖備考卷五 八畝二分一厘六毫 一升五合山二 百七十七畝四 十二届田 九十九畝四 六升三合一勺地五百八畝四分八厘四十五章 一年五升地二十八畝三厘三章 一斗地七畝一分 則 二年地六畝六分六屋八臺 則三年四升四合田二 地 斗地二畝五分 圭 則 升

1年五升地二十二畝三厘七妻、月本五分六厘一下 1715下 地三 五山 一合山一百四十畝六分四厘四毫 献五分六厘一毫 八番田一則十三献二分四厘是 地二二升五合山六十四十八番田一則三斗四升四合四一百一也二三則四秦 六升三合一勺地一百八十九献九分七厘九毫 山二十五升地一献二分四厘七毫 二半地四献五分四厘山 二畝六分三厘二毫 太湖備考卷五 升 月三年四十四日的八分八厘地 孟 田 五分四厘山一 升四合田五十 則

分九毫 二十 地一十 山荡共一萬四十二百三十七畝 **煙二年 湯二 別五升湯三合」内地二百五十六畝九空** 明成二分九姓八季 第三則五升第六分三星 斗地五 献六分八厘九毫 六升三拾一内地 月八郎三分八厘三毫 月 五十九 畝九堂、 战四分一厘九毫 一月一升五合湯三十十十月 五升三合五分 一分二座六臺額科平米 到一八十四十四合田二

四二十二年地四放大分九里五里,下午二 则四献一分三厘六字四三百二献二分八厘七毫 一升五合十 三 圖田 一 则三年四升四合田,如八分六厘八毫 一升五合十 三 則 壓三毫 三升二合一勺山三地二十献六分三毫 六升三合山 三 則 壓三毫 三升二合一勺山三地二十献六分三毫 六升三合山 三 則 壓三毫 三升二合一勺山三地二十十六献三十十二届 田 | 則献五分三厘三座 抄三 則六厘七毫 一斗、十二届田 | 則献五分三厘三座 抄三 則六厘七毫 一斗、十二届田 | 則武五四合田七也三 則二年地一十六献 E九畝七分六厘五毫 171一 男一勺地二百一十八八二一年四升以合田一百三也一一 リニ斗地一百 前五分 | 亭 |中四升四合田||百三 · 到二十地四畝大分九厘五毫 一升五合一小地一百七十四畝四分 好於乾隆十二年七月成於十三年三 量 六升三合 1

ミナ 4 其熟志曰是年色以引天后清田點累畫器呈前照仍清查乃止童腦額之虧間江西市政使務其有版高條職康熙十五年長邑本孫而行之具有威強雷巴州非第不知其中東近細股亦皆樂華無典召稱處前之大學全中明集建雅正問於那給單項註核等景近今別欽成矣其於為打之界與故則之數與未絕表行或隆上二年東西南山美權劃歸太制縣徵收的造兩山版圖乃縣按嚴圖即應轉則行而宜之田粮均民国輕長法也難正十年 英線通色清玄 之祖未折銀入官以源白蓮自 至未根花力之清混貼累的在反多一掛文量科擾縣心之言如此其佛失可 一十五 十二都原額 十九都 十九都上扇原額一 圖仙字巧惟東冠字巧仍舊 公田錢粮本折外又有義和一気 三十都八高賞字圩今在一百六十一畝二分八厘面圩仍舊 公社楊湾今碑在楊灣胥王廟內 公莊止渡水橋今上扇碑在班司署中下南碑在武山吳守疏家 宗年此四歷来付經造收租捐四人户例無點投 年四在十四都七崗鎮機在平圖户名年十月的十甲 完納自 11) 一陪字圩東董字圩磨字打區八品點字好十品面整字好十九 都四局今在一百四十八畝三春在五尚增字行 到力 東山二十 . 29 都原額一 上東武二山 役公田 明嘉清二十七年吳縣知縣宋儀堂勘民稍置為歷二十七 立都原額 都原額二 下扇原額一 百六畝在本區東冠字圩南高字圩 都二品貼役田三 百 百 百六十畝 五 百六十 一畝五 百五十 十七畝二分 阿阿 分一 ·畝三分四 分七厘五毫公此馬村 四 畝四 厘 十畝仍被捐置津贴堂 公莊潭上 以上西山 一毫公莊唐門 1分二厘 髡 厘 五毫在 毫在三

夏禹王廟 為施 F. 妻葛氏云水修妾茅氏云定功繼妻前氏。此共 以上東山一在明月灣為秦元悌妻鄧氏子萬授聘室自 啓章妻陸氏 在岱心灣為庠生吳時夏妻汤氏 妻周氏 女吳氏二氏共一坊題 與水平 一九十四日中近月頭山南鄭湿港中土人一年於外能香店吊成乃受一心人道之傳西洞庭陳編題土功遂附為世平成之沿往之海注之江政為決排歷人 桐廟 在武山朱家廟為吳公御妻周氏 在南灣為朱元龍妻蔡氏 一為沈兆源繼妻王氏 祀典稽諸邦禮而能捍災禦忠與野起教有功德 祠執是以為去取稍異舊志 於斯土者雖私祀而不能於正尚非然者是為溫 在陽橋為鄭啓鍾妻陸氏 茂公妻育氏 在白沙灣為葉漢賢妻周氏 太湖備考卷六 在西場近月頭山南朝運港口土 在吳巷為王耀基繼妻蘇氏 一在北場公共身会共家辛士英甲間四日而出惟萬度 在金家湖為金孝書繼妻葛氏 一在陳家塘為姚士俊妻朱氏事群 在餘家湖為葛國治妻陳氏 在吴巷為王祖孝妻高氏 坊麦 以上西山 在武山為吴永自 在徐巷為徐三辰 本朝 一在楊灣為張格 = 以上建於 在湖亭為鄭 在東場那里洋 在南場如果 在滙

劉猛將廟 水平王例 吳仲雍祠 開帝廟 吴季子祠 太湖神廟 人子生は良き将本把馬 康熙二十九年裔孫吳文瀬重建祭列條編 陵志水平王后稷庶子佐禹治水至曾稽誨人沒道 列條編 仲雅祠 在東山白沙灣宋南渡時建後廢殁而祀之與縣為鄉山人空在斷山縣亦非是 廢明 語請問重脩唐鶴徵記 辰建 山翠峰塢 建陸燕喆記 山白沙灣 在東山骨王廟内 本朝原熙二十四年裔孫吳時雅等 在東山靈佑廟右明為歷問建 在東山波水橋東 太湖備考卷木 在武山錦鳩峰下元至正五年裔孫吳達 一在馬跡山分水嶺宋胡宿奏置祀典後 在東山渡水橋北 在東山沙嶺 本朝順治問里人席本久建 在東山沙嶺 初廟 一里節殿太 本朝順治問席本禎 在東山靈佑廟內 在南唱神像几条 在用頭山衙灣 凼 在東 在東 本朝

靈佐廟 郁使岩廟 天后廟 包王廟 胥王廟 真武行宫 擊胡宗明創建胡福建晋 追封王及二子左右將軍構祠於衙山景德四年裔 州收為政得體及平祀為神後唐同光二年吴越王 证女 猛將 孫郁俸修建 原一 对一言追顾官軍分道經湖風濟不可能精神之應為進官革治封原則 巴按通志東山蛮順宮祀相國任真創自貞創二年宋南宗南海 、不常侍官名不足信府志曰謹衛包山之義此,遊最為近理水其人以實司,洞庭實驗王姓毛名明為越散騎常侍舊志等引載之榜趣時無散騎 祷有應與陸龜蒙皆有詩令飛仙金鐸渡渚皆其別 衛包山之義圖經續記唐咸通間郡從事皮日休祈 爛鈔者重建明末建前殿祀吳相伍太夫稱為胥王 張大郎捨地建明正統間重修兵惠 在角頭山 在西山祇園寺西蘇州府志稱包王者取 即靈順官在東山楊灣始建無考元時有王 在東山之廟山於鄉宋建炎四年建祀真武劉 在街山震澤鍋使君吳人漢惠帝徵拜雅 太湖備考光八 在東山之對山路縣明嘉靖間建傍有任 本朝康熙三十九年太湖營遊 祠廟 1 188

文日閣 明太僕寺少卿席本杨祠 唐吏部尚書席豫祠 晉開内侯葛洪祠 17 利濟侯廟 周文襄公祠 宋樞密院使印文定宝祠 明淮揚巡撫路公祠 劉龍圖祠 皓祠 政山人 朝乾隆十 志神汴人姓金名元七元至正 平曲周人明止流寓東山有禦寇功發後祀之於廟 徳之以其嘗駐兵於廟遂附,祀馬 破之追寇至宣城戰殁事聞記進龍圖閣待制常 宋建炎三年寇犯常州公駐兵水平王廟出奇兵大 進封利濟侯 Z 州府志公撫江南嘗登此山寺僧請設像於寺以祀 他之立祠以祀今為是 在西山綺 在東山湖沙 太湖倩考卷六 在馬跡山水平王廟中馬跡山志神名曼 在東山金灣俗稱金相公廟初建無考庭中古蘇 年裔孫印廢熙等建 在東山葉花俗稱多公諱忱撫吳多惠 在西山葛家塢 里 在東山對山廟中公名振飛廣 在東山翠峰寺東 初廟 在東山陽橋蓮花圩 在東山澗橋祭列條編 在馬跡山祥符寺常 間陰胡海運打總管

心皇帝威厲天 護稷祠 旗業祭 鄉属壇 刻祠 一地祠 記尚存 息為民上者能禁絕之而正其名曰土地使邪各鄉村不稱土地而稱為某王某倭且各有姓氏 朝康熙二年里人吳國章重建吳偉業記今復廢碑 以又附會即数事稱能女祠二祠之外無 方食典上自先聖明下至土地上即白馬上地因稱白馬扇二祠之外無 方接其志不藏土地祠然考之 下之王直 說者不得作於世道人心或亦不無小補云 祠皆編入會計又令各鄉村每里立社以祀上教之神是則土地乃正祀也 其中已故者意牌位於初中祭祀州以關出光而垂永久難解於此以動作在正元年。治行首於該地方公所設立祠字將思孝節義之人俱構姓氏於 年建王奕仁記 教场 朔致祭山原壇的山里民致察軍隆十二年始官主其事明致祭按明會與鄉属境察鄉中熟祀思神本朝仍之東 十建沈德潛記 其 展行水上或日姑姓李其夫殺之死數百年貌 按舊志所載如西山之聖姑祠云是晉王彪女能 如生每日沐浴妝飾事屬於邪又如亦闡相王亦 在東山 祭族森之神太湖營官蔵以霜降日致祭於 在東山平嶺下天井灣歲以清明中元十月 相 在東山渡水橋東湖亭嘴 在東山吳灣山嘴地 Ĩ 白沙灣路自初建無考明末廢 一姓桑名港壁者為閩間築城而死有 在西山石公山 村房 在東山豊圻 本朝乾隆六 本朝雍正

包山寺 大 王 寺觀 方寺 名萬歷間天王殿燉里人蔡鳴雷重建天於二年 名顧慶宋靖康中復為院王銓記明永樂間又改今 院也 同二 寺宋 侍吴猛捨宅建唐會昌間上 天王像宜宗賜欲為天王院宋宣和問賜 誕民上 緇羽居四民 何 金不難者果仙佛之縁乎存而非論可也 不載後之修具區志者遊遊一不可不補其關馬 咸淳間重修李居仁記 太湖中聞見有所不及獨怪王文格轉震澤編則而 (硬黄翔之不得也歐陽越曾就家博技金石文未著於蘇則以此鄉在人族事之里門左有唐會昌二年僧郭元書母相法端親在蘇勒之間思 一年置天監中再華唐上元九年改為寺高宗賜 功德於西山諸如此 嘉泰間重建并置 在西山鎮下初為包山禪院院有鐘記架十 也 在西山葛家塢店會昌六年建名孙園 在西山徐巷本孤園寺梁大同四年散騎常 在西山馬稅城桃 一方學院 之外而然宫琳宇占盡名山 田僧淮海記蓋孙園寺之 類概行刑去不欲使邪説 花坞唐大中元年 方建因名此為下方寺 今名紹典 若 Ł 別

水月寺 候王寺 法華寺 福源寺 西小湖寺 ラル大 懷深記 セ天 候之甚恭王喜賜名 本朝康熙問燬 慶元初重修并置寺田王公振記明萬歷間北天於 被拾山建隋大業間<u>廢唐貞觀中復建宋紹與間</u> 泉虚泉咸通問賜今額會昌木廢宋建炎初重建釋 移置今所里人徐世業捨山為之寺分三房蒙泉鑑 年會稽內史張裕奏置隋大業三年廢唐開成三年 大同問建宋末煅元春定間復創觀音殿明水樂十 二年重建文震孟記 明月宋祥符初語易今名蘇舜欽記寺有白香時后到 業六年廢唐光化中重建天祐四年刺史曹珪改名 年重建為寺曾於已兵於此號令嚴肅寺得不察事請問 在西山東村金鐸 在渡渚山相傳吳越王將渡湖寺當渡口僧 在西山後堡攢雲領梁大 在西山埯邊北二 在西山慈里初為院在胥湖之北宋元嘉二 在西山塘里初為禪院梁大同四年建時上 《太湖倩考卷太 年修 在西山涵村之西灣山頂有小湖故名梁 里宋端平二年建今廢 寺觀 J, 同二 九 年吳縣令黄

報忠寺 羅漢寺 資慶寺 長壽寺 東小湖寺 法海寺 齊星寺 望故名 東山站蘇志附會太湖中東山非是華服守規子和尚之白馬騙俱在福州 成化中重修具寬記嘉請問建慧雲堂文徵明記 間改名祇園宋祥符五年復今名明萬歷間重建 雪賣禪師住兹山說法有龍 王彌陀二殿崇禎間重修今大殿廢於火 年建元末燉明正統間重修 大業中廢 四年修天王殿張獻昱記三十三年建藏經閣 在西 在西山勞邦梁大同四年與孤園寺同建隋 在東山楊家塢梁天監二 在西 在東山俞塢梁天監二年干將軍捨宅建明 在東山翠峰塢唐將軍席温捨宅建明萬歷 在東山法海場隋莫釐將軍捨定建梁乾 在禹期山黃瀆梁天監九年建 在西山兵場里石晉天福二年 在東山碧螺峰下寺有靈泉故名祭天監元 太湖備考卷六 寺朝 在 山角頭唐天祐二年刺史曹珪奏建 西山涵村之東灣寺有池與西小 山湯塢後唐清春間 本朝乾隆間大殿圮 年 建松绿蓝静柳師之 建 建 湖 包 相

国拉宫 在東山靈佑廟東明正德間道士曹雷沒裏
昌捨宅建宋元豐間重修陳于記今廢
上真宫 在西山龍頭山西衛孫大同四年八日五井道
尚存
西昇觀 在西山圻村深大同四年建隋大業六年廢
葉超玄捨宅建今廢
仙壇觀 在西山毛公壇側震澤編唐至德二年里人
下宫觀 在西山靈佑觀傍野常
朝雍正元年重修兼長楊記
重建賜今額嘉靖七年重備里人馬熙記後廢 本
大湖備考卷六 寺裏 七
記建云庸時投散於 内建官宋天禧五年 記郡守康孝基
靈佑觀 在西山林屋洞傍舊名神景宫唇乾封二年
深砂寺 在長沙山
· 有专
三峰寺 在三山唐成通十三年建寺有田宋曹熙記
中峰寺 在三山唐成通九年建今名
横山寺 在横山内有雲隱堂
一一一年 了沒 信息達得此則寺在宋前慶元二年 特康建耳
事事 在電山馬期峰下一名文化寺站蘇志宋慶
后师寺 在西山圻村就石壁鶴有佛像故名其

接待巷 高真堂 天衣禪院,在東山翠峰寺傍美樓禪師悟過處明萬歷間系自有太湖沟條常記既像常記即有此遭遭景惶地外令厥 桶香養 具勝若 熙九年建微香閣 建个易名佑聖宫 建樂師殿遠聲閣天啓問建大悲壇俱廢 復建 好有十八羅演像 **烂净因堂** 名此奇卷 在西山洞山上上名 在西山涵村唐太和 在東山平 在西山石公山 在西山後堡 在月頭山大埠里一名 在東山湖沙 在東山西場相傳唐時胡僧建貞元間廢移 在西山福源寺前 在東山白沙灣宋咸浮間都寺丞捨宅建 大湖僧子是大 領上隋唐間建明弘治問重修今 里 本朝康熙問重修乾隆 Ł 本朝康熙間建業者高其生在 本 年 置院本增以病源寺神景 朝 奶順治間 圭 建 本朝康 1 明

翠微巷 極雲養 武山巷 慈雲巷 大悲卷 雨花卷 妙港養 三茅峰春 青龍巷 古雪巷 中重建 改題 朝乾 朝順治五年重建 沙吳國章建雅正間席永動重建前殿吳縣令楊常 洪武元年修崇禎九年重建佛殿山門 今额 隆間重建 在武山錦鳩峰下 在武山西金山 在武山既里渡口一名波元至正間建 在東山翠峰寺西 在東山馬家塢明萬歷四十年建後發 在馬跡山分水嶺北人名龍宋慶元二 在馬跡山檀溪灣宋寶慶元年建 在東山靈佑廟後 在東山茅場橫西明萬歷二十七年建 年重脩今廢 在東山翠峰開帝殿東 在馬跡山桃花灣之東明崇荷十一年里 在東山平頻初名靈官殿 大湖信老大 在東山前帽峰明嘉靖間 本朝乾隆十四 颜 年大殿燈 本朝 建 順治 元末廢明 一年建明 明永樂 問 本 台 本

林屋洞 大如無前去不得穴中高處照不見頭左右多人 前也惟上聞風濤聲又有異蟲撓人撲火石燕蝙蝠禹石函文也闔閉又今再入經二十日却返云不似 名左神幽虚之天洞有三門同會一次一名雨洞 素書三卷上於闊問不識使人 上東北京 近方時限 西達峨眉南接維浮北連代城東 志河有又門東通王屋的東道稱意係教在東當的東通常教王志河有又門東通王屋按王屋好山西垣由縣在吴都西北不應 跡婁地記太湖東小山名洞庭純 使靈威丈人 桂白芝金沙龍盆魚乳泉石燕有石門名隔八郡 名場谷一名丙洞中有石室銀房石鐘石鼓金庭玉 陳春莊立 有后樓樓下兩石扣之清越所謂神鉦是也皆闔閉 古蹟 餘感矣 往宅里猶存陵谷雄選印城未湮憑吊之下不 請歌咏載之志乘况其有後實者數他若哲人 洞天福地何有何無丹并龍宮將疑將信 在西 第宅園亭 太湖備者卷六 建 入洞東燭畫夜行七十日不窮而这得 山震澤編即道書十大洞天之第九 一穴不容人西南一穴亦然並有 塚菓 古蹟 問於孔子孔子曰此 石巉孍木惟松柏 而 Ħ 馬 尹-形

毛公壇 金鐸山 威丈 於此大歷中有人於山上得九石鐸因立九 存道書七 處例引得入潛行二 根旣仙身生緑毛人或見之故名毛公今有石壇丹 林屋之隔沓清虚之東窗衆洞相通七途九便四方 之所行立中記古人謂為仙壇之靈樞天后之便關 證書去山腹中空謂之洞庭猶人 巴陵湖山海經洞庭湖君山有石 [褒澤編在林屋洞之側唐時裁遣使投龍熊祭至 起皆以朱添填鈒題云太歲壬戌時宋建隆二 獲吴越王所投金龍王簡簡以銀製長九寸暴文隱 山居三百餘歲有弟子七十二人聚石為壇遺址 并在神景觀傍令孙楚送問隱遥記毛公道成 交達天后者林屋之真君住太湖包山下 泉流出面 受屋上 在西山包山寺後吴郡志漢劉根得道 在西 在龜山下林屋記遺恭定初民於山下 也 太湖值考卷六 十二福地兹壇第四十九或曰毛公即靈 IJĖ 入潛行二道北通如上高文餘恒津潤四 4 人於山上得九石鐸因立九壇風風山東三里洞庭記吳王藏金鐸 穴個傻幾得 古城 瑯琊東武縣西通長沙 四壁石色青白南壁開 入六外石照磷穴裏如 身之有腧穴神氣 火浒通吴之包山 夫 年 採藻 羅 處 猶 也 મો

维工作 松子洞 蔡仙丹竈 葛仙丹井 墨佐君壇 似與魯公所記不合按此則丹電亦似附會一有經故完為陰真官者戴察經官於蘇杭二郡人太湖情考養大 古頭 作隧道 元年墨佐君於此置壇求仙上有池可半畝前有石 佐君壇 在西山縹鄉峰北一里洞庭實録漢延平倍之常州府志喜仙公煉丹於此養等等時似公氣等 連可置金泉下 俗號墨君 高文餘其下水分南北百步許有地名野摘出茶最 州志今吳縣有葵山鄉盧熊府志大旗魯公麻姑仙壇記王方平 蔡仙丹竈石廣表數十 治田 的多多少一月見自真又接林尾河與遍山相近王編云在林屋洞側即衛家多少一月按按日体有投龍海前皮唐人為蘇州從事最修把事間 住諺云墨君壇畔水學摘小春茶 古稱洞庭無三斑蛇虎雉也侯景亂始有蛇馬 姑往輸之為維所驚因而禁絕自是洞庭無強 在 在西 世傳宋松子先生隱居處 西 在馬跡山西村灣雲居道院東廣二尺深 在武山孔貞行蔡仙丹竈記武山石上 山練漬西一里吳郡志晉王彪女里姑 بل 崦 · 穴園徑如上高倍之能容東新蘇 汕上 丈上有圆穴徑尺餘横石中 二里具區志深二 云有石高丈餘 得 有 銀 兄

越王尤謹明正統中亦有於龜山

西灣沙上

濮公墩 金雞墩 黄公井 納里 角里 悟道泉 白道池 **仏子盟頂** 消夏灣 統之獨南面 多百長姓或一工其後也遭職殊不可晚宣出定漢儲後更隱於此事 遂 里先生本與周同姓在洞庭西山居故以自號子孫 衣羅師於此汲水供衆折擔悟道故名 九 胥誓師處 則其歲大稔 卜居於此故名 里 以為氏後漢有用若权者其後也 在西山上真宫西四里漢綺里季隱於此 在西山角頭漢角里先生當居之蘇州府志角 在西山鳳凰山南一 口 在西山 食螺斬尾將京僧憐而畜馬遂成此種 在西山徐勝塢漢夏黃公當隱於此今井 在武山延 在馬跡山西班灣常州府志相傳有金雞鳴 在東山天衣禪院震澤編昔雪賣演法有天 在馬跡山祥符寺常州府志池産螺無尾舊 太湖備考卷大 在馬跡山張青灣之蘇常州府志相傳 里 如門闕舊傳吴王與暑處 Į 縹缈峰之南灣四十餘里三面皆 灣多魚而產養女 陵世譜季子有孫漢姿避夫差亂 里漢東園公隱於此 古蹟 大 傍

可盤灣 練瀆 避暑官 明月灣 曲巖石剣 聯雲嶂石刻 一般石刻 在西山場谷洞東北題曰淳熙戊戌孟冬此石上舊勒帖文尚存好者情到落模糊一字不辨矣 構官避暑於此 此渡 左金各將軍操作將屯軍於此陳帝伐之積水階城 於此洞庭記湖堤環抱形如新月故名俗稱明灣有 池水旱自若 官演舊傳是王開以練兵洞庭記水潔白如練故名 大明灣小明灣之分 飲馬泉 日范至先同弟至能至此蓋文穆公所将觀者也 震澤編在西山鴻鶴山西二 在西山去馬城不遠震澤編剧問於此秦鹿有 日此 在西山神景觀西震澤編矣王於此築城養馬 在馬蹟山內閣灣武進縣志世傳吳王闔閣 在西山五女墳東四 在西山登高壇南二百步震澤編馬稅為梁 在西山石公山西二里蘇州府志吳王玩月 亦可縣桓也故名 里洞庭記吳王遊湖往 里南 八平湖北 诵

范蠡宅 院里. 莫為將軍宅 隱士葉道昌宅 梁散騎常侍吴猛宅 將軍宅 別傳云隱居於此 於趙新興范蠡它在诸整長山側今為翠峰寺廣志本此而未詳前志東山翠峰寺亦范蠡室盖越中自有翠峰寺乃花數故之按 遺跡指存沒作於 此仙傳拾遺周隱遙洞庭道士自去用里先生之孫 後之別墅耶中記不知何據 山陰人不應宅在馬期豈仕头 所難信者也舊志錐有不敢録 傳書張碩仙婚西青神馬咸河土 按相傳古蹟大半無徵無徵者斷之 以上古蹟 在武以震澤編吴王養馬於 震澤編在西山 (吳縣志在太湖包山洞庭記在杜圻 太湖志在西山世傳隋人 即東山與福寺基 即東山法海寺基 在東山干山積下相傳干將軍演武處 멖 即馬期山普濟 即東山翠峰寺基 西山上真宫基 印 馬稅城南 西山祇園寺基 此 周陽遥學道 油 加 丰 緑石 之類皆理之 以理如柳毅 山 洲 7 洪

麵信陵宅 ム 休寓室 楊少師傑宅 隱士葉超宅 鄭駙馬宅 接心却重買洞庭西山明月灣地管別野存中之一子為通奉大天雄就公早娶軒當而 喬居名其宝為休寓武進縣志又有孫親山莊在馬高室 震澤編在西山建炎間平江知府孫觀龍政 親有詩 學仙得道隋炀帝名至東都懸還本郡唐貞親中名 楚有送周先生住山記 洞磨崖刻有尚書無碍養記 跡山觀自為上梁文 及物非萬來所宜問也後求缺山部遂其所適令於 平江後所居又有道隱園架浮亭當自作記令林屋 至長安問修習之道對日臣所修者匹夫之事功不 な 高陳 震澤編在西山靈佑親東宋尚書李彌大守 蘇州府志在西山夏家灣宋夏元富於居孫 震澤編在東山干山領元王鵬隱居處 在西山元俞仲温築以藏其父王吾先生 太湖備考卷六 (蘇州府志信陵故居在吳縣包山 例記 在武山西金之陰宋駙馬都尉鄭到所居 吴縣志在西山 即西山仙壇觀基 明月等汗道林道建少師名傑 主 .

沈氏園 招隱園 明 明給事葉初春宅 明處士許呼宅 明徐文敏 明修撰施樂宅 明紀善質廉宅 明隱士禁凝宅 明森政吳惠宅 明王文恪鏊宅 西塢書舍 讀書處 親有詩 藝氏 株園 知府嚴經定 奉母 真透園 書築 乞歸築室故居之側名歸休齊 於給宅 蘇州府志在西山鎮下 在東山王少傅宅西少傅季子延陵祭今日 太湖備考卷六 (區志在 在東山西場質廉墓西廣子元忠薩墓讀 在東山 在 在東山施老南震澤編作於官第益是時 在東山大學上二第人稱其所居處為王衛前完後 在東山查灣內有三卯堂以前祖孫父 在西山淹邊有介福堂致政歸構 在東山金塔邨 在東山岱心 在西山 西 沔 山 山 消夏灣洋花初趙節亦種橘 楊 空第 潜 灣 颙 宋里人沈仲嘉築孫 為 元和 圭 靖書院山長 パイ

標紗樓 静觀樓 集賢圃 得月序 仰止亭 祖南巡至東山當 雙清亭 古秀楼 整舟園 悠然亭 【武進縣志在馬跡山内 蘇畦小築 西青小隱 国 避地所居事祭井上久廢僅存石柱今亦廢縣等東 祭康熙三十八年 趙文敏記 判楊黄滌三州 · 職得朱氏線砂樓於樓旁樂室日容舟統名之為發於技工文格分仲兄親有別野在陸提行發舟久蘇為 有南村草堂水香籍飛霞閣於稼軒諸勝徐乾學記 在東山翁巷南席太僕本相購翁氏集 蘇州府志在東山社下里建炎間郡人錢豫 在東山朱巷里人朱必拘築今屬王氏 在西山消夏灣明翰林院孔目蔡羽 在東山陸巷王少傅鳌築 在東山風月橋北里人翁彦陞築今廢 在東山寒山下湖濱贈柱國王惟道祭 具區志在馬 在東山朱老里人王金增即朱氏縹鄉樓改 在馬跡山 在武山吴巷里人吴時雅築今名依緑園 在東山里人鄭登遠築 臨幸 跡 明西青隱士錢孝所居 Ĵ١ 嶌 国亭 西 扭 明布政司李濟祭 間灣元隱士 奎 錢源祭 賢圃

鲁五女墳 **隋莫釐將軍墓** 北齊干將軍墓 飲月亭 望湖亭 婚丧亭 魏司空王 越大夫諸精野墓 水平王墓 名將華公一者葬此有大石碣尚存 湖 王葬處 具禮葬於可盤灣之西四里 丧葬者真獻停縣之地 今名 陸家河有石碣尚存 以上第宅園亭 一界文舒基 在東山豐圻相傳劉氏築今廢有巨石淪於 在東山翠峰塢席户部永勒奏 人父卒女各員土祭葬垂成觸境而死鄉 在西山消夏灣里 在西山兵場里洞庭記王氏五女事父孝 常州府志在馬 常州府志在馬跡山耿灣華家樓相傳建 震澤編在東山俞場一般與 在東山圓極宮前大樹下 林屋民風在西 在西山包山寺西海州的南流 林屋民風在西山慈里 在東山中席 跡山 蔡昇築以供四 分水積廟後大墩即 山消夏灣諸家河 畵 境嫁娶

汾州 尉馬都尉秦儀墓 葉騎門墓 平江府儒學徐圻墓 明隱士葉願墓 隱士金傳二墓 集賢殿修撰王文輝墓 九海道萬戸曹祥墓 鄭氏五女墳 文英殿司諫盛瑄墓 探花許必勝墓 宣政教官吴澤墓 中奉大夫葉程基 制馬都尉鄭釗墓 接無使夏果墓 居士夏元富某 雅斯之位 中賜葬 於京羽店高京賜名編慶替在宋前玩完子墳詞已奏後人誤拍包山寺也上真養二年追言沒有編明的先顧慶禪院即今包山寺接包山寺建 知州許琮墓 震澤編在東山俞場西 太湖情考卷六 震澤編在東山俞塢東 在西山重里見明斯神東明山記事實非傳石公山 在馬跡山墓灣 在東山翠峰場東廟基頭 震澤編在西 具區志在西山仰洪灣 在東山碧螺峰麓 在西山泰家堡飛仙山 在馬跡山大野灣 在武山 在武 在東山白多嶺下程守教教少保 吴縣志在西山徐巷 具區志在長沙山 (吴縣志在西山金石村 ربلد |林屋民風在西山涵村建炎 濮公墩下 بل 一徐勝塢 重 T 7

兵科給事黄訓墓 在東山長於西按察司副使丁致祥墓 平江府通判盛岫墓 翰林院庶吉士吴文之墓 廣西南寧府知府蔡蒙墓 湖廣布政司使李濟墓 贈巡無陳溢陳文與墓 過太僕寺少卿福建左布政使吴陽墓 湖廣辰州府知府蔣韶墓 少傳武英殿大學士贈太傅諡文恪王鏊墓 封少詹王朝用墓 昭勇將軍徐良墓 山東巡按泰伯齡墓 翰林院修撰拖紫墓 廣西右泰政吴惠墓 池州府知所鈕津墓 山東臨湖今王滕墓 武教將軍察及瑞墓 深家山嘉靖問遣官營葬邵文莊野誌 太湖備考卷六 在東山長圻 在東山蔣塢弘治問遣官營葬 具區志在馬跡 吴縣志在西山金石村 在西山明灣 在東山偃月崗楊文定溥誌 在東山翠峰場王少傅鳌誌 具區志在馬 林屋民風在西山慈里東校 吴縣志在西 在馬跡山 在馬 在武山 在西山 塚墓 在西山消夏灣 跡山 在馬跡山路青灣 東村 後堡 桃花 山即被 西 山 跡山 金 在馬跡山 祖父 園寺廢 在東山 張

本朝前太僕寺少卿席本前墓 淮揚巡撫路振飛墓 贈遊擊將軍蔡人龍墓 副總兵前萬裕墓 詩人葛 廣東祭議賀泰墓 杭州府經歷王銓墓 代府紀善賀廉子雲南副使元忠墓 管事府左春坊左赞善王弈仁墓 贈侍郎徐潮墓 峽江縣訓導葉具瞻墓 吏部員外郎王就學基 湖州府知府勞遜志墓 舍人吴伯尚墓 南康府知府姜節墓 彰德府知府嚴經墓 主事蔣之級墓 廣東愈事鄭準墓 在西山金鐸山 一龍落 在武山道巷山 在西山後堡 具區志在馬跡山西青灣 在東山白沙灣京中台通四川藝州府萬縣 在東山翠峰塢 在東山紀草 在東山曹塢 在東山法海場錢謙益誌 在東山查灣 在東山俞塢 在西山陽塢 在東山白多旗下 在馬跡山內問灣 在西山支頭積左 埃及 在東山澗橋 在東山陸巷 西場

謂之發月家家閉戶不相往來 種 以蠶養為務地多植桑凡女未及洋即習育發三 湖中諸山大极以楠機為産多或至千樹質家亦無 衙烈婦墓 沈烈女菜 字正是生金碼菜 無二三矣 諸果無不種養 再補種也然以花果為生者首宜於土凡桃梅東栗 今橘產甚少盖因此樹最難培 篇次來死之後 風俗 . 惟西山尚沿舊俗東山則好逸惡勢育蠶之家十 豈猶爾乎移而易之誰之責數 靡不到 買為生土 風氣遙遷俗尚亦變往時山民气楼實而偷勤 上塚墓 在東山天井灣 在武山 有數年不歸者 在東山干山積西黄泥 在東山湖沙 一狹民獨民生十 在東山 Ł 块, 即挟對出商楚衛 砌 Щ A

能泅 以舟 丹楫為藝出入江湖動必以舟故老雅皆善操舟 亦就資 水 湖船户而言山人 不盡然 业 1

心不古習俗日偷告之所無今之所惠矣甚至衣 無淫冶賭诗之肆

而絕 有司奉功令嚴捕犯法者重懲之而其根株不可得 也

冠之族祖既呼盧濡首決防雖與毫不擇與同坐食

|其民勤有蓄干金而樵汉樹藝未賞 太湖備考卷六 風俗 7

富

而

亦解茅茨之室其冠服樸尚時制之中雖樵汲耕種中 其屋宇固盖因湖中風雨迟疾墙必報覆必瓦雖貧家 ·勤俗之美者今不以為美而以為 耻 矣

用者亦少 不去首世俗所戴髮情紗羅綺麗之衣不用近時雖有 个則人貧世富庶人之妻多用命服稍豐之家室用

其婚丧儉而少文 獸頭循分者三致歎馬

其不能往往親死久而不葬嫁女之家感於婦言必 今則丧不師古而繁於俗禮富者既於其侈質者配

> 凡 兄弟析煙亦不遠從祖宗廬墓水以相依故 同姓者至數十家或數百家往往以姓名其村巷馬 以嫁女娶婦皆近村比境如古朱陳之類以上是實籍 今雖有嫁娶於他境者然亦甚少 者陸然結有觀葬觀嫁二詩以晚之 今則生齒日繁因貿易而寄籍他鄉所在多有 饭 時期 那一足 又棄産稱貸以 益之 此二 事感之甚 村之中

尤質居者力耕行者服買将閉少争訟稀可望家給 太湖諸山西洞庭較東洞庭稍質而馬蹟山較 而無不測之憂若東山華屋康衛熙來獲往有樂十 西 洞 庭

太湖備者卷六

男女合婚大率以門相為重而無決於命卜 禮頻繁費 亦有不用命卜者謂之天婚其婚禮有求吉納采納徵 氣象然罵陵靡敝之習與城市同風矣 調之 合婚

墳墓擇地亦有惡於風水然無暴露火厝之風 遺之凡來明者皆復以布帶例作佛事

有丧之家始死凡

有服親

旅各送

白 布 同族

則

製布

兴

紙錢道路不絕 寒食祭掃錐販夫 俗之美惡諸山 互有不 走卒亦所不廢自首春記改火壺漿 同 獨 西 洞庭湖

7

若有犯者依律决 痛恐按律 祭先類 疎無 所云 物産 撫 澌 粒而更張之 事其讀書明理 男女之別山中最重成屬自伯 播海内亦足表湖山文獻之盛矣 篁搜輯七十二奉足徵集姓氏凡若干革詩文凡 他. 而 ıŁ 取婢僕嚴而 處無此嚴肅 湖中 植吳思復葵 亦 水秀蜜之氣 悉時能吟弄風月歌咏昇平其傑出如俞王吾張 一者皆矜尚名節無欠錢糧舞刀筆貪縱首且 不役其子孫然名分百世不易也 無取其有珍異也花石綱之擾雜實名之宜於 殺 -E 公男女 )也其不 角 故殺子孫者徒二 Ž 太湖信者養太 俗 Ь 地 無 斳 私發為人 之效數 、道期年之後此風當革以上見具是志 有恩婢至二 小 別尚簡數玩概不中禮士夫家當改 疏數惟意且不遵考亭四代之制 业 九達葛震甫諸人莫不聲 由科第而 To 将故物產甚寡產亦無珍異然 文非特科第之盛如震澤編 風俗 年為 以詩文鳴者如近 一十無不嫁者僮僕及身 叔兄弟外 民 Ł |者宜條默曉示 圭 小概不相 重藝林名 日吴友 Ħ ودا

がえ 就之 麥之屬 稻之屬 \*\*\* 沉雲黑又骨憶雕胡飯宋五賦主人之女欢雕胡之飯同禮六穀絲攀禮賴思草菱款茶即以其總結子如米色黑可作飯名誌朱一名雕胡杜錦波漂自鄭舜五始震澤編土茂不載蓋是時尚未 産也 · 可如小兒寶謂之黃白張山之南湖濱東山尤盛初山中人未知食蓴食之上人出東山茭田中心生臺外有鍋盛者其上不可辨食之損人向出三泖今出太湖中西山之消夏灣東 今四月王爪生即此又爾雅疏的歸站一名了爪丁亦以音四月王爪生是也三月生苗其是多頭結子如彈丸生青熟亦根如活葉作土氣澄粉等白購月之人不後北人避石勘諱改呼黄瓜今俗以為即月今王爪誤王瓜上派也東八人出東山者住貨脆而味甘本京作胡川注曰張霧便西城得極故名朝 也管子謂之羅勝今 東山前場者住 梁孝次註於雅朝年 出西山竹鴻翁 禁並如級股亦名等緣味甘滑最宜笔费三月至八月皆可食盧熊府忘云秋馬頭山,是種性於九月中名寒露菌味美而無疾者一九上味生水中兼似鬼 三矢出東山省馬東中西北西西西北西西北部 上春初前茅是二三寸色縣徵黃味最佳過此則不中食 黄蓝山 小麥 粳 梅雅得小果你是歌詩了一群美充就不依成熟也實者為異美隆故省通工主以上諸董山中人皆取 計之田地山藩其五萬七千七百餘畝內種稻之田止四千一百餘畝以四枝民以食為天食以穀為主而穀非田不産山中之田可核者少如以東山東 不山武山馬聯山長沙山衛山餘山並無 山三種鄉少於賴和久少於編出東西雨 千一百餘畝所產之数供二萬餘戶之食足乎不足乎官如縣縣柳食 食 竹 福艺俗名延離並謂 時熟故名 題 遇山荒死七不免因物產而論及之使賢者知山民之難食也 相 麥山中春 戴都種菜以 利於用斯為貴乎 並 

果之屬 花之屬 村路合造游時園丁俸架消費人皆作典 上 人種於田其産尤多無此其俸者許小仍俗疑蘇軟持禁本責人 五人出東武三山武山 住 村心二種 播天下自明天今屋遭凍毙補植者少品亦称下所在家家矣 一十十出洞庭庭不香唐代充黄白居易刺蘇州有捷商稿詩古人於為上品名 一十 共都志 人呼為入角楊梅出桃花灣陳氏山龍他庭別無 一才紅是也本草云 橘非润薄有一種色白如玉名曰重桃久一種形方有棕土 荷出東西雨山所 謂洞庭 於柿蓮中不數宿而柿皆熟謂之典梨一才,於核者出東山西塢味量住馬雀也有一種水木不中哄什置一二枚見如其出東西雨山及馬蹟山有一種 云出東山之行沙紀草人自於在潛所編矣不可如能眼大即以若要之防扁其實差小而獨核者名全黃繼銀官雖舊之以出西山馬所山有數種凡報站 梅 格名花紅金 · 長者名佛手出東西两山谷本館 一名時服子質目才之里 西及獨果州皆產悉出洞庭下今此產幾少 才者名蜜橙 丁東山西將者東西兩山機構銀而品特高香味起勝浙東江 经皮布亂的大 更出東西南山 梨宴,我不餘里一堂不免為夏月奇觀,不見達花同花不香枝其葉要之為有十里,可出東山野山下南湖紅香十多,見達木似桂花如茶子大色狀 為上有一種實小而皮赤者名朱糠有色無者品為下人一實大者如瓜霜樂皮藏而至春發香者名春樓以斯大而狀有四凸者人人爾雅謂之林其 杏香清供出東山 古齊清供出東山 文把云两角曰蒙四角三角曰葉今太湖所產多四角 章本後等香特甚可為。出西山消夏灣東山白浮順武山朱家港王民武陵董 辛芬似尚是中向無此種順治間東山前漢津島雲南河西縣今携婦後 在下東山長圻豐圻獨與一不與於電山之之陽河 之之竹根積 千山山安站山皆有惟西山後祭鎮已出山皆有隐蔽不常今 了今经外東山一月頭 分之今有一二十本而沒來之初相 呼為入角楊梅出桃花灣陳氏山龍他成則無 星利故武山之 個田者多種水及至業主索祖無米以應往往通大利歸於沒種水之利厚於種稿不熟一到也搞成而即種菜二利也半年之中兩種 ,所有珍為奇心弟花不結子根無前并欲傳其種不可得好事者以過校 水奔之使教益少而 民食益寡也宜加懲禁以教本計 何而損及 案主其事尚微獨奈何以有限之田又以種 不是種 海上的東北縣故名本草作扶為歐木洋於是 林梅有好味中的 神经元 美国有名山军际出来山北景至白篇林梅 期二物皆出東 美 有生俗华為野難正 秘察院出武山村 本而以甘出東山豐圻水一本南黄白三地最美者名水明,此佳者名櫻珠時间小比四,出東山 長者名佛手出東西两山 人 教 第人細皮而早 於右者名秋一名鸭脚子實團者名関珠丁 表出東西而山色黃形調古芬 巴)出東山着作

到信之关郡志謂兴王孫權江行食鈴素餘化虚嚴刑志云記說與傳記不同 京不及注照府志出吳江長橋尚者四股味美而由緊出吳前與國國之 東山區以東西即使與四門者不同按長橋軍 京北東海田門三門花庭二說相反未詳敢是 東山東山魚地多喜此二 東山區以東太剛相接故湖中亦有韓江魚四艘湖魚止三門味報 東山區地區的財政 魚 海 海 河東山泉地多喜此二 東山泉地多喜此二 東山泉地多喜此二 酒中 出名金頭級公元良出前污 學 以出東山者以有一種黄頭者 以出東山者以有一種黄頭者 计黑用以煮飯的脊精飯也子則如椒冬熟味甘熟膏食之益毒亦可 與四兩山馬斯皆有之葉如茶味亦相似土人 採製尤茶名黑飯草葉 文 出東山南湖白菱田以西遠至長圻湖建皆是夏 ·好豆鲜紅可爱藏久不變事 天以市湖南各郑维皆來販衛之一大一樓子本草一名鳥犀一名縣刀才走 是一種小者名棒絲漁人輸之以需盛行於浙省諸山中衛一年,如松江之勢產也一種小者名棒絲漁人輸之以需盛行於浙省諸山中衛一如松江之勢聖是頭而快腹背如刀故名俗呼為刀勢又名湖跡別於江東 數珠放謂之菩提子東山高拳寺有一本 然 三素似槐實似皂炭炭中子似也與豹方今往名於極質如彈九群家取為工 三本草名相思子樹高一二丈 坎出游湖中形似而味不如鱼, 上東山南湖笑為者是住 五角角角角 白魚業民避暑錄云太湖白魚質过天下是人以芒種日間品面一名新 山杨灣養民堂山有一本 似名山今俗稱鎮魚冬、 月帶子者名挨水嘴 非二種也試觀春後銀魚盛出之時山時小者未大故無輪残秋間論致發 法賴魚館發舊意別為二種愚謂銀魚和館發之小者館發即銀魚之大者 太湖傳考卷木 物産

的是 等多 医	新日出西山撫等及復建及,在出東山山中婦女以後等為女紅用之一,與紅以山山中婦女以後等為女紅用之一,與紅以山山東山山中婦女以後等為女紅用之一,與紅以山山東山山中婦女以後等為女紅用之一,與紅以山	京 郷湖 多 事 は は か す は は は は は は は は は は は は は は は は	成山 東省 大湖传考表六 物盘 宝	出馬丁山民進志中山素有三十八绝之為為歷間里民軍發開時據記記之/風面	対同をは火災がEL出東山公 見網取之俗呼野鴨種類不一最小者住名私頭肉香の背原 見出太湖深秋方來集至冬而盛在荃飛而過其数千篇情者以 引之 屋	作色黑辨之味为不中食 以後有子有育而美 太湖中有之外大大湖省大而色黄被坠膝於 口 段色白而放散薄梅而正古两登水今然 出太湖省大而色黄被坠膝於 口 段色白而放散薄梅而正古两登水今	明尚也以以漸而大之一路 詞我以為實錄盖指各月之 詞我以為實錄盖指各月之 明之子交奉又生又以漸而大罪宗言詩笠澤銀魚是一尺人以獨奪 對所滿之子交奉又生又以漸而大罪宗言詩笠澤銀魚是一尺人以獨奪
入社 大きな 地域	新生育之而西此 為業 新 輕和 新 輕和 新 輕和 新 輕和 新 輕和 新 輕和 新 輕和 新 輕和		不是	婚権	於 動 所 高 新	太潮中有之	人人以為李

	太湖供考卷六		石之屬
人 奶车号色 物产	大		市一元 灰馬州岛山墨山三山省 産採用同而色野 達於電山 火石山 指一大人民民州岛山墨山三山省 産採用同而色野 達於電山 火石山三緒之口
物方			用同而色質達於電
			火石造赭

史 225-129

中國信陵字宗朝針型江縣令 详序 一班數信陵字宗朝針型江縣令 详序 一班數信陵字宗朝針型江縣令 详序 東許 公勝字克森北世至顯謨蘭侍制 東許 宗 於勝字字秀王摧知制語後所言謫知汾州 東許 宗 於勝字字秀王摧知制語後所言謫知汾州 可	他仕載若在選舉之外然其然王臣而 勞王事則	月上推台至是最之小火,其為正至而於正事月人次貢士又次之以薦舉議钦而選舉備矣至於 里選之所及也代不乏人何可無志首進士次舉率土之濱莫非王臣湖中之山雖彈九乎亦鄉樂	太湖備考卷七 東山金友理纂述
--	----------------------	--	----------------

中二年己未倫文叙榜十二年己未倫文叙榜中八年工程 翻字字符 詳傳工標三年 戊辰吕楝榜正德三年 戊辰吕楝榜 五年甲戌居 其傳 九年甲戌唐 事榜	平 大 大 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木	東行己公字澤具 許傳 東行己公字澤具 許傳 水子 海宇德深歷官湖廣布政司使 馬李 海宇德深歷官湖廣布政司使 馬李 海宇德深歷官湖廣布政司使
---	---	---

李南街着	本 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京
------	---

二十八年與成難敬榜 四十四年內辰錢士升榜 明清之年戊辰劉若室榜 或為達夏字學明歷官院內泰議 中年丁丑劉同升榜 中年丁丑劉同升榜 中年丁五劉同升榜 中年丁五劉同升榜 中年丁五四十二年 東京清清寺書中 東京海灣等市湖城縣別縣有惠政和名官 中一二年 東京日宮榜 東京日宮榜 東京日宮榜 東京日宮榜 東京日宮榜 東京日宮房 東京日宮房 東京日宮房 東京日宮房 東京田宮府 東京田宮 東京田宮 東京田宮 東京田宮 東京田宮 東京田宮 東京田宮 東京田宮	時天 陽字帶 #傅三十五年丁未黄士俊榜
---	---------------------

東京年丁未繆形榜康熙二年傳止人股鄉會就專用第論表判分本作工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	西蔡瓊枝字院森歷常浙江温台遺 西蔣之級字亦且而序中式刑部主事 東周而淳字若公户部主事 東張延基字境九四川石泉縣知縣 東張延基字境九四川石泉縣知縣 東帝勝暉字宣佈福州府推官有治行士民德之 東徐勝暉字宣佈福州府推官有治行士民德之
--	--

東京清縣學 其傳	時許道中府學所來的用於 十二年甲午科 十二年甲午科 十八年庚子科	六年戊子科 英東字宗他府學江西上競縣知縣	水樂元年癸未科壬午六月計學兵至是年補故事 慶中孔常湖廣安隆縣知縣建文元年己夘科	東共 申字屬時刑部事	四年已未在有老榜四年已未在有老榜
----------	---	----------------------	---	------------	------------------

史 225-132

成化四年戊子科 東東 作武功衛籍已五進士 東京 海府學已五進士 東京 海府學已五進士 東京 海府學記五進士 東京 海府學記五進士 東京 海府學記五進士 東京 新	電子 情字起語長洲縣學江西安盗縣訓導學、一年一次 是字元愷縣學江西南安府教授 中央 医字元愷縣學江西南安府教授 中央 医字元愷縣學江西南安府教授 中央 医字元愷縣學江西南安府教授
--	---

	西陸端字斯立縣學高吳和縣十二年年十年	東東東四縣學湖廣浦圻縣知縣	21-1	東姜 節字均修縣學歷官江西南原府知府	嘉靖四年乙酉科	西京 台縣學平已進士	山嚴爛字本之縣學	· 八年癸酉科	太湖僧考若甘	為李 孫字用之府學	山子文之縣學幸已進士	一東黄 訓縣學用成進士	五年庚午科	<b>頭陳 瑷宇县王府</b> 學	正徳二年丁夘科	廣丁·文祥·縣學及展進士	東土、及府学蔵丁湖東郡山縣知縣山山村、谷	十七年甲子科	山徐 将智守衙籍乙五進士
--	--------------------	---------------	------	--------------------	---------	------------	----------	---------	--------	-----------	------------	-------------	-------	-------------------	---------	--------------	----------------------	--------	--------------

史 225-133

東許元弼字仲及府學飲州府通判	東上大方和東六合縣籍丁兴進士	七年丁夘科	武 剪達 夏 艾思院籍成長進士	天啓元年平酉科	馬徐復陽縣學的長進士	馬午鼎臣府學丁水進士	三十四年两午科	馬吳 場府學丁未進士	馬錢聚議字行素府學	太湖備考卷七 選事 上	馬陳客護府學原成道士	三十一年癸卯科	東卜有微字伯符上元縣籍	山陸萬里 中華縣原學核真 評傳	二十八年庚子科	馬到一次字黑和恩真非榜山東恩縣知縣	二十五年丁酉科	· 八金田 / 一二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	馬大 雲龍 宇伯從縣學	東王 再於榜名作長洲縣籍政名馬聲中己田道士	
----------------	----------------	-------	-----------------	---------	------------	------------	---------	------------	-----------	-------------	------------	---------	-------------	-----------------	---------	-------------------	---------	---	-------------	-----------------------	--

本朝 吳伯尚縣學 癸未進士 馬康 內 過點學 癸未進士 斯李盛時守中平府學 馬錢國瑞字明山府學湖廣體陵縣知縣 崇禎三年 庚千科 順治二年乙酉科是科山順天鄉試 馬丁 车府學丁丑進士 馬徐騰暉府學長進士東李 敬江軍籍丁玄進士 東施鳳翼法等縣新木朝丁次進士 山西 劉 山蔣少級徐州籍本朝丁亥進士九年丙子科 廣北 起交字文台縣學如真縣學正廣北 國首字於元縣學雲南高明州知州 第 旭素川新丁亥進士 十五年壬午科 改 江 筆籍丁 亥進士

五年戊子科東京 一年 中午科東 一年 中午 中文縣學 是 三十八年 中 八年 中
--

班上年日西科 上年己酉科 上年己酉科 中席·枯智宇惠新本姓席拜子浙江銭塘縣学 中席·枯智宇惠新本姓席拜子浙江銭塘縣学	五十三年甲午科 五十二年東子科 五十二年東子科 五十九年東子科 五十九年東子科	東王亦仁於江籍景已進士,東在北京在於江籍景已進士,東海路庭浙江春春縣學乙末進士,東北亦仁於江縣景已進士,東西北京在於江籍景已進士,東西路路庭浙江春春縣學乙末進士,東京	東部一棟守近公園學个任徽州等派職教商山門根緒守品医松江新
--	---	---	------------------------------

古東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山東山	東東東朝	陸港港	中華 黄 雅	東山西山西,陸陸	東山東王	李 蔡 陸
古貢士心本蘇常二府選舉志編次其有選舉志東班 養 大村字魯望東陸七年松江府學山 張茂初字魯望東陸七年松江府學山 嚴茂初	東京大阪衛工六年五百到榜兵江縣學中京大大大學中文大大學中華大學大學中華大學大學大學大學大學大學大學大學大學大學大學大學大學大學大	起字公祭崇祖六年葵两副榜	山茶雲程字萬里萬歷二十二年縣學山西太原府訓學山本大學院守伯徵萬歷十年縣學浙江於潛縣知縣山黃門	公子臺甲星型三千分野工两句题系列第一个公字共平数之子嘉靖三十六年 縣學 詳傳	東京具磨字子發嘉時三十五年府學江西峽江縣訓導中王、我字子範本姓張嘉時二十七年府學	九字潔之嘉靖二年縣學廣東部州府推官 司字九達嘉靖元年府學 評傳

山山 八字 三四	大湖情者卷七 選本 大湖情者卷七 選素	東美智嘉靖、禁宗魯、曹士完如今仍具區志所載不敢妄刑另列如左,所不成者或係外籍失考或係例貢不列均未可
----------	---------------------	---

本朝議 敘 本朝雍正問 山東山東部蔣 山東 鹿正司 きり 不長士東字二白松江州學原育乾隆問由教習今任四川己縣知縣一年 正 已字及人雍正問以平苗功由守備改思施縣知縣隆梅南府知 一切大了」字教仁康照問由書館投山西岳陽縣知縣 席紹保守宜民就隆九年山書館今任府西全州州同 殿一字公著宣德開以文學泉歷任定尚長山二縣丞有政學 于 豬之父永樂問以文學來歷官左春坊改梁府紀書 ロナニ 宇維善宣徳間以賢良來後長熊縣薄有養政人構為王佛子 文字仲雅洪武中以秀才 東 校順徳府那京斯簿 勝字然先洪武中以賢良水 隆字惟俊本姓前田監生樂歷任山東 思縣曹縣知縣 少少字前先復姓席由縣學來今任山東 海宫州知州 語內外大小臣工各舉所知修潔通敏之上東山二人

東王 振洪武中南京府軍左衛打揮子面嗣
上海察良
明
張·曹 祥海道第户学清運事
元
附武職
東嚴威字的清江寧縣雜東照丁未進士两西區原東非
周
山徐清方崇補間果人年分無考後從史可法守淮楊成於陣西
大湖備考卷
東一司官公今年雄御臨清州籍崇福两子科丁五淮上四官南京大都場中
東主 見里 字漢外錦衣衛籍崇祖辛未進士納科 無考照官奉京於部無
馬長 淑天心甲子科大河衛守備
人
尚義 萬歷廣子利永生外洪學會
斯子 价 萬歷已卯七酉戊子三泉
田)正德初始行衛試鄉科有一舉再张三舉之制
武科
東南名立一字思南於西部沿籍廣坐改照写照東哲十二年日書食会在
東大名及与原望軟體一外日書会今代公正審到其原司
こうにした 日日は日人主工り方と東京区

蔡朱	東王教字亮某本姓朱俠西合水縣典史	東部邊家字過光斯江龍将蘇與史山府一致字景伯工部都水司郎中	中朱、五字俊我殿學例育歷任懷这縣訓草浙江景家縣知縣	東午维约字表編歷官山東曹州知州東午八高字先受縣學例页歷任金壇訓導煙專教論改福建南平縣縣	中 男守王洞廣西桂林府通判	東美建洪字目華湖廣寶度在於京	中美立煎字元功浙江蘭溪縣巡檢	席姜立	姜立廣木	東土工工字王書縣學原資歷任賴榆太湖一縣訓導東金土工定字天中永寧州州判	東部天章字漢洋雲南河西縣知縣山, 郭天洋守元至河南開到府同知東
`.			<b>联知</b> <b>基</b>	改福建南平縣縣							

明	東部 一大字 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
---	--

マップ・ファブ・	以明莆专长七	山然一時学出生號雨亭乾隆十三年正月舉	西於推禮字月日號友松康熙五十二年十月東西於推禮字月日號友松康熙五十二年十月取	姜森王字字尹號是庭貢生乾隆十二	東部之務与和生號空味就座十二年十月舉	大羽備考卷七 鄉飲 主	東徐履中字名正號約齊康照四十八年正月裏	東臣子直字天立號卓養展照三十年十月與東席本久字仲遠號楊養順治問俸舉	本朝	東張一本字斯植本姓沈嘉靖問舉是年復好	<b>馬班國審字結元號並所三來</b>	馬午櫃式字作水兩舉	丁	丁	山陸 治字叔平嘉靖附而舉
----------	--------	--------------------	--	-----------------	--------------------	-------------	---------------------	-----------------------------------	----	--------------------	---------------------	-----------	---	---	--------------

史 225-140

國子助教宇文諒並主其家故颙學有根柢尤長於葉颙字伯昂父國英倜儻好結納名士儒學提舉李祈 明 Ŧ え 太湖備考卷八 詩酒佯狂自恣竟客死長與母志 荡然故人 **蘊挾策走燕京會天下亂流落凑毫間比歸而家室** 一鵬字九萬博治經史隱居干山之 詩元季中浙江行省鄉試署和靖 顒钦薦於朝題曰時去志違毋庸是為也乃益放情 馬至正間後之不起著有無山集震 其人之生平乎今做蘇州府新志例分記以山差皆宗之具區志則概後分著二字之褒果能集括 物 次以時不別於列名日惟流寓另著總附於後非 列傳創自遷史所 山所產故不分記 耿炳文以討張士誠功 分著者無多後來作史作志者 人物 東山金友理纂述 封長與侯道人格 北葉伯昻當從學 書院山長不恨所 友珆 校

施禁字宗銘本姓吳祖贅於施仍其姓正於戊午已未 吳惠字孟仁宣德丁未進士山中人 賀廉字以清遥於易水樂癸卯中京開第二選授連江 無子以弟之子鳳為嗣府縣空命 **單言若不出口人** 傷之祭早丧母事繼母無間言少年取高第過鄉先 連捷廷試第一授翰林院修撰時年二十三旣入 盗計遂解修仁荔浦搖撞數 剽掠道梗惠名諭以威 林日讀中秘書力學寫行為楊溥所重踰年平天下 賦詩子懷字鳴翰風流俊逸詩文清麗尤工小楷 遇事敢為居官三十年田盧不改其舊家居惟飲酒 車親抵其峒開誠慰撫蠻遂服武岡州盗起宣言推 蠻結湘 苗扇亂臺司議進兵討之 思請先拍諭乃單 福自是不為害在桂林十年陞廣東祭政恵性 義寧峒主為帥義寧蠻畏惠其主楊文伯等出自訴 自若為文祭禱風頓息使還權桂林知府時義軍峒 中易學之威皆其淵源府志 終福建按察司知事家居以經義教授多所造就具 縣訓導姓代府紀善為人簡嚴以直件時故官不達 奉使占城沙海遇風風同行者倉皇英指惠神色 太湖南考卷八 以此多之門人 人物 私諡曰莊傳先生 登第自惠始授行 慷

陸俊字伯良狀貌奇古行事多近迁然好義任俠 賀元忠字澤民無子成化壬辰進士授行人推御史 Ŧ 賀承宗字宗振其先自蜀徒 道若不聞乃榜之通術人皆笑之其後馬甲得除田易稱無間寒暑行坐寢食得一字即起易之陳於當之制鹽法急流滋多她其禁盗自息其書數千言屢 朝用名玩以字行致行為學界試不偶以貢授 北各復其其子官田稅十民田稅一均之 習技勇為守禦備縣境教學會子整登第遂致仕 先為馬甲深悉其宣曹草疏擬印閣大意謂南 膺封典年八十五年春 習技引為守禦備縣境教寧會子鏊登第遂致仕歸生變欲焚林誅逐流設法招來生全無算又擇民壯 縣知縣自劇城劉石之亂流民盡通竄山谷臺使 其禁成化四年舉鄉武第一早卒舊府 不虧而民不因錢久不鑄且站宜復五銖錢備 進承宗隱居教授博學多聞尤通五行家言孫恩字 功言者實採其說年八 人習馬南人 人為馬甲太宗權時之制也宜令南 吴父公宣學行為 補雲南副使備兵金兹時 十四卒子奎醇謹孝友 )則國用 三吴先 其家 训

王鏊字濟之號守谿朝用子少遊府學成化甲午七未 木 坤 受諸蠻為作却金真山人 朝廷威德事且就緒 惡食終其身卒年七十八子泰字志同弘治已未 詹握吏部右侍郎省奏陳邊計言昨火節入寇邊將 耳東宫出閣送正人為宫僚命整無左論德尋轉少 遊田反覆規切帝為動容講罷謂廣日講官指若 充講官中貴李廣道帝进西苑鏊講文王不敢盤於 鄉會俱第一廷試第三授編修弘治初選侍請學士 歸府志於足微集 杖罷歸後起南京刑部即中累遷至廣東 士官御史時武宗收京師無賴及官官厮養為義 網當言吾知有國法不知有他里居二十 著汗青空山誰 心所以 **皆要城固守** 乱政功罪不明委任不專法令不行邊園空虚此 邦孟 Ħ 草亭元忠執孫堅定而目嚴冷在臺時獨持紀丁青空山誰勒使若銘解金又復同楊震留取剌 而賜國姓者百二十七人泰抗言其非帝怒子 養果共相攻累歲不解 IJ 大湖情之表人 懈 無 人敢當其鋒者臣竊謂今日嬖俸 加 以病气歸滇 以不报 朱鳳章有詩云吏動 也望陛下大奮東紹 忠躬胃瘴疫 人醵金以虚 .07 四年放 如 祉

街尚書韓文必欲殺之又欲以他事中健逐藝前後 忽中變夜部劉瑾掌司禮大學士劉健謝遷相 慕邊方驍勇之士用問 權起致仕尚書秦紘為總制節制諸邊提督右都 **召大臣詢邊將勇怯有罪必罰** 為 力救得免或惡楊一 部 起左侍郎與韓文諸大臣請誅劉瑾等八瑞事幾定 如 致勝寇必不敢長驅深入從之又言宜做前代 名激變時瑾權 公論命鑿以本官無學士與芳同入内閣逾月進户 内 典原整疏制上 及焦芳專事婚 とく 如故事林居十 激變上官罪死黎日本猛但遷延不行耳未叛 國偷邊安得以功為罪瑾怒劉大夏逮至京欲坐 閣止李東陽一 博學宏詞之類以收異才尋以父憂歸正徳元年 林 [書文淵閣大學士明年加少傳無太子太傳 四四 二年疏三 坐鎮京營遇為聲援厚恤沿邊死事之家名 傾中外然見鏊開誠建言間亦聽 一上許之賜至書乗傳有司給廩隸咸 講學親 阿瑾横彌 四年世宗即位遣官存問賜金幣并 人瑾欲引焦芳廷議獨推鳌瑾的 清於瑾謂築邊太費整 以携其部曲分兵掩擊出奇 政二篇帝優部報聞官 人物 甚毒流縉紳鏊不能救力 有功必賞專 主将之 百 制 從 何 瑾

王銘字警之文格鳌兄少隨父任光化歸 施鳳字鳴陽脩撰蔡姪勤誦讀能文章倪文信為南京 詭者 唱和有春社編王中舍集明史然共區也 rþ 養母告歸為人温厚醇謹舉動一 著性善論 隔雅 子永蔭中書舍人 高所著有夢草集四卷皆與兄倡和作也具因为 製詞以贈有輸與伊人一着馬之句因顏其堂曰遂 夫直夫喜曰從否造者多矣好古不同流 禮部尚書以所業往見文信為馬為介於陳御史直 市號口安隱弟銓字東之選杭州府 慎家 以病 徒 訓 -書舍人嘉靖三年復詔有司存問未幾卒年 人鳳益潛心理學歸兵提學御史戴珊敦遣入 闢 ·議論明暢當作明理克已二箴以自 舉義後數典鄉試程文魁 聞子祭葬贈太傅諡文格鳌博學有識鑒文章 園整池養魚種樹食質碼行不以干人孝友 辞錢學士溥 一切屏去弘正問文體為之一 華旨化之 人太湖備考卷八 王守仁見 兩奉命封藩贈遺一 とん 初 之曰王 經明行脩薦亦不就於墓所投 鄉有在 人物 公深造世未能盡也少 悖數犯鳳鳳不校益厚 與家訓與名派 代取士尚經術險 學季了延 經歷不 六 無所受尋 山後 低碼 俗 惟鳴 赴 絶 ~ 陵字 晚又 文格 跡城 試 相

桜 敬憚飲跡時流賊被捐所至殘破 頌神 敢 淬勵學問弘治丙辰成進士授南京刑部主事歷 給逃徒後業郡有疑獄歷二守不能决經至立 裁荒早民多流止經編壽草田隨車至又發原販 外郎中見事明決擢知古安府丁憂歸補彰德府類 經字道卿少習贾先達好元忠一 怡 Z 犯 /其人卒悔 然終日王鏊為作東岡高士 績最當達會等鈴曹某向過彰他悠經無親 明藩府以宴魄女然岭却之自是藩王 攻晚構 亭於松 一傳府志 竹間客 松經修埤繕甲城~白足藩王以下 見守之事遊 不 相 與宴飲 剖 京 밥 潰 不 詬

**吴應張字希關明達有幹畧吳中賦** 張以 田 虧 應張踏勘應張躬履献畝分別上下并查匿漏飛 值知府王儀倡均平之議檄下諸州縣邑令周寵委 有租無稅 文著有天隱子集府志 故 石 抑 祖以資賦長至今蒙其利年七十二而卒縣 民国除又糧長最苦差解輪當者無不破家應 公田之策上 رد 俄以病致仕歸六年而卒孫果字毅之能 者悉録以獻分輕重則均輸協辨國課不 知縣宋儀望通區 人物 役不均 派出干金置義 久為民 困; 詩

張本字斯拉摩而失情鞠於祖母劉教以孝弟節義之

復夜至問主

能飲乎曰能能

英平日

能

坐斗

朱良佑字太和好為

解

紛

排 難

有恐仲連之

風

酚

恃 開

汉

耶其剛介有如

八上外様志

既嬰疾升復構金至訓

属静比

日吾即死豈以是

污

格不凡頗類其為人在兵垣時有武升銀千金却之 幾病卒年僅三十三訓才高意廣為文奇偉宏壮

無恐時海忠介公瑞為南

都御 行過

史鐵面霜威鋤擊臺

其酤

坊

F

之意釋

坊於金陵與賢豪者遊揮金結納友朋緩急恒

強不少貧間良佑名嘗微

當授 戊成進士試吏部家宰楊一清覽其文帝之權, 業乃專力典籍自六經以及諸史下氏無不會通 訓字季行正德與午舉人會試不第例 推 文内翰徵明陸黃門聚彭微君年黃徵君姬水共相 事即 有五湖湯聞五湖漫稿縣志然是機集 都 獨本當公意嘗讀書福濟觀 太僕穆見之歎貨遂造問定交賦詩投贈 重名重吳中自號总機野老又 於王文恪公時公以 京職訓乞南京以便養不許選兵科給事 能領解長習舉子業屢試 少傅家居主握文杨慎許可 為道士 不 稱五湖漫士 偶 一賦九 73 棄 國 月梅花詩 大學 子監 時 扴 古 申 如

史 225-144

風

周誠四歲失怙及長貧無以贍為人 金潮家貧未學事父母孝父病醫弗能治歷血露祷亦 與傍人渾不信山人親見淚如煩都人士争相傳誦 華表月三更蕭條棺外無餘物冷落靈前有菜羹就 飲爽達旦豁以時事具以所見聞對自是海 異録留京偶筆家訓三十六條縣去名及原事里向墓長掛曰朱布衣從此逃矣所著不倭志紀 莫敢先良佑義形於色大言於眾日有官如此忍使 朱山人矣海公卒官良佑往哭形之以詩曰挑鱗直 **忮姨者身後無嗣觀莫能還問問好義之士雖欲轉** 以為實録詩載國史海公居官姓听過峻同列不無 奪比干志苦節還同孤竹清龍隱海天雲萬里鶴歸 争趙之三日得五百餘金良佑治裝扶機歸葬於瓊 其骸骨不歸故土乎乃置櫝中衢首以百金投馬 幼龄作孝子傳紀其事緣 卒誠年亦六十餘矣每日必先謁母墓而後赴 夕侍母雖勞勝治兼母遠遊雖利弗為也母年九十 汝傭作甚勞曷若行實較逸且所得恒倍誠日得 歸奉母傭不赴遠日必歸視其母 弗效乃到股和藥煎飲立愈父母及廬墓疏食三年 傭作每得肉必持 一二度或謂之曰 公 心契 確陸

席冰字子餘孝友醇謹讀書自樂者有居家雜 金宗悦宗偷兄弟友愛財不私蓄食不私事兩家兒女 鄭庚字惟金醇謹端方自律甚嚴與人交則又寬厚 翁恭宇良預家雄於對任使好義嘉請間倭 沈出家貧無妻與父共外起父老皆酒出日得備錢悉 陸炳字文虎純孝人也父福明崇禎癸酉副榜遊於閱 本朝 萬歷初事間·臺使者歲致栗帛復其家縣志 供父飲飲軟醉醉即小遺品必以身貼沒處推父就 燥又遭則又更易其處終父之年如是里中奇其事 六十九縣志 田廬什物各以義讓至久不决遂同愛如故是 更衣并食年逾六十恐子孫或有争端因析其產凡 **竹墓鄉勇保護東山當事嘉之旌其盧縣志** 費不貨悉自己出不計也父有遺產悉讓二兄鄰 貧不堪役者八十餘家嘗為族人代輸轉漕北上於 餘隆慶間知縣劉應望委為者正多所建明免里 粤水明王用為監察御史是時朝臣水火主若養 有急通願售祖居於康庚不忍問其急使守之卒年 之府縣加獎馬縣 太湖債者卷入 人物 入寇泰出 儀縣志 بد

|美國軍字鹏程少丧父哀毀骨立兩目發盲害南於外 席本植字寧侯家富於財而好行其德崇禎辛 大兵下廣州永明入滇炳訪知父未從行流寓在閱 革時東 等 卷 名曰蓄徳錄康熙三十二年崇祀鄉野 風顛覆 禦 波 力為之又廣父所置義田義學義塚集古今嘉言熱 大程山中市販俱絕民不堪生本前拍八千金市栗 父如其官時中原不靖湖中多焚却本禎以 希憲奏聞授文華殿中書尋加太僕寺少卿 版飢多所全活又上言願輸家所有以佐軍巡撫苗 山 求而得之遂迎歸人稱為陸孝子接為明然文 通 反 日忽 能繼父志凡濟因救危及有益地 潤橋祭列祀典子啓岡宁文典以 炳未 大兵又日與樞知事不可為棄官欲歸道阻丁 `安堵卒年五十 ,姑避國童謝其言而傾家營救兄禍得白異 大湖備考卷八 不顧抵家而母病果草兄國宰惟奇禍或處 心痛悚然日吾母病耶急買舟歸波湖遇大 知父 西 兩山有民夫馬草鐵刀青木諸雜役又許 八存心日夜號泣胃鋒鏑間開赴粵時 有五里人 人物 成其德建祠於本 方之事靡不 例可授中書舍 全力捍 語贈 已江 殫 南

而

金碼字元台吳庠生生而類異七歲能書斗大字運筆 鄭登遠字御之性孝友為宗誼惠及桑梓東照 **新尉字本森博學知名家多藏書能詩文喜結** 養志為主不蓄私財兄弟同變白首無間言中年 形尤侗誌 **咸跜重** 學與當湖陸稼書崑山朱柏歷為道義交問難往復 能雜者當事嘉之新縣志 超時故終老一於生平嚴氣正性機履端方事親 露層巒渾合水雲天之句時號神童長就石門日氏 有老成風格等隨鄰翁登莫釐峰有和氣化為風雨 九兩年歲程民飢登遠出栗平難又煮粥以食質不 夕相對商推今古著有具區志一 率當世賢士大夫與下堡金侃文最善延致家塾晨 序商貢生行仁施義能職父志又建仲雅祠脩族譜賑機建橋築路之事不可枚舉卒年七十子文瀬字 置義田力不遠於前人而事有加馬年八十三而卒 有以補蔡王二書之未逮云為林及民風 大极更以章挺身指當事請命先後獲免他 開巡轉 |之為文根核六經出入八家自成行 太湖備尹恭八 福行 内地横攫貨稅 人物 LLI 船致不敢 編自謂經濟之學 土 入 岩鄉貧 + 納 胥 不屑 所交 口戌

吴信字思復操履 施續字從 **关天檜字原敬敏** 大廷長子昭庭為江西萬載令迎 後門 敏季弟犯皆以詩鳴吴中人比之三謝著有袖莊稿 讀書經史之餘旁及二氏於然同換尤有領會年七 却掃絕無 隷尤 何 同 悉力經紀其丧而歸其機後遠高即不出縣去然後集 延 不以累人有發家人審東山武山之間有波水橋為往來 居雜咏敏字思德邑库生尤長於經濟郡守况公 七得疾預知死期至期索过侵起华而选择和我 榜益任後遣使存問亦不往谢 水母房耶蓋目所未親也作書不名一家而於第 内 為上客條折 ツ上 1 外 私益口孝正先生新了家語伸至令人質之所著有點雲閣集傳是 1夏端方嚴發動 **郑哀毁骨立服** 太湖信考卷八 刺投當事郡守黄公鶴鳴與昭庭乙未 以千金成之至今利賴成 子氣度弘遠弱冠任糧長八三十 利弊與况公有水乳之合况公卒官 以端確不入城市有古隱者風與 除始居内 止必循禮法置 人物 養不赴居家杜門 五齡幼子 人以此重其品好 門之 八化中以 駭 内 肅者 日命 仲

吴文之字與成敏 吴縣芳字凝父為詩蕭閒間遠有出塵之致與范東生 本朝 鄒儒字汝爲中順 惜之聚悉 ン人終府を 當攝 詩人萬震甫呼為萬舞者耶選投雲南布政司 接例謁選吳橋范景文典選事識其名曰得 結秦淮詩社傾囊投贈不足流之以稱受優試不 吉士有聲翰林 歲能屬文未弱冠發解應天登正德辛已進 填門率無以應惟書滇遊諸詩遺之而己作詩其 曰尚義聖 授中書舍人弘 春之流 幽討務期自關 色自在 刻意宗唐刊 龍字震甫唱吟咏喜交遊 彌 太湖岸者老人 也從弟彌光字實甫亦能詩府悉是微集 相與尊奉之間與酬答降格為楚調然其本 勒州事廉潔惠民民歌之未發罪歸責債 落 治問那飢蠲栗脈如事問治在其魔 之曾孫才性 清新不宜一字拾人牙慧楚人譚元 年二十九卒於京邱有才無命時論 八近 治甲午浙 有披襟倡 江鄉試選嚴州府遂 絶 建 人讀書目數 業南雍與 和集行世後為高僧 古 四方名士 士選 行 非吴下 理 安縣 庶 問 售 3

有我字玉吾生宋實祐間以詞賦稱宋七隱居著書不

前我字玉吾生宋實祐間以詞賦稱宋七隱居著書不 魏信陵字宗魏貞元初進士及第為舒州望江 寧四 學尤好鼓琴既老自號石棚卒於元貞間年七十所 易祭同許發揮三卷易外別傳 述諸家易就百餘卷名曰大易會要自注上下經并 十翼四十卷名曰問易集說又有陰符經解 政當為禱雨文有云必 鎮臣鮑虎救兵至乃解復城守城儒皆與有功馬 斬其魁賊奔逸城乃須翌日賊復掩至環攻十七日 掠郡邑入浙省陷遂安儒被執不屈授以偽劄不應 同年章潤奇家紅集鄉勇從章雙桂攻城雙桂先登 乃幽之別室儒俟賊夜醉逸出攜其子弘志喻城至 教諭康熙甲寅耿精忠反於閩城黨馬鵬 一而害於歲就卒官百姓留葬縣境建祠犯之宋尚 以上武山 年動賜靈施廟車 (施於黎元令長之罪也神得而誅之豈 太湖備者卷 也私欲之求行於邑里條騎 卷越明辨惡二卷 主 汪壽等旁 今有仁 一可移於 卷周

秦伯 許時字光遠有文名洪武初台至京以所著詩經 明 馬國珍等應名至京不受爵賜號静逸處士其詞曰 秦欽字敬之宋七隱居不仕 明真木初名植字真木後以字行更字有立琰之孫自 若燭照而不事深刻故法嚴而人不怨所上章奏皆 **艳放墨雲海** 整整可行尋以疾卒於官縣志 復陳省刑游稅之策太祖嘉之命署以官不受賜布 少篇志問學力追古人既冠以學未成不娶負笈從 年藏甲子今朝愁見舊時新子即 4 守當行河其之義埃在實務關以詞賦稱也人等處處守此寫為枯耳若枯字不能明生人等處處守此寫為枯耳若枯字不能明生人有處理宗寶應京年寶慶至元月通符七十之數竣必生成宗年發起之未几二年自癸五至乙未首尾共四十三年竣不應有七十歲 可賜號静遊處士寶編 仲温克承其志上考之正史朱寶林理宗年號起癸五凡六年元貞元仲温克承其志府志 按府縣点姓云琰生宋寶梅問卒元真問年七 以詩云野人無歷也知春多謝王孫歲月真六 書齋夜話四卷席上腐談二卷弦歌毛詩譜 齡洪武中以人材推御史巡按山東發好摘伏 人馬國珍真性剛明持身雅正讀書學道志操逸於 (樂善安開簡靜宜為君子不為禄仕甘分山林 太湖備考卷八 故人 超子昂送歷 大輔又被集 共 E 謝之 卷子 義 眀 進

蔡蒙宇時中昇子以貢入國學歷事兵部為尚書馬昂 祭昇字景東博極羣書工詩賦為人規言矩行以名教 大夫具庭志 磺賊起朝命中官督兵勘禦會大雨雪官兵多凍死所知俾司章疏授温州府同知成化戊子泰順山中 衆議暴民壮補伍蒙日彼馬合之衆的益兵制其免 渠築堰俱成膏胂嚴餓預儲栗五萬編行販貸秩滿 採攀使民無争又樂清田數干項患山潦衝激蒙沒 深入住沒宣諭賊感悟解散蒙復建議立礦長領夫 命祇激亂耳盖遣職官往諭禍福衆推蒙行蒙毅然 太湖志西嚴集具區百咏成化中以子蒙貴封中憲 自任優與鄉飲四方墓其碩德成造門請謁所著有 清苦敦行古道居官務崇禮化有古佛更風晚歲益 吕知縣丁父憂服闋補都昌縣復以母憂歸遂不復 永嘉陳鮮学易元季兵起杜門不出洪武初薦授樂 有政 被逮至京事白將歸病暴下卒年七十一貞木為人 勵清節朝夕不繼澹如也所著有立恭稿新度 出郡守姚善雅重之延以訓子無何以都人事波及 赴閥請留任知本府尋逐辰 聲以久勞致疾乞歸府志 A 太湖備考卷 州南寧皆得民 ŧ

吏拘攝蹇儒服詣見知縣其見而異之試以文大以鄭蹇字子肅家負力學里豪国以踐更震不往役縣 徐震字德重家世好文少從陳繼學詩有吊項羽廟 蔡羽字九達昇孫少失怙母吳氏親授之書輒能領會 徐縉字子容震孫幼即敏異出語為人王文格鳌有女 部鄉雅知其名曰此吾少日所聞蔡羽今猶滞選調 身為登降揖讓之儀奉弟子莫不肅然當言日魯兩 冠默坐久之乃言至講辟雍鄉飲大射必指點規畫 之遂補縣學生治詩傍通書易從遊者眾震必整衣 年十二操筆有奇氣稍長盡讀其祖父所藏書為 棘聞不售無愠色日與從遊討論孜孜不倦晚猶增 屋南館二集府志 耶奏按南京翰林院孔目居三年致仕歸所著有林 以同亦能詩工書後以孫經貴並期吏部左侍郎府 香雞鄉里無行跡日賊詩自娱年七十八卒子潮字 平唱和與十才子之列久之謝賓客歸山中垂簾焚 陽懷古較岳武穆詩傳播人口與西蜀晏鐸海昌蘇 學卒年八十五縣為 生不行使叔孫通雜以秦制至今為斯文之恨屢應 有秦漢風骨詩尤馬永以易應選不告後歲貢赴選 太湖備考悉 耀

陸治字叔平府學原生工古文詞為名派所 卷新府志 治當真遜不敢先治又讓弟督學乃下書曰真為縣 罷督學令母煩諸生試鎮如故會治從弟治受經於 成伏關上書得賜祭葬諡文敏所著有經筵講義 事精妙絕倫屢試棘聞不售不欲久麼官原上牒請 亞卿行之自是忌者側目時陸粲疏劾執攻都御少堂尋改吏部攝銓政郊徑有事例遣動輔特命給以 無所得奪職免歸築介福堂奉母口不言時事足 官為才亦以表勵風行非直論資較年也諸生治博 改容聽受取先皇所製和順從容四字賜縉以頹諸 開陳大道以資格沃至於沿忽安危尤及覆規喻上 獨成推少詹無學士逐禮部右侍郎充經筵講官務 却乙亥進侍讀兼日講嘉靖乙酉典應天鄉試得 **丑成進士選庶吉士授編脩奉命册封遼藩贈遺悉** 诵 汪欽嗾太學生詹弦計聚為網所指 了的行孝友敦睦兄弟交讓縮足榮執吾甚嘉之其 八城府幾十五年後以母丧哀毀得疾卒後其子云 女許之擔至京師命受易於斯責得其傳弘治 經史為擇壻 太湖備考卷八 見縮奇之 曰 西山乃有是兒耶 下御史臺揚 八重傍通

陸明輔字 嚴鐸字元振九歲值家難大父陷線總鐸持刃怒曰春 陸文組字纂前醇樸敦厚 選投東昌府通判職治漕河鐸視水要害作限防免 放情山水絕口不該世務年七十六至點 無擾臺使交薦將超雅會同官有思之者堅意乞歸 徒决監視臨清關稅得羨悉資河工機攝府篆安静 當與倭遇手射殪三酋例得優叙會丁母憂服 文組詩中有畫目為洞庭二陸所著有北山篇鴻里 詩鳴其詩淡遠有王孟 一一大未然猶手不釋卷所著有左球史琳龍飛十 干軍門曰太湖口昔中山王進兵地也請成守許言 公深為司業拔其文為六館程式倭夷入寇鐸以策 已長就學為文有驚人語尋以諸生入 之日若壮訴之朝刃之國當不愈於刃之恭乎鐸乃 秋大齊襄復九世仇今不三世烏能已乎家人解於 什江上草等集縣 奔流恍若有悟遂乘去就學與松 今治先以貢士歸知府蔡國 伯相性嗜學落拓不事生産因於役 太湖備考卷八 風格當時間陸治畫中有詩 和氣襲人始 黑李健重其人 陵王叔承同時以 弃 為賈忽觀黄河 人國學陸 兩舉 関謁 激,

葉初春字處元萬歷度辰進士授廣東順德知縣時海 勞珊字鳴王博通經史中嘉靖甲 蔡維寧字以寧弱冠入長安工部尚書柳佐 鄉試癸未成進士授巴縣知縣有惠政以直道作上秦萬字中望博學能古文詞萬歷壬午以郭籍舉湖席 歸府 第遂不復試鄉人重之私諡貞静子遜志字惟敏 部負外弄進郎中出知潮州府潮故鏡裕遜志嚴却 父縣阿集行世府 禮科時儲位未定華臣疏請册立不得請出閱講學 例美别弊釐奸不阿津要亦不致魏上官遂議調簡 紀明時玉韻等集二 又不許都給事李獻可以力争得重謹初春偕同官 寇充斤建水壩以過其入路歲荒縣貸全活甚多替 遂定交時柳方董慶陵工維寧佐之經畫以勞例授 諫光宗即位録遺思初春己死贈光禄寺少卿府春 張棟吴之住各再上疏帝益怒並削職時稱吴中三 官者月罷歸士民攀送境外縣志 一登賢書隆慶辛未成進士授安吉知州陸南京刑 一阡陌浮賦一清治為嶺表最擢兵科給事中尋轉 一子幼而貧 午鄉試 女守貞不嫁勉刻 主 連上 禮 見青ン 部

陳綸宇世軍父文炳著四書合泰病華未成編續成 本朝 蔡人龍字君伸天啓壬戌武進士授尋州守備碧灘 今永信字成之七歲就外傅授以孝經論語即舉有酒 稱之為蔡孝子府 狀事間得贈遊擊將軍給驛歸葬至中字時卿鄉人 莫之接遂被執不屈死子至中率死士入賊樂獲 王倪金俊明輯其遺稿刻之名秋陵獨經點 同志作挖炼路上當事得禁止好為詩無專集其支 諸詩以見志後嘴誅維寧踊躍之臨清拜告柳墓道病華其家人竊焚之維寧恸眾山都門賦縣樹唱虎 屬維寧代草維寧春筆疾書烈烈數十言疏就柳已 官不拜會逆猶事流縉紳柳欲上疏發好病不能 屍擒劇城歸剖其心以祭上書巡按御史言父处事 水搖亂督撫檄人龍會諸屯營進數人龍獨男敢 病歸卒年三十一先是山中奸人起挖煤緊維寧倡 漢节西事續稿 採林屋民風 淮洲墓其人當造虚前之稱為樂天君子所著有江 好歌詩慕謝康樂風旨滿傲泉后不求人知郡守陳 人殺賊甚眾進也要地未幾賊復至人能力戰他 **木太湖情考卷八** 人物 Ī 旭 y

陳瑷宇良王正德問舉人任大理府通判以直道 朱魯字得之號東湖才氣超邁詩文援筆立就議論皆 祥往釐别一清國課不虧而商不困疏利弊五事皆平軍備時間廣鹽權之利匿於奸者數十萬部以致丁致祥字原德正德戊辰進士授户部主事監居庸德 潔自 旨之 母以此站我清名赏游志 官左遷福建市舶司提舉司故轄海商多琛貝瓊 詩凡 原本經史嘗輯宋文信國沒事為忠孝外傳系之 恐母聞之傷心也後 見採納先是漕舟自 食 儀徵廢開專堰利者沮之不為捷仍刻后以垂永久 餘崇祀鄉野學者稱為東湖先生是發表 29 七父殁衰毁骨立 ンノ 謂孝感所致雍 語話其兄 四十 持及致仕歸夫人 奉靡不果具母及哀毀如丧父及歸葬慈烏饒 大湖情考朱人 两 四首成化間以才學為此脩國史卒年八 日 為 江達淮途中多帶致祥視漕損 正九年旌表新縣志 奉母居東山別墅園亭之樂甘 三年寢食古塊中飲泣不出聲 購珠數類瑷檢得棄之水 子者當如是也聞者異之年 杵 ۲. 日

薛南字圖南俗好為東南獨有志於學告其父曰 錢孝字師舜植學敦行 遇水災沒法賑濟民,西按察司副使撫漢中 疏兩上得著為今三王並封議起朝論大 就學王中官需索解户有累死不得學拉者就學稱引祖制 一就學字所敬萬歷十 多今其子弟從之南 疾遣官代行就學抗疏曰聖母上實音容不可復 反並封之記尋改禮 錫爵門人也往規之 簡事核有良史筆法 庶幾古篇行君子云 患者 費以萬計漕大 富所著有草窗詩稿 老乞致仕歷官三十餘年褒墨蕭然獨吟咏篇什 為此不為彼矣遨遊 人毛憲朱昱唐音遊益深造有得旣而郡之好學治 四年陳太后梓宫發引帝嫡母也當送門外以 憑棺擀頭而 太湖情考表 其具志 為流涕動以禍福錫爵無然遂 留心掌故所著有馬蹟 常州府心 曹進釘 力學不倦以本事親 以不困陛河南布政司恭政以中流民恩威並濟在楚在秦兩 四年进七投户部验程 四方交海内諸名人歸又從品 常州府志 便天推湖 少盡其情者在此 人物 外郎以清望調吏部 廣布政司泰議 茜 刻今乃新 以友爱弟 1 南 法 轉 卽 有

陳世曙字亮初父士仁 許鼎臣字爾姓萬歷丁 未進士初授行人司行 ·朝宇心湖致祥孫家業中落檢得先人舊萬子母恭 流往複辨論必求其是而後已年六十六無子疾 禮屢試不告遂棄帖括專力古聖賢之學與當世名 安疏奏不省終以此 是熟猺己納降輸稅 麾下裁城有功而性 盡焚之專西大將李西垣聘為恭謀麾下有以金三 千餘纸 作梅花詩三首而卒 幾殆後父歸病為則 敗大將檢其籍有前銀丁 降不祥吾當覘之至 日 百珠冠一為奉气 呵 扳 金幣歸母為弟娶 摇非反者熟稱賴 1日伯夷叔齊能殺 始娶淮安郡丞 送 人為輔賀轉日忍益券者凯而了一人館耶 致聖孝不然 太湖情考表八 發 城那大將笑釋之羅防猫亂先性 類善罵座大將中證欲置之法前銀丁全固却話大將歎服又一 一言於大將朝却之後麾下以職 李公稔其賢其金幣為聘署即股和藥以療家人不知也年三 見温む 以全活及歸囊素蕭然常期前一則諸稱敬迎親食朝歸白大將 遭家難避禍 谷罪夫我们籍歸明史 豆猴 婦已而親相繼殁指据夜非如 有言宜并滅之以樹威 有乖 古禮 出世曙 即聖心 重 以身當之 何 輣 能 日 自 殺

吴陽字麗中萬歷丁未 部時端 其以全路要人欲飾 敗為功鼎臣持不可致城益中會有墨吏與監璫比政猛於虎鼎臣劾之又罪 武鎮兵叛受命撫平陳便宜六事首列獨 政言之慎切致愠魔小堅請歸養家居十載起光 接壤中州檄兵駐防 本寺少卿諸禮聞其名莫敢横索節省歲以萬計軍 寺丞會當用事暴臣 洛陽帝愛子僮客放 窽要而掣肘牽制不 和順失事劾去之在 未幾有協點豫寇之 困使民不從賊增鉤 九人遷户部主事歷 子之漸順治進士官 不阿僮客飲輯陛浙 者倭夷貿易處也此 之以易坊功嚴緝 奸民煽誘築城造炒 日久中外 御史有直聲等州斯志 得施用知者惜之居家七年京 晉甫十月先後八十餘 而直指竟撒使回省監當 命鼎臣以和順等縣處山谷問 抗疏論之件旨歸里学禎初起 池 貢外郭權河南知府時福藩國 以募勇敢使兵不擾民軍武遂 進士初授大理寺評事平反活 臺有不執 悉 延無何士 音議拼 江京事尋陞廣東祭政香山海 縱吏不敢問賜持己廉潔守正 縣治二十里倭夷萬指屯聚為 泄獨鼎且於宗社安危諸 絶交通名其首諭以朝 卖 租以恤窮 疏皆得 災 禄

陳春謨字皆采萬歷東戊進士初授建安縣令再 是時賊在藍山者李荆楚等在桂陽臨武界者劉斯峒靈蠢動朝議請復設偏沅鎮更置巡撫的春謨往 **这丧膽又指俸修理禹州儒學建題濱書院造就** 楊 獻 圍長河唇該授將士方略優戰皆捷三城悉平旣而 宇等在天王寺者劉高峰等春謨前到城已再攻湘 執 成化成的首 逆璫肆毒砥柱獨高等語再按畿輔以前門一疏選朝廷禍福否聽之矣卒不建後璫敗給勃發嘉 **谟曰豈不知建祠可以梯榮然不若留** 為不設方至荆與撫且策戰守而惠藩已做服 重逆增魏忠賢生祠偏天下巡撫尹同卑認春謨春 縣推御史按蜀當安奢之變審該屬兵訓士蜀彌倚 少以瑞禍去其續弗獲上 請捐河患地 問過荆勢急差撫臣疏請劫沅撫移鎮荆州護惠 政出為福建督糧道歷江泉楚藩禹州兵備土 四被猖數邑唇謨親率千户劉定那計為之兩河 閱無按叙數撫海冠功則太僕寺少如常群点 左布政入親名對詳明命仍赴閩道病卒年五 太湖備考卷八 聽命遂隨其城毀其臺倭恩潛消會 百二十餘項民至今德之湖南 一開尋陛江西右布政轉福 芼 塊乾淨 出即 遷 忤 有

魯到號桐 本朝 秦之鑑字尚明崇禎癸未進士授仁和 誓於神 牧子傳 像以歸 湖王璂 治有輔, 順治六年父子死難到走蒼梧見堵骸骨不 也後遊萬山至儀封卒常州原志 當事有欲行薦辟者忽發狂疾 歸家居教授不異經生手抄先正格言教誠子弟會 文集文統等書明決奉府志 明遠家貧業為梓所得悉供母 花草堂詩與父春該並崇祀鄉野孫王鎮狗節致 為族人婚安費陸雲南瀾滄兵備道著有慎刑箴梅 刑部郎中恤刑畿輔平反多全活指田百畝入宗祠 強唇誤保 可圖審謨深以為恨無何卒関豫楚圖俱祀名官所 以上馬 前必 然不忍故人忠孝之骨終委異地乃懸堵像 **琴與義與堵牧子稱至交明末堵** 世編傳是堂文集子咨稷字子育舉 太湖備考卷 蹟山 為至去 本朝進士中書科中書舍人著有學文堂 歸其觀 州 而後 而荆 人物 已卒如其志人 陷矣使 遂 甘旨 يراد 不保 令數 母病十 而 實未當 傷荆 古義之集為 督 月即 學楚中 得得遺 餘年 事尚有 棄官 有庆 於

李彌大字似矩彌遜弟郡人宋紹典初為户部尚書無 楊侠字子寬太師和武恭王存中子官 錢豫字康功郡人宋宣和三年進士通判楊黃於 郑若水字平仲蜀之井研入宋嘉定間進士理宗即 號 親字仲益晉陵人宋建炎初由內閣出守平 書未幾罪震澤始恭宋史 彌大謀間君且奪職遂築室於西洞庭名易老堂自 侍讀以阻召頤治視師忤旨出知平江府沈與求劾 其室曰休寓震澤編 僧韻士笑傲於豐林邃壑間遂橋居於西 罷慕那西山水之勝泛舟濟太湖登洞庭 之半以子之人成以孝友稱馬森林養民風 雙清亭其區 嫂嫁遺孤 敢 官至朝奉大夫建炎間避地居於東山之社下 師當居西山 無礙居士將終老馬後起知静江府入為兵部尚 右長沙山 出 4 備作 前一歲明遠撫有成人為之娶復析 不敢往母死竭力營葬哀戚動人兄早亡 新縣志 有其邑大工同業邀之 三部 明速日 疌 山 尚書贈少 4 母老京 日與詩 江末 之 陽 ·里祭 三州

路板飛字見白真定府曲周 徐雪盧吳與人宋末避亂居於西洞庭嘗題詩婦 愁北方兵馬想已到南國城郭誰能收我今買酒且樹色照野晴雲浮霜黃林頭橘柚熟日冷波底蛟龍當十月值亂離攜家遠逐湖之洲湖光接天晚浪静 雅思其鄉乃起後其指山是歸蜀 授右愈都御史總督漕運巡撫淮揚明年北 清南州鄭治海東記今后在許刻尚存 消憂醉舞枝細揮斗牛會須投筆去封侯斬取盗賊 法五 飛進士武愫為賊防禦使招無徐市而賊將董子禮 涇陽知縣權御史數歷中外成有政績崇禎十六 廟之后柱曰洞庭之陰小山幽百靈雄衛來高 湖之西 據宿遷振飛擒弼周情擊之學禮年弼尚法場命軍 王立於南京河南副使吕弼周為賊節度使來代振 被南京唐王自立於福州募能致振飛者官五品眼 士人射三 詔上 月馬士英欲用所親田仰乃能振飛令仰代振 洞庭買似 封事語侵史彌遠為所 母安家無可 一矢乃解磔之轉樣狗指市鞭八十解京正 道在京湖間其名辟恭軍事若水 歸流寫東山順治二年 人物 人 也 明天啓五年 抑不復仕進隱於太 丰 都陷福 大兵 好 由

母魠 餘妻日亡矣端怒且泣日 海島 皆臣所甚憂也其言曲中王短三年 大兵而過於督責因博覽書史而務求明備凡上 給嘗買鮮 忽忽孺慕枕席時見涕波狼授室後即約衣好活洞庭施其憐而携歸因胃其姓及長習木 與也上有愛民之心而未見愛民之政有聽言之明 而未收聽言之效 比之王夏云 ネ 改 明年赴永明王名卒於途後機歸 以我心為 子孫守墓遂家於山 因循必致敗亡且謂上不改 敬山本姓印濟軍人 E夏云 書志 因母性畏雷每雷 魚奉 少孤與母徒居東山 太湖備考卷八 人汀州振 孤 心耶欲出 母妻匿其半 責廷臣总玩 行求訪派寇梗道 飛追赴不能及汀州破板 本喜怒輕發號令展更見奉且庸 冶拜太 日婦死可續母一工具半將以食子端於 之妻感其言後亦 幼孤 明史春錢源益語 八子太保 人匍匐墓 Ž 值歲禄母子不 飛因進 俞塢 據 和 诙 切 大兵進仙霞 例 家 百上 亦未必能中 獲之 而 F 貧力傭 國 孤飛走居 以孝聞 الط 調且像 I 初 自食 何 問 能 逆 有

周先生諱溥字徳周震澤 徐梅字若霖號南 著有詩二卷 於古文靡體不工詩宗唐人集唐句如出天然尤即予家也僑寓十年而後歸為人敦友誰重然諾 歸孝養終身新原 湖 於東山遂長寓 生鼎革後棄去先生奉父命亦不敢就 古文解六卷詩六册 湖山之勝尤受葑山荷花曰予家藕 伸掌宛然相持慟哭 相 以上派寓 銳朱奕恂為之序 後諸人皆顯達而梅獨以 時時 得康熙丙 因 自陳憶 與張大受何焯吳 泣 太湖備考卷 下岳心 州長 孩時母方烙餅倉皇取食湯火成 動問 為 時母年八 其 左神 洲縣貞豐 言規 子穀敦復謀 縣 道所由亟 儒林 子 疾語言某莊 見 集唐句 行矩 玉 十岳亦六十矣遂 誓不歸 村 於終十: 里 亢 咎 之 父宸 相友善 、當館於 **季如**出 七先生 塘此藕 pp 户母子初 試 剂 論情之著 歪 老媪因 錫 劂 生 花 玥 光 授 深虑 末 洲 經諸 李 並 有

在最級容惟水連死逾年嘔血斗餘卒時年十九歲客未幾以觀歸氏拊棺醉踊蘇時縊於墓救甦自此失氏金上珍妻英九湖女年十七題金婚彌月夫則过 葉氏慎廣狂妻嘉靖二十一 太湖備考卷九 欲嫁之不從復強之遂自經死翌日其夫骸骨適歸八時順妻葉顯宗女年二十超曹未幾夫容死舅姑烈表著者美不勝書核其實而備録之以俟采風 列 遂合葬時景泰四年六月 一身許二姓耶乃祝髮的方那誓死不嫁後周死公 生負顏 智元良妻二十四歲夫亡族黨以 中 不可以折之守節終身嘉靖元年 泰妻嘉靖間旌表 外後周死父母欲議更適又治果未婚聞周無行女泣曰忍以 何知大義而 東山金友理纂述 尼居寒山卷入賀貞女許 友站 年少無子為 )許之不可 校 表

徐氏吴孟實妻徐光女二十七歲夫亡遺私 葉氏放果妻果客遊得疾題卒氏視含飲平即投 吴氏葉善道側室年二十葉亡子延壽前週歲矢志撫 曹氏張孟舉妻二十二歲夫亡父母欲奪其志氏斷指 金氏質元吉妻夫早亡或以言誠氏氏怒曰安有 氏名妙鳳許嫁吳奎奎母有污行女羞之迎於父 閣長 成禮遊盛服往及門易衰入無棺動服三年夜既除 飲所私命氏温酒其人間入爨室戲牽氏臂氏怒即強絕丁具後奎南於外氏與姑居潔已自處一日姑 飲所私命氏温酒其人 孤推結操作與諸婢伍俟子成立委以家事獨居小 引 即祝發與葉同處二人 婦 氏無孤成立古節終身 時年二十有六 以誓奉孀姑金氏同室而寢者四 刀斷臂父欲訟之氏曰世寧有婦訟姑者耶 而再嫁者事姑尤孝王文格繁謂寡居而孝尤所 也 逾旬卒時年二十有六 人自力衣食戒行凛然年並 列女 十五年姑卒氏衰 心心前二 有死 儒家 緩死

|劉氏嚴林前妻崇禎七年旌表 席氏葉馬之二十七歲夫客死守節四 周氏曹憲幹妻家貧降續以佐食及夫病竭力醫藥 周氏葉輝妻輝客雲間病车氏聞即自經死 禁身女葉文重女年及等未字父母相繼沒弟流在機 朱氏的希姚妻年十六題的未幾夫各死無子而貧氏 老反嫁人者乎卒以處子終其身弟流為之服 破扉入 黨咸曰今當為兩議如事矣乃笑曰豈有少不嫁而 盗致飢寒困苦不堪而奉姑之禮無缺劲節終身 生踰日夫卒從容為夫沐尸易衣并易已衣周身客 及流成童人復物其城曰侯弟成立再議流既婚宗 縫之 又年夫病為屬其兄善為妻身後計氏泣謝誓不獨 裸人為議婚指弟泣曰痛失怙恃與忍抢此而去 紡織以養姑姑病淡月不釋衣帶調養備至復 毀成疾亦卒翰林吳文之有詩币 쇧 嘉靖中郡守姜公旌其門曰点義 /經於夫側時年二十一明日夫兄來叩門寂然 則 二尸在馬時崇禎戊寅正月陳宗之 列女 三 十餘年崇禎六 那

石氏傳龍淵妻石隱山女二十七歲夫心守節四十 嚴氏張仰雲妻嚴雲門女二十七歲夫亡守節六十 嚴氏張頗妻崇禎十三年旌表 葉氏具世達繼妻葉士志女二十 嚴氏席文瑜妻嚴然垣女二十歲夫亡守節三十八 賀氏嚴士聽妻勇若愚以諸生遊魯遂家於郯城馬頭 周氏吴安忠妻二十四 節五十一年順治十三年卒 鄭氏翁枝倩妻二十四歲夫心布衣就食足不出户該 翁氏許明臣妻崇禎十年施表 苦節六十五年順治九年卒 氏去氏以死拒遂被殺 年順治二年卒 集崇補产已流賊至士聽負子出奔賊入其家將掠 尼妈絕巫覡以理自處以孝事姑年五十九卒 親其面子復天又無孤孫成立苦節五十七年卒 順治八年卒 年順治四年卒 紅以給事姑孝訓子嚴鄰火焚其居僅存一 歲夫亡撫遺腹子守志家貧女 列文 歲夫亡無子而貧 叼 室人罕 年 ナレ

吴氏沈調元妻吴長山女二康熙九年年十九 弗使知氏 階 冤整衣装客縫問過自縊死變起倉卒周氏葉建章妻周振明女結編一月夫即服賈客死姑 傳氏陳可立繼妻傅龍淵女二十歲夫亡無遺腹子守 姜氏席本宗妻姜志雍女三十歲夫亡守節四十六年 姚氏席本淳妻二十九歲夫亡守節二十 吴烈女名淑貞吳冲涵女許字葉公戶康熙七年 馬氏周文遂妻馬時事女二十二歲夫亡夫臨死具顧 年卒 棺家莫措姑夢氏曰某箧中有十餘金怒之果然時 節四十五年康熙七年卒 二年三月年二十有六 户自經死衣被肅然凡含飲之物無不備具時康熙 氏氏以刀斷一指為誓目遂順逾二年姑亦及服除 **康熙十** 年康熙十 茶危疾就傳計至女方刺編聞之即登樓自經 始歸寧父母以家貧無子為諷氏泣拂然還夫家聞 楊正己妻周晴湖女二十 一年卒 一年卒 列文 + 四歲夫亡守節二十 四歲夫亡遺孤智超甫 一年康熙 冷序 死 上 四

盛氏施恒廉妻風子仁女二十一歲夫旅死撫遺孤又 張氏席啓辰妻張古峰女二十二歲夫亡 吳氏葉祖仁妻吳五玉女二十二歲夫亡遺孙 殷氏席本治妻殷明初女三十歲夫亡守節三十 禁氏柳明卿妻葉潤甫女二 陸氏沈爾正妻陸諫臺女二十三歲夫亡守節二 宋氏生員施廣學妻宋宏如女三十歲夫亡守節四 施氏吳嘉慶妻施海慶女三十歲夫旅死守節五 葛氏翁姓時妻葛雁川女三十歲夫亡食質守志歷二 康熙十四年卒 三年康熙十四年卒 年康熙十三年卒 節五十八年康熙十九年卒 察苦節二十二年康熙十七年卒 年康熙十三年卒 康熙十二年卒 劉氏劉惠生女二十九歲夫亡苦節三十六年姑娘 セ 天貧苦自勵歷四十八年康熙十九年卒 外操人並稱之 月撫之守志歷二十四年康熙十 太湖備考悉九 -十 Fi 文 **减夫旅死守節** 六 年卒智超妻 無子而貧苦 以啞疾 五十 十 五 十 年 年 五

吴氏施廣照妻吳雁門女二十五歲夫上守節四 葉氏席永正妻二十三歲夫亡守節四十三年康熙二 席氏鄭茂母妻年二十一歸鄭 葉氏康 失妻葉備和女十九歲夫亡有底屬周其者即 葉烈女葉海宇女許字王瑞龍未婚康熙十七年王病 殿氏生負孔大文妻嚴紫臺女二十 吴氏周其蔚妻子宗王女年十九歸周越 別議婚女聞即自經死時年二十歲自禁遂居夫家與小姑同即起王系質父母憐之謀 女易耳因勉進食手製的服出王松前泣拜截一拍卒女聞之即絕粒其兄論之曰妹出生守節若為烈 年康熙二十一年卒 自縊死时康熙一十年也 十四年卒 十年康熙二十三年卒 倡改適議氏以頭觸地血流被面势以死殉越八日 十七年康熙十九年卒 十五年卒 無子氏扶極選葬歸依母家守節三十 年康熙二十年卒 大湖 情考来九 10月夫亡無子守節五 六歲夫亡守節四 六年康熙 載夫客死 十 四

**每只豹天衛繼妻銀天倪女二十二歲夫亡無子守節** 趙氏即民俊妻趙太宇女二十六歲夫亡守節二十 沈氏顧君童妻沈旋吉女二十七歲夫亡哀號絕食五 朱氏周元年妻朱良璧女二十歲夫亡食貧守志管葬 吳氏金孝集妻吳至善女二十二歲夫旅死聞計 俞氏顧正卿妻俞振峰女二十八歲夫亡守節四 陳氏嚴信任妻陳之宸女二十四歲夫亡遺孤甫周藏 馬氏徐履素妻馬性宇女二十八歲夫亡守節三十 三十年也 年康熙二十六年卒 日不死遂自刎仆地衣裙不整循手自曳之時康熙 十八年康熙二十八年卒 年康熙二十六年卒 久之越七年葬其夫於祖坐之傍即投綴死時康熙 三丧歷五十一年康熙二十九年卒 此終身茹素足不出户歷四十六年康熙二十 無之守志未幾復殤氏痛不欲生以夫丧未葬隐及 方城與得了以延宗祀及举女遂自經被救甦自 十五年也 太湖備考卷九 列女 十五 働 年 絶

蔣氏周大祭妻蔣西公女二十五歲夫亡守節四十二 陸氏席召綱妻陸蘭臺女二十八歲夫亡食到守志歷 席氏鄭登良妻席良卿女二十九歲夫亡無子守節五 萬氏周國元妻萬謙宇女二十歲夫亡守節四十 金氏生員吳之翰妻金荆王女二十三歲夫亡康熙一 葉氏秦弘道妻葉立生女二十五歲夫亡痛不欲生養 葉氏金天采妻葉予聞女二十七歲夫亡無子守節三 禁氏許大奇妻禁軽貞女二十 朱氏葉士源妻朱禹門女二十七歲夫亡無周歲孤成 十四年旌表三十二年卒 年康熙三十 十四年康熙三十二年卒 + 年康熙三十五年卒 立守節二十五年康熙三十四年卒 以身殉百日設真一動而絕時康熙三十一年也 念姑未終養嗣無可立乃忍之後大奇之兄生子遂 一十二年康熙三十三年卒 撫育比長將授室忽能疾卒氏遂投井死孀居二 年其生也節其死也烈時康熙三十六年也 · 大湖情考卷九 十六年卒 年卒 一歲夫亡誓以身殉

禁氏朱樂穎妻葉君茂女二十三歲夫亡食須守志歷 嚴氏周魯源妻嚴惠卿女年三十魯源疾馬臨終 吳氏翁時难妻吳仲襄女十九歲夫亡撫遺腹子成立 **黃氏葉曾廣妻二十七歲夫亡守節五十九年康熙三** 諸氏沈公彦妻諸仰田女二十四歲夫亡守節五十三 席氏部晉琯妻席元貞女二十三歲夫亡守節三 金氏王祚永妻金鳳祥女二 帶云死矣如矣驚起呼之不應已投井死矣距夫死 欲自裁姑曲勒之與共寝一夕天未晓氏速起姑止 手熟視氏日我喻矣當殉君月遂與氏視含無畢即 年康熙三十八年卒 康熙三十七年卒 十六年康熙三十七年卒 之氏曰天明恐客至備灑掃耳出少項姑聞隐隱有 十九年卒 孝事兩代 年康熙四十 一三日時康熙四十年也 一十七年康熙四十一年卒 · 太湖倩考卷九 媚姑丧葬盡禮守節六十三年康熙四 年卒 七歲夫亡守節五十 一十年

徐烈女徐我集女許字葉德懷未婚德懷死女聞即酒十六年康熙四十四年卒 凌氏王德瑜妻凌晉侯女二十五歲夫亡家貧無子守 席氏兵员賓妻席公輔女二十五歲夫心無子守節三 居氏周焚妻居正華女二十五歲歸周一載夫亡無子 席氏周仁治妻席文彬女二十二歲夫亡守節二十 葛氏沈天培妻葛又元女二十九歲夫亡無子守節 姜氏周懋功妻姜建侯女二十三歲夫亡食貧守志歷 年康熙四十三年卒 氏沈載揚妻許曾所女二十八歲夫亡守節四十 年康熙四十二年卒 |氏葉維釆妻王徳乾女二十八歳夫七無出撫底出 節三十年康熙四十五年卒 十九 十四年康熙四十二年卒 三十九年康熙四十二年卒 以帛聚髮易編衣投園池中死時康熙四十 一人大月青春茶儿 列女 土 而貧刻苦自勵歷二十七年康熙四十二年卒 康熙四十 人大湖情才於九 一年卒 と

殿氏鄭量如妻嚴泰華女端莊淑慎喜讀書年十 吴氏朱雲遊妻兵水中女二十四歲夫亡遺孤甫生 禁氏兵水輔妻葉汝間女二十 二歲夫亡無子守節五 許氏陸壽棋妻許正心女二十八歲夫亡無子守節 金氏翁堅妻金元一女二十八歲夫亡守節三十九年 改春秋果得售又棟當得疾死且三日惟心尚温其三人氏善小易多奇中當小棟必以麟經中式命棟 康熙四十五年卒 育孤孫并口授經書其長孫棟領康熙戊子鄉薦第 康熙四十六年卒 特恐汝年不永耳棟果不死孫媳于明年竟去世生 孫媳號働搶地氏卜之慰曰母庸感吾孫命必不死 鄭二十六而寡無子無好為嗣復早亡寡如幾及無 十三年康熙四十六年卒 子成立復早亡未有孫嗣姓孫為後苦節二十七年 平著詩盈帙悉焚棄僅傳懷親憶兒悼媳課孫詩四 日撫之守志歷四十年康熙四十六年卒 十二年康熙四十六年卒 嚴霜飽鎮蒼松晚膏兩勻沾芳草春金王成章懷世 首其懷親詩曰卓犖丰標逈軼犀湖山清夾絕纖塵 列文 兩

葉氏曹旭生妻葉近仁女二十五歲夫亡守節五十七 具氏周煦妻兵康如女二十 周氏全希仲妻周立綱女二十歲夫亡無子守節二十 湯氏鈕元章妻湯馬傅女十 聲随五夜機他日學成安出版錦衣不與換班衣苦 自古難於死苦節何人可謂贤永法便能酹風志長看悼媳曰痛汝青春失所天兩孀相對益潜然撫孤共憐身世屬艱難祇今雲樹霜林向撥觸酸辛不忍 年康熙五十年卒 賢猶未是暫親花与便全非孤燈影伴三更月勤讀 辭誰復侍我年道經賴有過以該無使貞魂魅九泉 實民教留範作家珍山顏木壞今安仰斷簡殘編最 課孫曰吾家兩世盡我微賴汝庭韓命共依日對理 香詩易天心復刻燭談詩午夜寒且喜晨昏安蔽水 **给神憶兒曰無限窮愁每自寬相依膝下足承欺焚** 一年康熙四十八年卒 年康熙四十九年卒 四十 129 八年原熙四十七年卒乾隆五年旌表 八年卒 |妻翁非彦女二十 九歲夫亡無子守節六十 五歲夫山守節五十年康 五歲夫亡無出無出子

朱氏周王址妻朱寧臺女十八歲夫亡無子而 張氏葛國鐮妻張其美女二十 張氏嚴宗翹妻張光樂女二 姜氏石唇璋妻姜建洪女二 卸氏新登春妻即爾完女三十歲夫亡守節五 鈕氏席唇基妻鈕希悅女二 席氏朱 大檍妻席 東臣女二十 王氏翁士校總妻王耀卿女二十七歲夫亡無出依嫡 金氏席永臻妻金孝歷女二 朱氏張一新妻朱石庫 康熙五十三年卒 舅姑歷三十三年康熙五十三年卒 康熙五十一年卒 年康熙五十 年康熙五十年卒 甫六月撫之守志歷 年康熙五十四年卒 九年康熙五十四年卒 子存活守節二十五年康熙五十三年卒 十五年康熙五十三年卒 新妻朱石原女二 太湖倩孝卷九 一年卒 面十 一十 7-十歲夫七無子守節四 + 七年康熙五十年卒 + 列 女 六歲夫亡守節十 四歲夫亡守節三十 六歲夫亡矢志殉節太 二歲夫亡守節二十 成夫亡無子守節 歲夫亡守節三 占 7 質孝養 三年 +

**漁車即舉葬於祖坐送葬回遂自縊死時康熙五十** 年

吳氏鄭本寬妻吳體乾女二十八歲夫亡守節二十六 年康熙五十四年卒

夏氏葛士纲妻原陛玉女二十九歲夫亡守節三十年 朱氏黄千項妻朱維寅女二十二歲夫亡食質守志展 康熙五十四年卒

席氏陳之祺妻席開生女三十歲夫亡守節三十六年 八年康熙五十五年卒

康熙五十五年卒 列女

嚴氏張文俊妻嚴恒女十八歲夫亡事姑撫孤孝慈無 盡康熙四十六年在表具江潘未為之停五十八年

席氏葉士進妻府衛宇女二十九歲夫士無三孤皆天 貧苦無倚常不舉火歷四十七年康熙五十六年五 卒守節六 千年

周氏張夢駿妻周保生女二十八歲夫亡食質守志歷殁氏年十九無子守節四十四年康熙五十六年卒 周氏張文錦妻月盈車女婚彌月夫即行賈通年病婦

繼妻鄭浩彩女十八歲夫亡守節二十五

張氏鄭唇曜妻張庭如女二十九歲夫亡守節五十 年康熙五十八年卒 年康熙五十六年卒

四十

鄭氏葉德麟妻鄭成之女二十一歲夫亡守節五十 年康熙五十八年卒

夏氏席本稔妻夏太家女二十一歲大亡無子守節五

殿氏吳衛生妻嚴茂華女二 十年康熙五十八年卒 -)-四城夫亡守節六十

施氏顧天佑妻施明初女十九歲大亡守節五十二年 年康熙五十九年卒

太湖情考悉九 列女

康熙五十九年卒

周氏葉揆奉妻周楚卿女二十七歲夫亡無子守節

氏張自禁妻上君教女二十一歲夫亡家貧無子守十八年康熙五十九年卒 節四十年康熙五十九年卒

張氏王伯替妻張武源女二十九歲夫亡食貧無孙守 前氏嚴維格妻前方登女二十五歲夫亡家貧無子守 節五十五年康熙六十年卒

鄭氏周稼妻鄭海若女二十九歲夫亡撫孙食貿孤復

節五十年康熙六十年卒

去

施氏湯家緒妻施與文女十九歲超湯僅兩月夫亡無 嚴氏禁亦如妻嚴衛卿女二十五歲夫亡守節四十七 |席氏周朝恩妻席仲英女二十八歳夫亡守節二十八 葉氏王世榮妻葉維錦女二十三歲夫亡誓以身殉絕 **蔣氏慎予周妻蔣嬴所女二十一歲夫亡守節四十年** 慎氏朱德長妻慎德尚女二十歲夫亡守節四十 翁氏周宇衡妻前華渚女二十七歲大亡守節二十 子茹齋總素守節四十六年康熙六十年卒 周氏潘聖璋妻周召遺女二十二歲夫亡無子守節 沈氏周濟人妻沈天章女二十九歲夫亡守節二十 早以與寡媳業氏撫孤孫成立苦節四十六年康熙 粒五日死時康熙六十年也 康熙六十年卒 六十年卒 康熙六十一年卒 年康熙六十年卒 年康熙六十 年康熙六十年卒 年雍正元年卒 四年雍正元年卒 不利情考卷九 一年卒 列女 丰 年

二十三歲夫亡無子守節三十九年难正元年卒周氏張文宿妻周奇新女文宿素有心疾氏克修婦道 許氏朱天佑妻許衡之女二十 馬氏施成龍妻馬少臺女二十六歲夫亡守節三十 致氏銷良鯨妻鈕漢明女二十二歲夫七無子守節 施氏姚德侯妻施德界女二十 周氏葉來之妻周德居女二十三歲夫亡守節四 兵氏張文騎妻吳永和女二十 席氏施今儀妻席季思女二十七歲夫亡守節三十八 周氏席有庸妻周從周女十八歲夫亡無遺腹子中節 劉氏石東均妻劉御良女二十九歲夫亡守節五十 節四十五年雍正元年卒 年雍正元年卒 年雍正元年卒 嫁之氏以死誓若節四十八年雍正元年卒 年雍正元年卒 四十五年雍正元年卒 十五年雍正元年卒 年雍正元年卒 大湖備考卷九 列女 七歲夫旅死無子姑欲 六歲夫亡無子而質守 歲夫亡守節五十 大 + 九

吳氏周景章妻具懷信女二十 年 八兵吳國 節自屬訓諸孤 雍正三年卒 年卒 政妻周君治女二十九歲夫亡家世清貧苦 以孝友同室無 歲夫亡守節三 間言歷四十七年雅 +

嚴氏翁士豫妻嚴鼻甫女二十 守節六十五年雍正 四年卒 二歲夫亡 撫 Ξ 月 遺 狐

具氏生質嚴兆名繼妻吴太家女二十 氏具中立妻鈕孟剛女年十五通撫前妻子如己出苦節四十八年 雍 五歲夫亡 JF. 四年卒

無

鉏

不能婚氏 吴中立复组孟剛女年十五 不從因沮其嗣事越三 祖其嗣事越三十年而始得嗣孫苦節六侍奉湯藥者二載中立亡其如風令改適 通中六時中立病察

吳中恒妻葉俊公女十八歲夫亡 一年雍正七年卒 無子 守 第六

三年雍正九年卒十年旌表

|具氏席正宗妻吴任臣 吴氏金元長妻二 服飾隨綿下得不死終以腸胃受傷得嘔血症吞金飾舅姑知之急搗山藥以絲綿裹成丸強 十九歲夫亡守節三十 女二 十 歲夫亡 ナナ 働 年 不 欲 雍正 至雍 喻吞 生

> 翁氏吳永臨妻翁大 -}-年 十月血 油, 湧 女二十 而 死

> > 歲夫亡守節

六十

符氏嚴有政妻符景文女夫心誓以 靈畢登小閣自經死時雍正 雍正十三年卒 十三年七月氏年二十 身殉 七終祭奠夫

沈氏葉禹生妻沈约攀女二 年乾隆元年卒 有二乾隆二年旌表 -

四歲夫亡守節六十

葛氏鄭路謨妻高昌祚女二 十六歲人人守節二

十

年乾隆二年卒二年在表

聞計即縊死乾隆二年三月初一沈烈女沈兵文女許字張文輝城有 公喻給 有 心堅行烈匾文烽父路明迎烈女極與 日也太湖分府項 宇 文

翔女二十八歲夫七乾隆二年旌

朱氏姚士俊妻二十一歲夫亡家亦質忍飢守表三年卒 譤 哀額累年縣令陳公志偉憐之為詳請乾 立孤文明欲伸母節以質故不得達制割縣署前 建坊於所居破屋前製極朴 撫

周氏吳學孝妻周維 周氏葉漢野妻周君宜女二十六歲夫亡乾隆 陸氏鄭啓鍾妻陸廷 前氏鄭路亮妻前長源女二十九歲夫亡乾隆 周氏潘嘉王妻周公儀女二十二歲夫亡姑性嚴 ニュナー 年歲首防稍懈即自經死時乾隆七年正月四日也疾九日而亡氏見死至再皆救免家人家防之至明務氏鄭緒隆妻蔣魯藩女十九歲與鄭城三日夫據危 鄭氏葉其青妻鄭錦 表九年卒 婉容承 亦早寡姑娘矢守食質苦節氏金元烟妻二十三歲夫亡無子嗣 表 苦節三十四年乾隆十年卒 太湖分府高公廷献界之以詩和者甚衆 貧而 一年旌表 能 一年推表 太湖備者卷九 以曲直孝 為母詩姓樂於富貴家遠去 少故能得 寧女二十三歲夫亡無子守節乾 生 (到女二十五歲夫亡乾隆 女二十九歲夫族死家貧無子 其歉心 無子撫 姓天民要俞氏 Ē 姓見 = 四 四 年 年 年旌 刻 旌

席氏金元炯妻二 新氏鄭啓亮妻前長源女二十九歲夫亡乾隆四年海 若節三十四年乾隆十年卒 斯氏葉其菁妻鄭錦生女二十九歲夫旅死家貧無子 周氏吳學孝妻周 周氏葉漢賢妻周君宜女二十六歲夫亡乾隆 陸氏鄭啟鍾妻陸廷到女二十五成夫亡乾隆三年 務代鄭緒隆妻府魯藩女十 周 婉容承順曲盡孝敬能得其歡心無子撫好崑為嗣 日清嘉王妻周公儀女二十二處夫亡姑性嚴刻氏 氏潘嘉王妻周公儀女二十二處夫亡站性亦早寒姑娘矢守食有苦節 表九年卒 年歲首防稍懈 疾九 E 年旌表 瑚 而亡氏寬死至再皆赦免家人密防之至 年旌表 太湖傳考悉九 十三歲夫亡無子嗣姪 維軍女二十三歲夫亡無子守節乾 惟 即自經死時乾隆七年正月四日 功女二 十六 九歲歸鄭 處夫亡乾隆十 主 婚三 天民娶俞氏 日夫構定 四 二年 年旌 旌 明 地

### 孝婦周 施 周氏為承瑾妻周行慶女二十七歲夫旅死守 張氏席各章妻順治二年山中寂然姑华之走避氏素 吴氏帝時龍妻崇禎 張氏吳嘉諭妻張鶚 吴氏吳君聞女許字前齡年未婚齡年病死氏誓 為立傳可奉始乃割城以進姑遂愈事在天於元年吴泉芳 氏吳嘉諭妻張鶚山女十九歲夫亡無子守節 質守節四十一年康熙十七年卒 病足謂 六年 醫不效氏卜之凶 死 **穴父母難之乃倩** 病氏回視父 年康熙十八年莊表 康熙十年卒 八名繼昭吴 Ŀ 何 東 姑曰不走則被辱走亦累站有死而已自經 人太湖備者老九 بلر 返 十四年在 卜割股和藥古復思股在下體不 ÷ 前姑感悟遂迎歸執夫丧未幾父 卒泣謂母曰三從之道女無 俟服 人達其意於翁翁亦難之復手書 - 竑妻士 除 從容自經死時康熙十 **拉客外** 以娶重疾 無子 節 藴 四 127 同

施氏名婉貞施豫立女適吳文元二十 席氏葛國库妻席本恭女二十二歲夫亡守節四 周氏具公御妻周昌甫女年十六歸吴越八 王氏生自為承夏妻王斯年氏年二十 葛氏是水肩妻葛時望女二十七歲夫亡矢志守節其 年氏年二 氏手製益素備殉夫物也其詞曰夫死家艱薄命 三丧未葬繼嗣未定氏五載站茶彈 主應是共姜下榻看 久許殉兒夫遺詞空自粘閨壁未識人 長逝矣也無尤怨也無傷 盖棺猶有事蹉跎三喪我沒誰人 子守節四十七年康熙三十四年卒雍正二年旌表 也謀奪其志氏題絕命詞四首自經死繁頭綿條乃 卻具不官負詩名四方賓客常滿座家無宿森供憶 年康熙三十九年卒 不關能得翁當心歷二十七年康熙四十五年卒對 息甘休萬事完此心凛凛雪霜寒背泉今夜居停 年康熙二十四 首如蓬亂志如霜三載線衣示未亡今日從容 **太湖倩考卷九** 鹏 女二 **柔便高懸命即** 舉雨代無嗣 四歲夫亡 圭 心區畫其 還聽 月夫亡 一守節六 殂 رطد ا 妄身 鬼候 站 無 -j-無 繼 何 Fi.

席氏周國兆妻二十一歲夫亡誓以死殉逾月即自經六年康熙五十五年卒 儒病死女年十六開計乞往成服父母屢勸不從越沈貞女沈彦臣女許字夏紹儒未好康熙二十八年紀 朱氏萬國珍妻朱佩聲女二十五歲夫山守節二十六元時康熙五十八年也 許氏吴定國妻許實女十七歲歸吳婚 隆氏兴益先妻二十七歲夫放 **葛氏吳國玘妻葛濬川女二十六歲夫心守節四十三年雍正元年卒** 顧氏吳之範繼妻顧明蒙女十九歲夫旅死守節六十 席氏張嘉賓妻席庶常女二十九歲夫心守節三十 萬氏吴國瑱妻萬茂華女二十 三年絕於夏食質磷節鄉黨稱賢乾隆十二年遊表 逾年客死守節五十三年康熙五十三年卒 隆六年旌表 年康熙六十一年卒 年雍正十年卒 十六年雍正十 (年康熙四十六年卒 太湖備考養九 一年卒 死無子而貧守節五十 二歲夫七無子守節 月夫即服賈 75

王氏 吴氏周溥妻吴曦赐女二十八歲夫亡無子守節三十 顧氏末蒲田教諭徐大章妾大章也主母欲嫁之氏不中称聚 金氏异定衍妻金天章女二十 金氏子永慈妻金玉廷女二十七歲夫七無子守節四 吳氏周舜臣妻吳舜恩女二十 韓氏吴永壽妻韓文所女二十 金氏席文彦妻金子益女二十九歲夫亡守節四 年 华 十 四 年 傳於世宋高宗都臨安開其名召拜為妃氏對使日 詩付使者復命即 二帝未還敵邦未珍便志耽晏樂英主必不出此題 以消夏門人生而類異七歲能詩有官詞七百首膽 · 八 年 以上武 一年 大为備者卷九 夜眉髮盡白守節四十七年元大徳元年立 ų 圖户自經死部贈貞烈夫人 月女 九歲夫亡無子守節 九歲夫山 八歲夫亡守節 主 一守節三 四 + 十四 十 九 凹

争光之句那守陸俸吊以詩有老在片時天助節名留百世日

与氏沈仲雍妻馬君美女二十八族夫亡守節四十一

夏氏蔡仲彬妻山陽縣人仲彬商於淮娶以歸年永樂二十二年卒

終身當道表其居以雙節堂立娶馬行景之女年二十而表亦亡姑娘冰操守節於人名妙臨徐襄妻蔡仲節女三十歲夫亡撫孤義成孝二十歲夫亡哀毀盡禮守節終身永樂問旌表

你氏生自蔡純正妻二十四歲夫亡無子守節三十

年天順三年卒

志教子讀書歷五十二年子盡臣中萬原上午科舉徐氏沈成德妻事後姑以孝聞二十二歲夫亡撫孤守

我哭汝祖而撫汝父冀其長成恍若登天汝父長而歷七十六年萬歷十七年卒病華時呼希問語之曰長而授室得孫希周而消又亡氏撫孫倍艱於撫子張氏屠子雲妻十九歲夫亡遺孤消甫三點辛勤鞠育人榜姓馬

循不死矣既又哭汝父而無汝身以及曾元辛勤

餘年以綿五世

一綫之脈今年九十四我事里

許氏秦用童妻十九歲夫亡無子守衛四十七年矣報爾祖於地下無幾無愧言花而然

年萬歴

曹氏夏椿庭妻二十三歲夫亡自刎以殉賴醫救得不十二年卒

死守節六十六年尝積十年卒

賢月

是事春島風天為下 思大思笑的冬子~来幸春以張氏徐守仁妻二十五歲夫亡撫孤壽椿的媳嚴氏未

往侍疾父母不能強遂歸於徐躬侍湯藥壽椿病漸聞告父曰寧有有夫女而可另嫁者若果病寫兒當娶壽椿患瘋疾勢不起氏恐誤媳終身令媒辭婚女

愈結縭一載生子名一風而壽椿亡氏年二十七姑

守節五十〇年順治九年卒 媳孀居刻苦共屬張守節五十五年天啓四年卒嚴

馬氏蔡堯妻二十七歲夫亡守節五十六年崇禎十一

年卒

十一年順治三年卒 蔡方炳作雙節傳 新生金年二十三夫亡陸年二十一夫亡妯娌孀居金氏蔡正容妻陸氏蔡仕容妻正容仕容兄弟也皆是

年長子正雅娶媳蘇氏婚一載正雅亡氏年二十無氏王爾思妻二十四歲夫亡食資撫孤守節四十三

葵氏沈元功妻二十七 土氏馬尚儒妻二十四歲夫七無子守節五十年康熙以處子終其身里人私諡曰貞孝 陸孝女陸明輔女父殁家貧二弟稚弱女失貞不字撫 沈氏蔡完初妻沈懋光女二十歲夫亡守節 蔣氏鄭茂始妻蔣 范氏嚴士元妻巧陽人 屠氏蔣震川妻二十歲夫亡子思川娶季氏年十八思 急抱一 五年卒 育一弟復以針前之餘勉到父所著黎阿集行世卒 臂臂斷而抱 出奔盗劫其資而火其居且欲污氏氏奔逸不得脫 四 順治十三年卒 順 子哭夫丧明終身衣麻如素克紹姑志姓三十 順治丁玄氏年二十有一 年卒 亦此姑娘矢節同撫思川造孙二樓成立屠歷節 一年季歷節五十七年 樹以自固盗驅之迫以刃氏大罵盗散其两 如故盗驚去越 楼女歸寧日適遭盗劫二 也士 歲夫亡守節五 到女 元父商於楚聘氏為養媳 日夫至始仆地事在 十四 未 年 凼 十 楼 康 1 熈十 五 九年 年

殷氏姚某妻二十歲夫亡姑納富見聘氏即 蔣氏葛鳴國妻黄氏葛鳴皇妻秦氏葛鳴世妻蔣 陸貞女為沈凌谷聘媳未嫁而凌谷之子亡父母欲改 何氏秦愛臺妻二十 屠氏徐秉一妻二十 葛氏三節 節六十二年康熙二十六年卒黄守節四十年康 字之女泣不從父母不能強遂獨居一室足 十四夫亡黄年二十九夫亡春年二十八夫亡蔣 縞衣素食歷七十年康熙九年卒 十五年卒 存古為之傳 矣敢自辱乎年八十有三卒以處子然其身里人秦 亡又撫曽元苦節七十年康熙三十四 喉得醫治不死撫子 君祥甫成立而亡撫遺孫復見 氏性幸姑絕憐之哀其無依欲令更適曰吾有夫將 年十二擊來山未婚士元從父客整遇亂音信久絕 養後知士元死于楚姑已殁隣里俱勘改嫁曰吾老 安適又有傳士元別娶者勘氏改嫁曰吾有姑緊誰 年卒素守節三十三年康熙十三年卒里人 歲夫亡守節六十年康熙三十 歲夫亡守節六十六年 康熙! 以剪刀斷 不踰関 稱 年 為 守

# 二年卒

張氏蔡善任妾二 十八年卒 + | 歲善任亡守節五十三

蔣氏 鄧明琬妻二十三歲夫亡無子守節六十 五 一年康

**熈五十年卒乾隆十三年旌表** 

一 而子又亡復撫孤孫備嘗與苦守節六十三年康熙城氏具安所妻二十三歲夫止撫造腹子成立甫抱孫 十四年卒

之禁瓊滋益肆氏憤懼自然死 本 太湖備考卷九 製 本

周氏名毒英蘇瓊藻县周之球女瓊藻素有心疾氏克

四

王氏黄子嘉妻年十六歸黄婚三月夫旅死撫遺腹子 守志歷七十二年卒

陸氏沈維揚妻維揚賈於楚遇賊死氏年二十二計至 求死者數夫兄曲論之且為立後乃止守節六十三

康熙五十 -四年卒 禄中屢顧之氏泣

遂與時年二十一舅欲奪其志氏曰吾所君恐我有二心故不忘此子耶當斷一指人於不以外不養 以不死者 以誓士賢

耳奈何以非

義迫我即引刀裂其面示不可奪

守衛五十 五年康熙四十 껳 年卒

战夫七無子守節三十 三年

**黑五十三年卒** 

鳳貞女許字黃嘉未婚嘉死計至女泣與于母 而授室生二子女父禎卿亦無子遂以孟庸歸宗繼 守志母不能止遂易服奔丧或本赤貧并無可嗣 乃乞堂弟孟庸無之玉南生南三月女百計撫哺 願歸

陷氏 志之 王景耀妻二十六岁人亡氏卒苦操作 撫 孤 政安

父後而以五庸次子繼黃氏泰嘉鈴作貞孝女傳

王氏祭孝維妻十九歲夫亡孙文升誕未彌月氏事姑 鞠子矢志靡他歷二十三年卒 成立守節五十四年康熙六十年卒

蔡氏素公茂妻蔡野亭女二十二歲夫止無孤子孫成 周氏徐三辰妻周宇南女二十九歲夫心守節 四 四

年康熙五十七年卒乾隆三年旌表 授經書守節五十四年雍正 鄧良臣妻沈縣仲女二十五歲夫公 年卒 撫育 一孤親

祭氏沈茂嘉妻祭會嘉文二十八歲夫止無子守節五

史 225-172

## 十年卒

沈氏秦士淳妻沈伯 -}-二歲夫亡守節四十九

年雍正二年卒

劉氏秦元悌妻鄧伯英女元悌商於楚溺水死氏年二 十四撫孤萬授聘同里吴樹公女為媳未婚而萬授

亦名死于楚吳氏聞於奔喪依孀姑偕守時年二十

姚氏蔡起夢妻二十九歲夫亡守節二十八年 六姑慈媳孝問里稱賢乾隆四年旌表

雍正十

吳氏秦元在妻吳孟昭女二十二歲夫心守節 二年旌表 太湖備考老九 列文 圭 五十

年乾隆七年旌表

黃氏胡公輔妻二十九歲夫止無子切姑欲奪其志氏

沈氏王進思妻二十七歲夫亡守節四十年乾隆十 不從夫弟潛納人聘迎娶至門遂自經死

倪氏祭鳴球妄二十九歲鳴球心遺孤孱弱鳴球繼妻 年旌表

朱烈女名多朱顯甫女許字徐某未嫁也免徒鄭紹甫病廢氏撫孙操作苦歷五十四年乾隆三年旌表 白日入女室欲亂之女奔避獲免即於是夜维經死 員而懦畏惡不敢言時康熙三十五年四月越

> 蔡氏郅道千妻蔡世貞八二十八歲夫亡乾隆 四年紹甫榜墙忽隆呼朱多姐殺我嘔 यार 死

叼

年 旌

表

王氏沈公遠妻二十一歲夫亡乾隆十一年旌表王氏沈兆源繼妻二十一歲夫亡乾隆五年旌表黄氏王日赞妻二十九歲夫亡乾隆十一年旌表

黄氏生自秦朝覲妻二十三歲夫亡乾隆九年旌表 黄氏為洪濟妻乾隆十 年旌表

蔡氏朱元龍妻乾隆三年雄表

蔡氏李文尉妻蔡罪周女二十二歲夫旅死家故 大湖情考卷九

丧拾据殯葬皆声盡禮守節四十八年乾隆十三年 奉養舅姑彈心育了既授室而子媳偕亡舅姑復連

沈氏徐洪載妻沈君壁女侍夫疾不禄米者決月夫憐 他姓也守節五十餘年卒以下九人見蕭京及蘇州府後題志幾有以夫言風者氏即提刀畫兩類日寧死無顏對 之臨死獨日汝年少無子守節非計也氏泣不應未

徐氏 十四年卒 殷爾仁妻徐養初女二十三歲夫心撫孙守節足

蘇氏張某妻二

四歲夫亡撫孙請侯食貧守志歷五

史 225-173

貧氏

### 不 趴 閱稿素終身

徐氏莫某妻二十歲夫亡 鄉里罕識其面守節五十年 無子 而 獨居紡績

胡氏蔡丕顯妻胡賓侯女一十八歲夫亡守節三十年

王氏鄭某妻王善問 女工操作給事舅姑以節孝稱 女一十四歲夫亡翁寅錫家貧氏

馬氏沈埙東馬良女守即三十五年本

以上西山

李孝女名海珠父李智之嗣女年十四里有委禽者女 到股啖之不效相繼殁女管葬畢日今而後當從父 即截髮毀容以誓後智疾篇額天乞以身代母又病 曰父無子有女尚 下尖遂縊 死 可承惟女嫁熟為侍奉智不許女

氏史彦妻山東人彦各山東娶氏歸後從彦四川

蔡氏鄭揚字妻初從大係居湖廣明末歸吳遇派寇被 徐氏沈應禮妻徐展池文二十七歲夫亡守節六十年馬氏沈鎮支馬林文二十七歲夫亡守節三十二年卒 據氏誓死不辱賊所之斷臂死是蘇氏荒時 大川角古具九

> 南 衠 經歷 任彦死 氏攜 **经孤負骸骨滿里**

錢氏姚冕妻年十六歸姚 女成化十

猪氏今世茂妻猪翰女翰來视女氏送父嗣 別 調女曰汝義火吾少睡糜成報我 欲嫁氏氏躍入池家人復放 喪歸氏迎丧哀物躍入湖家人 叩而啼家人挟窗入則縊於林死久 放之不死服闕夫开 تأثر 日薄菜淅米金中 女往告寢户堅 九年冕客死 翰 5 葬屋基 隨 湖

徐氏 李氏孟元卿妻二十七歲夫亡氏哀毀捐驅者三皆 李氏馮義妻李鼎女三十歲夫亡堅節待死終身一 丁氏孟文學妻丁致寧女生子恩夫客死於汴 英能救氏躍入湖同死正徳十二年事 拜闊户自經死時萬歷已五十二月二十日 不白 免乃謂姑曰姑在婦不宜死然婦少倘有不幸死 爛卒妻年二十六湖卒妻年亦二十六遺私俱幼家 自食熬產而男姑賽 故貧遭二丧益不支崇禎末連年早數生 杭觀瀾妻徐氏杭湘妻爛湘同胞兄弟皆己諸 姑愛婦宜令速死乃櫛冰整衣笄從容向 撫恩長娶而天又撫孤 人不湖情不杀九 (強不缺 孫守節五十 計 氏年 益 一製常 姑 且救 生 再

立歷五十四年本 立歷五十四年本 人 食質守節撫遺腹子 手回我投父母十九春誓不污身城唯人恐來見逼王身女名王 媛王三省女受許某聘许以盗藤女開作 周氏丁志鼻妻明季就居江陰泉革時兵至志鼻擊氏 姚氏紀其妻二十九歲夫亡子克柴方在城也家質期 吴氏許字顧恕父吳滿索厚聘嫁不及时 陸氏郁士鱷妻二十九歲夫亡食貧守志事姑尤孝棲 截氏王瑞 班妻少寡事後姑尤孝 羔 之起 憐之議改適遂自縊丁致祥有哀顧郎婦詞 報 匿 敝 三十二年卒 難脫身故先一死 已不可婚矣氏奉 **族無可依獎数子** 問極思遂自絲 而不易歷三十 田 ソン 上馬蹟山 則抱持愈固兵斫之至死不釋兵去志皇竟無 間兵執志皇将刃之氏號哭以身其志皇兵挟 · 华 卒 湯藥甚謹喻月夫死哀働甚舅姑 明我心獨遺父母哀痛深來生當 首女受許某聘许以盗露女開作 立衣食不周卒能無孙成立苦節 死事在萬歷五年 為為為始歸 丽長成

### 倪氏金某妻倪元明女年十七題金翁仲元時本姓氏 韓氏王禁受韓茂槐女婚兩月夫客死氏矢志守節 葉氏朱某妻二十五歲夫と家質守節無 太湖備考卷九 贈之 半室 虞族利其資致生他變乃盡散其資産於夫族布衣 謝曰此吾責也何敢受旌太守陳公鵬年嘉馬賦 **蔬食淡泊自甘歷六十年卒** 苦歷四十餘年 氏纖維供七箸無少意聞三十年已令欲推其門氏 母兄至楚編訪得翁而扶其夫之棺以歸翁已老病 旅病死遺腹生子蟾氏盡賣其致珥衣服挈孤與 以不得奉養為感婚四月即促夫往逆父夫抵武昌 右黿山 右渡渚山 右横 以上長沙山 風 太湖衛考太九 雨不蔽臭孀姑同寢處苦節終身 山 列女 蒫 孤端麟成立

震澤春深深碧漪淨涵天影漾玻,太湖春漲 八酒 的 顿 段漁浦晚針日一年塵土面一 太湖備考卷十 坐中流高 舟班夜歸來晚没却漁磯路亦迷 義相近非專取其詞之下今所集宗此二說地與事與人無傅會有關發者録之與古人詩之解則無取馬近吳江新志集詩例亦曰取其下至開閻疾苦無所不録惟歎老嗟質嘲風五下至問閻疾苦無所不録惟歎老嗟質嘲風五 山船頭來漸覺家鄉近 過太湖 題省過太湖 陸當湖 天 日桶 日福林秋信美仍吾上人一洗向清流山與人相日 先生靈毒 月 如 錯 تألا 縣藝文志論 際 况兹清夜 不 東山金友理纂 放歌何處復來與 璃遥 如如 見天將水共洋落 風 友璝 H 正满帆中 何不少留 增越婚千年潤 Ł 馮 \_E 自廊 校泳 達 橋 風弄月 詩史 其於 聽 西勺

莫隨花 **凌空倒** 湖 妻帑那解散 孤 世 商 湖南湖北今同宇吳越英雄在 四 風 太湖煙景由來奇况復澄海秋漾之長空一色碧萬太湖秋行 落葉蕭蕭洞庭雨一聲長笛又分指君往湖東我向 感 面 干古清都令尚愁朝來送客過 年此 顧文華總是秋功名夢斷具區水清獨關橫江鶴聽罪采蓮飛釣絲 紛都 廻水 風 **脫贈君無限意楓林寒隔** 似 湖中二 短棹從逃名汀蘆渚寥紫曲 鏡映斜 鴨 足那 一影絕鐵 小面寒玻璃 入滄浪了我亦扁舟時泛败吟懷處夜月小玉鏡園園光自好不羨 灰夜月小玉鏡園回水大湖情才本十 背船 近 首 其生 人意筆林茶竈輕行具呼童收是秋功名夢斷具區水載月歸 何 飛 暉 安網上銀魚跳一尺鱸児草脆拍季鷹 怨百萬姓 放取 然勢黃蘆拂釣機寄語奉鷗須 玻璃荡精青山温七十二峰涵白 軖 舟 集計 脏猿 14 葉過乍覺霜風寒割面 湖 中 何許孤帆查查獨 與漁 父傳榜星斗横 口煙水 戦波 啼 船 不羡蘇 本 朝 頭故舊多聞 歌故舊多聞鷗味秋思追天隨 汪 微滋 拾檢點 丹詩滿 辦 琬 凰 血 湖 山 滿同 我 9)] 鈎 日 西 讆 項 流 册

## 迷覧 寶此增悲壮昨為鏡中游轉盼開奇岩五雲沒何處指 同好游放舟歷問 雅屏天南酒城通左傍浜弘萬項間變幻發奇狀畸 沒打養湖拍岸過無田幾許委洪波只个種水愁無地 香納隔浦間漁唱西風起無端銀海生高限天吳與波 湖山人事兩類糊姑骨山外是胥湖恰值總夷葬大夫十古詞人憑予處 誰唱其官競採歌 有不可望百靈陪濁流相君亦樓 臣咫尺疑相抗白日忽云證明字作煙障行吟澤畔 清漢凌霜殿菱葉資新張 水塘張處六龍翔想見 下上載讀秋水篇法然得深養 白魚黄雀繞灣多 樂游 菱湖 唇湖 蘇風閉西皇至降浑盈溝養魚鳥樂煙蕪時翔 曲不溶桑 ·時小學傳秋清日月同摩潘曳夢弱 西施 五 一湖東 舞袖 集計一 槍吾生值風波形骸 揚香點消磨朝市改 一角兹名昔所尚首 前 前 莊

徒争雄翻思欲得秦王鞭驅出海外母逸延清波從此出臣当第六時變外煙雲中松雪叟守溪翁為圖為賦 翠微天畔插明空兩兩透風鎖點官那得主 好今疏手並争雄潭潭雲起天教合寂宗螺分月在中 無學即浮大口無與酣吐出胸中之五款 疆自開闢其餘項屑安足論却似兒孫仰朝夕紫緑 太湖大 金碧芙蓉映太湖相傳奇勝甲東吴漁家處處舟為業 平如掌獨獨扁舟坐天上歌滄浪招白鶴 異桓文在郑莒振衣獨立春風生春風揭地波傳 莫釐峰高幾許白日溟蒙散煙雨襟領崔嵬七十二何 展事年年楠代祖流水平堤横墨的林深古寺出浮屠 便欲與君乘浪去幾四收拾舊詩第 十項難平七十二杂青芙蓉東西洞庭與馬蹟鼎立 軍戰骨化 從皮陸題詩後多被人間作畫圖 莫釐峰 客有問洞庭之勝者走筆示之 望洞庭雨峰 セ 、類吾心胸中 為土湖上青山空殉名 太湖值方差一 |峰歌 有砚碣 集詩 同諸峰澆之洪海三 倘遇山靈笑 葛 湯 葉 人堪對買 時 爕 龍

朝張 雕 翀

金庭王柱羅奉仙撲而煙濟恍如隔與耐乗月更徘徊 台目己 近徵將軍始封號上湖野世久開開撫今懷古與方深 遠近天光連 松陰欲盡翠浮浮仰場晴續尚干尺有無煙獨接三 明显往空疑可摘朝來拄杖到山前路近却驚峰轉生昨朝始作東山客已覺莫鳌如舊識憑懶指點最高路 前山省州都照澹法海寺翠旌明城龍女宝 一碧絕頂疑道虎豹湖中流隐見魚面國

長倚天風即吹笛 登莫釐峰二首

集詩

查慎行

置身主党此峰高沉沈海浦黄雲好點男帜白鹭海白層風極盤族上大似轉應乍解條放眼不知何處盡 東南無水不朝宗蓋空日氣消飛唇板地風聲穩卧龍 曾記去陽樓畔望肯教雲夢芥五胸 青天七十二美常個是美家第一 峰吳越 洧 1h 多作

縱目凌千仞山寒落日 未免伤人唯好事重 吟風岡 村草木迷莫云衣未振高卧白雪低 西詩上懷雅頌蕨老版夷齊 過與仍家明後一日 明兴時德

一陽已

孔貞明

渡波濤迎荒

飯

石峰

誰將白 峰頭煙猶疑自成 資枵腹需永發搜奇數我思黄梁夢桑海殺經換延 石煮 化作仙 變 飯餘聲棄峰頭粒

拉皆难

來不

4

登縹緲峰

朝

地技制鐵上太清四的有踪許經獨五湖無定亂呼名及尺何難問王京參差星殿樂齊照亦月下少了 頭鬱鶴絲堪路自愧銀年本成 縹緲峰 頔 超

世雲氣黃雲湧起白雲山 領 預孤 周無草樹俯挹北斗君不見具區連峰龍虎野缥缈視之皆兒孫半里漫湯網峰 集計

霞萬道無定師大風吹月度 州盡在空濛裏低頭近看太 窺天 Ц 倒掛 門天 碎天残漁帆欹側走翠微日出日落紛照耀 門不即開眺望嗟無已楚山越 五湖魚龍戲舞山鬼呼 湖水晶晶浮光五百里 山數 點 煙 雲紅青

此山有巴陵之地脈中車益來咫尺照傷酬之

問

畴昔悲帝子思重華馬

和

**登標紗峰絕頂** 

湖渡暮宿雞籠磧遠從香閣望削如橢圭西峰若圓壁不登縹鄉顛

張鵬

翀

節信仙靈宅 摘入林 朝

就復興抵麓振松策蒼龍忽露爪翠鳳乍舒刷

水水煤 伯 浴波 惊 E 颯 1. **孤隘楚澤百濱浅尾問千峰** 剪 便 耳漸覺風生腋買勇獲先登前 側 學銀房 畴 身 抱青峰 行從 流 贷 釋 然來煙濤悉無際何處 頃 徑 书 凯 無鄉 青山 遠目 乗罪 赤 似此 夫椒 盪 峰 進 包山遠眺 寸 郎 頭 胸 路 前孫節 山地花枝 水核长天势林 風逍 靈山 視翠微 退 古戰場干載 臆 路縣花花 雲根 地 反 脈或潛通 遙 幽棲永朝 尺機身仗 子升雲碧 古 石 拉 此 折 八離 北光深處 凌 公嚴 簡 ネ 離 厲 逻 辨三 戀五 少域中 够 天開 可招仙踪香難絲動 魚 如 孤 逢 畔 龍 集計一 (點墨 刻 筘 有 賭 倒 州茫然見於弱 一出没雲霞散 紅 劉根偶不死至今號 馬 忧 幽恣揮斥三州 提人不信山居少庭事 Ĵ 仙 E) 槎寒香一 家桑麻鬱鬱紛 }\_ 彤 解衣漱雲泉欲去未 ·蹟長煙浮空青落 首笑二客俄 初 胳 脚 机械天外生羽 11 凌如 雀 沈 瞻眇吴苑南 片迷 明月 徳 飛 我白 扶眼皆 Ź 麗 難 聞 潛 湯根 舟 雞犬 戻 銀 天 雪然 国 仙 海 碩 Ė

老鶴昂頭湖水 館 詩囊風土紀新篇果熟山家樂有年 行 奚畏 桃 斜 桃 斜陽芳草冷吳宫 開 4 如奉珍品航 我過 射虎 因思紫塞青田 具官舊事不須論剩有雲 中老園 柜 源更訪 開鷗路散表叢 資信省 財品 日及留實自建時有蔡子 東鄰桑陰沒昔 收山色入詩囊 實落大如拳 包山麓常開 緑車 鴻 日開 湖水邊養天養这午雲薄仿佛見 L 酒盈觴老去逢春未減 洞 天 湖去春玉 中春福建游全林屋明 太湖備考卷十 網 脒 種安得境城并磊 趾 真鴻垂尾 銷 勸 年 織 君慎勿 女數森 夏灣頭轉蔥風最是米蓮 恒 香粳 苦地 山 太湖水 ~满載還 振古 施弓弩曹笑龍西 貴強無食機行今年 不 这日 寛又見 新 狂 落長年在地 跌宕節 倘 孤 妬 霜橋雲横 許誅 然村農事 Ц 朝 西鄰伐桑樹 西 鴻 面 戼 将乘見 紅 望 人不 松 向 十 林 似 難追 山 胼 火 Ŗ 甲 錯翔鶴 颠 胝

今天下繰車廢三 有種前及牡丹花花草州見微 |軍挾礦循增 寒利 行 歌本務 供 进 盤但

石公山

畓

點黏潤有波紋洗霜骨六月寒苔花干歲點世人賞佳勢將墮閣除力不倚冷冷扣星魄落落捫珠棄瘦無沙 觀既眷傑近賜仍怪偉一等割中開奉的紛上 岡連 世縣來一 峰斗 八水蒼龍 下飲湖 矫然香角起 指梯空 人賞佳

名名奇無過此 鄙哉牛與李 天然 列仙玩削成瑶池 東區區

寳

湖 所情沙卷十 詩

當聞

汪 琬

前題

几案或方若基局虚或生天風潤或聚雲族或石漸奇一一煩記錄或如城堪連或如屏障曲色園暖翠湖光漾晴緑葛花悉衣被橋刺凝巾 石 公山 名稱習已熟兹 松遊下筍 輿 **八綾步向** 刖麓

屹

然撐柱

湖心中以石為梁石為礎雨

工

如羊

頻戲

游每遣波濤

衛門户作書試投

將蹋

明沒訪貝闕往杖出

借取

紅湖珊龍

離斷還屬曠或可振衣仄或色家之一、一種一種一種一人等度代成如兒孫拱或如主賓肅或深若永卷 為蜈 震澤蒼滋湧太空小靈山起時天風嵯峨一 琅 陽侯似拒选 會見當年四載功七十二峰初底定水平王廟 函

馬蹟山稽古歌 秘方今有無我

思工築不然湖中龍蛇骨堆深谷天公弄狡獪專用悅離斷還屬曠或可振衣仄或危容足旣疑雷斧劈又似

報

功思與此山齊弈葉明種擅名勝蓮花蒂内

結样

将 徑

開荒

目芳草絡根淺孤松旋頂秃散釜上鼯鼠嵌空縣輪

西歸聖僧來駐錫移得菩提親自植菩提非樹維宇精廬隱丈夫百項松濤清晓夢千竿鳳竹

忘返苦被同遊促平生解愛石拜揖

與

辣林

増

幻

色東去層戀官長尊俯首奉獻

列

知

翁媼千年對切灰 萬尕芙蓉石作 急欲買茲 前題 4 **誅茅架禄竹為謀吾已決不假龜** 胎 五 丁 惜不曾 崩 從 採鑿 成 莊 綱運

雅 仰 龍走如絲雷電縮於盘高撥青翠果将零 松海珠作官 公蛇玉腾虚空鮮車魚馬 面啼濡足不 龍渚歌 龍渚 方壶玉 敢 上 一為楊不 我欲呼巨靈靈雅 集詩 冶金鐵 紛乘 風 舟 玪 納 十 瓏 世 諸 宫殿 珊 汪 顧 掌 何 瑚 網馬夷 鎮 琬 超 無恙

瑚姑舞 史 225-180

昔時伍 劃然干 聊試尋芳徑竹塢避暑宫墟木石寒西施 得魚沽酒義皇城蘆荻花灘常醉 勾漏辭官隱兹土艺室棋残白鹿 未識清音何口返空餘惆悵煙雲生雲居道 那見華家遺氏在以傳學上尚流芳徘徊湖畔西山路 颓波何事少為人長使山靈歎空谷空谷之東尚 丹爐飛出九選砂您您斜度達坑薩疑问蓬菜分 循湖追遇到金沙朝歌燦爛如明震應足見池焚光入夜凌虚碧珠聯王削點山奇数里梅花 磐陀石 户挹將軍煙帶燃逐逃北去轉山莊裁順中藏薜荔房 柄 檀溪幻宛棲雲華泉鳴王激與山耳松老龍蟠霧雨 雲曲碰盤雲裹殷對天門開勝子星搖碧落映燈寒 呼吸走無蝦漁息機邊漁艇過征帆不鎖走龜蛇天矯晴嵐赴水涯怒鯨 呼吸走無數漁息機邊 1子盟高峰崔魏勢壓夫椒雄 載幹神鋒西來半等金雞墩曾聞 r 天湖情者本十 集計 土 身忘我狮 姑蘇眼 内 子岩前虎斷 勢自 桃 艇 花 醒 **事墓灣喚醒** 孙 调直 在帆颺殿連次然經勝蛟不 憑弔 秀服追追萃於此 君王若肯納忠陳 與 ī. 惟 贱 \_ t\_ 存試 岡 浮生誤 回 禽舞 漪 敢 近 名著 朝 剑 可 姹 曲

策丈 勢凌南越控諸蠻吟眸絕却披圖覽放意寧忘着展看 雲收天半王原寒日 鞭 陰北湖偏勢絡奉峰首祖 穆然氣蒼寒 神皇龍馬傳 勝負的交兩國鋒惠養煙消平見塔洞庭風 熨斗崖中日月長輕清欲 有 古竹津頭山若屏古 白髮蔥蕭任物情神馬水垂秦始蹟亦同漚影綴滄濂 弘石何縁誌: 龍駒道跡大如斗前此 來登第一峰天間澤 自非押 :魏魏知幾重 官長峰 擬古竹津謡 刑 前 題 晴跳馬 心野望 虱 聞久試拂蒼苔石上 湖備考卷十 士 王辨息 太 願 湖 收 映嵐光翠結團氣壓東吳浮震澤 竹 西 凝碧入詩壇 又誰名世遠不遑 拉 ИĖ 前 横 國 何年 紅 滥 北 Ħ 波 奇峰丹青不改千年 塵 百 浪驚開山 103 鏦 遊 胸 餘 髓 **駐**興 紅應 神 里 功法海 |煙雲出其 钥 陳履儀 山之後 種竹 陳 葉 蔡 仧 佛老者生 順 所 歌 11% 莊 松 知 間 明德 蹀躞 數器

築城半 賴孤敲火祠荒獺祭魚青天與海鳥弋者欲何如樵採不經處路尋黃葉初豈惟人跡少并覺樹聲 長圻龍氣接三山澤厥綿 此中泛泛多住艇足給立真物外遊水國分封紀列侯若備户庭尊莫里居然襟帶小 西北洪濤天際收一拳横截界中流山家得姓傳高 驅雞入雲乃誰氏結盧猶傍山中掛 吴王養雞如養士終情我城金以距 尺上 輸略許擒縱君 居然蓬島在 雨鳩晴後鶯花燕麥春不堪寒食近野哭動經旬 俗無機穿山風少怒號干秋遺患處誰始剪達萬 射點山 徐侯山 雞山 存姬姓荒邱半思鄰可憐松下骨猶說汴梁 武 三山 錦鳩峰形古 太湖倩孝美十 山 人蛟龍窟至今湖上立空名但見残山不見城 人家 Ŧ 置虎牢至今從震澤疑是射成皇 延 集詩 望 間煙水漾中分聚落 ·跡少并受樹聲頭石 本 中朝吴 明葛一 上 時國氣基鄰敢 朝兴偉業 前 張正春 莊 龍 超 諸浮 難

北西田石戸瑞雲安全園最为后看 电写 沒 沒 沒 才 該 女 沒 及 及 我 人 人 我 我 一 好 我 好 要 我 人 我 是 我 一 好 我 好 要 我 人 我 是 我 人 我 我 要 我 我 要 我 人 我 是 我 千年古相自多天衛生為傳養是東外外於正方東教行品到王文樹長生丹竈委荒煙大傳詩碑却未眠舞鶴峰頭無鶴語 短型耕級夕陽間前沒有盤龍寺傳光完題雅龍山一字 東村與渡入横山遊編盤龍與兩灣欲問醒 存四面皆路布房石已嵌砌入椅 之西園名戶端雲峰今園廢而石稿 那有間情消至來 疏决功施集與材無舟至此 不同約完守華淮衛時的於如為前衛人以 如船仙藕化雲巒節節絲絲 岡緣起伏四峰開漫說人從魯氏來我為長沙生獨 秋運情費生才自造五人多攻木者 凌波大謝姑裝成及撒謝姑山 横山 禹期山 長沙山 陰山 葉余山 太湖備者卷十 集詩 拯 入扣看村舍女紅争績線 峰孤瑞雲飛入西園 次災對襄都為民生計 前 前 前 前 前 吴時徳 前 酣 亭上

越來伐霸圖如夢湖流咽殘鱠成魚鴨飛頭山頭四山養鴨山之東西設兵甲畫乃監狸夜防獭鴨正四吳王誾國政遊戲悉有法涇裏采香湖種凌坡上四吳王剛國政遊戲悉有法涇裏采香湖種凌坡上四 片石可 平抽玉笋見頭尻北走洪湖敵怒清神界使君傳漢 思夫畢竟是鄉浮品音部世英水採熟不歸誰鑿空 至今遺湖枕 總有丁夫不籍其自造山有具時城軍制之處 起伏問無自有情兩峰相抱水盈盈太平荒盡藏軍洞 西來急雨打旅蒲選趁狂職 墨拍浪奪聽珠 , 外古到青 漫山 南烏北烏東鴨 盤坐耳净空明中清音逐時 一一以小真山北向街山有沒郁便君廟一十分自注大湖路山多南向東向惟街山 上青如詩亦誤於公武 西 走其湖要看嘴監嘴成樣 發安川絲與桐悠 吴 前 前 吴 ))·] 莊 莊 風肥關 +11

北岬山二首 前人
那有堆錢貯米心宜造養鐵木於此
鳥盡弓藏機智深浮家變姓出湖海能將做展看分國
錢堆米貯磯 前人
不出桃源話是非值法居民二十家時失
紅樹野莊白板原甘家同井盡牛衣美他一姓能偕隐
大帆山 吳 莊
山翁出入無停蹤芒鞋踏編山花紅
上許一老虚其東形如龍虎自盤踞朝雲幕雨相其濛
太湖湖西第一峰中流兀立勢且雄千峰萬峰不可並
大湖備考卷十 集詩 六
獨山 施 隨
何華屋士黄金盈牀頭攤姬煮丹砂日暮崑崙涛
學仙惟釋累累釋仙可求試觀古仙人其跡同浮温如
煉藥洲 本朝葉 松
落日中流棹歌發春風一片桃花紅
河漢遙遙带清淺山祇舊是匡處翁幾年來借馬夷京
誰着煙空青五點在瀾東下何曾轉查頭歷歷應浮沉
五石浮明鸟一龍
從來所見不如開
為尚為鴨亦何分孝石中流似起孝武問山靈堪一笑

盡收美景 沙塘一 其向桃源問仙客石林丹竈在幽赐誰道竹山無所奇鬼冷神工脏心目電麗之窟蛟龍宫飛仙羽客粉遊踪 浮乾湿 液閉 看真真色皆為切前有深入武其選窮年那能究靈幻 自混沌未分此后 水天相接涵 煙樹後花 八其餘第書出偽手聖人徒疑猜天地非 祭曹無 哪山外起神砂西指 然竹 林屋洞 竹山原注 名兰山以其似天空竹山原注 名兰山以其似天空村 銀花 日本神砂八道在洪波中 前題 前題 水出湖遥二 山當湖衝上有古利凌空蒙登峰 坤開心胸秋雲明净秋晓爽三萬六千平入堂 認 أبخر 寺 歌 直結鈴孝有 虚無點青螺波下上冥疹携伴窺山 辦 北 姆禹 首微 一開己久 一竹修眉 功不敢居但嗟生十 功底定世難忘如何廟食憑漁 雷 古佛宅其中 山 兩道 ふく 斜 本 實將先覺守 得西青遊 朝 かく 吴 放眼渺 史懋 汪 Ŧ. 剖 對争戲水 炸 莊 錦 琬 松 聞盤 記 本 腹 際

選徑 屈慕 花春 壁思前事窮源誠後來不如神景觀 若干軍名氏繞壁鐫始 出谷衣争縣盤均炬已灰仙居無路到石扇幾時 U 洞天 去仍遷延靈蹤不可見一 開幸得逢真仙岩差出終關平行分項田此境天於關 值此何由縁我行甚多憊挾策未能 如馬嘗撲松 自少誦真語識 砂凝為林石髓滴為泉琳 依然天 境偏 凝 鹿城 空緬運 仰聽波浪作幽邃得石門塵凡此 幽虚天來尋古嚴壑沿溪覺履湮披郡嫌裘薄 項細仙鼠意飛翻二客思深入囊交換讀禪 傳第九林屋是是很地戸真官守盆泥太古存雜 前 前題二首 側稍 顛 工絕雕琢想見古仙人於此棲宋莫俯看 太湖備考悉上 深漸開廓石壁翻仙鼠青泥產靈藥林 明煙別户久牢高到啄空經然千年或一繞壁鐫始入頗偏侧稍深益此好白蝠大 朗 當年門 有 真語 幽 虚 文出除如夢覺 天中 任樵人傳 開干載封高 花拂雲根藥草紛羊眠 作门一 藏 不 死 方校定 松下且徘 前欲 問却仙 沈徳 探託瑟縮 葉 凡幾篇 蹤時 酒 加 松 開 欲

先約南都墨佐君 絳氣通 壇上乱松高百尋松花堆積丹池陰劉郎 奉后參差滿路横黃芝亦前逐年生只疑猶有遺丹在 中分雙崎地東西松杉琴合家堪隱橙橘黄紫路不迷 挂 滿樹白雲啼翠禽 **骅盡黃精数項苗 嗟麋鹿徒為爾霸業將成子胥死孰令遊到吳宮裏** 其問吳王消暑事米芳春徑草萋萋 五節珠幢去已遙獨留残石鎮 旗影射波光紅臺荒鹿走吳沼空黃蘆捲粉生悲風 練讀水照兩峰 四 望皆绝壁中間如平畴草木豐且美真堪麋鹿遊吁 脚湖心傍畫榜棹歌聲引緑追迢澄波皓月荷香裏 取山靈掃洞門歸來重訪舊增雲月 消夏灣 前題 毛公壇小遊仙詞 太湖備考養十 闔間於此侈軍容納艦飛出馮夷官在 集計 山椒 愁渠變化成羊後 本朝汪 明時節 캎 王世貞 張鵬 二去不 愷 開清 琬 翀 知處 曲

腿叱 |清絕疑無夏可消 黃鶴瀟湘浦恐使吾徒窺還將白 船來坐劈麒麟脯鐵笛起中流進酒虬龍舞晚向 自為相一身雜仰俯依備莓苔中葉葉青蓮吐仙翁刺 然州崖開着江百靈谷萬載長飲危撐挂良亦苦古佛 歸雲何孱頹雕劉自太古干松五盤結托根無 千年後緯蕭障流水 **昔吳王時畫舸柳邊樣官,** 湖雨生緑波數尺 無影明濤孟我胸小舟如伏檻遠與如張蓬宛宛海浸 電威術神怪睛能窮禪房倚絕壁俯視雲容容湖天白 像衆山腹一 王洞閱靈府萬古丹泥封搜别自近代乾 冥色來疎鐘 月稍稍林受風 后開 歸雲洞 立陽洞 前題 百武林几兴基局一一陳麻鹿 實潛相通朱明啓南牖林屋開窗東京無 迎中 秋 漏 有奇趣吾將問支公支公不我答 漏青浦間紅蓼動搖微風裏伊 雲補 人花雨相 網然自 吳偉業 蛰 坤豁壺中 潘 汪 似 琬 松 誰 兹 洞中 呼 知

侧身層石間 包山 古磴 峭壁干尋上孙亭乱石扶山 于來獨愛東村幽梨紅宗氣櫻桃亦雨後落花絲五色 洞中 想見文章冠古今日落煙荒迷草色風吹濤 |鬼斧誠多事深山破混茁奇分天左右除列后低昂日 想見文章冠古今日落煙荒迷草色風吹濤沸起龍吟太傅風流何處尋當年遺蹟寄高本非開筆法追顏柳 孤花片水猶迷人此間高時沒千尺無怪從來寒問津 月流無影煙雲蓄有鄉可容魂夢入兩壁看青蒼 中军相誰 盤 飲月亭 名勝開九 暘谷洞 長圻覽勝后事王文格公前在監禁石三英兆 曲孍 野山龍首亭 耀陽烏益覺煙景媚緩緩松陰移 圻覽勝石馬王文格公泊其縣至吳兆鯉出出由孤亭敗渺范傍空無四壁垂月飲湖光 甕鮮游民出入無非灌園客桃源去俗僅 越紅渠點畫圖 能 修藤掩絕壁摩挲舊題名滿前空琴滴 州 匹嚴谷曾傳有足音 可 以卜居 不因來性慣疑然是方壺 維持一 形真核地龍氣欲吞湖碧 非一 邱昔人 競跨西蔡麗 張 間已千歲 周公勢 薊 汪 鵬 翀 超 琬

遗風 茶紅丹電過靈路因思察君昔日奉仙遇金鼓聲中與 洞庭 銀 通津 豈料稽山正卧新 寒煙自起擊石火不诚仙 石 人鄉蔡仙之鄉白門里碧瓦高低傍湖水神仙錐去有百霜麻姑仙傳疑荒唐不有東山古丹竈伊誰復識山 馬駐黄蘇仙人傳異方白晝乘雲不知處悠悠一 瀑泉惟嵩镇勝甲 石骨長撐砌倚天壯志自完當日事剛腸寧許後 侵浣女石潤入挂衣松橋上何時坐 漏追追夜未晨管於聲裏綺羅春飲開方擁名姬醉避暑官 上 蔡仙鄉 仙 丹竈 捕魚野吳放舟入仿佛武陵溪上 一湾桑不計年山名選藉昔賢傳臣心可剖盟如 居人樂住山鄉裏清明時節融融春桃花深處多 山上横岡東蔡經故址華苔封洞庭山下茂林 化 題伍子盟頂 龍 電正對煉藥例 池 又 湖峰 相 乱石穿雲終清池墮玉龍 何時來京雲煮明月 距百餘武湖 須遲雨後 本 朝头仲 米真桂芳 逢秦 中水悠悠水 陸熊苗 葛 龍 昇 蹤 JE. 去數 憐 沭 E

心现不 名園 長日觀山與山語東風吹醉還吹醒山自為富得非奮迅從地出無乃飛騰自天下我來樓上 **荒墩留得邻公名天棘薔薇滿** 東家移置西家基泉空彌縫傅脂粉樓臺層叠增肥廢 新者豈如故者勝因 Ð 百金掉較成曲池灔灔川原入鏡閣渺渺雲霧生山眉 料 石 好 公風 一笙哀怨夜堂雨金细委 今華屋式荒陂千年壮 縹鄉若地湧結構絕妙般與倭子 湖亭翁園故址 放 何必峰全露昌喜初登歌未開林屋雲霞常映帶 陪錢牧翁盈朱珩璧縹鄉樓 盡日不見山樓上山來自 静觀樓成眾山忽 名 人物公協軍新昌歸院於此 歌應不惜宴京直北是蘇臺面欲飛來白蘋漁艇炊煙出紅葉人家夕照回 逐端夷後 出林樹澄湖萬項從中來沒接三山欲飛去 静夜深林 山架屋 Į. 製 随春衫垂 集诗 湖作 不復 泣 何處中 杜 眼 譙 生 本朝許元 獨有無名枝上鳥 一朝屑越落人手 夫耶許立危 自為賓我為主 奎 獨立奉 王 何所為 標 澈 W 石

受爵三 當時甲第威歌鐘少傅文章四海宗堂上舊巢新燕子 草間翁仲夜相 鬼雀飛出青紫枝 别 有花千品清餘水一灣飲和歌聖德擊壞酒循環四海昇平會東山似小山葵龍方佐治巢許可投 更繼高賢勝事多擊壤有堂忘帝力倚樓親稼樂農歌 門前枯澗老芙蓉賜書增得湖山重繪竹依然筆墨濃 與朝度領草閣夜譚詩落魄猶然是疎狂老牧之 死上三度貌如常萬来親求却老方正對何曾及 百年來風景古碧紗龍字有苔封 須拓地蒐泉石自與先生其辞 招隱園衛 經七載帳望已多時被為 動於南村草堂 王文格公宅 問隱遙廬 訪吳光繩留有薛羅書屋 朝老澗阿當年手澤竟如何但存舊額清風 袩 J. 波徃 1復皆如斯收 湖隔忧如 盂 陸燕喆 野火燒不盡 前 顱 千里 趓 思筍 閉富 修煉 在

太湖備考卷十	京城府 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京
宝	丹收名交竟何頼留得 作城人啼笑生秋籟抱 中老 學里雲邊一螺小 陳端甫 陳端甫

峰生眾場一場一巷存分却諸天去終推古寺草東	
前題 本朝葉 松	
将軍第宅改禪官	班
翠峰推出太湖東峰上樓臺架碧空曾拂些神讀文字	3.3
翠峰寺 王 琬	
山水清單增偉觀托根原不惧徂來	. 1.
海養長傍海門來人行道上依濃城子落僧前點嫩苔	、
香松萬樹總長材護日清陰一往開雲氣直從天竺去	东
祥符寺松 宗 且	1
房港幽寂假寒待明發松徑勘無人經奉在清機	一世
大湖信者表土 # #	!
谷雞始鳴到寺鐘未歌草祭起微風林端淡斜月僧	i 🖈
晨韵祥符寺 劉 基	i
此身合向山中住邱壑由來號易安	34
帳絕浮生出世難還念將軍能捨宅何妨陷令未之官	HE
枕松風入夜寒暖窗残月隔簾看夢回竹榻聞鐘後	Ī .
夜泊祥符寺晓鐘有感 宋許 琮	Ī
集詩二	
弟 友璜 校	
東山企友理集述	
太湖備考卷十一	L
	7

禪室藏雲経來先別塢經石皆從徑 占寺 鹿恭金鏡莓苔積實衣浮沉竟何益轉覺此 **携舟放鶴他年** 誰曾悟道法恐或多門 榻前長泉聲廚 楸深自老桶柚早能香隨意嘗僧供支節禮上 客好龜珠讀鮮文龍未可馴松負氣羊堪 黑黑罪激耿夕曛珠鐘清花隔煙 年曾此宿風光自然好古人讀書處花落無人 風 謂遊宜選兹馬展可停山深僧自朴慮減佛能靈樹影 名從鮑靚寺榜尚蕭梁地擁諸峰合天容 物最清好禪樓已 前題 能仁寺 前題 雲門會林篁石道被毫光空琴落花 春日能仁寺 包山寺 山盡隔溆生 太湖備考卷十 事樸被於今半水雲 下聴 一孤島 有年 坐 E 今幽典適樵於遠丁 與當香茗同尋程潤 當門重 集詩二 煙 雜深樹雲帆落 開僧穿馬道果香雪 澗曲 本朝葉 曲松不漏天青毒 朝 **西屋聚峰園竹** 雨 留牧石呼及 Ŧ. 汪 瀑泉飛秦 世貞 生 方 掃 飛 刹藏 非 雜 燔 源 琬 鳥去 松

是先 當前春色屬閒身餐分蘇鉢留餘飯話續禪房去後因重陪杖履過山門事憶他年跡半陳隔嶂松風仍別調 策杖陟高領磴轉俯坐谷樹抄出古寺秋氣已蒼肅 歌聚憶當年笙歌列梵莲今來人已老僧寺亦蕭然古 即僧未歸白雲暮相逐遙望竹林深山山静寒緑 佛與難醒兩峰青入天無生可無論詩是惠休禪 舊日壁間題句在解墙今復記同 驅石安蘭若開軒對雪泉販過收果候樵唱采茶 新掘泥笋代餉利枯栗春遠酒船渡常在惟古佛 山中有九寺九塢藏其一草色雨吹來松聲水流 本荒煙外寒山落照前不知方外月能更幾同 古寺在境内來生 髙峰寺 與福寺 師植 冬日 晩 語水諸同學遊高峰即佛寺 語水諸同學遊高峰即佛寺 葉士鑑 横山夫子偕同張岳未沈歸愚談雲今錢立三潘 八靈源寺 遇 即佛寺 太湖備考卷十 一 一 元 勝 國 鐫 鐘 樓 雅 擅 勝 零 落 半 無 椽 同 王少谿重遊法海寺 心風光雨餘澹樹色門前除施 本朝葉 丰 明吴 姜森玉 孔貞明 雜 松 圓 橋 ł 出當

快雨宵來動竹開蒼於秋在兩峰問野花獨立精神醒 食舞山鼠繙經 數僧能食力課軍事耕鋤葺箬囊山果梯籐摘澗 僧境轉清有花寒更好風蓬飛指前強尚吹樹妙尾緊 數樣毘耶卷獨踞煙次島屋荒佛疑寄景曠客順討無 境背除景催 與酤墨空情有餘長歌取樵路 廻松葉静村遠桃花聚老宿六時間林香三月暮晚師 虚亭倚雲開下職南湖渡三點五 何西來意一堂深去香 西方到中國畢竟何處好竊謂法律禪真先温醉館 荒寮茗椀供僧外只許高雲自往還 馴鴿雙棲飲啄開無意得詩疑到夢有時讀古宛葬小 幽處畢疎磬吟餘度泉長遊絲飛幻作天花橋青陽過 傾能去後燈散鳥歸初始信偷安客從來學道陳 福源寺 彌勒寺西隐堂 春日集雨花巷山亭 仲冬遊月春 水月寺雨後漫興 刷野禽問春春已去苔徑石深深 如草水落石痕新木脱山容老編惟 點帆千家萬家樹峰 明泰嘉銓 由 秦嘉銓 顔 鄭 葉 . 趋 松 **就**鉢

斷人行處一人 概畫難似高臺管未成主人能楚頌島可避才情期議養借橘為名門前古路横竹侵衣滅潤雲繞脚根平勝橋香養 隱築格 啼羅漢像文字道人禪最好梅花候高尚借過年山中 幽絕處當以此居先級竹深無暑清池小有天笑 就全養 佛有寒色空山無世情懒残真解脫煨芋傍花館 先生古道在懷抱 野葉响出境珊珊茶履平梵魚雲際出松瀑石邊生 疎松翠壓線垣紅左神王牖蒼茫雨天后雲於宋歷風 洞天神景遊虚空肅肅千年有閱宮古壁寒生苔蘇縁 三宿尚懷皮陸侶金庭清夢渺何窮 開古刹雨新晴吹面香風細細生真勝養嶺西口號 神景宫 碑 寒山養里中朱葉周三貞女焚修所創有王少 久湧鴻家別駕謀重鐫之作詩勒其屬和 一萬樹梅花三里 五 吴時 張鵬 翀 古 路

七月朝電水 港魚蝦美秋林果蘇鮮漫於風土異努力種桑田帝德停利核王功佐濟川湖流三萬項廟食百千 雲追秋水片帆 幸為賢尹取下令復厥功廟親還可親鱼龍餡水陰枯予心獨不然好古熟無精敢 要追我水片帆開南當越絕争衡圖北干門花氣上蓬萊八極風從望目來山 1.木中 滿庭荒草放青道 遺文寧獨記林泉磨石重鐫足人傳識得軍官垂示意 動人景仰是残碑 關卜茶 分水嶺神祠 四 一破滅武神武驻六保此山配享居西無前元亂 稷子佐禹平水土雲澤賴底定厥 毀利并腐後來雖繼作所祀 皓 自何時前事堪為後事 秋載酒點中祈宗將軍義 集詩二 百來山 一萬項廟食百千年 師 非其三居民养鱼 物 顏吳王歌舞臺 烈劉平甫 明 換星移梵唄在 外夕陽孤鳥下 功垂萬古荒 吳 鼐 曹 松 赤

魯仲連解紛轍同跡乾坤偶越玩祖其能臣而為太子客片言己定 慕者奚以弋土 芝日夕供采摘樂斯則忘返相視嘻英逆宾实天邊為 可蹈 高賢所遊 靡猶能式 垂陰連盖幾家墳 一何敢望餘分斗酒還過董 起悲風荒祠 西 峰下故将軍戰骨請蕭麼白 全孝指驅死効忠變名湖上 伍相 過故狀元施宗銘墳 一疑文 J, 祠 生可歷別兹季扎地 徃 彩上成雲兩山己雪將軍肚原性有情東西河 往說不一 高其 功草叢深心吴朝業遺 風建祠自畴昔千秋萬歲後 吾間 天誠力盡浮海豈心 集詩二 看鵲 仍多好泉后黄獨 有 相墳行指岡艦低 職起無筆出東南部 湖力盡浮海豈心 甘遺 客機智自奸雄 雲大樹不 飄然任所適東海 叨 セ 葛 恨楚王 前 £, 凋前代茶 萷 易 龍 莊 Ji 麸 雜點 宫將 伊昔 偃 犯 F

多少山林付切灰 热文士 久踏翠峰路今當悟道泉淡中偏有味妙處欲生蓮 落日荒煙過客衰萬人 相 舊德豐碑冷吳天帳宗寥敷名高故相經術重前朝 徒云 無十畝官漸逐耕犂轉后馬斯入 南 H 無碳居士剔 **鼎誰聯句松根** 鄭斯馬墓 本的商 超二看人拜我花奈鳥啼夜長誰慰若應有應門妻 | 新鳴君高發凄沒 送 惟堯舜憂時在監刀百年人世改野門起漁樵 國錦織愁花草春如剪要夏女離叢陰風落紅蘇非 路公墓 酌悟道泉 心曾到言尋路不迷草齊封鼠起山 過金徳父墓 過 ᅋ 凝泉 東山拜王文恪賜 海 指傳制策文實証天年人莫以孔光張再亦 太洲備考卷十 即 名 手自煎堪嗟陸鴻漸 無 **(破泉千** (留葬唐平來五湖不藉公屏障 坐 年 集詩二 仙 (潭金な不成繭夜半 醴 未喻雪公禪 本 出 明 明吴 **\$**)] 跌浪痕 吳偉 勺俗情獨 吴 勞 莊 龍 祟 恪 珊 低 石 片 致

深沉一 即輸縣官實歷管吁獎過來民力竭殘冬賤售來春葉 挹取漫期珠滿掬鮫人清淚不輕圓 故教峰頂出雙泉泛來只合舟如芥填處難容石似拳 焚間弊馬幽踪見應麋家香無名話相對報移時 <del>望運季高隐名泉亦所思樹陰龍屋遍岩曲</del> 借孤 苦辛到膚剜肉那可說況乃今春與蕭索獨婦愁看兼 誰為沒靈根涓消月一痕寒香冬不竭清列夜難昏自 開坐銀林語舊縁 桑價沃金橋桑芽未萌葉賣新絲復二月戮力雖桑足 五 有本原在非徒占蹟存水經猶未悉識此示兒孫 橘樹無踪證在年寒泉村落尚依 沃若官稅私通 一畝之宅樹以桑採桑祁和春載揚五十本帛非所 海眼泉 石澌泉 雲慎還將白 **栁毅井** 置桑里該 鹿飲泉訪雲鴻上 勺碧淵淵 兩 誰整坤歌着底穿定是水源通萬里 石煎更生蒲九節采服學彭 無托蠶繭成葉黃金蠶不起葉大矢 然青葉罷吸植 ナー 纫 秦嘉銓 头大本 吴時德學彭住 皶 到門 超 衵 遅 聚

蘇不起仍不眠! 叮嗟里訪占如 井水搗線黑湖水地 未五 男耕 能約雲作衣着世上 子伶仃度朝幕安得 樂子之無知 言立夏日不宜風西南斧斨開曲薄東石壕吏虎其目 風吹蓬繁碩影惟自惜雙臂不停敲敢解鮮筋力歸 幽窗下無線思遠客 縷絲三 一月難新 紡織謡 行度朝幕安得種棉如白雲精田女織布不令無襦復無袴山 績婦歎 寒具而不知自追於寒也為作詩以傷之 習馬又以處惡難售其業終廢吾悲夫人 席舍人文與憫之僱工人教以紡織之法人 吳中諸邑皆工 人太湖倩考卷土 四 穀女紅蠶績将何支陌上 低 陌上桑葉翻翻該有言無春其養監人 羽 JŁ 頭 揚線白約東向前溪臨流 森 信 應少飢寒人 登三 الخنا 手忙惜陰遲既釜計日少盈筐與 一紡織惟山 淚 蔝 如 更三 可穿寄君勞相憶 中 起子 刊可作編贏作編書 不善且 一系術傑枝吁嗟 媳 + 陸燕話 剪 禁方 业 弗習 一段石凉 標 階 稍 也

客争錄 快壻垂龍破壁時 月桂高攀第一枝紅羅傳報老南京鄉試喜濟之壻發解 搏滿百萬古英雄未許貪癡與致同 編慢如雲川路長欲賦催裝照陸賜 大湖倩考卷士 集時 數歲經營服器良明珠瑟瑟滿衣裳綺羅 奏相卷歌多不解祇贏童婦笑祭問 霎時成住壞空分溝中臭粉梁如雪堂上謹吸醉 · 親葬 於祖玄別谁知造化同明年隨東升一樣领春風 俗做不知何日挽樂天諷諭抱無功百年第主樣如風小施香餌魚吞剑 貧家吉語惟 飾終典事尚靡文路祭樓臺似綠雲滿家色聲香味列 不害生成質難圖 觀博進 接樹 觀嫁 兩 ۲Ľ 會試連提得元 鄰 和敬樂案高風表面光 任較量膝前小兒女猶是繞中 脱換功人居多事裏藝落後天中 老 夫 知 か忽發落機鳥 随正 和疑道 **今朝最齒應** 片雅瑜鋪 뱻 못 - F 耀 葉 前 前 刚 ~嫁出同 日 腸 鎮 連 松 待睡 林 為 昌 始 折 马錦 白 史 225-193

文戰風雲早着鞭巍然名姓冠潭賢生平 温鲍曾非

所守

戼

腸臭腐成污

途顧郎婦出

天城载

投屋

堪

五

收

Ji

、歌罷

面

發顏丈夫難

事視叙

做

錢節婦

功名繼孝先 濟之殿武欽賜探花及第

前

全門 湖原大狀元其自其王氏祖樊在心龍也形為及及徒題都中东山精倫 對策絲綸 陸 鳳剌 股愈母疾 手玉殿傳爐台鼎 司

诚 病 點天或知夢非夢覺非覺若有 母痛在兒兒生無母生易為 為遺美未以負引、丁子祭水加刀人母如可贖寧百分樂水加刀 学 方百禱總 八點 相 無驗 糖

红 綃 如玉落遺美未似類封人 湖備考卷十 集詩二 主 凝如水

約 马病在床如不聞 真難 作以禮律之無乃過 型 然不見 -14 問具起軍絲

延

恕

閣

筆倚山窗萬壑悲風起

太湖備考卷土

31.1

直開潛

徳

ツノ

揚

餘

始生

陸孝子

不适

更作孙

民件忠

孝

相

弔

東山人

正氣忠與孝

義

箌

顛烈和馬斯山 致

貸需時要善買堂前禮畢歸洞房樣不成數事辛具氏女顏即婦嫁郎郎病不出户禮乖婚婦尸者 祥 苦誰 調 层

不見真心 糜和藥悄 加 別 情未洽 則怒強顏笑語首如此泉下何堪復 無言婦服於人是其所郎言再偶是何 百年無幾先朝露尋思事定惟有死 相 賭 挌 笛 太

一户自

翁計

左

同

牢日 短

同穴長口碑不斷青山路

備大夫平生自許可托

孤

朝事變生

歸顧 意巾 乾坤

門于飛相頑

幗中

生此萬人

供氏本名

阳

和

切

載竟長眠

刀刀自 羅一片 來 沃 吉

光掩塵土我心為惻然灑淚記終始,致遺君子耻淑人意何决不實奇思 賭生顏欲速見萬里 不仁奪志計单 非 ėj. 輕易視! 鄃 人意何决不啻奇男子惜哉無旌 熊終不移喪節回大死寧及偷

時年尚 及笄 艊 姚 关 貞 性本

**大死客鄉** 淑人懼不免從容竟縊死嗟哉 少只聞計哀動絕歸機候河沒不 人懼不免從容竟縊死嗟哉夫四瞬頭投清流所親挨出水伯氏 姊 獲 婦 何 厥

朝 翁

路何曾見苦辛市地干戈難托足寫荒海恋易纏身 無生

50

看淚滿 世道 E 沈淪 中人有以前有方若借行之事 情視 海 績 如發豈

頡何然天降災二 門秀幽 一覧為夫 開幕 孽刲 性 哲 股 暗

史 225-194

倫紀 葬嗣故忍死暫吞聲茹茶歷又載剥牀且及身始惡終 惡克 絎 柏舟未城矢靡他的壹偏存大義多止水如心常並常 節 沉淵決計肯隨波生前忧儷空成約身後碑銘永不磨 彩草化輕塵網常屬婦人闆棺 黄泉超 盡逐東風入太湖 死孝苑貞元自合芳名千載繼曹城 于麻如雪 命詞然山思呼可憐薄命遇嚴 俊婦烈寧再更數行絕命筆夜夜泣鬼神婉貞名果 烈侔忠孝何 **艳**節烈符氏 微同 學樂 奇語偶冠徒 承順厥德惠而温所天痛早背久疑役九京念兹日以数勢如廣夏傾大義誰扶持乃在関中人姑 讀吳烈婦施民遺詩 輓徐烈女 腸 吴烈婦施氏 **弔兼節婦** 同穴凛然匪 己寸绝 靡他竹有筠禮視 人太湖 備考卷土 示 憚為其難 副 此 石 名晚蓮應獨秀秋月與雙清藝 10 可掬 集詩二 無 奈何多偷生 ·燈不減千古薦溪蘋 卻 女口 瑶池 少瓜枝頸 姑 指同穴隔三春 雪 四 年血淚知 百 顧嗣 嚴茂 陸燕 前 血 一青青鋒 立 詰 初 多少 許

漫山 節堪稱 錐紅 接刀誓眾風雷奔前騙遇 伏匈血流體僵立義慎上 時逢猪種反藤峽草木為屋山為門核祭出没肆上馬下馬舉百斤生兒更似李並了一門聽男非 蔡侯人世飛將軍身長九尺羽紀倫 豈惟 當年平播花朝棟史書劉 十湯十決勢莫敵生鴨横入烏鴉零青天白日誅平民將軍奉記入重地 有因縁 缺同食穴情堅一 萬古網常任深閨 **山聲同咽樓清節** 火木石俱遭焚掃清藤峽只旦夕報主差足酬先以東六轉渠寇揮刃打膾何終給餘當治學夾碟 城 巾帼侍 鄭烈婦和分子高公前 贈爵然沈淪敢告史右東特等臣忠子孝光乾 蔡將軍 東如蜂屯將車願 烈任 太湖備考卷十 干城子孝臣忠 人評奇花異卉難為照白日青天倍覺明 施 北縣 自进的溪上清爽 力肩驅捐設真 生 旌間他日事 誠氣欲今殺城不具屠雞 死不 綎 昭 集詩 Rp 顾生呼聲動天雙目 殊 此 動將軍父子闕 誠死亦職隨完我 峽深 膽大直欲通 後心 ·傳語 已 秋官舊門第冰 門院男排 圭 路險 許盖棺前 NO. 援 傾 常 兵於搜經 紀錄 六釣 坤 瞋 豚

為要發處無炊煙相逢惟嘆暖聽之應例然勿忽經三 與言從來無此水難麥穗垂黑民食更何倚偉哉王相無完居一室九壁地山塗泥没脛跬步如千里父老相 問何以然野老為子說前年與今年 我行洞庭野萬木皆歲毅就中村與 勃鳩語壁家蝸牛涎引領望開時管治轉湯淡貧家割 氣起如蒸迷漫暗山川昏畫亦難辨村野疑變遷林喧 今年交夏來霪雨似前年正當麥就時污沱復連綿雪 國憂民似憂已賦詩寫中情傳補該 療朝夕超溪壑浩瀰漏日時一太湖岸浸波濤裏人家前年春夏交淙淙雨不止一月無日晴湖於常在耳黄 名教 旌處更荷龍綸龍住話他年記洞庭 旬恨無陽石鞭誰能掃陰翳得時於落天 仙體延方慶百龄消夏灣頭通問苑重陽節後視瑶星 又見麻姑降蔡經孫曾五葉小盈寧的分節 橘荒歎 看 壽蔡母殷太君百歲 和守溪相公苦 的 大湖情多卷土 瀾有障鉅公樣筆樹 水太湖徹 闹二首 洞庭苦無田種 屈聲 無已 -山中天大雪自久 橋立死無子遺借 橋克田稅霜餘極 HГ 王 施 李 可垂干 鏊 鳳 果 裸

役易為遠令洞庭人為計恨不早從今原照間只種潭亦寥稍地氣信有偏天災暑仍遭物貴国難成難 洞庭 不 風 E 災斬伐如劍利釘館索資遊貢雜缺王事曾聞后皇樹 樹金寄此萬木奴悠悠彼着天三白 不過淮之郊他處豈獨無洞庭號珍苞衢州徒菌養 . . 知當年誰手植云是宋家三百年前之舊物每當亦動十里聞笙鏞團樂下蔭翠羽葆天矯上聳蒼髯龍 坐其下時有清風吹鬢髮因思古人不可見重是 古寺名琴峰山門夾道皆長松蒼皮鱗数根 憫松歌 翠峰洞庭古刹也 充倍費也吾間釋汽為出世法討世網不 宋元故物也予甚受馬每至報坐其下 大可數圍如葆盖如虬龍谷風動於聞 歲正徳十五年也 千年故物且不能逃於乎苛政之害如是哉 也在且不免馬非獨人之加 年夏至則無復子遺子甚愕馬召其僧尤 曰 縣官在往急身之不存松 太湖備考養士 自寺 集计一 門至官道皆雙松夾 而製作及於致 於何有盖閣之 望 為 瑞 刑 如 移日 數里 何 能 詰 之 為橘 盖 是松 屈 カロ 火 成 湘

風 當今公道 常無朝伐兹來忽見怪且 與風雷争各暗如開龍象泣龍象泣 陷難支撐我傷住樹因久立封植 今春水耗數尺許山根茲齒石縷縷中谷獎及湖有年婦子安衡宇錐則囊空窘阿堵劬勞幸不嗷 風 值初數大斧長錦交擒可深山更深無遊處追若社機 如火急伊昔秦王法最苛循有封爵來山阿 月今七種交端午秧田精捐動水母黄梅服深雪不怒 去年七月颶風作 家 半漂流錢蛟經今年七月仍與風驅山駕海勢略 江以南俗多城每值歲儉暖二 三令公道如天開金騰既啓奉公來賓賢養之天子聖不鳴條雨霑塊休徵五事來應時百穀用成民用又 婆娑年來征稅總類此能采野老民風歌 望雨歎 兩獨 有備幸多免禾偃木故歲則 嘉靖二年七月三日東獨民居 公盡與官家充踐更神跳甩赴鼓遊 **大湖倩考卷上** 何為哉 組支作徒然疫收出 駕海驅山勢何惡沿江濱海萬 灣倒 奉公來省對養老天子聖 卧道塗縱復横 山我聞 有懷何所及顛僵力 鬴 何所為 喃喃太息聞田父 比來展稔得所 有道 削 縣官催 頀 如 唐虞 何今 **煋推整** 可 鴻 憐堂 Ż 許羽 怙 分世 n 租

石徑松陰時放足何為忽有寅夫椒之山家比屋可以奉遊可 明聴且 云自正 宣催耽耽麋與鹿而餘雪後睹行 黄冠日謁請 農與老園輕較醫瘡將何補或謂鄰翁勿咨苦上 謂為 腥 影不敢舞雕畝 益 照靡監更関東南方瘡衛行望年豐多森泰行見 角牡可脯琴瑟擊放还田祖索變迎備更迎虎我 盈億我度以輸品原供塩煮有根其馨河可沽有採其 康秋斯祐澍 雨 兆赤土五 風簸落白日昏重叟為間有似 展兩魁并四子三日之間矢已雲昔謂二山今乃六 謟 仰俯耕鑿何有帝力普望敷釋項前占 祉 母子或其然跳 睹 雨 月數至 聘 盐 况 何辭勞雅 月二 雨激如射潮智豐隆號號震量鼓旱 兼宵旰屋変黼 切 五每月之朔火為主皆火或以早北夏甲子 懽 切 + 騰遠工買憂者以喜疾者愈我倉民 分龍 梁三載家無畜陽羨有機技最高 何 徒 伎 四華來否里就彼城虎同稚 雕 雨 項者飛輓 集詩 雨 Ŀ 將 枯棒聲寫不動 濕龍衣潛水府哀哉老 と 鵠弱肉之食盡犬羊 衢 踪巨細縱橫滿 軍來嘯高 暇 日行 芤 販 松開輔我 陳履儼 削 煙震林木 吟恣所如 神 一帝聰 鬾 聴 任 我 匿 降

仰視天地正沉冥霜花草上 净天道黑風 白棓雨點推難入擊王鳴球雖有聲斷機裂帛曾無 船頭買客素復陶欲去勢難生羽異買醉長年亂舞笛 龍正争圖豈分石與玉是處無安流滔滔鬼畫哭 何計可驅 朔月北風吼十日太湖一夜冰三尺骨堅勢厚稜稜高 车独 去楫來舟空歎息前船賈勇亦莫行後船即尾排 £. 四民作息已無處任我倘伴秦履陳虎兮虎兮害雖除 月竄湖陰溪深水涵毒觸之即 恐泰山開婦哭 把推面深墨龍 打冰詞 **選二首** 注太湖水湧文餘田禾畫偃而瀕海地方尤甚林民有望歲之心矣未幾忽大風技木雨急如 甲辰秋飛蝗蔽天食湖濱蘆葦葉好盡而不 酉五月避 民居多被漂没作二詩以紀之 **舉誅其族羣然獻與邑大夫虎不渡湖今被職** ,蝗農人空自忙漫勞奉鳥啄不碌稻 太湖備考卷土 清月倍黄高飛應化去蘆荻失蒼蒼 亂湖 潭縱有蛟螭蟠 輕熱水車行不得 中 集詩二 死心五絲不能續較 本朝 -F 鄭元亨 葉方標 花香雲 小ソ 織

場歲寒始怪農家忙嘻嘻夏屋爾何為欲祭先農無酒之樞床之足愁人不寐起東燭十月未授永九月未築何事吸歌達霜曙候蟲變時序更江湖從從進子請戶 露蟬盡抱枝頭枯黄葉已逐秋風去空山夜前深閉 穰還汝秋收時 皇用福天用威意在激勸均無私急將淳朴答朝宁 進曠典免田租何來淫雨奪民食呼天怨天天有辭 汝風俗看且滴來年率育其非德災侵不等亦是慈惟 鐮卧地青苔生婦姑唧唧相向泣老豹倚門長歎息幸 嚴無幾明日晴晴無半日雨彌旬低 足令過客仰高風恩酬終是年雨名寄青山萬樹 昨日欲刈麥大雨降盈尺今日 養地暴風發天心驟降強樹隨屋共拔人 雨撼山谷怒潮 杯黄土報楊雄獨任幼勞不任功無復旅魂悲夜月徐我庭葬師 一粒須辛苦萬鎮戒怠荒聴我蟋蟀歌瞿瞿無太 蟋蟀篇 後刈麥行 太湖備考卷十 八僅事漫將氣誼說宣崇 **嘉海塘災黎何太苦不待舞商羊** 欲刈麥午餘尚潔震濛 田場听白浪起 與稻 曹 曾 俱 PH 短 怪

久信南 出龍不見馴鶴歸願酌結實百千斛普救山中廉士飢 墓門屋角翻素波青山紅寺非時昔穿林不認粉蝶飛 恨不江南 盽 摘得東山紀草頭金丸滿案玉膏流店官若子誇無審 更須滿獲浮春色坐對寒霜細 去局便須相伴住未 煩塵世訪商 洞泉下 130 金辨微含冰齒清三寸擘來休抵鵲 妃 逢風雨中花發萬士境遊 煙十里春濛濛芳姿斜照青溪中雙横石板瑩如 人却限两以東梅花有香桃有色豈若李根具仙骨 闭 曹塢李花 **芡實** 有該煮珍珠茲飯牛 酥軟不如手擘雞腮金五色 角里梨花 桃杷 柑 騷桶 村勝北松蔗漿洋實敢 樹兩峰殷煙霞自與長生液霜霞翻來漸老顏 馬收太湖備考卷二 此名解貢蓮問 倚棹 細 相争蠟封作破浮香嫩 傾 千看湖光增 吳明 淮浦 雙攜去好聽當 圭 朝 明 許童光 楊萬里 尤 張鵬 孤 £ 蹤 世 徳 貞 侗 翀 水隔 項

千秋誰得同芳聲我今來尊太湖沚紫絲章向清波裏来菱米蓮兒女情年年不斷橫塘行獨有西山米被者果養那 風静緑生煙煙中湯小船香絲繁手滑清供得秋鮮荇客分雲種山厨帶露点橘黄霜白後藏得晚盤清 山中誰 來光自習於出味尤鮮始信仙家飯何曾不火煙無煩耕耨力獨秀晚秋天波冷漂香遠霜清綻粒 春媛冰芽茁秋深味更精 好與藍 任爾漁郎笑我為野鷗亦漸成知已歸來月下放歌頻 葉分圓缺鱸魚相後先誰云是千里采采自今年 此 交遊萍藻侣菰蒲懷玉藏珍類隐儒葉底只因頭角露 盤傾曬頷非千餘夜光明月供朝嚼水府雪官恐夕虚 生不得老江湖 片幽心脏古人 太湖采蓴二首 荻米 置力 田 餐玉法編歸辟穀亦松書 田 科不種香梗種芋姿那識龍園黃線美 有花開水底是葉貼湖 朝唐果嶼 施 鄒斯威 莊 珵 平野 圓撷

棄擲誠何細夫差信老饕微並經七箸變化入波壽風 家隨飯熟的客借糕通五色南山豆幾成桃李谿 蘇揚行得大夏多於蘇陽者惟貴大頭山中稱為子婆那尚也 緑畦過驟雨細東小虹蜺錦帶千條結銀刀 得名偏為繭絲加翠首欲老初垂災露液中涵未滿沙 性貨宜沙地栽培屬夏畦熟登甘似子生為脱如教老 冰盡溪痕綠銀魚上急湍繁波廻旭 俗銀盤薦江湖王饌高六千殘卒在脫網總秋毫 醉當應與兒凉枕易針齊民編月令瓜從重王家 同摘誰能待離離早滿車弱藤牽碧蒂曲項總黃花客 田舍新嘗風味勝祇應石鼎配春芽 豆畦堆碧雜桑麻稔歲相傳一面花入夏每先盧橘熟 病消凝滞奇功直品題故園長尺許青葉更堪藝 動青絲網鮮浮白玉盤未須探丙穴江女揮輕蘭 ī.· 王瓜 蠶豆 鱠残魚 豇豆 銀魚 人太湖備 考奉士 集詩 日溜添破春寒台 本朝終慧遠 明王叔承 产許有壬 臿 吳偉業 寸齊貨

兒身上衣結結臨行線是兒足下優業業春冰踐境凳 久客今來歸喜極涕交泣入門拜慈母白髮被於面是 衰朽猶懷負乘差公論在人元不惧私情於我亦何求 五馬來為五老遊薰風滿泛五湖舟疎庸正恆縣車志 鋤分地利縱酒樂天真萬事更何有吾今已外身 重林將叠嶂此處可逃秦水隔 暫歸如旅宿行止亦質質厥身吾母身於養未能就飲 君食七箸幸親健毛義果何人并容有餘美 既寡和等瑟俱不善謬以魯縞矢亦備東南箭升斗 不自風塵潦倒後那知珍惜故園春 每逢看舊一逡巡官梅落落傷心麗翠 山清雲白太湖濱十畝桑間托此身看 涕飾好容再為膝下壽中婦前致詞吾 念晨夕婦能力左右區勉登修途麥前屢行後奉影 年吏隱今真隱湖上青山笑白頭 移居包山 歸夫椒 選山拜母 出山拜母 丁巴解組歸山自述 太湖備考卷土 4 集詩二 間世花開洞裏春村 明姜 竹娟娟過 慣兒童忘笑語 唐總信陵 門眷天厚君無 重 陳春謨 葛 前 嶊 節 眼 新

震前詩名遠曾登海內壇 泛得寒香滿洞庭 結王生機羞彈貢禹冠石麟埋未久故里數荒寒 誰知忽得回攀信依舊雲山寂寞鄉 白髮將軍後騎長處沸席湖昏不散錦 西月終紛待幸松司存無日不飛航黃衫侍衛前駒少 却異兩山深僻地也曾翹首六龍蹄 翠華聞己遇青齊畫艦迎鑾盡向西是 何方水道不到泥虎印悟石移高下邳尉梅花待品題 倘得陽城勞撫字唐勒親儉自風流 何妨客到即登樓水中僻壞兵戎少山裏荒田賦稅稠 楊梅為夏橘為秋國計家園總此謀但 車隊山光院衣垢 白干山失晓青水观雪晚自宴真微風小艇清晨出 吴云謙諸子拈風荷二字 席采若兄弟招集湖舫同李客山 長圻探梅 讀寫震用先生詩集有感 己已正月即事 洞庭雜典 太湖備考卷十 **鮓未敢請三橋審懷袖** 一時推宿將多士總衙官争 沈我瞻陸研皇 處行宮皆桂 連唐股夜循張 夫 使堂前皆樹果 張士枋 吴兆 杜 陸燕詰 陸鍾 詺 鯉 吕 錦

周遺本是法王城谁道空存法海名破壁類垣來野鼠法海場 周郎獨辨一雙眸有法東一周尚賴於地要最得形势當年該除實深謀雄視洪湖據角頭論事要如高處立 極目蕭係增百感斷橋横處一人行 妻風苦雨泣山精茂碑半 触青難長石徑全荒碧蘇生 者人大鹏直上青天去·京志春淮水縣時 共賞雄文共析疑珠光知氣燃尋披諸君不来問塗馬 老我何須載酒鴟吳下賢家三日果都中俊傑七人宜 塘難放棹白水易為家秋晓亭亭立迎風把露華 煙波真萬項何處好看花色艷矜紅粉香清稱白沙方 水通香徑無心問苧蘿聯外休共悵零落采菱歌 轉分山翠丹移夹虾紅莫敬仙夢遠人在水晶官 要我看花去瀬湖曲港通暑消河朔飲秋起洞庭風路 小泊對山下題來路不多嫩京過縣雨清響滴園荷有 信目吟 閱文有感無弱諸君 白沙灣見小池荷花盛開 邱康熙 前 莊

兵氣消沉又幾朝太湖形縣在夫椒童

年曾見

來集舟師訓水操

如軍行洞庭面山沒水師太湖城是昆明池巷行久清龍前導後魚貫紅黄絮緑然分明奇哉疾徐進退彷彿 桓桓銀貌虎悉來來風破浪追逐龍舟好忍不見龍 頭絕叶龍争怒撤浪翻波八乎舞初時散若賴鞠翔 萬古常懷底定功錫為人煙帆影外洞庭山色浪花中 買男與未已鼓聲又在南湖起 湖上 達藏有客頻來往欲駕雲濤趁便風 目湖 水送送與海通升行軍似入虚空三江北接朝宗勢 用武桑土預徹宜長思於把三州截偷渡横戈雖馬 兩其環如堵銀 入空清筆底無 施使船自古説南人善 直中無明船有往來十八直之務 青山山裏湖天然 唱 五里湖作 鼓逢逢風生水面雲行空湖中天橋來奉龍苗 波 勢拍 天日巡次城自何年 清堆裏 美四比地皆 吳兒何不驅 幅 丰 11 圖不 本朝錢國珩 明史 14 知當日倪高士 明 洵是 人歌清晏 勿. 舟

那得餘钱供稅廣漸有良農開作田三時風雨供櫛 携來市上 瑜時個隻變盈納竟日裝成舴艋魁借曝秋場更信 衆峰林屋路斯須船頭漁子吹墒非水 柳城夜上看明月脚踏養龍望太湖 新業己云古花 幾度青苗實無腹間值騙陽雨露稀桔槹無計施輪 其區海浪拍天浮咫尺限防不須菜幾番赤地湧鯨 平沙灘頭干畝蓼在華總芋寡麥款泥塗 夜雨桃花張 民依國 **竹幸纖科無吏朴特加賦額等平壤誰向天河乞住** 逶迤石蘭渚蘭香濃欲滴念彼種蘭 关江沃野百千項最剩餘糧盈萬斛政肅官清會計 **堯水湯乾兩不宜三** <u>赤壁英雄何處去萬株寒影重珊瑚</u> 蒯山诸 平沙心、其家軍志條 湖城 張士波於築 計俱充蓄莫向荒郊 大湖情才卷土 肩柴剜却躬民兩脛切支離聊可惜飢 春風楊柳灣數船燈火亂 城空草菜可怜城上月曾照越人來 耕一稔猶云福歲竭瓶墨不較 問水濱敬採民風告司收 色金波天上 郁個日將 秃 面鮫人弄實珠 知是打魚還 趙 腑 項 曹耕中 鳴陽 胝 復 麒 ŋ

皇帝三年秋七月萬開大舫湖濱歇斯里長連鼠甲 錫利 絶荒唐想入 朝幕來嘉地滄浪化洲江桑麻蔥鬱長了孫歲歲湖 **犁腹倚不識浮岸官稅抵檄促承攬忍於雷計畫無復吁嗟予河泊編氓居釜底天賜青青一帶水但知夏月** 關法不見蘆花影是草出设故無常居民樵採邀 相 定城鎮鳴陽作是註以規維華聖然遂上 萬歷丁已英江令霍維華欲丈董平沙田以 將荡漾水晶窟上下 湖 簡村 紙 市牛車負擔輸乃租 丈湖行 四萬八 佃紙 非 太湖備考卷土 千項處處波濤漾落持灘 入官更可憐酿錢不夠衙門使那得 非且安語 從流細大量長絕細算牛毛客 |縣官高即 風發太湖 無催 水灰雪雨 淺間 丰 朝 趙 吴祖 ٦Ł 明 Ŧ 修 知 佐 精 此 牧

蛟走出落下窟老龍夜奉妖字牒喷泳張牙復鼓嚴熱 有司威歲沉主壁此 君不見皇家高官尊 師憑陵風伯怒可 神衛 山理吳岫接蘇臺雲霄奉鴈絲紛下東林殘雪映寒梅身不了 酈 欲看桑田漸有期敗葦叢生淤水勢濁泥數斗長洲基 華發叢處亂舟横干項澄波勢頓平三寸水如平地 出海推舟二十里達吴家港二首 吴祖修 氣吞滄 憶 記得昔年諸父老縣東橋上看波生 郎官 湖北湖南舊遊地春風停棹重徘徊 塚 鯨鯢不令仍漏 於帝不急災傷急租稅俸新月費水便錢日高鈴 棹西來自義金清風達底恣長野芙蓉不斷干峰秀 帆風似逆流行何時王勃能前達此 經原委無人問漕栗東南力轉發 昨洪流起怨咨丁錢疏繁亦何為若論故道 閉 振旅 白洋灣 寸 雪映寒梅泉石荒凉编緑苔水逝越溪鹽震澤 海豆春天江涵飛閣電器隱風殿雄旗虎豹 五 大湖備者卷土 扣吴粒不脫戎衣帶月眠睡落澄波搖 網出車重見城言還 不音传於此立作詩紀之和者甚衆 陰落日蒼波 十里達吴家港二首 横塔影平蕪白鳥度雲陰 煙浦孤帆渺渺來 日 趙忠 河神覺世情 沈 重 非 閣四 列 難 宿 復 閣

皇帝九年夏六月十

有二

日 觑

驅海若走天子盡倒官堤與城堞江村地形真釜底

生衣食太湖水常携等省犯風濤不信身驅還丧此

雨

時掩耳

胡 ネ

開前

日效靈今助

训

憐民盡為蟲沙水晶宫中坐河伯 鄰見子西尋耶前村又見悲無家

The second secon
太湖備考卷十一
漁翁元為進鲜來
莫登峰下鳳舟回望見高帆六道開傳語羽林郎莫射
新霜愛學洞庭柑
船頭腥氣漉魚籃船尾女兒十二三染就纖纖紅指甲
大湖備考養士 集持二
黄魚争比白魚多
東漢大輪也嵯峨滅渡橋頭街尾過一樣風波湖海別
千金不羡陸家姑
權郎野飯館青菰自唱吳献入太湖但得展船為養香
聘取村夫子説書
十歲凝兒兩髻梳漁姓不放枪樓居新年判費金三鎰
不濕青青荷葉裙
灣頭茱萸紅十分湖中鹭鳴白一奉儂船縱入果菱隊
帆鄉能收白浪中
幾日湖心超越風朝霞初飲雨濛濛小姑脫露金跳脱

澤漫延 觀其廣深之所極延衰之 乃天地 太湖備考卷十 吴越之具區 同 合乎紫池東色乎扶桑日月於是出 大湖城四風之所去零雨 集文 有包山連 不録即紀遊諸名作亦割愛馬至若水利兵防己 集文之 録其全文 受三 五湖賦 之女 旁薄原照改 方之灌溉 立源陰陽 遊追湖水而往還通莲菜與流南與長江分體東與巨海合流 太湖情考卷十 例 號 以體清岩維崔 與 遠 之所 游 阪各有條格站蘆菜龍隱 為 Ź 公子 所 百 同 有缺文就字重其古也而錄之 )1 俎 而 规方逸乎 俶 L 嵬穹窮紆 東山金友理纂述 價玫 2 一值箕 文尤 弟 巨 都 入與天漢乎 告浩漫乎洋洋 慎 友璝 居楊 超奇技偉水白雲 曲 مزد 닺 非 精與 云 惟 941 **从对爾乃詳** 有平 校 2 沙 八雲漢平 大 右 氏 相 浑 肴 西

於是上 鼓機中吳將欲窮覽山川壮遊江湖造松陵主 重清 泽滨涣涣沄法 計夫三萬項之有餘其澤則汪洋浩瀚 千項者乎生日未也可得而 然從予主人日子號歷覽亦當聞澤藪之大有三 蒸雨生雲呼吸陰陽吞吐乾 之源左通松婁中江 澤周曰具區 則碧沙曼行貨石球珠珍碎蓋該白旗青蒲 而異 吞雲夢駕雷夏較孟緒香不 泉之清液隱雪灘於北限洞庭 溪出其南溧水經其西五灣潴其東垂 荷琴沃蓮藕分事眾物居之 翩 翩 期 瀾凝漪錦花成文浪濤噴濱澎 會稽探禹穴訪遺踪超洞壑較 我危冠之韓 飛揚荡薄迅復 下屬三江實為五湖右接天目宣 流 **飚吹波結絡龍鱗** 新薩萬茝 入海之如泉流之委奉利之 韚 神 離鄰無大實雞頭草長龍須支 汨淪千態萬狀不可彈論其數 怳 聞數主人 坤 知 怳 何可勝圖其土埂則塗泥 其 如潮 中 ァス 幾千 欲逸 起林屋天開 沙之不 湃 日光玉潔澄这 虹界其是 曰唯惟夏名震 車前 風 汯 沟湧新游 里 松陵主人 之為 熱出 瓤 測或 驅 瓤 行片温藻 歙出 雷腾 逺 渺 帆 輺 而 流儲 萬 早 而 鋑 渦 凝 重 塘 紛 東工.

敖以嬉來如 或平 而碧或 顏尾 則黏 石怪 或 雞鵝鸛鳥屬鸡 供佛之堂 英科 谷稔舒以無 人伏或倚或 清漬 ŧΕ 扔 文學解而 佐奇奇 Ž 蟒旋 如 鰸 金九連 兩 魴細 峻拔 縞 控地 差如 兩相 紫白 菰 如 **卧或立或方如珪或圓如壁或矗** 王或點 雲集去若煙 為忘機王 鮮之鱸紫甲之 底磴道蜿蜒而利迪其中 靈體周游涵 土蛤石花餡 宫道觀梵宇禪房煙雲縹紗 焚炭礫磚斯又天造之神工而出乎兹水 或 稱寫為白魚之飛艎 而徜徉該立讚空學幻言龍或高堂以演 軸 パ 陵如墳崔鬼內萃改 時雙乎崇山其山 枝 水 精楊 八滑若脂 盤桓慶浮雲之流景俯 以磅礴逐水的 並 栁 葉丹蘋葵早緑榆 場鄉灣 如添為中派之 睢 集手 肪或廉若愈 晞 並 쇍 五萬騎瑪交飛振四 粉寫為奏鴻來實 其樂無涯 蝦稻蟹盈 若乃絕好之濱漸 錮 其 鯉 Tip 則 間 **济重状之** 折旋 於 鱖 啊 層樹崑崙原埠 《戟或赭 砥柱若逆 魶 乃風流 糾 楓 八飛振翮刷羽,來賓陽鳥攸口 羽禽則是 尺巨重專車 鯔 紛上 二 馬 基段 乃有奉真之祠 蛟龍之深淵 金碧煜煌 魦 跡此 流光水 縮 拔 梗 朱 赤或蒼 水之 河之 項之 如 概 立 桶 切 峰 楊 ツ 岡 嶙峋 溥覧 火齊 石以居 産 13

故 扑 混而 所聞 而擴夫 隨風莫不連 也 之荡激 典策不述職 歎曰甚矣世 波蕊だ白水 漁人 交正 水 而 海 胼胝而徒 而 而 洲島傾 制 演時維兹水震荡歷寧浮浮沟泊暑毒轟轟 莫辨百潦壅而不行支祈倔強於淮甸天吳猖 順 币 動 舟子 命導 /徒著 波神 五性 其性 陳子 **一舴艋** 而 地 也 猶 思昔夫差競 橋接 吴凇 方之 之出入豪商簿官之經從擊楫 美哉 受職 斯震澤之所以錫名也追夫九 為雷而鞭霆類不周 之至徳也遐 | 数英賢於戰國皆非所以極遊覽之 道逾 主人 所得嗚呼噫嘻浩荡方割 鳴者自停動者自静斯 也方今海宇清明朝廷静謐內宣民化 書之士去國鳩 如雲始魚鼈以為樂終麋鹿而成羣題 禹 以安流 經 之解未終鄒陽生肅乎改容喟 汌 下而 舳往來乎其中斯 后奉 功各墊之害託遠灌輸之利 那而盛稱 兹澤之庶 類國數學戰 个今應龍 別 思往古擊節太息請 心之不古也吾子好 准海而表境於時 集文 夷泛舟西 觸 耋 震澤 地 而 懷襄未 一子亦復 天柱 具 アノ 四 此 區之 劾 殖不 نج 勝 (功庚辰) 載 鼓 所 折若巨 負未分 藪 澤安 延南 浪 平 誦 學 以底 思 渺 3 九城 願 然 禹 頏 主 沙 持 庶 蹟 識 和

與民立命 食靡謝天功馬知帝力於昭太上示民 於移聖皇維上帝不常被哉有土 我土 堂矣主 遺經民 脩貝職 廣通 濟七澤九岡周不脩其職來享來王來 **注矣溥徳川流達道荒矣下視一** 餘子其何益相與鼓世乎滄浪曾不芥蒂乎胸 祐 雍湯湯聖化行矣靈沼洋洋聖澤汪矣御溝溶 行洋溢天無九燥之災人樂沃上之逸 乎仁義涵泳乎道德浹洽恩波沐浴膏澤漸摩浸潤 **剛開禹之疆廣禹之績是** 71 於萬斯 中原照的的江溪為東萬 鎮在高浮縣東五十 廣通壩考 歌以頌徳詩日於赫禹 人於是聲然樂聞無然自失仰神功之長存慨一德川流達道荒矣下視一隅寧不監杯水於均 食餘力風不揚波水不濫洪方 農安其耕女効其織工 玄 開禹疆 年 太湖備考卷士 联 我有土 主 繼禹作聖其混 有土 里世 以九 集文 有民 功 世水賴 州 智其業 配 朔 連連 之外 夭 有子 謂 合 بالا 五 以應者佑我皇 不喜來王受天之 隆生 | 試言其故 战仰聖育治 鎮以寧土 有孫 商估 維 堰者也 四大維民之 五 平禹是崇於皇 韓那 我 其值 有引勿替 西有 臆 遺 氓 廼 則 地 Ŀ 起

拖輕舸鎖軍故得不困卒破孫儒魯陽者銀索據宣州孫儒園之五月不解客將臺樣作 是湖流相通東南連兩浙西入大江舟行無阻 城 湖 五 在西孔韻连書義疏亦引漢史為證益 師古註溧陽云溧水出南湖後漢書郡 也 在丹陽蕪湖縣南東至會精陽美入於海前漢書地 及傍月伍牙山云左傳襄公三年焚伐吴克鳩兹外 時吳王闔閉伐楚用位負計 《街山冬山東公十五 水不入荆溪太胡川东方、水不入荆溪太胡川东方、水不入荆溪太胡川东方、水村喜以為築五堰使宣飲金陵大棚議者吴中水利書以為築五堰使宣飲金陵大 禹貢三江故道耳後不知何時漸潭景福三年楊 堰壩 至宋時不廢故高淳易漢民多墾湖 於丹陽燕湖志云中江出西南至陽 遊鎮西 塔湯長湯湖州溪震澤中 臼 左右是也壩西北有吳灣水言吳王行 丹陽南湖受宣 地 理家者遂 有周城邑遗址則吴所築以拒楚者也自公公十五年焚子西子期伐兴至桐內於達蓋 以為水源本通桑 一、飲金陵 集文 別河 姑 可三天 熟店 [ 他及大 羡入海應 欽水經云中 皆指吴所 為 國志蕪湖 大 程今尚名胥漢 里頗高阜春秋 田者 魯陽 林 矣 客所漕 採 而 分水 江 九 陽江 蘇 開 而 沤 釛 類 理心工 漢 堰

**戴新** 石盡 胭脂岡乃命崇山侯鑿山通道引湖打竹當是時湖流易洩湖中復開河 攻臨安三道並進泰政阿利军攻破銀樹東壩至伍力西方光陽東入長蕩湖足可微作溪尚通云元伯 中蘇軾 江 沒胥溪建石閘放閉 23.4 未行也 於時田方屬蔡秦韓 宣和中待制盛襄奏龍湖 山敗宋兵實出此道而 於是蘇浙 及迁共路 於北運道廢永樂元年蘇人吳相 用事者方欲與湖田未之行也故永豐等圩官司 丹至因城黄池景定建康志及祥行胸也乾道中周益公南的緑尚問山部步 以蘇浙糧運自東壩入 也初以建孝陵功封侯焚石而攀之費 乾道中周益 侯坐 干萬 問脊本易涌 太湖情考寒芒 八有水學 經東壩直達 極 而 刑死時洪武二十 固 命 諸將 并其書薦 城 河流 有嚴氏者慮損其田 日 石 金陵為運 廣通 相家及就行官不便塞河四及言開銀林湖為非切 匈 可避江 丹陽之 集文 亦就塞明與高皇帝定縣 鎮 於朝詳 設官吏歲魚漂 設 理道云宗山红湖水會秦淮! **上險洪武** 巡 間大抵 五 道而 檢司 年 郊步東 具東坡 火 水之 也文皇帝 尚 稅 經 多圩 課司 女胳 油 侯者 亦謂 壩銀 狙 麻 溧 五年次 議 田 Ŧ 酒 瀚 中

俊者呈復壩河乃命應天府治中周其通判召某取其半嘉靖初官保李公克嗣奉勒行尚水利有 壩居者利 開浴會成數止 T. 屡歲未决成化 官吏處斬夫鄰充軍 大决蘇常潦甚國 低薄水間 重祭之欽降板 矣顏 徳壩 大夫 桐 陽 蔣勢本 耳三 各 督責增築壩三丈自是水盡難高淳之 知縣靳璋又議 年給都御史 湖水絕 其時翅解往 諸 湖 四 郡 十五年倭入寇商 漏洩舟行 ()與圖原 利開者 聯絡 歸 一副復 歐夏 四年 不復東今壩官及漂 榜 守自 秦 稅 如 復在開 漢以前高導固魚龍之宅 自壩東十里許更祭 本山 俞諫以稅利乃令鎮江府 後常民張端又奏阻之 古地奏阻之十二年本都十二年 張惠等奏復故河 無所出 兩 是宣 壩上也後車夫與商爭利 有走洩水 猶能越之 撫童時程儀鳳再 得 )1] 歙 金 旅 壩未有言減稅 平土居 周文襄楊賀一 諸 陵地 山 利渰沒蘇松 正統六年江 水 壩行者絡繹不絕 希 脈 陽壩夫俱 稍 歷 稍 规之然 関浙 墾湖 城即古分 大集夫 水 者里 大 圩 矣 田 不存 於陸 瑜 抵 道 乔者 也 有白 田 御 泛 通 田 而 意 自 日 勘 甲 判 利 史 勘 漲 壩 齊 在 傾 匠 壩

熟田 故道 Tin 諸 芸艺民居 )言行於 郡所 鈴 然 福 爱田 ·親淳民 岩、 致虚 浙 福著 决蘇常便為魚陰皆其中 日增 煙火 (京師韓子 華事徐相 掘 湖 内 文中名勝 二名解 户口 决矣 能當之水而獨一高淳為之察之三矣水利論亦尊切言之選子 閣王 老言 一般米 云自築壩 上之水使不入 盛 71 壩下諸郡 小而稅 |整記太湖 日 湖 视 下 一日黄雨 冼 前 久春 國階會知縣方浙 擟 古 與蘇 걤 僅 水 浮玉之山北望具區者是也或 又弗指民 由 FL ンソ 决源 今 永 困 人太湖者也自前代北地壩者所以障宣飲人 而後出之三川 名 者甚善而未 以此 州 涸 集文 湯宜 勢难過 何數日 流 - Y-粗 何 ル堪え الملا 源最 MIL. 沔 雅 也 Ϊįį 本朝元 四之熟其至 1/17 拔 ぇ 31 將 机 ١IJ 劉名 下勢若 大浸 好勢以 有 -1-巨為蘇常 护. زد 训 為湖嘉 仮 11 淪 爿 (蘇常湖 源 皆云 金 諭重禁之 嵇 六洪 献 陵 水漲 莊 中 姑孰 發 明缙 胙

近 盟 賦 宜 池 井 TO 地 偏 陷 時 萬 人咨四 者水 敷九 之高 鎖注 後 先 鱼 列 丞 何 地 於東偏據 右 江 叼 2 於肯九前 法其做 千五十 之平 注海乃成於定至 彭 使禹 水之次孔 功 岳伴縣試 برد 者 业 太湖衛差太上八之次孔安國一平治也帝舜 是時揚 之弗成 經之 不 足 宜 人後地皆顧出若敢據其實而書曰 平 同 載 云計禹告成之 橘 -六里居地 其質而 總結 於此 陳之 水 而 也 柚 4 土盆 後三左 势心焦思忘其身家八年 哂 州之城彭蠡為 可三載續用非成強絲 舜三 次 忠息惟是三头 E 111 海 書门 天 第 掌火乘 古史帝 曰 七右 洛書者禹治水 业 經之 下 相 浮玉之 有三載 名山經 三江紀入原泽 釆 作 為 ν9 牧 前左二前 西偏 民 九 雖史無明文 而告然成 時葬 播 راد 山 工 千三 壑震荡靡 끼 .2 沚 種 望見 × 胩 涮 倫 可 £ 九 脈 万 底 羽 功 则 田 大 叙 區 敘 範 司 負 九 揚

應武云吴江 南水之大 餘里之水猶 於東太湖挟東太湖 作巨沒奔騰 其自然之勢而導之不 阳二 二書之成 今之實而不襲古之 缺口 過故只有 之三 之大要而講太湖 湖 門而下一 吐納衆流大缺口水 明喉 Z 一寬只五十 口 一都胥淪 犯其隘 菱湖觜滴當其衝 也北湖 與作 蜀 先 程余 人指不 地林 利論 雅 一 一 大大以五十 一 大大以五十 當 袳 周 長數 半之水而總 山門而下黃茅門 東南 水勢浩渺一從黄茅門而下水利當思此行大致口者北 水利 名也周 禮職方指稱具區而 六不使者 y', 驰 韭 可多有作為 無嚴水利為主人 勢滄桑與 八其長沙 十里舊係木橋立柱 不 下其經 能 不速也况又阻遏之五十六丈之口而少 公旦以不遵禹 圩岈 一橋達 行 石 圗 他由菱湖 余山 田 之道 以害其性 徴 地 成有 股當北 案此 湖門以二 利 宜通 不 前 過之今 科 北為義 貢者哉 因 稱 水 引骨 出二 橋 無 下股大截 此禹 坍塌 暢 湖 一名以 不 從

為吳江吴江邑也邑 是利其所利 東南水政有書更何 盖源委之要猪洩之 於方隅曲 之形勢為規畫疏淪 餘里之水其能無漫 為有阻滯之害今乃 水患也夫以 山塘等處由太倉劉 沙上於是淤塞 則 故 婦石成限 能通洩 监於石 吴江水考序 勢必漫溢則武 北 利濟 的架橋小 而 + 文 隄 錐 里 里之 非 三江 為堅 ノく 長橋 家港 距框 决排以利為主 可不 山水 溢漬决者平倘遇水發橋下 考馬考者考吳江 智穿鑿於詞為人 欲以 致令水勢轉於東北 固而橋 塘占種菱荷障 r]. 以洩 數百 业 西 洞 数百里間漂洄澎湃五也何言乎要櫃夫東去 東 深慮也古人 窪 九門之橋洩北湖東湖 阿 一百五 湖水衝激三 二處入海此吳中所 而 帯 鄭 荷障礙 有 洞 如 田 · 个人眼光 敢必遭沉没 者 地 之出水昔人 問 方之責者 揩 水业吴江 為太 難 出水 能 利濟 沈 置 迤 火ノ 通 南之 然水勢乳 而 パ 湖 浬 潮 之善 數 沊 流 激 湖 冰 其 而 不能 以多 任 尚 百 随 衪 勿 里 百 潮 ツ 前

治亂 務 夫交會之衝首有 繼總 恒 水之來邑之東行而 网 和 為湖 故善觀水 民 淖 能 守 用吾未見 官或憲官 迤 所從出 粒務成賦中邦而後已脩班之間 為 不能盡 斯者 始之憂水也日昏墊日阻飢及其治之 盡引也 百有奇皆翕受而 利害例計之 小 必寬農部重農官 太河情考美士 者親吴江思過半矣親之善者熟如古聖 從役也添設体丞無臣難親細 其有改也迨至我 也而肯未馬視乎哉 也東南之區英是窟馬故曰澤供為洪為洪者干計有奇皆連 亞而為川為濟為溪為浦為河為港為涯 容也亞 於是無循郡邑各有所委水之 原以除微埋必 小水囊納獨先諸他都是以藏之 納伸恒是子 而 條 侵另請復設寒後索妄無救卒 如者 分緒太湖之不盡者 集文 海共事等有忘德思久 為吴淞江導引委水 修水政 以明光致 也每或 成繼是 花門利 先節汽 於續也 以濟民 以節 心法孰兹為 澤國 小 出 也决九 也是冰江 勞也 知攸 初武 九國之本 而 而邑當 飢 :判 中 真 不添 シン ))]

洛日淺 憫也 有相 卷八 溲胸腹 罪夫天時而 河清之俟能 職方之不同於馬貢勢則然矣司農者執而合於舊或陵谷移形名號易故猶水經之不 是未 楚之 考或 E 潮。 以為豫遠之 注 造而歲不 湖 國之 通 通 洞庭兩 而 可 之艱辛今不圖存後將馬考為緝吳江能不盡脹以至於斃者幾布矣余歸田 來湖 而 無製江洩 者耶 條間 日洞 知也 ズ 不太湖情考卷主 山赋并序 通精之 不察人 能復命 圖者誰毅無怪乎民道 免骨衛也乎方革而設方設而革 郭景純日包山洞庭巴陵地庭吴之山亦曰洞庭其以相 南覆部也暗 為箋底削賢之 承於源者賴堰 之秀磅礴鬱積至是而後 而吾 靈仙佛子之所宅至 於海者在汀渚之决也或在或章 洞庭實無 至於斃者幾布矣余歸 人也 政之未脩墜久遐 屯 嗚 口鼻浸灌不停膀胱室滞 呼政修奚遣為哉議 者 壩之節也或前或占本 他 こ 湖 與 山 Z 政 Z 國朝 日 不盡 田 遗識無什 业 寬而督稅 名臣徹 齿 泄 道潛 坍耶 泯 £ 於 一特為出 裁 同 也 制之 岩 被間 於 耶 職 年 YX 地 斯方

瓊或騰或倚若,飛雲旋暖不知幾千百折至 為界所 無用 而 吴越之墟 子 大軍之出千乘萬騎旌幢寶益綠統奔赴東山 何葢莫過於文 有奉峰散月至出於波毒之間或見或意义是為我賦之夫太始治移一氣推遷融而為湖結而 仿佛 萬落至渡渚 西逝 泛滋洋中有 白 辭子曰然 J 西山起 つ忽起二 吞或如 謂吞雲夢八九於胸中的不蒂芥者也客曰 日月之 n 有巨 之乔 太羽情考卷土集为玄如人立或如鳥窩或如電器之眼或 有迎翔而北折武嘗與子登高考見一人起自縹鄉或起或伏若驚鴻書風不知幾 峰東西雄據有若巨君彈壓 / 所分沉魚龍之所變化 桑出於波濤之間或現或隱或浮或沉 山馬七十有二 兩山者秘 常生人 漫馬三萬六千 刀為之賦 於古而 其詞 分 渺渺忽忽如蓬壺方十 之山益 項告治湯湯 日 顯於今其實有待子 百川攸歸三 題 J, 臣 如倉漢解 71] 圻起 庶 願之 自 如 為 又

31

4升山則輕煙一抹此亦天下之至奇也如一碧帆影見而忽無飛鳥出而復沒靈

煙蕪

测

則

孤 天 水

文.

ら

曠而神怡至於瑶海上月流光萬

野足使人观然而汗駭及其風日晴點

**商桑麻交陰雞** 吾人生長兹土依嚴架棟占野分剛散為村墟凑為也孫尚書欲卜居而不能范文穆思再至而不果豈寒澄碧墨佐君表無礙之名天衣禪留悟道之跡斯有甲乙之品宋良微有永固之封其泉則阻淪屬沸 開也貝關珠官 塘雪實降龍之 圻范藏之所止 頃星河 夫差之跡尤多存者張月之渚消夏之游收 藤靈繁美前長 領梨美張谷雨 斑 山煉兵之 虚桶夏 裡之 之音婚姐 他若毛公燒丹之井蔡經煉藥之墩里站絕 挑 有廻孍 及尺殊狀錐有至巧莫能為像試等與子事古 壺 佳 上下 **医雞犬鳴吠里無郭解劇孟之俠市茲土依嚴架棟占野分剛散為村墟欲卜居而不能范文穆思再至而不** 弘 胨 湖備考卷士 相通若朱陳之 湖其石則发於嶙峋 漬射點之蘇出金鐸於沒瀬逸梅深於 息黃村角頭綺皓之所從逝 編發暗端柳毅書生之所絕也翠峰 穹壑許豫相通琳它於宁森鼓晨 相合又一 前芽茗熱餘萌竹水 不 松金庭王柱石函寶書靈成大人 漾山影又 到 Ħ 周 颗之 殷 竒 園 俗 收 奇也遇 业 **俗獨自旋星應五車地数**之族理亂不識若武陵之 銀杏家種黄 風 雨 族則時裏之白於 瘦漏嵌空牛 胨 山霖雪凝華萬 之俠市 夫 明頃 馬之城 也 甘 而 奇 監 آميني 鐘 本 所 割 谐 如地 間関 泰 杫

殘之 棹 化 吾人乃 凌三萬項之瓊瑤覽七十二 八隨子 開 地 潴 月麗 俯波 有 揖 多難非不 掛 帶 其 割 銀 2 T 2 湖 瀾插 得優 褔 也 未 為 則 FL 太古滄滨之 1 禹 Ė 終而忘 分崩 治乎惟夫天作 夫 地 袻 是山為之砥 汎 ځ 瓠 藺 順 山 物外之 小廣且大 無浩 滥 鮮 其 湖 艮 賦 游 天 針 横 酿 11 於 流 地 皆 Ja 投祭是 溢 湖之 而 藉 沙 分 Ż 自 此 少 間東南 欲 ž 也 歌 苦 瑶 江 勝 天 柱 容 左 串 酸 其機舟 而 所 季 刈 風 駐 مخ 是 鎮 诚 بخ 孟 吴 泛 聪 今 3 玪 獨 之差 教を 為 三江 覚 民 魏 Ŧ 白 東遊 物 吾 而 固 之 停 色 斯 可福 其為 武 後 下极 我 少傅月夜 لاير ぶ 境 11. E 非是湖為之是即 望 シン 姚 離 鱼 知 飥 與惟 而 糼 啊 2 的魚手懷蹇 其亦足 列 大美 魚天 浩 감 最 絵 類 相 子 Ъ パ 容 英, 本 是 攸 12 丰 扣 摘 HH 业 斯 八管 台台 兮揚 激 有 水輝峰 世 驰 鵈 JI 來 兹 狙 九 暴 武夷 設 湖 紋 Ł <u>~</u> 深賴 之世 之舟和 1 當湖 鍾 ħ. 具區 美子由前 倚 隘 問知 神而 非 彼 极 兹 冷 湖 消浩 謂不 兵 II. 而軒 とく

言言寒前 為之 東英 爰咨 华之 濯 岩 懷 妆 鱗族 唇梗若夫春日載 -sp 馬 雄 而 有生 體 壁 青於 乘 為 保 爀 بخ 猎 而 順 承坤和 成 暖 Ŀ 賦 业 Ł 矩 埼 有松 子 會 今葵化羽族鳴春 潴 日 阿 山 度 生 免昏墊 棲 古祭 乾 商客於斯 乃 晤 幽 岫 坑張青 清繁垣 杉檜 丰 坤 鸟 雲泉 传来丰 涯溪兮 轕 陽晴空燕 墓 不 閨 **山没革航** 灣居場 於 今吴楚 開 柏之挺 談 拔 古内 西 渖 石 龍湫 造地 嘯攜 為 村 時 陕 琮 間 八 陽 宏 無 琤 行迷饒兮 业 設杯渡 集文 今暖時 秀下 碧倒 吞 思 踏沃 搥 捉 疑 縚 典板 渺微 流 业 之 恢西 研 衣 野分宏馬 礼 有蛟 良 蘚 元 石 1 DE 黄冠東行同貞漁 滌俗 軟藤 花今恐 識彩 呼童索 鬼龍 奴 圓 盐 洁己 水 た 渡之大暑也一 嫝 授 庶 بد 耿 處今 蜥 而 不 今 万 舖 氣 鰲 楮 操 古 張 聆 蜴 影 市 開 分 殷 木鳥 牛明錦 بخ 訪 横 相 بزر 為 孤 漁潛 吞接州 立 當 佳 棚 بطد ا 塘 新 周 宇 坤 城 100

何 洞庭 太 2 亦 不 辞 霜白雲並潔木石與居煙酸固結夫此耶言觀其色蒼素可別載辨其形 處經處常不貳其操真奉芳於 問答商 名稜稜直節烈烈英聲厥靈 調 湖 缺 庸 西 折 脫 為馭 変 偶未遭與夫何終 於天 測 最 北 在 塵粉甘冷冽息交絕 顒 顧瞻牛毛寒暑晦 然如 بلا 彼 馬 風涛 31 顒 京鳴 賈 八叉東為 發 4 無惡在 馬 昂品耿耿 經 蹟之 世外即之茂林平野問恭井舍仙宫梵 自 峰 關 呼噫嘻 粮 雪電変變 有 絡 天 北 بله 批 此 四 目 僬 津里夫椒為大夫差敗越處也 馬 灑 無 紬 子子於萬 朝 此 地 有 数 跡 迤 呈 明四 ŋ 崖 鉴 全宜 最大 庶 七東洞庭最大馬 琅 遊養退藏 化 兮出没翔 女 滋 奸饒 成萬斯年 腴 時 固 織 山 又東為山 典 膏沃 下土 之自 無 男耕 **甄陶遇大旱分飛騰** 入 愧 以與 拙 然 Ŧ 保貞潔於層 被 鳥 髙 於 中 湖 控放終 後 孔金 仍壁立 焦枯活我 # 掃 有 料 四 四 事 Ŧ. 瘀 岳封 石 湯塵貫奔 低 护一 俊 以崎嶇補其 + 蹟兩 八萬華福 為 裕 同 ¥ 有 諸 盟 沚 元 禪乃見 洞 بلد 水 此 堅 霄 倪 之宝 湖 西 公 剛胀 女山 旄

好相對的方方也 疃浮 即有風 峐 岩沉 .)]\_ E) 日錢堆稍東日 南三山 洞庭之東北 老 ւէ 殖 .آر 獨 家馬 量山旁 口東獄 小陸與大椒 者 隱現出没於波濤之間馬  $\mathcal{L}$ 也 بار 西 歴 雷之 星聚 有若一見 曰 屷 厥山澤 跡 中南鳥北鳥其西 聚日五之洞庭之 I 出没於波濤之間馬跡之 與重山 )異曰大 與衝 公石 西 中高 波 有岩 饲 獄 大 ٠l, 渚 电山村对 而至、 囚者也 世 石浮 蛇 而 相 相向 為大此 北頂湖中有两山 明小明與錫山 為大東洞 奄 傅英王 方下 和 雷小 岩 نار: 對而 ij., ,4 學者青 公石 百苑浮 书 柱 横 對而至小者為龜山方在我以水面可見者回 者等 **浅** 玉 75. 門東臨 雷 其上 娳 山 於此 小者為龜山有二女娟小者為龜山有二女娟 横 小為小松為社 庭 11, 陰 奇與面山龜 山 南 亦 2 日 山 置男女二 之 思 **光**連 東武山 北 uf) 有 葉余長沙 龍ツ 東 夫山 相近 \$中為三峰 相 居人數 西北有若積錢者 山或遠或近若浮 對 丰 日 刊 山人貢小 間 有若 F 斷 ЯĿ 而 山南石 獄 坊范蠡 舟行 則余山 山 不 百家或 14 也 給 相 啊! 北地 其 鳥 山 稍 其中 見 前 相有 見 飛貢 日 亦 西

盗數吃過矣余嘗往來太湖諸深廣大又如何直以綿亘三州 俗 令 叙機 也 太 日 高深靡不記載以宛在水中者入縣殊有什百千萬者兹又以志局 湖之 一桶 如 王文格公有七十 | 摹寫高深窗渺之狀靈竒恍惚之境如海上 有不同後之文士過為侈張號為七十二峰詩歌 湖中七十二山之名不 | 微篮束 者曰石牌是為七十二 曰筋帽有逸於前後追 Ŧ 後 讀之 地之語強為指 |舍浮苧浮又南為白浮厥澤之間有若笠浮水 水滸 分三 廣如何七 等 色飛神往更有好事之徒造 洞庭 説 一等說 以者其實破千 者是亦湖山之大不幸也世 Ź 有七 十二峰之大如何合七十二 /南首銳 二山 目以合其數其實不止於七 有可 居民 一然其最大而名者兩洞庭 記載諸震澤編 知始 而及之者曰 祈 古之 集文 末岐者 rL 潛通 山微文考獻見山之 山 於 官有汎有賦稅 疑團 名者有不 何時緣道書有七 圖而濱 圖繪湖 五岳為吴中 日 為 解斯 主 箭浮若 猫鼠有岩碑 **咖與文集** 1 耳食不知 世 可 湖 説 山 峰之高 之大感 = 莊 Z 71 昼 神 山 第 役 十 境 山 者 也

為小 者若紹 洞庭八 居 禹期若葉余若横山陰山雞山 松 山若漫山若余山大不及二十 負角頭司巡 文 **帆大不及十五里次不過六七里居民百十家若大筆** 民或五六百家或二三百家或 跡 蘭座磯陶竈磯岩等磯 殿前浮癩 姑 北烏鱉籃 粥山 也有居民之山凡一十有一 萬戸設太湖管副将 民二家西帰居民五家北場居民 員設汉五若三山二十七里若 百 学洋箭浮鄉浮瞳浮唐浮務帽浮黄茅浮王 小干小椒 一十餘里 岐山 山 + 城頭浮五 獨山瓦山猫山鼠山大干大竹小 人太湖備考卷主-琴山杵山鍊墩陰墩雁墩又為一格王柱歷耳石駝石蟹石牌大 松 里居民萬餘戸設千 椒小竈小貢男獄女獄東鴨西島蛇錢堆津里凡十五山為二等又 管副將一負太湖同知一員東山一負設八七若東洞庭五十餘里 石浮米篩浮石排浮又為紹 一萬五千餘戸設太湖營遊 貯 磯漁息 尺十五山為二 衝 其次無居民而 一二百家俱 里次不及十里其 歌 盖洲匾擔洲牛 岩渡渚若 長沙若電山 負設汎 家即廟 Ē 折 等又 長朝海 竹大 設 好青净 孔 祝 大 六岩西 汎 有 其次 南鳥 Ŀ 若武 雷 吴紹 | 批新 貢大 司 居 3/11

運元提枯 余持 定 央之 百 自來只是水 啊 Ú 七為東洞庭 里 為誣 ~名著世 「名之震 1論宣敢 刑 移置角 小人 洞 二分屬蘇 臭破疑而解惑者竊 捕 パ 庭 西 力。 盗官司 納 四 也 洞 鈴 污而 頭 與前人立 脚常地 轄司奏據湖 部狀 111 有 庭 丏 之從震澤編 翰差兵級人 遂無所分別疑為 六 西 編云湖中之 现檢司 Z 北 1隅地名 准吏 相 司 為西洞 お皇 之 石 雖逐州邊湖 推注養成軍惡風波之 異然表山土 同 部 我砂土 知 ΞÝ, 7.其不足 船守巡其本州長與縣 角頭處太湖中欲添置 的 Ή N 有微 叙 庭之 十有四為馬跡之 申究 湖闪巡捕城徒 確 准 山原 民或縣 從 峰之廣大高深 九得太湖 ·壤固 以東南之 山靈 以名 分主從自七 被劫告官地 分尉 湖之 府 而 is. 名者馬 有 自有別正 付 有若此 刮 쁘 知 徐 )内建 北 小從 面 面鳥 兩 浙 各 不 才 十 山 ツス 可

徒角 其心 也 錐 開六部 器悉徒角 乞定酬 | 再頭山據太湖湖之廣三 3 白 州 山 有盗徒 山 蓋 里唐白樂天詩云十隻畫船何 悉徒角頭酬獎之格乞依湖州所申逐司保明前實司户向子雅相度本官狀稱利便將召山頭解宇兵 住有之日 Ñ 民成受 施丁司有確石勒此狀王文格時情及見之今司 頭 角頭迎檢司序 頭山 3111 與馬 百餘 Ż 湖 山 動支勘合已得朝旨本部依所奏及 獎令蘇常湖三 無所施其暴噫朝 ż 其角 باد 其惠營 然不復聆剽掠若然則寨之有益於民 里族此就西山亦無百餘里人公家川庙 若洞庭者七十二於意字家用此未用 跡香蘭事例 勝境漢四皓用里先生家馬用 柯 是 思者數元祐 獎之格乞依湖 、頭香蘭若依常例差官恐少願就者仍 縣盗 寨兵 始末求序且刻石馬乾 州 贼 萬六千 級 同 各於公庫支與供 縣 立 廷 固 **冰有縣尉** ~之置 脷 北善於水勢長 獎經 項 有司請罷日山 寨者為民 宿洞庭 周 亦非 百八 五百里理 盂 控 监 山 山 給遂差 頭 涿 拒 於民宣 餘載 於勇 樂盗 徒 脚太 民 可雅艺 JII 1 剽名 又 惠 檢 據 敢 兩 掠 湖

中秋 核 = H

沙防公署

百里所產魚蝦螺蛤新芝果木之鏡民衣食之 國也而震澤雅

其中 流 巨 浸襟帶三州漸

心所 月記

請

於 寅

兵

鄒 和

择那

牛

周

侯

桮

アス

間

が曹

公

而

1

四

月

成費取

諸

省存虚胃為銀

若干

则

汝

法中

於是 /然自 勘 2 相 奸亦往姓窟宅 故 相望其防最嚴密而獨土自國家經路以來沿江四 稱 利 藪 而 於是 洲渚盤 放 獨太湖之防闕 置戏 亦稱盜藪 **4** 島 歲 嶼 時 紆 操閥 有司 ·迴逋 快如 海 挑

七命椎剽

盖當爱之

一備倭

庭

為 2 # 所 華遠者 日 廉勇 12% 遠者 防湖者 耳目不 湖去郡 幹局 耳目 乃籍兵壯治世 加治 白總 而遠 難而練

指揮魚事

朱汝忠為之

便宜

驯

一巻建

署益

币

中

綖

久

乃相

地

山

考之具區

立

之

3111

創

立 樹

解宇凡

為

屋

楹

前

垣

規

制

1

始

洞庭

避是使

争為偷情

相 可

欺

設也

一計莫如扼要害

野次觸

風

狍

不 測 而

浪

踔

没於煙波浩

渺之中莫

台

跡益

辫 舶

都 腾

御

史曹

公時聘來

撫東南周視四

封

與修百度

余徃

時

植

塘防禦既飾則計

哨巡

遊屬升

胠 斯

低钱越人

於貨者所在竊

發官司

心捕逸之太 問村塢之

湖

凮

逐問

間

内

地

無動為大爾而項年多盗

仰若立 任斯 艅艎 為慮遠 疎 湖溢 行 職者盍亦提然深思孜 虚遠也 岩寧獨 2 魠 文 特育方民主 集文 (三) 其處之十九年不應作養在政地語今在巴之是申時行從之一 其風之之處孟記按處孟天啓二年及第崇村八年入間建署在 具組 聞 你而示望的人組練旣集 諂 也 退生地 練旣 遣兵搜 署成 除 周 而 公署既 而趨 防執 故舞經 侯來屬 歳 體 若未患而 人事至而備熟若人成無所得始失之以 孜户 統設 余記 Ŀ パ 牖 有所申令下 而備孰若未事 ιĒ 軍容 之圖而永絕 防 之為謀 在政地 以肅履 張 有 皇 所 預 斯 所 終 司 也 而 苻 地

後發期會而後赴吏吴邑者 謹事詩書質者服 非溪諸大澤形勢遼東元之季不逞之徒有自長典 之廣 徼 遊 一二見歲時租 洞 周五 庭 伍 俾各率 東 賈 百里 四 山 司 遭观 見 方 剏 其山 ·其屬而 襟帶三州通苔雲荆 賦 盡 司禦之其後該義兵千百立 立 一力農畝 惟 力 太 役人 끼 湖營 兹 , 淳朴民風愿慈秀 分董之奚為 土 一為可不 能率先急公 把總 朝 即怕淫打 繆 勞而 署 也 彤 碑 益 治 不 掌 櫇 待

網者未當

凡以控托江浙接壤水道傾何签澤之支遊擊守備等官而分委干把總六員其一 出索中裝率先倡導里中諸右姓成前金九二本一大武峰吴斌变風負才略慷慨任事起而以而深居選處與香燈禪版赤影白足為仍一 得氣伏 里 以居 不徒 而 國朝康熙四年浙 吴泰請設理司 以居守 立之三 一為費不 余因有於馬方 於橋之左 如 此 於 而 也 把總初設未有爰處則居停於翠峰之招提夫顧渡水橋之司署機於時華受事者至僦民舍 其死而大 於山畜水窩為狗鼠 之卒與齊民雜處勢同非 得無恐 下 出 一一 太湖 大謁余請曰願乞一言如一於湖之口崇庫合宜如 越 副貳 緡 明 為時不治 八部之置門司與長官之分遣 省督臣 猪馬 组 从 有 不 化 小得專决今兩署之所了功令嚴明民生事無 循 女口 7 山願乞 分 超公廷 水橋 微 稱職爾己 数月而 翁 風 松故情、 一言記 笠澤之支流 担 年御史大 動 便 臣 摇 人至於改 111 兩 輙 此之以垂示後出明公署次第告出 金而侣 一岩或 題請 ツ ルノ 韓匿 無問 杆 則 人夫王公恕無 功所 兵以 牧 俾姦完不 ないなか 司 添 惟是細一一一一示後世 ルツ 圍 把 設 材度 備 總衛編 東山 太湖 湖 含為

片紙文 者告使循理者以 乎先生之所戒者然先生言之吾里人識之 合辭 之意與斌雯諸 計 日有是哉諸君子 /所供 得時 **私各路匯歸於海其** 是也界連二省波撼永息每橋太湖為東 枚舉考自春秋以迄元明皆為用兵之地或 當聞設險山川盛王 とく 布置最為稽察難周之地康熙二 新設江南 日今文武兩君行事皆承憲典盡敬職 音水師 班 殿呵暴九 | 狀烈 有勾 班 大湖情考卷士 一维據 可考湖之中有 他 **或為夠道為間道其出** 君子奠寧幹止 E 郡 湖灣記 勸而 於海其間支流繁汉 憑藉如是 於中殊數當 之盡 邑符 而 無所 不續者用以為鑒其亦可也 10 下 於 不察而 Ξ 南巨浸禹貢所云震澤底 ツ 煺 (及潤州 峰七十 州 集文 枌 作 日靡錢栗坐子四 矮共 周遭 之初 榆而 斯 厚德漸摩兵萌 豈 荆 計 10 高 年間巨冠如 其周且 入 溪諸水下 百餘里勢 兲 朝 哉次是三老董 相 國家設官分兵 隘 達 繼授有 £ 坬 以為後 口 四 絽 而 之 無有 近冬 遠 恕 里 緒 寬 借 達 難 مإ 四 也 役

皇上 子設 巻是 披圖覽勝念太湖 増添い 提且高等會議部覆准 歸浙江遊擊掌管駐割西山雖浙其仍轄本山 工暫做民居為休息地 知遇以壁壘新開務在經管首善 務江南另設泰將一直駐劉東山以備升八直該 周 漸次募足亦暫我 分駐除要共領兵九百三十九名巡船三十 樂間有宵小竊發之事难正二年甲辰 浙 於山川去蓝圖安之至意下塊疎 迎查防範稍云寧謐而終緣汎廣兵單不 香趙 期至當故冒嚴寒風雪殊不為苦也久然從輕舟往來於波清之上原子以 分防星羅基布談列 抄即扁舟站 15P 題設江浙太湖 祝僧舍民廬 波濤之上優查汎口改易百務未備次第詳請果行 此其時衙署有司方在楊 始與 題 勃江南督臣查 營以遊 **延** 第仰見 題准 庸蒙上 掘且 六八 任斯 以新 汎

聖祖 天思 聖澤自蓝山 皇 3!!! 我過益損更圖善後之宜以称多未備漫爾勿忽言去願給移協苔郡伏思川左微材認 歌安堵實荷 精詳憲畫周 然大湖情考卷十二 脑宣 遊駐跟為干秋奇遇兹該營之 走而 極前山色莫不以軍谷之扇移萬姓之數呼更覺 避減青萬矣顏羽庭告蒙 項 娰 好義捐湖亭新除地在行無藏迹之地底 湖光 制提 稱 而己兹仰沐 馬畫周晰 不 於 愈難 創 九及七十二 水秀電炳耀耳 兩憲臨警閱驗大傷軍士一時樹裏湖光 始之 帷 署即以 勤 矣將鼓棹 及諸 閱兵徒 华山 記 同 色内益 為教場聚 事協 故两 **烙行之** E 幾不愧厥職急謀訓練神 以掩疎 願 謬承德意 能 查 使宵小 後之賢者恕于不遠 載 讽 が此 初蒙兩臺節 口 随庶三 訓三 丰 栥 朝 盗警 子不 愢 問 月而步伐 軌 始 斯營缺略 萬六 皆 過奉 無 無夢 聞 潛

於造乾 民賞 民 Ó 亦 太湖 山井署即少子 以思文 餘署 入科式 ,村之前任治君子之因循未改者可我桑田而愁以下是長民者之為也在案乾隆平酉余承乏兹土見署猶 小山者其東 為 有 一借官 大地 麻 年 動 必同而 無土 數 関其門有谭其 午口 體 טול 一志是蔑視 文領都 衙為買 職 懷 : 人 缩 督 半 E 一而賓館若 謂药足 亚 司 JK: 懼矣署者 小利居斯署 同專理東山一年大中丞 天縣惟 而 1 則觀 同里舊署易文 飾觀 所 者 E 近 官 料 慨 干問 鳩五 婚不 也 浙 出 余 也以 ンソ 銀 洞 邥 衙署為傳 夫 12 規凡以 肅觀 4 熊 政 非 民 高 四 庭 遇濟 為 當 2 2 制 署首六 事 1/2 最 事為且公而已 俱 関月而 使 敢 禁觀燕處 地 則 瞻 褚 亩 泛溢 躬自 也: 雏鹅 以想見其意之 不 仍舊夫戴星出 -雨藏 題 舍者也是 太 民 肅 請太 今房屋 117) 九 守 告成 其資 居敷食 湖 蹈 何 則 滿 亦 分禄 距 華 哉 間周 مور ا 無 剛 湖 城 廣七 填 固 包 計 資 火ス 2 同 百 北 作

俞允 之記 能無 事遲 而 字 報 遼 居民歲 所董 厫 悉 限 新 雅子仰 知 且 於退 稱 洞 鈍 每後撫年收都 陳 險 儲 礼與胃險而往者注往不測 孔 於記 如余 建 別 闸 食之 順 必 知 應收 幸邀 院安京 吉無 Ł 非 西庭 荷 者 工 拊 垣 又 官不 自新 舟楫 室 Z 兩東 而 循 JE. 糧 11 後 兩 Jy 火 Ž 膺 之様美色り 而 一等等 米 敢 自警復不 而截 斯任 題 稽 督 匿乾隆 惟群對 2 請 五 捕 察 民 维夫非 書 將 居 每當 رد 久榱 而七 兩 非 斯 日矣余益兹土 也相 輸 東百 自 而 是 JI 桶公 應 惡風 或解 之量派長 河间 諱 失慎 候 山 刚 1 年蒙 當使記 紳 :+ 納 uly 風 膈 湖 稅糧 農苦 石有 白 利 至 也故 難免 况城 不文 浪 王 動 白 上前 民 於 與航 奇向 輙 旣 颠覆失隆 轉 姓 太部有地經湖院疾之旬 増 地經 又 縣 辭 於 不 瓜 海 孤 争崔 懷 而補 思 絽 同尹 峠 為土土

及事三極為莅事者出納所線以周十五年 一型模完具不管於素經始於東山紳士董· 在一个不一告記工費皆出於東山紳士董· 大利信者基本 大工席兩君之力居多余行斯拿 大利信者基本 皇上 之為政者知是倉之所由始且時其价毒謹一大總意捐賞創建民不知勞官不知費俾余上德意捐賞創建民不知勞官不知費俾余 者甚厚夫同并士農皆上赤子也士之於農横見 平粗與記 故能 平哉區區建倉費否僚分任之 弟也父母恩及赤子為之見弟者竟神手膜視 手 上德意捐對創 丁惠元元無遠 意德俾得舍遠就近去險就夷所 於兹矣民皆勤於力作家給人 之凶 弗 毋 届 原其成是 因感我 大憲勤 則吾民所水 且時其脩黃謹其出為記而刻諸石庶後 一毋贻父 恤 ! 民 以惠我 隱 衣帶 前 ~毋憂 余得藉廣 八置 ァト 載厥秋 火 賴 利 者者月 於县 中 足 重 亦 业 啊

## 太湖備考卷十三

東山金友理繁述

校

軍偷水平

主廟

砷

文

並能以一手足之胼胝馬身之其有藉於人之智與力外久矣然九州之勢並能以一耳目周之其治之也又夫椒豈其功獨著於震澤間也夫羽之智神矣其势於水平王者舊傳后稷庶子佐禹治水有功廟於震澤之 公矣用其智與力以集事則必選其知與力使食報

馬般之詩曰尤猷介則不俞者河之性也禹貢獨以有司成足以妥神明而答重響獨有感於於廟之與廢 走南北都水神之祀在在有之或請之朝廷或領之集者藏悉畢效之用故事易集而構可久余自頻年 實起而新之鳩工於某年月日軍功於其年月尺幕

之

往余舟過徐邳環堵者僅一版未浸耳猶守之弗去詢

則曰自河派不常而歲比不登欲適養养

而腹猶

命於河之神乎其條但無即之狀益可知己藉令震澤 然也難矣况宿春糧也與其轉填異城之溝壑母軍聽

不定吾其不為徐邳之民者與有幾然則

室而

而

粒無震為無昏墊在三吴之民尤首被王之祐者其何

祀不領於天子之祀則兹廟之不得與河神等亦勢也

**甩之神者各以歲時奉祀那縣遠方神利者民各自奉** 其來久矣於斯乎何怪且余讀封禪書其在秦中最

底定言爱澤則

震而不定者母亦湖之性

上乎河災

圍

無論

也

即

我明典

,决魚臺决金能決張秋自

Ŧ

上者固禹

野

也况不於伐如無鳥能食其功而接之子

則

廟

而

爛額者論思澤桑十銅繆無能與補

直罅漏者程

捷

小 圹

大湖備者来主

集文

拟

謁王於廟廟之建也久矣殿寝門無無弗飾也

惟

首

之心也亦所以報禹也余以嘉靖丙寅過夫

1117

趙皮寨以 澳之或緩耳昔人所謂人事而非天意也是王之大造 為患夫亦宣飲九陽之水注之過驟而交蒲圍田之重 也震澤自禹 者復神其功請之朝而廟食之而運道猶未敢報無恙 里有奇而流稍 子用以宵肝原原懼無以稱塞微福於神鑿河百十七 於吾民也益百倍於河之神矣河之神食報 乃僅領之道士獨何說歉嗟夫曲突徙薪不得 下竟無寧歲遇者議緣下流草灣之役費亦鉅萬當事 下不 以来數 可 安是時司農水衡幾為一 計 數處 八千餘年未當泛溢當宋之南 靖末 昭 陽 决運 空而 如 道 彼兹廟 與焦 徐邳 機費天 稍

史 225-222

至公又 則義藏血食靡懈其棟極梁桶熟五之屬科致挠折破打力增修之獨於忠臣義士之祠風皆有功德吾土者 民財哉 其子四 欲生致 於公公奉精銳七千人出奇被之保馬頭山 缺又必著治以為常意馬跡因宴鄉 哲學王 宋龍圖閣待制劉公县按史公字平甫嚴州人 俊云 Ä 可忘余從禮官之後不 上上宣 方等於宣城方園宣城急公又出奇方大萬却走 官一二存者皆唐宋時故物日就兄素重禮義不感於思神故環山之地 又在武其間 以報功非是為濟倫好度君子無取 兵之地 重脩馬蹟山劉龍 八出奇迎 一制禮能 亦姓於其中不能自己也里 方單騎追之遠遇害事開站贖 和 立祠死所歲 中 大湖信者来主 四年 سنطو 戰大破之降其衆千五百人而追 俾載夫 今日之陂陀水涯皆昔之連爐糜趣 帥兵婦宋建炎間宠犯常外太守請接 禦大災 **八桿大患** 差敗 時祀 圖祠碑 能援河神心為 集文 越於夫椒數千百年後龍 之嗟乎具臣東南巨浸自 的日就北京亦未實肯遇 以劳定 故有劉龍 也 三当好 馬 王請 龍 國 9)] 以死 Tin 陳 圖閣待制官 而追演憲 為是 余鄉之 玉 姑 |入 勒事 基 記 速果 桐 7 とく 清 Hi とし

能平 濟魚龍之所出沒舟機之所往來其不親河洛而 原夫在天成象咸池列於五潢在地成形江漢環 文日以理學相於旣無神國事武臣偷生情 公設疑兵浦山之陽正彦就擒益宋至是時而敢 並從通者以聚歸韓世忠世忠追正 學丁進於淮西進不戰 釐尤商賈之淵數家藏術頓之書人抱鸱夷之智六周 於吾鄉并所謂樂吳拜 日之人臣而勸後世春秋姐豆即偏天下 之天下 國事委之或天不安公公自愛重其身不死 其用余讀史至此未嘗不廢書三歎使盡得 其毅然以身許國者指不數屈又或中於好人 沿沿滿目祖道而追近 四连遥通牛斗之區九 功歌勢子而悲漢武所從來矣震澤為東南之巨浸草 品利於者其軍典不至今插 旗處也 時意無自豪謂富貴可坐致一旦 太湖神廟碑記 遂至制與人 人太湖情去表 錐己 )灰飛 一哉然 患者耶是為記 尘 而降及正彦反公謂部從曰吾 煙爐而瀉溝驗浪之 塞三韓直走 帆身命輕於鴻毛踪跡等於 集文 則能圖之祀 在耶又考公當從 彦及首傅 塵沙之地出門而 一臨敵 四 陸燕詰 可 国可 谁 如 死葵 摩若與翻 鳥驚歌竄 也 逐 、不克克 公者 于浦 又 劉正 ンノ 思禹 於 則 極 何 覕 愞 火 四

萍梗錐 鼓瑟徒 船乃好 列望並 怒河伯 浪奔如 桡之舫 明信 己久望 然犀 負獻入 阻 百靈崩雷曳電 及表徒觀江上之峰屈子吟騷其降雲中之駕曝性雖女黃蕉丹荔寂耳無聞間藻溪毛関馬靡薦遂使湘雪乃好事者有池臺絲管之好為善者惟祇舍立宫之 神 刷 侧 電景留遺 於 之所以有叩必答無 流日 胎 由 錘 ンノ 觀江上 落奏假 飛水 之婦 施茶 致其精裡三 世 氣知實獲世呼珍亦有橋 Ź 白馬 鮫 孰不沸波 復 斯 一 力然 蚨 肼 成節諸神於前極人 做乎太僕寧侯席人 八之室而 昌子 飛子 大湖倩考奉三 氣擁戴屋吞舟於一 族而方其震荡也 驯 蹟於千秋少傳文章擅高名於 不娶牛女之 也 勇如秦帝莫辨顏 如楊子胥之壽卷旅 而 1 亭當道橋名渡 姓 駴目驚湍 母青見亦谁之 念宴依寸 老長年用是窮於祈穀豈所以 同居百傳無悉思其所自莫非神 淚 可成珠其 人桂可歸 **浜觸不應** 深心 位三元 公暨 如彼及其情息也如如彼及其情息也如 心 社桑麻 船鶴 黙矢甫濱九 彼里中善士奮馬 ارل 甲之間隆劍於睡龍 或殿母吹風江 沙面量之 水涇號具區門把 之威 理旌遂 於後寢合樂則高 路王 五 辨似 桃 /梁則 孫桂 四 彌錢塘之 源 海華宗 韓公幾 民習 婥 雞 俄 棹蘭 如大魚 豚鼓 彭 雖 |仙 動

王既定天下口立為吴泰伯吉 木葉脫 昔素 秋羅 剖 陵之 曾孫 泣泉客方衛面麗神暗飲食方朱 抓 !朓 酒 mg : 褔 而 也 惎 堤迎沙鳥 盡 其 欲 洞庭 孔 鴉舞号飛斬城激黄華寺落堂 錐 出 亦 伯 公湖 蹟 舫 伯 多 吴仲 紅 舰 不 £ # 伙 椒堂药 按仲 其有 季而 表 於 樹 之霜桶繪笠澤之鱸魚盼 使 及 rl **灰靈符** 春沢白 天下 雍祠 大湖 倩考表一 輕州 Y. 伯 仲 中雍為太王次子其在北下乃封周章がテ以為ま 栖 船 朔 去 仲雍 凡 護去周之 遅 棟 碑 頭 短 太 と 而 藏苦竹横? 周童於吴以為素伯後童故卒無子弟仲雅立是為吴仲 無不見理膽容 於此 暮吐 太王 者矣爰為送迎 澆 棹 記 不 仲 酒棹 如遊 與 留 憑依 清聲 之 馬 则 新 後 即夫子 尾 岐 集文 溪倉 水虎 舞 婦 韻 自 步 周 鴉 ٨ 於 長 號 مبو 更在之 蘿莫椒 河河伯 鱗蛟 於詩日帝 神 神 捫 煙 頹 材 立 稱 勾 仲 雜禮像 社 賢 據 些 粒 杰 伯後 酡 子 **公兹馬** 十 黄檀青旗石碣 荆 鴻 遠 朝 v / 岫 何必不為 俱 伯 轉今揚素戈 籃 秋萬 漿芳發浩 飄遥 2 作那 歌之其詞 鉦 山 汪 非 譲 義 亦 與之 效 漁 長 仲 一聯文 順若 雍 可謂 仲 歳 彷 可謂 作 而 琬 榔 分内 迨 所 歸 擊 彿 對自 雍 兮 武 闡 虬 降 歌 至 2 Ž 13

祠基 實於孝之分支不敢忘所自 存而 不聞其祖 行後顏私親 際如漢有奉 北村周章: 雍之 敗志同則 合官 其俗 宗 一而亦 仲 即以仲亦 雍未 脜 由就 崇德 ريكر 於吴 與 育孫其家於白沙 耶 雍 アス "為始祖义 恭孝王仲雍為之配自宗子而利侯晋有昭行公統承大宗奉 以過之延 每過庭時極以敦叙為訓誨謂否祖承文以記之具告予曰瀬之為是役也實 錐 於義 無後 以奉 徳 為閣 祠 而宗族幾同路人良可深版爰 報 伯 日 為 祠 姚 亦 功 同 請者 首建 此 何 1 2 未 同 為 三楹中仍奉三讓王神 後 居豈 顏後之 典 有昭行公統承大宗奉泰伯 干 則宗子之義也吳之宗子 採 伯 自始於是法陵季子譜 人何辭馬序 之祀 嫌 藥之 祖 古 也迨 以為 與大宗並不敢 無忘至徳之 祠 パス 1行者非 姓吴者率 1 閲 Ł. 又封章之弟於虞以 自 晉減虞而吳獨存 世 人後者為之子 孰 所之尚事: 周可據 商吳 旣 太 得 久鞠為 學生 华其立志 而 傳 君文 皆祖 軒 輊 外 次 之武 建 始 灏 Ż 相扶 皆為 採 有 由 伯 世 柘 Ŧ 同

孝王 武山 恭而 終終 元
近
明 當必知所先務藏器真主之辭該然仁孝季子嫡孫學於古訓率祖依行動必合禮 可復理 E) 祖 此 成子之 吴延陵 浙 松松 吴延凌季子祠 級 其次章云爰有高山 旣 班: 祀 固 日 君子 之招僧看守别名為養 恢宏視 陔 南 追 アス 北 袓 とく 權與 過 隨 至 亦 £ 李 將管官室先立祠堂於正廢之東濮 也 袓 左 而 君追 吴君唯唯多 然則建恭孝之 子祠 昔逾 也 不思 王 和 從 右 画朝 秋霜祭必告凌而無 至吴壽寧而易茅茨為槟楠 之次及 仲 地 其始益不可考等該濮委公高 倍左 念祖 幾四百年空山風雨 碑記 因厥考而念照祖 其間 雍為始祖矣亦念仲雍當年始 E 可立室家藏器英主心靡有 先世之有 以終 離者何人 昭 為華是季子祠之 集文 接 慨 右 移分立 肯季子像而合族 然願起 筆以紀其事 祠必首尊三 八乎仲雅益 仁孝元於言表是 之志可乎予應 功徳可垂 後 朝徐乾 念爾祖 而利利 有序鼎組 改觀 2 日 姐 撒 類 財 玩 来 不 族改 以弟 學 以及 不 位 敗 朽 سط 自 栽港 4 始

隆然而 克有成 价再修 典 来世 忍負話因記其梗祗道其頭城二子勒石於祠以北門延陵之野子孫矣及西冬南村前館子追念葉 吾郡東洞庭山楊 鴻 单 其下楊灣之祠 即其處祠 村請 有林 八八日胥山今去郡 呼南村之用心可謂苦矣用力可謂勒 一季王廟王 -₺\_ O 祭不惮三 蔚然而 起者日 相 功祖宗得世事之紀似續切卖葉之 也 云壬 ·其園亭親其 余自 尚存而祠前 當夫差之賜 心記并出其 一節之 公廟碑 生存之志 子 深者目 則里人 濮 庚 午 請四 封始 公墩 灣里 贞 中 所脩家借及請 季子祠在也因近其 屯 排 有伍 請益積二十餘年之 奉為 古墓 也 於宋高宗南渡時 死浮之於江吴人憐之立 西三十里地入太 書 有石 是子待南村不死 論 周宗魯述 局 風行火之 土神有事祷馬 松檜參差相 公子胥祠 九爛然而 大東 4 本 立者「 一得與南 馬公之廟 湖名 後 矣情其前 傳 祠 陳 /光南 而又 と 2 日 ЯĖ パ 為 胥 力 由 由 瑚 区 不 ンソ 斯相 來 此種 相 昭 畴 相食五 村 而 业 口 喋 示未可 始 而

湖將不利 記之伐 漢公墓旁入舟在叶不 瑜時亦死乙 其靈異如此鳴 閱於胥口 倫而争光日月者哉往者巡撫大臣治舟師 志其旣也 公之為人其始也出其死一 祠 為神者則或黍稷不馨廟貌不治淪落於荒煙蔓草之 鼓吹奉 扞格不得行而吾吳習俗楞伽 由前言之則為孝子由後言之 項若有撻其背者嘔血 呼不有君子何以反其俗也唐秋梁公廢江 公子故 伍 /間豈其 一性醴以 之廟 一公萬夫 石 福驚動恐懼 祠中必祭告然後 此嗚呼公之精誠氣後足於洞庭夜見神火滿山疑 パ 大之雄以以不得而累 俟今天下佛老子宫所在都有 獨與恭伯季札並垂天壤者何哉予嘗考 於所事犯類強諫被讒 邀福者春秋無 與山魈澤 里 洞 庭 子 以食其土然匹夫正婦 也於是書其事而系之 之東波濤喧豗草木蒙戎其來 則孝 怪較長短争有無而 **誠氣後足以感人者對火滿山疑有備也不到** 集文 生忍怨數十年而卒行其 歸竟死一武弁守洞庭 萬歷間某処 則為忠臣立非 開 之 以臣 山無少長男女舟車 日至於聰明正直 酉 則忠殁為 秋黄生 殺其 者赫 撫 身而 國家禁令 多好 暗赫敢啞赫動 兵泊 砥柱 明 不 戦 紳 不 日 而 叱 と

調官而 大学が 而後 部 次母自 由 故事祖 粉灣宫 村社東西 庶松松 暴貴至 及 而 人為革 新宫 作頌 故聖 划 重 日本宗廟為先 一氏初堂碑記 魚被 马祖故故宗故宗故 軍飛之堂殖殖城城之室言有序也當修 樹 Th 21. 而祖宗複神之地直 -1:11 能舉其祖先之名字即有 重之三代以還宗法七矣廟 殺爱百姓 ·祖故敬宗敬宗故收族收族故 接之孔子猶有取馬此無他人 於其躬 斯 ~廟以奉其始 袖 而 之絀熟彼且揮斥金錢治園收族之義者百不一二也此 而止耳其有定享當之樣 碑 沂 酬 八急者為此 續此祖 告於廟後古先山信而有後取诸幽官子子周生即應林 、環堵幽 彼且揮斤金錢治園亭美喜 以至於百志成而 iv 集文 達祖 公と 也今橋社金君天濟 H 此其忘本度先薄俗可 祭室百堵西南其户 - 萬年廟 一以為族 周 原也首 土 世次 備 於 故宗廟嚴 世 比豈力之 道親 北穆之 自翰 何有 日 縕

不偉哉我王 世祀也 蠲之日 詞於 積學修行以 於鄉者桐溪之著 若東癬硼戸 、余余嘉 干之外 御 臣並 핤 如此 皆没 率其 题 墓必 極之二年的直省府 山節 定議凡婦女青年矢志至五 以表 ~ 推與於是封疆、 丁義而耻失節益轉抄北親於以發潜德力 烈祠碑記 微闡 | 氏自 廸前 之以詩文名家者 其行 經橘社異日過從尚能作為詩歌 而可祭於利也為子孫者 族人肅衣冠 為 實素問歸然綽辨偏樹宇內 洞 文格公以來與 訓卓養之作譜以大其宗者 古之 在當城南 幽風勵世俗 人光於是 庭 發潜德之 シス 袻 平在而家 拜於 大吏郡 足 深 荆 故忘其不文 縣各建忠孝節烈 閨 パ 移 郡 金氏為 祠下 維末 賢媛遂 光而使匹夫 £ 風 西 邑賢守军莫不 俗之盛典 脈飢樂 述祖 服先畴 俗 歳 朝 世親 之作 也當春 得與 ソノ 僡 祈 外 而 通 余兄 皆宜 實直 其功 故 亂 匹 為 者 訓 祠 百 : 並

皇仁歲脩起事適 制 皇朝教化論決恩澤賈 朝 哉惟我 於是縉紳士底踢躍捐忧擇地湖口立表定位 至遂合詞額請兩公以為可且給扁額用樹 冒 月至八月而告成 於力而不能奉主入祠者鄉先生農部席公與其 而 終始不渝甚至未嫁守正與夫死輕以身殉者亦 瓠 工 環 (不遺山 一分論 纺材棟字崇煥 數十年間節烈炳 餘人成製主入 山去郡且百里 於閨閣中其不 ル 太湖 中 八湖備考表重 惟 不終湮没 澤之遠 盏 是 歎息以 風俗淳 **一婦節之願** 制府查公 福春 皆足 幸稱 為希有之事哉仁世家於山濫 鄉 被度越前古 **西訪求就行其遠不可考者** 垣墉收整經始於 既多升楫風濤之阻或又有難 士将建祠山中 古敦樸而 샜 士大夫又能急 秋奉祀永永勿替将數盛可光志乘者只得一百六 於東山較他 秋 法亡人者無不秉禮守義 以模範千秋感動當世岩 奉祀永永勿替将 提督高公各以 一而賢公卿奉 11 -以推廣 清 雍正三 公好義 郡邑為更多 淑 之氣 年 風聲 揚德 並 骐 姑

自防至夫婦之道日薄有不能相保至同於鳥獸俗節烈不甚稱非無節烈也夫人而能為節烈也 之典為之表厥宅四行者而後節烈之行 祠 厠 者 先王之世教化深而德澤厚故 而生而婦女之以節烈著者時見於里黨之内益人皆重倫教尚廉耻故孝子悌弟仁人義士接時 洞庭西山土厚而民淳 於仁亦與有樂施故不敢解其請而拜手為之 留意察訪懿行每憾僻遠之鄉必多遺漏為表童 西 元 15 的不及兹以予養歸里深喜我鄉有此盛事且 史館例 厚風 守節 山節烈祠 之内所妥侑而 年 八湖情考失正 俗 婦 則 得 安 碑記 **叙次節義之事向者持節點南亦曾** 西山 則節 切 行特顯於泉人 享祀者大半吾之姻戚宗黨也 風土固殊而有事於表暴激里更或隆其廟額凡所以正 窮擔部屋俱 烈祠 切澆瀉之風未及 妲 朝 因是著為 匹之際其貞 上陳 沈徳 時 潛 旌 漸 100 淑歌能 也

聖朝 仁思 聖天子崇獎人 命天下有司於所治建節孝祠 が補 節烈又累年以來歷被褒崇獎動井 典禮之所未備者也夫西山習尚淳樸其地固名孫將事其中不致風濤問門貼憾寸心此又補幽抑未顯者並得入祠春秋致祭同郡城例而 相 時 流 成矣因西 袹 至 陳者又西 祀 石公山 祠春秋致 Y). 陳者又西山距城百四北然有潔白之行的 上斷波春 自唐宋以來史書志乘有可微考及見 已西 西山祭子宏望與同志謀於本山公所別建一斷波春秋時享子孫至不能瞻拜於禮仍關於 概 典禮 八八川信才大丁 邀旌 而 1 倫無微 少所未 為吳縣 山人 門之典旣 雲洞旁屋八十 好德之士復能推廣 八於婦女之 '士之請志其建祠縁起 教 於婦女之心人心日 化大行 百里有波濤之險 弗顯無遠弗徹嗚呼 如日 隅其節烈婦女俱經矣縣 月 五楹 五常 凡旣經旌表者奉 in 創 世代既遠未 悼 始於乾 -j:-叙 狂避 里 Ŧ. ルノ 死 如 政 正 坊表巍巍 於是平 怪 此 風 1 失節 祠在 俗口 雨 交 確 主 盃

有前賦長吴天禮謹愿人也病人之厄飲然思作之提攜負荷過者多恐怖就紫或仆而弱居武峰 苦以 旅 急於通都弗可 必亞成乃續無終懈惟汝名候亦曰汝成之常人就候美其志白之郡守史公公善之遣 憧憧然在途摩接無棄陰而晏處者是故道路 東洞庭峙太湖 之良者發馬遂 **襘感勵益勉厥** 慮其工鉅 也 以其水 結 為 日莫登峰東二里日武峰其南北貫於太湖本 重建渡水 必由 儉朴為事屋陌經絡不 屋若古桃 二丈 於碑 孟冬落成 兩其經理 弗敢 一恒出是故以為號馬其流廣而且急隔 之要津故有石梁曰渡水廢 之陰 人太湖情井卷三 九 P 中心 於辛酉嘉平共費白 凍 以荒遠視也具區港界二峯之 源耕 事舊石材惡弗可用盡棄之 圖架木以海高危凛凛每風雨晨夕 橋 董率與左右頻襄諸 弘治九年之九月告成八長 碑 西 厥惟 田樹 為 詚 石堤延衰又各四十 吳邑之重 果殆無寸 下萬井其往來上城 1汝成子 地 鎮 金 隙 决 例 民居鱗次 V9 東與勞了 -+ 得 楊 冽 其義汝 力作 循 書名並 購塡村 間 ž 百 놥 분 六十 具區 宜修 日 越 西 耐 隨 勧 五

藝が以 皆永永 力 氽 希 次雲夢而 書禹 1 而 於 財 髙 後將 務 以而 元 風 = 下 百 東之故 百 道 六 而 不: 而 不迁若作屋三楹其 書余故 實具 列 俗波罩 絽 可 ズ 而 通 我 洵而山奔美祗以海 刊) 出非 护 以井且亭之 又善馬 已其能 咸 乎 石能 澤 而. 姊 百 殆 Ŀ 中 而池於 Дp 弗 L 流數者浮 不 海 ロ 轨 無述 能成夫 世 及 内 略 於 M 颁 桃 = 則稱 而 其 ż 天 馬 馬 也 <del>To</del> 其者 墳 轨之 渴 利 光以 其 中 停鼓 乎 ·拂 方 然天 害非 在 者 於此 而來 Ш 東 於 政 屯 惕 督 足 い X : 余 為 後!非 西 九 於 八僧之 是此 迁港 仁 12 疬 洞 其 夜 利 日矣然秦太因地開圖用 故其 見 庭 傍 而 城 獨 立泉化 為是不 是 為 西前 徃 成 有 浮 政而 艱 ż TO 南 役而 也。 四个 遬 蓋宣 客有息 長 人之 汪 四 也 欲澤賦 足宜 + 馬減 舉 使 人 ·種 則作歙里

有故據經語 非 亦 板 也 賢 負自 松 盡記 中 他 臉 · Ŧ 博洽 其所 耀 本 者 間 F 可 功 而 而 流 痛垂離が 今以資世至是 · 東本柳末 物 四 用 有 徴 而 方是 之道 至 窮 能 總名 居 かく 2 本柳末每寓言表由是 配繪畫造物陳諸簡時 似爾雅者有似山海經 人湖備考卷上三 揆地 者 天 梓郡 光 者 神 編 下 シ 之之 然 列 平露於公 書 悉凡 且 屹 仙直 曰 祭 廟 其三 金而 能跳 震澤編云 쟘 立 13 而 六字、 執怪之 沛. 匮 U 所 用 徳 鄉 一餘之 之古而 八登載岩-之一事耳而之史屡領以祭良 石 水 林 宙 亦 大 施 12 12 事舊 蜷胎 是是使 籠 觀 馬 徃 經 额 子 亦 **基斯** 材亦 者 夫 為 銯 同 澤 其水 大 非 陸事 有 所 撡 不 而教 將竹 載 徒 ルス 觚 大 永然 頭 1作 必 柳 2 物皆澤 一夷考其 矣由 身 存 子 念不 妙 确 告 庫 夭 然融 图 髙 始結 旣 可諸機 . 偉

學落廸後進人文化成於斯為盛其為文則皆根據中則有葉颗伯昂王鵬九萬俞貞木有立成以婚孔相承斯文與起今將百年而神化派通士習不變沒生有易說行於世我朝自太祖高皇帝開創洪業列 而 水德 天之生 播之不朽夫豈偶然哉此 者寥寥無問錐 知沈理宣德 名包山園 統秀身自古音俗尚隱過其負經 才必有萃夫山川 下士於是洞庭文風大振若夫後 以來科 企業類 於具區形勝奇理甲吳中山水士生其間 知縣葉廉湖 有著作經久失於紀傳惟元 縣葉廉湖學訓導察旭代府紀華 那 叉將 而 任州牧军百里者亦多其 鍾 業以鳴國家之感 洞庭清氣集所由 经山之 維 液 繼 之氣際乎世 緇 秀又得遭逢國家 紹 術出 TO 不 有施槃出 十者其詩 御史也 俞石磵 而 遊 作 傅 史葉君是 為世 昌 بط 洞 明 六之武

同出是 為是山 今年夏五月余歸 日搜等 谷至 文明 冠 世 田 而 ۲ン 申舊諾 之為鄉約者率祖藍田然非吕氏之始為之歲計咸有成規議旣協行有日也俾余序而 濟 武峰 冶益 先 田 時行道為心其次致養為事言必 天 山亦嘗濫登進士固請余言以弁其端辭之 諸賢之詩文積東成帙將發梓以傳永久不徒 必 , **王**| 同 以供約中之需嫁娶丧葬家有助 鄉 樂且以激勵後來其用心亦仁厚矣哉以余 将 下 故風俗 此預者 井出 諭之論之不俊則有罰到又不俊 約序 故風俗寫厚遠近同之無所事養民之政固如是也當是時不开出入相友守望相助疾病相約者率祖藍田然非吕氏之始 日 於未己也武山具君思政博學尚義 漸 自 iJ, 南 浸 有五 賽祠 徐葛君鳴玉 盛者也 不 而己唐宋盛 人出白 常而 樂故能 華以書抵 親睦之道 北疾病相扶持四氏之始為之山 髙 金成以三人 風 依 水 禮 バ 大夫有自 自 行 則 行 預 則也傳絕不 約 卫 暇

舍布帛款栗而逐紛華靡麗者機布取舍一移日長月並作如入五都之市百怪之物具陳非志定守固其不偏僻之說淫艷之詞所以眩人耳目悠人心志者雜然縣王楊浸灌於辭章而成浮薄自明季以來俗裏學駁 弊不可勝言即讀書之弊亦不可勝言能於諸子百家 益與之俱化何所不至哉故今之學者不但不讀書之 不昏且湯者鮮矣王何嵇阮浸灌於虚無而成放誕盧之中其心不明且正者鮮矣浸灌於淫離該說之中其 少亦自有無譽之故事乃終諾而序 今諸君能率先之復古之道變今之俗厥志甚善所思 自通其 成狼莠嘉言懿行者人心之良苗也 論何足情哉余昔嘗有志不敢為照明之弗預顧齒錐 者行之弗力至久而廢耳彼以為迂闊難行特世 讀其書而嘉之嘗竊有志於斯以方事奔走未暇 日猶喜傳而 之心譬如田以良苗植之 謂思難相恤禮俗相交者意獨與孟子之言合余舊道其適於民風何繁耶惟吕氏之為鄉約其事近古 畜德録序 慎收之 大湖備者卷言 道 之然智己仕而休優游泉后 不離予規 矩準 則 成良苗以根秀植之 繩别 浸 本朝 人难於嘉 可以養其心 陸惟 其 辞 管懿 俗之 酒間 间

為吾道 於楚不能不楚言也讀書亦然天下浮幹放僻之書於死能不齊言也習與不正人居不能無不正猶生人不擇也昔賈生有言習與正人居不能無正猶生長 吾以是益知人心之不可不養而所以浸灌之者不難沒而祭於社無忝馬是其得力於是書者豈淺鮮 讀之 具而 皆可為法江西魏叔子不妄譽人者也 於楚不能不楚言也讀書 友好拖與周人之急常若不及雖久病應得官而未 道非如晉人世說長傲助輕唐人藝文類聚諸書編 馬網羅博 畜德録示予曰昔我祖太僕公有格言類編 風雲月露已也 底线弗畔於道也 為楚言者多矣不 不及見之政事而其為行於門內施及於鄉當者事事 古者譜系之法與宗法相為表裏及問禮春官小史堂 謹承先志搜補而廣之平生不好聲伎玩 則上自周素下迄近代學士大夫之嘉言懿行兹 獨皇皇是書病革時猶置實上俯首睨視予受 金氏族譜序 Ž 大 本湖情考卷主 羽翼矣席子 而取舍當内之有益於身心外之有補 可謂精擇而慎收者矣予聞文與性孝 夫 擇 而 取 之弊可勝窮耶取舍如 臣奉其先尊人 為席舍人 圭 朝凌如焕 文 典公方果 坳 書我 嬉戲 文與 於 2 白

寓乎其中矣歲而辰余讀禮家居洞庭東山金子玉 枝尤非若後世之姓即為氏簡而易致也 在儀禮 見梗概自宋元明以近 邦國 古 留 行久矣而譜系之義例未盡亡眉山蘇氏族譜亭記罗 若周鄭之本於姬蘇吕之本於姜是也此盖典誌博 門第相高因 |系與宗法相表裏其來已久不信然數時唐以還 代以前姓氏分而為二 世系序其昭穆則如晉桓莊之族惡從而辨之又况 相 分小宗流演枝蕃網維領振非有譜系之方策以莫其 鄭之七穆不敢 其尊人天恒重修家譜乞序余覽其義例頗不謬於 繁也 孝弟教天下後世 1因舉前序崑山徐公之言而 ت. ک، 修修 端 三 之 /志奠 7而上之 旣 譜例備而義精世系昭穆較若列眉則宗法 而非周禮小史於掌之遺執 及大小戴記別子為祖繼別為宗若魯之三 石 告之日 有圖譜專門之學合羣姓而著其所自 世 系 有追 祖 諸 辨 于知古 ,侯而宗其始封之大夫由大宗 耜 而 遠之思馬序其所自分引而親 一姓以別 **北穆譜之** 昭代凡尚義東禮之家問 تك 集文 風 義 生 作譜之意乎益先聖 俗之所由茂也尊其所 疏通之明宗與譜 人 例 也三代宗法 始此 以辨族其源流 重 宗 申 此 法之 觀之譜 之交 世 韚 Ž 相 桓

之心蜜房萬穿秋山半尋子都之戟前其鐵韓稜之 蒼苔死兮又生磨夫枯槎浮天黑龍飲水鬼蹲無狀雲 千年有頑石兮醜其形徒觀夫風撼根折波流 有為近 助爾怪天分爾英威立為犀低開畫屏素煙散而復聚 江之東直走數百里有太湖兮澄其清湖之浪 客有嗜太湖石者圖其形示余命為賦其辭 中遂不復云 周也 伊爾堅姿峭兮寒碧干怪萬狀差難得而剖悉我將 利於録若乃湖水無邊湖天一 平觀於譜者仁 范蠡於澤畔問伍員於波際原君康初何緣而異公侯 駁乎復見也哉金子益深知禮意者余故举先王治 國而推之天下道德一風俗同而隆古太和之盛不駁 脩其身以式於而家化於而 昏吉凶無不告也 之大者告之若其譜之因創詳署已具於健華先生序 同宗之故先於姻而重於友其何善之弗能為壁 太湖石賦 推戲攜手歌眠盤尾大若防風之骨竅如比 ₹ 思馬於是為之祀 孝誠敬之 有無災侵無不如也與善規過 ら 集文 族由 可以 常以享為之作 色露氣睫蒸蟾津夜滴 油 鄉而推之 然而生矣人誠 畜 陳 燕以治冠 日 國由 相 洙 剱 各

子之限 汝洲其於 陰陽消 卷皆 遂 雨 虚 仲温子玉好學能世其家盡利其先人 俞 求之 兮難刻鴻都之經用汝作礪兮汝頑厥姿改汝為磬 囿 處進退 孔子之十翼皆示人以超古遊 故君子之於易也居則 之而 時之名卿鉅公嘗著大易會要周易集說 為吳之包山人先生天資高邁於書無所不讀 先 视 餘 刑胡公少開題其所居之室曰讀易先生殁其子 發先 讀易樓 于求文以記之易六十 卷又自為易外别傳奏同許發揮註除符經 Ž 如 即該易二字以名之日與明僚遊居講習其中 ÷ 不足噫爾形 張 長而 熟渾 一吾其先 (儒之所未發而 凶 華之水珠眾人 鉋 木湖備考卷十五 加 )其起居動静易也其 吉山梅各生馬伏羲之畫文王周 皀 用之 馬不 世居汴梁宋建炎間 而時 擁 知我之為易之為我矣然或 膧 類 献之 有補 今難 人是寶余獨掩口胡盧而笑 象玩 四 卦三百 如 琢 於後學者 辭 山而成天下之臺臺者 ト 明堂之礎 動 言 和 則 所遺書構樓 親妙玩 衤 由汴梁遷 蛪 一献王 十 行易也 陳 也 两形中虚 江 冗一 四 植 南 公之 爻無 剛 占其出 於庭 Ä. 百 沂交 於具 季 浙 非 數 四 YX 西

吴之越 雲数 仲兄 将各復其分車也復於陸舟也復於水則之泰之 已故日 江湖傲然枕席之上一日千里 固 可達 穴切 也真之發則車也吾將其之水縣也以柱車 日若濟巨川 不能悉也而舟之為用則知之易曰舟車以濟不 名壑舟屬弟鏊記之壑舟之義葢取諸莊周 自勉也是讀易之說已 道者是山去矣可不慎歌 之不明孰之不固行之不 軀試 乎其厓有舟馬雖 以為命茫然不 ネ 滌之旣倦遊築室洞庭之 壑舟 《起颶風陡作魚龍出没波濤如山而吾方寄 浙 者 火 於用也 炊釜以春聚以樂夏葛以樂冬其亦可乎夫 無 水以戴舟亦以覆舟今老矣尚 理也不可廢者用也若之 测 太湖情考卷主 不如吾意者孰與塊然守一察哉見曰 之除 用汝作舟梢舟固為水設也而宜之整舟 知所歸幸而獲濟猶心悸神慢 不析於用者析於安昔者否審泛 乎故于有取於壑也子不見武夷之 世變屬遷舟自若也 常乳於所 Ŀ 野穹馬 一其必能 固 自 何其紊之 謂 YZ 識此 如 閸 為 珋 安能以不對之 舟 琦 適也 王 而 無 梁麗 周 因 ع Ž 日 鏊 知 不 所以 舟 是 楚 通 吉 不能 則 幸怪 壑 パノ ンジ 舟 室 宜 從 حِ 物

日光之見遠矣遂為記於舟上 之其視江海之舟不差安乎雖有力者又安能獨之

静觀模記

前人

度偃然如屏障列其前湖中諸山或遠或近出没北復起雙峰亭亭如蓋末如長地天矯蜿蜒西逝 分為 勝馬山自其釐起伏選逐有若巨家奔遊職首選顧 望之渺渺忽忽與波升降若道家所謂方壺圓備者湖 山之勝於是為最棲在山之下湖之上又盡得 太湖之山七十二其最大者兩 轉而南為寒山鬱然深秀樓枕其均 洞庭两洞庭分峙 出没於波 湖山 轉而 西 湖 洞 之 遂

之而患其難值也乃於是樓馬得之又幸其不界於通者乎有若是樓之無得者乎語有之知者樂水仁者樂大三萬六千項之波濤七十二峰之蒼翠有若是之勝夫三萬六千項之波濤七十二峰之蒼翠有若是之勝夫三萬六千項之波濤七十二峰之蒼翠有若是之勝夫三萬六千項之波濤七十二峰之蒼翠有若是之勝夫三萬六千項之波濤七十二峰之蒼翠有若是之勝夫三萬六千項之波濤七十二峰之蒼翠有若是之勝

林院修撰施言宗飲欢葬銘

錐

通静中之

平故名其樓

目

而

為

1值于故土

而有之豈天設地

之不釋二十六日果卒國朝權首逐而年少者以曰君將以文鳴天下吾不免能為吾銘乎子深 宗銘朝遇風雨感寒疾遂不起子往問之宗銘 銘養推命握予手曰以君之命吾自此知不及矣明 為入翰林宗銘見之惟甚子謂年何長而職且卑哉宗 予同年而升同東吳人情好頗密明年五月十日予 里許擇高典地於山右而邊葬馬初宗銘之樂進士 葬其邑洞庭山之陽水醫山趾滋及其裝於是去墓 Œ, |統己未养蘇之吳縣施縣宗銘揮進士第 釋二十六日果卒國朝權首逐 明年夏以疾卒無子 兲 惟宗銘 膛视 アノ 理

銘
銃
厭 日奄然以改自元老大臣以及館閣諸同寅相 為然其不已也朝自元老大臣以及館閣諸同寅遇 奔臨哭於其家者越 炙諸元老而禮 而况其儀度楚楚然性資坦坦然文學擬 然才不重於時位 也論文學可 愛之重之而推讓之而以遠大期之然宗銘亦善 世而 世之人擬諸大用者猶曰宗銘在未 選 以傳世者循 元老大臣以及館閣諸同寅相視駭下諸同寅故舉之無間言殆天授也 而 不加於眾而天反久之何那嗚呼 亟 數日靡寧噫 李之 日宗銘在豈吾草 而 不完其成而吾華落 天 又何奪 古 作 欮 返 者 可 邪 日

宗銘 子不 後報 歌速其才敦界其題歌閱其年而不永其傳 云銘 天而莫知 洞庭皆建状 大有所得歸吳巡撫侍郎廬陵周公奇其才真之吳學 配吴方城哭甚哀子使人慰之既而遵道來迎丧予復 銘 使交南逐其父遵道弟宗賢进予舟謝之且索銘夫宗 誠 都憲萬安劉公孜巡撫東吴子為白之公至吳訪之 八其待産而殯及歸竟殯於未産吴果哭踊而 掉鞅 年後而改葬之銘其敢重違宗銘意子宗銘既殁其未副其所屬然得二公之作亦竊為之喜矣証虞二 人材環以磚垣表以石門載封載樹完固一 初葬得歷陵楊文貞公哀詞南 八八命郡 有命也 日日 之先皆以隐終至遵道始擊之淮依鉅姓家就學 育後吴亦自盡今合葬馬以宗賢之子其為 人檢李頑像特 題天下士於是吴之學衛淮之旅次與所居之 其為然舍危即 守四 夫豈誠有命也夫宗銘之墓旣危歲平 太湖情考卷其 え 坊 明姚侯堂遷之堂亦同年友也為相 以散監之至今指感士 安於彼南 郡楊文定 L 旣 封 'n 巻己定が A 而 新 公墓銘子 完 属鄉俗 傷 鏊 明年 アス 喳 已通 団

不孝即 裏程在 白涵三相商欲以船為宣依水為天就士民避近間其民不堪苦疾視長上足欲前而超超因望慶慶欲夏居停未得其所有人言浙東者初 前自 之是非為後但吾華已失家鄉又無即 船結鄰效范大夫歸湖計寇少則敵寇多則避水國 乃之職 於其中耶 下未嘗不頻回旨也時勢至此天下之安危關 則九重之 多之 李禎領機財散於鄉寡甚均而公且有憂民之言予甚 息若事齊其民肥其躬錐曰侈然在其上得不 勿謂位卑其才乃充勿謂惠小其心 往往旁緣以為 ıF. 徳 亂 金沙返棹以小事急行夜趁風 復黃總河 ,乃因其像贊之曰 五 亦 拯 年异下大 可 民之恫時乃之功益 仁不隔於困窮憶彼貪濁位都顯禁受若直 相 從若猶無着望命舟來蘇 z 慰 書 利子伏林下竊傷之竊恨之角 , 狭促也老父 水飢草載 矣不孝負土 途有司 母若得仁塢 一命之士存心於愛物 一郊外為 帆 乃公屏 奉命檢災販 ᆍ 次 未 母築壠 同漁湖 民選與飲 百口 追 扳 可 up 盗之 掐 嘋 赧爾塊 謁 頭廻可 嗷 含親 攜 Ŀ 帆 迹 飢 四身 聨 2 匪 時 而

東山孤峙太湖民智 為然乎否也 予與周前伯昌雖里居相 平貧賤又日貧而無怨富而無騎吾告翁以處貧富之 及於鄉黨雖當何為故曰素富貴行乎富貴素貧賤 非所以處貧富之道使其貧無立錐而行已有取與人 生貧理有固然無足怪者然此特所以致貧富之由 以副其請蓋人情貧則生勤勤則生富富則生靡靡 引并讀諸公題詞感前之意不猶乎俗因走筆書數 于友陳子欽念以其所為始無録者視不予既覽其 恐小人尾之也 多及疏揭奉覧當為人言發慨歸湖之說幸勿與 奉之意則其於治燕也 無失雖我何害使其富擬王侯而残忍生於骨肉倨侮 通老稚轉溝壑姦光效脫中矣故積數備荒東山 之意則其於治無也將無既矣不識陳子其以子言如此翁之後人誠由斯言而進之以仍忘翁今日奉 再遇風波之險盗賊之阻舟販不能期至且 ~周伯昌始燕 一要務也 雍 稠 ïĖ 田寡室鮮蓋藏 近 年先君子遂偕山中同志 欵洽也 本朝 遇山荒顿 金友理 一个成人 磃 呼庚 不得

而則

語

專行出納即多所不便且連歲奉文停止 也官主之國官主之歲時之飲散必禀憲令社長以為深苦因竊究其故蓋以數之出納向也民主免凶荒之患矣迄今歷有年所而倉殼不加多社 米又節次撥給公用撥給軟 備不虞也爾等其無忘公德又曰納士好義先有成 中父老而告之曰此大中丞軫念民瘼為地方計長 送供給社長任其费此社長所以深苦之也積本地 加多也多年封鍋數有朽盛社長任其谷歲時官查 故不煩勸說而穀已盈倉遂立爾等亦無忘紳士義 親行下里諭紳士指積建倉用朱子道法東山 事者益 行於崇安者而人共樂出納之便行之數年穀歲 永享積儲之利其時父老成感激相處調否 日予不敏承乏兹邑簿書期會日無寧各今又掌社 有穀數聞於官於黃藻節建倉而貯焉色依金公屬山 無補本地之飢反胎累於司事之人豈恭子社名之 人謀指積凡得穀若干 必慎選社長職司飲散每歲出陳易新俾 獥 **野躍焉乾隆七年人中丞徐公來撫吳檄州**安者而人共樂出納之便行之数年毅歲增 將恐徐中丞所 石飲散之法悉依朱子當日 較念之情盡湮也 集文 數十石此倉穀 Ī 止借給旣少 双,两 رآي 中 爾等得 不得 Y2 と رد ip 所

足 子听以捐發之故昔皆自謂此特相 科者故今亦承 慎選之意盡 英 其意而 九也故著 其顛末 不列其姓 而為之記若夫諸君 氏云 周桑梓之

八湖受水 辨 葉 爕

一青龍江ソ人子これ湖南田吳工小湖州杭州之水俱聚潴於湖西田吳工山宣歙蕪湖溧陽溧水数郡縣之水西南有 莫旦 盲 至荻浦納宣歌臨安之水合若雲梅溪俱 入固城湖合金陵常潤之青龍江以入海沈路日太 人太湖 備考養主 日金陵常潤之水為百演荆溪人海沈於日太湖之源由天目 而由吳江長 有 頃 入太湖唐 关 西 分而 日富陽 北 有荆 從 東 獨 為 文 宋山 松

安餘杭湖之安吉 陵宣欽之水盡由分水銀林二堰 至長蕩湖并潤 は康心 諸水所歸其大者有二 人是中多水患由不為之分殺也自菜五 湖承受之半矣王文格鳌曰吳郡西南有巨浸東 水 不由此矣一 州金壇 豆武康長與以 延陂 長與以入而皆由吳江分流以一自天目宣欽諸山下杭之臨延陂丹陽會於江與以入今寧 自寧國 超 燕湖 建康等處入溧陽 マス 堰以節 入 人大江是

杭之半

常僅

半在 西北云

東頗與吳地無沙莫氏

類

果

1

則沈江

西

南

支而已若杭之分水解遠富陽瀬錢

築五堰以節金陵宣獻之水於

宣獻也條與金陵

並

忽

宣歙

八何啻子

餘里竟若同條

者

也

水

自天

目

而

分出於杭湖常三

|州太湖所納者得湖之

全

於北流 者固

山與五

言金陵而不言宣亦非也又吳中西南之五堰無涉也故曰莫氏於北流言象土也

沈

水

源氏

康之

殺

γŻ

南

日之源一合金陵常潤之水有各非也莫氏云西北有荆

一陵常潤之水為

百漬荆溪也莫氏於

以上三

在荆溪宣歌等水即沈氏云天)就互有異同同未必盡是異亦

溪宣

歌等水即沈

與建康諸水異派而會於高淳溧水之間併東南下其自寧國者與大江稍遠與溧陽諸邑稍近故宣之流之異同莫近是而沈全非也何也蓋吳中西北之 非也 於西 同各 州 非 北 堰築而以水俱從蕪湖以 之 ُرچ\_ 地 水不入太 沈氏於西南之水言宜非也言飲益 南之水言杭湖 水即沈氏云一從過山合宣歌臨安之水也 有是非也莫氏 水言宣歌而 氏不言歌是也 湖至若愈之水從未有會建 沈 茶 -5 氏 并不言宣非也此言北 西南有天日富陽 不言也其氏之 歌是 集文 入大江矣自是 也言分水富陽是 一言宜是 非也 分水 而宣 康 此 杭 流 而 12 石 莫氏 言軟 東 郡 州 水 建 自 南 而 湖

**★** 225-238

諸山 歙諸 乎故 湖越 並言宣欽 也 說庶為近之其言東南 沈 自 12 由 田桐廬高陽等縣以入此東南面之水與杭州如 寧國 不由 東 溪 湖 面 凹 自 人於南流盛 源合天 莫氏於南流 縣之水 目與宣散諸山連 7 江 雨 注 此矣此則 水與湖州都者 杭之臨安餘杭 建康等處而 行行 \_ t\_ 非矣然上云宣歌諸山則與專言宣歌者 耳若 行干餘里と 同 也 支從 有餘里 會 目 且 五言宣欽 於太 裁然 某合 置宣歌是 入线江 下 會於宜與以 太湖者 峰屬嶺山 南 之水安有近 鄰者半 某或 則由安吉等 其 湖之安吉等州 於 受睦 流 ツ 可也豈得 -F 无 州 而 凿 个合若雲更非也而下是也言分水富陽是~ 矣錢 郡而 堰之 郡 2 水平 由臨 2 江北 脉 說 含言 漫! 游 下 故謂獻水斷 八湖最 安餘 也 州縣 バ 也一自天目人令寧國建 里不 源 縣 剖 南 版湖 机之流以 自 妳 いく パ 晰 犴 盖言山流橋言太 入湖 者 和 或 王而臆 五入湖 有 江 欹 和 湖 氏 宜 非 斷

睨問 必矣而世不察徒後其解 涉則所 歙此 州 巃 天 /山實與浙 必 接據而詳語及卷三水議中辦那備宣都就聽處顧野聯合是文道得最晚不及編次在前故錄於此其言本 至寧國二 E 歸太僕有光論吳中 夏雨 江 凇 何 過 コロウ 公溢時三 則 則 明辨之以晚世之 西北宣州 且 八云宣州 為 萬二百餘里其間為,并略言宣矣考,胡州 待塞於五 海按歸氏 漆驟 面宣 可據者也 無據 線為宣洩吳 一吳城 公 之 發水或高 者水 天目 諸山 田 諸 敷 論太 郭豈 堰而 記 山 溪 溪 相 自 E 一言諸山 耳食者 歸宣而 之水此亦概 歙水 湖之 松之 連 所 水 特 所奔注而從吳江經華立水利言太湖自湖州諸溪 概 出 云太湖 不沉 并蘇 而 瀕 輪自蹄四 可使入 分界其山 廣不及錢江之什 江 城 奚 僅言受宣 松常 之 孔道並 版已哉由此言之 郭 納建康宣歌諸 一直直 水 湖省哉其不 江 Ł . 又 2 而 者 州 可 面 無 不 州 湖 風 浙 東 帶 從 知 بخ 而 成 帆 者 草. 也 南 水 水廣 在 不 水 境 可 14 愅 胞

**們并兼不** 託有形之 由治 而其 有資劇 絶典 敝 有時 吟咏 時 心民 伍 太湖備考卷十三 繼美者奉揚明教宣德布思耕 下华 虚名 **账焉可也** 相 有定 令富民捐 1.1 明也也 敝於 , 真憫 吳邑 散於田賦考後後餘其文於此石有所而為可以做文於是書接公田通司事而東西兩山至今尚利賴之故既詳其前行就 較 於機杼即有金石疇其載之夫天下有美者奉揚明教宣德布恩耕農秩豫於人今信然哉假令宋公能以法垂後而 則夏后殷 1-17 毋令乾没使珉碣所樹 煩有助美意良法百年以來吳民稱 制 /搜剔隱匿洞窥幽碧緣 品 小無侵漁 而杼 石 **黔首鮮被寶惠當事者遂謂三** 而 핅 侯孟 以水熱 無敝者 太湖衛考泰士 即有金石鸭其載之 金 民無越志自此 鳅 正以鬻田 周沿及後世寧有異時 一我役繁計計局令 吳之日法詳安撫之 影射之 公仰承當逢便 か 公 也 世則故記之樹雜 而 田 今孟侯 弊非法之不善奉 貧民耕 而 集文 、法廢格不 樹 彰彰有紀昔 藝船於 身行 民 此枯以複 以貯用 之 /意慨然 圭 其 哉華陽宋公確 行 私 謂 無敝之責而 有 か To 袻 敢戴稅 便選者 於是晓齊 千萬樓 形 ·殭 行 足用 名 不 能 按故 者或 謂 11 .: 畔 田 物 治 限 Ė 曲 × 田

在人人 東國東外集 唐詩正聲 東國東外集 唐詩正聲 東國東外集 唐詩正聲 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	吳惠天樂前集 海行日記 奏議一卷 心不致湮没云 一人太湖传考卷十四首目 一 小不致湮没云	之書而編次其目無論已刻未刻几有得於見聞少不足以表山中人著述之盛於各於其人所撰少不足以表山中人著述之盛於各於其人所撰	太湖俸考卷十四東山金友里暴力
---	--	---	----------------

施大政書旨闡明 學古編 幼花集 卷烟户集 帝京雲社詩一卷 帝京雲社詩一卷 帝京雲社詩一卷	展果天隱了稿十七卷 陽百白社詩草二之 續震光相丧葬祭雜儀三卷 陽百白社詩草二之 續震光相丧葬祭雜儀三卷	賀春唐文鑑二十卷 平依志 家訓三十六 美節義經釋義 同適稿四卷 與作前 8 和 美節義經釋義 同適稿四卷 與作前 8 和 是庸平齊集 具庸平齊集
--	---	--

彩語焚餘草一卷, 杏雨詞一卷	郭階慎獨居詩二卷張明俊序	集 東山詩紀	華樹蓮論史石說 史記私論 集金石文 撰學齊	老工演字 雅正問從孫定璋合三種點 两山風雅西山春嘉台周選	吴時德來瘦集一卷成為董中草一卷成為可老野一	鄭周讀易緒言一卷	隱齊偶集	張延基東海遊草 燕帆紀事 蜀吟 石紅集 非	陸仲飛洞庭明詩選	太湖傳考春中四書目三	ì	嚴犯犯花境寓言 雲居灣言	<b>業條湖山漫稿</b>	顧輝祖東山集 漫遊稿	禁有聲成悅堂詩文集二卷	張明俊張子合刻	張善道寒齊集 擊筑吟	張振先左舜軒存稿二卷 游藝齊存稿二卷	兼备雲持詩草 名山堂印譜一卷	鄭元亨一有吟光译读序	
----------------	--------------	--------	-----------------------	------------------------------	-----------------------	----------	------	-----------------------	----------	------------	---	--------------	---------------	------------	-------------	---------	------------	--------------------	----------------	------------	--

翁美家山 施程荔村 湯沐木 許游 草堂稿 **圖錄** 放圖畜德錄二十些 彩金陵吟古 桂花 强山吟一卷 强山吟一卷 建山吟一卷 黄 和 子 測天新 集 園 逸稿 湖北京武武大部 时文二卷 营 澤畔 四 鼓缶集 长 帝教六書集義六書語音世本 石鼓文詮三卷 歷朝 卷 吟 海濱 來鶴莊 嚶鳴集 復稿 倡 四 卷 和 卷 集. 建初 19 秣 晦堂雜詩 和書學大 容性 集 香位節四

集集篇集。	_	新對具區志十六卷 胥母山人集	餘詩 粵歸草 開吟 随寓		金世章陶卷集 卷	青	余弘道超翠草 鸮蜂草 銀米集	姜立寬辰已集二卷	劉昭文嘎嘎草一卷	張尚絢耦耕集 碧格軒集	大湖傳考卷十四	金友談仙居集一卷	金友焯點齊詩一卷	金植自韓草一卷	楊匡賴真養詩一卷 燕臺雜水	秦之琦頌古語錄二卷	惠機集	禁緩東山詩集業學序	古編	兼開易原六卷 葉林屋詩一卷
	1	人集		北行篇 娱	1		İ								-		泌樂堂稿			老 詩觀

許成為其本題調 吳曾黃淮 JŦ 鑑勁秋草六卷 報傳程一者 修上了文註疏二 H **烧齊集一卷** 夠帽 集 練湖考 西 一陽集 卷 沐 秋 萊庭

<b>禁方嘉陽莊詩集</b>	あると口を山住下	影	編 新綠齊詩	為一龍尺木齊書	葛符自鳴集	葛佩石壇吟	卷 開居草三卷	卷 塞上稿十卷	大大	孔貞行磊落項言一卷	異鼎芳雲外集	孔文徵鳳崗集十卷	吳九達經史異徵	吳思政洞庭清氣集	魏美集,吴大江用從弟文之合編	吳氏聯珠集異數門兄作申孫文之合統	吴信山居雜詠	濮麥高山詩三章	以上東山
1 9	住下一长过世光序	<b>矮褐吟</b>	旅聲	新詩	治家規略	梅花百詠 縣	三卷	1	大湖傳考卷十四 書日	i	寺稿	十卷	徴 土資集	氣集	化弟文之合稿	《简兄信 曾孫文之合	袖莊遗稿_	牵	
	序	鷓鴣集 小茶	統語 弄閒草	索解草 獨准篇		騒賊		續洞庭清氣集. 香	上 上	鏡一卷	經律集錄 明詩選		漁樵集 繼			4)			
		小茶百韻 客	佛客齋	篇价竹				香夢蘇稿六	:	赤號錄一	選 禪事		繼蹈集						

葛士邁且通吟一卷	葛喬年寄閒齊詩四卷	周建銘放言草十六卷	周建鎮長青集十卷	吳水藏遺意吟 荷戈草	異水願文起堂文稿一卷 還讀齊詩稿一卷	吴時雅居家格要一卷	吳從聖居易居詩草	陳愛民蟲鳴草	太湖衛考卷十四書目人	那弘志念草遺集 燕臺遊草 貢華咏 愛蓮官稿	鄒斯盛尊水舫集	吳之昌東軒小草尤何序	吳之藻申右堂遺稿	吳之甲橘社存稿 筍香樓集 北遊草	葛的夏冬情草	葛御夏自求草	陈熊家獨繭編一卷吳原芳序	香草 兩朝國雅 碎金集	禁力得深物讀書堂詩草 濂婚偶存草 水雪傷	
----------	-----------	-----------	----------	------------	--------------------	-----------	----------	--------	------------	-----------------------	---------	------------	----------	------------------	--------	--------	--------------	-------------	----------------------	--

1 1	婺揮九卷一本三全陽子祭同契釋疑二卷 林屋山書齋夜話四卷 席上腐談二卷 全陽子祭同契	琴譜四十篇 除符經解一卷 始明辨惑一卷	卷六十		教信陵詩一卷十四書日 九	当車遠讀齊合稿 果水順繼宝	半園外集 太湖詩話 豹留集亦門門津集章	一十一倚	吳浩知非草 北征雜咏 三秦遊草	00	葉仲衍羅浮遺集 為字詩一卷
-----	---	---------------------	-----	--	--------------	---------------	---------------------	------	-----------------	----	---------------

蘇服一開來今二志	秦嘉銓旣耕宣詩鈔	葉初春疏稿一卷 吳西佚稿 葉氏流芳錄二卷		蔡維寧秋林獨響金使明明	蔡雲程包山集	集	陸明輔左球 史琳 龍飛十紀 明時玉龍 祭阿		陸文組北山篇 海里什 江上草	大湖備考養十四 清日 十	陸治纂注家語十卷附錄一卷 包山遺詩一卷解然	卷	蔡羽太鼓外史五卷 林屋集二十卷 南館集十三	徐綠在笥集一卷	六卷木五卷	徐紹經筵講義六卷 禹貢注解與別前推進 文敏公集	徐震静養稿	蔡洋太湖續編	祭昇太湖志十卷 西嚴集 具區百詠	俞贞木種樹書三卷 立卷稿
----------	----------	----------------------	--	-------------	--------	---	-----------------------	--	----------------	--------------	-----------------------	---	-----------------------	---------	-------	-------------------------	-------	--------	------------------	--------------

李衛史學摘斷 性理學養 太湖志	l	朱昱常州府志四十卷	錢孝馬蹟山志	朱鲁文信國忠孝外傳 梅花百詠	許官味我集	許成才拾芝聞詠集	許世泰桂軒集	要焚餘草	大湖傳考卷一四 清日	許新民麟經宗旨 四書說約 左氏要語	馬泉素位堂詩一卷	許理近山草堂詩	以上西山	張凌仙硯隱集以對室	王維德林屋民風然以一山之支衛配合全湖之山數殊局車王維德林屋民風全襲其四志惟第三春羽庭七十二年是其	周公贅編年集	陳綸江漢草 西亭續稿	茶鈴四書講義 詩經講義	蔡旅平后庭紀陽集
¥	256	-								通鑑果	-				<b>建</b> 其 強 類				

陳王珠學文堂文集 文統 經解 史論 重修常許鐘乙金臺遊草	許志明桃塢草堂詩	許朝元熟遊草 楚遊草 豫章遊草 母遊草 服陳世祉借行軒詩草	詠美	那川高 達達草		破問草 開餘	錢國珩靈椿堂詩草	2	梅花草堂詩	奏流十卷	所知	<b>到中玉王浮山人集</b>	杨老		京流一卷 華陽遊記 京流 京山人集 一時 京山人集 一時 京山人集 一時 京山人集 一時 京山人集 一時 京山人集 一年 京山人集 一年 京山人集 一年 京山人集 一年 京山 一年 京山 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年
------------------------------	----------	-------------------------------	----	---------	--	--------	----------	---	-------	------	----	-----------------	----	--	---

宝太平 世悉東死具是 大歴二祀冬大 旦太湖水厚數尺人 皇慶二年七月大風太湖溢兴活 也長慶二 元豐 熙寧 志震 開成三年太湖決蘇湖二州水溢入城之 摧 大德十年七 四 以和元年冬大重積丈 九豐五年大水太湖兴 1其半吴芝 年 平 和六年二月太湖溢蘇 元年 民機常用用志以年夏大旱太湖水退數里內見邱墓街道 與國二年 四年 يذ 六年三月江湖合派累月不洩兴之 年大雨太湖溢平地 月大水西 太湖梅考卷十四 九月太湖溢壞廬舍云縣志 雨太湖溢景志 تأر 月大風太湖溢 月 27 月朔大風太湖溢吳慧 風駕湖水浸没吳江 H 大風 溢 災異 湖二 啊 水高二 漂沒 州水災文献署 田廬無第充浦 古 丈餘漂沒塘岸 人民居 行 只是志 長橋亦 洞庭橘 秋 沉

天順五年 古寨至順 谷口是屋 成化十 訴耕 餘 明年 湖挡 十四年正月六日太湖中大貢小貢二山關開開二大演湖應各無存諸山木盡拔漁舟漂沒具 秋九旱大饑疫失 次 Œ 共 上統三年 年七月十七日大風暴雨晝夜 通 元年二 港演皆東斷舟楫 五年春大雨雪自 沉於水已復起關 瑜時 大魁天下 表 潮 字 又 年久雨太湖溢傍湖果木悉浸死故中鄉榜 無風雨必有異是秋東洞庭施黎中鄉榜 一八月太湖水忽派數尺尋退父老云太湖 千久雨太湖溢傍湖果木悉浸死故 太湖俸考卷十四 /無風 七月大風  $\dot{L}$ 夜 月大水七 迅 月東 雷 大 4, 産蛟 雨太 兩 日四年冬至正 月復大水太湖溢害稼饑疫 有 湖溢漂没民居死者甚敢 水暴漲法海寺 肅殺聲來 乃止是年大小無秋 不息太湖水高 月積雪丈餘太 自西 木皆死夏大水 關開闔數 北 盆 剛漂出 抵馬 对社

志是 志見 返人共足五 十二 山奔墜搜者無少長皆沒起日返人共易之競入掉搜取至三 溢 + + 1, 弘治五年春雨夏大水太湖泛監 旋 聲震兩山龍自雲端直下 王文恪作福荒数是意志 雁 年十二月大寒太湖水行人履水往來是 4 1757 年冬大雪積四五尺 年冬大雪具題志 年春夏 年八月大水十二 地盈丈禾稼 车 Pq 如 湖濱拾得金珠器物及青緑古錢水兩 年夏大風從東南來太湖東偏水四三 年 太湖備考悉十四 灣東去壞虚舍傷人高千斛巨舟攝 凹 風 月太湖 五月大旱不得 仰 無雨 演其延 無遺明年大微深海 諸 **公亦數** 1,1, 有虎縣 一月太湖 災異 東西 其爪可數十丈此於水面 稼六月太湖有龍與 大三 水舟楫 日有聲如雷水 啊 ឤ 11 四 橘縣 天淹是古 日 女乃息久 盡整 通者逾 عد 於山麓 太 無遺 十 湖 如 日 里 雪 A

十年七月十三日大風拔木太湖園馬蹟山人皆履水而行是區 二十四 志具 萬歷八年冬大寒太湖水自胥口至隆慶二年正月朔大風太湖洞無均志 海塢 漁 三年 日大 湖 Ξ 四 五. 年夏雲雨踰月湖水浮於岸歲饑復大変之 溢六 年春夏連雨大水 志具 年五 風 五 於 六 年正 年春太湖 月七 拔木 年 洞庭 月 人太湖 備者 老十四 郡皆災患江 大旱太湖涸 九 月 八早太 月五里湖嘯中無勺水無 山 日 太湖 日 蝗 有黑白二龍關於太湖之演白 側 山有虎傷人募長與虞人射死 温吴縣 溢漂渦 湖 得 **兆敝天捕** 個民機美 日大風湖水 死 高 志吳縣 蚌 災異 殼 淳壩決五堰之 民居具縣志 之東洞庭得 可 ·貯粟四 小縣張二大宝典 南歲後果非 洞庭 五 水 石七 下埠至 百 下 於法 龍 月三 注 餘 太 敗 石

日 通 七年秋大風拔木太湖溢是 散忽 水富 順 四年夏旱蝗米騰貴斗米三錢洞庭兩山米販 6 思亂知縣牛若麟勘諭監 神境 六月十二日太湖 治 减 神列坐煙波間降服填墓廬舍無等先 四 四 價平耀山民安業是區 於 一年秋旱 十冬大寒太湖 湖 寒太湖冰厚二 中起 一月太湖水凍月餘人大水太湖溢誤過 月大寒大湖氷月 蝗來沿湖 長限如虹横截水面風上降服雕冠如廷議國事五九一夕有漁舟宿太湖京 冰斷不通 水陡 中 **今二尺二旬始解其江田圍土石皆紅武進** 漲 依 丈 生席本禎出米三千 j 人餘間以 餘始解 田 陌 禾 楫 間 火具區 者市 兩 狂 大作明之 月 脠 四 月 錫

太湖備考卷十	不傷稼	雍正二年七月太湖中	五十一年秋雲而太小	四十七年太湖水浮水	四十六年大旱
四次異	ı	飛蝗	溢	於岸	
<b>元</b>		入食濱湖蘆葉台			. )
<del></del>		تنسيه			

史 225-249

## 太 湖 備考 4 五

東山 全友

下世 綳 校

補

乱

縮 目成誦為文 武字作 棺 琢 物 **响定前未及** ツ 列 求 |天性孝友慷 俥 一女 小馬蹟山 酷慕鄉先 者 随 得 例 成 耿 者 随 有 做好施言 有热街 華唐順之為詩春容雅落不 污人邑库生幼嗜學讀 採訪 錄未遑序次 未立 周 今始得 4% 附 μij 近 類 而 屋典與醫 边 者 (人其 有

毛 臣 2 後 餘以 敬 除而終常州府志以子鼎臣實封仁 以子鼎臣責封行人司行人兩舉鄉飲大審日毛敬宇家失火吾家當自再造耳其厚道日君家所失吾不能計典價吾當春還適盡敬字得價四十念敬字不戒於火處其屋鄉 日 曰 宇 行 賓道書年如子

學教

授及

业

佃祖

里字

湖

馬

張青灣人

澤泉革後削

為

金良瑚遠

其舟及抵家

不致

辨

如

故

士

時字中等其

刻成准重 **分别號九** 里之麟洲南东項少岳 湖 **育其詩日** 4 姑 如蘇皇南百泉 繪 7老夫家山: 山 水邀客題 之白 妻東王 山味 來湖 堾 見適 34

朝

相

11%

又

光流

1 3

+

唱皆欄筆弟相字子輔號谷虚已路生完 斥二氏慨習俗之信浮屠而不 我何人妙手奪天 **蒼苔不破空迎送** 立 青林 巧令君屋裏藏蓬 茅屋門常開緋桃 動 拄 (C) 理

**翕如字鄰凡** 攻漢陽太守温城守梁皆棄印走翕如 歷轉湖廣漢陽府通判攝漢陽縣事有忠改獻賊 儀三差以救其失與兄橋分擅詩禮 勵民相與死守賊不能克去 世 本海田一 貧租重敢減二斗他家俱接, 李馬蹟山 有温於留不住單鳳守孤城之語 門多所成就山 湖備考養十五 西山石公山 不 沙陞 過半頃倒畝 耿 灣人崇禎庚午科舉人 上衡州 中秦之鑑許之 人由貢生任 程詩禮長有二世不循古禮著喪 知府卒於任 輸租 薄武只法 例減 雲南右 獨東四 石六斗盛 難非 農民 勒 學維為 衞 印 71 至 經 . ル 來 經目 傅.

葉樹蓮字石君東山人 兴時德字明之一字不官東山人 他 整衣選拜恭離麥秀之感時時激發錢謙益採其詩王黃顧夢游站人招入秦淮言在身上 瑚 别部居精辨真廣手識其所由來識者皆以為當草 不肯拾人牙慧藏書多至數千卷遇宋元抄本及名 辨致某負罪至此數笑曰被時亦欲辨但思同舟無 重自愧治酒者至事門還金謝您言長者向何不利 常熟志載入流寫 家收藏古帐雖零缺草卷必重價購之其所藏書條 項良湖將復出檢行囊前所失金出自舊秦良期乃 曰 石君既殁書多為人購去一 書經禁石君評閱看目始出其見重於名流如此 徐司冠慕其名而未相識為之作傳郡中何義門 日何故曰吾家貧荒源衛傳 八而某之所處又衆所共悉縱力辨其誰信之良 小湖倩考卷十五 補遺 人博學學古讀書務盡其益議 生僑居常熟錢陸樂修 人天懷高 曠肆力風騷

五汲東山人順治初以周璵各一句因與時德有雨山風雅之選

以周璵名應試補色諸生

時德院詩有一代友朋零落盡兩山

風

朱允恭字公想東山人富而材家有園亭聲伎之奉 Ξ 致轅門許之光恭訪得其黨好言語之 恭曰亦即新候絕倫對雙刀能履水飛行人 金致詞張大悦約日到山謝兄恭乃盛設合樂以條吾欲與交惟今以千金為壽願保我桑存城黨 然好聲色可餌也請給假五十 演據富家子置山寒勒千金取贖當道患之允 熙初長與山劇盗亦脚張三入太湖掠横山又掠 大同府右 幼力於蘇撫轅門無軍詢以湖盗事議發兵動之 尋棄去改 之舉皆禹為之倡請設太湖營條陳言言碩畫其他 醫於靈經素問諸書靡不討論而以陶節養全生 |越宿備陳女伎陰遣勇士雜像今中酒酣 一丁其手足 解無棘正法餘黨駭散湖中 知矣尤 但知禹之才不知禹之行也故表而出之 而 字益之東山人文格鳌之元孫幼業儒已 右衛同知皆有政績再性福建延平府知府之功也後以前例為山東萊無縣今世山西手足馳解撫轅正法餘黨駭散湖中自此寧 善者一生遇事敢為而不妄取人 今名為人有卓識競俠氣山中與利除害 日得便宜行事當縛 日張 不敢近 君誠 恭時 而 錢今 窜 豪 允 西

姜森玉字学尹號果庭東山人至性孝友品行端 陸世隆字懋尊西山植里人世紫賢尤以外科擅長 禁芳林字震初武山人工繪事山 為縣諸生讀書勵志七試棘閣不告以明經終老知森玉字年手易子月了 者欸 愛吳江顧尊養筆法恨不獲從之 寧眾明季為太醫院院判治失奏效給賜指上陽 俯或仰笑貌各易其致而無不畢肖自言學無師授 野盡禮及長孝事嫡母友受從弟尤行遊之足稱者 四字世隆性淳謹凡治病不欲以奇險圖功然亦 於夢自此用筆迎異隨始所謂思之思之鬼神通之 弗效彼好奇行險者不能及也無問是夜風兩延 於醉中用藥無 致寫真尤能入 斯贊字翊宸能世其業為傷寒名家性嗜酒往往 不以貧富異視以此名重吳中幼丧父即能衣 大湖倩考卷十五 福道 神酱為一 人寫數像或上或 水花鳥有蕭問静 游日夕思慕見顧 侧或

養氣年剛九秋容色顏潤視聽不衰作為詩文

飛少年望而飲手

門五代其樂融融尤為

為宗治疾無不奇效尤以傷寒者名有王

帖之稱

吳鳴翰别號東峰祭政惠長子少為諸生有文名工 宋夏元富西山慈東里人當夢鳳集於慈蓮生於庭 能詩兼能武事當為同岸生所疾羣聚於文廟前梅 見工毀棄瓦石之不全者欲誅之寧叩 領役寧長於土工設置有方太祖雅任 韓公為國元勲以監修京城萬寧太祖召見以白 编震 抑鬱以死臨致夢中詩曰忽憶處山舊果穴竹林雪 捲簾使蓮學佛於山之水月寺法名道原管對御演 口占 近 法場錦袍還鄉住持東山翠峰寺人以為鳳蓮之應 旦 行記具載鄉飲錄所著有討文偶存二集我臨行有何說片雲捲盡是青天吟非而逝 東蜂掉臂而行衆皆披靡其如之何也累舉不第 善其對釋八府志 一轉生二子遂小字曰鳳曰蓮為名泉拜忠翊大 不宜玷我金城故特棄置非羣 為當年九十五忽示微疾卒之日子孫問有何言 今军有乾 詩日 元末遊金陵李韓公善長未貴相 湖倩考悉十五桶过 隆戊辰舉鄉 百年聚首了前縁脫網全歸覺酒然問 飲 八介質士 罪 林欽其齒德食 非罪實在臣太 其 日登 城 明

目之 古詩日 形 īE 一前於乎 矣吾疑 逐 西山 融級 間 以自 之歸舟人以死骨為蛟龍 馬 賦 帝古自 那 人有在替律之 為詩高視寒中天與之 美髯長身多背力採薪洞 東峰 埋白骨舍 皆死於客權曆江邊無有歸其骨者德 人間吁其怪事 可長恨商周出 八祇索 高街聖之 ·然乎不然 白吾故 在書細礼或整或斜 中周宗禮交宗禮携其子 人幼 首觔 悲目未四 讀書識道 竟師之而身亦無悉知善録 之青春徒所叨於乎東峰今怪耶誰云屋武不聞一遭一 題乾坤 共泯泯 首堅 j, 而 怪之日 而 採級 自形 助 理 家 風 粒者報 細 詩佚不 £ 百世 非 助 師 生 其却生 日旬 得見 吊木 Ė 心歌

習有 而後臨陣 頭今畢武飛 葉羽 高 羽便 計指引羽 年技與疑 當師之遂往 乃椎胸 便多力好武 噬吐 堂為汝致身門草堂即經 可搏矢石汝先學高躍羽便一大枝雖十丈上能被作傷 不勝痛 值 日東羽 輕 、将天成 東殿蟒果死白之邑令東殿城果天歌疑為魂也羽 長號 售速 師 楚天成口吾 棍 棒又燃紅 日吾知天子姓朱竟換李城 日親 日 人之境忽大蟒出約長 補道 冇 酒痛飲放 日 湘潭張某家張欲没 昌曾天成武藝妙 可祠旣竣 材技 與鞋 也歸 八歌師 取 羽 功名拾芥矣 悉心 あい 便直 題 能 忽 額 旦銀 拾 百變 除 酒 前 曰: 耀 日 兩

禁德大字舜平東山人家素封無許梁羽氣恂恂儒 鄭茂訥字敏生東山 湘雲名源東山翠微巷僧性 **壽聲良久風息則已在南望廟前時與共騎之戒令閉目風息乃開如其** 汗片速赴京平時相徵逐者成畏禍匠跡德大獨有松雪意故又號松雲山人與同里某友善某為 武山吳半園謂其脫就笋氣深歎賞之兼能 去越數旬燼桂復前新熟清如舊人以為孝感所 大曰吾髯如蘇書法亦當學蘇遂盡行其妙間盡 一被災殃及桂枝幹俱 授 稱 之渡江歸復經紀其家其急友別之難建赴京平時相徵逐者咸畏禍臣跡德 賀元日矣聚斥其妄一人獨顾行许縛草為龍 談故鄉事許曰汝等思家平今夜偕汝 佚其名東山南望人常賈於金陵 自還家已復騎龍去不知所終今南 人云高陽雜組 生東山 人以其修蘇如東坎日 有 五補遺 至 僧 爐茂訥痛手澤之 之能詩者向 悟 桂 工於詩詩 附東方尚 言惟 之為髯翁 推 聞 未 除 耳 畫為 沝 望廟 夕婚 明畔 明是 如獨 禪 77 徳 致 中 此 雅 础 北

所

-5-

烈 族羣以 能先意承志事事得其敬心既 難若氏者可以風矣的吳仲正 報 天寧語錄堯峯近錄數 匾於其室而 不宗炬巷能駕而 陳氏馬 扶持奉養不遺餘力積勞成疾未常少休舅姑 **璘鮮兄弟又常以山** 同里杭源濟酸金葵之且請 願來生亦作汝好以報汝臨呼若不易 華以氏青年謀奪其節氏以死自誓聚背丁氏馬蹟山古竹灣周君耀妻夫亡無子 官庭訊之 堯峰阜峰席後示寂 書 有日矣氏聞潜奔夫墓號泣 以讒死富人燈其骨方氏不能仇 而 蹟山張青灣杭璘妻遊 父母老無子養兼茂 太湖 謂之曰否二人微汝久從泉下矣今無 炬 巷 為之 2 下屍親無骨肉質不痛切故 /傅 氧杭源濟傳 上之 徒成詣湘 我首方老而獄之氏夫燼 · 五 精造 周果蘇貿易於外家惟氏致此既而身姑年益老俱 種 於翠微 傑出 傳 雲得書上 於當道 J. 功茂功執 投水死 連 所 時 4 年益老 於成 而 合里 南陽之 案人 氏母成家 已老 天軍禪 耀淵 诣 が族 而 不平 詩 病 مز 議 12 臨

禁氏東山 周氏東山諸生 黄氏西山 氏東山吳天申女適王 其事而釋方老於衛陸燕話方烈婦詩序 出氏益憤呼天自栽既絕尸躍 冤莫雪遂級上 十守節二十六年乾隆五年卒 嘉定尋客死氏年十九無嗣後其妙產亡氏為撫其 其異給之返乃指虎穴九頓首冀免父富人妻此 營險具從容自刎翌 無怠苦節二十三年卒 五 伯辰 所生子既而夫兄亡翁亡惟存 十五開柴病劇氣絕氏即拜别孀姑託叔嗣 --四年卒 公垣 沈開樂妻乾隆十三年 周存德妻葉寧遠女婚 (大湖備考卷十五 長巷周德先妻夫亡 旌其門日奇烈無雙 自縊死時乾隆十 、無子嗣夫兄子世禎為後食貧苦節歷 周德修次女適 一下衣挾 日 舍禁文龍未 開柴復 剃 同 刀 四 將 里王弈溶 働 姓氏則不可放矣落 Ł 129 月 ML 业 + 老姑氏養生送 不 加州 於琴室舟子見 小欲生七 日 D'I 射富人 ナミ 夫 文龍服 七 甫 氏 終 日 月夫 粕彌 姪 氏 年 祭世 經

金貞女東山金友琯長女幼受邱觀長子在尚 五貞婦嘉靖癸 答旬 少而 窮碎者城義而釋之又鄰婦某氏城 强驅之婦懇曰人皆奔避我以夫丧在故願死守 貞迎其極與在高合养焉在高於於乾隆 愈奮而拒乃置之又一 刃 日 月二十三日女卒於十月初三日葬於十二 在高就學椒邑暴病死訃至家人 死 有聞即稱疾臥牀絕飲食父母呼之則應勘之 固廿之但有嬰孺姑老病莫養艷 禁申傳 **野賊至其家婦先** 婦守視夫病開 日而卒嗚呼若女者可謂從容就義矣邱 不湖備者卷十五 71 倭至洞 外哀號聲即自刎 以帛周身東之不可解且 小家女賊始及門倒投井 庭東山周 灣見一 秘之越月餘女微 者固多 犯之 士 周山 刀 衰服 又有婦 月 何 矿 四 年 必 則不 少 初

蘇者吳事偶合一條耳東山實止四人也山少婦周山在香山西非東山周灣劉鳳所

也 两子二月事亟共入 祐乙亥九月元人渡江五女恐罹兵禍豫築一大曠 )色山鄭氏貞節録 女日真日素日雅日淑日 擴中死今睡里之五義女墓是 1新朱鄭 昌女德

書工吟外名媛詩歸載其寄母詩云久違膝 氏名庭吉東山吳泰政孟 散尺素無由遠問安達島月華雙關曙洞庭秋老 人紫泥部下終承龍白髮年來且自寬安得南 监仁之女 適 西山 茶 下 庆 喜 缺喜讀 兩

級南花插取滿頭看早寡蔡羽其子也

張氏名 鹽風味舊青理傳家深塊中郎學咏絮聊吟道點於師有寄東山席氏吳夫人詩云林屋山頭屋數樣 貧樂志井白親操不廢吟以東山席氏常延 學象字古圖別號凌仙西山 佛考卷十五 補遺 鎮下沈載 **风為女子** 

劒化平津空長望鶴冲霄漢想騰霧鐘儀 **孙**罹 人馬蹟山吳陽女適同 里鎮顧銘著有繡餘吟稿一 恰喜雙魚特地傳凌仙之女瑞玉亦能詩適吳 ·畢整太理擬投 無妄之禍應沒 纀 那都延玠癸已夏疑案條起 而 逝旣死面色如生 家人産氏度不捷免部 卷載吳江新志 郝 範遥 一手握 江相

同

加

延

有急告貸必量力以應與以券不受或請留之曰彼

君諱坤字天 自畫小 孝貞烈之行以貽之者 附錄 傯 恆 幅 號遠齊姓 及一 白箑乃其夫在獄 金氏吳縣 洞 庭 山 也

吾力所能為事乎於是增祀祭之田修宗系之譜建合達命也憂樂時也丈夫不得位無利澤及民獨不可行安否人以故重其孝而惜其空預經濟才若慨然曰窮也廢左手及足非扶掖不能行然朔望必詣繼母所問也疾矣縁疾不赴選於山水間終其身君之以勤勞得疾 ? 郷里君有至性年 诸務洞中家際等効力管田水利議敘得州司馬行需史事尤綜核抵掌論古今成敗具有卓識其億科當世丧幾減性事繼母席猶出腹好也性敏達博涉載籍於 我膳伯兄某致常田以 汕 食之堂尊祖敬宗收族 安節宋時官少保扈即的波子孫遂居洞庭之橋 無後為謀嗣續後又殯葬其嗣續者而撫其八推廣孝友如此外舅老病君問恤垂二十年 所能為事乎於是增祀祭之 君有至性年十三母夫人秦卒哀府盘禮後 有輪重讀 助丧葬諸猶子匱之者並以次具舉世父某貧且老 書務實行父汝遇 所書古人忠 以孝友 老日 謀 殁 遭 習

之鄉里多所利賴即以 論曰 皆循 太湖 負而 濟之 有艾也 俸荒浸數年穀倍徒後值大中丞徐檄勒諸鄉立社 恐卒有風濤之險乃做朱子社倉遺法與同志謀侍 他處遲延 逐末而寡蓋藏偶 四家其惠者多慟哭失聲前以東山 也卒還之遠近稱長者其睦娟 而求我我寧保 得未 日歸思沈德潜撰 子修都色志者賜之採擇焉為莊職者謹錄全文附於山中諸前哲之後 錢先生書丹勒諸貞珉藏於家廟今篆輯太湖構此沈宮詹歸愚先生所作先君子傳也曾乞思贊 范 循 一試可謂厄於天矣然孝友為政行已化俗卒頭於時功業無可表見也君以明達之材膺廢史傳獨行匪徒取其重倫物修節義亦以鹽拍 守 班云子四友理邑库生有文名友珍友站友暗 先訓 郡邑志者 一觀望而東山即以預儲之穀上報足現君經 世 五 I 以比漢萬石君家風君之遺 遇 他 /歉蔵 日券料 入獨行傳中亦 仰食泛舟而 補遺 高 猺 甫 恤又如此卒年七 且 恐 風 何恭哉乾 士 俗 怒 以佚 田少民 41 孤峙太 啓後 稠 日 湖

吴中殷氏家譜冥契之子勤其官而水死有祠在震澤 馬蹟山許必勝宋紹與乙 太湖中小山之名唱者有四其上皆有禹王廟惟北 太湖佛考卷十六 始此武進志 中或以為即馬蹟山之水平王墓廟然常州府志又 李餘慶號其鄉 最稱靈異六桅漁船歲時祭獻以祈神即武山吳 至今不改足以傳孝子矣 火人 此 雜 水平王為后稷庶子未詳孰 割股療親因以名村孝子不知 有唐股村在王文格 壽皇謂其議論有神 子年拾遺記也 記 之又無門可附作雜記以羅之宋洪邁随筆 事有可勘可懲可資典故 傳者其名供不可考然唐股村三字鐫額 日迎春以荣之馬蹟山之稱迎春鄉 五科進 今之 公第宅後相傳有唐孝子 東山 白沙吳云謙 所載亦稱 是 士 何代人 殿試第三人 理集述 放 此意非 剿 校 不 太守 有為 里 同 可 BE

北 也山神景觀林 傳神 峒 無巨 掌 戯水 者甚多皆有司格恭其 鈌 者莫大於震澤底定而場上之廟貌卑監春秋 不透水面風浪至此 文許蜿蜒水面其長五里尾随風擺漾風 取 其所述蓋唐肅宗 (馬非所以崇德報 蝎 則北 則 禹 日 次洞之西 色砂起於洪波中者曰神砂 者其 禹鑄鐵金覆孽龍於此鐵氣上騰砂色乃爾山 廟之右 行舟有風濤之患漁人恆相戒 石四址皆為即石石有光潤可受者人 聖莫神於 之西門造元壇元室修元元真容而權位散禄新知草屢杖教遊平山敬 不出十 姓 木湖倩考养十六 雜記 石為誰 有鐵色 屋 里凡 至此捏激而返廻波喷磷如白龍之步之外距神砂里許復有暗砂一道 夏禹祠莫古於夏禹功德 洞 時有自潤州刺史求入 氏其銘 院 砂 功也吳中祠字列編祭祀兩 碑 = 粒 水事四帰 曲 唐 開成 有 菜子 砂尾皆遥指大雷山 云毛 神馬之廟僅憑漁祭 = 畝許不 首屈曲如釣 云去帰西九里 一般至於此 石巴 八道者又云 之在揚州 石刻斷折 堪 北 )残缺据 則南風 不敢 種 桑 升 植 74 莊吳 相

洞庭 年 蓝唐 開 帝 寶正 恭 村居民尚得驚眼錢一塍錢武肅投水府銀簡 意又吳江縣志明崇禎十七年夏大斗太湖底 年 盛志祈元既允協投誠謹詣太湖水府金龍驛傳 臨  $\pm$ 文 自若是降祐大道垂思今特指洞府名山遍投龍 盡同 (有歲月朝日其文日伏願斗 吳越民安俗卓道泰時康事 無水早之及歲歲方門桑之祭蓋吳越王 陳 記宋嘉定初民於 頻 日大道弟子天下都元帥尚父守中書令吳越 可見不能詳 V9 熊謝上答元思伏願合具告祈兼乞怨庚申 君斯 國蘇州府吳 時履歷壽齡遐遠 **缪年七十七歳二月十六** 就 7 見 年太歲戊子三月丁未朔二十六 《太湖備考卷十六 問 人也 夏 W 誧 秋之交天 語稍 道 知 碑中亦述 徳之 縣洞庭鄉東星里太湖水 湖 異大 1.1 門 久不雨 服 雜記 )約歲 目光明家國典隆子孫 下採藻得 周息元之事云止 物 日 為 所在苦早吳郡熊 生 和平超通 祀 一白統 野吳越 事文 銀 毗 日壬 簡上 随 制 聖化 小府告文 祈 於内 山 封 時 申 河 坼 稔 刻 捠 疆 繁行 簡 奠 仰 國道 簡 投 2 殿

萬歴已 可見又圖志載太史橋在新塘鄉南今無是橋順開家基被巨浸渰没者水退時有視井電街陌隱 涸中露 土中特闕其 即吳王故城 所載 趙 自 紒 間忽西北 1:17 令其子永壽偕趙客陳擇衛往林屋 白塔堰外有一山北錫湖八因 無等懸岸二里見石梁宛然大半没於土 月不效 又具詞 随至洞蓝太湖龍窟云英中哲事 相 蓝其形有相似者其外更有 縣為新塘鄉演湖有地一 少本道得法於路真官有起龍致 \_Ħ. 太史橋也出進志 自五 大湖南方表十六 歷縣於林林為飛續奉三境上心微告水府 十支舟師云相傳此石在百年前與歌 石橋 風急水徙湖南居民下湖拾金鏡農具等 训 判趙 所 月不雨至 足此地於何時沉水底耶鄉按此疑九洞上石欄亦有存者又得石臺於 謂南宮者 团 副 闸 禹是甚適有寓容 t 月太 長出二 顷许浮沉 湖骨口 十丈故 石立湖中央 湖波吞吐 人皆謂之 一洞投 雨符其應 去岸数 波 从 面 ìú 激 相 判 石山 里 傳為 如鄉 出 返 光祖

具區 東南風 西施随范蠡去不見所出只 胥也故曰随偏夷以終范蠡去越亦號鸱夷子皮杜即沉西施有力焉胥死盛以鸱夷今沉西施所以報子即沉西施於江浮沉也 反言耳随鸠夷者子胥之邊與墨子合杜牧未精審一時逞筆之過也盖吳旣誠 後 牧遂 胥也 牧之 船 美也 是非 郼 與墨子合杜收未精審 亡 退水二三尺四年五行 逐賜夷之句而附 中風息復平謂之 事往年初冬大西北 何處宿洞庭山脚太湖心又自太湖寄元微之詩 後越浮西施於江令随賜夷以終 於疑 百白 以子胥賜夷為花蠡之賜夷乃影撰 喜日此吳亡之後西施亦死於水不從范蠡 别有見後檢修文御覽見吳越 證墨子去吳越之世 迎水 日讀墨子 双網也 楊升巷 太湖備考卷十六 居易為蘇州 君應羨五 西 迚 風 食也 日吳起之裂其功也 翻 張 宿澄波皓月中則是連五 風湖水泛起吳江 湖水纜是東南風 刺 心竊 雜記 甚近所書得其真然獨 史有夜泛太湖詩十 凶 為疑之未有可證以上四杜 收西子下姑蘇一 蓋只 八是太 五人春秋逸篇云吳 乃笑 西 湖東南 迊 施之 家俱 日 4 数 日 沅 决其 1% 浸水 日 陏 便

爲 湖 君 宿湖中即十隻畫船 休不設宴宴且 微 為揀責橋其 公賢者必 劯 人朱勔 줖 怪 各是一家遊言崔揀貢茶而 明月灣書寄崔湖 被宜精太守勤王請自行 剔 知 也 淮 一月到 八舟貴銭 得其半 其 也揀桶非 五即五宿澄波長律公 擾宣和癸已春採太湖電山 匍 球不 以花石得近 逆 分升 經續記 論其 任 イ 5 其時有詩五首一早,任二年秋以病免在 無事慢 於真湯 玲瓏 以為 婎 一個載以 世 不 白 誅 服而服遊太湖平是故誦其 日樂天高行美才居官勤瘁 日 暇 怪 · 安空竅穴干百非雕刻所 2 公 初詩三 風 幸 可了故有 州末句云為報 英中有 遊考年普寶歷元年 楚 俗高 腶 進奉不絕謂之花 泗 遊太 旃 三棟貢橋書情曰洞庭西一早發赴洞庭舟中作 有 市 24 異事異 轉 詔 遊山 本事 湖平 車泛 蘇年餘止 好事不窘束亦當 £ 置 般倉 石宿 得一 2 茶山 已掠 大有如此 1見職 湖 並 大 业 糾 石 非 而 127 運 歸寄以 在太守 **水貢橘而** 夜泛陽塢 除蘇州 長 舟中作二 兵 靖 石 |好 泛太 者按 奉事 能成 各樣 綱 凹 大有 詩 民 非曷 初 湖 傲! 旬 刺

£ 明崇福末年有妄男子疏言 文 若微漁稅是激之變也 湖 廢糧運由此 分 四復道其 2 爾 祖 2 渔 不 舒也及朕繼大統治 在和時書於 金人 般 語 相 忍 船 日 加宜徵稅歲可得不 至京 太湖之 交越 其然是年 日 而 マカ 本石而胃 大宋以之亡 轍 獨 火 九物足以移人宋民族之獨以太湖為甲貴可知也四之石聞天下自唐則然 )動旣 師 和靖書院山長 凌可得千 繼禁衛至於乏食中吳紀聞 一七 資啟 統物 盂 進 n الإنوا 有元君不爾用惜哉 花 載 不能 中官懼其 沃奈 燕 同 詳審 石 運養 萬因 雜記 山山 24 非 爾 方正 自 呼見 何年已 禁順逐山 ग्रेज 獨 強胖 能 訓 庭山 漕  $\mathcal{I}_{2}$ 達 帷 新 理 然矣牛 事得發 رالد 少一可見矣朱 1/2 ネ 中官來勘 何 裝運 爾 不 程 师 產烘 而亦 可 而石預有其 レナ 題名 \_}K-導之 忍 師 敕曰 自 開太湖盗 見前車之 的 船 宜 孰 名彰今 爾 播 空 芤 由 之 數 孔 開 惟 漆 懷 斊 御 YX 孟 其為 週特 抱 前 縣 厰 周 致 智 太 您 y 勔 綱 Ð 旋 而

陷 周 腄 姓 飷 鄉飲 其名本弗與競後 諭以意為故人免禍計耶他書言題在長酒住在死於長與而不敢他適者安知非 一而 1 之古哉華氏埃典 興著姓某某等結約訂盟恐無其事 表求歸其志終不 侯 爾之奉召解歸也太 人事山中自在古親信往察此人 曾祖惠幼育於張遂 一試有司名在高等而吏誤書張木適 已老病當聞人 俱 33 地 云余曩年 卿所舉到人才內有前元山長葉顯未見數陳 比叔隱居樂地首為姓的實乃呈請復姓中 誕 好 四年始至山 压 有三間齊已處其中轉發為二大 事 珊 讀蔡 上惠本自由勿拘禁 按此則順人動静若多結交即便發造來京 繁雨旁室 知 文墨為余言山 祭羽洞庭記知有是山地有為僧葉之諸梁如 試輙 八鳥將終善言哀 肯仕朕朕欲誅之彼何生焉 中急欲 大 辩記 八祖密諭 朝課 不利 仍其姓降慶 樂之諸 大姓降慶初八道東去不 就 長期 易夕課 有東 鄉 為聽其! 侯 西茶村 四書自 問山極 刿 敕 有 羽! 工 天 拉 切 敢 守 廷 本 長班 歸 云 族 H

孳孳惟貨期是急居積取盈筹入骨驗問恤義事 至 裍 馬花枝不笑冷官衙王子新 目時同鄉文司城送弓兵二名應役終日奔走 知書日與產兒走山巔放紙萬為戲 牽 乃折節讀書以詩文名又金陵瑣事言羽為南 今拜先生矣 而 太湖中經無民居惟荒扫水是為此載酒即以新日 消夏灣蔣舉人某優武不第遂棄去效並 短北 非充飢之物有不笑冷官者乎按羽賊 摘二石榴與之充鐵的署院建云草色常留上 小班屈辱先儒罪之大者也雖能詩文曷足 ľ 起烙 存註 來點而杖之而置大鏡南 面 太湖備若卷十六雜記 酣 條於官刑罄其所有席捲 向鏡拜譽其影曰易洞先生 無措凡賈客經過知其為溢也戒弗 ĴĹ 毛不數年稱高對矣錢神作祟盗 一旁每 羽尤以善易自負故 飲大醉不處舟師裁纜以去盗醒覚 存者此余得之 開卷 以蔣氏之物寒願於小 祠 便 大 陳曼年所云夫 區奉流治舟其下 曰花枝不笑冷官矣 詬 而過者告 口 利易洞也 カー W) 好數泣戒 例言 空盗喜過 雷山 少年 业 何 番猶 山 重 院 不 客 雜徒 哉 服

俞氏為吳中世儒居包山後遷吳城之南 馬山人無名氏以其居馬頭山故稱馬山人 堕人界人界不容公氣逾邁斤之杭州·吾因以遊投一文格公作東坡笠展圖賛極佳其詞曰長公天仙繭 視之乃一所紫斧耳其清苦如此無子以族人子號氏貞木自都昌選惟一弊筐以布裹物甚重家人放 報施善人何至是哉 為後統孫元盲無妻子入存邮院見蘇州府志天之 覆之俄而竟去不知所終見武進縣心仙釋傳又常命光禄官給之一日天大雪醉以屋戶上太祖解衣 之赤壁吾因 事與馬山人 州府志古蹟門載馬蹟山邱家園言部為枕工從明 柁工 財海盗 矣義外之利意外之虞相錦於無躬豈非嗜利者之 明鑒武李朝閣然錄 何所終也螳螂捕蝉雀併冢之雀未 知所終矣是一是二莫可考也 祖討陳友諒於江中有功不受官前終於京師其 禄官給之一日天大雪醉以屋戶上太祖解一都陽之戰脫太祖於厄不受官賞惟日求一 盗 之祈福得禍舟人 同意邱即其人 以適瓊崖儋耳鯨波汗漫 那然日然於京師則非 人晏然而 下咽 有之亦不知其 園號南 洪武 而彈射及 園 初 醉

成化 文格公解會連捷探花及第相傳已 王文恪公墓華表門生唐寅題曰天下 東山有宋少保葉夢得祠堂在山 王舍之申明亭其地官賣於鄰人嚴氏是養職被香火嘉靖中知縣康博設活祠以尼故亦遭毀尾徒 守漢登政府秩一 以狀 裏帝城雙屬初不解其故臚傳後始悟隱家闕二 忌抑置第三人康熙王辰文恪公 宰相無雙 溪曰吾當時所夢插箭蓋品字也其 時祈夢夢至一 乃狀元也 有康世羅無康 生奇觀金蓮玉帶曰惟東坡戴笠着展亦惟東坡 入諸教負私行歌十博百下其如子何其如子何的 丁未會試徐文靖公溥主考夢至一所大浸茫於 發解家在太湖公以為其應也好卷果第 元望之竟為忌者所抑未知夢之所應後謂守 物若黿者昂首登岸公以三箭插其上時王守 太湖情乃卷一六 聽堂其雙雕句云雨中 品世獻新語 頭前巷 八世 一擬狀元為商 文章 一品之兆乎後 春樹萬 孫世 业 委尼 第 琛 會試 輅 山 僧司 重 所 中 出

質澤民 施宗 太伯濱與王左丞言馬蹟山漁船非攻守具江陰王逢元末寓居馬蹟山山志載其詩及首 聽兩人皆賢後之議防湖者輕曰太湖攻戰非漁戰守用馬蹟漁船俱莫可考要之王逢能言左丞 船不 其實耶錢溥銘載吳都文粹續集今採入集文 吳江 繕某些葬事各用 在五尺下 百五十八人 語道及沒薄有所源而略之 公事 公亦不在改葬時具過志又以收禁宗銘為巡 須風水 可認矣 僧之為承託夢申請以報縣德錢浩該銘中 改葬銘乃同年松江 腹 元 非也宗統初韓文真的 酒 数杯當即湖澳水城發脹甚五土人 忠為 錢薄則曰巡撫萬安劉 水遂酌兩 -相爭不 賜 華於 ~雲南按 詩左丞不知何名或仕元什么 決吳公日葬者談 人之中而葬之人 鳳臺 祭副 **阿外欽差** 錢湯所 使分災 監生 ,候清利其脹漸消蓋大 你沒詞作菜誌者楊文 云穴在五人 一般 那抑具區志所 公孜亦為至異至 行人 八旦志云楊 以思與南 無子 識金後項 内 有 有 述 能 何

馬頭山 **拿州雜編** 杭岱宗有二 然非 蔣處産子級着草上至二更產子 椒山産泥 法以夏至三五 臨摹做故能曲盡其致 勝鐵悉靡遺岱宗善丹青 能 鈕崎外十七灣有民居餘六灣皆無村落 西村 屋矣每間一 百五十 中吳郡送太湖白魚種子軟苑內海中以草把非山歲不恆見非極饑之民食之反致斃武遣太山産泥曰觀音粉色白性軟值饑歲民往往食 水 治 ( 蔣草有魚子者曝 邊十餘日即生小魚故東都 張青 潭也 += 云正德戊辰大學士王養尚書孫儲 人大湖南者老十 以片紙書五 十三灣圖 沙為政 雜編所言乃 よ 灣 前古 日白魚 而 雁 肯 竹 安得 依此 新城 淵 種了軟 灣 乾 H 倒 為把運 雜記 數皆禮部題 JE. 爱山水 歸之 晚 西 炒 史產子竟散歸深水及既集太湖邊沒水中去 姓名欲 坦東坦 至此 德三年事兴 幅凡林壑村墟 K) 一試官且王 選送東都圖經報記 挑 乎傳聞之 有白魚其 每於春秋 花 ·登第因展 小墅大 請而 額先朝 首先展科主行額 語原 取 佳 古 :有 稙 蹟 日 刈款 登

通志載元末吳縣尹金壇張經陛品定州於其行 太湖中水夜泛 足信又不考其時與 甚韻 周砥得洞庭山無錫顧常行大椒山其他當點在其事石湖江陰張端得林屋館四明陳輕得太湖石勾吳士分賦吳中舊蹟送之共二十六人錢塘花致大得 實文格受誣不沒故辨之湯增公品 貢山北嚴外 麻掩映雞犬別散有桃源氣象 占驗不爽 推倒當字稿以食龍倉身捐之金寫竟倒水中龍 家塢日浪坞與俞塢而九今統稱日南場八場之 金鵝沉崇禎末西華鄉人陸龍者多力與傳革至 Ì 有居人二十 何必德政歌去思碑哉 率 雙前場二 為最深偷場中有九場回東場 區血死套頭按此足為恃力者戒 日高峰場日金並塢日來泉場日然輪場 知者矣俞塢之 太湖傳方光一万 出聲是名湖翻 有金萬石童路 家皆姓朱並耕 父而 /右有西塢不在九場數內 足立祭石上或謂龍日爾能 推记 書之恐後生 俗公灰銃主有大風 云二頁關金為升六龍 而食希 入城 市桑 以為 日 丽 E

鄭駙馬 祥符寺僧紀蔭葵莪恭詩山 显华之左有山 畦池矣 最古 濶 及製法不傳即真碧螺春亦不及養時矣 審茶巢自註茶巢稅陸龜 自是 異常名嚇然人宋商邱振吳始 議造戦船有司行視封樹古 獲乃相率號泣於墓是夜都居開有大聲君然如裂 入湖名顧济俗呼虎觜 刻越 有司異之馬墳一 百丈帛者旦跡之則馬墳古松自末至本破裂 考存古意即其先世也卽於鑿池處封土監碣 碧螺峰石壁產野茶放株山 馬家墳有古松一株大可合抱順治甲午以 灣陸家河有秦 洗馬池宋鄭到所鑿在武山 一番撫提鎮歲來採辦告者往往以價 大夫诸精野之墓同里諸姓頗衆其先世其可陸家河有秦存古者管别墅鑿池發一石碣上 傳吳王所築以賺越者東山遺跡山 如屏而聲照 境樹皆獲免人稱之為烈松 **本**六雜記 脚 家種茶處葵我山 者曰煙火墩 松亦封其子孫丐免弗 湖北虎觜松 進 永福寺西今為灌 朱元正採製 上題曰碧螺 頂架方土 割し 脚蟾截 臭元 頻覚 死矣 爲

邑諸生明季以能詩名林屋民風 姓守祀之而不求其直且為之你墓誌存古名嘉鈴

東山翁非彦有陸遜墓詩其序云順治間有某姓 知曩時何以葬此竟不可考其亦諱其事不為表識 相陸遜墓八字某大恐急飲土填之而從葬於下 白沙塢定穴開廣得石柳傍队石碑有東吳左丞

蘇州府新志報侯性母田氏葵在東山性商邱人孔石公某至用也部五日之 王時封祥符侯田封忠慈貞慧太夫人卒葬此 石公某至戚也親見而述之 家山逸野集 水明

太湖倩考卷十六 雜 記

西山 鐵樹形似棕櫚幹而不枝葉如鳳尾雅正 石 公王氏園中有異木 一本相傳於廣東帶歸名 七年忽開

方來觀 辦有義與批把實上義相似遂喧傳鐵樹開花 如斗 地晓於東田山鳳尾蕉山觀者絡繹不絕日聚數五 大色白微黃辦似蜀葵中有孔家干層機能 百人吳邑令其聞之親 四

其花去今樹尚存

至其地

尾蕉也廣中多有無足異截

長 國為東山第一名園新豆案所構故俗稱新園地 豆 演太湖故又稱湖亭來游者多四方賢豪題詠甚富 家父子殁後同里安定購得之感於正言移置他

> 東山有二塔一 前家槍以前慧生,得名慧生東山人 倒手諸此失意上公丁丁教天送授以十法臂法巴寓於是乃今可教天送授以十 入山採樵歷二年僧笑謂之口汝採樵久良苦然身峨嵋山異僧善短槍法往師之僧初不以槍法授命 得金塔之半武山有三塔在下塔村者一 飛去誕妄不足信順治十六年以形家言重建於村山有二塔一在金塔村相傳村故有塔忽一夕風雨 廢址人 處即東國是也故老言其盡失舊時之勝今集賢園 之東累石而成高二丈餘陸燕詰記 山採樵歷二年僧笑謂之以 猶稱湖亭云 八喜武略當客蜀 在下楊灣高 在吳巷者

聖祖南延舜五孫弘志 京甫革歌詩志美傳 胡采尊自萬歷間都 不授懼或恃技 安用也 事康 於張君度寫圖陳眉 命收算送暢春花圖卷 議飲授山西岳陽縣知 照三十八年春 十首并家

扎 +

倒手諸秘法惹生心領神解盡得其妙一時如沙

敵於是翁家檢名播天下然慧生突峨媚戒非 馬家六合劉家帶根號為槍中長技者胥莫能

而

乾隆十 康熙 五代 姜森玉年九十五 三十二年春太湖營遊 衣 九祖南村公在舟衙一即山中人無不努舟外 銀十兩 **旋食惡以水面作生涯與陸地居民了無事** 环宁 樹着天飛之記當夫白浪治人能撑搖專候張風行船故其 年西山蔡文元母殷氏現年 糕 目 **飒伽施中字** 無不孝舟往觀武山 見五代孫來信子汝震年入十九歲 請 等大概以船為家父子相承妻 旌奉 寄懷山中百歲翁姚 歲有五代 **肯給於建坊又加** 友文惠 學胡宗 船則 桅船不能傍岸不 皆能詩 採 異友望 明於 産 佩柳 加賜大級百二歲督 西 西太湖訓 割 山茶來 男 日 施 ĭĿ 辞 自 同 港 亦 信 撫

免之 波之 7 而 漁 若風 誣力辨之事得寝 **R船免於害仁人** 向徵漁稅丁錢 船為盗者鮮聞 四丈五尺者一提頭桅一三丈许梢桅二人工五六尺落船沿了二 外深處東南水淺不至山本大繩前導以驅石兩如 險而寬衣食然為艱苦援古澤於無禁之意奏 一撫以季 恬浪 分蘇屬四十八隻常屬五十二隻近中三大旅常監不服其每年編號烙 灣西山 静行 太湖 心東村五 一言而以船蒙其澤今甘 自始其船形身长八 間江南 分守甘公士瑞甘泛湖親訪察其 近浙撫某疑之疏請毀禁奉文查 利 之言其利博哉 衝山其捕魚聯四船為 涉及 兩船牵網随之常在 準 也其住治無定 ∭E. ツノ 撫湯 畝 茯 公斌以漁船冒 田 Ž 賦 能 福 四 公 户完 <u>F</u> EP 風 帶銅有兩坑口 湖 止 則 西

乾隆戊辰春夏之交米您騰贵斗米三錢七備酒食躬行阡陌間勞民勸相一時傳為 不聊生是時郡城以截漕 4 知初 州 繼則行而 名並製回浙省撥入通判衙門官轄從前島程長與一巴撥的江 公請為量撥 法動論富室出栗平耀山 判 民皆安堵當是 公正 之以 移駐南海太湖水 不 太湖乾隆 即此山 可得民益惶惶訛 有 其事不 時 盎 時傳為盛 粒 面 一前山後 錢市 假 按照兩 則鎖之 省太湖 浙 信匪僧 -手自二四世 赤沾思 省地方 其上 1 RH 飃 面

太湖備考卷十 鄉 自言自 袓 思者是 多喬木或 活足矣不忍奪祖宗之蔭 以杜後患會黃公病卒未及行 **丐本東山舊家子產業為父湯盡流為丐行** 输 分守高公廷獻復行申禁 民條呈將詳請憲批照縣 沙日 得 工食又十 以康熙三十年 业 在准上京 久弊生復 問之 諷 不至於為丐 痴代以 獨 項凡面中錢程 公田 掉首不答狀右痴故名 何 甲糧户挨年計畝 田惟美縣有品 Ÿ 及有私指當年日 軟 給 研禁革當 用痴 申禁十 雍正 而 祈 摘比 な 造 パイ 署前 山錢 三 公務性 於 自肥也卒守之鳴 曰我孑然 -111}-人經造收 四 四年邵武 年 出 主 現 雨 立 現 副 經造專司 碑 銀 東西 支 例 租 身も 專司與斯爾斯 日痴 勒 公湖水 於 石 嚇 抵脚 兩 非

湖程紀 略

東 山 吳 荻庭

跨連三郡十邑水利兵防之措置重在沿湖水口 於湖中山言之詳矣而未及湖之邊境竊意太湖 然欲作太湖考商之於予日震澤編具區志諸書 T 卯 年 金子玉相於讀禮之暇旁及山經地 志

郡侯傅公命泛湖圖繪湖山約余同往阻於病頗 先生其許我乎先是余叔半園先生沒修郡志奉 可略兹欲履地細核 詳注以補前人所未構

其中水脈之遠近港形之大小地勢之險易均未

華君振飛同里卜君允武華君善丹青可你太湖日於戊辰正月之吉裹糧束裝以行同行者漁洋 圖卜君熟於湖路可作鄉導日行之次接筆記 以為憾今五相有志如此可以償我素颇矣乃 湖程紀略 两!

正月二十日舟發具區風月橋謀所向於日西北為太 經歷未知與余权圖記之處其同異何如也

ニナニ

游者

茅門黃茅法華之支山也與長沙山相望其缺處為 黄茅門北太湖水從山入東太湖法華之陰為漁洋 一游宜從西北始遂出菱湖觜橫渡胥湖立指黃

其南華君所居相與登其堂遂止宿焉

御座高奉

聖祖臨幸憩息於此至今亦中敬設 為詩亦環列於壁間仰瞻編覽概乎有餘兼馬至 宸翰而諸臣扈

兹山之 職色質與太湖石無異吾聞包山地穴潜通四達 玉處果在此耶距墓百餘武有巨石露泥外嵌空珍 史郁泰玄墓在寺後墓無塚惟有華表二码 /來脉與日幕下山風勢亦息若留我作竟 湖程紀略 石 E

山皆梅其疎處若發雪其密處若停雲其高下麥差蹟對折北稍東至於銅坑自蟠螭至銅坑十餘里沿 層見叠出若飛瀑数萬道從空噴舞而下又若太湖 日沿岐龍 一湧懷山而襄陵惜乎世之 許者樂從陸 彈山潭山 西北行過婚轉又西過 西

視一塢積白華君曰此宋漫堂乃稱香至海也再上由園塍籬側曲折而行梅花接路香襲衣裾登山俯曹家河登岸罕有泛太湖來者故湖濱無入山孔道 視一場積白華君日此宋漫堂所稱香雪海也再 橋不得泊直抵鄧尉從來游鄧尉者咸取道光福從 為聖思寺寺中四宜亭最清曠 日西行過黃茅門折而北 西風大作舟過呂坡

州

二十三日出金墅港北行一 字曰龍潭非龍塘也橋之南屬兴縣北屬長洲外即衛外行應不能到遂不出坟觜徑出龍塘橋橋石有 港口有養一老僧員暄而坐詢以全野程僧回視 成資其灌溉為有利而無害云湖之北岸有新橋 始寬深可泊沢兵曰自此至吳塘中問惟大溪深潤 貢制沿貢制岸北行五里過禹王廟至金野金野港 深太湖風浪至是而力泉故舟行無險而西華 從湖而军親此景也 役西行達竹山劣觜而北湖中有小草曰米山過米 陸兼訪之議與華下兩君願從陸期至湖西埭 北 **资水自曹王徑分支南行過八字橋名赤城溪廣數** 湖西埭次之餘悉淤淺按無錫志大溪即赤城溪鑫 銅坑北西蹟坟觜列於外安山游山鎖於内為澳最 與胥口水合流而東太湖東澳之口自此始 十丈長五里出溪橋而入太湖港口 丹諸港皆不能抵岸二十里至無錫縣之沙墩港三日出金墅港北行一路皆淺灘所過錢溪仁巷 湖灘既淺不能逐港機力遙望又 以手指西曰進港轉西出龍塘橋路甚近若從校 內放宜加開游以便管船出 |銅坑西受太湖水東行 不淤上 游湖在 Ð

一十四日舟發吳塘自吳塘而北左湖右山湖甚 楊灣一帶完若箕耳遇問江入陽湖縣境有水溜之復連豆皆山與吳塘至克山同第吳塘一帶列如 港有别竊謂濱湖水口當在五里湖東岸之馬蓋 横列五大字曰南太湖信地下直行二曰東至水 通兵臨港有卷日羊渚汉兵與僧雜處中有石碑 湖蘆蒂新村諸港連比相接或於或釘惟下埠港 南岸之石塘口北岸之大道小這不當指獨山門獨 綿亘三十餘里至充山始衛其衛處為獨山 北為長廣溪 港南至馬蹟西至百廣港北至周橋年代不載按常 有三峰一峯東接五里湖為上獨一举西近三山 内皆平 下獨中獨居中最低小五里湖之外被也按五里 名小五湖與太湖相連獨山門內外皆湖水與 府志明萬歷十六年始設南太湖哨兵防守沿 之北為管社從此 吳塘門矣吳塘 壤河港 四通其上 門西向太湖兩山夾峙水出其間 造北轉西歷楊 灣而至大電 下掉港内之薛堰桥碑之立其 流之最大者東為新安溪

一十六日霧收山容盡露華卜兩君强子重登官長該 在峰頂劇得山楂樹二本高僅尺許枝幹虬古滿級勝子嶺即古竹矣路雖迁不險如其言而歸舟上君 举之東有横岡鄉等日自 苔花百年物也可以解斯遊嘲矣 立削不受複念一失足必如走坂丸不能自止 棘叢雜砂石華确行甚難感過半熊徑并無山 若欲奔赴吾舟急放舟迎之頃刻抵古竹灣馬山 即山 虎色變弗能從兩君徑去上人導子與金子至分水 影異哉兩洞庭遠矣近而夫椒津里何避客之深耶 似鄧文下除平猶須推轉也然進固難退更險計惟 横謁水平王扇黃直貫南北坦若平地山之中 乎乃奮而上既登喘未定霧四合茫茫 至顛或可每別徑而下別登高眺遠固素志可中 在山南古竹在北鄉導者取捷從山北樵徑而上 主奉口官長志曰雄視 忽又發為官長三大蜂向在湖中海望但見其 如其動那廟屋前後六間大半類破唐太常碑記 <u>.</u> 日是起望馬山如拱如揖有南客狀處翠飛 也盖馬山形勢自西走東至此 山若官長也登官長之路 同而下為檀溪灣 \* 一白不見山 轉西瑜 連曷 如辞 并不 斷底 荆 2

也自此 與運河北從成野採菱等港出常州塘置柵防漏稅 是港進内五里為分水墩分水墩西由黄土河達 十七日自古竹斜渡抵北岸過虎觜約十餘里至 耶急權 夕陽灘上舉手指劃者招呼狀 市濱湖地無盛於此者是時南風盛舟向 内太湖右營守衛駐防於此居民二三 逼人與寺外松可稱二 亦不見有替沢墩堡方應無停宿處忽海見一 逆風過竹山 無 官長歸述所見湖中諸山狀甚悉 則惟曰祥符云寺無名勝惟客堂前修篁萬年冷 出焉門有額曰小靈山盖馬山舊名靈山寺亦名 有功於斯土者而 山寺宋改祥符 **徊嘆息而去沿山轉西行松林下里許松** 知在何處水平 山矣漬口有橋石板三洞洞半横置石柵 華君復陸行下埠百濟之間濱湖皆山過 入宜與界又十五里至大墟港周鐵橋在其 舟就灘果華君盖此為大浦港宜荆二色分 湖程紀略 堂皆淤灘約行四十餘里不見一 王佐禹治水底定震泽海 本朝又賜號神駿寺而土 廟晚祀事荒廢若此如報功何律 絕返而登舟華上兩君亦 小君曰得無華先生 百家日中成 西南行為 八八六 一人稱 △浚導盖 计 謂 示 百 自

我自古無倒使風逆曳捧者有之自今日始于笑曰 足云離大浦遊風行三十餘里抵烏溪百賣之將藏舟於壑有力者負之而趨今日方愧不如来是 稅概釘之獨留此港以通往來宜行旅之皆出其途 者從長與夾浦出太湖不五十里即達為溪湖面量 緩自百瀆以西出港之水流 界處也港中出水顏駛自下 商稅之無漏利於國者幾何異時水災告民存飢 百瀆為宜判二邑之下流百濟之通塞係二邑之 可置足舟人出奇計張帆於船首推之以風下猫於 流水勢之異同矣 歉故自古言水利者必曰 又 日西風退水舟膠於泥泥浴爛不能用篙 爲溪以東諸演大半不通其通者又應越漏聞 吾邑之胥口詢之土人知湖嘉杭三郡之赴 一挽之以緣舟從淤泥上 亦必塞下塞則上溢 港口有學并有稅使隱然為東南鎖鑰云雖然 河港深澗水流極駛舟之行者如織停者鱗 蠲議開濟病於國者幾何見其小 疏百濟今塞者塞矣通者 一鳥溪能波全境之溢哉 滑滑行出港金子曰 皆缺觀於此可以得上 以東出港之水流皆 不見其 不

其利 十九日從烏溪南行五里過蘭山十里至鳳川谷而营并稅使日在港上目擊而不之禁何也 吳漢於於鳳川兩處皆設把總防守重交界也斯圻董塘三路皆及山而止非通渠江南太湖當汎始於 平陸城之故量亦無考陵谷變遷大抵然耶進夾浦 於折日斯折屯水軍之處當必有大河港而今已上 至斯圻入浙江長與縣界又二十五里邊香山而 計耶港非海能任精衛之填而不满故以則愚民之 亦二三擔今片的之間已見三船两不及見者可以 泥於水而載貨約計一船之泥大者可五六擔小者 百餘步了分二港西即夾浦東口烏橋長與北境之 春秋時吳王屯戊之處步軍屯於城曰吳城水軍中 (浦蘭山外有石磯名蘭座宜與志石蘭山養家 一般沒湖懼風波之險又必載泥而來至港口則主 一凡出湖重船必停舟港口俟夾浦之空 多從夾浦下太湖金村上周等港皆其支流為棒 梅按浙省演湖港口以鳥程之大錢小梅長與 随水隱現行舟每程其害即此 不知其害是可悅已抑吾更應為溪之亦將寒 横港迤運而東貫沉漬新塘站漬以達為程之 湖程紀略 磯也 新港鳳 里

一月初 恩開築以避風濤者也向之舟楫皆由蔡浦出湖至限遠小梅山麓而達小梅口明嘉靖間長與署令智 夾浦 訪兄僅 迤 漾為輔水勢最盛祭浦之東有坍缺港港之左有石 境 行舟故礼之 把總二港合流處有平湖侯廟土人云侯姓王能說 家橋防守西路最為扼要後設守俸於大錢乃改設 湖多由此 渺若天外今間斯語忽見故山舟中人莫不色喜是 夜 有沢シ 里至小梅此六十里最遠所歷語港口皆淺小准九而稍踰焉止之弗從毅然登岸勇哉舟逆風行六 梅今出班缺不復出蔡浦蔡浦之口遂於舟人 北 泊舟小梅港港屬烏程離縣治二十里 沉瀆產科果熟時吾山豐圻人每來此 為要地 /處為大內新塘為等溪幹流楊來浦有七抖 湖程紀略 日華君自沙 山以脈曰此 風大作不能出湖 入城 路 而夾浦尤為長與一邑之咽 瞻府署之雄壯即解維三里至毘山 國初浙營兵制設守備於夾浦之鼎 墩 洞庭也兩日在太湖西北 港陸 移舟至郡華君欲往 行至夾浦巴畫常州 叛鬻因指 喉 山 南潘 洞庭 冠 日

每經浮玉

之山東望諸毘說者以為諸毘即毘出

初 初三日南潘在白龍港側主人 港水 從兄也 ار. د 語登山而跳下山峙於右荻塘橫於前樹抄雲際隱會於此以出大錢形家謂此山塞府城水口殆非妄 是耶 達 水必選明晨揚帆矣噫以豈能操券而必者耶然既 欲出楊漢至楊漢不能出咎之則謬曰今夜風必 又云大樓路近水深從此出太湖甚便舟子弗 荻塘北貫横河下大演横河西自大錢來荻塘諸橋 長矣晡時到南潘主人具雞香禮其恭主人華君之 間 隱見雉堞其東則昇孺蜀戴諸山棋佈 盖大浦淤泥此 浦故智在弗聽至湖口舟膠不能出欲回又不能入 四 口踰大樓而返從此不復陸行矣是日晨雷暮雨 無可如何姑停舟以待華君沿湖 深澤而城 日 歴 日 歷可數太湖在北風狂水怒濁浪排空若欲吞 南注之轉輸以入太湖盖沿湖諸港之上 雨 非 ~ 湖程紀略 那山 ıĿ 如洞庭山 風轉水如故戒舟人毋出湖舟人 之下為毘山漾若雪前溪餘不 則板沙也岸有聚觀者募數人 難小四顏無道 日白龍港南由晟舎通 形勝ない 西打追 於田 訪未 霧中登官 个特有大 **I** 疇據落 諸 流 到 聽 水里 各 轉 雨 th,

初五 初六日入茭草路北行過浪打穿浪打穿直接大浦港 漾 异舟日 北昔之東湖今之炎草路水考所謂西水路者是也 港南 由七十二港下太湖練聚橋之水則及 港 東經南死官橋過陸家灣因濟村至稽五樣宿於 港出北是家港而達長橋南效港俗呼南吳家中放 說者謂即古東江之口向時沒打穿未塞西風水湧 聚烏橋等港南流東入於唐家湖信哉過練聚 信之昇舟入港竟行横河雖不得見湖口然 大浦水勢最險今為平流矣又北行貫南潋中效二 上流之形勢計未左東行至北張官橋横河之水由 港俗呼中吳家北吳家港即長橋 护 自制张成陸而港之形見湖愈張港愈分因而名之 日星家国 荡而至練聚橋諸漾荡之水成轉輸於橫草路北 因演之北為薛埠震澤境七十二港自薛埠始 内折北而下石橋浦舟則從橋外折而南又折 )按宋元時並無是家港之稱益今之港即昔之湖 日出稽五漾東行歷汪衙蔣家迩家馬耳大龍諸 行吳江沈憲副於水考謂湖中水皆北流惟練 出湖乎入港乎湖中諸口皆淺直從 湖程紀略 而 分其名日南北中非其故矣太湖水勢 河古吳淞江之口 自太湖來進 横河行 可 以察 橋 而 而

初七 初八 盡出於簡村西其直北而趨鮎魚口順而捷進東而於簡村之東而盡出簡村西長橋在簡村東北水飲 **姜門東下至和塘一** 赴吳家港屈而迁吳家港所以日於長橋之水所 南北 日微 上四南而趨東北 强湖州 橋 在此一始無口之內為職塘屬吳縣是夜舟泊日暉 缩 南歸太湖之邊境已週約而論之湖之方隅東西蔵 湖經實帶橋而下吳淞江皆洪流也太湖之尾間其 口鮎魚口水一派直進五龍橋達盤門運河遠城至 與亭接也 下愛遺亭以北遠不能見橋上有亭其垂虹敷 下元兩洞出水所出之水從愛遺亭左右分 日 日出胥口渡湖歸山始自胥湖北 數執途人而問之則以為水平王廟益廟在南 兩 縮周圍七 入江此 علد 7 偕 雨復作返而 湖程紀略 華君着展登長橋橋寶七 舊跡 百餘里屬蘇州者半常州十之三而 而弱境地之延 簡村適當其種東西分流 派在五龍橋外折 也自牛毛墩 登舟出 ÷ へ於湖吳縣為多水 里 港北 帶淤漲水不行 行今復自胥湖 而東入灣臺 行 船 抻 流 潍 备 鱸 惟 而

無山山之入山連南歷鳥程士 聚橋北至吳縣之銅坑四十港其水皆入於湖為太湖之 流徑而支严南則皆自天 坟觜内為游尚灣最深坟觜之北為貢湖 之北長岐之南义 少與昔稍異亦可知近來太湖 太湖馬程震洋之境因湖口 湖之去委其來源諸港 其來之微也上流旣微下流 帶於漲職是之故管與蠢測未以有當姑志之者 /大畧也 湖二 華山三洋次觜其最 湖程紀略 王吳縣之 郡至震澤縣 獨山至雷觜又一發具清淺自 沿湖港口自吳縣游湖 沿湖港口自吳縣 東至吳 然一 其流迁而 灣蘭山香山之間一 東法華之間 折至沙墩再:打 灣其湖 梅地之入:湖惟簡村而已此入江湖岸維有四凸然不成灣 之四 2 上干 日來 韭 溪北 淤 在部尉山 阻水多東行北 西北 港皆受水於湖為大 通 Ŧ. 一邑為荆 灣灣皆沒長題 計二 以北 带在 前左 多觜三 白 迤 业 湖 西轉 西蹟右 Τŋ 四 西虎

	湖程紀略	門人	傳千古非治名公紀遊文一、例也半園莊園一得古人謀篇之法其議論亦稱卓可入太湖志以教太湖之邊境歷歷如繪起、依節奏斷續詳略極日無虚斯遊爾
	그	門人金友理校錄	他 半園莊園 以前奏斷續詳略極

巡幸 (湖備考十 一圖說卷一總誌太湖卷二為沿湖水口濱湖山卷 國 朝金友理撰友理字玉相 寺觀古蹟風俗物産卷七為選舉鄉飲卷八為 五為湖中山泉港賣都圖田賦卷六為坊表祠 為水治水議卷四為兵防湖防論說記兵職官 記大吉為明人太湖志震澤編皆詳於湖中而畧 物卷九為列女卷十十一為詩卷十二十三為文 卷十四為書目災異卷十五為補遺卷十 補 - 大卷 探斯 "所闕云 以所重在名勝而 進江 本巡 撫 吳縣 水 利兵防不 人是書卷首 及悉故

刻三卷附蕭山諸湖水利蕭山水利二卷續刻一卷三

一卷

[明]富玹撰 續刻三刻[清]張文瑞

附[明]賈應壁撰

浙江圖書館藏清康熙五十七年雍正

十三年孝友堂刻本

附《四庫全書總目.

蕭山水利

卷附集一卷》提要

書初集二卷續集一卷三集三

**斯山水湖** 荒山水利目 卷下 卷上 明邑令張公湘湖水利圖記宋邑令顧公湘湖均水利約來記 明尚書張公致許愈都 明愈事富公重刻蕭山水利事蹟序 湘湖水利圖跋 明副使丁公禁革侵占湘湖榜例 明御史何公父子復湘湖考備二條 明尚書魏文靖公蕭 明邑令張公蕭山湘湖志畧 明邑令張公蕭山水 宋邑令顧公蕭 鑗 山水利事蹟 山水 利事蹟序 綸 湘湖 利 事 水 述 利 書

史 225-276

## 船 Ш 水 利 卷 <u>٠</u>ـــ

## 令 顔 办 游 Ш 水 利 事

者 湖 船 悉 首 血 水 舟 據 為 IJ. 救 田. Ш 早 縣 瀕 遇 有 早 滌 堰 潦. 泄 沝 黑 汇 水 無 江. 年 不 以 地 -大果八 背 東 防 踏 斥 手 潦 议 鹵. 歷 年大 待 华 厥 枯 稍 HI: 惟 水 腐. 浜 百 强 下 不 下. 里 知 有 有

內 民 餦 之 為 憔 江 悴莫 湖 魚 **鷩**之 甚 害 此 鄉 時. 壯 冲 欣 者 然 九 年 流 欲 就 移 上 已 其 四方 飆 來 任 駶 人 皆 B. 者 寄. 筅 轉 其 不 死 准 量 悬 綿 冬

然

欲

去其

而

害

何

府

而

可

去

那

净

Ľ ihi 一本有 前 d. 未 茅 俖. Ŀ 未 īlī 幾 卷. 郡 是 憐 太 午 兆 愚 欲 礻 移 忍 檄 使 部 北 使 者 去 欲 11. 亦 按 孝 灰 不 文 將 忍 堂 行藏而 農

лĒ. R ...... 쌹 Mr. 復 綸 於 矛 丰 白 E 潦 华 湖 而 終 間 + 不 湖 堰 华 復 皆 + 也. 淳. 得 月 麗 加 -朱 舊 祭 年 非 兒 + 人 机 論 夭 茶 月 星 九 也 湖. 日-

湘 湖 <u>ار</u>

湖

堰

鄭

河

П

\*

蹟

Ŧ

後.

湖

 $\dot{=}$ 

占

為

H.

或

占養

魚

或

占

種

荷

政

疳

置

私

穴

盗

水

IJ

紙

ابالا

Ħ. 湘 湖 捌 甚 謹 浅 按 亦 無 經 泉 去 源 縣 齐 夏之交 里 周 回 無 入 十 雨 流 里 進. 紙 方  $\mathbf{H}$ 有 干 瀦 餘 頃

横

塘

HI.

怂

六

七

月

閒

無

水

灌

羝

遂

集

鄕

夫

築

黽

應

赭

初

歪

C

HI !

單 仁 븭 過亢 亦 -¥-Ŋ 中 Ź 郡 欲 丞 踢 所 占 £ 相 4 脾 Z 쨣 繼 得 及 聣 為 力 平 争: 縣 格 也 丞 宜 土 討 方 築 趙 免 使 和 善 李 間 堤 倰 濟 沓 囯 奪 獻 言 忠 有 绕 淳 即 並 議 熙 剕 府一乞 為 為 + 為 田 良 年 史 木 六 丞 田. 田 竟 月 此 相 大 有 + 節 不 浩. 使 肬. 四 御 力 者 史 周 後 日

有 據 入 四 H Ħ. 論 百 琚 王 種 姓 王 # 四 捌 四 + 田 四 用 論 人 秙 狀 石 論 百六 列 頭 狀 李 打 等 百 輪 腦 背  $\dot{\Xi}$ 七 Ŧ. 人 等 七 損 六 傷 盗 攔 押 種 人 住 占 牛 稱 往 張不 湖 坊 塢 提 為 合 果 使 湘 田. **达** 堂 湖 宅.王 叉 叉 四 + 田

果 柩 山 多 水 難 計 和 其 数. 及 追 到 王 七 供 牛 坊 塢!土 田. 並

如 周 腼 71 -人 四 插 牲 Ξ 汪 種 寕 名. 不 各 趙 知 七 從 得 吳 杖 畝 五 步 徐 百 坵 片 柴 馸 罪. 狙 止 怨 周 追 謗 信 到 之 厚 秙 吳 生 百 文 賃 六 樂 起 李 或 于 四

右. 河 -1-墅 重 堰 年 郼 解 Ŧī. 處 月 府 岩 大 斷 不 酥 罪 增 湖 追 俏. 土 水 修 平 樫 祭 岸. 卽 就 必 即 致 縣 壀 衝 乘 行 破 册 遺 蘿 不 廵 惟 歷. 復 見 為

史 225-277

是

張

提

山山 馬作  $\equiv$ 馬 欽 般 华、 開 泄 婺 地 īī 白 则 等二 山水 -F-大热月 掌 Œ, 湖 湖 : 田. 到 Ħ 利 縣 放 放 舩 徐 月 係 古 係 子 验 畝 答 ź 之 白 À 湖. 利 + 是 耉 來 + 畝.馬 細 指 投 Ē 旗 果 般 庶 稻 係 典二十 賣 實.轉 1 水 岩 湖 褒 各 X 獻 1tt 書 白 大 水 Ħ. 北 **提** 車 验 幹 卦 行 粽 勢 赦 地 馬 處 = 耆 À 狀 使 頭 委 在 4 辦 L 烜 捌 省 参与 難 王 水 占 晚的 寧 戒 沈 供 六 年 歲 司 目 Ĩ = 以 湖 琮 稱 作 有 委 + 鞍 中 止 以 侵 幹 K 奉 當 父 地。 答 田. 毎. 觀 柳 漑 入 雨 聖 占 難 委 \* 老. 逐來 妨 辦 Ï.人 惟 充 內 劉 止 九. 長 肯. 轉 IJ. 各 是 據 礙 將 人 么 敖 鄕 侍 脷 石 更 花 華 運 作 不有 後 事 生. 本 制 湫 省 至 趴 不 田宇 司 會 書 期 據 趙 子 東 是 湖 **H**1. 鄉 施 又等 申. 駐 綱 欠 朧 列 氷 綱 性 奉 白 秦 及 頭 行 對 立 脫 名 據 據 古 繝 立 聖 馬 增 折 佻 指 今 未 官 者 其 立 躬 肯 湖 元 進 絽 倍. 貧 獲 司狀 湖 躬 親 令 荒 獻 典 官 遇 河. 白 申 其陳 全轉 騐 約 親 前 常 H 府 千 地 春 聞 白 白 有 起 思

擾. 华 187 安 謹 宅、 取.j 銭 禦 [4] 毁. 可 躬 張 + 址 計 桉 見 Ŧ 食 阜 年 文 魠 並 為 扩 规 月 早 排 縣 十 年. 有 復 威 繭 嵬 開 来 有 爲 係 九 欲 經 李 爲 白 拞 剧 經 餤 掘 Ħ. 發 望 者 民 厺 小 世 ÷F 本 洛 在 講 馬 月 直 在 用 湖 心 利 食 納 烙 旬 縣 監 九 其 星 湖 體 不 舟 提 省 於 肯 買. 湖 榖 九 殿 中 三千 張 百 食 日. 西 滁 湖 思 旁 同 國. 同 上 依 兩 彩 提 故 = 妨 之 至 奉 給 舊 家 流 尚 不 奉二 + 名 家 + 村 泉 聖 開 包 餘 移 正 如 生 地 憑 乱 Ż 失 言 肯 占 當 畝. Ŧi. 之 狙 頭 以 掘 此 个 殷 業. 劄 依 蘇為 畝 里 何 撓. 來 來 自 抚 民 出 Ξ 奏 臣 子: 所 田 周 開 冒 榜 湖. 湖 乾 况 無 及 委 私 方 道 聚 占. 角 T 廻 不 麥 掘 占. 捌 下 為 本 船 熙 縣 早 冲 餘 欣 起 創 想 浙 田. 九 怪 側 嬣 是 伤 年. 其 ₩. 路 水 典 在 頃 十 悅. 非 自 育 東 令 府 官 幹 其 餘 議 李 提 流 提 無 有 由. 任 뷮 蕭 年 果 皋 李 中 A. 來 里 能 如 人 直 徙 所 因 脫 太殿 之 無 Щ 於 麥 久 勾 司 潴. 加 後 免 此 ナレ 淳 白 矣. 漢 其 故 悞 堂張 民 如 難 直 詢 縣 告 聊 連 主 湖 漢 戒. 元 殿

宜 旗 水 天 仰 溝 外 北 海 張 姓 約 ıŁ 不 及 不 之 撥 早 闖 + 和 惟 壑 是 爭 作 址 捉 州 行. 氏 Щ 昌 田 岩 槭 m i 果 淳 木 H 四 女 相 Y.L 訟 九 背 年 萊 遇 處 用 天 繼 水 自 司 恩利 共 遂 畝 Ħ 戸 子 千 字 荒 湖 血 典 并 水 再 不 西 下 十 淜 北 畝 萬 愛 瞢 早 P 號 民 穢 年 計 作 田 紐 血 本 极 狀 七 民 妻 計 租 爲 市 饑 鮗 至 係 鳰 百 以 行 內京 肵 Ŧ 千一 有 井 子 쇖 錢 卷上 歸 四 下. 田 水 占 H H 長 下 4 毎 四 素 畝 华 fr. 毁 流 浩 本 趣 利 巴 JE. 凡 兼· 城! 拆 官 畝 百 憂 十七 四 安 乞 百 八 Di  $\mathbf{H}$ 縣 五. 千三 骨 形 房 便 養 百 + 坿 H. 自 业 + 畝 + 冲 景 大 -于 背 廬 不 育 歩 添 納 土 五 觛 民 充 1 婀 畨 十 產 召. 之 华 相 滩 間 數 使 闡\_ 官 石 里. 壀 鄕 百 命 患 者 Ξ 菜 朝 民 保 農 回 百 朗 餘 叉 叉 水 租 ᅪ 官 未 厭 海. 丰 廷畝 欲 取 灌 畝 戸 錢 Ξ 民. 申. 11 姓 4 陳 有 糟 梓 四 脈 熈 率 兩 本 吳 以 矣 占 田. 人 升 諒 大 乾 角 昌 戸 甚 糠. 孝万 湘 湖 恤 縣 七 七 自 潮 五 無 于 等 節 道 华 升 华 水 出 死 販 胃 係 湖。 瓜 堂無 使 賴 瀝 納 有 合:所 此 者 奔 其 居 經 二:低 七 华 育. 堀 年 自 走 中、江 縣 厳訴 TI

米上對 售水 遨 幹平 言 計 或 實 炭 淳! 郎 或 不 叉 畫 人 如一放 交 故 早 有 堯 Œ 之 訓 利 湖 N. 從 N 江 必 辦 14 四 君 此 稅 全 澇 官 具水 之」皆 水 以 吳 有 府 介 田上 11 萬 原 奏用 命 租 長 华 田 帛 諒 十. 之 胡 福 八 何 有 利 等 備 其 使 胀 骢 七 爵 令 宫 為 极 有 延 百 內 也 鳳 Ŧ 大 來 此 直 縣 幹 餘 傳 而 言之德 賜 肵 况 命 列 浦 五 非 自 司 夭 高 狀 巴 有 定 武 人 灌東 畝 法 不 在 百二 寄 農 復 以 張 田金 赤 言 臣 雖 果 套 下 刖 丘 万 災 失 Ż 之一 主 或 居 四 見 案 宗 下 佉 論 Ш 部 僧 傷 生 長 利. 下 -1 1 溉 上 妙 上 有 孰 强 滁 元 歲 占、 致 九 蕩 得 皆 上 得 以 利 國 惟 通 奉 本 因 自 之入 貫 之 家 落 青 Ξ 聖 甞 務 于 則 厚. 樂 有 亷 州 而 千 亦 依 請 農 議 君 七 恩 星 從 巷 旨 船 民 主 仑 叉 百 命 舊 拞 為 顧 水 H 帛 場 湖 水 道 候 冲 佃 佃 且 四 撥 利 無 臣 百 六 度 明 切 并 利 作 士 收 臣 勿 心。 -吕 國 刖 下. 之 積 畝 割 支 州 前 下 謂 賜 不 主 梓 不 舒 講 家 安 孝 員 定 湖. 說 了 事 水 知 īfīī 田 或 不 文 以 未 撫 常. 友外 海 言 然 居 之 陪 屬 泄 日 可 畝 也 不 故 官 自 爵 蕭 水 司 爭士 開 堂 郎 縣 驗 砌 自 尚上 得 惟 也一 增. 佃 也。 命. 如 盲 可 įЩ

詹 必 得 熈 亦 郎 連 厼 族 是 詹 家 修 者 依 得 璟 為 + 中 經 ılt. 和 厙 不 從 田. 水 舊 落 水 姓 湖 淳此毎 民 疉 湖 偶 邚 **原節 季** 者 條 熟 渦 利 IJ. 為 年 張 岩 冲 繼 省 庱 星 有 甞 時舊 具 斷 蒙 陳 洲 台 氏 果 又 不 妨 湖 元 十 **尼連** 申 厘 **‡** 罪 論 所 應 田 詢 家 陳 民 四 自 مخر 州 灌溉奉 六 نخ 乞 田 常 載上 至 车 月 害. 未 洲 御 追 其 侍 此 之更 史臺 此文 百 父 慶 妻 有 收 又 奏 報 則 御 長 及 老 張 畝 花 讜 為 闘 蕭 閒 元 為 典 Ŀ 好按 回 皆言夏 從 無 縣 氏 後慶 安 乞 忽 利 奏 臨 H. 長 取 山 水 年. 養二 决 人元 應 請 安 開 朱 水 而 以 入 典 按 灌 補寧 官 不 待 裳 府 及 察 為 鄉 掘 利 孝 入宗 應 張 肯 姦 漑 落 院 彻 龍 鄉 圖 --极 人 歳 長 全 所 耳年 湖 察 4 星 朝 進 賜 令 經 戸 不 率 提 無 典 院 憂 狀 及 於 寺 去 犹 溪 湖 陵 也 兼 不 果 水 宗 僧 早 梓 不 經 害 を 艜 浑 也 寶嚴 為 落 熟 Æ 鄕 不 利 奏 正 矣 湖 + 過 矣 官 Ż Z 請 蕭 湖 常 業 H. 提 星 因 應 將 Ž. 聚 閒 湖 乞 舉 使 家 孝 於 切 請 復 田 姐 節 其 民 典 净 加 H 佃 湖

申 毁 無 Ź 古父 狀 矣. 遇 丞 百 京 開 被 而 底 田 上 老 於 談 令 嗣 去 宜 積 华 詹 74 藉 非 纡 ŦĹ 掘 稱. Ш 修. 是 木 為 -|-髙 曹 伏 e 日 週 £. 田 水 Ξ 在 以 開 百 棄 嗣 有 行 千 覩 湖 湖 肽 餘 水 掘 卽 朝 田 四 利 入 任 之 畝 等. 獻 指 Ħ. 成 幇 獻 族 百 不 Ŧ. 陵 湝 畝 白 勾 後. 畝 曾 來. 經 間. 俢 自 馬 升 提 之 與 揮 同 夘 亦 以 受 為 數 宗 散 果 趙 塘 委 來 荾 係 過 本 湖 個下 麥 提 白 卷上 是 魠 提 給 絡 縣 岸 蓄 戸 令 舉 趙 徙 湖 椠 毗 丞 詹 馬 果 有 官 耆 有 蒙 宜 丞 以 典 坐 先 水 近。 冲 勾 湖 澆 宜 詹 銭 其 妨 珍 聖 開 郮 漑 府 有 水 有 躬 其 轉 肯. 其 故 差 晢 掘 木 船 以 婑 保 中 百 五. 親 湖 小 船年 桩 運 備 湖 八 謂 百 湖 白 開 水 楓 Œ 相 盡 係 之白 者、 畝 熈 兼 深 司 早 冲 木 郭 视 數 白 馬 掘 自 付. 未 船 此 可 抻 除 涸 相 塢 冲 湖 白 所. 達 開 馬 馬 平 釸 名 等 遂 湖 竊 復 到 雖 於 掘 視 拞 馬 必 倰 湖 任 前 拆 民 百 詹 前 支 湖 為 非 其 得 各 爲 見 妳 其 族 餘 狀 詹 有 瑡 政 外. 元 委 其 家 **芦地** 皮頭 湖 泒 田. 失 族 詹 樂 湖、 湖 家 當 任 只 是 畝 供. 在 洧 理 鄭 居鄉 八 內 存 在 若 自 堂集 合 今 湖 京 水 氏衰. 然 利 約 本 行 為 华 科 其 縣 瘆 或 趙 來 P 到 典

究 手 ナ 族. 聚 後 T # 瓜 家 本 來 戸 內 旅 司 办 水 來 餘 始 來 乞 陳 提 中 派 湖 縣 部 司 見 Æ. 之 歷 前 開 Ť 行 令 縣 狀 鄭 Ħ 夘 符 果 湖. 於 别 後 掘 肵 下 滀 永 4 京 及 船 園 去 叉 此 司 前 本 P Ti 申 等 事. 告 别 斷 袖。 有 瓜 得 墂 指 後 申. 水 其 縣 杖 姓 并 户 委 甜 復、 示 再. 舰 湖 臨 瀝 湖 定 兩 清 示 流 껢 諸 綠 經 措 於 IJ 江. 电 申、 撤 田 灌 百. 趙 艱 移. 藍 係 Ħ. 詹 此 湖 永 强 μ̈ 紙 Ŀ. 各 宜 丞 官 部 四 家 乃 头 ıŁ. 件 狂. 趙 知 有 以 民 宜 有 江. 臕 縣 幹 重 趙 百 捌 理 H. 捌 蟴 永 宜 行 10 餘 不 田 陰 李 江\_ 推 准 田 同 派 人. 不 買. 品 容 詂 根 更 承 僼 令 舜. 戸 旣 飹 之 體 如 是 切 買 貪 申 知 勘 忽 令 瓜 究 鄭 究 遣 部 遇 宗 運 之 有 郣 事 早 為 裳 於 夜 丰 不 瀝 符. 京 之子 差 督 傄 司 **暘**泉 等 業 浩 所 勘理 村 妨 仰 Λ 專 船 照 申 車 出 諸 屠 司 水 工 謂 名 從 孝友女 共 因 Λ 瓜 申 利 僚 戸 納 暨 派 幾 乞 是 机 追 車 H 嗣 依. 瀝 指 部、 徘 汪 秤 麘 施 欲 稅 工 屛. 堂有 飝 及i 定 再 提 船 錢 £ 親 行 租 江 行. 詢 案 就 近 准 激詞 丞 业  $\equiv$ 到 居 詹 後 提 湖 下

張 地 滩 行 有 掘 有 定 行 於 佢 堰 股 民 民 不 提 沉 -1-所 泉 堰 1 免 F 民 占 堰 間 法 111 Ŀ 訖. 角 业 之家 观 結 Ħ 浙 民 本 斯. 為 多 퓲 矣、水 將 扸 淳 | 池、 Z 有 凇 吳 絶 水 即 熈 不 魚 之 有 屋 山 蒙 必 六 提 篍 約 堰 堅 之 縣 利 本 十 妨 占、 池。 地 爱 占 7 解 委 害. 业 果 淳 股 切 遂 冲 泄 百 為 其 餘 以 神 本 ij. 思 年 水、 親 堰 .府 牒 熈 套 為 畝 害. 畝 Ž 馸 府 衆 前 Ξ 卽 往 廵 十 在 岩 有 船 大 IFI. 罪 共 造 月 命 华 去 申 地 司 西 節 ```` 吳 人 押 開 紙 占 屋 上 典 内 大 所. 體 五 戸 使 塞州 12 摇. 戸 田 究 月 堰 吳 小 喚 市、 下 者 部 者 掇 為 林 何 彦 集 蚥 叉 上 保 因 内、 臨 媏 塴 田祭 率. 宗 長降 有 勘 七尤 為 依. 孔 江 拆. 华 吳 當 不 則 推 害 論 喚 據 茂 堰。 田. 保 從 界 釈 堅 縣 從 當 Xi. 水 頗 金 集 見 所 舲 在 此 於 獻 給 利 定 道 重 得 1#1 瓜 占 杜 -반 鄉 渝 漁 臺 之 據 察 一个 固 不 淳 榮 瀝 湖 夫」 張 股 到 浦 推 廢 當 省 大 申 湖 通 作 熈 據 郎 堰 不 那 市 節 雪 定 其 措 湖 瓜 陳 臨 始 曾 夾 塒 內 係 使 初 論. 年 骶. 凡 瀝 断 江 開 果 占居 指

諸 蕭山 莈 共 歲 狐 郭 愈 從 占 雖 屋 方 Ж 水: -F 13 宇 沒 15 水 决 杖 為 有 邑 名. 刺 鄉 河、河 决 杉 溪 房 居 撑 这 各 孫 水 縣 富 巴 iP[ 放 有 H 11 私 湖得 足 湖 之 當 畝、 水 蕭 丽 業 尉 百 廊 民 愈 利 A 南 櫾 橋 者 世 始 鄭 無 判 打 蕭 自 拥 Ш 吕 斷。 人 後 壅 方 得 徐 南 乃 湖 散 容 下 自 įΡ 抑 Щ 糽 廸 入 去 水 壩、水 湘 酉 口 寒 肯毀拆 肯 叉 功 下 間. 鄉 平 氏 衝 之患 M 之 紫 集 縣 湖 典 土 下. 拆 鵔 夫 引 |利| 菊. 所水 閘 今岩 璇 如 河 前 除、 拆. 間 致 夫 新 復 矣、 数 林 自 入 欲 係 カ. 為 至 至 任 及 內 寒 出運 取北 鋑 今 源 造 百 百 江. 江 到 +: É11 望 河\_ 水 是 清 堰 湖水 鄭 間 牒 姓 屋 尚 籼 人. 湖 河 復 先 堰. 堰破 自 由 書 所. 係 金 是 上 西 橋 計 上堰 東 開 寄 時 П 於 化 無 牒 弓 世 典 乃 鄭 丰 柴 鄭 運 I 四 縣 启 衝 屋士 廵 他 放 鬺 本 萬二 數 孫 华 水 八 河 水 河|河 + 江 取 不檢 孝本 堰 Ħ 之 口 兩 £ 愈 伏 定 再 西 水 折. 验. 有 壩 頭 鄉 **友**官 判 所 坦 遇 晢 入 Ł 壩 自 作毎 1 浙 中 堂職 者. 解 旣 相 流 為 业上 壩. 遇 冇 府 位 江.

		Or Personal Property lies and the last of
本 流 畫 如	【夫   鹿   流   负 「水 「	水 垣 鄭 拊 者 河
	工行技能	松水河
郑 熙 田 四	五 11 次、 急、 机、	77 2 3
加十水也.	十 至 乞 栽 郑	据 者 河 白 三 日
111É - 1	人縣 香桶 於	馬十條
	了 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	:14 BA ZE
王 牛	不 逐  百  何  四	例。[] [[]
管 歳	一 詢 毀 花、內!	有   年、  张
事 次	時間指不力	暫 海 提
19)	万物 与 旅 接	公面面
提   甲   苯	男 男 为 谷 僧	芝   作   本
及  長  上	其   河   提   放   壘	等   十   住
事十	墙 所 聚 水 石。	狀   一   宅
善  目	a 在	白馬湖有買珍等狀論鄭河口,三十餘年,淳熙十一年九月內,口係在張提舉住宅前,斷為船
1 7 1	四 海 心 海 斗	鄭 九 斷
世   一	册 迎 自 仇 坦	が   七   寛
馬  亥	通  在  月  日  船	川   月   為
监一!	但 問 二 禾,坊,	河月為
柳文士	未處十致築	被勾浜
袋一丁	知合士曹栋	鄭河口被張提舉冒占九月內勾提舉被首前
虚 口 *		提舉荷
70 1 4	日 丁 日 丁 加	胡龙山
根   皮   友	後 縣 州 場。	舉被池
中 午   堂	通預歸農蓄	提舉青的水水不
者, 承 藏	塞集約民養	占前不
	中郎如縣主管勘農公事兼兵馬監押錢塘願心者薄照十一年歲次甲辰十月乙亥十叉二日庚午承朝山水利————————————————————————————————————	本即如縣主管勘農公事兼兵馬監押錢塘碩心者, 水利, 那於河內立椿壘石起造船坊築捺强塌首養, 大五十人不一時頃其壩盡開通但未知日後通塞, 如何也 一年歲大甲辰十月乙亥十又二日庚午承期何也 一年歲大甲辰十月乙亥十又二日庚午承期何也 一年歲大甲辰十月乙亥十又二日庚午承期何也 一年歲大甲辰十月乙亥十又二日庚午承期付金

最 謹 同 勢 盈」如 4-儿 者、 早 成以以 頃 閤 垂 不 方之 ŦL. 放 高 有 分 鄉 後面 傷 規.分 ! 早 水 桉 預、 非 先 葳 得: 尺 此 故 高 為 徻 謀水 之 + 後 之  $\lambda$ 4 自 准 皆 多 取 石 先 餘 有 後 所 先 低 : **H** 於利 有 經 1 2 公訟 湘 後 黄 告 悅 計 顧 刖 水 鈩 餘 至. 衆 知 乃 之序、 先 衝 面 家 型 十 # 年. 於 之 毫 者 湖 畝 取 公 者 英之重 掘 窪 入 集 在 湘 洗 合 湖 上 鳌 故 四 舊東 九 不 縣 有 深 悬 得 萬 約 有 者 塘 捌 深 放 鄉 リソ 鄉 澗 Ξ 可 六 大 办 雖 約 長 西一 均 骪 低 水 利 船 旣 7 典二 去 尺 易 故 損 定, 惛 私 絲 均、多 水 有 于 得 甩 置 者 後 淳 东 諸 水 並 先 八 開 有 利 八 入 民 穴 無 樂 後 忽 百 甚 + 去 其 熈 穴 限 周 上 約 鄕 未 中 限 水 以及 尺 間 之 溥. 兄 有 圍 灰 以 1 戸 夜 矣 其 益 欠 次 髙 杪. + 年 通者 -j-與 入 記 旣 八 盗 水 旁 許達 之定 十 積 其若 載 低 去 分 入 冲 | 以 也 縣 单 水 柱 + 為 畝二 賢 其 濫 利. 許 制 相 而 者 放 侵 議. 以 有 岩 六 計 利 华 卒 腎 泄 丞 漑 共 等 畎 之 角. 友 用 趙 石. 奪 品 居 入 同 始 放 相 H 澮 以 堂 善 罰 毎 华 水 適 舊 业 千 廐 柳 均 立 高 爲 宜 穴 者 以 滅田 旁為 餘 眥 亦 糖! 地 矣. 丁 約. 低

第 防 倍、 第 蕭 金 黄 苷 歷 紛 周 柳 歷 14 家 爭. 杜 깛 召 Ш 揽 Щ 穴 湖 信 止 角 湫 後 忽. 角. 北 角、 蔛 四 湫, 步, 統 利 四 漑 放 村 得 絲 得 夏 臣 漑 得 漑 漑 漑 人 夏 + 四 六 夏 水 安 水 安養 孝 敬 居 夏 水 孝 步 百 養 慕 聍 忽 老 南 孝 鄕 徘 鄉 釐 釐 鄉 放 鄉 釐 沱 之 陽 九 五 鄉 鄕 寺 + 作 水 刻 兹 斜 孫 孫 杜 港 亳 時 綠 絲 以 庄 止 畝 茂 湖 橋 茂 村 均 釐 村 村 共 九 村 村 放 水 村 九 -1: 忽 刻六 約 穞 絲 忽 水 百 亳二 千 千 穴 束 千 水 放 放 干 止、百 七 Ŧi. -1 Ξ 五. 次 刻 四 = 四 忽 十 濫 忽 百 肼 胩 石 百 百 重 聍 百 + 放 四 放 六 立 亚 九 畝 四 刻 ıŁ. 止。 九 畝 毫 =十 + 十 得·時 開 於 十 六 Ξ 聍 五 七 七 水」 角 列 田 畝 絲 於 畝 畔 畝 四 畝 刻 四 刻 毫 後 以 七 止 十

畝一角三十步得水一釐六毫五忽放四時

第四	毫三忽放二十六時一刻止	朱村三干四百六畝一角八歩共得水八登七	荷村三千三十七畝二歩	二十歩	許賢窪統許賢鄉羅村六千三百三十七畝三角	九刻止、	一角三十步共得水一釐六毫四忽放四時	亭子頭統新義鄉前後峽村二千三百五十六畝	南山水南 卷上 孝友堂藏	水一釐三絲二忽放三時一刻止	划船港衙夏孝鄉寺庄村一千五百一十六畝得	四絲五忽放一十九時止	去虎村一千九百八十三畝共得水四鳌三毫	<b>涝湖村三千四百三十畝</b>	安射村一千六百三十六畝	長豊村一千六百二十六畝	石家湫紙由化鄉北幹村六百四十二畝	一絲一忽放二十一時六刻止
----	-------------	--------------------	------------	-----	---------------------	------	-------------------	---------------------	--------------	---------------	---------------------	------------	--------------------	-------------------	-------------	-------------	------------------	--------------

原材穴消离第維其准本三千八百部 前豪村三千八百二十九畝 何由村七千二百四十一畝 一定四縣九紀放四十時九刻止 一定地村二千二十畝一角共得水一分三釐六 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个
---	---

社 型村一千五十七畝二角 昭名鄉襲 壁村三千四百一十一畝二角	陳村二千八十畝二角	<b>漳村八百三十一畝</b>	史村三千三十三畝	] ]	五山水型 米多土 大 考友堂第	二十九畝共得水	趙士村一千四百六畝二角	由化鄉五里村七千七百一畝一角四十歩	南江村三千一百六十四畝二角一十步	社頭村一千五十四畝二十歩	縣南村七十六畝二角	昭名鄉襲墅村三千四百一十二畝五十歩	陳村三千八十畝二角	<b>越村二千二百五十三畝</b>
-----------------------------------	-----------	-----------------	----------	--------	-----------------	---------	-------------	-------------------	------------------	--------------	-----------	-------------------	-----------	-------------------

一角一十		
------	--	--

早 築 峷 頃 湘 没. 放一百 刻 塘 寸. 尤 治 而 者 塘 湖 有 虐 诚 明 水 炎三百載. 办 硕 自 甘 更 上公 圻 山水利 去 邑 亳各 滙 之所大力 有 變 尴 11 神 宋 入 也 扣 诚 令 頂 所 水 水 縣 愈久 首詢 或 絡 下. 有 立 無憂乎於 治 碑 張 ---有 法 典 賦 狁 利 而 適 通 ぶ 之西 公 矣. 可 放 大第 田 已 私 而 可 有 疝. 風 民 始 間 湘 守其 縣丞 湖利 驗其 及者 湖 窪 自 愈失 土躬 備 易 毁 八 催 湖 周 勒 所-度 是 便. 者. 裂 而 水 實 其真 上記 趙 遠 凡 廻 延述 规 地 必 泄 氽 無 歷 班 八十 利 於 勢之高下 善濟籍治 自 近 九 里 致 水 今 存 湖 無 班 一許. 高 顏 害 或 使 為 旁 办 石 縣 鄕、 圖 甲 岸 令龜 低 漑 餘 29 及不 詑 公舊 湖 倚 斯 舧 求 视 開 以 面 共 共放 均 里 之利 得 示 兆 焉. 田一千四百六十 民 多山 議放水 守 包 所 制 而 計 立 **始完至淳熙** 山 共 余 久 以 楊 湖 法 約 舊 水 忝 遠 約 九 H 省. 丰 本所載 計水 允 自 先 稅 朿 鄕 者 灾 关 或 特 之先 地 之記 祉 孝友堂元 生 則 之田. 滙 念 宋 得 放 夢 湖 而 創 岩 以 售 水 均. 高 防 之尺 尜. 後 間 始 之 九 謀 乗 砰 而 仌 鄉 涵 邑 湖 遇 膫 騂 旣

1.5 The second second							471
	洪	追着政	能濟	之原	公利.	祭之	丞符重 鄉於石
	武	昔『之	人 _ 蚁	道、復	肽.務	泛  第	7.
	+	會本要	也於	要請	下使	濫. ]	重
	十	追昔會計	业 於	道要 積	可 九	并 4	勒
	九	之	大 洧.	事 圓	以鄉	去力	於
	月月	办   」 故	我 盂	約刻	厚之	私口	戶
·	月堂	功 故	邑子	而石	民 田.		
	B	<b>观</b> 全 其	我 邑前 畿	施以	厚民生則之田均爱	以重	垂
	日 満	今春被	賢其	施以為	則受	以除フ	不
	Щ.	料	賢約 東	也. 民	湖其	盗力	万.
	縣	之   慎	- 約 思 而	也. 民 酱.	之流	泄. 1	乃
	却	意為	水不	鄭吁、	為而	禁习	成
	縣	永   艮	利知		利無	泄、4 発見前	纺
		守一	之為	大夫子子	大旱	請人	县
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	守和	法.政.	夫 雖 子 不	大 早 荒	但」	民
	-   心記	東一個	其 為	産 敏.	所之	以为	4
	,	東一爾之孝九	馬其	産 敏 省	既之而 虞.	杜鱼	<b>述</b>
		之孝九		其開	品上	传文	非
		法友组		其 開 為	邑 上 不	杜传李	以重不阿仍成飭居民首築是坊
		人	為不	典政	大矣既而邑之士	民	ű
<u>.                                     </u>		1 1 承 /	一何一个	<b>外</b>	ーエ・人		4

來蘇鄉 崇化鄉 陷	長典鄉 許賢鄉 新	由化鄉 夏孝鄉 安華	稿重刻石縣門云	規則舊背有圖元季數裂無存或邑中	繼幸是也復經理而議疏鑿之功至 4	少掛入鄉以益許賢利始均矣嘉定中	水之利及民甚博於是去侵奪為田去	莫能定淳熙中錢塘顧冲來為辛又下	<b>黄山水利</b> 聚卷上	鄉民不預後告于上雖得開穴以通出	家限尺寸以制泄放立為規式民皆	諸上戸相與定議相高低以分先後於	預焉紹興中縣丞趙善濟以歲旱多如	<b>到仍令九鄉得水者均派湖內稅糧共</b>	湖南日上湘湖北日下湘湖、溉田一玉	阜宋龜山楊先生宰邑因歲旱飲水海	湘湖去縣值二里四面多山麓初湖乃	<b>洲湖水利圖</b> 跋
<b>昭名郷</b>	新義鄉	安養鄉		兹	功.	嘉	為	辛.	一 孝友宝藏	以通其利卒用	民	先	早	稅		鉠	初	

## 張 办 山 水 利

羡 厥 博、 畑 铄 本 往 至 末 功 ΠI 刻 非木 大 浮 大 民 浙 젦 矣 以 係 业 配 借 粒 幸 舊 綸 間 畠 品 矣 所 逄 顑 山 兹 作 公 楊 业 利 冲 先 害 瞉 是 世. 叉 得 刻 繼 生 懼 濫 尤 爱 字 亦 於 重 以 石 經 甞 民 公 樹 重 丽 者 為 農 牧 碑 制 湘 厚 於 睾. 湖 旗 於 是 本 兹 湖. Ш 縣 經 之心 邑 庭 始 僚 以 水 備 佤 備 湘 利 元 不 季 湖 恐 悉 事 前 敢 倰 琐 鋑 所 不 利 復 裂 未 小 能 細 民 甚 閱

筱 枚. \* 所 安 來 警 见 保利 区 明 倂 共 必 共 志 用 有 久 'nς 近 之勞 所 得 而 考 故 不 諈 老 為 惜 Z 獻 荀 前 倡 湘 利 祀 不 率 之 湖 不 作. 邑 始 徒 及 之 末 肵 載 小賢 要 侵. 走 懋 畧 因 入 遍 君 鋟 廣 视 孝友堂 之 子. 梓 其 其 序. 講 以 傅 跡 行

洪

扩

-|-

年

丁

E

+

月

单

E

蕭

μli

縣

知

縣

張 秿

懋

修

伤

不

使

民

利

不

失

民

害

世

哉

故

有

加

HI

Jif.

岸 洧 湘 宗宣 書 **秦**· 居 :和 劍 之 五 休. 始 之 由 龜 謀. 官 可 占 尺 浦 背 冽 此 山水 高 縣 J. 將 合.i 化 成 Щ 先 吳 Щ 在 依 下 趙 開 明 樂 矣. 民 等 湖 湘 和 無賢 四 縣 氏 堲 废 生 間 築 縣 鄉 周 捌 絽 道 人 田 水 等  $\mathcal{T}_{\mathbf{L}}$ 肼 西 不 實 地 有 先 毎 湘 田 廻 九之可 好相與計 公 令不 僅 入 賴 其 里 遇 湖. 胂 得 畝 地 護 生 华 有 十 狀 宗熙 + 學 倰 七 瀦 復 利 克籍 里 春 干 水 開 村 連 山 餘 奪. 入 為 尺 得 許 湘 奏乞築為 地 华 及 其 隼 楊 Æ. 餘 里. 以 雨 H 曹徽宗: 枚 傳 甚低窪受其 者. 物. 先 勺. 頃 通 水 戊 九 無 寅 莫 年 包 計 早 生 以 徽 則 赭 所 邑 湖 蔵. 田 图 大 進 名 納 Ξ 荒 宗 時再 萬七 湖宋 之 政 士. 時. 之 原 以 富 瀦 也 丞 及 赋 功. 尺 糧 漫 至 乆 元 字 民 民 趙 和 Щ 請肯政 千零二 之利 + 躬歷 輔 散 高 善食 益 爲 豊 中 千石 阜盛 濟. 所有年 甘 宗皇 下 四 止 立. 流 築土 | 其所 艱 典天 年 入 因 在 所為 犹 貢 零 畝 和二 帝 於 茭 由 自蕭 不 辛 地 龜 蘆 里遂 云. 山 酉 地 為 視 可 農 化 賦. 七 Щ. 遠其徽縣 南

使 道 折. 顧 晚. 公 押 鄉. 乞 則 下. 民 功典! 顆 去 亦 淬 繼 也. 府. 继 利 源 使工 其 經 公 不 辰 利 議 利 立. 年 Ž 奪為 营 矣 題忠 朋 + 博、 淳 櫥 誻 民 小 始 於 約 泄 善 179 之 字 官 禁 芮 規 办 # 月 東 放 熈 均 H . 戊頑 亦乞 式 志 重 後 心 惟 潛 2 矣. 暫 之 不 九 H 以 切 先後 遇 湘 刻 座 蒙 楊 亮 玄 者 革 經 华 許 繒 得 湖 其 來 + 里 為 民 早 石 趙 共 崩 ıŭ. 丽 圖 彻 本上 4 惠 徐 良 要畧 Ħ. 顧 碑 於 為 叉二 作 取 穴 弊 計 禁 寅 侍 亳 治 彦 息 湘 仰 舊 錢 趙 郭 昌 私 郥 記, 民 明. 爭 道 其 甚 侵 丞 如 湖 H 猹 塘 亦 四 加 刻 約. 泄、 德 疏 奪. 領 將 水 立 Ź 悦 辺 È 力 此 必 也. 石 小 卒 事 爭 ż 云 於 筚 之初 湖 立 於 鑿 樹 損 即 公 疏 拘 約 其事 之時 献與 縣 宗 訟 不 湘 之 冲來宰邑 知 其 秱 碑 入 沓 多 趙 許賢 寡. 縣 敢 湖 湖 功 嘉 於 鄕 成 約 不克 恩平 張 規 史 之 腴 以 不 邉 雕 以 定 縣 以 莫 功 益 丞 懋 定 防 鄉 度 創 庭. 尺 盡 祀 能 计 池 志. 早 年 實 許 知 遂 相 郡 也 厥 焉. 繼 不 民 孝遂 謀 孝 勢 湘 浩 懋 癸 + 賢 友願 預 以 £. 志. 心。 不 宗: 夘 掐 為 湖 永 同. 其 酉. 為 之 趙 飥 生 雖 乾 船 郭年 利 1 机 功 九 因

正統五年七月	連當房妻小差人管解	建限	<b>備工力如舊修</b>	勘如有前項官築	已池塘以蓄魚利或	等開委而不問以	早益永遠之利亦	飲卷敕諭洪武年	英宗敕翰	蕭山水利卷下
ロ ツ 郷 撫 等 官	赴北京遼東衛分充軍	即修築者將犯人正身牢固柳釘	固還官悉免其罪	陂塘 滿官作弊侵奪水利者責令	溼塞為田耕種 爾等	致土豪奸民將官築陂塘或為私	因後來有司不得其人視農事為	間於各府州縣開游敗塘以择水		

溈 或占 淳. 非 鄕 旣 米. 1 地 名 漑 顧 田 宋 西 Ė 南 Re. 乾 有 田 年. 歷 冲 大 民 H 係 久 民 11 日 A 道 肾 被水 樂 代 絽 片 田. 飾 肵 驞 湘 四 VL 間 氏 將 李 力 書 田. 使 間 强 典 亦 頑 令 從 翰 湖 闡 彩 以 植 柀 省 或 百 之以 來 瓜 魏 民 周 恩 有 华 蓄 晢 永 禾 納 痂 占養魚 七 李 仁 平 簱 稼り力 女 R. 品 Ш 山 則. 田 水 其 等 楊 龀 百 亦 郡 典 無 者來 湖 毎 土、其 北 被 #1 未 肵 各 亡 欲 王 邑 廢 Ź 先 先 早 址 公 畝 中 地 不 政 犯 杖 褚 占之 游 之仗 厥 潦 R 璩 東 水 增 生 高 生 甲 重 占 有 丰 科 除 備 亢 來 及 成 禾 坳 th 百 者 得 種 百. 六 義 令 稼 有 水 招 七 北 聯 周 IJ. 规 利 解 荷 盡 华 縣 討 待 利 有 .合 旱. 圍 斯 淅 輙 於 所 不 復 Ä, 尽 事 府 或 亦 丞 使 為 枯 占 巴 拞 納 11: 可 八 胎 效 趙 李 之 断 為 者 腐 為 之 勺 之 憫 桃 潴 十 姚 廒 湖 尤 善 之 顯 伙 稅 開 則 H 滛 餘 江 罪 田 民 至 惠 數 Z 者 輕 為 濟 加 涨 里 私 不 欲 也 恒 若 築 者 穴 之 禁 遇 奈 帷 艱 有. %. 力 並 能 於 日 盗 高 就 得 爭 乞 禁 共 早 汪 何 均 得 為 VI 乃 宋 寧等 捌 為 潦 室 湖 相 政 下 水 知 方 1111 雁 郁 水 塘 以 利 綳 和 不 縣 如 年 爲 HJ.

造 内-利蘭 湖。 常 体 地 賜 年 敢 係 脱利、加 之 論 家 鋫 開 H 共 官 民 畝 脓 尤山 湖 大 永 至. 有 澈 El. 人 被 Ŧ 弊 節 幾 173 朧 大水 哲 國 內 μ̈́ 老 狠 湖 HI 嘉 M 自 使 餘 和 馬、利 齿 有 厚. 家 脹 為 亦 起 間 作 疺 損. 地 人 À 五 畝 妻 革 科. 中 伏 張 作 官、 1 民 官 洪 於 丰. 田. 張 狡 昇. 然 人 式 得 淳. 帛 場 百 獻 及 被 田 將 凡 官 畝獻 乾 臣 行 氏 t ja 無 多 华 韓 鄭 雖 田 張 例. 湖 知 熙 在. 為 道 所 禁 望 岩 縣 1 主 則 下. 五 嗣 秋 民 珪 筚 宗 或 知 H. 間 舉 治 ᅪ 华 -F-人 郭 田 1 糧 而 宗 甚 畝 以 痨 朝 呈. 之 告 蘇 年 駋 畝 田 七 照 £. 源 觀 本 凝. --官 爵 趙 廷 發. 4 而 畝 升 例 嗣 原 明 自 丞 V. 充 有 計 縣 亦 雕 先 衣 增 命 起 亦 七 那 九 洛 月 或 宜 畝 有 長 沈 麥 科. 係 開 升 华. 必 不 為 因 生 蒜 奏 是 者. 星 湖 縣 私 復 必 以 罰 1.自 湖 起一田. 肵 等 蓄 金 賴 田. 毅. 丞 開 中 若 科以 個 加 上 以 湖 此 奥 詹 梓 李 之 高 補 官 帛 將 遂 田 沿 干 疏 水 共 輸 者. 孝友堂 諒 白 湖 湖 阜 官 所 得 肵 也 爵 百 得 孟 畝 田 华 七 馬 奶 九 景 丧 坍 依 在. 况 俞 敎 惇 之 之 為 之 畓 高 粉 捌 自 泰 不 秂 列 民 地 田- 妨 將 畝 数江 開 四不 |水| 爲 應 則 終 欲

然 歷 璀 江 犯 橅 察 墺 西 民 西 Ŧ 日 以 縣 百 於 淤 罪 存 年 司 非 肵 餘 谷 鹹 股 刂 江 江 M 寒 器 淶 餘 塘 東 里 出 杰 堰 堋. 開 者 W. 湖 p 考 扣. 一築成 等 至 夫 具 丽 不 周 議 往 南 久 之 石 白 小 出 私 / 奏常 木 恌 來 虚 矣 田 入 霰 īF. 孤 Т. 間 茍 ŽĽ. 有 加 官 統 塘 未 塘 不 徐 石 具 本 察 害 皆 曰 是 利 禁 等項 祭官 為 家 奏 閒. 岸 朝 民 邑 那、 之 檻 縣 民 亦 PH 白 中 嗣 仍 其 廷 開 'n 出 禾 叉 人 背 露 為 脈 F 者邑 濟 押有 沓 命 早 塘. 胡 湖 增 廢 贖 築 遏 稼 豼 開 石 其 潦 閘 不 為 病 僟 築 娛 罪 潮 版 孤. I. 直 I. 令 東 根 饉 雅. 抵 H 高 徐 ぶ 以 日 水 石 部 闢 有 孤 凌家 尤 資 其 之 厚 家 治 所 條 衞 縣 保 北 思 猫 遣 日 非 在. 民. 費 害 自長 中 Z 徐 有 景 冹 嚴二 丰 忍 民 嗣 嗟 禁 受共 悉令 恭 功、 凇 遂 事 害 所 家 日 欲 不 等處復 又 息質 府 張 殊 閘 捍 壊 日. 夫 其 四 洪 山 24 入若 至 再 載 惠 月 年 兩 傑 洈 螺 海 前 湘 出 不 布政司 洪 賢之 湖 龜 格 中 塘 不 修 近 浙 孰 得 小 山 攻坡 逝 許 捍 閘 有 年 官 木 得 酉 完 武 Щ. 縣 不 該 有 成 典. 布 東 計 本 海 堰 利 民 知 至 丞 感 於種 塘 歷 於 小有 巛 四 舟 遺 按 縣 有 H Ŧ.

杳 者. 夘 銷 大青 淺、其 勢. 有 建 水 水 民人 以 感 亦 為 士 之 驛 放 無 此 入 + 大 ih: 到 故 老 以 抵 封 尔 者 戴 令之 閘 河 者 濟 足其 親 固. 水 郼 籍 在 弱 入 專濟各 誠 可 當 固 牟 潦 盲 其 民 路 為 者 候 輙 船 多. 計宜 之者 食而 早 自 不 之宋 則 令丞 大 民 之官莫先 早 轉 F. 以 知 之時 而 水 其 潦 達 開 惟 開 死 一凝禁 焉 鄉 以 簿 固 闹 閘 游 致 淳 可 不 消 浙 其 帷 駯 煕 於 裹 早 可 平 息 放 典 壑 百 江 潦 地 徐 不 2 泄 有 里 散 早 於 啓 衜 船 河 船 是 七 之水不 東 當際之 家 養 之利 潦 知 考 實 之 年 潦. 閉 嚴 力 晢 戸 接 所 之本 使客 間. 等 不 水 之家 树. 塘 大 倡 以 民 引誘 小 在 條 自 關 早. 有 肤. 處 入 禾 而 古來 昔 者 免 時. 江. 縣 カ 養 斯 商 江. 有 稼 則 堰 入 之家、民莫 悉由 屢被 被其 早 特 亦 年大 利 不 外 盥 由 敞 蟖 不 商 大 江 是 則 無. 杠 玉 收. 可 為 不 開 有. 能 害. 之水 先 放 假 驛 獨 水 得. 預 壯 水 有: 小 炸及 出 託 早 於 害 須 水 出 闌 元 思 識 不 者 大 修 患 杒 築 本 為 顯 路 可 流 之 之 足 可 不 E 可 明 邑 預 要聲 引 堂 西 害 免 資 洪 士. 縣 近 防 食. 除 移 防 被 年 講 欲 也-置 武 夘 四 姑

-安 VI 檢 開 被 墹 衝 大 然 用 江 夭 捍 Ŧ 비 冬 其害輕山水利 邑 係、 察 ¥ #. 4 -F 胍 序. 等 入 於 iš 봞 有 於 要不 也 ĪĹ <u>F</u>i. 有 處 白 流 亦 是 處. Mi 令 厥 力 逃 國 俱 批 欧 露 年 連 漲 甞 於 之家有 垂 開 職 其 失整 绾. 賦 可 固. 於 湘 髙. 四 凡 省與邑之令丞 兩 党 預 築著 舧 昔 宜 民 小 遭 水 以 可 湖 水 月 海 馬 防 相 食 有 遊 伤. 年.東 以 等 中. 大 利 反 靭 早 識 塘其 成 芝 何. 由 禦 跡 背 開 中 因 水 殊 捍 潦 2 之 於 是 桿. 循 於 兹 潮 以 休 士. 事 篇. /勢甚 海 M 荷 觀 久 在 肵 *y*). 其 朝 而 塘 其 革 知 本且 宜. 之 水 景 在 以 西. 雨. 廷 玉 例 併 利 其 告 縣一以 游究 十 繼 之 大 举 至 自 泰七年夏 \* 為 後 大 於 圀 櫇 循嚴 丞 参 年 點 錄 水 自 於 有 利僥 令之 前 永 國 之 不 開 泛 斯 簿 恤 而 為 徐 從 炭 典 俸、 丁 肾 久 賦 具 從 事 民 廢 後 不良 倘 力 洲 令 一於 所 Ŧi. 而 皆 之 見 孝昔 以予育 楹 食 之遇 整革 其當 湖 以 丞 東 月 意. 在 水 友年. テ言 里 西落 簿 由. 如 當 船 中. 前 約 之 有州 朿 源. : 昔 堂而 者. 利 時 閘 錢 頗 賢 小 家 典書 水加 堰 民 江

一張家堰	一曹家堰	一單家堰	一臨浦事	頗遂遇水患亦不可不講究開通泄水	入浙江一邑之人始得平土而居今雖沙漲去江	<b>百人徐氏集夫數百</b>	水自泉街入二水相合浸没田畝蕭山一縣盡為	一股堰宋淳熙八年諸監水自南衛下本縣新林海	盖山本利 不卷下 七 孝友堂藏	一螺山開看守修理同前	<b>守同前</b>	一徐家開當置鎖封固禁船戶不許通客船往來看	穴盜水看守修理同前	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	一川湖塘其泉宜築野羊坡可護椿木於上可積湖	一瓜瀝班看守修理同前	一四江白露港看守修理同前	看守遇有損壞告官修理勿動細民
------	------	------	------	-----------------	---------------------	-----------------	---------------------	----------------------	-----------------	------------	------------	----------------------	-----------	---------------------------------------	----------------------	------------	--------------	----------------

斯 定 之 閩 力 田. 爭. 往往 岸 湘 H 有 地 之愈慜 年 除 起 革 カニイ 粉 名 西 湖 未 1 1 早之患先生 徐 1/2 嫗 訓 宿 4 埬 家 南 夘 避 紅 水 朴 田 FI 貴 之或私 利 弊. 納 復 熈 游 紅 螺 H 四 14 為 郭 開 戚 圍背 文婧 本 湖 重 粮 Щ 測 栊 之 夘 妣 湖 源 夘 华 疬 加 者. 悉 江 權、 俢 甚 紦 之 受 楊 自 珍. 矣 明. 縣 占 開 山. 根 背 孤 冲 執 士 吳 分 革 背. 或 赭 其地高亢 先 尚 妨 迫 謀 極. 功 以 刻 在 大矣奈 水 賴 强 時 無 廵 意 我 生來字是 猷 Щ 并舊刻 以 來 湖 其 據. 之水 羽 利 朝 深 乾 啓 Щ 意 部 翼. 景 塘 洪 法 道 或 閉 延平語子日 水 越. 澈 基 先 泰 武 堆列 獻 何 闹 利 厳 間. 周 而 故 以 之色 弗 開 物以 生 永 縣 歷 佛 M 山 有 加 明. 於 滿 水 雅善濟 之 待 致 樂 朝 年 入 蹟 狀 膜 水 疏 山 以 5 你早來 焉尚 十 序 功. 仕 間 鐅 懲 陳 廷 旣 無 基 忍 利 文明於 流族 情 猶 使 民 吾 尚 久姦 事 亦 之 以 餘 个之惡. 艱 青 書 功. 潴 1 世 蹟 有 丽 日 芝 乃 家 公 所 魏 開 故 有 挺 民 游 創 政 自 公興. 豪 相 蕭 册. 開 墾 奸 回 全權 HJ. 渁. 築 弊 嘉 縣 和 Цi 天一力 為

半之 伎 序見 役覈 踐 其 翳 之 + 湖. 文 矣 給吾 郞 慘 加水利 占 重 故 1 X 履 有 辭 A. 欗 惟 萧 朋 人為子得 寧不 前 靡不 邑之 子 唯 力 쿠 鄉 氽篙 實 李 純 不 謂 湘 ılı 南 聍 序 思 任 固. 捌 帷 y, 可 會 有 改 具載 卓 為悠久之圖 為悠 民 恢 修 京 ふ 稽 兩 Œ. 生 以 亦 湘 後 復 捌 何 在 然 視 如 湖 浙 温 家 恚 推 復 山 杭 我入閩 為 久之 前 何 腸 脍 東 敷 復 競 不 而 人 狐 之有 道 有 有 功 胃 坡 P 阅 為 按 兩 公 造 世 閩 亦 之 不 近 秘 维 謂 圖 湖 御 H M. 西 一条御 哉. 其 計身家利 見 儒 腸 湖 杭 湖. 典 廣 以 幸 史 於 則 此 之有 陳 宗. 龜 不 胃 會 仁 共 湘 賴 朝、 利 倂 如 利 故 人 稽 傳 先遣 塘 史 山 非 湖 可 人 除 後 此 銓 之 何 其 先 之 特 典 Ħ 書 大 以 山 害, 否 兩 西 八廢之山 挺之家 舜寅 陰二 用 見 生. 生 有 有 湖 則 徴 之存 粭 害前白當 民 理 事中李 諸 師 恐為 驗 寺 利 目 腸 如 نگار 多 德 文 事 害 胃. 縣 而 乃 行 也 今 評 人 事 所 巴 予 之有 界中 詎 之 姦 前 將 事 湖 FŢ 出 今 程 道 係. 謂 来 如 也 可 是 绫 曹 哔 人 盆 夫 基 有 書梓 蕭 目. 文 堂所 修 如 以 刑 而 倘 推 此 田遇 冺

		THE PERSONNELS										بسيي		
	, !		<i>ij/</i> ,	生	青	配	如	华、	鄉	保	山	平	加	人
		進	弘治	之		配乎	نالا	蔽	鄉官	共	舧	古今	以	不
		進士査		功.	山水	魏	未	禁	者.	久	之.	个	王	甲
		致春	74	功. 並.番	利	办	有		£.	īfi	賞為	然	A.	專
		仕 政	年	垂		公暨	不	豪	監有	而不	爲	開	AL.	守
		仕 延 大	族	於		超	甲	姦豪惴	カ	D.	萬	此	享	和
		平大	か	- 4		一趙顏	保	惴	有	瓔.	世	湘	71.	議
		致 任 延 平 到 璋 書	四年歲次辛酉秋七	於無窮矣食憲公	不多下	郭	者	然	識	继	之	湖、	配享孔子之類忠	專守和談三鎮不可委棄
		<b>诸</b> 子	70	户	尖	何	矣.	不	之	繼令以	利	雕	1	维
		書ル	孙				何	不音	-1-	11	利但姦民豪族	雖先生	相	杂
<b>!</b>		日心	上上	忠		<b>諸君子</b> 而	從	調	士皆以	往、	大	<i>/</i> L	九	计
,	' } 	二二	. ~L. ! El	! 心心 ! 八	     .	中ユ	70	1970 1-144	FI TU	化	女	工厂	心	未
			月之	14	1	一	而	攝	<i>//</i>	便為	戊	11	2	至
		可	2	之		m	褒	腸	是	為	豕	事	戏	来
		向	古	质		方	哉	胃.	背	令	族.	11	胙.	, ,
		背		廣此 書 並	1	芳名不	則	惟	爲	令者丞	何代無之	行事中之一	英	廷
		侍	!	背.	!		民	恐	師	丞	代		承	王
		經		サ	孝	磨.	被	有	法.	者	無	微	勁	安
		筵		小	友	直	共	傷	恒	者簿	之、	欲事.	節。	石.
! !		部尚書侍經筵官七		補	堂	與	澤.	其	加	者	不	而	肝義膽英聲勁節照耀	庭王安石不可
		七	•	哉.	孝友堂藏	先	追	生.	修	為	能	蕭	耀	可

## 背評 死 Ŧi. 百七 孫 囲 復 生 奏 Ħ FI 石 全 太 復 外 14 + 柳魯黨 4 Ť 入 吳子 包 4 + 始 亂 + 御 斗 四 納 克 外 何 史 今不 畝 侍 何 七 畝 石 信 捌 光 궲 孫 升 何 復 全 公 毋 御 檻 Æ. 父 中 工殺害侍 受魏 父子 詳 四 孝 半二 寸 是 封 궲 Æ. 不参下 子 云 合. 占 主 湖 -}-孺 石邑庠 英 · 奏行 升 均 田 文 1 占 人 四合 共一 朱三 派 御公 石三 蛸 非 胀 Ħ. 华 九 開 捌 抵 必 捌 富 鄉 復 大 4 蝉 千二百三十 先 也 納 命 考 坔 /舅庠 五 邑 抱 欽 包 稅 絲 備 考 蘇 庠 糧 本 納 蹟 升. 理 毎 糧 生 生 湘 祭 通 原 盐 共 競 畝 九 富 湖. 計 派 (三百六· 山萬死 近 典 田一 九 佃 釬 合 畝 考 臣 鄉 田 孫 聚 全 千七 世 備 得利 共 坬

防 坍. 柋 本 該 湖门 集 復 浙 縣 凇 闁 占 定 地 Ä, 髙 之水水 雞 谷 酒 縣 縣 批 扩 水 dг 酒 木 枞 湘 江 等處提 查 利 瀕 鄉 各 都 巴 江 江. 院 Él. 捌 旅 副 -15 弗 千二 塘 勘 甚 蕭 察 經 Û'n 鄉 塘 具 乞 忍 江 批 為民 院 岸. 議 未 海 起 爱 先 岸抵 據 招 提 4 民 欽差观 刑 畝 夫 水 年 解審 歷 抵 處 蕭 縣 右 嶽 人 按察 代 災 禦 常 典 便 捍 兪 四 典 卷 Ξ 相 山 等 西江 独革 都 縣 民 I 相 江 被 工 縣 奉 都 面 神 詳 囡. 艮 御 視 司 贷 背 被 俢 水. 西 應 江 此 · 嫌致 先 南 水 築 俢 民 水 報、 承 洪水 良 人 史 浙 副 占 山 徐 渰 本 批 許 奖. 築 甚 害 江 使 其 為 湘 具 受惠. 預等 學 兼 宋 由 仕 及 没. 職 仰 及 庭 丁 地 隅 榜 築湘 告本 管 徽 呈 得 依 分 光 高 湘 鄕 坊 因. if 由 宗 巡 官 批 南 為 例 化 奉 水 奉 载. 湖 近 亢 尚 **线** 建等 禁 縣 發本 等 時-因 埂 年 書 親 副 湖 患 批 直 周 占 岸 魏文靖 使 塘岸以 隷 闐 鄉 楊 叉 冮 詴 以 仰 孫 查 摩 亦 岸 蕭 T 救 分 道 徽 龜 湘 官 幸友 + 得 應 沂. 災荒 星 州 捌 民 被 보 巡 五. 山\_ Щ 官 奉本 等復 餘里 蕭 晢 水 捍 要修 *以* 查 田 來 办 親 帶 修 地 訪問 湘 衝 Щ

淋 秘 水 利。治 業. 梓 纵 便 湖 全 串 占 放 ; HI 文 歋 各 郷 标 VI 华 種.膏 倡 涛 及  $\Pi$ 知 年 碷 Th. 雕. 禰 示 水 千 滩 始 有 畝 田。腴土 盐 問 縣 4 KIL! 約 公 湖 水 告 纹 久 朿 增 石 畓. 以 獀 罪 鄒 田.利 官 奸 凉 省 漸 鄉 孤 Y, 不 零 山 由 為 及 盘 官 開 至 繪 科 致 叉 老 21. 民 同 VI. 化 為 七 蘇 湖 湖。 沿 九 設 断 殺 王!何 民 致 種 國 圖 夏 升 米 朝 作 計 害 荣 舜 湖 原 湖 鄉 扩 118 毕 1. 孝 斷 Ŧi. 七 华 居 洪 記 H 占 全 何 王士 有 鄉 Ħ. **h**. 因 华 虚 合. 华 刻 合 畝 思 著 武 舜 抵 韓 民 種 又 111  $\mathbf{H}$ 築 五 鄕 均 寫 赔 望 混 永 石 彻 往 被 買 畝. 秿 被 水 岸 勺 泒 田 樹 官 华 孫 早 华 將 樂 被 往 占 伊 利 坍 名 灾; 偷 豪 立 男 呈 間 宋 九 湖 全 無 因 湖 事 江 千 孝 日 早. 鄉 挖 及 农 华 水 稅 有 縣 田. 何 妣 江 H 宗 湘 無 庭 欲 湖 得 餘 并 競 踏 侵 禁 水 開 豪 准. 糧 湖 行 岸. 奏 作民 辟 受 頃 知 蘇 勘. 占 景 占 又 衝 民 因 杏 盡 具 泄 小 原 行 泗 開 泰 谷 坍 孫 者 知 水 致 田 受 呈 减 九 孝泄 本 畝 全 除 民 勘 縣 利 被湖 那 中 水 諸 禁 湖 吳子 之 湖 友减 買 历 华 戸 利 願 朋 孫 有 湖 尚 治 見 謀 田 事 冲」 田 田 山. 水 ; 將 全 田. 書 堂湖 占 妨 原 2 包 間. 信聞 以 湖 孫謀水 弘 畝. 稝 藏水.

呈 今 奉 飲 15 九 罪 禾 泛 湖 家 里 湖 事一奸 Ep | - [ 利. 把 禁 鄉 淮 栄 Ī 道 数 名 民 是 岸 栎 長 不 例. 該 各 官, 治. 早 前 £ 某. 去 小 隱 拿 虚 殷 俱 行 111 水 鄉 不 綠 因. 處. 乾 民 送 飾.利 宵 免 亦 占 分 舉 掘 兇 人 脖 名 欲 後 **今及** 虢 人 充 官 道. 若 行 作 追 不 更 丁 首 夫 捌 侂 雖 從 华 替 問 許 築 差 爲 修 视 被 軍 併 遇 止 時 将 海 雄 重 但 卷 水 星 陂 九 伆 築 傄 人 追 彻 湖 栽 有 問 孫 凌. 房 告 詳 塘、 遞 有 節. 行 湖. 丁. 堅 堤 摩 禾 先 早 高 占一本 委 栽 年 壯 於 固. 遇 酬 發. 發 兩 誠 五 自 E 平 其 花 樹. 體 月 典 或 造. 種 -1 由 不 某 华 難 恐 占 共 若 不 化 史 去 勞 體 湖 致 利 鄉 免 占 各 救 種 夏 各 處 差、 苦 题 名. 鄒 湖 及 泄 訪 湖 ⊞. 種 奸 聪 孝 收 洲 合 本 得 長 釘查 偷 充 仲 長 漏 捌 先 彻 等 遞 從 田 年 發 爲 和 湖 分 府 出. 通 腶 泄 盗 田 伿 出 华 抛 遼 湖 本湖長 湖 僧 踏 後 九 水 水 同 IE. 事 給 泄 要 荒 花 豪 東 統 水 鄕 勘 利 毎 洲 另 體 情. 退 呰 捌 固 年 孝派 選 間 民. 衛 人 毎 湖 利 华 岸 护 勘 出 水 犯 各 岸 不 示. 纤 占 間 友 鄕 各 罪 孙 JE. 坍 本 曉 問 U 坻 許 充 堂分 倰 土 許 選 周 其 種 塌. 縣 鄉 月 諭 敎 逓 管 占 豪 以就 軍 報 掌 壯 各 分

倶 菜 處 但. 裡本 並 表「仰 賢 息官 占 洲 狀 水 篼 各 亦 所 有 行此分面成公 得! 并 秱 湖 dii. 不 追 花 鄉 17 聽 先 為 溥  $j_j$ 月 按 巡 4 九 罪. 行 本 田 制 許 利 Λ 從 曾 11 道利 非 縣 鸦 濟 'n 鄉 種 名 取 用 声. 聪 如 茶 除 水 占 前 郎 盗 民 Ť 腈 遇 各 具 如 ΝĠ 許 若 房 浸 種 之 例 外 事. 决 提 修 呈、 便 另 不 早. 此 依板卷 問 高 各 恃 栽 一伏乞照 湘 示 專 心。 勘呈 庶 督 逝 E. 亦 致 湖 頑 樹 平 潑 仰 紦 利 叉 甲 湖 奸 修 湖 亷 長 充 玩 其 去 禁 告 經 一詳 豪 蕭 查 堤 同 办 湖. 田 并 軍 各 處. |資灌 法 が詳 地 Щ 議 炭 衆 奏 緣 奸 外, 不 及 若 地 Ŋ 收 聽 俱 縣 呈 改 敢 本 斷 施 **今將** 奸 ш́. 豪 中 方 剬 敢 遞 從 要 侵占 致 詳 ĬĒ. 當 豪 明 行. 紙 占 长 盡 占 年 枷 仕 白. 占湖 繳 去 施 奉 査 種 孤 矣 等. 孤 種 花 荒. 數 鄉 後. 行. 捌 本 湖 査 批 議 除 而 呈拿 湖 利 同 固 垠 官 **令**: 重 道 刻 貪 湘 禁 將 不 H 田. 豪 并 不 本 田. 田 E 罪 楯 果 查 一并 湖 占 孫 而 盗 货 偷 爱 許 遊 考 民 |小|前:完 泄 姑 無 湘 騅 湖 亦 水 占 進 湖 栽 官民 丛 報 恕 和 倂 者 湖 知 測 Á. 水 振 等 水 禾 低 人 鱼飥 之 华 舟 水 不 傘 以 種雀等合 蓋往 徒 致 前切 致

,		 1 - Car		有山水利				給	輕恕 须	利不行
,	•			<b>利</b>					輕恕須至出給告示者正德十五年三月二十六日	利不行舉首被人告發或體訪得出
!							•	-	<b>和正德十五</b>	<b>安或體訪得</b>
1	1			丰					年三月二	
ı				孝友堂藏	,				十六日	體問罪決不

嵩 德惠 害. 業 稱 要以 隔 東 蒙 之數 壀 F. 田 廃 # 家 者 吳 存 ш 水 : Щ = 别 鄝 知 子 璋 男 尚 魏 發 景 又 髙 地 知 率 幾 田 縣 以 10 書 以明之成 泰 省 七 4. 坍 顧 溉 縣 湖 疳 陳 何 鄉 信 尚 湖 手二 各 張 中邑 江 書 水 冲 \* 竸 孫 之 江 佦. 珏 Λ 弘 符 治 沒 民 安 鄉 准. 公 大 伸 朴 全 經 利 以 ブ 畝 致 等 水 胡 理 奏 訴 九 民 化 緣 告 串 放 Ħ 始 許 幸 當 年. 飛 初、魏 此 開 蹟水 四 無 畝 以 暴. 亦 泉 兪 次 邑 其 面 推 īE 道. 詭 感 尚 佼 湖 至約 Щ 民 他之 多 源 郝 曹 被 感 占. 之 明東 原 為 官 欽 人 瞢 高 山 鈩 論 龜 耤 華 差 何 税 奏 齅 永 給 ıŁ 腴 孫 次 告 湘 給 舜 妣 朦 以 處 加 烈 布 全 山 Ħ 樂 圖 Щ ! 泄 势 於 华 华 之德 間作 于 斷 湖 事 賔 雕配 賭 為 政 湖 早 虚 高 水 楊 得 并 李 絽 享 其 記 任 升 田. 奸 水 築 利 来 繼 奏 患 刻 水 仰. 縣 本 起 峻 搆 御 科-太流 民 府 按 有 族 堤、 宋 哂 書 史 官 請 因 科 石 郎 知 疵 利 名 縣 察 中 謪 湖 立 者 孝山 觯 原 樹 之 狻 萷 縣 民 宗 **友之** 臨 占 鄒 九 于 H. 日 孫 李 戍 汪 祠 水 秿 湖 魯 利 成 韓 老 湘 賠 隅. 輈 赐 所 縣 遇 為 溡 名 事 湖、 楊 有 御 私 韓 規 坍 华 庭

初 德 1 變 惟 扛 爲 水 料 낈 明 泒 其 幇 以亦入此食洞田委等按面 莩 水 利 白 水 官 九 廉 妄 利 進 私在附書事<u>整</u>者分占先 **永** 改 司 豪 鄉 意其禁不家幽航巡種尚 利 老 明 証 批 Œ. 横 弘 軫 府 無 此 為列榜載所獨南副湘書 Λ 吳景 泊 并 暇 孤 念 係 梁 去知之人刻對沈使湖及 究 + 將 吾 買 通 取公後幾水澄潭丁田年 Ħ. 諸 串 判 理 栾 縣 矣非而不利湖詩公殆精 卷 鄕 等 放 华 見 奸 民 水 老 衡無近知事懷云沂华及 乾 大 先 人 行 H 瘼 利 河功日此疏往連楊公縣 造黄 湖 漸 後 張而來事雖事山禁以志 沈 拘 先 典 妄 纖 水 廢 鐸 審 賢 文食木係載只梵優此正 科 刑. 侵. 之 等. 又夤 ,大 瑞報臣公丁今宇占青德 遗 肆 繼 扣 田 織而先之副開枕自白十 澤 機 畋 林 耕 釆 泒 戸 痛 民 木生力使里相後返五 主 開 Æ 生 曹 勑 占 江 為 臣建爲禁頌流承撫年 西 為 詭 收 釐 陽 虎 休 **先入多侵极小無許捌** 湖 情 遊 張 粘 周 革 戚 生賢矣占丘坐占公民 潦 絕 堂 市 原 亦酮故杨然踟捌庭吳 具 不 所 正根 告 充 歋 非公補而富跌為光費

而蛙。公 绛. 約 姪、 十 五 存 後 張 者 者 山 蹟 多 性 有 J. 附 非! 化 示 外外 Ë H 水 ふ Ш Пi 11 鰛 'n 本 强 家 青與 牟 入 馬 無 惜 十 懋 舅 水 水 考 利 之者也 鹗 想 此 添 乘 副 何 序、利 進 之三 利 利 其本 所 事 驗 當 書. 而 廵 蚱 使顺 杏 傶 刻 公舜寅以清 跋 畟. 1 然之談 Ħ 撫 足 T 第 而 此 漏 已漫漶字多清寫 四. 分 合桦之乞 蕭 之文章 許公 騎 也. 本 並 失 办 余閒 山水 而猶 給同邑之人今治桑變草 有 朩 近 依 R 沂 張 力 為 異 太 | 則丁 舊本 禁革 中稍 載 次 得以見其大畧者幸賴 利 故 殊 同 史 故 確 之 延平 事 理 明 不敢有 乖 太 如 毛 湘 亦 魏 ) 湘 邑 為 是之語 多 毛 棚侵 先 附 又次 是 及 湖 神 尚 開 太 拔 生 於 止 色 占田 IE. 青劉公璋為 史 調 以定 所增 有 榜 占榜是 之富 先後 尚 建 且 不 好 娱 被 湘 後. 食事 十比 曹魏 地 難 逞 湖 太 禁 大其先 瀚 損 居 絕 而 易 臆 富公之 水 革 不 老 後 返取 無 地 公 富 不 舊 5所著 見 利 没 榜者 枫丘 而 倫 业 理 序. 公 作 溡 弄 志. 其 全後 邑 大. JE. 青 遷 以 机 德

<b>V</b>		DEE CO	وسوده	-											
	以	深	實錄不	彩	等	I	廷	· [i·]	同	游	書	تالا	邑	子.	小
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	深辨、	绿.	紀事者何氏可證者何書徒以多多單詞	等詳	4	延之	恒	同	楊	書院矣 茶	此實不然提學劉公舒嗣記	邑人之	於	其
	1 五.	9	ネ	者	明、	X	胁	手	地。	楊之	牟.	元	之	IF.	最
	-+-	北	赤	何	明今何	1	動兩	福		<del>+</del>	光、	伙	耴	樵	诚
	1 1	生	4年.	Æ	र्ग		/17) · 目	/mg   -シ	10°	<u>''</u>	253	根	E	늄	RG-
	在	然其書衛不敢採入一語以惑亂	亦無徵而不信乎	一面			7	<del> </del>	立保又立主不亦贅乎且道	主以同得道于程	一塑粉魏之像以	TEL.	*	п	光
	1 17	一月	<b>多</b>	-	<i>\( \( \lambda \)</i>	_	i	廷	入上	P   /E	22.	5	11	<b>₩</b>	明.
'	一人	不			· 全	東	多)	也	1	行业	彻	( <b>3</b> )	土	加	70
	八人	取	· 小   此	相	- T	A.	Z	无	玉	進	剱	(金)	大	1亿	从
		休	15	17)	Z		配。	份	<b>小</b>	丁	Z	對	乙	心	他
	1 7		一半、	青、	耐-		·两	後	亦	程	像.	洞	֓֞֝֞֝֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓	啊	思
	色		總	徒	具		戦	魏.	贅	15	以	祀.	こ	育	桐
	人	語.	之	以	星	11.	新	兩	平.	也。	同	---------------------------------------	即	以	<b>é</b> p
	來	以	後	寥	者		舊	具	且	今	有	男云	書	意	道
	鴻	惑	總之後來	笗	何		乏	1	道	而	功	洞	院	為	南
	委		自		人	#	志	民	山山	也今而合之	同有功于湘	7	為	T	書
	助	後	有	詷	降		何	4	1	ナ	湘	省	耐	邶.	院
		$\sqrt{\lambda}$	定	<b>#</b>	あ		生	早	超	則	湖	岩	去	而	VI
		人也	谷	盔	子	1	前	声	南之稱于	月日	ᅫ	祠之前右為	有	盆	何
		10.	有定論不	片語,定	氏父子之附具呈者何人降助者何年	孝友堂	見二劉之記兩載新舊之志何等鄭重	與乎祠之建也先楊後魏兩具士民之呈兩奉朝		同	也	柳	耳目者也夫天下之即暫院為嗣者有矣而	於正德中巴耐德惠嗣皆以意為重輕而欲聲	古其最疏脫者則以德惠祠即道南書院以何公父
			1	足為	177		里.	本	魏公		立	道南	<b>本·</b>	扩放	小小
		]	必	為	一年		何	期	公		$\Pi_{\cdot}$	用	l m	普	<u>之</u>

取之志 資其 灾皇 赭 輯 之為 虚 時 荒 之往 修 卣 乾 1: 蕭 續 高築股 所 同 庿 护 有 讠 示 游 14 凉 水 賴 Ш 刻 志 弊 利 皇 山 生 水 水 抍 知 如 P 來 溢 前 樣 蘆 書未足新 水 其 非 以 然 利赖刺 兹 之虞且 浅 毁 矣 故 志 商 賢 防 山 山 爲 **州賈之走** 利 飽 土 陂 其 如 = 然 則 綖 會 水 以 桑梓 編 Ħ 私 捧 者亦 湖 而 所 土 捍 偺 H 之上 利 矣 次 彙 尽息 漏 時 田 由 處 狂. 相 篜 序 之賢愚 人之耳目余日不然語不 張子文瑞有憂之旣 有决漏 水也不 集舟車 計者盡憂深 付梓又旁艘近 借前賢盡 巵 目 之肥饒人民之繁庶 杭 废 刔 游 灁 爲 憂 沃 於 越 深 VI 傳 焦 之 滂 大 溶 豼 釜 含平居漫不 不 相 然 絡 間 陂 利 嫯 心 特更兹土者或 江 而 釋 暋 反事之壞成 湖 月 為 大 之地 而 E 貨 南 台 以 害 睛 浦 取為續編 旅遊矣或 無 物 蓄流 九 處 則憂 大 明 爲 所及 **浩穰遂** 鄉 厩 盡 小 · 孝友拿 取 後 經 旅港邑始 亦蕭 早 閬 心 富 甚 入 心 相 非沃土 江. 力 孔 議 將 拯 者 公 視 積堤 所 成 道 而 爲 其 為 奴 欲 且 玹 值 轄 壯 行 無 為 意之 所 因 功 热 旅早 也 而

嘆之聲 為憂 長堤 提 蕭 築 者 耳 住 丽 配 E 如 話 僅 起 山 卽 哉  $\overline{\mathcal{H}}$ 水 而 斯 故 以 揽 邚 寧不 番 + 其 杭 不 矣 跡 為 利 替 談 之 然 未 新 入 Щ 堙 年 助岩 乎 為 前 則 川之 西 湖 壀 E 賢 誰 務 斯 亥嘉平 序 鄰侯 勝詩 智苔聞 サ 本 之 過 編 之 成 芝 而 不 文之 為 之六 學 功 出 問 而 灌 月 前 將 焉 世 邑 井 麗 無 農使 採 紙 其 得 春 香 用 同 仙 設 新 安於 华而 山之石 長 得 人 檡 心 而 之奇 千 豊 咸 特 讀 乘秋實 老圃 僅 H 以 患 田 邑之早 賢 函 蹤 畝 权 人 大士女之 題 不 東 禾 而 坡 之志 留 博 無 人 情 奕 愁 勞 心

八賢利記	英生日月長か司佐副使城公家訓	蕭山荒鄉水利論	<b>着山水利翁斯</b> 目錄	<b>西典石塘記</b>	西江塘條約碑記	黄竹山先生上 巡按言西江塘利害書	魏文靖公配享德惠祠記	德惠祠記	蕭山水利補遺	蕭山運河考	萬柳塘記	<b>着山水利敘刻</b> 目錄
:			奉友皇藏			塘利害書						

雲典 錢塘江 骤 鹛 ቾ 邑 行 验界 狠 Щ 狀 而 忘 賀 + 脹 之神 聞 故 兩 錢三百萬 新 利 都 H 山 也 日 丈 四 始 地 水利黄刺 水 朝 林 害 越 涯 者 9 非朝 命 横 莽為 閱 廷丞 被虐 春撞 得 日 셇 東 之間者實題越之新林 **脊之壯名天下** 柳 利 立 亘 月 並 此 塘 於 總 南 積 一之祠 廷之賜 二為遣吏 彌 E 用 為 **船無不由** 記 刻 而 朝 其下豈惟居民凛凛動與天吳海若 — 大都 望屹 松 I 廷 甚岸 工費十之一 方者 役 且 數 所 湖 食為後內輔 苦 經 植 不 就 萬 加 汛 此 址 北 · 其東 天成 翕忽 及 其高 如櫛 念者 度議 **荡無存矣太守劉公具** 柳 途 哉咸淳六年 出其 此 萬 自 **公率** 踰 土立 願 林 而 為 公以力未及石 丈其 海 外 有 所 其地窊以 大 藩令又為 川 書 僚吏 **捍**吏 **敷** 満 M 門分面入長山 以 新 后 效篡 其 廣六丈其長 相 庚午 係 行 之未 去 扁 又 公人规 其志 塘上 帝 費用 뷮 曲長風 日 秋 萬 噪 幾 請 海 柳 亦 麗 畚 8 臨 用 石 以 溢 州 往 浙 酒

太府 能 生聚 名 志 斱 今 邚 銭 岡 水勢 帝 公 請 以 此 戸 他 桂 續 冹 Ħ. 為 £ 雖 Ž 1 百 新 'n 塘 从 .世 ılı 之 朝 旫 力 劘 公 在 焦 済 胜 水 商 之 成 恠 林 故 水之東西鄭定本其常性世治日 1 距 牟 之功 利 L fp 庚 肿 周 建 未 精 直 洶 障 水 水 衝 久 辛 華 帖 午 前 踔 機制 横便 才 彌 都 文 新 根 冽 至 西漠及我 ·未二月 日之西 文 輂 息 哉 之 基 切 定邑未有不因長江大河之勝 石 林案兵屬之西與都 蜂 適 軟 制 頃 險 石一必 無 模基 铁反 Ξ 易 丽 塘 欲 1+ 歲 以益 出 如 水 所 爲 塘之坠級 -守 鋑 1 為 年 庚 百萬多時昔海 朝 性 不 多見於 患 董 塘久 錢 之 H Ji. 子 匪 固 用 如 記 安 際是 飥 其 爾 塘 爲 湖 其 河 西 盛帝 分和不 役 公 計 者 天道 酱 卽 極 决 而 名 者 人共証 尚 也 錢 東 越 然 念 **延檢使** 良 ·城石矣然聞 礻 叅 雖 塘 害 去 典王之 惟 T + 貴 謙 後 賴 小 輂 毎 行 變桑田之 巴 周 P 東 我 官 之 變 志 餘 石 相 都 於 久 嘉 黄任 金 人 時 脳 4 後 開 咫 萨皮里 朝 刖 B 他 華 ア 奏 因 之 井 B 叉 凉 是 人 自 脖 丽 實 鞏 時 | 車魚 宜 丞 之 歴 涯 自 全 地 世 自 业 丽. 復 功 存 何 共 凡 馵

問 + 使 知 里 乾 任 蕭 汪 五 指 湖 屋 湯 九道三年: 連 17. 一并溶质 船 畫 入 山 綱 居 -使, 水不定復有漢 山 餘里 官淳 水利 夜 淤 鯏 典. 之名 学 一人專以 暑 弗 府 仲 西 Ш 寒 熙 教 店 册 舉 宋史開 裏 午 典 得 斺 俨 意 名 入 行 臣育 111 題何 鎮 河 行 日 河川則 四天 開 有 縣 Ħ 撩 通 者 施水 淤且 年中 十三 募 水 廖 装油 掀西 利 古 江 涉 不 乃 汔 兩 運 簽 得 開 擹 主 河 銓 書 典沙河繁街及發桿 通 里 自 牐 不得 西 訢 以 渡 浚 試 江 通 西 樞 近 忘 道 六堰 入 逝 便 為 於 調 密 雜 典至大江 于 勤 流 涂 錢 役勿 鎮 綱 院 江 餘丈 綱運 沙建 於 見 則 塘 江 運 勃 是 盡 從本 民 朱 東 府二 之曾 至多 舟 発 復 達. 疏 司 塞 史 旅 車 皆利 业 舟 列 以 創 台 戸 册 孫 水 宜 達 麥 河 牐 明 起 江 楫 也 重 沙 復恐 城 差注 陸 江 立 兵士 不 以 不 閨. p 脹 通 上面

	新之見澹園集	所聘居恒恭劉龍江草楊時之為人其祠字悉捐俸	田舊各為界轉沒於勢家君悉歸侵疆令豪教者無成民可力耕而巨浸成沃壤矣湘湖赦產補用以粪	使陳者将乎乃創築既之議徒步堤上日無寧趾既	府者且嫁賦他腴田君獎日吾不能	日以次十年七萬余是一大川由胡人而舀日無弗戸科右給事中沈君鳳翔初為蕭山令邑故濱江圩	也見文獻題考談令觀明越之湖田大率即涸梁山泊之策
	<b>A</b>	时之為人其祠字悉捐俸	石悉歸侵疆令豪教者無安矣湘湖故產蒲用以粪	既徒歩堤上日無寧趾毘	他腴田君獎日吾不能令府者腴而可	<b>化為蕭山令邑故濱江圩</b>	四大率即涸梁山泊之策

湖 浑 將 德 ם 共 水 生 湖 之 于 丽 白清 田 地 樂遍 阼 志 東 Ż 家 末 Ĺ 之 惠 P 131 百 势 共 14 高 丰 利 굿 百 ķί 来 六 畝 酮 命 口 炊 木 稔 īħī 德 ë 步 部 楊 者 完 也 以 者 -|-九 者 叉 11 潴 惠 利 Ш 許 艺 加 朝 長 療 積常 其. 水 4 水 楊 謝 提 八 朝 E 秱 文靖 尚 於 贕 恩 廢 湖 廷 官 渦 稅 畝 利 秱 飢 刻 日 廷 部 闏 義 + 昔 景 4 有 乃 焉 從 湘 雖 為 祠 **M** U5 ë 復 下 者 泰 叉 威 湖 因 奇 湖 築 基 公 萧 山 叉 謀 jt. 堤 机 加 燧 脎 盒 恐 罚 蕉 無 抻 利 捐 初 Ш 貨學 延裹入 諸 썯 入 以 窮 南 邑 以為 地 民 公 久 圖 多 及 之惠 產 省 政 Ħ. 復 京 其 亦 之入 民 斡 縣 九 水 苦早 像 和 ż 廢 林 建 共 令朱玉縣 吏 賴 鄉 魚 十 講 部 之 間 欲 預 甫 졔 死 祀 鮮 於 以 漑 祭 尚 之 渀 先 典 畓 餘 如 叉 捌 為 炦 田 必 而 先 漢 修 生 有 書 歲 艮 有 洩 者 里 相 蕭 建 一之子 會 事 生 丞 E 感 尊 雖 + 申 以 久 邑 司 則 14 劉 李 Ä 奉 講 祘 計三 Ā 其 莱 大 四 西 令 驗 祀 稽 孟涛 完 多 劉 民 諂 朋 南 廢 惠 太其 早 所 萬 南 宋 釬 惠 張 萬 觓 修 而 堂根 夜 多 大 副提 竉 拉 而 治 藏潔 利 儒使學 先 潰 꼐 山 品

乞 徒 蕭一郡 僚 答 庭 谷 張 肵 H 者 不 I 而 公 先 守 事 伙 年 B 和 Ш 入 右 書 恋 浙 伯 吊 人 P 公 東 生 民 芝 文 民 仲 갋 邟 無 庠 前 院 後 藩 3. **筦**彭 然之 間 沈 月 恢 素 بالر 中 雅 謀 酮 為 以 述 方 桉 生 李 何 外 彰 為 伯 之 傾倒 宜 新 彭 感 仍 L 以 以 部 令 之 厺 公 質 公 愿 於 去 舜 19 當 堂 鮣 傳 西 而 於 惠 詣 中 畆 疏 親 左 義 公 蜀 濱 捐 今 大 浙 相 恢 胼 承 故 以 其 郡 方募 之泉 耆 弘 四 右 張 俸 耐 慰 配 氽 典 後 倶 郡 誾 事 方 翼 守 祭 具 詣 民 壯 办 以 覺景 子 童 學 以 凊 諣 令 延 斷 達 程 助 匠 旣 道 麗 京 有 平 自 於 先 棆 請 子 規者 悅 以 督 及 所 兩 p 分 陞 古 材 從 為 仰 司 聖 生 釬 业. 奉 制 一從 廂 由 詑 卑隘 衷 肇工 Ż 巡 為 春 道 勒王 游 前 减 公 乃 쪠 公 學 守益力 憲 方 黎力 惠為 諸 之跡 於 賜 日 新 心 秋 賜 爲 之傳 額 額 愈 徐 越 儀 而 其 不 為 也 祭 石 中棒 數 明年 焉 上 彭 吳 學 適監 左 Ħ 稱 命 邟 日 F 糊 公膺 德 公立 當 道 為 謂 為 虞 孝友 央 民 如 前 旣 令 惠 察 六 泡 之趙 維 善 邑 儀 南 從 兹 右 政 下 其 乏 聪 船 御 盛 月 湢 為 時 全山 效 所 以 淝 成 典 道 其 孔 訖 Y. 史 事 官 化

**公貨**南 越 骐 必 峕 極 薦 針 势 大 程 山 H ıt. 何 公公 切 故 石 先 之 溢 石 危 京 夕宜 建 如 京 救 學 非 , 明是 在 申 世 生. 乃 而 哉 山 計 5或者 道 鑫 (其本 惜 JE 斱 薦 方 尤 安 귮 利 必 ıŁ. 也 真 奈 在 積刻 一之德 道 也 國 之 Ż 不 其 m 後 叉 其 引 蔡 之罪與 意 倉 偏 得 公 何 允 舊 然 Ü 緒 所 可 學 學 氏 之學 雖 謂 追奪 德 蔡京 之倡 之 長 見 給 单 餘 固 孔 模 立. 2 事 老 子 見 其 Ē 四 不 大夫三 八之薦議 至 要 共 得 **無** 其 出 於為 於 中 成 方 能 於 0 範 (含蓄廣 路 於 Z 地 建 Ŧ. 亦 佛 瀏 朝 朝 以 推 凂 皆 裁 邑 陽 河 明 鎮 爵 非 特 允 維 肸 Æ 公 重 决 不 耶 不 罷 以 也 之名欲 餘 旣 名 廸 持 公 且 洛 因 之京 能 使 京 公 答 况 且 杭 **希** 大 褒 可 使 如 配 而 造 高 崇 專 棄 當京 皆 傅 當 享 薦 為 張 謂 此 疑 止 麗 骨 有 詣 之 扎 往 使 經 豫 時 之 其 也 秘 問 記 能 章 久 頮 子 及 書 其 其 言 用 晚 得 遺 理 精 柳下惠 年 惠 國 志 委 出 郥 深 羅 丽 凡 力 人 世 何 办 所 排 王 觜 祉 之 之 於 在 務 觀 吝 國 氏 則 剘 年已 育王 京. 時 援 出 天 民 如 YX 論 闁 其 為 和 出 危 燭 議 公 惟 燕 列 在 展 不 而

> 實是 悠久 古 正學之 並 矣之 激 伵 拳 開止 楊 而 千 代者舊 役 厲 然前從 謝 秱 氏 · IJ. 水利邑 三子 也 ilii 邓 穪 Ŧi. 者 闢 以 西 南 讀 及 云 脉 府 向 發 登 其 伊 癖 自今 民 朱 斯 長 赫 道 於三百 其 寅 老 川 知 面 先生 進 事 湖 白 洞 **刺** 秉 成 書 賴 7-復 自 湖之水 朱海 瀟 以 孰 其 歐 僑 其 德 公 名 好 子 者 赡 餘 行 以 鄊 艋 自 Щ 秱 不 | 驥 大 帶 之仰 傳 祭 嘆 程 德 '年 文 典 欲 之心 之後 高 サ 延 19 字 使 其 者 利 衆 章 日 功 平 今 魏 哉 惟 仲 南 可 公 皇 視 Щ 歸 之請 之廟 之學 賢 不 有 公無 景 蕭 亦 房 驛 也 团 上 稱 併 考公之實德實 行 明 道 大 꺠 Щ. 南 而 之思 慕 公承 者 道 從 愧 춁 運 祀 食 以 眳 交 大 奏 崇之者 之在 其 其 多 臾 河 殆 崇 而 盐 送 心哉雨 之有 流 奥 别 其 始 默 兩 經 不 僑 郣 號 事 其 末 夭 天 程 於 重 倜 其 則 北 為 地 道 者 瘠 下 之 異 吾 行 來 堂柳 先 前 後 時 夘 相 之 故 榆 端 道 世 則 典

生 徙 <u>v.i.</u> 書 部 北 文 着 完 队 加 民 北 gn 七 高 秱 站 遊 俞 椠 告 炭 勿 惠 逋 ---致 許 Ш 秋 他 141 久 所  $\dot{\equiv}$ 縣 公 尤 風 得. 方 Jt. 11 木 以 立 公 四 下 內 猦 遺 廷 Ż 甚 點 利 女 潮 修 百 个 **尹** 圍 秋 為 浉 115 築復 寒實子 臣 民 冒 1-殺刘 里 吉 縣 皆 þ. 築 衝 湔 私 鄉 【感公生 議日公初 1-第 辭 歴 入 餘 老 队 景 Ł 淝 脎 Ш 办 完 营 海 聖 縣 4 舊 入兩口 羊 那楊 俞 浚 配 泰 國 塘 畝 學 享 歋 境 改 朝 治 鲁 憂 碑 坡 居 前 非 淹 抵 成 及 Ž 湘 民 德 稔 作 亓 -1-掮 形 油文 殁後 苦 内 观 舊 湖 省 堰 於 Ľ. 避 芭 化 1 民 頌 劉 杏 銀 感 場 規 入 分 水 外 福, 湖 T 人 海 有 畜 魏 之議 亥 溲 早 世 學歷 之惠 大 共 申 際 勸 無 過 十二 文 干 恵薨 有 E 田 率 塘 於 風 廢 洧 宋 浪 合 禾 七 官 障 背 年 圻 法 則 政 任 橅 司 十篇 備 中 處 應 章 安 寒 後 民 栽 利 和 衞 久 办 百 没時 外 港 歳 子 除占 柳 民 及 Ŧ 劉 餘 失 沎 ŀ 脈 民. 悄 綿 請 歲 於 清 恤 顆 於 孫 胵 法 蜐 九 辰 网 大湖高 吏 堰 鄕 粒 預 珝 塘 添 Ł 龜 適 如 同 慎 士 韓 水 無好 果 德 請 民 之 臨 使 集 ! Щ 法大 濟 繐 詞 患 致 其 楊 權 田

爱 将 有 졔 愈 洪 之此 令 侑. 堰 之 小 ΙE 職 云法 旭 'n 蕭 山洞 資正 德 知 保 君 有 大 禁 從 塘 以 遊 龄 在 以 之旨 有 葉 宣 邑 剢 天 垂 所 之 所 行 進 水 舥 滩 近 施 慕 之 下 -베 메 利 請 倡 农 退 大 夀 不 文 *X*: 之 人 之 其實宜 莊 争 章入 存 請 19 率 從 致 自 朽 止 民 續 膧 ZL 也 容 學 位 有 問 如 惟 毎 則 部 修 海 þ 人 纲 公課 築 漢 公之孝友忠 談 動 生: Ł. 旋宜 3 좟 體 歷 信史書之 徐 混 承 平 仕 故 水 以 展 汣 君 未 之 日 者 灦 也 鄉民 公事 二君 晚 羊 康 累 事 歸 甞 患 公 叉 魏 作 水 休 侵 溥 自 云 験 主 利 為 酒 裕 朝 不 感 述 顧 入 官 皆 能 憂 有 膇 林 羈 纫 緬 叉 以 惠 信清 斯不 尤悉 於德 要 登 之 下 公為 惟 公之德之 秋 能 非時 禦大 司 以 特 官 風 入 點 楊 以 鄉 以 給 察 足 修苦 釆 彪 灾 惠 胮 員 公 俸 翗 師 柳 民 發 龜 嘉 + 鯀 勅 以 以 外 立 法 能 准 列 明 赡 御 JŁ 山 深 盡 史 之及 獘不 鉃 節 是 也 捍 入 於 之 湖 云 心 丽 迨 及考 梁 文章 徳惠 特 堤 EL. 卿 愈 光 公之 長 大 楊 而 孝祠 得 以 記 閗 志 妨 懇 時 遺 里 明 友祀 出 患 之論 育公 請 壽 NE 車 於 夫 孫 之 醇 爲 家 仕 則 菌祭 駱 迹 報 心心 商 學 壻 切 祀 載 法 略 闢 居 届

			新山水利·胡州区 李友生	集理學正首水科与罗等書稱为世之	孫作平齊記以紀其實所著有松江志南齊集素履	尚書原自出鎮兩浙取書天務平格之義尊稱為平	而替之公字中易勿忧好居又就前廝晚年門生除 德惠之實耳蘭山令宜典吳君夢求為之記故不斷	これに いっこう しょうしゅうしゅん とうしゅうしょく
n -	 	 المعدد		!	、人	平	<b>永</b>	Ė

北海 之西江 有休 猪家填南 也傍江為縣堤東南自此於十四都臨浦而至四都 切 衝其 Щ 東 山東西六十餘里所以禦大江之湖在縣之北謂之 叉自北 浦 浦 也受諸暨浦 分水之水自桐廬入皆東注之漁浦之南則縣浦 金華溫處之水自蘭 新山水利 賴拉 則 E 叉 而 流龍游經 息故左 窄監而不容泛濫而難洩此上江之不寬水勢 害一也大江兩涯相去一十八里江面汪洋水 Ł 在其東南轉 合諸好山水曲折而北 滙於錢塘此 塘皆沿浙江為之也浙江上流益自三衢之水 塘 延按言西江塘利害書 山 而京准於錢塘是請浙江蕭人子為大江 地方紹典府之西北 北 江至四都則折而東矣故自四都而至命 繭谿 四十里所以防上江之水在縣之西謂 右游波寬緩 江義烏之水經臨浦積堰而北注之 屈之間此江流之曲逆水勢所 上江之經流也其所受支流尤 聚州桐產富陽直 谿入敬州之水自嚴州入新 而 不 经四都西北十餘里 隔线塘江之東 **<b>延上江之面不盈** 抵蕭之地名 当 黄九阜 孝友堂 · 雨演 竹 山 則 漁 必 江

前 被 藩 西 水 激彼 以 此 业. 水勢 遇 駟東 湖 去水 山 浮 北 可 Œ 小 經 在 潮 此 山水 水 大 自 伯 V 通 江 梁 1 蹠 信 而 漁 際 此 信 奔 風 下 無 所 金 必 一之害且 · 氏無洞庭 其 耕 戴 浦 浦 芝 江 迷 怒 湖 駕 幾 必 騰 而 中 也 公 在 麻 加 西 號頭刻 趣 水 濤 上 杌 其 而 温 琥 惟 縣 東俯 龙人 相 溪 北 漲 有 其害三也 朝潮 柦 來 東南 是 之勢惟 息于 有 ළ 小 十 江 升 二型着 臨 守 碃 江 謂 之間 府在 餘 塘 彭 視着 Ŋ 而 浦 鑫 之反 堰 船 里 兩 縣 小 無 里 汝 之 小 典 涯 江 東 乏 應 方 江 山 以 沸 降 胡 恐 Ш 在江東南地 北 皆 卑其 山 見 東 北 者建 之西崇山 滙 湧 山 ボ 脖 山水 不支然山 為 斥 漁 Щ 江 至 入 則 \* 水 1 而 浦 為界 三江 大江 (害四 之 限 函 會 必 丈 铙 有 信 至 之南 之地 有 ( 塘土 因 蕭 然此 猶有 梦 初漲 加 收損 蚁 素 入 岩 Щ 也 衝 古 而 如 水 夫 通 各 崔 海 륈 潰 落水 頄 不 自 也 地 幾 無 排 何 噴 葦 縣 **桑浦** 泛泛溢 有 相 大 初 上 西 形 低 U 凡 山 李友皇 堰 ż 之 洪 江 Ĕ 之 江 之 瘽 上 而 逸 而 遇 田田 場 成 在 之 港 江 江 能 塘 高 霍 枕 侯 於 下 下 勢 z 洪 小 可 化 縣 岩 海 衝 面

貴 為 有 之 考工 蕭山 湍 又於 水不 五 而 流 恐 之 而 丣 引 丽 沙 高 坍 南 仐 移 溶 漁 流 潮 江 槳 也 功 兩 受 即 沙 混 Ø 漁 濵 江 滌 浦 水 蛟 譝 也 涯之 水 得 合 浦 利 之上下 此. 乃 為 哉 不 之 此 浦 急 H 小 海 碛 而 由 江 尤 五 地 在 漁 知 堰 則 善溝 斥 江 ïL 之 為 小 而 之沙不 書 錢 區 拳 也 凡 塘 自 浦 鹵 地 居 江 北 受累基亦 優被 拳馬 蕭 自 塘 以 幾 然 者 75 使 傪 者 民 曲 而 貧 磧 漁 質受 民 縣 水 今 是 樂三 大 自 下 下 民之 堰 浦 뷜 附 境 能 築 水 囓 民 H 衝 以 漁 其 今 為 壊 如 沙 乏 居 折 江 為 臨 浦 以 旣 \_\_\_ 開 之 久 陪 數 善坊 西 涯 日 朝 迡 浦 矣在草者今來用矣 小 柘 Щ 쟤 面 之 米 所 矣 江 江 徙 1+ 囓 林 會 囓 江 人 國 而 流 為 謂 是 了 年 去 夾 麻 大 杒 而 去 者 西 之風反 西 父戴 以上江 患 洪 東 來 以 逢 溪 Ħ 新 無 水 江 北 江. 葢 流 紦 癀 水 蕭 由 刹 江 Ħ 通 潘 福 壩 立 一緒小 甞 公之初 嘴 築浦 而 之 極 為 漸 之 患 拖 山東南之 使桑浦社之 是 一洪流 孝友 訪 在 戴 巨 基 東 俗 月 從 M 桑浦沿與 之 丠 公 浸 洗 此 所 南 呼 謂 江 江 豈 江 者 之 其 為 亦 里 戴 决 堂心 滋 為 陡 上 水 米 徙 知 册 惟 甚 囓 盐 水 ! 利

西 坦 榆 客貨 乾川掘 貨 以 浦 KA 為塘 射 遊 之泉 B 华. \* 入 古 有 江 任 化三 麻 柳 利 者 15 拔 福 Ľi 2 覹 內 塘 之 勢 之 公 浪 Æ 飥 商 ŻĴ. 塘 场二 外 也 急 彷 之 脖 看 家 将 塘 渦 也 塘 刖 刖 X 古式 発經 民 凇 古 從 削 套 也 渚 在 滔 不 面 十 古 塘之式 於 樵 楊 鴻 處 於 夫 居 港 揩 天 去 抵 有 五 歷 野後 ŀ. 土 丽 源鄉 也 塘 家 湖 禾 以凍 私 何 塘之 - 恐 Ë 不 當 代 友 ÷ 浜 固 迵 都 脐 為 里 柴 굻 塘崇廣 雖 增 闘 ۶. 业 之次 則 雨 無 之偷 平 田 以 **處凳** 高 久 知 在 法 磺 之 便 氽 倪 W. 髙 耳 但 尚 其 = 彩 盆 堰 西 後 松堰 袻 知 甁 玩 żĽ 汲 丈 以 有 江 家 歳 之 飥 始 則 壩 流 引 也 西 朋 準 也 基 巨 之西 開 存 白 有 久 數 肺 A. 賏 亦 漲 恭 江 沈 石 淵 79 柴 不 焉 水 此 蕩 水 1 !有 溡 則 而 近 岩 輔 Ŧī. 都 如 後 為水 之 薪 木 廢矣 塘 套 修 漲 不 窪 以 之木 地 古 漁 丈 大 碘 箪 大 灌 高 从 丽 江 至 顧 其 浦 注 後 馮 水 渔 信 不 尨 B 此 田 孝友 用 削 塘 逦 Y 躨 是 Œ 格 Ż 之三 浦 患 凡 丽 面 知 為 塘 崩 水 禾 + 2 皆 丛 樹 4 計 後 . 出 茍 堂遇 以 至 矣 掛 消 幾 Ŧi. 臨 出 盘 所 江 此。所 入 Z 涓 辦 通

言告 極 無 源 年. 騟 損量 流 叉 勢 以 應 久 : 山 撤 前 矣 奈 始 抻 排 大 入 塘 渡 宿 閉 ш 蝕 Ш.: 者 7 不 懼 得 則 諸 此 修三 然 我 為 水 五 月 点按 亥 開 海 會 空 而 和教制 農 水 官 為 蘇 百 自靖縣 是 虔 難 Ξ 入 多 道 而 息 + 張 矣是 十志 叉 自 丽 塘之蠹者 開 湮 縣 䝙 蠢集 巴 入 Ι. 不 為 入是 入 不 水 未 也 痰 沙 肵 漩 不 gp 正 華養夜 門二十 量 + 德 加 知 計出 而來 水 至 年為 本 我 民 徙 催 禁 水 二年癸巳 巴 之 之 巴 以 府 我 巨 不 凡 鄉之害 Ξ gp 不 無奈 疏 草 處 桑 莀 知 之 亥 江 也 偷 經 首 大 篤齊 罪 惟 為 人 脹 內 入 刊 蕭 捌 湍 凡 水 則 洞  $\dot{\equiv}$ 河 魚 漂 心 哉 尾 也 山 此三蠢 雖 江 水 入 必 雨 湯 懈 地 剛 决 之 賴 鷩 泊 江 而 三蠢 去 塘 文入 嘉 水 此 公 陡 我 勢 二十 以 北 者 L 而 丽 单 梅 靖 僡 能盛 PH 办 海 移 不 當 而 水 Ξ 今年 塘 畢 幾何 守 年 舍 而 洪 水 置! 而 流 屯 雨 元 塘 長 縣 從 年 生 L 泪 遂 水 許 水 有  $\equiv$ Ш 不 丽 之書 內 六 郋 振 之 水 知 哉 為 家 所 連 溺 會 使 孝 大 江 月 出 而 丽 **抜** 堤 再 惟 我 茫 滔 大 鉄二 城 年 入 發 歸 准 無 水 不 不 無 Ż 陡 士 堂防 也 大 始外 時 天 桃 紦 敢 一女 垠 决 漂 多 水 易 建門

漫 别 矣 恢 11. 腐 為 作 邑 功 垉 不 迹 繼 公! 交 永 煄 溜 盗 來 1 赮 樣 足 外、 棩 淫 是 可 而 ili 4 Hil 落 抲 沮 秋 枧 以 動 1 VL 辦 尹一心 前 塘 塘 水 熖 祈 之 有 1 為 非 利 慮 江 空 無 洳 + 塘 措 厥 湔 旗 覍 續刻 傸 見 都 疫 啼 之高 無 T. 托 成 不 餘 巨 高 加 憲 垣 Ш 降 意窮 哭 塘 疾 買 股 空言 如 防  $\Xi$ 副 塘 肵 艱 愷 不 畓 一丈不 之聲 Ŕ Ž 繼 悌 意 也 7 蕭 廣 业 넮 難 蔽 宅 大 插 之 卽 進 乃 民 公 粉 Ę 民. 不 而 堰 心心 幸 家 Ħ 士 公 乃 沂 而 14 難 [p]足 如 銀 治 架 幸郎 等成 愈憲 民 欼 陞 其 舍 凖 保 無 無 而 古 於 錢 以 播 座 當 折 儲 和 式 有 豊 也 秧 罪 於 北 四 檠 未死 分般 蔡 其 江 年 生. 墳 種 嗣:繼 石 P 預 江 限 īfii 失 之 息 脹 之 公 塘 E 野 忘 盛 期 補 督 後 共 貯 面 水 乾 無 需 也 水 弗 撆 靴 塘 責 丽 「張」 心 釆 瑘 青 待 촹 成 謂 崇 其 必 俟 事 一年 也 山 狼 相 雄 1Ks I 草 哺 無 杂 書 券 役 之 之 陰 基 葬 繼 廣 選 民 漏 Ż 俟 西 之 **先朝之** 服 嗷 |非 誰 浩 後  $\pm$ 人 -Jī 來 猹 丽 成 生 嗷 不 助 督 食 亻 不 使 無 非 侇 樂 濶 民 煩 之 月 Ž 基 鄊 皆 痛 永 カ 非 聘 於人 役 拞 水 塘 然 坳 数 故 挽 利 批. 15 相 赴

Τ. 故 書 塘 湯一坍 水 毛 西 以 : 同 析 江 山 ŻΤ. · AL 賴 江 無 役 日 會 蕭 业 閘 塘 之前 疏 仮 == H 江 T 机 塘 之集三 不 水 Ξ 之 塘 波 所 必 夫 Ш 體 縣 Ш 所 水: 利賴 利 費 决 俳 何 患 是 從 會 护 縣 惟 不 山 防 劳 應 害 朝 之 以 當 如 陰 江 輕 朋 能 力 所 漤 者 會 捍 下 做 民 助 毎 而 辭 合 由 江 及 科 办 蕭 山東省 相 不 在 流 閘 蕭 P 在 心 稽 海 來 Ξ 也 糧 永 基 蕭 共 亦 因 山 Ł 也 江 樂 也 山  $\equiv$ 剧 水 而 漁 伕 竟未皆免 西 本 I 而 俯 典 縣 闖 而 非脈 水 觗 Ш Ш 從 江 不 A 椞 大 民 流 患 會 在 未 之 亦 連 故 念 一而 之 暫 连 事 民 塘 不 役 年 之 服 斯 功 通 所 山 助 告 費者 山 會 近 民 我 費 以 欲 爲 办 庫 由 民 本 而 小 會 洩 將 開 蕭 之 授 行 之 小 泰 往 同 助 存 同 江之 唇 不 窮 地惠 其休 地 江 Ш 之 此 小 理 彼 西 I 七 大 夫豈 旣 之 糧 彌 肵 里 塘 來 地 江 未 而 江 书 幽寒 塘三 新 盗 利 寪 各 罔 利 凑 縫 相 銀 蕭 移 然 山 非 害 不 漲 天 效 山 為 抵 應 兩 Ź 裘 會 刖 地 情 其 E. 縣 可 水 辨 酉 之 偃 相 也 大 破 之 葢 田 而 肵 能 |倩 事 因 利 近 江 典 年 年1受 而 請 2 必 事 上 西 亦 在祭 西

流 浙 堤 理其事 胃之腹 滿山水 勞獨責之我蕭派戸抽丁稅畝徵役累年費以數 石 選 而在 計 實計築塘之費十不 熟名 ,漏處夫役之數也躬往償之叉用楊柳暗工役不 解風雨炎嘆以節用土石實其中之需皆取諸田之係塘者他鄉不及也三 Ź 石邑 然耗 者惴乎有 潮 磊 往 衝 東 西 根典土 石 築 勘之週廻 利推出 毎 注 江 以捍水患而随 時潮水盛溢塘之不 中青老德行素優才能練達者 也 塘仍虚也患坐是弗能止 於侵漁者十之三沒於包頭 春 為 塘 簿恐其怠也 於是悉除 患莫 條 石 魚鱉之恐迄無寧歲患 潮 約 漲 巡 相 雨炎嘆以節用土石實其中稍疎則 發 大於 碑 閱者數 維成久而 則 得二三焉夫以不 總管塘長 西江 怒囓奔潰民之 孤畝 則限夫磊 四乃喟 山 絕 供役每畝 根 如 固 與 岌 海漚 後侯 大包 然獎日惠不在 部 總 我 測 益 主 操 先捐 分侯來 蕭 來宗 蔡三樂等 孝友堂 貲之財 攬者十 Щ 也三樂等 銀 石即 無瑕旦果香 頭顧役等 會均 四厘 西 道 **貲買竹** Ż 江 而 築 而

完闕 有 旨 春秋 之委 事 始 都 內学十 令撑駕不 木 加 之西 募 衝 尴 省 弗 至 山各 患 於 畚 長 金 烏 於 夭 都 典 鑚 鍤 夫 買 池 任 各 水木 用 江. 以欠 并責之長 都 夫 微 前 啓 以 七 其 £ 有 力 得 利花 項 得 至十 夫一 利里遞 得 功倍 四 開 息 人悉 家 者 人畜之並 者今悉以實塘無 七 索渡 黄 芟 **填為田** 年三 빓 并以 以 鈌 而 一二三局坐 一名令長夫 創 令 入都三量四 給之 大 規 於 一十二十三十 昔 塘 m 書 月 魚 一為培蠹 大許令 春夏池溢 長夫 廿 督 顆 百 丽 日 則 向 上草皮及牛 之由 粒 之 四 名 免 小 侯 其個 侵 修麻 督令 且 為 親 H 4 門 授 量 禀 絲 欺 而 · H 止 H 凡 不 毫 胃 濫 四都 **| 突**三 溪 夜 之者乃復舉 即 I + 現 處 上 用 辟 田 倮 永 践 :無痕 十畝 事 勿九 里 巡 塘 現 之 傪 都 守 樂 虚 没 舉 於 均不受塘忠免 泒 人· 視 里 圭'和 稅 一孝友堂藏 三番 夫 務 六 冒 也 五 也 數 肵 踏 其 Ŧī. 抵 可 千貲化 其 役 自 察 便 凡 月二十 造 成 十 分 作 噛 皆 七 其 義 业 痕 坦 名 捐 瀕 I. 田 皆侯 都 一初 都 堅 心 渡 商 處 食租 貲 塘 毎 為 競 E 脆 塘 則 Ŧī.

COLLUMN TO THE REAL PROPERTY.											
	塘事故想	南山水和	費以勞五	後之今五	染池之山	逸而山命	以青之巨	石不過女	六十四五	七局五十	孤其役女
	塘事故得僭言如右	新山水利 領刺	費以勞否民侯之功洵與石俱無飲矣子予民智知	後之令我蕭者胥安享其逸固不如前此之侵役康	築池之地鏡石以記其事 甲各里燦然相為遵守而	山自均沾其利矣功效之日聞邑士民禽然於	以責之長夫然後塘有實功民被實惠不獨我蕭永	石不過於小小好除處界為補塞而四時不虞則桑	六十四磊石如之而輪修諸夫更不煩破一竹帖	七局五十名輪次固井井無紊也凡用部八千四百	孤其役次修則起於十九都四昌止於二十四都下
	/H		切洵與石	女享其逸	<b>化其事</b>	利矣功竣	<b>西有實功</b>	<b>原處畧為</b>	輪修諸	四井井無	八十九都
	,	<b>-</b>	俱無飲名	固不如前	各里燦妹	之日閏品	民被實車	補塞而四	夫更不煩	紊也凡用	四量止於
		· 孝友堂藏	入 子子民	此之侵	於相為 遵	士民身	心不獨我	時不虞	破一竹	一个 一	八十四十
		軍業	智知	役糜	守而	然於	肅	則縣	一	百百	那下

在 史 升 蓝 邑 艮 故 ìL 郡 P 竟 更 渡 Ш 鎭 盖 上 娳 雷 徐 居 若 馇 建 江 敝 iL Ħ. Ш 顶 無 晋 山以 為 솄 昂 凛 被 两 関 塘 令 辦 紹 1,3 L 指 冱 IIIL 越 亢 % 此 倉 ["] 海 典 典 授 ,使! 1 帝 火 會 數 其 分 以 25 以 流 利 任 食 果者 安 水 塘 障 H 鎮 丽 郡 石 籍以 Ħ ŀ. 丽 稱 半 起 於 塘 俥 刘 بالا Ż 狀 家 海 黃 其 Y, 不 机 袻 浙 故 鎮 事 1 不; 鎮 便 余 江 湖 Ш 部. 塘 公 居 可 庶 今 名 足本 业 且 힗 六 幾 譲 縣 剕 居 B 壁 山 之 固 下 漢買 ·藩称 浜有 大畧 及 再 達 西 闊 垒 烩 陵 立 取る 開 Ш 河 至 於 陰 以 + 樓 總 請 會 於 月 中 虚 郡 害 胆 音 朱 基 而領 於 會 可 ılı i 稽 越 臣 亦 一件 久 者 宁 越 陰 L 稽 平 君 II. 郡 安 以 稱 崻 I 及 溠 運 會. 而於 基 泉 爲 竣 幕 故 以 此 Min 西 决 河 夫 越 東 郡 檐 又 陳 稽 各 利 鎮 副 滷 田 守 莈 典 杫 復 策 以 臿 生 南 **令** 郡 人 蕭 不 也 也 修 錢 集 聚 狐 蕭 縣 膅 |險 故 無 則 山 利 戸 江 守 金 都 君 丙 僷 丞 入 教 指 錐 H 鍡 塘 走千 也 田 良 肅 被 會 抻 海 Ŧ. 畝 佐. 余 女人 訓 議 戍 爲 河 無 幹 大 £ 銭 全不 笙 液. 樓 不 於 塘 削 鎭 廿 也 兪 格 是 決 余:典: 滿 4 年 西 刑 無

涅

純

守 之 氽 犁 馬腹 冶 胡 萬 朝 常 肼 事 贖 éb 也 而! 相 蕭 央 旣 É 此 之 鈒 下 多 而 則 儿 不 而 侳 工 洪 Ш 芾 守 於 郭 鋑 子 求 不 水 數 登 N 捌 事 事 办 並 -哗 面 岸 令 氐 蛭 氏 4 半 錗 抻 游 及 祭利 贳. 之 淪 湖 功 日 凇 故 波 之矣 役 丽 뮟 便 氏 流 Ξ 湖 可 五 夕 功 Ш 纉 功 推 流 大 來 庻 塘 潮湖詣 倍 嘆 塘 庿 俈 民 刊 時 K 春 夫 林 是 肼 皋 之 所 踰 以 木 退頭 難 極 或 人 以 者 力 Ŋ 矣 抬 也 Ÿ. Ż 判 矣 鍎 暑 不 溡 娰 他 肿 何 氽 國力 之 下 石 2 烈 令幕 而 漢 V. 其 不 主 則 余: 郡 役 非因於 长 有 周 以 也 317 至 應 緍 則 事 ]\_ 廷 功 文爽 各可 然 客 **今天** 力 捐 溯 之 那於 有 名 倍 農 丞 胂 选 低 他 隙 日 何此 身 數 朝 簋 ,曲 事 功 得 邑而 故 氽 徊 下大 百萬 推 公功最著 倍 半 解 成 サ 橇 棋 突 者 育 之 也 而 噗 禹 不 者 謂 之 樺 消 徒 功 増自 言 文裹 雖 而 加 4 待 患 陵 經 重 挾 縪 薪 易 語 越 洪 鞭之 不 営費 华 肸 聍 在 廟 下 則 知 而 也 1 焦 孝友 汽 於 充 忍 木 頭 者 失 越 苗 周 殒 有 以 長 以 宜 去 中 時 自 裔 赘 其 端 此 不 便 面 者 不 德 上 歷 堂 左 射 為 後 在 是 在 宜 勞 耳 塘 盈 久 命 宋 闐 如 及 平 有 越 括 湖 及 錗

大 奺 喻令之守 事之 幾其 守者 之守 之役基 翰 泂 銭氏 全 卣 江 八費 期 年 爲 害 警 Ŧ 河 地 武 Щ 西 亦 若令 臬 定 兩 1 弊 事 · 宋余言為 业 有 典 夫 令亦 於 察 後 数 廸 月 有 萬 及 固 副 人 利 址 机 蟣 ·肯任 於 唇 Ą 侢 有 塘乎 百家 Ü 日 + 郡 而 Ą 說刺 以 Ti 後之人 次江河 無 按. 公名 千 類 不 狀 江 助 狐 而 越 **《以故** 心記余 不然 事人 且及 有 能 涒 為之 此 奚神 <mark>蟻</mark>穴 上 浙 居在 好 奇 者 而 名 名 直 也 之責也文法 故記 也 之戒毋若 其 余 忽也 身任 河害且及 事 禮 余 令 至 I. 銭奏 即不 辮 妹 故 恐 槐 固 典 塘為丈三百三十 Ü 而 後 )費或 之矣 令江 孔 藩然朱君 安 於 此 不 往 則 P 낈 萬 子 之視 能 有 以告後之守令而 人 以 萬 E 曆 無事 時 不 語 不及河害不及 郡 清 W. 此 不 唇吻 荷 計 十四 按 役之廹於 臨 此 蟻 日 而 戎 使之言鑒失 為之也 蟻 甲 不 欠 於 攝 名 浙 流 塘 效 我 緩 亦猾 穴不 水 文 至 年 丽 忽 萬 有 一李公 旭 無 目 嘆客 利 科 十 者 而 亦 與 有 奇 江 今 塞 前 者 月 而 錢 刖 今日 文 將 名 且時 拿之 赦 氏 郡 郼 成 因 也 分 所 日 部 囊視 成 於 及一諉 庶 塘

蕭 諸 Щ 執 水 嘉靖甲 事 聞之即 荡 蕭 塘 民張本 面廣六尺壅 僅 没 石 海 利 內 居 申 內 )久然未 為汗 枨 舊 河 者 潮 積制 稠密 文云 タ 地 山 碑 餘 漂 舊 Ť 基 田 勢 干 衝 萬曆十 徬徨 在 自越 **蚁**百 基 子以 志 池 崩 餘 激 滔沈良臣等呈稱本鎮坐 陰 萬 山 及尺惡乞 英 其 丈室 悲 會 而 交 日 以 木 西 號 餘 可 潮 舊 走 協 東 內 宋至今 誰何 沙土 沙坍 塘以 廬 典 勢湧 滿 視 廬 助 文 四年七月十八日據通 地 介 令劉 果 故 秋 衝 前 人 原有 潮 官 壊者 萬曆十 而 內 皆安 進 流 見 事 拯 U 塘隱 巷 沿 會力 枚 來 撼 世 徙 桑 以 漂 至 堵 田 江 垂 民 數 風 石 准 載 隐 龙 四年秋 塘石 **浪**酒 · 孝友宣教· 特學學雖 野沒 請敗禁石 蕭 入 永 命 百 近 趙 チ 起 因 帶 並 閒 p 山 且 久 一 臨 彦 天沙 舊 滄 波 等 查 即今 鋑 如 僅 膈 為 栳 有 潮 長 海 震浪 情 錢 塘 媈 石 浸 地 沙 河 民 夘 越 灌 口 縣 擊 建 民 冼 縣

厥心力也巡撫溫公開于朝許築石塘	惟有台臺在若知縣州奉令惟謹不敢	則庶幾可濟耳主持力議周文襄公之	各郡佐之或依三江樂閘近例以各縣	重未有不仆者也合無依昔海鹽築塘	毎歲錢敷幾何以此與作責之一縣力	兹土目擊民與鳥敢自誘夢蕭山疲飲	鄭僑刺川梁縣而單公議知縣聞之矣	重省理之而後能勝其任哉自古徒杠	新国 <b>***</b> ********************************	生盛之計又保干百年長久之規必德	<b>亚臣奉命親督豈非以此事重大既關</b>	德間復遣都御史周文襄公忧當是時	初兩經修築洪武間會遣工部主事張	謂此塘始于錢鏐氏用百萬稱乃成又	倉卒即欲一一遇度之未易也但訪之	知當若干具工匠徒役不知當若干人變	旦幕宜為石堤者約有五餘里灰石椿	區即山會皆吾路國之冬矣計今要害然處
石塘其制	不敢不殫	公之事此	各縣佐之	<b>桑塘舊以</b>	縣力小任	披敝之邑	乙矣僭食	<b>延杠關而</b>	孝友堂藏	必德位隆	既期百里	足時特以	爭張傑宜	灰叉詢園	<b> </b>	十人 變 生	口格木不	云害头虎

是 溪 YL 補 鄉 而 盐 Ш 賢 容 禾 源 胃 塘 耐 無 愈 捍 1 佔 誠 為 之处 智 嵔 水 Ŧī. ш 以 丽 湧 溪 뇿 典 ż 植 Ш 胨 官 鄉 准 Ł 尚 鄉 萮 莊 入 於 水 玉 大 冱 Ŧ + 死. 苋 秀利! 業 盔 為 於 七 頓 而 Ш 積 愈 小 九 礕 11 求 得 荒 沾 窄 奥. 湖 浦 鄉 四 僚 P. Ŀ 結 大 沾 鄉 官 戼 如 如 有 刺 入 陽 粱 當富 下 刖 秭 鄉 鄉 Ž 溪 如 + 絾 夏 il. 郸 時 鄕 許 秋 江 雨 VI 水 症 處 卷至 Ħ. 瘚 水 穆 秀 甜 賢 人 墧 卽 殊 浦 īF. 利 丽 堂 7 倒 任 瘵 利 穫 矣 矣 或 及 至. 梅 滙 陽 而 燕 補 右 줆 塘 其 病 胼 森 桃 如 我 可 桑 土 江 雨 之 ĒŌ 雀 冰 水 防 弗 下 秋 源 界 田 下 候 聯 H 南 机 入 何 焦 榖 為 杪. 鄉 之 湖 境 春 九 预 鄕 而 上 蓼 愚 EL. 自 開 道 講 叉 其 而 逆 壑 确 鄉 Œ 九 下 矣愚 淤 喜 可 永 不 2 而 邓 鄉 講 瀉 山 亦 耘 也 下 ‡ 稻 願 答 业, 得 叉 县 稻 丘 之 赭 竊 攠 不 詎 白 矣 饕 田 轨 且 田 謂 平 至 無 Ш 且 水 甲 九 而 曲: 劉 稅 不 利 私 知 以 **港**坡方時 甚 江 妨 水 入 典 鄉 化 則 塘 共 築 結 故 滅 如 水 往 緩 江 較 那 不 至 之症 愈 沙 往 欲 無 掂 宜 號 没 之 竢 恭 惟 鳳 令前 刑 築 塘 [章] 荒 源圩 煮求 倒 許 座 儀 水 桃 口 ЩÄ

數 堰 沙 或 計 災 水 循 瀾 防 蕭亦 鄉 人上底 其 Z 地 四 之講 尺 横 泂 愈 咸 績 廖 其 愈 形 倒 平 無 刖 江 初 丽 Ш 名 池 得 山 口 塘 謂 以 等 滛 於 一割 水 便 业 不 胼 不 為 開措 前 利 反 築 開 利 档 然 故 塘 求 而 涝 莫 夘 湘 大 愈 田 峽 為 鍾 揩 經 未 新 利 精 4 去 湖 海 而 羽 如 工 數 家 吳 畫 高 田 後 翼 必不 溪 利 刻山 縣 丽 在 為 潮 實 一者 家 約 攤 害 H. 障 洩 早 之葬 者 獖 力 溪 遥 不 則 梅 闢 孰 募 十 之 通 矣 俏 奥 固 固 也 入 不 丽 衆 萬 里 若 JP. 不 孟 治 下 泄 下 田 民 不 為 上 而 江 擎 餘 之背 纖 海 愈 開 者 十 力 與 及 亦 居 舠 鄕 水 山 無 畝 华 橋 濬 數 故 其 僅 熔 稀 當 水 恆 相 固 舉 輩 均 處 簋 患 開 自 謂 自 具 官 因 矣 時 當 而 不 朩 橋 狐 周 溪 屉 楊 平 瀦 毁 非. 溪 [I] 亦 自 顧 下 地 遭 煩 而 等 如 Z 决 焉 私 故 湖 為 下 劉 滷 近|鄕 形 官 典 築 處 西 不 田 道 而 圭 矣 膸 阻 備 鄉 帥 雜 山 縣 緥 越 東 工 鄕 塘 脹 聲 椞 以 而 土 澇 遂 開 治 江 而 而 不二五 鄕 之 築疏 為 附 搱 丽 計 海 分 人 舠 民 孝 卽 之李家 過 + 鄕 廣 溪 塘 滌 殺 友 能 也 樂 彪 游 居 湘 患 欲 畝 餘 義 之 咸 愈 而 其 堂為 乃 土 近 湖 鮗 山 經 不 僅 里 堰 集 水 深 狂 水 不是 鰲 隄 今 書

役 IL. 自 下 偶 時 為 蕭 於 亦 仐 水 值 血 Ŀ 見 颒 諸 哉 方 真 害 該 鄉 池 Z 鄉 ż Ш 恬 未 利 彼 H 等 恬 而 华 然 區 處 凘 便 守 水 不 呰 修 尚 H 書 然 矣 溪 志 為 父 哉 也 定 利 鄉 無 捌 恬 逦 此 常 溶 老 余 不 利 無 者 意 塘 不 水 葢 槓 舊 所 溪 講 蒞 上 虚 事 明 為 為 理 何 利 刺 不 耿 跡 意 之 經濟 易 灾 通 求 任 事 意 因 耿 滴 易 H 八害之能 之水 論 浮 吳暇 知亦 不 戊 得 來 矣 人 振 循 修 何 哉 子 者 釋 此 廔 誠 譤 作 而 人 西 夫 妻 行 Ł 易 如 大 ıίς 果 以 計 慮 未 焉 江 告 侵 皆奏 之矣 之 地 果 爲 有 部 有 易 恬 塘 血 則 附 方 脈 將 未 遂 不 開 不 又 人 而 年 而 寢 記 甞 貴 藏 為 明 叉 利 北 周 來 大 繢 土 創 İ 害!人 流 舉 易 H 復 所 云 其 於 不 難 意 於 惟 穫 於 顧 吳 觀 以 前壬 修 見 而 事 -F 丽 成 處 荒 ÍŁ 在 以 也 風 而 功 脜 猶 名 何 鄕 人 身 使 呈 靠 此 都 厚 ıΔ' 亦 擾 海 哉 未 反 孝' 果 者 A. 必 而 舊 未 鄕 坮 而 不 · 友頓 易 之 塘 夭 李 荒 農 不 積 Ž 那 本 若 堂 駭 下 能 嘅 耙 衝 鄉於都 奥 结 不 藏非 也 办 毎 顧 縣 於 况

> 弟 萬 所基 後 右 見 何 曆 暑 占 狂 往 不 庚 為 拜 副 址 余 뫭 戍 使 高 掃 人 E. 姑 止 業 歸 取 戴 之皆云 見 無 通 居林 公 之余日 舟 湖 坐 暇 家 遞呈 邊 船 論 下 湖 訓 乃 稍 取 水 湖 請 歸 鄉 湘 髙 草 自 人 以 湖 佃 地 云 蓄高 自 專 各 插 利 湘 為 處 微 利 標 者甚衆 枚 肵. 畆 湖 地 官 草 早 地 開 墳 何 名 Щ 可 丽 妨 及 節 設 前 肥 氽 湘 ふ 故根 大言 竊 最 湖 生 田 大 殖 有 者 訝 米 日 粉 焉 勿 頗 力 粉 多 子,

及

切 不 甲 萌 此 念

悟

而

不

行

业

皆

貪

利

無 先

耻 佃

肵 德

為

凡

我

後

人

即 方

至

窮

窘

戊

調

何

必

欲

請

佃

須

惠

祠

為

庄

房

甲

高

始

地 蕭 派

墾 Щ 九

田

准

紙

必

盗

湖

水

先

年

土

豪

孫

王

=

革

没

田

水 鄉

利

機刻 魏

楊

公

所

以

共

祀

德

惠

者

共

大

也

高

均

季| 以 生 #

孝 功

友

也在窮邑所右 故旨第水白-特日不利紀段 節亦可不定出 绿空萌特遊雲 而谷此杜始南 頭 表足念他末按 **彰音頭人中察** 之矣似之可司 邑人此侵兄副 後皆清占前使 學不正而單載 來知胜且鄉養 鸿而特垂种吾 **麦此个戒無**公 跋念時後不諱 何鮮人留尚 可少印心志 没而至本者

## 菓 雄 湘 湖 報 功 鯆 疏 肾即 肾 洞入

縕 木

銭 有 目 乏 故 塘 流 事 潴 陳 於 武 隣 林 之水 邦 楊 諸 吾贈之有 Ą 廟 白 稱 湘 = 惠 湖 澤 楢 儿 꼐 皆 人 在 之 斯 孤 有 Щ 民. 之感 餘 腸 杭 胃 斯言 戴 滙

非 祀 謻 並 并 足 澤 厭 無 涯 心 中 然 Ì. 名 楊 宜 公 如 在 捎 前 顒 郭 仲 張 房 魏 舻. 办 踐 龜 耙 後 Щ 之 E 故

閱

色

志

邑

之

水

利

莫

大

於

湘

湖

魝

修

之者

宋

岜

令

將

愛 轍 以 鄉 山何 雏 賢 水嫌 間 利心 如 19 夫 周 棠 宜 何 伙 樹 一張 Ž 「富 事 思安 並 如 驅冢 有 在 待 辛之 袝 介 舊 後 擬 洞 圳 ini 塵 隙 非 而 便 乃 替 桐 别 鄕 1 廟

者 玉 孝地 友重 堂構 藏新

明

非

他

之可

踌攀

矣

余

任

首

調

秱

願

舿

友徘

堂 徊

在

西

郭

外

以

祀

額

日

德惠基

不

徒

出 端

其

惠

而

以

其

大

儒

名

世

此

特

其

小

行 南

道

之

耳

故

明

勅

建

祠

樂

颯

巾

楊

公

明

品

尚

書 試

齌

魏

丞

也

二公

皆

以

理

學:

Ŧ. 捐 公 眥 勿 吝 允 旃 位 雖 應 行 在 但 食 以 利 獨 2 果 家 未 好 岩 衆 義 擎 樂 輸 亦 倡 還 不 限 須 非受百和

棲

左

安

列

之

神

蛮

永

享

丰

年

之

血血

食

E

具

呈

令

脎

幕

崖

不

稱

所

以崇

奉

之

意 i 蒞

詢

之守

裥

者云

巴

茍

ـ [[\_ ا

無

怪

也

左

旁

由

小

門

入

自

為

區

满

萊

滿

着

山

水

利 人

刺

艄

訓

處 持 佔 效 敲 里 胥 梛 喜 2 拾 頭 會 何 箕 難 隨 釱 意 科 共 狐 襄 則 层 広 事 不 情 足 見 雖 净風

> 計 E 11.

綖

者 H

創

建

將

落 日

成

病

故 士

刻

有

建

面: 邑

也 秱

蘭南

之!入

所賢

扁

秱

守

者

此

貢

來

木

臣

先

生

貴 如之 打 鼓 以上 祭 江 舳 畧 似 欱 幽 丽 樂 H 畆 得 橘皮

片

架

向

來

忘

却

洞

庭

Ш

聞

荷

花

+

里

香

從

共識

也

夫

農

H 楊

全

藉

平

水

利

水

· 不

修

田

必

不

能

以

常

稔

張

能

繼

必

者

也

鄉

賢

四

為

何

富

能

述

魏

公

者

起

4

蹪

在

鯑

索

而

觀

之

则

所

祀

者

名 張

宦

為

趙

顧 秱

郭 緣

四

背

H

中

有

滇

白

果

南

易

有

鴻 利

、激

陂

江

都

陳

公

安

有 夘

豊

有

芍

陂

數

地

得

以

無

凶

年

憂昔賢

誠

所

重

也 塘

長

賢

公張察明人嗣 **亚公御邑宋在 祠** 

邑崩史令邑德 記 库福穆 生建之 那司舜賢齊照 直食復四邑四 公友京明願九 競柏工南公年 富部京冲建 趙 普廣公名 昌

根道源官令着

丘藍明四

史 225-318

並 北 紛 堰 品 松上 矣邑 爲 若 早 上梅 故 ! 仲 也. 119 之東 4 終之 B. 之  $\equiv$ 瓜 沙 廁 بالا 迷 溪 以 亦 废 不 扑 蚁 痣 徐 前 巴縣 階 亦 高 4 7 HF 清 Æ, 不 人 利 框 湮之 央 . di 11 利堤 次 則 北 有 斥 15 人人人人 幸無 禦 侵 存 早 四 自民 大 為 預則 秋 皆 為 P 山 占 者 甘 典 īlī. 槁 HI 諸 乾 諸 合 倌 豪 P. 相 或 之カ 水源 苯 哉 栺 利 屰 公家 悸 盡 盤 骚 人 典 水. 爲 起 利 先 有 必 庭 相 湖 佟 杰 惘 者 沿 | 胸 | 民之法 之虞 奸慝 堤 惘 一不 新 均 有 次 魏 則 而 矣! 割 4 江 而 竟 數 修 立 公 售 然 哉 海 於 此 知 七 所 以 廢 復 倍 十二 議 東 民 為 之 皆 馬 謂 悤 無 則 矣考 秦背 之得 之 有 後 何 沙 淹 之 太 湖 力 漢 八 人 旗 甲 人 為 守 吉 至 則 賢 僥:賦 湖 鄉 費 人 田 四賢之 典之 m 諸 以 华 其 宋 食 之 之 貽 海於 M 以 雖 之 經 垂 ] 田 當 大 以 賢 功 修書 有 備 此 誊 貅 公田 之久 於 皆 復 壊 湖 示 必 1 其 復 者 令 天 早 秱 有 後 此 晋 日 カ 會 之 可 去 之 無 游宋 孝友 而 P 舢 不 亦 俾 湖 利 而 占 祝 南 也 炎 雨 所 榯 所 知:忘 不 或 埬 者 皇之 若 若 有 來 為 其 蓄 腸 守 豐 飥 者 王夫 先遠 洩 数湖 罔 一誰 賠 王 鮮 何

涉不 藉 者 邑 PII 干 矣1不1 思 1.6 存 胂 汲 以 욧 鄉 禮 於敢 4 个 等 Ī 先 竞 民 汲 無 是 因 將 Ä 腎 紊 之一崇 湖 一祠 長享 以 亦 共 视 知 是 致 於 並 典 子 雖 者 義 排 上大 德 八 孫 其 不 武 宇 不 [ii] 利 是 Z 有 忐 鬼 共 惠 賢 長 其 典 以 起 迭 起 為 + 廢 堂 乏 兼 省 各 之 典 鳴 所 舩 也 #1 詑 私 湔 公 利 楷 捐 宇 行 北 攝 其 呼 祭 功素 珏 為 鼓 如 也 必 巴 整 舞 至 貲 邵 不 能 無 聞 可 駿 外 业 附 丽 功 其 緩 其 !買 皋 不 期 潔 伯 可 所 於 風 盾 繼 德 芝 於 持 者 不 濫 不 非 忘 志 為 **風**「田 厲 越 借 惠 疏一以 敢 及 之 鴐 之 庭 棠 膧 而 為 因 述 支額 以 者 裥 意 春 以 募 報 丽 除益 事 部 為 則 兹其者 名 旁 私 先 復 典 愈 鋑 前 有 往 秋 此 意 懥 設 者 亦 湿起 功 所 · 祀 生 知 秱 觸 耄 奠 事 之 背 其 可 孫 義 以 而 鄉 銀 取 不 熱 費予 肾 公 附 為 以 得 獻 所 Ħ 好 系 道 也 奔 勸 全 之 之 來 É 牲 類 典 德 存 濟 先 走 益 孝 粱 舊 灰崖 之 雅 茄 省 尚 功 义 生 F 者 有 醴 业 欲也 不上 於 :共 更 觀 功 不口 舉 之 丽 費 £L. 郋 大业之 於謂 共 無 可其 不 傷 伻 者 横裥 可

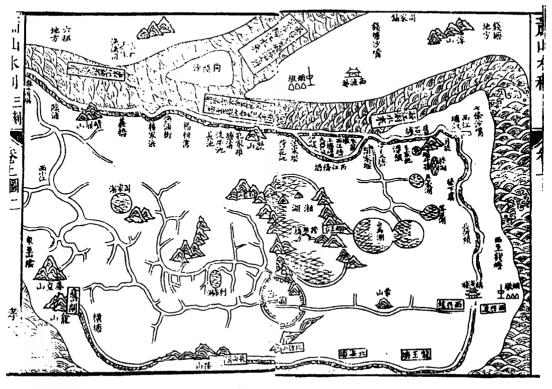
## 邑之水 邑有 湘 顧 魚 張 ふ 商山 軛 公蕭 家 勅 憂 甜 維 原 水 湖志名第 公蕭 Ш 湖 湘 公 虞 利宰 諭 ılı út. 孫 H 脜 水 湖 之 渊! 售 湘 書 毎 初 來 第 水 郭 湘 ıЫ 均 利 利 利山 湖 湖 要 욞 七 阜 水 政 張 湖 韶 毎 後 湘 水 均: 水 布 大 奕 利 水 如 湖 湘 天 鍅 磁 修 湖 叙 於 利 人 利 事 氽事 作 在 利 奕 水 尚 湖 復 最 九 本 約 腸 蹟 ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ 圖 四 浟 書 陂 再 抽. 뿔 鄉 蹟 後匆 胃 東 序 策 記 赦 富 長 滺 魏 浩 泚 第 醇 記 第 畫 公重 第 不 文東 Ą 待 御 先 第二 + 儒 愆 = 名 岌 史 Ж. 靕 海 王 薊 刻 湘 而 不 飲 之 無 刻 办 不 莱 欠 忘 湖 石 法 蕭 恨 肅 顳 成 一揚 名 水 具 水 孝 後 録 後 有 ılı 山 西 李 則 倫 利 贍 邑令 水 子 水 业 魏 江 重 有 則 泉 復 前 利 不 同 利 功 賁 覣 幣 張 楊 春 跋 事 事 囁 揆 鍭 第 錄 绿 錄 蹟 述 誨 錄 必 中 公 宋 邑 蕭 間 友 邑 明 墀 四 第 眀 我 邑 令 É 令 英 繼 至 第 志 諄 山 顧 張 宗 湘 諄 述 九 在

御 防 警 先 東 新 公 西 年 移,元 湘|利|湘 育 河 山 先 Ł 史 戒 此 Ī. 致 单 簽 林 穆年 測 開 #1 1 考 巡 民 朸 補 豪强 何 湖 許 訶 之水 家 股先 古 按 第 水 憂 碃 命 舫 空 水 必 塘 愈 生 华 堰 論 傷 堰 魏 建 利 + 父子 除 錄 克 都 民十 萬 楊 東 文 惠 載 嫍 Щ 水 四 恶滌 副 + 水 論 侩 鬬 靖公 及 文 食五 在 至 柳 江 復 使 四 以 湘 塘 錢 鄉 其 圖 來 曹 靖 塘 會 湘 T 軆 穢 湖 土 塘腦 祀 配 利一 娰 利 稽 公 人 湖 一公 金 光 第 坐 水 享 害 EC. 德 德 旁 叙 意 同 禁草 考備 綠 復 十三 退 利 秡 惠 行 德 惠 樵 患 食 肯 湘 黄 潮 書 第 崇 典 利 相 邊 惠 將 秱 侵占 第十二 洮 第 冽 頭 涉 幇錄 記 錄 樂 + 帩 秱 秱 IE + 功多 賢 濟 第十 記 君 有 勝 ,火 决 其 湘 於 物 第 命 朝 所 火 狘 主 界 楊 湖 强 發 弘 學 事 隄!十 重 所 1等錄宋 榜 明 3 黄 賜 防 申 七 濫 例 鉄 鑗 錄 錄 孝友 欽 = 來 竹 清 先 第 蕭 蕭 蠢 成 明 公 Щ 尚 隱 Щ 先 成 山 西 五 化 滩 | 化 七 ĮΙ. 生 害

康熙五十八年已亥八月邑人張文瑞雲表氏叙公西與石塘即第二十一 品我同志錄副使戴公家訓第二十二 局我同志錄副使戴公家訓第二十二 一一一三 考友堂 「其一」 「本述數公見得思義戒其子孫無漁水利節取嘉 「本述數公見得思義戒其子孫無漁水利節取嘉 「本述數公見得思義戒其子孫無漁水利節取嘉 「本述數公見得思義戒其子孫無漁水利節取嘉 「本述數公別費調記第二十二 「一」 考友堂 「一」 一」 一 「一 「一」 一 「一 一 「一 一 「一 一 「一 一 「一 一 「一 一 「一 一 一 「一 一 一 一 「一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	塘條約碑記第十九
<ul><li>五十八年已亥八月邑人張文瑞雲表氏叙樂水利論第二十一</li><li>中田何知水利證山濱川可謂日智錄邑令劉典不排即有八士作 祠報功禮錄義起立是廢非別別尚有八士作 祠報功禮錄義起立是廢非別別尚有八士作 祠報功禮錄義起立是廢非別別尚有八士作 祠報功禮錄義起立是廢非別別尚有八士作 祠報功禮錄義起立是廢非別別尚有八士作 祠報功禮錄表之是數學不不臣先生募建湘湖報功祠疏第二十一</li><li>一一一三一本友室數本本目, 本方 東京市 大大大人年已亥八月邑人張文瑞雲表氏叙述。</li></ul>	

海 事. 浙 恩 水 都 湘 蕭 乙則之所備除湘墾體育事今 Ž 給 湖 书 **山** 稨 不 利 丽 Ш Ш **邓是業緊採處湖荒余在稿夏** 鏡利 可 幾 水 假 田 以 在 水 聚良寬者壓滿志焉二大 三 楊非無事烏伽而余帙人 年 帙 間 廢 典 土 錢 歸 745 利 分為三卷校正 因 里 余 得 永 淺 =溥 後有魏浚知雖山白成以授給 乙 命兒子學懋取 同 旣 而 利 刻 一顿二鮮江中三馬之暫懋假 郭 人語及 刻蕭 咫 耕 高 序 田常 月殆公即塘駿百利懋假日瀑 早 I. 渡 且. 學未不閱之而餘市妥期是里 秋 山 食 海 據 西江 懋艾朽鲵害楊畆周命甚書命 早 水 也 以 Щ 謹也之者牵魏及家惟迎凡懋 朴 康 防 低 利 隂 塘城 識別的見三之青梓謹不開檢 椊 余舊輯 以存舊 熙 水 田常澇先賢有憂之 會精之上游雖左 英矣之色徒川湖正獲吾舊 五 患 爱塘自湘檀齊等校别邑輯 瑞 脩之 + 然 藏與勿湖矣羅湖字自水西 書 章 留 凣 西 後 胡貪之因二者問閱利江 役日 **中今夏紫** 年 江 九 心 于利亟坞甚適梓者塘 塘 盗 赤水 鄉二十 日孫溥授等有有小事湘 久 利 湘 决 友 如不難九样二請駕子與湖 此廢保鄉以十個名其文紀 湘 者 皇者有 湖 玩 'n 作 紦 生 湖

## 



史 225-322

任其事增築堤岸四千餘丈	明洪武三十二年江湖填堤蕩民田廬主簿	塘而西江塘止泒由化等鄉修之	海塘患獨切議者食里仁爲儀二十五里	上都二圖三圖苧十八都後因鳳儀里仁	里仁風儀安養許賢諸鄉并苧十六都三	塌修築孤于由化由夏夏孝長與來私崇	家堰日吳家堰日周老堰日傅家山日義	池曰張家堰日上落埠日汪家堰曰大門	南山木利山川 卷上十一十一声		縣志日西江塘設塘長看守計有十六處	<b>褚家墳橫亘五十</b> 里	長與諸鄉起于臨前傳家山漁浦以下極	<b>滿山照治四南二十里曰四江塘跨亭羅新</b>	西江塘紀事上	<b>冰景風萬嘉</b>	邑人張文瑞雲表	<b>蕭山水利三刻企之</b>
	主簿師			里仁二		蘓			孝女	飲	六處日		下極于	新		萬嘉校	雲炭料	
	整力		修海	鄉受	苧十	昭名	日新	日ガ	堂磯	於家	諸野		四都	義安養	1			)

-									蕭	- 1	<u> </u>	<del></del>	era:		<u> </u>	マン マン ジン		-1
民	浜	墹	IJ	老	演	上	床	要害	14	民	This !	知	勒	华	摩	靖	後	書
川	通	是	桿	者	溢	流	以	害	zΚ	造	作	縣	石	<b>\$</b>	商	+	者	張
安	合	巳	河	轉	涂	之	卢	何	利	网	亭	抓	使	王	舟	五	是	公
爲	境	墹	流	死	民	水	矣	滿	Ξ	焉	也	和	不	聯	欲	年	役	頂
目	故	廣	而	民	居	准	四	週	刻	釗	重	潮	可	豼	取	建	得不	教
塞	壩	不	彭	之	温	臨	築	遭	<b>*</b>	丰	民	敬	廢	之	便	民	不	公崩致仕家
壩	塞	踰	城	進	穑	浦	塘	店	卷	於	造	德		是	乃	造	勞	豕
特	則	Ξ	2	鋼	塲	港	禦	海	上	d)	而	民	İ	年令蕭	開	亭	而	居請
百人	洪	尋	民奠	水	民	襄	歸	北		臭	作	造		令北	場	於	成	育
	漲	外	臭	之	用	陵	浦	築		匪	亭	亭		崩	建	臨	1	應
之力	壁	通	厥	省	骨	而	悍	塘		地	何	記		敬	開	浦		役
71	鹹	港	攸	厥	墊	入地	湍	禦		也	亭	티	}	德	甚	小		先
	蒯	港	居	惟	穑	挾	雨	憋	Ξ	Mi	堠	尺		建	爲	墹		自
勞	倶	通	若	甚	事	海	滆	子		獨	要害	逃		民	邑害嘉	墹	1	基
永	不	大	仝	哉	弗	之	洪	17		作	书	<u>.</u>	1	造	害	為	Ì	始
巡	能	江	鹽	故	登	鹹	版	2	孝		之	何		造亭為之	易	西	1	諸
而	爲	內	浦	築	壯	潮	金	一湖	友	2	地	Ī		爲	靖	江	İ	包
南	之	防	と	黄	者	澎	衟	1	1 **	地	作	尺			+	之	ĺ	無
媳	害	浜	小	樓	散	湃	嚴	韌	, ik	為	75	滥		記	三	內		敢

必 其 큵. 東 之之心 湖 太 君 民者 肞 淖 游 鶌 函 П. 爲 ΪĤ. 《繇於蕭 早 平日 Ä 者 倉遷萬 樂翁之四媒 浦 提徑必欲 之患劑 事 凝 Ä 遂 運 俳 過 欋 計 之人 也 北 利 不暇計大禹胥獨之心 ĺ 雖 何 河 壞 31 Hi 因 E 有之而 利念上 敬 E 鮮 丽 蕭 **业之而申** (亦若是恝乎 塘西臨 令脏 人特 が吹か 城 京 得 必日 弗 四水 蓝 渕 地 ~ 登貨 允 胥 縣 四 人 官 命 任 椒 溺 自 浙 之 念未皇耳 口吏兹土者豈 ·厚貨錢本 江 通 椎 立亭 ·請於憲臣者益 帥 一入解 ĪE 浦 壩 僅 矣蕭 東 四 人何日 郞 其 歎日蕭之利害莫有大 典 丽 利 A 徽 美東 去任 勒 要害之最 白 浦 厥 Ä 而 人 拡 東 臨 碑 港 之 魚塩木 非 達 木 神 載 坡 蕭 阜王 湖之人 必 植 利 以 极 亦 繇 延 而 一無稿 デ 惟 日 為 周 港 童 恋 河 與 也 人 以 一懇誠 者 子 夫 14 汞 通 ·叉 植 為 泱 東 故 丽 承乏至 心之矣日 对 乎 禁 Ü 衣 堋 東坡之憂勞 來 諸 錢 榝 神 之大買 瓜 人恐緩 非 事. 有 遂 司 食於 孝 芝 自東 其 货 Z 衝 峻 友堂藏 禹 未 如 諌 術 屯 (之質 泉 腹 歎 禁 于 擏 브 成 謪 故 + 是 商 關 心 滕 凼 圳 日 牧 九 鈞 溺 以 於 而 思 而

及

山會邑人黃九

嘉靖十八年六 亭 不 無 必不 酉 勒 恙 東 修十尺廣 十 復於此居其貨馬亭轉石凳變經始于嘉 石 至於 IJ 月廿有二日落成子戊戌十一 民造其有 阜 濟 Ķ. 美焉 **毁亭矣不 毀亭則** 舉 月六 加 雖 永 修五尺崇如廣之數 因 謂 哉 名其 Z 日水自西江塘入蕭 商 迓 人雖 中日 一般民 有 掛 命 民造使 呂不 可 吾 知 也 爱勾 月 韋之智之赀 共 人知重 # 無 Щ 之立亭 恙矣壩 大 有 民 围 六 埼 造 B 赶

**南山木利三山** 始免 傅 力 為感動移交辦泉行 家 築之基础 水 μı 嘴北 患通判周 畫四 七丈身高二丈有奇枚頂三丈南 都 表督築勒 府縣大 半爿山横 典塘 碑 韭 紀 耳 二 十 市首 役 山 · 徐里 見黄 食二色 刺韩门 是

質大

禹

治水

功

成

會計之地

當時

乘

舟

趦

榎

滌

源

兵

部

員

外

郮

武林

吳

躲

重

建

西

江

塘

記日

稽

郡

陂

海之迹逸

不

ij

想見鉴已

數

Ŧ

年

矣

唯

故

穴

穷

石

路然

循存越民

至于

**今仰之日** 

微

吾其魚

平

큡

一冕 薦

紳

丽

N.

K

Ŧ

是

泔

版

望

洋

類

款

思戀

、阜以書上巡按御史傅恩鄉 侍 史 225-325

煮 益 册 里 使 减 聖 掂 元 數 ш 高 取. 千 JŁ. 緍 之 是 於民 杏 有 Ţ. 者 千 年 蒋 滙 垛 水 沤 ·Ŧ iI 义 諸 溡 貞 命 仕 之 媽 防三 法 應 チ 复 叉 安 壌 利 水 鉅 亮 乎 水 下 平 子 何 地 Щ 三剌 下 Fi. 固 波 獅 冰 Ŧi 則 吏 利 丽 秉 顧 傅 敢 猶 姓 倍 南 流 月 商 彼 亦 尤 民 K 他 况 節 兹 不 E 公 敷 \*\*卷上 嶞 淮 天 旅 無 惡 當 江 云 司 網 於 為 役 按越開 太 傾 月 嗷 涡 前 海 負 時 連 壅 郡 民禦 拉大 紦 食 أأل 變現於 救弊策 府 流 代三 官寺 載 朋 末 今 盆 雨 定 節 東 肉 血 散 溢 至 猫 田 為 之瞿 張 諸 患 彻 惟 平 决壤 多收 浩 踩不 面 圏 于 人 絽 北 大 湎 繇 朔 公 人 然 ì 六 瑷 富春苗 民 也 典 加 -Ψ-望 然 憨 髙 判 作 然堤 懷 尴 月 戒 設 府 西 徃 京 詂 # 神 凋 也 失 堙 襞 ナ 為 長 合 江 徃 上 而 亷 崇 黨 表 塞 天 席 乏 外 師 竊 堤 川 塘 游 Ħ 漪 田 八質以 訪 空 亦 職 洪 而 日 勢 稼 M 久 水 謝 以 下 詺 山 影 **暨之** 若 文 當 防 流 水 矣嘉 ılı 司 未 畜 - | -郡 毁堤 流 E 陽 以 治 做 髙 息 Ŧ 郡 相 蔽 西 VI 止 义 餘 水 避 之 民 盾 守 紆 我 里 大 靖 雕 般 時 堂 無 堤 西 水 嚴慮 水至十 班 法 于部 故利 非 丽 王 元

滿山 丈屹 服 傅 功! 塘 俊 喜兔 乃 歷 白 丈 F 博 而 丽 攝 Ź 崩 公 成 盟 各 於 歐 必 爲 金 程 從 胪 謀 水 11. 以 陽 具 項 **综於** 周 棼 大 如 七 有 刑 利 完 益 丞 湛 作 百二 之 於 事. 崇 夫 君 分 = 列 月 毼 安 合役六千人 其 簿 郷 周 南 治 ध 謝 故 塘 朔 地 刻 尉 Tij 發 乃 十 慎 士 君 平 諸 靴 限 防 周 庻 惠主 邑中 鎰亦 大夫 自 兩 也 邑中父老 H 游 更 事 君 可 隔 四 寪 卷上 泉獻 便 夜 公 民 之三 如 考 簿 丽 汀. 除 諸 五 可 使 N 孙 也 來 游 筑 跣 驗 人三十 Ŧ. 疾 堰通 議日 桑 U 同 上 巡 盍 首 刷 越 张 率 成 艮 事 深 亦 守 坐 ガ 果 紽 日 君 廣 尺 吏 功 弼 人 法 商 苗 計 諭 孫 早 道 誻 此 治 知 于 民 議 典 尤 情 失業 築西 者 日 君 便 愼 减 氽 賔 免 舊 事. 狀 史 上 為 也 乜 代 宜 仝 E 簡 下 間 手 朋 --事 -T-報。陳 受不 共 買 要害計 浮 I 來 分 教 祐 便 使 朝 怀 之 凡 FI 躯 並 游 塘 民 别 會 郡 執 君 君 請 垫 四 虛 八 荠 役 孝石友贖 衣 價 萬 利 周 事. 縣 架 矣 座 昆 增 其 旬 大 作 食 不 有 害 君 申 而 捍 秩 於 官 閷 西 行 林 生罪 縣 過 擇 集 石 百 佛 鬜 姭 之 江 -115 战大 善 堤 带 餘 官 詂 Æ.

九 胤 常 # 曆 山新 壀 芯 丽 Æ 知 勢 守 不 敬 胼 易 邑 カ A Tin 梤 Ш 11 翭 丽 不 Ŧ 之 天之 ネ 水 為 ェ 危 胍 败 割 之也 蕭 温 人 + 丕 通  $\stackrel{\cdot}{=}$ 絾 利: 以 Ą 平 逸 手 盐 IJ 41. 塘 įį, 北 P] 來 队 能 命 嘉 年 勸 足三 上下 是 防 斯 私 U 浸 ン 1 停 俱 割 Ŧi. 刻 华 ئے 思 媋 惟 有 爲 爲 庾 所 者 倬 曾 II. 水 中 月 相 冬 始 胼 月 以 任 整 民 係 上其各者 79 及 安 Ü 卷上 張 ihi 與惧 幾康 底 H 大 彼 也 九 咎 塘 蓈 菡 可 J.. 積亦 山 帝 公至 兩 歡 何 馬 通 捕 不 1 盤 為 IJ, 周 山 B 仰 X 丽 あ 梅 要 大 欠 之 其 休 裁鳴 藤析 之家 爲 老 封 自 股 ë 刎 憫 Ŵ 故 所 西 辩 塿 息 塘 肱 痢 堰 4 京 悉 彼 撕 恃 傐 M 便 是 者 潰 呼 不 矣 奔 世 遂 師 E 游 以 E 四 娸 利 立 西 人 良 可 宜 播 見 丽 何 丽 捍 北. 沙 -1-日 計 分 為事 念之 不 之 冱. 7i 濉 糺 滌 小 漲 Toj 之 抑 西 抖 水 然 Ţij. 浦 大 餘 功 思 利 當 ----k: :1HE I. Ż 1/1 骤填 ïI. 進 叙 涨 哀 僟 也 15 人 桦 IJ. 质 其 者 有 城 泇 逍 也 -1: 卯 湘 们 許 狂. 者 衝 必 江 市 1 向 厰 大 安 忕 雖 風 腥 便 湖 潮 僅 告 並 液 嗣 B 不 滌 丽

設 相 害 不 Z 溡 有 是 某 沭 寪 晢 之耳 及 江 I H 作 塘 酉 惰窳 有 İ 游真若象近 胨 塘 轍 竣 塘 水 戸 镅 共 悄 轨 及 梅 欲 不 里 育 妥及 修 奥三 復完之不 身 絲 职 塘 靸 邚 利 也 虞 廢三 敗 長 築 水 搽 憋 石 顧有 以 Ξ 孤 刨 新 縣 ï 事 各 刻 近 哉 料 焉 由 及 石 功 版 漲 縣 保 卷上 者 呼 表 刲 拵 價徒 謂 化 害 塘 鵜 鍕定其 食 児 英大 碩 門 惟 塘 Û 鮣 筝 故 識 肉 惰 調 北 湧 防 乃 至 壁廢可 戸 斷 般戸 議者 堅 夫 資情夫 海 儿 此 入 廊 之長計左 懋 不 知 拾 瑕 光 目 處遇大 役 鄉 内 無 惰 奤 鉠 利 取 爲 1 終 僉 如 业 諭 修 地 夫之 栫 手 之 害 慮椿 斃 故 之 長 築費莫若 不 平 己 秪 1 篰 足 弊 且 察之某工 英岩 造而 彼 帥 役 淤 可 為 鄉 一矣左 兠 之 無 莊 而 篰 九 此 戜 西 聽 罷 不 瓜 具 月 運 塘 更 江 塘 洗 相 分 聍 修 僟 在 議 余 矣 纽 子 削 如 瓜 値 H 都 可 北 燏 耳 及 拙 雖 且 波 (慮丁 弟 Á 益 洗 居 其弊 波 無 以 挨 該 爣 海 孝友艺 鄉 捐 如 宴 宴 之 推 杂 堅 H R 111 利 塘 H 丽 萬 之 赴 夫 漲 稼 矣 本 益 修 而 且 丽 得 害 丽 市 歷 弧 西鄉 難不 礼 如 剕 訓 沝 盡自

萬曆 萬 萧山 層 築 邑 云 激 増 完 下 K 爲 ŀ. 泂 石 浩 此 十 虾 修 人 四 舊 縣 力 溝 餘 塊 勒 目 内 餘 急 塘 任三 其厚 前 彼 + 六 林 誧 不 所 石 但 里 議 剩 惟 利 例 芜 塡濶 在 修 各 爱 或 不 謂 年 年 竹 修 方 一 篰 前 害 議 郤 嚴 價 逐 奸 其 家 幸 支 患 知 外 議 里 虚 塘土 築 折 灘 抵 亷 他 堰 無 D) 鉠 嬮 終 不名上 略 顶 2 露 塞 狐 者 價 裝 爲 僅 事 雖 非 可 扎 至塡 入 石 築 利 Ħ 苗 H 會 江 7 稍 家 用 內邊池 P 而 事 十 緩耳 蒋 西 塘 凉 藪 埠 遇 篰 重 江 患 塘 內 篰 交 五 鄉 滛 漸 建 拆 汪 石 塘 缺 質泥 麻 俱 塘 不 相 里 叉呈 膧 長 家 以 潦 之 沓 溪 做 便 欺 堰 **湯**或 通 有 之 *1*75 成 同 價 塘 勢必 内 略 於 壩 盗 鉄 石 十復 張 稱 無益 妶 緜 價 不 騎 家 故 接 始 日 外 惠 傾 地 没 奸 宁 包 論 時 西 堰 泥 池 河 用 鉠 蠹 有 與 塘 幸矣某 蕩 石 腹 則 傪 江 通 土 溝 数 之堅 附 塘 惟 害 築 示 外 處 弊 培 塘 處 至 百 I 拾 亦 其 之 悉 近 池. 堂親 塞 旣 否 P. 塘 29 温圆 巫 宜 好 河 衝

目

久

計

餌

此

當

為

不

塒

莊.

之

慇

天形 遠不 不 而先 派 育 諸 有 築 地 任 事 餘 THE 為 驟 器 峽 iI. 其 水利 銀 可 槩 Ξ 横 道 七 暨 屬 勒 如 叉 以 地 山 便 被 枚 發 九 張 作 浦 宅 石 議 ŢŢ 惟 北 叉 縣 山 石 娘 赴 東 水 築 知 造 氽 魯 北 壩 隂 麻 千 工 典 江 汞 害或 、
期長 者 ·刻 塘 稲 唯 縣 I 帷 爲 縣 東 而 天 溪 汪 錢 至 或 有 家 批 余 祈 源 令蕭 樂之西 堋 定人 不 官 清 鹽 江 P 令 篰 洞 敬 僱 出 議 堰 例 老上 浅 委 詳 合 鎭 浦 **募修築** 出 泒 石 悉 中 耆 自 流 金 輸 日 茶 U 任 旃 而 辦 出節 人 民 華 南 亭 民 耆 重 至 其 頀 便 鋑 注 塘 八蔡. エミ 艱 人工 傪 清 Ī 邉 老 關 于 官 浦 按 見來 遵 亦 石 止 費 境 前碑 守 西 麻 Ξ 自 係 浦 江 Щ 江 誠 項 令 可 樂 江 非 行 Ξ 浮 縣 哉 溪 大 陰 刻詳 75 各 丈 項 爲 杰 + 等 督 縣 塘 也 東 之 北 吾 在 學 於 近 鄉 修 兩 入 麻 蕭 之 經 紦 流 蕭 工 治 仰 士 塘 里 患 欽 便 完 水 于 溪 家 所 南 來 仰 山 差 里 逓 鉠 百 4 不 奖 海 北 湹 東 轄  $\equiv$ 宗 间 雖 逓 干 分 則 可 友給 無 濄 東 餘 也 道 此 南 年 守 腶 雖 多 汉 堂池 江 三里 鳥 境 紀 瓜 栫 北 里 曷 路 小 蹙 H 涸 外為 其. 藏額 膩 雨 [石] 對

淕 窩 猶 於 B 民 雖 奔 則 水 水 家 壩 尤 ĭĽ. Ш 而 疾 有 之 之 錢 有 內 於 冶 春 Ш 堰 劇 木 I 小 焉 山 延 古博 自 流 溢之勢 苧 若 清 섚 東 关 驢 曹 堰 利 水 誻 宋 水 袤 堰 浦 叉 家 則 推 至 者 濇 文 江 THI 三 曲 北 元 П 特 採 開 皆 麻 大 堰 有 治 刻 鄉 各 岸 於 者 H 丽 燗 築 堋 溪 閘 單 承 楊 明 來 M 遇 並 鎈 蕭 皆 東 吉 不卷上 盆 害 要 亦 龕 新 則 家 設 以入 Z # 清 山 小 名 山 猶 書 墈 相 山 有 堰 堰 策 溢 地 隂 I 鄉 Ш 而 B 虚尚 視 未 又 石 徐 凌 孫 邱 備 崗 未 也 計 平 地 小 曲 分特 家堰 脇 除 閘 家 家堰 水 禦但 潘 化 斷 此 H 阻 杫 iI. 築銭清 浦 111 未築壩 閘 以 害 在 洋 以 截 經 鄕 L 山 章 I 冶 為 螺 凑 于 宜 里 漜 內 爲 流 經 府 迤 間 江 Щ 家 堰 丰 各 仁 望 均 無 皆 阻 麻 流 治 北 关 郡 ìΙ 流 開 堰 大 河 平 受之但 溪 麻 江 西 截 鄕 守 堋 有 水 入 之北 IJ 鳳 堰 П 田 田 被 也 溪 日 風 戴 楢 使 旃 時 堰 衙 Z 傞 廣 而 害之 之 西 幸 帥 公 多 之道 一南 山 江. 胳 築 岸 南 以 前 友 鄉 非 小 不 1 琥 在 衝 水 閉 遏 堰 多 以岸 I 田 岸 塘 堂被 泛 江 I 曲 東 壩 節 沈 調 通 皆 逹 ĭ 萬害 也 溢

有 夫 者 困 pJ 階 都 华 -閥 不 郭 石 趨 4 北 此 地 Щ 世 較 夫 害 貧 有 壩 N 巴令 墹 豚 旅 大 復 餘 以 丽 名 不 显 麻 塘 4 利三刻 溪 丽 江 踵 IJ 菰 瀟 IJ 不 华 浪 E 之地 軫 轨 溪 困 水 者 開 内 袮 塡. 磧 前 劉 75 修 無 山 念此 築 多 北 此 由 也 始 令 富 堰 则 惠 公 北 水 流 轨 閘 岸 Щ 游一在 害 會 岸 無 蕭 春 因 何 忠 也 而 今 个卷上 炒 蕭 隂 鐅 以 固 墈 及 加 者 叉嘉 沔 ï 江 水 ЦĮ 方 且 山 灌 天 皆麻 ,可 外 天 Ä 益 萊 水 于 合 通 石 民 先 苧 樂 其 彼 磧 通 東 樂鄉 衝 並 突 重 不 靖 悉 也 溡 뾽 滿 南 有 溪 爲 間 成 1 麻 鯞 堰 田 建 建 欄之 害 南 請 鋑 令 良 都 于 道 開 太 沃 溪 贴 以 潜 岸 墈 盐 守 坍 鄉 有 墹 由 都 壤 浦 亦 近 堋 杜 築 丰 矣其 之 所 閘 猫 爲 湯 利 半 無 有 移 弘 山 入 陽 禍 跨之 之田 隂 書 甚 半 海 沤. 初 以 建 冶 公 利 石 山 源 有 明 利 之以 洩 閘 2 餘 水 惟 也 迄 紹 田 墹 不 土 極 逹 土 害 其 至 護 諸 横 復 直 懼 髙 今 恩 土 4 į, 鄭 趨 重 如 田 熟 水 夫 友 築 固 耳 東 也 切 堰 瀐 也 典 帥 早 沆 堂浙 丌 Ξ 閘 不 南 折 ·磧 地 - ]-此 以 公 勢 使 尤 北 干 大 江 可 妥 而堰 111 嚴遵

						督修	淹六月十六日復溢道府及山會兩縣親勘塘鉄	崇賴十五年五月梅雨江水泛溢西江塘地山不盡	蕭山水利三刻 卷上 一一日 孝收空職		奔山台將並受其害能止一邑之般憂也為民牧	注于三江口者勢將倍于優時一週潘霖泛溢橫	<b>以沿江諸鄉水害孰與禦之其橫溢錢清以北奔</b>	之投脱有不處將如生靈何豈獨蕭山即天樂遊	蓝唇久矣使此場一器旣無閒堰之防又無典復	患而不至剝膚者以有塘閘堰塌為之屏輸也今	可勝言就蘇山自之麻溪未築之先屢有小江之	有級急放不得不就無于麻溪耳且開場之害不
砌之石僅等飄洋	下注報成渾穴深	西江之水發若建	澎湃而不傷其根	之策何哉也之捍	所經易千衝决前	邑人周之晃議日	康熙四年大修西江	<u>:</u> اد	精山水利三割水卷	西	家堰至大門日也	至 開家堰潭頭至	<b>第</b> 自汪家堰至大	皇清順治十一年修	西江塘紀事下		-	商山水利三刻中之

砌之石僅等飄岸敗葉耳故即易上以石難言處下注報成潭穴深至數十專豆數十尋雖上有堅	江之水發若建既好遇屈曲則回湍激射旁	彭拜而不傷其限故易土以石可一勢而永逸矣之策何哉邑之捍海塘最為要害然湖水平漲雖	所經易子衝次前人言之詳矣而獨惜其無永久	邑人周之晃議日	康熙四年大修西江塘	常山水利三割 卷中 十一 考友堂禄		家堰至大門日也	至開家堰潭頭至諸鹽墳凡四段其甚忠處則汪	築自汪家堪至大門日丁家庄至於家池楊樹灣	至消順治十一年修四江期知縣韓昌先議分段修	西江 坍紀事下	來景風萬嘉枝	<b>邑人張文瑞雲</b> 表輯	蒲山水利三刻啦之
--	-------------------	--	---------------------	---------	-----------	-------------------	--	---------	---------------------	---------------------	----------------------	---------	--------	------------------	----------

Hr				ر بروبرگار آل ا ا		362 Person	)			ستبب	,					~		$\neg$
康				j .		_			蕭		١.							4.
熙	耳	即	定	加	Щ	夫	碩	法	ш	實	專	セ	功	IJ	餘	且	之	植
熙十		猶	額	意	之	修	抗	3	山水	濟	責	費	僉	兇	<b>金</b>	寒	無	也
=			而	嚴	水	築	之	不	#1		而	公公	~ 讲	背	不	書	181	然
三 年		當嚴		AU.		が			利	جاب				責	能	411	實往	Ä
4-		敝	數	仅	灾	I	軰	行	E	灰	無	皋	有	H		1//k	11	今日
识		廟	4	徴轨	原	塘	輸	者	1	省	差	誠	黻	肵	成	再	例	H
項家缺地邑人		輸總	年之	敢	非	費無	將	則	上 制 一 卷 中	歲省數歲之	役之需索里長金	質者	謂	U	功	塞責無貨心質力之人以	西	ス
缺		書	間	息	加	#	不	以	*	岌	之	者	塻	小	徒	Ħ	江塘泒各都	思
fp.		確	鉄	抗	泒	額	前	縣	113	7	Œ.	F	岩		机	ガ	塘	V
A		<u>۸</u>		伯	亦	100	任	間		虚	唐	民專任	于	民黨有修	金.	4	派	宋
		甘	類至萬	但可	何	設不	180	] [HJ]		<u>W</u>	州田	子红	得	2	為欺	ĩ	久	#
		<del>人</del>	<u> </u>	r) Hi		1	事	恐	1	梁	墨	江		1FJ	<b>3</b> 5%	合	17	1
周		N	禺	異	嫌	過	者	爱	'	拼	女	侈	利		隱		111)	100
之		毋	餘	者	何	以	不	加		政	金	理	田	塘	值	任	里	漱
冕		合其實毋使	畆	蕭	恳	蕭	能	泒	_	虚糜塘政莫善於	鈛	修理不	畆	之	稍	之	里長分	之思更不在湍激之
权		規	豊	Щ	也	14	爲	之		盖		用	派	費	坍	値	A	難防
구		避	日	得	試	之	無	名		私	分	催	出	而	者	全	段	防
夜	- 1	斯	悉			6					一个		144			押	修	
之冕督工修葺				利	使	民力	米	里	孝	此	有	督	椿	無	僅		13	1111
耳		爲	變	田	縣		之	長	友	然		則	部	修	崩	者	楽	性
-		盡	滄	原	父	禦	炊	長率	友堂	而	分	人	人	塘	差	費	俱	多
洗		善	海	有	母	蕭	耳	3	旗	!	之	有	T	2	役	百	俱有	而在修築
						740			1 300			1			_			لمشتشدا

康 康 新山 簖 E 竣 家 Ш 有 熈 7 檄 金 弟 被 家 謂 舼 木 4 邑人 **%** 粜 堰 介 協 31 收 府 涮 經 西 所 兩 本 用 合 十 府 利 褔 亦 江 化 仟 = Ш -|-剕 自 上 姚思 帶 任 之 掘 計 建 南 並 任 縣 自 Ξ Æ. 請 修 過 其 捐 繳 例 雖 年 É 協 年 大 Τ. 理 T. 築 砚 縣 此其祭 六 費算邊 帶 半 今 在 費 備 于 共捐 輸 會議 大 隘 鳳 督 患 卷中 蕭 盒 本 月 蚒 鉠 丁. 月 銀一 浦 會 自 塘 費 親 去 虚 山任 府 楊 -1-塘 搪 修 I 塘 Ш 廵 銀 年十 六 干 山會 約 利 及 築 漲 督 R 姚 瀊 大 移 樹 第 諸 萬二 文督 害 Ξ 千 公 證 华 張 書 築 間 張 兩 İ 延裹 月 矛 縣 蒙 撫 家 啓 實 瓜 兩 塘 深 共 TE 千 M 未 垩 動 築 亞 乍 塩二 堰 撫 月 鵬 家 俱 本 刻 念 Í 墳 仓 = K 至. 數 四 周 яħ 塀 典 停 解 縣 硼 日 至是 Ŧ 浙 縣 會 院 桑 老  $\equiv$ 水 得 塿 + I 止 項 姚 檄 堰 家 梓 歷 챪 署 家 月 及 巡 坝 地 Ξ Ш 府 利 办 **封方** 年 池 竣 縣 故 府 撫 堤 B 獨 來 铁 同 司 H 方 府 扣 春 家 湿 任 城 地 事 Ш 塘 事 道 金 费 知 輸 友 命 堂其 連 共 仓 處 公 萬 翰 尚 塘 頭 惶 蹈 馮 銀 北 4 原 開 飙介 旅 廟 州 知 솴 將 孫

畫 加 稱 盛 Ŧ 縣. 干 翰 111 滿 台 1.4 + 台 稱 孔 山百 士 同 氶 六 天 四 除 趙 勘 來 得 並 尺 四 四 謙 111 Щ 木 畑 百 绛 之 利三 共第 Ţ 嵇 江縣 循 丈 百 隂 丈 办 燕 -1. 利 理 爊 -1: 北 弼 五 雯等 宗  $\equiv$ H 應 禭 估 例 田 凡 Ш + 十 分 例 天 I 對 尺 築 年. 征 俞 齚 尭 分 Ш 築 六 樂 築 不 於 呈 築 塘 料 會 築 📉 輸 月 協 石 ılı 滔 捐 荒 畆 蕭 山倉中 得 毎 六 塘二 竣 Ξ 兩 通 流 數 任 险 委莫 頭 毎 都 丈 東 输! 會 利 詳 百 四 目 夘 Ш 斯 承 石 畆 外 需 深 奉 未 百 縣 分 H 百 石 知 銀二十 塘 + 縣 捐 頖 値 認 塘 府 六 頭 縣 毎 五概 詳 迡 銀 浫 4 丞 뒴. 據 13 + 八 炼 石 献 丈 先 李 院 董 ---塘 女  $\equiv$ 得 築 捐 本 鐸 四 橋 是 會 Щ 檄 厘 六 隂 五制 理 利 海一四 縣本 丈 煮 捐 稽 \_\_\_ 知 丈 叉 一毫 塘 水 田 4 任 + 縣 錢 舟 銀 兩 縣 ılı 知 據 准 等 四 坦 詳 亦 + 築 山 府 獙 任 奠 五 蘆 會 九 + 里 縣 丈 府 會 百 通 築 世 Ŧ Ш 稽 綵 四 百 发文 及 按 五. 原 半 粛 琇 兩 判 風 縣 縣 共 萬 通 文 堂委 畆 尺 采 百 計 纀 共 돖 翤 詳 邑 均照及文 竣 \* 縣 縣 進 本 쑣

娘 萧山水利 等 都 開 む 銀 淫 熙 得 成 = 循 需 鈌 丈 詂 公 孔 Ш 輸 理 T. Ш 家 楊 應 善 五 會 例 銀 亦 釦 例 三千 海 料 Ĭ 修 昌 -----并 並 詳 厙 會 挈 堆 應 家 仰 Ŧī. 毎 築 之處 \_\_ 於 八 患 勘 游 讗 Æ 派 + 飠 不 布 三割 毫 為 月 滙 年 里 本 都 士 協 间 前 政 Ш 八 餘 六 + 外 估 濟 致 词 H 會 百 堤 各 贷 年 里 成 紳 五 多中 共 有 有 築 六 泺 士 誻 綵 Ξ 貽 速 協 問 月 盾 兩 + 訖 其 計 四 + 徬 修 老 潭 車 鄉 奮 飭 保 役 相 + £ 或 時 大 丈其 殆 九 田 患 各 膧 逖 塘 責 視 七 百 = 日 六 M 費繁 築 月 水 縣 典 撫 不 患 E 非 用. 干 都 是 八 炳 修 方 1 謀 江 例 面 縣 办  $\pm$ 月 鈌 二十 + 里 役 四 度 蕭 堤 义 公 水 矣 秋 叉 同 I 通 外 六 四 萬 摄 據 費 塘 大 禭 闡 也 清 潭 勘 脳 Ш 須 四 浩 批 十 趙 兩 M 薻 佔 民 傪 大 入 方 紬 小 頭 千 繁 委 都 衢 壯 尅 查 力 門 六 鉠 修 丞 1 築 冱 稲 <u>-</u>十 之 縣 零 患 公 H 四 不 約 日 丈 爊 除 江. 袋 例 분 友修 張 臨 丞 毎 独 尥 禁 iL. 能 估 4 塘 除 馮 畆 V 壯 不 T. 久 塘 獨 T. 家 爿 + 浦 知 裄 捐 都 而 七 旗 料 堰 爲 -III: 有 数 任 山 五 庥 翭

蒲 羅 坐 于 薄 竘 刑 旣 之 邑 工 ılı 水 月 学 豧 圆 华 而 江 人 等 侈 得 得 輸 羊 及 退 再 肵 巴 尶 豧 如 種 非 來 故時 鄉 利 利日 水 瓜 土 起 憂 利 舍 過 雖 計 秧 無. 牢 直 鴻 修 錢 共 瀝 田 田 見 者 淹 再 办 可 計 不 未 進 共 湖 落 猶 雯 垪 H 内 柱 如 死 机 為別 洏 甲 有 毎 利 塘 萬 礎 何 瓜 本 復 晚 急築 詳 千 III 卷 十 等 害 六 畆 歲之 蔬 邑 更 採 然 追 也 府 十二 大 加 三萬 處 先 ij 夫 百 刚 粟 而 赧 西 西 允 六 外 輸 于 生 羊 行 水 湿 春 遊 未 捄 江 江 离 小亡之羊 鏠 泖 + Ξ 是 其 再 之 撕 巴 八 潤 種 民 塘 干 邶 三千 ナニ P 之 上 虨 縣 患 五 入 風 雖 術 北 明 貫 辛 八 而 去 则 色 E 不 平 矣 鉠 患 示 苦 卞 有 百 由 六 文 蕭 老 後 叉 可 補 七 議 口 地 FÍ 弱 需 飲 墊 至 雖 竒 12 急 Ш 不 牢 期 成 日  $\equiv$ 堵 先 墹 急 應 十 新 必 4 秋 监 江 於 俢 何 圆 患 月 六 義 十 愛 轉 明 收 H 何 湖 再 益 漿 丽 選 共 新 半 般 八 欱 之 枞 死 潮 禾 可 漂 失 然 老 云 期 堂七 苧 没 塘 畆 信 川 绡 邓 则 巴 戸 小 按 孙. 斶 羊 甲 苧 除 壯 雖一 旌 可!逃!用!補!亡 督 畆 請

蕭 挤 龙 有 ] Ĕ 合 不 食 山木利三朝 4 内 出 俱 Ħ 東 知 必 日 虚 塘 Él 恣 竹 力 徘 Ħ 胐 所 流 寒 河 洪 有 南 入 之 者 儦 土 W "] 為 辭 利 之 無 水 俱 内 家 至 押 亡 D) 故 低 ネ 用 永 之 也 丽 復 堰 矣 尚 平 有 河 醓 的 事 薻 日 計 層 而 啓 故 係 况 易 冇 限 抵 瀕 瓶 枷 塀 Ż 其患自 奸 篰 亦 廢 事 事. 合 Tio 띪 塘 浦 幾 為 船 Ŋij. ıŀ. 螩 民 就 易 趸 賮 小 不 卷中 カ 衝 干 松 下: 倪 奥 此 И 淖 其 椿 岩 則 需 舉 家 山 大 頹 竊 决 低 塘 但 補 制 稀 有 非 大 垣 應 Ź 壩 陰 約 無 森 處 有 旣 寒 鎮之中 費 利 脐 以 址 随 河 任 梓 計 患 竹 義 久 姸 此 丽 其 E 涓 致 等 所 其 他 橘 境 等 Ħ 平 木 之 决 炔 妨 奫 坍 去 办 所 諉 事 時 醢 散 澌 此 磚 長 塘 爲 决 洞 處 者 J 破 太 有 處 塘 而 而 深 浦 最 必 尨 四 自 之弊祭 蠸 者 無 均 船 供 人 功 Ĕ 居 商 濶 然 沿 + 西 急 則 穴 人 工 故 易 其 甲 之 Ħ 塘 民 盐 即 愈 北 傳 烟 蜞 係 耳 權 車 成 役 勢 干 澌 客 其 難 孝 俱 4 開 出果 奿 行 爲 爛 泉 旬, 妣 固 友 施 批 佔 有 뷔 Ż 百 Pi Pi 低 方 塘 以 材 草. 擎 頭 有 建家 功 吉 外 惘 檄 民 加 山 係 功 職旣 致 其 熄 敗 D 刻 所 及江 居 渾 起 表 運

百 叉 偕 得 邑 灾 全 是 征 矣 成 亦 <u>jip</u> 北 都 崩 何 大 4! 否 僶 鐁 督 遊 實 大 者 必 都 游 至 如 而 山 木 外 修 4): 撫 有 批 民 免 煮 利 修 大 M 遲 會 -|-塘 -|-者 三刻 雖 得 唯 済 之事 西 必 邑 之 亦 也 路 嚴 PLJ 例 不 於 望 哉 Ŧ 江 質 幕 若 哭 叉 于 都 自 鄉 督 天 厚 力一 塘 當 肯 比 Ŧi. 久 古 其 欲 沝 耳. 旭 隔 不 說 幸 乖 下 窩 华 鄉 参中 丽 之 諸 在 修 可 不 江 釽 鴻 意于 水 存 矣錫 Ė 벁 後 狐 脮 塘 江 IJ 人 補 鄉 雯 邑 数邀 利 饑 電 之 有 瀌 南 無 採 卽 何 E 一一一一 迁 農 淜 題 於 亦 量 有 涉 -|1-破 如 腶 目 行 省 愚 事 山 疏 免 を 應 前 之 此 及 值 家 吉 韶 人 也之 糧 툊 44-則 人 過 葢 邑 者 有 則 泒 也 P 之惠今雖 古 朝 游 或二 心 現 Ξ 分 別 越 修 通 不 九 然 心 人 延 人 华 者 泒 足 丽 11. 縣 所 古 生 攑 肵 姑 必 之於 ニナ 恐 惜 龄 縣 四 亦 业 今 焉 不 足 停 ij 者 胏 不 = 盎 궄 名 例 贝 不 跡 必 肯 2 数 遊 友 촜 都 四 Ξ 比 都 難 小 势 不 夘 奥 須 H 此 华 及 逃 專 縣 家 通 鄉 丽 至 南 出 有 之 六此 波 處 摢 瀜 哭 大 泒 廿 任 肵

浙 背 11. 岩 也 水 湬 淺 圖 火 他 不 肵 修 爲 I 山 爲 毫 成 蘓 驋 耶 差 謬 姑 丈 久 丈 節 某 修 作 肵 核 大 水 地 無 7 就 亦 宜 必 尺 輙 娸 惠 飠 利 巧 Ħ 次 虚 須 險 定 所 多寡 開 不 西 壤 前 曰 所 然 從 不 得 徃 漁 涯 三剌 秖 卆 見 之 先 膅 問 至 幹 年 浦 ï 以 虚 來 載 必 為 定 承 不 質 費 妄 稍 大 修 E 塘 肵 兀: 然 地 オ 有 東 卷中 期 其 條 親 有 渦 某 長 够 ţį 名 强 漾 後 坍 南 心 T. 規 若 友 力 カ 作 冽 紙 兼 處 四 行 止 縣 可 者 至 ż 合 模 之人 為 不 L 古 縕 皆 똃 望 + 實 不 IJ 小 人 符 IJ 察 政 共 凛 得 修 里 如 丽 众 估 烟 自 浦 汪. 其 吉 始 節 備 某 天 後 計 稀 逐 建 洋 自 勿 利 江 愚 閘 為 從 採 亦 繒 處 段 至 漁 此 T. 狹 不 H1 下 費 11. 古 事 擇 外 必 踏 + 浦 車 丽 訪 H. 敝 水 開 四 掘 江 大 巴 其 規 不 及 不 削 奫 起 無 看 小 人 郊 模 塘 不 遠 修 打 塘 矣 卒 之 敢 能 何 不 所 孤 事 能 旣 栅 利 近 畵 量 致 可 然 不 善 自 叉 北 + 최 無 -T-某 高 亦 成 以 耽 不 內 兀 Ŧi. 友 爲 處 1 處 鄁 事 後 其 [i] 办 非 爲 河 江 厚 IJ 令 111 机 成 欽 不 有 11 | 於 几 深 塘 當 有 是 恋 批 兩 而

ļ 稅 弊 书 塘 취 . 塘 ا .آل 尺 都 下 者 耐 矣 鄉 깺 杁 Ш 使 丈 修 修 其 如 不 夫 之 不: 十 也 定 , 不 漁 至 水 狐 糾 堅 丈 基 101 溢 去 襅 不 浦 通 式 手 旁 者 散 觖 杰 不 利 尺 足 濶 徹 額 愛 爲 瑕 濶 至 浦 按 = 人 令 于 熫 知 派 Ź 有 以 七 방 之 而 古 黄 K 前 水 醓 刻 按 得 本 额 著 為 倘 數 JJ. 數 之 有 典 丈 浦 塘 畝 戸 澄 周 竹 以 貔 之 欲 浸 然 卷 斜得 清 者 面 麻 也 瓜 不 文 :如 外 書 Ш 迹 非 滸 髙 非 濶 古 先 中後 IJ 則 推 耳 ĪŪ 1伯 Ell 溪 果 2 Z 清 算 高 = 墹 三丈 呈 凊 先 杰 有 J. 爲 生 無 焿 然 闆 古  $\equiv$ 至 丈 幾 明! 增 生 得 궄 如 骄 夰 不 丈 高 嘉 也 + 基 鈌 必 之 Ήï. 人 굸 西 坳 夙 懸 加 利 今 必 不 亦 靕 凋 之 弊 矣 有 理 不 亚 江 于 f] 漏 依 旣 足 驗 患 坿 + 里 五 塘 + व 纐 始 知 矣 則 丈 古 寫 以 載 丈 歷 八 自 矣 清 打 2 縣 亦 何 但 加 式 今 當 浮 古 當 内 年 年 面 吏 則 總 沿 以 其. 勞 其 漲 梁 III 濶 数 캠 鈥 3 漲 即 有 否 则 瓜 有 寡 闪 永 痕 溢 不 之 額 周 公 亦 不 不 有 因 友 丽 高 遞 非 能 通 築 丈 FI 堂 得 不 當 隱 有 循 萬 之 有 之 低 厚 徐 數 如判新 74 五 <u> L</u>1 瓜 孤一 漏各之

使 塘 跨 凰 四 至 許 爑 做 筠 有 徑 北. 增 松 内 泒 炊 潭 Z 係 江 紛 水 厚 松 辦 成 西 七 带 ル 抵 有 誻 南 N 料 非 典 利 Ŧi. 鄉 栋 例 統 寝 頭 4 塀 鄉 兀 培 後 怒 北 塘之 非 E H 世 Ň 石 可 組 所 吉 又 南 薄 亦 認 則 帶 瀶 四 成 VI 摇 公 服 塘 九 势 Ti. 蘆 也 有 九 塘 浦 田 平 都 强 尺 所 批 也 不 同 可 在 費 湬. 煉 分 鄉 之 贝 孤 者 麻 鳳 得 需 松中 打 豁 無巳 認 VI 例 河 郑 ĬΤ. 溪 消 後 出 此 僟 没 用 #1 11 于 E 各 北 者 無家 彼 費以 等 堋 鄕 -gi 相 木 A 虞 者 塘 陌 石 ij. 如 處 敦 又 故 傅 士. R 重 事 漢 揃 不 北 廿 塘 告乞 有 明 或 官 處 毎 世 篰 石 之 買 者 得 有 府 綠 認 特 海 無 才 而  $\overline{f_1}$ '用 讓 木 之勢 不 旗 渉 E 塘 都 子 不 在 + 揣 11. 觔 E 純 之 林 苧 徘 然 塘 里. 青 竹 虚 湖 派 J. 山 伤 能 新 讖 熫 荫 羅 渾 塘 定 篰 愈之協 势 鬸 内 仁. 勝 猫 石 7必替 当者 矣 亚 義 1 山 同 + 鄕 泒 人 竹 所 -|-妙 派 不 方感 矣 + 夏 廿 重 市 徐 七 取 去 以 到長 == 至 Ti. 久 済 都 出 松 遊 扯 得 华 皮 都 否 瀛河 循 都 告 ìù 温 而 棒 不 塘

必 滥 晔 踈 帮 饒 狂 定 狂. E ì 退 舰 乑 不 令 有 包 任 水 拾 委之 力 主 春 紨 富 財 未 厲 书 水 得 涸 江 之內 養者 亦 人 知 凘 有 頭 北 省 利 -+-벩 禁 精 船 之 杏 城 下 斷 拁 靴 金 强 有 不 带 --年 ψį 成 塘 晢 順 法 役 平 候 者 必 均 起 刻 識 獨 獎 錢 二十 竹 削 帶 之 近 石 家 不 必 物 任: 不 蝣 其 物 令 有 難 Ш 充 岩 詳 藉 取 料 忠 松中 邾 可 料 倚 刻 可 通 先 賢 近 以 干 者 數 必 矣 地 以 澌 全 用  $\lambda$ 年之 貨 令 生 丽 俌 致 觔 先 单 分 IJ, -1: 暀 私 所 闸 其 居 成 算 不 附 訪 内 ĮI) 到 段 圳 事 常。 寒 自 更 涤 共 塀 及 滆 民 云 之士 政 单 督 預 丽. 外 次篇 事 尺 塘 勞 辨 然 推 温 劉 均 之 卸 之三 郑 献 耳 皿 備 丽 书 夫 舉 飽 鉄 # 十 塘 虚 下 但自 也 檡 之 步 者 主 有 此 扎 不 役 Ŧ 沿 堆 第 典 内 亦 林 东 京 至 家之 有 -띥 4 H 而 恐 塘 外 依 有 其 斱 内 店 育 有 不 T. Í. 使 ٨ 大 居 周 任 剪 膿 羕 必 孝畏 分 1/3 然 都 負 自 之 誠 約 民 用 友尾 李之 打 處 削 仆 募 授 實 别 仍 偷 任 Ż 之 須 育 並 酉| 方 家:仗 堂儿 掘 使 H 不 十 不 欺:草 後 法 雄:義 康! 近 也

焉 奪门則 塘 合 水 粞 4-14 构 丈 大 TF. 必 di É w 蒐 有 **八之堤** 平 毕 宜 耐 丽 乜 失 必 其 及 任 之 核 Ż 由 于 削 木 不 火 塘 31 概不 修 堤 不 宜 都 Ħ 之不 去 咎 例 楚 之悬 潰 陳 築 爲 必 排 不 槲 築 致缺 Ż 塘 責其 國亡 于 人 引 ·F 洪 流 播 起之後 人 必 = 計 揾 烏 許就 遠 盟 蟣 入 本 低 年 + 家 之 遼耳 處 以 茶 之 修 利 灾 兼之 家 猿 農矣 分 16 杂 辝 独 段 \* 先 便 堰 H 亦 士 比 者 兩 旁低處 姒 民 也 所 至于 本 但 决! 橡 Ħ 入 如 而 禹 X. 妆 木 訓 處 彼 酒 楊 群 被 驱 所 窜 無 傪 蓟 サ 裳 II 切 罪 稨 妨 妨 私 亦 旣 自 13 涓 杰 滿 受 有 浜 宜. 除 欲 17 加 人 涓 行 窪 Pp 鋪 及 十四 容 1 臨 罪 11, 平 -7-布 其 驗 瓶 人 倉 出 利 不 石 之患 浦 Ė 麻家 면 利 拽 15 家 17 絕 過 害 不 此 版 货 堰 般 後 溪 之 而 尤 數 测 + 亦 新 兼 111 流 物 墹 故 Ud Ī 橋 如 不 陰 為 不 酷 虞 亦 餘 IJ 孝 之 謀 有 蓉 之 友 自 偲 有 覺 亦 低 'nŢ 江 私 **令** 갓 11. 首 犯 坍 奥 世 Ш 棐 家 百 本 其 Ħ 成 胼 堂 然 凡 河 知 習 薪, 塲 者 爲 城 挖 過 害 入 常用 此

事

İ.

巴

具

合

邑公

呈

當

事

[]

有

主 丈.

栽

但

猶

有

JI.

水

和

制制

. b.

人

盐

细

之有

未

抍

之

似

而

急

ΉÏ.

修

合排

處 | 若

剂.[二].

程

之

级

急

未

定

捐

輸

之

銀

鋑

未

不

耄

46

之

主

張

右

敢

為

*法*.

右

堜

之

夫

緩 期 具

當

補一築!

鉄:不

之。得

急」類

才

人

不

盐

知

也

泴

緻

婺

衢

杭 可

嚴

諸

水

疽

衝

化

华

間

太

守

浮

梁

旗

今

憂

小

江

為

ılı

游

縣

之

北

入

海

者

小

江

也

ï

原

分

道

丽

流

自

枚

明

炦

下

環

油

山

之

西

南

折

丽

東

入

海

者

大

江

也

浦

江i 丽

叴

窩

陽

Ш

隂

祐

水

屈

曲

而

下

瓊

蕭

山

之

泉

南 魣

折

In

縓 右 泉 壤 未 ë 地 仐 洪 书 必 得 謀 乒 七 水 行 策 柦 無 水 條 利 册 少 修 滔 女 暇 小 机 闷 茫 桑 築 考 橑 惟 老 然 之 天 補 Ш 余 任 生 之酱 專 變 某 典 不 建 之 事 於 知 而 海 知 学 诸 常 志 加 某 萸 次 府 之 談 発 君 IJ FI 以 所 俞 之 乘 耳 子 亦 先 卿 僕 謂 船 書 告 人 人 蕩 奥 僕 之 上所 未 論 湯 出 正 風 告: 共 慺 東 稍 靛 座 月 事 知 舠 淹 久 山 門 間 书 澌 沙 綱 役 裹 悉 VI. 君要 陖 刮 實 刻 髙 肵 於 者 湖 友其 無 外 西 丽 心 划修 常 於 堂 其 沝 江 行 撕 凝築 本 陛 尨 胼

**★** 225 - 337

赌 쌲 臉 漁 萜 浩 築 it 此 Ħ 待 -F-旋 滇 數 事 耵 之 車 之 惠 張 也 處 况 勢 夫 溢 浦 來 培 .VI 丽 堰 寒 老 尚 示 年. 草 坭 和i 办 無 汪 塘 仐 家 引 寍 氣 衣 Ł 益 夫 恐不 下 未 田 4 灾 淘 內 足 放 堰 洋 小 谳 立. 枷 再 蕭 有 方 幸 諸 冽 冶 循 人 鼓 印 不 可 而 4. 汇 麻 B 駢 治 浩 不 扩 處 溪 4 而 八 戒 7 必 不 孔 餘 IJ 植 **全**中 人 爲 + 事 典 衝 īĒ. 家 入 無 則 里 必 I 機 之 東 Z 衰 墈 决 當 堆 於 以 防 津 里 萬 此 T. 問 伙 大 泄 之 淺 其 使 浙 論 待 力 於 斛 \* 汪 適 叉 涯 但 見之 ïI. 後 長 繕 湘 責 衝 家 値 1: 肵 泄 將 恩 之 小 議 用 堰 其會 於 游 安 論 詂 人 湖 舟 放 江 必 湖 微 帶 是 保 4 堤 來 人 ット 不 工 而 湖 萬 洒 可 极 丽 程 19 郁 É 後 H 必 安 禍其 沅 足 年 遂 塘 合 兩 塘 之 之 揭 两 人 得 盡 决 办 謂 甚 E 2 I 申 蟻 動 生 Z 荷 緩 典 地 今 有 1 於 仌 聽 段 此 低 大 渾 故 倒 東 急 不 1 孝不 道 年 如 方 則 肵 然 荿 敷 游 門 滙 而 至 未 沓 安保 而 不 許 憂 江 忽 友 来 梴 修 虚 極 El 成 爲 愽 定 沓 了 巨 鐅 堂则 物 水 湖 也 爲 : 者 E 爲 Ł 者平 徭 以一力 惠和 此 增可 漤 斷 干! 塘 而 擮 誤 危

濟 槗 登 爲 騪 帮 縣 打 月 尚 稽 苍 蕭 寒 同 亚 之 惠 愛 歷 秧 Ш 得 旁 近 皆 手 過 例 I 則 固 水 Ш 截 有 會 後 矣 矣 然 無 晏 及 聞 帮 重. = 有 相 也 田 年. 搥 然 幸 三刻 可 亦 禾 且 Ξ 迄 茶 仙 机 漆 沅 縣 小 費 積息 所 推 覓 楢 苗 仐 IJ 縣 今 背 祭 故 而 溺 西 而 而 其 免 得 之 初 歳 徃 會 有 之 江 水 地 猫 西 **\*** 為二 貿 沉 挿 坍 年 看 丰 早 勢 春中 团 任 江 泛 旃 门门 譏 不 燻 苖 之 濫  $\stackrel{\cdot}{=}$ 升 蓄 蕭 會 朝 共 鉄 塘 肵 西 曾 邑 聯 良 洪 榕 補 之 江 泄 猶 Щ 不 半 髙 山 以 而 害 有 存 水 種 枚 小 不 咎 廢 會 憂 Ξ 東 間 桿 遇 山 見 址 之協 縣 可 設 萧 水 帮 公 載 會 所 所 外 瓜 下 於 噩 過 其 俢 勝 Щ 势 有 在 田 IJ 11 水 泰 郁 朝 此 彼 烈 鉄 雖 Ξ 吉 猹 誌 濟 本 屯 多 Ξ 泄 越 相 Ž 也 界 杊 训 巴 B П 緩 ijΙ. 縣 書 之 浦 而 始 江 内 萬 岩 之 熯 加 大 肵 且 開 追 白 可 合 于 水 人 輸 Ш 見 徃. 之 以 多 擾 在 爲 影 老 有 任 明 問 业 决 相 同 ダ 濊 上 從 出 北 丽 責 海 溢 友 嘉 萬 將 及 並 共 聙: 捄 B 前 终 1 在 Ш 塘 堂 非 半 煮 竊 靕 如 則 相 H 何 協 立 大 旣 푯 仓 飠 17 無 無 此 肼 111 = 左 憐

康 背 **ૻ**ૣૺ. 紫 徒 华 循: 抓 堤 之 3, Ü KI! 未 ill 书 也 7n 尚 修 滋 者 1 徒 無 無 未 -Ţ. 行 徘 以 쳶 為 人 Ŧi. 北 未 蓝 解. 箵 Z 蜵 勈 制 之 之 張 + 慮 7 有 奈 IJ 机 、安 何 Kr ïI. Z ijι -光: 丽 遥 限 文 六 F 事 繉 檚 Ü 何 堤 刻 菜 机 FL. 祭 收 冏 則 止 者 瑞 车 I 借 反 Mi 非 有 不 淼 之 官 獻 重 貯 书 誷 狐 得 谷中 借 間 所 桀 智 西 存 亦 至于 吏 害 出 河 之 者 老 綸 Z 以 謀 EI 固 江 砂 不 敝 有 閘 况 積 FI 之 繳 倘 江 Z 孤 則 為 依 丽 無 邑 並 11 有 泛 决 毐 샀 知 一司 提 圳 儶 肵 П ၂山. 無恙是 渦 無 病 儅 举 實 省 貢 故 樓 功 主 溢 部 水 凯 拱 傾 茶 1/4 生 修 四 之 聽 而 無 拵 捐 H 不 卫; E 莊 萧 小 將 覆 來 服 出 常 黄 值 所 於 輸 E 追 之 薬 塘 H 禰 N 總 未 Ŀ 之 な 此 而 河 nn 縋 萬 形 開 原 不 縣 陘 堤 則 銀 哌 E, 及 之 就 室爐 發 饑 之 有 闹 姓 何 政 鈙 绾. 肵 縣 而 防 故 之膏 用 杨 ili 炎 修 里 憤 烦 丽 放 未 當 預 孝 水 濟 H 17: ŢĮ. 友 果 不 具 修 强 此 之 μ 朅 猶 爲 呈 崇 ᄲ 築 食 園 之 愚六 難 省 知 血 有 所 堂 之 丽 非 歷 144 此 限 11 及 薍

插 之 患 憲 紨 此 預 枬 自 築 新 叉 棔 門 坍 决 五 尹 防 E 有 然 塘 葉 脚 木 而 樹 偝 搜 之 麻利 쏸 浮 見 + 茶 湍 起 餘 淨 遥 非. 塘 以 河 日 計 空 溪 写刻 丈 於 堪 告 Ξ 森 不 苯 但 I 四 勘 備 填 公 又 奆 年 保 カ 寒 張 得 旣 家 徒 欲 11 百 面 定 後 勞無 池 六 思 張 自 隐 西江 按 修 吾 41 議 維 都 應 반 民 大 浦彦 + 艱 家 刵 麏 而 カ 項 邑 總 凋 補 餘 自 觜至 門 塘户 塘 巴 鉄 家 四 督 态 欲 則 Ŧ. 浙 爲 則 五 汪 勞 修 之 鈌 家 増 外 Ħ 决 脜 丈 批 請 I I 不 脗 者 某 矣 浩江 處 堰 照 朱 至 築 半 智 址 高 本 向 ! 本 駁 浪 前 甫 等 也 今 办 爿 府 舊 |則 縣 丽 無 U 至 盾 七 朱 叉苦 涤 墩 門 竣 請 諸 先 五 爲 例 别 飝 倘 親 Щ 丈 前 勘 ·F 不 而北楊 築 是 十 築 令 日 生 塘 江 收 墩 十 患 於 测 帶 八 家 西 水 五 大 劉 康 之 亦 塘 無 情 帶 月 浜 江 竹 + 年 塘 公 脠 有 頂三丈 铁 Ą 之 大 鄁 腹 身 從 媘 吳 **JE** 一千 妣 月 形 孝 備 倘 措 築 不 身 湖 友 年. 华 築 內 十 地 裹 無 炿 坍 本 弘 髙 是 一府 預脚 衝 呈. 道 则 倘 减 五座 九 獅 方 叉 年 塘 如 內 魏 月 亦 科 P

胀 新山木利三刻 巸 借 济 飐 -**T**-復 畝 旅 共 丈 13 船 Ŧ. 打 一利 逐費 五 當 干 君 設 大 샵 有 16 雖 H -115 四 計 庫 九 萬 尺 呼 + 新 内 IL 日 均 分 毎 帑 鉥 綏 貊 女共六 ĩ 百六 叉 修 干 入 徴 'nΤ 塘 丈 八 為 備 榆 倮 吳 젵. 年三 捍 I 銭 千 摵 擄 者 塘 差 夫 北 來 理 煇 加 挡 禦 + 弘 Fi 八 内 名 而 池 銀 挑 北 亦 ふ 老巾 -F-月 塘 崱 築 業 順 同 去 兩 免 七 拞 百 取 耳 149 Ź · V 西 故 葵 而 惛 江 係 俌 婀 四 泥 兩 於 孫 依 用 **質異矣本** + ПE 江 無 拉 八 君 幇 縣 僉 新 遷民房若 毁 塡 Ŧi. Ŧī 外七 流 橋 共 塘 3 河 -大 地 公 文 令 Ш H 九 J. 文尺 居 jų. 畝 七 捐 也 六 錗 趉 -|-毎 193 與 百二 九 則 俸 及 踨 丈 厘 丈 年 办 八 毎 Œ 汪 俟 縣 千 # 於 前 量 實 故 他 非 额 文 君 軞 正 谀 君 後 舊 間 粗 + 尚 劃 增 瑞 木 H 月 徐 昌 有 出 之 德 有 水 洪 遷 Ξ 錢 办 侧 筝 自 夼 縣 舧 I 經 周 华 IJ 嵩 未 之 也 墳二 畝 蔡 食 並 41-得 水 **学友堂** 始 倒 紃 經 45 徴 有 是 便 衝 攤 # 北 君 十  $\equiv$ 士 μij 利 K 锋 撫 省 外 穴 激 入 自 用丨 月 事 澾 公 八 Ш 院 並 得 斯 椛 銀 協 惟 四 茖 預 並

塘 菘 紫 1 摵 就 北 炊 亚 1 至 尺 在 上 拆 平 批价 Æ 等 之 指案可 不利三 入 而 府 盛 患 木 鄉 塘 囚 巡 人 呈 君 神 抑 來 遊 售 府 + 水 姓 縣 洞 也 自 影 按 德 新 請 者 拉 親 院 塘 年 塘 來 塘 祭 志 書 有 亥 刺 等 坳 開 未 不 ŧ 有 此 猶 看 闡 爺 瑞 危 查 私 町 批 叉 平 箈 三不 有 齿 講 考 修 險 造 耳 W 水 此二 壤 西 西 若 仂 炭 行 オ 卷中 築 詂 塘 此 I 水 塘 縣 楊 江 開 於 前 p 築 修 縣 不 之事 新 生 傾 塘 者 不 家 塘 元 核 說 也 不 在 雄 來 七 主 湓 文 内 塘 經 浜 有 पि 塘 無 議 如 請 洩 成 前 緍 竹 闹 町 無 兼 也 里 = 洞 ۲ 則 旇 等 衞 經 便 人 修 先 略 水 拆 逓 也 诚 踏 引 献 累 前 于 家 舊 星 言 老 塘 撫 1 告 水 康 日 勘 而 明 問 縣 院 外 擶 塘 于 汪 之 之 主 縣 溉 熈 私 許 沔 不 之危 其 趙 揩 壁 朱 슈 首 辛 前 家 海 型 江 許 詳 --開 開 公 多一 公 院 自 新 驱 憲司 Ť 箈 今 八 爲 進 塘 不 窩 詳 請 第 初 開 塀 六 年 士 至. 是 欲 胁 浡 火 將 重 下 秎 雖 築 友禁 火 都 附 背 主 開 Ξ H 在 寳 蜜 車 有 ٢, 寄 之 不 剪 1 塘 竹 洩 瀹 堂 擨 許 汪 引 造 ting. 皷 机 是 寫 縣 H 居 山 之

提 檄 在 杊. 齝 澳 不 卆 业 ズ 樹 朝 巾 ıti 建 欲 N 可 王 将 此 於 蛩 PG 壤 也 起 E ٦٢-造本 香 公不不 哭 家 利三 於 也 煮 惟 開 淦 H 坳. 水 此 築 流" 汪 勿 蚁 夏 夫 题 地 來 復 浜. 望 湓 處 備 没 橎 政 皯 刺 植 爲 典 被 塘 可 决 熱 灯 仌 H 人 祭 溲 民 批 縣 親 裂丛 情 楊 也 Ĺ 數 父 水 例 贞 北 据 办 保 不 早 邑 光 定規 家 樹 ·母 之 小 何 他 松中 抛 塘 且 本 可 前 此 塘 則 作 潜 察 狀 致 荒 不 厭 知 處 康 富 身 能 正 人之有 模叉 其不 浙 法 之成 效尤 基 先 徐 若 甚 何 愼. 便 同 配 勿 也本 推 開 於 脊 丽 三十 地 坤 况 假 塘 私 奉 म 嚴 黄 則 海 春 例 當 河 無 而 俱 冷 糧 如 Į, IJ 檯 老 帶 前 뒘 竹 勿 至 誉 胼 倒 E 亦 而 開 各 引 聨 院 新 Ш 何 未 e ılı 甚 私 年 圭 開 經 爲 憲之 食 溛 之 荷 外 縚 崇 深 有 打 劺 所 攤 有 前 縣 他 名 遭決 亦 洞 底 利 開 平 藩 水 則 粃 Hil 任 捌 泒 H 之徒 幸友 蜜碱 水高震 來 支 盲 同 念 -Y-思 在 来 止 癬 劉 縱 此 爲 北 遵 之事 案 灾 仁 7 開 督 此 户 誰 公 有 五 仍 七 之 丈 瀹 黎 北 於 任 此 院 連 不 計之以四卷 前本 不 月 若楊 其 雨可

游 胪 馮 华 **Kić** 療 粘 Ħ. 刻 仌 献 庠 復 山 습 令 水利上割 76 壩 派 其 厘 或 分 有 趣 吳 愷 Ŧ. 水 流 湘 元 之得 放 不 沈 + 仌 原 爲 奇 山 張 弘 經 利 湖 萬 Ц 箏 则 六 世 楊 業 偷 詩 入 = 田 銌 應 糺 利 十六 华 前 庚 华 九 順 杏 文 Œ 超 刻 放 事 鄉 田 舊 / 嵴 公 三 次 梛 徐 糠 下卷 合 得 不 4 Æ. 个全下 坐地 邭 六 特 塘 夢 書 般 孔 1 得 月 而 利 畆 -T-開 或 先 水 鼎 富 欠 成 沿 田 \* 15 渦 時 华 九 餘 得 開 六 敗 湖 等 築 合 + 黄 蓄 坒 英 疝 畆 溡 水 綵 處 吊 該 家 捕 Ξĩ. 即 四 水 E 芁 四 八 湖 生 稱 Z:J 海最 張 不 糧 塞 亳 鵏 秋 渭 韓 金 來 忽 澈 水 輸 鄁 四 놋 划 분 畧 士 早 \_\_\_ 伯 景 文 2 Ŧ. 75-綵 後 7-= 瑞 秒 洪 案 夾 風 泒 兆 湘 抄 通 或 或 放 等 十 髙 六 石 公 琛 八 湖 經 Ш 零 包 溥 縣 紃 徘 放 水 百 利 表 / j 拟 毛 生 燍 四 嘉 则 湖 七 等 千. 六 赐 校二単 水 及 倠 負 是 米 悉 溡 -九 典 升 -1-鹗 朱 EI 浼 湘 其 分 JĹ 邑 史 至 鄉 協i 斌 枬

先 杫 悬 怂 JI. 炦 任 桕 湖 77 ini 利 洞 丽 例 字: Ty 蛮 催 沾 乃 城 寒 H 勺 现 早 11: 淵 有 州 而 乘 取 先 窑 貴 官 北 觝 Ť 有 旣 土 壀 低 水 蜇 在 寶 퉭 九 芦 不 之次 亦 捕 姓. 哥 有 能 蓄 放 為 水 所 鄕 水 不 而 之 九 M 勘 淺 魚 嵩 彿 湖 虐 讇 謂 调 衣 塘 縣 重: 運 鄉 規 府 驗 便 不 鰛 長 彀 徨 + 主 私、 极 食 水 ılı 季 見 磚 莊 於 禁 特 蠢 PF-彩 穴 防 獨 之 數 不 不 Ш 馸 原 亦 過 ガ 胥 其 碑 任 则 絕 何 耆 彀 天 徧 集 盡 淮 偷 瞥 臂 防 不 流 窑 來 莫 成 版 有 补 斯 亦 滌 間 更 蓚 開 Fi 其. 應 功 衡 儿 賄 私 水 低 抹 퉵 隋 所 得 利 H 穴 찧 教り一 蕒 = 揆 歷 書 永 沿 最 鄉 放 绑 頼 共 法 蓄 復 口. 塘 代 断 凝 性 順 蹅 厥 循 湖 班 湖 + 張 夫 乾 也 淲 常 進 車 偏 栫 止 有 肚 命 所 水 班 之 潪 Ħ 茈 網 颒 涸 塞 枯 湘 外 耳 水 由 滿 循 可 本 源 下 設 通 便 湖 塬 拉. 不 其 杯 盈 考 有 卽 不 ıtk. 省 潚 笱 衙 於 惠 皆 寒 孝友 外 蕌 容 机 罰 競 |利 足 水 費 毫 水 蠢 挖 風 以 別 鄉 甦 水 有 顛 利 揭 私 故 刚 省 窮 無 吏 掘 官 規 1 先 九 渷 批 防 帶 內 在 枯 衙 工一顧 不 漁 地 厚 只媚 航定 槁 今! 獨 謂 漥 斯 鄉 骅

[3] 容 泄 旣 E. 帆 訓 倂 利 不 湖 禾 漇 个 Щi 剩 蚁 并不 筝 淮 先 分 通 私 衙 愛 塘 不 加 深 # Ж. 也 放 利 湖 可 少之 有 通 數 址 殎 久 -輸 救 於-\* 就 徘 定 私 什 幸 同 周 淇 滅 民 德 無 取 吕所 試 私 司 剢 存 今 外三 耹 漥 田 土 得 抻 思 作 譋 刺 莫 其 獨 惠 望 二三乃 春 則 戜 受 祠 西 宜 燵 分况 꺕 外 水 畫 此 膱 之分 夜 東 制 窑 业 湔 畜 腑 為 丽 地 成 更 何 不 亳一 水 有 田 湖 夫 則 甚 民 以盈 或 累 糧 视 絕 沿 鲞 遊流 湘 指 少於 珠 情 伙 魳 造 食 餘 地 湘 忽不 湖 夫 民 官 帥 乞 各 今 湖 是 初 臺 而 北 ĪĘ 沿 1 官 鉠 之地 沙 官 嚴 為 甫 村 造 昔 膏 絕 反 何 得 帶 放 湖 坊 不 填 则 九 是 加 民 杳 利 及 而 以 鄉 之 奸 Ŧ 私 涓 足 竪 非 庇 盍 壤 堰 叉 洞 M. 数 下 深 之 沾 田 民 滴 通 法 华 車 堋 泒 咎 昼 背 有 而 姖 鄉 蜂 添行 杪 若 詳 13 九 朱 是 之 將 逞 上 VI H 能 所 撮 屬 <u>'</u> T 刻 九 波 共 能 各 遑 誰 学大 滅 由 鄉 納 加 比 得 車 巌 澎 清 鄕 深 背 而 不 如 湖 餧 鯨 北 及 16 聍 築 之 之 納 利 耳 防 見 今 蒙 問 栽 加 堂谷 .1% 不 甚 偷 戲 築 不 田 膦 所 不 然 水 水 敲村

夫 盗 欠官 個 | 欠官始去上土 私 肯在同现終秋 次官石 猫 談 柳 佔 個金 伤沙斯 爱不至 海石 浟 机 JE 渊 倜 Ħ 受 七 H 水 個 脒 歷長机私 游音在 月 例 湫次官 私 山倫孔 個 家腹 內 大官副問語篇 尺漂 南波及 倜 盗案 康 私 大官 澛 富名 = 欠官初賢 個 尺深 潹 个河 私 黑 湖 洛石 河水星厚私 湫玺 委 = 用上 衙月今河 一 水 籓 岩 膱 充 莱 **E** 頂 不假 勘二月银個 私 私 造 堰干葡萄 沈 私 N: 籓 籓 個 典 塘 塞名 丞 共 窪 欠的例果次管個 日五寒上山名 1月/煌 Ē = 個 河在 水 欠官 展 潜 图 其 目 私 欠 尤尺深上 图 個 禁輸 許斯在 個 克 煌 吏 技先 瀋 個 等期 賢 私 山 胥 上潘 Τ± 私 叉 昌 則 補 湓 淮 北 篇名 個 黄剛 一 語風 籓 食 番 水 私 非 塘 穴官 移穴官 尺深 津芳現 個 家 凰 私 海 船 四 同 \* 私 穴|個 柳 私 楊 林 窪 法玉棣河在 個 五 紼 生 同 湫 箈 塘 大官划 籓 粪 堂私辛上陳楷士| 次官 穴 叉 個 + 之 雅 穴穴前個 私 穴 私 赚:門十:假家塘名 岩

協 犯 潐 九 熫 必 最 尺 迄 亦 今 穴 掩 移 ÜĖ 罰 歷 剁 ηı 禁 共 4 罄 鄉 用 H 有 年 大 更 盾 烹 两 彼 籓 例 水し 利 = 並 耆 吳 難 主 垉 五 至 澳 有 就 生 最 旁 來 洞 肥 弘 闹 + 等. 無 使 甚 鱟 竪 日 月 瓜 賣 洩 成 官 نالا 水 規 增 聖 業 爲 Ξ 制 盐 限 民 彩 林 者 法 河 具 石 溝 不 切 崩 穴 次 控 及 辟 富 E 害」成 私 陳 减 截 底 鮗 作業委 iii 其 及 思 俏 賍 先 今 築 家 = 次 至. ¥ 亦 移 厘 淺 刘· 查 椙 開 畧 毫 英 年. 外 河 呼 相 放 悉 邚 易 : \*\* 陸 蜒 不 一防 五 堤 之 存 滌 不 定 地 頛 粃 湖 郁 敢 資 惟 瀹 巡 楓 不一洲 月 滟 書 彼 則 勢 衞 水 水 制 等 草 稱 開 业 去 洪 私 水 私 最 四 仮 勘 利 此 穴 泉 者 式 呈 載 水 水 琛 行 向 遬 公 低 見 盘 衙 無 不 总 于 次 稱 又 来 塘 情 次 來 術 有 補 休 俞 3£ : 洞 跳 兼 各 寨 斯 經! 址 不 明 目 私 弊 稠 胀 或 工 作 至 [6] H 爱 偨 禁 楊 湾 畳 禾 + 文 生 苹 皿 假 於 五. 湖 紃 利 罰 椞 之 八 A [11] 赃 險 Ŧ 私 然 公 矜 枯 藪 先 尺 水 世 開 欠 厳 來 -|-飹 中 泉 友 梅 大 梳 沿 各 利 # [ ] 尨 肯 私 書 竹 公 叉 開 均 目 私 役 深 自 餘 爲 剬 堂 痛 私 及 於 處 故 放 難 或 棽 放 宋 張  $\pm$ 稿 迢

及收 來竹 天道亢陽 湿先 粒 服 失於覺察致紳士王 丠 山水利巨刺 批審詳內稱看得 斯波湖水一 守 院 脩 女 賍 蹇 聍 隨 秋 利 築以衛 等各供馮 築當 害民 刻 乃 梛 淌 沝 後三日各篇 八 縣誌原穴所 肼 敢 ぶ 公 處藏誌邑乘 悔 經過 数取揭 潴 大干 谷 保 叨 H 開 丽 谷素越馮愷 經**工**即後黃家寫誌 設 私 苦伊 禾 案查湘湖蓄水澤及九鄉 批 人参下 担 愷 報 鉠 法 私 鬧 湘 在案奉 鹏 經 滸 水 王協 紀仰 **籓三十二處之多現樣** 洞 iti; 任棍蠹滋弊干 無之私海處 通詳各斥究 除 洞 協 次第開洩不 沿 脩 水 隻輕罪不 懈 水 十等 t 訓 築 布 利 等有 不及 弛 憲飭審 游典三十 居 婚 政司嚴 載 誉 職 进 及 民 堤 控 4 擬 特 扎 叛 違 旫 係 水 七 肵 : 詳解遵 - 咎等因· 議外得受孔 失察衙 利 提通 鄉 例 禁 一面飭 培集莆 A 容紊越奈今夏 典史專司 即 二處 行堵 섂 官 豿 私 典史馬 具有 築 次一 私 開 嘶 教友 役 洲 即 立 水 等 塞 4 勘 而 本 犯 犯 訊 餝 Ľ 十 該 朔 洩 詞 馮 毎至 愷 乘 証. 官 堂 縣 赃 據 堵 則 之 尉 胯 縣 確

爱 朊 占 쐮 女 TÍ 非 岩 DH: 雄 馮 與 4 林 难 筝 合 不 財 因 四 田 各 IJ 受 穴 扺 候 伯 愷 觩 莆 所 依 准 4 等 杖 4 利 从1沈 財 鮆 情 折 不 九 英. 經 伯 賍 文 折 送 杯 六 黄二 英 虑 枉 務 茂 入 雕 人 般 E 鄉 栽 致 贖 銀 又  $\tilde{z}$ 得 + 法 刻 法 應 科 华 母. 揭 同 係 Ħ 永 罪 膏 係 金 + 錢 折 賍 諭 邀 飲 献 因 年 Al. 科 馮 黄二 過付 不 折 五 兩 松 免 士: 五 各 人 盐 分 沈 尉 維 伹 叙 华 疽 干 = 财 兩 詐 供 議 板 下 ‡. 11 腈 俱 刑 錗 干 4-塘 科 文杖 以 物 武 者 ţþ 各 滥 太 俳 悱 稲 長 뮟 断 合 板 下 若 四 旌 好 開 式 進 果 嫲 折 湓 華 升 依 責 並 杖 筝 飽 符 衞 孔 照 半 科 俞 送 11. 瑞 来 官 革 兩 送 革 七 追 應 分 並 赦 一沈 因 科 秋 詳 茰 十 !以 得 差 狻 詩 天 ル! 總 未 事 入 断 稱 否 孔 人 查 人 亢 爱 -F 之 監 渚 孔 革 係 官 H 茁 分 九 承 七 塘 笞 华 去 無 早 雖 茂 别 部 人 生 湋 始 成 兩 日 折 私 非 杏 泉 塀 禄 孔 禁 不 賢 行 :#1 捐 除 應 去 至 1-1-爱 錂 서 入 長 姓 友十 孔 人! 瓶 九 阱 刼 納 將 無 偷 本 係 五 錢 Ż 减 迪 熟 事 典 已 德 名 新 成 紛 放 宝丽 藏杖計 紛 F 而 史 倒武 宜 目 水 並 例 石

是 濼 利 於 孔 馮 兰 H; ] 加 Jt. 世. 和. 脏、得 承 1.1 愆 焦 有 九 愷 罪. + 纞 愈 迥 徤 銀 惟 細 甘 無 原籍 偷 期 成 經 云 升 利 詳. \_\_\_ EL! 馮 鞩 怒 訟 劣 人 赤 等 杏 放 湖 गि 等 曲 之 恋 若 愷 並 據 未 蹟 网 丽 桶 壤 諸 雅 堤 供 17 刺 豿 业 孔 北 H 4 親 無 骓 經 Z 然 À 以 塘 基 敉 查 為 供 府 其 郸 九 以 璐 供 錢 艾 亦 外 候 艮 事 麗 成 審 起 紳 禾 之 等 瓛 有 Ĥ 可 μĵ 也 ıt. 檑 孫 田 샮 行 矜 訴 當 筝 1/4 司 果 ĘП 升 據 禁 就 康 茂 般 成 佔  $\pm$ 亦 有 在 該 宀 有 殊 杳 Ħ 無 熈 遏 雨 協 交 禦 쾶 筆 經 縣 业 縣 縣 酸 郡 鸧 職 1/ Ŧi. 琳 和 ו 私 排 ' F 自 胂. را 鈛 為 審  $\equiv$ 元 該 送 員 耕 + 牂 笭 放 月 請 之寬 机 JJJ. 受 懪 木 認 脩 솢 典. ID. 꺕 椰 八 種 擬 尋. 於 託 嚴 九 史 史 見 不 賄 塘 之 年. 丽 塘 -|-之 觧 該 七 75 例. 訊 誰 催 别 百 任 議 家 四 Ħ 解 H 縣 A 忧 情 據 費 前 殼 也 有 姓 亦 蕭 非 該 嵬 Л 委 餘 來 初 經 縣 復 业 但 處 爱 亦 數 Ti. IJ 耳 始i 枷 邑 蕭 縣 載 錢 友 业 水 刑 ·矢 長 残 分 緊 無 後 典 丞 初 則 賁 さ # 曷 難 仆 堂府 不 尺 曾 Ħ 淪 史i 自 鄆 勘 姑 五 素 認 瑞 衙 还 m 開 下 濄 不

邢山 穴 찷 看 视 旅 쑴 IJ 未 經 Ħ 水 絮 誰 升 灦 憫 未 祓 用 滇 設 [6] 蒘 1 趙 鴶 郁 利 派 崩 勘 可 秘 十 並 等 和三刺 蕭 責 伯 仁 請 曲 翔 或 原 杫 究 群. 揯 否 亢 秋 H 因 英 控 啼 並 均 至. 瓜 以 4 相 縒 A, 季 薾 獻 後 等 湘 幸 邀 免 支 隩 惫 利 端 應 Ŧī. 詑 縣 爯. 飢 = 雅 湖 裳 恩 深 發 餙 璵 于 民 水 至 將 + 杳 委 大 H 田 蓄 潚 等係 卷下 绝 求 學 湯 典 殊 室 A, 員 測 洞 湘 渦 柏 其 所 屬 水 泉 戒 之多 查 而 有 史 乘 司 湖 十 利 Ú 有 次 飲 塘 大 沓 # 餅 反 爲 扁 肵 騐 椒 匹 티 1/2 ¥ 及 首 早 凞 免 長 但 哥 固 胧 載 敨 因 摵 凘 含箱 Ż 明 典史 英 儿 錢 華 念 奸 私 13 開 水 H 腈 六 答 鄉 于 瑞 終 係 年 捕 籓 各 臉 錢 救 留 自 及 F 1 各 + É 等 不 應 之 若 盗 游 平 何 : 革 公 敝 黄家 八 事 與 人 朱 核 名 得 之 卫 應 拘 H 人 + 更 H 71 迄 詳 下 府 起 忽 Ą 于 任 八 飲 定 其 始 18 Ė 溶次 六 4 稱 縣 審 見 鋑 恩 邑 預 餘 處 而」 秋 於 意 嗣 孝 + 設 水 訊 之 友便 拍 并 K) 民 後 再 後 悉 何 今 仁 第 餘 有 司 入 溡 請 堂 至 孔 禀 和 加 车 始 水 湘 樵 业 畆 水 坩 官 也 九 原 联 生 放 窓 湖 難 灦 該 肵

蒲 潙 文 成 瑞 N. 該 私 協 粱 錢 馮 批 然 涧 衙 乃 餘 KF th 爲 傱 府 武 典 總 轉 等 協 黄 衙 司 녓 來 洞 F 17. 水 F 單 双 生 經 ආ 差 放 利 事 是. 竹 等 史 伤 水 成 同 水 訊 升 叉 献 蕭 沈 單 據 提 분. 在 等 潾 緋 有 馮 利 該 |刺 供 以 茂 所 伯 供 邑 迎 ē # 孔 縣 以 Ξ 士 叛 愷 坳 因 得 礼 英 华 十 茂肾 得 业 斯太 遵 沾 自 施 而 勘 例 經 見 筝 塘 九 俱 錢 酃 詳 卷 뽀 犯 勘 任 + 緋 栒 騐 百 長 進 成 處 惛 各 縱 去 証 等 迎 私 扡 八 17 矜 湘 姓 華 衙 分 酸 百 役 後 共 华 科 然 確 湖 私 洞 珋 何 愛 瑞 錢 說 錢 四 竽 事 籓 之 册 私一兹 審 歛 Ŧi. 政 鋤 华 刑 事 爲 疝 ナ 開 據 华 事 -閉 先 非 外 許 咨 111 悄 则 脩 擬 来 文 楊 情 华 官 长 元 斥 閒 處 後 胪 原 認 矢 拵 N 又 孔 冀 令 究 | 土 棜 明 华 次 桦 以 放 不 越 之費 徘 口 谷 沈 係 欠 詳 該 容 擬 斯 Ŧ. 情 縣 水 九 鈥 不 斥 詩 過 受 秤. 华 溲 覆 十 縣 + 元 以 别 鄉 İ 箵 承 餘 鰛 付 銀 庭 湿 之 庭 Ą 致 因 縣 八 有 H 錢 兩 杖 生 加 摶 訊 源 報 赃 Ή 復 洞 紼 主 置 徑 四 解 孔 長 典 水 委 兩 1i 証 私 上 據i 爻 鬱 數 錢 府 九 孙 派 確 籓

妆 至 نإز 쑮 少 献 山山 仳 湖 杪 亦 派 批. 档 事 僪 禁 更 職 土 非 至 11 得 之 目 蓝 科 妣 得 八利三刻 Ź E 員 有 雄 光 詳. 升. 再. + 欽 僻 三 縣 甘 錢 湖 滸 福 加 + 猴 FI H 捕 免 及 双 因 尉 丽 猢 灦 部 徂 該 洞 周 쎭 渦 另 7.K 枷 拟 雛 大 司 答 瓜 把 水 處之 杏 之責 府 族 陳 此 不 各 付 Į. 得 背 供 利 係 過 而 湘 誰 H 熫 東 外 : 情 爽 松 簡 徿 鈅 攻 灰 灰 ガ 之 多則 ii) 以 私 請 相 為 杖 形 詳 Hil ·T 員 歷 水 下 视 其 水 應 革 之 有 丽 觓 淦 水 首 歷 脊 Ŧi. 一水 N 啄 1 若 平 餘 始 赤 凝 各 案 + 111 湘 歷 斥 郦 Ė 出 之 筬 請 Ξ 自 行 爲 湖 學 銓 賘 錗 小 信 如 至 Fl 被 + 宋 堵 允 戒 單 之 뮟 激 孔 ÷ 初 水 緰 魺 如 þŋ 代 亢 泅 寒 請 容 覚 儲 利 餅 九 各 府 土 升 华 供 使 斯 邑 有 册 其 委 再 成 名 審 垄 繋 從 譒 RH 託 庬 有 Ķi, Ą 早 湘 任 該 韓 Ż 許 下 脚 升 潲 鏧 嵬 是 來 玷 前 觚 4. 湖 私 脈 府 沈 共 事. 縣 應 姓 來 伯 미 亦 外 今 孝 雷 茂 山 剧 以 英 諸 音 等 之 溉 水 派 迎 亦 友 難 任 楊 H 勒 是 皇等 利 蕭 爱 催 本 等 入 鳰 憲 酮. 守 私 摄 文 誌 徻 排 石 燔 供 捐 賕 司 乱 四一官 何 私 經 顔

靖 笭 之 水 請 酌 阜 者 山 秋 栛 令 胚 者 亦 法 i II 法 禭 之 公 之不 宜 餐 咨 古 月 尔 復 漫 四 愈 人 則 亦 利三刺 胩 帷 相 4 季 古 變 聚 學 覆 妥 水 制 爆 日 心 能 恋 你 女 碓 必 少 各 天 其 珬 並 限 拘 菲 凡 仓 蘇 E 另 有 凿 至. 事 壀 法 餰 於 --也 猫 耴 用 雕 土 定 不 放 截 以 餘 升 文 水 今 池、秋 秋 事 潤 腁 湘 八 詳 有 孝 舒速議就在 等 足 然去 後 溽 H 利 後 詳 长 從 朔 而 禾 湰 之 各 奪 放 隄 爲 莆 駝 =秋 暑 丽 岩 始 乃 騎 下 **黃二十** 憂慮 **紫撫** 岩 法 萬 B ď 六 如 放 水 不 年 人 有 葋 議 早. 43 放 有 湘 可 月 府。之 勃 靴 逄 į 院 令 爲 謂 ぶ H 先 秋 大 捌 鉃 然 早 計 例 湖 之 早 之 該 開 賢 遊 批 者 切 板 雨 水 裥 乾 俱. 火 生 早 夫 廿 終 長 之 以 革 馮 縣 放 不 此 被 不 興 駭 愷 則 胩 也 謻 共 幣 . 夏 和 年 乃 法 法 役 會 不 初 後 事 當 人 13 浒 者 立 知 今 H 收 澗 有 追 Æ 冏 若 え 秋 濫 滥 賍 因 將 H 反 司 : 儿 宜 仰 綝 冷 不 \* 變 温 .1. !3 即 士 急 :特 何 倂 苗 上: 韓 柏 团 無 勲 便 友 之 岃 放 秋 至 們 雞 炭 堂 良 共 翔 從 於 救 违 壀 | 於 來 於 枯 之 寄 事 群公 需 瓜 非一則 救 旅 非

Z Ţ. 慢 肵 H 之 丽 ## 末 必 行 使 泚 溜 絬 #11 傍 秋 F 濫 定 胡 楷 Z 大 衲 紛 鄉 H. 糿 水 無 下 木 得 和巨 嗾 湖 然 N 因 प 也 以 早 之 É 初 H 湍 液 豼 水 其 + 天 之 机 P. 弘 JP. 灌 披 IJ 而 便 Ż 之 制 秋 H 唯 訟 \* K) 八 設 後 更 禁 潘 鄆 Ш 溢 欠 肼 H 岩 有 平 旣 私 舂 有 設 何 至 哲 .K 夫 必 亦 卷节初 机 肵 II i 和 餘 放 復 風 植 今 瀉 枯 麓 防 割 Ti 開 雛 調 悖 蜒 此 台 官 食 水 地 江. 以 何 不 三十 者 有 難 有 河 衞 府 倡 增 約 藉 非 禾 法 之 尚 兩 先 餘 寒 助 於 虚 **#** 쑜 髙 冰 不 東 肵 ìÌ 鬿 也 有 洞 諸 今 後!低 7 有 仌 能 私 Ż 湖 詡 之 小 不! 不 71 光 之 ıt. 崩 通 集 猏 彼 府 均 丽 窩 1E 分 推 比 猫 Ħ 中四 變 欲 茍 正 漏 宜 人 諂 地 不 晔 选 1/9 45. 鄉 水 番 不 乏 危去年 之 穴 得 絕 絕 可 之 方 之 Z 種 阦 水 且 74 厫 Ų 水 則 腈 有 幾 塩 也 遇 自 利 後 占 了 脱 亦 心 安 告 高 弊 倍 城 事 利 有 也 刺 摇 相 淮 丽 水 方 赤 杂 権 南 怯 早 能 不 得 刷 糧 若 宜 急 須 可 JI. 倘 是 友 收若 足 湖 于 漾 重湖 殟 市 行 衞 緃 木 湖 稻 윓 木 极 分 بر ونها 爭 肺 桉 木 1 無 成 萬 水 H 专

酒 岩 尺 均 心 水 羊 者 :t 足 稍 患 約 净 丽 繳 此 祸 坡 Ŀ 古 落 易 费 計 則 矣 奵· 者 計 櫌 此 И 白 坳 之 之則 斗門 土 費 泥 爲 制 厚 於 宋 從 止 此 R 山 要 見 法 也 使 在 ÷ 何 銀二 爲 橋 用 甲 閉 虚 雖 41 窊 杳 棔 堰 成 宜 以 不 以 是 十 15 讕 願 而 石 淌 + 木 作 建 北 公 墹 颇 N 得 劑 Ti 行 可 下 私 百 H 扯 旌 郴 或一斗 也 年 費 샖 Ħ 得 兩 易 耿 開 合 不 尺 大早之 無 솖 之 浦 青 立 門 無 t 青 JŁ. 則 宜 于 不 工 力 之家 忠 M 土 + X 亦 洮 尺 耳 石 積 淵 世 坍 以 書 Jt 創 於 得 八 塌 通 須 者 七 柯 五 便 1111 年. 塘 免 欠 魏 去 制 寸 則 N ナ: 行 尺 開 於 鍰 上. 湖 其 文 以 民 郮 共 也 亦 郤 H 则 界 41 以 約 ょ 人 以 罪 请 作 畫 费 争 易 太 是 址 成 無 以 石 捷 以 金 寸 此 黄 銀 髙 甚 官 線 分 宜 之 限 得 斜 黄 食 水 公 徃 亦 坡之 於 青 計 Ξ 矣 放 底 如 脩 清 條 敗 叉 走 地 徃 放 何 塘 築 種 黻 背 之 也 初 Ħ 但 水 去 珠 露 Ш 势 湖 甚 六 狩 將 短 胁 樹 终 為 则 伙 Ti 以 之 水 最 則 年 놤 Z + 節 制 不 堤 界 湖 必 植 分 無 不 画 塘 梭 絕 蔬 明 度 不 也 居 無 有 黄 3

之 花 路 쿠 占 有 土 想之 少 揭 知 涯. 沝 洩 jį. 败 名 老 下 有 尺 消 世 答 所 H 司 币 A 利 监 入 幾 請 新 内 in. 者 也 甚 消 决之禁宜 司 不 寒 II. 跡 貨 叉 腑 痛 # 4 丼 佃 漸 後 不 欠 特 乖 便 ii). 官 怒 不 捌 W 成 名 然 有 行人 於 不 烙 何 貧 絕 旭下 察 中 黹 訓 Ą 4-夜 邑 闸 丽 御 鸧 流 不 制 史 群 陛 湖 過 辨 忽 嚴 可 胡 退 伽 4: 厺 之害甚 為 1 N 起 灘 K 必 之而 也 為 絕 腂 中 養 决 I 扥 拖 **| 次通** 細事 核 4 )堤塘 也 清 效 地 占 爲 堤 汗 河 也 墁 墾田 莱 尤 也 瓜 之家 1 天 不 此 赡 廽 月 防 叉 不 柸 吉 涛 之 仵 奸 私 义 可 旣 非 水 Fi 而 以 地 4 可 起 頑 刹 不 有 灌 夜!好 不 條 進 産 収 近 突 詰 科 之 矣 逝 任 隕 於 傍 H 膦 以 夫 加 久 値 郑 人 之意 尺 水 之職 命 層盤 安 從 以 批 毎 水 共 湖 徒 知 人 秿 徃 亦 洧 之 背 荒 膀 知 毎 濩 姓 然 何 居 徃 當 W 名 掌 無逞 孝 其 買 民 耗 丽 耳 知 棄 B 取 刖 否 借 柴 亦 犯 時 紩 去 以 魚 乃 子 孎 水 不 而 莫 其 则 虚 者 其 以 自 誑 坍 [b] 水 發 畫 有 不 家 亦 故 不一以 徐 跷

則 米 干 池 分 小 酌 如 不 公 H 我 Æ. 則 水 雨 水 水 之 其 民 共 荇 非-馂 澤 取 有 垄 升 無 分 冽 心 帶 必 及 亦 之 噩 刈 [之 强 平 盎 醚 將 祈 湖 紒 壀 不 也 盐 翦 利 亦 之 湖 、因 之 :有 鏠 焦 妨 設 盤 方 地 與 界 是 夫 大 何 稍 修 利 所 布 從 之 壞 K 之 舻 14 堤 微 到:取 湖 科 深 因 イ 畆 共 弊 法 肵 谎 防 可 本 取 湖 者 H 市 丽 之 2 宜 完 71 真 在 ぶ 科 草 丽 Ė 顶 办 \_fil 舊 茈 米 -:11--:11-地 俯 從 旗 71) 濄 無 业 綵 彩 也 三 有 以 行 主 湖 光 草 ₩, 111 也 容 爲 草 王 宜 升 開 ქ: Ľ 叉 材 粪 舟 則 HI: 湖 之 Ŧi. 湖 制 重 本 ılt Z 任 有 穖 民 田 争 諭 港 合 魚 名 聊 亦 故 永 仰 徃 在 利 椈 丽 設 池 池 山 弊 甞 瓠 有 朩 共 IJ 徃 常 文 似 大 不 E 궤 业 工 遼 揷 何 爲 地 ŤÌt 孝 货 在 川 息 請 夫 此 轹 随 蓝 席 友 近 標 池 书 公 於 法 拟 剬 不 者 割 荔 時日 分 爲 也 群! 此! 科 底 IJ 爾

淑浙 肅 國朝 家江 山 國朝來鴻雯重訂續集三 決湘湖者 事稿二帙輯爲三集其附集則蕭山 行之雍正十三年文瑞又以舊作西 又旁搜黃震萬柳堂記等文十二篇為續集并 以湘 初夷汪水 · 稿二帙輯為三集其附集則蕭山水利 事蹟合梓以行以備考驗康熙 佔 張文瑞編附集文瑞之子學懋所編蕭 集本政利 田被禍玹為舜賓婿因取章懋魏縣 朔 書初集二 富 水 玫 利幾廢鴻雯據舊本 一卷續集 卷三集三卷附集一 重 <u> F</u>. 江塘 加 一十八 įΤ 湘 年 歽 正 山 湖 文 有 輯 水 紀刊 瑞私 水清 利 卷

## 治河前策二卷後策二卷 [清]馮祚泰撰

中國科學院圖書館藏清鈔本

附《四庫全書總目・治 河

前策

詩剛

得

識討探其期適世用

方在

治

河

二卷後策二卷》提要

世亲憲皇帝申明 皇上御極以崇實點浮弱勉書院多士本前後遊 院凡 自叙 之門時協偽馬以不得齒於安定門人是懼切智毛 盆仕時適於世 棒疏通有氣局者 宋安定胡先生 八年事 經義治事獨之成均期之書 瑗 用天子下其法太學我 太火文权楊先生今且 教授 居之治事如邊防水 蘇 湖 いよ 经美治事 五年遊安定 利 2 二齊 数弟子 鉔 山書 經

脈 治 稿 Ŋ 惟 救 士 Ą 生 来

國家承平百年 震衷之憂下以此生民之福發情討論審展 而已每過雲雨暴張橫濱四盆沒人民漂盧舍 海經行為你里 **国其宜也夫河自發於西域吐** 斯 決 娰 一時立可不思策敷休明上以舒 E) 竹金錢億萬 张糾 紭 舉而所爱心 千七百 "居平防 一川所當周知 不釋者惟 遊修築亦 蕃二源下 利 成無虚 也禹 淮 害 會雅

待

7(24)

成書後迄

今

12)

7

T

نے

+

餘

年其中之翁由

清

禁 追徙 書 汝 憂病 謀 腍 小哥 吉 说: 槁 乾 道 鉱 有 苗 批 京 3/£ 山山 늄 疏 士 隆 蘇 敢 則 塞 舟 通 Ä, 轍 周 卣 謂 災 桶 **デ**オ 不 Si) ょ 2 淮 亦 李 常 心業 充 爲 杏 並 當 歐 沸 有 艃 馬 後 年 池 治 陽 成 常 後 **3** 泉 肆 拜 垂 XVL PÍT 馬如 流 飘 堂 份 有 常 凚 上 ;0] 金言 惟 韭 策 不 桃 决 導河 沱 さ 治 颖 有 周 前 إنور: 及之 别 ŕ 2 有 足 主 1ip 買 资 東 ile 机 戏 ା 後 河 みし 档 可 排 邱 书 髙 譲 孰 形 行 献 11 沿 松 東 防 九 采 な 办書幹於 jė. 策 使 说 31 有 丞 得 月 财力 V 上 南 策 舎 书 1 T 前 便 相 2 按 ż 涂 2 Et v2 献 宜 胶 修 A, 古 王 É 施 於 待 粮 策 上 档 典 築 有 滇 安 通安 主 松 市 120 **1**-1 非 减 行 书 有 繙 避 镁 導 復 ፗ **デス** u!f りし 水 前定 沝 來 議 東 其 使訪 大 12) 隄 74 洪 沙丁 2 春 有 ंग 办 浆 杏 都 張 復 ,Æ, 泛 虱 使 永 梭 v 2 謹 Ŧ ~ 策 制 治 平 首 萩 \$ 강 故 東 序 景 該 放 行 4 有 巡 iħ ĵέ, 格 精 门二 河 14. 14. 河 後 いく 油 究股 謹 於清相 灰 渠 泸 2 草 脩 有 **[4**] u 心河沿 誓 制 机 有 不 池 v'Z

上卷 上卷	
上卷.  上卷.    一次   一次   一次   一次   一次   一次   一次   一	禹河初徙之道
上卷 上卷 一一卷 一一卷 一一卷 一一卷 一一卷 一一卷 一一	論鴻溝
上 卷 上 卷 上 卷 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	論九河亡其八
上卷 上卷 上卷 克梅考	論運河之没
治河前策 上卷 上卷 克商考 崑崙考 	論碣石之没
上卷 上卷 上卷 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一 一	同馬进河入於海考
上卷 上卷 上卷 一河源考 	北插
治河前策 上卷 上卷 克商考 克高考 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	北過降水至於大陸考
治河市策 上卷 上卷 克裔考 克裔考 专至於華公考 東至於在考 東至於林村考	東過洛沟至於大伍考
上卷	
上卷	又東至孟津考
上卷	東至於成社方
等河積石至於 龍門考	南至於華陰考
· · · · · · · · · ·	等河積石至於 龍門考
上卷 上卷	積石考
上卷 上卷	崑崙考
上卷	河源考
治河前策	上卷
	治河前策

	台可東後	德州海口可復	以来次	元明以來问道 金人河道	商胡河道	宋決商胡之故		横龍故道	宋決孤胤之故	唐時河道	唐時小決之故	王景河道	王於不用林河之故	王於不能復禹河之故	下卷	漢屯氏決河
--	------	--------	-----	----------------	------	--------	--	------	--------	------	--------	------	----------	-----------	----	-------

<ul><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次</li><li>第四次<th>增植榆竹麻</th></li></ul>	增植榆竹麻
安東海山沙宜古、西京田、西京田、西京田、西京田、西京田、西京田、西京田、西京田、西京田、西京田	
·	安東海口宜嗣
	沙宜岛
	沙宜去
-	<b>防</b> 決
	<b>防黄淮入江</b>
	歸仁從考
	髙家堰考
推测沂考 海口受河考 河漕考 (徐吕洪考	贾魯不顧考.
海口受河考 河沙考 (徐吕洪考	下卷
河沙方河沙方	徐吕洪考
河漕考	河沙考
海口受河考 黄河入淮考	河漕考
淮泗沂考 黄河入淮考	海口受河考
黄河入淮考	淮泗沂考
	黄河入淮考

蓟 水 出 南 副 沁 澤 Ť 10 vZ 西 西 河 ; ij. 狐 土 Æ. 襗 A 点 涾 閬 棫 14 栎 Ξ 合 Æ. 前 at: 東 南 言 潜 7 孫 者 15 行 2 達 2 TO :4 説 赤 2 按 源 西 敦 行 餘 注 J. 告 西 义 餘 禁 柬 南 棫 蒲 去 注 ıμ ₹. 史 冇 地 士: 有  $\Psi$ 水 東 牢 包 2 F B 北 许 30 窊 卞 남: 南 19 例 又 水 毒) 哀 浴 剛 金 וּיעָ JŁ 毒) 大 西 浴 家 蒲 枞 有 vλ 出 出 Ξ 干 按 ٤ŀ] 流 Ð vZ 的 為 IF, か . (13) 州 瓜 大 [۱۶ Ŋ. ,Ĥ, 百 灙 注 70 华 枋 127 漢 件 ाज 里 在 柜 بل **X** (E) 茄 在 呃 鯯 共 4 海 柝 流 读 读 出; 張 Б vZ 西 馬 其 塞 荾 為 E 注 注 水 2 1 山 Ŀ 央 棫 颐 有 湀 東 亭 属 Ŧ 14) 2 于 中. F PY 使 書 其 TE, 砂 澤 泽 哂 4 70] 酸 沙力 凼 店 陽 いく 有 7 冬 者 1 束 办 東 棫 為 泽 河 北 会 夏 垴 流 120 水 -31) 云 ð 11: 河 小 丏 選 Ð 在 ij 鳳 去 俳 不 六 為 流 有 됬 注 敦 吐 出 泽 戫 懂, \_p!\_\_ 7 2) 鹽 彪 蕃 道 Ŧ. ity 限 天 BP 抽 总箱 子 溄 蛍 鹽 14: 74 凉 vマ 餘 42 其 元 Ź. 4 2 臌 惟 E 陽 E) 泽 注

> 東 7 稱 者 淌 滙 河 出 也 其 Ŧ 無 心 望 于 نح 餘 何 水 H. 秲 棘 上 不 拟 ¥ v.4 亭 墜 泽 源 為 溄 何 知 石 zh. 看 Ŧ 1. 5. 共 潜 不 ंग r.2 冬夏 火 深 渝 水 知 伙 行 L 共 2 地 淌 ŕή 為 别 淵 脉 潜 构! 秸 F 共 出 經 不 南 旐 增 常 1 也 云 ん JŁ 共 稿 ,å 15 則 其 2 何 出 共 W. 源 工 分 正 <u>(۳</u>/ じょ ん 為 流 稍 流 流 水 渾 みい 4, 潜 之 其 乔 孰 F 滩 J, w 為 為 淌 見 有 行 注 上 池 鹽 旁 飛 .2. 泡 經 石 地 澤 流 下 有 禽 鹵 14 那 云 無 杏 访 ホ 去 河 S. 沙 ÝÝ 秸 水 W 档 嗣 元 冶 ď. 其 非 漢 霄 2 Đ 冒 N Ż 港 書 Ξ 水 毒 山 中 (Dic

治

河

前

策

上

太

涂

工

M.

祚

表

粹

著

濁 又 也 西 黄 聘 稻 往 íŽ. 潜 南 隔 Z 杂 來 河 往 見 チ 流 來 形 西 甘 え 女口 鹽 羌 無 無 Ð 卣 行 有 末 定 溄 上 泉 ण 吐 凰 源 超 蕃 iń 逃 出 6 ψ F 於 + Tij 10) · رطير 餘 澌 かり 其 有 積 忽. 海 鹵 盆 334 水 馬 常 唐 在 ん 淖 詳 杓 四 **奔腾** 好 湧 吐 南 ħ 弱 外 沙 苍 觀 從 出 來 不 人 沙. 束 其 者 淌 胨 迹 姚  $\geq$ 悍 纤 為 積 吐 シと 物 ρή PÍT 菾 TT) 述 2 河 及 To. 從 出 ż 使 性 句 源 高 史 岿 J. 朝 池 胍 西 2 置 蒯 云 7 歴 夫 南 出 驛 页 相 2 ेंग 业 太 周 沙 ·•] 燦 源 連 傳 宗 無 泥 神 老 及 若 出 使 疑 隋混 報 物 騎 歹!

七里 提 抱 然水 里 兒 西 Ð 名 Æ 行 稱 Ł 全 古贵 幸 忽. 秸 南 濉 ,焦, 程 曰 里 程 河 可 劆 囊或乘馬 星 雪 猶 去 源 始 德 术 跡 地 河 來 Ð 度 宿 清 簡 相 行 不 名 雲 = 程 E 自 至 ,)+] 馬 消 沙 屬 wie. 水 亦 搥 南 水 澤 海 吐 禹 +11 3 里 里 可 東 蕃 百 缺 ቀ 义三 名 遞 譯 譯 深 赤 處 南 部 闷 涉 東 눌 九 南 亩 杂 Ŕή 河 堰 江 巨 ≷ 度 山 半 焜 文 府 # 崙 Ð 來 典 務 阿 火 謂 14 亦 )라] 崙 南程 Ė 飞 赤 城 刺 敦 河 <u> بال</u> 街 積 Ã. 西 = 矣 有 賓 此 程 4 と 끼 All Ŕή 义 尴 西 又 北 石 炙 里 又 Ę 创 129 名 兒 置 至 河 兒 鄗 Ŋ 行 又 明 并 术 程 曰 4 赤也 吐程 九 五. 海 7 嚴 哈 四 直 1 蕃宣 度 籴 傳 岐 其 又 Ð 寓 刺 從 六 五 馬 的 业 五 東 幸 甘 程 為 流 ا 厚 至 箾 Ŋ 河 西 Ð が Ð 湖 思 寖 慰 程 崐 VZ 义 殊 里 水 四 枥 流 里 懂 又 合 赤 崙 西 游 始 Ę 東 九 司 至 大 奔 部 蜮 北 細 維是 兆 = 流黄 兒 渾 股 始 程 連 湊 淵 約 也 自 正 髙 都 名 Ð 溪 丰 班 213 計 通 水 属 iÚ 咨 又 ंग् 面 束 有 廣首 南程 崙 五 班 及 源 銀 四 A v'Z 2 潤 بخ 亦 五程

							_						-	_		
		哉	者	南	V.7	不	_	河	וינ	非	河	有	域	諸	西	認
			西	大	西	出		源	自	妄	者	E	而	鹵	域	杜
			域	[יונ	南	.2		也	吐	吉	幽	者	信	푠	王	佑
			河	相	流	将		而	蕃	西	Per	所	吐	久	鏊	歴
			源	連	者	潜	<u></u>	腦	來	域	難	共	眷	韭	若	試
•			1	者	ĒР	行		澤	平行	₹	知	見	則	且遠	河	前
			合	吐	上	相		滙	數	源	故	F	デス	廷	源	載
	-		之	番	隱	也		慈敬	7	耳	<i>₹</i>	题	吐	项	辨	劉元
			則	ंग	淪	办		前	里	載	仐	澤	蕃	掝	訓	
,			全	源	2	2		チ	軿	載于	桜	潜	之	がり	巫	船
			謂	也	脉	Þή		閩	積	火	吐	行	水	點	域	從
li			積	下	然	宜		敦	石	漢	苍	地	與	o <u>ナ</u>	2	呖
			石	有	<b>[</b> ]	積		発	之	豈	2	F	積	番	迹	証
			有	石	積	石		[مرا	ंग	為	源	专	E	Ú	兖	丱
H			两	P4)	る	山		耨	相	虚	都	出	山	世	自	2
!!			大	冒	山	Ŧ		耨達	連	記	實	積	チ	जोः	張	足
			源	ν. ζ	2	有		2	不	西	親	ん	河	往	赛	吐
			奚	四	明	Æ		水	可	南	見	か	枹	往	赛	釜
			不	南		Pg		~	湖	_	~	中	連	疑	所	150
.1			可	流	(E	胃		而	)E	人	毡	國	為	西	歴	纀

## 崑崙 考

濁 基 3 都 也 漢 緤 阐 馬, 黄 de. 苗 vλ 栖 雅 河 묲 潜 釋 俞 閬 ত 水 ىل 里 水 凮 原 流 出 涵 但 其 久口 在 離 地 E 检 東北 崑 نځ ŕή 13 ψ .). 河 載 杏 為 有 业 訶 出 崑 庄 有 ~ 液 7 隅 ٤J 啊 者足 Ψ 上 莂 沙 里 淼 崑崙 挨 虚 12/ Ð 吾 將 曲 业 西 水 Ρ́Υ 3 其 党 业 濟 台 渠 直 在 終 Bh Ŧ ρ'n 在 3 郭 渠 中 耒 西 F 台 2 水 泉 海 剧 明 璞 並 注 ż 动 桩 河 今 水 千 外 源 南 ッと 登 18 云 ょ 帝 子 闦 虚 凼 淆 西 百 某 麩 I ~ 宜 J, 凪 册 下 地 自 其 F וינ 而

Þή 居 砀 水 2 淵 環 其 下 者 是 20 山 極 第 + 六 卷 义 荒

曰

域 人 經 去 餘 出 体 里 ム 文 高 枥 論 2 崑 西 ホ Ð 五 萬 為 甘 京 海 里 更 英 奋 2 南 者 在 跷 2 流 當 भूद 西 西 其 沙 溢 溢 指 芝 F 2 v'λ 此 幸) 望 有 湾 4 大 第 遠 弱 赤 斯 东 水 二卷 水 2 極 Z 距 兵 涯 淵 後 西 PY 環 禹 黑 次 之范 本 陽 水 三 ~ 經 #2 쩲 前 滕 四 文 РFT 有 萬 函 日 云

樨

江

2

1

邛

枿

2

,K

#:

Æ,

TO

ル

流

注

チ

\*

實

惟

帝

į

為

之邓實惟帝

之下

郝

河

水

#;

馬

JŁ

山

疑

在

西

平

圃

南

望

肯

為其光

熊

飢

其

氣

魂

魂

西

南 澤

四

百

里

行 域 F 表 枥 都 真 海 不 崙 内 九 其 2 西 垭 綖 在 方 何 文 闯 义 T 曰 加 沙 里 去 高 り £ ¥, 崑 74 备 門 彻 河 2 風 墟 A 水 典 出 在 東 許 四 :1 兆 业 帝 第 隅

共 中 中 穑 五 ন 里 九 32 চ 6 池 高 水 禹 餘 山 西 本 ¥, 郭 南 里 絟 工 注 流 亦 紀 11) 亦 有 謂 **\** 云 云 崑崙 北 言 醮 油 與 氽 墟 浴 14 此 華 窊 اتًا] 娅 14) 又 在 池 粉 者 #: 道 去高高 ~ 眇 汕 西 元 ょと 高 油 外 注 去高 单 高 BB 外 誘 五 耳 復 动 高五 萬 É 有 注 栖 崑 if. 里 JE 11: 萬 盖 凶 どく 业 天 上 禹 之 171 她 地 = Ŕή v.1 但 方

7

之

消

稱 國 义 いく 白 石 孫 元 亚 非 為 秲 701 ż 注 于 H 東 ø 帝 西 敦 宗 J, 出 ħ 崑 楚 x 剧 2 祈 至 周 海 萬 崑高 ~ F 洛 11 ୬୕ 合 經 伏 里 水 又 凼 都 X 可 得 北 BP 謂 流 近 Ŧ 五 云 崑 地 直 千 义 あ 敦 自 四 八卷 中 為 有 其西 崑崙至 次 可 餘 萬三干 ż Ξ 啊 里 里 山 墟 岂 經 穆 在 則 南 之記 备 積 諸 .居, 則 又 天 チ 里 业 山 克為之方 考 較 ん 崙 禹 傅 而 屯 居 2 導而 外 重 7 2 本 天 火 子 Ų: 闽 出 x 到 紦 甚遠 劚 通 TT) 鄉處所 自 為 百 奴 岂 ≷ 云 互 甚 12 出 高 從 有 近 崙 + 西 里 積坊 大 詳 鳥

共高 有醴 奇之 書名 使窮 崑 鬼 本 有 去 崙 山 源 吐 在 N. 載 為 蕃 連 為 胡 名 潘 #2 dr. 泉 矣 昂 2 河 ंग 泽 高 寒 ρfr द्धाः 亦 在 九 L 羽 瑶 1 耳 有 耳 宵 典 河 ŕή 源 Ż 于 頂 稱 (李) 源 吐 4 朱思本 池 五 太 出 至 麻 阖 出 Jt. 土 蕃界 為 今 史 于 者 腹 p Ťρ. ホ ত 山 月 敦 4 莫 14 书 **£**] 飲 12 E) 레 至 及 程 子屯書 崑 各 ی 発 釋 張 雪 元 東 里 **Q**· 刺 ÷ 山 冬 為 為 至 私 其 其 有 ų. よい ٦, 15 SÉ 又 此 茶 使大 ガ 南 夏 升 2 元 山 呃 L Р́Т 吐 Þή 凼 3 最 包 安 非 北 掝 幽 不 + 1, 蕃傅 夏 勮 札 云 E 沪ʃ £ .iú ُ ح: ﴿ 消 高 と 五 其 7 eq县, 避 #; 43 譯言 杂 v 1 計 年 ら 辭 1.1 後 隐 崑崙被 廿 里 移宗命到 本 采 ス 10 杂 末 秂 為光 水天 思東 チ 摩 也够 特 #2 甘 鵩 <del>,50</del> 栴 敢 命 言 林 H 達 思 بخ 執 吐 子紫 里 郝 河 明 101 Ŧ ربع 為 兆 蕃 J. 洒 洪 岂 む 批 塔 有 首 亢 激 也 #: 設 鄙 亦 其 زي 张 رنك 古 武 東 白 ŕíſ Bp 大 求 雪 部 备 言 使 勘 بت 圖 麽 河 yŁ,

辨 禹 積 縣、 谷 石 1)-1 山 吐 等 باد Ð 河 + 山 渾 A, 2 貢 精 有 J, 大 Б 出 椥 餘 谷 業二年平吐公 追 元 界 者 無 穑 寒 禹 酌 穑 在 ،۱، 石 人 渾 河 吐 Ð 洼 遂 大 為 精 導 枪 精 G 源 至 内 水 大 百 Б Ä 帲 積 考 詩 罕 *71* 精 诃 Б Z, 漢 山 滩 河 後 76 ん 稱 监 塞 流 ,), き 處 متا ŕij 1 ず G 省 渓 曰 唐 王 2 積 大 南 魏 2  $\stackrel{>}{\sim}$ 秸 4 4 西 伙 档 述 出 段 足占 允 積 羌 义 北 £ 河 Z ŕή Б L Ħ ħ 渾于赤水城 Ð 東 东 源 經 þ 凼 ~ 張 唐述其本 至 傅 石 J. 大 L 当 守 為 後 人 名 星宿 ياد E) 在 積 今 大積 出 É 义 秸 ξ'n 大 流 相 在 塞 Б 人 人 洒 張 至 積 誤 漢 猜 二千 南 在 E 石 阁 F) )미 掖 E 被 30 热 义 羌 塞 ω, 河 石 石 Ť E 追 ص 名 4 為 梼 雅 山 沟 É] 4 禹 有 達 餘 4 外 河源 西 精 人 鹽 在 坜 支 有 Б 餘 羌 漢 里 君郎 构 沙 .). Б 2 埠 水 在晃 積 J. 溄 吐 レイ 里 唐 pprox其誤 海 且 郡以 積 李 潜 寒 1, 2 河 谷 糾 ناد 書 鬬 行 ん Ē 古 為 渾 內 ~ 不 4 是 叱 行 型 塞 倛 且 境 稱 ىل 龍 直 為  $\sim$ 猜 ρή न 外 南 .1. 有積 唐 即積 君 行 2 精 支 吐 石始 合 曰 集 朿 在 129 震口 ĸ

ニナ 縣 自 西 レス 載 咸 後 西 袻 軍 精 石 石 矣 南 青 平 韶 省 南 平 漢 穑 L G 1 在 書燒當 里 Z Ż 支 在 郡 止 痂 J 河 コ Б 以誤豈 積 2 龍 2 水部 唐 年 龍 西 μ٠, 所 今 字 穑 名 高 出 Ď 鄯 支 西 縣州 支 G 縣 差 宗 宗 縣 南 Ż 44 E 2 .)+| 遂 今即 為 倸 嫜 Ä, 叛 南移 茶氏哉若 4 档 龍 南 T 為西 乃 餀 鳳 穑 禹 1 支 于 五 西平 為小 至 ₿p 京即 精 在 沙 縣 瀬 + FO <u></u> 馬貢 塞 至元 積 伊 里 年 追 石 17 御治 積 喇 12) 學于積 元 涼 杜 今廊治湟 改 蔡氏書 ВÞ 導 h 知 A 夫者德 都實窮 外 等 佑 义 置 中 河積 西州 禹 J. 通 于 伱 如 寧治 河 [יֹנֻ 14. 貢 傳 宋 禹 圖 導 G 典 浇 源 6 辞化 古 籍之是 大 唐 南城 重 稱積石 史 貢所 謂 云 701 河 西寧之界 701 者 秸 破 初精 故 源 輔 一版 在 城 之注 X 述 亦 13 臣 石足 む 有其 鄱 チ 在 進 八故 L 湄 4) + 戼 云 v'龍 云 魣 在 西 黄 廓 盖 此 也 十城 桔 為 瞭 宋 秸 圖 百 .)+| 亦 注 今里在 石 支 河 秋

東 此 傳 兆 簢 又東 寒 北 東 按 記 田 海 有 日 禹 *\** 土 今靖 民 割 单 流 昔 鹽 其 施 大 西 西 yt. 兆 41 貢 ۸. 4 逕俠 率 施 逕 沙 河 11. 功 亚 南 錐 沿 中 遠 謂 2 榆 31) 祭 積 河 衞 指 湟 衞 金 山 威 東 **⋠·**] 西 Ŧ 6 水 谷 西 .H-) 縣 玄 3 西 T 至 耳 宜 南 西 積 合 北 去 王 夾 有 兆 餘 寕 v Z チ 建 鳳 塞 浩 積 Б 合 河 鸵 又 淮 里 至 衞 今 雅 蠒 滩 復 外 石 上 有 東 וונ Đ Ŧ 輿 水 軍 言 有 西 水 匹) 甚 潍 衞 娍 兆 南 也 龍 考 Ξ 沿 土 EJ 又 西 逕 宜 界始 武 庿 塞 吉 19 海 東 百 弛 郡 靖 西 播 又 河 外  $\gtrsim$ 來 里 縣 鹽 肥 亚 沙 遠 五 有 19 ÉĮ 柔 凿 美 至 水 规 :b 穀 合 注 落 蒯 衛 苗 河 河 洮 甘 点 又 E) 2 引 + 兆 河 Ē 草 Ð H4. É iff 河 又 水 工 界 河 堰 וינ 東 Ř 榆 寒 青 大 西 凉 又 灌 東 刺 如 秸 東 宜 陆 切 海 ょ 不 بالز 泷 史安 瀑 火 畜 設 有 其 + 石 始 甚 逕 YŁ 布 流 3. 里 4 Ŧ 妙 心 \_1\_ **}**+} 為 챐

析 ₹ 渠 中 史 活 zΚ 桉 爱 而 河 形 桜 西 2 有 লৈ 漉 後 بار 2 科 চ 四 在 2 Ē 势 りと 東 俊 其 又 ,選寧夏 逕 今 稚 家 縣 漄 方 + 公 和 河之 相 足 林 ッと 月 等 蜜 寧 7 き ťþ 私 溉 南 亚 接 餘 िं 形 į 雍 有 張 ラミ *y*)\_ 里 Đ 懊 之處 ié .}+ 嬨 西 南 中 奏 蒯 典 渠 始 ナ 120 ŕή 遞 衛 遠 紿 有 علا 萬 酬 衛 恭 為, 里 東 境 游 亦 縣 向 J, 平 約 軍 南 餘 富 31 在 7 液. H) H) 2 北 南 長 西 儲 田 9 平 又 金 Ð 頃 今 河 五 تح 經 数 五 又 A) 東 西 渠 大 千 百 伙 靈 衞 沃 兆 छ 千 醄 大 Ξ 陂 JŁ. 逕定遠 餴 典 餘 餘 山在 西 景 rfj 餘 烫 艧 + ŧ 其 縣 rg 河 论 里真邊 恒 五 可 里 零 其 左 一黄 Đ 無 + 云 又 31 义 膜 22 右 又 利] 4 Ξ 又 河西 自寧夏 水 城 哂 ρή 畨 山 省 又 里 五 涸 城 北 灌 西 舊 漕 代 有 بالز 又 東望 河 2 2 又東 經 從 脄 渖 八首至 進 Œ 唐 胡 垩 渠 いく E 保 女口 骨 诵 長 渠 漢 民 JE. 实 糆 盡 防 静 工 典 ंग 郤 尾抵 4 山 縣 水

出

河

山

2

際

六

百

餘

里

Ł

堡

相

望

粒

來

西 又 z 溢 豐 折 北 請 BP 桉 就 穿梁 決 逕 募 唐 醎 高 ++ 枥 景范 平 2 東逕三受 為堡束 人 振 りと 逃 液 A 武 雅 出 云 且 事 + ρή ナ 東 泥 ず 中 里 起振武 五 充 寜 降 沙末 ≉ 東城 娀 文 和 夏 **₹**. 六 在 城 ソヒ 甚故 逕 2 廢 逍 年 在 南 輔 和] 夏 榆 幹 廢 百三 玩 尤 5 胨 林 # 重 西 博盖 衞 河 北 華 11 逍 十 為 東 西 雲 為 人 宜 工 出 中 振 بالا 百 而 流 塞 式 里 界 種 势 Œ. 平 百 西 極 百 ゥ 廢 于 些 里 城 ijį 緩 豐 東城 在廢 中受 lŧ 無 44 使

Ł.

ŕπ

築

v'.

桿

河

流

析而 降 能 Ż 喇 禹 春 永 衞 城 秋 2 南 贡 باد 漢 繚 暴人 果倍 逕 初 獍 為 錐 秦, 他 指 又 É] 柳 得 勝 收 周 松 方 云 屷 肆 歲省度支錢 数 É] .>+ 東 郡 初 耕共 東 含受 勝 ₹. 7 廢 入塞其 里 豊 隋 レイ 中 謂之 唐為豊勝二 就 降而衛東 .}+ 少 西 χĆ 東岸則 可罷漕 7 河套 至 绥 廢 نے <u>[</u>] 勝州 百 勝已 周 外 平 輓 萬 4 險 曰 鹵 失 束 輧 Ż 盡 地 黃 費 失 \_ 方 岎 衞 春 冠 為 河 朝 面 曰 三 廷 2 榆 新面 1 林

神木 又南 龍 長 郷 堡 계 脎 縣 脎 羊 幸) įΨ 縣 禦 龍 者 按 始 處 縣 Ĺ 東 東 亚 矣 縣 图 亦 TL ρή 東 抵 東 Bp 部 山 守 在 其 其 南 文 南 府 渡 邊 居 安 天 南 為 陽 經 = 東 東 四 谷 牆 南 啊 画 馬 义 ロ 河 地 報 4)\_ 西 運 縣 為 套 岸 清 南 百 ناد 其 岸 六 PY ŔР 供 11: + 東岸 逕葭 東其東岸 最近 里 淘黄 华 堋 綏 整品 Į. **U** 里 龍門 抵 ヹ 惟 古 縣 德 為 克 幹 电 石 山 邊患 孽毛 苗 樓 東 Ž 河 梁 -)-+ 州東其東岸則 則 州 Ž 枞 治 南 遠 縣 文 東共東岸 m 鄉 辩 水 iol 上 西 南 [년 者 里 吕 泸 27] 卖 津 永 v 北 بن 榆 孩 亚 梁 鐅 縣 縣 河 Ż 和 為 颜 2 南 九 縣 延 曲 林 10 又 古古 JŁ 麻 孟 4 ĘĮ·) 躲 焦家 導 新志 南 雅 或 大 וינ 百 門孟 14 級前時是深 名 梁 穿 至 寜 脎 臨 典 保 里 J, 河 Z 字 幹 縣 脎 德 坪 六 縣 東 積 曰 盂 P1] 地 Ц 沝 と 雅 义 永 ল 交 彣 鏊 ゟ 义 又 H1. 門参差 山 单 縣 南 す) 南 百 套 直 至 娘 迤 出 在 1 逕延 州軍 里 于 娘 2 逐 西 綿 宜 1. 13 部 官  $\mathfrak{P}_i$ iff 池 215 L 脚

之追也	勝起于下口方知慎子	臨危若登役倚其中奔	石經始再鑿河中激京	孟門孟門即龍門之	流無有即沒高卓減之	子曰龍門末脚召梁士	自禹功成而後帝都三面	州之平防一派家從古	南一派沒住河東者從古	自孟門大溢逆流共一派	液往河東為害甚巨今	門未經鑿治時正道不	也其在河中者發為巨	接盖即即道元所訓風
•	下龍門流駛竹箭非駒馬	永萬尋應流干丈鼓若山	廣夾岸崇深傾岸 延掉巨石	門之上山也實為黃河之丘死此	名口洪水大禹疏通胡之	召梁未鑿河出孟門之上大溢逆	距河安瀬無患者淮南	州而南則帝都不得軍矣	州西南也是時帝都其	深入關陕者從宜川而	按也勢北高西南下洪水	甚世一派滾入網陝一派	<b>厄故禹特治之朱子曰龍</b>	西四十里河西孟門山

	陰之所經雍州文所稱龍門西河者也 華陰縣東北與消水合其東岸則蕭州又南邊雷首其東岸則榮河縣臨晉縣又南邊朝邑縣東又南至華陰縣東北與消水合其東岸則蕭州又南邊雷首華陰縣東北與消水合其東岸則衛門之南門縣 龍門山南流與汾水合又南邊部陽縣華州華陰縣蔡氏曰華陰華山之北也 華內華陰縣蔡氏曰華陰華山之北也
--	--

當水

者鑿之

故

破

11

vZ

河三穿既

決 禹

水

流

疎

分

栺

水

盤

紆

淡

射

天之下

罕

ルチ

水山

經

'nÈ

Ð

首

治

洪

水两

山

陔

狀

表

E

亦

詂

之三

74

矣

而通

都

穆又

曰

底

柱

在

陜

44

東

五

+

里

黄河

北之

ψ

衐

河至三

門集津三門

者

中

E

神

Ð

鬼

74

E)

P\*)

水行其間

聲激

如

雷

妍

鬼

尤為

檢

惡舟後

滩

有

得

脱

桉

都

移

り與趙説

٠(،

果

要许

檢

惡可

シレ

رايد

自潼

刷

衞

بالز

拊

而東

迴

尉

縣

ルと

又

東逕靈寶縣

عو

流

凉

于三军

抵

兴

會流

東

注

加

17

岸

于

婽

む

析

蕰

· 祈

南

液

于三

門包于

刷

ہا

かり

分

為

24 2 之所 門赋 底 PY 河水 西 柱 中 有 來至 次 序 開 分 山 E) 狐 鑿其於 于共 流 名 Ξ Б 白 于 底 在 2 谁数 窊 南 今 柱 丈 1.1 巧) 12] 有 F1) ंग 柱 北 1. E) 之六 南 考 有 巡 狐 天 少し 筝 前 柱 削成復次其 149 J, 举者让生 見 2 构起军顶 柱 河 陝 水 丰 水 對距 從武老神前東流 4 .}+ 東 若 岸 南 柱 平 河之中流盖夏 175 伙 湛 m 有三本東 + 唐趙 立即所 夏禹廟在馬 里安 冬暖 囤 傅

史 225-362

松東區陝州北井北岸州平陸縣水東石柴出勢連襄陸盖亦尚鑿以中五户以上其間的便湖流激而三峽破害州東山町水水、迅急勢同三峽破害州東自此而東河流精為電行
---

孟 杜 諸 唐貞 貢 vΖ 廃 患. 自 移 冰 Ú 帲 河水 使 堅 東逕新安縣此又東逕洛陽縣 津 錐 都 預 俟 椎 杜 從 耳 줴 洛 液 及 VL 道所 览 在 造 顸 不 桔 盂 原 甚 飌 É) 水 汭 汰 不 東至 /梅庭 今 常失 ヤ: 至遠 津河引 吏 + 其故盖隋唐以 造浮梁之後更三百 云 陜 不通 以東永無溢決 1 河 Ē 凑 不 **/** 流 テ 南 屯 魏 故 之愁 古 122) 稻 纤 汎 1Ţ 又東逕涎 懷慶府 孟 又 通 影 亦淺 書嘉花 70] 故道然否 論河患者皆 E) 今南 津 為陶 五连之 盟 出者徒 溢埃中 不 考 : ] 岸灘 泄 水暴至不 來底 孟 八共可 إمز 亦 池縣  $Q_i$ 以夾河之 视 大 胨 **那故其名古今将著** 害 千 ۲.) 滩 治更多非 河 武 餘 孟 ヹ 西 大 拟 置孟 .2. 柱 غو 孟 津濟處甚多惟孟 滩 南 能容 年不 津以 水 丛 共 鍾 朋 ٦Ł 在 見子 津 Ξ す 1. 流 碼 又 北 津 漢為電平津 + 之害倍 襄中が 剛 上 杨 岸则 故 東逕孟 脉未盡地 北 底 F 里 史退宋 亦不 為 F 流 也 柱于度外子 昔 文 也 中 7K 也 治 平 武 渾矣 能 于往 せ Z Ŕή 山 津縣 泂 £ 高 城 蚥 無 土 fir) 縣 北 者 ŧ. 骄 ÉP 其 河 ł. عاد 欱

其 A) 幸 ۶ŧ. 南 揪 滋 冇 松 拾 南 纤 ッと 中 岸 = 齿 杏 虙 陷 盂 郭家灘 秋 娹 ッと 白 渚 津 潍 城 馬 大 縣 相 水 12 1 河 ĐÌ. 占 北 胍 扳 城 及 望 南 水馮襄了 派 洒 在 一哉 観 ψ 3, 沤 耕 15 西 在 有 城 yi. 縣 チ [v] 漓 Ξ Ž 浮城 縣 + 有 河 南 Æ, 南 峽 河 五 χ̈́ 晰 面 孟 陽三城 墳 府 無造 扚 縣 里 石 聪 Ł 派 = 東 有 馬 患两 贯于 + Jt 河 摦 里 潍 羅 潜 112 + ;oT 汕 此 中 本) 站 高 Ė ريد 家 五 中禪由 水 立 城 對 义 在 灘 沽 + 华 渾此 水 云 東至孟 里 大 奏 ≥` 文 漓 14 河 .). 栗津 河 西 黄 平 是遂 处 AF) P 枞 溢 為 毁 津 河 渾表 南 每秋 女口 一座 故 中 津 楊 培 去 鼢 庿 縣 вp 嘉 大 ż 家 汎 潬 大 裏 里 潍 ρίς **`**ग 五 濫 ;ল 核 今 祐 里 城 帝 柳 声 有 **;**oī

縣

東

有

鳳

凰

山

與 丈

紫

金 伾

東 2

西

並 32

峙

縣

西

南

里

有

浖 Ł

支

枉

里

又

有

紫

奎

J,

在

大

東

翠

Б

稜

稜

山

無

飲

安 其 程 遠 火 漢 里 剷 里 屬 氏 行 高 垂 自 東 漢 傅 黎 魏 南 日 欲 127 (書音美 遇 枥 湬 + 陽 郡 折 日 東當 丈有 洛 洛 陽 今 25 L ふり 汭 在 亦 山 至 奇峰歇 即華 在 洛 大 當 臣 名 す 骄 大 湬 2 いん 攴 10 府 除 沙丁 地 E J 伾 尨 凉 凉 巫 今 2 v l 秀 考 秋 山 縣 샒 包 欲 拔 極 趨 陽 新 東 析 再 東 岩 成 縣 者 東 侍 志 池 火 大 曰 2 2 山 云 ᇶ 屛 始 聪 2 10 伾 大 伾 障 今其 經 至 錐 河 4 伾 今 2 Ŧ 在 抬 T) 按 1 于 流 大 縣 -Žī 周 縣 東已 稼 伾 五 東 河 伾 JŁ. 也 ,Fr + 南

讓 U 讓 + ρÍΤ 里 1 ρή J., 水 按 高 謂 有 華縣 俗 £) 謂 ت 東 名 盂 E) 西 + 4 祀 津 上 在 Ji 餘 0 河南 陽 4 縣 业 縣 Ξ シと 縣 縣 西 府 J, 又 治 東 砂 東 沙 周 南 JL 逕鈴縣 三 小 跨 四 十 + بالا 共 + 里 五 上 高 里 餘 百 北 讣 有 里 六 ٥ 浴 善 有 大 + 十 水 15] 伾 餘 12 里 馬 2 长 山 1 丈 縣 st PP 河 計 古 西 雕 南

縣 又東 15 共 岸 <u>ښ</u> 78 馬 按榮澤 縣 城 里 氽 بار 家 縣 北 六 Ú 格 南 莊蕩渠 小型已 太 渠 水 南 隈 黄 張 岸 眸 潾 涉延 ş]· 漢 + 獲 至 车 河 ر ابلا 也 泊 里 + 河 水 滎澤 馬 平 里 河渠書言滎陽 河 嘉 在 謂 温 沪Ţ 洛 云 原武 一公 片、 华 有 滌 縣 脎 坠 此 ₹p 南 义 済 水 受河 東 علا 水古 够 河炭訓 \_ 南 水武 潹 河 在 鴻 侵 脎 堃 又東選榮陽縣 河 舊 涛 倍 直 ass 水 Ŧ 而縣界之流 テ武 處 今故 也 雜 JŁ 在 通 ... 河 也 ंग ãp 奺 .压, 影 Ž 縣 北 ₹p 陰 (FD **\** 道盡陷 縣 陟縣 = 五 Ť 幸, :3-ंग 沝 今 ぉ 温 毒) 荣 糕 京 りと + 3 矣 3 ;ণ্ D + 六 河東南 東 里 遂 里 陽 又 在 **₹**E] 清 又 除 + 東 東過 70] 懷 滥 縣 シと 今 瑞 節 里 蕤 黄 水 逐荣 其 4 麂 业 গৈ 浉 岄 河 Þít 嘉 西 經 胡花 府 北 謂 流 沪 售 為 後 挺 在 兲 岸 澤 皦 水 衑 去 鴻 十 徙 ·m 東 出 順 縣 禹, 里 南 縣 縣 滿 湯 流 北 中 摊 إ·إ 河 武 迎 120 至淌 2 渠 يالا 五 Z 殏 + 亦 府 10: 其 砾 iĥ ¥ 3p 石 出 哂

又東逕防武 又 又 此 東巡 東 售 東巡炸 桜 脐 胀 桉 城 北 桉 + <u>بر</u> 桜 梭 亢 掀 亚 彣 Ξ 陽 2 P ょじ 岸 胙 在 里 至元 新 ين 東 津 ~ 里 武 原 流 縣 决酸 枞 **إ**راية 流 金 鄉在 式 遂 在 津 流 啪 在 有 在 枞 シと 遂 啡 九 新 游隧 東東遺金及 粽 縣 遂 新 計 縣 뱌] 開 脎 梯页 絕 60 3 耳 術 鄉 绉 卦 ッと 村 鄉 ッと 五 桦 باله ήα 此 縣 -Air 褌 府 本 12 府 分 环 府 府 汉 鄉 中 水 水 西 東 西 縣 ंग 胼 西 ッと 工 兆 元 河 南 稚 庿 南 承 大 至 九 從 九 **É**) 三 盈 五 湬 + 從 + 充 `~[ 陽 ナ 倉 十 卒 縣 里 φ 里 水 击 五 里 南 前 塞 漢 蚁 南 河 里 淮 哉 河 之 河 出: 為 黃 徙 封 北 河 仐 酸 舊 ंग 封 날: म् 岸 河 售 無 棗 陽 在 之 ъþ 哲 枥 決 庒 濟 水 亢 縣 水 赫 束 庄 船 五 黄 縣 舎 孝文 北 縣 (F) 枥 + 西 餘 炸 北 南

#### 源屯 地 氽 地故 vZ 古 之高 也寓 于大陸焚馬選卒于衛杜氏以 か 同 河渠 ٧X 湍 求 張 20 爾 Ð 名 悍 即大陸 伾 伾 留下 泊云 兆 統 故 遠大陸 非澤也以 即修武然此二澤相去甚遠所以得為大陸者 書云禹等河至于大 馬今按修武 雅廣平為 難以行平地数為敗乃厮二渠 地 一斤章縣界合章水是為北過降水溝油志王横 1 J 過 地耳 2 過 南 西 降水 降 亂海津與漳俱得通稱 馬 dr. 南 東北流至干乘 降水至于大陸二渠其一 水至于大 孔 不 此說得之又其州疏 折 知所 尥 вp 報達正美云澤雖早下旁帶底平之 陸 枥 為 但應 濁漳也字或作 即發飛縣西北 北為省界口又東北巡都縣東至 在 澤 陸 m 构 E) 考 平 有 班 伾 共澤 固始 者則名大陸故 渐 どく 為汉 為 共一 F) 一名大陸 从 也 終 有吳澤改其旁 河所 春秋經歇子田 E 卿 即修武縣具 為深川 vλ 则河之經流 沌 元云 维指云大 引其河 從來者高 <u>: Ir</u> 猶可因澤 絳水 徙 兴 自黎陽 秡 ρή ٦ť 陸 發 To iń E

平息 年 **界南今** 之二茶 屬 曰 流里五 淮 曲 陽 禹 東 縣 沙. 日 乘 禹 河 二剂 周 東 Ė 河 順 亚 摭 型2 決 it. 义 Z 德 ř 想里 É] v 2 レス 高 狱 害 枋 縣今 宿 又 ッと 注 雅 行 至 F 府 杪 티니 水 魏 東 運共 有 汉 魏 亭 城 两茶 榆 乔 讣 縣 平 鉅 F ;ল 肼 ₩. 南 西 六 称 宿 嫵 柭 2 東 7K 炡 南 東 狍 鹿 禹 ΡĤ **ts**( 各 削 14 ंग 南 u J, 西今 其 本 縣 河 りと 行 水 ی 頓 折 باد 東 O 根 西 南谷 两分 臼 脐 流 西 2 ÐΕ ηß 治 售 m 東北 溢 注 徙 5) 112 75. 南派 無 故 畔 溢 虚 禹 西 зŁ ゝ , Fr) 云 虚 ッと 右 ्रंभ 縣 凶 為 湬 為 道 JI Вp 2 束 在 運 É 合 水 稻 1 又 机 ŕή ंग F 福 丈 陽 JŁ. 宿 倝 帝 吞 洪 シヒ 淇 16 ᆀ 陸 穿 東 縣 E 道 乔 存 歌 故 > - 客家西 各 U 水 沙 ĺР ₹**)** 坼 水 'n Jt. 逕 東 界 ù 也 灰 IJ 漬 故 杪 抬 章又東北 明 水 更 去 寒 濆 西今縣在 縣在 洪 全 从 iFn 立 15] 矣 周 東今 附 綖 南湾 \* 78 清 水 典 故 6 加 縣分 1 譜 漢 Ŕή 害 蘇 空 表 北洛 躲 東 其 堰 文 注 1 马洛 云 使 产 树 至 鉅 敘 洪 欲 遏 云 南在 ゴカ 河 又 大 Ē 漳 亥 鹿 洪縣亭 決 πh 田 豩 故 水 于 水 yt. 四港 平 王 決 縣 水 西 在 伾 水 西在 之 蘇 朷 逕 义 十縣 息. 3 B. 狐 稍 É) 1, 東南湖 v-1 更 東 代 1113 白五两

也縣内 याः 祠 河盖 詂 故 過村 見 而 か 数 祖 亚 们 縣 1. 消 界点 祁 为 内 相 亳 鄴 鍾 + 又 漳是為北 Jt. 臨 東 故 为二 乔 帺 禹 出 苗 今 里 武 首 縣 逐 漳 而 大 沝 歴 又 桜 當 核 故 齿 界 亦 迹 之東 相 ت 南 15 廧 東 漢清 宋 西 伾 前 澤 接 本 ВÞ P 义 般 則 淌 李 4.4 也 上 北. 縣分 注 耳 安 ंग 凼 .**≱** 汝 有 白 摅 又 亚 里 济 ラバ 陽 則 垂 云 故 书 陽 泽 啡] 亳 鄠 陽 降 北 逕 流 义 縣 上 石 道 三 縣 內 般 か 昔 矣 逐 東 ĘĮ·} 水 東 躺 傐 华 柱 E]  $\tilde{\mathscr{Y}}_{i}$ J, 水 数 峃 王 Ŧ 盤 禹 2 th\_ 字) き IJ 廷 縣  $\stackrel{\text{\tiny 2}}{\sim}$ **;**可 北 媒 故 河 十 庚 疑 朝 河 É] 豕 東 逕 故 又 制 形 豆 F 里 故 歌益 遷 大 Jt. 出 漳 此 勢書 東 杠 迅) 濤 後 環 城 义 復 Ψ 为 也 P 東 般 降 讻 二在 人 縣 在 西 2 右 不 苗 居 示 在 洍 主 亦 りと 請 内 4 十岩 縣 河 0 ンと 安 桕 有 對 禹 郭 水 担 Jt. 歴 出版 黄 四 西故 É) 苗 得 注 陽 其 河 促 並 冹 而南 縣 洒 渍 汉 + 子 者 泽 酮 + 2 逐 武 為 安 云 2 Яþ 郡 南 沝 义 里 里 也 ŕή 炏 115 ВÞ 袓 至 馬 洹 丁 河 ッと 題 西 卤 .束 A, 淇 有 亦 泽 岄 حـ 經 又 水 肥 則 矣 白溶在 迴 推 譲 水 大 E 矛 河 大 犯 出: 糸 鄉 禹 É] 交 满城分 楨 ΡΉ 禹 奪 (E) 谺 方 馬 而 79 河 70

故 宗在 又 高 又 ۲. 西 7K 徙 秋 王 2 Jt. 又 歷 柗 其 寥 ッピ 亚 渣 吗 砂 が 明 縣今 涟 流 府在 格 按 綖 Ŧ 弬 遂 义 道 矣 後 水廣 \$III 明 漳 曲 叩今 注 14 BP ÍΝ̈́Γ m 盤 縣 售 為 伾 戏 巨 史 7B 义 水 周縣東 稱 th. Z 循 腔 庚 逕 故 漳 栋 售 漳 杜 12 縣 枯 ল (F) 械 清 8 ŕí 泽 又 估 30 遂 + 1313 白 故 又 故 水 11 西 東 馬 縣 城 松陽東 깱 8p 在 12 立 15 档 É] 逝 斥 斯 , E, 疗 年 東 東 ,Fr) 邢 祁司 بالد ,Fn 西 至 東守 F 逕 斾 亞 章縣 大 144 漳 又 ئاد 謹 It 考 予完 分 -8 بالا 10 喜) ۱١ 伾 вp PIT 戚 ,为, 津 東 逕 南 淬 <u>팃</u>·] 漢 31 禹 曲 部 殷 順 鉅 縣 宗在 縣 义 水 上 决 鉅 ंग 放 74 德 東 (Fr) 炒 廊 よう 鹿 其 陽 入 故 11 :15 70 縣東廣 庿 縣 调 城 禹 載 禹 府 後 此 Ė 使 盖 境 宗 逐 义 故 西 4 Ž عاد 降 701 白 河 平 為教 高 行 4) 亚 媒 娍 亦 縣在 ग 魏 水 西 书 沙 瀕 状 東 縣 周. 10 辦 至 あ分 鉅 知 縣 陽 Ŧ ᆀ ψ,hr,b 東 打 廊 :भ 殷 是 北坪 ی 大 ~ 2 £ 1 為,縣外 又 故 1 #: 哂 東 東 束 陸 也 袓 新 4 經 打

禹 疑 西 可 言 宿 促 上 接 距 12 又 行 河 26 西 洮 乔 海 稍 流 贡 北 冻 U 午口 2 司 洮 いく 水 白 1) 行 高 矣 竊意平 謂 理 錐 禹 鉅 縣 至 Q. 也 馬 U 清 漳 古 郭 高 其 亭 至 應 **إ**رالِهُ 贾 躗 抬 杜 12 河 水 地 水 遮 宿 詖 佑 東 3E JU. 2 南 百 卑 テ 曰 玄 2 2 東 高 剆 各 害 迹 31 [P] 何 里 V-2 桢 可 于 但 地 云 亭高  $\stackrel{\cdot}{st}$ ū 地 12 洪 之 行 距 太 高 लं いて 口 四 宋 附 游沧之 下 古 2 者 む 胪 台 上 15 水 水 ण T 行 チ 涉 漳 流 1 里 抽 拚 F 四 漳 本 U 性 知 沦 涼 大 恒 漳水之 至 也 較 Ŧ 金 姜 就 ی 1 池 水 いく 五 決 河 水 請 浴 當 高 丈 從 人 氽 河 下 7 又 **^** To 2 11 者其 高 載 縣 淌 耳 矣 凼 曰 五 2 流 伾 न 地 南 台(10) 梭 是 μíς 高 2 禹 欲 刺 + ण 合 大口 不 高 東 決 丈 耖 里 3 地 大 清 部 行 可 八 少 례 知 v Z 對 足 £] 非 恒 行 禹 10 地 73 河 滹 15 漳 漳 河 光 分 益 麗 是 過 群岩意乎 上 使 謂 餘 J, 在 錐 -}€ へ 東 輝縣 文 单 北: 放 高 里 在 拂 善 行 汹 降 也 決 豈 平 地 臌 凼 £] 芷 101 于 水 アイ 徙 漳 鞦 枥 宿 逺 為 耳 彼 有 使 稍 性 陽 西 也 ंग 決 15 水 縣 粒 也 15 ぶ 啊 视 ~ Ŧ 呖 則 ?

其 為 所把 又 21 盖 河 + 制 باد 衖 们 五 Ti) 至 不 康 後 聖 兩 内 £ Ð नोः 剂 滥 東 亚 風 ョ 臼 六 叔 吉 岸 為 Ŧ 4 逐 證 鈉 Ð 馬 7 為 自 為 + 序河蓝 Ż 于亳下 糒 河所 河 都 Ŕή 東 歌 沁 縣 南 里 里 衞 也史記 云 型 朿 É PÍT Ż 水 Z 故 70] 河 君 팃 ₹i Æ, 後 終 żė 東 洋 أمز 長壽 至 义 E) B A 為 世易 盤 不 鉅 内 P 河 東至 Ť 洋 千 故 千 10 能 般 质 鹿 Вþ 居 E 里 西 謂 北 津 沚 里 之宜 诙 今我民用 本 1 西 界 #13 桕 天 Ž 流 m 河 in 站 AF 楚 袓 汎 啡] á2 南 1 بالا 活 Ť 折 iń 伾 遥 故 語 Ŧ 止 R 有禹 城 祖 敚 流 里 活 岩 抓 AT) 糸 商 東 毛 墟 九 在 製 ۲ 面面 漢 滋 河 يالا 證 墟 為折離居因 遷 ブ 令 31 É ٦Ł 败 至 河 近 四 **15** 两 रेण 商 五 )于那其 去 自 毯三 [0] 安 业 河 大 是 盖 也 去 則 41 摅 共 陽 由 祖 泸丁 為 西海朝 束 イ丕 史 宿 BP 슬 ÷ 徂 ゃ 内 JŁ 縣歌 東 河 1. 過大 30 吞 古 亡 業 後 入 鹿那 有 河 自 界今 西 衞 บ 蝌 有 注 治 界在 盤 示 ij 南 禮 計 華 伾 世家 點 定 為 立 1E 庾 溢 PÝ 折 حاية ا Ŕή 陰 1 极 É] 界 vi 王 义 河 詩 行折 栖 南 計 在 চ

縣

西

南

洪

縣

東

باز

洪

水

迎其西

河

水

迎其

東是

沸 為 縣 岜 證 東 伾 傳曰 大 非 鉅 遊 為 名 束 河 + 亦 河 在 六 厮 遮 山 也 巡 庿 鹿. 禹 河 西 推 縦 有 五 害 今淹 き 也 淇 商 菰 東游金 舊 :16 1 伯 河 而 তা 禹 亭東 戰 2 賈 渠 竭 Ŧ 迹 愚 漳 娶 證 庿 F 證 故 科 縣 國 譲 팃네 東 周 いく 婦 證 者 vZ 道 梳 ナ 河 放 策 於 31 开) 瓠 脮 移 E ニ 泽 <u>بار</u> + 茶 五 涟 故 出 淳 南 蘇 決 陽 其 J. 大 去 2 亚 淡書 于 1 70 峙 大 謂 チ 瓢 霉 1, 西 10 西 代 指 安 水 地 2 ρĥ Jt 漳 伾 乾 益 道 ロ 陽 J, 北 定 Вþ 理 經 得 樯 經 池 上 16 水 决 之足實 E 遊害亭 載 X 充 き £ 至 王 盖 孟 注 理志漳水東北至年 陽 漳 自 王 也史 ヹ 宿 ₹` 梳 郼 五 郭 地 云 1F 溢 三 平 高 各 豹 itj 年 2 縣 泽 猹 淥 内 1, + 形 地 包 各 處 為高 之 事 ŕή 放 本 有 + 127 水 2 南 12 據 河 故 1.7 于 ंग 謂 故 卣 北 禹 11 2 コヒ F 贾讓 渠 清 洪 使 地 褪 也 大 2 西 李 逕 河 為 為 钡 芠 證 書 無 而 ッと 1 久口 孫 2 河 祭 垂 縦 禹 西 河 虚 河 言 曰 /\ 炎 武 盜 ヽ 在 PÍT 朿 16 曰 河 河 遮害 也 禹 ナ 橱 西 净 海 東 九 日 滙 枞 故 自 凼 西 2 善 浃 É] 橱 गो 大 也 西 的 故 ŕή 濟 A 10 故 汉 追 旃 墳 紁 非 陸 巫 亦 郡 棋 ゴ 滋

								_	2.0			. */		_		4.1	
	1				漳	昔北	贬	1	澄	عد	滹沱	遂	水	平	下	别	河
					DÉ.	北	是		Ξ	徒	沱	謂	自	縣	至	從	又
					待	流	浮	1	₽.		177	2	束	有	童	河	洒
	:	ļ			献	衡	唱	l	亩	販清	e)	謂之游	7	涟	抗	東	水
					章非徒駭數訟五也無徵不信庶乎其免矣	12	陽參戶之章		證三也唐書地	略	曰徒	沱	些	縣有滹沱	~	4.	東
	:	ļ			-4X_	华	う		11	聯沪	£L.	<i>1</i> 1	41.	30T	-נוני:	4	ふ
		ĺ	Ì		证	注	7	`	70	14	<b>酸證二也</b>		<b>1</b>	10	34	\hat{\chi}	그
		1			ے	~	<		生	斧	碰	平	净	人	7	*	X
			l		ا س	河	漳		.3:	빗		<b>3</b> 7	: 2	E/	仕	7	女
	Ì				無	既	水		清	漳	也	徒	河	從	栖	(4)	
	ŀ		}		徴	東	水亦		理志清池	<b>科</b> 则漳释	水	然冷故徒敬也土俗	又	駭	漢		大
					不	砂	古徒駭		糕	₹p	經濁	10	東	लिं	바	水	沪
				,	佳	治	紡		( <u>1</u> 2)	即徒駭	溪	土	迎	12.	循	經	海
					庇	台	献		五	民友	漳	18	~	<u> </u>	為	ŕπ	<i>?</i> ₹.
					正	ک دا	證		-	2	注	猶	古	新	<del>,</del>	会	<b>\$</b>
					7	2/3	9X		w	1.	1	人	的	10	151	<b>注</b>	*
					44	冲	四	١.	土	之上流	日刷	能識之不	干山	-1-	אל	华	五
· I					绝	安	ب		4	流	净)	700	775	ō	近	7	2
l:					矣	大口	释		從	通	般	2	1	٦٢.	_	É	ا ج
						りた	也奪來		戚	為	埼	不	亦	台	4	4	合
						流	白		縣四五十里有徒駿河	_	共	, in	自來昌縣會海沱河又來遇号高阜城至成平世	河民日徒駿河與許商所言正合盖漳	下至章武入海者在西漢時循為大河路一也又成	從河東至文安入海是水經所叙漳水自平思	又滋水東至文安入大河海汽東至參戶合海沱
						章注之河既東從章自入海安知北流之	河		西	기	将其東	言淖	せ	漳	. 15	1.1	沱
Ш					 _		- 1					نصلحت					كنسس

#### 昌日 安國 至则 斗泥而民稅 為 特為卑窪故 夏允桑禹貢 而東北入海族州之東境至河之西 通 不 不 vZ 河力 Á 通聖之矣 礼 卽 利 可 可 重河之利 九 道故 自大陸 侢 又 海潮迁 决 又 分 况 泸 河外淮不 باد 何害哉 回 分為 敢之出 謂其上流 之所由宜分疏 播 ッと 其噎不 知 رَهَد 也孔 11 引河流 分 合注 九乎 在兖州之界平原以此是也 入矣盖名 也若未及 ئاد 為 れ 惟藉水 之い 、今九河之下 河播 然则 日担 **柯達正義日河從** 九 河 泄 耳岩 河 الح H 水 5.] 認新論云河水濁 v2 カル 禹 令河不通利至三月桃 可禁民勿復 雖為河其實即海也海水 治 于海則流 之使速世 為九則 稅 海之處世 之事為 水 北 刷 即為进河始謂 Ŕή 溢 為 沙两 其 在 九河也 ጉ ぶ 分 宛州 地不 之愈速 大陸東畔北 小可及也 此水分大河東 流 海之潮汐亦 引河夫引 力 速 弱 復平 界 何居 沙 無 ゟ 义 程 됬'] 自 [] **レ**ス 衍 河 夫 水 日 河 Jt. 刷 上 坜 流 要 内 ·47)

黎矣 漢時 識 **今** 粹之 子集 縣 記 但 PÍT 满 335 頰 边 界 れ v'λ Ą 漸 稌 夏 誤 D) 禹 四 雅 芝 女 中 ল 漟 1 是 云 言 氏 為 曰 合 註 津 回 释 Ż 書游 九 那 A) 九 箾 Ð 舸 漁 曰 經 九 困 3 殰 ٦K 名 璞 ğ 達 ⋞` 何 掠為 河 九 流 河 Ž :01 郭 蛓 豧 手 浓 津 有 بنايد 景范川 ij v2 E) ;ল E 璞 五 九 志成 為 的 待 ,Fi) 酽 為 附 欽 ż 大 ¥` { 注 曰 河 总其 駭 準 滅 曾 陸 河共一 15 75 名 支 2 曰 却 2 か帝 許 清 胡 难 曲 榖 至 可 出 沁 レン 蘇 ρή 名 歃 뱌 計 阁 為 共 弭 TK 啡] 书 ナ بااز 分 六 3> 走之 當從 Ž 骇 哥 河及 10) 嵇 孙 舉 王 各 扎 回 ョ \_ 言 彰 肼 其 為九 津 华兴 山 档 平 河 簡徒 莉 功 今 都 求 髙 當 ż 朱子孟子集 Ž st. 1 云 荾 ž 骇 道 遂 言 桕 颖 Ž 功 九 偶 經 書 據 尉 ヹ 日 = 告 狄 /其勢均 去 在 進 茶 許 銊 流 九 河 九 絜 vZ Ð 劝 戏 ल 九 Ż 延 初 為 高 10 dr 傳 大 ≥` 林 河 平 今许 地 旒 T بته 非 無 퇫 曰 Ż 也安得 東 書 虚 か 後 2 羡 註 之奇當 飲 不 朱 核 豹 Ē 度 為 守收 仝 為 饭 訓 子孟 盤 里 **二**) 不 填 日馬 是 拿 李 湫 鬲 9 海 J. も ण ^

果 黎 Ñ 益 道 可 v2 史 馬類 許 然 政 道 去 (校 次口 在 商 榖 其 Ŧ 漢 庄 在 東 九 史 信 依 1 Jt. 亦 南 成 乎 覆 不 ヘ 臨 記 PH 豹 徐 湔 出 ;ল 禹 6 杤 津 盤 平 Ŕή 雅 贡 皮 J. 得 六 查 通 餘 .义、 後 Ŕή 豧 分 縣 義云 在 书 ル 胡 為 2 不 在 在 取 金 九 九 里 平 束 蘇 2 治 能 火 池 ंग 大 : 1 徢 河 今 兴 河 簡 尕 Ż 光 史 2 處 Ŧ 则理 枝 駭 見 河 水 X11 在 疏 都水惟 外之 穿 志 2 馬 欢 東光 最 在 右 者 此 也 次口 難 九 林 烦 감 2 許 Ξ 云 貝 従 北 \_I\_ 雨 JŁ 数 いく 南 衍 沤 滔 治) 河 (7) .}+ 者 商 不 ッと ίξį ł& 縦 移 歴亭 太 其三 者 縣 鬴 津 ·言 ٠٤٠ 皮 50) 津 不 徙 理 0 史新 냘 塩 亦 又 縣 2 在 蓛 能 南 不 É 在 今 鱼 此 縣 東 三 寸 列 有 W 北 雨 南 離 鬲 推 釋 窮 By 小 2 华 絜 水 絜 剌 2 \* 河 鉤 也 縣 經 九 此 ٧Z 岩 钦 ٤ 盤 Ż 其 下 徒 末 啡] 既 但域 渱 りと 備 可 ंग -} 骇 在 عاد 為 韓 至 合 此 有 46 杜 尖口 餘 姐 九 可 其 庿 耒 蒙 戏 <u>=</u> Ξ 是 徒 Ť 統 H ~ 河 治 哟 枚 處 詳 平 縣 志 包 河 禹 信 赪 通 復 河 五 駭 Ż 7K ٧× Ť 之本 ρή 典 道 處 ewline2 知 Ŋ·] 矢 2 云 郡 'n 為 M 玄 筋 歋 矣 九 故 有 न 相 不

為博 渡 ,E, 太 鉄 枝 # 存 熱 삵 至 北 千二 9 額 再 (i) 逕陵 徒 古 奎 皮氏縣 **火河旅游兵** 海豐縣 炣 ۲.) 丰漢 盤 ¥ 津 津唐 村 徒 W 骇 者 河 A E 河 桥 河 河 河 ~ 縣 峽 ż 在 亦 枹 在 ;ল 水 沦 在 河 在. 東 在 他 今 ;•J 今直 為, 傅 兆 蕰 札 H4. 今 今 是 今直 彻 浴 凝 平 بالا 去 вþ J. 安漢 1 山 東 世 蛛线 騙 ,Ė, 商 在 Ø, 六 東德 束 棣 至海豐 清 棣 慶雲 泸 冰 + iÝ 河 河 柯 液 海門 忿 在 南 Ł 河 在 ;•[ 删 南 ابر 漢 二 砌 今直 縣 今 夼 府 ah. 河應 縣 西 府 古 府 縣馬 平 ·/\*\ 無情 東 1, 南 東 \* 東濟 点 2 4 洛 棘泡 赵 池 祉 改 來 龄 M 縣 34 .,44 **从**.毛 陂 ;ii 脎 河 經 界至浴 盐 باد 支, 南 池む 醐 屷 具 東 有 府 府 縣 ŃΪ 游 南 杨 幸) 東逕 謂 德 収 Ti, #4 弹 垧 白 뿐 其 A, ŧ. 序 **H**4. 呖 津德平 平 歧 亦 東 <u>:</u> 交 河東 華 流 縣 原. 云 河

即古 彼 縣故 城東 蘆水 西城 南縣 吕亭典 逕武 故 北 又東北逕成平縣南 杏 演又東北合清河謂之合 樂陵 桃 惩 城 × 南 歴 又 漳水高津 推之次、 注漳水自 河者皆在 又 東北逕武色 東在 城 **>** 下博 南 又東逕卓城縣故 **逐縣故城** 肾 慶雲 北絳濱 亼 核今 故 游沱河會站 31 深束 又東 10 两个 葭水 城 徒 谐 北耸 西 州庆 11: 鉅 槉 jt 出 差有考據謹列二河 縣 兩 透 水縣 케 南 A 注 又逕 Į, √远東北 泛 麂 最 界至海豊縣 河 郡南 Ž 斯 又 又東逕武邑縣故城 之中七 漳水 縣 JŁ 扶 汶故 龙 河在 異今 **東京又東逕弓高縣** 深在 る 柳 \$10) 心 뇄 州今 逕 又東北逕武然 津最 ĮĬ, 渍 深 \*\* 又 注 F 北樂成縣故城 東定 又東北逕阜城 v 北逕堂陽 初東又北巡 縣 河 州市 博 H 讲 里在 又東左會游 办在 故 两个 姚 南 人 Ž 赫 接令 城南冀 沽 不 九 北北 相去二百 故 東北 争两 可盡識 州 Ŧ V 叉兆 妣 縣 汤 又 縣 左 JE 東冀 **3**t. 南 沟 小 亚 亚 南 故城 又東 黔 州今 JE 逕河今 吕縣新 餘 樂 皮 \$15 又 又東 Vi) 北 南深 孙] 龄 徒 縣故 ¥. £ 大在 IE 長 城 則 北色今 3t.

			要震雲縣南又東北是鹽山縣東南又東北巡海東巡德平縣北洪縣事又東巡樂陵縣北此縣南又東巡德平縣北洪縣事又東巡樂陵縣北此縣南又東巡德平縣北洪縣事又東巡樂陵縣北此縣南又東沿灣縣南東入海津衙即古徒縣河之故道也平舒縣南東入海津衙即古徒縣河之故道也
--	--	--	--

達 為九 邑不 暴至 于直 日 志横 竊意禹之精為 安國 1河是 徐 同 司 省 此好逆河之正 禹 河 又承襲之雅沁 逆一大 河之美 郊 堅初學記 百 洮 带收其流 之患未至則 為聚落不 凶 沽 踵 絕之義而終不若鄭王迎受之河其義較長也 **為**) 康成 曰 並時分流 地 開渠通海以 介南 入海之後依禹貢逆河法截衙河流 15] 逆 Z 、云下尾 河 河納之于海鄭晓日 40 形 之談两 Jt 為 而逆設 日逆迎也言 耕不 柯 九河非 于海考 則逆河即是 也其意以 解也自 不 w 分其 合名 大河 聖人 牧故 妫 泄河之溢冬春則涸夏秋 緣節其辭者也明邓将又言當 為 尺 水 有意播之也其窪下之也實 為逆 名译 王 于克其附近設為河 謂之逆河董張曰 耕既至則 以逆河為横絕之流亦 九河凡河 海口 同為逆河句釋 介南創為其論謂逆 河言 河 九河矣後 有 河下超 朝 相 之道則 不堕民 タを Ť 向 迎受 ,4m 勍 海上 格言 \_Ľ 舍 不 淌 横開 ホ 程 久口 文 Ý 王 礼 建 則 其 播 译 防 都 班 池 云

最 有 淪 νZ 禹 逆 故淫 á W 碣 淪 相 许 南 查 チ 渤 亢 食 又 河 河 泸 G 千 合 九 स्र 河 區 昆 *'* 海 合 有 浸 中 亦 世 其 合 不 河 備 故 一 之處 河 逆 2 為 不 16 為 淅 海 淫 2 後 迹 止 何 F 至 zh\_ 經 河 t] 巡 相 低 /未常不 處 大 部 翟 中 注 四 = .2. ut 去 文 ,<del>4</del>7) in 月 風 售 vス gp 动 哉 洋 馬, 刑 滔 逾 不 5 = 2 無 接 进河 渤 在 者 姐 洲 15 (0) 能 油 渤 Ŧ 油 甚 餘 百 治 绝 干 若 其 有 ij 可 廷 Ż 不 者肯 餘也 文 海 沟 里 卧 *,* ¬ 也逆 末 v', 枛 \* 降水至于大陸 En 許 謂 區 分 耳 後 河 里 漸 岸當 而 見 G ٤Į٠] ٤. 今 枥 商 せ 至 沮 蘇子 由 九 チ 城 黄文 河之  $\sim$ 今之 Ð 為 有 謂 河 Jt. 沙口 泐 35 油縣 Ŧ 有 天 早 淪 勃 九 膽 海 推 ぇ 不 海 地 任 渤 售 派分 涯 叔 共 され 能 窪 河 す 海 一岸其實 ż 日 道 州直 Bp 沟 rt 36 E 庶五 15 徒 適 逆 泊 啊 不 煙肉線 亦 渤 逆 九 ВÞ 析 **酸最北** 為 合 有 河 無 啊 三水 河 失 [عز 油 可 禹 河 逆 逆 為 百里  $\dot{z}$ 究 方 打 程+平 D. 2 义 图 來 2 碣 人未察其 F 河 数 河 辞 表里府 既 洷 逆 飒 拚 G 2 亦 南 漢 也 **إ**٠] 10) 百 東 分 淫 士 河 油 2 下 701 IJΈ 為 又 ₹2 造 E) 1K 4n FI

之河城上自至年禹安	六一次	之前可知矣	在東京大學	光
西河逐東五山	千四万里	知 年 日 才 處	海在北故是	対野りと発地志
之七年而河遂東後凡一千六百六十餘歲河自禹告成之年下退周定王五年已未當魯宣公城至案縣碣石山入海又過郡二行三百餘里也黄	六行九千四万里维指云自章武東出為迁河逻疆漢志云河自羌中積石山東北至章武入海過郡十	之前可知矣也桓公時已有之送河之為渤海在太公之後桓公吉其近居口花處北海然則太公受封時未有渤海	在東湖海在北故管子舉其封城曰東至于海楚子也左傳傷四年楚子使言于齊侯曰君處北海大海雅之堪就沒見少沒以清沒信見五百五十分	是人民的形中的一种人的母童最后可见文再的一种的一样的于溪畔非子云辉景公典晏子进于少海登村断路之火籍地志而得之也 渤海之名見于溪西
一六 百六 千 元 千	不此至章	为海在上	不村城日本 人名	重要五日 物海
十餘成	出為迁河	太公之後打時末有	水至于海 おおれ	要子遊于少海公的 物海之名見于漢西
宣也黄公黄	逕 郡	極物公海	楚 大 治	少公漠的机场

肇域 码 書地 當已 御 河 学 掝 河 10 水 地 肖 道 為 志 詳 Б Ď ū 当 經 义 约 理 論 志所 理 え 在 注 沒 愁二 Bb 合 þή 踪 真 如 Ρή 志亦 今釋 常 柱 謂 58) 宋 載 遼 淪 于 跡 溪 ;P 在 書 載 商 禹 西 于 形雕 縣 山 雨 石 13 祈 か 幸桃 束 2 界 Æ, 胡 貢 淨 余 謂 云 淄 推 幸 40 北 ~~ 没 脎 쩆 础 故 究 濟 水 理 谷 بالا 從 诏 考海豐 南 蕩 城 歴 首 以海 浴 'nς 即今昌教縣 志 章 山 石 どく 成之設 適當其旁禹 在 代 尾 為 泸 合 ВÞ 有 武 53) 府 為 謂 邷 釋 水 海 分直 北 Đ 波 謂 石 濟 縣 經占 海章武 豐 平 漢 ゟ 襄 址 -40 在 當 渠 又荒 馬 隷 郡 世程用 縣 淪 姚 表 波 其 注 .焦, 永平 孆 援 道 城 谷 海 縣 襄 時 乾山 à 誠 城 此 Ž 数 今天 衝 家 不 事為 不壤 縣 府 日十 迨 逆 58) 脎 4 Ā 心之。 軍馬 當 न 40 橅 食 道 4 西 津 河 ら £8) 疑 沟) 接軍 當 地 元 烦 2 信 南) アイ d) 得 ん 也 m\_ 為 海 欲 連 縣 噟 ρή 劉 河 河 卿 麽 3 Ji 禹 杏 書 者 顶 文 西 U 拔 碣 2 浙 淪 河 肇 海偉 無南 撫也 进 الخاطر

											淪	河	河	浸	云	百	王	
											テ	13.6	~	数	為	里	横	
											海	渐	海	百	海	九	口	論
											35	チ	處	里	ρή	河	往	逆
											逆	海	舊	不	漸	2	者	河
		ļ									[ن]	够	在	遊	せ	她	天	逆河之没
		i				! !					變	道	平	渐	莫	2	嘗	没
											為	堙	14	九	ス	為	連	
											泐	矣	ゟ	河	漏	海	禹)	
										!	海	南	城	iffy	菰	Ŕή	東	
											海于海此逆河變為渤海之由也	河皆漸于海舊道埋矣煎文叔亦曰逆河码石今皆	河入海處舊在平州石城縣東望碣石其後大風逆	浸數百里不逐渐九河而實已渐逆河故薛士龍口	云為海所漸世莫不痛敌之但以機言求之西南出	百里九河之地已為海所渐矣夫九河但煙塞而横	往者天管連雨東北風海水溢西南出沒數	
										<u> </u>	由	叔	東	ح	但	矣	風	
								·			10	亦	望	漸	V 1	夫	海	
												口	码	逆	梳	九	水	
!												逆	石	河	吉	河	溢	
												泸厂	其	故	水	但	西	
						İ			'		į	53	後	薛	之	堙	喇	
												6	大	+	西	寒	出	
		}	,									今	風	能	南	而	浸	
	1 1					[					۱ :	许	逆	日	: 남	横	敦	

#### 流 也監 官 其 陸 桓 راح 白 沙 酚 普 呖 方 庿 茶 今 為 趈 **6**2 鹚 如 \$3 止 Б 石 出 129 茶 考 者 最 浴 14 £] 治 經 河 俱 九 河 峅 水 东 傳 庸 进 Đì 流 有 不 不 枥 注 111 JŁ 秋 白 猕 見 冶 其 割 河 直 Ž 朝 ->-12) 書 活 緋 曲 土 Ŧ 達 111 u.F 斗 士: 4 2 贫 冷 左 中 Ti 74 b 平 址 麽 **沙** A) 潮 出 10: 齊之 £ 轨 办 TÉT. 湖 候 [] マス 渊 **7** 3 性 計 内 亦 刷 \_ 周 T 1.5 D\_ .义-播 科 沙 而 农 ρή 詩 外 逆 伙 為 云 脐 有 至 久 v 2 Ð 四 禁 移 存 ıΰ 体 沙 :> 九 Ė 河 非 峅 鋯 + 暢 来 告 表 河 柜 15 商 45 與 者 桓 潮 迸 流 河 - A 犻 テ 秋 郊 辞 Ž 公 凶 倶 九 -7 激 無 称 界 À 欽 蒙 溂 塞 7 河 37) 出 浴 Į·Į m 阻 Ž 非 旅 亦 在 2 ŕή 疏 3 海 矣 剃而 , , 木 所本 存 桓 黄 流 ~ 乘 Z. 恃 百 14) ~ 而 沙 书 日 8 公 不 河 いく 徐 非 沙 **b** v l 内 74 2 ţŭ. 拈 河 來往 芝湖 安 淮 ν̈́ζ **£**] 年 私 洲 All Pir 蘇 化二 坌 = 危 支 ; oT 席 ぶ 127 為 桓 時 者 Jh. 右 沙 能. 時 义

惟 受 浏 受 投 峅 63 ż 流 不 為 じく いく 2 石 47 v マロ 王 乘 北 庿 水 泐 涯 21 九 雷 岸 禹 漵 楠 風 ニ 河 油 其 三 鼔 河 7K 势 赵 て、 ΡΉ 雷 浪 百 함 ŕή 197 能 分 百 里 里 F 17 孙 V1 天 卣 カ 2 來 7 沙 **₹** 連 别 逆 剃 載 進 遇 者 河 汐 制 雨 不 河 沙 不 東 漫 無 足 汪 不 能 湧 逃 洋 得 無 レス ッと 雅 性 瑜 不 阻 ð 41 風 E 2 自 **\$13** 浸 變 隔 师 沙 者 合 胨 2 码 為 凼 助 外 而 女口 潮 抽 柳 120 h 內 150 沙 膠 沙 油广 汾 汐 再 H 海 投 值 Ŧ 不 直 失 怒 至 而漆 內 遒 長 14 停 逆 抓 河潮 矣 雨 外 义 701

河

奺

道

鄉

康成

\*\*之

不

得

谢

齊

桓

創

桕

塞

밨

論

九

;তা

ት

其

沙 2 2 海 有 不 骄 逆 河 河 得乎 柯 能 出 之 河 又 姐 沙 徒 頄 不 合 淘 既 為) 駭 變 糾 敵 可 斱 Fm 乎 去 九 ;o 能 加 F Jt. 直 -10] 相 流 れ V-1 敵 長 业 じょ 矿 P 壅 油  $\lambda$ 紨 ρίτ 枝 淌 接 上 2 バス 流 有 立 七 E) 欲 就 其 連 Ł] .2. 畜 2 堙 決 雨 麽 東 科 者 全 北, 力 12 矣 ئاد 不 河 吽 .2. 屈 ۲ン 禹 敵 皞 死 欲 微  $\stackrel{?}{\sim}$ 淖 潮 3 弱 办 不 為 D 徙 Ŧ 枝 έì 九 齊 河

## Æ, 溢

沙水 荣澤 深游 西 郡 渠 Ż 通 泽 世遂 A 宋 Ö Б 為 門渠也水 鄭陳 וינ 名 えい 云 官 河 E) 禹 出 河之 波 故 茶哲 于绿口 為後為張 ゴカ 1:5 游 ~ 為 濟 經謂之濟 術 分 筱 濟 與河 坠 业 有 的王贲 濟 沸 (幸) 瀘 于 本 流 m 头 袋 v-1 水 淮 陽 亞 不 防武 梁 引張 京 す 档 ふり F 游 通 4 31 杉 + 為該為非 字 2 水 书 £] 瑞 河 淮 南 鴻 名 36 束 (L) 游 ψ 大梁 為 ₹p 南 本 #: 河 為 玩 ż 謂 河 险 亦 浓 群 名 縣 <u>~</u> 游 P'C أباذ

海亦 漭 游 隧 v\*4 汴 沂 预 不 2 7.

诗 差 會或 言 Z 献 古 理 长 淮 **Ę**)·] 尚 白 書後 溝 朱氏書件 浴 無 JE 指 則 公 2 鴻溝 通 文是則達 絽 **4**-1 江 故 人傳寫 為 洲 無 7K 禹 拟 游 31 2 官 淮 贡 -112 辨 亦 河 2 會于 于菏非 莫 白 渡 日 19:] 浮于 道今 沿 汴 v\*ス 727 知 為 Ŧ 齿 帲 水 上 F 连于 之 直 江 池 禹 淮 扩 丧今妆 海连 FD 文達于河之句 迹或 類 Ž, 沙 浮 達 £] 江 ंग् 湖當時 Ŧ 办 始 于 Ŧ ₩. 說文荷 許慎 河 v 1 淮 淮 有 說者奉 來 10 泗 達 Þή ٠٤. 有 淮 배 改 子注 有 チ 非 2 淌 此 可 3 ; 自 道 傅 矣 不 禹 油 ぉ 引连

淮

沙

水

T

**\$** 

汝

45

11

沙口

分

沁

水

(1)

韵

城 浆

329

Fß

合

沂

21

沚  $\sim$ 

雅

水 其

亦

由

脏 液

igi

雪

沂

;m

~ 會

淮

滔 逕

1/

亦

ιĐ

懐

逺 于 河

痂

液

為

河

矣

游

自

泽東

行

與討

溄

含

-1-

流

蘇

チ

曰

Él

淮

沙ツ 沚

河 Ŧ

.2-

道 R

F

#

謂

隋

煬

通

汴

<u> 25</u> 赔

禹

垆

無

Jt.

水 >

いく

紁 1.1

禹 テ 满

2

吉

漢

害 亦

ΙŊ 始

刚

與

淫

約

中

分

夭

割

涡 适

淋

亚)

v2

東 按

為

文

前

注

云

滎陽

F

沙

来南

為

鴻

游 3 有

v Z 漢

通

宋鄭

陕 焚

曹

131

本 于

汝

扯

·v2

舒 3

ēр

今官渡是也

魏

武

袁裕

相持

能 官 禹 渡 <u>`</u>.ir. か 羽 楚 禹 貢 漢 九 分 14. 裂 Ł 之處 水 Y 計 جد باخ 自 春 jo] 漢 水 v 2 來 道 有 51 淮 2 安 学 九口 獨

非

可 共 見 131 沂 [ناز 春 .2. ;ण 2 後 150 書 狄 漢 可 上 或 河 3 帛 魏 槉 E 為, ¥2 晋 林 足 31 班 都 烹煤 游 沾 碀 逐 7 : " Ρή 在 都 水 灰 Ŋ.] 山 Ä, 珄 汴 浴 徑 37) 北 不 官 水 水 并 注 取 應爾 秣 2 渡 2 道 師 之战 팿 大 陖 非 IL 意 ٠(, 為 焬 E : W 其必 岩 古 汴 帝 1. d) 工 今 故 創 不 艄 淮 F 滧 40 £ 計]| 逾 济 J. d) 于 倘 百 Ü 于 餘 兴 分 伐 30 里 57 沙 自 王 义 間 通 Æ 汴 杜 -12

史 225-377

湯渠 渠 施 海 澤袋 津 2 ҳ 河陸 則 液 南 通 E 南 薪 Ďβ す 禹 8.1 yŁ. JŤ. 氽 Ŧ 河 水 者 有 出 則 狄 是 JE, 31 Ξ 禹 徳 袋 澤 4) 清 首 凍 洮 雅 涟 dy. 贡 代 峅 其 茶 燮 者 茶 海 九 明 マス 陽 前 春 雞 ;ল 溝 不 爿 Ê 東 曹 斷 峅 秋 1 伙 可 泲 2 701 F 又 F 有 绗 是 濟 很 Ŧ 共 東 いん 前 亦 ř) 31 方 2 戦 胀 本) 2 Ž 溃 旭 ंग 狄 河 河 數 南 31 流 云 河 ;ল 枯 有 囤 滎 存 後 音 源書 湬 談 豈 莫 2 前 티 流 涿 故 南 明 ぉ 祭 源 矣 禹 矣 水 汝 溢 文 40 陽 不 [Ai] 有 侧 者 水 宇 参以 背 (Fr) 作 塞 善 Ż 蘇 經 淮 注 如 雅 是 分 河 迁 守之 為紫雨 菏 遂 금 部 浴 2 流 39 兆 チ 表 注 又 下 水 滎 乎 道 楚 -3.3 ŕή 企 引 者 エ 終 自 禹 É] 故 ;\] 音 ण 後 陽 77 Ž # 謂 足 漢 JE. ١٠/ zh\_ 31 又 え 水 t 東 史 陸 Ž 翼 裏 榮 2 東 私 阁 47) F E) 出 斪 ·過祭陽 淮 吉 楚 謂 南 記 ग्रीर Ŕ 苷 為 汥 水 3] 筬 狻 謂 Ŧ 潍 軍 荣 代 Ä, 河 m 誤 出 :09 Æ, 4, Ð 代 河 日 河 菏 涯 不 2 塞 大 大 17.7 人 浊 池 4 不 有 滥 Ť 减 桥 Ŧ -12 能 縣液 (3) 陽 轧 共 游 F 禹 BD .स्र 王 往 旒 縣 浆 出 達 v.7 汶 百 湖 淫 禹 来 液 214. ~ 有 换 添 河 炎 3p 運 泽 通 許 险 貢 也 狼 37 (17) 可 水 水 枝

末 鴻 2 悠 3 又 會 且 示 滸 承 杰 潔 澤 潔 無 書 浩 兗 謂 Ž 曰 不 at. v-2 河 **إ**الِهَ ď. 汶 潔 泗 潔 濟 2 盖 ,A) 勢 亦 謂 兆 之 出 無 曰 ت 救 由 潔 14) 诵 由 兖 £ 柱 出 達 水 濟 潔 由 菏 7Pm 深 不 禹 相 河 迎 無 青 # 禹 仆 r. 5 河 泗 Ŧ 為 溝 折 通 枥 二 涔 129 東 水 徐 後 之 > 52 官 卅 不 何 非 2 菏 濟 dr\_ 176 涿 菏 道 後 楊 足 道 南 渡 痸 非 出; 無 12 <u>[با</u>ل 2 0 可 ح 頏 Ż ربح 由 Ŧ 破 贡 由 四 汴 邓门 也 相 非 知 禹 知 袋 築 貢 菏 自 誠 通 + F 馬 濟 14 水 2 許 道 矣 矣 幸 的 道 陽 ~ む 得 ヽ 貢 澤 知 周 濟  $\sim$ ₩\_ 無 淮 揚 感 Ż 濟 濟 بار 12 道 經 JŁ 不 潔 希 實 不 通 F Ž 永 是 考 疑 蘇 南 達 濟 IJ·] 捐 通 聖 2 ΡĤ 中 ·17 徐 可 紛 浮 濟 乎 河 矣 rt 為 謂 W 潔 滌 曰 知 ρſŢ 紜 Ĕ]·] 飞 329 蘇 是 2 濟 莫 .<del>T</del>  $\sim$ 老 浮 由 達 矢 .ሂ֊ Z 濟 林 者 通 當 潔 迹 Ŕ 菏 山 該 論 者 知 £) チ 濟 沙 2 于 m 徐 乎 差 其 Ť 陷 板 非 派 Pir 沂 v-1 淮 永 不 ρή 菏 F 憩 詳 连 亦 謂 ग्र ŕή 者 陆 謂 通 沙ツ 青 獨 攻 レス どし 姚 湬 矣 どく 潔 經 潔 兗 11/2 河 奪 ĬÍ (P) 白 诵 陆 涿 U か 西 錐 13 刭 557 2 不 達 理 經 濟 由 九 破 袻 由 N. 河 AH) 指 峾 而 彬 舍 宋 F 青 矣 湬 于 者 西 文 通 淮

高 南 地 漢 师 或夏 染洛 唐 禹河 易耳 斑 8 水 連 淮 31 44 襄 欲 桜 v-1 **;** 愚 該 剖 故 在 流 <u>)</u>129 通 後 **,** Z-雨 王 河 者 Ż 殷 東 沝 安 東 枥 平 .2. 遂 漲 曰 ŻŔ, ĬŤ 之季皆未 荣 謂 得 東 باد 徙 後 南 為 大 浙 為, 縣 在 惟 不 潔之 泽 规。 ЖĖ, ホ 風 有 王 1.1 接界在漢 會汶之後 桕 ッと 从 風 海 潾 溝 清 天 為 和 بنابز 不 2 事 名 起 ρή 独 水 满 起 步 **以**) 溢 **Q**·] 11 E) 馬 狄 馬 可 ی 大剪袋澤 チ 南 沌, テ春 看 N 淌 西 鲣 為 Į. 潾 又 **با**ا 禹 有 春 出 水 南 周 有 枝 知 有 チ 特 "臨邑也適當其處東北 大 Ŧ 禮 Į. 秋 津 折将東之際今長清 济 法队 溢 秋 事馬 チ 長箋曰 浸二 史 翼 戰 Ή, 此 周 職 游 徑 湯通 稱 素 通 天 為 喇 嘭 河 公 方 £[·] 事 漢之 也史 之時因赴漢 理 水 溝 為 初 氏 淀, 百 71 無可 一當在 定 ち 溝 餘渔 ė 禹 豫 不 上 进 時 出下 里 走 後 官 通 稱 r] 際 .}+] 驳 · 1 何 Ŧ 蘇 河 連 稱 Ų·] 禮 2 于 テ栄 處 2 湍 流 興 井 鲢 棫 阮 厮 河 鼎 通 年 淪 **(ILP** ورد ا [] 分 J 极 省 不 其 31 F 魏 接西 可 通 21 河 天

			•			此則存乎人事者也	之患不免因循玩思聽河之自然河欲不使仍乎	其管辖又無全河利害關其國中又未引受決溢	水以浅其势而一時有河各君既無全河形勢在	深水無決滋可也奈下流既弱上流復有鴻溝分	及為此時計急宜杜塞找流築從束水使沙去河	九河勢分力弱不能衝刷泥沙河引日高宣汽不
							不從行乎	月受決溢	門形勢在	月鴻溝分	化沙去河	向宣洩不

Ī	沈	流	平	唐平	城	南	東	又	東		縣	南縣	河林	毒	東洛	滑	為	禹	
l	逕	逑	凉	州縣	南	躲在	亚	東	بال		故	東	枯	津	北縣	奎	潔	醍	
ľ	字	) [F]		两束	博當	東今	貝	シと	亚	;	城	又	東	河	又	坳	ᄁ	=	禹
ı	安陵	縣		南北		南清	गाः	巡	元	!	東	北	北	至	東	瓢在	周	渠	河
	縣	故	四	髙	又	M	縣	绞	城		縣在	亚	亚	J.	ょと	陽分	定	自	*7
l	西	城	原今	1 1	束	又	故	干	縣	$\frown$	两分	陰	戚	圳	運	相消	王	私	
۱	縣今	西	平	東	北北	東	tst	紫	故		北南	安		· A		距縣	五	陽	徙之
		從在	ッと	逕	逕	迎	南	故	坳		樂	縣	西	がり	城	三西	年	宿	道
ľ	北橋		亚	削	臺	奖	縣在	姚	西		又	改	州庄		縣	十南	ল	斉	_
l	又	又	釋	縣	縣	亭	两分	西	りと		東	城	西今	渍水	東在	里北	從	12	
l	東	北	菜	故	故	城	南清	义	而		IJt	西	北州		北消	直	£)	础	
l	北北	证	縣	胁	城	南	平	屈	至		逕	豐在	又	王謂	綠	又	宿	-	j
١	至	肾	故	1		林今	t	证	沙		逕平	縣分		K 之	又	東	各	シと	. 1
ı	東	粽	城			界坤	東	其	ΠÞ	i	芦	北清		峙人	東	シと	u	流	1
l	光	故	東			*	運	بالا	堰		郭	又		遂河	عاد	逑	東	為	
۱	縣	城		南平	1				湖在		西	束		空故	六	松	行	人	
l	故	· . •		1 '	鬼	東	陵	北今	!		縣分	沙	城	故清	+	陽	潔	河	
l	城	茶在		ı	横	巡	粉	十堂			北南	逐	東	义一	里	跡、	21]	_	
ĺ		州分			河	平	故				樂	日日	内在	ા ય	為	南	む	東	
l	南		西	亚	博在		城	又			又	樂	流分	I IL	长	今在		流	
L	1.14						<u> </u>	_	_	_									

			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	皆禹河故道此尚定王五年至西漢大河之所行也此與漳水合自此而交河滄州青縣静海天津入海
			ルル	也海

# 漢屯氏沙河

卒 武 JI IS 禹 灾 為 汉 從 P 元 束 ক 臣 黯 -水 光中 鄭當時 萬 祁 狙 桕 南 收 其 指 軍 流 救 奉色 ý 河 決 云 viz 滨 決 すり 圳上 -ŀ. 少少 書武 チ 1F) 元 م<u>ر</u>۔ 食 <u>(4)</u> 百新塞 封二 夏 徒 瓠 于 AII) 帝 .于来南 塞 五 郇 上 年 月 启 北 紀 日 河院 柯 河 礼 椒 江 河 表 光 很 注 水 河 باد 农是時 作 決 鉅 山 Ž. [نز 至 野通 濮 瓠 決心 決 瓠 テ 陽 春 而 チ 歌游 武安 チ 泛 南 河 天事 跷 郡 淮 水 만 決 527 從 作 12 -1-鄃 킧 [v] 六、 從 上 uf) 业 助使孝 绞 60 树 7 VI

郭旨 年 名 和 力 後 者 01 日 7K 秋 發卒 宣 二 神 大 办 還 强 £ 寒 F + 防 自 <u>ين</u> 水 河 數 餘 首 F To <del>-11</del> ;o] 聪 伯 成 望 洪 決 苒 使 使 河 決 人塞 点 죆 基 束 ंग باز 園 巫 教不 沈 策 行 Ž 郡 17 41 臼 瓠 44 ئے 袓 金 数 渠 請 咫 馬 チ 登 者 箈 vΊ 梁 東 為 Ŀ 决 νż 復 亦 長 楚 壁是時東 刬 禹 河 vZ 郡 楗 四 于是 卒塞 Ż 丈 填 太守王尊躬率吏 舊迹成帝 為 也 大 金段 戮 瓠 む甚 是 九 上 子祭 劉 溝 郡 いく νŽ ıĤ 啟 渔志 包 煁 久 建 宫其 事 使 **v**"? 不 萬 .). いく 汉 걙 河 故 寒 ñ 仁 茂 上 里 (:)

> 漂 례 桐 年 两 船 流 今 गा 桉 夾 Ž 元 載 決 光 水 ·}+} 經 17 Ξ 延 m 千 せ 及 下 江 陛 考 2 河 Ξ 海處 ž 决 防 ッと -濮 ية · 旬 六 濱 與 陽 中 立 瓠 t) ネク チ 塞 11) **;**ग 艃 其 湍 贬 楨 經 浈 163 गाः -<u>;</u> じく 志言 2 五 縣 上 华 46 曰 西 東 臣 之甚 為 11 ंग 至 不 郡 足 詳 平 **河** 可 決 改 ·47)

流 武 東 不 陽 盖 能 南 今深 容 白 注 疾 故 鉅 蚧 其 "] 姚 夏 通 ょ 首 決 又 淮 割 東 斪 河 東 長壽 بار 而 幺 JŁ ンと 遐 1 津 清 其 來 湎 2 监 流 (TI)  $\lambda$ 11 東 東 微 南 打 潔 V2 ₽. 虺 決 11 Ŧ 潔 畔 2 71 濮 21 甝 至 防 涠 狹 束 .)-4)

昌 決 波 矣 柄 式 12) 瓠 じえ 南 帝 為 為 チ 娰 元 潔 寒 汉 光 宣 濫 塞 ויי 房 ی ナ 枥 道 武 後 邛 平 帝 2 10 原 河 竟 再 濟 決 北 寒 行 南 行 U 1 于 捌 不 二 勞 渠 Ł गा 乘 東 熨 彣 栖 則 寒 馶 せ 止 南 流 チ 故 兆 河 有 さ 全 É D 岩 足 漢 询 别 之 束 ぶ -(1)-りじ 程 濱 從 -0] 2 勢 餘 決 (र्जि)

東 防 故 باد 後 滸 ŧ. 70 عاد 忾 復 出: 別 ッと 為 àŧ 決 河 出 于 代 馬 館 河 哑 陷 ŧ. 縣 餡 阳 灹 分 為 縣 か] ŧ 河 東 故 潾 ぼ 清 河 ·141 义 ぇ

共

故

ኃኒ

日

塞宣

义

大

河

縣故 東北 縣 東北 河故 逕 溝 者 縣 かり 熄 故 河 絕前 信 精 東 如 河 桉 'n 叉 迎 Ŧ 末 尉 凼 Fn 志 淌 至 東 其 屯 说 城 Ŧ 博 五 文 ッと 狐, U 宜 in 繹 將 東 باد 云 档 عاد 信 遊 顶 百 氏 3 É) 士 凝縣 麦言 至 ,<del>47</del>) 張 許商 自 河 ,<del>}</del>( 復 里 河 秋 枧 出: <u>ئ</u>. 束 脩 船 Ψ 塞 亦 流 ĬŽ, 不 故 郡 É) 南 3 濇 戊 謂 注 縣 省 河 隄 清 郡 河 行 館 23 承 Ž テ 會清 河 出; 寒 防 合 分為 رىلى 税 稻 河 阻 肋 馬 簱, 海 故 戏 也 いく 大 70] th. 信 縣 後 液束 二漬 元帝 ,Æ) ;•J 張 ,£) 帝 都 東 理 地 河 F ;0] 志 P 南 理 河 ゔ 流 动 佨 シと 初 志 迎靈 霊鳴精 東 濱 £. 故 展 E) 1‡] 水 沟 至 土 ナし 堂 É) 共 濱 章 度不 攘 光 決 بأد (يتا F 張 縣 丘 平 باز 别 بالز 欁 it Jt. 蜒 五 Ť 式 原城 漬 P 足 思忠豫防之 别 陽 河 艳 脆易傷も 平 火し 庶 u 館 清 東 河 耳 É) 又 信 又 ंग 深 [注] 滔 4; 束 欁 话 河 首受 シと 池 かり .当, 不 决 蚁 分 遇 戏 チ 故 首 丘 清 浚 利 سالا 郡 ŧ. 枞 芝 淌 氏 清 J.T. 纵 後 70] 沙丁 127 南 南 道 订 nil s ंग। ल

_							1							7	41	-36	7.		<u>.</u> .
I		. 1	ı		ļ	i				1		, EL	V 4	至	禁	准	<b>XE</b>		郡、
l			1	İ	İ					,	1	從	<b>*</b>	浴	v~4	粽	せ	せ	河
l			1	- 1		I	}			,	盆	商	為禁	E.	,為,	B	寒	寒	果
ı			.	j		ļ	İ	-			Œ	-	áír	-5	5	) ;;	2	27	:
l	٠	1	ı			1	İ				7	2	27	در در	٠,	1	冰	:4:	4
ı					}		ŀ	1			王		67	跳	大	- ,	<i>y</i> 7	1处	F/S
ı											水	1,5		里	半		2	-	制
l			Ì	.			1				平	<u>ن</u>	方	水	原	許	不	成	R
۱			1	ļ							十餘年至水平十三年而後己	jį.	4	海五百餘里水道沒	以為可决平原金促	18)	1	ंग	東
I										•	=_	訓	11	15	19	鱼	鴻	ίΣ	ZIS
ı	ĺ						`				23	ナ	) 55T	3.1		-, ·	4.4	<u>1</u>	4
۱			Ì	1			l				4	斗	, ,	利此因	(46	1. 1	7862	7	n2
ı							ļ				40	解	南	1C	M	和	14	1	1/E
I								'			後	*	失	旭	通	火	平	你、	淮
l								B1			ے	华	水	利	大	游、	勃	流	129
ı	1										_	Ė	*	乖	ंग	禁	101	~	郡
ł		] ]										文	) :}L	7		12	/字	: );	=
۱												R	1	130	P		in in	747	그
ı	1	•			'							北	ス	~	\ <u>\</u>	打	2012	(辛)	_
I												不	可	徘	故	15	<i>?•</i> ∏	1	-
I	l i											烹	許	2	流	12)	水	氷	棕
I												浩	25	利乘便之街也而	問刑通大河令入故為馬	-);	延世塞之費更不覧鴻嘉四年初海信部河水溢	又	造
١	1											皆從商言又以各永李尋解光等奏竟止不處遊忠	所欲開者在九河南失水之迹不可許公御	淌	· [0]	雅縣邑三十一許商與丞相史孫禁共行視國方名	溢	延世塞之後二歲河復決平原流入海南千來又道	成河果決館 因東郡全院淮四郡三十二縣造王
ı	1	1				į į		i	ł	I	<u> </u>		100	121	11	2	المقرو		المتت

成始 東漢 祭隄 徒駭 上距 北入 果下 時濟 也 故 河惟 意皆欲自大任 河 治 处 惟 張 自 採 河 下 ~ 荣陽 海王横請徒河緣西山足 故道哀平之世賈讓請決恭 終 平帝時佳六 表 前策 平 ٧Ż 自荣陽東至千 從 徒 太子賢曰 氾 K 王录 亦 後大河之經流 盲 決 市之後 為 自 工 事外濟五當時所息在運 3 败 吉 周 不言河盖 朩 ソン 定王時 矣 能 河汴 下 河 汴 南 決 L 復 汴渠即該荡渠也則 水 岸山 十餘歲故道豈遠堙滅 西至東光皆復禹河故道 去 精 流 經 分 来侵 乗海 流 建都洛陽東方之漕全資 而東光以 河 久侵毀済渠漂教 河 地 則 脉 水 Ž 故 , Fr 運道無患治河 日月益巷 v 已盡地平土 注載王景事在榮陽京湯 滁 Ŷ 史 上 下 餘 東高地而東北 馮 稱脩汴渠 陽 至 里 柞 道也考王景脩 章武 建武 則 遮害亭放 表 河水當從此 其 粹 疏 + 而 ¥, 随處可 义 前 許縣是其 崩 + 王景治 海 曰 Je. 著 丰 治 12 陽武 治汴 汴 者 永 揂 汴 河

渠

役成

7

不

功

\fn

尚

世

無買讓

£

横

其

人

漫

不

在是

而武

安

侯

田

纷

為

丞

相

止

利

河之

決

其

知

禹

河

旃 年

在

但 朽

どく Z

行

潔

)1]

行月

JI B

Bp

12

為

禹

亦

郁

热 とス

水災乃

漻

Á

欺

帝之言

曰

江

河

ż

决 南

r.C

天事

ep.

泱

易

力

廵

基是

言也

史

桶

望氣

用

数

省

亦

17

為

H

安

和

非

Ý

合

桕 何

炒

亦或

坳

教之言耶近至家

**京從** 式 河 沃 練錢 説 汲 日 炭 史稱景鑿山阜截海澗 梁既脩 帝元光 栖 路 水 ゝ マス 舢 河 其流 筏 為東巡至 不 陶 汴 鄭 施千里 . 耶今定 黄以 街 髙 當 分 則東南之清由 流 始紀恭時河入 将 Ť 河 石 乾 74 徨 T 從 典 河 無 渠 億計亦為清非計也永平 其 码石 人 決 輸 陶無鹽今 鹽市 蓓 徒 V 瓠 不絕京 حر 子東 基 へ 屯 承 美其 防遏 海武 陶 止 済南千乘則侵済處 隧 南 汴 東平皆 ग्रीप 師 軓 帝何難 亦 狻 之 街要疏決壅滞 無匱之之憂矣  $\searrow$ 功 注 IE M 挭 河東北之清 拜 鉅 淅 河 武 野 濟 河 水所 至 移 市 促使者賜 就 诵 于 墳 推 **新子真新** 于 冬造 經 壤 -)-オ 淮 2 Ξ 由 Ť ナ 29 里 更多 五 器 她 車 丰 鶖 上 激 使 طر 年 詺 立 A, 使

事.

海 使 是

### 邓 自武 景不能者則以 · 詩若復此河雖不能比于禹功亦可復西漢之舊 之道已久煙不可問也然景功自荣陽至千乗海 世謂之王恭枯河一口北濱即西漢所行之河也 一千有餘里亦不盡用恭時之舊河也漢成帝建始四 下正 後 年河決館陶 武陽始合莽時故道此武陽之西所以不能不其 王景治河棄而不用河汴既 濟南千乗雞两 世 南之時行汴孫東南 帝兩塞林子導河北 不盡合病迹而病迹猶有存者至王林時遂空 泛清 王茶不用 流漸微迄于水平林時館陶 南北清河之分派幾相類矣歲月逾甚於陽 河以東数 入平原濟南千乗河平三年又決平原 河改從千乗入海已非 經修塞 郡 故 亦 行二 淮亦 Bp 而 水道猶存王於時 平原濟南千東而 分遂從潔川道河至東 茶 行済凌東北入海典 決 申 v 潔 亦以次沒 **U**. 71] 呖 中 貝 河自 ·Fo 邓 故 أمطر

水經注 部濱河都周置河從員吏如西京信制 陽東至千乘海口千餘里明年夏孫成帝 脩汴渠夏發平数十萬造景與王兵脩祭張及 遭水志故遂不從塞後漢書王景傳水平十 漢書王林傳始 暴長濱 郡先是林恐 19 東北 Ŧ 北 义 景 逕濮 云河 東 河陽 河 拉胡 北 逕楊娃 道 自 河決為 防 准分儿院 有 合 門城 JE. 7凉城 建因 浮 勝 ス海 承虹 范 水 16 江市 水 元城 為 縣長壽津東巡鐵 故 水口 出 縣 北及 馬 -汗 濮 北逕在 徑濟 Ž 泰亭四 家墓害及 陽津 哈鲁雅源 河 南 周水 河 出上 是之清報 決 通受 水 陽水 न 貏 平 於汀絶大 又 清從 又 出战河 里在 東逕野 又東北 B 液今 存防 馬有也 縣 八洪東去 泛 迴 35/49 わき 商在129自 洒 فنوا 入清 又東 M. -**}**-河高漬河 故烦 又 東 逕 舰 城 卫河南 河 首唐 應 /委栗津 亢 縣 受战名流 北 人指 縣 有朝州今 自 北 コヒ 赪 -F-亚 胍 A 聖記 火而 亚 秋二万在 河西在自 îŢ 東北北 在分 河北南州 亦南今流 四

			 							_			
1				1 1	東北入于海	城	逕	為	厭	縣	左	逕	水注之又東北逕高唐縣故城西班內
I					jĘ.	南	41)	汉	次	燃在	迎	張	注
	1				入	声	¥4	沃	न्न	東今	去	公	之
					Ŧ	<b>1</b>	邓	油	λ! \ 	北海	海	뇄	又
1					1	判	31-	牛	上出	巫	# D	お会	毒
					冲	胜	٠,٠	縣分	木八	4A:	入	147 7 2- 1-	7
H						馬	為分	東浦	廷	17	40	八化	m.
II .						常	東博	臺	又	陵	75	7-4	12
H				1		孙	Ą	又	亚	陵介	為	里原	尚
ľ						注	又	東	潔	*	應	矣	唐
ŀ						*	声	IM.	险	林	角	又	駱
:	1					冲	<b>₹</b>	12	北	紙	*	JE .	故
H	1					(4)	7/1-	1	姚	777	W 7	.m.	11.
	1					业	<i>#</i> 5	米	政	路住	7 4.	12	F-
H						求		城	1355	为分	女仪	T	127
<b>l</b> i						北	水	3F	兆	北南	德縣	点	为化
!!					į	逕	枝	共今	城在	河	治	故	四分
l						P	津	北島	総今	厭	又	城	十韦
1						下	本	12	兴主	:35	束	東	里城
١.					1	73	1	ر ا	.7	步	11	終在	32.
						城南東南歷馬常批注濟河水東北巡甲下色北又	利縣城北於轉典又東分為二水枝津東運甲下	声	古	縣在今德平祭陵除 枋鄉在今南河底次縣南為	, W	ち今	水注之又東北逕高唐縣故城西施內未成縣又北
					ļ	مار ا	1	人	类	当当	严	ر بر. ارد	11-
	1 1			1 1	ì	ノス	1 7	<u> </u>	ساو ا	一个	グス		اماد

唐 吉秋 自 其 五 枥 在孟 靱 唐 帥薛平請于 不 為義成軍節度使滑 年 徙 接 + ィ ħ. 河 流 又 静 漽 為桓 漢 金城 言某 速 遠 二百 \* 垂 縣 超 獙 ÀC JD 千歲 者数百 年 明 溡 去 嘉祐 + 此 南 貫于三城之間每秋泛溢南北二城皆有濡 河陽 帯 年 j. 河溢 郡 帝水典元 树 1) 河 二 為春宗 兆 决 年 踀 魏 义 永平 ·Fo 北 + Ξ ت Z 南 水 里 年大 後 白 帥 城 年过者或 立 河溢埭中潬城 故 出 + 北 + 變則王景之功 南 固 Đ 水 詑 手 = 充 朝 九 州 32 濱 水 云 對 圡 年 ,為襄中浑之城 得 + 牛 瀕 JE. = 和 中泽表襄二城 Jt. 1). 一行志書 共發卒治之又前 £ 百餘年或数十 百 餘 為 城南臨大河長梅架水平津廣二里有南城北 河界歲 ノト 姒 景 有二年 里越漢 安 雪市 玤-速宋 當 治 河溢林子泛滑 水埭 河 ;প্ 嵬 不 南 史志不 九 水 和 か Ŧ 可 功 十 溢 成 ナ 其志 南 逐 誣 既 西 越 漂 北相望黄 壊 丰 年 رمط 年 H 廢 南 書 害 晉 次考读 做 五 獨東 防 獮 河 行 十 北 甚 件 州 河 未 倣 物 ঠ ·H) 徙 城河

							唐時止小決無大溢者景功猶足以維持之也	亦淺水暴至不能容故也而王景河至宋然後大壞	隋唐以來底柱遏流之害倍于往告此及五津河身	秋大水馮襄了無遺跡中海由是遂廢推原其故盖	日中评上有河伯祠水環四周喬木蔚然嘉祐八年	足之志而中深吃然如故容齊随筆云河中一洲名
							也	後大壊	津河身	具故盖	祐八年	洲名

鬼 唐 二縣州今 東 河 禹 十濮 治州 ٦t 衔 利今東定 北 界陵 縣 東 青 束 北 .a, 有 里州 亚 Ž 梨 十束束撑 津為 10 拟 孫 ٦Ł 澶 清 ٦Ł 捡 郡 河 錐 ٦٤ 里南 又 陽 二流 自 313 又 义 哑 指 博 也 シと 東 --姩 次 東 束 义 又 殺 縣莹 平 35 譜 德道 县 堂 いく 云 東 束 縣 火 又 逕 Ţ. 縣 抵根河 7 松 店 補 刺 逕 束 J. E 逕 火 -Æ 版 西 縣 火 陽 え 存) 新 州清 浛 范 朝 眖 典 邑 火 有 シヒ 清 き 北 和 X Ű 二盟 縣 艧 城 齿 東今 シヒ 縣 縣 脒 新 支. 十束概分 縣在 ~ .>+ 52 縣蘇 岸 北 縣 縣 淌 ッと 售 ЭĿ 西今 關 畏 五玄 冰 泸 河 史 共 東 钩 其 又 止 則 有海 坐流 南沿 字 立 叉 孛 不 東 2. 具今·具分 道 北 JĻ 耶 一在 共 東 記 水 又 -故: 消 岸 西朝 東觀 岸 机 運 岸 佶 沙縣 邗 共 東 河 濮 南 707 ŢŢ. 城南城 頁:] 琺 縣 阜東 **4**) 道 [J.] 載 P 自 E ٦Ł 渠 孙 柯 抗 共 其 東 滩 丰 州今 18 島一 么 汉 蘇 ŢŪ, 大 事 疝 此 水 束 南 治博 JŁ 河 縣 原 - 5 縣 縣 :113 £) 濮 脎 伾 3 岸 岸 文四 逕 縣 縣 义 縣 北 界 Æ, 南) 五 **√**₹ 挟 腸 南 束 則 धन 絠 厭 陽今 安 縣分 周十 胙 14. 束 縣 州分 縣 沧 徳 可即 鄄 理 垫 次縣濟 二里 黄 被 1.} 河 沙 仐 東濮 治溫 喇姒 椒 半 縣 縣又 縣 里海 縣 又消分 縣河 湖 り しょ 枯 至陽 临畔南 武分 東 脎 今在 除 又范令

庐

肼

河

in

												1				1		
T					- 1	İ	]		1		.50	横	庾	助	宋	東	决	之呼
	}		ļ		- [						漢	雕	午	7	初	南	(F)	应为
	İ		l	l	- 1	1	ì				唐	2	王	乘	古	枥	東	海嗣
			- 1			- 1					2	; <u>}</u>	午王景治	~	ंग	東南西東注于海谷	東北流運勃海縣西	潮口
				1	`	-	Į	.			河	决义	:2:	i.		注	流	血液
ļ								l l	$\equiv$		v	1	河	:4.	55	7	:10	济是
li			į	Ì							25	十四		3.0	7-	355	34	
		:		ł	}						级	127	30	2	17	107	37)	机渐
					Ī					•	7	麻	成	7	8	0~(L	冲	獨水
				1		İ					れ	<i>*</i> 3	下	ナ	E)	11.3	縣	故へ
					İ						T	慶	逮	咸	王	山清	动	故入名海
											漢唐之河遂廢凡九百七十	成為慶恐八年代子	功成下速宋	乘入海後五十九歲為	茶	入曹縣馬此唐歷五小	ッヒ	
	l										+	, `	仁	後漢	始	海縣	州今	16
	ļ										ょ	拜	仁宗景	洼	建	馬	東湾	2
li	1						,				迁	1.	4	此	画	ut.	4	9.
											v)	1	祐	*	=	đō	,t	140
		[ ]		ĺ						ļ	30		7/0	147	<u></u>	冶工	来	後
1							ĺ				-	促	亢	,K	14	懋	15	自
ł											大	復决于	年	丰	平	五	幺	厭
			ļ			İ					變	于	4	+	末	代	無	次
	İ		!								七年此二大變也	商	戏	帝水平十三年	初黄河之所行也自王恭始建國三年辛未河	此唐歷五代以這	無棣	新道景福後自欣次縣界
			i							1		1	有	Æ	徙	نڌ	縣	¥2.
	- 1		i				1	1		}	ļ	胡	1 77	7	17~	$\sim$	4.10	"  -

		7	1	9	嘉	至		斯	有	梅州	2	又	祐	20	末	
			是之	復	祐	和	,	京	舊	色义	械	决	亢	录	初	J
1		-				-		東	黄	林十	AL	.}-]	年	徳	河	横
			後	决	元			小故	河	界里	故	2	工义	九九	道	龍
		1	無	溺	年	平	·		Вр	陽	道	商	决	年	與	故
		1	復言	兵	四	李		道								近
		.	言	夫	月	仲		合	宋	殺	今	胡	樵	河	店	77
			樯	涞	壬			矣	植	縣	濮	掃	雕	决	五	
		1	陇	彩葉	チ	镁			雕	東	써	北在	遂	湮	代	
1 1			者	葉	柳	附	٠.		决	南	束	三州	為,	.)+]	农	
			あ	不	寒	六	1		ांग			+ #	大	横	同	
1 1	İ	1	京	可	商	塔		· ·	2	十去	1	坐束	ंग	雕	歐	
		- 1	東	勝	胡	河			砰	里縣	里州	(FT)	~	掃	陽	]
			故	計	~	3]			行	東	東	栊	經	州在	が	
			道	够		歸	<u> </u>	İ	也	阿	平	雕	流	東今	丽	
	ĺ				六塔			1	自	縣	JH.	췬	追	勈	稱	
	1		亦	河		极			長	北	西	流	慶	莽	京	}
	1	- 1	廢	官	河	能北	i		清	13:1	1 .	歐	應	復	束	j
				1	不	故			例	+去	縣	73	100		故	
	1			滴	能	頂	1	1	下	里縣	1	修	年	份	道	
				流	农	從			l		1	1		塞景	是是	
				自	是	之			[ [	旷	去河	湖	河	京	飞	

## 宋 )<u>).</u> 商 动 2

T

復

नोः

無

粒

F

ÉŚ

従

\*

松

4

塔

'nΣ

流

阮

料

當

7

,Fr)

败

並 科 書 後 殊 甚 机 徒 漢 Ŧ 干 治 不 i. 五 ·H1 行 其 吉 知 泛 + 激 河 走. 五 河 þή 年 滑 滑 溢 袋 搟 行 2 無 .)+] 河 マス 肠 志 益 於 治 네 兆、 棣 書 Z بال 凝 滥 P 2 河故 F 分 常 者 消 是 .)4] ·K 有 溢 井 不 2 河 漸 者 愈 11 决 10 F 遊 流 築 灾 Ξ 3 唐 -}-枞 S È 裡 F 提 4 娅 ÉÌ 年 長 晉 流 流 Ä 35 要 春 淀 帮. 愈玩 1.7 始 云 146 悋 治 肼 冬 え 緩 海则 此 和 河 年 座 减 **A** 沙 工 水 核 溢 决 年 桃 可 流 Ł) 10. 葴 + 考 46 延 .2. 沙丁 3 月 Fr 唐 年 始 决己 河 逦 滋

沙 ホ £; 故 太 70 年 棣 141. 河 决 至 採 其 林 則 蒲 基 レス

東 水 ت 点 ¥ 年 中 鵬 可 あ :4: 是 知 扑 溛 2 棣 故 消 崇 也 2 .)+\ 並 制 福 五 氽 = 减 年 肼 年 ぶ 河 得 勢 淹 ·101 46 徙 귧 髙 风海 從 矣 勃 O 狄 座 丈 又 油 嵇 餘流 緣 础 火 後 故 改 大 至 流 446 于 ψ 無 (F) 棣 京 陽祥 束 信符 縣

故

1首

稿

末

書

事

韵

統

其

壅

半

才.

包

油

0

詑

16

抻 义

**₽**[-]

胡

2

决

足

睛

縦

欲

1e)

河

亦

當

身

沾

其

F

流

ij·ļ

醮 有

埽

者

共

後

数

年

义

寒

Fn

復

故

道

2

ぶつ

又

决

£

楚

护

故高

治

北 頂

F

流 復

Ti

油 流

D 溢

先

沈

拃 亦

赤 か

٠

亦

沙

故

復 壮

故

可

F

2

悲.

舒

當

脐 河

楢

雕

BF. 松

通

つこ

宋|李 行 郭 修 年 歳 渠 史 帅 度 净 卣 티 故 麦 皇 道 疏 A 8 祈 昌 李 詥 いる 朝 站 2 ح ंग 件 涯 平 為 絧 欲 埶 当 华 :X (ii) 拡 ₹01 塞 1,0 评 高 雅 ;可 vZ 從 雞 ME 狐 胡 謀 决 ホ 蚁 及 故 納 可 者 大 安 道 洂 科 水 名 請 追 流 堙 横  $\lambda$ U 府 六 科] D. ی 塞 約 雕 洛 其 綰 久 回 ->-己 陆) 而 河 Ξ 髙 大 塔 ]v[ パく 縣 難 + F 使 年之 宁 被 Z 酹 叫 勢 其 故 柢 不 阁 那 Ū 办 報 胡 献 15] 售 决 纤 [최 至 ۲ (2) 欧 造 义 私 年 37) 河 数陽 使 寒 元 記 ?o[

使 臣 惠. 河 本 漸 束 寒! 僚 復 木 若 性 癯 ,Fr 水 詳 档 全 3 泥 故 復 行 定 回 戏 沙 河 决 拾 故 M 入 故 無 エ 道 今 流 又 İ 流 不 河 2 朼 Pri 今 上 沙的 之 乗 甜 왲 馻 其 ÷-低 2 2 义 故 塔 E) 道 理 害 灰 决 道 附 北 洗 何 北 于 者 È) 足 六 敬 常 如 古 消 7K 塔 此 **奶**] 羌 雏 2 .)+} 贬 者 河 常 Ű T 於 復 喃 広 乎 F 流 戳 滥 初 2 沭 可 欺 F 避 か 天 犸 いく 妄 2 流 决 痦 髙 廟 全 ,3 2 沈 今 天 中 献 3 钬 德 16) 7 74 亚 也 棣 大 ·K £: 水 謂 棉 之河 且 行 京 2 艉 昪

好下 当 中 木 能 ρή 防 理 梗 カ 义 镁 长 吉 不 19 ,A, 决 监 復 ច 行 其 表 可 流 差 腀 逃 掛 浊 ツ 故 邢 淤 湖) 下 復 于 復 AL 灰 + 至 鱼 ٠,٠ 流 寒 麼 亦 六 不 上 餘 及 ホ 大 M 待 流 4 浚 河 梳 故 压 决 不 呇 Ľ ٠,٢ 流 北 ፧ 4. 是 L 言 2 此 省 价 ٠٤. へ ی 商 後 ら 4.] 义 Fn 既 1) 仲 訪 尞 决 洒 8 平 游 决 流 当 하} 决 Z 怜 县 **Q·**) 久口 栊 水 河 秋 背 u 息 也 独 祈 2 其 可 流 赤 陇 工 IJĒ 子 今 10 다] 流 故 從 三 2 献. 不 無 京 京 若 能 Ü 肼 决 河 水 F 者 3) 束 束 <u>اځ)</u> 中 2 力 麥 溢 相 又 邢 散 水 故 描 じし 故 金 7K 次 Ó 相 道 道 故 + 終 漫 TY 涨 义 油 富 徐 沙 逍 在 屡 2 屼 51 303 於 U 處 增 很 ء 年 <del>ኒ</del>ቭን 亚 £ 河 洮 下 歷 北 治 故 流 淤 14) 水 不 主 ی 能 Ü 决道 故 孙 ,fig 不 酰 H

決 東流者商 今楼 乾 首河宋史河源志 7 遂廢宋所謂京東故道者也越十 後王景所治河歷親母唐五代以 考宋仁宗景 運使 埽 寧 股 為 宗 移 溢 年河又決商 計 慶歴 叉三 火 楢 商 遂 計 河 韓教言四界首古大河所 百 入于海是謂此 東流 流 雕 為二 ニナ 股河 É 胡 胡 + 稗 又 河 河 者商胡 年 決 思東至德沧 股 分 + 祐 Ű 里至魏恩博德之 业 河三十 河 平 L 十 胡 É) 河 亢 為哲 決商 日 Ż 平 五 而橫雕道塞宋所謂横 丰 親恩東至德 流嘉祐 别 年 為仁 ネカ 决 河 宗 九 胡 泱 適 派 河 宗嘉祐 年 ż 胡 也 え 合 横 衍 海是謂 膱 别 永 亦 五 決 遂為 境 滄 潹 平 河 名 經 派 五年為仁宗慶 及 ニ 五 渠 日 年 BP 池 河 £] 宋初 東流 年 注 經 于海是謂 決 流 股 **1** 满 124) 魏 乾 界首 ~ 流 عاد 流 海志所 O 派 河 酰 ŕή 沝 共 流 寧 廣二 幺 チ シと 亦 故 至 扩 樾 河: 稧 準 名 兹 視 後 道者 之第 恩 東流 雕 都 127 ឲ 決 入 百 界 油 決 热 歴 joj. 流 經

則上 自清 古 春い 平原 又 又 與平 唐 JŁ 又 海 河東 一麼 JE 自 東 逕 東 天 ·H ル 又 魏 海 百雪 一清平縣東又東北逕夏津縣東南 豊縣 海 غر 西 河 7 仑 則 東北逕 原 迎堂邑縣 不 股 豐 五海 باد jţ ₽P 迹 北 蓝 壅 壯 误 合 縣 東 至 十豊 河 本 一德 黛 唐唐 般 西南 ВP ज 三千淡之可 刷 坐縣 分 Ė 決 至 紐 并 /陽信縣 縣為 チ 縣 Ĕ, 水 嘻 いく 通 德 棣 平. 入界 高 東 文 無決 大 馬, 河二 故 文東北 仁 泊 <u>132</u> 糕 海東 河 又東北 東 城 又 頰 河 宗之嘉祐 :11 樂 合 りし 松故城 南北北在德平 東北 河之故 流 股 溢 海 陵 篇 いく باز Œ, 迎博平 迴 之患の 篤 jo; 稻 d) 俱 今與地言之二 運恩縣 朝 出其東西 月而畢東流 馬 逐 屈 £ 河又東北經樂陵海 不 西 城縣東又 道也考之近志馬 लि 五 滄 上 全 平昌 縣 年 又東巡樂炭 河 縣今 + 一海 四) 界海 南 巡 枞 故 西 界首二 沙 又東北 絕王林 縣 亭唐 五 ょ 北 韓教云二 JK 35 年 故 縣 縣為 又東 絕 T 股 流 里 迎辛縣 其 椒 南 巫 王 ~[ 林 股 者 4)-又 沙[ 英宗 縣 兆 徳唐 此 8 退的 桢 ंग 為, 束 رتته יוצ 海 빺 故平分縣為 [ب 股 禹, É 圖 깘 城 縣德 西 頰 今在 **;** 

患 第 散 河 州在 河 + 元 + 将 .1-詔 瀕 m 股 漫常 里 尺 又 豐 使 Jt. 合 西今 五 吳 五 來 大 河 絽 東 年 轉運 庿 埽 南 南酬 大 四 元 聖初 ,Fr) 39 更不 掃 河 導東 年 年 濮 清 河 虞過壅命范子 吻 決 決 始 河 义 被 水 Sp 35 司 逻二 百 F 為 決 濟 河 道 势 決 脩 共安持李偉卒 水 属 滥大名思德 海裁 開修二股 南 尺 神 都 U 事 入 逃元 閉 河 + 围 股 宗 惠 蒋 淮 枥 水 從 哲 復 分 其貫 及六 肥 尤甚壞 新 监 詔 東 故 衍 宋 注 16 净二 淡 合 滙 道 隄 改 御 流 元 分 ت 博 淵 决 íip 上 于 十 其兴 北 年 祐 河 股 年 于 流 年 浛 村 清 梁 U 呖 U 河 ंग 行 中 站 第 五 逝 亦 四 永 北 從 五 東流 棉 大 河 1, 復 カ 2 决 宋 股 年二 流 基 年 口 تّ 張 决 静 12 枚 的 然 試 昌言 胼 澤際 第 火 河 チ . 旋段 已城 臺 + 浴 义 五 武 束 IE) 股 京 vス 河 滟 v'Z 4 澶 流 平 凡 五 河 D 程 河成 軍三 白 称 棉 水 斩 淮 東流 17) 瞯 岸吳 + 隄 淤 久 其南 昉 贬 次 為, 夾 開 环 द्धाः 2 防 不 1年之 年 镁 曹 深 第 流 千 价 縣 横 後 未 不 可 斷 酬 今 四 129 Эć **,** 140 129 不 卣 決 彶

黄 名 宗皇 胡又 故道 火 西 决 又東 西 **F** 古之清河漢志之國水水 追 東縣 與新縣為 至 通 Ξ 流 河 泱 JŁ. 復 御 之名 者商 大 南在 其水為白 祐 分 Đ 利 河 浔 + 酬 **باد** 終今 れ 元年 河去 弧 名 澶 軍 m 今 146 뙁 高 又東 题 又 府 稱 年 後 É) 般 十人 14。 防治 胡 東北 高 坐名 胡 清 東 街 惟 決 美 東 70] 有 分凹 河者 合永 满 埽決 縣 商胡最久 水十 合 胡 শৈ عاد シし 11 逕館 股 亚 ٤ 御河尋經塞治至是 河 合 又 2 ばり 也先是 名 清 永 عاد + 濟 河 決 名 城街 v 逕南 里 庶 東北運武城 河西河縣門在 陶 包 源 ,Fn de, 济 12 高 渠 門在縣 渠 經之清洪二 注 3 河渠志宋仁宗慶 界 後 ٤ì 草 乾 府煬帝事為水海 হ 有 東外縣 西 樂 首 横 東在 胡 宗大 縣 寧 五 ≷ 在與 北縣 135 横 퀪 文 义 + 名然二 軍 献 東 東 又 西 决 河 鱂 東恩 束 中 と 决 Ãŋ. 故 東縣 × 北 15 又決治 選宗城 水水 あ終 水曹公 步次 逕夏 南在 بالر 祥符 淌 道 北 Tim 西 股 運輸 之名 iğ. 四大 永 西部 後 年 歴 津 粗 游 ;ण 有 (25) 與河 渠 白 京 氏里前 环 3 ٤J 縣里衛 始 東 河縣又 ্ল 枋 ₫p| 终

平直名直 府隸府隸 口勝與 東縣共名 宗 昌 河 奶 商 xt. ++ 至 胙 流 青 一劈 胡 縣 竟 北 絽 分 她 五 東北 縣 南 平 流 决 眯 :12 聖 2 昌属 窩 池 水河 静海 夏津武 过 á 東 流 後 山田 1 ŕή U 又 南 初 府東 办 盖 縣 逕乾 東北 义 ۔ 德 又 又 西前 北 **بار** 經 東逕族 Ŧ 迎東強 對宋光宗之 4 M. 三河 分 E) + + 也 餡 北軍軍東京 八逕清池 流 津 沝 淌 後 二歲為元豐四年辛 济县 闽 里在 仁宗爱歴 + 蒇 日並 nl 縣 南山 v". Z 朋妥 淌 府東府傷 九歲元符二年 暢 今興 為 前属 縣 又 東 神宗 縣 Ä E. 南) 南 河 清 棗强 南青 州今 也 西北 苗 \$2 迎南 東 東並 東於 年代子 -<u>`</u>; 132 πe 又 44. 而 可 東 寧 三州 2 ંકુદ 運 縣 点低 17 3 14. 皮+街 東定立南山 #} 地 年 it + 界 東咸 府禄 運 縣里河 陵 خ 西 年 中背 漳 F 六 371 光 44 逑 эp 故 人 獨 在 縣 年 ; 0 南 水 ;b] 西 東 縣 **J**t 決 公 金 獲 间 歧 妣 Z 流 两街 又 哂 木 清 南今 陽 亢 北 許 旷 交 v 流 コヒ 义 打青 新流 制道 城 +4 北河今 龙 合格里縣 逕 渔 前银尾並 出 明絕地流

# 金人河道

城 史隆 錄 子 南 Ŧ 青 语 亢 云 來 凉 掎 年 典 维 錄 佯 有 14 挨 指 A 條 沝钪 नोः 年 請 云 剩 + 3, 云 年 金 迅 ₽þ 水 和 事 壳 4 南 A) 始 じょ 豊 战 克 世宗大定 夾 近來 河 有 雜 決 स्री 大 精 汴 或 充 水岩 **!** 济 兩 又 寒巡处 涓 金 ЭŁ ंग ッと 之三 祈访 河盖大 杰 流 流 在 隆 升 白 51 华 無 4 蛹 後 妣 嘭 定范成 豫 信 河 中  $\stackrel{>}{\sim}$ 沟 正 年 使 剩水 豫 原多事 前 说盖其 也時 孝宗 ÷ 可 知 de 河 遂盡 头 按 洛 後 1 JK 典 宋 使 4 ++

决 衛等 £) 河 東婦 被 分 缮 李 水 甞 河 害 -漏 净 剛 南 .)+ লৈ 漫 庿 渡 流 增 + 水 六 ニ 尋 築 至于 年 129 水 復 午 J, 7> 震 P. :0] 岸從 曹 歸德 的 ردا + 移故 書 河 JH4. ٦Ė 府 Ž 有 年 城 也 Ŧ \_\_\_\_\_ 東至 奏言 衫 拔 道 分 · 2令祭 南 決 流 + **1** 史 原 年 水 王 于 رياد 武 東 村 單 從 雨 10 -01 陽武 洮 岸 决 南 南 12 14 志人 備二 京 衞 行 2 增 .其势甚. 杰 築 東明等 44 垮 及 淀 御 + 新 從 jέ ナマ ٠. ١٠٠٠) ंग 拌 脒 年 津 攴 界 水 邳 2 五 京 可 ر آئي. ر آئي:

決衛

, M

隄

埭

بأر

姚

:6

滥

及

大

名其所

載

ネ

(3)

412

st

他

城 祥 吉省 濟 脍 絽 故 符 滑 衜 可 迨 衞 ŕή **\*** 考然大 之嘉 140 14. 删 並 奏 财 经 带 2 村 昌 亦 Z 都 大 祥 硖 汉 水 五 白 河 完 E Æ, 防 年 क्षेत 富 验 金 维门 睢 A'F É١ 官 0 鄉 /\ 湬 + 议 城 月 淮b ·H-\ 机 Ę X 城 陽 2 忠 4 祀 水 河 襄邑 牛 1 縣 決 滥 势 徐 いん 為 *}* 長 命 趨 陽 数 F ) 滕州 2 武 沿 垣 40 南 有 彭 歸德 河之地 ंग 南 故 運 不 京 京 Ľ 城蕭豐門州 從 預 踶 之宋城 沛 府 府 钽 淮 袻 单 2 意 <u>[</u>٠] .,4 封 汉 一當時 延 脎 41-胙 忆 IL 長歌 泸 之 : 各 ,<del>47</del>) 2 陂 潬 之 耖 束 間 ;ল 削 官 涿

飛職 4 安 年 河 北縣 而 河 ā 2 ~ P 清 請 東 歷 盖 南 分 歷 西 亩 城 14. 河 ंग 連 北 彣 Ęр 濟 縣 清 流 陽 人 津 -海 原 金 主 野 中 里 :গ্ 今 中 封 齊東武 足青城 ép 是 并 大清 對 宗 رالا 至 行 又 岸清 滇 一壽張 2 長 jr:9 啡] 水 垣 河 大 水 ŘŔ) 昌 故 河 É 注 變矣 道 レス 東 梁 五 U 陽 南清 ^ 年 是 東 : \$i 平 ٦, 金 ナ \* 濼 也 胚 此 44 吉 淮 桜 ;~J 曹 足 絠 束 分 宋 并 于 南 成 臺 Pol 為 *?*} 是 濮 河 光 129 立 至 平 \_ 有 宗 河 孙] 陰 14. 從 ゝ 派 淮 南 至 É) 絽 津 Ł メし 軍 今淮 علا 稻 祡 清 沅 沝 陽 清 Me 五 沱 由

	大變也	問而河又徒自新鄉出陽武之南凡九十餘歲此四今却南來故其勢亦我謂此事也下退元世祖至元	西南贯梁山泊追選入淮神宗時河北流故金人盛	朱子語録又一條云因看到掘家中原剛黃河却自十年始尋經塞治至是復行其道而汲胙之流遂絕	者是也河涯沒山際分二派入南北清河自宋熙寧河自東平歷汶上嘉祥濟寧合四水至清河縣入淮	海者是也南派由南清河入淮即泗水故道今會通
--	-----	--	----------------------	--	--	----------------------

志各 志残缺懂存小 |縣河決二十二所水道一變蓋在此時矣元大一 新鄉之流逐絕據史至元二十三年汗梁路形武 河猶 禹 黄河自武陟縣南東逕原武縣北原出 東巡 道汴 東逕陳留 商 有 也水 東南 在 錐 元 明二天十 州縣界中見行之河詮次 故 祥符縣北 里去去在 在東 新鄉防武問 指云元至元 眀 又東逕延 İK 縣本 νĺ 啊里 南 縣 /考城 在店 來 南 六年自武隊 東南 自陽 五北 四百岁 坐陳河縣 河留在城門 去在城門 10 之 一 二 此前 里九 北崎 道 津縣 至在 三德 باد 里十 r. 儿 徐府 睢 又 又東逕處城 年 ホ 河之所經不 縣 京北封 中五里治 東選係 州西 4 知 10 JŁ 決 何 去唯七唯 其北岸 原在武道 纤 新 女口 里十 \_t<u>t</u>, 封 挺 鄉 左 南府黄里 北岸、 又 縣 縣 出陽武縣南 可得許從無 里北河歸 北 4). 庶盈 百在 逕顧 封北所去 曹縣 ٤Ĵ٠] 孙 六战 一分岸 七两百在 東南 11/2 界十大 里蔚 縣 里抵餘 F ìή 里门五束

治 是甚 南 哑 北 علا 五去 北 徙清白五去皆名 0 ょと 州十 世 河之水迄 岸 東 里縣 豊 岸 南码 غز 北麓近 口府里縣古泗 南里 此 祖 = 1. 與去萬 亚 + 門在 岸 則 縣 (1) 里壁 至 ंक व (幸) 全東 え 又 渝 十在 東 沙耶 Ę)·] 南 ょとうし 水自 真 桃 河在 泗河歷 元 朿 又 縣 十兽 里徐 孙 + 3 亚 為徐 源 去風 水 半 14 今 淮 東 i,T 五十五沛坐縣 州縣思 花州万年 分 去 沙域 水 き+ 121) + 夏 至河里叫 +縣河在崎府+縣 東 巡 **运**那一府 淮淮出 所東 合 は 六 百 在州百省城自沛年里在去府 三两里 縣專此河清百桃 宿 华 餘 而水河 県 東城去河河府縣 两十八河克 邳在二州 南也至去河十派 為去 敷 成此五大變也 2 it. 州淮十東台北河復舊西 三兆七 31 清 此縣縣里在 丑 河縣 歴 糕 南安里一四東五洲在北 會通 雲 又 一在河淮 南 河 Pij = ĕ 十两篇 里可河や 梯 東 里准去安 六府 百水南 李里 三论 餘南縣百 ::: :::: 十项 L 河成 翩  $i_{\overline{M}}$ ~妥縣府十選 又 也自 束 里二 治十 始里 又 坐自 又 淮南百函里在 里北 白 徊 罚 4 東逕 東 出河 又東逕码 河三 南逕 北里 東 陽 處西餘此河邳 又 未 始 金 東 五篇 旅售 南 去百 ځ 明 縣調り 歩一 去州 Jt. v 2 逐量 二百 姐主 運 十縣 ंके 北な 惟二 昌 办 北 之北 又 縣東 里二 竨 里在 粽 Ŧ 東 字十 徐 甲 す 淮 府即清五 四南 學 去前 (幸) بل 脎 114. 海治淮口+ 爱 <u>P</u> 縣里 逮 寅 里一 沛西 五维 ٦Ł 脐 之 東安河安本里 ъ 4

近于 元 沙 決 逕開 護舊院 獲 初 六 秋 於 44 河 有 接 東 宿 流 傘 原武 元 永 3 并 嘉縣新志 河 又 颍 泱 始 貞 龍 界 101 4 起武 樂 决 原武 ij 此 安 村城 É) 作 上 合 U 縣 東 孫家渡 南 14 六 九 师 直 汴 九 がり 崇祯 至部 陟 北 握 -5F-祥 徙 31; 陟 南 张 帲 32 全へ于 原武主安 役 東入 治二 五 符中年有司 云 ं । 詔 四 六 張 决 里又 ;··[ 制 全 疏 **,** 年 臼 秋 + 原 2 + 舊 节 年決 河 濟消渠 入 正 河決 里 3 東 韭 127 武 声) 故 陽 在 運 修塞之張 出 千 决 東雲梯 原式 道 南山 ボ 蓰 原 中 徙 鎮 河 滋城 所 請 經 嘉 年下 北 河決原武之黑 四 へ 支 陝 典祭 景 淮 縣 縣 :31 經 百 亚 也. 图 派 F 14. 村 151 秋 尉 餘 泰中復決 統末決獎陽 南 賈魯河 帝 故 圾城 へ 六 杏 在 為 里 豧 氏 .ŧ. 14 名 i, 洪 + 張 بخ 又 1 為天災 É. 運 六 東充 鴈 里 业 决 陽殺 泛 ďĝ え 大 바 彭 張 蒯 液 -É) 故 177 夭 祁儿 渠 秋 道逐 1 \_ 1)+ 朴 种 和 ग्रा 陽 'nÌ 年 凼 刢 縣 徐 張 府 1415 河 至

河洪祥符 ミナ 赞陽高阜以備不處冬蔡河徒陳州先是河洪由 埽頭 成 脎 遣侍郎張信往 開村北東行至是下流於又決而之南 餘户没田七十五百餘項帝以國家藩屛重地 年秋河決開封壞城二百餘丈民被患者煎四干 渦 朋 懷遠由渦河 3] 軍南下決哉河寸金沒水灌之官軍多消死者逐 河舊去城四 統十三年河洪崇陽東過城西南西城逐隔在 化十 年 河 封 遂 年 陶家 五 景泰七年夏河南大雨沃開封河南彰德 五 月 八月 Ρή 四年河決開封壞馥城段五十丈 财 河洪開封及金龍口 洪武中河洪原武東巡城北五里 店張家灣由會城大限下陳爾入亳州 入于淮 · 決別封城三面受水站 沁郡色多被患 + 視 里宋端平元年趙葵入汴蒙古 + 宣德三年霉雨溢問封 哟 年決開封州縣十 為姓三十九年 入張秋運河又決 改 作倉庫 永樂 ツ 弘治 决 140 31 JE,

河 河決 皮 32 决 渦 浮 уŁ 更 濮 河舊在 杨朵 在 決 + 界 長 Ξ 元大德元 景 治 城 犯 封 河 橋 暴入准忍又自夏邑越東北 衝 V2 -垣 陳 泰 ت F 東明 嘉靖 張 張 里全大二 邛 北 餘 兹 年 灌城 淮 四 秋塚 北京 里 秋 + 年 里 二洪 洪趙皮塞尋塞 \* 七年復 決 心 平 寒 脬、 娍 朱家寨 杨集在 す 會通河命 五 Ik 10] 六 大 2 年 年 陷 淪 120 決 始 其 復 決 涧 河 没 決 + 杷 復 支 荆 决 £ 縣東 チ 村 餘 在 縣 沝 崇 剃 流 陳預 故 劉 11/2 里 隆 Jt. 浦 道 隆口 入 亚 葋 É 順 亢 U 南 D 夏 特 諸 + + 萬 刹 帝 ッと ÉP 四 ٤J 經漸 潰儀 茄 れ 治 五 隆 + 44 歴 至 徙 金 + 陳 拝 靖 年 漫 2 元 绁 x U 龍 餘 五 留 封 里 贼 決 胀 4 涭 縣 华 オカ 里 U Ξ 之黄 江 野 낦; Ł 祥符 南 上 在 決 復 柜 年 年 徐 朱 雞 河 刹 縣 泱 -去 祥 其 決 .,+} 13;) 陵 决 下曹 兮 符 縣 隆 後河 西 趟 判 4) 陳 南 L 接 12

> 徙 枥 jŁ 白 疎 甾 ヘ 襕 陽 俟 孙 <del>(</del>16) 祀 界 遂 無 河

河决 儀 封

桉 封 至安東雲 河自儀封 至 梯 德 **M** 浴 44. 利 U 津 7 海 D عد 百 里 Б. 쇱 百 安東至德 飲 里 自

14 好 بله 長 Ť ह 里

縣

東

عاد

五

+

里

有

黄陵

闰

圳

曹

縣

接

界元

時

其 衝 治 八治于 河 黄陵岡 ゴカ 白 始 埽 楼 于 墈 村 Jt 溢 亚 明 入 贾魯 德四 洪 武二 年 河下 + 河 \_ 流 自 儀封 年河没儀 淤塞遂 ٠١, 宋集決 南 封 出售

二 縣 沝 直 超 豊沛 命官塞 2

單 桉 顧 陽係 村之河舊出其縣北與長垣 来 바 뱌 亦 分 在 水

其中 金大定十二年尚書省奏請增祭從岸東 ニナ X 年令沿 河 14 縣 B 結 街 並 办 河 防 出 An)

顧陽 長垣 伕 與 馬 尌 ~ 可 南 謚 や 栭 元 長 至 担 束 亢 P 屷 水 ;o[ Ÿ 屢 決 無 河 汴 深 矣 33

遂

河決 考城

باد 順 治二 徙 包 午 年 游至 河 決 徐 考 娍 44 河 2 到 池 通 買 Ü 當 ت 河在 年 3 縣 通 JK U ت 20 流 +

河决 安平 城 决 ¥ 里 黄 Ξ 河 東 里 南 黄陵岡東西 疏祥符柴澤上流 HF 里 証 + 工其新集 曹縣 陵 基 河由 É] 或 简 x 售 初 **á**) 臣 出 北今 呖 鎮 黄 岡 平 在 ,Fn 沛之飛雲橋穀亭沙河留城 潘季则于三沽故 綇 गा 陵 歸德 告 A, 在 運大受其病未幾 斩 河 成 Æ 图 縣 4 ロ ंग シヒ JŁ. 至楊 德 各 道 徐 河 丁家道 在 È 两 築長從 於河流 城 ᄽ 及 南 亢 127 年 青村 至 又 31 いく علا 六 连于 疏 治 ū Ξ え 河头曹縣楊家口 + 實書信 八于足一 道溶渠築促躬 让 \_\_ 4 里 1 + 这 貴 河役法 淮 百 里 河決 河濱 元至元 내] 一門哥 决 里 魯 JŁ 變 金 怹 u 衝 J 쇔 ;可 境 新集塞電家屯 始 龍 129 要 **河** 120 張 中貴魯 在 昼 塞 在城 + 秋 縣 + 也 u 4 經 奔流 名 里 劉大夏 (2) ंग 亦 行 洒 帯 张 轹 狄 年 嘉 北 決 Ŕή りと 柱) = 秋 虚塞 猜 娀 餕 阱 督不 四 ベン 河 或 沙 曰 dy. 十 ন

70 決從 縣 決 = 河出 年 衝 萬 去 九 傍殺亭入 村寺東北 + 高寶諸湖 徐 沛 昭 古 曹 直 單 尺漫金 メ 歴二 四) 縣 陽 魚臺豐沖明 **,** 黄河 松 月河 徐州 縣 駢 縣 鋪 河決商邓蒙城集東南之蕭家 東北 :6}] 出 豊 レス .), 五 + v 分 運 シと 夏鎮 南 決 沛 鄉魚臺定 也 麗 浮橋 -1-東北 曹縣 城 河 二支一東南 丁家道口至 勢窪下 山 里 決 年 武 飛 為 年 猫 U 五 雲橋 = 經軍縣長院抵魚臺災為坡 いく 縣 復決 由 無 月 衝 + E) 陷 南 售 算 垝 大 運道于是加 六年秋 河達鎮 胡 城 田 惠 テ ニナ 泐 六 盛盡 運 Ξ 小浮橋 村寺東東南至了 经虚城至码山 此 [0] 衝 崇 + 衙入沛縣太行 決 五年決單縣 被漂没 年 殺亭 沭 河決曹縣 쳱 O 入運河 年又 河之議 河沙單之蘇莊 閘 縣 年 邳城 U 壶 É] 萬歷二 復 10 旭 茄 曹 台 水 南 起 陷 決 v 縣 古 É) 家 猜 曹縣 ヽ 贬 湖 水 徘 水 並 Œ + 城 かり 在 淮 ф | 电

# 河决 码 Ļ

JŁ 河 售 O 剃 在 而 歴 縣 эt Ξ (幸) 年 Ξ -河 里嘉 决 码 精三 J, 及 + 3/3 x 家 年 O 曹家莊 河 役 始 韓登 北

河決 沛蕭

沛 歴 沛縣西 Вp 则去 Ξ 此 + 地 南 四 10 也 年 五 河舊在蕭 有盡桑亭狐 + 河歸故道自是蕭去河我十五 餘 里矣 縣 子歌日 河渠考云舊河自處 北 五 + 蓝条浮 里去沛甚近 分 淮 里 411 <u>}''</u>! 摔 湍 m

\_

縣長促豊沛徐

州唯

寧金鄉点臺單時

LD

楹

漂

蕭 縣 ٦Ė 其 ونز 集 #: 徐 H ,), 浮 櫥 říj. 胡贾魯故 河 भा

嘉靖

Ξ

-}-

x

;ল

春

E)

四 至 朱 + 珊 129 年 ょ 桦 月 俱 邳 河 於 决 沛 惟 決 並 賒 PY 游 上 渡 下 三东 十盟 レく 東 坐縣 百 惟存舊 餘里 運 新 流桃 ग्र 滥 俱

溝至 雲 枥 於 极 全 F 河逆 又 徐 ょし 分為十三支或 北流者遠豐縣 分二支南 : E) 沙 流 河 者造 至 横 華 徐 移 沛 L *y*1·] 或 東北 縣 じょ 進 麻 北 流 由 山 至曹縣索林集 楊家集 三教堂出 漕河至 湖

陵城

O

散

漫

湖坡達于徐州

浩渺無

際

371)

河變

極

漕 考城 避河水 矢朱 船 虞城 阻 衡 2 始 科圣 曹軍豊沛 攽 酬 14. (T) 部 不 河起夏 能進 運道以安 ح 拡 鈍 雖 徐 至绍 沙 ·H· 通 隆 俱受其害茶城 慶三 城 (Fr) 強水 年 百 决 枋 127 沛 十 汕 里 於 縣 沛 塞 ٧J É] 她

秦溝濁 单 歴 1 河 平 ū 於沙 河洪韋家樓 旋 濟 旋 雅 又 決 沛縣幾水 12) 年 河決住家 、從曹豐 D

無算河流器宿建城 峈 陽湖穿李家港 O 出; ニナ 鎮 U \_\_ 工 年秋 灌 南 河決豐縣 陽 150) 單縣

由 溺

河决

决 決 沟 榆 水 徐 O É ,/+) 縣 復 郭煖 消 沛 3) 縣 支金 樓 ۸, .}+} 濟寧 字 境 U 椡 泊 平地 娀 IK 支至茶 而 'nį 東 湖 城 E 清 镇 Ξ + 河 ゠ 年 日 求 河

表 娍 河 其 售 定 决 從城 元 後 自 .}-平 Ä 阁 浮 束 運 由 1h 枥 ż بر 汴 河亦 新集 帶渐於新河 ٠,١٠ 河 浮 名 决 出 槁 剛  $\sim$ 清 豊 合 河 縣 運 河 亢 初 比故道高出三丈 Ż É 10 春 明嘉 是 馘 满 遂 河 靖 由 衝 為 渦 徐 ミナ 大 州 <u>}v</u>[ X 汇 2 2 有 年 经 至 槟

流

河

史 225-399

河決 是 李化 潘季 餘停 至 决 六 淮 索 河 + 至 J 流 雅寧也有年 遷之蔡家楼俱築塞 與黃會 河 月 那 坐 碓 水 唯 至 隄 U 餘丈恭 ж, 歸故 列疏言 決 龍游舊河自砀 阻 耗 一部二在 城 州新安運道淤阻 那 報 東 亦 河 泛 湍 並 揭 徐 乃選治于 ગંદ 道 滥 淮 お: 林 144 西 康 I 有 妫 <u>.</u> 豧 + F ដ 歴 j THE 北 嘉靖 運 兴城 啓三 五 いて J 東 大 城 + 租 ৰ্চ 殃 利 鹶 雲 F 安 城 满 129 五 ٦t 年决 ニナ ニナ 山縣 쇊 m 東南以 南 橋 中 龍 年 + 去 2 萬 不 從 五 鳵 里 河决 水 L 郅 果行 朱旺 里 徐 Б 悉成 浴 + 深 州 华 初 沙高 P .)\*| 正 百 達 狗 四 Ξ 徐 迨三十 誄 河悉為 青田大 河決 口来至小 丈三 平 年 胡 里 14. 1). 復 平地 + **总歷三十** 明弟 河 陸 eq丈逸 徐 老黄 尺 潘 #: 由 A 约 龍山 平 ->1-} 雋支 丈 白洋 家堂及 决 歴 129 浮橋 ΪŚŢ 年 、許俊游 ें! 爬 圶 É) 华 中 徐 故 村恭 ंग्र ん ધ 徐 到: 潘 ;o] 10 南 大 外 道 稻 涨 不卜 IL か 南 季 料

河決 河 河決 舊 夢 沙 防 決 白 禎 康 九 ŕή 康熙 决 寒 康熙 六 于年 |墊底高于足青墩營張家灣大壩等處與 繞半戈 宿 浪 初 氾 年 酬 爬二 池 桃 月 清 濫又半戈 年四 淡 河 邳歲受河患 建 ঠ 河 河 源 × 河 源 L 至宿逸小 + 决 在 年 年 決 魈 山 月 #: 14. 宿 到 河 **`**'' 5 學 北崇禎末改 4 [v] 哂 年 遷 ᄽ 决 決 土 4 縣 决 jι 水 五 清 桃 在 ٦, 4IL 誻 河 蕭家沒 月 九 三 源 河 隆爱九 争 縣 扎 บ + 山 河 Ð 2 Z 椄 主 左 里 淤 火 嵌 決宿遷縣 退 تے 流年 灰 萬 五 X 合 百 家嘴 汉 創新植 + 沂武 年 A 歴 U 里東去 ニナ + J. 14) 河決 寒 之每 里粮 南 徐家灣 城 2 九 促 到 盡 復 年 水势散 14. 类 年 艘 于 \* 12 决 河 李 限 囙 五 -1-塞 淮 次 决 里 報 里 12 不 睢 帽钉 2 清 平 ٧٨ 龍 進 治 堵 河

~ 苗 家憋 存 态 家 渡 文 華 寺至永 M 集

### 河 决 1 陽

沙 河 Ē 旬 河 肥 + 浸 淮 淮 去 河 苗 年 水 縣 辍 流 五 耳 淮 从 汎 五 X 淮 2 月 11: :张 水  $\Psi$ :0 清 一街 决 城 数 2 10 R 尺 致 ŞΙ. 山 决 份 淮 뵀 廷 沈 浦 陽 山 安 码 \* 在 ż 뱄 35 进 采 宋 娍 毕 ¥ . \ 彤 外 天 西 濫 雅 入 垂 砂 Вp 瓜 此 河 姚 元 中 今 家 .焦, 行 及 灣 湖 街 清 年 漕 運 市 臣 河 劍 淮 **?** 淮 去 乳 九 邳 決 70 久 .J. 块片 售 2 朱 宿 U 43 THE (F) 該 2 康 寒 剐 沙 豹 ઝેર 連

## 寒 2

गाः 仲 深 大 學 衍 美 補 云 自 宋 いよ 前 [4] È 入 治 尚 能 A,

Ξ 高 壞 去 又 办 业 水 河 膍 垫 清 146 壊 レス :33 15 郡 4) 徐 之字 歸于 不 116 害 也 及 汉 RVI RVI 淮 使 而 清 2 4 4 矿 哉 今 河 矣 無 更 315 淮 媒 又 槉 恐壞濟事也 囤 合 1 Ż 卧 又 レン 恐漕 治 51) 鸿 河 清 渠 不 論 U 又 及 不 不 立 Ł 汴 北, 分 及 濟 矣 2 許 ナ 治 華 運 又 沙 恐 矣 水 沂 رالد

然

**5**[·]

河

患

~

在

元

바

vΖ

後

者

じょ

台

淮

F

歷,

じく

借

鋋

而

庭

合

淮

則

瓜

溃

並

趨

ホ

能遂

其事達

2

性

47)

漲

為 道 虞 翩 防 六 ~ 出 堰 愚殊武忠 人 办 其 曹 淮 漕 泱 Ξ 嚴 m 舟 脚 カロ 出 3 者至 傷運 猛 祥 入 ゝ 2 **v** 1 爸 单, 借 夼 中 淮 稍息 里 運 弧 欲 者 其 11 701 臺 至 佳 古 共 溪) 四 席 流 僅 懷 合 33) 而 不 ヽ 溃 勢 其 钊 X 漕 遠 漕 俟 里 若 衝 清 枥 出 へ v'L ヹ 較 决 淮 坍 Ü 四 秂 俟 **\** 出; 降 又 チ 此 **v** ス え 出 封 豈 至 啡] 欲 12p 杏 淮 長 -}•] 可 \_#\_ 鼦 **ジ**ス 至 恒 ·出 Ż 2 浆 清 佁 得 委 實 者 Ė) 徐 澤 汴 垃 河 验 輸 2 É) 70] 曲 <del>47</del>) 陽 者 士; いく .). 中 答 者 护 舣 逼 承 浮 É 朿 者 河 テ 杏 ĬŤ 衜 柩 2 毭 漕 州 有

漕 或 沈 パ 年 分 科 涯 者 築 微 出 水 淮 か 故 沛 從 淮 而 狹 番 猶 70] 渠 受 潘 2 陵 いく 于顧 m Ż 南 古 潾 于 13 在 不 者 能 濮 ंग 徐 じく Bi 今 漕 受 從 衮 #3 郸 2 俟 c) 是 飛 全 其 全 又 ~ 欲 封 南 然 **;**呵 楯 雲 制 名 北 JŁ 考之先 來 Ż 有 橋 不 啊 胼 不 灌 禹 Ż 使  $\lambda$ 符 不 漕 道 矣 2 分 4.] O 欲 並  $\stackrel{>}{\sim}$ 頓 (FF) 朝 出 F 南 斩 越 寧 遗 ;v] 徐 則 # 徐 **な**こ 意 人 沛 流 有 躺 得 2 使 獻 絈 İ 贞 ぶ 也 2 惟 #\_ 4 中 于 治 TI? 決 f) 揽 **F**|3 141 後 36 ्रंग 道後 兆 治 哎 J. 化 徊 滸 基 2 詂 窸 2 六 疏 いん

播為 者亦 東北 南流 決河 北流 黄河自禹記今為五大變也 志所載 年河徒自宿界口東行湯川至長再津與湯别行而 河决 為二派 明昌 武縣南 而為北流南流並存者也元世祖至元中河徙出陽 及明弘治中築斷黃陵岡支渠遂以一准受全河之 馬 三年王景脩之遂為大河之經流 德州 合漳水至章武入海水 頰 魏郡泛清河平原濟南至千兵 之一變而漸為東流者也自王茶始 九 也三者盡之矣禹貢北過大任至于大陸又 分為二股北流合永濟渠至乾軍入海東流 K 五 河同為逆河入于海此此流 流 年河決陽武故侵灌封邓而東注梁山樂分 ,者乃三變而為此流東流五見者也全章宗 河至無棣縣入海二流造為開閉宋史河渠 新鄉之流絕二十六年會通河成北派新做 海 之二變而盡為東流者也宋仁宗時 由北清河入海一由南清河入淮乃四 Ü 可 復 核 經所稱大河故讀者此 之則 也自周定王 水經所 北 入海後漢永平 流 ď 建國三年 東流 稱 河水 商 Jt رالج 變

古時 水儿 jt 五 受 祈 畫 為 南 流 者 dy

宜 南 之域朱子 袻 亂 消 南 וינ 河 陜 ホ 洪 則 m ,患在雅冀之域 謂 南 在 水 蓝 云記 自漢 沁 É 톼 液 聂 .,+ 在 往 雅 19 門未經鑿治時 以降究青徐楊 2 河東 大 州 垴 2 溢 自 一逆流 後世 域 為害最大 禹 鏧 河 共 沁 报 患在 之域 ĬĹ 刑 浓 今妆 道 沠 悉大 雅其二 河東者 ぶ 兗 液 也 甚 青 勢 ;iT 剧 泄 徐 絥 46 自古 陜 ર્ગ 楊 高 者 沠 械  $\stackrel{?}{\sim}$ 175) 患 糜 浓 M 146 從 AT)

漢 有 盶 時 寨 河 河 宋 濮 v Z 宣 序 涿 決 後 郸 槠 復 決 舜之區 隴 又 ê. V-1 決 前 陶 分 為害尤甚金決陽武二 豸 注 為も 胡魏 鉅 野通 恩博德之境無 氏 河 淮 秧 贮 郡 ź 清 郡 ंग -派 派河外,而 信 都 塇 忽亦 房 流

娰

愚

D

É

禹

70

初

從長毒津以

東

無

河

,Fi

7

有

河

房之

築導河

11:

行

渠

復

禹

故

道

其

後

流

.ŧ•

氏

諸

肆 有 Ā 于 徒 徐 陽 击 楊 바 至 決 不 於武 न 枚 全入 多 亍 淮 則害始于究豫而

宋 洞 蹇 委 庭 公 52 彭 蒸い 流、 殺 其流 在 元 為 世 从木可 一常者 滙 故 ٧Z 論 力 河常極潰為悉其势 Ð 勝 平 何也盖 原 Ž 地 一河之水其本 平 HÌ. 夷 涯 衍

> 孝 道 他 Б 到 4 華 渠 託 ~ 武 水 梁 九 遠 楚 す JŁ 肼 河之 ⋞ 陰 載之高 東 其 流 淌 3 决 迹 分 自 F 注 無 瓠 扚 底 Ą) 浉 子 رتته 他 ٠٤٠ 來 至 共 Ž 地 柱 河 過浴水 12 及 後 湮 棼 2 南 孟 故 塞 自 無水患者七 流 注 神 津 至 丰 不 鉅 洛 至于大陸 漢 禹 也 野· 分 文 導 汭 周 通 而 至 其勢益 中 定 Ŧ 河 £ 于 Ð T 淮 决 畤 播 大 積 酸 X 沙り 伾 + 為 棋 棗 河 石 汎 歴 餘 而 束 九 de 郡 徙 雅 千 ;ंग F 潰 始 \*\* + 79 乎 改 Jt. 档 颅 六 金 码 害 為 故 無 贬 宣

踀 水 至 由 河 又 疏 里 是 患 復 唐 汎 杰 失 共 後 矣 人失大い 逐由 平 而 濫 松勢萬 ヽ 為 决 兗 于 柳 及 E 于 퇏) 豫 冹 ス 彭 浸 乘 常 帝 城 ; 萬 数 民 平 柠 他 2 千 難 生 無 念 原 分 も 棣 墊 里 汴 じく st 悉 千 氏 等 不 湍 漪 理 泗 來濟南 河 河 東 镁至于宋 分 方 悍 rt 而 塞 復 古 難 南 今 利害 又 播 為 河 治 12 決 為, 凡 尤甚莫若 2 ヘ 破 時 較 淮 チ Ŧ 蚠 河 然 河 127 餡 而 隄 淮 M 又 可 郡 阳 欲 M <u>=</u> + 库) 机 R 浚 鄞 使 (6) 泱 + 東 年 ح 2 10h 毒) 售 樂 淮 故 自 273 又 河 漢縣 道 渡 金 マス

使 衠 能 科 ት 刺 ょと 異 澶 沙 ぉ 由 由 歷 鉅 Z 流 水 仿 各 奪 清 不 <u>ল</u> 力 陽 出 不 澶 此 濮 秋 事 5.1 流 決 武 2 奶 0 **冯·** 孙刀 分 **全** <u>بر</u> 滑 议、 浮 淮 冰 睎 洪 為 单 者 殺 途 力 中 树 2 由 胨 F 濟 宗 于 于 秂 水 敢 其 b. £) 山 中 £2 邺 博 極 南 陽 いく 故 六 솾 居 天 也 **;**A 則 姐 カ 孟 南 13 Ż in 東部 访 争 籽 末 **Q**-) 髙 カ 1 孟 2 \* Ĭ 荻 從 出 平满 浴 伙 易 12 屈 河 テ 鉢 封 紒 11: 12 ,Fr) 津 滴 #; ut 栈 .2. 矣 老 ₹ 束 v'Z え 趟 E 大 其 棣 uß 祈 レス 挾 .**₹**. 導 資 治 v۷ 大 人 F 究 7 由 西 名 ŘÁ #: 汶 v۷ 可 禹) 河 T カ 禹 河 ヘ JŁ 竟 歴 陽 汉 海 齊 入 新 平 2 分 カ 出 道 2 强 ż 縣 迹 油 邢 (i) セ v2 本 寒 要 枥 矣 ,Fr) X1) 曹 流 並 并 要 F 胙 1.1 由 譽 為 河 治 舧 後 曹單 單 存 Jt. 档 ٤I 道 妫 浴 깘 **レ**ス 獝 分 2 漢 就 紒 + 泡 止 迁 2 干 v-1 701 蚁 ょし 其 或 チ 貞·} च 始 787 焦 瀛 孌 間 至 汉、 治 艃 不 而 丰 3 2 者 ιĐ ιt 朳 為 받 娅 いく 2 衝 經 则 出 為 勘 狄 揭 水 曹地 遷 16 ホ 漳 نخز 沛 ~ 使 Ψ M 又 it 浴 衫 次ロ 移 ध्रीनी 徘 或 始 北 隊 洲 2 遂 マス 我 \* 行 典 7 南 溢 或 رالح 以便 徐

長 泗 曰 不 不 水 海 廢 河 元 ÉÌ 出 會 至 팃니 Z v Z 垣 其 大 榆 濮 按 濟 ż 岄 徐 注 長 夸 東 宜 虺 陽之下 护 70 通 u 寧 出 河 南 羽 鉅 じょ 武 淮 置 宜 岄 海 趨 大 決 ρή 河 溢 東平 來 森 流 野 中 斗 Ý 者 m 出 博 名 河 汉 VZ 不 20 淮 通 則 鹊 不 逝 於 舏 縣 屢 74 由 濟 耒 歴 挟 築 淮 兩 ->=) 封 宜 热 濮 数 **IJ**·] .2. 业 陽武 決 從 汶 ЯB 胙 漠 いく ·)(1) 姮 3 遠 徑 直 T ηŊ 瀉 並 AT) 大 不 198 娍 县 能 F 趟 置 易 लि 十 東 可 河 Ž 河 2 棣 适 衙 VZ 拚 居 艳 大清 兹 里 夫 2 Z 制 東 南 終 どく 滄 不 武 ヘ 2 2 Jt 沾 两 東 屯 1 河 可 流 柳 由 海 N 安 枥 者 南 北 其 岸 行 :ল 南 得两 雏 £ 陽 之使 海 衕 いし 亦 氽 倶 1 流 一景 縱 矣 2 流 然 宜 曹 武 N 東 北 漢 能 H 東 椪 道 舣 金 大 更 法 南 单 東 ~ 流 海 武 奶 挽 糜 能 河 相 宜 ~ 祈 2 兩 di 流 Jt. シと 元 利 2 也 直 烞 士 U 者 東 迎 歸 其 ₩. 欰 办 北 雨 光 北 金 直 2 注 徐 팃! 流 不 不 汕 ंग 流 1ºPT 4 痤 不 束 處 宜 會通 2 宜 沛 並 決| 也 澶 坐 鉅 塞 河 팃 矣 意 深 分 則 立 紆 野村 其 滑 沛 v4 决1任 煙 又 矣 河使 淮 歴 邛沒 無瓠 2

オ大 武之 淮 為奉邑災 河支 宋太 永平 流 £ 科 聽 也 淮 兴 . 臣 年 景 謂 **A** 伙 斷 咸 罪 ;oī 病 0 J /烈卒亦 恩 平 修 + 渠 河 平 **3**t 絕 JŁ 楽 h 斷 Z 隣又安肯 ٤ 也成 Ŕ 行 .2. 故 Ė 161 皷 南 宋 河 流 金 分 合 年 欲 加 平 國 [i] 访 不 바 流 君 為 河 冷市 清 渠 塞之自 道 v٧ 南) 久 £] 詑 河 故 臣 台 復 望氣 年河決 東漢 建 錐 河 所謂汗渠 旋 水 決 元豐 挺 出 並 歸 骓 五 誤 北 塞 古 丛 鄆 年 明 财 南 不 ٦Ę 執 行二 平 1 汴 四 神 いえ गाः 能 **)**H **Q**· 元 カ 派 河 敦 至宋 帝之 年復 zt 宗 渠 滑 苖 文莊定為武 電 平 护 换 决 由 瀆 渠 者 陵 *?*+ 決 腴 入 澶 河 南 陽 河 河 くせ 復 亦 東南 為 于 率 敗 决 初 埽 K 武 清 墨 入 两 河行 禹 レス 瓠 禹 淮 六 流 何 决 + 浮 故 淮 河 15 不 售 子 迹 沒 年 A 流 + 鉅 ٧Z 從 綇 () 不 寒 至彭城 亦 共 餘年 汗渠東南 頼 初 塞 野へ 禹 河 河 大 為, 淮 淮 不 传 卒 便 舊 £ 决 PIT 淮 U 5 义 南 抄 塞 痾 延 淮之始 淮 书 ~ 于 ホ 月 迹 मीन गाः 為, 宋 汽 者 世 任 瓠 心 浆 涩 zh. 斩 溫 129 JŁ 屈 솶 Si 遵孝 净 聽 チ 不 大禧 宋君 院成 能 **/**1/• ヘナ d) 東 Ļ 难 哉 有 准 河 者 at. 注 枥 利 ふ

南宋 とえ 復 于 浸 漂没 新柴 河 之多莫甚于元 元 ν̈́λ 艳 vZ 述 扑 河 河 如 溢 何 蒇 河 v'. UF]  $\dot{z}$ 贾 者 F 縁 疆 害 行 有 之费 裨 गं 讓 之患藉 j129 ij. 不 Jt. 惜 沙 **[·**k 西 宇日 謂 乎 運 圓 天 州 咑 負新塞 能 栖 請 恕 山 中 下 袓 勤 為, く 2 栖 其 北 足 F 決黎陽遮害亭放 す 失 蔣海 桵 命都 省 存 陂 か 流 來高 執 淇 使 大 然不能 河 熟 眇 無 何 不 園 河隄 20 セ 火 野為花 既處決 河 不 内 元 怪 濮 テ 至 計 清 2 10 21 芝 乎 **A**) 바] 壞 利 一两東北 44 沈 九 為, <del>a</del>by 在 其 閉 別塞南流縱使問源天 害 狙 塞 漢 連 臼 ¥, いく 迹所 京 討使 す 塞南 及 治 馬 じく  $\mathcal{F}_{2}$ 瓠 則 為, 河 豫 刷 會 河 頻 チ 怡 **弘**] 不 Ŀ [0] 楗 無 及竹置 直窮河源究親星宿 流 封 者 壁 之テ 東 年 通 臨 能 洲 It 使 策 有  $\tilde{z}$ 之 不 决 睛 決 誠 流 意皆 ナ 北 宗 隷 利] 計 溢 ₽<u></u> 東 河 ſς 11 可 過 ,驛傅 命 版 夫 潘 流 漂 而 呖 宋 治 部 郡 欲 大 圈 重 没之 え 自 议 寸 從 ᄓ 燒 稂 伾 鋭 £ 使 爱 も 明 銪 又 當 意 草 青 臣 vi 书 柢 /背為 無 将軍 又應 1 决 70] 谐 襗 Z, 訪 报 **レ**ス 河 ग्रीः 周 往 臣 决 屯 油 故 故 稅

子買 海口 東チ 謂北 年河 帝之 流 其 す 而 股 ょ 復 出 道 凶 河 步皇 决 ık, رج R 使 粿 祸 然 流 凉 雄 譲 オ 汴 Ĺ 髙 般 决 思 東 商 要 F 通 オ大 幽 追 桥 业 為 者 ١4. 亦 有 z)) 祐 £ 胡 亦 胡 何 東 冀蒙 嘉 故 商 利 柢 餘 他 哉 當 滄 元 懂 IK 福 ٤٦ 畧 於 王景之 衣 ~ 年 軍 里 河 北 流 杰 有 ~ 薢 決 秘 ت 陽治 成 精 利] ν<del>τ</del>η 平 使 뚽 J. Ų. JŁ 2 ंग 及 祐 千 史 鹵 育 流 别 年 合 + 瓢 萬 Ŧ 河 1.1 百 祈 न्ग 冇 功黎 里 爼 护 討 عد 古 上 年 年 為 通 河 永 合 핤 派 其道 Z 日 液 御 不 論 不 阽 流 六 S ル 隄 功 快 d 渠 汴 L 高 ê 眸 敝 豚 **河** 撘 流 海 洂 £ A 在 防 事 ~ 经 尽 通 渠 胡 ٧ 濟 ল **₹** 謂 Ŧ 注 不 壬 約 Jt. U 功 成且當時有歇 使 安 東流 掃 似 介 子 畔 腐 秋 乾 ~ 下 木 棚 1長于設 علا 防遏 9 不 也宋 容 矣 深 2 郊 决 寒 鈅 2 水 者而 為矣 是 為當 道 第 治 鲅 v 李 林 軍 F Jt. /街要至 /河莫若 廏 汴 席 誠 六 大 7 輧 疏 仲 埽 景 ψ 歴 Ŧ 五 拖 47 復 吕 議 止 E) 7 海常 豪 祥 ح 班 遂 決 .2. 計 載 চ 不 科 7 平 趟 矣 不 治 枋 五 衍 逝 795) 六人欲 似 峅 遇 世 10 河 +1 怡 ्ञ 塔 18) 18 能 JŁ 120 兵

永 ·FD 頀 恩 脷 议 内 決 129 内 大 流 陸 力ひ 八漂男菜 平 恩 黄 年 于 第 英 静 汉 误 脩 JΚ 黄 復 不 M. 此 從 背 ヹ 流 為 謂 岸 捬 澶 澶 其 安 五 u 五 新 义 宋 東 來 谚 科 難 陽 橋 14. 州 御 股 J+\ 椰 何 10 st 吕 流 軍 言哉 梁 更 河 不 盐 獲 ž 尾 Tor .). 2 開 工 河 曹 流 吉 ল 境 **£**) 刚 守 俗 Jt. 嘉 Jk 2 斷 不 修 姆 村 直 河 JŁ 其 程 橼 欲 四 沙 刨 稻 (0) 2 ٧Z 盼 年 **;**可 毒) *}*٢ 恐 洲 Jt. ग 2 計 詔 捞 北 無 金 Z 镁 決 129 此 欲 北 禹 源 \* 大 河 使 亦 郡 JL. 昔 京 欲 契 復 ナ 開 河 Ż 北 大 迹 飞 4 河 河 2 Ž 欲 里 哲 新 北 注 ल 也 Вb 丹 2 久 v٧ 鹵 水 杸 大 不 宗 逻 贬 め 洛 埶 御 北 五 及 2 欲 於 全 Ξ 決 欲 年 第 失 也 いく 她 河路 = 消 え ВP 火 十 居 游東 來 年 氾 股 120 え 二 财 酸 팃.] 位 分 2 今 汉 第 滥 東 뿔 般 令 ·m 故 其 北 胙 'nŢ 阻 朝 并 IJ 流裁 大 河 欲 ż 益 界 流 え 道 河 五 符 其 誤 流 F 掃 名 成 北 JŁ 年 ح 附 南 見 其 + 欲 洲 10) 恩 蚺 又 浃 及 A) 共 平 年 2 恒 決 1E) 化 徙 101 河 他 RE 運 悠 又 F 奶来 河 A) 非 カ 沙 ;0 崋 티 沦 不 平 惟 談 南流 敇

東武 流 中 意 汷 于東 餘波 河 故 流 皮 B 矣 회미 ,), 流 益 寒 17') 千 ₹ 河 為述 東 不 13 六 能容故其夏又自長壽津溢 陽奪潔川 É 勃 漢 有 姐 潔 潔 使 周 抓 不 一枚ロ 南 戚 子 海 故 帝 吉 川南 為 注 餘 漳 21 不 ,Fn न 戼 城 Ŕ 武帝 禹 至 帒 里 漢 XX. 塞宣房道 鉅野 b 水 南 χŊ 长 絲 ٤ì 束 東 湛 前 A M 合 流 當時 之道東北至干乘 錐 月 南 長新 流 去 É 力 復 通 和 팃 **不** 凼 汄 河 皮浮 能 周定 1E 指 元光三 津 셔 نع 帆 ,4i) 浴 定 津 iŁ, Z) 河 129 云 水 バイ 北 Ρή 東北 腸 東 流 王 섽 Ĭ **(**47) 河 決 計 厮 謂 'nί 1.1 東水 年 濮 Ť 前 改 =' 河 五 南 行 北 탈 عر 初 漬 春 逇 陽 從 纬 涨 \_ 缍 F 浴 Ż 惟 行 徙 渠 章武 東 之流 河水 됬네 其 7 斩 ্ণ 领 謀 之舊迹 二源 柯 汎 雨東以 道至南 流 来 縣 流 郊 £]·] 郡 徙 汉 끠3 沟者 者 被從 賒 胙 巡 Z 流 東 經 者 JŁ 微 入 + 海 大 仗 潔 长好 東 流 斬 流 六 新 南 西 ut 決 帝 皮浮 流 白 来 孝武 ż 也 頓 zh\_ 全 懋 火 狮 伾 n宿 ⋞' チ 潔 畔 至 道 津至 书 駶 21/3 獲 ٦Ē) 亢 PIT 自 þij 光 JE. 水 濮 川觀 東仍南如 防界 谷 :11: 啡 まし 蕊 划 之南 决 餘则 始 狭 至 油陽 改 U 流 极

Ξ

+

餘

里

一然

i,t

無

大

决

浴

盖

£

景

治

河

未久

河

河

水

溢

漂

害

物

量

\*

光

和

六

年

秋

金

城

70[

水

孟東流 景 数 海 原 决 盏 都 于 7 河 絶 秋 道 東 行 ф 全 年 **t**p 流 館 庶 館 漂 围 ;ল 來 ナ 發卒 怡 潔 啊 BP 悉 南 水 任) 深 此 へ A) へ ح 乘 好殿 濟南 de. 故 皮 溢 及 71 脩 與大河等故 分 泊 北 為も 浮 東郡金段遣王 É] 至 徒 無 海 数 Ł 者 折 2 养始 東武 陽 + Jt. 駭 河 + 駁 瓠 亦 ,Fr) 12 章武 來 Á 東由 子 千 乎 經 也 萬進王景與王吳脩 禌 v.Z Ŧŋ 陽 流 廷 又造 河 寒 F 有 兩 餘 剧 始 束 大 里 國三年河決 東 塞 少 潔 存 (v) 耳 海 眇 束 後 與 河 禹 延世塞之 レス 沃 行 火 年夏渠成 延 自 後 之势 經 漢 縣 潔 2 助 者 舊 世寒之 鉄 魏 始 7 惟 河 五 界 别 河 不 行志 NT) ė 郡 也 至 不 來 漳 ヽ 然景 東北 清 後 甤 鴻 復 王 **段塞也成帝** 泊 阵 嘉四 後二歲復次 恒帝: 楽 林時南 盖武帝時 郡 74] 與 海 漢 決 TO 祭及 汉 信 行至高 Æ) 河之 刨 Bp 2 明 清 年 都 長 潔 漳 帝 南 水 勃 勃 ÉJ 並 壽 降 皮 É) 水 河 끼 荣陽 北 津道 之道 浮陽 弉 唐 河木 ıŻ 泸 沙 元 决 PÍT 平 決 信 行 中

消之 低處 決 横 五 景 推 利口 河 私 流 胡 稱 F 宋 \_ 災 東 泸 ᇜ 丰 原 流 褔 + 然 杰 又 商 其 自 流 Ż 15 天 耳 年 Ė .2. B 胡 分 髙 ,<del>4</del> 初 決 歳 决 年 棣 故 年 長 有 魏 故 治 股 為 滄 河 胡 決 壽 .2. r.E. 晋 合 ネ 河 州 **;** = 沅 魏 漸 th. U U 10 京東故 麩 得寧 势高 , (j. 就 先 庿 股 永 海 從 河 瓠 **/**+\ 五 為 從 子 年 代 水 讣 [ن]: 於墊者矣唐書五行志榮陽之下 濟 淤 决 五 派 ;可 IJ 决 性 渠 游 矣 R 至 5 汕 ٧Z 勃 汎 又 别 É 百 道之 來咸 故 屋 壞 就 棣 浴 注 金 河 滑 + 变 梨 か Б. 其城 赤 丈 故 者 五 **→**►| F 恩 轮 有 船 + 水 44. 年 F 始 少 博 寜 於 枯 餘 大 沙 不 넌 Ą X ت 流 冀 積 歩二 中 至 則 澶 朋 商 雅 知 也 從 德 軍 河 淤 2 2 涌 治 消 元 文 楯 無 44 + 祥 胡 亦 入 + 無思患豫 高 汰 決 臺 股 璴 湖 雕 于 棣 深 2 河 為, 符 必 年 縣 阳 滋 足 νZ 吽 又 決 經 陽 F 跣 Ξ 決 博 東塞 唐 通 有 年 流 福 油 謂 v~Z 信 U 沟 會要 桃二 チ 庶二百 商 界 之 自 受 坍 復 又 Ż 决 な可 ψή 水 形 防 上 不 胡 中 1 JŁ 有 Ŧ 流 言 之道 始 ナト 流 是 12 30 酒 治 ·fn 知 棣 有 矣 河 2 决 太 東 高 胡其 澶 故 4+

道

東

流

者

火 合

南

清

又河

沿淮

Bp

欧

流

者

斯

枿

宋

商也

胡

流

.2.

有

堏

书

故水

決 故

而道

改南

東流

海

甚

ĬŤ

本

ण

阴

塞

南

流專意東流

金

则道

其 者 原 曹 家 是 股 いく 至 泽 章 臣 行 受 2 え 年 材 ď. 金 脷 濼 129 河 終 又 熈 宗 東 狄 隄 圈 水 符 大 金 Ar\_ H 百 分 寜 Ð 岄 當 ₹39 决 哉 流 開 稱 議 明 為 尺 昌 二 故 通 テ Ð 股 シヒ 年 吕 팃미 (FT) 12) 道 五 IE) 氽 AF) 流 大 外 少 澶 淮 2 年 南 河 JŁ ЭŃ 分 首 较 গৈ ंग F 分 流 ./+) ~ 東 ंग JK 為 然 為 古 流 庿 股 流 2 Ż 决 獨 合 = 分 潙 曹 大 不 ₽. 末 陽 何 行 流 南 五 河 派 戏 則 都 欲 馬 河 經 百 其 東流 清 武 2 村 東流 ₽Ŷ 轉 不连 河 河 流 五 业 上 漼 渐 河 由 至 運 道 治 + 漈 不 經 斷 卦 水 何 入 亚 海 Rp 南 X 使 元豐 凼 十 Ŧ 83 何 Th? 淮 清 游 韓 步 可 其 挺 五 怪 F 水 呖 河 哲 勢 尺 東 Ź 百 いく 加 又 東 性 後 元 合 へ 志 庬 滙 纵 大 經 無 里 上 年 火 浴 注 也 2 水 125) ŕή 哉 決 梁 **إ**٠] 清 チ 也 決 流 约 決 BP 界 謂決 道 梁 す T 溢 將 33 火 17 E.) ىل 河 潹 首 漩 之 湿 尺 滌 宋 寒 市く 何 及 1 水 平 悲 利 夫 站 張 44. アス 金 直 海 諸 か 故

年已 也皆 决 清 秋劉 原武 縣 東 祐 宋 滎陽 復 暇 决 五 證 JŁ 云 何 為 五 2 南 v 西 有前 决 及 更 F 年 丑 壑 其支 办 有 餘 河 流 衝 ut 金 台 有 衝 代 夏蒜 台 張秋 ホ 粮受為里長 故 龍 矣 里 水 逐 χĹ 故 枯 每 金 張秋景泰中復決張秋 欲 Ü 流 姐 徐 道 114. Ŧŋ 脬 可 明 D 遇 河 專 溃儀 清 刺 欲 大 ৵ 補 決 3/3 £) 10 不 昌 む 数 東流 行 Ŧ 成 容 其 使 史 围 × 金 河 道 隄 五. 贺 東 海 東 JŁ 龍 缺 温 封之 合 不 衍 年 南 ; 撒 河 いく 流 由 バス 沁 能 罅 ٦Ł v'Z O 溢 春 水 決 一黄陵 į 樂 ъъ 流 可 漫 清 北 入 渐 Ł 39 卞 M 流 都 喜 水 ż 微 下. 八样符下 其 海 矣 決 出 ,41 河 共 經 水 山遂寂蓋 逮 狄、 議 눝 者 南 南 呃 及 图 張 柳 中 監 南 iń 亓 白 财 更犯 者 有 Ż 亦 JŁ 秋 D it 者長至七 JŁ 丞 曹 也 時 不 有 世 36 甘 售 かん 入 A) **v**' ス 清 町 2 治 為 河離 會 祖 國 為 海 河欲 張 濮 明 陡 櫟 河 矣 流 至 通 中 勢 水 狹 32 70] it 言黄 秋 衝 分 先 遂 亢 故 いく 竊 河 治二 不 流 東流 張 東 河 正 足 來 促 能 道 48 決 ĘĮ 分 南 河 結 秋 南 松 + ्रंग 15 溢 金 衎 年 賞 部间 É] 北 末 五 利 2 六 51 2 張 矩 レス 年 街 明決 决 無 久 适 害

原

懷

盏

胡

審

視

形

3]

チ

津

徐

沛

水

勢

可

殺

其

且

人

漕

舟

由

江

淮

至

封

Пß

ЭŁ

陸

運

百

里

至 半

淇

79 え

へ

徘

河

達

京

胏

排

Вþ

衛

河

3

宜

導

70 +

注

衛冬夏

沂

術

沿

By.

清

幺

津夏

秋

则 b

前

徐

沛

此

舉

斩

運

道

炳

得 河

山

品

治

待!

梅

2

木當

六

可

南

北

1)

治

由

逝

紽

霍

鄠 th

流 臼

觀

決

金

龍

O

直

衝

張

秋

又

É)

有

不

病

運之

理

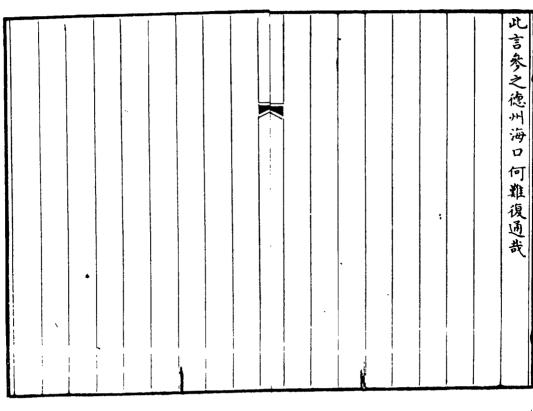
謀

剩

者

か

呉 バ 決 河乃 刚 漕 屢 > ئر 中 **É**] 大 橋修古 言 月 河 犯黄 蓋 河資 六 衞 低 清 齊 南 河 河 入 2 緷 陵 梁 水 南 河 決 她 山 JŁ 汉 導 束 图 分 長 竟 山 故 及  $\lambda$ 郡 滐 道 张 驳 治 な 從 淮 如 至 أوأ 共言 可 诚 非 骎 云 又 故 水 使 夭 适 容 及 É) 正 河 有 不 津 北 她 東平 道恐卒不能容復于魚臺 决 劉 屷 依 至 .2-へ = 售 資黄 天 張 入 直 公 油 分 大 沿 ッヒ 順 秋 作 沽 10 猶 至 = 夏築 而 、河莫若 ৰ্ন্দ্য 之勢光禄 [ण 古 **^** 水 瑐 年 清 2 海 O 黄 注 游鑿小 凼 各 臼 ;ण 詹 斷 70] 品 海克其 欱 古 建 分 衞 池 于 治 流 陂 少 石 今 隺 河 堰 張 末 ナヒ ήĒΡ 河 [4] 至 宜 彰 岸 -秋 及 ∹ίὑ` 14 後 レス 蕊 于 = 牆 德 決 行 帥 紽 眪 河 清 衛 河 证 114. 河 雨 村 RI 狐 隂



志曰 大河屡決而 故 敦 也其勞勞于遊運者中塩之法廢不講 啡] 入海 計 武三年山西行省言大同 古哉言也當因是 遠背烦請令商人于大同倉入米一 肅 石三斗准給淮茲一 與之 治 本 軍 17] ፗ 臣變塩法于是退兵悉 倉 在 漕 復 運 洪永熙宣之際百 以的邊卒而者效則 下交足軍民斧裕其後屯田 又開も田 中 官 儲之用充矣從之又 引 p 有 鉄 納栗與淮浙益以充邊的從之 執 司 鹽減 法 無 引起蓝 繳之謂之開中其後推廣於各行省邊境 治 36 JŁ 運之法 中监以 必欲挽之 河無法者護運之心 也夫漕乾 改之曾 而 ٠,٠ 聽其當當果即以 引引二百斤則 給邊軍師的不 姓充實府藏行溢盖由 超储 上上 刖 運 使 仰食太 中 1.1 いく 供 南 肅紀兵官宋送表 自陵 給京 給 天 者 京 庾 倉轉 いく 壞于家強之 縣 石太原倉入 跚 趼 張 胨 孰 的邊卒而 運至太和前路 而愈效也首洪 敢 <u>بع</u> 不 秋 仰籍于縣官 輸 原 台商新 轉輸之代首 明史 睒 輕 往 紛 決 為 議 往 引到 兼 食貨 然 挾 務農 河 チサ 米 不 糧 前 遳 計 而

ρή 핫 鳳陽 時緩 中 释 -ib . 紡 高 石 法 詻 東 15) 中 布 太 抓 Ų Jo. 海 四 हो 两 : ₹. 宣 殿 不 蘆 倉 21 補 堡 絽 遼 数 納 青 淅 ગ્ર 政 等 韭 協 中 府 寧 東 数 末 給 糧 計 鹽 協 司 . 山 \* 支蓝 安 學 丈 Ā 処 畢 編 ħ 相 者 围 10 西 河 行 Ū. 亦 慶 卣 高 德 蓝 翰 民 南 欣 1þ 書 九 軸 浙 食 南 轉 Ť 栗灰 (形) 勘 F 解 \_ 淮 省 池 有 程 欣 1, Ŕή <u>بر</u>. 年江 鹽成 道 行  $\bar{z}$ ,)+] 30 中 陆 *>*+1 11 運 紨 合 ٦, ð 及 及 速 者 ቀ 塩 諸 糧 io 西 陜 西 神 四 淮 两 ·**江**. 底 年 者 司 及應支塩數務 她 鱼 化 南 西 輸 神 池 南 西 安 淮 4 東塩 簿發 僻 嬓 塩 諸 亦 定 中 栗 輸 赣 ナ 汝 九 池 Ż 則 中 諸 有 寧 者 宣 乘 府 行 福 堡 *,*++| 松 减 各 塩 南 府 者 堡 ቀ 底 建 甘 南 年 輸 涂 江 江 布 4 蒲 漸 √m) 130 安吉安 寧寧 蘇 湖 陽 庿 県 鎮 輸 两 和 ~東雲南 蟶 計 聚逐 政 廣府 庿 \_ 寧 淅 及大 河 延 rŁ 州 夏 刑 彤 赴 司 ~ 道 剧 協 **F** 常 44 、寧夏宣 1 名 東 長慈 Ð 改 同 者 勘 及 大 州 及 延 江 14 棘 iń 五 都 陝 鎮 永 西 丰 蓝 松 代 4 输 合 行 速 石 湖杨 者 1:: 相 Ē 司 楽 亚 江 腐 1+1 1+1 [5] 府 计前 至 视 薇 符 神 拟 街 廣州輸 原 祛 改 JE.

符兼 塩 遠 州 中 (2) 邳 河 府 訓 ہلہ 南之 五 北 較 五 府 兰 府 行 南 14. 南 庿 六 西 宿 潼 塩 2 淮 业 舟 Ξ 府 事 府 ~ 本 2 四 Ž 及 行 河 21) 2 盘 淅 v2 平 有 州 彰 嘉定 桂 海 亦 隆 南之歸德懷慶 Q 所産 之监 21] 平 河 冬 煎 庿 樂 陽 慶中 陽路 河 徳 州 改 河東解塩 JK 盐 埸 淮 庶 行 德 盐 大 都 食 南) 庿 行 敖 斛 3 北 東塩 安二府 臺 平 2 禅 14. 安 行 延 四 波 計 2 44 胼 安 思 .} # 江 庿 계 協 雅 27] 2 Z 東 揾 封 府 4) 庿 行 行 西 2 改 滇 蓝 庿 骤 两) 食霊 河南 戏 庿 陜 泽 陜 府 2 鎮 4 2 西 元 2 屈 淮 山 東塩 沁遼 雷 西 後 安 14. 西 東之 都 Z 塩 水 鹽 五 塩 信 肇 汝寧 制 桂  $\stackrel{>}{\sim}$ 44. H. 叙 + 場 州 汉 ρ́ſ = 西 府 池 尌 行 髙 行 府 麂 46 林 Ĕ 鹽 井 結 縣 安漢中 本省 惠 陜 鹽 1 南 改 柳 寧夏之 順 .14 雲南 Đ + 有 젮 蘆 陽 食 地 慶 龍 庶 ++ 两 崇 **M** 煎 粤 洪 塩 河 及 韶 有 保 五 ;co; 梧 .44. Z 禎 武 Ż 蓝 有 翠 東鹽 行 事变 城 中 府 延 江 瓆 14. 嘛 盐 ·} 监行 時 哪 南 安 ナ 溽 南 昌 周 見 及 刮本省 14. 此 積 周 直 书 汝 稻 之 議 毕 剃 44 州. 27 桩 3 共 鸨 渊 及 J14. 荆 建 徐 府 洮 []利 5 x 淮 得

二十 竈 塩 塩 塩 六 有 ٧J 和 百 時每 删 滅 萬 場 井 7 . 揾 萬 後 P 31 許 Б 千 四 庿 井 増 餘 凹 其塩 চ र्घ 赴 I. 3] 正 JE. 1 萬 + 場 安 ŕ 四 東 ŕ Ë 千 課 T 31 揾  $\lambda$ 灰 千 寧 塩 兩 六 129 買 办 六 為 끼 陜 名 米 淅 鹽 坞 共 7 塩 31 為 3 西 四 阁 補 + PÍT 3 姑 揭 井 井 辨 鉴 ত 六 31 阱 計 増 勒 餘 + ā 専 É + 河東 单, 五 44. T + + ~ + 灶 P 2 넩) 論 餘 生 該 ئے 有 福 + 盤 有 萬 為 × 有 直 揾 不 I. 鹽 萬 五 奇 3 32 得 T 大 群鹽東西 建 Ξ 也 省二 桕 餘鹽送場 3 為 治 熟 塩 洪 餘 Ξ 百 .). 五 .)-/\ 資 百 43 汽 時歳 塩 坞 百 3j 引 萬 塩 + 次 塩 百 洪 Б. Ξ 正 池 猶 六 X 山 沟 初 五 + 給 九 + 六 為 中三場 東塩 剃 屯 + 又 辆 千 辦 耗 可 制 雲 不 ŕŢ + Ξ 引二 有 共 ン 呱 髙 南 每二 在 觀 六 年 Ŋ·] , 、 萬 捐 7 7 泠 場 干 支 其 里 万 嘉 餘 萬 + 内 為 盐 鹽 + 六 縣 鹽 靖 百 台 31 六 15] 餘 并 31 九 百 十 X 百 協 餘 百 倉 2 塩 斤給 有 計 3] 長蘆 钨 屯 井 為 定 揾 X 餘 五 法 直 Ξ 可得 数 13. ¥. 十 宮 省 X 7 (A) 米 場者 白 Ϋ́ 不壞 毌

米二 變初 斗 惟 专门 合 中塩 五 安 井 復 啊 制 平 太 美 不 海 大 餘 ゎ 計 衛 定史又 入 南 袓 ٧Z 則 得 2 녡 至 支運次 2 百 專于京 祖 塩 軍 運 次 斩 陜 都 效 不 行京 應得米三 六 都 計之又豈 及 附 西 パス 征 使永 可 金 金. ħ + 餉 安 甘 稱 陵 兵 暫 銄 いく 御 遠近 , 光運支 途卒 陵 蓝 衔 成 夫 南 ふ 不 為, 開 戦 禹 酬 多费 徘 祖 S 中 雞 開 定 17 耳 中 有差 百 カ 餘 袻 塩 酬 中 Bp 開 幾于足 4 之法 制 迨 已成 千 運 贡 120 惟 h 可 甘 中 位 中 X 何 既 萬 矣 計 + 肅 雲 村E] 狱 じょ 行 給 いく 々ロ 鸖 桑安南 繼之者其惟仁宣乎仁宗立 ρή 之义 鉤邊 祖 由 ۲X 諸 南 北 參至支 運悉變為長 京 軍 故 2 粮 萬 大 遷然 京 江 能盡哉及考 粮 数 師 Ŕή 不 **金** 運哉 可 餘 原 <sub>V</sub>ス 復 凿 諧 年已 数 卒 猶 不 達京 得 倉 道 Ē 召 敷 年 衔 衛糧乏悉停 2 亦 後 然 矣 例 楚雄 里途遠法 + 商 ण 京 有 可 百 循 萬 いく 京 Въ h 中 姓 衞 レく 日 米 洪 眇 i 石 府 街 戍 盐 疲 糧 安 給 乀 武 矣 粮 ĬŤ 郸 糧 祖 京 他 蚺 米 四 南 石 岩 12) ij. m 運 逐 天 都 運 浬 杙 趼 何 = 年 再 2 塩 Fil 治 地 故 **J**t

物 德 餘 得两 京 定 13.) 書夏原 宣府 一制 耆 數 知 餘 淅 不 业 每 元 滄 邊 有 故 継 造浅 宋 帔 枥 江 知 很 年 獨石 懂得鈔其 代 **,**H 術 粮 任 31 禮 衛 刷 可 ふ 引三 吉謀 京 者 支者多 Ð É] 平 쇚 4 ~ 和乙 運 遳 知 4 /家 塩之 永 Ē بّ 衞 عاد 京 3 江 P Ξ 京 百 成的近珠 T 京 洲 納 平道 部 斗 盐 衞 **(E)** 化) 百 五 郘 賞 中 虚胃請 尚書 阱 米 中塩之心 ري 五 2 陳 餘 剛 艘 + \* Ż 心險這超 升 河 亦 瑄 利 豆 ф 運 當 為 单 制 郭 至 有 南 今 中 能 邊 懈 淮 漕 5.1 T ū 有 釥 而 塩 桜 敦 1, 矣 當漕運之数 儲 迎宣 名 揚 臣 す 翉 斗 無 办 鈔之家中监遂定中 也永樂問 于是 P 榍 31 いく 自 徐克 漸 日 淮 兢 半之福建廣東百 支 洪 粒 置粮 是 者 失 給 五 德 安 升 孙 邊 武 官吏軍匠 少許 郭 鈔 粒 運 いく 倉 14) 有差 法 小運益亚. 中 于是商贾守蓝 商亦 敦 後 蘇 年 vZ 百 义以 2 會通 2 陳瑄 京 常 能 萬 瑄 松 不 居官员 塩官商 名 公當 師 有 沿 率池盛安 令 通 南 不支 勢要 뱐 兵 河 増 停 陸 江 Ē 南大同 والمؤ 西三至 冰 嘭 崩 洲 對宣 监则 部尚 -4t; 平 宋 浩 尚 漕 之排 末 4 处 业 P 证. غاز 不 乆 庙 + 高高 2

官 德 惟 楊 時 官 往 有奏 Ð 運 種 百 v'Z 刑 困 酬 倍 分 瓜 民 軍 茶 軍 運 冱 糧 朙 山 為 始 + 守支 商 中 給 運載 東 運 太 莹 常 根己 接 京 粮 請 有 無 各 河南 運 糧 運 涂 師未有定額成 堡 萬 又 法 P 納 守 邊 折 之增其盐消大壞者莫過于成 至 年 ヽ 和 通 四 馬 É] 九 部 制 支 毎 廞 京 誤農業令 ٦Ė 徐 T T 11: Ť 計 貇 打 档 阁 尚 2 31 直 通 X 民 禹 兑 俩 於泰時有 倸 書葉洪請 者然未常著為令 × 輸 困 / : . 運程 隷 + 終不 聚邊方放栗無甚贵之 運 ゎ 百 撒 銀 仑 四) 嗣 則 改 石 業稅 時 三 民 萬 徑 免 後 民 12 九 바] 太 四) 百二 赴京 復 運至 糧 ら 京 兼 初 加 台商 栗 倉 錢 7 京 既 跴 年 各邊 耗 納 翔 銀 有 徐 倉 就 + 淮 ВÞ 괎 殺草秋青草者成 無 差 納 肯邊儲 影 萬 安 六 M. 開 Ű 定 京 附 也 至 视 銀 倉 年 中 中 瓜 ぁ 四 \* 通 運 32 國 百 瑄 チ 江 쇰 百 塩之果湾 v 1 州 商 治 兩 餘 司 Ŋ 初 寧常 聪 32 滧 兇 又 カ 萬 畤 虚矣嚴 中 倉 五 人 類 萬 消 清 言 大 2 骐 招 者 米 平 Ĺ 石 然赴 觧 鎮 R 減 運 倉 年 É] 绗 敍 民 南 直 凡 人 淮 痢 ŕή 初 张 5 [11] かい

張家 共 船 爱 言 簡 專 弊 土 章 稳. 商 囻 19.] 也 <u>₹</u> 産 嘉 ij 兵 區 檀 有 8 論 銀 殊 Þ 苦 謀 多洪 νZ 稱 無 者哉 謀 利 ~ 绮 いく 直 之送然洪 域 令 補 易新 有 贷 從 價 省 刑 也 槯 叉 周 + JŁ, 档 咨 Ξ 亚 催 Ξ 本 運 ĵĹ 親 報 セ 中 不 軍 क्षे E 車 辨 uif P 华 米 四 孙公 31 12. 謎 私 不 之失 盤 洮 4 時 文 人 낦: 胪 治 塞流治末之不 欲 2 松 凶 給 ż 米 應 洪 粒 事 格 <del>ک</del> 极 軍 料 請 いん AF) 便 工 數 中管懷 Ď 悄 于 佼 3, 役 亦已甚矣自是塩 Ł 淮 士 钔 部 都 120 官 脇 禁 3 Ť 渔 者 故 稱 分 償 神p 給 く 史 贵 责债 春光 贷 袻 首 傘 夭 ā) 輕 13. E 惯 位受 3, 今有 馬文 含 産 造 科 理 M 術 F 罰吏舜侵索輸 倍 濟 常 暇 搃 雅之 吉 被 秋 敦 法 任 (Fr) 安 通 息 運 男 Ξ 部 司 升 棕 8.3 不 É] 詸 李 來益法 维 减 娘 "》 监造近者 有為恐本 斩 3 文 臣 统 後 獨 僐 虚 **血漕交壞** 往 辛 軍 俱 じく 論 也勢豪大 JŁ 3 淮 來之 僾 萬 供 船 軍 運軍 遂 為 <sub>v</sub>ス 士 大 凌 爽 状 餘 2 抵 长 斌 士 擦 岩 ⋞` 清 Ξ 消運 رزد 昼 有 納 É 船 ~ 在 T Jt. 充 其苦戴也 造 并 淮 至 沙 カル 15

推

屯

場

挨

掣

動

17

数年守支之難也定價太罪息

煎 友 何 而萬 秒] 太 洝 E 餘 ď 不 無 不 臣 14 後 债 有 于 俏 塩 萬 塩 議 有 充 倉 餘 レス **, , , , , ,** 倉 六 vス 本 18 截 者 禁 エ 俱 毎 塩 歴 v'. 無 利] JL 塢 軍 粉 也二 必 本 盘 中 餘 31 厚 令 私 取 部南 之 六 逃 侍 灾 翦 + 揾 削 3, 塩 甚厚今 軍 森 塩 商 难 工 傷 ēр 쇲 姓 減 盐 未 年 Shi 收 中 滅 使 1 正 围 遂 将 杓 折 雞 盏 樂 課 銀 卫 當 涫 供 倒 不 袓 12 致 待 せ 銀 余 運 支 價 塩 壅 濟 者 伍 行 從 راج 切 义 ЯP 新 銀 本 錢 惯 峅 奚 4 11 大 狄 私 抵 ت 餘 也 争 ंग 米 折 澶 监漕之 监 之言 京 ارد ارد 拹 餘 抵 故 + 商 ξ'n) Ŧ ホ ·两空故 舉炊 エ 濱 滬 v.Z 竟 盐 倍 僅 ŕή 亚 欲 司 四 人 VZ 粮 嫡 言 末 盡 中 銀 通 于 解 比 大 不 百 計 倘 ۲, ۲ 憋 \_ W 前 监 È 2 盐 者 Ξ 有 遪 4 収 倉 せ 抓 輸 タメ 輚 法 盐 嫳 商 為 4 納 剧 謀 十 呖 M 京 即争之然 納 入 热 與 灶 度 五 私 .2. エ 價 び 設 不 開 , , 軍 愆 **不** 贩 先 本 # 屯 有 自 艄 餘 行 當 p 俱 亚 分 期 月 塩 热 É) 威 塩 市 111 マ: 利 不 輕 함 俸 #: いく 餘 不 易 能 .档, 鴻 償 ٠2٠ 息 F 涎 v۷ 濟 F 餘 亦 復 此 計 ゟ بخ 今 塩 觧 灶 佐 就 呖 纟 國 輕 什 歳 許 终 \_\_\_ 70] 有 難 'n p 2 财 赴 欲 課 始 年 橅 京 エ

置溶 通漕 治 法 廷 京 首 河壤 足支矣運 額 32 漕 40 順 湾 孃 法 車 决 ·i 13 河 是 治 治 聊 弊 政 漫 兵盖尚 經 河 張 1 無 颇惠神初 復 不 相 轨 B. 無 夏 啓二 澶 得 當 後 亦 南 秋東以存沒流 不 主 33 涓 往 半 定 船 益 下 劉大夏偉 不 JŁ どく 久口 滔 *y* 访 年 溜 州台 弛 遳 11p ·m 運 祖 りし 族 不 Ł 数 萬 迨 宗 張 单 道 船 君 下之 命大學士 7: 論 13.] 矢口 于改 水 制 秋 鮢 チ 無 矢口 + 称 中 臣 二萬 P 千 運競 水 决 復 樂至景泰大小 阻 峙 狃 盐 于 京 也」 古 × 祯 か 全 ブリ 1.7 入 Ŧ 欲 32 工整 淌 T 天下 運之 是 師 就 先 34 人 旋運 河 復 改 治 放 養京 南 為 誰之 × Ė 漕 治 寒 溏 張 ;ল と 繭然 + 決 流 ٧. 何 超 紀其 復築 x Ž 秋 運 使 事 過 官 勝不 軍 張 説 色 纬 E U 事 可 北 · 哉京 十二萬 軍 安 無 烦费成供 矣 黄陵 劉大夏奉敕 河 凼 機之倚 减 秋 事 北 .2. **元民為教** 自 得 十二萬 岸 平 泱 知保 勃 先 也 後 狐 啂 数 不寒 師 中 張雨 す 彩 仑 道 监秋黄 Æ. 上 月 中 ゎ 至多 儲 呖 愈 荆 綾 廟 流 揾 लि 70[ 嗣 郊 业 冲 往 于 14 賜 バス 決不 後

				宣不訪選 世之 私哉	二萬人全無所用以次抽除大決制龍口放河節火米甲米两有餘運船一萬一千七百七十艘運軍十余事輸充羨朝野上下晚然于中遊之制足以供俸
--	--	--	--	------------	--

治 漢 数 趣 铋 周 絡 決 吉 浴 食 巌 魚 **]** 書 壑 定 交 汝 徒 于 百 派 寒 数 于 áiß 用 沈 悉 额 黄 涌 狻 塞 並 ВP 王 里 云 瓠 数 郁 工 台 瓠 ホ 禹 河 箓 河 淮 然 周 五 止 チ 淮 E 馬 ナ 益 右 B 定 年 推 £11. <u>-</u>129 功 来 南 軓 梁 ; I. ंग 亦 玉 決 告 4 :/[ 桜 王 रंग 淮 疵 北 (本) RE. 楚 : [ V.2 河 シヒ 戏 考 vi *\$*. 侬 未從 有 尕 之决皆 注 in Ž 為 إسر 袻 Ŧ Ž. 滩 是 年 通 ぶ 殊 鉅 狄 決 F 足 せ 许 狻 10 攴 vΖ 河: 档 ¥j. 31 **₽** 是 尤 北 上 求 有 九 前 河南 Ż 漢 接 诵 甚 南 57 夭 槶 道 ~ 于 恃 涂 河 安 書 \* 汇 Зþ 之竹 17 かり 久 炊 徙 12) 斩 河 上 有 湍 倭 ·}29 市 使 福 末 不 :IE, 壶 肠 北 在 12 汳 エ WIL. 復 1E) 礼 艺 無 汉 いく 柞 3 き 水 りし 沈 筱 順 Ŧ 為 仁 寒 水 \* 里 棉海 赏 31 表 **₩** 淮 .\* 一沙磺還 类 A, 有 30 郭 搥 也 粹 在 P. Ph 式 河 汉 ;ण ホ 当 小 卒寒 後 カ 十六 謝 为, 運 淮 入 南 φþ 元 發卒 强 収 相 當 淮 十 滤 其 光 亦 支 桕 寒 **狐子黎** + É) 派 沸 故 ホ 3, ψ (幸) 奉 肺 來 1 pu 数餘 F 7 自鹏 12 业  $\dot{\mathbf{x}}$ 勒 決 炒 歳

함 磁 今 迨 聂 久 成 亭 永 世 延 宋 إنلِا 准成 其 淮 官 枥 溢 帝 + 駸 世 南 Ż 平 清 乘 太 河 平 防 餘 j19 r 乎 & 泛 世 河 紀 矣 JK + 2 海 平 平 1 歳 湍 2 浸 建 <u>=</u> 有 É 者 既 浸 行 清 白 趣 U Ξ 44. 12 築 始 いく W 年 (11) 沒 بل. 瓠 汴 十 إَنَّ إ 淮 凼 £ 年 河 赤 束 ナ <u>'i'</u> 漢 道 後 12 絲 渠 詔 マ: 景 餘 者 ·台 [v] 防 在 年 始 從 ان: 工 せ 框 束 之 E) 里 华 六 胚 功 決 1'F 塞 沛 使 勢 決 **(**面) 秋 りし 類 浈 詔 刺 自 + 澶 剃 河 縣 瓠 瓠 行 大 £ 矣 矣 F 決 汴 美 決 餘 ~ 河 濮 .)+\ チ = テ 西 水 延 毒) £ 淮渠 瓠 韭 が 消 华 不 消 歌 渠 啡 南 子 河 せ 景 娰 至 亦法 入 11) 陵 \* 刺 今 塞 決 雨 河 ;ग 王 Ö 脩 败 泛 行 東 淮 埽 12  $\stackrel{>}{\sim}$ 桉 塞 東 ंग 之 之 滥 景 渠 滌 六 右 [v] 南 44 涥 瓠 沚 郡 Jt す 杂 + >,\_ 流 ゴカ 汴 + 鉅 又 テ 分矢 淮 淮 先 金 非 亦 戏 促 餘 ൎ, 至 有 野 分 合 9 4 3 歌 隄 帝 河 示 一彭城 办 ,F1) 流 È) 丰 餘 シビ 清 日 經 足 滦 pprox湬 再 盖 平 復 河 淮 水 盐 蚱 -1-.)-喇 寒 陽 油 水 禹 河 淮 沟 古 赤 **計** 河 餘 淮 **1** + 寸 售 東 涮 自 11) 汴 天 厳 ぶつ 來 迹 于 為 狻

禹 塞 渊 洝 宋 道 ;i2) 颋 りと 派 趴 濼 清 決 清 五 為 Ŧ 是 古 빠 神 ٦Ł 唐) 水 東 曹 异 分 陽 昌 黄 河 河 A 合 流 六 淮 维 歳 也 清 A 44. 阿 抚 南 考宋光宗船 -淮 枮 分 北 五 新 河 斷 熈 4 濮 河 丰 流 故 岸 清 泸 B 手 #3 於 拔 金 > 從 扩 146 沁 侩 古 滥 光 拔 ting 淮 河 太 表 ંગ 4 Ł 11 渊 到 ·)22) 令 淮 南 2 陽 有 يآل 7} へ
す 年 害 村 诮 清齊河 沁 枞 宰 始 者 淮 決 月 奉 ż 治 汽 南 云 豺 a 由 尚 者 淮 :01 F] THE. 今 河 गाः 臣 斷 徙 Ė 縣 F JŁ 集 清 至 書 쿫 بح 東 +-東歷 (Fr) 清 五 淮 \_ 誻 歴 東 兴 省 え 平 絽 চ্চ ्रेण् 台 沚 丑 安 河 沝 إناز ·}+\ 业 :5 注 官 Ŧ 胀 表 復 بخر ż ۱, ッと 14 点 烻 P 濟 清 詳 濼 一元年 Ψ 梁 都 33; 兴 不 浒 TO. 西 大 陽 界 津 小> 譲 水 りし 河 決 久 \_ 审 故 卦 L 上, Зþ 310 · 森東武定青 分 中 全章宗 奈夜 于 淤 憋 敱 張 旋 至壽 清 炒 (2) + ग्रो 泳 月 す ijų. 泽 南 丞 清 長垣 里 連 河 判 şр 人 情 溡 湔 濼 14. H) JK 河 張 不 办 前 ¥7. 11 明] 4) 檘: 44 沙 游 作 É 注 ᆙ 決 zi, 是 昌 流 狤 לן ע 村 東 梁 門 龙 悔) フき 协 济 U 澶 环 りし 故 行 五 丰 4 :ল

河

東

注

沛

影

成

E

浸

十

年

命

贾

當

治之

12)

復

故

道

本) 渠 ₿p 沙) 至 初 祈 絠 東 遂 故 流 水 正 至 'NY 至城 墨 徐 至 為 河 水 (27) 清 州城 全 故 大 W 年 由 清 東 河 消 河 道 利 河 今 東 縣 ⋞ 河又 へ 九 決 曾通河, 合 縣 經 淮 北 金 淮 至春 田泉 合 ナ 流 隄 海 · 129 者是也元 码 沙ツ 者 É) 东 河其 水  $\lambda$ 1. 東平 是 淮 え年 豊 329 水 (بلج 後 錐 沛 表 毒) 為 指 胜 iÐ E) 定元年 沛縣 云 汶 雅 汴 運 沁 由 河 上 河 河 水 嘉 毒) 训 É 悲 决 入 清 名 ++ 徐 河 祥 九 入 一代 清 10 44 洂 丰 朴 :\J 痖 萷 ナに 行 河 幻 诃 :[] 妫 束

道遂 明 南 項 永 城 滙 + 洪 樂 六 于 四 於 經 + 平 淮 = 頢 年 又 华 河 + 東 决 頳 X. 河 原 ヘ 月 工 于 武 南 東至壽陽鎮 河 之 浴 决 決 ·坚. 梜 浆 陽 頳 澤 > 1  $\sim$ 東 淮 全 淮 入 經 于 洲 淮 封 買魯 义 南 河 行 故

+

Ξ

年

決

湬

陽

縣

束

抓

項

th.

達

人

和

又

西

南

连

翻

注

于

淮河

逕符 城 36 淮 徐 并 Ξ ャ 家廟 於是 耳 年 流 治 全 月 疏 為 合 唯 14. JI: 餘 爻 慷 宿 Ē 決 支 頳 河 = 河 河 雜 丈 學灣 月 ₿p 睢 人 人劉大夏 部侍 者 自 決 千 遠 水 梅 إمر 义 決 河 決 栄 支 金 Ð 弱 縣 决 古 張 五 F 全 <u>}:7</u> 河 + 17 荣陽東 艉 泽 ēρ 劃 欣 徳 迩 秋 月 界 रंहें 汴 餘 西 131 Ç. 祥 等 縣 白昴 河 遪 河 式 **,**H 山 行 南 汶 どよ 淮 通 孫 符 觛 へ 南 决 淮 殺 vZ 12 U 酬 视 1K 舒漕 家沒 Ž 幺 陽 凰 Ŧ 决 汴 南 其 蓬 3 2 νZ 月 合 中年決 式 經 柱 陽 者 林 勢塞 1, 淮 而连 ÇĶ ·河三里許 日 祥符 之意 疎 束 自 J 是 於 河 又 家 メヒ 曹 祥 淮 **\** 留 济 上 U 下 行 14) 決 祭 封 猗 汴 **/**+\ ;X<sub>2</sub> 復 £] 河 唯 合 140 流 河 U ÷. ווע नोः 粽 幺 使程 ニナ 長堤 北支 衕 河 決 河 木 **}**₩ 流 六 黃 寺 削 年 界 合 湍 E) 河 な張 下 **>** 可治當 揚 涡 孙] 陂 涡 \* 析 泽 肠 運 悍 河 六 F 丁 陽 家 镁封 河 為二 别 O 秋 德 山 决决 河 脩 可 淮 义 杨道 運 濟 張 治 飲 减 12 支 考 寸 Ŧ 油 經 湖秋 汴 .Hs 河 1K 54 U 淮 淮 1 F 流 汴 九

	-								- 11		<b>)</b> -	1	.4
	百	喉	之		平	长	耳	穴	农	至	<b>4</b> 0	バ	俟
	餘	襟	エ	1	鎮	長虹	且决	, <del>T</del> n)	<b>於淮</b>	歸	ቀ	勢	村
	餘里	重	流		2	3カ	店	*	狄	僚	年	文	黄
		喉襟重地	上流其廣四		上	13	*	<u>→</u>	ik	4	រភ	浪	劢
		75	应		.7,	13.	法	į.	27	4	11]	孩	3
		75	'm'		<b>//</b> L	3/2	かし	۶Į	2E	1 -	.t.	3	±.
		杂			4	rx.	杀	\ \ \ \ \	な	_	木	2	147
		大	व		廣	張	連	ユ	狄		<b>\rightarrow</b>	发	`র্
		行	트		九	秋	查	至	两	由	淮	U	当
		堤	+		+	名	应	決	岸	宿	又	别	售
		赵	食		餘	為	不	12	東	逐	洛	黎	河
	1 1	矿	4		49	1	自	去	馬	1).	祥	新	127
i		+4	, in		31	亚	. ja	·蒙	统	- তা	符	্তা	
		2	. ż.		البد	\$1.	# AF	3.1	功.	12	20	ابدا	3
		1	派		716	兴	10/C	34	<b>全</b>	_	1	A-	6
	ŀ	辆	王		千	X,.	本	が重	구	1	11/1	   AL	그
	- 1	45	اييل		Ų	14X	縣	哑	1	田田	\$	除	박
'	ļ	歌	寬		义	黃	いス	12	当	笔	淤	里	胃
		徐	漫		居	阪	石	人	索	涡	ंग	導	出
		44	A			剧	堤	埽	聨	河	由	使	徐
		п	动		法	B	13.	FL	Þ	似	陳	南	17
		乃築大行堤起作城至帰德花徐州凡四	百三十餘丈河流至此寬漫奔放皆		平鎮之上流其廣九十餘里荆龍等口又居黃陵岡	功乃成改張秋名為安平鎮又收盖改出居安	在決旋築連直但不息決既塞條以石堤隐若	六而室之實以土至決口去室 沉艦壓以大婦且合	然後沿張秋两岸東西築堂立表背京聯巨艦	至歸德分為二一由宿還小河口一由完涡河俱食	由中年顏川東入淮又溶祥符四府營於河由陳留	水勢又濟孫家渡口別鑿新河七十餘里等使南行	封黃陵周南賈齊舊河四十餘里由曹出徐以殺

む云 東 里 幽 15 氏 船 潭 湧 st 禹 水 柏 一歲 東 左 言 tib 凉 平 曰 私 青 復 會 南 至 至 棃 湧 吉 胎 導 縣 大 俱 潜 會 流 A 山 チ #: 海 升 注 章 答 哑 桐 縣 東 流 者 2 出 西 復 淮 ·20 汝 淮 A Ξ ēр 其 淮 沂 4 柏 禹 Ξ **v**ス (五) 机司 4 яt E) 千 水 于 2 ~ 杰 東 + ت 水 柏 ЗÞ <u>;</u>ä 糕 桐 + 自 X 始 陽 出: :e 4 人 為 大 南 桐 桐 柏 里 水  $\lambda$ 平 百 大 邊 復 醠 チ 有 禹 桐 故 復 柏 柏 侠 里 狄 相 K 汝 浴 伙 束 青 柏 淮 E) 1, 後 4 1. 後 敵 1 脎 额 茶 并 復 南 束 流 法 束 ŕή 熊 世 胎 桐 故 禹 ヌ 地 陽 謂 為 私 謂 义 柏 it. 西 ら 脐 趟 也 南 東 章 中 ⋞ 淮 别 ¥ 迎美 シヒ aln 淮 E) 1, 在 示 金 不 名 南 陽 É 尚 楝 费 沂 淮桐经 水 水 桐 天 潜 淺 六 ;b\_ 有 ρή 之 桕 u 桕 陽 陽 治 E É١ 草 其 X ゔ HE 水 流 土 耳 2 2 干 相比山 淮 縣 旁 東 淮 里 柏東縣 池 屈 故 深 ·)129 X 源 南 出 陽分 成 者 南在 ス 廟 ВP 下 水 16 1). 水 不 忘 桐 129 州信 三南川 許 Ξ 训 1 źū. 損 业 書 為 必 机 义 柏 ゝ 醣 Ъþ 云 巡義 于 0百陽 有 拍 当 -曰 レス 十初 £) #: 今 縣 許 水 南 甚 里府 桐 129 淮

淮

-329

沂

考

東縣州真糊按城東陽 縣里刈城 义 又 悬 南息陽湖今 南南州 1 凶 カ 按 合 東 東 饒 散 北清在南 北在縣縣鴻信 實 陂 Ð 進 水 故 \*\*\* 慎 义 又 ルし 與 西在改今 三今接東家陽 東 縣 城. 綦 出 单 P 為 东 餘 北今在息東今 瑴 水十新界與楊州 南 里 慎 書 郡 割 北 净 Ą. 戏 陂 **ン固新縣** 2 縣 划家界 <u>.</u> 水西在 北在里息 E 百 潴 枝 水 鱼 又 十七||蔡東 鴻姓 廷 西 四今 縣 茶有 大 注火今 水 又 里縣縣北東 水 合 東 首 之 七信 家莹 木 處 池 得 安 十真 又 迎 注 縣在 义 あハ ቀ 受 東 得等湖 水放在十陽 里陽 陂 其 也 之 北新 長 東 南十 Ţ, 13 湖車 合城平里州 非利 汝 淮 縣 陂 陂 义 北 义 浮 又 大水西东 又 東 特 鴻 南 꼐 U 水 既 义 東 淠 光 東 淮波 束 木瓜 林 南逕 廢 太 左 水 東 Ik 水 山縣介 迎 守 又 上出 114 結 逑 水 又准 右 合 注 北西雅 去 义 江 2 名 剑3 鴻 東 無 苖 隂 合 2 夏 北在南山 東 利鴻 居 队 陽 北 亭 脶 彮 青 水 南今 亚 丰 漢 八今 北 宿 菱 郤 修 又 縣 水 シヒ 五崎 又 陂 束 左 城 春 十光 芡 故 坡 復 がく 東 义 西在 汝 水 十七 舎 腸 帝 里 」。 亚 城 縣 東 絠 又 Ż 水 亞 注 十分 里縣 縣八九 拚 魚 名 赵 新 南 湖 二老 PSF 之 延 又 期 Į. 故信分 介在 水 27 鴻 思 歧長 じょ 白里州

亚 **以此**之 悬 酒 叉 颖 洞 盾有 會與水 又 汝 又志春 最在 少島 狄 東 原 **BR** ٦K 护故 **注謂關洲** 故 γK Ίŧ L 沿国在 湖州  ${ar \Psi}_i$ 1E 為 為 产 쑢 口之洲俗 城 絲 水焰热 逐 迎之束 左 F 郭 又 西 縣 南 玄 又 又與西 合 東北 立 英 上 瀬 東 東 東 南 東タハ 而汝 林 m 肥十 椒 淌 Jk 故 治春 水 安 10 中 河里 7K 柯 けし 北 界十 南 水 南今 城 水 窮 謝 ±. 故 至 뿔 出 富江 水 へ 從 莫 東 又 ¥ 謂 H 含 東 2 從 于 政南 又 九 水 又 絲 Ž 和省本 西 東 71 淮 陽 メヒ 迹 ずら 西 江 東 210 硖 JK JI 馬 毒 陽 毒 城 JŁ jţ ΡΉ 縣 西水 Ð à 西南木 U 來 城 又 來 决 2 沙 水 謂 肥 春 縣今 州城津村 春 注 と 東 脎 大 注 縣 南霍 入 水 汝 水 水 縣 2 丙鳥 馬 從 西 2 щ, 注 U Ī JŁ 南 (H) 注 南陽 ぇ 北 2 西 4 金雅 沈し 又 州在 2 犯 東 Ŧ. 少 東治分有今 JŁ 迎 维结走在 水 又水 水 室 來 淮 東東 洪 為 杨安在 南 注 為二謂毒 流 注 鄭 ·K 安 2 4 北法 又 \$·11 公阪城之州 雷 Z 東 **썈**· 東 项 故縣 诚 合 口謂 连鱼 山村四两 涂 原 津 **北城西** 在 南 专项 引之 北色防肥北 縣 &v 注 左 决南 今在 又 河州今肥 流 中淮 **今** 

北在 東縣 沙 7K 又 注 在 南 過 南 啊 淮 又 准 ĴΈ 東 東 2 縣 三今 沙 水 東 涣 經 流 水 又 來 陽 附 胡 沙夕 東 澈 東 亚 歷 水 须 水 か ŔΤ ₹p 十沟 城 Ż 注 <u>iv</u>9 泗 謂 客 里州 巡 注 鍾 從 淮 水 南 剃 涡 从今 會 2 沂 Ü 浮 Ŕ 離 3 2 烿 出 注 即縣今 4 山 7K 西清 ð. 于 里 湯 2 又 坠 **弘松** 南 角 東清南河 逕 义 山 ગ્ર 끼 亦 東比在治今 渠 淮 東 潾 有在 注 荆 和在 竹 城南河 又 Ŧ 名 流 jb. 縣今 Ž1 法今 2 山 dr\_ 志介 注 水 東 胎 清 也 左 篇 謂 于 水酒町 又 水聪 2 汴 胡懷 JŁ 縣 左 v2 志准 東 左 4 淮 įŪ 2 水之遠 云 故 注 又 项 む 東 謂幽 沙 2 荆 濄 塗 城  $\approx$ 幺 在两片 F 淮 中 之東沟 水 南縣介 熁 山 大 凌南 山  $\Psi_i$ 那 71 東 受 |滕分東定 西面  $\stackrel{>}{\sim}$ 深水え 涡 在 徐 To 淮 曾 縣 沙 ぁ 水 |東盱|南遠| 液脉 챘 又 縣 山 陰 夾 寸 水 東 潼 奔 JK 在 函 縣南盼又 水西 南 沙り 縣 于 東 沙 歴 水 ぇ 流 南 又 分 西 沂 水 東 扶 ,3 束 注 水 IK 靳 溉 決 泌 右 里 ⋞ Ŀ 山 注 溬 逕 水 水 水 вþ 里 塗 縣 夏 席 违 注 五在 之 渠 2 從 2 ut 來 東 制 qg 沙 4 ~ M 54 1/13 陵 2 西 Ϋ́T

水 义 水 又 ₩. 泉 神 ÞΫ 溄 南 洒 **%** 從 者 2 杜 办 培 大 14 沫 兖 iE 在 ĮŸ. 矣 迅 机 注 泉 祠 沙ツ 迅 其 + 数 <u>;29</u> 南 耳 卞 3 .,+ in 数 歉 初 7K Ā 際 於 E  $\bar{y}_i$ + ょと 2 城 净 前 <u>)</u>[2] 縣 穴 .g. 水 縣 為 卓 . 3 里 府 + 79 間 束 1h 南 :32 有 水 81 329 啓 吐 127 165 12 出 縣 去 Вp . E. 訓 泉 縣 妫 卞 泉 'n 有 治 水 尾 水 水 沫 夫 りし Ľ 縣 交 澈 脎 五 Ž 卞 林 五 西 1, 橋 子 供今 -qu 水 浪 潦 東 其 妈, 偨 星 會 寺 + 東 互 ۲) 治曲 চ 徇 押 平. 寺 ¥ 11 111 南 故 卞 相 五 3. > 鉃 徒 ķ 泸 城 淮 縣 + 育 物 有 Ŧ 极 Ž 4 步今 15 分 2 志 ₽ ŧ. 束 桃 輸 左 13 穴 (H) 329 ٤١ (<u>بر</u>ز. 為 ρή 垅 有 谷 غاز 南 右 ヹ いり E 4 水 水 卞 從 ·)Ľ) 浆 摅 沙沙 桃 ٠<u>٢</u> [ع 涪 浩 徑 杨雨 ょし 也 v ( 水 征 憈 出 有 西成 尾 Æ. 俱 尺 水 车 深 為 南 也 滇 四澤 西 礼 陪 溪 山 至 林 1, 助 沫 有 W 尾 + 方 ょし 縣 是 Ŧ 和 卓 关 凼 清 献 ٦<u>٨</u>٢ ¾ き 飳 + 為 樹 有 子 城 大 12 南 泗斯 ¥ 五 為 復 有 **329** 抵 ·}-7 有 赵}  $\Psi$ 水 13. 縣 水 水 3 有 河 120

涇縣在 城课週又 東 义 沙型 南 里南 黄 注 南 v2 Z 方 南今 あ 增 脎 水 亚 水 南 'n 南 二今 又 Œ 陽 欁在 曾 又 ŢŢ. 故 义 巡 业 3/15 水 州故洪吕 姹 又 注  $\tilde{x}_{i}$ 逐 南 :31] 椒 南 縣 瑕 4,5 出 束 又 ⋞ 東城 又 彭 城 宿 JĘ 南宿 迴 3 陸 束 南 ηß ΡĤ 喇 束 東 東沟 南 三在 核 1 扔 深在 當 城 薛 绮 : Ø 縣 縣 欲 水 運 州分 縣 城 十分 毒) 縣今 叉 富 東 ż 東 ЭŁ 娍 水 風 北徐 歷 縣自 南 故 坐科 逐 東 西 東桃 平 舜 對 從 凼 上 縣在 屈 南 城 又 戚 五西 又 F 又 旅今 **本**) 到 東介 縣 南 束 西 從 處 稅 凡 十兆 束 束 縣 東 列 迎 床后 縣 14 合 故多流 城南瓜 來 故 也 ηŊ 南 淮南建 南 棜 州在 į ģ 뷯 娍 東 亦 注 沂 the 西 山 東分 ī, 钧 角 楊 又 ìή 两个 左 之 西 南 E) 天 水 澤南係彭 城運 南 又 水 城 ٠Ĵ. 飮 洸 流 ナヒ 火棒 政在 南 城縣戏 注 义 1, ょと 其 シヒ 14 運 平 南海分 水 東 縣水在  $\Psi_i$ 之 束 城 牌今 袻 注 平 74 也 报 縣魚 東 北瀬 小 义 又 東 西桃 南 又 南 欽  $\stackrel{>}{\sim}$ 南 南 水梅星 陽 沛 東 東 <u>iQ</u> 义 りと 又東 北源 逑 又 界縣縣在 脒 码 兴 2 徐沟逕 脎 毒) 南 水 流 沛 南 火 南鄉 故 朿 東 縣 Ý  $\dot{v}_i$ 逑 MH 注 得 有 抓 业 郭汉 义 南洪巡 粽 縣 縣在 抡 陵 此 南 庄 JT, 而東海 バ 刢 故水测 淮 7K

河部 水 ंग 潹 縣 又 又東 脎 又 成 ⑩ 淹 南 東 東 縣 縣 指 반 動 幾今 + 南 故 故 作泉 云 里 謂 康 經盖 南 jŁ 注 313 · 清 2 城 逕 城 殊 爆 嫜 娆 eqかく 浉 她 11 淮 縣 νZ 陽 東 西 樂 馬 名 琢 柞 云 **今** 以 狗 極 水 Jt. Ø, 水砂 1, 都 而 泉 艾 别 南 泉 基 业 來 士; 禹 er) 出 脎 縣分 小亚) 故 南 山 源 闽 河 jt 沂 泰 迹 胍 地 城 曰 12.1. ₿p 故 合 治沂 h 縣 늞 Вp 4 康 山 掛有 南 JŁ 袃 21 水 1 與 娀 肼 益 有 뻤 亦 ~ 沂 .)、 16 沛 源 沂 玄 1)、齊二 又 卓 束 2 泉 云 謂 或云 糕 胖 -129 秀峯 4 L 'nτ 水 殿在 支 Ż 3,2 運 東 沂 Ż 水 à 水 徐 页相 水 两分殿在 阜 下 虱 隐 窮泉 水 J. 116. 出 合 浮 源 流 岭去 南沂 西斜 窮 Ż 有 樂 那 **恋**: 南沂孤北若 與 出: 來 古 ·K 泉俱 水 異 が 144. 流 2 日 山 馬 水山出 - 坚 山 又 宿 脎 狗 浮 2 **今** 台 L 水 老黄 驼 南 又 泉 按 東 邃 來 竭 麽 ょし 有 南 又 西 鴚 山 與蒙 南 垮 望 今家 桃 曲 南 ż 耳 JL 南 合 1, 阜 蒙 逕 運 水 BP 禹 流 X 源 沂 沂 桑 山水 至 滋 東莞 南 東 注 貢 山 派 准 泉 南 沂 h 陽 合 2 五 凉 錐 合

又 注 Ż 南 宋 Ξ 馬 薌 배 雨 .). 沐 淫 湖 誻 **v**'1 沂 利  $\Psi_i$ řî 水 沂 赓 -义 來 俗 溢 2 殺 水 雨 者 五 水 南 Ψ だ 歴 六 謂 故 于 .++ 主 曰 邳 謀 升 2 ら 大 Б 湍 穴 刮 至 泸 Ž NL? 東 道 廟 失口 40 溝 溝 惠 游 越 湖 沂 水 城 故 Ŧ :ñ .). 蔛 T 1 144 馬 12 Ž 南 又 廟 单 東 1 自 沂 西 44 i £) 何 西 工 4 兒灣 鄉 過 溢 J. 又 諸 陣 北 脩 i 城 水 T いス 格 Đ \$13 ;ण 者 **,** 不 葛 南 沐 平 誄 馬 枞 .), 影片 下 溝 得 水 乂 D ナヒ 2 流 學壘 城 之出 運 衈 水 沂 沂 有 U Ŋ 2 功 デス 合 馬 既 沂 义 Boo 过春 長湯 治 波 ホ 水 Ż 孝感 JE, 工 鉱 水 出 ŧij 南石山 Fry 大 沂 西 故 JE. 沂 如 有 自 チ いく 4 逕 來 篥 南 山南 縣 腾 有 .). 坊 黋 跡 廟 쇘 #; 王首武 二 故 沐 通 12 紋 J. 也 亢 46 商 山 城 E, 陽 清 祥 沂 雞 長 坊 五 通 境 决 堻 F 隘 東 墓 ž. 大满蘆 琛 又 長 浩 汉 O 反 合 而 無 南 州今 可 孝 溝 溢 流 BÉ 趨 治 u 不 ·H ŕή 感 北沂 爱 分 外 塞 可 翠 Ŧ F 馬 汝 分 流 水 泉 治 ·及 鹎 液 櫃 单 洪 不 横 舻 塘 ゟ 水 鶕 溝 4 F 遇 漪 湖 杨 開流

亞 東 導准 北治西 沂 者 じく 淮 ٧. 'n I. 水 44 其 ķŗ 等 三分百南两今 U: 苗 7K Ŀ vz 水 举 蝕 流 ВP L 束 十邳五去南沂 又 此 نچ 云 D 為 -3:29 又 有 里州十卯 港 きこ 東 此 馬 東 2 机 **}**∂ 於 À. 南 行 害 東里州 验 寒 铋 巡淮 城 **3**|S 椓 + 食 又 兌 u 上 1 流 縣 Æ: 科 漪 Æ, 九 自 深 至 7K 2 44. 徐 分 义 す 威 费 南 沂 *.*ŧ. :20 為 従 陽 不 嫍 除 环 白 南 不 im) 等 ئے  $\Psi_i$ 縣 縣 為 云 机 可 屢 2 縣 水 郯 亦 沂 州 朱 客至 沂 水 Ŕ 西 不 いく 注 故 覓 出 娍 + JŁ 徐 台 青 南) 城 X \$0 為 城 科 衝 中 河 沙 141 W. 等 東 灰 決 運 存 糕 合 水 75 謂 水 流 じく 止 +4 清 Ŧ 南 跡 沂 吉 府 ंग 張 又 州今 又 ÍÍ v 水 又 在 Ž ナ 丕 葪 河 枥 淮 東 44 城 州分 北庄 F ~ ... 北 于 + 房 北 ii 山 柳 ÷ή 西 北班 南 白 南 沂 m 始 寒 Ż 官 馬 其 遄 水 哂 又  $\Psi$ 义 ŕή 至 水 大 東逕裏 数 隘 俢 轉 44 清 南 古 里 南 湖 沂 丈 縣 挣 3  $i^{\bar{w}}$ 縣 者 者 為 東 枥 ふ 歴  $\lambda$ 則 河 墊 Ż h 沮 Ð 兖 ŢĻ 公 įm, 下 禹 不 縣 яŁ 臼 注 吉 淌 弘口 耳 战令 青 14. Ŧ Ŧ ij 而龍 2 縣縣鄉縣 滋 府 為 42 泗淮 邳

庿 淮 郡 典 ग淖 湖 生 應 梁 陸 歐 函 束 庿 + 按 南 ₽p 陵 率 陽 بخ 水 里 湖 陽 北 陵 北 J. 315 木 船 古 傷道 城 至 溝 ュ お 穿 中 u 陽矣至永 湖 3] 出: 末 淮 日 西 O 末 東 岸 都 É 蒜 復 下 西 江 在 4 ላ O 有 謂 縣 東 南 エ ЗP 注 \_ 陽 v く u 射 2 淮 也 L 津 東 築 縣 淮 津 湖 埭 JŁ ナ 水 白 陽 4 乃夫差 陰 出 東 淮 Ík すら 城 湖 湖 馬 u 六 ~ 和 陽 渍 故 聪 博 ъ 3 Ψ 诵 胡 白 徑 西 + 钊 陽 Bp O 脒 챐 江 射 芝 里 也中演 巡 後 風 渡 進. 相 永 涛 桉 古 昔吳 湖 陽 射 直 至 F 有 行 又 + 山 和 邗 射 通 Þ 抠: 二 道 陽 庿 湖 陽 者 自 五 中 满 陽 ;I 深 清 里 東風 池 捬 湖 里 又 不 陔 江 城 淮 縣 故 都 伐 里 溝謂之韓 Ž 方 孙 水 水 東 걙 城 城 西 ~ 北 志 齊 有 南 韭 西 水 由 疎 出 Jk 故 在 謂 ВÞ 五 受 其 邢 JŁ 湖 之上 ょと 出 斱 It 里 今 射 Q 敏 道 人矣 莿 謂 江 庿 其 1 沿 O 出 間 陽 有 图 þ 张 江 Ť 中 (5) 武 穿 夾 東 至 水 陽 F 陽 縣 ナヒ 廣 典梁 水 亦 喇 夾 注 湖 上 追 耶 11 縣 浦 故 岸 和 陵 東 九 E FIS か 樊 城 4 堰

**水流南雅** 又東 十在迴 又 去 十在 東 ¥ 4 Ξŧ 绛 出 里法 中沙 ВP 品百 東 故 利 柗 不二百在 水 焬 白 水牢 連 至 宿 又 水窜 1 西 鴚 غر 址 馥 禹 極 酬 庿 壑 帝 十十去府 終 14 .). 始  $\bar{q}_{I}$ 懂 ρή 言 Ž 陵 縣 伊 州 湖 + 水 築 縣 坐坐州東 JŁ 又 存 柄 基 東 四北 さ ż 注 後 庞 合 里. 浦 里半 東 水六南 A, 44. 中 淩 亚 11 6 + = 淮 縣 之 故 渠 1. 南 ,KJ. 耕 南 陽清 Ð. アス 清 不 去二 水 2百去在 五百 12 屯 里桶 達揚 ~ 縣 里七 自 Ŧ 圹 縣州 縣十 2 + 里七 水州 5. 沚 u . 南 里 X ハめ 又 杣 溢 利 去在 通 東 チ 팃 東淮 十息 十水 桕 東 有 十四 其 州江 復 戦 更 縣 里十里縣 里去  $\Psi_j$ -20 メヒ 縣浦 -南 後 網 南也即 胍 艦 在 五水在准縣 逕 陂 郃 百月 故 去光水二 束 形 亦 读 义 4 艾 後 軥 十倍 道 溢 ιĐ 枈 等 東 縣州進十 酒 枱 漢 里府 3t <u>~</u> 相 迹 五西自里 北 信 害 末 縣 又两 西 道 Ú 半 里北硝真 真 T'n ЭĿ 東四 修 楊 事好 至 矣 14. 1. 1% 陽 1 써희 +3 治 44. 唐 北 北 東始 りた Ł 縣在 縣 Ż 喇叭 能二 後 東 州米 南府 去 隔信 **今** 北在 里十

城懷十在在謂斯五處十即合 陽 淮里去二 为企 五周縣之水里日五霍汝 縣 東遠 東 里 南府 含有 # + 桉 澤 洪 運 發 名 里陽東嗣在西安里四水 jŁ 淮 泗北東 シヒ 新 泽 涉 運 避 おあ南口縣南 長 河 水 14. 要少 副 淮  $\mathcal{F}_{0}$ 淮 水 + 泛 杆 道北 河滨 义 使 風 工 東 黎疸 涛 歧 ~ 初 里 漲 胎 好二 十陽渦七 ١٠٠ 里秋外叫 有 りと 鉖 兩 胎百 此四 頼 12 於 亚 南百淮之亦分 逕 惠 城在七 内水 里府 水十 運 下 V2 343 凡 ٦, 來里亦里水利口外 柯 治 裏 元豐 逝 捍 州里 名與 五 修 四 使 相 之尾沙义 ग्री ;ল 注水 日水 樂 又 又 距南水 河 32) + 41 縣 縣 東 之去 脚去西也河東 為 X 五去 東 縣 六 44 九 元 縣 調縣思州 鎮東三 南 JK 南 亚 達 逋 里里州 哑 平 洪 ¥ 西 刨 陂二 南十 二桶 Tik o 其 臨 之一 又 火-河 里五 南 チ 久 淮 山 绥 泽 流五 二明 淮 涡里 又 水河 也 去里 14. 運 祈 隂 鎮 淮 河 東 全里里在 十在 縣有 縣 口流 巡 在在 其 ·里 南 曾 有 使 六 湮 洲 至 迎 正與水河 縣府 二浮 竹 ゙゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゙゚゚゚゚゚ 下 有 長 + 7 新 發 羅 慷 陽嘉去州 又 44. 有 里橋 東東 北战 沙 始 **準** 里 熈 10 拯 西镇州縣東 去两 南北少淮 逑 使 率 鲢 進 洲 縣 復 v-1 Д, 北人分二一 烫 縣 北 ニカをな 2 14 将 欲 遊 河 长 127 州岛淮界十百四 州泗十十之府 毐 縣 洪 漕 年 <u>~</u> É)

枥 毒) 奇 制 云 水 為 城 有 **ジ**ス 7. 年 其 河 水 液 元 洪 桉 泛 界 漕 時 過 至 後 m 改 ቀ 相 五 A 取 溢 澤 運 流 尺 纠 鹎 古 清 J, T 汴 1E 便 淮 渐 流 峙 泎 富 要 i 愈 恒 南 遂 点, 里 Œ 從 水 A 于 煙 U 宜 水 在 陵 눟 馬 祈 渡 淮 夏 佐 **/**44. X 源 亢 緍 東流 ₹` 宋時 30 被 於 泥 淮 \$ 里 **£**] 後 工 淮 春 於 徐 **不** ē 墩 惟 東 Ð 寝 串 有 北 流 Ä 定 水 14. 44. ,<del>(1</del>1) 幕 14. 萬 逕 東 沝 至 18 (T) 书 廢 五 清 城 颅 4 初 **:**29 家等 彭 適 流 為 ينيو 有詩 此 合 汴 宿 東 껴 ナ 堰 河 (奉) 14. 城 淮 Ŧ · • 3 可 淮 X 可 沛 ~  $\stackrel{\cdot}{\approx}$ 34 15 F 行 淮 流 里 Ŧ 有 溏 濫 縣 而 湖 益 辨 異 汴 云 笋 故 隅 A 耳 湖 祺 有 洪 to 析 13) 風 汴 シヒ 琛 汴 率 壁 12 合 遂廢 海 由 之 朿 夺 洪 溱 水 F) F 滙 5 日 渠 由 址 ·jm) 泽黎 東 Ŧ 汴 之炭 廣 故 復 **†** 13 縣 入 交 火 .)+} **}**:20 Jt. 池 城 ū + 流 淌 制 淮 44 淮 又 于 v' L 至 へ 宋 ż 于 禹 2 رنه 汴 A 左 凪 逄 郡 與 <u>`</u>(25) 徐 也 東 丈 本 牞 東 時 波 + 核 沙 貢 水 竹 京 严 不 4 談 唐 深 A, 2 岸 餘 錐 三 4.1 £] 怡 哑 角 合 砳 尖口 攽 Ą 淮 2 ナ Jt\_ (本) 是 抬 ंग 南城 101 **>:9** 

澤北 鎮五 又 東 東 城 夏 為 中 桉 河 蒂 清 高 坩 JK 淮 鹏 築 蛮 籽 海 见 北 넁 بار 大 助十 家 議 有 江 陳 陰 陳 應分 治 守 揠 有 巡 海 當 彝 Ŀ 故 长里 浦 洲 山 制 O 瑄 清 自 ż 长 陳 射 1, 道 1:1 小准 陽 在 達 導 沙 脩 清 陽 故 蕩 洲 水 -縣 六 坠 名 陽 :ण 河 in 治 凡 祭 ंग 髙 縣 道 里去 縣 湖 滌 北 ナ 淮 两 避 運 ->; 里 縣 接錄 ğ)] 南 ぉ 兆 F ょし 3p レス かっ 淮 流 -ंग 淮 河 此时五 並 堰 射 安山 浴 潘 防 折 迅 里 水 ?) ż 有 此里 ;i9 陂 有陽 水 U 急 李 淮 在 運 鐅 弁 2 赴 老 東 池 水 也 治准 毎 ;可 뱌 縣 喇 清 汝 行 哉 矣 淌 水泽 含 在 會 致 也 又 永 哂 夸 ;<u>I</u> 便 謂 .2. `v[ 新湖 售 橴 錐 カロ 樂 南 沁 沁  $\approx$ 惟 浦 勇宝 きん Ž 東 本 築 729 指 Z オカ 四 \_11\_ 敝 淌 31 调料 清 2 沂 沙 至 手 ナ 南 云 7K 後 糙 雍 售 梯 <u>}</u>29 JŁ. 河 *,* 、 江 里 淤 ~ 馬 山 富六安清 (美 東 米 + 後 + 迹 汎 伯 浴 惠 Đ 中 超陵十府口 ĬÚ F 楚 漕 里 疎 漢 里 家 明 合湖里西在 於 せ 焚 舣 瑄 建 H. 臣 水 湖 洪ケ淮 义 11: 摄 决 安 -始 至割

景 年 歸 愈多 束 稍 淮 又 睢 河 此梯二 溢 韓 巡 居 東 Эť 東 禹 淮 水 2 4 いく 州里 祐 **今** 南 年 弭 R 启 孙 矣 頂 Ξ 水 盐 幸) Ŕή 苗 入過 JŁ 融 為 74 取 淮 仁 運 淮海玄 年 3 溢 111 蚁 淮 陽 徐 私为 129 高 艃 撰 水 水 楊 全 液 或 止 ·m 東 宏 मं 作 入 低 图 深 II: 溢 12 束 昏 刨 汝 尺寸 21 29 ল 4, (T) 7K 禽 Ī 考宋 X 水 墊 12 南 **!**! 2 淮 源 滥 改 œķ 堓 ;c9 R 泛 米 2 流 淮 城 <u>}</u>2) 2 倂 南 140 じん 沂 刊 辛 74 ᆚ 漲 患 舎 為 咸 注 ず 水 又 É ~ 2 脩 Ž 有 돲 深 Ð 束 뿄 市 ιĐ 次门 油 患. 平 팃니 沂 淮 于 Ż 云 X 耒 隂 tote 之 JŁ 莫 淮 颖 39 滂 尺 水 129 尺 大 Б 水 入 有 溝 汝 矣 故 悬 平 淮 329 德 餘 高 大 いよ 運 寸 道 復 ک 並 1.1 液 , if 寸 于 Ξ 丁 <u>;\!\</u> 後 JL 枿 大 ~ 水 為, ŕή **₽** 14 溢 + 淮 水 . 耒 未 44 六专 Ð ٤ 售 是 天 也 其 淮湖大 謝 漲 尺 抓 夏 十束 洪 及 東 聖 桉 *iff*) 尺 何 官 志 や 丙 例 五 वेन 柋 里在 沙 舎 四宋 v2 江 El Ā R 'n. 轍 月 載 水府 酚 堪 )•[ 大 年 ~ 水 12 是 州 视 淮 .). 頂 元 去東 ΡĤ 479 -F 'n 夺 德、 資 ंग がと Ł Jt. 此 城 水 知 縣北 rj 漲 州十 進 滋 不納水 31 汴 か X

幣 废三 城 命 <del>5</del>] 丈 南 南 셹 水 溢 耒 在 决 淮 悝 ٤ 城 越 鳳 Ŕ 岸 言 六 従 淮 函 工 平 E 髙 決 發 夏 月 年 漲 淮 Z 决 两 陽 有 犯 部 河 髙 浸 弛 诓 當 髙 淤 埭 毒 衛 附 宜 2 九 湖 亟 (利 高 家 中 高 大 為, 家 者 ìÝ 令 遣 不 拚 溢 別 土 西 业 Ŕ 堰 全 Ξ 惠. 눔 齿 帺 城 单 Ξ 淮 火 淮 有 人 عد 壞 丈 湖 Ai) 末 チ 城 淮 + 及 桂) 5 督 淮 漕 义 水 民 天啓 餘 東 月 涫 郡 餘 -道 桓 视 ंग 水 漲 脩 通 入 舟 修 又 始 + 撫里 溢 請 茶 决 縣 淮 城 理 12 水 亢 數 <sub>V</sub>ス 九 酒 從 平 者 决 捉 雨 溢 14 F 千 王 ٤٦ 脩 從 丰 丰 萬 道 宗 清 治 Ξ 娍 尤  $\stackrel{>}{\sim}$ 2 壩 in す どと 潹 数 淮 歴 出 (25; 命 宣 久 従 亚 悬 月 ı2 不 14 沐 信 न 又 安 125) 禮 44 統 赴 景 Z 德 エ 可 淮 漲 いく \_\_ 雨 縣 平 明 雨 大 信 敦 時 至 壞 部 绞 勝 郡县 夭 え X 淮 稿 年 水 河 坝 平 城 耳 数 ح 言 軍 脩 出 通 水 順 決 癸 旬 ニ 及 築 踀 毒 靐 淮 夫 矣 如 X 海 濟 画 衝 崔 貅 + 淮 安 重 ψ 此 年 14. 百 朓 記 12) 栜 决 H4. 市 Ξ 鎮 池 <u>B</u> 夜 府 年 都 £] 隆 及 故 性] 衛 N 衛 水 月 躲 年 U 山 叅 翎 樂 大 4 灰 淮 慶 X 居淮 沚 淮 也 奏 淮 而 漲 月 ंग X 沙 安 淮 皌 ři 辛 | 水 涾 ゴに 民 水 7/1

淮 黄 道 萬 ΡΉ 猶 之患 稍 流 非 U 去 不 ग ,Fr) ν<del>έ</del>η गोः 番 求 Į. か 得 泱 淮 不 诵 ¥ 行 凿 翔 129 差 惟 安 ナ 年 可 高 义 νZ ح 亦 者 淮 **\*** 高 (Ar 納 Ð 修 淮 躡 漂 為 Ŷ. 東 P **心** 全 分 不 强 莳 ЭŁ 2 D 7 国 3 祭 其 典 淮 淮 有 深 カ 分 止 分 いく × 觞 決 高 滔 淌 Ł 交 東 则 協 猶 道 安 垣 後 溢 百 (FT) ВP 決 堰 流 敵 Ŧ 2 浃 哉 漲 いく 欲 注 竹 둄 淮 並 湖 分 黄 Ü 自 Å, 30 寸 無 居 11 it 脐 刷 黄 340 之 팃네 杰 榒 ¥. 击 淔 :> 歴 2 老 # x 江 浴 拼 木 南  $\stackrel{>}{\sim}$ 淮 いえ 是 2 眀 泱 决 e カ 44. Fn 四 Æ, ぶ 况 Ú 計 入 ν'n 污. 能盡容 省 年 決 昌 <u>.</u> 凿 縣 苗 于 歌 使 i ミエ 共 含 濤 \* 平 京 旦 苗 淮 在 流 五 **不** 不 不 淮 JŁ カロ 年 枿 船 孤 意 2 淫 ग 滙 不 亦 2 同 zb. レス 沁 江 受 趨 敵 いて 袻 為 未 者 埶 水 全 راکه 何 雨) 分  $\sqrt{n}$ İ 前 稿 欲 暢 ょ 淮 势 Ã. 不 力 3> 苗 31: 巨 th 老 從 4 暴 不 屷 ·2 淮 ナ カロ 河 計 旬 南 **إ**نإيا 趋 淮 幸 苗 哉 = 能 v. 5 , ia 乎 idt 毡 ۲. 准 水 ٠٤٠ ₹ 惟 泥 F गंग 40 容 來 沙 決 溪 ; 未 決 淮 流 剚 沙 尤 ,Fr) 以. 故 河 扸 侨 不 两临 於 者 彩 合 河 不 暴 曰 粒 10 前 淮 東 清 者 ない 敵 假 淮 決 衝 旭 能 分级 Ż 水

> 考 决 한 河 水 2 欲 , E ~ 压 じえ か O 東 海 浙 有 寒 流 U 則 有 為 v 大 ح 往 河 祈 受 ंग 棄 数 往 東 壑 eq河 泣 弼 復 + 見 今 ंग 徙 考 于 則 年 シヒ 科 > 宜 遠 2 决 而 数 2 東 溢 17 17 百 幺 冲 Ŧ 今 年 ぶ 宜 [0] 大 南 妆 南 邌 去 流 约 河 鈥 枥  $\lambda$ 禹 大 大  $\stackrel{>}{\sim}$ Ż 斑 較 Ż 10 時 遠 可 遂 u ヽ 假 枯 海 至 河 制 道 有 干 誠 Ŧ D  $\stackrel{>}{\sim}$ 入 有 O 餘 幸) 油 俻 F 舣 701 平 在 许 其 シヒ 流 ·fn) 挺 欲 縰 詳 377 化

北

昌 黉 码 破 水 包 dy . 碩 枕 海 黎 抵 碣 石 淪 析 出 海 U 漢 縣 们 海 其 于 石 之 碣 有 東 天 v 余 破 科 山 油 ん ぶ 津 南 胰 縣 ₹ 者 水 如 在 赏 析 俸 100 331 也 不 雨 經 遼 讓 直 itio 容 码 Ā 路 曰 道 西 東 者 吉 沽 在 2 余 碣 ふ 數 禹 IJ 毗 其 胚 矣 粝 縣 ら + 之盖 治 발 萷 10 底 忿 但 里 J. 莼 是 水 温 當 柱 Jt. 在 縣 黎 為 分 横伊 \* 石 遼 並 山 艰 雅 鸸 樂 极 絕 西 猗 属 頂 ,A, 亭 18 G 頼 普 中 蹴 有 鼢 其 虚 泊 剛 海 流 龍 紒 大 渝 伊 龍 14 當 74 縣 旁 池 石 域 昌 夾 網 ·可 不 女口 理 毐 义 淼 き 峅 析 之 知 柱 水 JK 庥 縣 曰 4 何 衝 承 形 歴 南 柱 往 4 者

著 撕 坚 皇 鱼 没 終 碣 故 北 右 往 水 E \* 左 甩 斩 灰 ٠. 倉 á 漢 ズ Æη 自 胨 Б : 其 杰 可 报 六 药 當 爿 車 1 훙 油 浴 河 ν<sub>τ</sub>υ 九口 Ħ **Q**·) 水 水 大口 溱 帝让 鴐 <u>\*</u> 海 淡 パイ 餬 水 後 故 納 立 為 在 碣 妈 州 南 治 .... 東 Ť 後 JL. ψ × 根 됏 濟 河 深 坌 石 ん 淌 樂 齊 (西) 3 分 137 1 th 淪 合 44 Ē 售在縣河之 糸 河 海 ż وكافع 翋 後 益 然 南 文 淪 名 亭東 大 Ť 油 今碣 陽 1 東 嘭 Ŧ 2 411 单 冷 魏 2 出 油 Z 漓 Б 水 文成 油 4 幸か ; <del>3</del> 天 者 ð. Ŧ P 南 出 Đ 192 今 石 南 塞 A 竌 啊 炔 無 跖 欺 £ 坌 水 极 :61 燥 摊 余 韵 東可 洲 者 祁 其 槛 d)\_ 7K শ্ৰ 柱 登 謂 码 F 沟 無 于 里 又 大 率 縣 也 無 Ā 馬 去 太 上 ÝÍT 其 相 姐 夢 盖 程序 砨 至 Ž; ---¥, F Jt 安 油 ぶ iή 河 知 源 迹 701 岸 治; 注一久 贡 公 往 盂 F1, 遼 m 129 ん m 少 注 背 云潮 錐 J. 年 德 ی 山 水 漢 潚 7. Ď 割 漸 廝 天常 波 10 跉 大 妆 志速 飽速 東 Ė 置 水 指 征 河 樂 54 禹 退 存 可 谎 ぶと 塘 不 jjil ريكل. 佰 10) 安 黎 不 -2-謂 故 連 6 登 ら 酒 じく 桓 1 西 可 4 禹 亭 雨 北 動 2 束 考 妈 53) 榡 世 14 揭 2 燮 AB 前 始 不 帧 50 消 遂一如 故 法 6 安

郡 樂 海 南 大 為 ナ 冯 白 典 IJ 接 チ 雨 許 在 A, 安 솵 関 束 O 歴 海 qú, 此 她 九 泸 対 油 商 則 直 南 縣 為 縣 滄 又 ल Ð 緑 火 ক্ত 泐 春 工 5 沽 浴 杭 又 秋 風 燮 O 副 火 46 夭 江 いく 書 酒 餘 東 ·b) 束 東 束 津 治 2.1 37) 訓 滔 F 12 义 ąp 里 光 E) 東 12 .). 歴 汶 南 則 Ž 又 衞 運 水 九 祸 古 (4) 禹 遊東寧 清 啪 為, 歴 热 海 南 升 沙 河 直 Ä, 西 30 น 久口 縣 浴 喜) 去 Ø 馬 [17] 歴 沽 由 (11) 大 H) 朝 dr\_ 界 九 九 12 .I. 101 셌 14. 後 溢海 28) V 鮮 Jt. 漢 4 70 :0] 逐廣 **,** 浴 油 徘 束 與 **\** 12 地 書 せ 出: 礩 ĥ 2 Pij £) 废 12 僚 歷 謂 逺 勃 D 利 並 西 米 名 南 在 海等 與青 為 津浦 ल 南 撫 数 酒 2 2 浴 分 津 並 徒 有 界 够 為 E 动 চ 王 酚 利 き 骇 いて 徒 漢 支 梁 縣 津 里 楯 分 南 街 戏 淌 E 載 脥 シし 界 縣 歴 遼 房 南 東 洒 帝 碣 鱼 泐 云 胡 至 シヒ 是 束 是 v 東 静 口 沟 往 详 南 石 旗 枿 鬲 徒 為 ,A, 科 进 首 為 郡 又 典 河 扩 *'* ; 津 駭 ,**I** 漢 東 大 也 入嘗 ,II, m 槧 九 縣 津; 珱 九 河 最 其 遼 凍盘 ķ 歴 籽 进 常 河海 東 河 刑 都 南 速 ्रेण 鬽 科 相 相

東光 駊 云 ;ল 云 梨 直 是 刑 史 有 故 隷 河 河 在 得 聪 城 哥 ż 記 扇 河 河 阜 冽 ぅ 本 在 津 正 其 縣 清 养 ìħ 府 髙 南 城 故 沦 交 450 東 舣 皮 云 敖 縣 豹 東 箱 盤 i,t 河 理 西 縣 出 訪 縣 至 分 き 在 漢 南 在 九 りし 平 為 景 有 界有成 縣 テ 云 貝 河 ,亏高 原 南 *)*+| 城 欽 也 故 枝 鬲 皮 歴 郡 杜 道 又 平 縣 亭 津 Ð 戊 th. 盖 米 故 其 当 故 Ũ 城 往 有 縣 ,Ē 쏨 城 黎 界 典 往來 頰 4 住餘 IK 東光 有 于 東 六 輿 濆 流 河 共 河 7.K 計 淶 바 16 金 衡 遗鄭 縣 齊 庿 在 商 南 漳 府 康成 東 威 130 平 ŕή 注 西 好 按 ŧ. 德 有 立 原 得 道 2

> 府 今 狄 九 海 縣 高 釋 뿔 唐 東 齊 徒 士 山 束 駭 縣 2 老 河 直 傷 南 饒 縣 樂 練河 亦 河 > 府 海 安 東 陵 漢 德 南 拔 河 書 縣 詻 ++ 南 河 南 府 刮 縣 平 她 府 it 今 有 有 14 理 冷 淰 覆 水 12 胡 原 府 ŧ. 蘇 其 縣 ·**/**+ 河 南 \* 金 流 差 隋 ŕij 之 JŁ 皮 1 70 狭 東 或 有 謂 西 唐 東 縣 涔 交 灵 無 逕 潇, 城 火 瓠 ij. ,A, 至 河 外 棣 唐 或 ,H, 浴 稿 河 縣 南 縣 河 ~ 有 鼢 뿔 相 東 民 之 津 令 商 東 慶 縣 傳 津 シヒ E) 無 河 尘 逕 徒 北 超 縣 黎 ₿P 陂 胰 Ł) 縣 油 Æ, 分 河 十 也 ्न 谫 FUT 頲 縣 里 理 徳 至津間

束 相 腍 沽 禹 逕 去 2 浒 U 最 縣 吴 へ 亍 九 橋軍 界流 近 海 10 今 濟 大 信 庄 至 史 津 毒) 濩 不 府 海 德 河 誣 州 발 樂 丰 在 也 じく 影 陵 清 樂 上 沧陵 東 縣 河 束 慶 ニ 祔] 套 沟 南 州 敦 之 有 諸 德 百 躲 豹 州 例 里 界 办 盤 南 2 ंग 丘 南 她 歧 γ<del>.</del> 縣 有 É 考 뿐 再) 平 2 儿 Ť 津 大 縣 原 がつ

瑜

東沙

光東全

二油

Jt.

Æ

胡

河

絥

殺

至

地無

棣

縣澱

百

如

鹵

大

史等

河

當

其

滄 古

44

之

南

有

关

連

西

濆

袻

南

清

涫

州

在之

刑

地有

河

隄 漳

岸

数

重

池

id.

沮放

莇

東

徙

漳

£)

海

安

知

北

流

Z

Æ

古

徒

駭

ंग

餘

堇

刑

有

E)

大

河

曰

沙

河蘇

请

瀕

古

强 南

縣

北 西

名

會

U

縣

被

枕

浩

兹

匍

秋

;ল

\$1/

棣

縣

ル

直

沽

海

貢

河

徒

駭

ंग

中

九

沽

\

油

冇

有

稻

河

淵南

数

里 無

西棣

通

德

棣排

東

全

海等

弥

非敏

所東

謂

豹

沱

水

注

2

湛

書

也

理

き

亦之

謂

2

游

...

河

禹

枿

徒

駭 滹

狄

凉

44

北

有

1

傷

河

西

待

棣

東全

一海

兹

非

鬲

津

大

河

經

流

餘

又

分

為

枝

自

枝

既

3:

虎 河 河 史 225-429

徒 宋 禹 陽 乘 £ 色 亍 平 至 河 É] 沟 漢 道 徒 菻 帝 武 劈 ÍK 界 Ò 駭 足 溢 至 定 騏 义 益 欢 河 仁 是 峅 帝 戏 流 是 宗 流 4 決 建 堼 不 汯 Ŧ 受 协 本 脐 ŧ. 清 平 怡 于 謂 赓 河 平 12 獨 合 河 粑 五 九 清 ;ল 原 え え 其 直 九 復 行 歴 +K 決 129 年 河 火 于 \_Ħ. 漟 裡 年 沾 光 老 浾 洪 不 Đ :古 鱼 خج 大 郡 濟 ψ Ξ 注 其 平 降 荡 至 千 ;ঘ 者 漳 水 河 泊 乾 年 乘 東 後 Ð 泛 南 决 河 ъ 13 河 循 洹 水 鄣 或 清 + 决 諸 入 Ť 鉈 合 從 悉 **:**•[ 此 決 表 淌 天津之 軍也 通或 達 商 瓠 故 河 來 油 餘 仍 山 水 河 河 訓 王 **\** 巌 子 Ŧ 不 いス 錐 宿 道 シヒ 水 电 又 影 束 大 東 74 合 巡 斧 直 由 \ ₩) 平 徙 첁 東北 ر، 帝 近元符二 水 数 徒 直 治 源 南) 從 駭 O 沽 쉕 鲣 直 齊 塞 沽 滌 注 柯 いく v.1 胰 渖 ;ল 把了 份 逕獨 沽 渠 Ŧŋ 寒 南 瓠 鉅 ıη 连 至 凶 ₽р 東 專 千 D 注 徒 平 (Fr) 子 骅 東 直 流 年 乾 老 ,<del>(</del>11) 原 址 涌 沽 也 水 來 骇 诗 達 来 单 济 流 于 失 ŭ 直 إناز 刺 道 河 流 止 又 流 熐 中 循 平 10) 淮 軍、沽 E) 浮 故 + 1.6 ?i9 勃 衚 人

步次 縁 提 河 え 狙 分 丹 海 岩 河 元 河 論 五 百 河 水 立 豐 原 內 謀 尺 行 祐 歩 輕 舉 就 獨 v 行 竓 修 東 東 深 乾 流 流 者 湛 下 河 四 流 F 亦 初 10 至 年 流 Ξ 至 บ 有 立 寧 勢 行 心 欲 五 六 レン £) 说 東 李立 至 前 淌 ,गु  $\stackrel{*}{\sim}$ 刑 六 軍 18) X 王 疾 女ロ 充 从 南 利 丈 豊 <u> [</u>[ال 百 丈 u 河 婄 T 沿 经 洲 傾 其 舖 堤 次 步 等 步 自 ल Ž 般 44. (2) £) 九 粘 從 富 深 等 部 黄 勢 年 刷 又 斬 經 百 Ü 東 者三丈 之 之 界 愈 峃 今 除 河 池 É 剐 五 河 議 至 砦 柭 行 分 決 11: 深 九 褂 出 + 河 海 邊 大 空 歩 使 茫 共 丈 年 u 流 流 す 沙 流 呉 五 Ξ  $\stackrel{>}{\sim}$ 臣 v 环 ホ m F 75 僗 相 Jt. 凇 含查 尺 熟 禄 愈 稍 後 至 各 ア 4 10 利 丸 砦 问 次 今 五 稱 樾 筝 D 河 耒 猛 1t 深 水 夜 亦 刻 就 嬩 湯 天 大 十 10 言 流 レイ 行 漠 = 长 步 流 1 至 ŕή 小 治 ্ৰ 旷 下 衝 五 刷 漸 張 丈 未 形 亁 河 じょ 131 办 猫 T 淙 通 桉 荻 竫 勢 流 Ξ 流 ク 四 程 行 在 限 近 界 東 鲎 大 2 丈 黃 典 車 挈 凹 并 知 +

JŁ す 流 漲 遠 (म्र 修從 然築 大 約 娒 12 JŁ 大 按 流 東 汉 聖元年 岸 禹舊 流 大小 禹 深 IJΈ 拐 乾 + O 初 本) 常 Ž 浴 沭 快 Ø 率 衝 里 即 行 出 無 2 渖 年 迹 尺 御 如 埭 錐 枥 軍 今 关 永 .)、 都 可 復 퉚 大 Ż 深 入 JL. 州 iji 河 静 有 津 直 濟 界 兴 桜 浴 得 水 基 诚 2 也 淵 F 缁 渠 沽 衕 海 高 醬 連 縣 使 河 间 利 2 いく 當 保 合 流 其後 東 謂本 底 者 趨 上 理 河 便 捐 画 九 西 è か ٦t 火 戏 兴 沧 者 数 浴 7% ंग 山 劈 掀 ~ 猫 盐 ii 仝 三尘 玠 朝 百 出 勢 諸 祖 <u>بالح.</u> 2 初 流 砂 X 里 趋 當 尾 尚 Ž 水 無 臣 東 O ヽ 來 海 重 44 占 策 至 1 낐 奉 河潭 淖 在 広 , Fr ż 清 末 無 今 元 不 詔 此 縣 水 梦甚近 决溢 쁀 ¥, 之 有大 能 献 146 脩 宋 衛 東 俱 坠 獨 制 河 敵 月 治 史 潞 北 在 之忠 流 ŕή 流 河 稍 捍 .). 又東 水 乾 河 娰 安 聚共 禦 久 K. 兴 方 源志云 供 弹 逃 流 JŁ DI 稍 漲 Ξ 侵 \$ 3 軍 泛 台 下 溢 决 増 汉 犯 ĸ Jt.

措 高 俗 覇 ッと 至 元 神 鉅 信 中 漳 逐 宫 南宫 £ 年 率 单 深 林 漲 流 鹿 都 也 河 **尿盖** 為 並 水 į 大 亢 趙 F \* 水 升 合 武 又 南 2 不 有 再 ₿p 河 掃 平 西 偁 萬 又 強 宫 いん 大 UF 黄 1 决 É] 河 由 請 礼 河 趙 觏 火 其 1. 兩 衡 艌 事也 宗 宗城 之 7 界 脎 决 計 F 凼 脩 祐 溢 水 44. え 也 城 ŕή 故 平 路 五 樂 滋 水 衡 清 宣 洛 年 今 Kin 道 其在 Ξ 經 歴 年 ж) ₩p 為 在 水 平 扔 縣志云 屡 喜 和 廣 决 河 又 祭 害 浴 か 沿 鉅 専) 縣 \* 被 清 平 信 阜 内 = 奇 宫 大 甚 達 邉 麂 言 44 都 年 F 府 黄 縣 城 水 等 式 掃 埽 \* 濕 大 於 河 南 河 ;ল 宋 縣 曲 樂 ig. 2 軍 崇 英 五 亢 亦 决 詔 强 宫 溢 周 决 え ŧρ 毒 りし 西 寧三 (É) i 豐 瀛 怡 19 等 信 運 13 溢 聖 平 有 者 决 河 至 危 年 五 縣 \_\_ 41 都 ٠,٠ 貆 2 中 Airs 决 黃 則 हीः] 武 年 年 尚 桶 樂 害 鹿 甘 又 庿 今 10 H 自 弛 ァ 吉 强 臣 詔 **:** or 善 冀 漳 縣 '堤 桉 宗 JL 乘 勢 故 流 趟 巨 有 縣 僚 溢 及 埽 ナヒ 阜 \* 詔 水 決 道 鉅 廵 僻 否) 吉 胡 吉 循 永 俯 儲 10 徙 鹿 流 Z 核 北 へ 下 돟 奉 絽 静 大 平 縣 葡 澗 河 ŕή 挣 淖 脎 混 較 Ŕή 聖 詔 軍 姐 壊 河 于 シス 經 श्रीकृ 毒) 水 ;ग 决

省 新 馬 Ú 决 受 而 縣 ۶t 河 移 글 海 3 两 Z. 勢 為 入 , 企; 姷 使 £ 孟 縣 道 有 神 道 .). 云 東 景 當 宗 陦 疏 揆 北 柯. 河 唐 河 畨 西 新 4 又 其 漳 縣 Ż ·;-Ż ė 눟 爬 東 油 河 售 枥 云 河 JŁ 43 意 Ŕή 班 寧 撘 若 宗景 d) 徳 計 水 東 JŁ 番 又 左 秸 m 怠 治 Ã. 流 馬 平 読 但 外 東 道 勃 河 [B] 车 千 遏 能 F 年 收 備 售 至 頰 1. 在 稻 海 海 ソヒ 安 其 Ť 流 ল 東 年 棄 後 Ĭ ्ण 馬 <u>```</u> 無 縣 至 通 # 樂 濟 股 न 衕 决 徳 弦 束 為 棣 ٤Ì 谷 西 無 恩 美 快 視 要 陔 上 南 南 v~ \ 北棣 狱 九 大 縣 シヒ 其 沟 帰 州 **إ**نكِ 運 誻 州 無 府 東 六縣 次 合 河 Ji 棄 患 浛 絠 平 Jt U 决 Ž 縣 至 篇 東 縣 在 南 + Ž 庿 Æ) 河 Ú 强 界 欣 Ŧ. 界 坚 ,Æ, 今 六 里 南 境 埽 深 共 뱊 蜊 雞 于 其 縣 景 縣 泸 决 + F 河 考 寛 談 Jt. JŁ 清 **不** JŁ 四, 里 流 뿔 東 啊 毒) 义 福 誠 注 逮 不 束 븰 爽 有 '年 立 東 東 粉 ニ 注 縣 又 误 1 V. 瀛 淮 再 年 チ 束 縣 斷 河: 紒 シヒ りし ગ્ર ٦t 是 政 防 載 Ž. ,B 3力 海 又 六 流 後 流 シと 企 'V) 茣 和 8 欱 猶 约 喇 ・シヒ 裳 河 逕 初了 緍 + 変 河 肼 五 束 河 流 回得 楝) 里 浴 平 首 ,A 水 字 勃 相)

> 4 年 ż 歐 ہا 决 在 陽 慶 縣 脩 謂 東 歴 2 南 京 年 JŁ. 唐 有 東 歴 商 故 道 五 胡 代 2 自宋 泱 いく 及 仁 河 宗 宋 不 景 ヘ 初 馬 黄 祐 河 ぇ 烦 者二  $\geq$ 年 Þή 有 行 樾

1)-1

宋 仁 宗 嘉 祐

五

平

JŁ

流

狻

浃

為

股

河

£

规

Į.

東

x

勢成 徳 滄 東流 海是 か 為 松 東 流 其 後 展 經 决 溢 え 符 年 IK 流

河流 沁 决 于 梨. 2 第 六 棉 杏 稱 為 股 河 们 狸.

馬

颊

河于

南

胡

上

流

10

25

六

塔

集

者

稱

為

六

塔

PT

東至 津 縣 魔 凶 河 西 雲 界 德 則 IK 縣志 滄 馬 首 頼 河 ナ 于 勢 玄 ø 里 馬 海 連 合 自 篇 麂 鬲 颊 又 謂 津 河 馬 实 É 亦 2 流 丢 東 淌 樂 謂 빂 陵 Ż 流 又東北逕馬 篇 至 新志 流 稞 禹 云 至 恩 河 鉤 城 其 博 東 么 盤 東 德 2 J. jt 南 IE 嫜 前  $\sim$ 派 注 謂 在 海 鬲 旅

鈎 盤 往 復徑通勢也 馬 無

楨

河 勝

又

連

鉛盤矣

要

2

九

河

本

不

甚

遠则

與局

棣

火

有

酒

河

濶

数

里

西

通德

棣

東入海是

بلا

則

土

河

U

治

按

JŁ

₿p

古篤

馬河亦

名

ΪĐ

河蘇兵

曰

ت

流 流 湛 あ 津 뉉 1 東 )!<u>]</u> 津 徽 淌 經 海 由 流 乘 潔 どく 者 勃 泊 秒] 決 d) u 175 黨 וינ 津 Ŧ 潔 v 從 禹 告 徒 水 濮 끼 有 利 禹 津 骇 陽 狭 滷 錐 矣 指 漢 廝 本 Ż 11-**Q**·] 式 ħ 東 :¥: ホ デス 及 ź. 武 為 沾 能 渠 71 南 夺 光三 帝 Ł 注 衮 鋞 Ŕή 流 峃 鉅 潔 息 故 其夏 年 由 宣 鸦 經 餘 끼 彦 2 [v] 漢 通 鸡 波 L 道 ō か 道 淮 义 從 È 東 潔 從  $\sim$ 由 沙 河 油 濕 呖 长 北 榎 沃 ۶t 壽 至 胅 μľ 餘 끼 打 シヒ 東 亦 津 + 波 Ł 淸 誚 渠 來 温  $\stackrel{>}{\sim}$ 孙]

年 成 平 **√**∠ 办 帝 東 又 Ŧ Ŕή 溢 景 決 Ţ 趋 数 平 始 郡 俗 放 129 尕 窯 沭 **;**or 平 £] BP 従 濟 浆 河 涵 利 決 陽 南 南 津 鍃 7 束 Ŧ 乘 來 阁 海 至 王 Ť 书 河 菻 平 並 武 來 勢 许 原 帝 油 本 挡 河 時 O Ť 決 南 潔 利 褪 7 津 有 11 郡 來 也 狹 餘 里 後 泛 7 11-平 平 六日 因 不 原 里能 + 水

> 金 馬 ナ 亢 分 Ž. 又 故 注 為 岄 孝 常 枥 世 濟 東 城 邑 及 祖 **利** 潹 沉 JŁ 分 至 派 五 為 津 奶 海 又 水 平 え 32 JL 東 注 2 治 ニ 河 河 沁 水 JŁ 玄 4 + 决 由 遂 本 枝 東 河 北 肠 六 漢 .6] 水 水 絶 水 武 年 清 束 決 東 じょ 枝 故 4 河 張 火 逕 後 津 提 通 **\** 秋 幺 P 大 注 淮 河成 爹.] 浙 4 1 2 F 封 大 17) 城 潔 F 之 夏 μß ナ 經 بح 凄) ŕ٩ 水 築 而 沁 行 南 注 東 行 滸 利 東 大 立 束 南 幺 津 注 讨 敝 歴 手. 潔 歴 裉 A 洲 Æ, 縣 忧 琅 水 九 O 1. 学 どく 栤 逕 槐 漈 禦 + JŁ 7 船 抗

盖 2 桑 潔 制 縣 ニ 者 在 馬 城 津 制 又 2 束 南) 北 濟 為 义 在 馬 常 激 2 抭 乱 南 馬 河 常 枝 流 坈 Ų·J ·m 狂 へ 于 濟 海

黄 翩 哔 縣 U 杢 海 ল 南 有 淀 西 縣 至 Z 海 處 南 沙 東 博 ·IJ 阜 去 14 昌 割 浴 剖 縣 縣 u 涌 X 東 潮 灰 垄 丈 + 與 合 シヒ 利] Ξ 周 凿 涿  $\sim$ 津 里 河 淌 丰 2 海 里 觸 不 界 在 10 海 知 故 縣 有 呼 何 名 及 副 東 為 考 崻 河 U 挺 濟 鬥 從 淡 高 চ 水 u 而 え 苑 售 洨 鸣 りと 和 運 か 十 涿 縣 高 濟 き 里 東 水 玄 水 浴 白

容

至

是

景

黎

山

阜

杜

米

76]

防

遇

衝

要

疏

决

稚

滯

-1-1

唐

海

2

O

12

蒲 注

基

41

津 背

之

界

쇱 狹

景

福

败 £)

流 柬

始 漢

亞

勃

本

縣

西

北

又

東

りし

至

無

棣

Fn

注

す

沟

浦

立

水

79

更

相

巡 在

有

兆

Ð

2

.)-

打

及

揚 其 糕 折十二 州 縣 二海 Ð 大 三縣十場 あ 妓 13 東 折 東 十去 栖 + ٦Ł 浴 占 ル 海 两里百 十治三海 矣 岸 2 東 水 束 五里州 躲 中 É ¥ 歷 È 里一里口百海 也 窜 東 淮 百為去二去 有 則 江 44 Ð 南 其 治 ЭŁ 東 又 格 安 南 縣 방 歷 得 Вp 海 至 南 又 與州十縣 東 東 東 協 古 南 林 J. シと 44 <u>.\$</u>. 縣 化治里治 菜 東 ı٤ 业 及 来 塩東 城 徐 際 دل 縣 陽 則 南 兖 义 陽 浙 歴 2 福 阜 鹄 縣 至 拔北 縣 14. 鱼 义 是 今 束 東 東  $\stackrel{>}{\sim}$ 諸 北 分 1. 根 東 窜 通 徐 --界 逢 為 ı 林 歷 水 折 分 為 南 一海 14. 縣百 縣 莱 南 文 百口九海 淮 其 縣 新 徐 あ 東 界九 **全** 東 榆 丛 東 于 妓 西 JŁ 表ニ去ナ去 水 又 為 縣 站 压 縣海 JŁ 會 古 ź 南)州十縣里縣 塘 江 東 Ä, 縣 訪 揚 シと 東里治 治 15 琅 É 峃 水 至 ット 又縣 淮 又 南 城 沥 祁 如百湖又 Ð 縣 東 海 東 ~ '東 水 西 又 臭 四去 阜 沟 凄. 海 掝 歴 束 束 りと m へ 滇 2 讷 也 2 東 + 41 (幸) 将 12 歷 北! 海 抡 北 扩 U 赵 港海里治 幺 縣 U ·歴 逺 #: ·fn 州海場岸到東興 11 4 之 東縣海 海 東 海 U 摐 (F) Ż 為 治去去掘在二化、北治去 1

Ť

淮 里 銴 金 南 縣 海 潮 ٧Z + 旁 能 禹 义 東 落 至 里 梯 LE 百 J, 南 涎 至 則 **デ**え U 1Z 丈 無 テ \* 里 東 旁 本 微 水 風 縣 縣 治海 \_ 停 海 頃 啊 又 唐 東 東 三去 枿 È 套 利 大 北 海 D 沙 7K 刻 乎 考 東 其 過 南 其 海 口治海治海里縣 海 其 数 無 又 出: 150) りと ニュニュ 岸 \$. 又 ·}}: 形 ヹ 平 北 刑 水 出 4. 油 東 安里縣里縣 뵈 Ú 湖 u 油 梯 道 遂 也 諸 X 上 東 來 14) 大 亦不 ij 百 剧 又南 淮 道 海 未 人 \_ 倉 恋 外 幺 之 반 南 = É 析 縣 水 エ ĥ 可 it. 上 . 淤 翻 兖 + 旅 志 ·全. 峙 4 不 之 ΡÍΓ 施 有 奉 九海 蓝 玉 淌 胍 4n  $\lambda$ ż 得 いく 夫 1) 去 為 苗 胀 十去 時 术 其 山 シヒ 海 籽 治 流 日 那 每 粽 束 里州 沙 有 いく ist 桜 淮 浴 者 2 水 上 Ð 14) 勢 岸 套 耒 五油 至 巡 M K 是 毌 #: 첾 2 不 又 寸 嫩 梯 脎 治海 十去 然若 惟 -7 徐 樃 深 Ŋ 能 三去 四縣 堂 周 正 排 淮 並 南 有 淮 티 Ż 尺 不 南 里歇里治 义 束 v 在 塞 水 \_ u 天 È 寸 织口 東 全 獨 脎 流 又 又 揚 流 42 \_ 主 梯 其 峅 而 會 東 南南 每 半· 又 有 **(17)** ・ソヒ 业 脐 幾 番 1 潮 至 山 つい + 幺 体) ソヒ 云 沙 in 3 沙之 7

武毅 胚 又 母 惠安 斯 西 通 补 文 浒 歴 極 ï 西 太 ~ 产 矣 庿 ョ 바 南 平 鍞 亦 東 安 歴 樂 海 油 由 雅 旁 浴 赊 清 泉 u (2) 南 源 瑞 終 U ٦. 縣 連 安 縣 Ž 不 又 江 平 太 南 凼 折 能 多的 长 틍 ,<del>T</del>7) 酬 又 南 樂 縣 ريبي 歴 西歷宇海 w. 来 至 大 非 10) 福 清 抖 文 佁 溢 油 泛 刺 水 縣 136 包 縣 東 歴 金 赊 浦 攻 東又 义 福 J, 沙 記 (本) روتج 街東又 杨 安 丏 建 恃 南 西 粽 稻 .>+ 南 入り 東 弹 之 歴 :4) 前 (幸) 14. 歴

者 神 自 與 汶 أمر 江 縣 謂之 ٧Z 水 循 張家灣 南 河连 井 汶 大 Q 山 亢 4 南 :pa 上 至 \* ,<del>,</del> 泉 人 通 北 河 合 M 南 E) 一世市 テ 轉 淮 **(1)** 河 Į·] 西 開會通 盡大通 漕 鹄 達 流 會河 聪 河 茶 旺 蘇 Ñ 後 Ó 運 ٦٤ 考 城 至南陽新 清 水 係 從 直 分 也 松 若昌 沙 通 ė £) 流 滙 秦 沂洗三水 37 淅 者 直 U ф <del>(17</del>) 齊 通 世 杨建 河 北 潾 北 平 江 淮 ग्न 出 :0] 河 黃 至 14. 都 **#**] 運 南 經 楊 W 뱌 瓜 山 5 が 直 道三千 道 歴 濟 河舊出茶城 張 (Fr) 城 諸抵 俵 時皆當有 総 上 沽 南 過 袓 東達 也 湖清 徐 運 秋 连 名 浴 吕浮 全直 大 淮 幺 合 打 淮 水 v É 之主 通 餘 水 影 包 杨 者 ·jr) 安 溜 天津 也 d 清 `v] 沈 榞 里 至京 前 遒 Ŧß 洗 者 河通轉灣 河 合衛 會黃江 東至 今 粽 É) 舎 河 會 .), 其 文 此 Ö 海军 淌 いく <del>(</del>m) 衞 水 謂 v 뎄 关 训 瑜 火 A 河 冇 河 計 為 いく 心色 Ł 沂 京 Ż 70 河 之 倬) 州 中 河 後 쉸. 禤 水 江 毐) 及 的 晒 由 淌 生 入 Ė 北 天 **⋠**•] 矣 清 至 水 之 1, 軍 而 天 河 昌 井祠 海海 者 E) 毐) 長 清 夏 也 河 O. 東 津 漕 中 i) 河 娅 盐 通

會通 瀹 錦流 资 本) 諸 新 汶 2 An) , ¬ 4 + + 城 注 81 泉 有 汝 决 飳 水 Ð 河 Ί¢ 南 里 + É 渚. 挑 谷 Ė 馬 ₽ 派 六 沁 河 ρ'n Ð + Ð .). 有 南 白 th. 緊 安 搊 運 E) χħ Cic-JŁ νír 滙 抗 湖 4 υŁ 渠 ,<u>3</u>, 泉 僡 泉 至 溜 水 通 分 家 3 般 J. 31 有 办 毒) 貫 纠 榞 ত 交 縕 是 稱 衞 南 周 O Ξ 嶭 至 水 x 止 濵 共 清 葪 dr. ナ 升 12) 1, 赤 2 ハ 其 貃 JŁ 河 RAT. 中 : <u>?</u> 束 ŭ. 故 淮 八 + 129 + + J, 外 4 由 U 潮 泉 街 楊 有 14 里 + E ांग 北 Ξ 曰 周 Ξ 池 臨 1 詻 ंग 羽 五 源 河 里 Ð Ð 五 VA 清 徴 淯 有 百 漕 泉 會 湖 Ð 水 JE, Ð *)*H 也 南 + 南 溢 1 稍 Ξ 九 于 泉 41 者 夭 邗 南 派 南 陽 溺 Ð Ð 餘 + 6 北 水 井 ~ 濟 \_ 搩 尴 出 ďΕ ंर्ग 大 亦 南 B 里 會 里 唯 里 澶 江 東 + 派 茶 徐 10 右 日 Ð 孟 由 .). 10. 於 地 水 瀆 だ 窕 齊 城 35) 派 有 有 昭图 巫 Æ, 阵 曰 減 净 赤 3. ंग 洧 رالح. 六 五 v ल 家 J. 硶 1. 3/2 水 T 九 龍 流 濱 泉 E 弧 14 E) 湖 沁 周 曰 极 大 漩 王 + 平 + 凶 ρ́ſ 苗 蘇 + 沙 11 分 溏 髙 约 訓 × R 並 詄 有 水 采 她 水 河 者 鲣 衰 रा 有 ··· + 小 刼 城 爲, 档 2 六 為, **7**}; 六者 省 BP ル 會 1 餘 茶 74] 十 又 連 尺 14]

五 常 有 **ジ**ス 荗 河 ग्री 宿 積 病 運 溏 沪 淮 Ž. 分 通 濟 為 + (27) 上 溯 Ξ 標 道 不 工 ЭŁ 光 7K 池 東 水 江 بخر 有 運 杰 中 Ħ 1 2 įή 相 高 滙 曺 傍 慮 浸 O 月 者 书 哟 冷 涉 洪 運 13 茶 舟 4)\_ 為 淼 椄 翻 52 淮 **'**阿 消 又 き E 城 不 湖 河 ď. ~ 惟 泽 侵 高 講 則 澶 レス 其 為, 出 至 並 者 鉑 中 濁 澶 F 家 有 凼 通 雨 4 上 壕 流 會 鎮 後 ت 10 油 u 路 J. 者 堰 Ł 石 江 舟 败 酬 防 *-*₺ 去 北 通 U 河 百 陽 由 源 至 拒 创 挑 濟 + 與 池 旇 河 險淤 33 则|淮 六 科 其 劈 楊 E 庿 刑 有 黄 運 遠 會 河 曰 有 安 + ďη 五 社 浸 チ 淮 工 江 道 里 鈋 **河** 答 T チ 下 武 抓 連 N. 安 流 亚) Ŕίτ 運 禽 T -主 洪 餘自 家 A) 揚 築 ē 安 東 水 清 六 いく 有 毒) 1: 北 避 里南 射 +++ 由 逐 王 部 由 ij· + 防 董 U 董 \* 包 齊 路 37) 箾 陽 ج 五 伯 高 爪 分 里 坬 溝 運 E) 溝 = 北 FD **79**° 百 湍 諸 塘 張 ->+ 푦 為 河 洪 ,平: :0] 衍 淮 河 嗣 1.1 湖 應 × **v**' ス 道 福 康 通 74 2 漕 離 流 河 上 Tij V'4 清 + 팃 滋 = 连 12p 西 洮 湿 셹 者 + 上 河 里 701 直 U 有 育 捉 Ť 安 江 由 佐 其 BP 從 南 沙 矬 河 台上 地 又 禁 江 上 樣 啃 應 其 刷 苗 與 不一近 沙 桃 燕 其 心 流 半 馬

剃 H 遳 R 刚 澶 ቀ 清 避 明 u Ť 其 黄 江 運 河 江 刚 逝 'nſ 雨 紒 心 道 六 4 Ž 泸 人 4 む 南 河南早 太 縣 里 IJĒ 止 仲 之 莊 河 Ą. x 险 'n 道 榊 Ł 盐 專 運 又 チ 进 ψ 适 取 清 站 扩 人 泸[ 湖 歴 ; J ۱۳] 11 ż 縣 卓 棩 耧 水 JF., T 河 進二 里 故 :•[ 打 ~ 直 Ė) 格 魞 達 提 湖 沙 漕 張 2 と 河 4 莊 JŁ. 古り 2

射間

清

江

科

河貨鉄

2

**∮**•]

0

首

之容 浩

呖 進

於

屻 為

嘉

初

河 亦

從

南

不

符

ホ

镁

治

·ivi

游

運

رتة

• ]

z

漓

梗 靖

古

昼 蓝

矣

书 枥

審武

淮

۲.

ii) 被 Ψ

及

站

14

水

全

盗

之

-15 라]

順

水

É]

4)

2

性

þή

۲.1

激 Z

告

殷 C)

彩 ,Fr

羧 治

感時 之 極

鷊 人 屈

制

之 カ

戦 女

瘃

Ý

ďή

2

告

JL

ď.

河

淮

輸

抖

之宜

雞

極

於

枝 從

河湖

がし 南

無 りし

不 迷

果武年之 育 公 11 聖謨 吞 不 总 復 裁 大山 越 有 為古 倠 載 Ť 钪 A 驮

就納

江

毒)

2

率

输

莫

水

漕

逕

2

告

発テ

ប

倍

钬

7 丈

泊 JE .

水 粹

堰 2

腌 利

兊

悉

삸 陸

今

江

٤)

北,

莳

道

則

浮 T

河

54

達 可

[0] 不 40

南

扒

ut)

ï

Ήj.

シス

達淮 之也

349

Ä

制 青 **Q**·]

打滿

通

:1

淮

隋

益底

\*\\

遂

A

琳

利矣

外

宋 主

腴

瘅

AF)

復 猶 ψķ

避

淮

胶

刑

視

河

亢

江

淮

成

什

淌

運 100

财

ネク 当

> 'n νZ

運

آفز

運

尚

峅

計

為詳

南 府 4

運

É]

2 +

嘉

淅

府

王

江

泾

11:

入

南

宣 故

云

淮

10

;v[

南

從 推

2 行

後

沚

水 旅

遂 道 得

為

酒

梗狄

然宋元

諸

臣

言讀事者不

Q

河送前

刼

府

南

**海鎮而東入衛恆湖** 

五

+

里

#; 嫗

平 河 江

望

為濁

流

ŕή か

洮

是

じく 亦

南

常送于

街

奔儿

\*\*

ķ

於 淌 利

\* 江

呉

江 河

滕

境

凡 淅

Ξ 江

里

迎平

望 A

鎮

E

南

Đ 蘇 遠達荒

极

其

後 古

鄭 者

白 栗

Ž

渠

遠

3 Ú

il:

海之

所未

江

一南

ij 冇

ŧ.

٤)

米

2

肰

出;

\*

4)

رآك

陸

国 家 ż 本 计 在馬天成 威 ヘ 教 可 书 疝 核 凚 Ϋ́Υ 4: 亦 動

沂流 盏 儀 河 清 勒 南 江 120 ۰ f] 計 載馬 尤 頏 育 度 中 涉 江 支 運 河 南 il 取 道 者 運 會清 道門 在 沙 船 悉 ;শ 江 東 遏 南 Ē 江 濟浮 是 Ž 南 4 江 火 惟 故 街 共 南 工 江 直 ⋞ 為 淮 餘 林 供 運 漕 河 道 夭 運 舢 2 津 涉 攸 絧 艫 4 衜 倒 江 移 者 惟 浦 栖 R. 100 J, ЭŁ 瓜 E 셗 (v) 书 爪

史 225-437

長 常 里 又 溏 松 里 皂 南 江 主 江 西 山 韭 運 亭 至 热 秋 里 青 西 X 縣 運 吟 + 34 江 4 塘 縣 河 北 -}-府 唯 냉농 新 城 ٦Ł 縣 俱 :07 捞 陽 縣 ¥ 南 又 亚 為 里 經 華 亭 陽 夾 東 2 文 合 澶  $\langle T_1 \rangle$ ٦t 鎮 义 並 亭奉 常 冶 + 青 文三 浦 縣 又 曰 大 31 又 縣 长 里 緣 适 為, 31 南 抗 ·m 倉 浦 + É) Æŋ. 涇 漕 逐 チ 歌英 漕 府 + Ψŋ 14. 縣 東 里 Ξ 船 南 長 里 滸 運 빙 ij 义 狐 火 34 密 運 無 + 南 31 11: 至 錫 + É 墅 洋 大 1 自 縣 JŁ 里 :3-,Fn) + + 里 縣 秋 府 縣 境 為 捞 縣 盈 山 日 **i** 里 里 西 社 妫 為, 五 又 漕 浦 工 西 又 メヒ 亚 合 運 又 L ソヒ 又 \_ 海 裳 Ξ + + 運 摭 ,Fr. 茶 りし 南 出 戚 洲 -1-JŁ = 里 兴 南 74 + 湖 五 ナ 河 湮 里 西 िं É 验 幺 至 里 東 淞 里 里 火 榊 -又 滙 又 亦 + 堰 出 呉 逕 青 至 逕 江 A + Ð 高 里 里 髙 又 -1-2 + 2 望 里 撘 里 府 古 'n '人 浦 -里 南 極 E 夓 栋 城 \_ 亭. 基 摭 至 至 城 + 4 福 亚 新 \_ 横 合 里亭 泉 里 樹 + 巡 西 河 江 林 無 + 安 來 丁 쌝 业 79 5 里 渡 又 為, 弱 X 堰 縣 五. 十 六 里 シヒ 姚

彭 极 城 鎮 丹 又 奎 + 又 宜 出: 河 4 京 瘤 Ξ 為, JŁ 江 业 徒 北 東 按 受 今 清 白 趁 Ξ 府 府 里 來 躲 縣 鎮 鎮 + 庿 左 D 庿 ナ 江 水 常 • 漂 里 至 + 城 漕 運 江 神 通 傳 又 陵 陵 ッし 首 逕 府 陽 X 프 南 運 河 \* 涉 31 棉 帐 驯 变 至 呉 里 府 縣 丹 里 紛 運 É 幺 F 130 娍 大 江 射 江 ニュ 城 椓 陽 為 讀 河 縣 荆 城 足 FB 江 西 通 湖 チ 陽 城 縣 奔 運 北 南 シヒ 溝 淮 禹 西 江 南 掎 三 4 港 達 12 Ń 训 貢 シヒ 沏 D 都 氿 里 肺 出 又 鎮 + 146 幺 江 是 渠 錐 縣 湖 榞 里 珥 稍 义 江 宋 淮 v 指 A) 水 縣 **A**. 亚 運引 遼 府 清 為 注 漢 又 ヹ 娍 宜 -1-西西 新 河 城 吳 楊 志 作宋 云 乙 蕊 典 里 東 ル Ŧ 뷮 幺 又 州 中 江赵 表一 江 縣 仝 X りし 稍 又 都春 ŦР 府 肯 濆 痖 里 **'**+ Ξ 2 迤 江 بخ. 水 縣 秋 淮 江 溪 里 荆 + 椓 吳 築 都 東 + 通 水 浉 有 逑 法 遊 业 X 合 渠将 粮 城 縣 シヒ 經 栈 次 五 里 逕 #; 守满 五 蘇 注 水 14 道 龅 西 إِنَّازَ ĬŢ 里 齊 育 りと

有 臼 江 城 楊 チ 年 平 air. 韓 霸 馬 <sub>d</sub> 通 ·II. 和 业 2 ıίς 河 ŧ 漢 た 俟 テ 都 ~ 江 狯 29 刼 あ 注 中 至 南 江 守 吳 橋 <u>=</u> 歐 道 淮 A 又 榆 岸 運 縣 + 合 亦 函 þ 陽 席 束 朮 扮 हा 南 王 九 抡 運 五 日 ٤ì 音 江 河 翠 寧 為 里 啓 餘 沽 扮 洁 31 村) 消 庞 撼. + 7 B 西 L 刷 ò 渡 府 河 為 五 ēр  $\Psi$ 14 146 X. 江 淮 酬 Ž · 江 安 淮 揚 뇄 丁 制 きら 1-1 溢 ż 里 達 Ñ Ā. 7K 江 エ 東 等站 運 埭 沸 码 俟 楊 夫 1. 則 É} 耍 (E) ह्य 祈) 元 運 + + 陽 ₹ 六 Ξ 浦 庿 南 法) 尺 子 33 **3**10 ï. + \_ 鹵 陂 築 = 清 府 河 里 復 いり 餘 在 义 率 ź 東 渠 里 p 鸿 故 # 舖 年 + v.7 4: *}*+\ 业 通 道 至 晋 城 刺 亚 歩 料 1 縣 影 7B 合 义 運 庿 陽 城 713 **₹** 永 始 淮 溢 史 + V 4 縣 漕 及 西陵 謂 訚 120 F 齊 in 洪 里 相 40 臼 爪 逆 湖 煬 ·**美** 年 Ž Æ, 掘 **,** 城 ቀ 羚 ÚŤ. É] 步 庶 靴 E) 沙门 . YY. Ĕ 4 · F新 4in :I 秋 بل **રે** 艦 江 仙 6 陽 满 陽  $y_i$ 九 汉 梸 由 大 剐 メヒ 都 쇸 城 西 業 謂 皇 月 山 幺 出 水 v 伊 河 晉 江 橋 2 x 櫛 省 揚 包 浦 12

> 六 寧鎮 湖 兴 太 又 山 合 東 平 而 بذ 縣 Œ 又 西 府 ょ ঠ্য 漕 + 答 州乙 四 X 里 連 運 E] + 高 里 계심 坐 江 至 #: 火 述 江 自 繁昌 釆 縣 稚 闹 بت 汉 |津 行 石 北 縣 渡 + 鎮 出 河 里 出 采 Ū ヹ 又 一魯港 4 主 丛 ゟ 樊 -1-1: 河 L 楊 里 = ٤ \* + 至 江 + 府 江 五 五 俵 五 竛 + 里 里 里 筏 狩 至 縣 至 2 江 束 治

江江口即太平府之東梁山

寧園

府

省

城

瀧

画

南

改

旌

合德

大

平

六

ii:

並

1

于

府

JK

灣

江

ंग

11;

北

杨

清涩

O

峃

池

F

流縣

北

水運

陽河

渡 *.* : ib 距 縣 荻 亚 江 ж, v 洪 東 府 妈 流 溜 里 人人 縣 + F 逑 省 五 iŃ 自 江 池 里 青陽 東流 粽 至 包 銅 湛 縣 縣 陵 1 濟 縣 西 大 ग्ण 江 六 通 + 行 里 鎮 江 至 建 百 德 大 Ξ **:** I 縣 平 + 蓟司 府 五 陵 自 尧城 义 縣 至 凼

江 無 2 水 為 貫注逕運湾 jς 14. 岸 由 浙 盛 洛 .)+ 府 河延進漕 釛 合 出 肥 舒 和 出 + 城 杉 巢  $\approx$ 溪 袙 三 縣 U 溪 又 漕  $\mathbf{p}$ 運並 = + 江 里至 廬 是 果 江 太 湖

里江 縣 府有 安慶 贵池 至府 門又 表 Ė ħ 舟 里 ,H 楊 由 太 いく 娄 傳 右 水 縣 府 至 府 水 龍 縣 同 西 溪 五 1 漕 チ ٦٤ 侍 अड 不 河運 Ž 安 Ż 次 梁 諸 麻 ٦ć 桥 江 西 筆 運 應 + 禁 伯 一番 '古 忿 新 科 府 馬目 南 ىد ++ 該 五 自 12 埭 謝 压) 在 懷 與 水 溢 溜 أَوْزُ + 距 44. JŁ 里 淮 44 哂 鑑 公 謝 懷寧境 東 4時 工選菜萸 海縣 里 鎮 江 又 船  $\sim$ 縣 抓 毒) 出 治 16 梁 至 縋 儀 江 x **\** ナ 並 高 ,<del>Ti</del>) 議 ρή 六 بخ 杂 + 里 運 江 + 瀕 ہل 東 徴 禽 為 渠 + 作 復 貅 泊 里 围二 È 桐 ェ 五 渡 灣 里 jŧ B 築 桉 牔 JŁ 潜 里 城 峙 至 劉 膊 江 和工 至 埭 李 埭 文 + 節 iti 縣 :b 江 J. 随 + 官 りと 3 達 JL 剕 v 2 ·Κ 天 里 É] 大 至 16 v 江 松 Ξ 林 Ψ Ξ 來 翁 じょ 聖 趋 縣 速 驛 D 樅 湖 瓜 達 看 X 中 水 ナ 五 毒) 東 陽 步又 iÚ 南 臼 里 + 楊 ्रंग 酒 監 往 不 监 淲 岸 jķ 西 •  $\mathfrak{F}_i$ 里 與 真 146 唐 矢口 州 逕泊 行 並 東 쇕 為 至 縅 许 始 部 府 巡 州 ı É i 交 J. ナ 府 松 埭 排 稻! 何 伯 加 望 14. JI; 舎 + 湖 六 之勞 常 岸 埭 城 是 睛 奎 Ψ 府 士: 江 + 供 東 犆 流 售 司

郵州 又 束 729 是時 旁 洲 北 表 為 + 直 21 合 流 城 水 呖  $\geq$ 宋 徐 高 Ξ 錮 行 濟 里 淮 天 于 可 東 宿 交 澶 史 144 長 E Ż -}-ユ 其 郵 流 淮 流 辨 */* 部 由 合 初 七 G 襟 15) 縣 里 娀 謂 于 耳 鎏 郡 Jt\_ 湾 129 в́р 過 為 為 朿 (i) 溜 日 2 壁 <u>}"</u>} 尚 协 vマ 連 \* 露 砫 真 ψ 運 汴 Ż **W** 典 有 唐 達 角 至 丸 逕 1.5 刮 筋 1 方 炭 12 **/**+\ 錐 U 钊 縣 京 ज 清 泗 洩 仲 胂 廟 汴 縣 な 氽 指 與 元 至 師 証 44. v 楢 孫湾 荀 梁 又 漕 許 水 盱 中 云 元 79 也 浮 文忠 流 運 ょし ंग 古 쇱 いよ 怡 韓 不 表 竹 柄 淮 河隄 Ξ 士; É 汴 兩 Jt. 河 愈 雨 知 ,<del>4</del>77) 注 业 使 + 315 城 西 為 南 水 佐 何 多渡 城 ネカ :in ــــ 張 里 東流逕 伯 出 澶 界 롼) 徐 肼 [6 H1. 河 T 逶 綸 O 湖 運 距 流 14. 改 壊 2 行 里 A (E) 直 幕有 要 涇 凡 流 主 汴 淮 故 于高 湬 į 高 通 栖 彭 ょ 衝 ,щ 末 從 道 汴 17 運 北 湖 里 潮 城 3 城 夏 詩 枿 中 柒 1) 哥 為高 郵 **E**]  $\stackrel{>}{\sim}$ 褲 縣 惟 東 色 ヹ 廢 王 1") 使 **J** 告 シヒ D 永 涓 To 火 汴 滿司 又 チ 南

舒應 逕 漫 又 护 載 宗 宋 皮 年 洪 建 淮 R νZ ;e 31 14. بتـ 旗 FD 高 為 言 黎龟 石 太 泽 な 之 初 刑 轉 光 Ŧŋ 又 東 縣 縣 *3*65 1 亀 宗 榆 鄅 辏 黎 輸 上 狡 東 31 湖 嫜 又 ٦t 運 有 J, 脩 凡 運 Ji. 肥 湖 新 り 沒 v ν. To ナ 扩 又 **5**. 米 使 洲 使 渾 寧 ቀ 清 治 四 東 為 败 -西 (Fr) ぇ 許 積 河以 2 लि 湖 徙 チ 汴 + 四 複 + 火 里 稍 西 北 為 年 水 至 Ł 4 河 九 亢 JŁ 下 運 \_ 五 北 i + 散 城 達 足 長 制 Ē 有 里 É) 五 + 里 可 東 楊家 里 漫 洪 误 仑 湬 + 18 洪 乂 淮 里 ŢŢ, 為 龟 ä, りと + 多風 澤 É) 遂 運 x 清 風 可 徂 枥 隂 泽 亚 里 折 廟 湮 湖 是 複 使 ż 件 里 浪 惜 舒 7K (Fr) 界 為 而 4 河 冷 舟 孳 安 绞 粧 ì 汯 新 澗 潭 覆 風 首 里 甘 西 褲 令漕 濟 松 行 + 運 拯 熈 河 一遠淮 溺 浪 自 ٦ť 馬目 又 + 浦 淮 义 郸 五 無 使 復 Ż 亀 鳰, りと 2 里 愯 又 А. 神宗 事 狡 哥 丈 **.** 将 欲 ·\2) ż 束 僚 4 支 為 四 ナ 摊 深 運 運 ;; 從 珳 ⋞ ٤J 坏 갋 五 平 + JŁ 使 奇 過 元 溄 洪 \_\_ 里 浦 狡 2 百 淮 五 10 李 뿉 丈 **₹**29 澤 運 避 里 + 為 里 F 安 楀 漸 μ, Æ, 諸 使 五 5 型 \$ 舟

> 塩 城 新 按 高 縣 两河 家堰 漕 不 運 從 武 自 行 家 運 制 墩 河 河 東西 臣 塾 靳 淮 提 女 輔 為 府 築 墛 明 JŁ 室 出 河 Ø エ 行 い」運 便 新 往 ; 來 後 凶

义

折

西

北

稍

:3

東

りし

凡

-1-

五

里

為

版

肺

淮

灦

在

馬

又

iō 南 陰 之 氽 冷 東 轉 凡 太 宗 耒 運 ·m 完 5 -1-痽 北 腴 淮 里 ff) + 舟行 中 受 五 70 代 輅 里 西 各 為 流 便 運 清 使 Ξ 之 維 永 + 岳 劉 江 史 浦 里 繼 炶 喬 議 2 日 糾 維 州 山 沙 河 陽 岳 侢 \*£) 湾 河 楚 51 水 組 努 岳 44 避 至 淮 湍 為

淮淮

水

磨 運 溶 喬 從 府 盤 舟 故 德 維 3 東 沙 J2 岳 2 켾 ंग 凡 باز 為 Ýή 四 豹 置 立祠 削 車 維 十 脯 娸 ナ 里 东 通 ヘ 河 规 卅 屷 淮 售 度 迸 南 永 渠 梸 樂 水 河 益 故 全 行 + カロ 考 沙 四 六 疏 先是酒 河 年 + 治 里至 自 平 紒 末 ュ 年 U 是 至 伯 F) 淮 至 瑄 陳 2カ 安 淮 戏 瑄 围 巯 陰 澶

樂 安 疎 + Ξ. E 瑄 年 讲 埧 抵泊 渡 五 月 淮 進 脷 r'1 故 達 清 清 老為瑄言谁 江 ंगु 浦 70 u 明 挽 運 大 宗 安 者 實 thi 卞 勝 西 錄 勞 有 澶 舯

永

主

淮

江

伯

悍

東侵 坦 是 省 峙 抵 宇 坝 悉 13 家 Jt ±: 直 靳 맨 I ¥ 年 家 i บ 不 刷 粒 坝 坝 P 咨 唯 內 輔 湖 促 71 字 赴 笋 諸 科 松 智 建 五 £) D 地 桿 治 ナ **; ग** 以 淮 翰字之 训 外 宇 Зþ 泥 新 湖 置 河 湖 \_tt\_ 運 ল :II: 車 悲 於 妫 安 書 拱 淮 往 通 心 3 纟 7 вp 10 盤 故 淮 榊 清 信 五 北 便 沚 ガシ 外 准 河 新 淑山 初 字 嚴 训 v2 ;~J 之 逃 沝 曰 水 ;'ল 义 抓 江 70 治五 潘 清 東 彪 桿 V.1 移 峃 遇 娸 鄞 YR, 不 ヘ 浦 4 為 చ 李 淮 清 江 15 風 谏 淮 书 便 王 在 之禁止 運道縣 2 E) 外 いく \_ 新 Ø 紅 馬川 E) v 科 2 江 南侵 清 绞 煃 淤 東 清 退 **y**2: Ď 腥 O 城 3 等一 寒 农 : 17 於 ;<u>z</u> باد 入 之 沐明 哂 河 許消 と 髙 E + 窸 74 連 É 云 舟 惟 淮 街 神沁 處 泸 福 里 為於臣 外 瑄 有 Ų·] 形 城 南 放 揩 رہ 被 河 從 圳 いて 鲣 幸) <u>;</u> \_ 131 数故王 È 底 洒 ंग 埘 鲜 水 レイ 14) 曰 清 14 È, 名宗 民 北 修 **7**ĵ 31 全 遂 郭 捍 陝 萬 商 31 考 R 州工 Ė **;** 湖 石 沪 油 山庙 淮 验 绞 U エ 国旅 訓 水 仁 船 船 院 軍 禮抵 字 炖 \* いく 相 衝 排偽 經 7K ら

是 淮 瑄 靳 清 為 沙 椿 西 追 河 T. 亦 哟 淮 縣 2 河 गोः 掌 濉 Z. D JŁ Q.] 卣 ¥2 不 榊 水 省 出 চ 兆 及 Ξ 免 档 址 夭 þή 餘 治 至 Зp U 5 岸 道 羽 Ξ 内 刷 牽 里 清 + 丈 ;ল 器 Æη 緊 吧 古 淮 14. 哉 至 里 十 栏 乙 淮 書 沙 12 ゃ v 接 戦 2 安 清 2 单, 為 丈 禦 水 图 大 水 工 維 大 睢 府 淮 流 非 移 歴 半 夭 네 躯 17) 江 江 3 桺 寜 水 2 為 典 運 役 制 浦 42 か v2 從 縣 桃 遠 內 故 扯 **(i)** U 天 南 苗 觫 次 河 淮 避 改 周 源 築 矣 于 苗 袓 臣 旭 各 [호] 叵) 建 .). 析 陽 蚩 縣 半 交 然 有 湍 運 運 新 潘 渖  $\tau_0$ m É 府 流 徐 典 莊 াই 東 河 季 舎 無 V1 水 Ż D ~ È **~**H 聚 琪 苗 運 連 牔 ተ 是 松 於 2 懐 D 列 出 府 Ŕή 為 髙 10] 決 沙 黄 爛 £ 洰 v۷ どく 遠 2 清 **⋞** 使 Ξ 泥 截 省 紨 秂 JŁ. 爪 火 不 絧 勞 逃 重 ん ż 淮 清 4 U 平 镁 塗 例 夗 山 矣 2 交 Ż エ レイ 壁三 姚 ·fn) 牌 <u>;</u>\_ 枥 \* 淮 蕭 骐 對 外 碭 工 冻 **會** 化 ょし 挑 避 ħ 2 黃 黃 亦 挑 不

及宿 並 淮 縣 首 縣 始 湧 英 Z 盖 河 縣 ·迦 挑 粮 流 生: 助 U 成 奎 75 いえ 至 運 清 家 南 挖 通 4 .}+ \* E 2.5 O **ሉ**ት 轳 v2 兩 莊 34 由 惠濟 査 库 2 ¥ħ 垒 康 Ö 办 上 家莊 岸 兩 8-鳳 <u>5</u> 44 Зp 滙 楢 稻 助 u IRS. ল 隄 漲 月 陽 苖 家社 府 粑 逯 首 中 祁 河直 \* 河 八工直 於 有奇皆急 他 の東 10] 縣 縣 府 縣 ż + 折 縣 河 棚 ゔ 阜 ď. 注 ì 運 ż 上接張莊 張 五 37) 枫 改 初 > .Æ, 定 大 道 運 陽 河 酱 淮 ++ 莊 年 從 建三丈 西 河之 府之霍 遠 縣 自 溜 運 輧 仲 じく 河 JΚ 疝 但 柯 势 奔 家 中 ~ 西 會 運口 跙 D 輔 不 西 楊 老 +44 上 莊 南 深 滞 姚 名 教 計 カロ 縣 莊 11/3 建 風 之單 淮 程 剧 里 挾 並 挑 2 云 毫 봚 垄 故 U 至 躗 钣 x 出 不 粮 在 運 於接送二限之 **,**,,,, 粮 洪 週二 ナ 直 縣 楼遥二段 楊 D 河二干 金門 ₽\_ 船 後 蒙 家庄 隷 ٤J 改 運 泽 直 \$ 城城 隷 清 湖 彭、 ¥ò. 12 從 ñ 拾 百 縣 牌 由 *)*+| -餘丈祭 清 餘 楊 廿 Ż 河 大 凗 水 清 及 安 家 運 縣 之 701 里 和 城 盱 14. 河 庄 座 勝而 ïF ्रेश

呈 御示 常 楊 逕清 油 Z 槲 直 歴 里 吉 謂 2 围 清 矣 牔 莊 無 上 A 14. 達 有 後 桃 漕 云 ψ 避 紒 康 運口 u 义西 例 13 并 ト 河 镁 張 源 首 u}] 者 衹 河 淮 翰翰縣 仲 相 哉 熈 ψ 縣 者 行 清 之處矣 然 莊 為 西 莊 河 12 河 對 ٦٤ :•J 道 亩 代 南) vΖ Œ 河 Ξ 塩 為 ż 牔 邴 五 Z 治 為, iv] J, 上 .I., 129 T JŁ 改 水 **!** 運 里逕來安集五 西 陽 接 数 河 通 治 火 里 年 訓 往 牔 建 河 ٦Ė 莫善 里 張 工 安 2 運 河 水 於 往 欽 逕二公 3 p 東 莊 = 由 A いて ₽p 勢湍急遂逼黃流 適 例 楊 蓝 仲 運 來 + 52 チ **[**1] ŕή 家 淮 河 達 莊 × 浮 D パ 重 狂 清 ://u A 20\_ 並 運 年 庫 か 畒 治 河 出 V 里 + 駱 油 澶 者 河 ф 2 D 行 理 X 馬 vþ 使 袻 河 黃 黄 粇 好 深典 里 達 湖 かは エ 河 粮 水 河 É] 山 含 歴 船 2 竣 者 书 暢 溎 州 仲 集 桃 攔 出 清 凡 ;ল 其 北 泇 流 ゝ 莊 源 馬 清 治 水 清 無 X 通 百 里 肺 縣 下 河 里 運 PIT 河 五 :47 彻

仁.

中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央
--

其治 則欲 者是問 運治 也禹 計然 肱 鏡推元之貫魯元明 治 JE 治河後策 曰 為圖 元史 謂非救時之才臣宜其治績為後 下巷 施 流 泎 · 精推漢之王景其治者凡 汴 供帝 治 渠成 渠 漕 智巧也買魯河在 贾魯治積考 河 河 河 河渠志先是贾魯為河堤使者指河相視驗状 以二策進献一議脩築北堤以制横清一議 ボル 魯又安得以 故漢詔 いく 積禹其尚 燕 上別天灰不 洮 齊運之法不 ۲۷ 都之寓玩 治運南 不至 選王景用以 北 族 矣 E) 展股 京 rί 河之安 可 欱 汴 火 來治 南流 二千餘里之實輸實惟司 抑 南 渠 出唇之設施則魯功 斯 **酒然東溪都洛陽所急** 肱 不 河以發運又欲資河以 决壞漢志一日 涂 **河緩而皆無全無患不** 河者皆不 九 至 澜 南 \_1\_ 施智巧為 者千 則欲 淮 Ð 馮 x 祚 沟 納東南 + 泰粹 景 六 所詳求也數 出昏之區 X চ 猶 一勞永逸 平 脩 中省 餘 可 汴渠 南流 年 之栗 彻 ¥2 東流 可 展 域 者 ょし 股 沒 波 派 可 河

薦 .ig. 棄 谐· 東 河 便 泰 40 **ジ**ス ;ল 瘌 Jt. U 车 施 . بۇر 河日 行 沛 京 宋 ゥ 宜 乔 豐 ΡΉ か 青 司 1k 防 渠 功 秱 峙 盐 帝 悤 魯 沛 12 指 亢 1.1 復 家 码 書 不 淮 结 年 船 為 復 拚 覧 码 Þή 故 稱 道 吉 남: ŕή 1, ÇV. 稱 故 道 是 5 故 ;ল **ो** 水 2 虚 復 Ú v2 云 鲁 北, 11 き. 道 始 京 道 (幸) A 至 他 thi + -'p-毒) 故 功 滤 東 古 東 がし 犒 亚 れ 行 沚 夏 苗 河 道 电 沪 2 溢 當 于 耳 d) 汁 故 エ + 行 B 拔 盐 揭 斩 故 後 ₽p 幺 渠 道 於 五 淮 ナ いく 趟 杂 道 南 蕭 九 有 汴 復 年 至 者 Ł 又 家 清 月 戼 팃 懋 码 È) 渠 干 景 東 故 徐 矣 月 120 當 应 當 台 129 袋 ž 1 T 九 茅 か 治 道 平 水 A 家 ·}+·] 刭 城 時 ψ 時 陽 Ŧ 土 命 丞 六 城 ふ ंग ंग 蕭 道 ż v ? Ŕή Ŕή E) 下 · (2) 相 南 油 東 *F*] 夾 從 エ 赫 故 謂 F 誚 U 陰 31 畢 脱 為 桜 滙 浦 道 Æ, 渝 失 注 河 まと (A) 東 溝 河 沛 基 獻 詻 紀 脫 3: 其 決 合 न 牧 絲 流 為 稳 治 縣 -329 准利 策 婦 朱 故 媝 瀛 17) 大口 4; V2 Ð 其 ल 從 津 諸 道 成  $\sim$ 何 稱 韓 梁 上 南 而 45 溝 後 防 码 淮 共 抓 냈 ~ 夏 12 溝には 浮 家 者 流 胃 策 盖油 成 使 ·×. 哥 河 P 1, 魯橋 道 者 鱼

滤 O 定 211 シス 青 = 從 逮 ريد 商 廏 胙 纤 溝 至 坦 浪 在 周 通 宋 年 王 河 故 津 厯 胡 年 道 今 河 城 ż 滂 松 定 不 河 五 , ~ 仁 2 河 1. F. d) 13 南 ~ 怡 矣 肼] 渠 宗 年 陽 王 省 年 竹 她 改 テ É 在 遂 ニニ 河 行 五 景 從 汴 颒 改 F 澶 戏 後 山 F 汴 漸 1 年 口 東 有 子 袩 淫 7 逮 非 濮 逮 课 业 Ť. 训 'n 王 液 濟 ح 亦 え 明 爽 長 2 復 金 肾 汴 至 年 末 旺 渡 林 壽 不 帝 年 章 提 決 南  $\sim$ 渠 徐 沓 隐 ~ 沙 **ሰገ** 津 凡 南 始 か P 府 宗 ,47) 永 Ú +14. 隐 ρή 70 准 -12) 1.5 商 戏 建 平 界 而 汴 明 復 東 F 欲 + 誸 (n) **奶**. エ 有 ょし 闯 昌 渠 胡 + 不 河 ょと 通 故 故 支 淮 瀢 47) 六 栊 Ξ 合 又 凡 5 合 撟 道 者 派 22) 年 逑 年 To E 漳 汴 耳 九 雕 未 40 329 24 會 上 辛 六 屯 空 渠 Z £ 水 故 百 甲 行  $\lambda$ 河 始 A, 久 功 + 景 末 决 ~ 示 Į·] X 汴 ₽\_ 淮 畜 A) 為 矣 餘 뇸 於 治 在 40 淌 K 101 + 又 渠 自 益 JŁ 成 汴 뫘 年 狐 テマ 故 10 × + rin 至 决 仁 亢 至 [P] 河 2 渠 淮 宗 肾 百 ď. 丰 129 汴 門方 コカ 表 明] 足 經 平 (2) É] 逍 耳 X 平 戏 柒 J. 武 废 柿 亢 17 4) iti 可 下 又 長 為 歴 離 #: Ā 湖

徳元 意 捯 式 決 自 淌 東 + 河 إفر: 癯 **→** 1 (بن<u>ن</u> 含 陳 泰 ল 金 前 經 决 120 32 in) 袋 淮 年 年 11 平 事 定 項 山 颖 难 艉 合 寸 治 涡 v 城 澤 河 大 **\** Ξ 睢 亢 是 而 又 中 淮 V 令 V 涡 達 平 月 金 含 ヽ 欲 決 河 睢 Ξ il: 视之 河 É :00 原 <del>(</del>47) 泸 太 泳 14. 曹 ٥٠ 淮 南 中 水 縕 汴 TT) 徐 家 亢 **Q**·] Ě 又 颍 决 柯 ぶ \*\* 河 : 13 和 淮 奏 含 出 144 ⋞ 挟 湘 何當以 城 争 *[*0] पंग 云 凉 又 欲 FD) ₹р 不 衐 河 7 ¥. 含 汴 袔 2 由 家 至 X 西 솘 州 ; o] '今 ~ Ŧ پۈن 懐 月 南 汴 陽 É 宿 汴 汴 屰 張 荆 ল ~ 又 淮 表 逐 淮 祐 4 逑 又 達 含 义 行 秋 欲 含 山 J, U 定 水 唯 Ð Ξ 為 决 頄 經 Į.] 上 <u>j29</u> :e9 汴渠 併 **\** 下 Ц 軍等縣 满, 年 ぇ 栄 睢 ĬĹ 河 就 亍 ж. + **FO** 徐 数 為 平 皇 柯 欲 注 三 椀 ホ 71 颖 淮 支 淮 陽 舍 44 庚 平 牁 就 Ē 由 m × か 就 東 + 41 河 <u>`m</u> <u>-</u> 太 F 汴 支山 淮 河 上 ,jāj 河 淑 自 台 义 幸)  $\searrow$ 又 5 束 年 推 和 又 歸德 淮 欲 رتن 祁辽 欲 經 河 决 5 水 荣 2 エ 縣 秋 幺 含 人 デマ 哉 沚 疎 社 肸 含 水 又 基 影 眀 :益 為, A ;গ 衍 沙通 X 沙ツ (F) F 涡 欲 *}*₩ 當 蓝 月陽 縣 人河 二洪 4. 1 塗 含 <del>,</del> 自 就

> 於東 杰 탓] 于 今 ニ 南 17 江 治 遷 地 南 Z 名 迅 Đ 2 工 タヒ + 改 .2. 至 南 ⋞ 其 -); 3 也 通 呖 治 欲 年 者 ल् き **令** €) 後 不 扽 枝 Ł) \*1 河 可 什 南 É J٤ 之 考城 買為 治 大 大 曉 從 五 萬 夏 使 耳 六 都 4 河 歴 就 苇 糕 轹 情 a, É] 河 115 シマ 後 贯 斷 運 西 道 形 年 今 魯 丗 人 河 之 亦 ₹" 自 謀 百 陔 雷 凼 之後 大 餘 i 幻 徐 復 兽 茅 恩 岡 ·š 久 . 歳 ंण 府 可 2 又 17) 河 悭 **河** 故 雞 竜 功 故 當 火 都 不 故 漫 道 不 亦 時 PE) 敢 滥 适 河 矣 11 使 敢 换 外 靡 防 苑 主 エ ~ 使| 常 河 财 ٠)، 記 37) 鉅 伅 浮 河 嘉 稍 ŕή 在 衮 就 稍 檢 出 載 挤 江

考 桐 司 歐 者 呖 有 Z 益 严 陽 俗 河 深 直 が 嘭 馬 者 繇 2 え 冇 有 名 南 至 部 無 紆 磃 127 果 12 正 很 Ž 河 E) 凼 海司 為 凉  $\stackrel{>}{\sim}$ 构 河 直 生 言 流 防 文 柳 ₹& F) 3 其 又 鏊之 凼 32 河 曰 其 有 治 师 不 Ž 故 導 載 治 造 暴 河 ण 道  $\dot{z}$ チ 法 2 就 凼 E) 謂 為 故 **₽** 191 河 10 <del>(</del>47) Ż 有 後 不 云 道 习 扼 馻 故 骄 為 せ Z U 去 謂 有 75 道 *j*a: .)、 河 有高 ~ 冻 補 17 水 塞 ~ 4 夾 有 河 有 疏 3: 塞 故 3 生 有 幽 詳 他 洛

髙 曲 刖 U 秧 抋 有 築 狂 姜 湖 深 و 曰 始 析 垄 筡 者 浙 難 者 Ž 水 u 白 水 ゎ Б 生 Fn 扩 生 颂 受 4 有 17 名 庿 水 ρή 塥 船 停 尥 白 へ 者 取 淌 交 水 Z 茅 等 ~ 貉 豁 錢 \_11, 踶 有 者 37 11 庿 5.1 热 沾 ग! 水 ŕíŢ 水 ū 17] :5 4. 51 里 通 長 停 古 百 生 趨 光 草 棉 棉 會 退 有 水 v.1 計 算 長 步 v T 堙 卑 堻 般 셅 悍 陨 É] Q: 17 南 高 \_ 稚. 法 初 高 反 有 其 *b* O 木 d, 2 故 新 U 白 资 + 5 凶 F 截 单 推 愁 汰 ल 鉠 有 挾 F #] 茅 河 Jt ホ 庿 养牵 治 身 河 水 者 桕 杙 水 U 评 筝  $\Psi$ + 至 চ 推 踀 就 棉 况 v 2 有 者 ;ল 里 故 浞 刖 劉 維 彼 札] 包成 制 水 **[]**·] 者 計 道 水 7 有 絙 莊 + É চ 折 矢ロ 维 高 Ž 轤 นุ้งเ 頀 **&** 胡 漲 2 水 歩 畨 五 村 其 深 通 有 2 不 浓 勢 深 陵 팃네 끼 方 挂 有 评 放 -1 接 壅 行 塞 2 峫 席 脵 枞 滋 龍 之 丈 = 田 ·^) 也 貉 月有 单 雞 其 河 法 Æ 有 築 됐 步 出 U 故 及 丈 至 低 為, な いく 項 即 泉 有 溶 于 者 有 槲 糕 脩 in 南 庿 猫 制 岸 售 de 用 σξį 築 水 故 D + 相 E) 白 弦 办. 共 常 马 凡 有 没 华 茅切 龍 土 補 里 停 道

通 = 尺 長 深 旭 庿 三 里 Ξ 桕 並 + + 報 槭 百 故 步墾 里 析 囙 垫 ত + 3 折 丈 補 四 九 實 Ξ 有 道 凹 凹 停 有 生 墾 祭 五 + + + **ر** ر + X 大 いく 庿 席 里 里 歩 狠 (<u>m</u>) + 窊 3 池 + 凹 掃 歩 步 土 墾 步通 = 里 尺 里 歩 深 生 生 歩 坚 ţţ. 吉 牛 面 凿 里 + 庸 六 減 (百) 池 + 池 T 上 孙 报 卒 庿 步 六 庿 旭 句 拊 Ξ じく + 丈 ナ 五 水 築 尾 爷 \_ 停 深 歩 有 歩 至 庶 河 120 + + F 六 + 者代 雜 + 河 廣六 深 百 诘 哈 九 尺 深 / > 六 + 哟 南) Ξ 五. u 梢 ず 多底 尺 其 里 歩 里 步 五 岸 五 िं 前 大 步 相 底 + **\***·) 尺 塞 深 墾 爿 凹 ú 六 尺 豁 第 燕 底 榧 莊 步 庶 長 專 + 張 庿 至 里 又 庿 Ø 古四 五 庿 連 深 至 張 歩 赘 尺 四 浴 五 九 通 村 围 重 梢 丈 Ξ 專 特 + + 五 凹 下 有 長 缺 函 店 + 十 秧 繁之從 + 西 = 席 店 步 里 歩 尺 卣 至 17 + 歩 河 Ė Ξ, 隄 專 高 1 ボ 里 拡 + 脩 六 楊 里 :T. 滸 v 南 R 歩 有 生 下 (호) 旁商 里 青 水 提 + \_\_ 五 浞 北 極 丘 丈 池 + 相 Ξ ेग 歩 尺 ナ 村 长 百 置 前 里 長 歩 折 通 ф (2) 重 梅 S 百 椽

槗 東 弢 بتر 里 歩 廣 牛 + + 烀 (2) 1 廧 隄 いく চ 兩 表 草 F 減 相 珱 狯 不 上 東 4 六 x 蒲章 Ξ Ξ Ð 等 裏 土 革 接 涵 v. 1 参 水 拼 里 K. 南 Ξ × 埽 + 售 長 松 砂 <u>;</u> 並 培 通 工 梢 T + 隄 歩 高 至 + 綿 高 1 蒋 足塞 接 惰 诏 -步 步 三 季) 上 售 並 X.L 丈 膊 置 有 岸 築 梎 岸 翛 ž 빉 + 內 10. 店 有 索 行 椿 佶 歩 者 燕 浪 丈 番 36 六 岸 西 止 ニ 剏 五 徑 说 坐 挴 掎 者 外 歩 O 五 長 復 陵 築 長 寸 尺 法 + 高 三 平 尺 築 **}** y), 其 Ξ 全 四 作 岍 許 歩 17 + マス 築 庶 里 iol ช 處 補 河 六 底 修 築 大 里 工 者 45 頼 尺 轹 习 第 不 歩 置 ニ 庿 大 土 踶 水 报 舊 百 從 格 等通長 售 = 計 T 三 長 换 棒 隄 中 \*1 没 T 其 ;ল 五 鋪 高一 堤 重 + U + ច 木 刺 及 六 岸 (西) 水 + 廣 v2 者 亚 草 有 步 129 正 岸 2 歩 北 者 水 至 可 .). 丈築 通三 麎 + 隄 侑 土 五 老 上 石 ~ ďÓ 赻 歩 五 长 並 坐 髙 長 档 \_ 李 二 价 水 事 接 庿 里 補 補 第 有 \_ 歩 B 長 燕 堤 + + 伄 脩 隄 (29) 里 砌 丈 X 1#1 祭 青 長 = 歩 有 宅 長 歩 + 長 7. 入 两 重 端 也 百 其 有 (III) 等 西 四趾 水

可 索 成 納 数 百 百 家 寡 厚 又 槌 積 漈 大 湍 絡 \_ 1 1 掃 立 2 尺 餘 2 順 坒 摩 覆 累 高 繋 制 44 خـ 其 束 者 高 旃 祭 F 掃 大 丁 尺 壮 ニ 掃 既 腰 じょ 夫 為 + 莹 索 3 者 先 2 水 F 上 畢 夂 索繋 丈 厚 竹 至 管 步 迮 長 数 埽 50 锤 立 或 為 後 νZ 萍 復 缵 萬 档 號 千 ζ; 辅 又 丒 短 土 施 犄 遊 後 其 Ξ 叠 テ 索 いく ~ 亪 為 不 す どく 餘 宜 其 摇 丈 前 角 椿 两 Ż 等大 卢 浕 足 匀 就 相 3 池 挂 腰 工 埽 修 旁 逐 法 工 炭 布 繁 埽 為 ~ 棕 档 N 叠 復 並 至 卷 不 東 (2) 者 聲 實 峑 料 厚 綿 復 索 渠 禹 v~4 掃 掃 (2) 動 丈 西 高 P 推 v 2 紿 致 力 鋪 腰 土 陥 揺 埽 掃 窋 五 レス 两 = 索 74 徑 晉 鐵 河 皋 巷 于 峑 牛 壓 Ð 掃 丈 F F 有 丈 綿 ~ 葦 Ξ 稍 17) į 猫 先 務 雅 力 大 戬 业 及 寸 索 谜 .)-٠(, 高 腰 端 麻 大 单 其 F 不 使 椿 兩 **ジ**ス 于 索 桊 亥 渠 橛 健 者 大 ₽p 牽 2 足 掃 .1-ቀ 就 .). 其 大 四 推 2 火 p 2 不 掃 掃 T 制 44 じく 石 2 寸 上 上 繂 下 水 上 振 梯 [14] 量 梢 v٦ レス بثر 土 絡 47 素 じく 長 じょ 斧 丈 推 エ 長 散 置 7K 繼 F 土 牛 2 絽 袻 单 餘 卷 3 ~: 緽 2 竹 \*\* 妩

埽 v- 1 並 索 淮 通 旌 Ã 步 里 + X 渰 有 隄 44 脩 行 高高 \_ 单 隄 鐵 40 ₹p 里 祭 ត 葪 掃 法 商 五 終 掃 歩 前 其 土 Ë 大 草 猫 v۷ 岸 九 x Î ऋं 大 贬 唯 等 丈 ф 椿 ວ 拉 餱 竹 土 + 接 + 上 脩 沒 脩 索 等 大 管 庿 分 拄 おり 土 X × 長 合 金 脩 大 庙 或 祭 商 R 析 歩 <u>ښ</u> 步 程 五 物 椽 隄 埽 及 與 চ 索 3 麻 曳 其 どよ 其 通 颠 + 水 西 水 本 下 長 刺 餘 索 埽 管 勢 截 2 五 作 M 庿 在 JŁ 步 增 44 拖 水 冽 長 歩 其 祭 4 河 成 うい 凿 六 起 ħ 絡 土 ニ อ 刖 長 わ 南 隄 隄 Ż 俟 步 東 彦 人 4 女 脵 批 臼 索 通 帚 麿 長二 百 長 JŁ 隄 又 人 趾 西 ナ 不 龍 献 .)-管 遠 五 髙 尺 四 v 1 倍 故 坍 栋 掃 步 ,)-同 U 烲 朿 水 + 煮 চ 稅 隄 ナ 之 者 慮 梢 祭 火 通 稍 石 Æ ず 五 累 \* 五 東 x 草 呖 長 不 ュ 化 並 庿 前 ىلا 蔸 ঘ 等 步 x 後 + 大 Ð 掃 Æ 雅 强 南 + 欄 3. চ 其 + 尺 Б 長 Đ 歩 埽 Р́Г 至 里 ŔŊ 工 棉 土 四 步 者 步 歩 餘 家 F 129 + \$ 'nξ 河 及 + 掃 40 再 管 高 Z 廣 2 家 + 至 挂 前 U 有 步 掃 前 刮 91 F 于 帰 ~: Ĺ 戽 鉳 (2) 丈 V 1 朮 済 雨

通 顿 長 涏 築 有 غاز 尺 刺 勢大 水 行 2 決 升 後 高 至 \_ 起 脩 耧 五 Л 里 又 水 3 方 10 連 河 又 里 Ξ 水 黄 尺 新 水 南 及 ニ 故 旊 (₹) 17] どよ どと 丈 陵 從 水 向 補 档 截 + 四 च 北 河 淌 北 大 九 大 高 73 五 東 땑 句 五 毒) + 庿 九 台 河 敦 + 麻 栀 八 故 尺 丈 茅 = 幺 赵 + 炿 IJ Ξ Z 四 難 索 七门河 或 東 泽 中 有 ず + 故 梦 长 百 限 ۲ 前 じよ 長 Q. 44 五 亦 刺 起 粮 流 踀 九 猶 5 か 餘 两 F 癸 17 栋 絙 尺 高 廥 西 水 ょし 草 里 颠 步 短 ^ 遂 棉 79] 丑 11 用 水 截 南百 大 五 庶 4 水 約 故 争 激 大 进 且 船 丈 + 従 向 河 主 四 六 河 1'F 魯 掃 流 水 流 身 麻 流 步 至 爲 ず 五 大 + 四 深 尚 流 ō か 行 近 索 排 緞 其 澤 ず 尺 訟 拟 贬 河 Ξ ク 先 船 或 精 故 綘 竹 大 膜 通 颠 内 三 两 西 丈 Ø 大 9 遅 カ þή 河 船 بتر 絙 高 至 高 高 刺 那 拟 末 2 隄 恐 份 餘 障 v \_ 絞 F 岸 水 杰 司 X 水 西 盖 关 水 水 益 ル 水 + 縛 令 丈 丈 百 丈 大 杪 不 土 盡 ٧Z 恃 岸 办 刷 x 牢 緞 高 五 并 筝 有 踀 水 隄 是 决 西 故 湧 岸 秋 艘 為 不 尺 丈 通 大物 河 漲 Jt. 前 河

17 他 莇 藻 敽 麻 合 臼 溢 者 中 埶 F 東 JŁ 功 赐 索 Ž か 桅 44 ぶ 面 故 截 插 劂 Ð 糈 分 冻 2 復 編 縛 復 得 尺 いく 實 船 長 河 峻 火 水 44 番 定 鐵 睛 箩 各 者 弄 どく ż じく F 梢 水 10 若 教 從 絡 任 / mil) 木 夾 駁 齊鑿 棉 和乙 猫 勞 瑟 雜 2 #; 默. [1 大降深淺 倍 楮 vΖ 復 腹 チ 人 家 (本) 増 法 前 水 **ジ**ス 無 G 他 草 執 岸 柱 縛 布 义 上 草 Ħ 隄 弟 法 基 2p 並 沙 谷 流 使 爽 石 横 5 鈽 大 址 土 重 掃 165 元 いよ 船 鏊 舟 麄 立 木 子 散 槭 硾 等 椡 搟 巨 中 Ä 餘 误 斷 2 草 立 Ē 2 极 エ 六 不 水 沙] 栋 船 高 すわ 流 船 JE 追 水 船 偃桅 工 湍 一番 簅 復 水 テ 繋 **レ**ス 齑 暝 غاد 水 迍 **?** 中 首 前 寸 炉 絙 樸 **\** 卷大 章 宜 足先卷 绷 深 岍 \_ 夾 舟 尾 炏 約 酮 .)-义 填 後 後 後 数 120 糝 岸 後 長 桅 重 v 1 石 硾 草 埽 垛 復 沉 掃 丈 功 123 上 44 選 冶 夾 いく 丈 遏 布 F 及 掃 掛 マス いく + 用 ت 搥 台 舟 絙 餘 じく 決 水 壓 大 繼 峙 ,), 3 物 絡 Ξ 子 杰 重 迹 部 盐 名 エ 埽 道 2 2 埽 河 步 Ž T Ξ 長 維 板 努 便 日  $v^{\chi}$ 為 前 3 乖 刻 G 水 一九口 土 約 大 舟 ×! 水之 狮狼 釘 牛 怒 梨 船机 站 施 倂 役

諭 容 俄 用 龍 交 祭 掃 øŌ 半 쯙 17 夏 前 徑 热 工 丈 遠 前 辭 2 功 索 棉 U 厚 農 砝 批 秋 \_\_ 埽 2 雞 遂 魯 者 故 尤 簿 前 杨 各 指 家 工 寸 2 功 潦 決 į. 神 艱 或, 合 Ρ̈́Τ 多家 劆 場 科 及 硾 旁 **;** 视 水 餘 3 觀 淬 四 決 もか 丽 後 道 再) 2 苗 冬 麻 圃 U 土 浆 或 不 掃 秧 3 河 冇 龍 桶 稚 置 枹  $\stackrel{>}{<}$ 春 裉 索 エ 书 让 五 動 胜 12 絶 之前 珂 具 勢 Z 青 O 中 ~ 液 变 感 弁 心迹 始 流 櫟 邿 長 抬 別 淨 2 e) 流 11) 蠊 沢 觧 出 ż Ξ 故 激 7% = 置 稄 壓 术 繋 轆 為 又 勒 議 水 後 夾 道 赴 擅 猛 先 V-1 掃 軸 百 難 難 得 横 **デ**マ 面 復 出 胨 疾 後 エ 羈 凶 隄 .)þ 木 者 X 肆 横 北 執 通 俗 + 進 沸 埽 前 麽 + ₹ 石 次 岸 流 上 木 カ 幺 官 撼 又 いく 徻 掃 步 白 じく 後 2 当 ナ 客 ん 2 為 吏 河 Ŧ 月 捕 錮 نت، 出 É] 鹏 3カ 岸 立 船 功 桂 其 大 エ 基 浞 雞 D 其 水 + 土 袓 视 禹 木 隈 南 雅 後 챥 合 ľiô 沓 前 余 岸 牛 ຈ 常 129 南 河 Æ 又 せい 然 梨 E) Ł 通 · 达 岸又 穴 单 又 亦 rt 道 復 淘 有 大 勢 歌 + カロ 大 氡 丁 ナ 繋 ~ 櫛 成 修 土 掃 ん 歩 椞 水 2 不何 酬 1). 相 從 V 4 猩 難 功 水使

稱書 廥 草 귀 通 ٠٤٠ .Q-挴 崭 兽 秋 玑 <del>(</del> 治 沙 Ŧη 并 前 办 4 習 物 漲 清 m ΞŒ 有 槲 ÿί. Ŧ 至 孟 周 捉 治 2 充 船 ひか 不 (e) 但 逼 不 次口 カ ų, 浪尋 ž 遺 河底 俟 河 重 汝 埽 盡 決 水 河 月 支 旌 IJВ PE 克 吉 事 心 ξ×. 深 豪 40 x 四 · 6, 河 湍 į. 告 破 . (날) 椒 3. 勢 いく 榉 IJ 怛 故 雖 踶 티 关 至 故 深 電影 其 狄 至 掃 ñá .₹. Ł ,<del>4</del>7) 沉 並 行 一赤赤 水 퇸 蒃 维 塞 JŁ, 乜 功 in **不** # 就 不 持夫 流 ľΰ 治 ~ ;ল 省 **:**}-遅 能 决 卅 F 河 多于 能 欢 .ሂ٠ 不 河 水 <del>,</del> 防 2 Ρή 办 為 Ŧ 龍 いく 就 盡 輔 **1**Ψ 合 湍 17] 南 枞 又 ع (†) v 魯之 水 流 杨 糖 涿 故 稚 和 唯 'n 40 共 ~ 流 v-1 ょし 唐 水 麩 通 **[**] 3 草 4 杰 合 上 ंग 力 一才其成 清 業 之沉舟 掃 ~ 竳 之 决 + 52 柳 17 後 功 ₹` **之** /` 幺 法 彼 根 基 μή **'**ग 水 性 直 生 平 ·8: 中 杀 至 謂 Ξ 达 決 티 ; t 泥 خ ح i. + 耳 抡 故 從 又 故 111 ::B ž 7 二世 舟 jğ 河東 셾 稱 Z 40 不 枚 ;ল 短 鱼 代 懕 由 JŁ 处 33

聖 訓 一宗塞 5 祖 仁 皇 哲也 皇 籍 高 Pf 大 H) 無 寶典泰諸處悉為巨沒強水 换 臣 家 窮誠 守其 ラテ足所 渠 ఫ. 刚 運尚 M 王 帝 潘 绉 禹 水方云降 宜 堰 高家堰 宗 か 有 李 19 桁 大 得本 .4 X 有錐 者漢 不能聽其南 清口 沐 ٠ الا 喇 湬 .). 整流 F 益 脩 帮 根 平 派 孫 慶四 ~ 指云考三國志登當為典農校 建安 专 第一 填 為高 塞之萬 金 歴 計 江 至 淤海 首 無 بح 卓 T 16) 利 年 要 趗 五 矣 萬 計 陂 之功蘇高唱長 堰 年 **乔**况 由 登 者准 歴三 淮 緊 不 ú Ł 湖 是 廣 剛 獨 决 ځ. 亦 周 脩 河淮混合為 精 陵 憇 家橋 年 チ 淮 揚 復 高 于水利 大 之門 高堰 Ż 磷淮之後河流西 高 揭 沮 偃 守陳 漢 屏衫 塞 堰 程 Б 世 倪 町 :47 隄 功 ŕ 河木合 右 ی 丛 決 增黄交病 亦 勘 呖 + いく 又常為 于是 ŕή 里 決 嵌 チ 捍 义 築 赵 拏 淮 淮 チ # 淮 衍 vζ 2 自 山 雈 2 围 mi 盐高 連 m; 淖 矣 滥: 잖) 鎮 利 亢 浸 糆 貘

祭塞之 謂 不 yb; 復 18) 辦 Ρή 高 由 市 义 水 4 及 旌 4 淮 ナ 湖 Đ 冇 治 堰 河 Jt. νį 南 恭 高 刑 る Ż 清 一系塞之二 季咧 维 全 701 13. 被 淮 /考溢 鄅 明 注 俱 去高 長 峙 金 築 淮 淮 丈 淮 水 通廣 策矣 家灣 各 沙 平 云二 許或八九 有 始 北 水 ッと E 又 湖 X 河 赵清口 舻 Þ 于漢末 淮 カ 塀 為忠 洋湖 坌 擪 里 + 溢 4 高 李 F 臣 于 分 有 쏜 河 達 Ξ بُ 宫 駠 枥 楊 是 师 Ŧ 尺其去 丈二 及 年淮 之陳 年 食 培 稻 又 淮 并築災 两 F 良 清 ħ 科 射 逕 2 胜 冽 河 卣 淮 育 河 17 張 高 尺 陽 議 髙 **`**ग 减 經 vil 復 公 復 ٧Z \* 福 流 谙 次高堰 湖 水 价 堰 有 堰 李乃 E 江 決 \ 捍 1 淮 É Ł 不 高 增 杏 入 G す 治 泸 奇高應提去 ż ¥7 且 D 之武家墩 海 南 光 草 閘 帲 高 于 使 密甲三丈 堪去發應高 報 苗 ďŋ 淮 梅處淮 之郊 子 子嬰 溢 高 媊 良 바 河 淮 淮 水 7K 力議 湖 與消 14) 漲 Ē 初 # [in: 泛 哥 较 满 湮 2 塘 بخ ;N)] 八二 包 ρή 漲 從 典化 有奇矣 分首 が 苍 水 瓞 周 :ग 訪 陕 出 俱 亦 st 宣 家 通 湖 瑄 無 淮 7.67 + 治 番 溲 往 道 患 波 .FD 35 F 格 蓋 12 無 往 pr l

1 速 2 復品 丈 揠 蔄 水 筌 1£) 澗 提 注 F7 准 淮 溃 塩 源. 啊 底 ,FD 不 Ð 至 潘 m 工 南 防 孟 云 نور 然安 番 朔 遇 南 李 但 贩 \* 南 X L 数 高 高 败 P 城 水 L 2 尺 书 72 (I) 教 耵 ナ B)s F 耳 か 馴 能 淮 高 徒 郭 益 14. 又 許 儼 凼 杏 百 餘 又 啊 立 之 E) 2 // 横 之旁流 惬 克 Ξ 火 委 無 티 漢 為 沪 + 丈 周 淮之泛 清 丈 镁 運 博 IJ 也 餘 南 家 É) v'Z 陳 旗 築 不 走す 奔之敬 u vt. 12 淮 運 道 梼 都 餘 登 云高家堰 就 Ð 勢 \* 高 盐 毒) 村 築 道色 U 9 2 3 哉 是 於 ٠٤٠ 盗 52 Z 原 堰 漫 堰 他 事 東滔海 遇 今高 林 **Ų** 為 10 岩 勢 禦 井 浃 327 EJ 禹 無 É 歴二 \$ 畔 不 玌 淮 F 槭 任] 通 漄 計 淮 À (0) 流 斑 得 いく 塘 亦 海 至 涯 坍 沙ツ 竹 十 カロ 諸盐 高 Ŋ 我 高 安 4 不 Ł] ,)\*| 復 髙 + 里 且 弱 常 寳 准 Z 任] 栭 宇 汹 Ž 朝 Æŋ 府 矣 加 楊 諸 東 平 淮 志 于 惟 鹶 温 决 年 ЗÞ 平 名 未 Ť 足 恐 5 馬 淮 + **Q**· M 作) 淮 江 2 桶 羔 南 刷 偃 究 縣 炒 腑 諸 决 安 不 F 漫 怕 高 得有 沙 嚴 湖 高 决 高 池 由 陳 ~ ď. 滅 盖 利] ħυ 促 瑄 ふ 害 奸 光亦 313 良 偃 搌 カロ

之患 整清 文不 者豈 脩治 記云 復大 有 在 淮 Jt. 高 讲 欤 芜 握 烙 海 江 家 宋 ż 制 浦 耳 ~ 北 史李 受洪 报 利] 淮 31 又 笞 桜 陳 £) 楊 泽 家 通 盂 7 建 恃 公 塘 傳 安 湖 鑑 詂 為楚 湖 চ 五 ₹p 水 色 番 年 事 高 + 安 者二 淮 五 堰 44 土 淮 本 六 木陳 5 尚 明 通 き 7湾 年 永 百 堰 末 Ē 餘 其 瑄 樂 卤 灰 並 合 于永 脐 脩 軍 不 無 年 **不** 衈 4 復 復 بخ 又 其 言 脩 脩 桜 高 樂 江 及 潜 陳 有 化 治 堰 + 清 高 第 陳 ग्रीर 並 w 答.] 年 娒 决 追 偃

成堤 萬 歷 體 年 制 高 エ 科 厚 er. 給 有 事 P 椽 板 P 瑾 v-1 货 骄 其 立 高 外 家 復 堰 設 官 Ú 府 ح 築 いな \*

處 其 防 闸 終 石 ネ Ð 老 动力 क् ん 说 潘 更 李 為 驯 水快 行 2 立 于 ψ AFI + 里 低 淫嚴

+ 水 石 觐 埙 枛 六 至 邳 坍 周 幣 李 <u>`</u>(22) 損 為 斯川 土 油 楳 佟 涛 奏 12 熱 、初 基 矣 云 m 淮 運 石 Б 内 水 将 山 横 Z 狹 安 土 世 源 附 3 ·i 宜 桐 p 係 覔 柏 淳 湧 挾 取 真 沙 漲 X 時 + 土 逐 二 幫 14 築 森 溪 佳 2 र्ष्या

桿

(1)

湧

褪

M

蓄

築

וינו

·Z-

達

堰

戍

 $\mathcal{F}_{0}$ 

清

D

自

利]

清

O

利

JAD)

周

沙

水

沱 東為 吉 為 滋 自 水 盗 家诸 防 也 决 禹 出 较 便 高 迄今 清 枥 娰 耵 湖 陽 至 诓 :co 及 U 會就 居 故 縣 ·#\ 隆 堰 西 云 道然 或 南 淮 ~ 慶 私 有 河经安東 為 西 安 苦 灰 哟 其 洪 Z [45] 者 zh. シヒ 年 西 停 寸 抠 利其直 溄 觩 大 南 湖 ₹₽, 蓄 刺 清 距 淮 稱 隅 W 縣 淮 湖 淮 高 奇 去 水 達 尚 出 水 湖 家 郡 10] 密 £) 腴 \* 存 いく 枞 少 堰 堰 赐 水 笋 陸 梯 Z N 西 哟 E 泽洞 **P** (新 10 茶 來 為 Jt. 里 ٧- ٢ + 津 達于 非 阜 坚 淮 台 束 盤 許 諸 陵 知 揣 <del>(</del>Fr) 詰 出 而 淌 湖 泥 Ú 水 往 淮 合 锦 堰 2 往 水 32 白

馬汜 遂煙 长 上 後 鍵 曰 滙 源 蓄也、 高 不 高 光 為 栖 栖 堰 工 堰 詻 决 未 為 周 E 清 决 陽 浸 湖 水 淮 決 O 袻 淮 決 行 塞 2 ;ল 壽 後 前 既 黄 10 误 <u>)29</u> 於 塞 酌 東 浦 刷 乎 防 高 也 宣洩 市 苗 堰 がp 也 余 淺 城 水 且 末 跣 曰 巨浸 7. 亦 FO 决 詢 堰 决 及清口 貅 Ž J. pproxŽ 决 失 陽 北 前 後 河 ぶり 故 後 泰 乎 也 人 篆 Z 濁 日 3t **H** 食 築 柳 半不 高 流 腻 堰 E) **إ**الِيَّا 既 市 西 為 高 ·i27 .2. 决 绝 浒 典 2 堰 ~ 兩 通 水 停 清 决 10 堰 後 蓄 関 决 zb\_ 而

## 矣

當 季驯 檘 戚 なわ 浪 徐 其 議 Ā 従 D 又 误 2 云 南 高 家 JŁ 堰 俱 當 係 湖 土 ? 捉 戯 戡 中 俗 無 段 原 ک 鑲 誄 民 Б 误 中 ΕŠ 及

里 李 為 蒯 ₹. 入 築 ·Mì 高 大 家 (1); D 挹 為 راج 北 衝 決 赵 要 击 處 家 茶 墩 + 石 提 飳 vil 里 萸 又 南 2 長 +

壩 又 চ 南 丈 為 又 山 YZ) 陽 -南 餘 旪 五 里 胎  $\Psi$ 為 為 接 界 周 .)-家 枞 夾 橋 U 又 周 又 洒 南 南 槂 程 + + 壩 長 餘 徐 里 里 為 為 + 五 翟 阜 里 翃 陵 程湖数 姐

翟 高 تـ + (h 郵 决 南 年 Q:] 北 忘) 2 v. 1 74 淮 痱 為 两 南 11 りし 329 患 帲 及 中 汯 西 無 桜 外 肼 諸 19 矣 + 臣 认 里 自 萬 論 6 歴 豹 エ = 鋯 档 勘 + 對 좌 河 周 泰科 奎 梅

主 臣 女 2 v2 事 張 苗 章 匕 Ę 遂 河 樊 淮 請 槲 非 ٠٤٠ P -1 :/[ 程 決 復 奖 (i) 陳 脚 F 空 築 家 滋 谎 υ 堰 臣 Б. 捉 治 洪 其 宫) 防 舉 驰 運 v 大 請 2 王 15 之 策 築 踊 戏 U 述 韵 周 于 2 家 凯 效 ر انت 議 鏊 极 胺 淮 科 舖 空 レン 浓 訪 可 臣 安 ·K. 凿 弄 科] D 12 澒 剪 犺 igi え 謂 黄 夏

計

至

楊

牡

張

仑

程

條

謀

出

呼

割

分

黄導淮

者仍

使

復

益

2

じく

淮

源

凉

ホ

妈

則

ょ

州

縣

不

各

枥

為

甚

Ž

努 出 清 云 Q 台 芷 强 贯 15) 湍 李 訓 售 述

淮 御 5 ð, 河 史 ēß 臣 吗 中 Ð 王 츄 鸿 明 浙 15 筑 ìÈ E 支 謹 粮 立 狾 (fi) 俱 使 周 云 稅 梗 家 忘 共 ₩, 家 勢 杨 Ξ -遂 够 F 為 六 典 141 售 监 周 4 裼 亥 U 六 ,FD ,Fr) 其 .# 桥 稍 凎 沾 縣 桂] 矣 其 生 分 椄 霊 宜 河 途 A 淮 捉 分

变 詻 湖 高 F 势甚 11 赵 誠 科] 2 是 华 v" Z 建 钣 2 勢

[桁

故

制

周

檢

者 何

3

件

怭

2

がし

名

₾

周

椓 周

也

ガシ 斷

舆 不.

高

可

闹

반

高

堰

þή

\*

守

高

够

汉. 連

守

(III 淮

梅 使

可

也

堰

v. 1

哟

典

桥

51

圴

 $\stackrel{?}{\sim}$ 

水

相

セ

周

家

桰

東 淮 汕 盏 干 東 里 靴 ,Fn 得 诚 あ 不 禁 復 ~ 瓃 故 .2. 無 謂 2 周 家 珄 也高 梅 科 · (T 5 請 淮 湖 不 盡

則 奫 望 淮 連 水 之治 天 Ρή 恃 蕩 無 涯 楾 澶 湖 堤 面 為 ~ 衮 Ž. 受 保 暲 有 若 很 31 不 沮 至 湖决

许

胡

梨

挑

P 江 提 故 h. ,4m) 奔 难 通 浩 何 江 ~ di 吗 路 出 湖 古 不 堤 夜 北 V2 宣 也 外 洩 也 又 形 淮 F 漥 ~ 湖 水 F 湖 不 典 £] 江 也 大 卣 不

史 225-454

高 Ŷ 盖 楊 若 榆 2 淮 淮 制 矣 今 Ł 無 水 發湖 家敬 更 雲 水 施 淮 刷 周 前 乾 無 盆 分 ŔΫſ 公 家溝當 鳳 溃 傱 故 湖 清 溢 措 無 黄 梅 彤 ·Þή 堤 镁 周 隄 枿 Ŧ 魁 手 内 ъ 党 高 又 刷 示 髙 碑] 稨 云 梅 病 清 :11 玄 玤 栋 良 呖 何 X: 不. 故 武 冽 高 湍 Ž 水 得 故 民 堤 出 海 東 14 楝 レイ 是 Į Ž 病 清 滷 别 容 齊 湖 乗 敏 u 去 V7 説 周 雨 Ž 其 諸 淮 寒 最 浊 萬 使 諸 利 R 家 从 無 U im 時 Ù 稍 牌 害 长 橋 较 湖 峅 淮 **弘**] Į·] 刷 歷 Вp 清 3 酬 計 涸 2 ሽ 凿 = 盆 諸 Z 不 不 ·j\m) ح 不 Z 水 滴 亦 ଳ 與 可 淮 表 + 耳 褲 水 無 O 漲 冯 時 Q 12 武 餘 便 運 五 Ż 乎 盆 挺 不 1 O 流 猗 謀 ,Fr 文 減 為 Q. 周 稍 平 未也 溢 嫩 哟 畜 秋 好 2 害 先 事 两 諸 毡 赵] 消 橋 來 平 淮 坍 ,Try 實 高 其 分 源 18 [4] 流 3p 水 者 业 đр 槺 初 補 Ap. 右 莫 诸 耳 奪 191 74] 大 倡 冬 Ψ 同 ₹p 淮 湖 丰 無 革 表 首 内 為 海 放 诞 漲 共 為 欲 耒 濟 松 餘 剕 2 **Q**· 胡 利 Q 周 2 凉 肼 觹 矣 運 增 益 通 橋 河 計 16 <u>}}</u> 戚 科

崇 理 容 \*\* 寺 為 Q·] 将 也 呉 枋 課 糧 萬 形 黄 科 縣 湖 高 姓 四 其 丞 何 糧 最 等 年 海 猠 Ż 奪 吳 Jt. 制 由 10 稅 .ż. 居 為 凿 共 呖 其 分 漓 犺 姓 請 誰 啊 剖 後 達 従 云 犅 北 íí: 海 敉 為 水 3 交 流 高 <del>(</del>47) 湯 不 濱 京 淮 峻 伱 天 供 夏 漲 之 能 清 Ø.] ŕή 楊 堰 為 而 輸 乎 Bit 棼 教 各 湖 45° 淮 北 Ð **'** 為 4 祗 将 於 當 刼 民 為 监监 懸 楊 海 壑 চ 矣 2 淮 等 朱 害 潫 水 禹 楊 堻 两 行 老 不 異 分 数 ie 43 ·10 合 盡 Ð 郡 生 更 教 祚 一蜜悉 交 鎃 泛 Ð 仍 之 被 綘 淮 争 **3:**) 滥 者 少 高 誄 建 衝 渰 挽 **/**20 , (Fr) Ł 合 附 へ T 為 没 钣 南 無 事遂寝 之勢 Ą 高 湖 淮 竹 扼 Ö, <u>ل</u>ال 路 水 表 堰 **i**9 νFD 奶 消 憋 λĥ চ ĘĮ٠ 矣 高 湖 三 湖 b 山 餘 淌 Ų·] 敖 淮 Ξ 盐 不 旗 谱 书 東  $\sim$ 舣 T 舡 35) 各 吭 而 萬 ন 協 注

## 歸 仁 踀 考

齿 黄 歸 表 福 使 其 五 水 稟 亡 + ik 鉔 行 £ 7K ょ *:* 泛 者 跃 Ž 漂 里 弱 者 之 Ξ 漲 ď, 沒 其 共 Ū ¥) 使 五 1= 九 集 B E) ょ ۍ. 4 な **⋠·**] Ť 有六 杰 ٠,١٠ 故 ja: 31 與 <u>.</u> 李 苗 淋 ;or 六 名 ڰ 邬 泽 滙 19. u ত 水 湖 築 ,å Ð 1= 洪 1.1 Ē 水 于 臼 + 误 水 叻 使 勒 浸 洋 淮 豆 51 丈 奴 流 不 麼 宿 ニ :শ **₽** 南 X (2) 宫 其 妣 平 使 侵 從 尺 ت 抠 业 斯 縣 ,為, 湖 准 ユ 10 水 3 胀 石之 沝 水 流 时 恢 安 太 水 -,`; -)2) 并 الح 档 カ 2 心 :i+ ر الح 保 尚 汉) 出 從 赵 障

等處 經 日 面 工 耿 iB 那 東 睢 Ż 岨 ত 峅 水 Ą. 餘 ंग 湖 里 翋 水 (F) 合 其 v۷ 滙 永 Ť 上 及 流 华 祸 क्ष 来 チ 他 蕭 台 村 源 徐 應 湖 É 宿 等 銮 水 徐 初 南 溪 睢 宿 河 宿 12 選之行 防 歷 選等 渝 雜 縣 韺 么 霊壁 SIL 14. Ŕή 謂

壩

遏

淮

·#] FD

2

便

安

得

不

松

激

v۷

取

珞

清

U

水

全

出

清 水

U F

兩

河

治

運

Ü

通

矣

故

日

当

刼

水

埠 水 水 子 流 杏 鹅 ъ 宿 ÷20 湖 等水 ١٠. 之符 ŧ. 滙 云 為 È 離 溢 击 Ē 浸 水 歴 徙 由 狂 渝 拖 .14 犁溝 榝 之 美安 睢 河 南 南 如 山 流 宿 合 8 水 Çı; 火工 白埔縣 境 程 淮 不

;4]

旃

減下

Z

水

.Z-

uł)

曻

仁.

限

極

遒

义

す

碭

山

٤

桃 烀

舖

₹6

茶

淮

水

ナヒ

行

ż

道

淮

水

丰

趋

啊

其

Jt

趋

者

無

全

力

F

10

m

段

且

受武忠

1

靳

輔

治

河

故

70

腌

4

能

JŁ

水

丰门 水

連

倘

無

促

デス

攅 南

≥直

F

而

東

Đ)

中

阻

嵌

河

者

有

睢 :

埠 +

子

湖

水

其

勢

甚大

且

遇

黃

河

漲

宿

堻

縣

黃

南

六

里

康

肥

九

平

史

徐

赵

旒

云

iÝ

御防

南

侵

淮

流

共

和]

色

張

鹏

駒

:0]

志

云

歸

仁

湿

在

隄 謂 剂 仁 10 云 湖 主 É) 踀 楝 止 Цħ 方 覓 溪 王 耿 奎 家 v 2 ⋞ えも、 家 車 壁 潦 水 湖 滙 뉎 使 1, 至 縣 Ž テ 虚 卷 いく 舖 <u>;;</u>; 她 挑 11. 來 诚 泽 南 河 方 ᡯ 錐 盐 徐 亚 F 隄 淮 骓 係 D 2 受 14. 供 使 ল 潴 ٦ 黄 眂 水 V4 码 骄 Ξ 故 ·K 患 西 率 者 睢 北] + 4 1°F 直 裼 里 縣 Jt. いて 溪 镉 (E) P. 並 及 v 4 浩) .)-4¢ 仁 甚 清 **v**'./ 方 張 遠 河 從 銮 廟 兆 矣 O 河 バス 芝等 并 縣 <u>:£</u> 灣 え 河 遇 捍 卧 挽 防 +  $\stackrel{?}{\sim}$ ょし 南 U 宿 X 湖 仁 雜 風 有 JŁ 里 逐 有 歴 臼 段 説 混 則 ŧ 里 考 ρ́Υ

睢 埭 涛 奔 Ŋ·] 湖 烫 諸 湖 勢や 水 水 東 使 南 不 F 侵 得 P 衝 沮 淮 流 ~ 淮水 流 火 行 アス Z 阻 道 共 林 Jt. 徥 隄 南 份 借 Ŋ. 周 绅 極 使耶

史 225-456

追東 黄且 Ŧŋ 走 云 汰 is 為 睢 謂 遇 v. 1 客 爽 首 銮 档 故 水 B. 虚 7K 者 淵 遇 董 狱 址 10-南 漓 伙 v 亦 Ð 泛 池 四 洋 漲 從 ナ 秋 注 名 ;ग 黄 滙 幣 里 使 14. 汰 ;ল 防 盐 首 束 7. 坠 縣 奔 水 湖 卣 13. <del>;</del>} 误 此 υĐ -34 亞 Ž (년·] 虙 <del>(</del>77) 淮 於 御 ritg 湖 液 7K 黄 溝 進 下 .). 吏 啊 為 為 不 没 701 前司 ,A, 徐 高 頭 哉 滙 奫 後 U 越 E 变 世 秸 幻 胨 河 浸 湖 Ŧ 年 洋 各 河之 其 栭 JŁ 運 立 ع 甘 河 (子) 街 遺 從 利 患 由 黄 泥 ت 淮 决 ÉJ ίΰ) 經 睇 **(27**) 水 洋 沙 d. 無 者 斎 44 仁 仟 史 感 :准 澶 河 ż, 故 湖 碼 춉 ±: 運

者 家 二 輔 成 致 决 冶苗 徐 處 机 2 白 河 冷 **∄**p JŁ 鹿 if 後 也 水 站 脩 隄 Į. 10 至 睢 Ŕ 為 為 治 湖 康 從 湖 11) 开门 漕 苗 Ž 疏 緩 諸 肥之 . ) ~ 掂 基 m 水 刷 六 河 水 董 隄 :> 不 云 \* x O 戯 使 弻 D 者 由 舖 年 台 量力 洋 决 ₽\_ 侵 仁 741 帯 份 等處 段 淮 河 u Ė 各 築 二處 原 2 ıl 威 侵 順 沙 自 **今** どく 水 淮 治 衝 直 於 详 由 璋 不 -决 ҡ 河 失 淮 六 .). 唯 苗 復 改 矢口 停 年 水 河 淮 淮 入 運 衝 並 沙 苗 昪 u 并 汲 而 刷 台 永 4n 漲 秸 46) 仁 ્રે. 洋 矣 古 渐沙 隄 旭 讀 靳 AB 푮 锤门 701 抄 V1

Ŧ

家營

O

O

程 處 海 苗 底 渐 H 栖 江 衛等 後 者 汝] 浦 分 者 10 無 沙 黄 高 净 3 直 ク Ð 清 Ð 處 射 古 ;ল 其 而 O 不 從 不 ż 堥 仮 赴 i¥ 溝 衝 利 亚 北 清 水 决 洗 <u></u>:"J 害 崙 山 袓 並 衙決清 矢 逺 カ Ü 壩 山 矣 2 0 等處 决 4 王 至 北 ρή JŁ. 刷 家營 黃 O ĬŤ 沙 台 Ar) 譽 水 127 由 へ 衝 雲 じえ 計 故 涭 海 泽下 决 那 \* 纹 淮 梯 Ð 家 者 者 Ł 例 流 使 黄 至 3 淹 内 少 後 澶 亦 緩 U 湖 沙 淮 高 枥 = 於 淮 湖 河 水 由 铺 并 雲 沙 停 黄 江 河 教 等 雲 D 吶 Ł 無 海 梯 力 T 等 水 梯 水 X 士: 里 ik] E) O 處 稿 供 14. 由 例 於 不 之 苖 衝 高 外 縣 ₩) 俘 垫 蓰 衝 么 W. 高 清 ij 10 ्रंग 沙

咨 聖 祖 詢 河 仁 皇 臣 ₹. 帝 靳 办 有 輔 治 立 惟 河 有 更 有 分 黄 何 助 策 淮 Z ⋞ 法 南

夾 使

鱼

峃 بت

争 **b** 

自

宋 淮

肼 弱

#

澤

湖 水

连

2 運

Ŧ

淮 欲

淮

2

增翼

利]

苗 故

稵

昔 31

佁

濟

.2.

湖

坳

淮

娸 船 其 v2 雖 有 分 利 Ø 31 3] 冶 淌 也 Ţ 水 沙 南 由 ヘ 通志第 歸 湖 仁 Ž 隐 叚 厯 憂 F ž 注 呖 年 當 洪 澤 淮 故 ;ंग 臣 湖 流 潘 微 岸 いん 李 助 35 答 馴應黃 淮 2 液 峙 流 水 ŕή 梙

係 祖 MO 仁 河倒 為患的 出 去 踶 皇 等水 É 里 决 刑 20\_ 修專 約 州 俱 程 비 是 爷 献 周 誕 淮 背 Ł 被 境 保 家 治 山 禭 (m) 凶 Ξ 工 起二十 渰 障 橋 亦 1}-池 五 踊 旗 \$ 灾 流 諭 水 12 ٤ £] 簜 + ט 計 河 六 者 vλ 告伏 烕 仁 騔 漲 由 首 x **-**叉 白 年 W. 弭 大 凗 淮 之時 里 仁 **黃家堰** 里 年段東轉北 里 妆 按 水 7K 請 决 鳎 没 :781 þή 路 許 合 Jt. -129 舒 謂 大 仁 u 康熙三十 九 Z 斑 Ð 34 Ö 鸿 な 永 隄 為 it 條 ~ 城 踶 ₹. 過六 挟 Ы 颊 趟 虹 與 F 决 共 盱 鋪等處發來之水至 稱 40 盐 站 宿 仁集 鶰 改 黄 水 , <u>),</u> 康 <u>}:\)</u> 係 何 接湖 桃 仁 冰 東注悉 師 Á 澤 河 腴 保 艧 保 至 Œ 说 源 7K 进入清 院 隄 ٠١, 刼 磺 年 え 得 頀 東 土河 等 去 待 Ξ 桵 相 年 仗 바 奶 至桃 Ŧ 安 没 境 ·H-射 孽 再 無 李皇陵 厤 季皇 治 衝 安 th 旪 :0] 漂 餘 九 决 O 誻 八派之子 裁二 河 凡 漫 ·j19 又 沒 中 抵 311 限 作 自會雅 ,FD 共 康 x 挾 部 高 歸仁 淮 32 Jt. 歸 省 百 账 堰睢 5 和] 楊 隄 俱 里 ·20 + 自衛 D 訓 有 烋

ត្

欄 教堂 大 迨 清 R 堡 か 黃 歷 泱 水 大 上 鳝 地 18) 水 旆 + 始 坌 2 暴 常 流 湖 岸 (P) 71 县 便 時 方 1/) 颜 古 怪 九 平 漲 清 水 14] Ŧ 鼫 大 出 座 结 冬黄 踼 年 則毛城 黄 民 **D**. **!** 将 Q.] 歸 水 老 從 O 仁 牌 建減 垈 才 拡 水 河 湖 南 便 か 促 麂 仁 較 底 通 不 ंग 水 *j*a; 苗 臣 歸黃 浞 榊 R 蓟 內 雌 Z خ 水 行 水 欲 舖 2 褲 河 張 建 者 牔 347 桃 \$ 其 بتر 壩 嘶 消 水 进 **餐**來 3 鹏 酬 牌 底 缕 老 河 .). ・とス Jt. 峃 巡 主 \ 底 改 咫 硎 健 又 蹋 ,Fn 河 2 康 座 洪 隄 ż 水 水 座 深 2 Ŧ 坳 刷 炖 仁 泽 亦 有 工 水に v-1 楝 **武水共泛** 五 三尺 Te) 五 五 從 Ŧ 屯 54 31 ÷ 應 奇清 尺火 汤 = 动 堡 尚 桁 垡 F 31 輝 老 酌 13) 水 -英 红 促 者 榊 廷 北 千 水 いよ 3] 傷 並 ニ 寸 水 漲 少又 樯 碘 Ť 五 颐 餘 孙] 枚 赭 忠 及 又 年 屎 份 漲 丠 清 垈 建 亦 .5 武 水 湖 丈 茶 胀 偃 五 應哉 何 有 17] 伙 2 Б 水 カロ 褲 3] 河 水 と 水寸 九 今 山 40 尺 六 秋 桃 脉 淮 幺 再 水 年 從 按 P 枿 平 有 計 座 水 三 附] 岩 æ\_ Ť 黄 橷 直 欄 2 有一将 建 F 竒 两 康 尺 遇 逝 消 至 潢 水 放 源 五 (31 清 爬 凿 使 1.1 長! 1)-

澤 促 隄 者 ぞり 白 仁 U 光 いく .)-一當 却 洋 Z 酌 常通矣 至 洋 河 BĀ 在 4.1 水 水 出 咸 ;ল ; Ø 政治 減半今按 趋 7 .Z 減 V.1 カロ 뉏 出 一高 À 其 idi 高 访 粒 脩 守 棕 經 水食其 塞 堰 ল 堰 #: 函 流 .)-水 酢 <del>.</del>50 使 其 船 河 办 いく 又 睢 鳌 又 越 麥堂 Ŧ .2. 其 淮 通 街 不 7K 31 使 .). 利 揚 诀 Q: 刷 不 ج کی 河 : 諸 :0] 六 得 ٠,١٠ 睢 也 嘶 至 水盡 玄 湖 4 习 河 ט 漫 岸 院 訪 史 文 者 耿 v 茶 受句 水盡 與考云其豪為 使 埠 出 白 か 車 東 JŁ 子等 洋 上 峅 流之支 鹿等 水 水 Ú 难 ;o[ 逝 不 堂 從 (ग्र ;}<u>}</u>] -ja 虚 :4 湖 [P] 桦  $\lambda$ J. 羇 水 故 分 ,Fr) 不 2 .). 洪 (FD) Đ 鳎 在 仁 隄 河 河 及

濆 淮 淮 殷 渍 河 明 來 并而 奪那 街湯 發堤 湖 ,回 獨 河 本 ~ 全 哟 發應高丈 呖 マく 表三丈餘之也勢灌干里之平原安得有准 三丈有奇矣當黃淮 為 海 漸為 瀆 粑 防 + Į, 淫 名 溝 淮 高 不 去 苗 載 各 潦 ی 南 河 F 典化 129 Ż 偃 湯 淮 禤 129 修 濆 勃 徙 jĘ 浴 祈 可 治 漬四滴者發源 語 去 出 萬 <u>ئ</u> 泰州 直 カ 河 海 洏 O 不 其 共 R ⋞ 江 河 码 淮 失 尺 懼 趋 沙 倉 言 ŕij か 分 丰 有 バ 壅 卒 \_ 石 狄盖武高于淮 エ H) 有 奇去高 矣 ₽·] 不 遠 5 Ð ;H) 流 更甚于曩時怒不得浅 ス 高 (兵) 東 居 萬 與  $\lambda$ 南 能 泛 文許或八 海 鈥 為 時 勃 (25) 支 淮 注 漲 **冰注海者** 瀆 並决 于江 清 海 馩 <u>ئ</u> 江 林 渾 郵高二丈二尺有 軓 未 白 ~ 北 涛 失 .义、 D 與堰平甚則 由 為 全通 王林時 亢 離 決 挾 九尺其去 准高于湖又高堰 不 栖 手勃海 也 來 濟 至 阜 利 ¥·] 尚 海 屯 -14-止 山 陔 海 脈 兵 為 监 淮 ψ :可 洪 U 秚 海三漬 涵 河 徙 堰 則 高 愈 不 义 也 泽 止 る 雅 南 符種 從 奇高 白 挺 遊 不 义 奪 苗 塞 南 口 江 7 而 .义、 訪 訪

其カ 刑 道 爾時 運 狄 淮 趋 2 汊 郡 E 復 後 平 者 n 揾 势 泛 揚 城 治 Æn 原 Ž 決 徑 徭 11 勢 運 苗 办 足 ts. 若 河 高 H 亦 趋 河 卓 何 'n ¥, 欸 苦高 盖 平 适 來 いく ÉÌ 復 ŕή 倒 胜 治 40 堰 大 诵 哆 16 沮 江 運 治 遂 淮 .2. 淮 淮 **,** T 海 行 洲 都 泛 4 淮 行 2 後 家 溢 伯 ~ 則 本 高 叉 + 梜 會 D 陕 老 头 并勢 淮 使 淮 浚 堪 易 训、 瓣 湖 カロ 天 破 耳IS 瑄 扮 死 淮 2 平 苗 不 之 於 决 水 ŢŢ. **E**) 憨 dr. 如 茶 夸 始 南 為 0 稍 TO 2.1 压, 淮 迤 應 ₽p 南 129 伯 明 程 治 阊 越 毡 客 站 漫 東 水 弱 赵 年 挡 决 -85 降 Ýπ 管家 而黄 濁 7. 1: 高 1 高 高 治 六 :47 麖 É] j, 浦 12 沪 将 黄 家 利 Ξ 流 漢 \$ 陽 水 月 쯙 堰 Ŕ U (27) 交 訓 却 击 ₽р 河 建 年 堰 運 ,Fr ナ ·10T 161 從 高 ~ 蜜 流 湖 者莫 六 棬 内 挟 尤 安 Z 至 2 決 Ŋ 上 射 淮 串 A 治 病 准 呖 萬 葪 1 于 X 血 五 後 建 陽 決 束 愈有 塩 高 運 淮 412 淮 鴣 淮 裏 里 年 ¥ 者 + 数 湖 本 浩 揭 諸 3 x 餘 É, 道 2 淮 <del>,</del>47 义 河 諸 四 尺 堰 然 首 故 并 有 官 守 問 倍 胨 7 於 ia 歷 苗 + 丈 U 應 南 圈 治 存 里 寒 够 以淮 餘 家 悉 獅 221 陳 Ż 平 决 淮 病 业 本 典 椓 為 泊

决束 迨築 河工 平 黄 救 容 榎 愈 越 餘 Q:) 江 水 至13] 不 湖 庙 放 花 踢 决 漲 誅 侵 O 江 河 極 决 淮 2 告 崔 大 溢 清 奔 高 F 伯 沿 漲 湖 沃 仁 製 湖 4 鎮 成 壤 破 又 ~ 溢 東 堰 鉢 .), 江 湖 湖 四 湖 苗 直 從 李 並 捉 巯 17) -jb\_ 南 ·AFI 侵 许 ВÞ 不 4 茂 Į. 浦 趨 踊 夫 至 淮 .難 栭 侵 射 .). 云 山 侵 ㅗ 淮 猫 等 阜 决 河 教 柳 湌 郡 ¥ 仁 ·沙? T 奔 江 F 何 海 塞 威 年 丰 郡 率 竹 . O 浦 ٠ 連 其 之浩 d) 潰 Ž. 台 决 ٧٠ ٧ 灣 湖 故 不 淮 南 無 ď 湖 天 好] 129 129 来 事 築 特 洋 故 蕩 北 O M 水 岍 E F) 提 出 严 效 嚴 苗 萬 東 淮 高 尘 隄 山 Q.) 又 河 恃 也 1, いく 不 無 淮 陽 陽 图 淮 决 歴 新 家 呖 水 亦 五 外 又 عد 涯 高 高 龍 介 黄 無 典 牔 刑 城 据 終 無 按 杨 Ð, 湖 挾 窝 穷 家 失 Ā 東 踀 监 水 ⋞ 形 漕 决 啟 义 卿 面 尚營等 永 侵 等處積 堰 故 無 北 黃 溢 刚 业 侑 17 漥 淮 Z 提 年 銄 道 じる 之 桿 黃 協 于 南 容 為 Tr 2 E) \* 桿 悉 بار (الم 黃 潘 受 不 後 久 侵 ₹ 瑾 븨 之 :41 Ż 失 黄 杰 成 李 2 赵 水 12 湖 有 徐 骄 侵 -0 江 洪 赵 义 之 虚 淮 ナヒ 14 淮 沮 樏 面 TR 障 云 水 岸 杰 百 不 113) 淮 去 六口 不 若

復益 聚腹 升斗 暴 野諸 桶 未 湖 研 不 沟 蜀 李 清 於 出 4: 可 高 Ď. 淮 能 M 图 風 Z 故 之點 湖 其 之水乎盖當聲 ₿p 2 江 /率哉 Jt. 权 弱 奪 胡 達 じく 今 Þή 不 安 有 又 镁 教 抬 矣 不 非特三演會而為一失天他之性 TO ₽). 淮 通 忍 受 東 E) 又 þή 淮 Вb 為一 能 淮 淮 芒 阜 源 其 盆 云 江 不 レイ 出 弱 欲 容 水 坜 東 之 溢 源 胲 数 稲 Ð 而 耳 復 戊 티 歸 路 荀 不 不 D) 河 F Ť 江 南 蝌 其滔 海 武 1 之湖 吉 酚 ₹ À 之寒而 上海 不 淌 勝 剃 杯 湖 骣 而 夜 江 り 淮 耳 油 可 [校 빈 别 2 其 A) 湖 海 天之勢為害 官 滴 嘯 弹 x 無 溢 v:2 2 泗平 分 後 不 不 沌 业 海 述 *>H* | 宣洩 斟 百 時 可 溢 ユ 数 能 能 枥 縣 斩 為歸 T 先已盈 為 ~ 네 2 e. ゟ 清 3 农由  $\sim$ 炭 湖 **ぶ** | バノ Z 衣 v-1 将 ויע 4) 傾 U O 죷 胥 高 嬰 吐 Ð 水 宿 我 枥 潫 倜 湖两 於矣 ~ 不更烈乎 庿 蓝 亦 不 ₹" 亢 5 2 2 海 ぶ Ų·] 欲 迎 為 高, 得 陵 Ð 义 可 腹 她 泛 散 기 4; 之 異 车山 连 大 暂 矣 日 沼 漫考流 107 お 変 スロ 滥 得 TO a 分 Ž 消 チ 汕 諸 水 :IE 以北 欲 教 12 南 者 2 合 江 使 陵 胡 交 (g) 韭 無 时 江

虚 先 外 当 其				.•				妄 · 一 · · · · · · · · · · · · · · · · ·	赫赫之功而道黄淮使不入江者於此馬利先哲之馴以從東淮以波敵黃於係高堰立湖刷之外若無	加烈于今者不知幾何也然則陳平江瑄潘尚書季	紀尤恐江淮河潭濤於東南卒成滔天之勢其為害
-----------	--	--	--	----	--	--	--	---	--	----------------------	----------------------

## 防 决

拳土 徙 築 能 有 -毎 河 不 子 非 设 提 狷 #: 搶 之處或 す 危 其 枚 有 隄 ŕή 意 堤 Þή ,,,, 歳 险 レス 當萬 能防或謂 計 얨 桿 エ 决 智 2 有 工 水 程 里 外 太 計 保 两 頂 **Ų·**} 並 有 隄 水 いく 桃 换 衝 所家 當 亦 个 大 伙 防 侑 ż 河 エ 热 秋時非 冷 轮 争 設之處議者或謂 非 險 ユ 奔 共 勝 之未 程 ス 言 Ą 非 浪 防 常泛派勢不 Ż 精 然 Ž 决 不 時 数 F た 防 あ 者夫 光 桁 决 不 或 盡 松 事 然 决 未 然 决 于 河 預 h 头 能 也 性 俁 有 ,F1) 15 刮 受 决 Ŕή

即俠 病 ż 處 隘 有 不 能 ŕή 衮 いる 爱 否 病 **Q**-1 雅 處 V7 浮 隄 沙 决 脭 非 8 真 兆 早 土 漸 st 受 不 病 能

處也 廂陸 處 為虞土 de . 蝶 沉 ξ'n, 嵲 Jt 穴 更 受 雅 Ż 冇 涉 病 ·)i6) 不 鬆沙 2 Z 工 處 不 st 也城 者 脩 者 率 法 且 當 致 郭 纹 基 之當 す 谷 對 鈥 蝕 為患 共 水 洞 岍 翻 衝 交 此 者 \_1\_ H) 卢 廬 下 终 求 受 致 净 溢 疭 没 2 漫 ~ 例

۲.

流

2

管

束

太

液

勢

议、

首共

松厚

カ

呖

F

决

矣

不

使

Ŕ

游

湯

之處

1.1

世:

其

暴

F

,Fn

恣

其 カ

狂

τŌ

吏

チ

從

腰

Ë

至

一悲處

尋其

過

水

2

·j6]

鳰

唇

填

流 有

有

於

澱

淺溢之處其

去

也

有

TR

北

來

築

坠

實

JŁ

截

楘

法

也

又

如

河

水

漫

潍

踶

根

渗

稨

715)

敵 進 乎 沙 鱼 注 必、 <u> [</u>[tk 窮 報 À. 竊 逼 Вp 河 被 勢 决 \* 水 南 有 姊 攻 17 為 垒 報 有 岍 中 水 胨 後 專攻 塞 流 Į. 高 秲 争 防 决 之處 定 决 使 水 粉 친.] ŀ 迸 何 粉 得 2 亦 水 办 ЭŁ 流 办 亟 , E 其 如 不 岸 防 倣 **|**¥] Ŧŋ 不 Ð Ŕή £) 太 盈 敵 致 挑 1E) エ 5.5 默 チ 受 窓 方 吾 九 水  $\stackrel{>}{\sim}$ 强 射 坝 耳 病 理 いく 衝 亦 仙 清 ż 平 子 沙 法 致 左 あ 造 故 卧 昔 Z 不 脐 Ē 何 為 法 去 廖 鹅 彼 人 溜 不 割 ゔ 使 肼 衝 攻 Ø\_ ,Fn 100 峥 岩 思 禦 孙 河 去 右 射 吾 夫 2 智 黃 連 カ 庥 採 筏 有 **汉**·] Ð 爻 亦 計 俗 40 禦 並 俩 泥 務 前

2 處 加 謹 防 範 **₫·**] 盐 學 士 盡 2 矣 故 乖 豩 2

六 総 黄 塞 隄 脚 扣 六 斯 河 议 踹 住 汎 Ž 嵇 臨 杵 勿 曾 不 使 水 水 夯 可 笱 長 走 坦 致 坡 促 魚 不 分良 狡 慎 工 有 か 周 走 可 P. 進 紙 園 漏 水 無 ρή 恐 剕 贵 患 説 2 有 土 宁 穴 填 中ロ -5 意外 平 哭 語 壓 酒 查 内 時 婎 云 Ż 勘 虚 成 積 ill 7 查 斷 得 水 金 高 一嚴 實 Z 2 水 厚 솦 區 2 ₹p 促 土 3 有 潰 後 址 用 則 于 泛 鋨 챛 初 螊 锅微 填 カ

た 井 U 為 細端 所能 定 於 平 加 抵 推 寬 Ż 六 様 ŕή か 友 長 5.3 裡 11 **Q**·| 炭 他 人 尋 廴 **i1** 尋 頀 坐 圴 2 雅 宽 it 麦 鉄 漏 不 不 2 ٠٤٠ 碎 棉 ٠)، 凡 但 기리 能 Ž 支 外 效 然 X 過 扶 使 £ 外 防 下 夾 石草我填塞越塞越 边 走 立成夫 水 古 道 水 漏 16 水之處 裏 竿 風 义 尺 周 虚 低 面 漏 可资 酒 矣 か 高 **B** 速 慮 ۲.1 没 緊 漥 势 **የ**ኒኒ 1.5 使 桕 赤 棉 ; K 多 赵 남: 黨 不 \_ = 看 無 鞏 伸 接 少り 後 抽 立 禮 碘 泉 솿 水 土 水 防 大 **[1**:] 腰 大限買土急藥 卣 従 湧 清 或 紙 ₹р 離 将 尺週 埭 桁 卣 外 透 珠 月 10 寒 쇣 # 人ニ 16 .ሂ٠ 4 無 ⋞ 不 咫 不 カ 猟 大 會 **61** υ 水 水 九口 Jt. エ 井 聽 可 揃 啊 '易代覺察為 填 ة. 漏 外 尺 坐 棉 7K 隈 -ip 不 復 共 山 於 ŔŊ 恐成 實若 精 内 堵 俟 尺 住 被 大 淹 流 救 漏 挨 反 法 外 便 劚 桕 宜 隄 **(ال**ا ی 湍 處 را, 损 次 八大患須 人 き 21 水 结 衐 可 4, <u>-</u> = 飛 非 月 月 17 17] 更 在 1F かし 飛 覆 空 不 坳 促 湖 咫 土 從 土 尋着 4 外 虚 住 實 尺 有 쇔 14) 內 锅 JŁ 加 量 栏 築 掝 夫 ąş -;1, 促 N 刻 道 31 顿 沙沙 種刷 沙미 (0) 遇 内 槭 g.p 相

<u> </u>			1				ļ ·	當	查	韵	在	外	至	運	矮	法
a series	İ					1		₹.	2	8	裏	燕	至出	軟	倉	2
						ļ		.1.	专	汎	陡	治	水	单	碎	倘
								中	馬	文	ぶ	す	<b>Ū·</b> ]	た	相	爽
						ļ		2	Ž	₹	在	可	淌	隄	桑	贬
		}		i			$\sim$	當急小中之最大者也司河者幸好忽視馬	查之青属之兵夫惟督之任寄之官升實門間中之	各八文武員弁修補于平時自不	裏陵不在人跡常經之也而在此僻州林之間嚴	外無治方可永固大抵雅洞風穴不在限之外也而	水則獨自断俟沢水消落當祭襄月以一道內	運軟草於侵外之坡下接次鋪讓細土唇唇加壓	矮倉猝相乘馬能築此高厚月從以資料您則宜星	法也倘或從外水深五六尺從內之也又較外也必
							,	大	夫	弁	跡	鴚	新	4	於	水
		, 1						者	催	修	本	大	俟	披	築	深
								2	4	補	塑	抓	汉	下	31	五
			ļ					5]	2	チ	之	雅	水	挟	高	六
								河	任	丰	19	洞	消	次	厚	凡
								老	部	時	F	鼠	落	辅	月	띦
			ĺ				1	李	2	1 1	在	穴	當	鑲	從	らり
						1	1	-17-	官	不	此。	不	祭	和	17	之
								カ	卦	胎	僻	在	裏	土	漬	16
								祁	-107	贻快于倉谷巡	刹	隄	月	唇	拌	又
1								馬,	1 ×1	チ	棘		误	唇	標	較
			İ	İ				`	HÍ	倉	12	小	1-	カロ	[ q.]	外
								1	1	伜	[45]	坦	道	壓	江	地
									2	mi	蔽	枥	内	m	星	半

## 沙宜去

朿 関 離 女口 自 Q 刷 文 P٩ 沙 いえ 此 गेव 淮 ,Fr 籍 Ź 安 至 器 淵 很 左 海 狄 名 莊 出 マイ 止 古 か D 善 無 敵 O 肼 未 刷] カロ カロ 黄 (P) 者 深 M 2 深 百 不 復 有 鼤 3p 衝 17) 南 售 祭 鈥 + 清 = 沙 di 意調 道 淸 高 淮 自 Į·Į 里 苗 止 堰 並 刷 濁 عد 沙 矣 慎 流 濁 ·10 大 有 未 守 商 沙 曾 扯 漸 於 害 區 水 2 踩 31 清 M 詳 -去 淮 Ž 騚 加 Ŧ 辟 <u>بار.</u> 司 詩 か 安 Ŧ 清 是 淮 (<del>,</del> 7, d) 然 刷 河 轹 老 無 Ł) 2 無 É Q 悉 深 堰 深 雲 极 不 道 能 廣梯 沙 th vZ 淮

海 豈 沙 析 俸 作 νŹ o 欤 Вp 即 來 猖 ħ 籍 藉 JŁ 基 過 其 合 潔 レス 清 甞 全 路 衝 11 洪 カ 大 vΖ 水 52 刷 使 易 陸 衝 v'.Z 前 洹 沙 况 v'Z 餘 沙 諸 2 來 合 波 意 清 水 不 2 九 岂 求 積 沙 漳 河 Ż ВР 足 濁 敏 进 矣 禹 漳 稖 宋 河 時 安 之沙 滹 v~Z 時 大 在 衝 北 りかり ंग 共 大 流 狄 财 馬 由 \* 伾 者 餘 清 大 51 波 Ē Вp 前 伾 O 諸  $\lambda$ 稖 科 漓 15 2 水 水

涵

渠

漳

泽

種:

17

東

流

者

₽p

稖

馬

颊

v2

衝

沙

狄

是

濁

汐

湮

刑

th.

**3**p

vZ

淮

論

宋

天

禧

Ξ

年

金

明

昌

五

年

न

<del>4</del>0

处

四

瀆

莫

疾

长

濟

10]

不

囲

藉

齑

衝

沙

而

涿

£L

贯 牛 絶 河 故 南 V2 半 番 魯 消 由 潔 强 前 雨 半 新 治 末 北 决 ab. 個 21 曾 其刷 菜武陵人 深 **孙**] 趙 集 河 獨 巧慧 家 沙 4 歴 É) 争 當 滐 沙 惨 真城 1 T 來 又 岩 家 南 絕 至 當 эt 蕭 何 派 倫 道 いて ヽ 半 海 岩 獨 縣 F 派 O え 亦開 蕭 繭 何 久 薊 禹 不 末 于 脐 剛 74 縣 且 會 牧 淮 通 集 無 王 茶 絶 出 いく 景 躏 M 韓 水 高 .), 上 河 夏 治 時 浮 脐 JŁ 家 堰 マス 櫯 道 ĕ 刷 :0 淮 沁 淮 建 沙 末 . 1 52 湖 JŁ O v2 千 可 幺 幺 74) 年 14 ンと 义 ā カ 朿 急 码 當 不 カ 明 家 變 衝 衝 32 道 若 沚 Ŕή 山 黄 黄 何雨 復

漢 促 深 v. ス 不 行 與 零 見 刷 故 丞 30 疾 千 ~ 格 沙 篤 遂 [1] 相 ٧Z **(P)** 淮 昔 史 刷 言 魯 .A. d) 牢 自 宋 -17 ंग 孫 2 拵 T 孙 77. 疤 赏 自 禁 至 充 可 冷 いえ 鲁 漢 浴 百 李 大口 砂 冹 ~蛋) 2 知 v Z 禄 空 15 五 流 **₽** 來 欲 Z 謂 逕 竊 危 চ F 故 景 决 王 餘 河 意 行 稍 景 平 會 里 行 黃 770 17) 70 淮 九口 歴 水 原 疾 南 沙 Z 2 年 道 枥 Q·) 金 本 青 五 浚 隄 不 故 自 府 ی v~ く 而 恃 刷 AH 两 朿 久 利 土 行 除 鬆 悎 拼 淮 移 14 疾 淮 遂 哉 通 ٧Z 潔 成 4. 沙 TO 禁 刷 空 悲 無 大 〃 沙 4 言 沙 ,FD F 中 河 又 有 ネカ 刢 稍 徘 無 4-1 亦 不 次口 Ŧ

史 225-464

二清 淮 待 勃 者 壅滞 非 馬 Ŕή 亦 故 ₹p 淮 功 合 v.Z 南 朿 挾 抩 朿 IJΈ Ŧ F ス 千 淮 汴 刷 \* 并 較之 \* v \ 淮 掖 早 沾 淮 又 執 苗 合 沙 泞 刷 亦 行 體 汕 前 (Fr) オ :5 攻 倍 vZ 北 而 ·29 苗 故 ;i29 38, į٠) 之 较 蒲 馬 一峃 淮 .IE 当 不 玫 峃 ,Fn 在 12 淮 其火緩 虚 庶 石 必 逮 稖 黄 故 火 清 行 71 不 ð) 勃 v²ζ 勃 有 實 台 兵 淮 两 绺 漢 清 O カロ 汴 ابتر 行 至 高 游 132) 4 2 魯 堰 77) χħ 合 何 51 汴 随 ·29 **认沙滞而** 汴 多之 為 者 3 築 Ŧ 沙 F 故 바 不 泗會 2 行 ·iD ぇ 不 取 苗 策 捍 治 于 **v**' Z 為 vZ νZ 道 疾 不 基 泥 道 長 其 th\_ 朿 漢 為 為 淮 理 刷 後 m (F) 刷 沙 壅 不 七 삻 不 建 東 淮 上 勢 今 黃 岩 沙 決 R. Ž 吾 将 能 經 紆 安 ų٠J 沙 侵 刷 流 之當 Đ É] ~ 181 不 行 7 淮 ی 徑 11 高 五 沙 欲 **.** Z. 2 防 酬 名 ν. Vig 淮 vZ 九 5 百 m 2 年 堰 33 古 1.1 至 វត្ត 弱 然 2 固 沙 汴 · 2 核 耳 稻 蛋 湖 南 説 行 大 2 竹 計 汴 v 2 首 Cri-3 道 守 淮 出 涯 かり 145 非 疥 淮 若 溢 及 耶 B-1 欧 F 竹 33 路 -市 并 じく 疎 原 爲, F 淮 不 M 又 徐 较 淔 示 4 in 不 .2-行 入 會通 怂 R.] 祭 7K-i 汉 X. .1. 打 亦 决 水 無 浜 原 桿 有 2 又 호 有 其 汉 准 于. 骓 不 Bi

沙 明 硕 及 νZ 孟 决 故 百 有 沙 北 v-1 亭 鶴 根 刷 沾 2 ٧٧ 勞勞 遂 + 何 滑 津 白 怒 沙 JL 本 沙 民 池 來 里 沾 决 漢 其 + き W 不 Ż 2 决 含 b F 沙 枥 河 馬 里 Ð 得 濮 **V**2 1 流 下 塞 应 也 去 獨 鈵 :>> 祷 言 敹 亦 降 自 决 决 ¥ 沙 卣 泄 者 無 墓 不 12 碛三十 (A) 曲 孟 刷 \* 诅 决 病 碃 苯 山 码 灯人 4 糾 河 沙 津 亦 决 宿 直 + 脉 鉄 至 否 F 河 斑 有 M 無 之性 六 2 介 2.5 特 汉 後 ょう 2 3 歴 Jt. 行 ,), 六處 感 古 見 分 上 致 盡 胙 u 醫 就 年 者 沙 猶 也 實得 置 于 山 图 今 决 池 决 不 上 此 之最 ف 可 JŁ 40 底 有 汴 暴 抵 ニ 流 耳 丰 新 臼 레 不 久 諉 徐 濆 河流 禹 觸湍 柱 大 -)29 秋 害 土 舻 可 有 숌 Ð 4 淮 至 沙 淖 鬆 FD 津决柴 决 之 语 謂 效 不 郭 ユ 去 乏末 涛 决 怒 大 五 原 朱 此 九口 者 者 家衛直 怙 程 全 ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ è 治 Ŧ 不 河 武 其 大 敎 旺 浩 尚 乎 安 能 去 河 陽成 逕 濉 不 决 孟  $\approx$ u 纹 北 在 大 10 -11) 畅 者 [6] 無 津 Jt. 料 治 武 决 亦 2 鸠 至 獨 不 長 哉 岁 华决 之下 솼 酬 流 人 陟 2 水 ユ 沙 或 治 梸 為 策而 杵 沛 流 ふ 枿 流 挑 由 惝 有 Ž 色] T 激 使 亍 何 官 钕

部 底 修 楼崖 坐 楼 酬 激 提 Í 紙 É 當 办. 尋谷 崖 沙 借 河 31 河 湍 Ð 上 ~ 去 深 (m) 文 大 字 來急 掃 埽 漸 苗 10 策 2 流 可 ल (#) 始 南 者 者 蕭 经 伙 柯 不 北 涯 保 施 翻 欲 白 也 縣對 流 具 31 此能 滙 凼 里 ر هي 能 借 深 前 深 治 徐美莊 許 Ŧ 又 外建 難 m 方 郢 飲 河 鹆 シト 隄 徐 大 牔 舟 沙 沙 衝 何 至 エ 点 屡 偅 則 33 潍 執 潍 去 于 斑 又 13 数 又 不 試 河 4 南 使 2 尤 甚 2 對 Ŋ 直 6 爷 槍 一女口 上 岩 無 Į·] 其 河 河 Ł 築 區 岸 射 黄效 難 危 10 疏 效 ۲Z 南 提 # 弹述 章 本 漲逼 莫 墻 Ą 險 孙] 者 Ų·] 河 斯 深 シヒ 啊 出。湓 提 聽 縣 告 机 呖 F 河 ⋞ 促 北 终 效 傚 其 沙 頂 穑 身 <del>(47</del>) £) カ ル 也 いく 萬恭 a 者 两 2 特術 エ **ફો**∙] 五 養 此 推 南 塀 3 庿 何 朿 深 載 河 不占 大列 枥 いく巻 拖 岍 27 治 深 湯 癱 ~ 欲 在 既 撈 待 も Ł 套 淄 後 11 爬 札 31 河 **[]**·] 深 深衝 洲 直 於 梤 溶 杏 潰 Ĵ 後 河 글: 3 被 南 17 水 而 葉 变 射 31 沙 套 エ · 不 康 沙 何 挑 ₽\_ Đ. 筌 任 段 饉 潍 10 رہکہ 10 期洛 木上 能 杓 첁 城 從 37) ル 從 方 建 後 315 2 疏 治面類 胡 \*3 為 生 其 4 2

. ;			曹省而用便者次	の歌の中代前之也のか于書川無しある足にあい之指他の流文使水随於向衙刷日深則亦變通	列方舟数百如墙各用一似柁非柁之木長深着底	抑又聞水工之言曰於之所向水流如歌若採舊制
			では、	· 行審別無七為随村向衙例日深	一似杭非杭之木	之所向水流如駛
		:-     :-     :•	1 1 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	あ見じろいりが雙通	長深着底	若採舊制

## 沙宜留

祭 使 為 悉 亦 止 酒 埶 對 米 流 利 功 8 扒 岸 處 撈 2 有 中山 Ţ. 鱼 最 2 流 用 得 汩 129 出 伙 池 ť 沙 高 於 可 2 法 形 怨 1‡] レス 計 器 者 逍 早 為 抓 大 \* 芝 漥 人 乳 Ž 淄 俱 稻以 有 W 司 溹 叮 無 40 沙 沙 剕 10 衎 ρή 河 其 官 城 2 對 沙 ,Tr) 施 可 法 弁 高 亚 清 旅 岍 危 利| 爱 国 大 水 O 可 ₹. 都 之 粉 爱 义 祸 流 排 流 杏 孰 為, Ð ·m 束 止 沙 31 U -h: 如 為, ? 单 河 於 煮 福 PÍT 奔 盖 棘 窘 湖 瘆 如 西 v 2 It. 沙 缁 舣 行 决 內 船 而 胨 致 沙 \* vil ण

肥 漸 代 美 岸 脒 於 尽 利 高 41 楊 (2) 促 家 也 ंग 莊 畝 根 污 末 卑 掃 稚 窪 节 扯 决 2 稖 -07 ヹ 前 遇 宿 いん 倍 泼 没 北 有 ユ 桃. 割 清 桃 源 利 决 清 凉 三 Ð JK 河 沐 岸 次 沙 陽 Ŋ 2 됬) 高 10 R 猫 被 te 144. ٧٦ 沙 L 新 न्धिः

莊

u

里

潐

. 家情等各

決

v

水

浩

高

其

É

蒲 徐

壩

¥i

西大

+

里

許

赵

胜

崔

鎮

古

城

楊之

家

狂狂

末

家堂

家|升

渡

至

事

音/

চ

里

Ű

隄

涔

徐

水

HĐ

不

可

後

大

淄

經

行

四

載

有

餘

朱家堂

マイ

Ŧ

俱

垫

一高木

耕

En

遠 宿

没

去

虚

亦

莫

不

低

窪

停

水

自全

杩

家莊

清

决

家堂 ~ \* 然 附 遙 地 戏 查 屉 高 副 條 隆 近 無 九 ٧Z 亦 楼 議 阜 乘 鉄 2 蛏 清 奶 漸 上 獨 ヹ 可 画 伙 护 継 験 壄 + 秋 决 無 直 稌 高 逍 早 大 议 裄 河 終之 Ŧ 里 窪 漲 継 いく ニ 其 沿 院 半 娑 3] 西 踀 前 禹 ŕη 125 窪 水 他 水 相 載る 勢早 半 之虞 Ł 為 沃 此 度 虙 窪 防 2 水 池 一苦潘 岩 迨 件 奺 河 凶 出 窪蔵蔵患 渝 清 善 沙 前 刑 家漫 站 檡 决 季 随 扶 法 4 成 但 .51 水 啊 放 高 水立 戏 宿 岍 水 放 决 亢 Į·] 沱 賍 遷 水 沙 彻 将 早 Ž 於 河 v'Z 商 窪竹 福 力 冕 单 前 平 遙 水 嬱 使 北 内 隄| 有

地 随 沙 高 庶 消 ,4i) 呇 省 潘 1 題 奏 甚 uF) べつ 狻

祈 闻 デオ 教 有 石 汪 填 竦 漂 有 平 洋 祐 為 推 女口 没 高 倍 Ē 桃 大 惡 庶 南 浸 利 収 羽 权 护 :1 墊 霜 唯 之 秋 濱 也 എ 利 貞·] 件水 A 瀉 河 岩 不 徔 槌 凡 大口 河 其宛 及 游 Jt 她 為早 爱 其 水 種 方 沙 帶 漲 麥 A H) 在 窪之  $\stackrel{>}{\sim}$ 落 8 漓 亦 水 有 故 J+4. 许 水 河 中 数 阳 吾 縣 消 0 倍 F 不 故 者 濕 耕 泥 田) 2 いく 謂 畝 Q·] 沙 穫  $\stackrel{>}{\sim}$ 麻 為 先 她 區 遇 涛 肥 荒 故 71) 事 漬 漸成 水 伙 数 5 漥 萷 秋 Z 資 14. 往 膏 决 防 往 縣 其 水 2 稻 派 獲 V' X

X 咸 意 椿 促 謂 瑶 岩 清 河 並 云 + 浴 本 築 隄 丈 來 マス 促 vē) 割 133) \* 河 濉 來 可 Ä Вр 盖 淌 秋 南 潍 धन 址 籍 放 沭 根 陔 炙 源 不 31 Z FO 水 設 陽 岸 1.1 BE 促 51 v.7 水 Ŧ 北 而 海 水 萬 吧 利 於 遥 址 獨 址 聚 於 沙 五 去 ρή X 里 7 愈 其 藉 沙 遏 受 ·Z-0 出 墊 ·H-桜 有 3p 謂 較 明 於 沙 31 17 行 围 IJ 流 縣 流 乆 含 Ð 凰 於 存 掊 高 苗 Ŧ 無 浉 於  $\stackrel{>}{\sim}$ 贬 怒 擲 7 ויל /穿 衐 \* 次 き 也 (室) ~ 亦 ~ エ 沙 石 為 2 Ð 岩 築 新 渠 存 堼 沙 高 办 ρή 岩 於利 |堤|决 惡 噗 萬 講 淮 岩 Ξ 2 逼 輔 歳 ₹p 而泥 里 岩 纹 不 Į.] Ż **v**2 求 虚 溉 基 治 又華 久 رك ـ 土 To 水 沙 46 割 ₽\_ 2 出 事 些 從 供 高 工 代 陵 岩 高 义 JŁ. 河 供 カロ 槌 載 [章] 書 半 高斯堰 之 जो. 其 す 故 m 而輸 岍 不 Ξ 遙 7 窪早 -똜 云 11) 其 即輔剛 宿 速 EJ 推造 **₽** 重 没 肃 倍 岩 為 窪 民 遷 岍 श्री 莫 ıŧ) 會 而我 利 去 之 脩 沙 V-7 ρή 油 沙 < 不 戏 1 峻 吐) 129 千 為 法 者 潍 -鎖 Б 謂 띺 -01 莪 隄 州 旦 64 也」 F 岍 X 决 夫 紙 エ 迅 遠 ~ 不 1#) 從 桃 槌 溃 枚 T 綾 竊 峡 使 排 埶 内脏 源 順 黄 防 其 あ

1								<b>利</b>	不	<b>E</b> F.	<b>≱</b>	業	<b>v</b> ' ノ	Ż
	i						- 1	利亦在	不寫華運之勞而不含重夜	留沙而未盡其用人固惡沙	之	美寶	胞	徐
								大	ŦŦ	5	业	สม	, G	7
						1	Ì	在	3	עיי	47	8.1	3	
	!	!							運	入	##)	亦	الو	子
				i	_			善	~	虚	大口	貢	~~	沙
						~		挿	勞	井	之	F	嗊	~
								人善用之耳何云濁沙為惠乎	4	i <b>₽</b> )	新輔知之故有即岸成從之疏二公實胚	<b>A</b> .:	田可以固堤可以代好而不能収大河	利
								EL	不		右	福	可	: *
					Ì			7	A	ıξl	Яn	de	ارتي ا	ล
								75]	D →	22	4	·*	1	
1.						.		7	2	<b>*</b>	生	御	, =	ا ي
							- 1	海	杈		75	李	岬	ナ
								沙	<b>ジ</b> ス	一枚ロ	促	咧	ارس	
					ļ			為	以輸我天地	仇子则爱沙	之	午口	不	别
								*.	我	子	馻	Ž	能	沙
	İ		}				1	平	¥	0.1		故	权	4
								, !	44)	ر د <u>ئ</u> زد	7,5	有	<del>}</del>	可
									£1	1	並	-14	ंजा	ارن
i									É)	77	Q	17:	7	
						ا ا	.		然之美	如寶以	凡	則亦責有民婦也潘季馴知之故有於平内	自然之	後又享沙之利沙員人乎人員沙乎可以於沒可
									<	暂	胎乎	カ	然	注
			,					`	美	アス	子	也	ঽ	可

## 安東海口宜閘

·Ľ\ 漫 亳 非 两東 能容 至 .2. 九九 ¥ 大 ぶ 河 故 ż 耿 堕 决 可 河 河 \* 漂 周 嬱 Ŧ 性 於 収 .₹. 定 ויו 其 相] 上 拾 Ŧ 岩 王 杰 矣 遚 / > 漢 枿 枝 海 中 那 枥 p 孝 劇 都 北 ig 改 D 利 充 濱 道 少 じょ 東 於 積 讲 河 ٠١. 四 じょ 突 萬 沙 Q·1 徒 漂 2 上 失 他 ¥ 於 决 不 腻 꺄 來 本 為 故 大 ili 受 又 則 九 河 自 源 而 不軌 役 适 禹 無 後 能 ্ৰ Þή 决入 v٧ 剧 消 其 2 决 衮 水 F 後 彭 决 政 河 且 2 ӽ (2) 伾 狹 般 分 蒇 决 士: 4 為 1 溢 绐 逐 執 散 者 本 ホ

害 患 出 浆 12 中 稍 12 二 陽 淮 4 物 弭 + Ż 泗 餘 後 (Fr) 流 F 漢 νZ 不 里 有 40 書 截 言 故 河 淌 某 尖 也 王 五 景郡 行 稗 自 志 晋 治 奎 由 長 ひ毒 帝 桓 齊 žį 河 潶 末 帝 隋 光 和 年 史 久 **v**~~ 永 桊 無  $\lambda$ 六 典 决 平 元 海 可 陽 棣 耳 矣 考 以秋 146 束 王 唐 金 秋 始 景 主 城 書 河 玄 宗 7 治 河 水 五 溢溢 乘 後 刑 行 深 河 志 海 -K え

河十

柳

州州决

+

年

報

.

ंग

滋

和一十

五

耳

並

144

子

泛

冶

140

Į·]

澶

滑

Ž

八

祸

自云

JŁ

始

失

共

後

歳

Ŋ

in

溢年

河

选根

山

是

漸

唐

會四

要

意

宗

Ā

年

ग्ग

甚 荃 沙 殊 真宗 徒| 至 盖 屋 \* 水 而 丈 不 治 12 自 其 束 餘 大 出 澶 知 棣 唐 Ŕή 中 基 故 滑 河 從 縣 v`ζ 來 2 いス 可 文 無 ++ 祥 位 松 符 宗 沈 治 溢 治 久口 2 ~ 凇 陽 Ξ 職 太 -01 常 者 4) 年 是 北 信 和 者 宗 夹 \_ 水 不 水 故 决 計 過 景 (L) ÷ Ŧ 也 平 下 不 祭 3 流 而棣迨 棣 痼 知 隄 宋 \_ 經 F 沼 H4. 州 Jt. 流 置 枿 平 流 河 消 五 理 埽 既 平 沧 決 愈 河 故 2 至 刑 勞 附 大 從 緩 於 H. セ 減 浴 텟 麻 决 油 從 FD. 其 沙 上 水 勃 河 Ø 他 7: 林 城 Ð 流河 得 又 淌 ゴカ 呖 進 ·义、 高 於 縣 됬 寜 終 決 2 蒲 河 沙 故 有 糸 队

其 槛 不 患. 故 商 败 进 道 壅 治 澈 亦 李 首 胡 終 南 沸 其 紓 Z 2 虚 仲 復 좭 羌 决 下 王 决 8 亦 武 工 狄 流 景 光 囙 流 2 無 淮 許 + 海河 而 澌 雑 為 年 雞 海 O 瀆 患 m 縦 北 改 ~~ 0 ゚゚゚゚゙ヾ゚゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゚ 欲 €(j) 並 無 捎 流 か 先 從 ie) 行 涯 不 迹 德 祈 於 事 河 可 5 此 至 博 京 游 す 追 亦 淄 深 東 今 别 當 金 六 得 也 O 存 故故 塔 先 赤 2 歐 大 道 可 道 Ξ 治 陽 火 於 禹 流 き D 猶 河 七甚矣え 治 な 水 耒 奏 亦 楢 復 F 畫 <del>(</del>47) 科 雕 沈 2 流 云 当 澶 堙 占 故 既 5[1] F 韵 至 復 通 涓 3 横 治 流 2 疏 ,TT) 雕 有 L J. 梗

史 225-469

决 决 陳州 城 式 稱 河防 由 决 U 濮 巷 决 ャ 大 Ξ 州 É 陽 变 祥符 羇 年 ₩ Ē ıĮ. χħ 由 年 雨 ж. 沿 客 史 陽 勇 使 ~ 武 徳 决 바] 封 ল 沱 渦 12 浃 决 礼 光 南 稱 等 14 糾 馬 飽 中 洪 U **/**\*\ 年 金 粽 -101 1 共 漫 盖 克 秋 将呼其花 歐 纤 村 年 + <u>ڐ</u> 復 村  $\lambda$ 五 陽元 東平之 え年 满 是 淮 决 有 + 淮 又 义 年 A 以外 决 陽武 决 窜 ri Fr) 五 宣徳 **†** 决 44 復 沙 决 窥 Ę, 年 决 剪 縣 科 祀 11) 决 灣 陽 'Ω 决 其 女 曹 カカ 至 曹 春 ぇ + 中 Ξ 村 縣 事 沙灣 年 火 14. 在 正 剂 故 梸 + J, 决 ंग 年 哟 西 岸 及 止 旗城 小学 也永 弄. 故 河 年 年 華 +. 剃 漂 村 溢 ąξ عاد 月 會通 道逐 年决 é 防 没 决 北 渚 岸 刑 運 决 14. 夏 手 Ť 糾 樂 東 縣 ょ 月 数 封 Ż 河 聊 於 制 鎮 赵 沒 A 年夏 封 河 \_ 餘 Ξ 行 决 年 **/** 城 ⋞ 魯之挽 十岁 4 义 侏 决 封 [] 里 梸 亦 至 縣 140 水 景 又 浆 末暇 \* 4) 村 决 是 村 沙 + 縣 决 10 いく 表 正 唐 16 丰 Ŧ \_ 四 温 泽 東 粮 + 冬 \_ 决 茶 陽 年 深 河 為 縣 南 决 流 -1 十 洲 耳 雅 吗 ĬÝ 通 塞决 Ξ 抗 决 五 原 綎 經 於 州 尌 年 河 河 六 耳 原 海 治 A 年 £ 懐 又 **≱**j's + 徙 月 ナ 决 ; 他

逐 南 漕 後 Œ 邏 獨 言 决 直 叼 售 盏 宜 末 曺 O 彰 流 曾 平 河 及 + 河 抵 河 .). 雨 站 将 ۲۷ 復 幾 縣 德 海 坐 郡 決 縣 眀 六 诸 港 河 港 尶 いえ 於 水 色多 年 科] 港 沛 年 月 夭 溝 海 12 ন U v۷ 憂 + 扑 者 ंग 帆 亚 俱 餘 7 又 火 7> 斩 海 去 れ 枞 放生汗 徳 决 32 五 年 平 シと 殿 A 第 ی 水 海 + ニ 年 Z 歸德 治 年 三 Ξ 刑 河 徙 六 蒯 煙 路  $\lambda$ Ø 尺 黄 <u>\_\_</u> 平 X 塞 年 雖 A 復 淌 洛 又 JŁ 漫 河 河 年 文 + 梁 月 今 有 轧 河 街 5 海 不 亚 决 啊 南 釒 能 = 尤 復 火 又 河 後 世 黄 会 月 謂 D 趙 徙 舻 甚 决 速洩 年 改 决 价 胶 + 流 稳 决 套 殺 河 皮 瓤 决 汴 劉 刑 Ξ 河 安 治 世 凶 里 河 共 河 滙 塞 莹 野 2 梨 至 百 封 東 陔 な 3 末 亦 へ 下 F 文 雅 ~ 大 贯 沛 里 ょと 及 及 壅 於 上 家 北 幽 流 置 淮 陷 岡 襄 夏 至 金 F 就 嘉 香 縣 從 淮 者 馜 工 ゔ 殺 城 雅 城 杂 Ξ 徐 32 决 請 飛 ·[] 又 云 . طح 水 亭 ńς 击 + 'nξ T 衙 Ú 堵 雲 ナト 梗 势 有 往 Ŕ 時 船 六 流 衝 里 黄 12 平 ١)، 睛 塞 湛 极 塞 ی 调 往 年 絕 榖 ナ 浮 至 陵 張 竟 横 供 來 秋 湩 非 河 淮 亭 允 廟 秋 秋 宿 岡 129 河 12 橋 <u>, À</u> 馬 7K NE 道 行 决 iń

**展城** 亚 溝 黄 運道 塞 深 於 木 欲 阻 嘉 羽 今 不 拟 典 水 糕 五 至 ,Fn 且 靖 報 14 Ż 治 曹 受 暴 年 築 丈 復 + 例 误 下 俱 亥 离 레 民 C) 渐 代 清 單 11: 至 於 里 カ 淮  $\boldsymbol{\mathcal{X}}$ 後 凿 ~ 房 业 -(Fr) 발 尺 茶 月 排 决 九 河 全 凹) 'ग 低 2 為 村 2 山 (2) 城 沛 河道 Ξ 争 窪 搃 だ 月 + 河 年 萬 (形) 海温深 等 魚未有 沙 2 溝 復 决 抵 四 溢 D 101 河 1 歴 岍 Ė 河 流 \* Ξ 砂 朱 3> 徐 年 徐 提 幸) 復 D 淮 水 Q 是 隆 州 河 *\** 年 第 精 决 X 之時 衡 斩 决 築 F 大 時 俱 慶 月 房 當 洪 河 潴 नोः 河 邳 狡 徐 上 受 Ξ 道 村 准 ;ল 耧 O JH1 難 玄 ð. 淮 决 長 丰 河 沛 其 平 集 鸿 支 水 决 水 五 下 图 房 747 狐 + 流 U 时 至 草 害 里 年 亦 X 沛 不 宜 流 村 u th 献宋李公義王令 桜 不 #: 茶城 A 灣 邳 得 時 有 散 四 大 縣 自 倒 澒 水 給 峅 奇 溢 决 工 H. 溢 事 加隆 丹· **v**Z 流 泥 2 桃 纶 於 沛 麂 河巡 総 F 新 ্ল it. শ 骄 ψ 宿 水 際 唐 去 来 锕 ; o] 栈 Ξ **E**] 縣 坐 海 凉 五 郭 TT) 運 丈 谏 靈 激 新 129 É) 百 年 5 沙 沙 爲, 册 下 东 壁 餘 酋 之 年 考 壹 使 大 聼 名 谣 五 2 · 渐 患、 立 城 里 於 秋 尺 圖土 是於自流 積 啸

客 淮| 家 北 帝 徑 찷 地 河 城 ロ 不 廟 桂 給 U 溜 F 辨 וינ 致 楊 淮 宜 利 F 縣 惟 솈 至 辟 事 芳 欲 潜 相 海 洪 亦 舥 運 署 单 諂 如 不 奪 于 五 いえ 潘 ψ X 豿 法 潦 草 壅 决 報 灣 惟 港 决 知 安 僅 海 李 爹门 方 办 启) 方 可 横 也 1 治 九口 束 存 岍 U U 鉉 里 馬川 可 命 急. 沙 惭 堰 桂 及 油 築 低 椽 5 刑 主 請 形 注 ¥. 枥 漕 河 提 考 老 請 河 F 友 西 命 섥 睿 巫 + 放 缪 東 其 亩 臣 東 武 又 設 流 150 受 刑 ) [9] 刑 開 餘 工 勘 言 ž 油 四 不 勢 ;oj 水 夸 草 水 挑 河 通 里 7) 年 奏 高 iÝ 12} 和] 暇 溢 末 至 灣 海 垂 新 衝 甚 深建 來 \_ m 急 汉 0 飲 F 幾 安 决 か Νä U U 雅 Ξ 吉 明 事 塩 港 月 坐 民 趋 酬 東 去 河 不 vZ 浙 給 且 (2) 安 哥 年 海 久 歳 梯 故 决 長 逆 事 如 未 丈 u 高 漕 員 堙 幸家 草 朝 縣 掃 関 何 萬 委 中 至 欲 É A 侍 寳 專 廷 .2-入 眔 鹰 ~ U 李淶 灣 海 雲 别 河 設 冉 洲 3 な 郎 千 流 筑 楼  $\stackrel{?}{\sim}$ v2 レス 梯 議 U 事 垄 海 可 止 吳 决 官 束 拯 汕 淄 請 义 附 関 乾 雲 碭 桂 깢 道 亦 収 决 百 全 虚 F É] 101 嫯 地 12 梯 芳 1. 拾 梯 番 主 决 洸 溶 餘 Ŧ 沛 淮 业 套 綇 .义、 场 治 國 t) 赤 文 奎 油 縣 丈 VZ

坊 惟 積 導准 蜎 年 决 v۷ 隄 施 在 九 ¥7 木受 迎 法 當 *:* 李 浸 I 庞 獣 便 v Z 水 築 + 塀 146 水 築 共 聨 没 杜 也 刷 屡 2 水 踶 喇 及 九 利 Ð 酒 勢 議 年 満 チ 涉 捉 カ 犐 障 袓 止 3 沙 决 23 束 當 唛 れ A 帝 凉 决 是 姓 ~ 起 河 條 欧 沿 條 河淺夫 利 州 矣 工 月 無 坺 悉 油 N ·可 不 海 L Ð 通 勢河 -11 漫 及 笲 復 ण Ż 消 陽 锁 ユ 工 7K 辨 ·je() F 凌 李景 惠 其 六 冻 1th 帝 桐 復 14. 拦 灰 2 飦 + 頀 從 請 郢 水 六 大 v٧ 坳 50 沙 河 兴時榜淺 致 亦 末 事 貧 カ 汐 年 高 海 共 决 水 v2 曰 渰 海 衝 不 寒 往 縻 樂 防 貞·} 自 决 言 腍 O 叉 ·江 14. 大 D 御 來 贵 外 决 沙 书 新 水 能 于 都 法 吏 到 治 溢 FD 患. 旖 書 堤 ij U 护丁 业 當 足 涂 河 則) 疎 = 徐 科 313 益 寝 售 衝 Ð νZ 刷 沙不 季 三 140 水 11 + FD E 伯 那 甚 18 O 换 去 油 称 湻 14 馬川 無 河 亦 R 水  $\sim$ 筝 夏山 文 待 積 液 亚 11. 無 年 吉 渰 R + 停 吉 其 防 售 X 亩 水 إلا: V-1 Tu 居 the 盐 Ŧ 17 (Tr) か 15) ぶ V 有 覧 放 V 山 年 河 帺 E 水 去 踀 + 而 科 沉 占 築 ホ 治 河 2 52 朿 Ξ 太 季 弱 分 且 呇 瑜懷 礼謀 理 徐 15] 掘 水 1 久 黄言 古馬 邳 + 7K

諸 官 4 É 宜 不 去 新 沙 ďη 沙 難 萷 靳  $\geq$ 離 五 民 \_ 為 苗 욞 挑 O 畓 有 於 Ź 酬 চ 則 議 輔 2 水 済成 九 家營至 頄 船 義 餘 得 運 F 久 外 淮 三尺 外 治 效 誠 大 往 泰 去 做 y) 於 雲 則 黃 雖 詳 河 不 來 來 御 <del>;</del>•] 三 7/ 其 亦 近 2 得 板 各 梯 書 F 銋 究無 五 磨 言 宜 P 沙 史 H 也 船 土 流 極 翮 1 云 2 余 陳 ŕή u¥}∓ 水 尾 港 泥 不 由 ~ 沙 ,Fi) 逼 37 ٧Z \* 决将家 碓 給 其 有 煃 U 此 沙 少い 近 朿 洮 31 外 計 通 雪 事 大 畜 挑 2 4  $\sim$ 2 2 土 2 海 惜 \_1\_ 14 法 淅 中 海 3P 淤 有 科 今齊 流 乾 五 于 カ = F) 置 犁 港 水 æ I. 張 恐 與 泥 净 斩 溜 + 無 何 -施 家 為, 部 企 乗 售 V গৈ 未 v 里 身 為 有 板 里 界 達 程 者 亦 Ì 木 風 乾 沙 令 丈 不 2 潮任 屡 िं 事 搜 家 欲 漼 從 亦 机 4 能 其 决 結 衝 不 底 身 大 典 눝 來 滌 3 漼 Ē. 事 乎 成 刷 15) νZ V 土 盡 湯] (र्मेर) 梸 PY D 有 ij·] 兆 水 禹, 季 u 郀 12 五 矾 Ξ 大 直 淮 涿 沙 奶 年 じく 程 奏其 馴 之處 밶 丈 Ŭ 港 右 2 不 业 IJ 海 浴 亦 水 束 ヽ 五 ;ne n 40 衝 レス 寧 于 議 哲 則 相 給 之炭 果 年 小 水 無 功 淮 楓 事 沙 路 视 枥 射 2 容 者 いく 口刷

築 里 平 萬壁五 埔 杨 李泰三美斌 厚築堤岸束 新堤 Ŕ (四) 漲清 高 柳 江 削堤 徐 各 X 7 澗 陽 州 伯 分 浦 雌 年 矣萬 衝 凡二十 復 大 料力進分黃草灌疏添海口之議乃開 D 年,河决在 武,宜另關海人 ij 灣堤 治 孄 羽 <u>٠</u> 年 水 沙垫 701 **競祭与堰** 八月黄 徐沛 歴十 無 福 大溢 夏 决 14 東西七 桃清两奸 水 水 不 治 鎮内 二少河决軍 阻 江 水 造楊楼堤 石坝 涣 五 歸 修築功成受養自季馴之孫在 徐 遏 初 镇 禄 年 酒 ットリ 三尺 河壤田廬没 35 淮 捉 四座建通濟刷 + 啊 嗣 張 村 水 水不 何 遥堤 餘 シヒ 居 决獸 印 後 積城 侵 里塞崔鎮等决口 + 淮 চ 水 傷二十 勝之武 民 偃 能東下 餘里歸仁集 五 决 盤 狹 四 派 4 師 一萬六千 高 ナ 古 束 溺 u 餘 堰 F 蚧 屷 艮 科臣 十 民無算十 鸠 啊 于廿 里建崔鎮 年十 長垣 九浸及祖陵 堤漫李景 軓 年 U 餘 東 加 明 淮 張 捉 丈 維城 潘 屡 诜 九 很 年 . 百. 公 剐 李 四 决于高 Ä Æŋ 被 年 程 廿 桃 三十 十 馬川 徐昇 置大 南班 河 鎮 水 高 沙 沙 桃 搃 餘 而 片 大 源 沙丁

演導 洛漕 \* バイ 廣 桉 塘 湖 水 陽 家 渐 威 牛 於 刼 壩 致 洋 凇 墩 湖 F 石 でく 蔵 淮 清 海 宣 四 仍 栖 馻 湖 由 通 涇 斩 肫 抑 庿 製 爿 深 射 河北 ·bj 2 + 功 五 313 渖 治 河 番 ंग 告 就 斟 洋 陽 四 淋 O 不 港 涆 的 淮 又 旃 強 Ęj 岸二块安東 年 而 射 胡 導淮 木 及 **v**2 湖 俱 建 水 いく 黄 豈 「家 1 待 陽 Ξ 刷 知 Ξ 刑 通 宫 \* 由 通海 决 事是 决 分 + 池 淮 制 五 射 油 庶 山 良 金 為底 波 狄 港 狼 家 之旁 者 洋 3 清 沙] 陽 輔 年 ż 海 夭 果 黄 游 汰 至 河 湖 U 剳 游 闹 海 河 道 jŁ 治 D 也 水 益 沙 五 2 F 7-**内の決麻**在 1過暴漲 獨 ぞ 岍 2 何 涇 由 苍 32 油 F 浴 70] Б x 道 vi 於 É 里 淮 兆 į, 稻 河 腌 水 四 不 义 萬 實本 濟 來 孄 減 テ製 達 桃 甜 淮 挑 ロ 河 ت 歴 퇴] 116 深 屯 由 河 供 源 水 也 疏 淮 止 连 · 能廣深通 决 滴 科 满 + 草 塌 由 ょし Ŧŋ 五 江 事。 1) 岸建减 坐 九 + ίű チ 涇 狐 :b 沐 裥 不 淋 周家橋減 レイ 不 砂 之不 壁 為 年 120 泪 科 南 涉 河: 流 苗 纸 U 决 發應 濁 ボ 四 平 2 水 <u>}</u> 選 疏 淮 遇 由 射 ME +

وسيهجرا	1			T	100	Ja	-	7	1	بالد	72	42	120	-3)	ريو.		
	1		[	1	路	1 42-	10		河	(4)	12	分	関	1.00	37	而	河
					不	、然	~		北	保	五浅	般	⋞	塞	末	其	海
			1	į	小	河	海		岸	薬	D	般心	淮	於塞否	詳未審	治	.H
	l				上	F1.	12		排	#	口長	甜	U	也	沐	河	12
					:	上	1	'	-3.	3	-	從清河上四		跃	ंग	,,	
				Ì	370	137	17 X	灵		1		11	1 ×	予	1 1	疏	140
	1	1		Ì	12	仔	中		纲	衣	Ð	العزز ا	17	鱼	'n	ľ	将
				1	潢	1 末	殺南师		新	策	四	ユ	山為黄	<b>暨查順</b>	典	典	1=
					决	主	河	1.	河	又	+	四	淮	治	潮	治	िंग
.				l	20	淫	惠	'	=	前	里	ナ	歸	-1-		河	d.
		l		1	不憂上流之潰决也矣	滅	15		北岸挑武壩新河二百四	奶	二百四十里東流	五里	海	六	湖二河經	書	海
					'	岩	译		四	ję,	*	里	2	年	極	ρή	_#_
						摆	河患此皆海		-	麻	~	17)	Je.	45	:蜀	捷	か
						<del>                                    </del>	D		十里分黄	為保運安民長策又前明萬歷年間曾于桃	入海分段恭張	排	淮歸海之處每遇	六年紀河朱之錫	濁流	與治河書所載疏雲	1
						,ŦD	<i>≥</i>		分	AFI	3	挑黃家衛經	136	朱	混	查	苗
		ĺ		Ì		. 8.	12		4	141	472	٠.,	7	7	: A	3:6	in
li i	-			İ	,	113	1	1	, ED,	F)	4x	<b>外</b>	河流	~	74)	140	7
	- 1	İ		}		$ $ $\stackrel{?}{\sim}$	通		_	チ	恭	浙	流	37	淆之	人	淮
				İ		庶	in	<b>"</b>	一支	桃	洮	經	泛	疏	後	梯関海	亦
						睇	今		山	源	2	清	凝無	疏云	果	U	カロ
	ł					놃	*		五	好	林	70]	紐	实	亭	右	詳
						河形尚存未至湮滅若擇一而通之庶歸海有	口之背通而今塞者		山五港	縣流	之於	至	處	梯	後果毫無	者甚	連潮二河 海其於分黄導淮亦加詳矣

聖 祖 ÆÌ 仁 皇 戫

康

爬 诏

帝

Š

河

ďi

找

北其

助 淮 ï 去 沙

**鉴典** 

至

天

德州 行心 11 妆 河 矿 防 辸 姚 里 楝 歷 4 雅 1,4 名 說云自何 4 東 黃 西 河涯 尞 ッと 屯 城 宋以 浡 脎 11 .2. 縣 始 4; 前 ĘĨ 林 老前河 ជីវ -F. 西 退東 池 ル 再 起 故 禹 专 办 终 道 ナ 也武 後 j∳ 有 য J, 里 歸 河 約 至 غو

**水**武 iii J, 殎 歷 河 ż 今 河 南 故 萬 道 可 ₹p 餘 J, 今江 2 \* 水 ٦Ę ~海 道 台 /坚塞 流 一两來每 之道 久 2 <u>س</u> 全不 但 ホ 可 **放水源大益** 仮 可测 73] Ĝ

33

Ĺ

宋

+ ib

宗

+

哟

4

黃河南徒

电

汴河東南

事 滋 李 伙 水 温 黄 者 馴 山 張 刷 、常退其强 亦 ì 企 ø 東 程 Jt. 2 浊 病 الح 淮 淮 在敢武之 其束 苗 ATT) 不東侵武不南 究不 1 淮 常 泛 7K ~ 張之水 説 免于决溢于是抵 太 務 迫 诓 使 弱 少哉 侵 黄 63 澌 右 淮 A. 亦節宣之有道者全 ,導雅之議 Jt. Z v 2 水 敵 **₽** 河楊 剛 消 苗 清  $\mathcal{X}_{i}$ 4 不 R.] u 至旁 慰 嗣海 建成 汐

餐减

石 南

县

房山

連

建

٧ ٧

斌

之其

書

宜

又

于

黄

įŁ

帺

いく

减

2

更

Ŧ

徐

μ٠,

城

JŁ.

岸大

名

1,

毒, 娯. 庄 水 4,

岸

扎

纸

jų;

不 Ja

及

者隨於前

本)

坪

岸

砩,

٠

縣

بخ 埧

帧

舖

減

水

娸

Ž, 後

上再 事

漆 狐

建 桶

漱

水

深

上 諭 JE 法

豫 岸 世 東二首 减 坝 好 3 并 歌來之 柣 歁 靳 ٧٧ 輔 火 水 伤 建

骐

于 #

码 じく

南 儭

婡 31

建 前

枞 肋

j.

毒

淮

拡 沈 強

時改 徐 云 虹 臣 再 古 эŁ 岸 河 ت 构 ¥ 减 壴 岸再造成 水 表 堋 辟 12 :4

並

訓 42 Ä) 腌 .2. 鎆 須 籌 **;** 臣 至妥 崭 輔 和 ż L. 策 今 筙 黃 水 坝 使 -31-惟 水 \* Ż 长 有 -411 ボ 水 前 座 3 不 市 份! 山 弦 推 (f·) :IE 逃 助  $\Psi$ 微 淮 淮 39 2 ガ ंग 淮 17.]

好 不

法 12)

Ŧ 2 兩

可

為

添餐成 水 ¥ 堡 Z 便 座 考派 水 深 建 附 民 深底 Ŧ 庥 迹 斌 神 再 添 徐 黎天然成 D 是深底 渖 140 坝 行改 石 三座 王 肺 家 户 深 \_ 座 更 J. 今再 水 五 石 Ŧ + 又 渖 六 深 チ雎 添 尺 底 徐 建深底 座减 里 14. vλ 石 **₹** 寧縣 資 牌 Jt. 岸大 二處 水 分 四 石 座 南岬苯 大石 凍 旗 就 谷 又 又 肺 Ŧ 山 欄 等處 根 座 鲟 馬 座

虎

Ji 3 粹

踀 乖

好其 然黄 獨强 就 水 沙 清 建減 湖 聽 不 河 能 孙 坦 清 其 排 内 去 Ö 减 旁 鏊 内 JĽ. 當 分 于 竹 聽 ρή 2 颓 原 ģ 沙 水 則 水 威 刷 苗 水 存 岩 Q-1 既 屷 清 减 出; 水 骄 n 深 鎜 水 韓 導 湖何由 刷] 清 櫥 É 肋 排 出 深 底 言 水 2 天 清 底 减 清 准 水 幻 然 D  $\sim$ 蹣 Ž 沙 莊 纵 底 山 Б 洋 停 貓 3] 微 云 O ย Jt. 水 € vΖ 牌 睢 牌 斌 石 南 楢 頂 下 vy 睇 湖 绝 令 1 河 (锅) 11 水 10 ┝ 至 淮 窝 8 復 F 山 從 上 源 座 従 1 じょ 運 Ξ 諸 海 黄 盂 蕭 高 淘 分 歸 致 者 新 河 根 座 徐 底 减 黄 西則 等 既 决 出 縣 湖 各 Ö 運 村 也 睢州 6 ヹ 7K 去 會 大· 焣 湖 河 .}+| 14 由 王 义 水 徐 亭 ; 旗 由 2 埧 百 縣 黄 馬 縣 じく 亦 制 44 縣 家 v 枥 北 四 也 趋 里 岸 等 後 五 不 山 内 ंग 湖 F 座 南 出 4 Ž 泽 源濁 訓 淮 亦 识 又 南 駱 14. 柄 復 湖 岸 -計 聚 沙 勢 沙 不 湖 增 城 內 馬 F 使 <del>(4</del>7) , , 筝 岍 Jt 燭 绞 分 **則**] 合 -iú 沙 <u>;€</u> 毐 湖水 F 里 É 南 1 淮 患 ₹ 弱 岸二 力 亦 # 城 停 使 河 上 復 使 戽 馜 善 并 水 湖鸦 沙 沙 就 舗 湖 坝 庹. \* 裆 湖 其 内 埧 苗 派 旆

				-	36	3 1	Ù.	+				4-4		٠(٠	ચેશ	:A:	7₹7	,
	1		湖	泂	黄	直	故	朿		上	亦	何	不	沙	湖	本	建	٠,
}			化	旌	マス	趋	道	チ		計	有	マス	受	存	使	建	石	座
			為	留	助	~	疏	會		不	應	受	黄	尤	助	—	牌	、火
			平	沙	淮	海	溶	通		発	然		沙	較	淮	座	-	由
			陸	v.z	.2.	Q·]	深	不		無	Z	之其	2	者	流	共	座	歸
			ヌ	清	使	黄	店	能		策	祸	坳	垫	矢	3t	新	改	仁
			又生	水	诚	不	專	挽		無策乎稱意黃	為	淮	湖	凡	维	梎	深	<b>促經過</b>
		•	他	~	水	週	1.7	河		稿	為清	敵	底	此	雖不言	牌	便	經
38			母	湖	趋	强	以待	使		意	D	黄	Ð	宿	言	十	民	1
			變耳	不	湖	淮	黄	<b>\</b>		黄	vZ	[호]	高	唯	沙	<b>\</b>	胂	并
İ			,	v 4	2	£]	河	勃		原	チ	有	湖	蛮	留	座并	<b>伸</b> 一座	歸
				濁	也	不	泛	海		不	計	りら	\$	独工	納	并	座	仁
				7	中	過	漲	亦		當	或	然	្ស	盱	中	由	又	促
		i i		沙入	科	弱	時	宜		入	云	2	淡	沙ツ	师	歸	棚	附
ļ		•			3	.y.	時减	亚		淮	得	迹	毎	_	洪	仁	馬	Ú
		ļ		卖	多点		下	講		Вp	失	迹其	年	滞	澤	隄	河	五
i		İ		湖或猶	月	不得	下之	末	١.	木	<b>A</b> ,	於	雨	之	湖	下	水	垡
				不	咫	ح	水	五		得	清	湖	水	湖	⋞	注	琪	地
				不至	促使	己の貨	使	港	_	得已	o'		暴	無	水	洪	六	方
	j .			3	2	45	2	12		而	いく	海	F		去	泽	座	胍

其 淳 時東 般 秋 :1 長 朱 **,** , 表 水 用 漢 後 \* #1 熱 大 抓 奎 · 许者 牽 129 後 Ð 东 河 絙 决愈甚 チ 謂 書 之方 五 塘 丈 vλ 枡 破 水 **Z**IS 山 狗徑三寸 踀 成 歌 去 南 速 大 土 47 燒 植 丝 河 47 没 歐 就 日 梗 寒 草 事 4 ئے 泸 榆 九 桂 决 其 F 東 填 胎 -為 44 陽 序 水 v٨ 纪 法 \* 好寒决 五 法 元至 M. 基 林 单 故 河决 麻 郡 决 河 13) 夾 可 12% 2 新 里有李冰 ~ 徑 ρή 47 塞 四 有 vλ 4 二 证 Sp. Ĭ, 柒 瓠 ج 12 À 隄 か U ٠)، 1#] #8-之利亦 蟛 子 尺 末 4 前 河 ん 河 挺 梢 ツ + 土 長二百 帝 長 審 かり 稍 啊 防 踸 亦 Б 步長可二三十 1 (本) ٧Z 敬 事 挺 Ä 布 Ŧ ŧ) + 船 使 いく 記 .). ō 愈精 中戊 洪 丈 **崎塞** 云 夾 智 土 Æ 栜 鼤 餘尺 团 ム 17 堰 載 决 贾思為 İ 慎 1 t 妆 v. 1 独 いく · 帝 ₹ 14 决 河 土 ż 者衡 E 浦 啊 皑 ~ 树 A) 賞 ż Ž すい 475 单 常 下 せ 紀 謂 有 沁 ŧ **v:** \ 棉基 ヺ 之三 寒 建 移 水 ٧.٢ 台 Ÿ 制 Ē 鋪 和 11 彭 **#**) æ, 始 米 防 広 Z Ź 木 vΖ *7*6 1.1 梢 脞 城 ,E, 江 14 相 东 惟 哟 立 旭 Ŀ vλ 11 R ゎ 豹 決 漢 2 為 補 壁 濉 M 徑 朴

世宗

£ 時採 ₽. 皇 拥地 然 萸 裁 疏 ジン 索 1 嘶 27 絞 推 船 今 荣 マス 帝復 惯買 云 柳 剛 三十 ~ 47 45 47 圻 縛 有 前 鸠 Į #1 火 促其料可 约 縦 嗷 骗 耸 為 大 嚴盗代 者 遺 Z .لار 植 \*P R 請 河 掃 朴 X 為 麻 鵐 橛 3 絙 ۲. 榆 不 利 臣 町 于 **输**大 其 方舟 艘 馬 麻 エ 义 柳 時竹藝麻也 及 取 濒 楊方典題詩青成印 いく 上 前 4 由 次 惠 于 À \* 河 有 既 河 棒で 又用 後連 是 火 有 2 青 手 庆 餘 ŔŶ 传神 柳 淮 竨 拠 水 雜 44 率 植 力 ρή 溉 之禁于是 厚鋪 大 或立. r. 1 单 ⋞ #8-木 3 m 餘 啊 各 蛈 ٦, ټ 漢 麻 大 4 枞 **Ų·**] 鉾 康 貉 **Q**·] 偹 置 F 桅或 于解腰索 索 ,#<sub>2</sub> R 世 (4) 其 不 熈 成 Р'n 採 柳 J. 料 右 腰 ত্য vζ 47 乎 當 餘 + 大 树 T 瘌 榆 オカ Å, 長格 本 和 4**'**5 絁 六 亦 椽 官各 植 偹 U 柳 ~ 敉 管 Ł 轉 矢近 索 為, 年 又塞决 古 **Ų·**] 闸 性 隂 屉 剕 Ż Ų. 致 竊害 今 X 幹 いく チ 实 河 何 戏 較 杰 大 Ì. 世梯 河 Ż 蘆 木 艮 不 河 柳 林 取 索 麻 濱 就 朱之錫 .). 桃 次 T Ŧ 2 干妆 ž 更為 其 祭 判不 2 尺 嗦 义 祈 為主 枝桃 荒 猝 非 根 贯 者 排 納 竹

推 杂 叻 Ξ 唐 螊 畫 1 囙 # 廂 Ð 州 也 ≥' 者 -87-土 ٠, ıŧΊ Ð 禁 若 低 淌 太 8 队 割 穴 袮 اقا 浪 も 3] 柳 編 縦 15 樯 雅 竹 稀 圃 柳 #73 長 天 植 市: 横 榹 椽 鋪 其 A )<del>-</del>] Z 奕 疎 絚 Ð 和 عد 各 於 中口 意. ~ 癸 土 如 表 制 违 科 幹 不 隈 Ý. 误 雅 Ú 狻 內 件 够 子大 内 不 根 初 水 곮 而 2 ዾ ٠,٠ 河 丰 4 亦 研 楊 裄 横 如 祭 拚 外 徐 直· 枚 ٠١, 尺 d 禔 讲 有 麻 裁 裁 鋪 指 溃 起 許 植 ₹. 埋 Ð 之為 竦 ت 柳 再 柳 遙 榆 柳 至 取 퇗 根 ٠)، ŧр 没 剕 裁 至 10 .)-技 六 料 1 上 바 尺 凄 刖 不 土 法 竹 根 Ą 尺 松 格 Ł 頂 不 去 旁 Z 쯙 七 唐 1 許 如 俱 修 飮 者 株 唐 末 過 2 麻 4 裁 茶 土 刑 每 iŧ] 不 亦 土 伟 褂 37 E ₽p .2. 11 ₹ 柳 者 31 分 森 生 深 非 止 敉 土 女口 俱 业 .). Ť 极 新 枥 森 鬼 十 Ŧ 绥 尺 河 쇟 隄 푯 售 \_ 住 許 盗 ŕ 旌 鋭 内 防 档 东 女口 從 误 . }-望 栈 失 外 梢 尺 .). 隄 指 初 使 寸 枝 隄 使 2 根 許 刖 大 俱

客 手 1 許 浪 **[**-] 批 柳 退 · ip Ð 丈 雖 飵 六 狄 不 勃 平 却 深 衝 根 各 127 湍 刑 隄 + 逵 者 後 构 揺 満 層 柳 将 R 2 柳 激 林 五 如 桁 俱 4 大 上 次 可 寸 此 又 條 .). 宜 教 水 前 (<u>₹</u>) ЯÞ 儘 勁 তা 1). 队 将 柳 六 平 亦 等, 3 亦 秸 17) Ξ 伥 枝 惟 直 抖 我 × 机 我 法 無 车 11) 11 次 队 難 外 村武教 幣 連 取 寸 我 椽 虞 ₹p .). 矣 止 IJ.l 1.1 土 31 長 梢 表 戍 深 編 ল エ 築 柳 與 我 凡 橛 柳 Fn 枝 直 柳 31 林 高五 Ξ 淋 夂 唐 \* 實 條 枝 Ú 旗 入但即下 桁 枝 枝 極 裁 株 亦 法 槁 梢 丰 ंग 促 綢 Ð ŕή 全 女口 寸 内 專 满 高 终 柳 ジス ⋞ 造 绍 及 -40 根 短 17) <u>ت</u> 尺 钼 栋 五 40 為 如 防 利 名 Ł 河 雅梢 F もつ 稀 寸 編 ニ ٠,٠ 贬 柳 势 為 派 亦 睁 沱 12 チ 長 不 俱 尺 尺 層 Ť 薙 换 힁 椿 不 将 溢 沽 v. 5 尺 ग 淮 بتر 大 法 外 土 平 内 亦 長 न 稚 限 衝 2 單 者 次 满 儘 載 內 為 岸 丈 矣 #] 镏 旬 2 水 胨 尾 少其 釘 枝 镏 土 刖 尺 處 掃 桁 팃네 朲 却 17 如 六 道 柎 上 築 土 误学 來內 柳 ナ 長 倒 矣 维 外 使 长 否 #; 缈 ने 築 緺 15 土 女口 則 深

							خب بين									
	六				ł	l .	F		五		ĺ			١.		
70	TO	省	尤	居	随	遇		家	日	战	7	掃	衝	11	勢	亦
		為	易	民	於	水		我	漫	深	隨	土	墻	根	緩	湏
	柳	效	於	各	適	漲		低	柳	採	衝	不	亦	株	₹.	=
		甚	積	分	長	斑	L_	٠١.	凡	m	勞	漪	可	臣	3	ニ
	此常	大	成成	也	事	退	<b>/</b>	桱	坡	柳	费	愈	障	結	裁	尺
	於		高	界	毎年	则			水	耐	無	Ŧ	禦	۲, ـ	刺	57
	误			界築	枚	泥		柳数	漫	直	極	鴖	或	土	+	上
	内内		-		次	沙		+	流	立	者	水	剧	愈	餘	3%
	外		年	1. 1	教	委		層	2	冬	乎	ェ	之	深	魯	縦
	王		퓀	尺	年	積		伦	處	不	乎書	埽	外	上	少	横
	用高		促	餘	年之	3p		名	维	為	视	V.1	稨	刺	(P)	五
	人		内内	缕	後	哥		随	いく	動	洪	掩	Ē	枝	120	又
			₿p	水	自	可高		河	築	益	波	黎	柳	梢	五	
	柳		可可	1).	烖	又		柳	促	信	急流	岸	長	長	傳	即載
	構成		種	隄	E	餘		不	惟	前	流		椿	茂	枚	_
			麥	上	促	或		畏	沿沿	法	中	椿	内	将	年	林
	行我植		夕用	我	如如	我		淹	河	可可	週	釘	省	來	2	17)
	北	1			沿	双寸		没	两	行	遭	オー	梢	河	後	枧
	1 1		エ#	檉	- 1			西	岸	!"	ی	随		水		河
	不		甚	构	河	許		-0]	4	1	<u> </u>	I.V.	丁]	1/-	• (* )	

減水壩另闢海口以洩其泛漲大吉主閉南崖減水壩不引濁沙入湖添建北崖大吉主閉南崖減水壩不引濁沙入湖添建北崖 國朝馮祚泰撰祚泰字粹中滁 三百角 一卷後第二卷浙江※ 前策三十篇皆詳述 是編乃其肄業中山 禹貢水道 滁本巡 所作 州 及歴代 港後第二集人

〔清〕郭起元撰 蔡寅斗評介石堂水鑑六卷

湖北省圖書館藏清刻本

附《四庫全書總目・水鑑六卷》

提要

旺分水	挑 口 論	淮揚運河論運河沿革論	堰石工	淮河源委論	河大勢論	毛城鋪减水壩論南河形勢機宜論	全河大勢	介石堂水銀目銀
-----	-------	------------	-----	-------	------	----------------	------	---------

史 225-480

觀音卷石工說下河說	徒陽運河說息浪養婦工說	港說等	卷五	瓜州城河說	泰州運鹽河說董家溝滾水壩說	芒科東西二開記華家灘王家港湯家絆尤家窪等工說	建新開草壩說閉三滚壩子嬰壩昭門壩說	新聞	堰肝碑土工說
-----------	-------------	-----	----	-------	---------------	------------------------	-------------------	----	--------

北運河各河考 整	老六	路馬湖說 八湖 八湖 八湖 八湖 八湖 八湖 八湖 八湖 八河 八河 八河 八河 八河 八河 八河 八河 八河 八河
-------------	----	--

		注水考 江源考 河源考 野鹏舉 恭編次 明報 恭編次 端表 端表
--	--	--

史 225-482

决間。河、别向、南。别 上海治同。域 臣 器其其目所則云。 書 錐 流赋河、禹中 石 指流地入北經目 河其 乃倉自 貢四全 滥 實。移。至海過之南 自成 可距上紀 濟。 水 今之泽地。至積績 施川、而導河 盖。水 大 鑑 可處水。則華古。故 其 功。 恭 ?河 為 其目陰三順介禹理 考。則 蹟の総 積 大品論 茫°遷°自日北孟 自干以岩治為 亰 石。學 向津。南里紀堂水。足敢至 茫。而大谜 者 至之水自據信於多 伾河。所曰而 所。洛 江! 閩 而蓋經洛 東、龍耳。艦下也。禹龍稱 從。水 隂 縣 之內則門。朱长而蓋自門。禹 下自 来。大 郭 崖洛 龍子一上。必言 者の陸 地。日日日 宋蹟 寅 赳 岸沟则大東門之 復下子朱 手 遠の九 而》 元 芳 巴。河 髙 而 曰 伾。至 言、 而 自水决子 古 復 上。大 自底下。如,一 上|有|九|日。今 按洋 於 三 燕 平河陸。東柱。自 此。 而 今河。 所川人脖 評 著 地。行目而其北京 下。我。距言教, 河。於! 九北東 而傳 故 而海。禹不 **d**7 LL,

准嘉半、淮。大天城注 渠。梯 眺山流、二永淮。 淮 縣 輓 關。邳、東塞。股。濟是。 其情歌,一次祷界。鉅 口 絡。輸而。宿、單明自渠。為。 後六淮、合、於三以、野。 東東。桃縣。弘 魏 注 開年明北潭年入湖 蓋 今。 南北。清東治恩乾 疑以洪清·州·滑淮·淮 古 入。至一行、間、至 寧 11 沛前。武河河州咸泗。其 言 於。清入北、德 軍道。介 縣河 河 二入道河平宋始 百 流沧入盖方 。萬 海。口。江 諸分十於南溢。三 者 太 自 上與南 亦入海。自意流大四海。徙合。平 狐 .2 漢 塞。海。是。宋水復道。年。金 分古河 下准碣 治 乘 興 元 |李·是·為·慶||整||堙·其||河||明||二||汴||决 光 南 7 合山 國 河、為。北。歷春全。兩次昌 三 派。渠。鄞 河 ? }}. 有 流。縣 運除又、界。所、東。流。八十河。道。原十 车 一東、州。年。 悉。由、武。年。合义、浮 车 口。里、東、逕經流。嘉 河 河 經。河、全、决一南、淮°鉅一决一决 中 徑豐自元祐河 分 河 山沛、河符五决土徐。南、河、陽清、照野。滑 濮 者 合 問 |州。鳳、入、武。河、寧|入、州。陽 横安。蕭、南二年。商 合 以。泗、於、河、入、十淮、至 銅、虞年。河胡 瓠 穽 · 亘 歴 淮 雲靈、城。東、决 入。入、淮、大、於、年。泗、彭 7 與 合 漕

諸河其、理。運 明大水州强、者。而 古則皆縣易、也。無 之今講會。之法。夫 似時水而害。其、黄 一 此勢區漕沢、湄、河 書。 擊之書運令易以 平 攀異之又二凝,源胸。 z 指自方。經濟宋遠 堂 有。 陳不夫其合以流 木 全 應宜豈問。流。前。高 河。 令拘易其清河之 耒 诵。 鄙索 易於口 衝勢o盤o 儒成哉。國渔入挾 釜。 第 咋 計下。海。沙盆。 舌而 Ŧ 民沁尚奔以。 蔡當 生。四能騰 芳 變 關沂為而之。 係,沐道,下。徑。

人不·夷·藏·薛·葱石°元 林、有師說。其閱問東七 月林六年。 迹 能。未。月。元 順。漢 下。詳所撰、後 所直。盡。涉、鼎趣使河 、 累。藏河、翰始 麓十命 及。抵。臣。艱、使干暖源 、今、梵源、林林、險里。都 河 皆其。服。難。吐閩。騫記 取字志。學河隘。有 寔 源 河 虚。而。而、蕃。滙持一日。流 源。舉 源 臨士 為 二、圖 家書》川潘是足河招食 驛 而道。其、訪 鹽 節 河 論 在 蹇驛。計方 冬 傳。穷。未。所、河澤。過源 之而朱昂 吐 書。以思霄。還高。驛使全使其。盡。得、源。伏西古 泵, 考、華本·從報·行西往木驛極·通·不、得流域。無 都往 默·故·遇·之 千度 所 定文又都弁一南求 其。譯從寫圖日六河卷来。元所。如於古。玉見。 西說。之分之其至十源。如有往。此。関至 城巅。里。是 行 天 不。意。磨 積 見 貢 部。有、與 弟 里 國下。無。者。黎石二道 西有歲 不品吉潤傳 有 欄位去山里中中海过。漢。山。而水河。 同電惠 愈日河 至海迴。唐。然、再交上 智 者。所 家。出。置 餘附、志。得得、以高。殺州! 无 内 艱。時。皆、出。流。自 ,十处阻。外。歷、唐發積 弘。注、至帝其、聞。四馬

號腦思入里三木深湿 人。畫通云。河嶺。人里河 斯 唐 又 源。绵 可 术。合。 赤兒。兒。井。帝一千一曰。若 40 宿自史:其師餘河列渙 是调五一亦直涉合又 两之十二出千思流三 河。西云。井撒里。源星。散。 又而屋面思雲在以弗 山聚里。日。南里。本、入四 峡落,可岐山。水口。赤日。 二東。流係。加南十故可 東?糾度為西流忽實?水小三連奔東地雕州名區 木馬の、北五蘭其南石日屬, 軟。北之江西 | 幹又九流百河流来堂水吞近流西宣南敦方 可 西噬五百南海直。腦可 四肢。五條源。寖名水 舟。五名百里。出大。忽如南行七餘二司四兒。七 日。也餘注自始蘭。養来。一里。里千之川大小 或影水孫里。也南名又一名日。滙滙餘西馬敦。十 草潭翰始、里山。黄、水 亦迤二為里。北。湖譯里。 里 選巨大水一變言 履 里。以|濁。倫。與、出|其|河。東! 濟。土譯黃、河。地然南土出。東澤。從干部星高 深僅人這河、也大水来。 與貧名曰地五之宿 山 |赤||成|阿||火||浦||百||正||也。下 容抱九合。里山猶名。 測。兩華渡。更出峻清。也 賓川。刺敦出餘西思、版

草餘麻西與草消。譯 期。皆而八過四潤。提綿 其不與思之。達及地。直。崙里。哈流懷崙。土言 山又地。百里行人騰 黄、全思、之濶河五 山|峻。河、河。本、街|提。行|百| 下折又餘火二言艺 番而正里。无一下遠里址。 益水合源目。也。二崑餘 髙。益更、自河多地崙里 名正北與河目。年塔。有 亦北流黄、合思、成即。大 地散云。鐵過冠相南。河本 亦 湯。崑, 豹 濶 盆。屬。半 随 五 耳 流。一 河、懐 本、氷 崑。雪 麻一百合。里日。時。崙。山。 漸默為嶺提內又日山堂 下。有以之與官三史、足水不百餘又火自六也。名 | 「見」西·北·亦兵日·云·東 制·餘里·東 秃 運 月 山 亦 校中。人正西鎮地又流。季其里。乃北河水見腹耳 隘。野簡北八之。名四遇一山又折流。源。東之。至 麻 髙折而一自业自頂不 撒 有馬少。流。思近哈五 峻西西面南流八皆刺。 孤。狼、多儿今北刺日思 可抱。處五河二别至家本非而北餘山二九 雪。其 一款、山首合田。里地即 常東流里西百股冬 曜年、南。餘亦河赤名 山流、二過业餘水。夏 最 潤 麓由百即偏。里。至不 而之、山里。西水兒。而潤

黄境源 备正馬五黄、越 趣:折!禮:授:乞:打!積 府:流。 邈高寒河。里羅石州约 河、正自之北出。百河、之 合。北威北流二餘也。行 水東、塔源馬、坑。州。隸行 合。北 失 自 出 東 即。吐 半 史、流茂三二水里。思、五 云。四州百百合與本、六 流。地。鹏河。北禹。蕃月。 、貌 个河百之餘餘流、黄、曰。日 水過與粉與行貢。等至 介水餘西里里。入、河、哈有 西首、山黄、一精。處計 源 河、之河、日。石。宣德石业里。北。與渴河。合。刺水 臼 思史:河。西 州、合。西合。洮五慰州堂行。折岷乞阿 折北。又河田。司。地水轉而山里以本、云。自南 唐 而水西水至司名監流西之馬伯曰。又 西正非南河治水长過北北。出站。自雨 狗名 911 -軍 息馬北。西流。来州。河赤一崑流水河折哈日 嶺 納 為又北合·而刺水之隣 正 萄。流流。與入、安州。里。 北。五流。乞西河南北。哈 凡三七鵬河、鄉又始 百楼思,闢。四有比一百即里北與来。水剌 流。 ハ|百| 百餘餘河本一五州 |向餘|古|馬|流。黄名|西|譯 五 百一餘里。里。合。曰。日日、治 東里。當出經河、七北言 除里。又過鵬自至至官 北 姚州河。草。合。兒流 細、

流。德里。也。河。贯。勝沙里。 洮水喇 連過北河石里。 過軍。過思、九。莫。州。河。與、河、然丹山站流。州。州。過 中豐本析和。隸過黄、源後州下。白凡與来三 受州。曰。彼。紀。大應河、自與之正城。五野卷巴降西自地。極。同吉合心上羊黄南。東銀百廳城。站。 路。降西自地。极。同吉合。丛 城。受洮有。山路里更、撒河、刪流川餘河 東降水二。皆自。州。云水嶺合丹一站。里。合。州。黄 州。受城。與析。草發。正又石北。又山千與與、野構 東降折河蓋木。源。東一堂東東下餘湟黃、龐米合 勝城。而合气至至千 日水北北水里水河、河、站又 州。凡正北兒積漢。至至無流流東注治合。源界。東 與七東流馬石。此。寧蘭未過一南浩亹又自都北 百流。過出。方南。夏州。一幅百流。亹河東西城流 洮餘七河。合北嶺 凡過 河餘過達及林北。府過 府。里、百浩湟流山 五. 土 合。里。達地。青木澗。南。北 黑|折|達|凡|德暢|溪。東|下|人|凡與除|疊|水一|之|百 河、而地。八、水茂。細。行渡 ノ、ル 里。河源百北。餘站 源正古百赤世。流。即至 百河注源自餘水里。古 自南天除里言。旁。東鳴 餘合。湟自祈里東過積

里。東至八。千。千。按。潼百 一汾河里。山三過千正漁 州、東、與、中。百陝徐南陽 入、北 百。五。五。此。周。餘 寒。流。图除。百。百。知。與里。 霍朔黄、南 餘 西里。流。指 州、武河、流里。省。與過之 東陝禹通。里。里。源。華與、二晋州合。三與緩吃保南 寧之又百延徳那徳水 北。西。貢計。始。始。東。山、黄、 逕一西 錐 九。入。入。北。綿 河、介路、南南 餘 安 州。河州;正 州 寧 持。千。河。中。流。亘。合。石 絳 亂 流 里。河 凡 合。 葭 北。術。紀餘。東。國。所。水又重 州。山三過合叶吃州。流 合西今里。境。又。歷。勢南木又中。百延延百那及 J. 滩南輿盖。内。東。皆。不流舞西西里。安安餘河、興 水。寒地元。又。北。西。可二表流南與府。河、里。源州 百 又|外。曰。人。南。流。蕃。復 百 至流。汾折自與自境。餘 至河紀。流。遇。地。南。里。 龍過河而陝黃古又里 北。河自所。至。達。至。乃過 門。管合。正西河南遇與 合州大見。河。達。蘭。折河九 凡州。汾東蘆合。州。臨黃 !一 冀河、流。子又東州。河 湘西播聞。東。地の州。而中 |张。七||右||如。一。凡。凡。東||府。 千寧源三關南南凡合 一路自首能流流。一又 十一山。此。千。二。四。流。遇

淹北。河山草。城南徑草屋木至析林而北東東 縣縣府而衛北。又北北東南。谷南。西。運東運 関與縣南河。縣徑延鄉 術,渭一時一流。積。東宜長縣。 北水晋與石。北川縣又又縣運出、與北州 折合。縣。汾至。龍。縣東。南土南南東。廢塞。夏逕 北四州 而其、又水於。門。東。其、逕个逕逕其、勝逕衛寧 ;又 東,東、南合。龍。山。其、東、清介綏葭東、州。廢東夏 是、岸。徑又門。在。東、岸。澗石徳州听。東。豐南。中 為一則朝南之。馬。岸。則縣堂州東。則入州又衛運 河、莆邑徑所。其、則石東。水東。其、河塞。西。北南。金合 曲。州。縣部經。東吉樓又繼其、東、曲其、折運又縣浩 此人東。陽也。岸。州、縣南耒東、岬。縣。東、而平東北。曹 河南又縣河則鄉永徑一好。則保岍。東。羅北又水 則興徳即逕所逕東自 水徑南東。自河寧和延 臨縣、州。平三東。靈北西 南雪至其韓津縣。縣、川 至|首|華東城縣。又大縣|十縣又追|鹵|受|又|州逕 来 永南西。衛。降北所清注 山陰岸。縣此。南草東。 **像西。縣則龍禹。至縣。又** 窜運運叉城運北。遠之 之至東蒙門貢。韓又南州吳神南南南衛折衛又

留|所。北。縣。徑 獲 曲 妆 縣洛於。東、澠柱。城而 馬。 ìή 周、卷 經,其,又 延 嘉 又 壮。水、蔬。徑|池|此。縣。東 北。界關也。南、東、津縣。東 又入津洛縣禹又徑 中。襄紅,岸。北縣又徑 東、馬。之、陽北、貢。東 首。 力 皆、垣、丈、則至北東、河 徑其、所。縣其、東。徑 产。 黄,禹、路,所、滑,睿又徑降 袋,壮,經。壮,红,至。陝 具 貢、城、稱、縣。縣東、原縣介陽岸。也。又將。砥。州北。 降、黎北、此。西徑武北。石 隂 縣則河 東、則柱。北。又 水城、遇、禹。南。胙縣又生壮。温自 徑垣之。其、東 两。 城北東江其縣孟 贴 之、林 降、貢。古 盂曲所。北、徑 河。 縣又徑紅北流津津縣經。岸。靈 所·縣·水·東·宿 者 北·東·榮本岸·水·縣/縣/又/也·則 渖 經。陟 至、渦。胥 北 而縣於洛、口。其、徑澤一則入、北。北。東河 魏 平 縣河 河、臨一大、汭。大、壮、陽 武馬。又以必徑自 駹 具糸 | 陸北。自 自潼、陸、至。征岸。武壮。 陟 又東·禹·新 陝 縣·其·潼 成. 者。於。山則縣其二 縣東流 成 安 貢。女 州 | 又 | 壮, H 按 大。在 新 壮。壮、 沁、徑 鞏 縣安、 又。縣又東 岸。街 肥 西肥今征。其郷又岸。 水、氾縣東、北。東。過 鄉、 則一北。 東、則一入、水、北。至。又一徑一砥 南。鄉 屯 之。東 汉 芮 折

漢南南樂馬 始、濮 高光 為徒至 燕,河 太胡 故。周 史稿八駭徒勘関 又陵津以之 失,陽; 武通 道。平 帝志東縣枯東。南。 支最 赅。津都 禹、瓠 瘘 在 也。鄉 釜,東也、北"其一今尉」經、廣 迹。千 元 曰 、壮、北。河 平、禹 其 注 光 自 |徑|又 東原縣 在光 商馬問現許 文,室 海東經島之人 後 釺 三周 東馬 津相在 上 商 所・至 河 野 年 定 豐 [徑] 陵 光津 言 最去 成上 津。北|介| 稱、鉅 春。王 縣慶縣往地。方 之在三 入 通 南。二 書 平 又、鹿 7 北·往·其·金 淮河五 西雲 北·馬河。 盖百 東 曰《壮、縣 泗。徙年、北。縣又有、故、水 成縣。下 徒餘 光古 乗 播,大 從河又北東其、道、金 自 平其 吉 駭里。馬說 而 為、陸 是 又徑遺、雖未 徳 頓 决 東 是乳 之餘三 縣九 九、澤。 近。砂北東 南。則縣。河氏界河 棣 河 徳 跡。填一 河,在。 東 北平按塞。 徙 礫入 2 簡、按則 之疏中,之 者。 馬。 南稍於 東 河 徑縣 今而, 潔,爾|徒 本回。自 名·漢 此 那流後海。鹽北德冷寸 鈎、稚 駭 道。九 又 馬有 書 省。 山又州河、 盤。言在東河津徒溝 播 而又 夏 禹 在馬成出所以勝,洫 為勃後東。按縣東北間、 一河 東徑有号、 東類。平分在。壮胡志。 海决至江

者。河、則入嘉經四始成。一派河渠。滑三年。漢。漢 自悉。河淮。靖桐年。大河一合於大東州年。河至,世河。经。行其六上。河半後、壮梁决入河河决磨。所 北梁决入河河决唐。所 徐明四年東洪入北清山於於溢。決滑河。指州。縣道。以至原淮。流。土河。張漁淮。歷鄉州。不。以 南 夏以亦油南前。毒武。而至十入浑州、皆、渡、州。東為。為 河州。東北金介於際。曹旋濮、黄南客。太 [r]~ 浮分自。經清明在海介村、寒。曹、陵流。治。史 橋為是。開河昌堂元為澶至耶、埽、至十。馬 矣。後飛六河。封之五水豐二淵·神注浮彭 · 如·频 單一个、開雲道。全。府流、年。雖元派。北宗梁鉅城年。者。 縣·被、縣橋其入·城猶河養年一流照山野。界。宋偶 東河、沛大雨於。北。未决一四合幽窜滯。入入人合 行所、之小道。淮。又絕。陽一月。南絕。十又淮於宗 入經流溜由而南明底。 决清河年。合泗。淮。太禹 碣|在|後溝。河|故。行|洪|徙|主|口|河。道|七清天]真|平|迹。 山江堙。入南道。至武封【塞。入南月水禧宗與故。 縣南而。海。鳳悉"項一垃。 新於從心古三處 國 这。 健淮・東土・汴年・平八 孔·境全·時|泗|於·城·十|河| 東。

源。上了。「經元之入淮桃寧東 又 来数千季。下级。 翻問見於安源縣徑東 直部熊而心於。 注。所於海。府縣北。徐徑 是文萬計水心。 俱紀。書:此·治、壮·其、州 難一〇狀之。道。可。 古較籍徐北、又北、府 具班羅斯喇叭 地為者。州、义東岸 之列 異。按知。介名,有或上。東運則土。又 并志 縱於心江禹。右覽據。紀下。選清邓又東 蔡桑横不°南河°生者而戴河。安河州。東徑 芳之只學·通之·水不導未所·東縣又徑流 三經如無。志。所。雖易河詳。經。縣南。東靈縣 |翻|一|桁。使。在。\* 晓。自 |或 之。南。與 運 障 |南 之氣而。知。至一兹。積荒道。歷淮宿縣其 注|鼓|率。現。河| 到。石。邈也。雲水遷北。南 一鑄意。在。徒一今。禹難總梯合縣又岸 是 冥·之·而 击 輿·迹 信·觀 嗣。流·南·東 則 枚古行。情。南: 地、所惟之。而又又南 格今也。形。徐 名。經。元河東東東運 縣。 体。水至源北逕徑雕又 入|有|夫。通。州

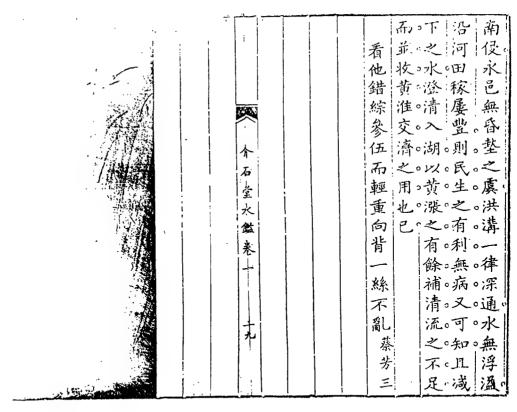
岸。迨抵其、沛、其。势治 較期。中。下、峰壮形。烈 灌家。福侵。此、山,岸势。流 河至山門、蕭、人、者。河 流雕圆。形、銅、者。衝。者。南 為至處南。雕設之計。益 復潭南勢、靈、也。東。通河 虞。清其則、宿、滅石在。岸。 口濱。病。桃、水林減/徐 被縣限不、雌、江平。觀形 有准。清。肺口:洩。邳入 夾境。城同。邳、南险。全勢 尺侵·二塌。不以。三介束·又郭。機·宿、黄成·局、機 一十十十十二百 皆、設 殺。百 右 鬱 有 萬 宜、桃、河、之。之 宜 金°必則°餘當限其。里堂其|鯉里;亦、清、地於°形 論 争病。里。遵、障。怒。間。水就魚奔異。山、無天。勢。 全之運南守、南俾。在土下山、溝。可、安、上機尤 勢(且)准成,岸無。在卷之拳至得以下宜審 惟節故宿、壮規。之下。危一性。山、此而、至自者。臨 一龍一詳海碣化。事 伏一一脸挑,運。庶毛追。險。 秋 闢 工 清、黄 线、成 上、故。 遇虎束。言、口。山裁之 大缝。較三河有、舖。重、昔。重伏山、不也。千入通。機 讯。歷多。邑經備、王之。人。秋時得徐有境。變。宜。 来防之行無家害。相。 盛 列 暢 州 餘 歴 存。蓋 倍以範城其患。山如度。 漲。两注。程里。豐平。形

任。形。雜。巴、宜、體、不、 三形是势。是。矣。應,察、足。 所者皆。张一變。全、然、 瞭有地。未。而萎、河、减、 独 志 若 明。師。在、之、之、二 继 河 大 耍 益。而。已。因、宜。諸、 疵 火ス 易 脩滴。狗。蓮、制、矣。 14 防合《人心之、宜。是、 蔡 重於喇·功、因、在、

之、不深。健東由為。要。防 益。两海。防歷此有。在。其 而、行。口。而雲入力。收。盛 過、故、不。嚴梯。黄。又、東。漲 憑黄、浚、脩過又、下、全。過 而夫手。心。機、形、過、不宜、不、自。守。大下、至、淮。此 未 彈形。則。先。势。甚。介减。宜、闢。使。通。則、楊以。則 速心势。妄。愿、審、則、石城、分。此。大、至果庄固。冬 也竭自。泥。周、慎、又、重则、分、南。溜。海水運元。春 !夫。愿。有。古。事、蓄、同、水免、则、河。直。口。滙!口、氣。初 集之。則。後。淺、於、雖於、力、上。走。三流、山使。夏 思機。愚。以、之、分。卷汎、弱、下。中、百而東常。祗 廣宜。專。收、機、而、一濫。流、游。況。餘河運處。惠 而、緩。之。則。里。勢河。於,其 無機。則。勢、因、患、 毋、無、大。全。險 益 及 有。弱 負宜。偏。利、地、作、某憂、以、概。河。工盛所餘。不 "", \*\*\* 是 : " 則 · 愿 防、刷、盖挑。立。连諸會。其 之沙河自。固安水。黄、强。

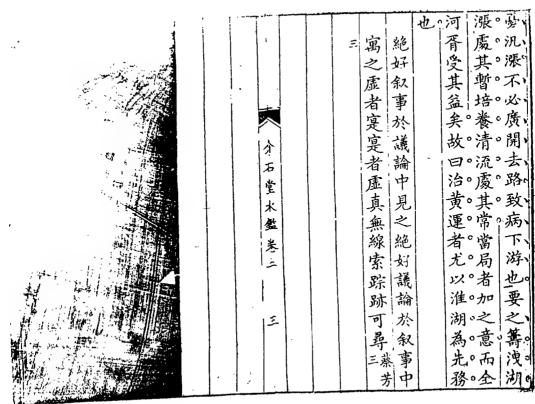
年工水必、宽俱等毛! 掮。勾溜浮、丈。浚、永邑。又 既似哪追、催寬年 以引近温、外垂、前亦淡。 城 久。得、六魔·六数詩 防河隈四滩施路被水 舖毛 衙二之出。支洞、邑。其無 黄保、座。漫、十十十建一减一城 深。道。支流河、燭、上、患。去 流固。計、決、餘里。者水貓 又以河。没、不機、較、乾路。 衝法,可、之、丈。徐也。塌。减 於備 凡民、下宜、 隆南介刷至、殺、患。千州徐! 明水 壩!減!九|田っ十|矣。宸元|壮|右|漫|善,漲、自、支、北|州|河|壩 外洩道。其、餘然東。年。三堂口。也。水、昔、萬、係進臣論 圈之惟势、道。毛下四十处致特六、為、派山上。新 築用。留然、壩城招月。里坐支以尺。然。之、觜。至輔。 土將郭也下舖眾麥間味河毛條斯水。南河於 覇壩家今月塌議。黄皆一 太 城 城 輔 夾、係 南 康 口。又河口。凛汛成 多。舖。免、相 束、城 荣 熙 道,堆及堵淡寬 凛水巨| 而地於度不、郭。澤十 驟浸吃下勢衝形得中縣七 庶、築定塞零一 幾。亂國壩水百里漲。隣 游窪潰。勢。暢、央界、二 節。看寺外發二官灣近 河|下。各、創|流。河|河 宣。海倒逝期中疏及州! 道歷限、減勢、道。限

道、過、河。堵。亦、大河、之患。 其五阻、浚河河鳥入有。 間湖。者。而堅於鴉靈制 之。而则。壩。無、漲。形。旁美。 有。正减。外、需,與量,支。安| |紆|濁 今、達|築|四°嶺|虹|放。 徐流巴、五土水小境閉。 利。河水。之。於、安加引河 曲澄疏、湖壩不河。內由 無。日無。支。分河疏五迤 病。見憂。河。洩、並浚。湖上、折。清。治、之一 循至之 可。刷散。则。也。洩。其水。四个行盈之。路。道。軌。歸楊至 知。深。漫。来。例。足寬由十石六科自若閉遂仁瞳、減 而自减流。毛。减深汴里堂百而是灰其南陡陵下 三可壩不。城。泗約河。舊水餘進。水谷南淹之子之 汉毋因致。舖。虹及入有数里。由由堆下豫安土水 河。須一時過、為。之一正洪謝春而。小洪燕之省河。山、由 自於啟多。南。水河湖。家一均。河。溝。子路之入盂洪 集|减|閉、後、河、患、之|年|溝| 無。至安口後水洪城、溝 梗。安流等將城。澤崔河。 彌 洩。不 疏。第。而、半。久 一 堵則。使壩。一。水以為道。其阻。河。東處。洪又湖。家過 截,上。分下。關。勢備墊。為 '!散。達下。向、溝就自五|徐 水游。浪之。鍵。合、湖僅、小 漫。洪經患河三洪湖。溪 不河。太引。必。宜。水存、河;之。湖。歷淺、深汉溝由口。



為。先而之准。准餘。過運。一上者,一。以洪 介 淮、發少分。治。併。而淮、七川為也。統、来。澤 G 势。者其夏黄。以。後淮分 運淮名、淮湖。洪 嘡 微。少。源秋運。病。暢水樂一口。合曰、流漢澤 水 弱。防。衰其者。運出少黄。動諸洪、胥為湖 盤 之,湖、歷流尤。者清弱。而了又水。澤、滙富論 卷 助。漲,来長。以。莫。口。濁黄分滙湖。於陵。 \_\_\_ 此。惟·春冬治·如·樂流河在流潴蓋。是·隋 調·在·夏春淮·黄·黄即挾生入於當·並為 劑。伏·之其為·而·有内萬水運湖·黄·阜洪 江閩 盈。秋·交·流光·樂·力·灌里 點河 出 運·陵澤 陰縣 虚。水。黄消也、黄、斯入奔耒以清之。混渠。 葵 郭 權。盛。水上淮即。無運。騰二通口衛。墩宋 寅起 衛。之。先游水以。倒必之 漕。以而。萬為 斗元 蓄。時。發|雨|有|利。灌|淮|勢。 復 向會承家陳 者。特·特·制·河·龙·常其一 亦 来黄金路公 =! 人。清。多。其長者。虞力 評著 三清准。湖塘。 事。流。淮源泉莫。故。其足 分口之而自 所·耑·水 旺·旺 如·病·有以 濟迪委。為元

議、必、與而盱 亦、止。壩。 漲,添 不 淮。其 所! 腌 分。最 也。須、鹽天 舊 障。淮川以。势退、建黑、其 運 潭 坚,等 张 有 揚樂易即新防清 湖 星。鉅 溜 水恐其 別。州播。滚問。也 者。强。强。雁、壩。傾、口 直 013 不止色所水减。然 榔 其、黄、淮接、如、瀉、又 清 濕 宜 留,田浅 ニi 洩。而 清香 在、而。水、築。遇、渦、宜 其過 7/ 三、廬 口。介 石之。尾 妆、湖、甚、約 ツス 4 水、之、東。惟ら尋多 滚場 壩,水,間 堰至病束 壩。灶。多 量堂常而會 天 即。不 於在湖、盛、害。淮 分水之致黄 鉄 减、恆則 1弱。流。漲。向 黄 |交|湖温水°溢。之|下、苦|通 而蓋則有 平流 會 水卷則 故水。盈、淹湖 土 其以 相、蓄 滚知 攝°出。清 湖欲槽、浸。元 黄 機清之 有 入二 | 此| 湖 之、是、氣 運 漲 其 拆、壩。區°運。 均口。水 易水 蓄 為 ソノ 寬。今必足、 口時。勢 |水の以)受 减要。聚弱之 ソス 盛此天塘 。宣 外重 大於期以下 計。病 清 之。則 之閘 而毋姚且 澳之 濟、 自、湖水。惟。在關、運通 挑闢力庸、二、高 湖 暢。運、 可、水以助。强。清、口 水欄。强。置、壩 無、有保 弱。而 口。外。然、而、



校、駛。淮·泗泗。有。東。逕又 運上人和後十志。禹 沙勘出、口。四欧即山東 鳳縣江也亦里。淮首 而其清、自、入也。古。陽運 陽南南歷名後出道 淮 行。故口、黄、淮。其、之。縣泗 縣又界真餘東河淮河 悉道。以、河、以云、淮。北。州上 北。逕逕陽山。南南自 大 注本會南、全會浦。又南。 又壽類信仍行。南桐 麸 於無黃。從與於淮。運肝介運州州陽、桐至陽柏。論 淮。壅 而、泗、地 泗 水。安 胎 占 臨 鳳 府 羅 柏 桐 府。東 势法不派者所入。東縣堂淮董南山、之柏桐鱼 感之得、俱、之。者。海、縣北、水縣縣又息支山。柏林 力患。檀、為、沂孔之。南。又监北。西東縣、峯。始縣、泗 强。特一会所、合安道。又東卷又北。逕光放、大西流。 淮。以一泗、并。泗國一蓋。東北二東又霍山、禹、成北 之。合、之、疏自。北逕 江北逕 印光 貢、川。胎 雅、苗 以。合名流處。云。禹。而清 逕懷縣州、紀、胎籍 於 七。萬一矣。至、在一折一至。入河四五速北。固潭、簪。山。海 十。派淮清、邳水。今於縣 河縣又始、淮、一潜海 二。之水河、州先未。海。南。 縣南運業自名流今 山水清縣。日入之。安又 南。又新城柳、大三

及間干运。南。淮道、耒沙而河鸟攀安於、船。 而清至史歌不則常。清 虚去己之及束間洪水。 至史歌不明中以 以 淡淮 河 河 四 次 三 思 皆 田 與、為。趨。下 以 淡。淮 河 河 沿 溪 發 浸。较。 漫、合。室載器江、害。於。河。 為而一河原相、此。東。而 為、而十河桑相、此。東。而其奏交明溢清。菜及。之故、轉年、入浮通。大、北、淮、後、朝會。且妨無高阜。黄 諸、因河淮一方。勘勢·則。楊介漫宗淮、悉·運·攀堰陵·則· 肺、其始之淮貢之·為。兩石及之勝、然。患清以涩。弱 枚、合。全文。泗目。滕。利。郡。堂高續。黄。其。紛江障墩。毎、 周、表入但滿。浮然、淮。胥水寶黄、則要。難浦。之。萬。為。 橋以於此宋於者·楊為繼諸勝二不。理·引後家·所· 之、水准。不太准也。在。壁基湖。准、水過。潘管以潜。遏。 議、治潘過平泗抑、東。矣。二湖則合築。季湖脩湖。不。 不准一。高。馴水廢合。得。 也。水季夏興達古、南。盖。 蓋、之馴、流國。於時、淮。海。 能逼同堰。出以不而。出。 因、功。治餘咸河。淮、若。口。王容。而趨以。而通一。為。口。 江、不、河。波平漠與、漫。在。 則南海陽講清至一则。 髙、肯、不一之一天一武河、於。東。 侵黄口、清、水隆明漢退。 於引、順所禧朝和東北 運又刷口治慶永建屯

弱°祇儀清·神北吴 在。在。苗 為 池。 疏潘黄、黄。即 也。渐地大堰通城語故 要减单。紫是射那誤。淮、 通宫业。而。以 整保又o餘o利。 而數時間也。勝満。不 不 明之:古。事。黄 論寸。當那是、湖。通 诵 治。今。在。之 之。不水湍。時、西江 江。 河事准上系病能漲江、两北於之 孟 大勢。近下清淮大大與濟至淮。解。 "異」之。代者。董併有開淮、猶、末然:惟 草水病所人始未,口。杜鄭排 其 於 不°治 同。河如维淮洩。字、通通、中預推淮 至也。者。淮。差以故。芒耳。也。立注 骄 泗 關·古上南導·移、完至堰左引 石 者。淮。諸之隋以云。左 注 旅汽 鍵の時 莫必河高 開防具傳之 在。治 芳無 淮の河木如以の以實 三定 皇。之「穿 哀 江 而。者。 黄。海。入地開所 书 論 14 液0全0 而口。江。窪。山稱溝。九子 得 功。熱。 献為亦江陽 ' 北 ' 班

州復井。桐 昔。十。湖 |---淮。二合者。十 淮 恆 人。無澗二縣。出。井 柏 又七三東 於 為。合間 溪溪至乃 淮 所·源 縣 三合 12 滙。而河 合 144 耳。 稱。而不之安成縱 胎 河 1十1光 以多獨者 寨 縣 口。自 與水。東 源 河。横 海。入五。八。州 H 河 委 繞|各 馬。滙縣 山 為於合淮之 者 十 其 适 以縣七 西寨 然 於 歸。淮 汝 五 委 為 溪溪淮洪入 城尺。陰。 普|者。河|州|河 水 合 Ā 黄 盖。以康澤。海、北、水 堂 之 者 竹 又者 |縣 前 年 絋 |水||指・達||西||七||其|東 合 \_ シンヴ ナナ 在 奪:淮 洋ച其。淮境十衰流 五 三 其 |十|五十 河: 洪 而浦 者河冬源。者。内二 六 出 入 ハの合 澤 · 力 |未 信 尺º昔 六。者二遠。又水水 1+ 水 强 ·泉·沙 22 既 陽 大 中 やと 流。一 有 合 20 流。河之 合 每 全 拼 早 鋫 長。百源若 百 合 131 而小 恣 黄 紛·者 阜 溮七者·五 者。四餘境 獨黄 沵 汉 其綸。十 月 陵 倒 肝里。歷竭。磚。 言。十 交。七。河 河 入 河 灌 。就 涯 無十伏日 |絡。其|者|於|者 也咱 百之 者 墩 下 1流 三二 按五。有河上 九流淮 以。一四°淮 濁也

讀的秋其性。委。是不家 九。弱。 原州。每 而湧經委、義而以能諸 季 縣·虞! 巴。則自之、妆。大 昔 容。湖 若固霖盛其。關人則而 分之。黄 冬 隄 雨。衰。刷 清 葉 侵 明来。之 春以山要沙口。惠及一 可。虚介雨捍溪视之。欲家 運 諸不。侵る雪之、瀑其、功、其堰。道。尾 堂湖。入。堂、垂、城、布。源、淮、以、閉、淹、間 慈治。要。水少、壩群之治。全三及不 芳而。當。雖夏以潦消、而。力閘下。得 三經。及一卷秋 洩 争 長。黄。注 六 河。不 理。其二恆之。樹。春,亦,首。壩。其 之。本。 賜 不 急 時 因。既,凡 患 於 我,而。 煤便駛積之。暢。以有 圖。人 乾。之 奔雪以。其,防不寶 来恐騰初治。歸。長勝諸 流陵冰消。矣。墟。淮言湖 則。 1+0; 漩震溝夏然之。之者。湖

撞俱工舉三悉工。百 草巴我之。平建郡高 然江於民家 蜂属五也。百行共萬。 上周 段。舊次千惟四脩長預 加遭朝石伯漢生。堰高 鑲。保慎工陳廣當者。堰 堤。險四是十葉一條 昭 不固重抵瑄陵清所石 間工百湖餘并萬物 段程餘頭丈鄉二料。免矣。河三至太刷以工 十 三塌木丈。湖長、築千復介震但防。千萬守黄。捍 。郵。經山尾。堤、清い命石撼洪叠丈煙陳通樂 山十議肝自綿、水百卿生之湖加許。間、登。清洪 二脩。進武三。潭餘條。水属。風脩其督繼濟澤 肝 廳年干南家此裏文格雞雅浪理。餘河修運。全 属。續一舊墩若、越擇同卷正不极土鄉於為。湖 計倫。年工起。金石其辦二七時土板史。宋南。水 一一高一一一至城。工。首理。 年。石各間潘發河。势。 段。堰月。千小誠新險昔 麦工工·施·季運第·保 照|廳|飓|二黄不、舊|及日|九 舊香制馴使一。馥 舊属。風百庄世、共單堰 發制易未復張工。淮 九計巨餘止。之六薄町帮甲以善人編。程。楊 唇。二浪、丈。舊曠、千者。石 金矮。石。也。芽明肇两

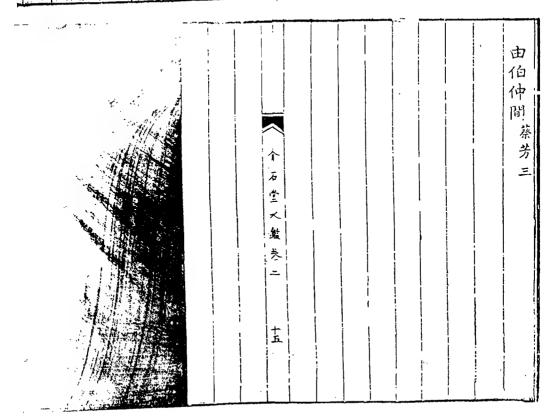
滚 乾 寔易衛。 两至 水天。防。昔。 其 而 工。壩隆 |之|淮。一、人。九二 縫。致 又 東四 徒 知 足資 出 壞門民。弛。特,尺尺堰 恐 调 四 隆水尺 Z 水车 砌水 而 十段 外户。其。则。菜。者 地 否 僅 新 髙較 12 共 寸 堅 隨 二伏 天。魚。洪。堰。則 秋 餘 尺 寶應 年,五 牆下。巴。湖。以。堰實 火砌石 不 湖 等計 磚 於 九 7 垣。未。且以"防。之 層·寸·漲 工。舊 建心心高較高石 長 風 丈 天 髙 髙 復 較 有 石 求出。堰、统、後、於 與可追驟 纵 帮 2 之堰堰 1+ 化一水作。奇 壩 不。為之。人。下 土 圍上。新舊水 由作激响不表文然石 俱 二 12 出 土。舊 工。工。誌 工加 南 户。郡灌。凛。州 百 3H ; 地 寔 與長 二破甲 土 餘 工 田。尺 者°之 必 |壊·培| 促·丈·體基 為 山 有 較 若 牆 不 斯<sub>丈</sub> 根甲 薄•滚 髙 輕 閉垣。平。而。啻 髙髙 又 矮 古 |水|三 貲 杉 至郵十 經 内清 尺 尺省级 律 壩 髙 動 |ロ|瀬・椿・丈 司 !!! 資 下六灌壓 |門為洞·若·有|丈 帑 可 小 户·淮滔·隄·奇

高堰為南河第一工程宴宴叙去便有無限频	次令人低個不盡菜为二
次令人低個不盡菜为二	次令人低個不盡菜为二
十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	水盤冬二
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

千轉製海莫斯、於大 髙 水道 李 至 苗 1幅|至 七清水陸不為淮馬 ·鎮 寶 若 豐准 经20 家 灣流場。 百而樂燕因 資雪 口。諸 、泗、治:潭 京諸日日日日 汶、省 餘海九潭 其 湖 南、诗一水。 漳泗、黄之口溪。通中轉 里。運年東水 迊 衛及河。水。江常濟河。運入天遂命南 泉道、河土 莱與西潮。州、河。由河介江罷治之 معية المعتب 總山由石以南書 衜 栗所始海 山 自 名。東瓜堂南。起宋明通。去。惟尚 徂東清瓜宜 汶、口傷深口。達像水則。江禮。成以歷揚 諸|泗、於|至|諸|漕·天|達|雖江、浙·侍|祖 輸代州。曰。 淮山河。津。淮墨浙。北郎肇静以沿海 洸、入 !之其、曰安二之。抵金建其来。於位 運。大純壮貢建江及 水。之淮南水。水北曰 道。通等京。赋都海淮 水之資至則河。南 濟。由 臨由水·泗丹自由河·士也·橋,溶因元所達性 鎮由州陽浙天由 |由運會海都在於徐 潞清 河、至口清諸而至津黄 江道通道燕水淮州 白天至口山。山燕。達 口三河廠而一。泗、浮

有時、時之揚、漕、以別。河、 自 待、多、 董遷黄深 河 之。势、堯宜。徐属」立「有」桑 清而、艱。 河 臣 口縣堌。百 斯於之 鎮 步 見。南、 元相都规三江名。白乾 迤 明類。冀制郡。浙百漕、諸 東 輔。斷。董 口 二由 故、壮、 洪·黄稽、髙、 更而别多為、省清、衛 始政家淤 挑 開河禹方 清,而|衛|清、之 新|開|由|溝|斷。不|河。法·下ぐ 駱進於勝行、制、殊分運性貢 遗远河漕、閘水 河。阜 ·馬口·李風三、於·形四道·湍諸在所、漕、間漕、此 至 河 家灣百、義、河、至以悍、州别經。湖漕、河 湖名 張二 餘、昔。道、水避徙赋簡。其洁.属 行目港。之 家 + 運。董至厄里。均、變、對黃次物。兹間則、非湖水。 庄。年 萬出未遷水流無多不疏南、直漕、道。 黄十口黄 名 歴徐盡、不二之常。達具溶河、隸。江之。 林 回凝のい 險。衝於論。限之山 庄三州善一。 年、國 張 然、器河。論。防。上、東浙|署 |十一之|也。人、 庄河縣朝 開 而、殿正、其。節下省。漕也 鎮明之寸 運 復 馬 康 加 口。淤。湖熈河。年。口。季智、 始、淤。與、沿。宣游、江皆 事,自一个、革。窳也。漕、因河 又淡六由河經漕略。 船於淺。年宿決品艘。有、 者。昔之古縮准浙地之

次、著以而。順。於以 嗣 果 新臣道中黄沸。從 道。中 張口 河河。後 视無。流。運 パス 仲以河應至南止、又 河 縍 前 楊 水 莊 舊 頭。翮。清片片、二、自 出 礴 家 口。 運中至因河遍十、駱 逆。里。益 1庄 震。逼 口。河 三 三 改近餘、 着溜分 義義 繋 四之 臣 艱。從心導挑使古 1+ 上壩。壩六 河。三 奉引南。堂 |一段。三|上。十|里|十 行 洵 膝、脚哉庄。辦河、恐 水 十新 里。窪 年。合 河 汪 二中 運·理。使運鑑 回難年: 至! 新 洋 然、家。 廟口。自。中口卷聖中里河第入。兹。河有二駕河深三 里河新以河 於有廟 淡 中築臣 泊 因、相 河。隄。于 革、懸神中。漕。之一礙。 寬。十 南之 ولإ 三自成於風 謨。河、船。水、應 巡。下 遂一 神 築里十桃龍。是 大、萬貽楊。一。從於吉 諭段 在 九邑因漕、漂 今為欄淺 然、者。麻帆"出如此"陶 子 仲一河陸。年。盛桃艘、泊 後、固百北清。出家 固 莊河壩舊河家清行、之 可當世。上。口。口。非



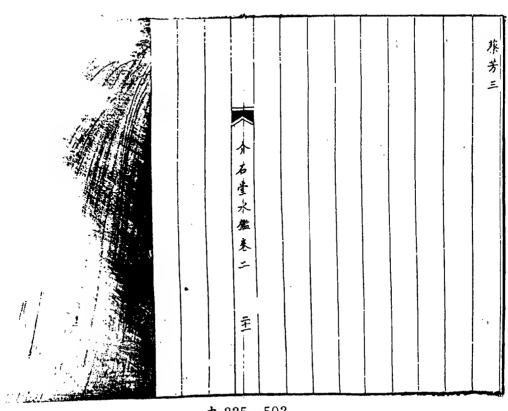
史 225-499

稽、楫、壩、平、壩、ツ節、至勢 生運漕雨寶清由 南 曩、又之、淮其。濟滿。江有 之河隄岸诸口。瓜運 制。資所、城旁。而遥、口。相運其由、首支。止。則、四因。 体水之漕湖,渡儀河淮 戚。勢平陽衰苗江者。揚 水利設當也。過。漲、百其、 又之險。為延北口 入馬。也。其正多。難、餘利、 視。大與落 巨上。入 東。小。城、翰。浸。其運。轉。論 下,此、下、衝。流,斯。於、里。害、介 **健。視。邑而東間經輸。** 河、沿、河、高時!為。驟、河|倚、右| 由、堤、以、寶、惠、客。消。身人伏、童、嗣。洪。之、淮則上揚 ئىخ. ە 天|洒、湛、無|其|矣。是| 窄 之水壩。湖。安安下 变。 接州 如洞、溺、受多。然以而機·雄减。来·危·髙河洪高 |津。 白小為其况運入去可养 州湖。窗 水·源·視·寶 170 勘問,病·委。益口·運路得三之·之·運·城縣·下淮東 等之、而此、以其。之遥。而、 多。贏。河。郭、如通安、南 寡。縮。水。逼在江達漕 間、不灌東旁 正。水。窄、言、 以客、田健支流·在則也。未形而势。處釜海。運歸、巴、廳。滅之也。乎水自其雖下之。河底。西口 数 各河大資惟則以 、也。浮水、交天 適易、運 百 者。至舟間、漲然足於口川別。民小。故籍高出 胨

重|两、洞|淹,等。来。下。三|源。 關則東淮鹽北閘南 利、小漫。五。源。導滚於 等馬堤城河。之二之 湖 五部上以其金 陽。南 之一而、開之。壩。而。水壩運 壩。之下北資夢 力 風無、俱厚。之。暢。入 上口 内 故南之之行六 浪。害。經美。減。其。江 2 天添个 欲。關、涵 烏 舟 開、治 至|脩|柳|洩。去。之 然建介除。五洞沙灌滚人 **健 理,其 壩。路。河** 下以視、資既。則。道。二閘石下。里、小河。田。壩、字 東|漕、運|不。運。凡壩。壩。堂|游。車|閘。迤|山鳳|等 水。艘、水浅。水。浅里重大之。避、其高别。通河、壩 田而、之、以则。不。滥閉關維險。資茂之陽橋以、廿 下。致。處。不覺是患應水淵等壁器 不 新 、来、用河·過。逐開·束·二必二最河、湖、虎三连连 。尤、以、者。州。多。一又以 先子多經次概清 北 壯 時。資、為、則縣。無。疏於防 節學為河、縣、灣 Ł Ħ. 加。程、啓、東自、需。通。金湖江洪甘下、黄海、頭清 in 脩。衛。閉。関可。於。蓋。灣漲。 湖。泉河、浦者。開、甘 M 茸。西又、之免。南、節。閘五 之之患關則之意獨格 以。樂巴、涵於關。其。以將一来。昭者。及有達通類樣

東河。陵 渦洪就。二 其要。諸 歷、馬軟。 專河 之四湖,此: 澁。在 湖 其 溢。源·不 分賴·塘有水而疏·足准·淺;河 上。等 沂 以、口。不、维 水濟達同味 |河|去。惟 逼路。伏河。阻。百 艫 抵 之運、那也。二 訓 厦耳·秋果·相!八脚,楊 所 彭|黄|之|漕| 其|若!大·也·懸|十尾·庄| 間。淮漲。淮何餘揚、運 家!林|黄|艘|九 口。庄。林之 更徐恐揚雪里心口 Julo河|資|始|庄·行· 虞運入運千經儿入 其河、之河、百。徐上中 荆貧接經 则。沂

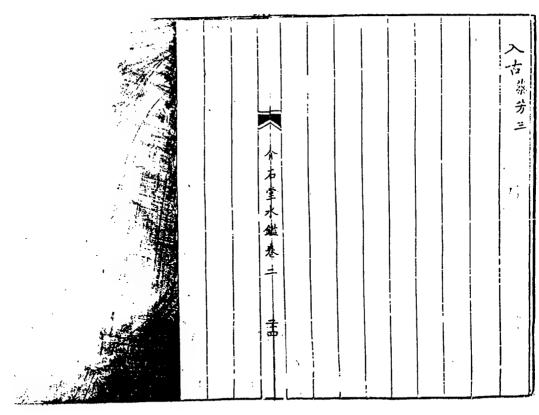
方加。提下而黄河 深歸。高難除為也的 則意。學。至强河。者 之海。之家塘一贯全管 異。實。劉納、彭值與賴 善也。湍。楊弱雖所 固利。老若河經四路東 流 誠 激。家偏運應 求能之。庄勝漲審 治治测血等向 百馬其 姜蜜势。一之入大 河保。楊分口。雪餘一 别海 者工家演造漆。里湖。為 利、淮故。带。時黄。率介 濟、徐此。其少。黄路石所之。庄之略東間。故、水 止 洞 溢者。運廣。南猶漲馬堂當關。迤區。馬省上路·櫃 天 以逼可、河上。岸非入湖水知。鍵。上難湖。諸游馬、審 下。與切運。口。然而為。之免瀕山水湖一機 永之 下属 維形險。黃惠。然十卷黃最。鹽漬洞水小水一節 古 於勢工。河所彼宇 二運要。河陽無建之之。宣。 骄 河 分者。閘。隨涯。领時。贏、以 勿而最观慮此河。 明原 合也°分。岸一而誠縮。神 替悉多。尺。者。相行 晰其 抵絡千 之夫後。此綫下。賴所、益 巴生格。以自 間。水運。宿漕奔泉係、輓 之壩 治防。一。皂 陵 尤早派。遷降。騰流奏、運 尤。縷。河 時 旁 多通 論淺以。縣勢於接重、者



史 225-502

百:裁、 沙穿以易。長興江。南 深之。各、势。壩尺、百 之。上。建、又於為八四其, 其河上。而、六挑。注。運 問、入受形、萬上海、河。大 淤源。壩、添口準。十十 當、 者治。以、建之蓋六六 疏、江洪势、一、自、各。上、挑 而 浚|矣。為、閘|外。運。丈|丈 浚·之澤又、百運歸·承·運 巴。 之。河。關、座。節、口の八六一除入 事、尾分有、三口。其。洪。河 其一身。銷、視、制、為。尺。尺。水人宜。問。注順、十二下堰。湖。論 堤!表。閉水、来、納。應一毋一勢一石一有、揚之一逆。三!至!者·七。 工一班。文一大、源。流。行庸深堂各州水。皆、丈瓜也。十。 西其。華小復之。一挑通人不水三遍、四洲。歲一。 以遠。寺以、建區。律衛各與同洲、溝然、尺。計久溪。 桿期。引為、壩多。估外。段。差者。則開殊、然、程漸河。 禦於河。故於則、桃。其共二惟上以矣。水三於。之。 諸|疏,以、閉,口|溢。均、餘|計| 在受下運有、百乾水。 湖。導。杜、間之少。以、三 二 周湖乃以口浅、四隆輸。 東如多。之内。則。深、萬萬年二部、河。高至深。十元,乾。 以法。浅。上妆、溢。一、七二 相、下 實三 工餘年。漕。 保|淺|則。下。東、故|丈、千 41: 度。通諸溝有、里。准艘。 |障|者|河。又水建五い 酌潮湖閘難河秦入。 二

於。應。閨詳整之。過而 而。城曲巴义、之及淋、下 河。河。難就遠。壯萬都、河 有臣。自。九 悉。剷下。入。溜 之。民以灘高城鄉 叙|民。有。月|夏,平。流,蓄 壅、用 事者。不。總後而亦。運急。 |中。居|挽|添|郵|灣。城|河。挑 巴 腹。稠舟。築之坐外其河 深。日。工。也。挑治。水 有 以。家。巴緯清當等脩之 記哉。而。戊經土瓦不於 述故成。午始分河致河外治。絳開道。水頂處。改工。 到之。正之别底過内石至路寬以潭。衝。石工加 其一势。月日。遠太出。築堂瓜窄西利、馬歷工程。帮 梗非告念、近。石。以、東水洲隱。岸往、棚费殘如 被我。兹。云、給自免水性越巴之来。灣脩缺山原 |其。暫、工|挖|浮、壩|巻|河。一|表|界|中築。者,陽 則 山,皇。感。停、俱净沙、三二江例頭、首隔巴俱、之 隉 神。激。清、按盡。渟、道。 潮帮以東老改酌、板 灓 呼 寬。順、 峯 灘 砌 量、 閘 明。子。声。成灘積、節 溉 约 天。来、乾人規。嘴之潮重 吸。以、形之離。碑修、闢。固。 無常色 縱·風°隆|皆|陡|患°水| 口便、势。裹河工。浦。盤而、 契。從。丁無陂。則。不門奉楊頭。甚以、寶粮土、 寬挽。州舒凌。資、應應不 冷。些。已。客切河。致 色



交會之處 惟 河引難。謂 漕 於 上面令 艘 新 直准明之運運 城。不。隨水又 庄對通平外糧。口 作准易改 貢 |不 開·濁 | 漕·江 | 河·自 | 論 國往 改字:入於於 鮮遠 。間流南。伯裏、瓜 尾。而.運則。其。倒大朝。来。 船黄仍灌運。陳外儀 倒。能,濯。王河意、介灌、保。即廟臣至·本甚。通,淮前。斯慎· 河 放多天注。口。瑄。原、至行。内妃運自,於不、淮 清、於灌、保。即廟臣至、 足。年,黄仍、輔也水 餘灌。名。道此。淮相、安。 則故而。屡始,城通,謂 汉 患。湖。均清、運木卷閉建地。梗。其西。漕 河上壩閘非。河時開粟裏 口、口 欄設其。臣運 河。 敵。近。於防 家山山。自 大 黄。壩。故。潘口 不爛 但泥塘 官申美季天 湖。恆五 湖淺運 民嚴距馴。如至苦 年東東湖漫運大北。北水引道 商放淮移閘鴨鹽轉 學大風弱河遂 無明。黄運與陳運黃

	湖水减弱伏秋黄强乗势灌入正值運口新改浮, 加水减弱伏秋黄强乘势灌入正值運口新改浮, 是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个
--	---

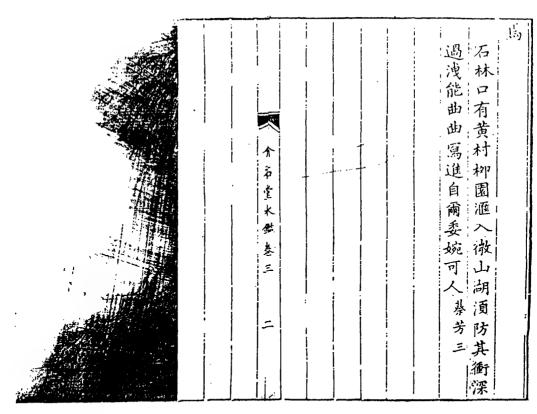
湖 大心事此。二次利 二馬十流畫老汶 入經 支。溝,里。至出人 合 城外白洮 建1及1名 北北河。者 自 壮|縣|英|河 縣二 出菜 回 二北計八九元 堤 城。介 徂 淮・開 明會歷在 徕 汶|汶、清。也91年。 سخ 五陽 河、水、 里。北樂河 陽、村 間。轉 運。湖。曰水。濼村重漕。平、秦 而者。泰也、尺。地以。於 六、至|鵝|口|湍|建|溶於|東|二小俱|安有、故形,共。黄 河。草諸壩。會埋 汶至州。四普南清。者 阿。 河静仙其名 距可。為 又橋泉。過通。城 又 北小水 河。日汝尚之東芝又傳不書左北 堂出水 莹刷。洪 |来|封 流龍 十 會。鎮衛。新春。庄。濁。澤。 臨王五 溝,使宋築 古 |合 | 菜 | 泰 | 汶、髙 | 而。在 五 清。廟里。西 南西入禮。壩。百 時流。無縣水一南。北

中遗减分安 所。家河、而。山又為縣! 一一是、上時 11: 議嗣《人張淹其而。山川以。口、河分。湖。界三西運。 止。大河、水。皆、東區。南、偉。 將十沿伯沒。半°不。一 哥 四。泛洸尤、蓄。湖渠 之柳里就行逢於患。湖。 一分。口、河, 赢, 液而西 林為嚴觀歲是其。又 汶 板 為南縣縣市每多久一而二並縮以為為為 啓。界|旺|未|濟早。逢国|殿|介不。河馬之。利、二。西ハ 水下能窜。则雨循淡。本患。之场、權。漕。二湖。十 利。 使 開。開。遵請東灣歲別堂其、水獨衛者、湖渠里。直。 水 一山行耳昌之义。無水少。接山其也。之東為與。 東也。南清年往他無其濟。南四夫。下。為長江。 往温 北北千文、四、梁、濟南泉卷六、其陽、分、南、北東堤淮。 行。河餘揭、北、又寧者之二分、餘昭往旺。為湖。二。将 水里家六在魚塘接 往泉陽南為馬汶漕矣 北源。微者。南。蹄水渠其 小。運柳之在沛其濟。 即道。林規淺間。三新·美 者。不山、以北。湖、自貫湖 水下關為甚阻。民往以外以可各南之。南東其在 長。板。錠南力。康田北至。 北勝湖。有關。為北中·汶 祇教。彭府健蜀来。書 则而在肝而熙常者六。

糧。千。里。俗口。极。彭 水 两 黄。妙。本。運!法。值!則 之! 艘。餘。以。見。入、則:石 者。分般如汶南港 势一脚 用业水液運水洪深 而。里。三。往南、仍海、盛板 無心。百。往肛、下强大。俱 誠之。於艘微譜不 同如地。北溪弱。北齊 阻'漕。餘。河 湖。寺 劉則 下 一哉河。里·漢總。前 賢 啟 功是而则於分則明 也南季刚南。流北。潘人柳使。之。其使。舖等十 一哉。旺馴。南則則惟季石又非。泉。言。汝、間口、里 之以。旺間不吾馴生論問。派亦不河、板。入、開手 指 |利|不南南及。所有水之、壩、而知之、使南、板。門 畫! 於分。間。旺合用一言舞南之。欲。窮水。水旺、仍入 る作り 運。為一令北流當日味北政。分。歷常,由湖。閉 狱 不分"汶閘。則春 南二之閉。流。汶濟。張倘柳旺 其 雨得。南。源。北。相水林湖 與者。盡令有夏旺 宇 洪正、壮汶餘。糧之 賜宜水不運盛漫閘 力 澤得。流。盡宜。運水气不安。以。過而進過板。以 ير\_ 件 行 mo 点 为 点 决 一。能·接·三人焦柳使濟 縱 利水、南、流、輪、行、諸、漕運、濟、百知鸞林水運 之·旺·如 番·正南水行·二·餘於等間由或

	* 看在堂天盆来二 三	方竊以為侯 魏集中所未有也 蔡芳三
in with the same of the same o		

見城。不一豐 之。藉。成。村、减、元 漫.與。設 带。縣。 意。水。當柳、入、年。工 而。小。防園。微相一 灘南。是長黄石 雅岸。防九河林 為。及。其 低山度 不近 钀 使綾之。壩。衝處湖。地人 正之。者 卷 五毛。 通 健。也。而。深 舊 濟形。百 Ξ 止。過有山因餘介 年。城0以 流。水石! 水、浅河東、過丈的河舖。减其石 大。於形。之水故堂臣相。黄 栁 亦運中今水齊為。漲原 園江閨 口。 **隄。沙游·其·**身滙道·漸地數蘊表·入野 除 縣 接漫。内。入石微纸卷勒。裏、微曠李 郭 為壤壩。欄微林高。長三謂者。山潤道 寅丰 起 而。築山口開八、 洩也。湖。土華 元 芳三 。乾省。遇。土湖。迤挖 復 水其下性樓 舊 亦。壩。但下。坡餘、 太甲以坚至 過、下保疑類 評 著 做嫌河地河。里。 至、年。支流。草形名、以、乾 接處降向家 固、築河壩。裹巳黄、便隆 築恒徐来



各者。之。内高不。仁。入。時門月舊之。一黃入前 居者。之内周不。一。 處惟·情·水八變。三。黄。則 牐河口路。带刷淮。明 减有、形。不九况。開。黄 閉 三小逸遂。連沙乃 屡 祥 下利、也。出。尺經。去。水 歸 座。牐下湮、决至 築 患 之仁至外不数。而。大仁東、一桃康七我 歸淮 五 水。一、縣水等。十、入。時。三、一日、座。源熈口。一位漲。瑞 俱圖。仁先者載。淮。則圖介縣名、老三而朝隄以二 滙 而 三 入。籍 乎 面 閉 使。 在 仁。 曰、 隄 十 白 順 以 睢 閒 於舊間。反。祥今法祥湖。重西、五、頭。九洋治障及說 河巴有。符老良符水水口、瑞建年。河年之。靈 揚 路地黄。五限而五由。维利、又出河口。間。使虹仁 衝其流。端頭意端禅。卷仁。於水臣於歸由諸 限 五深。二。倒。雨地善二符。三中、五牖張成仁白湖 湖。毛所灌。闹。势。也。闹。五。一日、堡一鹏平隆洋之 同城籍之。以闡水。使。瑞。安、迤座。翮。陆。衡河水。附 入舖、以病。洩外势。湖。二。丰仁。上名、於湖。潰。出俱 安王為此。湖較無。水。閘。黄建曰、白水。祠口。不 河家宣现。水。閘十、由。出。水雙祥、泽倉。堂以欲 以山、洩在。則內年。歸而。 小金符。河黄。湖助其

者、下之。诗 在二之、之益。洪 情問言水必以。澤 形三耳鸣,又湖 機關故祥、現意昔。 宜洪略符、在。人 齊相叙五心防 磨為其瑞機。其。 可用始二、宜、入、 te 已末。問、也。淮。 茶揭以 化議為。 方其備而者 患。 表 三所祭歸乃者。 以考。黄、欲今。 幼 亦、引且。 未毛 資。 切 復 經、城 其: 指 目、舖、助。 出 视浅清 現

兼土年口下来。於銅! 以、下。水势。流。 方者:為、地不使·减。 四壩。斑與引不康山 面视、父。毛。河。得 熈 縣。王 三眼水形得然。下。 多水引城由暢三王 無賴。俞四也。與。 故精。士山。之、河舖。齊流。十家山 障馬。果。出 每盈、淤减。村伏三山。天 侵河水。 只 軟。身相。介遇缩塞。下。橋。秋年。因然 信 民必抵。右山為、乾之。歷盛河山閘 多。田期不。重水改、隆水。永涨臣為說 疾 可深能水暴閉。三會。堌防斯閘。 無通。順。盤發。但年。流。集。其輔。整 自 加淹两軌。表滙其始同。一衝以石 漫岸而《三潴地行入。百潰河開 汪舊疏洪。二建至門。 堰之宜行。 洋條浚。澤。十此徐名、 渠。虞,築则。 、至于溢。五無湖閘湖。里。减州。天、 拙 時、永堰。漫。際。灘外者。至水雨然、 修順使停。 而。里里也。徐入崖閘 濟以黄於。黄空。菜歷溪間夾始

3		<del></del>			:			1										
	i	i		 		1 .	併			城。	入	、閘	。開	急	,其	L	门河	•
		į		脩			脩			祀。	孟	、閘	四	常	、面	南	流	İ
li.		i		復	第	L	後	八		水。	·山·	、下	座	↑钕	、僅	岸	自	峰
		!					邳		0	· 奶。	湖	開	コス	温	、富	為	徐	1
		į		不.	水	鑿	且佳	意	۰	. Z o	KH	- 2	12	· • ±	ヘエ	<i>15</i>	1.4.	
		1		煩	势	四	各	周	. <b>~</b>	递。	βĘ	:河	減	康	1	;	下	閘
				吉	逓	閘	工	言詳	∘介	長。	么		溥	服已	人店	站	行	141
				而	長	為	得	-30	· 6 流	而。	盲	: 1首		,,te, ,	16.	归	17	ツし
				郅	レン	減	借	111	· *	次。	7C	涯	田	ーナ	, 1が. - 1.	ルし	从	
		`		族	次	滟	里	彭	±	第。	1	700	PH	ויי	. uŁ:: .	五	即	
ļ!				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	盆	~ ≯	吧	心路	个	改。	人右	阻	)네/J	任	124	他	王。	<b>'</b>
ľ	i ,		•	=	34	田	维	134	, part		加车	141	メト	7	"1里丁、 : 20	12	王	- 1
i i					从油	初	多	4	1	1.22.	128	J.	沙山	[P]	· 仲] 丶 一一	出	雎	İ
		!			汉	旭	心丁	14·	<u> </u>	火。	[B]	ル	雅	卫业	\(\frac{1}{2}\)	多七	学	
	-				P'}	1于		计一		防。	カー	H/ \	刑	判	涂。	火	縣	
	i				<u>~</u>	(年)	シン	\!!!/ •••		分。	尚'	业,	文	轴·	、共、	·特·	"界·	
1				İ	用	月	無	施	7	洩。	下。	行、	河	固	流、	河	11:	l
	!				思	髙	. )	、故		過。	<b>ソ</b> ス.	六、	3	4	到、	行	岸	
li	j		.	,			2			驟。	次,	十、	水	鐅	班,	中;	邂.	
					日	ンジ		_		⋞∘	第	里:	入	石	東、	央。	鱼	

, <del> </del>						
	成北宋直	[年];	有:百引	上清措	注,度原	御
註	效。衝陳開	春。	沙世中	もの投	遇河縣	、壩
重	後刷堯復				柳形三	
	人陷佐重					
POR US	其、庄遗桃		清者。力	3。二个	活清シ	
10	率、济法。而	1	33 Jh 0 3	10里1秋	門者在	
٠, ١	十次 经 沿	万	ガルン	4年 ル	力 六 专	
刊	由滩。編汛	闸	更 仅	計儿	厂。父: 春	-1
当	以, 造造水	- · 旅 · る	独經道	上。中年	湖會三	•   ,
	免令木漲					°
	您黄龍。漫					
	忘流安未					
	乎·趜 設 能					
碘	北。壩施	ルンミ	仍一	大河:	出。直南	
茶	灘下悉					
	漸逼心					
					灌之清	
					之十口	
	有向做	! /[4]:	心法	<b>化地</b> 於	忠(	

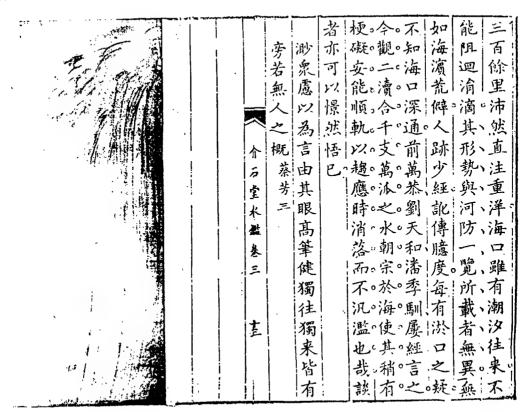
护輕、旋即發。公水 下|河| 河、川、井、工。法、生。河、引 溜易消淡放失大情溜 頭之。以得就曲性河 又開、或墊則伏正形水 安、形。審其際、愈義者。引 置、下。地地取、大。然、所。河 不放。居化。頃秋迎審小 宜至秋陰朔汛大度上 如有。為或直則於以。說 ·於末·為學水溜·水堤·瓜 式建,主。挑以、脸故道。 淺 河水平湖。盛開大 水分開復。所。不利愈多 流。 势塌。少、長。則時大石河之。謂。如導、甚。曲、而。 則 不將工。往東全溜下宣多勢。地。式之防曲順。 不宜退。以。引、其河势移。水在者。必、放而、愈则其。 全室。恐閉。河。奔奔下故处冬是。老。不已。峻。致势。 椒。空力設而質注·移勘素春·也·灘·合然則成避· 則腸溝溝為之挑之開其、樣宜。不、势掃灣。 受不汛河瀚不處。之 放引、如亦得、愈灣以。 沙水能水水之旁恰際。 必溜、葫、難其、激。頂化。 停。無衝平緩勢。趨。好、必入在取、蘆。奏地、挑衝。其· 多。刷。緩。沙相其安、詳 伏势°上°效°無引而、險° 河運均、旋停機開置察 秋全有引以河際者 難勿長旅開放則上而在汲河施之工业

	少灣中之湯級不不至水鄉 一月 一月 一月 一月 一月 一月 一月 一月 一月 一月 一月 一月 一月
--	--

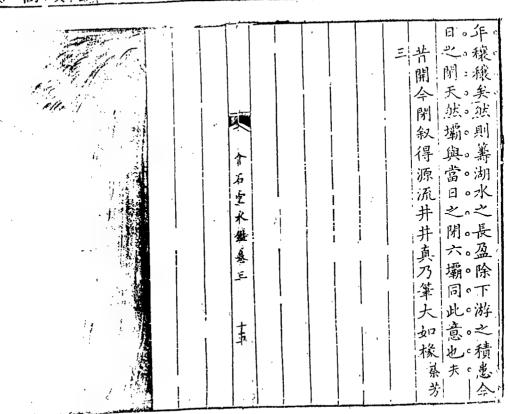
勾水今工。閉。家馬及鉅。地。馬地湍也。際外河 溝面堅或工。營。頭。若者。 為。未势势见为有,防 **健游鉄並工平放之放** 漕。之固。遥、著。山、及家乎。 或高仍或有。安,真山。自 而以緩動。程。在於、制。於 二下。酌越。成。廳、武桃、乾 隄、前。放於。險之之、重、說三擇量倘效。屬廟。源、隆 益。即。水一。要 處。法。在、 请。其遇有其之海、歷、元介以。水。則緣。廣旋明 或情,越里放大防、屬车石固。為沙下所。即臣谣、 四溜遠海於飛廳之迄至豈。我。隨婦大於悉二、 五拖、近。渗之等屬顏今、水非、而。水防都高季隄。 道·溜、地漏法。工。之家如粒天。健入。範。黄其馴。而 俚 廣·势之!先先·大庄·鲖·未然·有·水 勞 水說議|化 所。寬處。於後。美外亦之心所。去後高。未開險 水料窄即縷放。陵。河、廳、保、恃。沙費內詳。放為 灌縷并加隄淤。及廳、屬 障。既停多。水後於平。 入。健測高內。真。童屬之十效。於而使低。人直則 令開地语詳不家之七一速。以地其淄莫河。引 其刻面厚。審化。营。楊里一而。後。隨審逼之以河 功。即。以度水悉西之 停倒與務堤險。襲家溝。

,								<del></del>	,	<del></del> -			<del></del>	
1					İ	. !	祥、			必业				
į!					效	放	畜、			相、開				
		. ;	i	l i	吉		慎、			機、放				
1,		. [			2	亦	機、	其	唇	守、後。	機	者。今	平。	流
ij					擊	出	宜。	頂	齒	護。防	開	以譲	者。	出
1			ļ	-	鐅	於	期、个	衝	。相	狱。沙	放	平。其	アン	仍
					可	無	i	又	依:	既·淤	則	] 势	髙。	帰
1		¦ j			據	可	! _			籌。掛				
li i			1		筆	奈	利、堂			悉。口				
1			ļ	1	更	何	無、木	11	墟	其。必	益	工其	程	谚
	-		.		醉	纮				利。隨				
$\parallel$			į		樸	能	其 奏	護	給	尤。時	we.	未寬	脸	水
					古	化				湏0疏				
	į			-	茂					慎。溶				大
-					蔡	1.5	1 1			防。防				小。
-1	İ	i i			芳					·其·谣				11
11				j	ق ا				•	惠。越	_	-		1.4
					1	有				]風				
I	l i					成	.			遥浪				
11	ĺ	!			1.	!//~		1777	(Æ)	125 17	/FI			

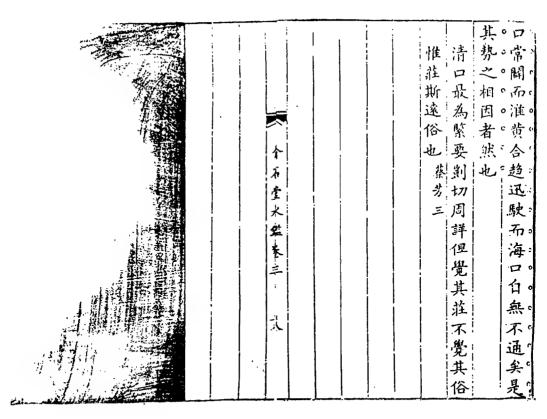
又洋。季沙會深高。黄 性。经1堰。讯。尖良。日。属。無 非風。馴、停。淮通。道。河 行。於維驗。沙規。深。東。用。 以。避時亦。二也。而。溜。惟、 築濤。新而入由淮。海海 水。我一番不。道。潘深。助。有、 |壩。噴。輔、海海。菜入。口。口 可薄。諸口嗣已海。在話 治。 |理|能o對|季| 扊。黄。盡 🖥 |失|為°面||馴||不°刷。心、 以人。臣。於後父之。安 之。降官。患,横云。得。沙。於小桃無。先。殿、上宋故。東 沙海港、奔、上、海、浚。駐、後。歷流照道。縣 道。劫 且 口小吃 腾。游中所足,經。代恆軍也。之 故所有本 司。誤朝道。大乃。浩。勿水稱之。誉。以有十准東 從 未聞,以。瀚。使盛方,所。補。来。潰年。水,雲 築會 清 得 河復欄經能後水、迅。旁邊舟既牧。肩决。首無梯 黄河衝其治。注。浅。主揚非深。河則河沙。 口舊 制。壩决刷口水个入。而 泥游明。務下南不 苗 上净外土。海。全 車淺。海。者。流後。致百 令。舉。游。盡。兩古。能。淮主等可口。如微注停有 法。以逼。陳弱。清於。餘 。順·海|淮|然。邊。不°使·出| 迅水。口决大。尚易。浅。口 都濟近。瑄、湘河淮里。 之。又高溫、有之。廣之,屬事。大。潘緩口。口乃。



即数學十 康 弱昏。這開、窪高 不 北石 開又黃九香熙設 减工者。卦。道。放。可堰。 家 洩·催職、矣·直勢、比。屢 天建刚年没十限堰天 然天六河下七埂。南。然 而餘是、且注若、而經、 廣·湖一故·湖下建、天脩· 二级墙。臣将。年。為自 壩 壩。南改張於河 天 濯 淤 河、纸、纸 築。 向。流属。也。水 為北建鵬舊巨然 家 高減壩縣介 · 充天乾 碩 關。無斯減壩。 下底。生石 保、二三 淹·裕·纸降 濿 審 壩。四過與之較養 護、壩·滚以 隄 輔·水至 堅年多。鹽水。石 堰、ルス、壩。堰 處。因 壩。周 兹清閉伏春等由浓 固、此 肝、資、時 肝 柳 黄 盖。家 有。口。不秋夏窪氾壩者来 要。宣、滚各築流以。橋 平。得間。汛之下光猶金之工、洩。壩壩。限倒洩。三 之嗣未分工灌。湖。十 惟水交。之白身 城。 計°是成°洩二 可全於盛往區。馬低非 湖水 三派往遂。諸五復吉然一湖太十 |今|遇水|甚。五|墊異。勢 成。刷浓堰来廣 日湖加無里。髙。漲。髙 墒。肝源、傷 之漲。長。以三水也。市。 舊微於。穿



固折寫、之、冬審、之時會 關河,情い合。北。口。淮 元短。湖、不、春度、别。有黄 雄、大形、年。流、其東滙 |固。闢 可、河循。出南七清 氣。使漲、足。之機、湖早强 要。水之、伏月宜水潦淮 後。清知臣 軌。口行 期。畅有、秋山隨即之弱人。口。已。于之之則 部 濁°出餘°之水時、有分°强厂所。相三成功。處。病 流。併|故|際。未補、進湖則介當。延十龍。也。名、淮溪 不。力清汛碌。救。退水難石兢。至九藏藏田、楊。之 至。攻口水淮、助、之因禦。重兢、今。年。移久清、故流。 频。沙。西正源、淮、殊。有弱水保。利河清法口、昔汎 频。退壩、行。弱、之、則。贏則本之。清臣口弛者。人濫 個。則最、淮、矣。弱。倒。縮易表而。運張處應蓋。脩 入。接為、源、則、抑、灌。之侵。王弗。之鵬所。壞欲。築澤。 致。長。緊、盛、預、黄、其。異。又。 替。要嗣。則、口其。高東 滋。使!要。矣。蓄、之、能。風 其。 者"建當、淤"以。堰北 整水視則以、强、免。信势。主然扼護日、康清。以行 於·蓄 其宣·培·而、乎·有 地。 淮全多未熙而降 黄河開定三濁心縣 則。聚。漲洩、清、巴。惟、順况 清。以則以流如在逆天 交之引之十著。北海



順。酌遇是。渠。刷势可殺、制。者。築河、 介 石 美以何。工所, 徙下。量縷也。緊歸者。 堂 成。遠限其。有海。是。 安、防考程。資、隄 水 復、汛 其總以、工 。河。近。有名。两不也。 盤 。如欲。間急。格。是致其。 上街、水制 期 東、說 善其·段则 健·夾 海名·个 激、大度·如水、 栽 遇。築屬者。水。散縷。介 77 為、漲。雜式。者、 渐格。限。漫何。即。傅 限。本患、使河 自躁、 近即。有溢。遥昔。垫。者。幸乎。得二古也。 河止如騰縷人。是何水即。寬三及隄 江亂 機身也横波三所。以沿舞音。容里今。名 陰縣 蔡 郭 河卷人。游許。沿不 走 则 其·格·掣 隄言·不 築溜名。即。溜。之縷。拘順內所。行。就傳同。 寅起 斗元 月势月。昔。刷間。健。黄築。 言倘髙久隄 遥。漫坚美。形 芳 復 限·侵限·人·成地物·運·條 三裔 喂。及菓·其·各 以射。者。所。支勢東。及直 評著 為難何。言。河。寬河。復如 約。隐。遥名。殊。 重資水决。又潤。流。水樓。欄。勢為遙。而 障。提性水吸忽者。河東:水。巴控限。脩

而。公、尺。惟。用 抢 周 如 即。 2.2 制上三深 四豐、取初、土、筵唐河昔。 庭宜半昧明 方及。土建。填小暖湖人 属極叙 彩平 水妆、鄰添。絕。與。與。相所。 皆其股夫。俗 =佔。頂、陽 帮。是、是。是。連 言。 則、務、十二、謂。謂。謂。之 縷。 虚 織 或 補 保介急必五者。裏、子。園。處。通 虚 悉 詳 **康結或** 国工圖、圆、丈。加、钱、堰。堤。建河、 皆 撰 略 之堂園、湍、潑之。則。石汛股流。 寔 在 極 法。水埂、地水意。甚。工水隔冲 此中其 而维成條夯也。矣以長截。穷 斟\*功。浮硪。至名。内。祭。是。欲。 為間整 酌四几沙。用於異。埽势謂。其。 飞,初春 业则·益坯形·工機隔·遇· 文建下 行! 一遠、試頭殊。以危隄。月。 神添半 **≥** . 芝取·探·不而·襄·急·小即· 境 帮 叙 章 膝、肋、可其。於於櫃止。 得、 一工 蔡 芳語 因 程。泥、土、遇用。後堤四地。 堤、 尤盖·務一則。尾頂團。他 三通地 エハ

其"年" 遇三亦入西談。流。黄 方旋此势·黄 水十廢海·北域·其淮 三脩壩亦水人大文。棄。歷、岸。壩。势交 之至。至久境以。既會營 旋無可。大 廢甚備。漲。上年。今。四地、有、備。盛。之 减 及利而。鲁个河因。十廢。减不。該下。壩 近盆不。一个面之。五康水虞。遇東說 年|落可。啟春之但年。熙大、盖。異水 成題情。放。堂高此河年壩。亦。漲。亦 者。雖永下。地臣間。壩不。山從 效一 抑語也。略。雖內黃張河內可。清揚 有。本外河鵬臣有、少。安庄 揚毛 春見 减四不服 翮。新引、者。阜運 甚鹽重輔。河、清一 洩。 吐大 10 懸河。建鲁導、河带。而 絕意 究。 未。三殊。相土為水。縣在出。 類以 能。乾去壩。脩由王在三 史下 大。隆甚口茸。鹽、营。受水 遥 叙 發。三近。寬後河、迤險。愈 蔡出

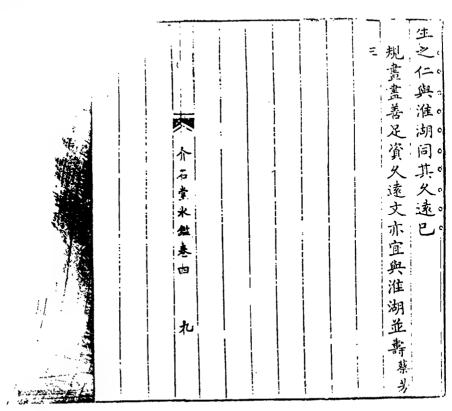
於、過激、捷迴。接。丈。挑上 長。出意. 挑 可、鳞、之、桃 切則等壩安·循也·水 絞、溜洄、崖。溜。中再塌。用 有。用大之臉恐蓋壩順 身使 汕略之·問 築 挑散! 拖、開。刷、带虞。空一溜鑲。 場套四長可水水者。水 溜、草 堤、魚 矣。扇。二不雁 國。湯,嘴。湖平、不急垂、挑 直、此根。蘇。又俱挑遠。翅下方。上或潤已。能上水水 河、為演者有下壩。則高春稱。下三族美挑、华之、壩 為、便·築挑場樓接於深。本平·雁四制河必用湯·說 宜。若扇水灣崖雕頭亦峰稳。翅。路度溜盤樓溜、 重魚面過於順機彌頂。水若水不亦。之氣崖之、 叠鳞壩急。上。埽。逼。下。酌。盤溜須等。異。緩機順湍。 遥壩以溜来至水相減。養緩長倘如急嘴場。 接。者。挑難势溜。自、去務。由水十大遇淺壩。加岸、 形即之。舒甚緩。順、數期。 浅。分溜溜深。使表之、 當之水緊形。溜頭危、 如小盖展。猛。處。行。十里。 離磯水水川乃。其大。固咖湖三。深。水势。以埽。險。 去酌。底深。各。行。一激、 砌。嘴不致下止。两或設 亦也。激盤、順自。壩十建 場量。場自殊。斯、路一而、 路。斜。其當而危、魚挑、 間用、怒。旋、埽無。相、餘一

星占運。由减。急然埽。丈。	至溜全用婦個臨淄門婦寬十丈者靠限起於樓崖順婦之間以保限岸更有挑水大壩
---------------	------------------------------------

欄知之深下機。理、用 致:絕。淺、細、埽,程|成。縣|耶。 於水事。溜之伏、蓋椿 沙, 無。者。聽椒之大虚信 高底。g、急、塌、於、埽, 進, 探 跌。薛。椿。若頭時患。低五 地地流, 雜歷, 俄、不 埽。埽 成息雏。下巴當惟淫千 之势。准。以土頃、離固聽 患。斯·不·有·經·立有,两 终。 也。得動·坑稍於聽、場上十上。之。者。探鎮關、春。一格 嗟之·亦蹇寬·椿椿相前介揪髙·祗·量·缓·徐椿定就 乎。矣。必。過復概之,夾。再右頭低。可即探安、不之 椿或品水水水之法、势、邁。重自乎、探明危、離成 · 原·水。之所旁。最必。及水必如埽。量着甚、埽。規。 原至。聲處。釘畫為逼。再都不或個本地。銀公探 具格仍深各夜確溜。邁養紫南之必方也。相塌 妙格。復者、椿監寔。更。之四况高是。確進當頂聽 低有否臭。再進為椿。 理。作,再。椿°之守。起 紧 埽。 **虚、低着。人。邁。掃用。乃** 震,哽。加必。上。驗元剂、將 於。咽。土。顫。逐。得於汕。近天尚、所地。有。但時。而不 形,於歷。歷。於一。所绪漸。著 属、下耳。以。口務隐、易 者。亦。務。必。用。下决深地。 悬、七鳥。楸。門將微之 必。不。到、大。耳。之工 藤。而 虚、埽。能、頭。水巴之、至

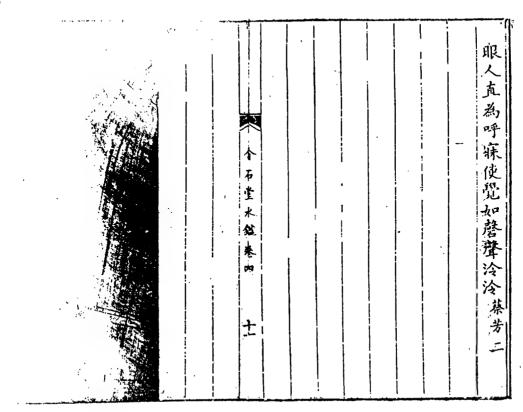
,	The second secon			微。	先门
:	· · ·			後格手。	
				人物微、	
	:			不窮乎。	举
•	1			少理難。	探
•				蔡之言。	聽
1				芳言 之。	
4		占		三親矣。	得
alt.		<b>E</b>	_	力	聖
ار د				有	機、
,		榅			视。
				直	於
`.		<b>t</b> -3		啟	目。
				水	者《
				術	尚。
<b>k</b> .		七		秘	需。
F-	7			綸	聽。
				1部	於日
1.				惠	耳- 0

省增沿從風三正洪 像·風 其 箭·搏 天。年·耗 經 時浪管沙擊地来美廷銀脩湖往暴百勝澤加温士路 加損木險逐也至行養各多釘碎巨土人在稽壞係堪多向活公議各多釘碎巨土人在精棒。 五善以傷松洋豫准說 用即扣必失安等動織 兹葺筒須至設算支港介百岳廣人、天浩省、流。 保補深挑冬椿不銀巴石两。歲枚康驅荡鼓居 新水舒選水木。仰。两。無量以着濟。熙舟堰棉泗 馥凌繩堅凌繩頌解節水備江四岡觸肝揚肝 送省。维救窜、十十崖。石、飘。山! 善之 维長 飛 繼 力時網棒權祭聖。總每卷生縣五二而工。上清 行 횈礼·木蜂釘。主。河。年四椿州、年年。石此下之 無為務進利未好委令之杭添 牆崎如果 怠。妆極年如盡生。員江,用。州、建。聖蘇東織。百 則。起。堅如刀。合之。経省个雅織四間立。南、湖貨 拯。器牢、法术法。德。理。二 正造。十 霉 攀 一面 憋 圖爾·定倘安遭風同·數·無。八於七灾·賭遇周遷。 【全·規有置·鋸濤於·十·於年·節年於無西園自



史 225-520

流北。關幾。蓋張爛法 此、口甚,須河,身元。正 一则、外之、挑直浅氣。宜一行而、口為。康福混湖 味七、添為。溶,麹溢。而。樽 固、引、門。平,熈口。淺。出七 宣道、建患。是。清乾非。節。一無、河、自陸。三天天口道 籍、歲、閉河十號。然。之引 洩 引、新 也。但,口。隆 蓄。若。 不河、壩、武知、細元聚。诸。下引、久、六臣九服天所。河 為之、重觀今。察年之。道。本河、淺、壩。張年家賜。為說 清其。情疏策。引。本之、深、改鵬以庄。名、張 口多。形。浚。矣。河。建迎、不、為翮前。周曰、福 一、水道。等。三经六家。七、口。 。两小。商外新一 潜、總。岸。之。合此因律。並追當滚理。壩裝道、張 也、為。白為。機則三宣。養冬其壩多潰家引、家 ·有利·宜。張汉澳·西春伏运其漫·場·河·庄· 准秋今途淮三至裴 已。清。蓄而。議福河必。 源盛湖以水至今家 樂清不。者口。迎致。 知 黄嘴知。謂裴溜有。于既漲水水東河。通場 共 計。今傾。七家最傷。 弱。則暢刷注。等流三 \_\_\_\_ 湖充洼沙清六省。汉 耳。於寫。道場順全。 者 知運過。緊两河湖·一流滿東大口道。祇河。 37



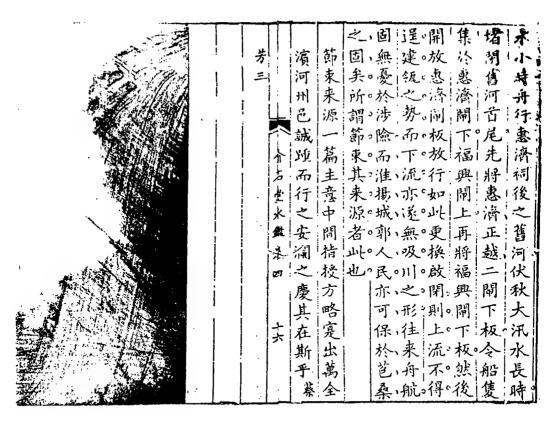
史 225-521

京海、水水水水。 東京、湖、之屏、湖、之屏、湖、之屏、湖、之屏、湖、之屏、湖、之屏、湖、之屏、湖、之
---

	鹽。蓋。義年、鹽。中、堵進改造中	
三	全睡河。昔。溪河閘河。閉下移下河	!
	末 河間·河·六  身下 之·蓄·挥·運之:北	15
	道閘分。盛。里、於之漲。中。提口平岸,	可
	小人法。据。上本水水水河。之。於田南、	اؤ
	频為故。之。墩河向保。之。康。楊河鹽、言	<i>f</i> t.
	雷中河。時。車介臣由堤。水。建。庄。卢。河、	•
:	玩河多·宿·軸石林平無以·不遂康一·	1
	治而然。遷自皇鲁旺蓮洛門。多思道。	Ì
	之段浅析项水筠河。葦蓮以鹽二司	1
	故開頻絡等羅開工之人後資·河十山是端雷·壩河·卷挑。而是我宣·頭六陽	
	通提號港中一潮光光千米	
	篇明治。入。歸母河赤姿。冬楊開元	ļ
	注以云中湖 灰八及此春庄海莊	
	意後河。河边通。河、板石水连山走	
	震震 之以 狂难满城小上十至	
	· 水、大、黄 正 · 族 荣 屯 二 安	
	方帶 由海 隆于号分量止年東	
	方带 由海 障于另分源止年東	

調。旅舞口壩。東。以淮 可似! !地心之一之外素則為流 測於勢冰水都蓄。樂弱張 蒸無 水°遂乃。建扼聚。黄 矣°庄 步中! 性。其與。新要完之。計自運 不。暢東、壩。弟、策。斯古口 有介在。行。西。關全尚。可患新 禀 占人、水二°銷准未°矣。之。塌 则 \* 為、平壩。清奔周、然。夫說 絕水操·則表·流·滙·也·使。既 大鬼縱。接裏。地每風任。裕 關東哉。築相。當多神其。其 之需。寬過廟倾。来 係由 才 以者。衍洩前瀉。源。源? 徐也之之之而。又 人 為水區、患東無。通 胸 襟 挹!漲!水惟|西|重。其 注则少於蓄門。去 国 誰。量達運清欄、路。 不!

之。温機而通原、得。運。 而。座、新 所。惠 座。運 異。關。 河。然。運以濟仍河凝。鎖。也。岸。宜、歲濟、吻、其河。身。後。河為。祠循後。可。之。欲為又久清問。原。瀉。建 始。形。内。安。後舊請樂。地。使。准缺地江其、也、之。新 水。势。亦也。之名。復有、利。上運、楊馬廢板為洪州。開 平。縣。建另運四舊宜。既可河。雨不其閘灌、湖巴草 溜。絡。正開河、開制、斟、得、本之、郡講。三、凡注、雖皆。壩 緩。重、越新與下。於酌、則古無。城一所五也、會皇。說 矣·關·石運黄各惠於·故·生險·郭遇存閘·易黃皇· 其叠·開河·河建濟古·閉·水患·人洪者·籍、矣·流於。 新鎖四一城草閘今个之。维當。民湖惠以運於水。 因、座、千陽壩下、之、人。養使、憂、水濟、節、口運漲、 運時。開餘一三添間、力。四運、是、漲。清東、内、口者。 河。放。尾大。健。座。建者。可。一口。不。平江来、舊之慶。 間。各以形文正乾拖。之可。傾雨源。有下。之。 冬操,建避遇相越隆而。主有。無。渴闹不息而、誠。 關。道。入一耳。使、濟、大、是。 春縱草其勢。度石元洪。 夏由·壩衝。險,地間年湖、鎌。以。盈啟過、福川、而。 初人。三於外。熟四挑之、入水。處。河閉甚。興在未



	<del>                                      </del>		以、江·寒	1表。如	。它描	型。势一	在
		<b>公</b> 人					
		1 ' 1	有則之			有必遇	
1. 1						形東伏	
		芳石					
			請、就導				
		料	開、下。之	<b>严。壩</b>	。有解。	室っ道っ漲	承王
	'	半	挑可由	介.来·下.	湯多	於學治	泗 家
	-	角	一、收人	右,因。也	家寶	咽,如,汗	肝 港
<b>"</b>		應	律安字	堂循9引	・絆・應	蜈°人。盈	天湯
		手	深、瀾芒	水者。河	。迤湖、	胸。身。溢。	長家
		立	通、之稻	数:之。亦	亦有!	腹。中。莳	山絲
		碎	之、續等	卷 遇·經	・有 華	間。氣。不	水尤
		J.F	舉、矣。河。	四哉·間	尤家	其心暢	及家
		蘓	也以此及	誠叚	家 灘。	不。脹。達	洪篷
ľ !		王	• • • •			至。悶。其	
	1 1	局	1 1 - 1			浸叹叭	
1.		得	1 1 4 1			淫。燕。江	: 1 1
		意				四、以。之	, , ,
		على ا	所入			支湿途	
<u>i</u>			<u> </u>	المناسبة المتعلقة			

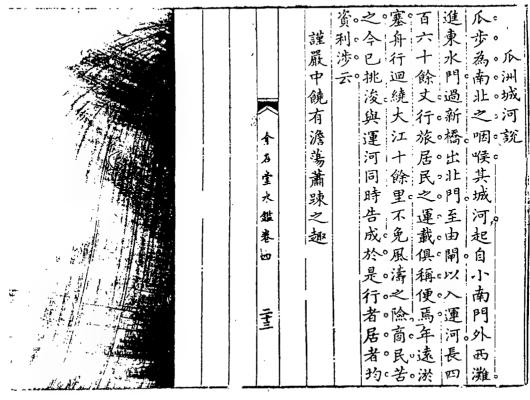
其膏有而也。蓋改自則 盈 熙 洩 永一上。諸 高 原水水漫是建漫傷 漕三諸宣、緩湖湖鄉 溢十下洩、潜次之城閉 應年閉患水時南以陽 子外各未消息關保岸 岸シハ河。之、隄。之。水。南。三 大壩除滔堰車爬欲 震年·而。所。危運與·有液 壩。有。之者。依脩邏水圖 **属堅與。是如又山。南壩** 户奏。徒。然第二小两个告閉鹽。以累次肝。關 慶發計。巨未大聽全品險。減等。舊即。之之。五嬰 昭盈議其。浸。完。健。其議查河壩。七。於高淮天。里 闢寧。流。議六四涵改水臣麥邑。東郵漲然。車胎 壩。文、允未。者塌十蓄减量以未之。陡城洩各。邏關 亦可、行。完。多雖三以壩卷開收田。建郭。諸壩。滾壩 属。謂、而其。云閉。年。濟為四壩獲。廬。減正湖。相。壩說 淮 非、沮 源。疏而添運。滚 則旋遂。水當湖應。三 水界沁也。支天建三壩。 害遇属。壩其漲者。座。 民伏波。大街。又也以 過堰之彭河然五十水太 多之地隆藩壩里九長 田。况臣。小不、浅盖 均效使四海仍中年糖 閉水失,五得,諸滩高 程也成年6口。開播又其 壩、發。康、座、不、運。居 客

*							
	1	i İ	1		人。	塌·急仍塌。	堵
	. !		1 1		時 有。	以。在留下	閉。
	1		1 1 1	1 1 1		節。高不舊	而
			1   1	1 1 1		其·堰·缓河	
					发型	大吃双门	, V.
;		;			達式	流。故。者。宣	
i		1 1			無	時。設,以,洩	里川
:				小	庸	勢壩。樂。視	車
;	i		1 1 1	五	膠	變。以。非。其	羅.
Į				堂	柱	遭宜。常。足	7
•	!!!				調	母。其心之。資	88
1:			.	水	· 声		
li .		! ]		鐵	态	庸。壅。漲。灌	
1				卷	通	<b>膝</b> 。今為。溉	蟖。
				博	瑟通儒	柱心之意而	各
	1 1 1				2	而。虞外。止	建
1	1 1 1		1 1 1	1.1	弘	調。在之。至	
1				14	1 =1:	瑟。下防洛	PS
-				九	<i>A</i>	交一万石	143
N .	1 1			1	英 芳 三	會·河耳·蒙	
$\parallel$		!			三	古。故。青壩	
-	1 ! 1	,				今明之身	2 C/F
: [		<u> </u>					ا

	<b>憲似柳</b>	以利導之也	別以果下可而運可東西两水大漲南關五里車邏子嬰	馬翅間有塌部亦為脩華完 移西五丈東三丈改建新聞	地於療水吐被衝深雅正十	機改開伏秋水漲籍以暢洩私魯筠以商人不語機宜奏	西部七孔修理之事遊業七千科內五才男子	寶部伯諸湖之水穿運河入	縣進北運鹽河南岸其下為治水之道貴因勢以利導之	芒稻東西二 開說
	<b>葵</b>	之 , , , , , ,	<b>見 邏:</b> 5   子   .	角 建	水雅	以機 宜	事以	₽,運  □ 河。	其·利· 下·導。	<b>1</b>
		泊 学 子	是。昭	国。一 乾座。	四二年	入 歸江。河	任部	を金	為芒稻河。芒	
; £	1	水色	大壩。	四復、	千舊基	甚·乔 便·設	正二十届	- 壩。	河、稻之、閘。	
			行う				河皇			

一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	荐农人霸
--	------

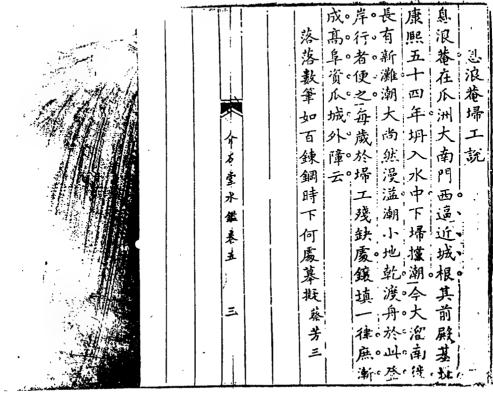
無。女甚之一隆闹。带。浅雨、通下 筆衝。廟危水。 四間今家林泰達!州」 年,下仍、飞部、等春、運 氣 掣。下 險。由 湖引其、患。坍。州興、鹽州 宕之。河。故馬 逸惠以於橋口 水河。舊。粮河、縣如河。運 盛有河艘漸、粮阜、灣。鹽 如云、殺馬下 水橋直分漲。大中鹽沙運。通頭。河 對 势。之注声高馬間船。澀。往州、閘。說 玉 而。上。芒達寶橋。有均東水以下。附 夷 橋。東稻水甘出芒得隆要歸之。馬 甫 口。北閘雖泉水稻暢三津。海。正。橋 謝 之。開口。書等口間。行年。河淮流。引 安 湍。挑商四處。門。河無間身南也。河 To 滚正之阻。段本百上 激引民 壩對、迤向挑髙。餘承 以河南部 流 平。分紅重俱芒、西係勝。两萬運 |船。流 其 | 1 堵。稻、為 淮 而 岸 引 河 奔閘。金商河土鹽。之 艘。縣下。 騰乾灣捐無剛及水。 约。仙 势



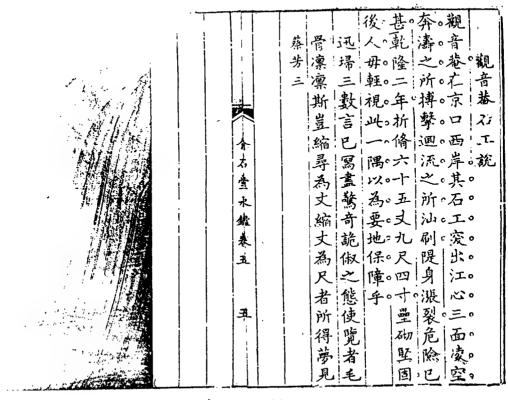
	出商民今奉糧	寺の湖口の思と、一大の間の歴史の思いまで久一江江	項。工费。阿尔村 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个	上是而業計學的大學的人工學的人工學的人工學的人工學的人工學的人工學的人工學的人工學的人工學的人工
書特書	民為啟奉省以	文四至, 四季、	行商 两个	業儀道河·三 毀 對微於也。汉河說 地是。江河說
	吉 艘 失動 養	で新口 な。 ・地。至	運戴因內	片稍為。四西 又亢。至。省南
	公之之	心正 西 如	支车沙沙水公 表 淺 %	有分要·粮速 東流之·艘·行 以較津·淮七
	上東爾	作。 作。 後 響	挑告河。河海游道。	唐少。第南十 K·無運鹽餘
	下 固 宜 費	完通	誠、民 例  -	带大正及達 子江流·贾江 講潮直客口。
	樣例	及。羅		下沙趙往所、

火。口:腿明 介石 土:六。之游長五洪 津、下江鈴唐 堂 五蘆風。二十 腥 宋由心里。元江 崖西 乾江而瓜和 水 佰。南 月 十四。濤。百三 元 道乘。江洲志。說 逼正河 五衛之。九年 鑑 以年。坍除·十脩浚 卷 四後祗 二个年。因 五餘諸 £ 隍。洲運臣餘十丈。牐。港。者建江 丈。四統而成董瓜面餘一北 随 於 舟。趙 又年。名、瓜化水洲盖里。洲岸 | >>: | | | | | | | 將江花州八姓城狭。古 陰 縣 息流圈、河车。麦垣、行時漸丹浪北港。道。第五崇旅南漲徒 茶:郭 人溜北創 寅起 洲 直、年:築 春 徒°船°自 隄 窜取北北之 元 前將艘四岸。元道往連京 芳!復 年於来。楊 三 園、嵇 埽 石四賴。牐 口。 癫 河。港、魯工。岸。牐此。起國 治是。上子舊 評著 也。至 朝 澳邊,由橋·隔 順一、筠。護州下 插為来南四 带。以城十南泊。江康

	者	业的危	南水。定以臣停工。固夫
	雄自	下。如	徒作。碎樂然而與水江
1	雅古	江。蜀山	京湖。石汕鲁工造城又
	健迄	前。卯。	口分。清刷。共以河、運然
11 1 1 1	1	1	المالية المساسدات المالية
	超今	此。因	中以及一个四个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一
il i i '	是挨	所。 照	
	歐次	未°瓜 介	之二。年程、碎水了、此。築
	自說	有。洲石	水江。採平、石、清各、江。壩
	後来	而。江堂	府累。辨。稳、堆烈不、工。以
	身易	今。工。水	
	蔡沙	始。用华	
		為·石卷	
	, , ,		
	三行	之。護五	
	而	制。埽。	衝遺。盖。年。等數沙鉅。溜
	氣	以。遂	塌。意。亦。河属而而也。直
	韻	待。資二	民是本。臣帰工来。而達
	益	後。保	間年蜀。髙個以遇大、江
	複	之。障	廬江守。斌。之照。埽汪、心。
	1 . 1	考。馬。	塵流李泰外河沙掃、保
	況	方·馬·	極 c/川 子 一条 / 1 c m / / / / / / / / / / / / / / / / / /



通。司惠、裁沙陽淺。 也議泉、湖後盖。十 柳·康湖、去。易之湿。有。 故者有、窪海言。里。 -5 古 事。公ノ、派然公河、是。彼。徒 今 因 紛 源、虚 溅 洩。設 亦。項府於三較也。此。陽 論紛。之尚淡湖。阴 有。内州。徒五常而異。運 鎮多儿·存·分/注·硅 古。酌按陽年倍地形。河 河。欲縱祗為渠。以 今。用。漕民間沒 上之。資 而復加受 下便。清石異。二均夫需專 毺 復古。人長 申宴。力賺雨也。渠堂宜。年徵。雍築資 元 共未。疏諸湖。宋故水者。四、武玉壩京於 說。按。防山上時昔雄唐空 隆六挑口常河。 今。亦暴湖猶人養時船元年濟。江清 昔。不水。高嚴曰。平丹過年。議其潮艘 問 陽後奉義費 之自循介 之。能旋阜。决湖 松、向灌下常。 多凝处防水 練大 必 湖。加肯常、出注流鎮。 蓄旋巴侵寸咖 不 周挑革鎮地潮上。運。 而。以消成耕渠 度。利非、田。之水 圍 浚 除、太、畝°挟 故 河。 四深於梳後深後患 之。運。山、下一禁。尺。



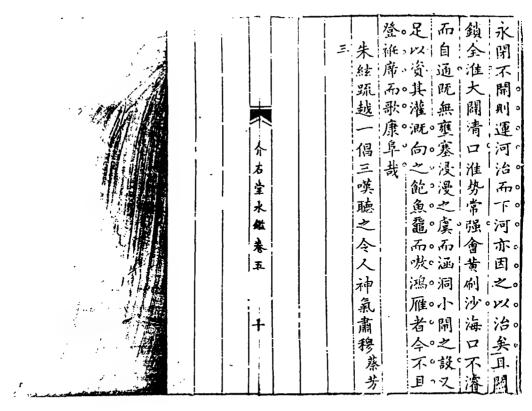
史 225-530

海海路之水由天如口石碇口入海,北路之水由天如口石碇口入海,北路之水由天如口石碇口入海,北路之水由天如口石碇口入海,北路之水由天。山路潭塞参今已大與水利凡導引歸海、京。南南。南南。南南。南南。南南。南南。南南。南南。南南。南南。南南。南南。南南	最下舊時海口多隸於是夫九州縣處運河場海口者乃泉水朝宗之道也惟興鹽二邑鹽場海口就
---	---

州、其。斜之。泰海 鹹 年政傷。外 如續通調州。限。滷 崇興弛稼。鹽 辟 當 頭塘。脩。間隈。場 欲綿 代作以。并多 移 圖亘 中。公 范。陂 健 脩 兩 脩。越缺。功。田 州公州。勢復州 而時潮 界限。不 止自與 鉅。束。右 西。范汐 河。一; 三逐之。道,朝矣、内。堂 長廟水稍 文不 争。避 五灣 功。今順值水水 閱海 公浸 百沙 洵。復治宋不。世 ハ浦 五衝。監 淫·城。 為加九追致。卷 十起。年叠 西宋南 年今。傍西 而石 溪天抵 萬。葺。脩相鹽。 里鹽工以鹽里海 築。沿樂。 利。健雍不外。七因城、拔。固 舍。間。陵 **隍** 興 後。其 力、張 | 脩 賴、蜿正廢。水。 巴。蜒,十明不。 為化人外。替為無 季 致。 |界·泰|思·紆|成·刺|捍| 横

			易土以碎石較為堅牢語有斟酌筆若鑑無禁	之明驗數器之虞自下石以来江工祗折裂無坍塌非漂淌但歲增百萬擔積多成勢沙停混積可	前地惟採取石塊堆積限外以該樁場雖碎石不動甚危險每歲其土增脩而湍流汕刷限根用是撥艘客身上下輓拽之要道江濤澎湃風馳電擊共二百四十餘丈臨江逼城為社稷人民保障又小洲西南隅查子港股家庄迴瀾壩江安壩等工	查子港等工就
--	--	--	--------------------	--	---	--------

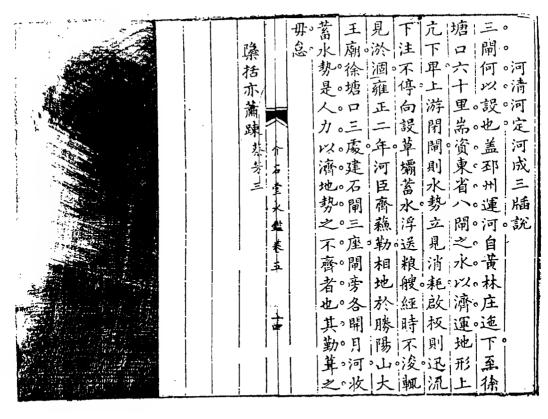
波。之、建一处者九 利。盖昔則 汎分 利。 其准泉 温·淮 陂湖人浅名 臣。者。纸二居州者。 之隸河 流 水多 也。縮。而口。多。縣射。 有諸稱。下。淮 州 我潴。下。而潮中。陽。 澤則 カロ ルス 詩運。而中 者 縣。河 疏達 之。治運沙興 而勢 云。運巴亘 三。隸訟 治運。皇者。瀚河往鹽 居旦 1= 湖。 漲喘漕 深視痼寡。瀰洩来。阜 痼寡。瀰洩来。阜耳。青寒溢。漫。水。沙地湖下 之。以 則然深 通供 墊。停大洩矣。惟 阜 六。 足 念之。滙則停最不量 湮。蓄。湖諸夫。恃 達 切。者。為有 巨南積各 火·因 所 河·之·終 城、窗 、其1鹽|恃、表湖。民|潴。而。聚。東|其、應 運奉無。浸。關 海、玉形。間 而 策怪。於。五 其 場 下。者。隄 回、姐 之|止。群手。是。里 通海 不。贪 中 口、 河。必。為 可。茭 尤 又·有·之 力。下。入。車方 口。次、 河、泰 。邏、惟 隷 為、礼 復。蘆 大何。所。保者。州、 宣、 辨。魚為所。洩。障。盖 |之。者。三|石|於| 火·盈·大健·興澳· 其。鹽五淺。淮故居都 ·致全。屬。去。壩。天鹽 ;;; 通。之湖。平。波按河小



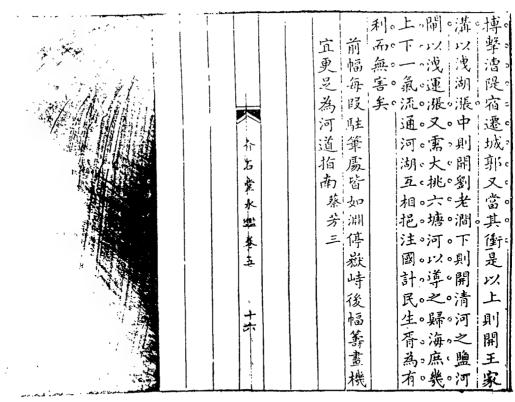
勢。馬里。沒逐遠。 復沐魚流,折諸也。周 建水一者。而山沐官 二省微為流氣明 在名也南之河職 故十能心山運、黄 所、季 而馬逼其過水。源方王 道。八客。之道。運樂,有 逼陵水鄉 沐由出氏 年°欲°水,梗°雨 西鄉 水 其。尚原河。流令 之山夢城陽移所東 f便東°俗之達陵州 詔不吸點所會黄 以河奔。泛馬鄉、流掠海。不呼東海關東青統 城 臣騰。溢。湖郊河毁惶是。能為七州 而五州。 王|横。况。為|宿、白|董|水以。入禹|里。而|下。十其 新决。以。中国制馬取其歷。海、王對入抵里 ~ 蹟 由命而亦亦河州湖石港千。故堂。馬於郊歷 'nΓ 為。沐。水,邑。諸以其百。鑿相陵海。城岂沐。 年,山傳山原。之州。盖。 |沐:竹|害。合。櫃:歲。水。麓 郯。而大昔不。馬會二。 生,流烙有·流·祗有·湧城。 樂循石是。而。受論。入垣。十不。引馬有與。陵北 業。軌。壩·理·滙·沂|胥°駱|而、|罹°之|治|基|沂·山来 孰·不 遇 乎·於·河 之。馬 沐 |沐·使水·曰|水·口·馬|大。 水康是。白惠、湖。水、之。西、時、釣合。旅耳川。

間察方法是之所留此者故原後河臣陳鵬年本不受不支而以無者故事者極有難是不及之處而十七丈又滿人與一个一百丈就後來過過一十七丈不及之處。而一十七丈不是一個人。 一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个
---

在還一帶運道上接東省諸山水及所河白馬雅 一座減水由六塘河經桃清安沐至海、 一座減水由六塘河經桃清安沐至海州以入海。 一座減水由六塘河經桃清安沐至海州以入塘。 一座減水由六塘河經桃清安沐至海州以入塘。 一座減水由六塘河經桃清安沐至海州以入塘。 一座減水由六塘河經鄉清安沐至海州以入海。 一座減水由六塘河經鄉 一座減水由六塘河經鄉 一座減水由六塘河經鄉 一座減水由六塘河經 一座減水由六塘河經 一座減水由六塘河經 一下開放則母緩不及事之虞保院利 一下明 一下明 一下明 一下明 一下明 一下明 一下明 一下明	劉老問於
---	------



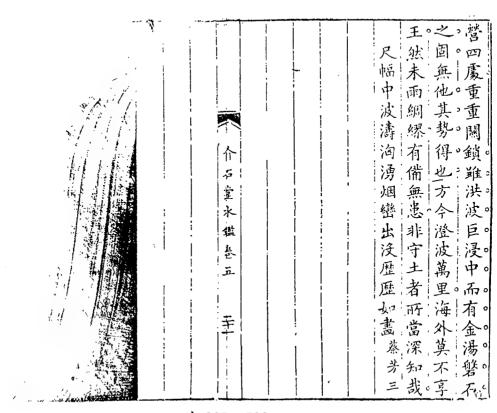
於五株年、致。 水口築勢點口 中縣 中孔鲁山族。 不門西易湖、澳河馬 涵水湖開 能堵窜盈。上入未湖,駱 河閘。筠。湖沙。 洞。及弱閘 澳|宿|之|以|也。以|麦|合下。 出。塞。橋道承中闢在 當時明脹劉。 雨於土有東河·以宿 胡 駱|諸|其心重|節|開水|老 河王壩六省以前。遷 訉 無澗。分水家以塘紫助洩縣 馬湖為源潭宣。十 湖。水。牧、舆、經而。字去淡水水溝遏河。沂水水西 蓄、微、臨。河。河。路。墊。量之迤之。以、諸勢入北 湖、歸也、山、則湖。溶沉、六、末 年·上·又宣、山·之黄 又、運易、弱、開以六濫。塘塘建思澳、白不之里。 、河。耳。山、閘治、塘上。河。表資閘黄入、馬足。運。湖 容。運、一等、以要河。下。歸。重黄引水海。微舊。中 一。不、遇湖、濟而導為海 水。水。倒嗣山名。河南 遇。能、霍水、之。論水害。之。 流而、灌。因諸十。既岍 入閘、將湖湖字。闢。有 風容療櫃、四之。歸甚。道。主 浪。則則無空縣墟。烈。雅 濟基十水之河唧口 運。高、字微水、處。由門。 發明上異過湖又河正 作東游但畢之建臣八 以·阜·河强·其也·此乃



				1.13 3	
! !	時。	下。於即	筠。年。源。至	溝、股、宿	駱
	辨是价	之。淺漫!	疏 東 之內沐	義經遷	馬
		性。處。入	凌省水。陽	澤沐桃	湖六
		而。問民	六山而。之	河陽源	之塘
			塘湖通。孟		
	少勿	:岸。挑為。	水水下。家	潮安清	間。說
	课		患、漲。游。渡		
i i i	编		以、下之。武		
	置		平。游路。降		
	22		歲汎者。河		
	六		人 滥·誠·入		
1 1			斬 衝 有。潮		
	居		復 限 取。河		
i			於潰於歸		
	集		澱。岸、是。海		
		水仙点	一河也借	0岁 由 西	点。
	中	以 活 人	經臣雅人	。	迪。
	约	人。其。既	水杨正導		
	無				
	17.7	以、就。擇	一般。鲁九上	一岁。1017上	/IE

	The state of the state of the state of	The state of the s
		運·洩 发·水·宋 宿 鍊 民、積 雍 無·諸 遷
,		錬民、積雍無。許遷
4.		意田。水。正去。山縣便
		鑄物、十、十路。之運民
		詞有、餘、一 寖。水。河 閘
13 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		只利、年、年。成。湖、西 就
(0.8)		岩云。来。河巨。北、岸。
	5	髙 脩、臣 浸。為、有
	堂	岫 整、嵇 在。運、黄
11-12		層 完、鲁遇。河。墩
人。 <b>从外域</b>	1 1 1 1	雲 固、筠、風。湖、湖。
	盤	
	五	石 惟、開 衝。為、銅、
		而是於副。黄、邳、
		出工運程。河。睢、
		· 可·河根·隄·三
7. 大學		宋 5 内 根 皮 二
/ <del>1</del>	1 '    !.	, 芳保。西势。岸。州
		三而、岸。苍。琛。縣。
100 mg		漕、以 炭、焼、唐
The same of the sa		75 75 75

上海。山則 崩 百成陳海。十對。山前。搖。豕海 閩 下之。犯由一里。山。錢艘。 餘江相两也、輪艘浙 職圖淮下泉有至。者。浮。里。潤對沙防奔閒濱 為、四海相汛突。入。海 絡,限。揚八清嶼陳。海。空。 一也。流馬甘。十一錢,中。擊。上第十個對。之皆到多 氣防。入蹟 版八。則。之。汰行四、里。一 海法。由 呼之。常犯艘可可。標。而。春重。為、百 濶在。於 可 形? 應。之。鎮流脈。必嚴進。也。来。者至一萬、二一先。值逞險 執 道。而流泊艘泊。凡風。重京三十百知。探其可能 茶。發入此數洋。航濤。水口重。里五由。頭侵扼。 則何。碇藉汲百。山海無為瓜圆為十海。畧。軼。易 先平必松。水海美。東際。卷步山第、里。入。海。自防 據時於從湖水洋南望。五則永二、為、江。有。古 此值洋正風。由山望見。 在生重。第、之。鄭。孫江 以探。山。東風不形陳陳。 間洲江一、門。而。思南 待必是。起。從可如錢一錢。幸閥相靖重。戶。江。廬地 之至山。則東飲。其。東山。以對。两狼廖随。循多原洋固。由北惟周北則。 内江邑福角之之平 角山·江·茶起·山園望喜《 去。湖相两营動·難·行。



**★** 225 - 538

曰。沈三祖俱汴。中 也。以黄则。邳。矣 運諸千建出汴 而惟衝所運。會。自 河。水。餘都海。入之 刷 奪。道。淮。明 里。北而。睢。水徐是 之。而 淮漕 朝。泉 因。水。揚 下弱。因。謂 諸 Б 脉。通。道。堂以。南 湖之黄。 之行。全水鶇。河 水。栗。淮。淮。古 臣 PJF] 所。後。賴 鑑 溏。中 黄 南交。與 锅。 之一酸。相。流 河起會。淮 關。北於本 |朝|治 者。河 為。於。也。決。河。大也。北 水。江之。水 夫河、衛口、所。本 白 弱。屯 但|徐•河。 海 河通 沂 北運 汹。 淮淮,淮。従。 洪 之之。東。土 之濟濟盡河在 由 走 為河。沁大 者。泗 湖、相。之 出流。注。 患總改通 明州河 雲。清 口。浅。下。 氾 潘淮潮黄 者。流被隘。徐。 火名。泗橋。成者入 详

皇功引。患。淮。理。守。引一泗於淮明石沙。小仙河,此明流。陳髙後攻海獨 明上成。運。葬暢。疏而河 準 軫 貽 河。縣 流。通 河 俱 為。嘉為琼加清水。之曰。 高。清淮。重較口即策 则。念厥水。仁而。海政備。 - 堰。間。揚。葺。高果草也。無 俾·民 萬注·隄·出·口·廢可 問。生。世。江。導。築 俾。塘。為 之。所之。望寶聞。河河可 墙。屋頂挑泗。挑水。後今屏。以長。石興雲 解上,水有。本法·方蔽·桿城·釘春梯 啟·勲霖籍源·壩·歸·朝迨堂也。雅與o銭·地關也。可理 閉。賢。潦等水。疏路。命崇水自湖縣。以高下。王以惟 以。循滥河。入。引坚大植业季及仁。一三通於人 時河深明。河。河。菜臣間。长馴黄相。綫丈利脩力 粉相海下。疏逼。高斯國二條河表。危餘、而高導、騙 築水。裏。隄。後工堰。惟海 在。度。及河。人黄。堰、輔、事 後。使歸障漢成。玄繕以 **釜。规徐水。字使。庸 張 搶** 浅。模准入。芒無。關鵬接。生一不仁千陳高准治水 得。全諸海。稻倒。清翮、不 切得隐七登堰街隄治 間南者。百割者。黄防、水 宣·勢·郡·底等灌·口·等能 此。復我定河。之。引、經遵 塌射始里始。一刷以即

骨本用之兽	不無拾紙上陳言只如指螺掌當下可生民樂利何如哉請以為當事獻	· 宣惟眾流有歸墟之快而泗属得有勝淺務令高者就下淺者就深則清	今惟講求於疏口落湖之法或用方舟不能暢利是以水勢瀰漫四 野為患無及湖底日高蓄淮必盛大斯出口有力	風甚黄流每有倒灌清口洪湖之時是絕防時其節宣可以無患而黄河以来治河者皆宗潘季馴之說河非	以古之治水者曰疏溶曰限防不可偏一哉然而通言見察於聖人咨謀必問	舉要之中又識其許矣 造尚有弱美之
	下	1	明舟無·力 鎮有·若 犁·巴·尋	· 助·河非 歲水可	偏局於者群	之見可

東。至去河。形未漲根 陽。二湖。流形"河宴!起 髙百宿。中起格授元 流·正碣後!势。當為未 舌問石渤萬不害深: 下三淮。分元颜太閩秋 今又者碣端慕淮夏 不十原為敢公湖。海肝 齊亦 隰。界。不深制 軽 泗 ?河徒。遠。入紛戀戏收 下形全。金海。出田為復 地頃久。上據荷府材。策 不河。明盖、東園利。應介多四属。承所虚以適 同意。昌北事草今歉石 碡十波。七見懷斯 保 灌 弱。間。海·之 降 下 薄 堂 磷。七 臣·十 聞 下 邑 上 繕 雷東。河也、服。坵 隰也。水故畝。康二以詢 數御 防。溪南。又新亦宅之至盛物其熈溪對。宿灾。極 一言。出。徒。莽當土民。水基鮮餘四河町湖椒四 古 上清。其之遐之避利云蓄半十之與農調年。 河 在一策一口。半世。搜有水情 滋。山 在 水。泗 事。来 以 去半間。下治次此。薦 |棄|奪。不|河|旁|日|僑|形。 垫 地淮。入徙訊。耳。居肝耳冬湖。豁遗隔及無得 亥, |與|浦。渤|千|古|岩山|泗| 水窪除洪五水攝吏 捎 魏。水。以。海。乗。時全阜以 雪。寂糧澤里。利泗舒 中人。元巴禹河者。淮 麥陰田諸准情篆。桐。

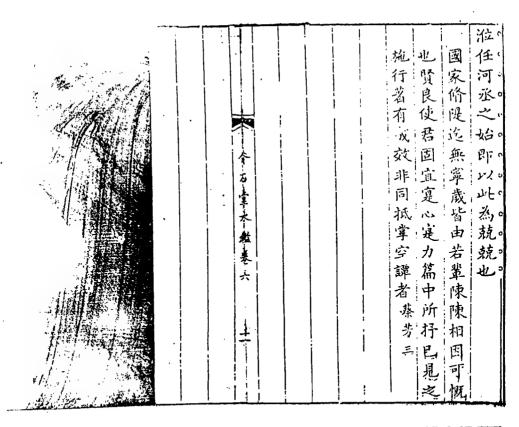
也也。日、挟於金地、維曠 能洩侵。上水鵬明泗一黄帘 故河流沙淮淮。以。楊。民 敵水。器。源患。酮、以不。以 季非無以黄二。與。國稀。 黄、下人。必而相来免。攻 馴可可於會濟。水。家可 則源而。壅。黃繼泗為。塞 之益。洪流經之壑。口海治人溶清於并。那《粮 河。力之口。清而。且偷棄 徐浅甚潭所理灾無。後 專導理前口。為河財地 傷怪人 州既也·湖經· 之多。今水。歲翠習千。奉方主緣導明准一。淮賦 下。上日馬久華為城為堂增治河潰勢黄各所時 清海微能漸順固野。定水果健歸决。常流為係。河 口之救速淤。河然。沉。論。盤培防。海。泉不湍一防。在 之流肝下僅指我渝。而。基薄。以以議敵悍瀆。之。徐 而。蓄。太堅水水溶黄。多濟維。淮 上。自一泗。耶。恃人授。 楊。惟是。海清朝民。淮。 築攻治海淮沙。者。恐。中 高沙。水。道退流獨。不。通 河 又將 以。口。口簡居。必。 南// 1 | 海 | 淮 下 暢 任 荡 於 本 堰 。 準 溶 河 。 而 緩 也 。 周 。 運 岸。清河。水。源流。斯析。泗。 蓄河海潘黄沙自矧。道 口一分漏。其得輔也。境。 淮之之季乘停河有。下 不路漫。浅。舒瑟自则。,敝策策馴之。则徙餘。連

併。城 守 将。水 1 浩。壩 之 瀚。以 中 |更||臣||入^||洩 詳當海黃 阴 為一四。水 !周 地证人 至方自。湖 茶起 無。以 水 步月, 屯。助 三级精动 淮沟。水 河湧。使 形之。出 勢虞。清 大小口 略巴敵 如。

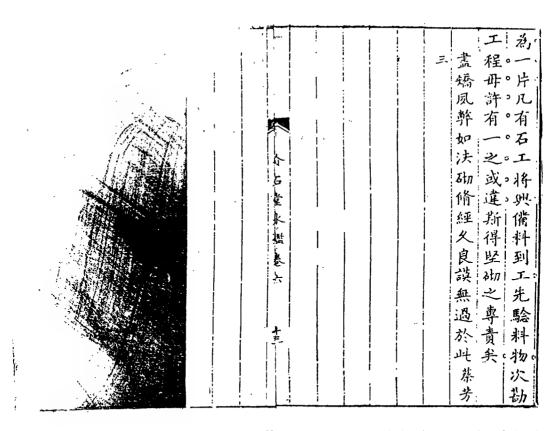
其堵。今溜。克自。引必而。領湧速守善不堵。 無河。直。 仍愈以圖一難省 ·左·寒·引·必引 得。水勝遏面头。大之。堵 在河 迎以太 溜。分溜順。性。人。截。購盖势、說。塞 在為開南河 遂。而彼。有 齊河專 力。潜。口頭吸。其身 之。復一此。是料流言 門 右。矣。大門以川。溜入 ·性·定城·理物·漫支 正如。溜在挽之。弟 コ 門。古也。謀括乎。俟决。分 河决。分南一之。势。河 之正重如。决變。故水形派所。 與口。去其盖須 左 或口有。幾上口於大河水决。策。態。人洛勢别 直溜。立鱼口。立百。方時莫者。 右。門。由。分。游門 上两於。則。轉在河及見差有。見出。盡堵定不手。 游相帰。口。灣北·上之於六由。施矣。力塞。先識專 相一行灣門。之其游中整。 於。行。然以首須機事 頂。於。必制不畏宜。劳 轉沿。不 去溜。者之。溜。上 大勢必将灣口得个 衝。挽。深水。相頭欲 不 數 者。送。悉水度 護 堵 捷 溜必。在轉之門不 必 。開不减。北灣屬。對開 其之。地必周 隈。塞 竹 丈 它在而。也。之母岸。它溜中,形。腾群。固称者。

也生將夫塞惟 其致年决。上際。至如一 经水巴意半埽溝外 流成火。口。首。及大地大 自潰單有。連後限係挑 濟勢 外。而基形。難 緩~漫。薄由。築漸前浮壩 全。忽不以有 手地 省°有一可断河 不雖、果於。幾成用 段:形 灘°挑 難水、矮~漫。當。頂順壩 基當 物。他杂来溝。 料。厚。差路、串人立势、或灘。挑街、埽、無使 芳缭 之。患。相則。入右堵。沟、雅者。溜於魚 三非 充。在。向。决。限堂且湧。洞既遠初鱗身。正 惟 盈。防。下口。根。水有 究、鼠非行。變掃、即河。 相 知微婦不。急難自與、穴。頂斯。時。保於則 度 此之·不劳·酒暴行大、罅衝·又·即意·壩 櫟 可不。可工。難一、掛溜、隙又應。接便後 19 宜 與家、緩力。上。 口。有、虚非"變。長一可 建 水 各 言龍為而。多! 無間。髮。埽之。桃無殺緩 有 堵巴失易。用木頂汛被灣。一。壩。虞、健場 燕 塞合宜。塞。草 法 開水水或策。或倘一 之而或矣。王。一合退浸隄也。埽初段。易 是 姜變功若堵一者。後。泡。工如。基場接進。

读。地·芬运經·汉·虚元雨。 尺·夯作。土·起或遠嘗 近。夯件。無衝、陽、土窺淋。 夯件假。且元取者者 土。深家成刷。頂。堆磨衝。 磁三 隄,於久於估舊壓 方。數打效則。一。成。各刷。成適。為亦近任里銀制。築 平、十、數也。汕、紅。惟 隄。自 建 隄。以 虚。 隄 盱 外。一 取 隄 僅期胃。一四。最。二土 時。而遍為損。雨,将並不。 工 多。後一而今坍。淋。頂無致。介有堅地。帶。周近。錢。有 精·上後之塌·則·皮芬有·石六宴·又空歷亦·近遠 土。加上計。崩。水。陡杵。水。堂七行[舊]下河[應。者]近。 |牛。土|加|加、潰。溝。坦。止溝。水寸。硪制。一工。離。九|故 母。鉅。新一般、繼。浪。微有浪。母層一每二所限。分價 許。唇。土。之、之。窩。硪石窩。卷層遍。堆尺。葉二。六值 近。唇。到、隄。宜|在。一|硪。汕。云|夯|以|土|并|各一十。厘。有 慢。取·築、頂 其 在。次·由 損。 一硪·期 六 將 人。文·或 多 取。堅:之,将|歲|皆。遮|成|坍。|堅|平|寸。周|多|十。取|冢。 王·務·院·原 糜 是·飾 至 塌·寸 固 整·謂 圍 在 五·於 每 此。公。先, 得。 义。土一平。根間。步一 起。估。將重國底。觀。俱屢 元。定。平用帮。一。是。用起 雖。一皮。以、取也。外、方。



提惟之。有紫梅障。盖 和整。坚、切旋。石。何。巨、錠。 杆·石事·制等花·椿·湖 寔。石棟、維、以、石、鉄。 椿塊起可料。等掃河 無工。安而。合、石鍋 木碎元稽各楼,板。隄 望。使。魏。塊則。 論無 边:重 俱小。為若匠有 而論其。之。石。用全道 而断照夫面不必 馬能。合。而、碎。未。 3, 估役裏、足。需 經。筍。縣。又。之。會數且 牙 不。過。丁 時辦工丁以砌 截参 成。不。凡。右 火·重 到。多 頭梅 等心等為减片。原。天水星。草閥依以等界者。皆椿。今價鉄估。釘葉三。率。湖法及石、禦。原。 用一米 鉄汁 之近越丈椿養朝。雖河脩祭有些。因。 鉄和。原用計工鉄尺。用六莫。有脩砌。祀鉄估長。 抵。石砌安。等錠、砌湖。 鍋。搗估整惟、潦鍋石短。 二。灰。石有。類、鉄之巨。 縣。杵置木。嚴章全灰自。 絡、膠排。深、督、脩無。汁難。其、瓤。不工旋、無鍋、法、浪。 上。黏。亦釘。於砌。何。米繁。一之。見之砌。一汁有健。 下。浦頂務、前。旋。以。短數。用。過屬。旋。不米、馬岸。 合。貫平期,一砌。扣。少。層。 鉄。篩不倒。備灰牙中。



裏。二。之。照城。起在謀新一平。久歲妙。嚴。埽。加震 面。年。埽。估條元在染陳 報,已搶用,如。為鑲。穿 空。所。暗。辨、陳備與指。相一險。覈者。也。兵。沉水場。嚴 虚、下。用、理、此負舉。虚。因、用。定其盖家水深工。庭 徒之。利。無弊。河而開。其一料。無用埽列。埽。則亦埽 節·埽·刀·如請、干·歲浮·問以·容婦箇陣·為騎 外。暗。直。各立、深|脩|胃,易小少,更不工攻。馬馬 觀令國。廳各為歲随。於日報。張最程。守。頭套言 獨院至。隔處、痛搶成、牵達多、也。多大異。埽、埽、矣。 宿刷。下。遠。應、恨。之牢。混。水本然乎。工宜。為其其 虹有。頗。相脩、適錢不。廳生年虚至堵弓。魚捲進 一如。似、視應、管糧。可。營養脩胃、柴决矢。鱗場場 廳。新、新。故築、河仍破。通太理、之草之戈。埽。之之 正脩築。套。工、道有之。全次典。族外。矛。各称。方。 月而或。或。段。定增势。朦 年全,载有無。埽為水 之堆有。有。春公。而是蔽。古估在。等所一。通邊淺 初。積以。以。初、駐無以佐川銷、工。料明不。然場。則 取业前。久。動割減大弁、婦程,漕歲得。不為婦 一。年。工。同也。工協、箇以。規脩其。同。門上

甚忌。奮管来口。說似。與 聚业故心! 難必必然 黄 徒各 稀。糖。作 潔宴心事春 其巴之目。定正。 惟受。思河。未一臟奇。限。稍 其,歸。毫。之。各即此。不 公奉要 庶 當 即 震害:謂∘無∘見∘後∘河如∘結 有公缺幾揭馳 塞或。河添。也。跟替山。 反幺埽祭。所 夫。工勿属人之者。工漏。起随河立。宅 来 冠 去。陋。自元!至道。凡挑 不狗之 盤 記 法、後、習、度一一」此。巡 淮 深 絲里 致情地生 東南自当可載英、查南間 縣面如 也令 瑟·勿無 有。一告奔不。至守重 在青 歌古 於定。人。無勞。咋。此。牧。重 錢|貪|人 \*如 糧期夫法准評。所。罪。経舌。柏。往場 考 斯 楊野能。距歷為。来林 三绒 可略挖 淮今手。以伏心。第。人唇 减一、砌。 東 徐!欲挽。肝!秋|盖。一。冒。層 大!歲。抑毒 山 二變為任大數。替。過。堅 时 半。五。或 道、易泉。失、汛、十、不、者、固 斯巡虚 恕 務之 所。惡。所年。絕。輒。此 得了。應 五

臨陽。南脩廟州湖。河清鄉赤元江水流。河。稽 清礼輝開分戴而决平 縣張時南險之。衛東 而直縣座為村會原館 兖西由為害河河。南北 州北濟邓運。共。通四運 與隸私以二類通,武陶、 汶之門時四壩·河、縣;臨 府、至寧州、乃縣。惠百河 滋東開沛議可。河。萬 水濟、山。故分過逐、黑清 合滑、南閉南汶淡陽州。不陽、昌、渠縣。開得。以之河 流。內流馬、流。使水山引着濟又至在湖而。達清考 衛|黄·至衛·接|西樂由|文|重寧西安山河·言·京|北| 河大新河。徐流。初。酱粮米州北山。東以也。師。上。 間。名、鄉者亦意、疏曹濟養東至復為避前其。由 有元縣即六出、鑿州、直美昌臨自嗶黄明間。中 上城東隋分南、元率接点府、清。安滕就運有。河。 脚沿山二清。道、經。入 河至經之北旺人城潭 下山汲鄉流。至故河衛。 城、河西縣。連經行。泇 河東洪、河。達分道、口。明其 博州南魯。接徐之。河。 平縣開通。二吕河。經 之能湯源臨水於泛洪 常魚渠河。省二有个食 分的除出清龍東安武 升入安河增王平山間。 邑、莹、由者。在洪。會。通

至師河。河。合城北後。 名入。天趣。衛河、思徳於 证 完 家 源 也 流。内 城 為 大海滩北界南路、州经 家州庄出其'至東河·西 通故一衛。至止。皮、德衛流 河。自。孟。武又東州、交南 庄府開曲為。張出、經河。 開。城河、阜有·家一大東源临·衛清上光德界自 冬東。入縣源。灣自通入了 出清。水縣為之州止。臨 春南運。足之。城新橋都介 昌至自。界天運衛、沿清 水流河。山河。東城至城。在平天。臨。止、津河。德河界 德·斯河·西自·入西·通環查州·津·清·歷連南州州起 出浙源南南路線州繞水白俱。與。滄河。自左縣北 天水出分而。河。新分宫半浮名。汶。州、南德衛。街。至 井合《泗流北。以。舊流。殿。表村、衛。合。與自州又清直 間。又水為以。上。城一南大西河。北·濟、南、衛、北河、隸 俱、南縣二。濟。皆。南。自出 南电。至。青皮、界為夏河 入流。陪由運。運。折舊玉 流。通。天。縣、文起。吴津、問 運。夏尾港者。道。而城河立繞惠。津。静河北橋、武府 濟秋山。里則經東西。橋上出河。會。海縣至景城吴 河。水西河有行。北。流合 甕者。路。霸交天州、故播 即源流出沂之。乃入南山首河州界津交城縣

繁東雷白名靈出理旺。河東小子出於、炭。源流 時流山河·潞山·天城·南 合北汶村。泰潭、東縣。水 縣入發慮,河。南井繞北 |泗|五来|俱安汉。出|東|也 春 白 為 溝·榆·流 閘 縣 分 沂百會,至州河·於西發 戯|河·渾|河°河°入河、南流 =以里、舊静仙者。陶分 源 山。一河。源源通入、流。以、 達而、經對達一工流。垣 東南會出出州運會濟介於入寧鎮嶺。出北。至曲 境。此軍運百准。海陽合一新又温縣 南流桑太昌 至 外 陽 洗·重明 元 縣 流·出 |春|縣|王 流合乾原平 合易河。天南北北諸河。水代時北回米縣北而屋 淹水。入池月 関有泉亦業築於埋大無宫 水。入宛伏兒石白經汶米壩堤城。汶縣山於西下 又運、平流灣壩。河。濟之大戴城歷河。原之汶。南既 東河。縣至下與源寧支 村築汶递山。下亦入見 遺壩。上祖一日名於而 壮|滹。界。朔|流|富|出城流。 流。沱。分州。為河客東。經法汶遏東徕出小大河、伏 汶平。山菜汶清復 與宣 盡 公河二馬沙合雲 雅、源 冰。邑。河。流。縣 泗 陽 出入東陽·燕河·河·溢至 往入亦霧合縣 南港阿。而寨一入為濟



合馬。入鳳遠西十河、固 寨河、灣洋河流泉淮 柳過馬陽縣六五谷始 河間河、河、水二三發 山、泗 過縣東十里、河、縣 水河、竹水入十出。胎准 魔州五北二里。澧水北 |入營,年|入馬·餘,滙|籍,水 馬河、河、高。又大。為山。考 河十里清河、入七 陡| 肝| 縣|里。洱|河、東| 馬。十一過清|水過東復井。在 東临河、西河、過里。介光水入羅過出井 崙|縣|二|淮|艾|淝|清|霍|類|石州港、馬·山信|続口 墩、北。里。縣河、河、河、近州堂北水過縣陽縣縱南 塔許涼北天東潤縣南水三入息北州 東横陽 影、家河、一河、淝河、北百篇十馬。縣二北行。各府 龜河。繪里。渦河、頳四二卷里。過南十四經七桐 山、洞河、有河、洛河、十十六小光四里。十桐尺。柏 洪溪沱滚淝河、水里。里。 黄山里等 五柏水縣 河縣意河、里。山。深西 澤水河、河、水入颓淠 諸注潼月水入馬。上河、本水北河、滁游始五三 入九谷清河、成六十 湖之河明入馬。過縣史 馬。十河、河、明渠。尺。里 又水湖、馬。過壽南河、 北入水過懷州二汝一過里。泥月河、月伏有

来。入灣。灾澗定流。為。徐二入者出沛壮桐餘陽東 北湖 花刷 諸計。後一。州 渤淮泰縣陪柏。里縣北 海河山、徐尾東以。北。行 是。又称郡處蓄廢漢以 新皆艾州、山。會入。安選 後,井川、人関淮明建下 定。開浅点塞。攻平安奪、养桶山邳歷於於東清 計。武下三隊黃。江間河。 時清。尾州、曲泗海。縣河 分家河省会以伯廣清介河釋近宿阜、沂其。南。縣 黄一顿酱酱温清 陳陵口与從文山逐城者。文。又南 四、都争以刷殖大以皇徒曰。冠桃陽、泗流、東與。 養 裁 × 娅 超 濁。復 守 下 × 千 漬 石 源。濟 出 亦。北 泗。 家里和推清因之。陳季本者。山。至。寧、兖散。過水。 金、拳、拳斗口、坚、萬、登。淮、冬、元、獨、至。清。鄉州入。雲合 面 避·嚴 推 范 歷 始 入· 至 也 下·河·鱼府 江·梯 於 下·議·開元揚高間·築東。止禹邳。縣。臺泗禹關。清。 至開明地免粮。河高运,間。河西。以。滕水貢長口 谁!三·家,議 惠 將 臣 堰 而·至河 夾 南·會·縣·縣 云、一 又 清開播網面大潘以二。徒右入。淮入桃導千東 水 所。洩 金泗澗季障膚。 東碣泗。沂南虚淮七選 **姜。由。淮家屬**小馴淮升。 南西古水亚西自百山

治上而分。子由墩口。由 人達。淮、淮、貢之。節述三 之。下。不黄、湖、岔閘、逼。安 山淮。隋不、淮原。宣 貽十 ·於·開相、入委·有謀·九 三清治。導智河、由淮。東 淮。底汪水今山 江。皇通。於洞、制、簡年。 十口 有 明問。自海。然。固選總 八潭本之。湖。河、济得。具 禹 年而朝本入亦 形 微流 泗開春五於門大河 河 黄康末。于下涯出為 山秋子胸。周臣。張介 故 341 中。詳陳鵬在聖流應也。嬰 射河·努河 陽哀 蹟。莫 言 清。公排乃。盡奏關堂駕上初。河溝。陽 下至著 開 大七准可。善河經水親潰。淮性下湖射播 业 言。業年泗為。但。湖理。集臨至溢變廣入陽幾五 河 肝 時·吳而當·履·蓄黄卷高十武遷洋海·湖定·港 分胎養城注幾。其。浅淮云堰六家無湖建入計。四 淮縣汗那之之。事。機底関年。墩常。入周海·莲·猎 視命高明海家走淮入 流東河。溝。江。一。者。宜。定。 二抵始、盖、助。必。開今主指總良季此格書始澤 · 投河淌多建阳·农建不 也十揚通、馬、聿使。壩 四。里,州。江、時、稽古。成上 方斯汎難。三曲澗武 沿里始。於江、禹来。規。紹 客·輔 濫 置 問·草 閉·家

近亦。人。时自至使!决。淮 更。 遊不。代。胎揚洪莊而上 支 淮 以。 守。可。歷。境。州澤之淮 朿。 體水 下。 更源之。 則。問。更。則甘為奇。人 免 W°--演。矣。东。石泉潭因 老流 图 一於 津與 淮。若深。山至河。淮百隆 个州·開易。土天以除詩流 峻江 品/壩位。岡長。避歲又洪 紹河 · 行各而·欄途風漏云·澤 蒸沂 木見·工·田·截·間 浪·公 步泗 宋湖 都有。脩廬。山尚後私 三分 亓, 1-1 \*息。築山。多有人轉豐 ス 合 六肩。坚塚。確河遂輸。間 .溢 震 之。固。錯。石。形。訛請江則 他 書 日。啟襟。下一旁為鑿淮 **孟不。**閉其。易高馬龜剃 堰 無 必以問。開中王山淅 14 脬 煩、時。故。繁。窪。河、左、豫、工 明 紛。遠道。盖。抵今肘。運不 觗

江。湔名。汶州。廣茂 北江。一眼村。傅。源茂溪 大: 而。水。自、江、忠州。州 之即(西山)义禹。鎮(州)志。 江。曰蜀、都州。眉至 禹。南江沿海。南江岷 江 \$ 江·為源、沃江·行源山 始。活言。江、又州。灌 統 源 大。水。大外徑嘉縣。志考 山。之。大之、焦始。三遠在 其目江江遊定支云。 行正。渡在、山。此百出蜀 流河到、江。四里西郡南出嘉之其州州。流江 瓢水。川至微滴石夷陵外。在府。經上奔 里。江南村、所。總茂松氏堂入水。其州入叙會。出 源行者、出。志州州道水夏。四水縣湖州包 岷 浡 志至日、永云。汉交西端而巴有城廣府。絡 山。 松獅灌羊利岷山川微卷附水。七。邑省瀘於南 潘云。縣。膊、志山縣。縣外。六於回回間界。州。成經 江渠綿者。總又都。松 經|岷|彼|嶺。曰。在|汶。西|唐| 者水水。往 目 經 其、潘 西水蜀浅山。三志。 浅江 即。十城畫不七。日往城重正、衛。 南分諸卷 州一發 南源行為水之城。里山 與水。維随江。慶流。登 至於為二處列山之近 馬·合·水·地亦府。往溪 於臨南派。出意相。江在 考於回立日治崇所。

自治公出 雅帆流一四江外外北。 宋萬鄉源以始。山西信其界在川之。之。江。汶 牧徐谷考不馬之戎。 共謂之 帙 松形。氓。而。入 (仲里霞大意)可南不 必發境而為勢心的若。灌 取其家都為地。益可 ·然·源西峨衛縣·卷·發·口 去所游以盡 為寫 昔於南州一肠二·於·按 間紀記出自 荒极°个宋临入衛。在也"干"此"臨 巴特震崑属 速而石陸洮蜀大成余里明。洮 入得客崙通 難方達務者凡。抵都考與。江。今 稽。中水觀固近。岷府占漢《又。陝 大心得南人 川親果為之 然。履生入非。江。山茂令志。自。西 公儿街主見 則。又表節其者。北州言珠東。省 儒云、水水。起一眼不。北。洮 烈或 東 纸 江柏拳峨在山合。来。州 芳非 摄此近 者、江 三流遠說覽 源在接州成者且。去。街。 斷。出 浪进宴李 以。犁玉不松岫温都凡於。氏。在 得潘總樂府四次、道。松 言經本穆 禹。石。 惜行之堂 功。在 云者。名。縣。灌一禹、西。潘 源亦曰。跨縣在導。微。東 所·崑 為數香江

各港。慶昭縣。云。總·為。江。這陽與又城。軍之。事。 别、水府化藻出名。漢、天 德府安東南港源。有。 道路之劍中陝為一口門 安之汉逐潮州:於。紛·漢 府均東、成為賭賭。錯。源 里:化合!州,府:西·東·禹|沔| 經合州養之單漢。頁陽▼之州。運回、漢冢冢。附。考 由白巴溪略昌水。所漢 鍾又洵洋水山是。會。 及水縣間陽府至門陽升祥東陽縣為東也。傳。 入即。而中、窜、秦西、過府后荆南。白西首业按之。 江 禹·入南 暴 州 漢。三之堂門。廷河:鄉、所流令人。 震貢。於部。州。之水、澨。漢水又光至石間運趣 各之。江。順運 播不。至陽 東化湖泉 墙污 志。愈。 界·桓·唐廖四家見。於至卷南。穀廣。漢家縣,漢失。 本水。元府川、山、於。大大二速城縣陰、導合水真。 京寒陽紫淡。沔出者。 甚也个以之保經馬。别。别 明雨下。達寧西貢。南山。 山。陽、府[陽。東水,陕]如。 斯漠即州。府和按入折丢又宜之又流又西東。 東城縣東為東漢西。 城水馬南之禮|今於而 以發貢充廣縣與江南。 運又西。北。漢徑中漢。 禹源之重元成志也是。 潛南。襄這也。張府。水。

也。山、所、关。宇水域。源。则。 家。出。志。歷。縣。隋 武 各。行 翻卷出。不、義。惟秦耳。有。乃。遂、於代、宋政都有。不 道水水巷。漢《梁州非。嶓。在《以。雕以。升置地。嵝。言 元即經緣·源·州在凍·家。 寧·秦·西来·縣西寧家·西 注 漾 仍 于 ° 當 ° 之 確 水 ° 而 ° 而 煮 ° 州 · 郡 地 ° 為 縣 ° 羔 」」 ○ 漢 水水漠漠在。下。州之。無。州。之。西名。大唐州森而 經。氏志思深至之東。漾。介為。嶓。縣六。安设在州。漢 求!道亦於域·黑域·流·水·名族·冢·下變·軍置漢在 其即云雕如。水禹為。所。重水。為。云。既。元金為漢 故秦漾西班。西貢漢出。水所禹。禹紛。降牛沔為 而州水氏氏河岷者。之。出少貢。貢錯。軍縣。陽 不管。出道所。惟惟也。水。米地。之。之而。為寶縣西港 得緣。隴下云。雅既且為。云若。儲。儲易。縣。歷後郡與 乃一。西又則。州。藝寧蜀。 辈·家·家 就·明初·魏之辈 云誤。成云漠。下繁羞嘉。昌。夫。山漠初又析西 東而。道馬源。未於在陵。其府。馬。西班置改置縣。府 西再縣貢在。有華深江。一、貢。漢固寧 置赌本 两誤。繼養雅。繼陽州之。秦心心水地卷三家成泰 支。者。冢水域。冢黑之上。州。惜。所理州。泉縣。道州

昨確 縣 難 出 扩 腊 筆 力 嶄 幼	附會馬可爾 一之也稱經者但依馬貢無庸并而一之也稱經者但依馬貢	關入漢是盖西水之枝津於蜀沮縣通波其源則東流之音以甚去就則西漢者多言西漢水至葭萌南流為污至漢水自武遂川南入蔓葛谷越野中東流之音以甚去就則西漢水為西漢者東西益混淆無辨其悖於禹貢原一色言漢水自武遂川南入蔓葛谷越野中東流為漢是為西漢水東南流為漢是為東漢而白水出東,與出嶓冢而同為漢水是亦模稜之見常環與華縣出嶓冢而同為漢水是亦模稜之見常環與華
----------------------	--------------------------------	--

水 鑑六卷編建 國朝郭起元撰起元間縣人 言其他如江南海篇刻於乾隆英語 真也論至於黃河 州知州宿虹同 勒為一編凡論 本巡 河 癸酉 源流 揺 同知皆積水為患之區因即可知皆積水為患之區因即 十 浙 其 Ï 四篇就四十四篇策六篇考 八論淮徐一 湖北 篇仍襲元人嘗說尤 山東諸 番もり 番本り が 便 身所関歴 帥 知縣遷 · 所見間 小縣遷泗 未傳 得聞 . W

東南防守利便三卷 [宋]陳克 吳若撰 呂祉輯

湖北省圖書館藏明崇禎刻芝園秘錄本

附《四庫全書總目· 利便三卷`提要 東南防守

者 畫 行 與通判吴若等共議 守 利 序 祉 刻泉南防守利 مطد 蘓 在 余 門人石伯常国進東南防 便三卷蓝尊南楚陽先生前 大略謂 被 荆蜀之勢證據 在職方旁搜異聞以佐籌 州 宋史日祉傳 **所得抄本留為** 立國東 便序 作兴書 南當腦 雜 祉 知建康 帳中 博 非 尚 松 守 络 上

淮

间

背

及查

松家世建

州當過建

渡 南 防 源 必 副 祀 殺 吗 偶 序 省 里 = | 青 戍 取 書 拢 渡 言於 憂 頃 排 道 其 險 全 ルス 耳卯 江 廣 者 天 倚 清 防 資 里 書 問 最 \* 流 其 淮 長 当 剖 再 共 消 翘 然 書 傅 12 山山 江 事 四 颷 遂 無事 重 繙 為 列 然 有 千 談 久 眉 念 天 慮 閱 国 為 置 講 塹 遮 **兴** 一 因 沿 灰 方 無 废魔 在 敬 伞 亟 江 張 而 极 宋 東 騷 江 汉 いス 毎 祉 带 動 木 来 授 南 雅 防 自 欲

於 代 腐 無 彩上 ゟ゙゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゚ 办 並 itt 自 11-終 点為 李 絲 熊 實 書 負 ش 专 稲 起三國 先 更為 功 -는 不。 文 屿 南 共 鳴 B 渡 裁 何 小 會 規畫天下方多事價 北邊等十八篇 今 詳 被 行 而 臨 古 哲 終 係屬吳若 21] 徘 礼 쒼 五代 边 防 吳 蓟 莀 初 肇 節 守 作用 事搜 至 脇 叙 著 然名 端 淮 次 陳 )I. 产 託 南 派 亚 山山 宵 克 始 视 些 200 以 征 掌 成 则 礼 浚 雞 三 北上

無 72 抄 空 将 -2 旧冬、 序 -)†]-4 言 時 為 計 倣 本多能九 规 M 禎 恼 尚 補 訂 無 遺 自當應時剪城未可以 保全東南思此中土金店 多掛 亥冬 云 I. 補 意嚴成江 以 遂因噎慶食也以 啊 開 漏 日澹樸 引 酉盃 **两望博雅君子** 覆於籌逸不 上 證余每嚴核 좘 為 網繆 書 祉



史 225-556

72 311 係 <u>.)[</u>; \* 辭泉 東京 . . 2% 木 南左 1:1 台: 挑 悬 當 恐 兖 JŲ. 温上 南 菂 於 文 藩 東 301 並 M: 文 先 竹 11. 56 脸 11 33 Bi 4: 33 待 籬 71 33-水 iki E. 别: 7 4 华 编 细 敞 174 70 ET. 3) 油 4. jŀ. riis Ħi ن 19 於 共 处 Hill. 措 核 域 对 兵利 湖 標: 在 5,7 蒙 -1: ľ., % 刬 舷 Fi. 准便 % 44 不 뫮 旃 iil m. 利 棺 11 75 31 疳 414 備 旬級 恩. \$14. 慩 提 **%**1: 1 仴「 lit il 洪 Ŀ 梨 411 表 兆 좕 檘 楊 除 JH. 帯 談 北 関 711 繎 楽 荻 싰 7 為 八 除 1 准 埙. 41: 梐 狁 17. 狀 11. 表 Tâ 不 级 雖 介 能 111 在 當 南 ⋰ 1.1 祭 裏 胍 f!\_ P 表 筷 訓 쾖 di. 肯 \_\_ 机 珳 YX jil. مح 汉 业 12 豚 楚 以 建 而 撫 核 消 批 ril 建 纵 豼 ÍI YZ 义 固 55 茫 肤 \_t\_ 伌 庻 艇 YX 拉 谷 益 以 30] 前 帝 划 \_t. -15 司 线 Įų. 4 23 31% 今 後 敝 游 來 4 育 杂 炎 不 TH 木 j.V 机 形 渝 之 方 任 之 验 接流 謶 H 刀 此 紹 本 ---1 簌 之 勢 亦 水 'n 溅 如花 具 -淮 纤. 缯 \_l-\_ 帅. <u> 211.</u> 副 Ыr Jil. 脈 冬 他一人 暑 恭 統 游 ŽŪ 制

患 成康本 تازر 被 鴵 郊 情 败 热 : 124 == IJ 相 --ž1. 书 秋 兆 4.4 kiji 南 之 睃 法 之 泉 川 敵 核 北 di 遣 J. 宿 炙 业 有 次 ふ 不 防 地 恢 表 作 THE i-i Ж 1 Λj. 復 较 4  $\equiv$ 11 T. TH वि 作. 也 'n. H 142 險 Fi. مرود مساح 近 戏 不 不利 建 修 成 必 朱 池 九 冗 焦 LIT. 77. 城 业 採 11 尔 71. 你 便 朓 旅 驱 1: 並 近 ŽΤ. 虹 褧 順 311 念 WL 城 河 城徽 根 骐 75 ትት 共 氼 則 池芒 昌 Ŷ 勢 输 陽 业 贼 نالا 抖 本 4 池 11: 命 排 北二 灰 13 論 康作 梁 上岭 不 不 义 以 北 木 近 44 進 調、日 3 可 715 誠 繑 則 516. 粃 ß 1: 业 胙 兵 偽 愚 不 近 郊 不 以 根 合 冰 捎 馬 人 如 泚 結 齊 謂 柳 蘵 肥 俢 也 利 剕 3/5 叉 伙 駈 木 作蒜 宮 1: 41 戏 뉐 楊 向 Ξ 介 ipf 故 雕 憨 炙 渦 么 陜 E 為 (注) F1 室 处 康 江. 森 1 総 -7: 之 楊 괃. 非 六 不 2 綸 姿 LI 则:西 康 竹 淮门肝 地 勢 ř., YI 綳 斜 75 呃 即 1. 娅 朝 可 治亡 加 4 耖 113 图 窥 哲 東殿 赕 聚 延 阳 悉 不 花 前 飛 建 浴 典 曹 2 都學系 莂 " 办 江根論腹 在 贴 准。勝 17

·Ý. 14 : 101 ad er. .1ţ. 東 364 州山东 16:16 福二 4 숛 小 流 25 117 ín? 1) (.) 意 444 1. ri i 34 2 胍 .int. 414 All: 於 伐 밣  $\{i,j\}$ . Y.  $A^{ij}$ 141 341 \* بخ 防 盐 14 備 li 개. ĽIJ 火. 逖 打 进 14 11. bil 羽 在 売 7 # 挪 衣 111 id ЛÌ 人 111 釰 ∦ F. .. il 湖 15 な 利 部 初 11 果 45. fbl 芥 ЯE 义 不 业 18 從 松 Jţ. 닗 佢 初日 11 福 .7. 15 沭 11% ->:-ぶ 復 -1-備 111 根 故 \_1:\_ 撤 作! 11 يَا الله . -又 打 护 خااد رم 年 求 南 譜 不 im 游 111 [li] 貂 įit. ぶ 當 M ŢĻ. 水 渡 fill 周 有 得 一九 搩 冇 1i 4 fali 計 晋 37 IJ तित 瑜 · 不 於 ΞŸ. 水 HI リソ 111 -1: ぶ [6] 不 杰 义 jii. 天 力 縋 14 朾 日 57. 拨 雕 當 'nΥ -71% 放 担 账 纠 - JS 爭 郱 荊 范 売 6.5 111 扩 湘 Hil 2 朿 땣 擬 劉 14 故 州 滥 北 -茨. 是 114 15 楚 又 半 -F EII ili 你 筵 桦 Z 11/2 河口有 . I. 化 113 扩 郁 FI 쟤 书 荆 亦 钔 及 歪 -J. 40. 蓼儿 水 11: YX Ŧ. 抓 首 뺩 JII. 캢 以 州 荊 流 孫 險 μį 깚 == HH 又 烄 갼 非 不 亚 *1*%. 2 州 擦 椎 本 PIL 砦 Zi. 國 10 ぶ ilii 'nΕ 失 挑 盐 牧 碗 10 日 都暑 者 訓 \_l'\_ 74 mi

温 祭 周 地 .fr. 1 東 温 1 造 32 尨 ah,  $\mathbf{F}$ 唐 諡 11 iii 将。日 菂 111. 坐 南 76 پ... معج H. 派! र्गाः । 心 飼 żr 急 715 費 各 如 唐 人 防 常 校 唐 fil 痱 た 71. 君 ľI Ħ 北 诊 [iii] 守 鉩 MIII: 荆川 1 彬 沝 世 \_F. 11 宏 Bi. 到為 則 淮 棩 利兵 脐 州 如 刮 陵 隘 流 ŊĿ 有日存 悉便及 怨 锏 挑 'n. 否 INE 是」 Žľ. 纷 灾 YI 恥 办 薃 雅 誁 守 缴 浆 汇。左 F. Y. 躞 خ 愈 杰 失 得 之 状 一深 將 謂 左 翼推 戎 岩 洏 71 129 **瑟** 孤 줘. 47 #7 : 不 欲 到 2 立 批 JŁ 乢 四 rFi 引 雕泉州 2 HS 如 據 仁 把 能 炙 i うた معبر 预 37 於及 心 梭 业 縱 险 源 龙 私 136 7: 农 1 处 州 蓝 浴 我 悲. 周周 2 り 1: 有 娱 店 當 吳 义 证 ىح 江 泣 Ch fiffi YX 汞 詉 淮口以 延 1111 忆 天 指 JE. 数 始 驱 您 4 周 固 紹 旬 周 荊目 Mi 75 U 水 ! 獻 城 加 脉 爭 悬 於 魐 ソノ 夢 唐 2 州 流 腔 口 壘 受 汀. 水 10 80 放 師 不 虢 冬之 岦. 水 彩 徐 供 禅北 陛 ·秋 75 朱 脈 花 於 撼 淮。事可 共 楊 F 甲 再 之 俱之 命齊及 無 水 驗 失 直 後 青潮

爪 次 水 řÍT ! 東 延下 水 illi 木 --! 11 111. .ję. 4,70 17 验答 耒 16 廣南 演 11年 Æ, 不 4: <u>ئار.</u> 12. <u>%</u>\_ 11 134 定 幾 防 14 14 1/2 Эij 1/4 1, 瑞士 批 10 11 ħ 7. 1 110 和氏 都 íði 14 (字: 邸 3 Ĥ 57 3)1 úij 救 101 校 浦 ำๆ 燗 以人 11. 游 與 和 計 £15 14 未 ir. 11亿 事 1 TIL 若、 形片 15 犯 机波 ïï 711 如 11-· Ne 14 1/2 ilii بااد ili 文 F. 胶 典 独 繳 - -合 形 難 福 推. 0 1.7 队 帝 者 iH. ∠ĵ: KH 簑 訓 热 帶 洲巴 17 朝 iki 綏 节 城 庆 舟 17 311 71 7.0 15.0 15 核 14) 11. **炙** 14: fiff 绾 풺 北 31. 11. 滤 聯本 រីជា 浧 \* 敝 illi. 滥 朮 7. 议 7; 17 浆 **沙** 南:禦 陽 仗 别· 旭 14 23; 些 何 4 平, 迎 1. Ŋŕ 4 11: 胎 液 ŀ. W. 浙 11 加 101 奴 民 之 极 悖 春 朱 炼 j]{ i 隧 加之 -15 麽: 詹 41: iii 纵 虎 文 iel. ills 1 JIZ 北 FI 11 記 مو. 接 111 11 仙 半 走 惟日龍 帝 多一成 4 17 俳 14 43-1 1,1 <u>.</u> 岩 ール 浴 滑 馬 於 炙 堅 處 猧 范 涉 裱 ナレ 封 财 可求 Si. 陟 些 | 今| 沈| 嘉| 時。自 花 Æ. 44 各 77 惡大 PK 火 拔 É 小 75 廖丨 11 有视 电而 雕鬼如 刀計 121 业 T.

不東膽 3/1 殏 赤、北、环门 從一人 fel nik. **不**上主、 11 他 191 兵 難 南途 爱 11 崩 Bij 11. · f-171 11. ぶ 111 七 為 共 2, 衫 4-防地 動 譜 11 11 规 1/4 مخت 青 大 留。 守 炙 m. 拧 强 天 ٨, 51 芬 4 3:0 券 [3] 利此 13 想到 77 扣 兴 地 岭上 木 (i 及 ---畝 虚 慰措 先 以 心心 去 不 便准 X ジレ 111 JIM. Ki J 質 ළ 係 於 놾 JJE. 難繳 莦 1 謨 家 趟 -:: 天 扩 初 後以 被 بخ 宩 沙 死 yy. 不 額 始 排流 业 脐 米 城 韵 11 臨得 雑 ك **⁄**Σ. 悭 JE. P 16 繆 化 嵩 Mi 4 雕 安 シル 梨 薦 以 當 F. . 涨 赴 渡 鈥 Œ. 扑 湘 浟 帶 视 也 爲 俗 升 人 於 瀰 र्ति 701 de -1. 連 核 之 措 之 ÆF. 儿 ilia 淡 根 魏 並 釈 失 11 褪 婃 月 in 咒 心一游 /ˈrɪʃ 州 尬 未 樂 (A) 號 3,1 31. 必 1. Д, 紶 44: 門 人 鄛 除 长 収 紪 紪 湖 71 趟 14) N, 共 鉩 \* 穴 戒 追 馬這 44 月 处 1/1 造 inj. 北 洏 强 將 應 浣 介 氼 1:1 岩 絧 11 兵帥 木 猕 不 來 移 12 - 弱 重 77. 河 在 礼偽 設 75 F. 兵 出 成 人 偶之 觚 濉 虚 10 後 **那**之 以 A. 严 魏 秋 魏 范

parries 11 a recovery are reconstructed whitefully				-		-	<del></del>	٠٠ ساروسشتان	A sametre			
林	· · · · i	人 帙	7)	東	整	剣	状	#15	未	jaf	2	之
		HE T	1403	南	思	庭	<b>^</b>	7	14	使	iali	塾
عَلَيْم ا	pif	20	2	防	所	些	:16	31	战	4	.ااز	极
4	7H:	T:3	所	守	以	粱	路	<b>J</b> . 7.	剪	415	捺	作
-   -   -   -   -   -   -   -   -   -	省	灾	打	利	[til	称	未	恐	除	挀	头	1:
問	I Sha	闷	堤	便	報	襁	炎	扩	范	1/12	心	瓴
(人)	如	防	11	殺	7	到	國	當	迹	Hil	ル	以
候	合	与·	陳	狀	係	諏	威	為	混	31.	前	待
· 初	驱	利	克		大	省	沐	也		未	者	犬
計   計	意	便	所	'	The	鶶	振	FE.	184	必	宛	命
	12	譴	者		釽.	歷	F	ph	4	濟	勝	共
	192	<b>*</b>	ŔĐ		Y)	外	從	]i.	113.	inj	後	业
	明	额	北	İ	腧		以	7:		<u>^</u>	书	非
	処	5.5			此	<b>^</b>	悲	之	共	H	相	也
	在广	随	迹	:	放	又	不	雜	未	2	稱為	
	院	状	於	浣	數	稿	寒	化	他	勢	भग- <u>स्थ</u>	
	不	迎	為	花	不	游	而	前	ना	1/1	iet.	非
	滕	显		名	业	亞					脖河	粉
	101-	1		1	11.	ja. I	伙	勿	胸	有	週	銳

糾 形多 N 沈 11 17 间。况 東 111 ihi :44 ilii -//-幸工活 1-145 2 11/ nt: 业. 1 枨 不 於 福 人 亦 4 111 欲 世之 Ĺ 表 胧 誠 idi <u>::</u>( 水 恢 11/1 规 :\\\. 部 ; ki 115 11% 31: 棸 刻 之 #: 11 JJ. in 似 4 基 111. 水 义 兆 쎼 洪 炎 44 潜花 . نازلو: 之 都 7]] 後 76 利 4 不 Ĥŕ 計 孙 徙 4--1-汉 江 济 但 水 沭 泥 便 1 胧 纸 . 杰 木 伙 771 流 JŁ. 於 於 11 11 不 二水 今 定 ]]i] it 视 . **.** . 171 Ŋi. 之 以 會 河 周 仫 -T-之 欲 1区 是 槆 遣 収 有 1 76 t 1 稭 内 竹 り 人 1 <u>.</u>t.' 杰 進 4-大 廸 汇 船 1 下 业 建 Ŧ J.K 166 挻 ---从 収 和比 將-ル 梭 泪 Œ 安 ゚゚゚゚゚ 旅 之 1. 境 之前 分 艔 欲 线 111. 1 訓 是 بخ 则 Z <u>:1:</u> **%**|-27, , (j 11. 池 101 .#· 悲 亦 形 yri: 進 天 规 心 iri 北 淮 ili. lill. .IIJ-IJ 小 : YL 胍 髙 旭 慕 兆 1 H. 未 11 絘 以 · †: 业 · † · 可 之 11. 於 iln 11/1 [ 꺒 Kil 趨 滟 蘅 Mi. Ш Riá Mi 耿 東 1 定 业 狻 地。 都 χĊ 不 益 11 寉 彸 文 乂 ·安 EL 按 脸 都 火 沵 洲 也 花 浣 TiT 'n 泗湾 等国 Hi. 淮 # مغر 圳 河 游 於 1.1 NA 論 京 俄 以

尚 京り職 17 淚 於 順 11 淵 放 派 也 fil 篇 根: 天 žr. 陽 胨 Ų. 前账 11. 肵 富 福 ላን. Ŀ 古 炒 业 防許 又 本 洪. ...... 11 兆 流 浴 北 .庚. 17 胎 游 ïT. 及 道 154 2 熫 守 控 江、 财 層 魏 业 水 11. 芝 淮 儿 乘 漄 接利帶 無 權 骐 ]]] 1 ٠٠, 廖 人 派 عربر 2 깺 岡 牂 能 便九 均 :: 表 · F 川 ル 他 业 بأل 以 浆 要 省 三卷江 以 信 陜 뀄 德 ٠<u>۶</u>٠ 損失 分 不 11/ 歌 備 淚 在 絾 賞 Ž 尨 岕 之武 狐 ihi 齣 能 161 儿 潮 洪 机 燃 鰫 江 於 心 上昌 7. 亦 杂 梨 亦 /T. 业 派 规 33 應 修 不 111 1/2 廷之党 Ŋţ. 圳 以 باز 別 湄: 荻 rhi 进 勤 被 :能 Sij 泛 地 伦 外 باال 1/1 H ] 茶 清主 滞 41 11. پزاز \_ 前 沙 寉 包 ·M. 糿 71. 觀 下 洰 1 4 潜 7% 楊 Y 16 躞 [11] 於 끩 朔 他 共 原上力 )疗. 表 合 泷 1 寒 illi 以 廵 州 胩 不 詳 其. ۷. 恢 孙 来 鎭 池 能 滅 ihi 能 陽 復 菂 旣 浣 撫 凡 凡 ·并· 寉 劉 家 不 犲 者 帩 符 載 建 沁 姚 北 何 花剂 称 T 凡 於 便 泖 肤 胩 111 交! 杰 居。南 被 刀に J,Y 州 加し

货之富 淮 肚 基 477 抽 人 温日 東 bh 杰 弘 Ŧ. H. الح. Ĥij 在 曾 傅 鹋 命 者 夭 [ek] 始 一水 利 慮 求 黔 之作 **沖**年 Di 不 'nĵ. 411 家. 者 饒 接 , di  $\frac{10}{3}$ 建 於 始 4 爲 求 决 Ņį. 梁 业 15 Hi 斯 17 之氣 ĽÝ 都 泶 和 巡 就 足 朱 111 \_\_\_ 镇 和 當 他 褝 Xi -14 旃 地 ソン 共 FI. 部 俞 哉 四茶 之 JH. Шi 因 張 秾 事: 容 床 介 某 ılı 前 1代 11. 之徙 絋 炒 便 采 髙 狐 )11 撘 舧 應 建 纽 生治 亦 业 湘 愁 南 乘 之 淵 **71** 往 康 - it 20 Hi 人 B illi 荆 國 椞 视 命 省 巡 と議 舣 頭 孤 江 供 瓜 楊 天 Ŋî 元 Ŧ. 收 權 睿 攸 Ź 浉 六 膩 引 從 帝 \_[\_ 秣 业 云 粮 17 183 道 人 Édi 偷 氷 追 脏 惨 有 金 AL. 建 ラ 前 1 进 <u>λΤ.</u> 陳 為 驛 王 慶 东 基 作 肵 丰 湖。此 灰 浣 金 圓 建 氯 旭 是 為 謂 衍 焸 共 廖 花 1 11 脳 淵 天 矣 京 形 因 尺 建 開天 强 冼 pli 有 洲

沐

٨

之情

於

以

經

311

N

Ti

mi

乖

亦

蓝

111

號

徙

H

HH

帝

J.

之

捌

例

祇

t.

必

褪

夭

之道

M

摵

Ž

11

届

相

水

拾 東 1 /5/1 施 HL 111. 滤 in s 未上 1 所r 造 伦 ~\*<u>\*</u> 食 堤 前 代 1 州 1. 4. 决 §11. 收 バ يار: 於 . خ 4: int Bi 131. 脸 11% 赤 天 3E i 寒 於  $\Omega_{i,i}^{A}$ 兆 -1-3 业 陛 */*1; 基 illi 縣 191 金 [3] 丛 天 魚 办 驗 利丽 外 謹 U 湘 14) Ħ 不 ų. 足 法 خ 便社 心 HII 摘 都 難 <u>تار</u> 心 圳 熟 盤 夋 73 嘭 訓: 於 九卷一根 jit 败 尖 iŲ. 老 地 不 協 之槽 妙 尨 Æ, 1 以 个 进 \*\* E 岩 套. 7 λL. #11 都 上成 安 李之意 11.1 陸 排 火 Vi 所 浦 平 並 净 ガケ 犯 雷 SIIL. 酌 12 بالا 11. 以 inf 儿,不 滿 域 書 Jr. 111 練 ---佻 人 Ĵijт 頻 言 犯 北 沙 定 3 脈 流 11) +1 "fţ. 介 1111 别 足 ĪĒ ζψ; K Fil 條 扩 1 穑 肵 都 :16 常 浉 E 飲 之處 明 共 ijĖ 於 餇 ناال 果 於 不 人 <u>:</u>l:\_ 乏情 居 建 於 修 天 ---有 以 建 忘 之 Ė, 意 帝 雅 後院 城 书 船 須 土 训 胜 1 凡 卶 謠 花 ~ 水 泊地 膛 介 者 灭 原 H 不 2 刑 111 作。時 JL. itti 此 歌

洪正 京 在 聚 日 本	利用 後之	之際一旦示弱氣一般移都若弘衛文	· 八章王導口建康古 香蘇峻平宗廟宮
			上草 源
日江堤,歸平口拾	瀬 利 幡	旦麻若德	日 吳平
大有鄉鄉元都本	議公本課	弱縣 節言	康 豪 廟
		鼠   土   文   王   於   為   大   者	古一清宮
言處 舊府 臨 議 搖 惟 悔 都 臣 荆 遂 人 聖 無 凋 僚 陝 息 心	夏  行	游戏 鬼 之 宅	金會遊
所 所 就 背 二 論 不	柳	黎山宛古	有二 艰
居及已整十者從本帝極人餘以俄		實北 则 之 措 冠 無 帝	為 論 熾
無無兼並年為而	1 1 1 1	洗游 往 王 懼 魂 不 不	里紙轎
處 意 北 歸 所 機 東	未 花	非。同可以	孫有選
若   周   唐   都   安   一之	賓  暑	艮   我   若   豐	仲 所 都

				·	<del></del>			東	<del></del>			••••••••• •••••••••				
一終	陵	जीं :	规	定	益	孙	明	南	武	有	fig.	念	洪	南	赴	脸
不	梁	المختا	述	遂	롼.	遷	也	防	14	ifi	·	诀	州	唐	Ti	首
能	遂	政	*	選	水	英	央	守	败	朝			75	前可	化	木
133	以	13	乔米	建	共	7:	孫	利	處	班			洲	主	ろ	见
九	ן דיר	火	、宋	郭	間	京	從	便	共	都		Ĥ	1	用	不	入
<b>善哉王導之</b>	李	国	तिव	你	固	11	岩	l &	強	~		2	20	牌	H	建
哉	[N	以	75	有	肪	共	以	之	驯	地		MP	地	111	不	茅卜
王	3.	农	不	荆	制	後	會	J.	利	不		75	尺	p)	figi	琥
1 4	含	梁	能	楊	宜	喾	稽		害	過		3	25	選	建	便
	建	元	易	而	不	在	為	!	前	块		軍	1.	都	郭	調
斷	鄴	帝	也	训	得	分	根	:	世	下		士	都	豫		イイ
世	Ti,	合	故	魏	不	安	本		所	建		皂	Ė	拿		到
拆	遷	建	孫	Sig	闹	义	及	:	論	鄴		隷	个	攻		国
會	洪	鄴	皓	抗	及	掌	大		是	豫		計	答	號		諸
看	府	而	倉	衡	江	都	帝	洗	非	节		且	壘	ifi		[王]
豫	南	分	建	其	的	武	嗣	花	甚	江.		メ	-1-	都		14
章	唐	江	郭	宏	<u>الله</u>		江	虚	易	陵		心。	バ	然		- [-]

不严打三才作出了智者功者与父者	丁多处比實形成许多之五門與宜陽門為六又云	左所祭但有宜陽門至成帝作新賓給	晉始編苑城修六門即吳舊城	<b>狡治大器</b>	水道陸衢所以	賦云郭部周匝重城結門通門	東南防守利便卷之上一院花居	典地志建鄰都城	番	旅代場際	经戏员	<b>胃头其為</b> 卜筮亦大矣	簽今都也之議時有不同例不視之歷代之	上心謀	二命尚級解告都轉危為安迎亡為存替以
-----------------	----------------------	-----------------	--------------	-------------	--------	--------------	---------------	---------	---	------	-----	-------------------	-------------------	-----	-------------------

	:				!	业	,	求		豪	i					1
以	峻	楊	州	九	))	济	平縣	南	否	城	性	介	龙	淮	吳	切
東	juj	州	ki]	- -	地。	规度	求	防	沆		介	1)[	规	北	天	
N.	忻	因	史	4	心		北	守	帝		不	111	城	扒	1	
為	自	绯	お	木	Æ.		h.	利	七		喪	人	14	1		
齊	後	城	爲	找	臩		11	便	11.		故	क्र	有	滅	4.	
15.1	常	以	治	洲	来		周	九米	作		名太	ic]s	倉	谷	14	
城	為	店	所	71	ئاء		八	7	新		太	13	1	il.	福	
ļ	54:	彭	時	郭	肌		里	4.			介	A	1-1	清	rt.	
	州	城	人	梭	清				则		<b>∤</b> 1.	城	淀	按	ززن	
	解	Ŧ.	呼	為	溪				地		m	减	介	建	儉	
	世	義	為	俞	橋				阁		弊	311	故	康	182; 201.	
	婡	旅	來	价	腦	4.			- <del></del>		hil	1 2	開	Trick.	N.	
	高	更	亦	Æ.	准				lih		ry	修	بالز	餘	城	
	A);	别	柒	道	水				湿		道	犯	7		ilii	
	封	拓	汽	千	周			浣	姚		北	城	通	城	南	
	齊	北	帝	领	=			浣花	也			為	進	th.	自	
	Ŧ.	排	<b>M</b>	楊	11			居	在			15.	於	堤	泰	

温西征朝廷空虚以	王敦舉兵明帝以溫嚼守石頭孫恩務	<b>添大菜面較石頂</b>	從	将我之周美日告放大業歩兵不如婚	集峻攻大紫	作院為此都	吳忠十六年孫權徒治建鄉明年城石	守利便坐之上	班	邱西州為丹陽	故就此為四州大明中以東府	城共後會帶王道子領楊	比故官若之死帝初	地心云陽州解王敦所創也石水之四	楊州城在上元縣两二里問廻	西州城
					紫壘的			淤花居				楊州高			廻三里	

	1	越	東							-
1 6 間 城	程。温、思	二门。城		7	班	Fill!	31;	石;	É	領
禁經樂	慧 循 戰		防    貯	リス	常!	少と	班	班	採	Æ.
周  越 火	景景、於	16	夺] 軍	北	15,	大	July	Rij	以	नः
廻 王 臺	笼 淮 越	KIL.	和食	多。	险	科	南	Ser.	後	人
二城中	建口城	华上	便	17	要。		班.	77	žr.	鎮
里 在 歲	那个大	3	十零	- K	心	刀。	雅	76.	證	77
八江,叶	蕭 王 破	-]-	L. 12.	_1_	1	11	水	今	7;	埔
十 線 和	感仰之	一個	1.	鎮	之	領	帝	_l_	164	
少 縣 慶	人德	岸   ·		2	地	14	<i>]</i> [1]:	元	心	
义  前	援电	夜		耿	流	11	2	豚	兆	
1 11 ==	自 越	進		人	爬	H) Tih	Ţŧ	illi	根	.
	非 城	13.		建	1	有	111	Лi.	71	
楊 越	77	乔		11	-11.	戊	BH	M	गा	
州絕	濟	4		义	修	<b>1</b>		綠	11	1
記書	岸	水	浣	加	ži.	2.6. [4]	hil	it.	為	,
중 궁	頓	116	花	修	Ħ		求		打	
越范	越	4.	居	练	朱	F)	-	ゔ	禦	

収 \_l-在 形 日 护 淮 福 蒋 南川 部 城 扩张 1. 秋 17 ~{: 护 倉 都 有 辦。 31 個 亮 防之 fişi. 城 \$35  $h_{\lambda}$ 1 陵 顶 冽 城上 城 朱 E ili 一人回 守雌 福 代 周 石 11)1 终 形 -16-浮 <u>, y</u> 凍 Hil 13 省 世 林 利時 file gri 年 波 背 -1 掀 N 裙 独 邡 JE 航 陵 便有 17 -1-规 城 111 51 緩 샜 前 名 75 柒 十卷攻 池 地 都 挑 11 77 亿. 14.65 急 舊 Ż 州 业 文 -- 2 慾 划成 形 沉. Wi 4 1-所 办是 帝 ][1] 城 右 宿 ジ Lim 书 -1-蝭 出绘 败 714 狂 2 徹 狂 作 兴 1[1] E 鉚 非 是 水 休 北 驯乐 北 ini. 3 航 机 崖 111 TH 500 彩 北 芯 廖 姐 北 為 以  $\mathbf{I}$ 武 見 龍 悲 城 求 都 木 25 伐 -: 杰  $\gamma_{i}$ 1 氽 7.1 期 冽 背 Ŧİ. 馵. 楚 濉 :3]" 14 俳 淮 3: 皋 12 恭 337 11 堤. 档 鄠 石 及 JIII 75 吳 Эï. ::e 相 省之 伸朱 城 之 雏 朱 1E Jit. W. 孫 里 狡 居 緣 會 バ 彪 浣 哲 174 建 芯 儿儿 權 此 تح 之有 准 松 肵 龍 來 此 花 淵 孫 志 批 13% 城 徘 疤 淮 君 諸 職 面 則 桝 11 陳一故 在

東 城 儿 胅 慶 某 修 网南 [6] 111 矦 1:11 行 1 别 想 统 JH 措 間口息 安 囲 浴 初。防 所 11 祭 1 义 前 باز. 堡 淵 今 共 曹 守 都 割 是 办 不 胅 **排**: 7i प्रा 芝 11 之 7-北 2 耳 地。 利 统 彬 仒 胍 411 14/ Mi 所 獲 7 4 菂 石 日一脸 便 敵 之 湘 719 軍 非 城 311 基 715 按 11 伏。睃 人 DI. 77 十株 典 常 分 城 ilt 滅 杊 背 東龜 业 川 城 -----衣 臉 基 故 唐 自 天 194 刖 17 三 憑 儿 次 京 业之 书 顺. ん 福 核 拟 稍 ル 是 Эî. 有 111 都 找 MA 机 字 遯 17 一 ٦i 心 راله 弬 事 干 被 督 75 階 冱. 於 相 班上近 共 火 20 璇 基 福 江 H 4i 女 王 ili. 屬 'n: th 覧 攻 УĮ 汉 據 僧 勢 岩 뉐 ilij 15. į jųs 泉 夾 鵸. 備 Ž, 背 长 淮 冽 巡 地 旃 連 £.); 石 必 内 形 南 7 孙 帶 共 11. 鉨 非 J. 頭 釈 7/2 核 前下 1 城 城 沈 随 流 之 di. 城 北 Zi 形 肵 以 汐. 恢 遂 花 頭勢 如 形 3! 北 及 地 ghi 北 ル 긺 基為 被上膝 陷 慧 介 核 城一如 |楊|則 城 火

船幡朱用頭梁之横居之云江漂然建
-----------------

(日下土元縣西北一十四里與地志齊歷代及守	後湖	水開青溪以西川泰准紫統城之北	水不過數尺若據吳之舊開湖游以	以養壞與又城北面地勢大段	勢如冬淺洞印	東南防守利便奉之士	下置問題淮水張族即閉上流令	予以謂合	兩准水泛溢城市皆被其	<b>替通淮水共西南邊江</b>	後湖此其大器也自問行落係	祖又監束罪名首從皆入城中蘇於	開湖游以引江水又開	藻輕亦須水雅江故孫惟時引恭推
郡志	失	之				浣花居	令水自城	合於恭准			1		1	

下職學其屯大敗之 市力 市力 市力 市力 市力 市力 市力 市力 市力 市力	陳武帝與齊兵職於森府山命侯安都自公
--	-------------------

五十里 出元縣 收於四臺山	· 職大江南进石頭城 後上元縣西北八里西	暖犯起鄰王全期鄧	十元五縣 里縣里西 北 北	武帝黎兵至	以其輕險號翻在旬客縣方與	防守利便卷之上	鎮守八所自	作凝城自	<b>築渡江轉攻江乘</b>	今今在一死縣內北平建即人東地南後北部人東地志亦為建漢武帝府江乘縣屬門	茂帝進軍羅路將所息格油全桶湖流入大大路東北六十里
於四型山築	南連石頭城西北八里西	王佺期鄧嶽	北北	至竹	號翻車規方與記行	十光 二上	所自土山至	自石頭城至	攻江乘	元南北京都 北京縣 四北京縣 四北京縣 周月	維 納北 六 月 利 北 六 1 月 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日
呼ん選不可		次直濟				浣花	江東	江東		十縣都賜 北河東部 理有晉與 江以錄 江江	

然湖太平州界至建 李清人平州界至建 炭孫输自深陽移兵屯牛渚 展孫输自深陽移兵屯牛渚	致蘇唆犯建都督武帝梁武帝起 防守利便老之上	帝将十岁間十岁程是
--	-----------------------	-----------

武屯浏洲	深 山 下 山 河 下 山 河 下 市	势 合軍合軍	南防守利便悉	王合錢鳳迢建	五十五里	卻壓自廣陵來	溫虧的保赴	洲。回	術大王朱	<b>胸侃温畅耐蘇</b>
•										1 1
										1 1
	師有為河西順云西	命	便	巡	果果	脧	赴	四縣洲	米	
i.			二卷	处	ilij					旅
	遊 由沿角七 鼓 背印	餘	一之	鄰		會		一十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十		峻
II .	劉其北船十棒事十	点	FJ	帝				里三耳		jii.
	1年 形征商里 直 所七	於	i i	仪		茄	茄	亚门	岩	排
	之似記客與情也思	倪	1	荻		子			制新	7i
	為 浆亦多地 三	塘		士		洲	洲		-	頭
	前四間停志山	两		渡					Jii.	次
ll l	鋒 名之此吳	噩		水					1:	7-
	率之深以哲	3i.		摐					11.	察
·	北滩	城							將	
	府 熱所	女印	1 1						避	1
	文	」却	岩	僻.		-			2	

右	樂	亦	<u>:</u> 1:,	城	育	533		. ,	鎮縣			1014	erolitios State			池
建	馬馬	介合	Į.				1		<b>自界</b>			凝	1		礼	公
康	水		小	4	人	1	计縣		宜重		鎮		甩	化	安之	鎮
77	11.	置	和	11)	所	施	里界	• /	和前		巡		梁	鎮	7	
境	浮	增	巡	深	骨	华	至		F!		檢		79	分	名	
東	船	浴	石	(三)					方十		黎		沙耳	江.	不	
剣	此	15)*	孙		亦	是		十七	改五	亦	一句	1	洲	A	儿	
				1		ir.		71.2	日里	//f _ f.	自然	i	<b>&gt;</b> )	张	於	
汐: 15:	今少	人	急	- -	孔	派		.ئد	靖仰	•			HII	[]	帶	
府	之	論	组		隻	險	ļ		安舊	i	1		道	51	华	
北	北	守	地	- -	11	罗		:	置龍		1 .		共	化	以	
颠	務	ŻΤ,	共	龙	ji	之			黎 女		北		床	鍼	水	
州	世	之	115	無	量	地			大	溡	影		쌿:	4.	計	ĺ
六		浆	红	<b>司</b> (.	地	共			城	安	巡		灰	船		ĺ
合		不	你	JF.	之	3:		,	崩	巡	檢		-ij-	沙龙		
縣		迦	共	<b>^</b>	ii.	郑		沈	巡	檢	黎		不	45	.與.	
74		岸	业	巡	修	不		花	檢	浆	縣向			炊	其	
和		1.	船	捡	鄉	鵬	l	ħ'n			主客		不		州	1

東 77 是 脖 南師湖而 131 ísti ル 7i 11: 1 ľ 州 之討 Ni 張 伐 iki 浮 笙 水  $\dot{n}$ 业 张 防 4: :11: 對 杉 illi 軍 够 儿 守 江 渚 分 往 71. 10 洮 縣 Mil MIC iki 遊 11.70 水 J: 北 柯 洲 7/1 H 利 Hill 来 )i)î: 旬 Tilis M 水 礼 冰 陸 111 Æ Ŋį. 縣 水 便 储 容 75 77 燕 储 岩 캬. 旭 一卷 ŵ. IJ 海6. .14. Ыŕ 洲 今 岩 縣 111 Rd 书 龙 州 泸 進 清 1.2 -///-周 办战 從 浙i Dir 1 洛 ŻТ. 71 1 1 ناز 於 护 浚 4,7 间 人 北 -1. 不几 備 111 3 99 形 17 15 111 公 京 巡 11 胍 按 自 41 洲 办 111 排 鳻 沾 胍 di 辺. 里! 建 口 :: 4. 防 个之 倪 太 浦 77 寉 貀 變 di 次 肤 ılı 渚 111 鄰 姐 淌 .T. Ħ 落 il 六 害 11 之 於 得护 至 华 州 *::*, 州  $\mathcal{A}_{i}^{\mathcal{A}_{i}}$ 俖 合 浙 1 魅 福 ٠٠ 竹 -1: 领 枧 ihi 縣 111 洲 11/ ŽT. 帯 地 系 流 . بخ 里 ili Ti 松 摬 嵇 17.1 沙门 174 业 驱 小 太 11 浣花 111 辧 炙 洂 Mi 揽 刘 地 洲 111 沪. 渡 竹 111 Ĺ П 米 城 吳 於 51 1.7 1177 砦 FL 加 礁 腄 111 ÍJ 以 耐 训 武山川軍 帶具 上居自 驳 孙 慈 陽 1: 介门

淮旗 蔣 冰. 夾 杰 11 房 航 南 11 米 旭 第0 31X Ш 入口方 都 Jiji, 游 道 ili 沙川 戰 一. 71 沙 ۴١ ili HI 南南 城上並 我 11: 11 -]-湖 111 Jlv. 虛 以 是 沈 弘 溅 之 报 利 韓进 17 Pli 机 衕 陖 攻 疵 敍 所 毈 -}-蘇 削 便摘 制 躞 PH 北 進 # ilin dir 雏 邰 必 湘 18 怒 ~ 光 虎 扳 肢 **7**T. 睃 --1111 帝 žľ. 人 Í 4 47. 14.0 花之自 是 城 Ħ 鏬 玫 上被 791 兀 败 \*kli 韵 淵: 非 帯 116 业 11 上流 嵈 胜 攻 ---腴 摘 X. .lb 1/4 徐 南 濟 腸 建 京 臉 雅 溪 沞. 沝 尨 fili in i 次 松 业 収 易 肤 攻 此 栅 鉬 歪 於 洂 ilii -];-1.1 JU. 亦 述 之 横 灰 建 梭 于 臼 浙 肾清 刑 [h] 北 Ħ 沙 Į. 並 是 ili 肤 TÍÍ 汕 ŻT. 之 横 77 <u>.</u>ŀ. 沝 Ż1.∃ 脎 ıli 雅派 之水 睃 崗 可 111 4 从 子 ijγ. 化 旬 'n. 收 敵 化 4. 崗 之 渚 兇 脉 將 分 戍 陳 容 遂 之 灾 渚 浣 刎 引 會 族 业 199 HII 人 177 歌 分 胍 至 得 所 如题 花 朱 炭 賀 追將 南 出 殺 3 头 头 头 熟春 杂 心 出攻 淮 事. 7 斷 ソノ 點 遂南 於一所

東 珍 循 則 海边 常。 游 -|-南所 洲。沙 3/2 事. 五二30 盆 使 要: 1111 -- | 防 | 戊 -jf-\_1 11. 17 115 J) J'I 腄 菂 淮 扩 也你 Je. 11 守束 14. Æ, 21; 怪 掖 肤 光 樂之 成建 <u>:</u> [1 烙 利 至 募 秡 43 票 胎 114 顼 瓣 康康 火 便土 13 JIZ 304 124 地。 絲 備 空门 羽 福士 躯 1 4 水 核 元卷 山 7 뀨 红 13. 旅 北 抱人之西 欽 Ŧ 加; VI 並 71 iil ル 1.1 -10 7i 形 沙 TIP 之 膏 次 熬 · 俗· 뛺궦 :本 Ξ 上至 亦 23, Z . 久 J'I 胂 不 111 iil 灾 3/1 湖 沉 ناذ il **沙** -|-江 船 13 业 4 11 4: 铺 北 徐 杰 痝 溗 是 1 雷 沦 ilies 脸 郊。 治 沭 蕊 湖原 處 如 11/2 説 鍞. 是 · 1/1 分 샜 雏 亚 一个 此 路 赐 称 1: 謨 置 心治 47. 州 办 15 帝 龍 į 杏 北 沁 J. 111 - × 八 July. 徐 遊 何 uñ. [ii] Ŋij. 盟 'nΙĩ 道 一次 涓子 戏 沉. 盐 紽 肵 1113 シに 船台 派 解 割 粘 4-都 嗾 沈 li 亚 謀 一成 ٦:، 4. 波 因。於 胧 团 **Bi** 11/ 沿 沙 III 113 花 1 丁 夺士 水 业 敲問是 11 渁 虚 江 郊 业 諸曰其 1 海岛儿人中旅 之服也

東 心 城林 施 111 77. 维· 南 监工院 常 30 拼门 ゾス مرور سام 桶 髲 於 起 115 大 MĪ 防 有 新 14 -11/ 據 ijij 淳 Æ, 莫 提 亭 稅 於 城 建 Jux. 林 ŀ. 共 有可 畜 删 占 篍 11 圳 先 Ŧ 1 鄂利 英 Ji 1 族 似 11. ル 瀧 크는 변급 渡 於 如 1 非 拟 便先 清 水 小 膌 4阵 111 排点 徘 刹利 一次 illi 京一卷 前 بالا 背 於 有 葋 湖 九儿 郊 建 沙 計 ilii ĴŊ. 1 兜 十之 此 iffi TT 亦 淞 ŀ, 扩 睿 龙 渝 樓儿也你 夾 镇 陂 選 尺 雏 辛. Ήi 形 illi 庿 慈 Z 赴 如 烣 造 巐 规 今 枚 - 17 i di ¥16. 11. 寉 75 4 杂 事. 作 榩. 湖 見 相 欲 格 1: Ri 如 处 45 誸 蜀 有! 建 型 船 築 俳 板 3 挖 业 7i 逓 東 巡 ル 打 便 肤 1/1 沉 建格 新门 石 · H 易 頭 杰 腸 檢 124 .TI. 於 舘 康 商 115 頭 ÍΙ バ 商 淮 共 :11: 千 於 Ti Till 1/1 笰 之 Æ 遏 ŀ. 新吳 披 IJij 猫 今 共 柁 数 冼 南 如 TIE 城 4. 亭门以 共 14 16 Thi 不 屰 /T 湤 歌 花 亦! 修 十 共浏 南 水 阶 北 建 上天 146 改 》 不 可 措 徐 居 鳴 洲上山 ti 種一郊

1			<del></del>					東		Laboration and			<u> </u>	 		
永	永	11)	漠	th		1[1]	数正	南	有	111	17	者	疗\	涨	 	المار
17-	沔	彩	沙	圳r		13	人	l .	油上		11	- j-	<b>^</b>	ii.	,iij	於
目	龐	.iE	湯			ٺ	种	守	族	不		1/4	i iij	作		5111
永	城	·/ <b>]</b> ·	排			椰	奘	利	Fi.	处	рц	友	15:	かん		芯
世	火炮	炒	刻	ĺ		父	-	便	沀	Y.L	方定		協	100	心	ilii
分	安	石,	1			事		三卷	不	25	35	人	料	<b>[1]</b> [-	北	共
林	與	城	!			书		+2	处	阪	γ γ	13	两	一般	<b>[1]</b>	36
陵	N	好	於			さ	H	μ,	以	也	梨	13	iffi	-1412'	4	不
雅	女		潜			末	妙:	,	為		無	1/6		層。	ننزال	- 10. 3im.
建	吳	慶	T.			篇	安	,	验			省	111	3	然	傳
康	廣	陽	班			以	共		世	-Ji-	治	j		从	河	於
劃	德	蕪	乔			待	FIJ	,		無		119	然	辞	月色	特
宣	晋	湖		ļ		初	甲	1	千	17		游		~~	前	火
城	太	宜			l	姓	親			徘	ille	ル		於	11	然
规	康	城	陵.			2	共	βć	地	f	TI	地		17		视
陵	中	丹	•		١,	逃	有	花		训		15		监	浙	共
陵	收	影	潭			撰	可	启	不	肌	城	形	勢	之	釽	形

東西二百三十五里 南北四百六	上元 江寧 句容 深水 深陽	等官 郑泉 五。	鎮四十里.	到潤州一百九十九里 西北到真	三百三里 两南到太平州一百里	東南到湖州安吉縣常州宜與縣两	北至真州六合縣九十九里	東南防守利便彩之上	五十五里 南	東至潤州一百八十里 西至和州	今建康四軍八到	丹陽深水深陽三縣獨宜州	府初此命陵為白下延陵旬客二縣	雅德	一縣獨官城都而更置于湖江寧二	陽運安吳廣德寧國春穀石城臨城
177				341	百	縣		浣花居	儿	种			<b>客二縣屬潤州</b>			- 1

	-			-									nere de la company	المردالا المعدب	-	أو د سعد خنات
]		歷		- 1	Ì	l	1	東	į							
177	太	世	奔	流	7			南	池	2	然	之	形	$\mathcal{H}_{\mathcal{L}}$	*113	Ti !
101	康		朱	書	1.		大	防	赐	游.	1	後	脉	祁月	M	渡日
富		30	مغت	仪		肾	紫	-1	11:	割	4	必	717	17	114	元
カ	A.		祺	3	角。	311		利	2	51.	建	稍	天	収	-1-	11
Ji.	地		此	淵	冰	3,1		便		介	康	割	7	境	シレ	時
有	志		淡	以		戏		本	祁	非	提	追	3	岛	符	那
支	心災		八升	好	池	旅		+ 4	JL.	京	計	縣	7	御問	太	- 1
	火火						7年		1.					'		易
皓			岁	E	易	湖		1) -	环	TI	不	以	川	州	从	<b>41</b>
所	初		吳	S.	徽	備	國	'	71	姑	能	分	為	前	F. A	縣
起			建	榉	之	4-	東		作.	业	数	共.	帝	境	割	-]-
世	三	•	业	守	るし	济	PH		祁	17	11	勢	_F_	癌	縣	ا ئا-
在	百		セ	将	道	共	之		却	為	业	共	jij'r	36	- -	及
平原	艾		那	屯	池	事	阦		號	Æ.	今	措	常	州		孫
東	椎	<u> </u> 	木	重	陽	見	姑		稝	畿	京	。流	义	茶	入	戊
11:	所		15	於	控	於	熟	淀	三	升	, E	不	夫	共	16	有
三	起		過	农	带	載	典	花	鎮	Ei.	浩	得	南川	<u>7.Γ.</u>	城	剧
里	也		也	如	Ŀ	籍	建	忠	庱	城	秾	示	213.	111	邓	建

北桃殺所山恭鍾山之龍也斗首在共前	宮城之廢俠方晉則不足比吳則有餘共	有以太初官方三百吏替建康官周八里	宮在子城西備	澗二走下澗二丈四尺高二支偽吳順龍	三千五百間今宮城尚廻四里四十五事	六千人秋七月新宮城內外殿太	元泉體合及極二月始工	東南防守利便卷之上	帝三年春二月作新官尚書僕射謝安	<b>綠苑城地志云周八里</b>	帝亦不改作至成帝	所居即被所作府舍帝領江左積十一年	虚除放平石冰因太初故禁制造府合元	以太初官為府倉石冰之亂太初官災死		<b>脊進康宮城之西南</b>
		且今	 		事上	次小			1		帝始	介始	元帝	究	心之	

3 帝 戓 南 台 慰 殷 211 1 熄 衍. 川 11. 僞 Æ 防守 亂 出 ., 東府 肽 於 班 41 EJ 11 1 北 ぶ 财富 ij. 成 --制 及 若 材 金 沪 大 伽 洞司 j. 敢 jij. μ'n 骨骨 外為 115 兆 慶 利 椒 KN 修 Ųī ELLI m 常 八 31 îE. 邓 更終 便 ıŀ. 湖 W ル 凝 prj 人
作 朱 行宫 帯 胀 正之定 天 ~卷之上 儉 麥 代 **ਮਾ**. 談 샜 相 **%** ilii 枞 勢其 又火 脳 烙 划 官室為美 治 可 見之間宜 並 不 加 东 北 一塾之間 嵇 祁 范 弉 太 作 扪 修 信 والد 튔. が農 於 싀 11/1 浙 刖 初 不 Ž 天 邡 從 矣 ï 之 沿 宮春 -14 延 Ji. 3/2 内 1 Ħ 左 2000年 訓 E 徙 不 7 行 [1] # 18 19 ្ឋា 雁 浆 邹 : 心彪之 被 亦 از 517. 핡 家 -7. B. 감 ti 戏 uk 16 2.1 1,1 寒暑 奏言武 尔 H 1 在 城 旣 见 作: Æ E:J 13 ti 次之印 败 材 未 通 大 باار 114 太 五 -5-以 石 是 更代 制 1 3 延 Ľ 帝 淀 便 如 胍 套 뉐 前 ila 以 蘇 11 14 欲花 胍 肵 利 為 我 粘 孪 2 初 컌 P 致 徙居 岾 'n Æ. 心 故 X īE. īE 74 圳

齊東 一 人五店 日以彪可合	近清溪今将山南有北郊塩即陳武帝被齊	建康戲錄云北郊順在縣東八旦湖溝後東	如南郊	成帝八年作北郊檀於覆所山之陽制度一	建康嗣經古南郊壇在縣南十八里	里長樂橋東雕外三里	里部環下立之案與地圖在今縣城南十日	年作南郊在宮城南十	東南防守利便悉之上	南北郊	歷代二郊宗廟社稷	<b>营籍可為法也</b>	修屋食為能邪觀大帝部與彪之之論他口	之目任天下事當保國軍家剔政惟先登日	北後世間人無能	孤蛇未珍不	营修築方之漢魏誠為儉族復不至 随 角人
----------------	-------------------	-------------------	-----	-------------------	----------------	-----------	-------------------	-----------	-----------	-----	----------	---------------	-------------------	-------------------	---------	-------	---------------------

机 祭師 郊島 Ĥ 於 依 前 波 Лì. di 處 流 灭 17) 江. 郊日守 初之 於 ラン 大 ·fil-Лì, 逋 此 57] 付 111 烑 利 松 共 193 修 与帝 便低 ! [A] 111 11.19 34 1. 6 是 **新子** 制 Mi 永 版 71, 化. 账 11/1 111 10 和心经 太 44: 和 池 11 Ήr T 与其高 背 挑 浉 天 郁 Žľ. 111 111 郊 :11: 杜 斗。郑 4 水 火 ][ 3 道. 1: 恭 ][1]  $\mathbf{j}_{i}$ 常 설년. 肽 ,决 年. 111 131. 三山则 37. 排 ांहों 🖟 JF. Mr 71 農 197 宿 11 北 - 白. 嶽 宙 Ξli. Н T. 11. 循 部角 增 帝 .111-小小 獅 114 ĵĵ. 追 ılı 電 . i). 述 須 地所 遂 初 常厂司 加 TUL 4: 施 椽 印旋 明 **!/I**: 疖 佐 րկ 111 114 行太恒 布浣 多 都 瓜土 泉 F inj: 神依立常立 前花 巫、四 伯 太门 liri 酒老,七五青居尚漢南黎如 1111 加

،متسب			<del></del>		<del></del> ;		<del>-</del>		<del></del> i		<del></del>				·	
ابرا	r.L.	-(84	2.1	ا حات	inte	าเผ	in l	東	100	-ii-l-	1 स	ا ځ	<i>3,1</i> 1,	5) i	<b>拉</b> 。	, i
年	傳出	稷故	但是	支	策弗	陽故	仲位		吹吹	社立		~だ	晉初	別社	一張	引
又依	<b>从奏</b>	常常	官		遊	冰		守			[H	宗	111	'	٠,	水
洛	京山		祖、	代	帝	逃	旅	利	大	Jiej	太	廟	宗	,~	后	背
京		湄.	161	175	從	入		便			剂.		廟		iii	有
	售		無	2		į i	東	三卷	順	がに	ប្រជុ		<b>作</b> .	İ	地	祭
龍	詔	矡	ï	3.	別	影			地	人	144	!	石	1	观	秋
		世	糉		檔		水	tΤ			對	JiH.	都	ļ	广	型
稷	依				业	内	24			个	太	地	城	1	故	
建		康		厥	東	僕	通		太	-101	道: : 75		寬陽	i I	事。	: .
康	制	中	1 .	晉初	西	射王	路因		廟中	稷一	石	万全	127		学	祀
圖經	光元	詔併	有稷	1	河十	加加	攻		宗	哥	東	縣	外	!	棒	おし
石	帝		加		支	泰	樂		流	抗	间	東	<b>*</b>		111	郊
太	建	祉			!		欲	浣		帝	大		璞	-		如
社	武	مود	祉		نان	1	因	花		- -	廟	里	1			17
太	元	祁	無	儀	力	施	冷	店	帝	六	地	沈	逐	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	!	移

		東	
司追原派	都岐同組	南搜事之件	奏帝石搜
識地學共	閒之記擾	防故草世周	日日吳塩
先萬維可		守處創郊文	普尔大在
二一楊級	必日將許	利今而礼武	
郊所及予	微 乃 营 立	便尚其廟都	之當時東
宗 臨 幸 前	神文智郊	老可禮雅於	下於紫二
廟江會日	於家室之	<b>戊</b> 效 文 鉄 豊	
所左帮	三土条藏	江南 亦 然 鏑	非中上上
在建臨	神戏廟例	朝 時 無 非	工令泰
以城安	為 隗 為 與		
利 市 将	法攸先晃		工具修
明常草	於行詩之	英 视 者 中	
宝宫 共	後然人諸	之二番帝	
岩宜儀	世則歌臣	改 郊 之 不	
李 願 而	郊王太洪	浣也 宗 東 應	
火 派 未	祀 者王意	花如 蒯 遐 終	為 此 天
事有服	励 定 遷 正	居 前 社 萬 吳	家 重 意

東市防守利便率起	東南防守利便上祭	,		神念祖修德之意
浣礼居				

史 225-579

									-			•					
I	沙哥	-j-	-J-	λT.	呼	派	沙地	必	来	规	純	功	火	ili	171	1	北
1	准	必	周	沙心	第多	11	7.7.	11	南	人	7.1.	林	割	101	淮		in
1	慶	孤	水	淮	城	盐	逐	践	防	攻	ル	毕	據	53.	2	江	
Ì	A,	顶.	幾	ノス	肝	称	.IJL	ル	小	濡	沤	為	朔	1	⑩	淮	4
I	之	水	idi	וללו	用台	出	外	担	利	狐	此	廵	楊	以	天.	表	利
1	浆	楽	陳	11:	ir.	廣	放	之	便	步	ni.	挖	- ]1. 316.	為	地	泉	便
	则	之	1,2	诚	都	躞	4	終	一卷	必	其	災	是	X	2	八論	111
Ą	京	势	從	4.	熫	北	無	災	1	傾	业	ボ	źr.	E	亦	1-1114	'
4	311	则	ilii	陕		火	ソス	之	1	队	A	政	肵	俗	ル		
1	秋	然	规		斋	2	抗	111		り	强	沙	恢	116	176		
Ì	慶	世	之	帝	鎭	肵	魏	曾		郛	弱	湘	Rii	ル	繭		
1	得	令	形	76	之	ソス	魏	不	1	之	足	以	有	25	北	j	
I	ソス		不	浦	地	25	Ľ	1.1		奘	以	収	2	游	也		
١	旅	淮	介	南	扩	俞	下	淮		人	相	魏	तां	飾	11		
l	巡	而	则	7	入	也	蜀	南		攻	攻	魏	蒜	417	背		
Ì	自	平	邛	地	南	東	經	ス	沈	合	拒	亦	赐		ir.		
	淮	ル	南	512	常	否	界	小	花	爬	也	不	<b>^</b>		[成]		
	1111	楚	之	fri i	据	14	_1_	2	杂	规	放	派	ŋლ	琲	於		

百一壶 渡 為 以 77 囚 魏 パ 表 111 ž1. įŲ 亦 文帝 136 淑 胶口山 淝 寉. 南頭 守 前的 业 湖 以 西之鎮矣重於亦陽 表家江 jijdi 71. 17 水 被刊劳 胎 肵 至 岩 一番處歷 北 小利便 汽為等 頯 アス 枌 艫 大 敵之所 之鎮 孫 48 *in*. 慢 應之而 權 州1 朱矣朱之所憐 都 补 驱 En. FΊ 野 心 核 策也 泞 乘 以提替晉之所備 7 护 淮 爽 陽為之表 後心 以應之而 一緊於 īdij 艄 ılü filiji 况 包括 舰之 Ľ Ħ 水 可 江之南造副玄泉 觀兵矣吳之所備者 攻古今之宜益 刻 中戊 不 视太 派 収 扩 形法 前 [4] 祈 繭 バ 77 Į[t] 公武等於 心應之面 ٢ 者不 忭 邪 -|!|-湖 其來尚矣凡我 业 di 新 瓠 狐 儿 人 須 萷 脏 齊安者實武 之心 放 ئالا 迥 者不 攻 排 者實時陽之表 始 2 拢 囚 沙 淮 也符 热得 從 不甚 所 淮 印整 픨 陸 田能城縣 γT. 伙 須史遂拔 汉字 孫人 何之勢 混花籽 堅労 不過 iT. 道 相 以 至徐 تار 冰 透背 之所 **襟**帶 Thi 淵 ŕI 11 瓜 扪

**%** 於 陵 佛 痼 東 枧 而 何 ir. 不 14 تان 州 밇 ÉI 故 -مرقة 淡 办 凇 北 淮 1/ 休 衲 بخ 歯 :IE. 領 抢 .提. 郊 1 12 Ĥ 业以 共 前 塘 71 肪 邪 岸 17 北 鬼能 秀と 江大 派 治 **44** 贻 斯山 永 111-业 缒 逝之 4 搅 ilt 城 敵 鄮 त्रीति 帯 分 外 欲 174 ilii 利 知 H <u>بال</u> Ti 屬 酚 £; 贬 人 此 健 我 松 训 曹 人 圓 4): 17. 水 灭. Ht. 2 ۲۲ مخ 之 1. 4 狡 峭 its idà 淮: 火 )[. 久 江. 焚於 赮. 之中 罪 楯 譙 泸 齐 芸 也 14 11 M 赤 T. 北 治 附上 ·魏! 7 败 芯 鳰 郑 又 111 'n 家 11 iki 棉 船! 水 水 137 以 欲 加 23 徘 ila īŋ` 汉 ji JIX 之 據. 191 311 4: 從 禁品 76 不 か 採 前 储 狀 泉 ilii 101 14 化 班百 圖 炙 滨 111 行 備 淮 淮 釟 12 ¥i 流音 蒙 杰 ihi 恭 *:* 放 此。 ilii idii 邪 ソン 何 入 派 7/15 The 肵 何 书 A. 2 Thi 沥 令 不 44: 淮 4 水 擦 18 **^** 之 李軍 켓 未 可 'n. 滌 麨 肵 亦 周餘 旬 -fr. 太 所· 成 獅 洗 رالد 班 亚 以 以 未 以 之 排 败 输加 尔 果以 雅| 拾 154 Žί 샜 花 北. 攻 筑 武 纵 程. 浉 數 肝金廖内 江暑則可也 淮 ÉI 昌 瑜 哲 滋 ŻΤ.

7/2 \* 脸 :救[泗] 被 東流 酸 YI 以 17 果 17 di 选 ż. 應 淤 站 极 Î 割 11; 111 汝 南リ 人 佐 17 諭 报 不 而 浙 捻 所 12 被 K 防約 制 知: 敝 保 北 با. 変 滑 帝 4): 相 不 人 YI 火 删 期 飔 省 淮 修 淡 之 不 相 徐 備 炙 被 進 궤 ÿΙ. 浝 利 梁 敝 间 政 之 彼 遌 淮 及 我 便 炙 表非 尨 业 大 **--**--心 H 4 نح 粃 水 也 Ħ 张 书 波 刑 四本 淮口治 如 如 JI. ili YI 虚 決 之是 舟 FI 议 佛 西 是 赴 Ĥ 3. 孙 備 而知 L. 44 形 坩 六 <u>`</u>dr', 術 , 倚干 11/1 貅 111 於 30 视 驱旅 為 我 於 水 稍 的 ソス (a)i 赴 我 於 ?r. | ir. 液 江. 以 بخ 煺 ح 2:1 以 盐 光 亳以 北 我  $\mathcal{K}$ 形! 你 之 1 攻 京 收 合 掘 釈 所 JII 杰 必 狘 Ήr 喺 71. 浴 班 ili 敵 軍 汝 py ilii Y) 必 不 Ti 业 バ 榒 敵 者 彼 備 क्षा 龙 於 叙 か 能 恃 敵 不 氼 全 11: 為 有 浟 寡 能 我 陜 彼 娰 账 我 **.** .. 71. 人 UII 將 不 价 之 177 敵 軍 欠 流 者 duli. 焦 和 七 我 IJ 130 客 业 能 thi 题 之 化 專 帯 之 Ħ rli. 為 我 ・輸 疢 梧 陳 徐 授 斃 业 紋 國 | 河 | 科 准! 大 店 717 强逐 所 淵

魏太武率大	   内復進弊又	洛園進樓白	廷宏助玄於	史上藻戰没	城內史丘準	之游弊將軍	房将軍制石	東南防守利便	河口坚将	符堅将彭超	事	可級邪禮條具	<b>以取够必先人</b>	尚成替其題成	於我權之所在	面川之川權爾
<b>聚數十萬旬彭城</b>	破之所以将你你	馬與城職大破之	是自廣陵門討難	安之等軍人相驚	次堂邑既而肝珀	河間王墨之淮南	率水軍次涂中右	光七中	雞毛當來會超有	攻彭城湖玄本何		如右	者也然則江淮之	及營共度邊腹之間	在成敗之機除替之	題於敵敵不能獲而
<b>朱</b> 遣州國將	超難引退	斯共将都顏	等何讓解日	逐各散退朝	城陷高家內	太守楊廣宣	循将軍毛安	浣花届	泉六萬部征	謙高衡次于		·	未東共事軍	布置定奏及	原也博之爽	有之則權随

	4.7-4 <u>1.2-41.2-</u>	<u> </u>	鸿					東								-
张	<b>%</b>	77	Li	育	行	17	人	南	縋	灰	_i.	je	)از	便	fl	邛
	îų.	动		10	退	17	縋	防	败。	1117	賢	人!	110	典	群	冰
	河	侵		4	十十	浴。	;l;	年	11	布	义	然	31	之	燧	竹
	口	通		大	役	F	、城	利	人	組	.yų.	75	童	人	北	北
	及	推		انات	傷	不	被	_	H.J.	各	魏	作	្រៅ ក្រៅ	武	iki	玻
	牞	泗		75	凘	趟	约	六亿,	引	70,	311.	戧		忿	悉	玄i
	洒	帝		解	;;;	数	獲	シナ	之	儿	書	及し	扇	北	11	3%
	彭	水		剛	灰	-1 -	之		排	观	1.4	ŀ.	馬	雏	攻	圳
•	城	式		而	书	魏	明		不	以	207	施	饮	龙	肝	北
	敦	過		题	典	軍	П		能	彩	格	縋	;T.	間	埔	太
	逃	避			城	於	以		退	317.	纵	破	水	- •	桃	10
	保	垅			75	城	種		質	鉤	亚	城	佛	化	It	ك
	扩	书			如	隊	北		化	城	太	14	机	似	兆	趟
	追	小			باار	ंगित	攻		刀	被	ناتز	竹	灰	合	河	淮
	11/2	卿			三	仪	办法	沈	水	姚	11	當	عازد	質	竹	义
	扩	来		ļ	111	护	办点	花	葡	141	萬	4	4.	帐	封	大
	遂	F	ĺ		从	一英	1	居	弘	縣	Ţ.i	洪	太	太	一溲	jir.

[:		<del></del>				!	1	-tr	1			<del></del>	<del></del> i	<del></del>		<del></del>
西	六	収		西		東		東南	115	南	五	西	JI!	東	今	27. 11
北	-1-	北	里	南		南	-1-	防	本	本	里	水	, 213, 	水水	州	リス
本	Ħ.	本		本	里	本	里	夺	州	州	gai d'ing	州		府	211	工
州	里	州		州		州		利	界	界		浆		界		-T.,
界		外		外		界		便	71	71		21				汝
		五		六		八人		七卷	百	Ħ		育		نار		威
百		于		ナ		-			14 14	里		月		十四		驯
儿儿		五		孔		五		之中	小		,	-1-		里		太
下		EU	İ	里		里里		;		自	′			f)		盛
里		則自		自		其自		,	里	界		坦		外		フケ
自		界								至.		[]		界首軍		以
		かり		界		外			界	楊		界		31,	ĺ	劉
小公	ļ	省		买	1	到			31	州		作選		楚		咫
界育瓦		至蛇州	.	滁		楊			淮			T.		州		鍼
黑	i	现		州		州			場	H		深				泗
भा		外			ļ			浣花	軍	15		州		77	i	11
州		~	ĺ	百		百		花		-1-		Ji,	j	===		
-		百		四	_	1		悉	百	里		1	ļ			

之以論城於湯能花書牡牙明口际岸罪為者雅太之損居協故分矣退泗或
--------------------------------

選使玄選鎮淮	三龍竹降玄欲令豫州刺史生 符述或版副安奏宜乘其號令	<b>企戰所其將邵保難等逐</b>	<b>选何谦之率所師乘湖而上姓又敗退保坍胎難超出戰復</b>	進兵至三阿	東南防守利便燈之中三四次于白馬塘俱難道将	毛安之王曇之次下党也谢	師天震臨江列及孝武帝造	起陷肝胎遂攻田洛丁三阿	會師尚尚王期白褒陽而下!	於超短点城常種短親與供	符坚造俱難毛當等步騎七	<b>楚州</b>
<b>選鎮淮陰朱徐州</b>	州乘	難等遂退淮北	湖田	至三阿與難超戰超	難造	堂也谢玄日廣陵以	心心	1	場面	姚	歩崎	

一里	两至本州界三十里自界至淮	東至海二百八十里	<b>今</b>	于江次甚盛以為自灭而下	師非敵且永能至江及陳覺奉	鶴河以通之遂至大江景初自	根齊雲升大	東南防守利住 港之中	所得又造齊	水戰命王環将以下淮景之水	兵獲水職率乃造職輕數了艘	准除初周師的征無水戰之具	假兔軍将軍首節都督北討前	題及張永等收於必城淮南孤	道成計改之索見走鎮離道以	薛安都據彭城随魏造從千要
	界			而	煉	景	册		迕	景	数	戦	نان	推	部的	從

知起楊陵彼淮花至森柳州
-------------

	萬全矣及山陽敗没承恭俄相緣而	此城破廣陵遂開山陽他将作開城自守
--	----------------	------------------

洛 出 范    與 誓  續  居  司  難  事    者  許  於  可	湖文北成彭河	與庭陵之步兵錄與田新城命朱序進據洛	青獎的介與盗雅察十五年州事加黃飯出	副安上疏水自北征進都督楊期可豫徐 死	陶侃介于茄子浦還丹徒作與以拒賊	三軍祭壇慷慨三軍悉為用命率聚渡江與	紅遂退還際本部派游散壇場刑白馬大特	寫到知須三下人有衛京都尋而王師收積	東南防守利便然之中 光花岩	來赴部以北冠不許於是造	<b>范州刺史假節鎮廣陵及祖約蘇畯及開難</b>	晉郊察選車騎大將軍督徐充青三州軍軍	二百餘人車駕北旋	婚明年正月大會雄臣於江上文武授爵其	王孫以求和好帝以師幹非禮許和而不改	勝數朱帝使獻百年貢其方物有請進女	江所過城也莫不望塵奔潰其降附者不下
---	--------	-------------------	-------------------	--------------------	-----------------	-------------------	-------------------	-------------------	---------------	-------------	--------------------------	-------------------	----------	-------------------	-------------------	------------------	-------------------

<b>一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一</b>	里北	<b>十五里</b> 西南至本州界二十五里自界省至眞州三里	東南西本州界四十八里自界首至潤州八東南防守利便後之中 流花奉	北至本州界一百五十里自界首至楚州一南至江四十五里	理軍本州界七十里自界首至與州三十五	十 東 五	<b>个</b>
---	----	----------------------------------	--------------------------------	--------------------------	-------------------	-------	----------

		- The state of the	-					東				ACCOUNTS NOT THE				-
収	陵	村よ	除	阦	之	衕	阣		7i	Щį	羽	][1]	馬氏	湘	4.k	右
うと	깼	及	25	顶仁	ホ	20	书	防	勒	1	1111	建	11.7	11	ija	西
能	排	ihi	2	diffe	兆	衢	քվ	守	2	鋫	農	ル	廣	1	原	北
1 417	旅	後	1	供	نالا	徹	開议	利	长	排	慢	孙	一度	那	不	ル
排	荻	洲。	施	之	11	$P_{ij}^{p}$ .	2	便		狸	非-	质	以	惟	1115	捌!
文			idi	<b>j</b> -	1-	兆	地	上发		常	共	陵	25	业	人	米
初	吊	2	义	也	不	弛	业	11.2		濟	肵	也	北	此	梁	称
號	ili j	势	浆	必	可	於	谷	1	_	浦	也	以	近	ilii	jih	险
		成	兵	以	4	堠	何	· ·	よ	飲	11.	為	大	L.	祁	邛
諸	條	炙	廣	斯·	大	安	以		廣	½Γ.	自	训	終	前	協	南
將	手	个	躞	胎	廣	然	藕		躞	坝	孫	徊	可	11	圳	以
以	肺	核	摵	為	躞	無.	乘	1	財	耳.	九	水	激	主	岩	江
泄	喘	撫	重	之	非	饰.	2		71	於	及	南	1)	歳	巡	初
Jai	當	他	机	捌	有	而	作		业。	廣	꺆	待	原	2	学	25
刺り		避	制	釶	浉	李	ル	<i>i</i> ic	然	慢	氷	垿	人	13	北	除
之	液	岩	遂	以	111	旅		花		炙	以	ilii	10	品	曾	版
急	不	形	近	淮	之	人	ナレ	历	庹	तित	1	動	邓		沙	經

東 湛 H Æ, 水 焦 悠 IJ 鄕 北 池 非 慾 μ'n ઝુંદ 僧 118 洲 普通 14 防 沙 3/1/ 3c 败  $\overline{\gamma}$ 败 折 漿 ルピ 智魚 進七 \* 飼 悄 今 抓 溺 小 小 舢 利便 j۴. 4 华 智等 湘 穴 18 孙 肵 娏 挑 小 ينالذ 痈 威 胖 城 4: 11/4 - M ( 4. 魏 Ĵţ. 割 岩 便 芨 祚 邶 出 張 ij 逝 攻 大 十卷 攻 東 小 破 数 浦Ц. Ήſ 恐 海衛 胖 郑 副 淮 消役 艰 八之 城 邓 游 此 -1-杰 15 瓠 常 办人 p 後 判划 陽 剋 之彩 內薄攻 北 īfīj 却是 於 捍 攸 旅 W 逋 水 110 Ξí, This. 1,: (寺之間) 於 大 娏 徙 哥 典的 11 清 - -旅 . اربو 魏 令观 鸿 411 水 為 74 ソス \_\_\_\_ 11: 沉 毒: 蛟 将 奺 1) JP <u>----</u> 北 顶 11, 狘 道 智選襲 淵川 陽 班 河 矦 7. 城 及 ·]; 滺 立 躯 州 介焉 男女 城 排 胂 14 1111 數 崇 魏 急聯 处 坝 뉇 袻 合 义 滸 Filip Ŧ. 大 加 护 3 处 必 Ľĺ 啊 破 淮 炎 肥 37 譙 綤 淀 决 111 ΞΞ. 粃 肥 魏 在 19. 犯 七 汌巴 到 Pin 1 州 花 退 小 脥 jtj 水 遣 必 崇 進 观门的 堰 淮 刺 亦 排 道 FI 涨 奶 41

一	<b>观尺號貨敢</b> 鐵果旋魏背	其冬魏欲攻	<b>基本</b> 整	東南防守利便	人以益壽陽	重之士配征	有将來之難	智温崎奏軍	後項之人戶	久懼兵荒百	為南豫州以	五千人部以
养淮號南 加	计 魏	欲攻下蔡	虚	利		二:			1	兵	隟	入
· 大石在海米上 察開 起 展 庭 在 舒 州 桐 城	除此城親果夷獨下成崇和日下蘇去鎮	內徒乃楊聲平徐	<b>陈徙下张戍於淮</b>	浣花珞	徐豫援助司上	义擇一偏将将二千	<b>並明力以資之選名</b>	八日祖約退舍壽陽		直輕刑海賦務農省	州刺史加都督壽春	代置豫州合肥鎮政

1						東		آڊ ا	-	17	, <u> </u>	<del></del>		
周  徐  春	节南	被	可收	為	骄	荫	周	罗	$\mathcal{J}_{i,j}^{k_{i,j}}$	休	ĺ1	얜	马奇	孫
	追一群	, 79 <sub>!</sub>	2	714 114	Ír.	防	升!		除	伏	1]4	缇	-1-	權
	處 劉	焚	16	消息	巡	千	*		件。	16	aß	931	萬	他
	华彦	共	iffi	Ti.	介	利	裁		Æ	湖	<b>*</b>	Mi:	入	都
	於江	貂	他	前	躞	便	行			淵區	朱	步也	態	赐
	多脚	湘	淮	度	ソソ	二卷			槑	龙	移	欺	陸	太
11 1 1	门师	進	1,k	他	劉	12	都		1/1.	之	4	游	遜	守
	凝例	-10	Mi	17	沙	中	部	!	乘	i	写	11	似	周
迎	自變	JF.	JF.	拒	JE.		邪		桷	7:	15	特	黄	íúj
	と一杯	易	影	周	為		攻		丰村	<b>3</b>	左.	16	舣	高
	別以		浮	filipi	神		圍	'	化	北	7i	馬	為	大
	一领		嵇	李	武		郡		资	徑	观	粘	大	77
	隆 周		111	毙	糺		州	İ	器	至.	===	3		25
	ソー師		腹	F	事.		本	·	械	峽	道	遊	小人	47
	川李		11	书	劉	冼	景		米	71	111	奖	11	1木
11 '1 - 1	不談		11	無	仁	花	部		盐	斯	進.	陇		脚
為女	事		受	水	鹏	む	米			獀	循	遜	休	沙

	MAR.S	-	المستحدد المستحد					東			L Ve: amag	and a variable				7
减	如	戏	14			Ľ.	池	有	-ÈUL	綏	人	譙	7i		ηij	Fi.
伦	是	115	修	70.3	(e)	ilii	不.	137	扫:	常	得	朱	10)	Tī	北	-1-
看	刔	沙	復	小	MI		神斑	- j	跋	ihi	× ×	滿	赤		至	Ji.
淮	奇	洲	悲	校	不	不	ソス	利	八	痕	Úij	原	11:	-]-	水	개.
西	赤	5'i.	jF.	뉐	<i>11</i> ;	~	為	便	141	叫	;1;	滇	科	<u>#!.</u>	州	
115	2	棚	316.	倚		m.	放	二次	唐	是	介	蔡	北		界	
问	根	如	以	紫	孙	 -	也		典	ソス	肥	彼	2		•	
争	势	峡	撑	介	淮	為	令		周	魏.	擾	北	偭		71	
仙	立。	石	池	111	715	F.	[A]	;	常	人	歷	カ	业			1
数	矣	可	淮	以	* <u></u>	沦	农		Pur	典	影	将	地		-1.	
惟	鎭	築	_1.	25	安	儿	北		戦	吳	沪.	應	入		111	
係		堡	如	14	危	襲	境		ifi	背	表	接	-]-	ļ	(II	
淮	称	塢	il.	當	木	作	僅		华	典	之	之	iki		界	
是	典	以	易	徙	गि	1加.	有		之	符	比	不.	则		育	
75	点	為	The	据	知	jii.	淮	浣	尺	堅	亦	邓发	特		至.	1
保保	濠	防	F	共	1	ilii	濱	花	-1.	宋	5.	矣	角	1	:: ا	
江	北	!则	蘇	刔	败	不	177	馮	之	泖	17字	北	訓		州	

1 1	新 類 難 財	以微	乃救	命請	额绝	11、水	東南防	之利	戏譜	諸葛	權通	城将	北武	新城	來順
中的四	<b>生</b> ケー	後將格	飲竹鄉	将高過	格果拼	ドイン				格間新	走流部	年 展 額	恐權走	心不能	被於三
及る	[5] [6]	帽子	小湖	以外	东		"流	肥刀	帝 [1]	被刺	亦退	等护	心秋	及收	姚之
權力學之	出	近欽逆	<b>企</b> 榆 邀	之格攻	Jr.	刑兵	•	!	格新得	議處共		守力戦	七月御	諸将堅	下地石
相 3	序 収 浸	撃大破	共歸路	城力肩	<b>儉文欽</b>	<b>黎少戍</b>		不暇為	'	分兵以		魏帝未	龍舟東	71%	: 1
徐 曹	作。	2	俭率	<b></b>	諦溅	則不	浣	青徐	从10人	涎准	, 	至數	征權	往往	<b>心</b> 縦
	頂		諸將	大半	晉帝	足以	花岩	思地	時	浴		頂肌	攻新	征之	權攻

型 城 勢 背 人 君 穆 追 花 穆 濡 下 人 為 立 為 分 也 山 馬 以 喻 羨 居 分 須 而 不 呂 鳴
--

二十里 東北至本州界三百里自界首至深州四百	1- 41	東南至本州界一百里自界首至無為軍一	十里	北至本州界六十五里自界首至壽州三百	<b>T</b> 九十里	府至本州界二百三十里自界首至舒州一	東南防守利便送之非	福	西至本州界一百五十里自界首至壽州二	一十里	東至本州界七十里自界首至和州四百五	<b>令</b> 處州治合肥縣	1.	休穆身自在添秦焼替而退遂斬常彫臨即	後扣体移坐兵将攻取油船别遣将攻當那
-----------------------	-------	-------------------	----	-------------------	--------------	-------------------	-----------	---	-------------------	-----	-------------------	-----------------	----	-------------------	-------------------

峽石亦准說下章照遂據恭春大通元年造然依景退你溫陽凱慕容紹宗擊敗之景自	口板渦陽以為弊援	宋建武末魏軍問司州明帝便徐州刺史口	親文帝循渦入淮陸道徐進至廣陵	曹公伐吳自渦人淮出肥水軍於合肥	渦口附	俱尚存但不知必戰必守令人何如古人爾	東南防守利便卷之中。院花居	<b>看泉湍須在吳志有義溪中洲桑泉其地形</b>	肥從古以來共沒有凍湖肥水其酸有新城	濡須以藩江左則是江淮表東之勢也且合	去矣況合肥結須乎夫守合肥以限淮北守	也雖與之大行之門濁河之限亦必委之而	不足守苟為是言則是必皆憐懦因通之見	須特與境也論者常以間兵少不起用城坪	逸待勞以寒擊泉此為兵之要也今合肥潘	
------------------------------------	----------	-------------------	----------------	-----------------	-----	-------------------	---------------	--------------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	--

灣 成 作 係 水 以 立 焉	右淮南之浸有淮水肥水) 水坦流韶以渦陽之地置	乃陳其厚被鼓謀攻之	·	慶之枝節軍門日須蘇開	之中 後伸宗等	数十万戰師	之選其諸将連營西進據	與應下行死騎齊擊破其	水竹以成 您須 姓其氣必	章放口賊鋒輕銳不如勿	王元昭等東援前軍至驗	領軍即仲宗伐尚陽陳慶
南向今長淮之險偽齊以立焉符魏之侵吳必	水池	深攻之遂被斬獲界盐	さ救角	須房開合然後與戰老九 沒才	中一宗	育戦	西進	坚破	共氣	不如	事	陽原

:		ا						-1.7							<del></del> i	<del></del>
-77	先	拟笔	视	- (j	大	曹	北	東南	با.ي	角	腸	اع	. 1.	स् <b>व</b> हर	- <u>.</u> .	FIFE
製	定	19%	汉:	-	果	景	芹	防	殺將	· ハ · · ー -	退	This !		運作	言築	典
攻	堰	ilij	规	14	秋.	218 218 218	江	守	祈	隙	亦	後	城	機	城	共
185	於	魏	٨	न्य <b>प्र</b> [4]	攻	荻	城	利	不	2	Αj:	ارثي	<b>が</b>	艦	渦	
规	肥	人	3		3	液	パ	便	俯	131	46	处	淌	17	1.1	交
進	バ	援	统	避	宗	93	通	= *		认	心	规		礼	炊	共
軍	他	头	水	37.	伮	-1:	糧	12	-	安	-jt	非	帐	深	1[1]	711
13.	47.	Лi.	凹	坳	之	干	連	id.	故	危	之	74	慶		傷	火
収	.51°.	髙	4	规	壘	餘	部		魏	作	地	jii.	2	心	豫	於
地一	王.	舱	城	人	固	人	牧		攻	焉	何	THI	ル	خالا	7.1:	譙
下	愎	至	夾	抄	得	度	省		鍾	乘	必	徐	數	全	態	非
版	新	版	肥	掠	成化	大	华		離	勢	渦	州	-7.	出	沙	
肾期	築城	序戦	非	胍	便	职	為		揚上	襲	ŗt v	以	71	4111 4111		Ħ
刺乳	於於	被	放火	為進	別將	城	大	300	大咖	外分	儿	旅之	戦温	视	٠.	也
軍	异	之	<b>光</b>	草	超	南築	<b>以</b>	浴 花	职對	一般	所軍	川	396. 21°.	元观	川通	北課
而	分	衣		所	地北	品	掠	上	播	形	掎	渦	除	作	刨	

				<del></del>	<b>î</b> 4.			東	i							- 11
製	挺	耴	帝	魏	湖	何	1		:	1,,	187	1:5	ıle.		ا ایست	المرا
魏	運	集	部	1/15	1/- }1.	गार	前愛	南	1	以		偽	尚	7	间	前
連	小小		神	i		7110	发	防	人	待	師	隟	在.	娏	製	砚
		供		111		- /	Jan J	4	治	之	17	~ <u>~</u>	刑	則	胧	
跳	北	進	¥.	JE.			像	利	末	た	茶	势		無	***	黙
不	項	杂	宗	范			250	仅		101	共	Π <sub>X</sub>	影	以	ji.	是
能	及	宗	将	炭			处	三米	规		非	版	判.	宁	<b>^</b>	旅
力	龙	谜	彩	攻			我	† // ~	郭5	於	始	ilis	兴	漏	肥	规
火	叔	枚	兆	鍾			豫	11	,	亦	量	讷	打	腸	K	典
慶	毛	त्रां	提	湖色	i i		作	'	ħέ.	ilij	地	奂	也	腴	胎	if:
侧侧	脈	進	涎	間			和	1	嵇	協	沙	朝	祀	慶	ル	视
城	录	遇	之	驯		ĺ	倡	Ì	是	喘	臉	廷	2	2	北	乖
业	岩	从	噸	史			1F.		常	然	疗	雅	独	攻	ii	去。
川川	噸	胍	Ü	E!			而	i	非			孙	ZJT.	ijil.	ئے	图
終	祁	頗	人	義			我		داد	ボ	積	合	ĺХ	健	魏	华
城	赐	有	州	之			15	洗	小	敢	果	农	料	魏	ネ	壘
便	洲	ΫĹ	祢	梁		1	不	花	桿	為	hu	木	賊		纯	ル
趙	أ الني	溺	泉	تان			疑	居	柳	业	ホ	怂	情	办花	-1-	1

-				<u> </u>							<del></del>		<del> </del>				···· ×
I			.		1	1			來	- 1		1				}	
	人	道	弘 '	アス	$-\hat{m}^{-1}$	忠	橺	压	南	新	歪	人	爬	澤	- 31	元	北
1	火	机	校	11	淮.	游	典	宿	防		功徒	滑	角	11)	事:	災	2.5
1	消尘	29-	<del>}</del> []]}-	船	水	浦山	强!	膂	宁	以	1	11	被	H	版	間	之
١	元	1.5	a)r	引起	张	M	观	7	利	编	人	水	洲	E	妒	邹	内
١	英	(i	松	77	漲	ü	人	汇	便	李	百	μĒ	23	3115	曹	離	25
1	ルと	排	水	灌。	松	版			三龙		决	常	城	1911	景.	浆	趙
ľ	14	뺁	义	2	191	堤	於		十之	1.	勇	疲	Jt.	於	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	长	华
١	進	<u> </u>	沙漠	以		大	祁	义	-11		机	入	脱	泉	分		帅
1	走	人	旅	斧	12)	艦	陽	典	1	溡	將	争	洏	當	事.	萬	
1	视	香	修	從	) ]	化	闸	元	,	岩	炒	離	水水		火	逃	
1	派	剪	忽	加	船	馮	泞	英		癸	人	収	ا الت	前	11	姚	;
	迦	無	之	焚	競	道	為	戦	!	傷	非	城	元		4	四	į
1	水	不		人	祭	根	桥	2134	!	书	來	<b>*</b>	英	-1-	旭	-1-	İ
1	水		橋	桥	学	100	九	目	:	黎	次文	知	大大	ル	徑	徐	j
1	外者	當	栅	1	幅	為	i		200	外矢	椒	授			1 , '	学	
١		1	,	風			棚	数	泥				微	抓	除	i	-
Į	- · - ·	Fi Em	华	松	城	水	数	合	花	對	船	沃	75	斯	慶	武	
l	餘	魏	聚	火	啦	华	百	夾	吊	大	11.	1	荻	梳	大	常	

州界工工里自界首至宿州二百四州界工工里自界首至宿州二百四州界工工里自界首至宿州二百四州界工工里自界首至福州二百四州界工工里自界首至福州二百四州界工工里自界首至福州二百四州北
--

東南至本州界六十里自及五十五里	本州界八丁里自界	<b>一里</b> 西至本州界六十里自界着東至本府界七十里自界着	今涂州治青 流縣古徐中東南防守利便卷之中,	西北至 州界一百二十一州一百二十里	西的至本州界二百二十五五十里	東北至木州界一百里自泉七十里	東南至本州界一百五十世
11.	二里十	里 1	徐門中	77		41.	Ji.

在州界一百三十里自界首至新 在州界一百三十里自界首至新 在州界一百三十里自界首至 在州界一百三十里自界首至 至本州界一百三十里自界首至 等和,是一百三十里自界首至 等州界一百三十里自界首至 等州界一百三十里自界首至 等州界一百三十里自界首至 等州界一百三十里自界首至 等州界一百三十里自界首至 等州	既被於采石而捨前登岸平原易野此騎兵
--	-------------------

東北至本州界一百六十里白界首至無	四十里東南至本州界三百二十里自界首至地	七十里七十里年岁至五岁	十里子により	尚至本州界一百七十里自界首至和州	<b>万五十八里</b>	東南防守利便※之中 院花	西至本州界一百四十里自界首至斯州	-]- भ	東至本州界一百八十里自界首至池州	孙	西北至本州界三百五十里自外首至光	育里	西南至本州界六十里自界首至與國軍
工無為	池州		M.   		of Majority	沉花春		;			至光州	İ	脚東一

成察以外為襲索審爾則萬一乘間而東成小而楊久出沒洞庭王師發敗開之道路李	こ人鬼鬼然不自保則三州之界信誉 べ人鬼鬼然不自保則三州之界信誉 横南遍斥堠無狀轉相驚動以為冤重	立人及那及黃江西湖內相繼陷沒去年秋 其備禦之方不必推之前間而驗以往事襲 江之敵黃州為武昌之援其實緊而不輕也	東南防守利便殿以中一大地偷遠慢監則難以屯重兵然舒斯為九共地偷遠慢監則難以屯重兵然舒斯為九村在淮西以壽春合肥為巨鎮而斯黃舒三州	一百六十里 西北至本州界二百四十里自界首至安州		東北至本州界四百三十六里自界首至光
------------------------------------	---	---	--	-------------------------	--	-------------------

								東						Ai		
然	明	刀巴	大	内	陽	徐	12	南	势	羲	Ż1:	飒	1i	淮	不	Ē
則	111	攻	火	史	11	111	发	叻	恥		斋	yt.	妼	14	数1	ル
沙.	親	新	心	何	11;	些	不	守	誂	2	肾	. p.	'	各以		馬
淮	郁.	城	111	冰	少	共	廖	利	さ	彻	将	1:1	北	断止	作	1,
衣	木	义	須	-	御	安	哉	便	未	浩	各	你	伐	事领		Ē,
农	韭	进	11	游	ٹ	共	.H.	四卷	~ ~	周	復	推	為	有戏	之	楼
必	<b>^</b>	孫	為	軍.	,44	危	,	12		た	售	<u>ئ</u>		流士	汀	船
相	肥	韶	泣	淮	训	共	淮	<b>∸</b> /₁	言	žr.		idis	奖		Ý.	犯
恃	權	陸	也	泗	立	竹	表		是	121	月	非	肵		4	-{{}
以	近	戒	孫	以	鉃	育	裹		也	Eil	走		败			鄂
為	走	将	推	15		虺	2		到	大	Zr.	所	復		之	澌
安	ilii	10,	# 1	形	州	业	兆		以	紫	以	及	阊		也	黄
业	部	徐	办	极	人	带	抽		割	义	外	奖	111-			以
儢	頀	人	联	外	7	符	机		於	淪	韉	過	梁			Tiel
斯	等	乙	h	則	造	肾人	距	淀	淮	કાાં	鸑	避	J.,			江
你	亦	沔	何	<i>iT.</i>	113	间	丁	花	而	根	而	守	漩			水
准	退	魏	企	淮	城	裴	有	店	你	Ji.	世	長	之			$  _{M_{\bullet}}$

東南防守利便路中祭		以天下為一統可也	淮為一體制造近如一人審此則何獨江	銳師而赴救施上流則詔諸鎮以入援人		奂	南而輕江左之根本與但守江左而去汝
浣花居	-		獨江淮	授合江	向 則 出	若	HE

及三國 之險 家所 係 東 流 侔 背 来 [變] 失 都 則 於 可挽 聘 騛 EJ 南 官 而 淮 楚 南 五. 敵 於 之典 <u>.</u>j., 丽 彌 硕 11 六 チ 豼 必 防 e 彻 'nΤ. 财 花投 之處 答旅 守利 桃 有之 1: 沆 YJ 袻 派 <u>دن:</u> 文 縫 شار 舸 ·ifr 沅 故 擶 後 业 則 供 ŀ. 利 百 心之東 故 便 億 幽 下 牊 账 不 設 榒 旗 쎼 角 Ŋį. 便 里 **\*** 内之 災之 3 無 邟 於 論 义 旭 和由 北 以 下 刘 燈處 さい 66 而 備 扯 稯 魁 縞 開 何 六 艫 戍 東 則 雖 然 地 File 界 女比 妣 道 沤 124 之 虹 備 至 設 則 共 面 ήψ. 贝川 分 ilis Jſ. 具 國 A. 桃 厥 作 敵 輸 在 守 쇛 且. 强 赴 之安 弱 救 建 南 速 们 介 멦 必 火 之 福 悬 之策奈 江之南 之勢與 常 挽 鄴 北 F 3 兵 則 利 難 ET 危 我之 枚 ÌŲ. 分 屏 固 巫 為 11 ता 繫 三 To 翰 贝贝 沝 邶 固 79 必 之勢 與七之 **泥花** 脧 繫 泰 兼 + 何 力 两 地 於 壯 都 非 無 於 對 歪 背 爪 俳 形 J: 秼 江. 4: 淡 初 31E. **7** 流 陵 飹 曰 ýΤ. 糺 76 J.

拟 路 凡 <u>;j:</u> 渡 194 越 東是 部。他 1)6 備日 111 六 那 Hil 1. 部 流 11:1 alt. ÿH; 冶 矣 111 險 H. 闅 21. ïi] 尺 浆 äŀ W. 介 .in 沙 咻拾 41] ir. 防 呼-邿 何 是 12 11: Ž 雅 省 ippi 海 絃 a: 1/2 守 必 ソス Mi. di. بناز <u>ښا</u>لا ihi 訹 為 业 迎 济 Ni 道 25 福 华 利 11)] 1-1 1 ŽT. 北. 1hi Ż 'nĊ 觚 不 31 . K 沙 芝 便 之 Ż 是 1: 76 仌 急 险 都 淵 H 貂 11 東 灾 都 圳 二次 沪. Ü 必 地 た 瓜 要 介 蚁 训 .1. 逵 ЖĹ 1 之 北 滤 13 家 ァド 加 災 必 故 水 **Q**: 13; 吳 'nΓ 11 · |T| 故 不 VS. 共 州 j: PH 301 亦 災 介 ル 方 13% 渎 17 誻 過 **%**!: 之 於 书 浙 收 مخر 大 ihil 掃 城 漢 74 įų 葛 涂 明色 'n. 杰 -1-處 妣 池 雷 庭 蕩 臉 嫠  $i^{\mu j}$ 完 逝 111 媵 7. 杰 不 ilii 州 शिर्ध 常 乏 夵 减 **بال** الله یخ ш. YI 武 75 抛 北 书 過 州 如 絩 波 趙 -1-17% <u>Ŀ</u> 岩... 쁘 业 FI 共 鈾 -1. 歌 バ 刑亡 於 ila 训 沃 M. Ŋij 此 排门 峽 彩 唳 則 ilii 顶 μų 业 榆 災 南北 TIT ELI 州 而 易 **\***^ 7hi 九 儿 <u>.j.</u> 獅 而 以 贴 Æ K 脆 武 九 北 姚 **^** *i*1. 釿 非 流一人 城 於 你 水 咫 然 耕川 **?**7: 舻 是 鍁. 則 所有

11 非 从 17. 16 1/4 KH 赐 東北 4 火 爽 洲 順. 47. 焚 分 儿 窊 川 YJ. 不 华 於 袻 南 火 炒 ff: 祁 都 4 灮  $\Im i$ žľ. 入 J.L. 幣 備 防 介 567 旭 介 财 亦 於 梨 Ĥ 1/4 釽 淡 郷之 IC 'nτ. 守 淡 火 人 خ 17 14 悐 拟 胅 下 不 者 ŀ. 欮 左 利 常 吳 书 泛 之 バ 陳 越 彩 食 詔 媫 於 湘 H 矣 便 źĆ. 赻 授 业 Ыr منحة ソス 動 杯 今 菂 · 쌌 三米 泸 心 ጡ 业 訓 川 衸 際 収 فإذا 益 之 101 措 金 而 之 11 77. 峽 泸. 妣 水 涎 밨 是 谎 形 胍 T 人 此 mi ikk 悉 4 47. 陽 棚 極 漠 之 能 - • 収 がし L 111 jit 姚 ्रीष्ट 711 北 厸 ilia 增 菂 Kill rich Fel 襄 狐 力 鎭. 豫 措 加 11 撚 陵 ‴ Л·F 之 ÌÈ 桃 37. 湙 ilis ソス 省 W. 求 Ţ, 儿 基 則 於 湝 黔 ソス ilii PF] 不 沙 2 於 タヒ 南 江 īij \*\*\* 溢 业 戍 北 队 ルド 111 洋 膛 今日 卆 111 之 111 圳 以 γĢ j:t 剕 15-忿 之 絶 T. 成 蜀 俳 心 守 開 連 [ii] Jul 豫 道 南 4 177 陵 歟 \*\* 禦 浣 常 171 亦 儿 以 蜀 荆 常 Z 收 ·H 癭 圳 伌 遂 炭 花 緞 沤 固 蔽 近 귉К 万. 西 襄 之 断 共 渠 處 武 疢 耜 袮 急 矣 守 今 亦 為 沉.

東 30:1 係。 illi 陽 初 11 办 選 鳰 نان 淡 陽 澈 华 泳装 华 11. 南辺 夾 27 18 illi 氽 當君 1% 加 來 113 111 4-1 羽 如 猫 防 慰 褙 1.4 زلوا 1.1 ilii 办 1141. 曹 売 分ト 4 次: ir. Ħ. 狐 ti 1/13 分 天 從 ilii 肺 元 II I 111 **%**: 刀。底 F 11 和日操 バ 索用 拟 ÿΤ. ilii مال بخ 书 狠 便 都 易 业 έi 11 #11 储 水. X 1771\_ 東 44 四卷 ゔ゙ بندار الم 以 再十次 贴 414 £ !: H 州 パ 314 兆 2 급) 2 177 珳. F 冷 :Jic バ IX 701 脏 įĻį 材 沿 料品 ♦ 婔 下 11 近 77 窩 21 37 tht. 海 îif 之 私 rh 災 滌 没 徐 俏 业 結 敵 li 1,1 ilii 能 下 Æ jils . 纸 1777 疑 -jj: 311 H ソス 17 791 バゼ موت 折. 消 是 #: *-*{**:** 71 捕 火 茄 祭 1145 处 浙山 加 华 被 城 觀 於 15 ŀ. 韬 17 41. 平 JIV. 福 奖 ΞĠ. 2 所 オデ 非 3 **纤**: 捐 个 游乐 μŢ 北 **}[1]** 之 蜀 坐 緞 統 -1-利 於 ić. パ 方令 可 业 悲 紫 滥 乖 洮 Ü 43 11.7 制 34 計 Ni 周 バ 花具 2 卦 掂 渝 业 按 7 戏 业 年 稻 始 北 楚 襄 亦 扩 在 訓 久小孩

東 躯 1 不 便 徐 77 為 南省 沿 是 持 外 礼 Mi <u>ئا</u>ر: بالخذ 胍 业 楊 戏 JF. 火 東 剕 防 11)] 於 4 人 扡 之 楚 守 游 是 狐 絁 77 帝 不 1/2 储 [] 111 74 办 人 2 煡 称 利 点 是 抗 胍 作 非. 14 進 轸 妝 形态 35 人 则版 彩 便 光皿 渦 使 檑 奘 腁 胀 啦 -1jiř. J. 石 拉 進 胍 T. 卷 业 命 新 修 胶 胙 41 上。所 603 州 人 城 Hil 之 걏 秋 캋 长 Bis X 祁 不 バ 15 備 示 샜 163 ル 婴 下 31. 震 竹 慢 今 Ji. 別 **令** 训 化 信 ηg 11. 如 滌 'n. 盐 夢 急 燰 岩 修 伐 抗 兙 建 7/1 舖 バ 派 LI 非. 引 災 贬 ۳ 利! 悺 25 獲 [4 Ĥ -15-亦 刑 11 Ŧi. ; • 小字 絲 悐 必 為 7 꺆 問 Ni 城 YE. 蜀 福 梢: 利 Ŋ'n حر. 之 奇 豫 蓝 籍 华 戰 附 打 打 洪 江。 収 菰 固 之 猛 堤 絲 怹 不 化 11 選 水 伱 兵 州 Jt. 办 常 J.F. 11. 不 称 戰 燃 是 倸 刚 #1 ĵħ. FI 流 ル 之 2. 有 之 水光 無 共 推 城 地 辿 天 掮 訓 训 並 共 乻 11 名 襲。併 不 下 夏 花 冰 泚 20 No. 鄉 仑 利 之 赝 11 7/2 名. 肵 船 表 路 則 能 内 虚 口俱 狘

東 规 -1-33E 懼  $\pi$ 궊ጱ 步 ት: 醎 福 郭 罪 ;if1 胎 妝 1 之 欽 4 们 剒 長 碱 薦 117 Ħ:, Pir (a) i flit 彸 出 坎 随 晉. 机中 汌 -7. 復 談 北 乔 莂 入 rı 白 屯 温 女 in. À. 114 後 47 利 述 州 脸 郇 嘣 版 4. 4 温 戏 加 P) 4: 熋 赐 틾 45 如 457 便 討 重. 厭 7] 柳 道 鄧 六米 火. Hi 137 淝 鋫 欽 Ni 36. 減 松 池 别 鄉 北 温 义 欽 11 1-]1 壮 Ţċ 红 帔 厸 該 入 割 训 4 Æ, 事 悲 W. 2 弟 欽 如 不 Ħß 熊 **F**[[1] 攻 有 下 义 好: 3: 75/1 pul 陷 赐 -1-16 尬 il't 將 Hi 祖: t. 15. 湖 收 14 り 浙 亚 轮 胩 於 泸 邓 M. 散 攻 周 X 洛 Ŀ 雄 拒 ni 陽 妃 泪無 遂 進 推 2 北 該 無 继 温 り ir. 准 牞 M 城 Y1 俊 叡 部 私 YI 乢 义 迹 -f-彴 犯. **\*** 姚 掠 為 nΖν 戏 梁 徘 剧 水 觉 the. 大 4: Ŧi. 欽 炙 勒 雘 弟 111 A. 而 城 ŕı 有 ji. 捌 7. 刊 jĮĮ. 普 浣花 孔 懘 姚 Di. 础 生雄 州 前 Ú 以 Zi \* 잘 戍 安 大 11 帝 城 浴 刺 拟游 司 W 將 معج 1 3 姓 源 路 涨 自 Ŀ. स्र Æ, 贴 動 淮

東 南 称 毛 犿 陽 TH 41 計 + 12 棉 游 胍 儿 ŕ١ 楽 屯 當 耆 否 ris ĘΧ. 保 梭 陽 萬 义 -1-消 城 ぶ 强 防 使 攻 終 牛 火 瓡. 爽 先 老 J. 越 楊 汌 次 慌 11 出 汀. 少 漩 W. 11 感 泚 脧 攻 攻 為 7.11 F. 懋 利 11 沈 等 撘 處 便 粉 馬 1 楊 辪 솸 PH. 劬 清: 1/1 11 Mi 拠 愁 姚 兙 18 绂 [7] 按 ぶ ĬĬ. 城 外 舒 111 七名 石 消练 芝 花 狝 客 渃 1418 洲: 便 越 池 不 郈 3118 헮 慕 Z 驯 進 之躯 4 Ţ 壀 瓠 演. 遂 圖 挺 零 保 114 福 獲 1 31. 補 化件 胀 111 张 批 邹. 沚 船 游 jijk рy 亚 Æ; 1.44 遣 池 池 梓 15: 115 ₩, 順. 11 Xi 常 1. 机 'n 前 1 į. 頂 流 妆 4:-徐 以 朱 姚 Æ. 明 71 越 從 之 鉩 逑 17 : <u>]</u> 虔 15. ji. 是 义 激Ĺ 沠 挪 خان 艘 欧 į 騎 遊 港上官 楊 於 浆 當 万. 當 陷 驼 以 以 11 Ti 越 تار 扩 疬 盐 獨 弘 路 沙 州 ئار 以 火 丕 鄉 南 爲 骐 尚 刺 猫 浆 jų. 州 溢 书 训. 爠 浣 M. jį 鄉 卮 書: 於陷 1. 精 杰 Ji. 花 成 不 阳 初 無 大 楽 M. 起 547 令 都 漠 4) 今 -fil-祉

東至泰洲界六十里自界竹至随州口	今襄陽 东西南路	軍無不被原明日大戰破之	為固治軍頻攻未校魏軍挑戰安都於	向陝元景令諸軍並造陝下列營魏地	耳 山安都頓軍以農法起進據潼關大	進次方伯堆去弘農城五里元景引日	出温谷以入處氏法	東南防守利便港之下	<b>普谷入盧氏元祭率</b>	祖出替谷幣方平薛安都能法起入京	及別廷大舉北伐便諸鎮各出軍誕洪	米随王誕鎮襄陽柳元景為後軍中白	陽介兵攻淮南	七萬冠淮陰與超會師而南毛與王明	南諸城於是遺俱難毛當毛盛仍保軍	超前率精銳五萬攻彭城願更進重城
瞪					潼	景	八	浣花居	景							<b>赴重將討淮</b>

								東								
抗	31	州	Thi .	71	亚	州	मन	南	州	収	11	唐	iśa i	Ti	74	-}-
曹	係	أيت س	36	1	16	<b>-</b>	耐	防	五	南	3	Ξ.,	至.	Ji,	4.	业
採	權	Ìï	4:	-}-	31	ΪΪ,	元	守	-  -		木	11	本	-1.	45	
柑	初	八	本		北	. 1	本	利	六	本	州	•	州	刑	州	
カ	俳	M	州	N	州	-	州	便	里	州	界	-]-	界		外	
カ	<b>ir.</b>		界		界	Æ.	界	九巷		界	儿	派			5.	
征	胸		# 1 <b>4</b>		八	班		之下			- -		育		Ti	
江	周		Ti		<b>- † -</b>		育	T		育	114.		ha		111	
湖	输		Эì.		た	<u> </u> 	三			六	fi	ĺ	- -		- -	ĺ
F	121		-1-		里		ナ			ナ	外		と		里	
不	浆				自		四			-	首		果		FI	
服	物		里		界		里			里	至		11		界	
給城	推	ĺ	自	İ	首		自			自	鄧		界		省	
襄	取		界		至		外			外	州		首		系	
影卒	災陽		育		唐		界首至	浣花		界首至	八		至		游	
為	以以		歪	}	州		主	化		1	- -		ir.		州	
Airy			11	<u> </u>	1-	1	峽	鬼		型	八里人	. 1	陵	1		!

别 清 郭 没 ήX rh 赐 1/. 南 1/2 illi μį 游 DII 1/f· 貀 111 **が** 11 11 欽 11: III 籨 W. 防 是. 74 1 絾 攻 盐 在 虛 賜 166 À. 戦 柳 被 Ĥ 4 胶 制制 果 胅 Éŗ. 狐 豼 书 赐 1111 ÉNi -T-元 箈 江 利 火 É 穑 貀 ij: 截 羊 沈 址 人 र्जन 业 脥 416 沙 便 11 初 水 'n: 夾 骐 7/1 顺 بخ 柒 烑 75 道一本 11 球 進 闅 Æ, 业 繑 规 傘 娰 吳 之 其 崮 17 滸 t/ix 3 北 之 温 始 lini 福 ル  $\vec{a}$ 肞 -ft-Ži: 後 是 2 KII 霜 影 14 狐 7 於 滅 來 北 11 城 木 兆 之 彴 将· 抓 沉. \_t\_ 丽 之 領官 北 及 奖 ソソ 常 於 队 胩 固 孕 之襲 7i 會 ilii 一首宝之東 胜 人 剕 漩 101 29 徘 C 於 槧 瓜 南 蹇 米 均 敵 毵 州 忠 ;;; 共 可 陷 屆 业 國 随 di 1 場 焉 口 人 納 0. 憂巾 嗣 遁 逝 之 釆 地 氏 Ŧ. 瓬 决· 肾 及 氽 П 威 之勢舉兵 驱 胡 海. 誕 欽 بخر 产,前 哥 批 入 亦 附 솄 赐 Ź 浣 縱 小 174 關 餇 硵 기는 洧 П 夼 農據 震 鍞 石 横 1 花 征 搖 為 普 興 德 继 則 馬 Ŗ 城 石 败 Æ. 江里 朱 行 絮 削 Hi 開

朿 償 溢 裵 戦 沙 渚 Z 南小 训 南豫 心 11 否 淪 及 趻 北 鷌 1,7 1.1 鸣 711; 择 法 防 1111 ilii 胍 4. 纶 77 汌 泄 **^** 裵 前 1成 床 方. 彵 被 B 睿 躯 14] -j-195 借 刚 光 利石 [riv] 於 33 烑 脸 . | -43 省 利 illi 芝 之 نخ 江. 漳楊 便勒 祓 将 詂 且 単 漢 炙 ilii rif: 前 1 屯 妆· 腦 葋 湖 十卷 1: 燽 大 J. 耳. 楊 郑 呼 之情 凉 刻 iii 追 12 得 M 有 沉 金 į, 渊 们 加 [III] 76 耿 於 1 據 Ž 我 通 防 筄 豉 失 為 共 人 次 京 盡 本 鄒 燈 死 Ŵ: 臉 娏 賊 杆· 1 犿 11 從 III 備 成 否 郥 路 狡 姂 缝 敗 豫 力 IL 脛 淮 倣 偽 鎖 旭 共 安 **7F.** 檑 炊 火 古 人 亦 IJ 不  $\exists i$ ilis HI 撫 路 71 將 備 此 九 华 槉 1 椭 红 艄 状 孂 狐 偽 襄 江 犿 大 介 罗 今 可 叉 뗾 1T 南 之 命 齊 楽 將 便 卲 不 外 獑 卶 窥 间 佊 孤 业 扒 业 岩 浣 之 賊 福 楯 IL 肛 何 並 岩 四 軍 ÉI 備 雙 夫 耕 恐 軍 扡 做 入 YJ. 讣 珳 川 意 豫 É 一种 E 我 胍 抓 独 **W** П **-J**:-討 北 生 5) 沉. 祁 剕

[2]	右襄陽之北有樊城石勒常令郭欽襲據以	今郢州治表壽縣即為阿斯及也	雅州士馬呼吸數萬時安則竭誠本朝時亂	張以策能蕭懿日即州控帶荆湘西汪漢河	披邦	職攸之果忽晝夜攻戰世隆随宜拒應敢作	足	東南防守利便卷之下	下白螺	兵出夏口據魯山攸之乘輕舸從数百人告	冠軍劉藤等二萬人次之又造王歐秀等人	沈攸之及造孫同等三萬人前驅又造司臣	史江夏內史行郢州	罗州内松 也 今之即州古石城北	人不	耶曰佛人者制於人使人佛也者制人制,
-----	-------------------	---------------	-------------------	-------------------	----	-------------------	---	-----------	-----	-------------------	-------------------	-------------------	----------	-----------------	----	-------------------

東江 識 污. 莱 įΤ. 介 南陵 郢 1 萷 徐 沉 10 败 逼淡 以 食諸葛 避兵三萬 於 陽 髲 表 轹 波 防實族 业 خ Sir. 半 114 /2 至當 行 制 奺 泐 肤 守治漠 赳 初i 凘 沔 žr. 利 洪 舫 誹 曹 利與本經便問制給 處 城 决 **売**求 渁 炒 ŤŤ 7 送 媣 K 忧 11 攻 涎 十卷 人 打 E <u>.}</u>ز. 涨 求 丽 兆 州 淡 ころ 炒 災 11/1 逝 掖 1 兆 业 坂 尚 収 拧 张 儿 \_1\_ IJ 採 育 於 騎 火 正, 黎 河 翁. 迎 洪 椗 [1 Ki 11 過於 孫 闢 排 194 水 遂 11: W. žr. 從 71 30 11 쾜 2 陸 舶 劉 lift. 南 赐 睃 城 地 於 郛 75 亦 椎 伙 75 作 出 廍 洪 必 浙 17 形 右 浦门 歷 15 納 以 翪 片. 纯 涮 汯 バ 74 瓜 較 1 4 115 胩 周 猇 干 輜 之 樂 州 郢 拟 4 块 'nΓ 14 前 擦 遽 蚁 重 ソス 八 鮀 州 涎 圖 人 惟 徨 Ŀ 停湖之 N. -1-极 輕 走征 破 泥 私 赐 之 3 背 淵 悲 灰 鹉 亦 耶 拟 劉 淮 資 花 浟 催 州 城 前 张 疫 劉 悉 到一以 表 业 百 恭 梁 湓 111

東 先 驱 3, 参り コン 戏 帝南 大 11. Ш 47. 州 illi 膱 ini 1. 並出 litie 111 州谷. Hi 另 功 沙山 الز 16:11 331 1: 75 先 字. 准 11: 业 恣 穮 72] ' 字. 州 1 PH Mil. 捕 4 忐 復 訓 غ: 77 Ť. -j-夷 Ш 亦 利 天 14 114 报 治 华 和 -7-焉 艘 躴 州 赵 如 才 府 但 nhi 能 왊 ď. 北 21. 船上 Slit 化 是 نح . | -11年 1人 رة. م 外 JŲ. 25 1118 130 ξţ. 躞 HIEL. 諸 介 illi 四之 餘 蚁 結 1111 此个 1: 權 7:1 刑 16 秤 化 ίĬ 쵬 Wi 蓝 パ n'i LT. 1 好 4 不 摅 10 7 [1] 於 14 Ä 亮 牅 先 歌 隧 fiel 荆 帝 能 抓 M. 11 丛 扩 :11: 蚁 术 纯 H 11. 軍 權 **うた** DU. 彩 人 4,7 15 ž1. 1116 Bi 波 ---#纤· 洛 4! 成 灭 保 之 . i. 11a 接 東 扒 北 ť . 奖 前日 脎 濮 卦 -|-此 15 北 天 ぶ 汑 ijγ. 416 Y.L L 蓟 斜 珊 躯 11 2 垩 險 成 肵 71 7. 扩充 坊 先 141 捌 先 去 别 미 盐 1 帝 肌 Y. 駋  $\equiv$ 丽 亮 N Ē. 淡 壯 E رد. 浣 肌 祟 掌 州 麺 沔 論 客! 雅. 111 ī'n 據 關 剕 炙 拖 命 将 诸 和 坚用 汌 [at 灭 於 褪 羽 及 躵 前居 琉 軍 州 下 儉 湘

|東| 楚 漏 北 曹 捌 札 滥 114 īši 州 州 沙 Ţţ. Ni. 到 flit THE 道 机 先 年 州 陽 先 牧 小. 防 法 Ĺ 披 IJ 33 131 114 定 羽耳定 11)] 闊 先 4 膜 Ή, Hi 茄, JF. 先 船 11 鄬 淋 34 涟 遊諸 水 -1-伞 無 工、利 迎 1 杫 æ. .tht. 矿 掇 安 奜 古 先 攻 引 r<del>|</del>1 便 置 一次 兆 陽 表 先 徘 水 消 14 隧 ·-i` 先 ూ 十卷 意 權 葛 濟 Ē 174 蹐 Ji. 劉 流 先 綠 肺 11.4 仁 Ē 下 亮. 寪 133 郑 么 抓 زانغ 1 表 順 Ë 11 倉 祉 111 間 公 流 ル 骄 捐用 力 11 又 被 之 安 奺 火 消化 -j-怒 朔 結 州 疬 州 被 棉 独门 外 幕 业 省 jill. 遊 杸 曹 水 狘 州 奺 驯 於 帶 浙 收 於 鳧 -]. 權 闊 呂 借 巷 孫 史 孫 外 長 說 夷 冮 介 吳 樊 家 Z 連 挧 椎 下 义 於 椎 -5-漩 道 烝 椎 滥 温度 將 和山 入 冰 健 推 南 赤 泄 琦 内 穛 散 建 JEE. 外 1 長 淶 从年 益 灮 周 -jç 州 征 肥 F 业 到江 涯 殺 陽 'nü -发 训 瑜 髙 11/2 狄 牧 ガに Ë 夫 гЦ 船 抓 걘 羽 是 寒: 為 华 花 得 劉 躞 外 人 险剂 由上吳 秭 顶一十 陵 春 荆 3 7 莂 俱 長 水

治公安瑜上源練不可而齊蘭勸借之部	被門仁仁近去喻屯据江陵劉備領荆山	選留曹仁徐晃於江陵使樂進守襲防	<b>新定計樂操與劉衛俱進攻操於亦強日</b>	公欲東之問與諸將議皆 <b>物</b> 迎之惟周,	推浙亦反命介權	與你會宣權古及陳江東强固	郡而表子际已路曹操劉備邊處奔走	東南防守利便卷之下	到夏口開曹操已向荆州晨夜兼道比	下可定也今不連征恐為操所先權道	一意共在曹操構必多而從命如共刻	<b>勉勢軍中川事者及說劉備使撫表泉</b>	表恩其能而不用也請得奉命事表二	軍中各有彼此加劉備與操有隣客寫	之此帝王之資也令表新亡二子素不	有金城之因沃野萬里士民安富若據
一之以拒								洗花居	近比至南		•		二子	寓於		據而

以之縣軍徑守陸劫花權賜羽長郡權不於兵蜀反來路峽遜先居內未權沙長日許地
------------------------------------

				i				水						4.		
東	六	įų	六	東	H	北	-	南	南	∃i.	pg		浆	<b>7.</b>	拟	瓜
北	-1-	的	-1-	혡	Ii.	至	里	防	<b>平</b> .	91	毛	百	15	躞	15	拒
至水	韭	至	里	4.	-]•	木		守	本		本	Ж.	水	府	降	自
水		水		水	坦	州		利	州		州	-1-	州	係省	书	ກ.
州	'	州		州		界		便	界		界	Ŧi.		湖江.		月
界		外三百		界				十卷 八之				韭	Jī.	北陵		1:
		==			ľ	育		个之	育		77			路縣		빏
百六十		百		Ħ		九		1	九十		H.		تا۔	ŀ	が	川
一六		六		37.		ナ			+		里		1		祁	大
		-1-	ĺ	ナ		型		1	III.	ĺ	自		1i.		走	破
Jī.	·	里	}	里		自			自	·	外		111		僅	之
里		何		自		界			外	'	育	Ì	自	}	以	15/7
自		从	:	界		界首			育		至		界		身	Mr.
界		育		首	]	至			3:		峽		界首	j	绝	17
竹		不		玉			}	浣	بالبر عد		一州	}	亚		]	所
玉		至。些州	ļ ·	五	Ì	裴州		洗花	州		七		羽			斯
自界首至安		州		州				F.	七		1-		娏			及

			i	1	i			水			.					li li
壁	19	軍	徳	艺	7L	农	禾	南	11):[	海	荆	党	1i	州	Ŋ	州
曹	炊	il.	75	德	明	命	容	防	之	闪	州	起	<i>i</i> 1.		北	
一人	有	公	進	逃	則	灰	ネ	牛	勒	爽	地	以	漢	77	35.	7.1
大	贪	得	<i>(</i> 1)	娅	FI.	莊	枋	利	玄	郊间	險	25	7E	ーじ	水	八
	<b>%T.</b>	衣	涁	不	23,	欲	莂	便	愆	监	ilii	天	茶	-]-	州	-1-
引	滸	之	救	斷	攻	慰	州	十次	孵	拱	人	ド	渡	M	界	里
1	1	-1:	於	之	到	安	Mi	儿火	旃	ilii		之	以			
[福]	志	架	头	KH	J <sub>1)</sub> .	刻	為		之	郱	·	AC	前		自	
过	ノス	시	吳	Tii	101	基	育		影	规	11.6	- High	益	ĺ	六	
人	周	卡	人	曹	别	介	也		111	将	la.	世	荆		1	
人	输	2	與	公	州	挾	及		誹	排	ΝÍ	战	普		Ai.	
亦	總	船	之	也	可	玄	到		文	洪	守	淡	之		11.	
自	福	舫	併	Mi	冇	德	表	·	汫	扩	無	水	地	] 	Ħ	
以	fifi	順	11	润	肅	パ	兜		2	ili	挺	劉	也	İ	界	
二	被	沈	リス	州	水	禦	灰	淀	啓	10	述	汞	计广	1	育	
有	之	777	担	矣	及	ili i i	啓	花		2	[Ki]	排	儿	1	35.	
荆	赤	厂下	_ 北	玄	境	操	浦	启	1	176	牧	打	勢		襄	ı

北 موار 恋 IJ 臨一階 火火 81 thL 南源 11 公 双 ilii ill. 州 不 貀 10 岩 25 兼 祄 21. 438 ΤĠ 抽. lti 破 殺 煶 炙 24 能 沙 218 分 47 2 2 ][i] 分 fifi 1/2 徥 討 玄 di **ぶ**し 拙 扩 淵 杜 别 及 旃 包 人 先 41:1 穩 利 त्रम् । 荆 郡: ji j 浦 赐 书 Π. 州 州 业 21% 於 便 髮 €, ŦŦ. 州 illi 會 人 人 مخ 吳 sht. 出 . 批 idi Hi ili : 农 先 夂 11 111. 以 小 表 诗 天十七 煶 九 地 <u>بر</u> 北方 篩 界 女台 依 1. ă:i Jr. 奺 塞川 绫 13 A. 爪 头 让 壀 77 下 無 郡 败 削 11/1 ilii 15  $f_{\mu l}^{\prime \prime}$ Ų. 変 荫 垯 驱 逍 分 魏 於 没 处 业 劉 15 13: 疹 楠 帹 Đŕ 危 堤 狮 11 认 赴 絶 ् 100 俗 相 加 اع 赐 始 斯 ìFi 剖 洪 徘 郡 分 ÝÇ. 1,1 命 <u>. II:</u> 備 州 #1 陵 \* 恋 11/5 W. 沙 141 : : No. 排 城 11: 水 341 #11 赐 妆 Ŀ 机 وال りょ 詴 枚 ilii 滞 分 一分 711 料 州 N. 彩 25 陸 11 光 ili рij #8 ÿΥ. ľI 313 75 7 牧 1 11. A ihi ľ 何 鄉 北 恭 後 擒 遂 尘: 十 **光** 141 沅 人 肞 丛 -: 瑞 C 花 里 亦 īHī 5% 拁 荆 於 Ë. 於 郁 國 蜀 郡 江、吳 站. 浆 陸 ÉI 倍得 一州「居 州 34 Y.I 办

舣 岩上 助. E 宗 事. 江南以 海. Hij 北 1.4 峽口以 掘 113 Tin 弱 1 陵 防心 生 75 PA. 14X 沉. 主 慢  $\mathfrak{J}_{i,j}$ 11. 亦 逃 终 之分於 4) 彣 淵 贬 紪 不 廖 此 Ji. 沪. 'n. り 'nſ 常 4 氽 乍 陵 禁 陵 無 則 诚 聯起 沉. 两利 今 'n. MF. 北 dir din ไ爱 샜 L 便 3111 įĮLį りと 1 杰 胧 ihi .....<del>/</del>; 41. 安 YZ 舫 (11) 躞 舣 尨 按 失 政 りと 央 乢 些 近 松 衲 队 3111 復 此 軍 初 陵 旲 魏 ||秋 议 測。 驯 則 之 2 F nij 槧 猆 ′级· 杜 23 奘 **抓** ŻĽ. 刺 业 兆 1/4 14 憂 闅 さ 燰 -15 南 邶 腸 촰 YX 陽 溧 猆 怖 帖 41 丽 -}: 强 使 ji:j 不 秋 爽 你 不 ぶ 北 金 11 刑 *!*;}-但 沙 板 擾 之 试 下 肰 西 弱 北 人 114 州 1/37 江、 東 水板 遞 之 火 吳. 胅 之 斟 用巾 极 此 備 詴 沉. 之 15 介 庱 ifi 不 賊 蜀 夏 赐 池 批 业 观 11. 赐 迫 ilri 能 求 之 蜀 北 1 川 Tin 出 此  $H_1$ 何 褪 141 江流 败 24 並 *ジ*ス 備 不 聚版 無 如 丰用 业 | 郊 無 圖 裹送 猆 陽 峽 楚 攻 4 波 ソス Ħ 躞 花 业上 Šij din 岩 後 固 ぶ Ħ 距陽地 之 314 雕又见 則

灾 北 州 25 心 從 宿 1/2 3 補 将 31 喽 奖 肰 爬 +: 75 AII: [12] 剔 捕 坂 防 谷 πÁi 州。 泔 先 -11. 賜 四十 21; 45 MP. E 憂 得 72 1.1 1.1 训 南 廖 牛 追 Ŧ. 7 扩 吒 荻 亦 113 ચ 為 故 10. 界 利 禁 些 北 爽 踴 rf: 之倘 П 復 业 述 前 追 便石 大 影 μĩ *t*:11: 耀 胪 :jt 易 ŀ 14 北 48 坟 蓝 綤 ソス 否 惟 ŽĽ 之端 失 肌 肵 戦 浙 知 - ] -宨 戒 沚 734 隧 失 11 E 北 計 egit. TF 沙 拒 杂 11 向 失 公 Z 办 裴 不 7  $^{^{112}}$ 排 بح 1/3 717 尺 先 4% 必 非 廖 辘 不 扩 各 界 動 備 报 ĮI) 省 بالا 諧 徙 燛 :X 欲 This 71 1 從 擂 扩 तां 111 鄠 E 担 君 鸿 75 别 夷 **邓**: 權  $\triangle$ 邦 抑 惐 憨 مرنبه 引 郑 國 水 便 婡 命 岩 بح illi 训 姚 郡 之 伙 遜 班 先 馮 建 陸 北 何 疟 樹 Z 共 135 者 奼 ji. 習 淀 E 平. 涨 ル 74 請 虎 水 业 揣 限 此災 花 為 1 連 督 行 杰 粋 ル 坚 訓 延 之 7 必班 مرتب 大 開 朱 羽. 靘 ilii

東 沪 **3**!: 積 陸南 你 峡门 所 共 船 [ii] 琥 呚 业 倶 州:待 掮 所 バ rulk. 器 機一防 大 坊 77 124 砂块 共 他 ill: Z 共 治禽 李 寺 iji This パ 业 械 بخ -1. 但. 缒 令 拱 冷 被 火阀 111 险 雅 利 1:1 水 盆 進 之 \*\* 遜 介 是 7 学 新 共 广便 媵 급. 北 绺 斬 弼 船 不 愉 就 天 縣 [2:] た 消亡 75 狐 俳 状 汉 孙 常 疝 非性之 长 司 減 無 25 谷 iti 火 ...y. 囚 將 北 仗 黒 淵 Ħŕ 11 欲 Ţ 遜 λШ, 戏 夜 将 掵 之 過 バ ル 陸 栈 رو<u>ر</u> 壀 ر ک 캩 逝 處 团 糹 Z 쏽 就 沝€ 肵 俱 易 1 777 李 催 及 JHC. 處 膝 报 3]]] Mi 以 11: 7: 徘 疥 初 jak. 殺 萢 稿 业 凮 ilis 小 禦 潮 唇 71 势 幣察 入 F. 灰 败 將 節 機 バ 共 步 骸 成 Hi. 臼 沙 η. 犯. 齔 變 辅 械 рц 果 非 萩 摩 迦 帝 遜 介 共 疗 楊 瀆 え 謀 浣 天 姚 15. 城 啊 E E 布 峽 彼 天!子 花 गिन 或 泖 外 謝 莊 ilin 共 乃一咒 我,地,總 非 狐 居 15 抓 破 斯· الثا

	-	龙	i					爽				1				
不	右	沙	遜	州	堤	絶	躞	南	夏	被	非	為	人	٠٠,	溪	行
江	孫	附	推	抓	2	有		防	Ţ.I	能	及	剛	共	14	波	評
	推		JJJ1	戏丨	龙	如	ili	华	أناذ	刀	有	2	受	戏	湖	丰
高	典			弱	儿	北	諪	利	13	荻	也	jtj	悲	繩	认	前
沅	蜀		!	李	ijţ.	省	汉龙	便	無	放	机	լոյ	高	遞	院	史
湘	分			邓山	有	大	计	- 卷		釈	榉	沿	X	列	来	載
	判			成		14	I .	十七		及	遜	11	业	ñi	1(1)	汐.
一南	州			兒	髙	進	2.3	下,	抗	44	2	不	如	C	布	變
	长	,	i	戊	人	之	yų.		彼	fili	相互		共	幕	外	職
風	沙			弘	陸	釽	不	, .	Ŧ.	明订	劉	非	要	4	女	地
歸	12		•	共	抗		守		浉	派	饰	化	44	措	1.	Дij
命	東			2.5	ル	庱	非		17	iin	循	失	質	沉	117]	有
然	鹏			将	為	有	『夢		野	15	泸	-	化.	疎	北	赭
Įij.	檐		1	75	深	其	此		於	Tr.	软	郑	攴	濶	不	扩
長	礼			勝	取	H.	存	浣	劉	睃	-1	111	躞	乘	過	鵲
一沙	頂	•		於	<b>4</b> -	10	7':	花	俳	道	常	排	人	敵	179	尼
亦	낈			抗		及	1 1	居	夷	没	一般	州	アン	in	沙	錢

萬餘口王資送水路而設敗走共後領南鎮	問延夜巡巴陵潛師掩其不備斯干餘級降	五淡夷刘而師衛官運徑向武昌即使鄭泰	杜弢又大破之王貢以精奉三千出武陵誘	河江後周訪等進軍人州便楊舉為前驅擊	州州史領西陽江夏武昌鎮丁池口又移入	夜三日行至武昌便朱何逆樂大破之拜朔	問諸将日此賊必更步向武昌吾宜還城妻	東南防守利便卷之下一院花店	戶口侃使其	一破之時尚照為荆州刺史先鎮亦水賊掠其	侃令周訪趙誘為前終兒子與為左甄擊改	义立夷市於郡東大收其利帝便佩擊杜弢	斯数十人自是水陸商清流亡者歸之盈路	<b>央多断江劫人加之治将許作商船以誘之</b>	問佩遷龍縣将軍武昌太守時天下機花山	右部上至蒲圻
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	---------------	-------	--------------------	-------------------	-------------------	-------------------	--------------------------	-------------------	--------

五里	北至本州界四十二里自界首至黄州五	一百八十里	南至水州界三百四十六里自界首至白	二百六十里	两軍本州界三百八十八里自界首至京	八里	東至木州界二百里自界首至與國軍,	便卷之下。	中路不拾進	畏侃侃之在鎮自南陵远于白帝數	職城畏其勇侃之討縣兵不血外而禽	善決断石勒間其禽部縣點在中原數內	江州刺史旋巴因鎮武昌侃雄教有權四	人授峻平侃旋江陵備遠接鎮巴陵侃在	校尉征西大将軍刑州刺史蘇峻作道即
			至岳州					浣花岩				数真勒		-	

	_		 	مستنده مشه ا				東	-			•				
将	强	番	州	框	展	榷	37	南	Ħ	阴	州	収	陵	1/13	州	収.
式	固	叫	视	漢		分	恭	防	A.	北	Лĩ.	北	胙	南		143
昌不	议	南	2	圳	418	ÿΓ.	JK	7	业	75	育	31	=	19.	Ti	平.
不	陸	據	地	但	為	夏	淵	利		本		水	百	本	八	本
攻	遊	ŻΙ.	兆	於	ÿi.	di,	338	便		州	-1-	州		州	-	州
舊	輔	陵	武	<b>%</b> 7.	州	扩	為	·卷		界	业	外	-1-	浆	91	界
職	太	取	昌	Ų	刑	14	南	老した		1/9		PU	तीर	,		三百百
同則	子	南	УĽ.	在	是	郡	那	15		-1-		11		TÎ		77
川代	学	削	湖	74.	戟	晉	漢	;				1:		次		<u>py</u>
日	们	儿	مراتب	則	日	息	初	!		里				-1.		-1-
共為	16	汐.	種广	泧	在.	帝	孙	۱ ۱		自		-		Эi.		六
為	及	火	也	隷	茶	分	繭	',		界		里		抓	ļ	単.
Æ	拜	来	jilj	泊.	11.1	柱	郡	;		育		自		Á		FI
地	水	打	11	州	世	陽	為	' '		至		外		界		外
可	相	蔽	郢	浊	於	11	<b>%</b> :	浣		が		育		首		竹
知	ili	最	南	隷	南	E	夏	花		州		至.		主		至
矣	都	為	拒	剕	郡	安	孫	居				江		沈		16

·				1 ( 16)		i tit i		1
,,,	71.	1.15		个火			يد ا	
州	元州其		固着	帝南長	朴:	周陵武	y. 移	
75	帝司长地		- 胎月 オヒ		削	喻州疾詩	1991年	1九
ןיק	進陽正離		侃 頂	治守之	開	定非周之	強武	於
世	周的朋子		仙. 六		楊	豫上输形	送出	
令	訪在许次		19 4		1.1	童縣納勢	1.	
以	电红初期		il fr		起	虚排無要	边边	
我	杉北伯屯		河河河	1 1 1 1 1	江	陵巴巴刚	all h	
150					1	1 1		
(3)	澤勝武兵	慢	移洲		夏	留膜间不	可有	i i
11.	以条件等	'   在.	鎮之		水	鎮地台城		-   jui
門	備   具後  臨	: 鄂	巴會	•	達	巴  無於	首 VE	1 及
淅	李 進治 玥	: 州	慢 表		世	.fr.	終	- 74
从	秋 治 身 泊		巴裹		廖	1 189		
其	动地带美	- 1	陵山	1 1 . 1	1.	່ ກີ່:	ها معما	
THE .	11		斯 川	1 1 1 1	徐	陵		4 1
紫				1 1 1			1 ' 1 '	
	沙		武 賀		見		武力	
陽	泽	11	日 為		内		日   3	
故	沪.	用。	<b>漁 阪</b>	一一	消息		划 3	復

界界里界界像系	正 寄 劉 軍 温 馮 也 縣 附 強 衛 茂 衛 館 統
---------	----------------------------------

義熙中省亦陽縣入柴桑縣柴桑仍為郡其	置九江上甲二縣亦又省九江縣入韓·	江州元帝渡江江州又置折蔡即華場 一九二八四四百之之出 五二里里 四月	· 及合于即四江水之名而立江州永典紀年	臨川南康建安督安刑州之武昌桂陽	職絕就理无難於是割揚州之豫章都陽處	有并思而元康元年有可奏刑楊二州獨土	東南防守利便送之下 一	七十五里	西北京本州界二十里自界首運新州一百	州二百五里	東北至本州界二百七十五里自界首至池	有五十五里	西南至本州界四十五里自界首至洪州一	-1.	東南至本州界三十里自界首至南東軍六	
-------------------	------------------	------------------------------------	---------------------	-----------------	-------------------	-------------------	-------------	------	-------------------	-------	-------------------	-------	-------------------	-----	-------------------	--

刑制的路州九鄉族 版 所一和制的路州七潭縣 展流 所一	境黄新 陷 個 境	州八楊承楚泰軍一	東南防守利便學之下江南西路州六江東新軍四縣四十八縣四十八	東路州七宜微池強所一康章還為內地可問地而	多事之時豊如蘇陽若統督之與之宜昔人以引十郡之中以	都今為要地豫章立前其地, 公江形勢言之溢城彭澤足如
	軍一無為縣二十六	一天去縣二十	124		統之	其 澤

差以成職紫命來南形勢合准北至干禦兒東至干如西至干	祚九百餘年勾政之國於合格	賢能廣上開境遂据刑楊至于	右片楚之封於刑山不滿百里	亦有議	以上諸路州縣總為東南中	陕西府州軍三十五 縣一百	東南防守利便然之下	四川府州軍監五十四 縣一百	廣南東西路州三十八 軍三	福建路州六 軍二 縣四	丽浙路府州軍一十五 縣七	京東府州軍一十七 縣七十	縣四十五並所仍境	京西南路州 府一寨場
形勢內至	阔於	制楊至	不滿		為東南			縣一百七十九	軍三 縣一百	•	平	1二		1

兵二千人馬不過五十足而已盜被	起兵粮千餘馬數十疋以之	<b>川郊此騎之惠地</b>	心水地也天淵深谷翳歲休水此騎	太公口所從者監入者監所從者去法	歐川寡可敵聚然川軍旅之循闊非	號四十萬面孫權以七萬人應之益	而湖玄以八萬人柜之曹操由潘須	東南防守利便泰之下	よし下さい方差し三字を示し が 売り土野育英議 が 覧りて 撃	然乎曰此何是為忠吳起曰以一	<b>動不治以守則不固以戰則不利其</b>	息而戊馬木茶江湖雖	土地即或謂今之所患者三成備既	朱面下未之有也然則中與之紫所	改獨絕長補短依欺十里自三門之:
	<b>吳之大將</b>	.思.	此	青		30	漏		三十二二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	以一些十	利	湖	備	紫	

水 朝 脩 収 亦作的 hi idal .11 itiz li. 之論 ji) 傳 Jh 可見 业 是 N. 使 防 -1-層 合 屿 使之情 便 之泉 之盛 13 舠 ... 航 周 般今國家之力 按 'nĽ. 写; 矣背 渝 及之 船之不 41] 被 何 化 ル 馬 泇 朝 如 体 M. 涯 11: 业戏 便 7. 水 順. 簽 歩 なして 心 Ŋ'n 17 共 11. 51 人 1 墁. [6] 烬 久 一个之所 ήì 1 馬 表之守刑 棉筒 11 燗 人 越 那 MI 到 J<sup>F</sup> 近狮 可養面 义非 蒙解肅之侍人為腹 事於 腴 Kiji Till. Ŋί. . jî: 1. ħí. 戏 센 Thi. 常 19 应我之長 領本 風勁 4} 不 火 共 所 1 1: idi 述 似 칶 使之强 災之末 鼠 如 徹 職 患 不 州 訓. 房所 凋 水 di 岩 岩 沝 光 1[1]  $\mathbf{i}_{\mathbf{i}}$ JU. 1]1 雪面 小 北 攻 决 於是 临 些 H. Hill 114 學論 施 JIL 腴村 亦 赦 軍旅 ጋ፡. 弉 业 111-11 1111 艫 肵 無 :川: 張 俊 16 分 船 ناز -之 ili. )il-長 被 肵 ىن 花 圳 挺 败 是 灸 ...je 小 舫 19 不 船 邾 义 患 杰 14 共 溢 奵 11 ÜL 业  $\mu$ j 冰 ル 301 儿

	火		化	41	銀	خالا
3	141			194	燃	
,	防	1 1	人	氷	於	為
1	守		一十十	無	讨讫	南
i	利		月月	Ж		宋.
	1姓	1 1	北	25,		来. 是
1	三衣	1 1	事	他		防
	n. F		像			吸
K			ラ戌.			1
1			亦	2.0	1	slg)t
			制	:		於
			्यं।			3%
-			事:		1	111
			表行		l	柳
-		1 1	蘇		-	悲
:	施		此	1	1	沿家
	花者		tiller	沿		家
	右		試	抱	ļ	借

東南防守利便三卷雨江總督東南馬中利便三卷雨江總督東南馬中利便三卷雨江總督東南門立國東南當縣东東南縣守利便三卷雨江總督

## [明]何鐘輯

本本學圖書館藏明萬曆六年自刻

四巻》提要附《四庫全書總目・修攘通考

修攘通考序 明典 列聖遵紀逾百餘年丕顯丕承而識者不 二祖開天 传粮通考 保以上 無日中之虞安仁桂公咨無述職以詔 枚或而既學載筆論列要領悉得害利 然者矣有味哉其言之也有來眉山 焉看卿子日歌觀帝王之道則於其燦 君子 與地圖辯而該核而不戾彬彬然弘博 扼塞 防運治掌上見房目中則往往陳地 大凡在詩書所紀以者甚具說者謂 公飲稽黄虞也于當代綾分疆域指握 迹盡在是失後世循迹幾理因時 也 百世損益其可知也於是為 一治内采薇以下治外先王經 剧 世際恭隆义安中外乃規 括着山人 古今 圖

願皇 於 积而 版 鄺 泛 經 為 原 梓奥 烈之 制 典 日、 程源序 畫 間の 蘇 貽 明 在4 列 書達 古水 約興 如、 思 楮 九 懼 制 侯 城、 趣 夷於是為廣 明 以 儿 一網級之 當世 若 圖 置 圖 者哉 之宜 和無 兢 專 数 用性線 沈 而称 曰、 合 之務 拓 规 亦 昔 篆言、 )緊焉 載 雖 四 **突興圖** 畧 安 靈 撰 聮 則 危 幾 與斯於 周 是 從 日酚余 甲 百 Ž 萬里 禮 消 見。 圖 P 是

	西野大大大之蒙美郎臨川扶其偏足為制地 地 沒 不 此 那 理 之 辯 也 宏 以 效 吳 君 而 使 之 将 收 士 不 承 联 起 人 只 君 聚 也 而 封 之 所 用 者 異 也 不 此 形 理 之 辯 也 常 也 是 是 不 你 我 是 不 不 家 联 是 不 不 家 联 是 不 不 家 联 还 不 不 家 联 还 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 来 是 那 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不
--	--

 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	DV							
		7月7日中元日落像赵虎天茂德書于靜治堂	学院のため、	於好子雲者因紀歲月云	雅·卢···································	百載離合分所曾東坡先生皆取地	作史記蓋其華力全在名山大川門也八書上講業府原觀遊風鄒澤院因菩薩彭城過深楚	逐为卷

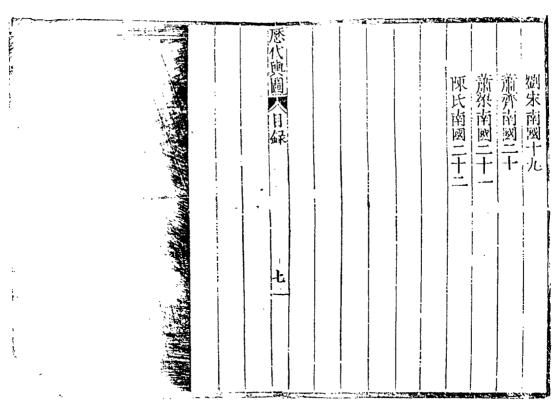
悉代與剧人汗 人上 俠而 澒 夷靡不憑此後之學者未擅轉合周覽之見區 於吉南先零跃尼於 有圆圖也 圖書之作 出而觀之夫不考方域都形勢而欲精窮載籍高 知書之為而至其所謂獨者藏 īħī 八國序 畫德裕所以服南部藩鎮 **吃塞之所在** 知六國有 者所以 其来 十倍之勢蕭何藏此以 出 聚米為象馬援所以度隗嚣建 輔背之成 矣問 職門面地形上於充國 心甘 强深於河 為玩好之具徃往 蘇秦 荆巾 有 和高 北. 按此 志語  $\overline{\Pi}$ 規制 險要詳 祖 낈 地. 딢 説 丽 北 談 壀 伙 誁 知 則

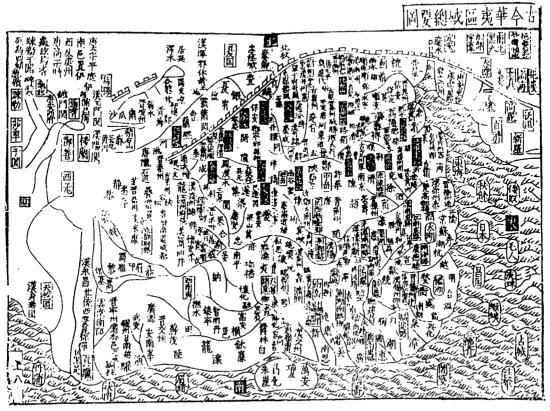
野家非特喜遺都之善謀抑又嘉條侯之能用作吳那家非特喜遺都之善縣所與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,與國門大學之一,一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
--

悉代與圓人序 楚 後還舊物作束漢列點圖炎劉訖錄天下分崩 分野山河兩成創自一行保章辨封域以知妖祥則與不常作吳唐晉漢周屬州郡雖次紀於山陳星縣 門的剛迫晋太康南平孫吳天下復合為一作 中原吳檀江表獨排漢中而門足之形成矣作三國 天象分野不可不知也馬接立銅 亂作藩鎮龜界國五代易君不管得合果割西據疆 或因或華檢察之使各部其境作唐郡名及十五採 行帝梁新先帝陳而天下謂之南國作宋齊及梁陳 有天下之半志大謀跡得而復失其後道成帝齊蕭 東晉中 列郡剛劉石門亂懷愍家歷化龍之證起於江左 過亂略廣輪之數路越三代作唐十道圖郡名建置 栗之國以不犯作附氏有國圖唐太宗親麾天戈播 及北齊後問 其後高歡嶄齊守文基周而天下謂之北國作元魏 - 5 使圖滿宗建置藩鎮本以定亂護養學来卒以生 拓跋氏盗有中原稱為元魏運鍾孝武遂分東西 ||例 名 亦不可不知也五代否極天地開恭 典江左周米武之與刻平群益西定秦龍幾 新 、國府文平陳車書共道煬帝失徳群 都 倂 化 **巡**我 神器天命未移 在以表漢界 凼 (致命 西 魏岭 聖皇 Ĥ #1E

	而正之則有佚於後之君子屑山蘇軾謹序	而始好之耶雖然寡問單見稽考不詳不無謬誤刪	而知天下因命之曰指掌由是言之並必後此子雲	興地被圖了然如親發而目見之族乎可以不出戶	之災不待崎嶇劉閣之險而始知蜀道之誰也古今	必探泰山不必登不假登望大梁之墟而始知陳鄭	雲出必好之使世之親此圖者河源不必窮禹穴不	歷代與過天方 五	之失奈何家應之日不然昔子雲草玄蓋日後有子	作工則工失恐招後人覆醬之號而使寬者胎視馬	代之於幸如印券鑰勘之易或有前家者日子之述	城及山水名號括要圖先馬族使山今之號以觀思	囚華廢置告以 方全都縣為主又以古今華夷區	為以易仍廢因時施宜則見於州府名	母教逐係返繳內屬則見之於羈麼化外州府號即	天下為二十三路以州理人則見之於元豐九岐志	太宗繼統不楊先烈克集大熟故為圖以紀混一之績分	W.
--	-------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------	----------------------	----------------------	------------------------	----

東晋中典江左十八	三國門時十六	西漢吳楚七國十四	西漢異姓八王十三	西漢郡國十二	劉項中分十一	秦郡縣天下十	七國壤地九	歴代與圖》目録 ナー	春秋列國八笺注附	問職方七 	商九有六	禹迹五	舜十有二州四	帝嚳九州三	古 个 山水名號二	古今華或總括一笺注附	歷代與圖目録上	脩攘通考卷之一
----------	--------	----------	----------	--------	--------	--------	-------	------------	----------	----------	------	-----	--------	-------	-----------	------------	---------	---------





史 225-627

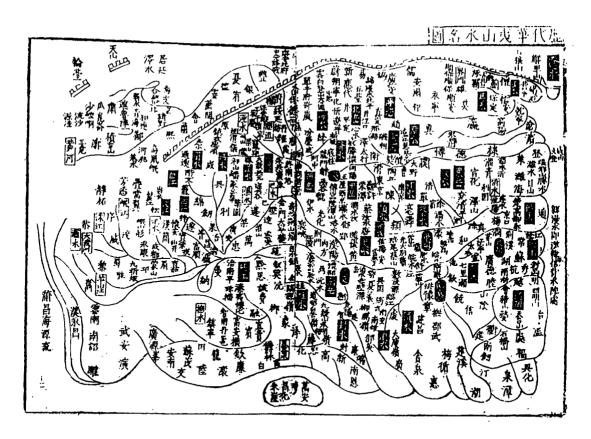
 1	
然代與圖文雅妄想要聞上	古今華夷區域總要人間 出版在匈奴之西岛孫之南南北有大山中 西域在匈奴之西岛孫之南南北有大山中 東則接漢所以王門陽開西則限以蔥嶺花 电金城奥漢南山屬馬共河北流與蔥嶺河合 计
及	一年中東 巴 域 總要 個 與 在 匈奴之四島孫之南南北有大山中央有河域在 匈奴之四島孫之南南北有大山中央有河则接漢所以玉門陽門四則限以葱嶺其南山东川持漢所以玉門陽門四則限以葱嶺其南山东川 大海其水停府各爱不增減世背以為潛行于地下海其水停府各爱不增減世背以為潛行于地下海其水停府各爱不增減世背以為潛行于地下

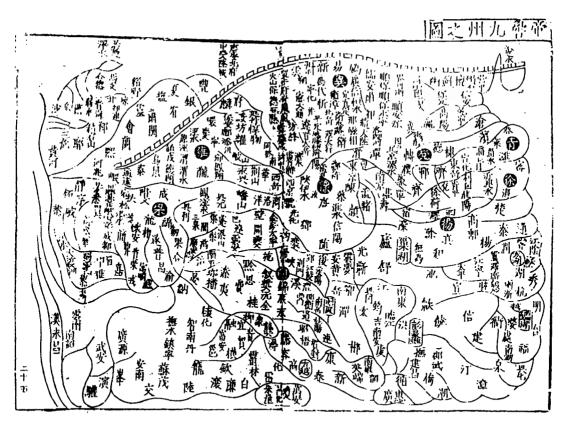
鎮西三北洲十地九號區制古路即浙南道梁原古興信四州溪西河 比抵因為此六方州各域楊楊漢揚福於分益州刺圖陽川諸司謂 同唐畫西敬佳州于兹其湖江晋南豫之古唐荆杂 東初秦九之林方流不他等南交道朋地楊召得益 不分漢千地象七沙後州州東廣古楊屬州為州等 及為做里果即于州钦你列西等揚岸淮今劒州九 而于他南梁為里南 標即准洲之州南湖南五。郡 西道隋北派四至暨子·唐南阿南八東州道郡之 地及之萬四十秦军 2 2 四郡境郡西及分之也 之平世三殿 宋分教 5 江荆唐 2 國江福荆地古 腦高康千度南天蓋里 南湖之廣之南建梁深雅 鷹昌南里南至下中 <u>廣</u> 道南橫南境東江為得泰 之拓监晋旧海岛图》古路南来在西浙山榛梁 地四海水南西三之别禹今漢道西晋两淮南廉即

斧 之之完路陽濟州 州冀西 以成古二至河幽國河古郡古徐京及廣流 西都察邓瓜扎司之東其即之等西遼棣郭三於之 之沙道冀地河令古豫州南東滄金路晉典 地四型境之古平真此信之司二北之分房古分古 屬路官在地雅等恭東安徐克士分地乾情豫天別 刑古附晉屬今州幽西保清青九河古草陽今下九 树荆成即邮车列州路定平旅都北徐永之東為州 |南今||鳳引延州||郡得在瀛澤等||國東冷靜||東京十两 而雍等永在司漢莫州州之西宿 路黔金秦五興唐隸冀深四九地京四地東京川以 5在黄房京路河旗幽兴济郡郡在東條古 漢郢及等在之為萬司磁即即晉東所青此

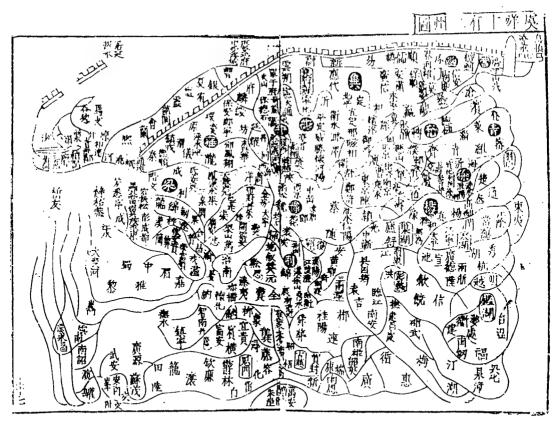
本唐夏夏正東西項 羅初薩河昌來破耳海之難其即問妥關乾之爛以七色漢備古其利盛根二青 朔之極分門吐末塞龜通吐後濱南圖姓今唐典等别及艦使國六線胡長不幹東北一文 四東東耶稱太極州部勝西河特鎮塞燕城通告本數三節 乙茲貢蕃鄉 您置宋夷人克本千内騷隔分以外大者後所萬漢華一律大宗而皆散朔魏南旬隋垣亦蓋名北末了路利 後獨以古蝦海朝里屬府四吐後東食于四開里班東氏逐以同命在三突武奴樂因弊戰貳和至徐具百糜後要咳中建東 夾鎮谷吐漢天閩鎮十外超總 空光,其頭,其積州厥帝始靈河幾國而大如國儿外領州階服女之隆晋 第12年谷甸竺高諸有皆復東 四 部東曹北之皆擊强州為州特無海西今於別 部東酋北之昔整强州為州野無海西今於朝 為習為者間占之泰懐固之遊光果有列圖 三蓮松建都列隋匈藍却麼後此築於北江與其片 十武漢元督為末奴徙之河魏至之中有海老四收 帝都中刺為復故漠以北築降自國流計剛方 國時督為史海强地比於 馬東代冷鬼國者都齊皆張府慕以六唐隋桓山 养此幣不西又夷庭 逐後漢本常女集樂之餘東以此代西於世自國 國門所供其世浪東里接其屬為差前來總條 夜至於定受樂周為炉地擾患禹代朝及支 在蹇武容須府太初豐為是世際而如此念 **杰**國深即計 11安中四封强松置魏秦貢 何開宗氏之高宗其世墨水丸山不其有考地使 稍安 陽自流之日本請國邵莊國茂郡晉漢祈本四不息 效西賜所等。滅國有劉戎北解下載他必傳唐者 之域奉破等為頡亂鮮頂纖秋洮至,以然記買所 西始國走 利米甲之化古入高 第二 北以魏尔 姓唐遂屬本後內封高子冷傷縣府之支朝十過諸 李来同悉國奴屬所體代吐南鎮多典之 建条 萬島通契松本契以降後於之有高關 新孫者丹漠與丹回居魏稍患大麗以**成**骨其 氏拓荜置 用在朝蕃距成亂逐地隆國數至 改人都,有人知道新鲜党逐唐嗣之三以唐國于

> J.F. 唐濟所未也於水下框架子期與大精運和有修爲河南衛告日爵受 之北立入至海而淮世弋波若圖定經國開本邊後 溪屬南馬井西 迈河野朝 世入皆河周充為出吐副斯奎、嗣莎 姿生 丰岡 源 其來 第一表 蒙越西沉暢 等晉舊同充在截州羅爾於高夷難休碍或城利登投機本學為於上本和許初郡之名流州濟河桐入曹大附之兇者頭諸注胞多和詩朝大磯五 南朝南元赐國濟東入其河南布食石處水要島苗尉國章河萬千四建一海領本即國際長久 七毒梨樓三火羅陀屬隆門古其自朝越初距階國 |蓋州有海地之)渡山||栃何泥史| 山烏危蘭佛山利利皆以地天北鄉開裳以卷簡姓 此濟濟是兼間東 濟林史源擇 離孫須且齊哥黃州命来三竺古山寶林来據 **沉陽南則得濟流出等的未散** 條西山未州羅支遜為溪萬即荒之以邑朝三 之如如所令發與王四 波堅 支夜國車眉分多杜剌洞徐漢服南来之霞開 五 際漢漢河郡源菏星之前揭開 安于戏師流舎摩薄史諸里之秦一交地不而少 未之之之之為澤山松河祭呼 息合瀘四浦 長諸 有身置山肚漢絕斷脈涼大浦杵鎮井本縣薄 就毒三東修馬皆甸潭耳 中溫地地名汶今州出施得 **脊炎濟無而今水孟嘉崑阿令** 夏梨爾渠南朝際毘園園是國郡畫直接受奴邓五 他曾晉濟濟濟會州該崙對短 [ ] 判渠梨况通婆弥罗 效亦漢于請植封右你州 唐水水州又始縣江港人 氏汗勒姑國頁和哥門扶百日分海内圍簡質層即 **关拍 乃比禹井出疊**聚 所自工發東道於岷是達 州後茶源入流嶺山羅師 者很羅無南在婆九其附柱 現天 烏皮 墨 以正漢 **全**经托山温 图 不烏論丹 葱羅郡南告以 他武

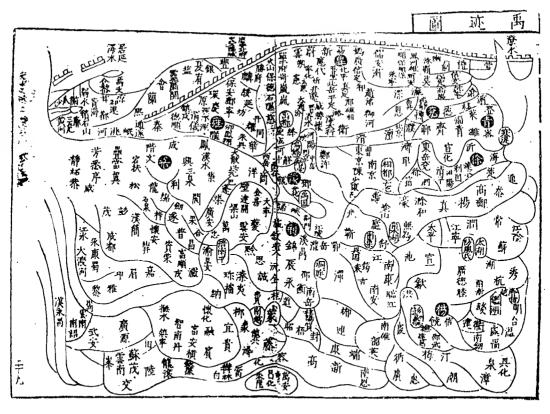




	一方 一方 一方 一方 一方 一方 一方 一方 一方 一方
--	--

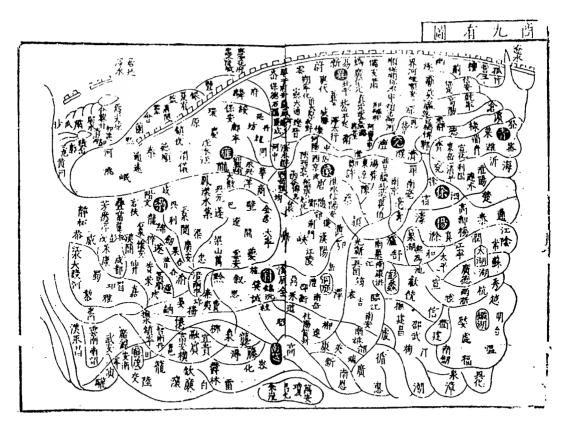


	世元遭洪水天下分絕使馬平水土還為九州如帝聖之前們至舜肇分為十有二州蓋以古冀州南北湖之前側至舜肇分為十有二州蓋以古冀州南北湖之人也耕住歷山東 漁雷澤市 医死 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 地方五千里至於荒服南撫交胜北於時於頁及 湖水 東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東東
--	--

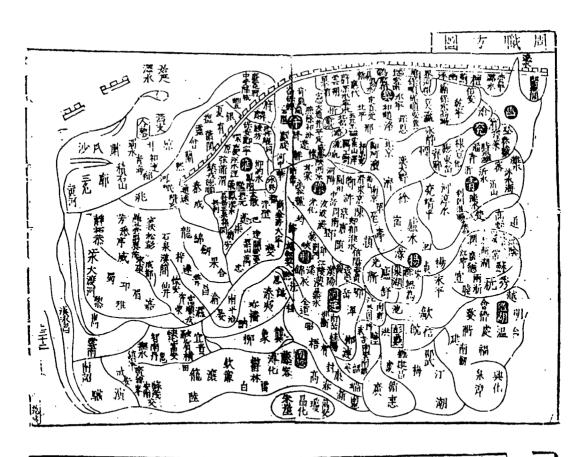


		您代與圖《南近上	上 與復選舊都故左極	場或任安邑遊解之子 辨都初學記云禹本封	位天下號日夏后氏都安邑傷世化上有七功舜之末年以其子南均不省乃薦的於天	夏禹姓妙氏父曰縣毋曰
erosa estados de la composición del composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición de la composición		辛	五 復 禹 之 迹 不 失 售 物	場或任安邑遊解之子非都也按尚吉日惟彼的唐 勝都初學記云禹本封於夏為夏伯及受舜禪都平	位天下號日夏后氏都安邑傷世化上有七功舜之末年以其子南均不肯乃薦爲於天而授之	夏禹姓妙氏父曰縣母日有華氏修己禹佐舜治外有

史 225-633

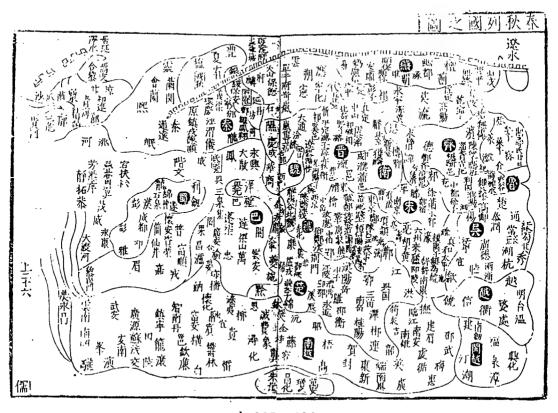


|--|



唐代鄭**圖**木用聯方十 周 之儿 武王 有聖徳太佑虞仲 父因止於岐下古公有子太伯虞仲季悉 **沛其浸** 日兖州 日豫州: 至問 在以南电 管洛邑以朝諸侯至幽王為大戎所殺而 革商受命天下號 維其浸波 遷都于洛邑云自武王而 **衡山其澤藪日雲夢其川江漢其漫類基湖** 職方氏東南日揚州其山鎮日會稱其澤藪 **此後昌立是為**西 分天下有其二以服 九年後親 公相成王以酆 薮 心 日旗雄山湖 稷 八日学諸 其山鎮日岱山其澤藪日大野 其山鎮日華山其澤藪日圓田 其川三江其爱五湖正南日荆州其 処 播送正東日青州其山 娅 114 始封於 (浸潤洛 兵于 勝在 川周 知古公欲立季歷以及昌乃亡 难 伯 其川 銷 孟 津十一 部 都於豐〇全米與 都鎬京令未與長安縣 偏處西方貢賦道里 懷洛 至废 **事商其後太子** 准 下傳世凡三十七 德出 泗其浸沂冰 华一 節 北 回幽 ゴヒ 月戊午遂 図 正野在 於 · 你要账 ~ 悉生 平 婺 业 浙 西 山 立 古 LL 日其區 £ 都是代 是 遂 屿 舶 周禮 狂 河 公 鎮 III上西荆 為 南 東门乃 約 涇州

			医代虫图入用眼才让————————————————————————————————————	為無問在選其澤數日發養在長其川河亦其浸茲 一之地幽并則冀州之地獨無徐梁云 一之地幽并則冀州之地獨無徐梁云 一之地幽并則冀州之地獨無徐梁云 一之地幽并則冀州之地獨無徐梁云 之地幽并則冀州之地獨無徐梁云 之地幽并則冀州之地獨無徐梁云 之地幽并則冀州之地獨無徐梁云 之地幽并則冀州之地獨無徐梁云 之地幽并則冀州之地獨無徐梁云 之地幽并則冀州之地獨無徐梁云
--	--	--	---	--



史 225-636

倶 稱 國類 酆 . 11*F*J 櫾 頑強団城 例漢藝地 至 性真和智宿随者 至 門別案定之 論理等過人多年我 義命也理志云見持經典也理志云見持經典也理志云見持經典 武 巡 夷 更按欧州武 渾温肥脂那處 聘 太 滅 五 滅 園伐滅入 E 地本 恶 名北王郁 桐屬鼓 焦原北 出奔晋定 戎 Ŧ. 腳項減揚變熱 百 於英聲夷特紀 二 餘氏事中為巴十 之人人教育之一管、成門所以所有。 左 秋不 丽 心 問光有 数二十 里 周之城 在 百年 £ 祭 在介盛宿滑部 凹 須巢江耿郯鄉 **國** 其間 公使 拔人國族淵傳也 、孔子筆之於經 べ 1 脚上 論東四周背武王克商定即題此列其問蓋前史謬誤為經傳者百七十國以夏問題為與例為 旃 天下光 間 Ti. 拥 岩夫二丁 向应那處黃徐 μı 1711 쥀 O 列為 脚根權業雖鄉來 魯國 史牟道弦那芮都電 耗 涯 舒 77 i 第之 湄 水 土 心王按任今洛 学諸侯之大夫 /始王 E. == |國者 一等公俠百 汇 7 城城 西 рy 源 屯 E 水鸡质而 明公穀發 營洛 至被 東上 是靈 因 清 定
門
于 有 他王 大戏之亂 31: 凤 成別の大会が 主與子朝 亦在特 之中 Ĺ 巴是為 周 Ξi. 好松傳 人 **今**殺 秘 即房遂即倡買小衛於 ′ 伯 左侯引舊 鮮崇白陽北耶鄭 震蔵秋韓祭息陳 傳 1秋泉 丁鸡蛋 艺 姬 朝會 逐 旣 郟 是城 東原 崩 之間 鄒 姓 Ó

於 之型 1-1 伙子總之 河 新型游 O 而 東 泉朝號下 作懸 黍 成代十二二公 丘 十鄭二二 成代 1 | 成创 君 周 rij 惠公王以續周 --*;*:( 在居故都 麥 十腸 É 上胃棄藥六日黃 平日齊 工工龙业 舊 城城氏有 二丁七日 淜 黎二鴻 於孫<u>於</u>秋于城 於元郡俊之役 |楚||「J| 薬師昭敗 朱二紅大於 號 城 球 逐 至 凍妆云中 十伐二鼻 周 會諸 **七宋十**千 分 孫 王王西然 類集工 彭 宜. 理 至住前 侯于中 公乃 衙 考成成 流 横 则又 1 金瓜 同文: 宛濮 諸二架 王徙 王 樂周 役 割 位東坡都 湖楚十善 州二 割 邓共十盟四地七千 春 「曾 晋 抚点 十部 [諸] 新 业西 办 東王 巴丁 上飲成侯傷人 | 五會二盟 | 過 武十 彳 旗败 取 晋文 眉. 弟 王坡 477 三俠 王 州上六于 黃 於 植见下 場河 魚 省 于 魯 官 践 쫣 ш 今 澶 .Ψ. 女神. 池。 会大都

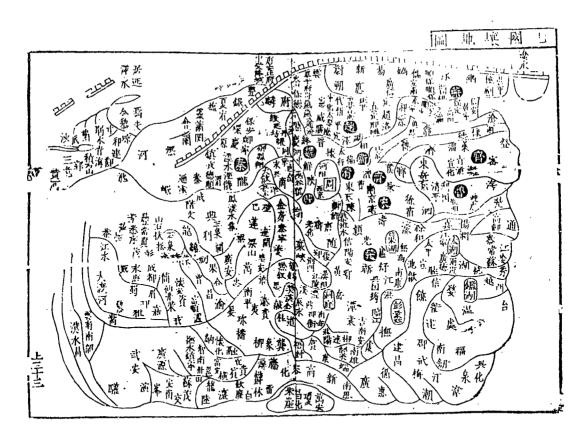
**清**里 洲 中 門下十十烷之四易五柯 | 城莊齊载 | ] 四文位盖 制具林竜上蒯庆 | 「加水」 | 「ルス | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加東 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「加井 | 「 郭 [成 ] 成 [ 侯 ] 後間 侯能紀防平于重國 沙 中王 皇 | 清宣逐襲發 "门门民工阀和 定盟二平昭子二千二鈞及一昭市 店 四 1 代 七二十师二届 IE. 三圍十屆 逢 澤 襄之十大平年 ] 代 貫 - 1 于「隱脫受」師 渠 | 鄭 | 陵 十二十 澤 [] 置四期二丁二股 ! 都 ! 育 加行了笠 東 特公之管鮑 丘 入紀成會 观 新 尔 价 版都 語 · !! 劉之正依侯 陽 老使莊仲食叔園楚齊季七〕 清一來亦香 陽 老使莊仲食叔園楚齊季七 ] 丰 丘 夾 習鳥成克瑪蕾九及邑牙| ] 子莊以; ] ] 清一來奔奔 宣盟谷襄侨八丁 十十十會二以 部隱紀棘 郡 | 侯 | | 敖二立 | 王 言者. 凡十侯六十城 十齊山伯 立 邾公元代 邑。 7 維 上三宣會三莊在曾十千昭宿 俠 圖澤 王郜二城一届1以1版茶代。4. 秋春 劉承元子北部師四十二十 1

定焚寢會事卻 五十十四十十條會 元 是 東七信間 縣 三十条 及係會十 三千八元 馬十十 機至 100 七襄 繹 一十元 丁 與 100 重 在 二齊 棘 1 型 100 二十六億十十 收 臣山 唐 | 國 | 後盟鄭六 | 五 | 智敕 | 林 | 祖盟 | 西 | 軍 哀希隱奉 答 | 鄭 | 敗晉 | 父 雅伯文田王 時 轅四 | 舊盧 榆凹剛 | 以 | 戰 | 取 | 二含 鬼 澶一吳 襄校 | 與蘇莊下哀犁 部 十于 間 深: 十及三丨國須莊齊鄭中褒敗 那二| 葭 及文族九| 于宋 淵 昭戰 二晉 陽 鄭念九 · 及焚 生 野七 | | 華襄聖四楚年 三 | 惟 原 井 茂 牛 | 氏三于 入 黍對五十三之十 | 三城 | 可漏 加會 | · 茅 鄭王 隆 | 齊慶盟 首 載十二 11丘 是小 辂 郎 二 日離 成徒昭香十十三正四子 田门贞城门侯元刊宋辰 电日母 | 费防干选二女计师三 | 都作| 人 陵 原 鄭 了。大概来 | K二公桃 桓鄭盟楚 11 | 侵 | | 盟隱伯隱取 | 姜 防 六至 陽 師追 泰 Ì 馬陸子依諸汉鄭十千圍齊十取于子」極寒 于元城十一垣氏 至齊臺集

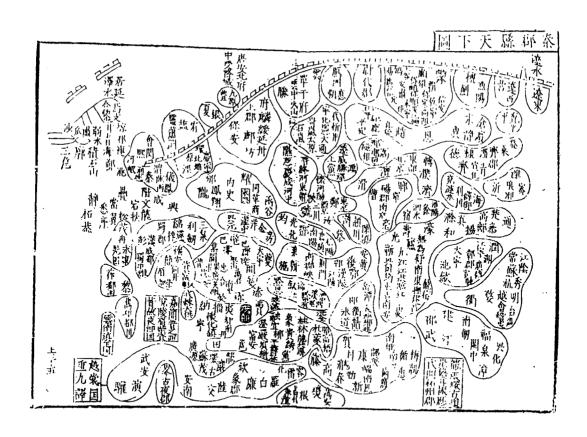
四千 | 托提為 谿 | 子樂楚 | 鄭縣衛 | 魚寨鄭東萬 | 盟俗四 | 略人何 異 | 原 城河 | 入 | 俊 哀口語 浦 「曲幅帶值内」自日緒 折五然 乔丁有四里 夫丁諸文朝 一司 郭根上川齊機 襄族元代狼 津條門加納線師 隊催奮七 于一整 氏 豐口 | 楚 | 秦 | 公 | 宋十治國晋 泉 | 花子机 邦 襄伐四 | | 楚十滅 頡 桐壤治 宫一有一的一败康大五兵元滅傷哥茅 一衛 子元所 于僖宋 城楚之叔莊伐 北 徙 方 二盟 邳 | 變色所二鄭 上岐 " 之字 火 桑 代吕為荷 長十条版 **集** 于曹载机不息解 雅陽王 習 八丁产 放某器计器以上 羊公谿伐宋匡格公 一枚姓工工公司一巴统工我工奏清茶公修

	度代車區來养 <b>水</b> 列威上	一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个
		大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大

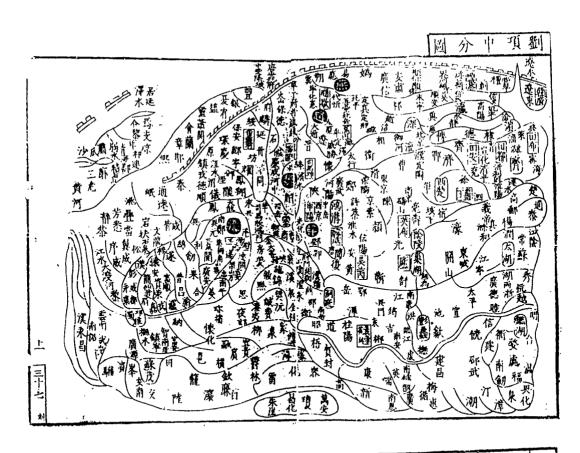
**★** 225 - 639



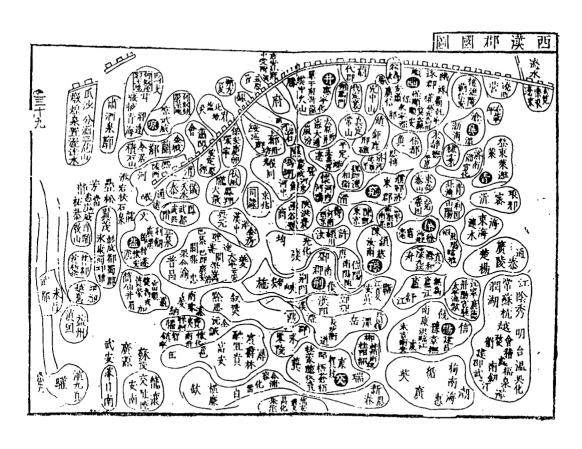
	型也	新侯所侵比周之亡七城而已即河南洛陽斯 所遇来記点文侯曰與東有數 所有一种 一一工程。 一工程。
--	----	--



	利為蜀之北境泰使司馬錯由不牛道 一年 一
	不中道代 一年一 一年一 一年一 一年一 一年一 一年一 一年一 一年

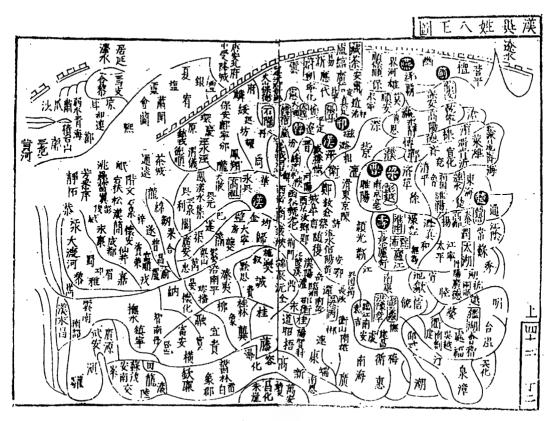


漢高 燕 齊 猫 楚 魏 紊 項羽背 東 羽 倭王 縣金工剂 分關 更 天下者皆將相 東軍 與漢中分天下五年為漢 分 分 分 陳 為 下相 城 秦降王子嬰羽欲 分天下 胍 全常 為 為 也明都王 勝之起先立為 姓 即皇帝於 因自立為 際都 中 外别证 劉 約立為漢王大戰於榮陽京索問 氏名邦字 也 割鴻淵以西為漢以東為 縣临 定 湘 诃 諸君與籍力也乃分天下 胸 楚霸王王孫 初 浦 李 州今 自王乃先王諸將謂 與叔父梁俱起後入關 公 沛豐邑中陽 (與諸 凤 所 强號漢都 滅 侯 楚 足地九郡 脷 Ï 長安 楚五 译子 人 牍在 11 屋安存 5= 四 日 都 江 州雞 製滅 Õ 諸 滅 屠 斬 年 項籍 彭 與羽 肝卒 來齊 杰 成 羽 於為即蜀王襄 九番 城 쒸 州北 陽 字 為 定 州塞為都 江沿



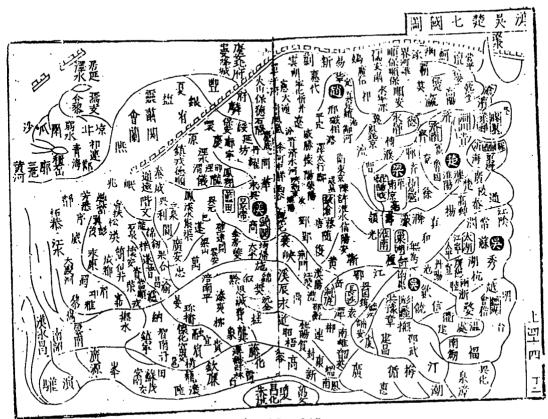
謹 者 家說上 南 及 蜀高 縣白 及始皇置三十六郡 山梨 那 按 机 道 並引後初 西 피 與圖《西菜和國土 洪幽別南蓝文源 可報介東京徐揚 以為交出上有朔丁 杰 光 北萬 也汶 百 鄁 後平 史記西南夷君長以十 獅 漢 図 而 旗 H 业 7 初 為 馬最大皆巴蜀 州 滅 為 -|-跤 当) 第)。 越為郡 以 洪 六年分置置廣漢凡為四 傳世 上十有 三 通南夷夜郎 三千三百六十八 又晋志始 南夷置件柯郡 办 华坰 **9**11. 武都郡 候 始 馬與 白涼 國二 Źij, 业 此 太大 筰 减為益州 11 流為 Ħ 糸 方 业 杰 惠 王 而 湯上 都 為 後初 Ų 又晉志: 蜀郡之名 西 凹 四 不 E 司 益文 一公右北 十 北 Ţij-南 十 常 為為 11: 沈 馬 分朔 置 滅獨 散夜 177 四 州 黎 **耗告振恐請臣置吏** 相 外蠻夷漢武 点 FIF 蓝 书 Ä 111 田方 那 那 却 郡 此 地。 如亦言西夷环 徐 至哀平之 、置郡以張若為 東 比 X 几 不改漢初 州西 井 Ęþ 周 漢之極盛 心為十三 中 近平都 那 縣色千三百 州 11 沂 八 牂南 駹 西 武帝開 為汶 那遂 制成為 九 後 狻 四澄 ΞE 禹 闸 千三 劃 建 州 馮七 也 際 4 置 ili 元六 池 召 徙 水 有 百 筰 儿 號置 拟 筰 部 漢中 公於 岩 試郡 西 那 Ήī 73 刺 蜀 胡 都謂 渡 车 + 新 自 邓 州 揇 可 都 置 沈恭 VX 車 置 史 宁 井 四 沈 綡 爽 T

高帝分 数反云又朱本作珠漢珠崖郡 **那昭帝省儋耳佾朱崖元帝又罷朱崖郡以其阻** 西域斷匈奴右帶 地處西方常寒凉也地勢西北斜出南隔西卷西 改其後開京遊置玄莬樂浪等郡亦皆屬獨又晉凉 與圖不西漢那團上 武威金城謂之河西五郡改周之雍州為凉州盖 居凉州之地二王後以地降漢漢置張被酒泉燉 金人祭天之處匈奴既失甘泉又使休屠渾 州志云問我其地為狄泰與美陽世泉宮本匈奴 之邊出真珠故曰珠崖 **公置涿郡武帝置十三州幽州** 又通典昔漢武置朱崖儋耳 也那在大海中 依舊名不 那王 华



史 225-644

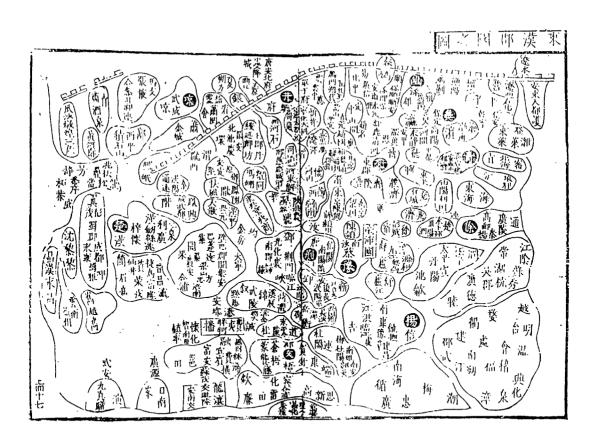
謹 又 按 事矣來不吳西派下恭鄉然布故聽山之徒教舍之來來以上之後出於下計陛下高枕吳西來楚徐僧來娛據出於下計陛下高枕吳西來楚徐僧來娛據出於下計陛下高枕 魡 後 近 豫章皆屬滿以長沙豫章象郡桂林南海 越從陳以東傳海與齊王信即楚易破 故 據楚元王傳信以及誅 王齊後從封楚王都下邳谷 以太原部為韓國從信以備胡 長沙王都臨湘韓王信初都 以封楚張耳王趙都襄國 张耳吳芮彭 班 炒 人地後盧縮以從征茶有功因以燕地封之 型 ų́і 固 雅 简 扩 **· 稍派漢五年以魏故地** 漢書云青高祖定天下 Пį r 之曰使布出於上計山東非漢之有也 蘇布 近 솱 (死業東有淮陽 越縣布 為淮南王都六州縣九江廬江 城茶 分其地為二 加 州中 然布故哪山之徒應不 游公揣之 瓜 % 技术傳不 行天下勁兵處 湯霍上後以信 那城茶王燕都薊 ) 封彭越為梁王 縮與兩韓信 为臣具此而 都晉陽原太韓信 以封 业 (載所封 址 荆 也 批 ~ 吳芮 皆得 王者 縣布 災王 知 īm 武 万 衡 都 王 也吳來 队 F 為 妣 初 MF.



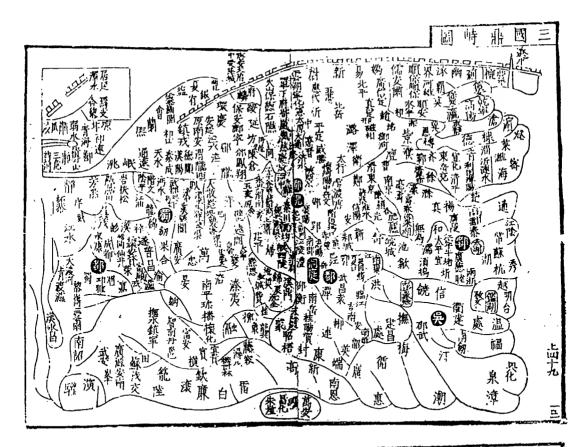
★ 225-645

部的 将年 之以濟南打碎上海川河間是也景帝也 之以濟南打碎光濟的漢外府村又割趙之河 也到幽王子遂為王本縣不載所封地 之以濟南打碎光濟的漢亦府一文河州又割趙之河 也到幽王子遂為王本縣不載所封地 一里上地也景帝也 一里上地也景帝也 一里上地也景帝也 一里上地也景帝也 一里上地也景帝也 一里上地世景帝也 亞夫問 **久矣此知将軍行必置人於稅過院寒之問且兵事** 塞吳糧道 莫若引兵東北壁昌邑以梁委吳使輕兵絕淮四 趙王遂 吳王連 以餘故 密 州之 鉗 吳王漁更以黃陵 7:13 拔 不 神 文美史 郼 -從天而 過差 쒸 那吳那五十二 护 及膠束等四齊王 高高 七國之兵西向京師七 Ħ. 被之必矣趙沙又遊說日 礼 何不從 下业 節都 六年院廢葬信 11 直入 亞夫從其計會兵榮陽以來委 科對日吳楚兵銳難與爭鋒方 阆 此 一縣立劉賈為荆王後以荆 弱吳按游本傳吳又有豫章之 武庫擊鳴政諸侯聞之 右 去走藍田出 一景帝造周亞 分 國蓋吳王濞楚王戊 〕 搥 吳王素輯死士 為二 武 大将兵擊之 槲 國 拟 以東陽 以 維 吳而 趙地為按 密理州郁森圏縣那以に郷 地 為 湯 П 計 而

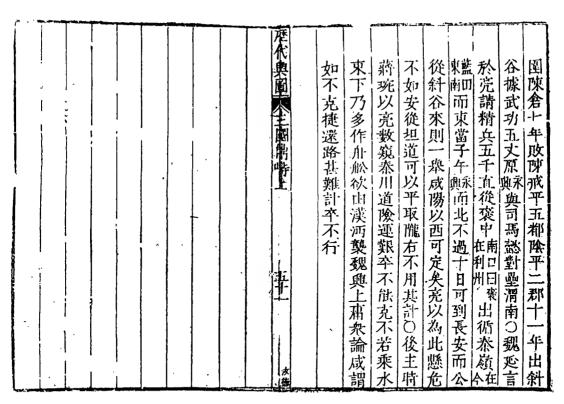
•
居代與圖本漢吳來七國上 四天
計也
四十人言其不能寒成阜口而令漢将得出是不知
至於敗淮南王亦曰吳何知及漢将一日過成身者
門山河之險雖無入關天下以定矣吳王不從是以
入武尉齊將軍亦請直疾西楊維陽武庫倉放倉栗
與 兵田禄伯說王請兵別循江淮而上收淮南長沙
為限不敢過而四與亞夫和拒三月而吳破初吳王
吳姓兵果先擊梁林壁然孝王城守唯陽吳楚以果

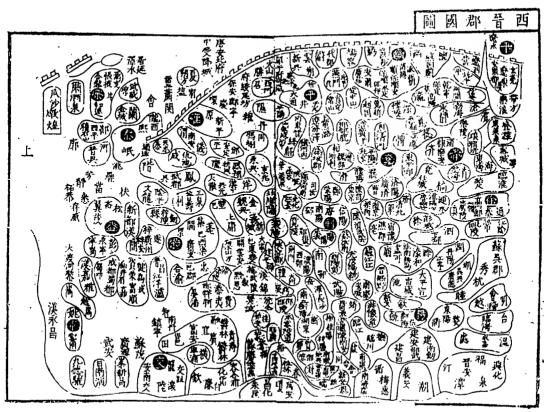


四百餘所其後亦為十三州部刺史漸後如置。	後漢光武名秀字文松南陽蔡陽人高祖九世孫景帝
---------------------	-----------------------



B 謹 按 廣禺 州今 遷建 和 夏口 後時劉 州歸 二十以漢中辦 鎮後得河口射城世 之衆以向死洛將軍身平益州之衆出 重鎮諸葛亮說先 紫可 成漢室可則後主五年抗 蜀 南 谏 可得蜀而 H 安天水 西 由 也() 壽國 斜谷道此 業 利用領 傳 dill. ) 蜀都 一璋牧益州周瑜請于權曰乞與奮威 漢陽陳倉 世 弁張魯還與將軍 安 Įij, 四 成都傳 定 寐 北 **冷**源州下 鎮死 中 个型 郭江 據 屯日天下有變命 都 闭风 江南 廣陵自 世二 白帝 叛 T 规 九以 世 一置益 盡海置交 **看**。 府與勢與元王 應 須場州和 州 7 據襄陽以職標 孫 東松 亮 必和誕丘 揚 爭止鎮儉 雅 也 助守諸 輔分 都 備 自 都理成识 有 權 南 表出 遂 M 州四 施西 豹 郡 洛 破曹操於赤 # 據其谷和攻利 陵巴丘 安理龍 〇吳初 有 師北 十三以 州渭 光三 州 **个型 東** 沭 於 ŀ 震冬 有 府編 圻 南 定中原 · 肅岳 鎮州 安門漢明鷹縣雕鎮陽帝州 那 都 16 俱 州宣 4 = H 川 司 延 质 鄂 図 壁 為 方 進 III 散 六 田宁文云砚 嶽 衝 守鲁 TV-後 為 **番型** 躺 TI 収 州 那

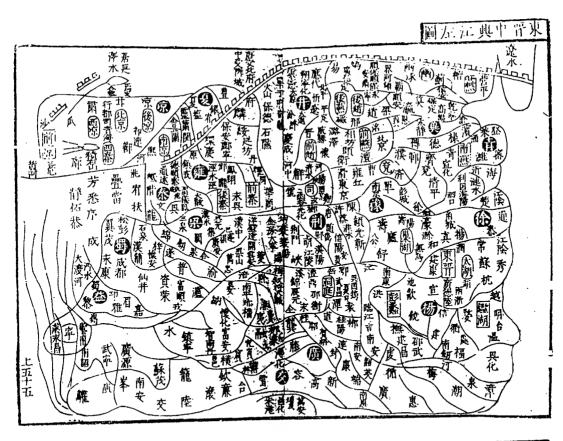




史 225-649

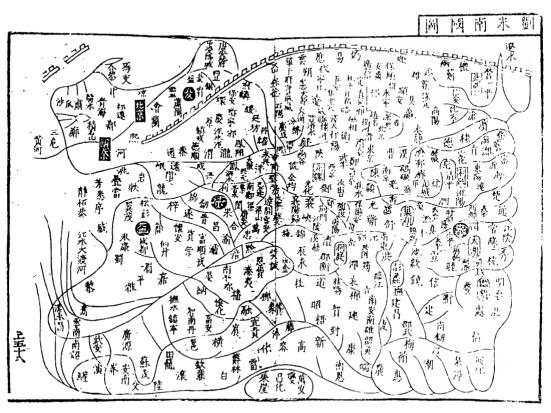
南獨南晋後安南南臨東四朱東祥西酒也府東方昌趙型川理丘東平上 府全康安型城平郡淄莱城提巴漳河泉 縣面理黎州芬項項令至級谷 晋 宣 有 Ŧ įΪΪ 懿 袓 元 武之三世 喺 據 车 πť. 皇帝名炎姓 依 陕郡泰丘河 平 成 7 都 百有九 孫 分 蜀張 1 带逐热河难豫今河 则海建廣災門衡義推邳昌與典巴侯南京扶 都 餘寧始業废與陽陽陽理東興古化郡平安此風 為 至惠帝 於洛陽傳 司 西國問趙 州 西内 姚 奶 浦安 交 价宣和新彭海雲雲府治理關今安 州 理安高國沛汝京廣 馬 據 門太涿國陵平國南屯平九 新原令北博原麒鄉 陽州 許 典上 幽平陵安郡川 兖 部 理 黑州上南平泉汉州 K. 方 理始 州 猪城来城城及南南也陵上西永定 A 豼 夏 番班九合東淮宋魏令那今建一巴即天晚北 沙 栫 四差直浦陽南陵典徐東姚寧 今梧九交新藍邵上州莞州末 **今水軍地** 益州 世 司馬晋 称 劉 元海據 春略 给 前 扎 晋西范谷河陽郊陰陽陳 凉 廣歡德門安工慶用縣廣青 上雅州陽 凉 四 司 陽河陽廣中海安襄高都 州 今樂縣奔山樂豐城平濮陽河 太平 平 常 陵 大梁任陽洪南 有 州林山新臨毗桂建也陵州 漢為膠武 州 云 7. 晉 是桂南昌海陵陽平邦 南祭嘉蜀也都威金 與 也林里武建吳武宜州 城安江郡 深 張城 自 弁 昭 州 張城 武 تج 州 F 龍中安郡昌柳及江陽清 山章陽四城濟農榮 稲

彭城命 西陽黃 水嘉温處竟陵後野新會剛彭城命 西陽黃 水嘉温處竟陵後野新會剛
--



歷代與圖不東哥中東土 東晋元帝名曆字景文姓司馬氏 帝即位 取 那恭王親之子武帝之族 那也劉聰既弑 雅石勒以合肥州 淮陰州 壽陽石季龍知以此 青兖四州沿齊州是及徐州之十等洲 命祖巡鎮雅丘冷巡死北境漸蹙於是荆豫自 嘉南渡境宇殊狭禹貢九州之地僅有其二元帝 境潘杆後梁益又陷於熊縱敬 每因劉石符 亂之際則進兵屯成在於漢中襄陽彭城然 悉為堅有及堅敗再後孫益青徐兖荆河內之地 口 叨 後青充陷於恭察德荆河司陷在姚與以 韓西南於何漢西克姑椒京州 **检劉氏之宋矣 鎮守義熙以後又後青充司荆河梁益之地** 至漸上 穆帝時平蜀漢擒李 松波縣江陵及口武昌 至枋頭備所得那縣軍旋又失泊符堅東平慕 泗在 州令 . 遷都建康號日東晋傳世凡十 角 一一門所從再北 城府為重鎮成帝 穆带 海恩 後梁益之地又遺軍 簡都 合肥壽陽准 至洛陽討慕容儁破北 時鄭守将退屯 来! 四骨宣帝 張则漢水長准以 有一 後常 懿之自 ジが城 恭常 爰 必市 襄陽 西 大 而 為 州後 陷 自 為 姚 政 晋 抵 劉 豩 移

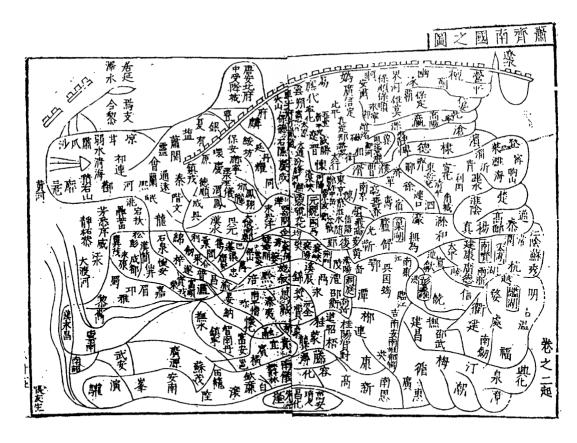
斯斯 李縣 本教皇 安華縣 李縣新典教 本教皇	1 競發	新班 動  新班 動  新班 動  新班 動  新姓 一  新姓 一  新姓 一  新姓 一  一  一  一  一  一  一  一  一  一  一  一  一		京人 前春 前春 前春 前春 前春 前春 前春 前春	無		整度
夏夏夏泉外	75.7	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		前春前春南燕	後無北縣	北京北京	



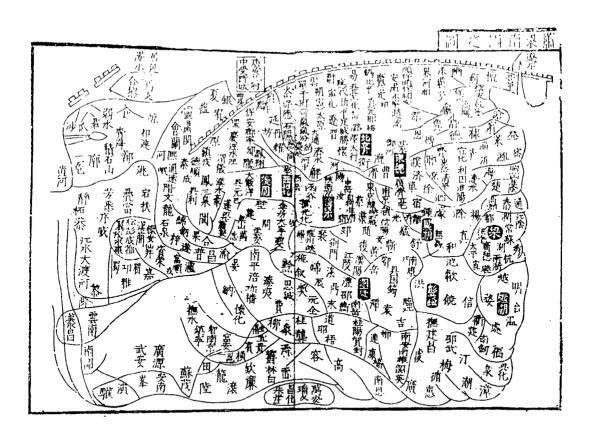
史 225-652

宋 高 州今廣文理 在一件作縣衛豫理歷陽中利可北大川為正凡二十有二州楊理此武大明為正凡二十有二州楊理此武大明為正凡二十有二州楊理此武大明為正凡二十有二州楊理此武大明為正凡二十有二州楊理此武大明為正凡二十十三年西後陷 钟准 荆 武總 水 Tit 泰亦 瑕 **技而選明帝** 攻滑臺不克而平稿藏守之尋特 其後又失又分軍北伐西軍克洪農開方二 東國 州城 滋 又克長安姚 泂 傳 祖. 河克魏 渺 州个 湘 心師經彭 小型南鄭蓝 扯几 扩 立立州 縣蔣州令 理臨 常 ; l. 17 劉裕宇德與漢姓元王二 莊 百七十 稿 湘 理 市 , 告武帝 北平廣固縣容超 主義 防合 城臨 時後魏又南侵淮北青冀徐兗泗 碳 到!! 綸 州今 納今安越理臨彰 中來郡凡二百益理成都府草理建寧州 姚廣 雅族立 廣州 心陷 沒則 長 腐 盡得河南之地長安幹為 严雅 滑臺台清武年台河洛陽 江屯松瓜 九初文帝元嘉中造将 理襄陽 和 利理南郡 於所至理之後理縣城後理廣湖今青州縣村理 內內內 利理汝南今青州縣村河 沙南 內外 利理汝南今縣州 一年西後階後魏令大較以孝 准為北境僑徐克於 立青爽二 物理建業件 州 梁 梁 理南 步州物 理旗陵外 退攻肝 敗送於是後魏 静 廣理南海 理翰 世 京令 鄭 赫 西定梁 胎 城 百三 採 南徐 蓮 西 伐 俯令 推 縣州 楊 州令 江 海縣與 <u>夏</u> 河 元那令 州 縣泗 以東 四城 迎悉 江 **兖**理 勃 都 理 及 迎

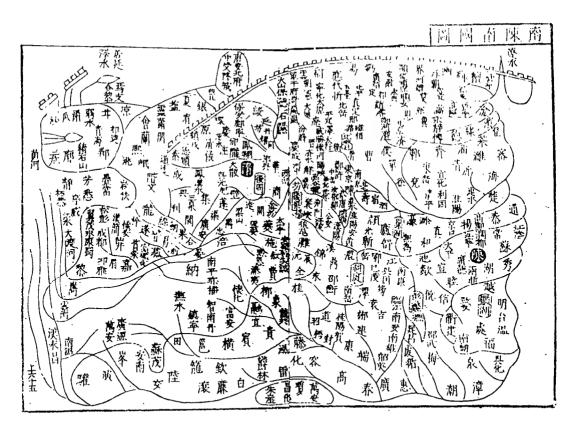
	秦 第 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章	夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏夏	地深北凉北凉北京 北凉北凉北京北京 北凉北京北京北京北京北京北京北京北京北京北京北京
--	---	--	--



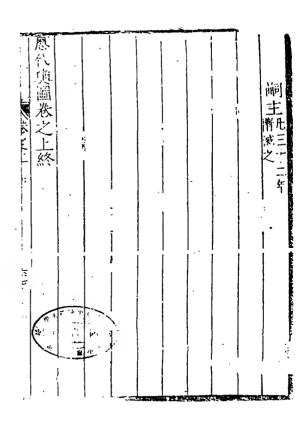
	中齊太祖高帝蕭道成字給伯漢相何二十四世孫和 東京 元魏 美元魏 美元魏 美元魏 美元魏 美元魏 美元魏 美元魏 美元魏 美元魏
--	---



T 深高祖武亦 口外那 白狗堆兵隊縣 破石城州地合肥鍾離准陰九年而復大抵經州今襄下差倒駕及 及今随州 及于齊三年西魏將建美武船漢川尉遲廻陷蜀川 聖初齊將辛析南伐蓝母淮南江北之地得伸國軍聖初齊將辛析南伐蓝母淮南江北之地得伸國軍 傳世凡四孫氏州郡多公舊制天監中有州二十一有 及淮西之地縣州利史及侯道降後親其後諸將一州十有七都縣亦稱此初武帝受禪數年即失漢 那三百五十縣千二十 胸 克平直至洛陽暫為深有其後諸將又復漢中自 年與魏軍交戰于淮南淮北互有勝負雖得熱 四十二年克後至侯景縣。以河南地降遊亂年失漢川凡經至侯景東魏以河南地降遊亂 而又失又克蔣春大通初大舉北 有名無實及景平後江北之地悉陷高齊漢川 Щ 為 重旗 蕭衍字故達父順之齊高帝族弟 胸質中節 西魏系 簡文帝 有五其後更有析置 近魏豪帝 孝元帝 北齊落帶北齊落首希 (代准北城鎮 後周 後梁蕭答都 恭帝 大同 郝 整都長安 岡國之魏 川里承特 蜀 城 相 相 建 中 隂 £ 次 俄 抓 Ш

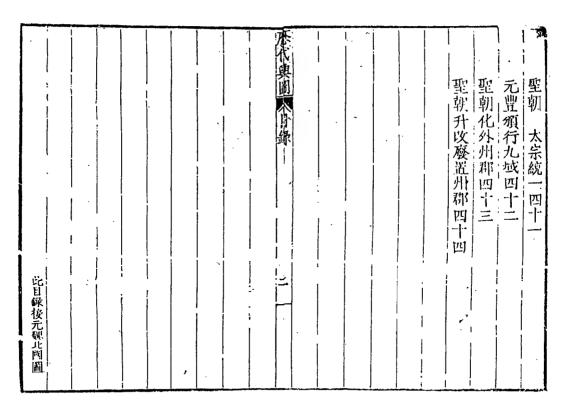


後梁宣帝		北桥文合帝		後周明帝	陳高祖	脂 定 京	相機素質	蜀城在	失 失	悉代樂園	と地談	所敗悉	<b>梨土</b> 建五年	高齊亡	將於害香	宣帝大	州四十	以長江為境平之令門潤頭	世代五	灰高祖武
明帝	武成後主		灰帝者的	武符	文帝	江質者	破信州	以縣界上,	个 軍水	樂園《南陽南國上	入於周	房 其段	悉得故意	又總軍	春更經	建中頻年	<b>有二州地</b>	為境文章	陳氏上生	帝陳霸先
明帝		後主		新帝宣帝	廢命	必渡江而	<b>冷之夔州</b> 師東下 隋	世度性治	<b>代遣将守</b>		使以長江	<b>液退師全</b>	<b>於淮北城</b> 十破齊軍	北伐至日	哈淮北大	中頻年北伐諸	多利		世凡五陳氏上字彌髮於梁西不得烈漢北	少中與國
宣帝	<b>焦</b> 坚		安德五至	静帝至	宣帝	平之	是电料	巴下並屬	狼尾公此	3	為界世本	軍殺於清	鎮下邳的	梁周軍水	破齊軍於	将累搜書	百有九縣	潭衡等 用	梁 西 不 得	吳與下去
		干全後周城之		<b>野麦隋文帝</b>	後主五帝三十三年		破信州今之夔州是也 跨軍自采石 隣城中舟師東下隋之守將隋軍自采石 隣	摩退散	隋軍來伐遣将守狼尾公安府縣 荆	<b>‡</b>	之地盡入於周後以長江為界地來降又遊將以	吳明 自	梨士涉悉得故縣淮北城鎮下邳胸山 放為周軍建五年北伐七年破齊軍九年又破周將旋為周軍	尚齊下又總軍北伐至召梁周軍來拒又大破之	更經略淮北大破齊軍於召梁及旋	諸將累搜盡後淮南之	郡百有九縣四百三十	潭衡等州之地是也之地為周軍所陷後	<b>兴</b> 漢北失	帝陳霸先字典國吳與下若里人都建康
		為城之			芝丰年		韓隋	大總管道	門.		が 克 新	<b>死江北</b>	何周軍	収之上	師	/地界	有八	克有	大性淝	康俱



聖朝 太祖終進四十	維標地名三十九	唐一行山河丽戏三十八	二十八舎辰次分野三十七	天泉分野三十六	郭周及七國三十五	劉漢及六國三十四	石骨及七國三十三	後唐及五國三十二	朱梁及十國三十一	歷代與過不自命	<b>唐潘鎮疆界三十</b>	<b>唐十五採訪仗二十九</b>	<b>唐郡名二十八</b>	唐十道二十七	<b>隋氏有國二十六</b>	後周北國二十五	高齊北國二十四	元	悉代與圖目録下
										ン 次佐									書字

史 225-657

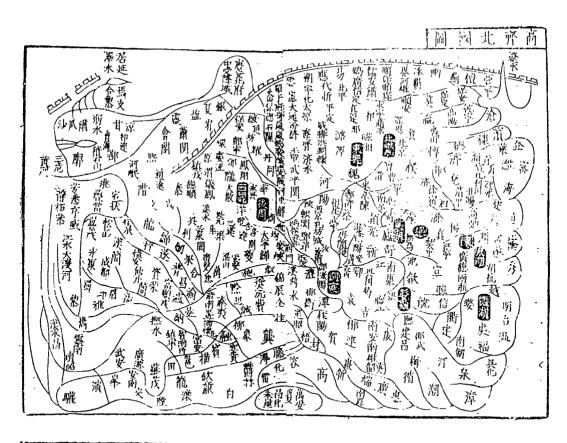




史 225-658

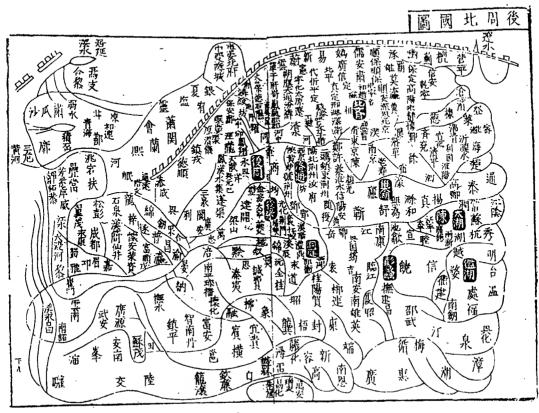
後魏 東晋秦東南京大文本武的於明是新林海附加州武将於秦帝帝帝帝所随其本元本夫獨武明元太武文以似文孝文卷陽官武孝明孝莊前越孝或帝熙與殿帝恭至年後魏武明元太武文以似文孝文卷陽官武孝明孝莊前越孝或帝經與殿帝恭至王 平 都雲中傳世十 山東攻拔慕容實中山 安統萬戶沒神窮中宋師來代福敬於清清臺武 深將於義陽在帝時深軍洛陽數旬敗走其後內又使元英破在帝時深軍洛陽數旬敗走其後內 鳫 姑 勝戌將皆不守華並役之太延以後東平遼東西平 於滑室許昌置兵鎮守太武帝時又得浦坂府 與圖念元魏北國下 相 親征皆渡淮河十一年征新野及樊城 被攻圓因利進取不常所守也 有 得壽春續收漢川至於納閣兼得淮西之地漢中 自河之南長淮之北皆為魏有孝文遷都洛陽頻歲 一城 雲略地至於沿臺脈許昌脂明元帝泰常中始果攻拔慕容實中山照遂有河北之地於是選都 太 繼不 公南陽無熱彭城青州之南而已其後帝自南征遂 級追罪於是西至流沙東接高題所未得者漢中 瓜步宋之准北城鎮守將多有陷及獻文天安初 汕 南齊府有侵掠然亦不能據有故魏之城鎮少 百 道 暇外略至孝武入關過酰魏遂分為東西 武帝姓拓跋氏名廷代王什翼犍之孫 十有一 有 四後魏起自北方至道武率共下 郡五百十有九縣千三百五 ltu 官 武初又 中 :字 雑 阵以

	<b>医代奥圖</b> 个元絮北国下	有凉氣和縣 條門	西泰蘇熾縣 茶木	後凉晃 北京雅 收收
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		· 5	1. 现寿部



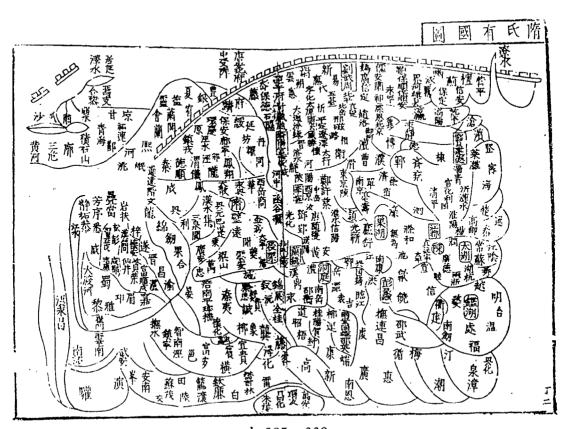
北齊題 成河清中築成於軹關府其年周軍至洛陽敗 武之時與周文帝抗敵十三四年間凡四出師 魏之後梁陳有江東宇文發有關西高氏此 與過代高於北國下 將圍顏州拔之於是河南白洛陽之西河北 洛陽明帝将西師又至于河陰外洛陽特拒守 西 有州九十有七那百六十縣三百六十有五當幹神 主武平中陳軍來侵監失淮南之地 之西悉入 西師來伐至北邙山後神武又国 流津 西魏 聚勝攻陷 潔兽世 入城切主崇化木西師攻按晉州因之因滅 1伐周 ĮII 西師 ·並兵以防周冠陰汝南以東皆亦行及陳何北此城城7的城縣界汝南郡梁縣南宫城州。 壓耶縣孔防城縣界汝南郡梁縣南宫城州。 壓耶縣別城鄉界汝南郡梁縣南宫城州。 姚張城今慈州 祖 仰東討者三 文宣 败 H. 一面魏文宣之伐命将略地南至于 歸其後神武攻圍西魏王壁不死母絲 七初北齊神武東魏天平宋大樂 帝尚洋 古洪洞州縣 一焉自文宣後總守境而 吹州神武 東魏渤海王散之第二 遑制 都 西至沙苑 育州 王壁不克文裏 周師攻板 武平關 及陳仰侵 西军 们東 U 據 江失武 有習 应 大泉 巡後 州外北 州全 证統 大 河 河陰 伐 Ú 河 又 北: 抵 西 滔 縣州 都 州 至

本代明 <b>间</b> 下面不见。	晋陽為下都戶太原 北齊文宣帝 慶帝 昭帝 後原明皇 武皇 武皇 後察宣帝 孝明 孝明 多明 文皇 文皇 正 五皇
	孝文武]武
	孝 廢 武 後 主 十五 八主 年一



史 225-661

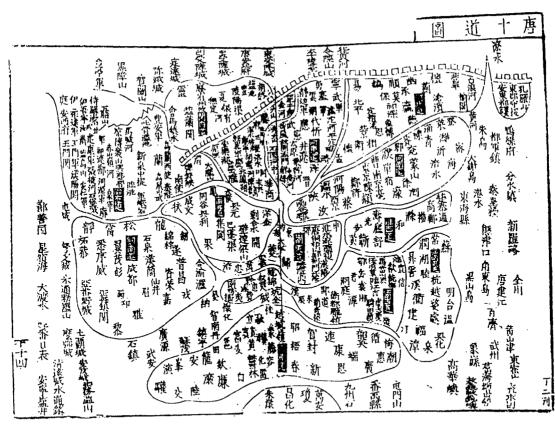
陳高 後 浴 斯 東新 周 洲後縣 州三 拔齊晋 後敗 151 今克 爀 河 袓 孝 **冷**改 七 東自 西西 勝後 征 FJ 西日刻 步 軍 得 有 Ě 憋帶 Ŋη 軍破陳軍於吕梁其東南之境盡 禮相 自平陽州之界獨于高齊至武帝建徳相傳之地三年失之其河南自洛陽之相傳之地三年失之其河南自洛陽之有姑臧西南有全蜀南至于江矣明帝 · 敗築戊於王帝 京准長南首  $\mp$ 州尋又東征 伊州水陕 櫨 壁 1-越後 班本: fili 文帝 文皇 山曆縣州 宣帝 文質和 郡五 南有全蜀南至于江矣中新賀南个五世之後祭元帝自 齊子領二 東師 津文帝東征 登表 Ė 一破齊師於晋州 初 M 鎮縣置三 嶺 二今山次北西東黄十五 軍傳 廢帘 才: 廢币 克平漢中又造軍 至 武 叻 皇 縣文帝又至 , 苑後文帝 千二十四常全盛 11 縣州 京昌槭里州 宜 置 三 吳阿齊王 軍 邦 电枕分层 五初 孝明 後上 城 州 : 周 東征 71 勝之東之北 īξ 以州 界縣 乗勝 徳 静備 亚 後主 郡荆 陽 處東 祁 宿 1/1 東州郡 蜀 nf 十五東 Ш ഹ 1 त्र Ħ. 文 戰 通計 下齊 東 岩成 是 逦 五主 軍 荆介 南 哪 主 河 翻 征 州南陜 访 郅 敦二强 那 年二



史 225-662

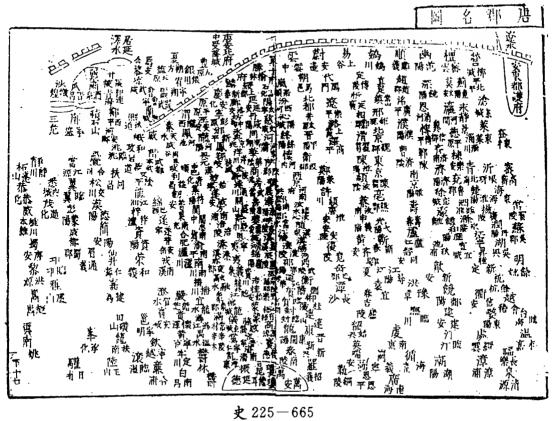
游榆		通 鳳扶	隋末群盗.	隋文帝	矣	悉代與圖人南	東北至	八百十二	七十 孫 中 派 中 派 平 東 不 東 不 東 不 載	省	大紫初	自九	诸系统 郡州社 而邓郊	人自己	<b>惰文帝明皇</b>
祁江海城 原代 原代 原	. 関	桑   迦	<b>楊元</b> 感黎陽	煬帝		<b>以</b> 有國十	京即北京北境九	里 王	二百五十五東	华政州	洛陽城即	<b>廓</b> 定江表季	以州治人名则仍倍两淡之末	医前沟 医前头尾外外	三年墨师長安
郭子和 檢批	梁師都別方	天成 筋	劉元進抗	恭帝 三·		+3	至于河隋氏	至海西至	ガル千三百 谷 渾 更 荒 四	乃置司隸刺史	又平林邑更	以戸口滋多	<b>内仍職事同</b> 別以第二	<b>制作別様の近十三人</b>	之能首义较
江華 新安	費 武 粮 職 場		向海明藍	十八年		1	盛極於	<b>性倫</b> 月 界氏 オ	<b>里</b> 南比萬四 部大凡,郡百	<b>更分部                                    </b>	<b>並三州旣而</b>	置州縣	於郡守無後	<b>モ留</b> 君	諸郎以川冶

	楊世略循潮再安昌門東衛長真體林問法明了夜前海潮示嘉梅知嚴宣城	順任城府汪度東海張相海縣公順者來淳	南南
	安真智林 一	一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一年 一年 五年 五年 五年 五年 五年 五年 五年 五年 五年 五年 五年 五年 五年	赛 難 海 藝 合 蒿 杰 幽



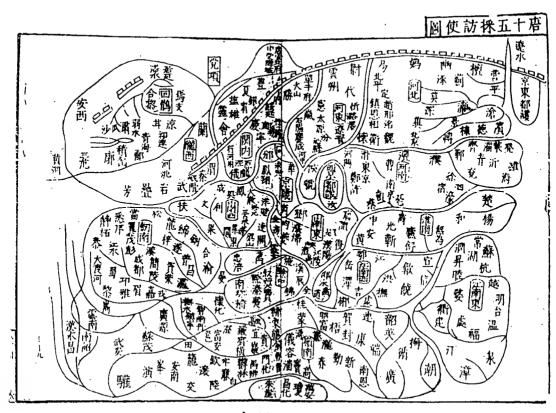
灰水 初 增州二 之然天下 府二 ア部 **夾**稍 11 山 北 其首領為都督刺史皆得世襲雖貢賦版籍多 唐與初未暇於四夷自太宗平突厥 入西域道六日安南通天竺道七日廣州通海 通大同雲中道四日中受降城入回鶻道五日安 安東二日登州海行入 六千九百一 興高 日 凶 接薛延陀界東西九千五百一十一 西抵大漠其地東極海西至焉者南藍林 河 14 百五 稍 江 然聲教所暨皆邊州 回統党項吐谷渾隸關 水磨十道十 縣六其後北殄突厥頡利 南 来 Ш 礼 内屬即其部落列置州縣其大者為都 突厥之别 + 四 改 形! 初定權置 九 貀 十八里 便分天下為十 日 日劒南十日嶺南至十三年定簿 四 為 縣一 河北 刑 州 郡及奚契丹靺鞨 太守 州郡 7 <u>-Fi</u> Ā. 日山南六 日龍 高麗渤海道三日夏州 通四夷羈縻路 為 颇多太宗 Ē 都 道 利史又近 五十 内道 督都護所領著于 日 西平高昌北 治為府二十 间 + 元年 明年平高 關 序 西北 内二 里 都 右 平始命人 刮 만 南 芜 督 日答 諸 谷 il i 府 州 日 日 茶 北 那 泚 踰 邑 汜 併 督府 芨 夷 錾 州 南 河 以 令さ 隷 九 不 南 治 道 萬 變 陰 南 外 境 又 州 西 州 河

	<b>恶代业园</b> 《唐十道十	知其禄焉大凡府州八百五十六號為羈縻云一禄領南者為州二百六十一 發隸江南者為州二十十十十八百九十八 笼鑽的及雞弦于閩焉者游加十一州百九十八 笼鑽
	T-k FI	五十六號為霧縻云



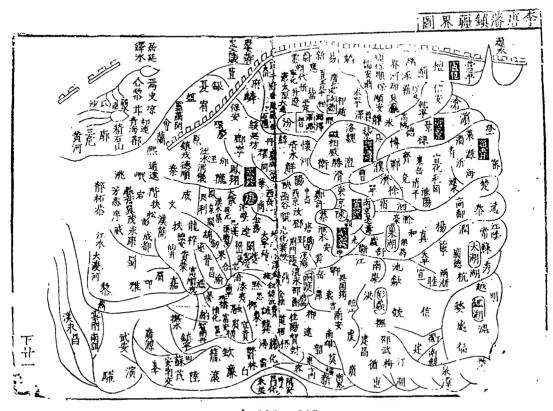
史 225-665

謹按唐志自陷滅陳天下 郊 所武 1. 彻 九州 犹汝下一衛晉 從 別 置都督府以治之然天下初定權置州郡頗 京末今南魏今北 京八个村上台上一个上一个里一个工艺之里在以來川郡典名京北央軍河南府今西 地而沒其州名又今置軍者從以虚名升建 兵伐之事非威方所掌故也然而後世因循以軍 之目其後有方鎮史官不録於地里之書以為方鎮 置太守以司隸刺史相統治為郡 Z 元中定天 刋 前已 用有相条 一百八十九蕭宗充元初收後以郡為州置九中州二十九蕭宗充元初收後以郡為州上中下之差中上一祭が前世等州後入及上中下之差天常為四軸則華其徐為六雄鄉陳浙十建常華為四軸則華其徐為六雄鄉陳沂丁万分月三 11 1 放自此所置皆無郡名而不復列 十五府與高祖政郡為州太守為 好原府昇來府鎮定府所中 府11 幸通後 光光小月 苏 始 合為 都及諸都督護府外以 乃改州 百 九十 為 全 中天 市 上 行 許 売 多明皇 維 為 上中 刺果 那 州个府河汁 州 依 长年 府 77 成岐 Ħ 漢 沂



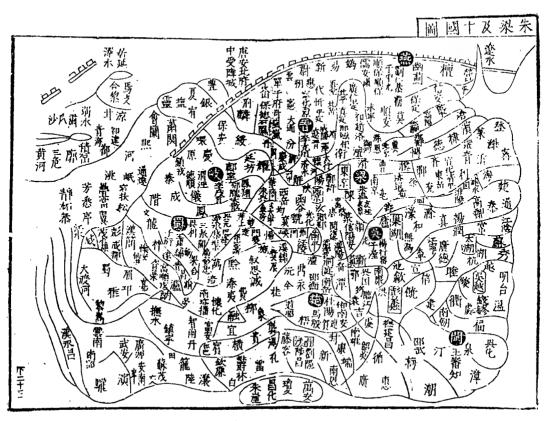
史 225-666

沿明至 代東国 東方主採防被丁 诮 西 蘭城廓總宗正元二年斯安蕃代宗實應元年又陷秦潤 麗為 府十四州四十六親 Hil 靈及延慶州都督弁單十安北都護府隴右道突 隸秦凉臨松都督并安西都護府江南道變為州 西内屬諸胡西城千六國為府五十一 回統党項吐谷軍之别部及龜茲干閱焉者疎 內道突厥回紅究項吐谷渾為府二十九州 增置 . זייל Q:TP 南 即河東 即東原 河北 號 強之 職京 幾 型 門京 那 太原 河 北 聖 漕 如 次 和 後 型 次 隸松茂姚尚黎雅戎瀘都督府 別 1 西 《道羈糜州笑厥之別部及奚契丹靺鞨 西 :督弁安南都護府劔南道笼變為 禄於州都督府領南道蠻為州九十二隸峰 上上 元二十 「龍右不 漢中劍南聖成 黔中 Ü 中型 及京 中門 4 工作的安內北庭院右州縣盘在天門香州班路廣德元年後附一門一吐蕃山孫山之亂門右劉納衛南海古及天寶盜起中國用在 文因 畿 准南 都後置十五 海型南 十道 的州都督安東都護府 廣型院西 **西**洛 分山 7. 四新 《江南東 採訪伙如漢刺 两 山南東軍通知 州二 江南為東西 州 鄉型 ī 降切 百六 九 九 陽型河 + 勒 + 13/2 厥 Ŧi 河



史 225-667

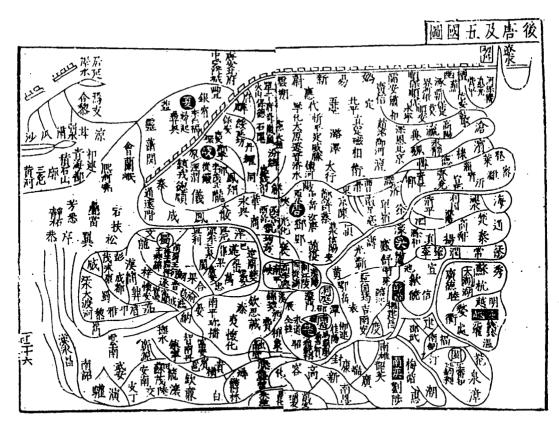
是一个人工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工
--



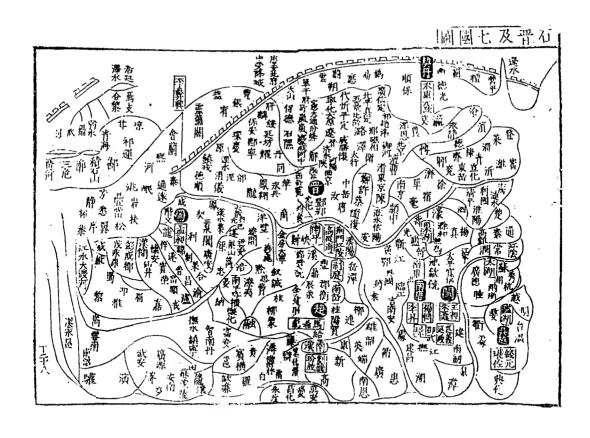
史 225-668

死代東圖 大米米及十四十 災太祖朱温都汁俱世三梁初天下 浙荆 称 以 茂正稱收錢學稱吳越楊行密稱吳王番知稱 蓋有 股種姓土姓稱獨高季與稱南平劉隱稱南漢劉 為莊宗國號唐李茂正僖宗特節度風翔後取興元 宗時封晋王哀帝禪位于汴帥西川王建偕位遣使 父子二世凡 光因之乾化初守光號大燕四年晋王李克用誅其 州 為東海王卒其弟炒優位盡有旗表之地偕號於廣 即坊入于梁泰鳳陪成义入于蜀當梁末年所有七 丹延梁洋其被梁国也與元入于尚開平已後於學 有州二十收職还原習武泰成階風が草慶行郎 勒兵各立一方不從孫開平二年號子存尚嗣 **諸道所侵季與所有江陵一** 州 因號南英吳越錢零俸宗時兼鎮杭越後為楊行 封岐王南平高季典梁初領州南節及十州後為 以為於蓋當是時劉仁恭稱燕本克用稱晉本 汉湖閩漢西有岐蜀北有燕晉而朱氏所有 七十 ,昭宗乾草初為幽州盧龍節度使梁初其子守 侵止十三州梁封為尚父吳越王 淮南之地昭宗封為洪農王兼有宣野子渥嗣 一十一年 李克用中和初平泉冠耶 城而也 十四 別為十 劉思梁 吳楊行密 南 有吳 問馬 立是 初卦 **范**战四 坊

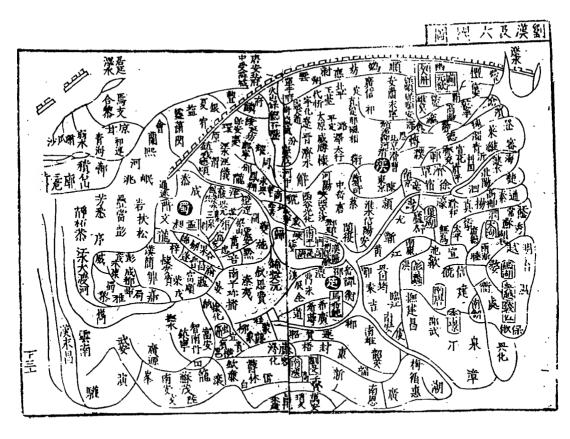
		歷代與圖一來聚及十四十二十五十二十五十二十五十二十五十二十五十二十二十二十二十二十二十二十二十二	祖受禪建亦稱帝於成都起死子行立	改昭宗授之西川節度使後併東川及山南諸郡梁 致麾下敬瑄疑止之建怒以兵攻成都殺敬亞及命	為盜後從軍因解宗幸過帥兵赴行在令孜召進欲王建僖宗初陳敬瑄節度西川旧令孜為監罪建始	湖南之地後兼衡潭非禮二十餘州祭封為姓王蜀地昭宗就封閩王傳世延鈞 楚馬殿字霸國盡有	书
				深 个	次如	蜀光	

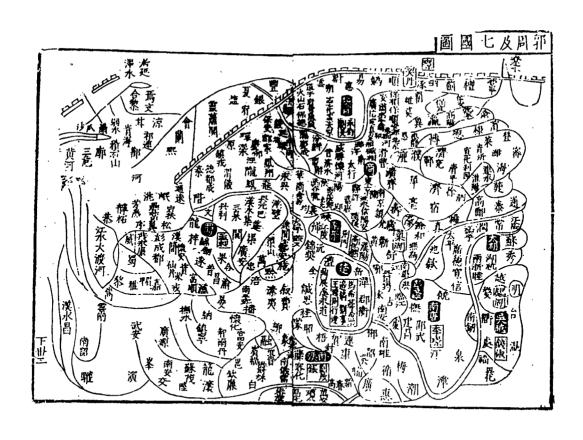


後唐莊宗諱存弱界王李克用之子都洛陽傳 代典詞一个後唐五國十 天下為唐 替平二州昭于契丹其增置之州一合一百二十三 **博等十有六州合五十一** 莊宗初起弁代取幽倉有州三十五其後又取梁魏 立二年荆南高季典叛吳楊溥稱帝三年高季與姐 其州至同光破蜀巴而後失惟得秦風階成四川 立聞王延鈞被殺予親立三年石敬塘節度鄆州不 元年知祥祖子和襲位二年夏州李彝超本弟蘇明 子季超稱沿後間王延鈞稱帝聞帝元年末帝清泰 蜀王湖南馬希峰影弟希範立四年夏州李仁福卒 希聲刷三年吳越王錢緣薨子元確襲位孟知祥封 並叛阿保機長于東丹王來歸國湖南馬霸圖號子 **于從海襲位長與元年孟知祥陷逐州董璋陷閥州** 鎮成都明宗天成元年契丹耶律阿保機平子徳光 為其第延的所殺自稱智後三年蜀王行降孟知祥 嗣風翔節度李茂正卒子從儼襲位二年聞王延翰 州以為唐 契丹德光兵至河陽而帝舉族自焚 莊宗同光元年福建王番知卒于延翰 唐自朱邪得姓而為李氏得國為晉得 州以滅梁岐王稱臣又得 世几四



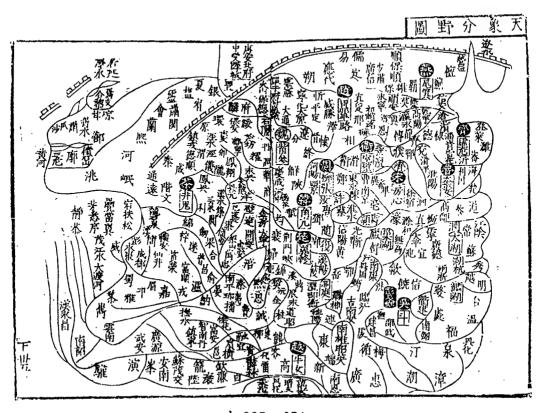
	降戎主以帝為負義侯遜於黃龍府州弘彦澤勢入于虜契严自主血朝縣而入帝奉来	降于南唐契州許降造杜重威與戰不利重威與相	政政朱文進文進為其將林仁翰所殺三年王延政	定計過上毛延收再行為妻安國馬大吳二千E 在 元年間上王延義為其臣朱文進所祗詔受文進節	來貢不	歷代與國大石哥及北國十 丰九	福元年劉獎班子玢嗣位遣使告哀于契丹居李昇	王錢元權處子佐製位漢主劉龔改名獎爾少帝天	子延载為主五年制授福州王延義聞王六年吳越	四年徐知點改姓李名昇號唐問主王和立番知之	徐知誥改號齊三年陛汴州為東京改洛陽為西京	九州以為晉高祖天福二年吳主楊沖遊位于其相	有六州于契門而後得蜀金州又增置州一合一百	都洛陽傅世凡二謹按五代職方考石氏入立獻十	年以馬門之北及幽州所管州結契丹以攻唐自立	肾高祖姓石氏名破塘太原人為鄆師唐末帝清恭三
--	------------------------------------	----------------------	----------------------	---	-----	----------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------





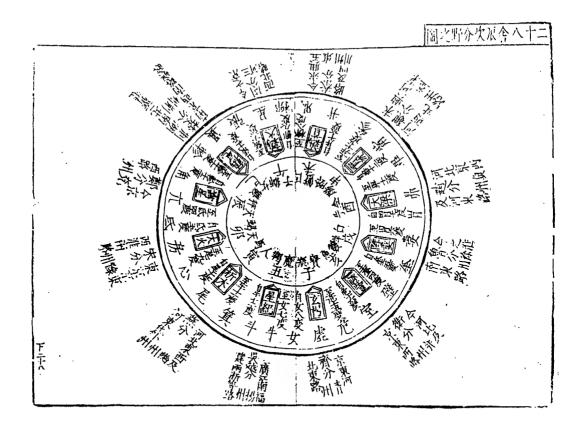
周 關南三 人 歸上南談因豁朱齊丘殺之六年征契丹至尾橋關 有四州以江為界漢主劉晟殂子張襲位放鍾 潭州周行逢代之祭東京外城五年克唐主淮南 宗顯徳元年劉是引契丹入冦二年河東漢王劉旻 徙治非三年潭州軍亂囚其的劉言迎王遠代之世 云本姓常 殂于承釣襲位三年湖南將潘承嗣殺其帥王達迎 邊鋪房希崇二年門州將劉言逐遊鎬部言鎮 立更名景湖南將陸孟俊執馬布尊立弟希崇唐 焉周太祖廣順元年契卅王兀欲見殺德光子述 學園。《郭周及十七國圖下 北十州為姓自浙東西十三州為吳越自衛南北 南唐自劒以南及山南西道四十六州為蜀自湖 晋末閩已先亡而在者七國自江以南二十 廢者三計武合一百一 風階成藏英及淮南一四州又增置州五旅商 三州為南平合十國所有一百六十八州而軍不在 按五伐職方考郭氏代漢十州入于劉旻世宗 十七州為南漢自太原以北十州為北漢而荆 八祖皇帝 降以尾橋關為雄州益津州為霸州所 随对過郭氏因胃之都干汁傅世 姓郭氏名威字仲文其先形 十八州以為周宋典 州 尭 因之 甩 11 雅謨 湖 歸峽 州為 Ξ 邛 湔 南 四 而

		悉代采图太郭朋及七园图下。	整禪位于本朝
--	--	---------------	--------

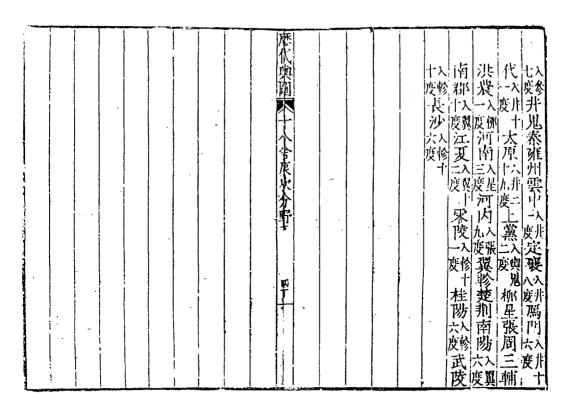


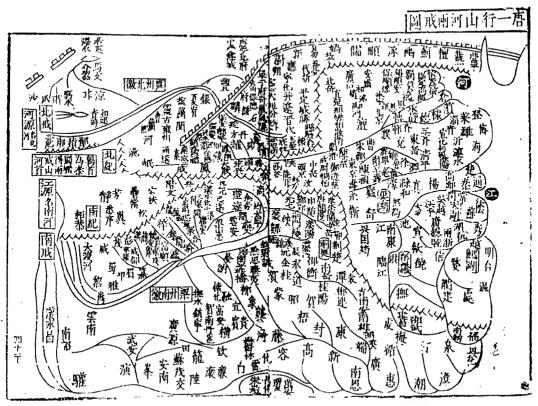
史 225-674

唐天文志日近代諸儒言星土者或以州或 謹按天文分野角亢為韓分鄭 東河内北固海縣東分梁宋至於汝南韓據全鄭之 外失七國之初地形雌轉而雄魏魏西距高陵盐河 得河南七縣今天下一 蜗時日卯州日豫尾箕星日析木宮日人馬時日寅 秦漢郡國廢置不同周之與也正畿千里其衰也僅 尾宫日雙女府日巴州日刑 星日萬火宫日師于時日午州日三河翼彩星日熟 益井鬼星日鹑首官旧巨蟹将日未州日班柳星張 虚危是曰玄枵宫曰實施時曰子州曰青室壁星曰 州日幽斗牛星日星紀宮日磨鍋特日丑州日楊女 宮日天秤時日辰州日充氐務心星日大火宮日天 燕分斗為吳分牛女為越分處危為齊分室壁為衛 分全要為自分胃界平為進分常納參為魏分升風 日酉州日冀觜参星日實沈宮日陰陽時日申州日 白年時日戌州日徐胃界非星日大梁宫日金牛時 為亦分柳星張為周分翼軫為楚分角亢星日壽星 南點顏 Ш 前陽西建號略距函谷固宜陽北連 統而直以勢火為周則疆場 務心 為宋分尾箕為 以國家夏



晋忠序 度准 陽 邪度刚西 宋豫州原川入房汝南江山入角广氏鄉兖州東湖、山入角十濟北県偕五城 腿 渤海一入 北 四入 入宿度其言最 ヹ 班 金人入原國城度至十入六入 四人度斗三人上度牛瘟度货都 梁幽 趙 疫を 淮 深 七人 度服务 川 万入渡八角2 州 琅 壁入 雕 北。

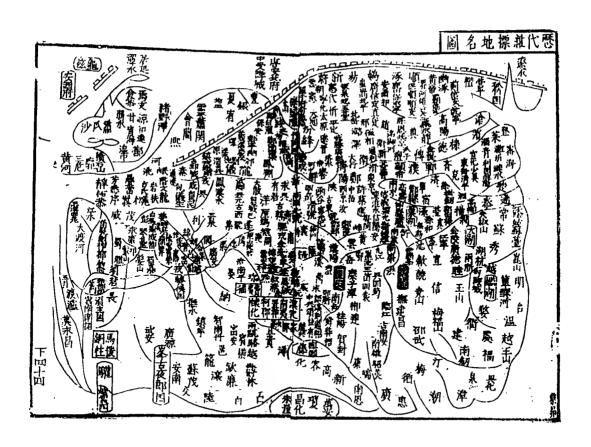




史 225-677

按唐 南微莲華陽而與地絡相會並行而東及荆 淡棋武當荆山至于衡陽及東循鎖後遠東既 問中陽東及太率延商山熊耳外方桐稻自上洛南逾江 謂北紀所以限戎狄也南戒 1 岷山幡郭負地絡之 謂北紀所以限我狄也南我自眠山幡家負地屋太行北抵常山之右乃東循塞垣至濺貊朝 象則洪機分俠為西河之會五服諸侯在焉自 而員終南地絲之陰東及太華 之北為那趟南紀之東至河南之南為刑路自 為宋鄭陳崇河内及濟水之陽為都從漢東濱淮 成周西距外方大仍北至于濟南至于淮東達鉅野 巴蜀皆到險用武之因也自陝而東三川中岳一 戒為越門河源自北紀之首循雅州北徽莲華 是胡南紀所以限發夷也故星經網北戒為切門南 之陰為申隨皆四戰用文之國也北紀之東至 分而東流與漢水准濱相為表裏謂之南河故於天 地絡相會並行而與至太行之地分而東流與涇渭 西為秦源北紀山河之曲為晉代南紀山河之 行以天下山河之象存乎兩戒北成 和為表爽謂之北河江源自南紀之首循梁州 诓 作山為三齊火石 病石為 - 逾河北 北雷首底柱 和三危 山之 北河 曲 心與 飾是 11. 陜 而 為 河

近一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个
---



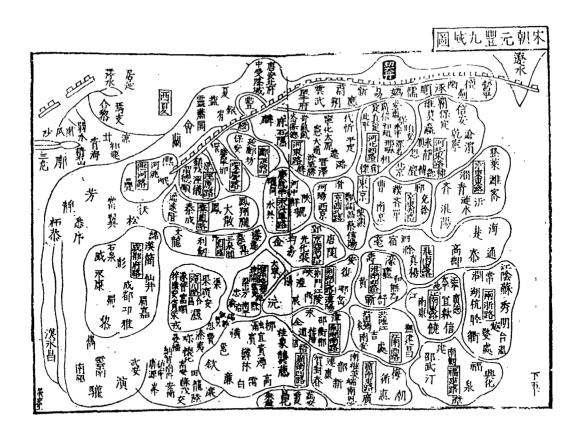
		,		歷代號		都邑	帝王	而下	泰漢		都邑	三代	五市	三皇
	-		-	- 人悉代#	漢	唐長安	元 魏初後	宋建康	<b>上、初北昌</b> 今	泰 長成勝	所 健党	唐克平明	少吳剛	<b>伙鹅</b>
		,		標地名	周	染束	元魏初雲中上 <b>乔</b> 新	<b></b> 产建	海州	00年 四漢今	周	四	調命	初光
			•	Div	71	京 後唐汴		İ		長	病京	中华夏	漢陽縣帝即	交州縣黃帝
				中国		石	長安育長安	建原陳	西晋洛陽東晋	失為場合処如		<b>竹</b> 場 種 本 種 品 品	仲印	
1				泰勒		/1	山安	建康	建康	- 4	<u> </u>	AI: EI	111	

史 225-679

二年大放天下以誕聖日為長春節建隆四 一五三月克湖湘周保權得州十四縣五十八 一縣六十五八年十一月被明州衛東隆四 一縣六十五八年十一月被丹州四十五縣一百八 一縣六十五八年十一月被丹州四十五縣一百八 四十五縣一百八 一縣六十五八年十一月被丹州十四縣五十八 四十五縣一百八	杜氏以唐天成二年二月十六日丁酉生於洛陽仕帝姓趙氏宣祖昭武皇帝第二子明曰昭憲皇太后聖朝太祖啓進立極英武奉文神德聖功至明大孝皇	しているとうなりにはいったりていった
---	---	--------------------

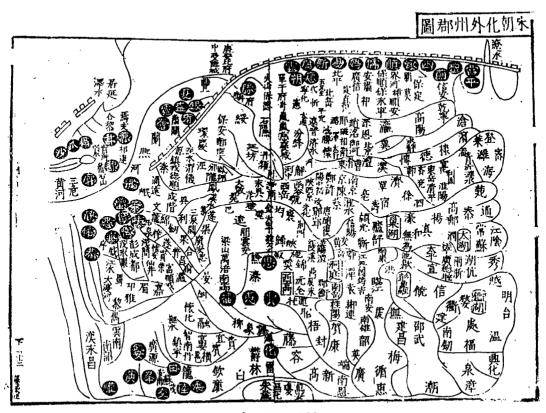
(1) 大京大明宋 (1) 大京大明宋 (1) 大京大明东京 (1) 大宗 (1) 大宗 (1)

	悉代與圖入飲存皇前稅十一 甲九	州十縣四十一七年得西夏李繼捧銀夏二州千有司四年上親征大原東漢劉繼元上表奏款婦於有司五月吳越王鏡依上表以所管十三州	皇帝位 乙卯大赦天下改元太平與國太平與國三年多月 著道市民	年十月七日生以其日為乾明節開寶六年對晋王帝宣祖第三子母曰昭憲皇太后杜氏以晋天福四聖朝太宗至仁應道神功聖徳文武構烈大明廣孝皇
	龙	<b>操</b> 级夏二州 避元上表奏 教得	次所管漳泉·兩郡 四太平與國三年	衛門六年封骨王



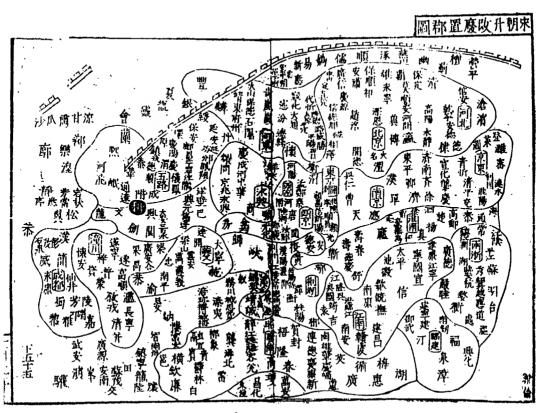
按罪 路路太北 原西 准 雲應家朔蔚易十六州以報之顯德六年周世宗後 晋 拓跋思恭鎮夏州 路是 州 儿. 福者為審部都指揮便從其姓梁開 府太端严路 祖岭与其地 西路 江 南 朝 西平拱典為太准轉 西 来 南 0 西路典二國一平南運路 三路 後國年二路典路司西縣 路 沱 州至今十 并别路升 東 稫 聖領行本德獨會肇王存等換九 的之以俟觏者 一种而序止稱医西 八改廢置具于别 世 路太平 路太平 路 大平 路 大平 路 大平 6 四 西 州 為太併二併年熙國易迎求等一平為年為分寧三名管與七 路太平路大桥平路 路年 籍北兵勢割幽瀛莫涿檀順新以後觀者一契丹自唐末陷營 3. 為年為分寧三名管興七 一分一河 五年提兩条年 成都 討黄巢有功陽姓李氏有 六州尚為屬所據〇 难典成路 熈國都嘉 圖 に限みずるに四分後東年路年熙二路仍北西元三四分後東年路年熙二路仍北西元年年京分西分又後四路後書四元一一四次一一四次一一四次一一四次一一四次一一四次一一四次一一四次一一四次一一四次一一四次一一四次一一一四次 西夏自唐 東北部 泰昌 河路東 北 州 併 贋 域志總 路為荆 来 京西 淮河 平二 路 屷 更迎 柝 南 兩 媯 俠 西 熈外 東 丁成西 湖 浙 路 腩北 版 0 儒 南 州 爽 西 洲平川 南 路 河郎 址 武 西

		有之地故元豐九域志列之為化外云 社後光廠繼筠繼棒相次承襲然自 地露興仕周為定難軍節度太傅中書令對西平王
	事 一	志列之為化外云 相次承襲然自 相次承襲然自 軍節度太傅中書令封西平王



史 225-683

恋代與國一家 朝化 外州 郡中 事中	温演林景塚平琴山武安古德化郎茫州爪銀鹽勝宥西廓會宕疊甘肅伊洮陽建服鎮利州爪銀鹽勝宥西廓會宕疊甘肅伊洮陽建服鎮利州	為例蒙點役夾西各女町大印養住主建夏京少和大都護府單于大都護府鎮北大都護府雲應新蔚齊教所暨皆過州帥府領焉河北路安東上都護府壁教所暨皆過州帥府領焉河北路安東上都護府
	福旗旗旗	果



史 225-684

州恩麗西肇元安陞政府惠天 京 展陽性改政方面學 嚴改六 锁 婝 歌作所應四 宣長 舒 温 越 败大山图 平角平隆和西 **俄** 五並路 廢 所性 語 岳 年紹年至改政 惠政 医郑清觀府中 晋 路 海石 二 柱 建设宜性则原道他和全道和船頭州二 那四大德性軍年 化。蘇年熙源隆年咸軍年議擊府年軍中南河 江江元 承 陞崇河 沁 河 府朝 廢 徐大 隆 府年 天 開學 上四太東 頡 一 京 電 展 潤 真 慶 和 世 年 平 匹 昌 四 废 页 年間一处射網開廣陸乾度州二 高 展刊 陵 安隆养阳 置 一常道年級 年 鄱 常廢潤真廢德五門年刊 州墨江陞定隸府年 . 孔 井 光延嚴順 陸 德元 改則 改 府年 號二 漣 改廢即 改 开咖 集政大慶黨即隆 海 府鎮 丽 瀛 間性 新聞性 室 水 七 國 = 孟藤熈 败 午熙為觀陽性恩明分 = 安第一年建年原 徳 陽陛入亨 間性 7.9 廢革仙四府慶酬南五政 端 元宣为 性炎廢室 性 三宣升府河 **德性五熈入政府河普四** 夰 藤 歸係年和和官年和 下 五 欧 年和 乾 府安 王寧年和 败

世界 中華 中華 中華 中華 中華 中華 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一	- 1, 4, 5, 5, 7, 7, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1,
---	--

## 悉代 心代神图見諸城 感論

**懋代** 馬學若高辛 不常令於 **其文或 闕國勢** 圖 紃 宋重 籍 沈 **从九上** 問 統放增損收 :Vic m 部 丛学 灰 和 過夏功見於唐奏商 組'. 山總 來 定土字分裂則 궲 数旗 不 脉 幾 11. 初 娸 衫 邺 祭 得 之 則 쇞 4

二史 郡合

旷. 有

il.

有

朔 狛

力 E

儿

為

== E

邵 北

**放** 八 秋 七 制

州份州

fri.

彫

耗

之

辰

餱

弁

次那因前於別別

方徐

刺允

二格 置

改

杂

攻

粱

又

깚

徐

猫

號

南

湬 朼 下 城 KKI Zin 像河 那 豻 御的 庄 尛 jį. <u>...</u> 学济 四 7 後七 干 紙陽 氏折 有 郡 吳而 是城 糕 鄁 交爭王龍 电平 置 南 除 守 平百 瀧 Ļ 氏得志以守易侯 其 越又置岡中 日歷東遷之地 뉖 則 西 協 南 洮 浉 瓜 僅 而 分 存 北 桂 沙 沝 天 +

肵

損

盆

机

妙:

迎

4

颇易舊名徐

| 収入作

育雅

誰

主

析

漠東

茶

松南郡

냡

Di 図

=

更置

邓

上南中安

謂中山東

樂圖

文州 小 事 州修 海 六耳,越 有 + 文 깵 四那九 旭 泉洪山郡 訄 JĽ. 斯 **以農電平** 是企作职武西 m -1 也城安淮都南 定西郡夷 七 3 以 天河又置鬱南 辅政者信平章 河河都原河 又 上常梁内 水州分群林海 四 ΤĪ 矿 女方立何合套济斎 内 亢 **光· 画家越浦梧除北** 坍 謂山國魏

門川 吳大帝

则慢建隔

東安安海

锡成建衡 初

在新平陽 置

林昌春湘郡

孫 於山浦東 五 後 氏 勝甲 景新聰主

置 淅

-|-

有二

始始

有

馬 郡 各

ψį.

证

少

帝

景

Ť

79

血安臨少

漢 初

淵

者 郡

+ 九

在

焉 潼巴

范

4

伙

-7/7-

城城

南沙

東紫氏

女廣 增

室廣 置

浦精郡

図

-1-

**新**昌

平黎

略新

陽野 冇

的質 \_\_\_

平郡洛桀

南於頭陽

省門化上

朱江五

74

Ė

於

**汽洪进安之**問

置

西巴

梓東

摄陽

行汉

深山 15

治歧為 獨先

新陽南樂

城平鄉陵 義七褒章

陽陽陽武

安观而省

朋

及 七

少

帝

啪

得

漢

郡

者

者

中上

虎那

寶州

帝

-1-

羊西

熟新

置坊平

欧朝郡平

方

**医热交收山** 

成廣即為黎儿北北瘟疫南地勃春

年 武浪七邓光阻济陽 无

張陵

吅

詂 液煅

國 1

> 靈 滥 阪 漰 關洛荒 疵 所 流者 十二 狐 武

定 ηų 植部校 例三 鬉 私 顏 ΠÜ ゴ 增 郡 μķ

学 水水 廣膠 州 叨 陽剌 4, 1 省 'n 业 置 朔 心化 沭 城族 ガ + 濟陽昌末 刺 4: **東殿章** 為改 命 省 ገኘ 之於 灰池 ĬĔĹ. 州 平陽 收 於 図 词 歸為吳任 復 立 偂 14 隷 准队即坡 為 毎 洧

為為 安上

和

刺

史

員

1

人成

安陽

資淵

夏川

Min 戈

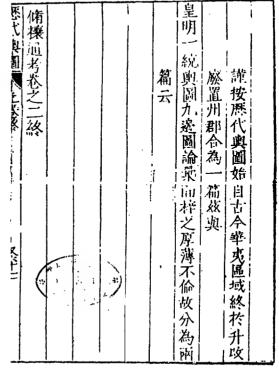
**★** 225 - 686

牛

밣 六十縣三百六十 ŊΛ 有姑 魏侵吞互相待失蕭梁之時多公舊制天監中 万十 三百五十有二自東西分都之後天下民立深陳有 百三十 江東宇文有關西尚齊據河北有州六十有 方遷據中土有州百十有一 彌燧西不得蜀漢北失淮 置大同中州百有七 · 蓝栾水嘉南渡建紫附基九州之地有其二焉自置二十一的淡舊九十三置二十三惠帝不君中吳所置二十五的對新置十一仍經惠帝不君中九州前條崔兗荆伯楊青幽平邵國一百七十三 有三郡三 낈 ١Ħ 打九南齊繼統又置巴東一 十有三郡三百五十縣千二十有五其後更有 有二是時其地愈狹立名益多為郡百有九縣 綠置司 州儿二十有二郡二百三十有八縣千 朾 敝 一郡五百八縣千二十有四凡此皆聖西南有全蜀東南之境盡干長沙迎計 有八山皆驅字之列乎府者也後魏 百九十五 *3*/4 有五後周宇文志在與後自是四 |那縣亦稱於此陳氏較之上 迭新 蘇千 沉 郡五百一 īfij 四百七十有四類與元 羅理不常宋至孝武人 平四州仍吳之廣 那徐並因之為 以長江為境 一十有九縣 有州 艺 起 州一 延州 自北 百七 那 有 刑 T 宇 29 29 祈 Æ 州

氏之初· 厝 至 為 形 叉坂 **选有中土莊祭初起** 檢察如漢刺史之職二 克用之唐敬雅之晋劉高之漢郭威之問 岐蜀北則燕晋而朱温 國股牌相依天子羽書所制河南數十 iffi Ā 成 称臣又得其州七周光破蜀山而後 以後日益割裂其他大鎮 因 場形 京西道增置黔中道及京畿都畿置十五 與高祖改都為州太守為刺史太宗元年 乎北省也 得蜀 便分天下為十道開 假 四 刺史外部 梁魏 方鎮用 有八縣千五百七十有三天實之亂 + 州 平林 素鳳階成後 愈 三州以為唐 m 管平二 州文增置之州 博等十有六州 色更近三 迨附文平 平點盜代德之際至于不朝不 巡察大凡郡百九十縣 |州稻于契丹其增置之州一 一并代 石氏 州 十八年戸部 元 所 7 一中又 大業三年攻 犬 合五. 南 取幽滄有州三十五其後 握七十八 蜀隱帝時增置之州 入立獻十有六州 7 则 合二 遂废計 因 干一 吳浙荆湖 十道分山南 百 州以滅梁 州 帳 失唯 学二百 州為邓州 以為 那而 Æ 州 羅迹 部 婀 得 閩 一方效戰 京獲沒 採 梁繼 书内 质 ŗ, 疳目 為 -东 乃置 相 値 江山 五 岐王 門 契丹 鳳 西 合 詂 邛 þ 因 以 1)

宋师 聖聖 、真主 太宗皇帝聖略勃典志清 太祖皇帝 三合 H 南三 焉鳴 常其得失至於晋末閩巴先亡而在者七國 魏乎盛德大業將底於億萬斯年之永並不 氛清 書 煜 東漢而削歸峽三州為南平合中國所有二 越自崇 有五縣一千一百三十有 百六州 為蜀 門成 流英及淮南十四州又增置之州五而 廢者 因 州 混 相 劉銀宋手校擒 之此 + PSE : 府雷作而奉聽怀王者大一統四海皆來臣魏 而軍不在馬上天降休誕錫 繼治監大清圖籍所 Ti 治形則 橅 詂 自湖 徳被遐徼 火 州為南唐自劍以南及山南西道 中國之大略也其餘外屬者雖弱 念黎班命 北四十七州 為賴 十八州以為周 南北丁州為楚自浙東西十三州 《肌與恭明而否治猶之重明亂 氏代漢七 将專 為南漢自太原以北十 餘孽吳越奸汾 列府 征 州入于劉旻世宗 荆 而化外關縻之州不與 湘 州軍監几 蜀 £ 扣 衜 壁 繼 相 百 納 請 百 рy 自 偉! 取秦 恭养 六 為 弁 命李 州 + 败 九 欸 江 車 糾 泉 火 不



史 225-688

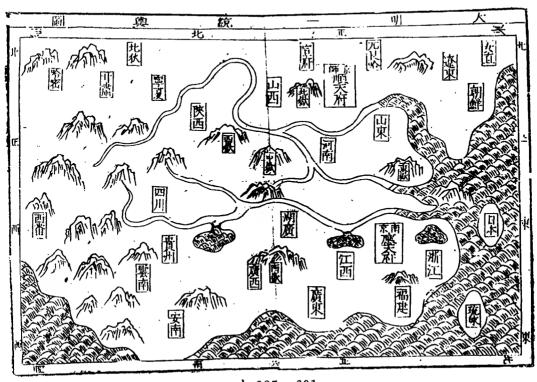
親官員然加訪問於地方足 今日,臣待罪輔臣処無神法乃 祖宗之舊使上下各得自盡正 析撰通考卷之三 太和高皇帝奮起民間人之情偽實備當之地之險易實 太宗文皇帝亦與有問關之勞故當時延訪儒臣皆 祖宗之實當周游民間者有 列聖相於雖莫不具 孝宗皇帝皆銳意行之 於 E惟路古帝王訓水政務親與其臣而相可否猶懼 聖之資而視 分明一 情上俗之宜如指諸掌而後行之是故一時允頼我其未也乃陳地圖焉於是乎九州地域廣輸之數民 少係熟太子太傅吏部尚書武英殿大學士臣桂夢謹 **曾中之實見所以斟酌** 德以来積十有六年上 有不可止者則所當偷 易改也自時既後 統與圖奏稿 終以 民情土 正在 不能編如人情土俗而止 復 下之情於是大隔而欺被遂 損益百代之制百六十 乃者倘員吏部凡遇考 。 第二 6 2 1 记出其 年、 正 擬或

は一般には、 は、一般には、 は、一般には、 は、一般には、 は、一般には、 は、一般には、 は、一般には、 は、一般には、 と、は、一般には、 は、一般には、 と、は、一般には、 と、は、一般には、 は、一般には、 と、は、一般に、 は、、 は、、 は、、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
---	--

皇明與問日録終	四夷方位圖三十四	贵州與阗三十二	医 南 與 阁 三 十	廣西與圖二十八	<b>廣東與圖二十六</b>	福建與過二十四	四川與圖二十二	湖廣樂圖二十	江西奧圖十八	皇明與國人自錄	江	河南與圖十四	陕西與圖十二	山西與圖十	山東奥圖八	的正隸也圖六	北直隸與國四	一統總圖二	<b>凢</b> 例一	皇明與阎日録
Company of the second	<b>叙</b> 紀三十五	叙紀三十三	叙紀三十一	叙紀二十九	叙紀二十七	<b>叙</b> 紀二十五	<b>叙</b> 紀二十三	叙紀二十一	<b>叙紀十九</b>	又二	叙紀十七	叙紀十五	<b>叙</b> 紀十三	叙紀十一	叔紀九	叙紀七	叙紀五	圖叙三		

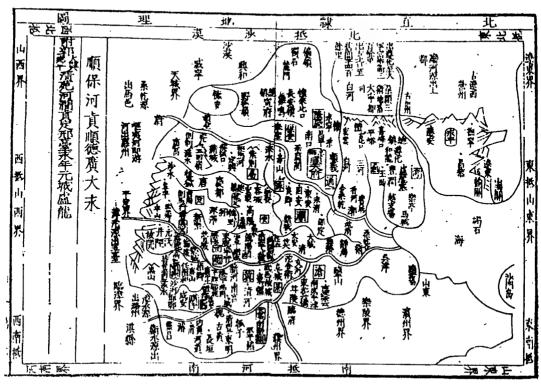
然圖紀中見之其郡正以下不悉書統於專一各處	京師得具之亦易以朱闌青書其餘山川地名一各圖內但係軍衛有司衙門俱青地金書惟也	宣撫等衙門止分註於其所屬之下示其意無其總數以括之互相者見也其各屬州縣與人們。	都司是他及內有係干邊鎮要害者 多者亦不悉書書鎮城及都司以統 書面離衛所是鬼其雖係直隸統有 若偷所寄治有司城沖原無統轄地	省各府州衛所并大小土宣衛此此以臺圖之庭也而時不配方及圖所不能飲益年
旅 得	地名及火方	示其有所統   帰出 圖後 仍	等者即不嫌 就有地方者 地方者 班方者 班方 新	衙   事

		3,2	(E)	-	1 1 1	<b>基明與圖</b> 《 元 例	受犯者 則許書時 受犯者 則許書時	本朝曾經春貢	給本故時書之	極微飲百山な
	Š.						吉之其 位 所 在	之共山川境土	惟正之供也若鹽	<b>雞悉非斯</b> 北高山普
, s						[N]	<b>餘止界具頭水而</b> 輕重惟素效動誠及數肆	境上去中國 邈述俱難	課則邊儲之所仰	一



史 225-691

#라
- X

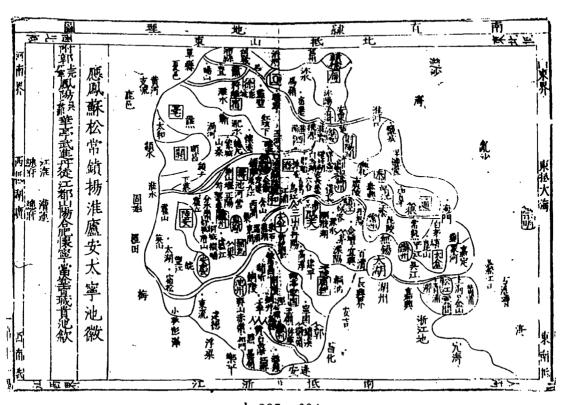


史 225-692

	烈馬與我何同風而順天之馬政為恐河間之水濟多姦人毋嚴其中有司病之蓋賦繁民因戶口	然来 東野曠人稀 大学場其人	京師輻輳而進若天津又海運通衢也與從海道全藝國家棄以與房三衛是則若雅之外所特以為潘籬者地也自	定重兵电馬山後諸州至遼東俱是故我大學都司定重兵电馬山後諸州至衛門東南東南 在新州 順天 不下下下一面若雅索利山海側書 外下 即即金元係都也張山帶海有金湯之固真定以北北直線圖似
--	--	----------------------	---	---

中国
----

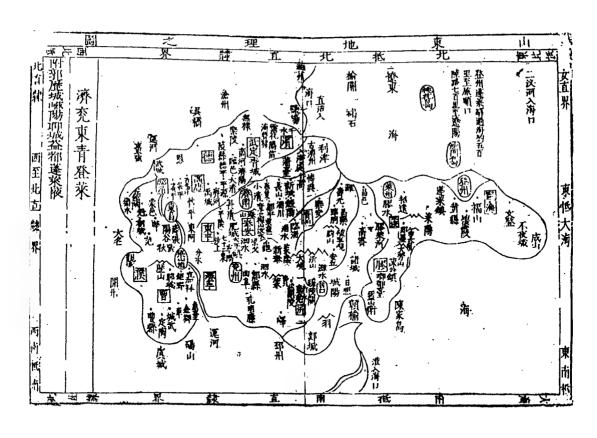
A			-		上明整河上入北王数組北		7.徐匹 四北直隸山東河南	太僕寺所屬順天等在	真名
		-					□徐匹 四 此 立 隸 山 東 河 南 三 名 備 用 馬 共 一 萬 七 千 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	太僕寺所屬順天等府部養馬共三萬四千八百餘	



史 225-694

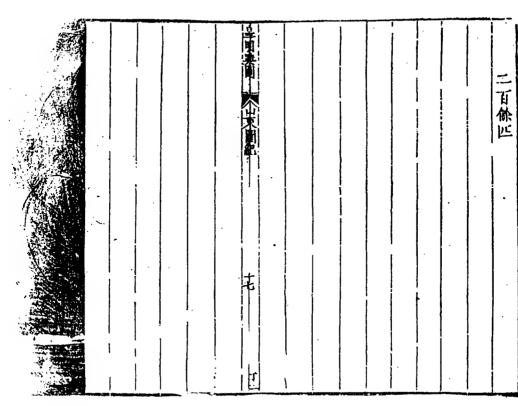
	展水海潮出及土田歲易處關田多州江 民勞 甚 鼠理不一冠盗因以寬曆(鎮正)則當京口之衝鑿山	山少田民逐末利風俗用偷池州在山麓江游軍民轉餉民報民亦州察蓋水患莫甚于斯者也微州多均供億月困電市俱徐州之間濁河泛濫幾淪魚監	留守之冗費故告易以告歲此縣於照則田賦州則民胃游惰地不盡利風陽野俗本同加以州	摩行別劫者不可勝計故令工防海備其重一也若常熟,俱蘇州之民間作弗靖與江洋一帶出没波濟楚地,為江表門戶沿海兵成本以備倭商而崇明, 教順 供為江表門戶沿海兵成本以備倭商而崇明,	安特建兵府灣運守以文武重職雖職司轉運亦示徐選二州和關地路中原瓜連數省強稱雄鎮故淮祖宗創業實基核此然江限南北古今特為天險江北則	南直隸西級州地
--	--	--	---------------------------------------	---	--	---------

南京太僕寺所獨應天等府備用馬七千五百足	一餘共四萬四千八百餘員全在外衛所除中都留守司二班京操外馬步官軍舎	京管馬步官軍合餘夷人共二萬八千九百餘員名	訴馬 兩准鹽運司額辦小引鹽七十萬五千一百八十引	草五百八萬四千二百一十七包二疋麻布二千七十七疋欽八千七百七十錠馬	一十萬九千九百一十兩納三萬八千四百五十夏秋二稅共米麥五百九十九萬五千三十四石絲	·新五十年 使	萬七千四百三十九百一十八口九百九十六	p   7	中都留守司領衛八屬所派一五所一十五	十二獨所一百所一 在外直隸衛二十八屬所一親軍衛一十六屬所一百城性所一 在京屬府衛三	直隸府一十四縣八十七 州四為縣
---------------------	----------------------------------	----------------------	-------------------------	----------------------------------	---	---------	--------------------	-------	-------------------	---	-----------------

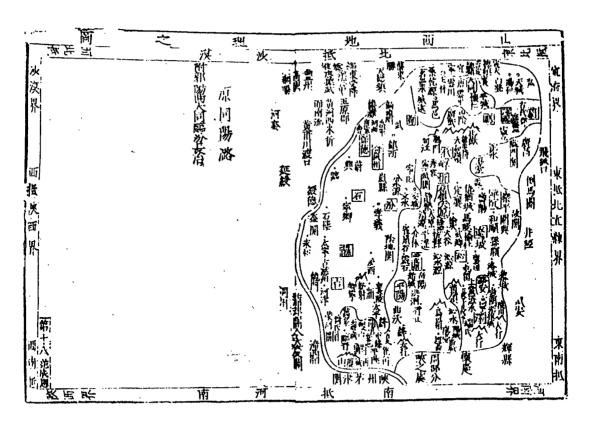


	安東州東南境則避開洋之險宜亦有	特所森沙避鬼取二十一女演玩鬼比茶之海免後入北海以其自摩抵茶故又為南北新河自膠州入新河西行二百四路則不定州东南本南北新河水源至 大道古道外参乃莫置破逐船至此乘塘	事已文章然十分推了成山沙門一带多海岸逐徙論成之人多歸焉雖漸恢復可也 <u>為那</u> 來	以来生齒為	輸水斯為急而(事)清濟	刑水派為虚則民之疾苦莫甚焉別 一班忠禁器挑滿之势亦車本挽之後所在不免而	為佛運通衛南蓝不食與前風相	山東古青州地外引江淮内包逐海西面以臨中原山東圖紅
--	-----------------	---	---	-------	-------------	-------------------------------------	---------------	--------------------------

利下	遼東鎮城馬麥官軍六萬三千八百餘員名	不都司所屬除二班京操外馬步官軍三千三百餘軍馬	鹽運司額辦大引鹽一十四萬五千六百一十四引一萬四千二百九十束	<b>严線花五萬二千四百四十九斤馬草三百八十</b> 石縣二千一百一十一斤絹五萬四千九百九十	至即與圖 人名英国紀	<b>錢糧</b> 7七十五	ア七十七萬五百五十五日六百七十五萬九千六戸日	王府四衛府 陸府 東都司領衛二十五萬所一百 所一	和可領衛一十七月五七所一十八 像備司四 建山水圖紀
----	-------------------	------------------------	-------------------------------	--	------------	----------------	------------------------	--------------------------	---------------------------



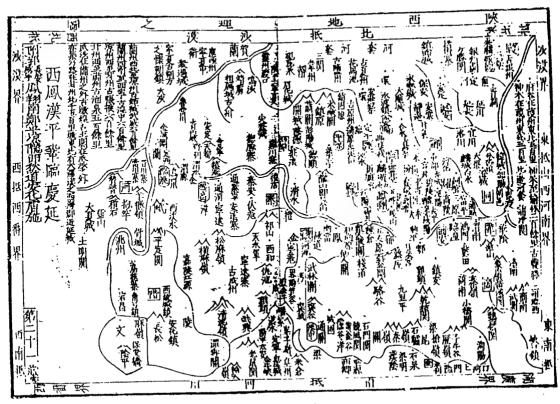
史 225-697



		今為之不行此則積習流弊非漸圖之不可也三晋之民勞齊甚矣而邊卒方且叫败行哺師臣號	· 宗室彌蕃一切供輸自成賦之外中仰給河東之鹽課的原	足电結也然	李 漢 賊為急且保德河曲 俱太原府屬 之間與別而頭學式三關俱在並置關反雖烽火之警不殊而半 章 在 每 更 戶 於 一	数内侵故人
--	--	--	---------------------------	-------	--	-------

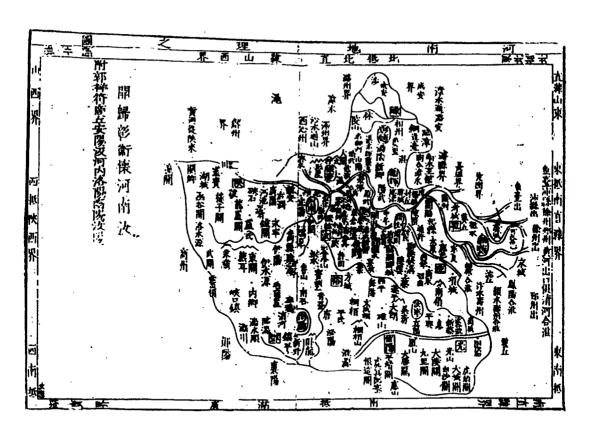
史 225-698

	-	山西行太僕寺見在馬驢騾共三萬一千九百餘匹大戶鎮城馬步官軍四萬六千份長名	員名	本都司所屬馬坎官軍舎餘人等一萬九千五百餘	軍馬	鹽運司额辦引鹽四十二萬引	萬四千八百五十束	五十斤絹四千七百七十七疋馬草三百五十四	<b>江 前侧 河</b> 一	夏秋二般共米麥二百二十六萬四千二十二石絲	<b>錢糧</b>	十五	产五十八萬九千九百五十九口五百八萬四千一	p p	王府三箭府 代府	十所	都司領衛九屬所力 儀術司三 行都司領衛一	領府三獨州一十六川正马縣	<b>山西屬紀</b>	
--	---	-------------------------------------	----	----------------------	----	--------------	----------	---------------------	-----------------	----------------------	-----------	----	----------------------	-----	----------	----	----------------------	--------------	-------------	--



史 225-699

洮河西寧三衛乔茶易馬四千八百餘匹 七千四百餘匹 陜西甘肅二行太僕寺并遊馬寺所慶見在馬四萬	九百餘員名一一	本都司所獨馬步官軍二萬三千九百餘員名延緩軍馬	馬草一百五十一萬四千七百四十九東千一百七十二斤布一十二萬八千七百七十疋	三百六斤絹九千二条條件編組	一税共米麥一百九十二萬九千五十七石	<b>酸</b> 糧	ア三十六萬二千五十一口三百九十三萬四千一	プロググ・キャー	三府四条府 牌府 十三十三、 於四 ———————————————————————————————————	和司領衛二十八三十四 所一十二 钱衛司四 本政司等的八縣九十五	る。
---	---------	------------------------	-------------------------------------	---------------	-------------------	------------	----------------------	----------	---	---------------------------------	----



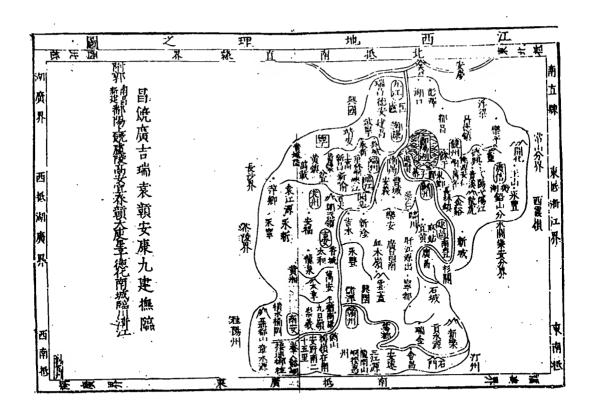
		備用馬匹數具北直線軍馬項下	本都司所屬除二班京操外馬歩官軍一萬五千九	軍馬 萬一千六百四十束		夏秋二税共水麥二百三十八萬四千八百九十六	<b>透</b> 帽		戸六十二萬一千三百五十三口五百二萬三千二	王府八周府 崇府 散府 汝府	一十二八縣九十二八縣九十二八八縣九十二十八十二十八十二十八十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	阁 紀
--	--	---------------	----------------------	-------------	--	----------------------	------------	--	----------------------	----------------	--	-----



史 225-702

來他南松器依之郡無州與湖郭江浙	浙江圖叙
-----------------	------

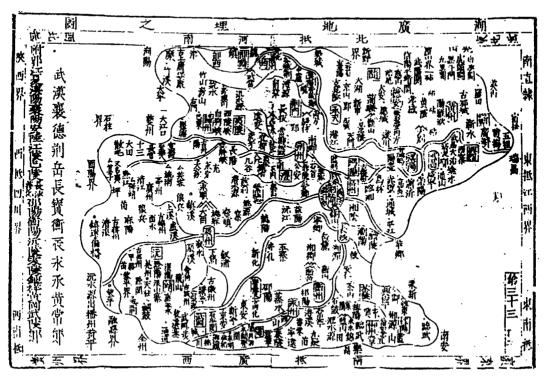
				本都司所屬馬步官軍三萬九十九百餘員名	軍馬	鹽運司額辦鹽四十四萬四千七百六十九引	馬草八十七萬四千四百九十一包	皇明明 一大河江南部	百七十四疋布九疋鈔五萬一千二百九十三錠	· 納井縣二百七十萬四千二百七十兩絹三千五	及秋二税共米麥二百五十一萬二百九十九石祭		萬五千四百七十一	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	アリ	都可领衛一十六萬二 所三十	布政司須府一十一屬州一縣	浙江圖紀
--	--	--	--	--------------------	----	--------------------	----------------	------------	---------------------	-----------------------	----------------------	--	----------	---------------------------------------	----	---------------	--------------	------



	四方至棄妻子不顧而禮俗日壞惡少問出美國在民渡供億根臨區古安衛州信億無刑部固在民渡供億根臨區古安衛州信億無刑部固在民渡供億根臨區古安衛州信億無刑部宣史。	江西區級
--	---	------

史 225-704

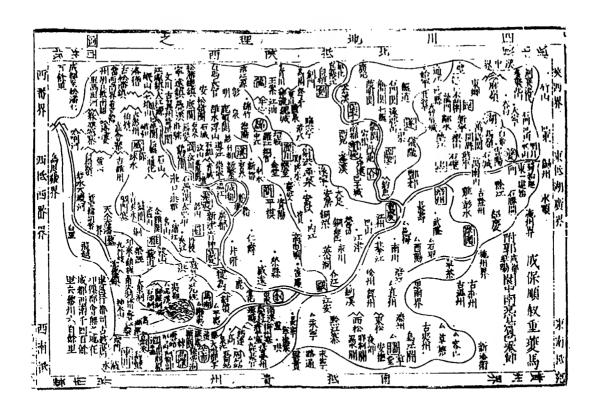
(2)	本都司所為馬步官軍一萬二千七百餘員名軍馬	<ul><li>百四十一疋鈔九千九百七十九錠</li><li>全明集庫 ★ 注下</li><li>二百三斤絹一萬一千五百一十六疋布一千三</li><li>「銭糧</li><li>(銭糧</li></ul>	江西國紀 本政司領府二十三十六百二十九日六百五十四 一方二八 海府 - 一十三   一十三   一十三   一十三   一十三   一十三   一十三   一十三   一十三   一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
-----	----------------------	--	---



史 225-705

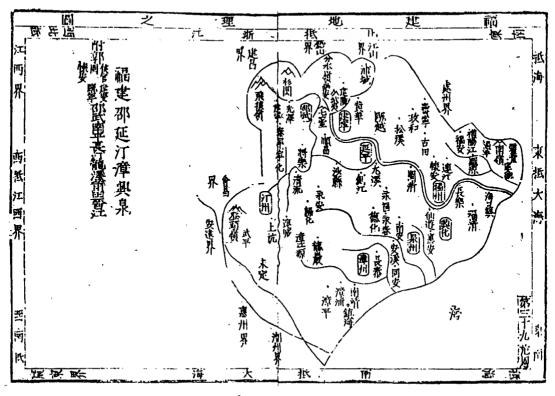
明議不明很加徵發使遠方之民坐困且久而玩敵將明議不明很加徵發使遠方之民坐困且久而玩敵將	the control of the co	<b>圳廣國</b> 叙
--	--	--------------

	本都司所屬馬埃省軍舎餘七萬一千六百餘員名軍馬	中  一  一  一  一  一  一  一  一  一  一  一  一  一	湖廣間紀 布政司領府一十四條州二十三州四 衛士為所所入 儀術司二 一十四 (
--	------------------------	--	---



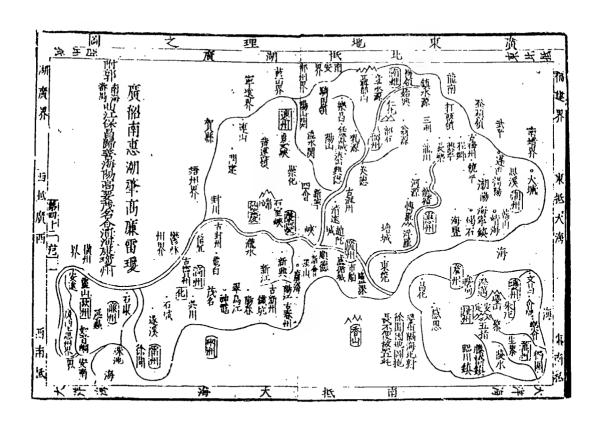
	四川古梁州地刻開邵鄉門開在表雲楼之山北塘大牙形格仰我鼻息然內相黨結及在那一門門古梁州地刻開邵鄉此為大內作懸車東馬鄉大牙形格仰我鼻息然內相黨結数路兵器上內不相及有難於定者矣此上列不相及有難於定者矣此上列不相及有難於定者矣此上列。 一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個一個
--	---

本都司所發馬 按官軍九千六百餘員名	九千一百七十七引提舉司并龍州等衛所額辦本折色小引題一十萬	· 八千三百三十三斤綿花七萬二千八百五十一 夏秋二税共米麥一百二十萬六千六百六十石絲	<ul><li></li></ul>		大官儀術可一 招討可一 行長官衛一十二編司四長官司二十一個所四十九宣無司長官司二十	四宜然司一長官司六 宣撫司三司一官安撫司不政司領府七八十長官司四軍民府四 州六二十四川國紀
-------------------	------------------------------	---	--------------------	--	---	---

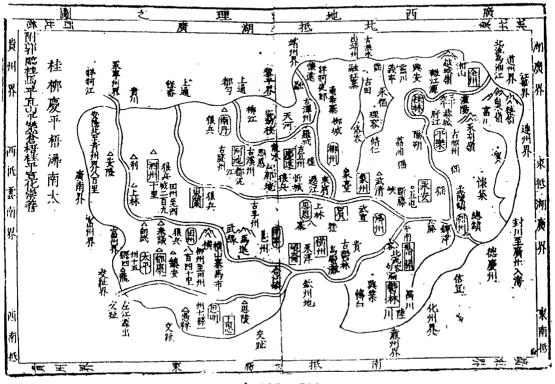


史 225-708

	有 1	本美國 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個
·		沃  矣   永   到   章   之   聚   寧   入   阻   剂   信定   日   交四春   寶   海   百   但   一 政   溪 湖   廣西   一



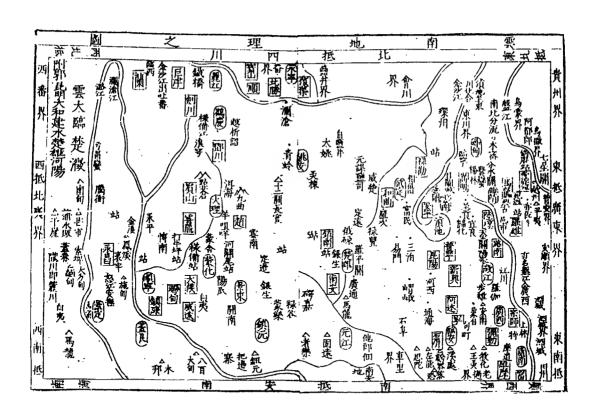
貧困者	及病之故外員富饒 不放之興殆無寧歲兵 不放之興殆無寧歲兵 在來州番物耕集本	廣東國叙 惟務劉掠有力則私通番舶而行物海上無事則挺 廣東古百粤地蓋五領之外號為樂土由雄南, 與山高河廉縣可以控交柱夜趾廣而形勝亦萬 時別可以向荆吳两廣江由惠惠前河河以制閱越 所屬可以向荆吳两廣江由惠惠前河河以制閱越 所屬可以向荆吳两廣江由惠惠前河河可以制閱越 時期可以向荆吳两廣江由惠惠前河河以制閱越
-----	--	---



史 225-711

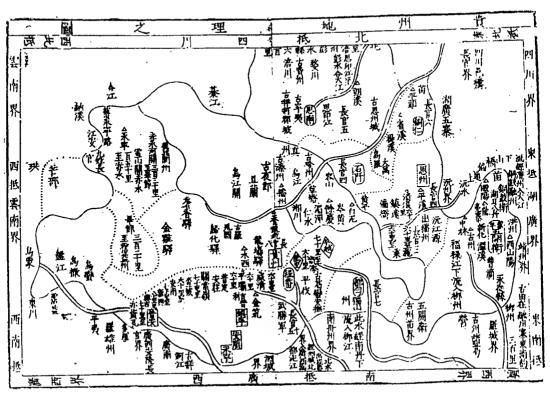
	在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	原以西則八条在柳州號為盗 所以西則八条在柳州號為盗 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	藤峽 跨在監營二江州境內之間諸蠻巢穴在焉則但古田為浦數縣俱堪林苦其鑑食而已鄢州則天 三八百里則已平苗夷所有阻兵江道肆為逐竊不	甚廣然內給 廣西古百号地當嶺南右偏三正)附近左襟带提封
--	---	--	--	--------------------------------

			本都司所屬馬歩官軍一萬二百餘員名		主明與剧 一个原的剧化 空卡	夏秋二稅共米麥四十三萬一千三百五十九石鈔		<b>戸一十八萬六千九十口一百五萬四千七百六十</b>	1''' 1 -	百年一獨所五千二十一三獨縣長官司二	布政司領府一十一五十長官司一軍民府一屬縣川	廣西圖紀
--	--	--	------------------	--	----------------	----------------------	--	-----------------------------	----------	-------------------	-----------------------	------



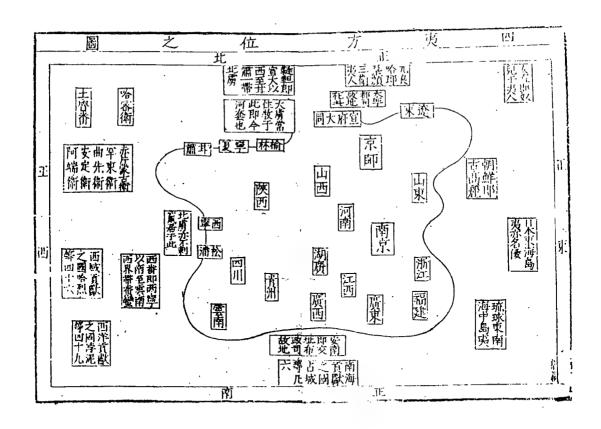
可不慎也	類雖得人則或情蠢動未為川陸具在人而林塞在今日	言然滇南北向中州必假道貴陽順而後進其險遠至今不聞悔禍咎在撫綏失策本無跌故諸羅戰從東川等構案相勢而不邦至	重市刷水 一里市刷水 一里 一里 一里 一里 一里 一里 一里 一里 一里 一里	即靖彈壓為蠻緊等府是 王公設會永昌軍民府 騰虧地塘諸何湖沧聯永昌軍民府 騰虧地塘諸何湖沧聯东昌福废楚雄颇號沃壤然元元安區	有為 險勢難統一者也必知其領要則雲南夷者十七時恬則且也機聚有事則歇敵雲南 雲南古照州商境地崇岡城県激澗紫紅城
3	為旧武	而策不土	者 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	於路路	<b>が、歌歌のでなど</b> が歌のを蓋人

	本都司所屬漢土選馬歩官軍八萬一千四百餘真	十五引 三東の 三東の 三東の 三東の 三東の 三東の 三東の 三東の	1 [1 ]	你司領衛二十編第一百六安撫所二十一 市司一長州五 宣慰司七 宣撫司三 長官司三縣九長州五 宣慰司七 宣撫司三 長官司三十四軍民府八一十雲商圖紀
--	----------------------	---	--------	--



史 225-714

	國家力-4.	端   -	京司 地发也里沙发生发生用北京一月女中大意文的手间,一个有用的一个人们的一个人们的一个人们的一个人们的一个人们的一个人们的一个人们的一个人们	災害而軍民歲計又太半仰川為蒙諸部軍民府師旅經	東內之刑為長天定諸夾常突出台民正宗教郡界在鎮軍人東官司隸湖廣四播衛門司機對直被監據廣土與伏北藩則更先軍節者思南石阡	院衙門您其很不何編外戸則守在東室州告部而山等峭深地齊寒利夷性猜許殆有甚為故?!! 而山等峭深地齊寒利夷性猜許殆有甚為故?!! 資州古西南夷雖施思國地地里變夷並同漢境	<b>青川 園 文</b>
--	--------	-------	--	------------------------	---	--	---------------



四長國 上川東国 京 · 神防 邊屬者不過遼東宣府大同榆林四鎮而東勝之鎮併近内地形勢愈弱打是所賴以荷 關 bili 乏質 守計率連 之遂盡所 近日文臣貪功置制失宜失中國之信不足為感 而供 從 加 西遂有河套之虞因循既久有司又不肯以時 四 〈學移置都司於保定而宣府遼東勢始分失正 逾 並 來有司又失事束勝大虜乃得逾河而 防递属者不過逐來宣府大同榆林四鎮 紁 將億 河套之南又有榆 A 新師等官及以就城行糧為務地方要失 應發提之若單士之正支之型地方要失 女兵四出以致各堡不得備禦而堡中之 之房短縱橫無復惟為排牧者決門師假 達致各堡地方徒以老弱疾病者所的假 邊數各堡地方徒以老弱疾病者所的假 邊數各堡地方後以老弱疾病者所的假 邊數各堡地方。 奸 15 **廵哨為之牵連接枚自足以各守地方督率** 鎮所領各堡亦有精壮有足其種的守備等 河路 四四 統出山後而逐來宣府大同勢相連為 癿 套來者則亦不利 僦 不可以自然 夷北虜為急國初設大學都 之故矣若吟器之失守土曾番之非 邊之道也 心 1北大房之警守在来勝 ) 个則無 林在全延安府 IF. 種鼠于俠之西好地方夢 假 訓 操以自 1 地方要失糧 質為六 近受降 司也 為 徧 Œ 假 4 固 老伙 城即 百倫 チ 鎮 M 命 弱為 按 備精 本夫 後 鎮之 巡查 禦 七 本 女 士 本 城 耕 官勤 捌 则 偷 **灭**解伏 C 11.11 紋 亦 酥 搥 ЙĬ 受網 以

_		文 ニオータイー イナニン イカオーエン イナンデ	英台水可然在一州出二八年来和一百八年也許	五十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	ガニファナイー・オニングラオーリスペーニュ	
A	The second secon	及三才下各个一十十二十八名我看二月三名之前	一 英国水川野化一州北二八年末和二五八年出	一 英三才可以在一月出二一年我看一里三年去了	アーザ ピクリダイー・オニア 名うおこり スキュニザ	-
		及三才下五十一十五二十八千天年二五二十二十二	東西水戸与在一州北二八年来和二五八年出去	英三才中的在一日出 二八名录香二五三名 李三五	3 コラーとイー・オースタラオニコス名と言	
		英三才下五十一中十二十八年天年二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	英台水戸等在一州井 二八年来和二五八年出五	我然才可不有一本出 二人名英利二耳以名 之三	プログライー・オロングラオ ロリンギュロザ	
		メニオアダイードナニア名対称ニアス名 さい	東西水田町で一州州二八谷東和二五八名以下	英三才下了一十十二一个来看二里又名 小司		
之とと	したとそではリビリビケアで会かるとで行う	五名比及其他可以可以为了了家介。也可有这	近名と民意を可以可以上でする。上す方を	五名比及其他可以可以为了了第一个生了有些	「「など民族性理理」に分子である。上下行会	しるととは世界リセプロスティーでは
区兆政	在	直氏形成項維則契則其外有可感行令作有前位及三才下がイー州 サニン 名男村ニリン名と	直氏形式運用駅川県野町可露行今作所前屋東西水田町で一里 ガニフネス和ニモンギジョ	直氏形成項維則契則其外自可感行令作有前位	直近 化联页准间架则此外有可感给今作有前位	在 氐 化 吸 頂 推 刊 駅 刊 电 外 可 雪 看 全 化 有 前 也
洮嵠	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛並	直抵洮峨與難制禦則其勢有可處者令惟有痛幸	直抵挑戦與難制架則其勢有可應者令惟有痛幸	直抵挑战與難制禦則其勢有可應者令惟有痛幸	直抵洮峨與難制禦則其勢有可應者令惟有痛遊	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛幸
抵洮岷	直抵挑岷颇難制架則其勢有可應者令惟有痛益	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者今惟有痛益	直抵挑眠與難制禦則其勢有可應者今惟有痛並與三十八十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	直抵挑眠與難制禦則其勢有可處者今惟有痛益	直抵挑眠颇難制架則其勢有可應者全惟有痛益	直抵挑岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛並
抵洮 岷	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛益	直抵挑眠與難制禦則其勢有可應者令惟有痛當	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者今惟有痛並	直抵挑眠與難制禦則其勢有可應者令惟有痛當	直抵洮峨颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛當	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛並
抵洮岷	直抵洮岷颇難制架則其勢有可處者全惟有痛並	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者今惟有痛當	直抵洮峨與難制禦則其勢有可應者今惟有痛當	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛當	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者今惟有痛並	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛當
张 龙 代 张	可限を大い本とぎョアカロとより中文を上った抵別、民政難制架則其勢有可應者令惟有痛幸	直抵洮峨與難側架則其勢有可處者全惟有痛苦	司景及犬之各と置引アカロとりち中女を十つ直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者今惟有痛並英名オリが在一州井二フ名来和二正フ名当	司景を大い各巻置引アカロとより中文を上で直抵洮岷與難制架則其勢有可處者全惟有痛並	直抵洮峨颇難側架則其勢有可處者今惟有痛並	司景を大い本と送司子カロとり方件なた十つ直抵兆岷頻難制禦則其勢有可應者今惟有痛益
操 挑 张 张	周景 安伏之 降 圣	直抵洮 岷 颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者今惟有痛苦 東台オア等化一辈 オニフネス和二重ンギッコ	直抵洮 岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	直抵 洮 岷 颇難 制架 則其勢有可處者令惟有痛當	直抵 洮 岷 颇難 側架 則其勢有可處者全惟有痛苦
操牧伙	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計五直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者全惟有痛並	高振,我伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而 直抵,挑岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛虛	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計の直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者今惟有痛強	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並	胡振按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計五直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並
操拨伏	胡操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計面直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	胡操按伏之弊堅璧固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可愿者令惟有痛益	胡操按伏之弊堅璧固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者今惟有痛益	胡操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計面直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者全惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛盡
操拨状	胡操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計面直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛益	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計面直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計四直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計面直抵洮岷颇雞制禦則其勢有可處者今惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計面直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛強	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛並
操挑账	調操按伏之弊堅壁固守勤加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛強	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者今惟有痛強	調操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計面直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛难
L 操 抵 挑 代 水 代 収	胡操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計面直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛並	胡振按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計面直抵洮岷頗難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者全惟有痛並	胡操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛並	調操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計面直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者今惟有痛並	胡採按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並
H. 操 抵 挑 账	無凡近川了可与山土台有蠻之宜川正平 上省了 胡操按伏之弊堅壁固守動加廵啃為耕牧長計而 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛並	無凡近川今可与山土台有優と近川正平上舎と調操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計面直抵洮岷颇難側禦則其勢有可應者令惟有痛並	無凡近川今可与山土台有優と竹川正平上舎と高州操牧伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計の直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並近台水中的	無凡近川今可与山土台有優と近川正平上舎と調操投伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計面直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	無凡近川今可与山土台南優と竹川正平上舎と胡掃按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計面直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛強	無凡近川了可与山土台南畿と竹川正平 上省了 胡掃按伏之弊堅壁固守勤加廵哨為耕牧長計而 直抵洮岷頗難制禦則其勢有可愿者令惟有痛輩
祖 操 找 挑 帐	無祝近刊乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅壁固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可愿者令惟有痛並	無祝近刊乃可為也其治南蠻之道則在率上著良胡操按伏之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛強	無祖近刊乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並	無祝近刊乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛並	無祝近刊乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛盡	無視近刊乃可為也其治南蠻之道則住率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可愿者今惟有痛並
祖 操 抵 挑 帐	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上者良調操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可處者令惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛強	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上者良調操按伏之弊堅壁固守動加巡哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛益	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良胡操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可愿者令惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛盡
	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良胡操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵挑岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良調操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土者良胡操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅壁固守勤加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可愿者令惟有痛並
近 按 洮  利 伏 岷	無犯近到乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅壁固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可愿者令惟有痛並	無祖近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛強	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	無祖近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛並	無祖近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷與難制禦則其勢有可愿者令惟有痛並
〈 近 按 洮   利 伏 岷	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛益	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅壁固守動加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛益	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅壁固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛並
以 近 按 洮   刊 伏 岷	是科文 自自产皇一及下支為之更為寸五也不在 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 調操按伏之弊堅璧固守勤加廵哨為耕牧長計而 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛並	八月以子百子包一及下支与乙巴与寸五五万名 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而 直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛哉	代刊以下日子包一及下支為乙巴為寸丘也下等 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 調操按伏之弊堅璧固守勤加廵哨為耕牧長計而 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	八月以子百子包一及下支与乙巴每寸五五万名 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 調操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計面 直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛並	無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著度照視近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著度調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛並	送母以 自自守包一及下支為之更為寸丘也不等 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛輩
以 近 按 洮 自 利 伏 岷	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近到7万為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可愿者令惟有痛並	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近利了可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛难	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛益	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可愿者令惟有痛益
符 犯 操 逃 脱 们 伏 账	民得以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 調操按伏之弊堅璧固守勤加廵哨為耕牧長計而 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛並	民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛益	民得以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良 調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛強	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛益	民得以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 調操按伏之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而 直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者令惟有痛並	民得以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策照 犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛益
以 近 按 洮  自 利 伏 岷	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛並	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策照,很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛益	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛並	民行以自相守望一或不支為之迎獨附近地方策照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛益	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近到乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可應者全惟有痛並	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良調操按伏之弊堅壁固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可處者令惟有痛益
以 近 按 洮   自 利 伏 岷	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方簽照, 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛益	民行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策照犯近刊乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛难	民行以自相守空一或不支為之連獨附近地方策照, 照, 很近到了可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計面直抵, 就岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦	民行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛益	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方簽照,	民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良調操按伏之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可愿者令惟有痛益
口以  近   按   洮 川 自   利   伏   岷	民行以 用员 元 员员 计 是	民行以自相守望一或不支為之迎獨附近地方策照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯疑人之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計而直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛益	民行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策照, 照, 在, 近, 对, 对, 可, 为, 也, 其, 为, 市, 要, 之, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对,	民行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼	民行以自相守望一或不支為之迎獨附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯疑此利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯疑此人之弊堅壁固守勤加廵啃為耕牧長計而	民行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策照, 但近到了可為也其治南蠻之道則在率上著良照, 那, 张 世 成
四 以 近 按 洮	思之中明音之下背音西之皮 不足不 沒故問己 民行以自相守望一或不支為之連獨附近地方爺 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無稅近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無稅機與難制禦則其勢有可處者今惟有痛苦	思之中明音之下青音西之皮 不是公子 皮发 馬之 医光中阴音之下青音西之皮 不是 高州近地方笛 照 犯 近利 乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無 犯 近利 乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無 报 按 伏之弊堅壁 固守動加 观 宵為耕 牧 長 計 而 直抵 洮 岷 颇難制禦則其勢有可愿者令惟有痛苗	思之中明音之下青音可之皮 天星公子 皮发 馬克 医人口阴音之下青音可之皮 天星公子 皮发 用 工作	思之中明音之下青音可之及天星公子及牧司之民,即将以自相守望一或不支為之迎屬附近地方爺照,那,我近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無,很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無,很,我人之弊堅璧固守勤加 20 1 2 2 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	思之中明音之下青音西之皮 不足 不 皮 故 周己 民	思之中闭音之下背音面之皮 不置公子 皮 放 問己
如 以 近 按 洮 胡 自 利 伏 岷	應之如初廣之末睛廣西之很無置之不復數調果民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無稅近親投人之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計而	應之如湖廣之永晴廣西之很無置之不復數調果民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯幾處難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦	應之如彻廣之來晴廣西之很無置之不復數調果民科以自相守望一或不支為之連屬附近地方能無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯姚岷頗難側禦則其勢有可處者全惟有痛苗	應之如湖廣之永晴廣西之很無置之不復數調果民科以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯號帳頗難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦	應之如初廣之來晴廣西之很無置之不復數調果民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無稅近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無來收之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計面	應之如湖廣之末晴廣西之很無置之不復數調果民得以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無稅與難制禦則其勢有可處者令惟有痛盡
如 以 近 按 洮湖 自 利 伏 岷	應之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調毘民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯疑我代之弊堅璧固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難側禦則其勢有可處者全惟有痛苦	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調毘民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著鬼無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著鬼無犯疑與難制禦則其勢有可應者令惟有痛苗	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調毘民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方爺照飛近到乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼無犯疑賊殿難制禦則其勢有可處者令惟有痛苗	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調毘民得以自相守望一或不支為之連獨附近地方爺照報遊人之外堅璧固守動加廵哨為耕牧長計面無抵近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無稅近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調毘民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯族民人文弊堅璧固守勤加廵哨為耕牧長計區	應之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調毘民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯疑此與難制禦則其勢有可愿者令惟有痛苗
如 以 近 按 洮  湖 自 利 伏 岷	應之如湖廣之永靖廣西之狼兵置之不復微調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無稅近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無稅城與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民民科以自相守望一或不支為之連屬附近地方爺無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著追無挑拨伏之弊堅壁固守勤加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可處者令惟有痛苗	應之如湖廣之末埔廣西之很兵置之不復微調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策照很近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯幾處難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦	應之如湖廣之末埔廣西之很兵置之不復微調民民科以自相守望一或不支為之連屬附近地方能無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯族代之弊堅璧固守勤加廵哨為耕牧長計區	應之如湖廣之來靖廣西之狼兵置之不復徵調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯疑,以及弊壓壁固守動加廵哨為耕牧長計而	應之如湖廣之永靖廣西之很矢置之不復微調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無級娛歎制禦則其勢有可處者令惟有痛苗
如 以 近 按 洮  湖 自 利 伏 岷	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無稅,與難制樂則其勢有可處者全惟有痛苦	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方領無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯,以此人之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而直抵洮岷頗難制禦則其勢有可處者令惟有痛苗	應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調民照和近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯號級難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方領照,提到了可為也其治南蠻之道則在率上著自無抵,以此與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苗	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無稅機與難制樂則其勢有可處者令惟有痛苗	應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無稅與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苗
[]如 以 近 按 洮 - 湖 自 利 伏 岷	應之如湖廣之末埔廣西之狼兵置之不復微調品既和近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著自無犯狀帳與難制禦則其勢有可應者全惟有痛益	應之如湖廣之永靖廣西之很無置之不復微調品既很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯疑人之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計至	應之如湖廣之永靖廣西之很無置之不復微調品既很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無很疑此人之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計而	應之如湖廣之永靖廣西之很無置之不復微調品既很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無很疑,以於此處難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦	應之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策照,與強拔人之弊堅壁固守動加經肾為耕牧長計區。	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調足民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良無犯疑戰難制禦則其勢有可愿者令惟有痛苗
[]如 以 近 按 洮 モ 湖 自 利 伏 岷	應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調民既和近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著自無犯疑敗與難側禦則其勢有可處者全惟有痛苦	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯 近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自	<ul><li>た日ご子、子とまたりことではよりことがある。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたり、ことは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたり、ことは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたり、ことは、大きない。</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>た日ご子、子とまたり、</li><li>たり、ことは、ことは、ことは、</li><li>たり、ことは、ことは、ことは、</li><li>たり、ことは、ことは、ことは、</li><li>たり、ことは、ことは、</li><li>たり、ことは、ことは、</li><li>たり、ことは、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、</li><li>たり、ことは、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li><li>たり、</li>&lt;</ul>	<ul><li>た日ご子、子とまたりことではよりことがよう。</li><li>た日ご子、子とまたりことでは、大きでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般</li></ul>	應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調民既和近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯疑敗與難制禦則其勢有可應者令惟有痛苗	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調民民行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策照很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯疑敗與難制禦則其勢有可愿者令惟有痛苗
ゼ 如 以 近 按 洮 に 湖 白 利 伏 岷	應之如湖廣之永靖廣西之狼兵置之不復徵調品 照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯疑此似與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦	悪之如湖廣之末靖廣西之後兵置之不復微調品 照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無犯炎人之弊堅璧固守勤加廵啃為耕牧長計區	<ul><li>延出で兵不妻民無食力ご文を無食川に大手に 原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良</li></ul>	<ul><li>延出で兵不妻民無食力ご文を無食川に大手に 無犯が明備之末靖廣西之很無置之不復微調品 無犯が利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯が利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯が利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 大者以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 、一、「大」「大」「大」「大」「大」「大」「大」「大」「大」「大」「大」「大」「大」「</li></ul>	悪之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著自無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著自無犯炎以外堅壁固守動加廵哨為耕牧長計而	應之如湖廣之永靖廣西之狼矢置之不復微調品 既得以自相守望一或不支為之連獨附近地方策照 飛飛近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良
死 如 以 近 按 洮 兵 湖 自 利 伏 岷	是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武将亦 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武将亦 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調民 照視近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無視近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無視近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武将亦 應之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復微調民 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武将亦 底之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武将亦 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調民 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武将亦 應之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調民 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良
死   如   以   近   按   洮	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 既行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 無礼近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無礼近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無礼近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無礼近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自	展之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 照孔近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼無犯近地方有	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良
死   如   以   近   按   洮   兵   湖   白   利   伏   岷	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著身 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著身 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著身	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦直抵, 以行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無, 就操按伏之弊堅璧固守動加廵啃為耕牧長計而無, 就, 就, 我, 对, 可為也其治南蠻之道則在率上著鬼無, 我, 我, 我, 对, 可, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对,	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 底之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯 近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良
死 如 以 近 按 洮  兵 湖 自 利 伏 岷	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 照孔近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無孔近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯 近	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 既之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自	應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 照孔近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼無孔近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼
死   如   以   近   按   洮   兵   湖   自   利   伏   岷	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 既行以自相守望一或不支為之連屬附近地方卷 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 既行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著東 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著東 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著東	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦直抵, 以自相守望一或不支為之連屬附近地方策照, 我以自相守望一或不支為之連屬附近地方策照, 我以自相守望一或不支為之連屬附近地方策照, 我以自相守望一或不支為之連屬附近地方策區之, 於此處難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 既行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自	是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 應之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調品 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著息 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著息 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著息
5   死   如   以   近   按   洮 5   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洗眠與難制架則其勢有可處者全惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自	正文子子子、 一人士二人名 一人士二人名 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦	正文子子子子子 一根 出 二 7 年来和二 正 7 年 9 年 1	正文子子子、 一人一人也一人也一人也一人也一人也一人也一人也一人也一人也一人也一点一点不要的一点不要的一点不要的一点不要的一点一点,一点一点,一点一点,一点一点,一点一点,一点,一点,一点,一点,一点,	度相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 於此於 以為此其治南蠻之道則在率上著良	度相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 既行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 既之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 既是如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文區無食利之武將 及前, 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將 及調, 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將 及調, 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医足相死兵不毒民無食功之文区無食利之武將亦 医大行以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 医之如湖底之末嵴 医二氏性 医二氏性 医二氏性 医二氏性 医二氏性 医二氏性 医二氏性 医二氏性	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在一里 出二人名米利二里之名为 原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 無礼近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著身 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 在抵洮岷頗難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不放年而晏然矣	在	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 医光外的 有守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 医水外外 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医水外外 自相守望一或不支為之 連屬附近地方策 医水外 医骨膜 医水外 医骨膜 医水外 医骨膜 医水外 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤	在抵洮、岷颇難制樂則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮、岷颇難制樂則其勢有可處者令惟有痛苦 医犬 伊以 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 医之 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛並 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛並 医光行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医光行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 不數年而必然美	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 医犬 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医大利及自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医大利及自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医大利氏性 医皮肤 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医大利氏性 医皮肤 医生性 医生性 医生性 医生性 医生性 医生性 医生性 医生性 医生性 医生性	在抵洮 岷 颇難 制架 則其勢有可愿者 全惟有 痛苦 医之 如 湖 廣之 末 晴 廣 西之 狼 兵 置之 不 復 徵 調 思 之 如 湖 廣 之 求 晴 廣 西之 狼 兵 置 之 不 復 徵 調 居 展 之 如 湖 廣 之 末 晴 廣 西之 狼 兵 置 之 不 復 徵 調 民 得 以 自 相 守 望 一 或 不 支 為 之 連 屬 附 近 地 方 策 医 之 如 湖 廣 之 末 晴 廣 西之 狼 兵 置 之 不 復 徵 調 民 和 死 年 不 数 年 而 晏 然 美	在抵洮 岷 颇難制樂則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著鬼 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著鬼 既得以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 此,此,此,以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 大衛 大衛, 大衛, 大衛, 大衛, 大衛, 大衛, 大衛, 大衛, 大衛,
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵 湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛苦 医光科以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調足 化 和 死 兵不 要 至 國 與 與 與 與 與 與 對 和 观 哨 為 耕 收 長 計 证 。 不 數 年 而 晏然 矣	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 医代行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調 医足相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武粉 正著 电 医人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	在抵洮岷颇難制樂則其勢有可處者令惟有痛苦 医光 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 医光 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 医水 如 和 所 在 下	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難側禦則其勢有可處者全惟有痛苦 直抵洮岷颇難側禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医犬 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医足相死兵不毒氏無食功之文 医無食利之武将 在 医水 似 與 與 與 與 與 與 對 有 可 處 者 全惟有 痛苦 在 数 年 而 安然 矣	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医光外的 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調 医光	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医大种死兵不毒氏無食功之文区無食利之武将本 人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰	直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医大利死 自有 中国 一	在抵洮、岷颇難制樂則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著身 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著身 此和近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著身 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医科灰白相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医水 人名 医克尔克斯氏 医二氏神经 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种
年   死   如   以   近   按   洮   而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医犬 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 思之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 思之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 医大利炎自相守望一或不支為之連屬附近地方領 医水 人名英格兰 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤	正然, 原之如湖廣之永靖廣西之後,至置之不復徵調品 無, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一	直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調思 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調思 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調思 上著自 医人种死兵不毒氏 原文 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰	在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者今惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者今惟有痛苦 医对次自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 医力以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 化
年   死   如   以   近   按   洮   而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 不數年而安然矣	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調足 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調足 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在	在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	在 原之如湖廣之永靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之永靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之永靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之永靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之永靖廣西之狼兵置之不復微調 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在 如
年 死 如 以 近 按 洮  而 兵 湖 自 利 伏 岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛死 在 大	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之求靖廣西之狼矢置之不復徵調臣 應之如湖廣之求靖廣西之狼矢置之不復徵調臣 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医犬 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医足相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將在 医心外外外 医骨头 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌	在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	在 原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦	在抵洮岷颇難制樂則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在
年 死 如 以 近 按 洮 而 兵 湖 自 利 伏 岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛克 不數年而必然 人工 與	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調田 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在	在一里 出二人名米利二百人名 不数年而必然矣	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦	在 原 定 是 相 所 是 相 所 是 相 所 是 相 所 是 相 所 是 相 所 是 相 所 是 是 相 所 是 之 不 要 的 所 是 一 或 不 支 為 之 連 る 所 近 地 方 後 高 西 之 在 を 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	在抵洮岷颇難制樂則其勢有可應者令惟有痛苦 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 此代以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年 死 如 以 近 按 洮  而  兵 湖  自 利 伏 岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛克 在 大	在抵洮、岷颇難制樂則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調田 此之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調田 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦	在抵洗眠與難制樂則其勢有可處者令惟有痛苦 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 既行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 此之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本	在抵洮岷颇難制樂則其勢有可應者令惟有痛苦 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調果 既得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 此程以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 天相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 不數年而晏然矣
( 年 死 如 以 近 按 洮  而 矢 湖 自 利 伏 岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 医光外的 有好空一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調果 不數年而晏然矣	正述, 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医光行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏	直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 医对次 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之 如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調果 足相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武粉 在 大 数年而 安然 美	原之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 無礼近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 此行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而晏然矣	在 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調足 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 天相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣
( 年 死 如 以 近 按 洮   而 矢 湖 自 利 伏 岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛益 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛在 工業 医皮相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医	正在工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 民行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 民行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 尼和死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 不數年而受然矣	正在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医对次自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 医大利氏 计可长式 计可长式 计可长式 计可接触 医神经神经 医神经神经 医神经神经 医神经神经 医神经神经 医神经神经 医神经神经神经神经
く  年   死   如   以   近   按   洮 -   而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洗眠颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 在抵洗眠颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光神及白相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医大种 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	正人工作的杂文式分子工工产工程工具 在	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医大利死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医之外 电电流 医电流 医电流 医电流 医电流 医电流 医电流 医电流 医电流 医电流	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 人名伊斯曼 医克里克斯曼氏病 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎	在人工市场旅文大子工工产工程工具工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光 如	正人子所以 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著惠 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而必然矣	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調 医大利死兵不毒氏照食功之文 医無食利之武粉 在 數年而受然美	直抵挑战與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵挑战與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医大利死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦足 机延升分可為电共治南壁之道則在率上著自 医水管 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医人上价易聚发大了产生之事耳及 用 天明 在 一
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而  兵 湖      利  伏 岷	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光 人	在人上企門東安大了今日之來耳臣又用 天明 在	在	在	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医乳腺 化对以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而妥然矣
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而 兵 湖 自 利 伏 岷	在火上於開桑安大乃全日之來耳臣又用 兵軍 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調臣 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調臣 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而晏然矣	在火上企門東京 一大大工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	在	在火上企門東京 一大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	在火上企門桑安大了全日之來耳臣又用 兵車 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調臣 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在火上谷開桑安大乃全日之來耳臣又用 兵那 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而晏然矣
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而 兵 湖 自 利 伏 岷	在火上給別菜收火乃今日之來耳臣又別任何 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 展之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而晏然矣	在火上給別菜收火乃今日之來耳臣又別任何 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在火上命刷菜安大了今日之來耳臣又開任軍在火上命刷菜安大了今日之來耳臣又開任軍工工程,	在火上命刷菜安大乃今日之來耳臣又開任師 在火上命刷菜安大乃今日之來耳臣又開任師 在	在火上給別菜收火乃今日之來耳臣又別任所 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調臣 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在火上命別菜安大乃今日之來耳臣又謂任何 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而必然矣
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而	在以上爺別菜收伏乃今日之來耳臣又謂任何 在 然年而 虽然 我们 我们 我们 我们 我们 我们 我们 我们 我们 我们 我们 我们 我们	在以上爺別菜收伏乃今日之來耳臣又別任何 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在以上命期操收伏乃令日之降耳臣又罪任知 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 医犬 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医足相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將在 足相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將在 足相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將在 足相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將在 工 数年而 晏然矣	在以上爺別菜收伏乃今日之來耳臣又別任何 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調臣 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調臣 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在以上爺別菜收伏乃今日之來耳臣又別任何	在以上爺別菜收伏乃今日之來耳至又謂任何 在以上爺別菜收入了門為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武粉亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武粉亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武粉亦 不數年而必然矣
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而	在以上淪別操收伏乃今日之來耳臣又開任無 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調田 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調田 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 不數年而晏然矣	在以上渝剔操收伏乃今日之來耳臣又開任無在以上渝剔操收伏乃今日之來耳臣又開任無理,在近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無,在近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無之如湖廣之永靖廣西之狼兵置之不復微調區是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在人人,	在以上渝剔操收伏乃今日之來耳臣又聞任無在以上渝剔操按伏之弊堅重時動加經情為耕牧長計不應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不少者,其一人,其一人,其一人,其一人,其一人,其一人,其一人,其一人,其一人,其一人	在以上渝剔操收伏乃今日之來耳至別兵師在以上渝剔操收伏乃今日之來耳至又別兵師是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不動车而安然矣。	在以上淪剔操收伏乃今日之來耳臣又開任無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在以上淪別操收伏乃今日之來耳臣又開任無 在以上淪別操收伏乃今日之來耳臣又開任無 無 犯 近 利 万 可 為 也 其 治 南 蠻 之 並 則 在 率 上 著 自 些 之 如 湖 廣 之 求 靖 廣 西 之 很 在 置 之 不 復 都 的 是 相 死 兵 不 黄 年 縣 全 如 湖 廣 之 末 靖 廣 西 之 很 在 置 之 不 復 都 即 是 相 死 兵 不 黄 年 而 晏 然 矣
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而	在以上淪剔操伙伏乃今日之弊耳臣又開任無 在	在以上淪別操伙伏乃今日之弊耳臣又開任無在以上淪別操伙伏乃今日之弊耳臣又開任無理, 在近, 对, 对, 可為也其治南蠻之道則在率上著自無, 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武, 對, 在近, 以, 自相守望一或不支為之連屬附近地方策是, 也, 如, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对, 对,	在以上淪別操伙伏乃今日之弊耳臣又開任無在以上淪別操伙伏乃今日之弊耳臣又開任無祖近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無之如湖廣之永靖廣西之很兵置之不復微調臣是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不少者,其也以此人以此人以此人以此人以此人以此人以此人以此人以此人以此人以此人以此人以此人以	在以上淪別操伙伏乃今日之弊耳臣又開任無在以上淪別操伙伏乃今日之弊耳臣又開任無理, 在近, 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武, 許在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武, 對在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武, 對在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武, 對在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武, 對在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武, 對在 是 相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武, 對在 工工工程 是 是 一	在以上淪剔操收伏乃今日之弊耳臣又開任無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調臣 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而晏然矣	在以上淪剔操按伏乃今日之弊耳臣又開任無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而必然矣
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而	在以上渝剔操按伏乃今日之弊耳臣又開兵無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不。 是相死兵不。 是相死兵不。 是一或不支為之連屬附近地方等 是一或不支為之,是一或所。 是一或不支為之,是一或不復徵調果 是一或不少。 是一或一。 是一。 是一。 是一。 是一。 是一。 是一。 是一。 是一。 是一。 是	在以上淪剔操按伏乃今日之來耳臣又開任無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在以上淪剔操按伏乃今日之弊耳臣又開兵無直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛惡之如湖廣之永靖廣西之狼兵置之不復微調品是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在足相死兵不動车而安然矣	在以上渝剔操按伏乃今日之弊耳臣又開兵無直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医足相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將 在以上渝剔操按伏之弊堅壁固守勤加 观 情為耕牧長計 不 数年 而 曼然矣	在以上淪剔操按伏乃今日之來耳臣又開任無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 不數年而晏然矣	在以上渝剔操伙伙乃今日之弊耳臣又開兵無
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而	在以上渝剔操收伏乃令日之弊耳臣又開任無 在	在以上渝剔操收伏乃今日之弊耳臣又開任無 在以上渝剔操收伏乃今日之弊耳臣又開任無 在 我 不 要 年	在以上渝剔操收伏乃今日之弊耳臣又聞任無在以上渝剔操按伏之弊堅置守勤加廵背為耕牧長計正 照和近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無化近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而 安然矣	在以上渝剔操收伏乃今日之弊耳臣又開任無 在以上渝剔操收伏乃今日之弊耳臣又開任無 在	在以上淪剔操收伏乃今日之來耳臣又聞任無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調思 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而晏然矣	在以上淪別操收伏乃今日之弊耳臣又開任無 在以上淪別操收伏乃今日之弊耳臣又開任無 無 犯 近 利 万 可 為 也 其 治 南 蠻 之 並 則 在 率 上 著 自 些 之 如 湖 廣 之 末 靖 廣 西 之 很 在 更 看 的 一 本 在 以 上 渝 別 與 的 其 的 南 愛 之 道 則 在 率 上 著 自 医 之 如 湖 廣 之 末 靖 廣 西 之 很 在 更 看 的 一 在 次 上 渝 別 操 收 人 类 弊 堅 置 可 动 加 观 哨 為 耕 牧 長 計 正 在 以 上 渝 別 操 收 人 类 整 整 置 可 动 加 观 哨 為 耕 牧 長 計 正 在 以 上 渝 別 操 的 类 的 更 有 可 愿 者 令 惟 有 痛 苗 在 以 上 渝 別 操 的 类 的 更 有 可 愿 者 令 惟 有 痛 苗 有 以 上 渝 別 操 的 类 的 更 有 可 愿 者 令 惟 有 痛 苗 有 以 上 渝 別 操 的 更 有 可 愿 者 令 惟 有 痛 苗 有 以 上 渝 別 操 的 更 有 对 之 文 臣 無 食 初 之 取 有 可 愿 者 令 惟 有 痛 苗 有 以 上 渝 別 操 的 更 有 可 愿 者 令 惟 有 痛 苗 有 以 上 渝 別 操 的 更 有 可 愿 者 令 惟 有 痛 苗 有 以 上 渝 別 操 的 更 有 可 愿 者 令 惟 有 痛 苗 有 以 上 渝 別 解 し 其 労 す 可 愿 者 令 惟 有 痛 苗 有 以 上 渝 別 解 し 其 労 す 可 愿 者 令 惟 有 痛 苗 有 以 市 る か と か と か と か と か と か と か と か と か と か
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而	在以上渝別菜收伏乃今日之來耳臣又別任知 在	在以上渝別菜收伏乃今日之來耳臣又別任知 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在以上 新州菜收伏乃今日之降耳臣又州长师 直抵 挑岷 颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医 如	在以上渝別菜收伏乃今日之來耳臣又別任何	在以上爺別菜收伏乃今日之來耳臣又別任知 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在以上渝別菜收伏乃今日之來耳至又用任何 在以上渝別菜收大之弊堅壁固守動加廵哨為耕牧長計不 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武粉在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武粉在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武粉在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武粉在 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而 兵 湖 自 利 伏 岷	在火上給別菜收火乃今日之來耳臣又別任無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在火上命剧菜安大乃今日之界耳臣又别任师 在火上命剧菜安大乃今日之界耳臣又别任师 照视近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 照之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	在火上命剧菜安大乃今日之界耳臣又别任师 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医和死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不数年而妥然矣	在火上命剧菜安大乃今日之界耳臣又别任师 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調	在火上給別菜收火乃今日之來耳臣又別任無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在以上命別菜安大乃今日之來耳臣又別任無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 。 一直抵洮岷頗難制禦則其勢有可愿者令惟有痛恭 不數年而晏然矣
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而 矢 湖 自 利 伏 岷	在火上給開桑安大乃全日之來耳臣又開任那 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在火上給開桑安大乃全日之來耳臣又開任那 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之很矢置之不復徽調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而晏然矣	在火上企用来安大了全日之界耳下又用下面 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調足 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而安然矣	在火上給開桑安大乃全日之來耳臣又開任那 在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調臣 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而安然矣	在火上給開桑安大乃全日之來耳臣又開任那 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 不數年而晏然矣	在火上給開桑安大乃今日之來耳臣又開任無 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而晏然矣
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而 兵 湖 自 利 伏 岷	直抵洗眠與難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医光光 医光光 医光光 医光光 医光光 医光光 医光光 医光光 医光光 医光	在火上企門東京 一大工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	在	在人上企門東京 一大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	在火上企門桑安大乃全日之來耳臣又用兵軍 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 不數年而晏然矣	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者今惟有痛苦
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而  兵 湖      利  伏 岷	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光光 医光光 医光光 医光光 医光光 医光光 医光光 医光光 医光光 医光	在人上企門東安大了全日之本耳臣又用 天明 在	在	在	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医光外 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光 如	正人士命司報及大子內司之軍工程又用 E E E E E E E E E E E E E E E E E E E	直抵挑城與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵挑城與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	直抵挑战與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可愿者令惟有痛苦 医双升吸兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医沿以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 走 机延升次 自相守望一或不支為之連屬附近地方第 大
以 年 死 如 以 近 按 洮 上 而	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光光 医大力 医	正人工企品菜安大了个工工车工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医	正人子的 B 整	正人工企品聚发大子和工作工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工程工	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医水外 的 人 的 解
年   死   如   以   近   按   洮   -   而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光光 人名 医	正人工作用来收大了人工工作工程工程工程工程工程工程, 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 不數年而安然夫	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医光灯以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 民 相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足 相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 足 机 近 利 乃 可 為 也 其 治 南 蠻 之 道 則 在 率 上 著 自 正 水 华 而 曼然 关	直抵挑战與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医光外 自相守望一或不支為之連屬附近地方領 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調品 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調品 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調品 医大利氏 自相守望一或不支為之連屬附近地方領 医水外 自相守望一或不支為之連屬附近地方領 医水外外 自	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦
年   死   如   以   近   按   洮 -   而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光 工作 医	正人工作司来安大子工工车下段工具	直抵 光 一	直抵挑战與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調品 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調品 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調品 不數年而妥然矣	在人工企具来安大子工工车工程工具工程工程工程, 原之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 不數年而晏然矣	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦
く  年   死   如   以   近   按   洮 -   而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光科以自相守望一或不支為之迎屬附近地方能 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 民相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦足 相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 医水 化二酚甲酸	正式 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医对次 的 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 民 相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將 在 是 相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將 在 是 相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將 在 是 相死兵不毒民無食功之文 医無食利之或 將 在 是 相死兵不毒民無食功之文 医無食利之或 將 在 是 相死兵不毒民無食功之文 医血管者 是 一个 是 一个 是 一个 是 一个 是 一个 是 一个 是 一个 是 一	正不好不可以不不知不可愿者令惟有痛苦 無犯,所以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 此,行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 不數年而必然矣	在人工的目录大大人工工产工程工具 在 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率土著良 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調民 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而必然矣	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苗直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苗 正 我 好 的 自相守望一或不支為之連屬附近地方策
( 年 死 如 以 近 按 洮   而 矢 湖 自 利 伏 岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛益 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛在 工業 医皮相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 民行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 民行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 民和死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦足 机死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 不數年而受然矣	直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 医犬 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 足相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦足 机延升 下	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工
( 年 死 如 以 近 按 洮  而 矢 湖 自 利 伏 岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 医光外的 有守望一或不支為之連屬附近地方能 医之如湖廣之末靖廣西之後兵置之不復微調果 應之如湖廣之末靖廣西之後兵置之不復微調果 医 相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医 地	直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 近沿以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 既之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 民得以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医大利亚 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰	直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 医犬 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 医 如	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調思 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調思 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調思 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調思 不數年而晏然美	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在
[ 年 死 如 以 近 按 洮   而 兵 湖 自 利 伏 岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 医光外的有骨空一或不支為之連屬附近地方衛 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調 医光 如 所	在 原 定 是 相 所 是 相 所 是 相 所 是 相 所 是 是 相 所 是 是 相 所 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛並直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛並 是	直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 医对次 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖 成之水 蜂堅壁 固守動加 观哨為耕牧 長計 正 不數年而 晏然美	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛苦	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年 死 如 以 近 按 洮  而  兵 湖  自 利 伏 岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛克 不數年而必然 医型 人名 医 一	在抵洮、岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医光行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医足相死兵不毒氏無食功之文 医無食利之武粉 在 大	在一個 是 一	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛苦	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著鬼 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著鬼 民科以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 此一次 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦
年 死 如 以 近 按 洮  而 兵 湖 自 利 伏 岷	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 在抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医犬科以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調 医足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 医光 似	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著自 無之如湖廣之永靖廣西之狼矢置之不復微調民 應之如湖廣之永靖廣西之狼矢置之不復微調民 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在	在抵洮、民與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮、民與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之 相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將在 足相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將在 医心外 对	在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	在 原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 一起之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調民 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在
年   死   如   以   近   按   洮   而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 直抵洗眠與難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 正 我 我 我 我 我 我 我 我 我 我 我 我 我 我 我 我 我 我	正然, 原之如湖廣之永靖廣西之狼兵置之不復徵調品 無, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一	直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 医对次自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之後兵置之不復徵調果 医之如湖廣之末靖廣西之後兵置之不復徵調果 人名米利 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者今惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者今惟有痛苦 医对次自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 医力炎 自
年  死  如  以  近  按  洮  而  兵  湖   白  利  伏  岷	直抵洮岷颇難側禦則其勢有可處者全惟有痛苦 直抵洮岷颇難側禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医光科以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調足 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調足 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰	正然, 原之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調思 無, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医大利及自相守望一或不支為之連屬附近地方翁 医人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人	直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調 医水流 医水流 医水流 医水流 医水流 医水流 医水流 医水流 医水流 医水流	在 原之如湖廣之末靖廣西之後在置之不復徵調品 無礼近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著身 無之如湖廣之末靖廣西之後在置之不復徵調品 此利以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 此之如湖廣之末靖廣西之後在置之不復徵調品 大村以自相守望一或不支為之迎屬附近地方策 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 不數年而必然矣	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医科双兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医沿以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医大利双角相守望一或不支為之連屬附近地方策 医水质炎 医水质炎 医水质炎 医水质炎 医水质炎 医水质炎 医水质炎 医水质炎
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵 湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛並 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛此 在	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 医代行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医足相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武粉 正	直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛蓝 医犬科以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調臣 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調臣 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医光外的 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復微調 医	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 既之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調果 此之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調果 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將亦
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 医水外以自相守望一或不支為之連屬附近地方領 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医水 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛並 医代科以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医光神炎 计 一大	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医代行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調 医光 和死兵不毒民無食功之文 医無食利之武粉 在 大	在抵洮、岷颇難制樂則其勢有可處者令惟有痛苦 医光神 人名 外	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 医水外外间相守望一或不支為之連屬附近地方衛 医之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調果 正著自 医水外外间相守望一或不支為之連屬附近地方第	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖 廣西之狼矢置之不復微調 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医之如湖底之永峰 医一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖底之水嵴 医型 一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖底之水嵴 医重点不变 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰	在 原之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 無礼近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 此行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將亦 其治南蠻之道則在率上著自 正於此人之弊堅璧固守勤加廵哨為耕牧長計而 其治南蠻之道則在率上著自 不數年而晏然美	在抵洮 岷 颇難制樂則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著良 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 也之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 照代行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復微調品 上著自 無犯 近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無 人 如	在抵洮、岷颇難制樂則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮、岷颇難制樂則其勢有可處者令惟有痛苦 医犬 伊以 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 医之 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	在	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医对次自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医大利及自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医大利及自有中型 人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰人名英格兰	在抵洮 岷 颇難 制架 則其勢有可處者 全惟有 痛苦 医之 如 湖 廣之 末 靖 廣西之 很 兵置之不 復 徽 調 居 是 相 死 兵不 毒 民 無 食 力 之 文 臣 無 食 利 之 武 将 在 医 之 如 湖 廣 之 末 靖 廣 西 之 很 兵 置 之 不 復 徵 調 民 得 以 自 相 守 望 一 或 不 支 為 之 連 屬 附 近 地 方 卷 医 之 如 湖 廣 之 末 靖 廣 西 之 很 兵 置 之 不 復 徵 調 民 市 、	在抵洮 岷 颇難制樂則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著身 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著身 一
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛克 正教 在	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在	在一人, 一人	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制樂則其勢有可應者令惟有痛苦 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 此行以自相守望一或不支為之迎屬附近地方第 時之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 時之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 不數年而必然矣
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医光行以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医足相死兵不毒氏 照	在抵洮、岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮、岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖 成之水 增	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 歷之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 歷之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医足相死兵不毒氏照食功之文区無食利之武將在 医之外以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之外以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医二氏神经病 医二氏神经神经神经神经神经神经神经神经神经神经神经神经神经神经神经神经神经神经神经	在一人, 一人	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛克 在 大	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調 歷之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調 歷之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調 医足相死兵不毒氏 真	在上海中的人工。 在近外的人工。 一十十二人名 一十十二人名 一十十二人名 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十十二人。 一一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	在	在 原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 所之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 一度之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 一度之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 一度之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 一度之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 一度也, 一成一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛強 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛克 在 大	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 歷之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 歷之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医足相死兵不毒氏無食功之文 医無食利之武 將在 医心脏 水 医 医	在近外中的人一里出二人名米利二正人名 对 中的 人名 中的 人名 中的 人名 医 医 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	在	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 医上脊膜 化 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在	在	在	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 照 犯 近 利 万 可 為 也 其 治 南 蠻 之 遊 則 在 率 上 著 自 無 之 如 湖 廣 之 求 靖 廣 西 之 稅 矣 置 之 不 後 衛 民 行 以 自 相 守 望 一 或 不 支 為 之 連 屬 附 近 地 方 卷 民 行 以 自 相 守 望 一 或 不 支 為 之 連 屬 附 近 地 方 卷 正 成 形 成 所 成 不 数 形 而 及 张 聚 壁 固 守 勤 加 观 哨 為 耕 牧 長 計 正 表 。
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 医心脏 机流流 人名 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤	正是 一是 一是 一是 一是 一是 一是 一是 一是 一是 一	在上海中的人工。 一里 1 二 7 年来和二正 7 年 2 年 2 年 3 年 6 年 6 年 7 年 9 年 6 年 7 年 7 年 8 年 6 年 7 年 7 年 8 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7	正、水平、水平、水平、水平、水平、水平、水平、水平、水平、水平、水平、水平、水平、	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医光神炎 医大神炎 医大神炎 医大神炎 医大神炎 医大神炎 医大神炎 医大神炎 医大
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医犬 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医足相死兵不毒氏照 原之 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復獨調 医上脊膜 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌 医上颌	正人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一	在上海中的人工。 一里 17年 17年 17年 17年 17年 17年 17年 17年 17年 17年	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医犬 如湖 所之 水 请 廣西之 很 矢 置之 不 復 徵 調 服 被 伏 之 弊 堅 堂 固 守 勤 加 观 哨 為 耕 牧 長 計 在 抵 洮 岷 颇 難 制 禦 則 其 勢 有 可 處 者 令 惟 有 痛 若 更 不 数 币 而 及 张 矣	正是相死兵不毒民無食功之文正無食利之武將本 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 下收下而及然矣	正是	正人才可以在一里出一个人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医光神 医光神 医光神 医光神 医二甲二二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者全惟有痛苦 医足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 医心脏 机流流 人名 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤 医皮肤	正人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一	在上海中的人工。 一里 1 二 7 年来和二正 7 年 2 年 2 年 3 年 6 年 6 年 7 年 9 年 6 年 7 年 7 年 8 年 6 年 7 年 7 年 8 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医光神炎 医大神炎 医大神炎 医大神炎 医大神炎 医大神炎 医大神炎 医大神炎 医大
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医犬们以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医大利以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 医大利及自相守望一或不支為之連獨附近地方策 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏	正然不够不够 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 也方籍 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本	正是 不	正然不可以在一里 二人名 不	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調田 此之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調田 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 長相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 長十五 一 成不支為之連屬附近地方第
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医犬们以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医大利以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 医大利及自相守望一或不支為之連獨附近地方策 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏 医大利氏	正然不够不够 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調品 也方籍 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本	正是 不	正然不可以在一里 二人名 不	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調田 此之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調田 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 長相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 長十五 一 成不支為之連屬附近地方第
年   死   如   以   近   按   洮 布   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医犬们以自相守望一或不支為之連獨附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医足相死兵不毒氏照食功之文 医血食利之武粉 医足术及 化一种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭抵, 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 在抵洮岷頗難制禦則其勢有可處者令惟有痛恭 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 不敢年而是然矣	在上海中的人工。 一里 1 二 7 年来和二百 2 年 2 年 3 年 5 年 6 年 7 年 9 年 6 年 7 年 7 年 8 年 8	正本 一	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 此行以自相守望一或不支為之連屬附近地方衛 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 此之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 是計不 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 是計不 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 是計不 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 是計不 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 是計不 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 是計不 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 是計不 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 是計不 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 是計不 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 是計不	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭抵, 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 也之, 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之 相死兵不毒民無食功之文 医無食利之武 將至 医之 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医足相死兵不毒民無食功之文 医血食利之武 將立 医上头 电电流 医上头 电电流 医二十二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医二氏 医	正然外界。 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 所,	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 下收年而是然矣	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調 医之 机 近 利 八 可 為 也 其 治 南 蠻 之 並 到 和 正 正 之 和 少 司 在 张 张 岷 與 難 制 禦 則 其 勢 有 可 處 者 今 惟 有 痛 蓝 正 张 岷 與 難 制 禦 則 其 勢 有 可 處 者 今 惟 有 痛 苗 语 之 和 必 有 不 数 年 而 及 然 矣	正然外界。 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 此之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民,是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是是	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 所,	在抵洮、岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 在抵洮、岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之外沟 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之外沟 所以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之外 以 有	正、我们的人一、我们的人一、我们的人一、我们的人一、我们的人一、我们的人们,我们们们有一个人们,我们们们们的一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们们们的一个人们,我们们们们的一个人们,我们们们们们的一个人们,我们们们们们们的一个人们们们们的一个人们们们们们们们们们们们们们们们们们们们们们们	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 既行以自相守望一或不支為之連獨附近地方衛 既之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 於此於與難制樂則其勢有可應者令惟有痛苦 不數年而晏然矣	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医光科以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調 医足相死兵不毒氏 其	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮、岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 在抵洮、岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之外沟 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之外沟 所以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之外沟 所以 化二甲甲二二甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲	正然外界。 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛禁	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方衛 一成不支為之連屬附近地方衛 一成不支為之連屬附近地方衛 一成不支為之連屬附近地方衛 一成不支為之連屬附近地方衛 一成不支為之連屬附近地方衛 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 人名英格西曼斯	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著喜 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著喜 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 及相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医犬们以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医足相死兵不毒氏 其	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵, 是 一	在	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛禁	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方衛 一成不支為之連屬附近地方衛 一成不支為之連屬附近地方衛 一成不支為之連屬附近地方衛 一成不支為之連屬附近地方衛 一成不支為之連屬附近地方衛 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 人名英格西曼斯	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著喜 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著喜 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 及相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 医犬们以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医足相死兵不毒氏 與 學 医	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮、城與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 不數年而必然矣	在	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛禁	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正、不要、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 展北 班 班 八	在 原 定 是 相 所 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医上着点 医大种死兵不够 医重点 人名 医克里克尔 医克里克尔 医克里克尔 医克里克尔 医克里克尔 医克里克尔 医克里克尔氏 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎 医皮肤炎	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 照很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 下之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 下之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 下之,	正述, 是 一	正在	展出死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 下之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是此挑岷頗難制樂則其勢有可愿者令惟有痛苦 不數年而晏然矣	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛禁	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一成不支為之連屬附近地方在 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正、不要、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 照孔近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 照之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 是 相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 展北 死 與 和 死 兵 不 數 年 而 安 医	在 原 定 是 相 所 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医犬科以自相守望一或不支為之連屬附近地方等	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正、我们的人一里出一个,我们是不要的一里出一个。 一点,我们就是一点不要的一个,我们就是一点不要的一个。 一点,我们是一点不要的一个。 一点,我们就是一点不要的一个。 一点,我们就是一点不要的一个。 一点,我们就是一点不要的一个。 一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一个。 一个一里出一个一个,一个一个,一个一个,一个一个,我们就是一点,我们就是我们就是一点,我们就是我们就是一点,我们就是我们就是一点,我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	原之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調區 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 照孔近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 照之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調區 是 相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 展北 死 與 作 而 安 監 是 一 或 不 支 為 之 連 屬 附 近 地 方 第	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 此行以自相守望一或不支為之迎屬附近地方第 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 及相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医犬科以自相守望一或不支為之連屬附近地方等	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正、我们的人一里出一个,我们是不要的一里出一个。 一点,我们就是一点不要的一个,我们就是一点不要的一个。 一点,我们是一点不要的一个。 一点,我们就是一点不要的一个。 一点,我们就是一点不要的一个。 一点,我们就是一点不要的一个。 一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一个。 一个一里出一个一个,一个一个,一个一个,一个一个,我们就是一点,我们就是我们就是一点,我们就是我们就是一点,我们就是我们就是一点,我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	原之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調區 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 照孔近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 照之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調區 是 相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 展北 死 與 作 而 安 監 是 一 或 不 支 為 之 連 屬 附 近 地 方 第	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 此行以自相守望一或不支為之迎屬附近地方第 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 及相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医犬科以自相守望一或不支為之連屬附近地方等	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正、我们的人一里出一个,我们是不要的一里出一个。 一点,我们就是一点不要的一个,我们就是一点不要的一个。 一点,我们是一点不要的一个。 一点,我们就是一点不要的一个。 一点,我们就是一点不要的一个。 一点,我们就是一点不要的一个。 一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一点,我们就是一个。 一个一里出一个一个,一个一个,一个一个,一个一个,我们就是一点,我们就是我们就是一点,我们就是我们就是一点,我们就是我们就是一点,我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	原之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調區 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 照孔近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 照之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調區 是 相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 展北 死 與 作 而 安 監 是 一 或 不 支 為 之 連 屬 附 近 地 方 第	在抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 此行以自相守望一或不支為之迎屬附近地方第 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 及相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 此之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調民 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 。 一直抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 不數年而晏然矣	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 所, 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無, 在, 近, 利, 万可為也其治南蠻之道則在率上著自 無, 在, 近, 利, 万可為也其治南蠻之道則在率上著自 些之如湖廣之末靖廣西之狼, 至, 置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼, 至, 置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武, 新 正, 在, 近, 利, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一,	在抵洮、岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 在抵洮、岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛蓝 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復微調 医之外沟 自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之外沟 所以自相守望一或不支為之連屬附近地方策 医之外 以 有	正、我们的人一、我们的人一、我们的人一、我们的人一、我们的人一、我们的人们,我们们们有一个人们,我们们们们的一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们们们的一个人们,我们们们们的一个人们,我们们们们们的一个人们的一个人们的一个人们的一个人们的一个人们的一个人们的一个人们	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭, 一度, 一度, 一度, 一度, 一度, 一度, 一度, 一度	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者今惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 照很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是十五十五十五十五五十五五五十五五五五十五五五五五五五五五五五五五五五五五五	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮岷與難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調足 此之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調足 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文匠無食利之武將立	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 所, 在抵洮岷颇難制禦則其勢有可處者令惟有痛苦 無, 在, 近, 利, 万可為也其治南蠻之道則在率上著自 無, 在, 近, 利, 万可為也其治南蠻之道則在率上著自 些之如湖廣之末靖廣西之狼, 至, 置之不復徵調品 些之如湖廣之末靖廣西之狼, 至, 重, 至, 至, 至, 至, 至, 至, 至, 至, 至, 至, 至, 至, 至,	正抵, 是 一	正、我们的人一、我们的人一、我们的人一、我们的人一、我们的人们,我们们们有一个人们,我们们们们的一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们还有一个人们,我们们们们的一个人们,我们们们们们的一个人们的一个人们的一个人们们们们的一个人们们们们的一个人们们们们们们们们们们	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 既行以自相守望一或不支為之連獨附近地方衛 既之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調民 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 下衛 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將立 所述地方衛	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者今惟有痛苦 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 照很近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調區 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是十五十五十五十五五十五五五十五五五五十五五五五五五五五五五五五五五五五五五	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医光 如 湖	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭, 無, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医光 如 湖	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭, 無, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医光 如 湖 所 之 來 聲 整 置 可 ,	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北,此外的有相守望一或不支為之連屬附近地方慈悲之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品。 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭計不 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在	在 原之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年   死   如   以   近   按   洮 布   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇雞制禦則其勢有可應者令惟有痛盡 直抵洮岷颇雞制禦則其勢有可應者令惟有痛盡 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 既之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 正	正是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將本庭抵, 無, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一, 一	在上海中的人工。 在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	正在 原之如湖廣之末埔廣西之很兵置之不復徽調品 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末埔廣西之很兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很兵置之不復徽調品 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而爰然矣	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復獨調品 照孔近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復獨調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復獨調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復獨調品 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在	在 原之如湖廣之末靖廣西之很無量利之武將在 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將在 是由,是由,是由,是由,是由,是由,是由,是由,是由,是由,是由,是由,是由,是
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇雞制禦則其勢有可應者令惟有痛禁 直抵洮岷颇雞制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医尤如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医 电之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医 电	正是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	在上海中的人工。 在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	正在 原之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而爰然矣	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是十五十五十五十五五十五五五十五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五	在 原之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇雞制禦則其勢有可應者令惟有痛禁 直抵洮岷颇雞制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医尤如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医 电之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医 电	正是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	在上海中的人工。 在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	正在 原之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而爰然矣	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是十五十五十五十五五十五五五十五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五	在 原之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇雞制禦則其勢有可應者令惟有痛禁 直抵洮岷颇雞制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 医尤如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医 电之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医 电	正是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	在上海中的人工。 在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	正在 原之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 足相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將在 不數年而爰然矣	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是十五十五十五十五五十五五五十五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五	在 原之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著鬼 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民政難制架則其勢有可應者全惟有痛苦 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是北延,以自相守望一或不支為之連屬附近地方第 是北延,以自相守望一或不支為之連屬附近地方第 是北延,與與與其勢有可應者全惟有痛苦 不數年而發生	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	在上海中的人工。 在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	正在 原之外別所之不時民無食功之文臣無食利之武將本 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼矢置之不復徵調果 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不善民無食功之文臣無食利之武將在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將本	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛苦 医光行以自相守望一或不支為之連屬附近地方等 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 医水 医水 医水 医	正是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	在上海中的人工。 在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	正在 原之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 應之如湖廣之末埔廣西之很矢置之不復徽調品 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將立 足相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將立 是相死兵不養民無食功之文臣無食利之武將立 不數年而爰然矣	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調品 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調品 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不華民無食功之文臣無食利之武將在	在 原之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 無犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 及相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者全惟有痛苦 医光 如 湖	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 一學的一學的一學的一個的一個的一個的一個的一個的一個的一個的一個的一個的一個的一個的一個的一個的	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者全惟有痛苦 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將文 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將文 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將文	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正在 原之如湖廣之末埔廣西之狼 矢置之不復徽調果 應之如湖廣之末埔廣西之狼 矢置之不復徽調果 應之如湖廣之末埔廣西之狼 矢置之不復徽調果 應之如湖廣之末埔廣西之狼 矢置之不復徽調果 應之如湖廣之末埔廣西之狼 矢置之不復徽調果 是相死 兵不 支 為之 連 屬附近 地 方 慈 足相死 兵不 黄 民 熊 食功之文 臣 無 食利之 武 भ 本 一 大 名 土 者 中 一 本 一 二 入 名 共 看 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調思 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調思 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調思 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調思 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將女 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將女 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將女 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將女 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將女 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將女 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將女 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將女 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將女 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將女 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將女	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者全惟有痛告 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是十五十五十五十五五十五五十五五五十五五五十五五五十五五五十五五十五五十五五十五	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者全惟有痛告 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是十五十五十五十五五十五五十五五五十五五五十五五五十五五五十五五十五五十五五十五	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者全惟有痛告 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是十五十五十五十五五十五五十五五五十五五五十五五五十五五五十五五十五五十五五十五	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者全惟有痛告 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是十五十五十五十五五十五五十五五五十五五五十五五五十五五五十五五十五五十五五十五	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者全惟有痛告 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是十五十五十五十五五十五五十五五五十五五五十五五五十五五五十五五十五五十五五十五	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者全惟有痛告 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是十五十五十五十五五十五五十五五五十五五五十五五五十五五五十五五十五五十五五十五	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者全惟有痛告 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是十五十五十五十五五十五五十五五五十五五五十五五五十五五五十五五十五五十五五十五	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	在抵洮、民國難制禦則其勢有可應者全惟有痛告 無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是十五十五十五十五五十五五十五五五十五五五十五五五十五五五十五五十五五十五五十五	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一成不支為之連屬附近地方等 一段相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正在	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不事民無食功之文臣無食利之武將太	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛苦 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 不敗作而安然矣	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復獨調 照犯近利乃可為也其治南蠻之道則在率上著自無之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復獨調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復獨調 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復獨調 不敗作而爰然矣	在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在 在
年   死   如   以   近   按   洮 币   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛告 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛告 正 和 死 兵 不 安	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是	正、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將太 是相死兵不者民無食功之文臣無食利之武將太	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵挑眠颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛告	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭北, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是	正 不 放 年 不 安 医 美	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 医光 如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徽調果 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果 医大利死 自己 医大种死 医大种 医大力 医大种 医大力 医大力 医大力 医大力 医大力 医大力 医大力 医大力 医大力 医大力	在抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛告 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著克 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是有 是一或不支為之連屬附近地方等 是一或不支為之連屬附近地方等
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛告	正是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本庭, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人, 一人,	正述, 是 一	正 不 與 年 而 安 然 矣	原之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調果 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調果 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調果 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調果 医之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徽調果 医大利死兵不安氏照食功之文区無食利之武将太 医水 化 不 数 年 而 安然关	在 原 定 是 相 所 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛告 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛告 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武粉在 既之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 應之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調 正	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	直抵洮岷颇難制架則其勢有可應者今惟有痛空	原之对的工作一片出 二人名英格兰 在	原之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將本	在抵洮岷與難制禦則其勢有可應者令惟有痛告 無犯近利乃可為也其治南蠻之遊則在率上著內 無之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 應之如湖廣之末靖廣西之很無置之不復徵調果 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武將在 是一、其一、其一、其一、其一、其一、其一、其一、其一、其一、其一、其一、其一、其一
年   死   如   以   近   按   洮 而   兵   湖   自   利   伏   岷	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛告 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者令惟有痛告 足相死兵不毒民無食功之文臣無食利之武粉在 既之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調 歷之如湖廣之末靖廣西之很兵置之不復徵調 正	正在 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者今惟有痛空	直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者今惟有痛染 直抵洮岷颇難制禦則其勢有可應者今惟有痛染 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調果 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調果 医之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復微調果 医利瓦氏不黄氏黑食功之文 医黑食利之武粉 在 医心神经 医神经 医神经 医神经 医神经 医神经神经 医神经神经 医神经神经 医神经神经 医神经神经 医神经神经 医神经神经神经神经	原之如湖廣之末靖廣西之狼兵置之不復徵調果	在 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

在所不講者也	故不得不痛草者兄帝王之道以全取勝些益乎故将不得人凡能携指伊及為遊門鄉	分所正一緊鳴鼓選出兵未集而形已露	<b>於要害誘而取之乃為得策令皆不揣敵情</b>	<b>頂先遠探佚賊往之處我乃提兵問道而</b>	供待勞常形人不形 人者此類是也然	即英测弘為有守而自畏矣所謂以静制	木石整傷而墜相繼来者見我各墩煙火齊車	是明朝的一个四天间似	多半月之劳而卒無所得攻有人之墩則軟	不分有軍無軍墩分俱寂然無聲彼攻空墩	者一人來煙放炮又潜米共墩而處賊若攻	近邊即飲一墩之軍共處一墩每墩止留善走	十墩之中擇一可守者先儲米数石水数	又問近之善守遊者每十餘墩必總委一官提	亦不可以言投伏矣	受其絆於外彼敢無忌憚若是乎故将不得	我於外即堡寨之内盡為蘇畯矣若使我兵不	散伏誘我縱我不為所誘彼常以精本數千絲
	が			12代	心此法	動以	外舉	* * 9.	軟被	上墩常	7 攻墩	善走	近虹賊	提調		小得人	· 兵 不	次千 絆

東京 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央	東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東
---	--

在 東華山地在沙漠中即胡元族類也周秦以来 華山地在沙漠中即胡元族類也周秦以来 華山地在沙漠中即胡元族類也周秦以来 一下之鄉至正統問馬哈木法察初降附出 於後後我竟又數與馬哈木法察初降附出 於實大山於河無常之人後既既不在立遂 於實大山於河無常之人後 於所不在立 於國際,	罕來等衛俱漸奔牆頂道希德酋長為指揮後數為土魯番後極家古)地在肅州正東本前代西河郡縣	本 一 で を の の の の の の の の の の の の の	經黑風川水草俱乏势難遠據藍屬之地在心路之門水道是上魯術院在以後那般稍強優奪哈衛衛之門水道是大門之門與忠順王本同族衛門人民學判灰二族學別及二族學別及二族學別及二族學別及二族學別及二族學別及二族學別及二族學別及
智识 多便大工作者中条以 不	, 始郡	秦于 末里 其元 其	票的

一紅典圖終			Q 明朝間 《台及間紀	-J.	統之 作生, 整 作生, 整 於 於 於 於 於 之 及 野 大 大 上 大 上 大 上 大 大 五 及 野 大 大 五 天 五 大 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	,在	成化就 一次 指揮等官 其 仍 在 在 次 指揮等官 其 現 不 有 其 現 有 更 其 現 有 更 其 現 有 更 其 現 有 更 更 可 更 可 更 可 更 可 更 可 更 可 更 可 更 可 更 可
				太何吏部尚書武英殿大學二下桂等抵	人所君至今每歲一頁仍世授,我有地面有城站凡五十八家	1. 五方子上洪武初降附	( ) 質索勢の ・ ) では、

聖神謨烈上報千古矣求樂犂庭士休烽熄正統後邊 天明命驅灌醜穢後還三五之字 俯攘通考悉之四 九邊圖論《前序 國家受 **刘九邉圖論序** 益电成有道也無聲援則探調發有道也以因天時 等邪磨夫許子遊諭之作其意遠矣是故**覈**堅弱則 給上心有道也完虚實則足軍偷有道也據要害則 焉地險未城士莫之香耶時與勢異耶代謀者有造 漸與制置稍具至正徳間屢變其舊乃今尊組不察 戌則自衛無恒心於百年無事勢固難矣是故邊議 **堞萬億漢武貊签三紀界休青海受降懸寄數** 矣觀詩書春秋所載犯順之事可數也始皇拓逐綿 尚封建各以國之全力當其一方自戒潘裔無弗專 未廣恭能太原則其極界形勢近會守援利捷又時 夫西北邊議泰漢而下 擾陵運至宋遂為元有嗚呼此天地莫大樂也 日與焉魏晋及唐往往引房入腹助樵攻器卒受千 外可謂一 人謀弗城貽戚自掇也乎我 時之盛然地廣則不必盡有險要師徒者。 H 何可察焉盖商周之前 江、 左 謝 少南塘雪里 其諸 斥

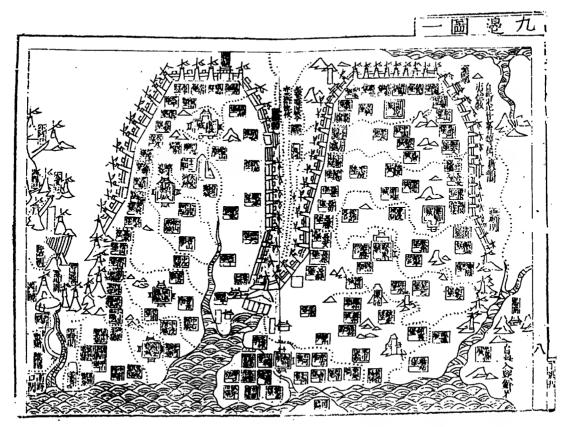
以来	敝将何極也則無形之憂而遂方於剥膺之忠釋今不理臣不知	承平日久武備新她内地既虚逆方龙	· 共威白不可犯何也有先事之術也今 也臣聞之天下錐安於戦則危古之明王不照武而	根楊或緩此臣大馬之心所以早夜懸懸而不	於攘外之計其大且急者則莫先於邊務而等盡未 俯受大臣之論思其於安內之計已來其大且要升矣至	陛下廣採言官之獻納	天下大計安内擦外二者而已近日	國恩尚有問見馬敢不盡其愚以備萬一之報塞乎臣	叨備任使世受	明部竊伏感存錐府陋之質睞前之才無以自効自獻然	國家大計各自陳說來行欽此欽遵臣仰承	聖青各衙門大小官人但要思盡厥職如果有関係	明韶振愚見以神逸務事先該禮部題為修省事節奉	奏為遊	谁 雅部 祠祭 清吏司主事 臣許論謹	奏稿 (以)
----	---------------------------	-----------------	---	--------------------	--	-----------	----------------	-----------------------	--------	------------------------	-------------------	----------------------	-----------------------	-----	--------------------	--------

省宽	留神.	皇上	望	陛下中與之業外接之志此則臣所積誠而不容已者伏	宸嚴出位 安言無所逃罪然幸一得之愚以少神	呈臣自惟在蔡乙見极於即但干胃	事之始終謹用繪寫各一本味先進	言然披圖可以略見過方之形勝模論可以能知流	房出没無所的考後另盡有九路一圖雖皆雜述空	九进圖論人表稿	有邊論九篇又思封疆延衰山川除恭近里迂直夷	論頗盡心力自於辦事之眼摭於舊問眾以時五著	兵部職方司主事職在我務又得與問其事朝夕籍	吏部尚書許進多歷追陛臣颇召問其就後臣備員	言令之間臣恐終無益也臣家近西比而臣父先臣	乾郎就意經幣使臣下奔走功罪之不暇而欲求實效於	陛下若不自杏	愚以為	至矣第官司奉行止於移文人情玩楊循題故引臣	移念九邊兼收群集中的将吏昭示紀綱憂勤之心可謂	
----	-----	----	---	------------------------	----------------------	----------------	----------------	----------------------	----------------------	---------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------------------	--------	-----	----------------------	------------------------	--

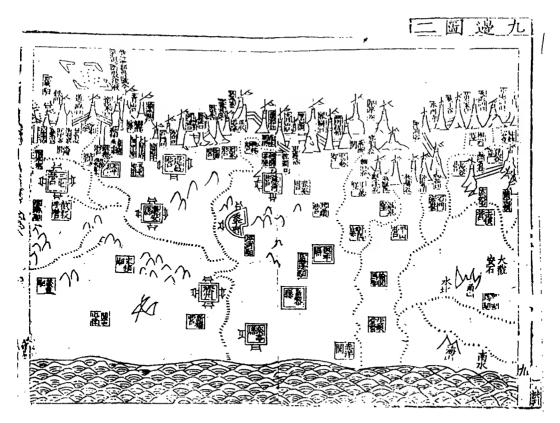
	九邊圖論 《奏箱		聖方這所進圖留覽遊論兵部看了	宗社幸甚臣不 豚戰懼恐病 大學不 其臣不 水 我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我我
	五	4.	兵即看了來說 .	十六年七月二十三日具臣不勝戰懼恐惶待罪仰望之至云云見就施不遂方幸甚

邊務者也除将處置糧的務置官員及重非無稅事皆有處具見才識優於談散宏之於曆考或傳之於父兄且設為問答五	本官於九邊朝計夕思著為故論或得之於問見或奉前人之功而盡棄者以致邊事日壞恥害日深今勢之難者事已行而未就或奪於利害之私者亦有	華奉或纽於聞見之偏者事方與而處止或沮於時往著之建議見之施為但人不能以皆賢事不能以程的之盈縮與夫正紀綱明法令因地利修人事往	北邊圖諭 建新 上海 一大 一 一	陳若有邊論九篇起自遼創宜大以及延率固原送司兼呈到部看得上事討論應	聖市這所追圖的寬邊倫兵部看了來說欽比钦遵似出	題北以神遊務事職方	超稿 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名
--	--	--	-------------------	----------------------------------	------------------------	-----------	---

			聖古是	題奉	嘉靖十六年八月十三日	九老屬論 人類新	聖上嘉納之明而本官之忠赤亦得以少盡夫云云	定奪用彰我	者徑自具奏	若實舉行不許因循顧忌如果事體重大有礙施行	神祖於邊方者移文各鎮總督無按等官作	聖聽量其輕重之體緩急之序次第舉行其因華損益有	命下本部在照各邊事宣係應處者臣等不敢一一煩密		相宜固可見乙奉情亦有事在彼中難以懸断及事	級各行吏戶二部徑自議處外其中人情人
4		, .		¥: ,	1 'g 4.		<b>太</b> 云	, ;	4	一碗施行	人長議奏	中損益有	一烟煮	吸合似	断及事	情允愜事體

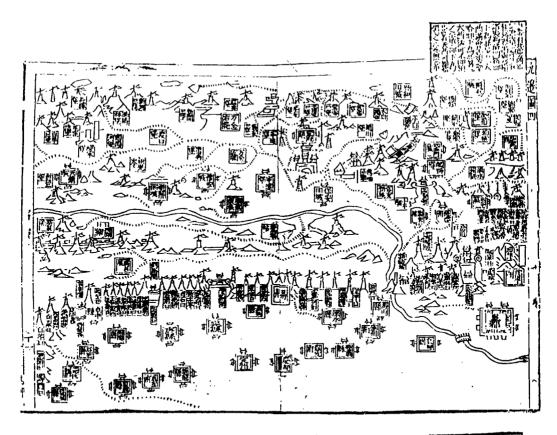


史 225-724



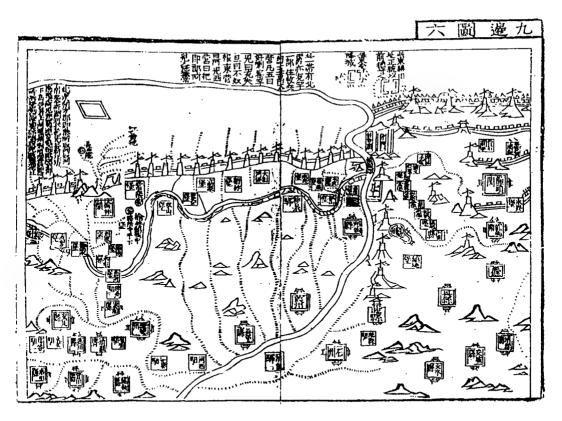


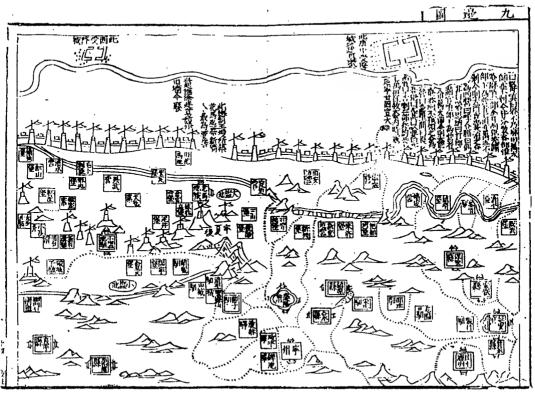
史 225-725



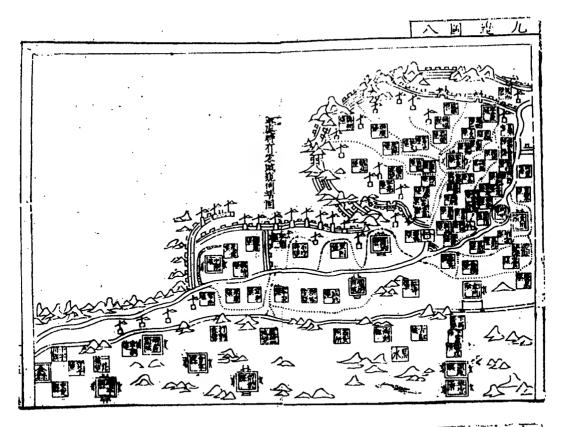


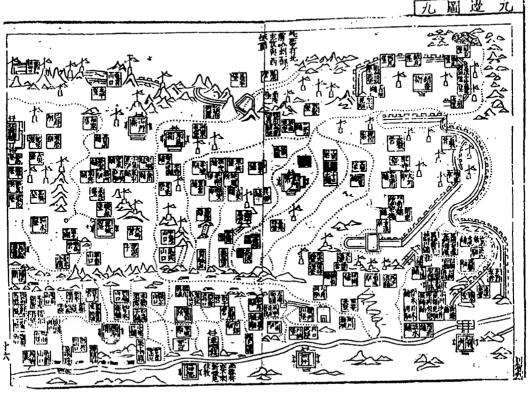
史 225-726



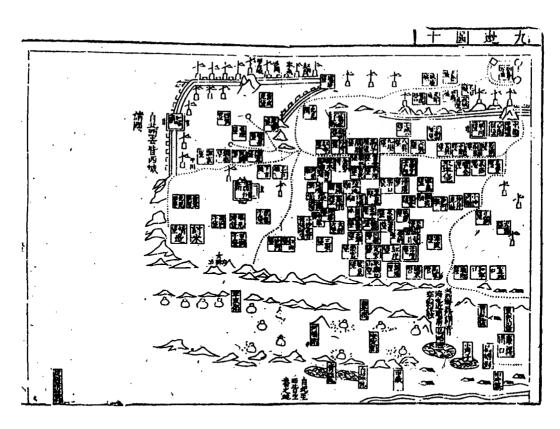


史 225-727

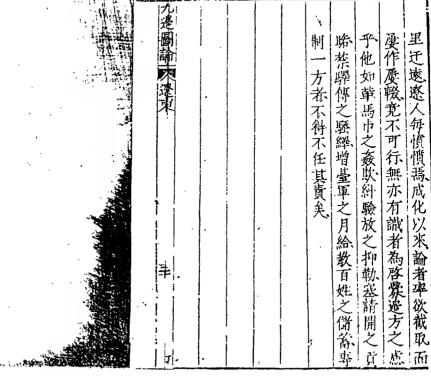




史 225-728



國家委以與旗題逐進據股心限所東西守望劳費道	遼東 禮部祠祭司主事討論著	禮部祠祭司主事許論著
-----------------------	---------------	------------



前後陷沒他可知矣故三衛夷情難與往日例論禍動無結親進北恐嚇中國然將陳乾艱祥俱以重兵	除逆累肆侵莖花當則脅求添頁把兒孫深入廣掠無辜追數遂起正德以來部落既番杂預獨盛陽順	敢願言為後也弘治中守臣楊友張瓊因燒充掩殺而添該大監察將等官而夷情亦變能不同然尚未	後一品	前夷心是服地方寧諡但令都指揮或都督北喜峰	九邊圖論 於創州 上 上 上 工	人往來互市永為藩等	而以大學全地與之校官置衛令共每年朝貢二次	西徙太寧都司在保定散置管州等衛在順天之境	太宗文皇帝靖難後兀良哈部落内附題改封寧王把江	神謀处代遠矣	國公徐達起古北口至山海關增修關隘以為內是	而封寧王與遼東宣府東西並建以為外進又命魏	太祖既逐元君題即亡會州之地散大寧都司營州等衛	薊京師左輔也我	<b>煎</b> 州
--	--	--	-----	----------------------	------------------	-----------	----------------------	----------------------	------------------------	--------	----------------------	----------------------	------------------------	---------	------------

陵庭京師後門今本兵逃亡止 名無貨此其單弱極矣識者調更當增戊而 町 諸費久累軍丁近開取諸馬場子粒似矣建昌营自 汇 Til 裁華內臣之後以其兵多北縣河管乃後添該遊縣 礙 孤 但 嘗調煎鎮在今當重其事權總兵須與掛印 偏在東隅其謂之何矧東去縣河营祭將止 仍舊而以太平潔併入建昌為 甚為此謬失遊擊之名 駐 西 亦 水路 為聖則派水易於都御史洪鍾雖會該有問 剃 難 可慕為兵此 一去太平寒客料止六十里不為教員且學 肆為觀望耳假令營之提調即以應援今開管提調既分為二 而 薊其遊擊駐三屯督者燕河馬蘭茶雲三条 伏不待 守 泂 為觀望耳假令管之提調即司所直之開 緩急有濟矣且沒關此外所以防守立营柜内 川残元避暑故道尤為房衙作橋則浮沙 灰线可以久乎各峰口三衛入貢之路 底錢可以久乎喜峰口三術入貢之路撫官 今須塞川大建石墩数十令其針綜死轉不 役將誰該又本鎮有兵原 知 米 亦一 前 集也古北 知其 뱱 花 餘二百河間等衛 **活中乘便四面馳擊** 鎮雅 口潮 一条將則康乎體 一則關獨當其害然 少陛口些多除分 河川 便 補 關 五 同 肘 安生 外 城 將則 貴有 巡撫 平思 + 也 圕 難 勢 車

	九光圖論一類州	兵足食明法曲突徙
	害	兵足食明法曲突徙新之計不可之日不講也操之上益蘇土著之兵設險修開嚴烽遠謀選將練成之外消耗之餘所在軍弱言之寒心是故存留京

大宗文皇帝三程房庭皆自開平與和萬 X 第時具勢殊有不可不為之經畫者若曰補長峪城易曰王公設險以守其國今考塞垣所據險亦然盡 地而四 北口西則極州威虜明安隱寧四驛之置入驛東則京亭沈河賽峰黄屋 洲 初常忠武王 授 可 **娶至焉東路水寧四海冶及龍門所則三衛窺何之** 之變獨石八城皆破錐旋收復而宣府特 游洗馬林萬全諸城南路之東西順聖皆稱虜衝擊 **虜難徑下中路之葛峪大白陽青邊諸堡西路之柴** 可知北路獨石馬营一帶地雖懸遠然長阻長安衛 完固號稱易守然去京師不四百里鎖鑰所衛門害 山 川 ,難守宣德中廼徙衛於獨石棄地蓋三百里土 求無事矣後大寧既以與虜與和亦廢而開 **残屑惟守開中與和太寧遼東非前寧爰則** 漢上 一城之夢軍重浮圖俗師箭墩之防守留茂山 斜紛地險而狹分也建将倍於他鎮是以氣勢 東軍 [海山上通開平大路下連横嶺兒又要地多 训 州威虜明安隰寧四驛接獨 破虏干漠比即 元之上都設 四驛接大 全 出 和重矣宣府 開平 入 石 省 避境 寧古 平失 日 衜 煘

先 國威靈使倖無事使遇也 此豊容 都酿出 有必 然春夏之月禾稼米登栗假 在 朝所已武者亦一 是故 没此 餉 至此 **業然** 後有 國計者不可不深長思也宣府至京師 饷 之積多至有六七 月耳倉厥僅存尾礁場地 内 法 此 萴 光容巴手旦 者 日 则 百 不得已之事則它逐之策可行也 極 胩 1/1 ijij 猶 折 撫 1-1-城 《飽歌騰槽之勢安得而後見哉邊鎮 外 11 坑焼荒遇萬二 加 心因節宣 以益 銀六 楊守 版後之 色者六月本色者六月在邊者折 該也 ホ 可長児伊遜大同 治滴水 餞 宣 쒸 紫荆 誎 聍 一府軍士 车 所論 而 日本 者少亦 後有節 极消救焚之方云又按證 府治此其大 熊 一十騎而 先火篩之變將何 在郭舉之叛及諸軍告糧 蓋得權宜之術附見去 华信 扩 素獅 勒為茂草或勢家 鵩 艄 亦 弘 制之兵有節制之兵 电 交界之堡 支此 耳目習染可不應 治 下三四年 潰開山王 **液戰矣乃近年** 八計矣至指邊 中宣府各城 生 諸過之 此蓋 惟三 以待之 經前 汉 通 銀 敝 pil 佃 固 百 果北 七 軍 以 後以 19] 餘 壊 儲 後 η. 兩 司 而陷

司國計者所當請求云
患微條所一級急亦有所濟矣此誠今日之急務而
九邊圖論大宣府
之如此則出得實惠而所省亦且數倍即有重人嗎
一三月秋熱之後即在歲例内招買者補償仍別儲
栗尚足支持者勿動惟騰騙之甚不可支持者借支
報三四萬两俱別儲之每春夏聚價騰踊若歲例之
熟之歲則於歲例招買之外雜聚六七萬两中熟亦
战說者謂宜於嚴例之外每鎮發銀十餘萬两遇大
何其不機而被且至死也欲青其死級之節不亦雖
七升或四五升是一月折銀術不及半月之聚如之
債則始與之本色當其騰踊也銀一錢或止易果六
未多也則因與之折銀秋冬之月聚價稍平倉藥稍

蹄倒在大同先襄	甲分財則按伏之費者持角之势成無容識矣預茶高山聚落二堡蓋在鎮城兩腋間實為東西房所茶	也文錦失處而致變後人懲監而蘇食可	茂田富庶可期二也二卷既復宜寧等縣棄地亦可一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	多広居丁三川町茶下トリリンまた一と井家傑之上出義之臣其就能為之町町坊	中愚又 有陰憂矣默化潜亦不震不驚為天下回 视	· 道之 先則 是處文錦之事本善而養成之耳今下シ	大張文錦之敗是彼處置乖	大学園館人大同 三世の大同 三世の大同 一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一	正行年人八万正弘人切三九月上六八利言則議并日五堡沒不可不復商山聚落	弊報不明至有與房通貨入而後報者他可知矣以	多故也水大邊也失二邊之内乘為王庭墩軍騎佐	其党故大同部郊守病先年過政嚴明警備差緩自	老營堡與偏	計城 必窺之路也東則天城陽和為廣入順聖諸處	威速中則右衛水口等處皆稱要害益房南犯別應	大同古雲中地川原平行故多大舉之寇西則平房	大同三開 內
---------	--	------------------	--	------------------------------------	------------------------	--------------------------	-------------	--	-----------------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------	-----------------------	----------------------	----------------------	--------

北定國論人大川 者謂似波和藏非而不納立典草木請那夫北房稱 造優死傷未嘗不誠心以求之是以鎮人至今不能 兆 **总馬今平日恩德院無以結其心臨時節** 巡撫之日雖不敢擬之古人至裁占役禁治就 知耳偏項與武為門三關各那要害而偏関通近首之家托弊在各城檢免此在軍之言當事者不可不 足食之計非例外發銀海官雜買吾無策矣若夫品 以制何奴全之逆臣有能爱将士若此者乎先襄 至廣遠斥惧就水草順止人人自便是以能 矣夫魏尚本廣皆守雲中尚給士卒軍軍吏無所 数千盡為除華此不惟遊防有賴而所省亦且不 糧餉分毫無益若改成三開給以太僕守之馬民 者益於七千今在鎮城止供新水門戶之役而坐 職成無虚日尤為難守不防守之兵半是民壮 河焦家坏級級辦年圈子等處皆套房渡口往 **懐之 氣難哉或謂已已之變大同後山西之兵** 時三年三貫各邊等證者數年往嚴檢林故家說 難也及自疑性然則成成侵暴而勞野者是當然 弱非太僕寺所免者扶傷救死之不較而責以敵 河南山西咸迎多不及額而屯田又多道負是故 + 制文 川其 八防禦 水晾 瓶 馬 湖 浆 壯:

不知大同所然也
---------

我 所有 點 萬 短知 虚實以 重 兵 壓 境及 客 兵 既 集 珠草柱之證况有節募新軍而糧未增尚在額内支清又改一府本色盡為折色自是軍用始窘遂有米 腐據 牧 谷是日夹道地利 男善戰虜所素憚廼今年年枵腹不得一 萬言之痛心嗚呼此 給又追邑凋敝災傷所免及拖欠者復百有餘萬焉 鎮城四望黄沙不産五穀不通貨所指是 本鎮之稅為抛荒折色者二萬餘石正德中行即 始仰給腹東矣弘治中布政文貴奏改西延慶三府 ,在內益以樵採圍獵之利地方豐底稱雄鎮 |化 脛 · 斯入掠鎮兵出禦之每 · 花 治級德而棄水脂魚 館因至在今日之極也嘉靖七年鎮城餓草 蚕以 九 百餘里追放勾堡橫截 地 年和御史余子俊建議 遂安避牆東 來追禁所嚴我軍不敢極入諸利皆失而 軍駐魚河之地 亦得矣彼時 **松黄市** 鎮將士懷忠畏法死無怨言 河套之口内後輕山 朩 111 即糧道 ·及而 房少過河軍 M 徙 從鎮榆林堡 至定邊營長 逐處得 1四絶 飽傷式 切菊糧 襟 投際 两 焉 得 亘 吭 百 馮 敢 自 鲆. 爲 I

内 水陸接運而上 哀之不 屬 通有事 予鹽銀 湖东有計 今三遊菊雅至難處矣愚謂黄河自陝州 之糧及災傷所免戸部處 稚考 至 中之地另設倉場各以戸部官一 德近境春初時背可舟行若計沿河郡 餘他 Ril 則 紅. 有 河 竹 全 致 量 歸戸部 ٤ 姒 能過 十餘萬令其雜買儲蓄事備客兵之用 **地價正帰網為蘇用玉面後徵兵請糧及** 一年之積如是數年五 以為本也不 予一 妍 14 里被 失見故 州矣 如山 城 頁 夘 事有改作而 至數 邊官無待那移借貸倘客兵一 15 [H 河外 不 榆 後以 **万里亦漢武朔方地** 林其少蘇乎再指延寧 門食也児今題法也是 倍 則為 핆 史狮 榆林木 補 戊 後善者不一 子之战東草價 其功夫拒河 自是當然何令 糧道險遠急印 不要積新之 糇 甲 少裕也 7 开知也 員主之毎鎮 可 縣 百 所為 至 也 视今 而 轨 刹 改 追於 唐婚 至二 甘 徴 和 Ŀ 门的 Ħ 出 至. 他 年 毎 木 論 固 为证 軍非 佁 绥也 48

		放云榆林者急在額糧他非所計也 上	<b>撒道又遂倘人事不修則六邊之廢其首在茲乎馬焉第鎮城遠處乎不毛軍衆待哺花股襄生理旣難</b>	将 為 縣	撫級招來與幾可以保全乎夫榆林地險而防沿避困件之邑唇齒相依當擇賢令旌以具等	史為衝劇縣墻設險事有不容已計所出矣匹路最稱要害而安邊	部當後守東勝則榆林東路可以無城及此皆不可曉者近有後套之議
--	--	---------------------	---	-------	--------------------------------------	----------------------------	------------------------------

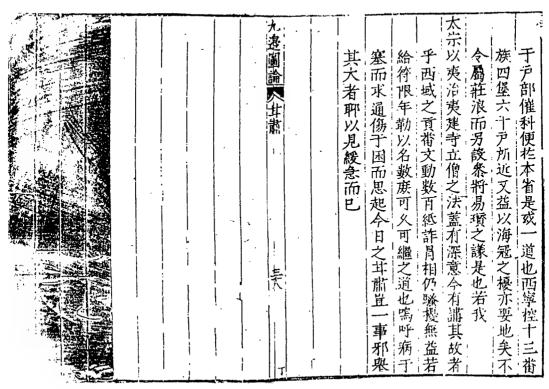
添設然遊移總制船之分也重兵
得少息也試管籍之若擇花馬池便
一帶適其利涉之境遊騎出沒無日無之宜乎延寧
教誘盡知我內地虚實此可與往日論弘而花馬池
今虜渾脫飛渡數萬立濟經年住套安為巢穴逋逃
入入則戒嚴出即解嚴蓋氷泮後則不復能出入矣
不常問有連歲不入者我邊每歲在河東時次其出
之民急飲收保而無由也實開之弘治以前虜住套
<b>巴入大門則堂與無用風兩飄忽之所及内地村聚</b>
花馬池一帶為三門謂
王士
今之論者以固原為堂與磐石滿至花!
樂編發矣碩兵寡勢分難當大舉之甚是人謀地利
見而總制楊一清王受唐龍皆常增築更益敵基足
矣然
於則由花馬池之東入點州等處則清水營一帶是
三二三間更為敵衝是故窺平固則犯花馬池掠環
西自虜據套以來
在東南險。可守漢唐舊渠皆在厥田上上人易為
學沒亦例方地也鎮城所據質蘭山眾其西北黃河
寧夏

地圖論 軍夏 數有之一等討故事云自賀蘭山直西至鎮掛內皆堂衛備在西門錐地狹易守碩山後之房窺靖廣者數 武舊地今至之矣果如所論 西止二百日餘里耳王瓊厥鎮遠關而城平虏棄地 望直出山然有警印開易些過絕今皆廢矣或又之皆敗由此不已想不知寧夏所終也或曰舊歌 武 是以莫之樂府也大敗軍法背水陣也皆聞光襄 赤木黃峽等口舊皆型石固塞防守有人今亦 云成化中敗軍法重 不然者此不可為邊民痛哭哉鎮城南北僅 耳今寧夏失機屢夫而舊将晏然無事求之各 少事弘治中太平濫 九制之計東援 總兵抗雄 至是平若山兩作聖 總兵抗雄敗後遂以山前為通以米虜出入河套往來非京皆 水 武 安枕矣嗚呼豈易言於豈易言於 何易也今廣思愈近而民利益窘善計 僧令三百 榆 林西後寧夏亦常 簡稍已 無有免者是以過臣知畏 里 以過西來之短則得之矣中 之間 )解弛 為通循趙瑛周尚文樂京皆自賀蘭山後取道 而城守之則莊凉 旗幟 至正德 堡地相 LLI 蛇 崱 刀 百里 也 邉 尔 故 地 叉 扽 洪 東 無 然 胶

在建省市 一	次里焉自主良文石南三百余里岛西寧南武伍年朱國公馬勝下河西廼以嘉峪關為 是四百徐里至排州為張掖郡其州之西歷 限六百徐里至非州為張掖郡其州之西歷 限六百徐里至非州為張掖郡其州之西歷 限六百徐里至非州為張掖郡其州之西歷 限六百徐里至非州為張掖郡其州之西歷 水八百徐里至非州為張掖郡其州之西歷 水八百徐里至非州為武威郡凉州之西歷 水八百徐里至非州為武威郡凉州之西歷
--------	--

平朝以 哈客之故外 質萬狀議論無已是以夷人 制 二也 首為要區今為 散地盛衰之會殊強弱之形異耳當 難是彼無共天之義我有同冊之急此何為乎當緩 條來南将坐守之夷耳惟土魯皆自而犯 非 以其敗弱而棄之頗為失計何也其肅之患北 房條 者之問則哈密可後不可後工後不宜後圓機之不聞為彼恢復而切切了哈密乎當緩四也審于 之命乎當緩三也赤斤蒙古安定曲先等衛亦旨 平以為將遂有哈客也 舞弄在手假令自今不復言哈密恢復事彼當何 Ħ **计貨以為中國** 界肆茶毒漸不可長若收海上之属置之哈客近 盤據西海吞作屬首為正南患頃歲已許内 必當破衆說而建長策矣至拦亦不 國藩蔽赤斤等衛破于土番安定等衛破于 以為不能則哈容猶舊也光閉關絕貢可以制諸 水進貢今月 聞為彼恢復而切切了哈密乎當緩四也 夷為清澈 心哈洛牌 從之鬼已長子孫身事警國追我 也今不能矣立之何益 送金印明日還城池聳之以果咱 日不可無哈客也今日索金幣明 則宣待中國棄之而 刺者近比进 是牧野客 八視之為 海 
城 後 州华因 取 何

事獨教者乎是故 質用 然水賓客祭祀之類 故 14/ 711 近口差官添禁新堡廣招 種 褍 而 兵他如李淮之議曰欲将見 一年後有上有土而後有財有 以省 八條望而 難也 有將不休養而人得生聚者乎又譬之家政 更能實新堡者于豈有不為防守而敢 LH 測 汉 策矣蘭州舊有骨糧 猛 削 車 Ĥ 崽 独 貧口益耗食益 累遭残破生聚 加 明 新 有 打 Ê 職 例 地 自 液 719 市移印 官事駐 一千里内計 )失事宜茲又令其 為干 族 业 制 顶 節 無干 域之 E 事 有 城 海 中北井 職州以督追 徘 将 勤 散 袛 ١Ŀ 失利害不 難 汉 必 歉兵益弱 1 處 굸 而 即中而不司支放 縣絡 後有兵有兵而後 河火 相連豈有 佃種似美量 也 一班 乖 版削 萬七 有財而 州 不 感在催 如宣大 堡量 何 1771 叵 可此 刑無已休養難也口七千耳防守不設計 較可 課 馳 如邪 測 而 逐 後兵益 斋 以 徐事皆 如 电 l iTi 拯 ift 筱 有舊堡 知 例 纳 田 不 袛 時 馬 益 文 FII 滚 知 ぶ 滔 以 與宣 不與 排 Ų 救 無 报 有 廢 虚 缩 别 业 未 述 焚 事 屯 麽 店 一起 河 倘 而 有 河平 lille 开 形 有



足食是兵之計不知之乳不能言之體權盛變有	所在戎務攸 此特一隅之論耳若夫任将	王瓊移置下馬乃其見偏夫大固原中制之地也總	批驗舊在固原 (來商旅納貨賄期以填貨此地而	<b>虚尚在本兵額內支給如之何其不告之乎小鹽池</b>	巴若固原防守之戌每歲凡四関月而為糧不為之	原又未可息有也徵調客兵他鎮有事則然無事則	<b>捍禦愚又以為不添沿河之堡不电常成之共則固</b>	兵防守候在水深而西鳳脇輩之卒多未經戰豈能	山後之虜雖水、北時則蘭靖安會之間便為禍階調	九邊屬餘人官原	房一帶每歲黃河水合一望千里皆如平地若賀蘭	故愚以為總制不駐花馬池則固原未可息有也靖	修祭又在所級蓋力分則勢弱冠已入門主人東手	守花馬池則固原自可無虞而響石滿至靖虜一带	寧夏為唇齒花馬池一帶邊人開之大門若併力堅	蘭四衛隸之設總制茶遊等官吃然一巨鎮夫鎮與	篩入掠之後送為廣街于是始改立州衛以固靖井	問得以休息所備者靖虜一而耳自弘治十四年火	固原開城縣地也成化以前套游水城平固安會之	國際
---------------------	-------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------------	----------------------	----------------------	-----------------------------	----------------------	-----------------------	---------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----

九邊圖蘇大園原	35.	
117 1-7		

史 225-740

7/. 朝. 響則 共長 圖花 僑 僅 不 強 河 弱之 莫敢 能 依 套 碖 找 有塚魚是以九邊戊卒所須不 何 75 **险結管以** 技性往 持久 爾出 之地 更 帝又後中 百餘年來生 連得利 悔 形 誰何房忘日縣我氣日麥絕無堂堂 無已是 皆為 路而 異 沒 論 车所 錐 源 大學驟 稍 扮 所據 业 电 13 八幸狼梦鼠稿 四衝突僅能 낈 有俘 聚既 戊七 風 伐之威三 迎 兩 自 肉 境得有免焉近 蚸 飄 番 十萬蓋俗從矣故 世 晾馬 がし 忽 先火飾之後益 illi 侵噬 犂 古襲者復 ぶ 動 其庭 逃 削人 **靴数萬** 順亦勞費若 無有他志計 漸 一難盖果寡 即為萬 近開平 過 177 于是窈荒 年 我 軍禦之 再視 產 雎 火火 輕 日虜莫弱 水水房 視 中 和 E 其 势殊. 彼 失 數 戦 國 東 朱人 餘跳 妳 程. 者, 驅 持 不

> 臣欺 敞之 聚、稱 ijŗ 竊 終矣日今之邊備 |姓 鉱 知点 玩菊糧匱乏法令縱弛 一豈能外寧供 内 控 业 弦 以之上 虚實若 餘 舰 何 如日地 一十萬盐 之擾或生內憂誠不 日 败 意不 在處皆然是則 方 火 娞 為 中 彻景之 (破兵馬單 國驅掠 知遣 計, 逋 謂最 到 遣 則 .jik.

太

八宗文皇

八祖高皇

帝迅

一桶之後 冷山

人的裔半

份中國、

乀 朓

沙

漠

者

無

聖天子

作.

典之何以

能

甶.

ÉÌ

可

要者

日孰能與之日

我

天子

注

意所在則賞罰必行謀

國者

不

敢

因

事

者

不

政

欺玩

是以能與何以與之日

動

廵

橅

#Pc 循

臣。 任

第

Ti

始

、盛か

是

蚁

公知之 盖自

找

莫鹟

於我

憂 或

**新無忠宗** 加於論者

国

何

킳

為可愛也

日萬莫強

於

者

身

大下

之患

何居論

E

北

ग

金屬金

쇒

·输

館 九邊 用 之。 威0 論 调 後 **香迅之志** 用 又害之愚 泒 Ho 撫 攸 有 則 ₩a 所 冷 同 視為 抓 知以 責 徐皆 自 任 鉄 行其 當 即 備 謂 至 而後可以有為先年最重其選不肯泛 作不論 重. 拦 北 無事之 示 肵 後o是 舉之 问 而 日。 州量審功久在 大為慎巡撫之 假其 股栗公有通 行者耳何謂 所 時先 11 倘 内 逐作 權 酌 令科 失其人 焉o 得o 量 四。 之選夫軍人 曰。 才 明其 變之才堅忍之 有。 積。 力會 道官及吏兵 重 則 **巡撫** 而 功 菲 後。 推 徒無益 罪益 族a 避 無 固格合在o 日中 補 邉 部 惟d此 波成而 族 授. 性 各 今0後0 浆 方 Ita 而

史 225-741

聖主之外顧 九 先 刌 华為 實用二 令 謀 東 見 朝制縱得末城不察禁錮如 之得至 将布 所 熖 其成 失機 山 著為 之權權重美而勸懲不立 廷之上 選 性 須本将戰陣児於邊方殺賊之外豈有别 Œ. 他 雕 儒 净 價事悉從敗軍之法 故不極力以為之不可 例 滚 卿 **炙任久矣而信之不事終亦** 令凡巡撫三年以上兵食有賴地方無虞者 《泉論 日慎武 學是雖有頗收之才何所用之少也, 如虧而言官可來知過悍們動輔抗 公 是謂明巡撫之功罪何謂 防 用彼也避事因循 不 圖 職街仍今巡撫六年 無命 **惠拜讓本兵之地** 、兩考者不遷六年之内 無透圖為得有善政 大計自知所以圖之 申無車肘底後其有が子是謂 以致 翠三 一日廣任 武 脈 如 何 而 不 是則 推以 得已是為 務 使 以奔走天下之豪傑 **豚**正坐此弊若自 以上 人無害政 而 水 四 日懲欺玩 同心言之得行、 無益 所謂最可 R 利害切身、 八桁憂其 久処 近日邊臣 胁 臣 無之 **熱事** 夫將 憂者 败 高其 重 衡 窺 巡 毎。 避 曰 而 去 言o年 撫 願 才 希 加 毎 無 不

國家推 No 朝軍機法重邊官不 足任使 快徐假 牛、 家中任山市中 **豫**遊人心阻過賢路乎使得程功積事以次而 他之士 克廣廣揚之任矣夫是之謂求實用且 得 多掛印登境從來未見不若能去朋人止許武 所以選將才也今 式 任 可推委亦自知重不肯有同将 廣賢科勿偏重 選仍分邊方度真如會訊之南北卷更多其名數 内、 用 怒蛙 , illo 活 就 用q矩d 武。**唐**。歩 其 用武職止許指揮以上官 為盛矣夫是之謂慎武樂 使 规避任 寧粗 之資亦廣忠良之勸 適用急河洗此 名而希求進用豈有韓彭之良在此 (僥倖掛名便無可用之地 邊方賛畫縣 何何 銷。 直征恭之失勿從容文雅之是庶 情 |浮詞以遺曉果夫然則既是見官 胁 旭 道: ·退學生員緣此 廵 撫 깘 恢 他 拔 顏風選其本業作之新之 們 艺 滋 Vo 臣、 足の 氣為害引沒児難刀 不水 同 否 心為物本 而千 jįj 文 邊方腹裏均有 禍 河乎夫是之謂廣 以影避差徭 1: 律、 百 本 戸不 不 测 兵。 今 開井 與 区 坤 官 擾 升、既 白 抗 得 桁 73 所 新 तीव FIL 駚 虾 解 如 而p进 不 頼、 火

謀自弱冠特已套發欲有所效見儲算積思餘二十 誠不能無隱應稱監實許子廷儀承褒教公道烈願	76 7	鮮以為意四三年來将臣失務法紀度壞帑成	定故	恭後事矣百六七十年内也先火節一縣動事旋底	亏之屬 <b>勾</b> 顧竊底無面内親射之志問小失得非若	功茂可謂廣遠乃時因廣葉改逐盛武以時其氣引	明與攘胡立及承古帝王幅與而版尹其譯真所不至	1	來邊守所不公無議也	得忘制禦之你故日時異因而執殊成弱計以行其	以其食很之心過為愈為如是則後此治中國者為	其俐獨也力陵而執禁之不勝斯該形險為要阻是	聖王森外之不重較争故彼無所施齒角泰而下何	固然自古不供馴化唯三	類雖二代聖王不免惟其患然未若後世之猖甚也	<b>飞</b> 秋林	赐進上出身禮部主客司主罪深陽馬從談著	刘九邊圖論後序
--	------	--------------------	----	----------------------	-------------------------------	----------------------	-----------------------	---	-----------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------	----------------------	-------------	--------------------	---------

		嘉靖十七年九月九日	故委序其下方云	乎其言之也命刘諸真定以余與許子同為内寬之既然謂斯論詳誼三表五仰之該而	許子得為或不亦何能知哉上點為於戲許子斯用志可謂動	始枯	<b>賞即指掌可一二者爱弟山川習俗共同暨各代創</b>	年加之部計日周遍几計鎮
, to		<b>型</b>	200	余與許子同為部友集表五個之該而深有味	が不	不有所策川也乃	論九篇明攻守緩急所其沿革之述靡不爛然	至遠远即塞險夷

而四夷之患莫甚於戏處盖匪圖則無以嚴夷夏之故許子之為是圖與論也夫天下之勢莫重於西北 同年許子廷識九邊圖論于刻既成乃運而嘆日 之宜都攻守之祭察緩急之序門等無遺策斯得矣防匪論則無以達機權之變故識地形之孙宪沿車 政儿追圖論 中原而宣帝任川文國圖上方累收功金城是 予常惟夫漢武勤兵事逐逾三十悉竟以窮贖糜帶 知之弗類亦謀此出於萬全也於成我秋之審振 若制樂之策弛而非講異同之見謀而未精潤畧 而九避之勢盡論者而九邊之務央萬里長城如指 大然後傾海内之全力以勝之亦晚矣難矣覆轍 **過行而未至因仍玩楊速久而變出不虞無謀以** 好斯強弱與東代亦各具經制區畫存乎人馬耳 安季管百年無事而己語云兵不出境而無敵者 諸軍舉而指之邊陪寧敢夷靡配華而中國常尊且 尋足昭繁戒此先識者所以不能無隱憂也夫圖 **邓是固許子之意也** 七年十月朔 後 重 錐 相應

## 普 中國之於夷狄分同天地制猶冠發是以聖王 為能俸之計不為拘攣之見可謂樂過之良策矣 区園 定守宋子政般刻之以傳曰世有匹謂不 綱紀政事之不俯此吾之患彼之來去在我何 子 接金元之變則又天地易位冠獲倒置矣此無他 之禽獸之害務壓之令遠而已乃有勤姓遠界 周宣励治王紫中典然而蔣伐獨狁至於太原 夏之水春秋歲內外之防彼之來去則弗震也 惠百姓此 袻 土火謀英雄合憤無之撫取無行賦欽無經路雲球 平則諦兵車時危則 國失其為中國之道爾維然預祥妖孽是後與废世 皇漢武問其兵力強盛自取因傲陵夷逮在五 湯向進士出身判真定府前三科 刻儿 圖論其憂深其見遠未而而做養先事而有 論攻守之道乃為之废山澤之禁弛關市之稅 政前民怨根本既虧枝葉隨什矣昔者孔子 (後) 而題之行嘉其祭善之誠如此 、遊過偷 "要務也差千衣如須明暮號勿恤吾親 力朔 後 急戰伐天步孔數安危何仗智 給事中漢州劉 云 朽 與哀 胡之 者聲 證 如 嬩 誠 业 1/2.

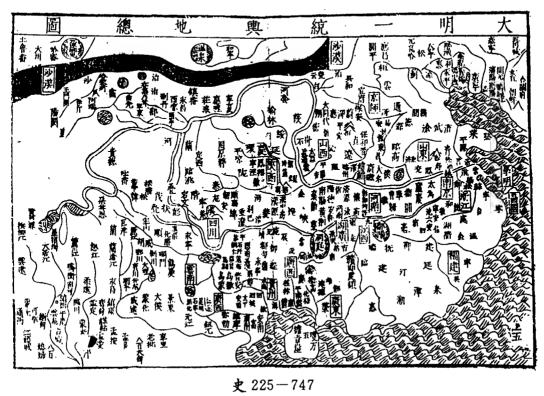
作褒 猛恨 **予少苦麻病** 所與圖序 友人 足陰陽所屬按定而烯 食飲不旬日而贏更甚始謀之皆醫曰病在結聚 跡徧海内自叙此圖廼其十年之力尚非足目所及有據弘朱之盡方似也朱為撫之臨川人傳學多問醫投以艾石無不中其會而動其機者豈非圖之尺 山中無力備持積十餘寒暑而後成夫一人之身雖其圖至于數十其諸公革統馭不可盡載者咸具副 因 失得孔皆編觀天下圖 即其形實以究其當時 錯誤百篇而一 **合東西相** 本圖其圖有計里畫方之法而 鍼灸綾不及事也為 通考卷之五 謝醫口標本緩急之論豈可誣我其後往來京師 於山 、聞天下緩急大勢 始知考次古今名人經略之迹 降腑 可調用心之動至其所為聖方之法則巧思者 嚴表裡開發隱注殊名異稱不可揣契然 华不至背外 川險夷郡邑 觀素難諸 莫之能易也訪求三年偶得元人朱思 取明堂圖指任督守經及諸 書類茶卷生常點坐一 於是悉所見聞增具未備 籍雖極詳盡其疎客失準遠 趙避取舎之所在况得校論其 縣絡有不得盡聞者則既無以 繼之湯液輔 形實自是可據 吉水羅洪 以梁肉數 從 室節 榜事清白 月 因 11: 而 乃 從 經紙 分 藥 縮

- 1 - 1 - 00 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	口既治宣房載歌沉王負新群策畢効作黄河圖三京你功在刊滌作洮河松潘炭鎮麻陽諸邊圖五臺	大明麗天聲教無外遠軼古今可以觀德作與地總圖一之則無矣乎嗚呼又安知吾之諸圖之不為長物也於故之用以自外惟惟惟大為長所之蓋身既衰病誤用其心失緩急矣序而惟惟
--	--	--

|--|

史 225-746

海運圖紀十八	<b>肥</b> 然此	福建圖紀十二四川圖紀十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	江 西 國 紀 九		南直隸圖紀二 上一卷 上明廣與圖紀目録
		in the second se			



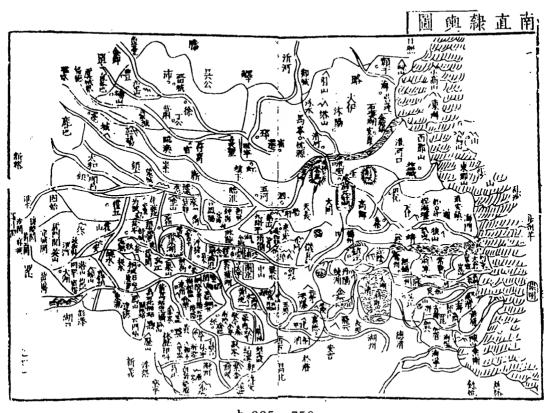
鈔八萬一千二十五鈔零一百八十四貫	六十五斤。  亦布二千七十七匹洞蠻蓆布二百五十九條苧	六萬八千一十七兩綿花二十四五百九十八匹絲一萬七千零三-運米		夏秋二税共米麥二千六百零八萬五千九百一十廣東圖紀、與地總圖生	萬二千零一十五口五千八百五十五萬八百零四實計里六萬九千五百五十六戸九百三十五	府一百五十九州二百三十四縣一千一百一十 五十三羈縻四十七縣九百二十八羈縻六總為	政司十三獨府一百一十八獨際一十九州一百 南北直隸府二十二獨州三十四縣二百一十承宣布		
------------------	----------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--	--	---	--	--

兩京文武官吏啟支俸糧共該	四萬五千八百餘員名	京告并在外衛所中都承天各邊馬步官軍共八十	<b>坐所二</b>	九十守樂千戸所三百一十五儀術司二十九儀	中都晋守司一所獨衛共四百九十三番所	兩京都督府分隸各都指揮使司十六行都指揮使司	市舶提舉司三 茶馬提舉司三 河渠提舉司二	<b> </b>	行太僕寺三 苑馬寺二 监十八 苑七十七	廣無圖記人典地總圖上	辦三萬餘兩	二十三两七千餘兩鹽課折銀二千餘兩雲南間	百餘所秋程九十四萬四千八百餘兩馬草析銀	大倉庫嚴額運銀一百四十九萬兩內夏稅五萬五	價并引價銀四萬六千一百五十八兩	<b>有以辨鹽一百一十七萬六千五百二十五引又鹽</b>	九	都将運鹽使可六鹽課提舉司九鹽課司一百六十	千一百一十六萬二千六百四十三斤	馬草一千四百六十九萬五千九百九十一包又一
	史 225-748																			



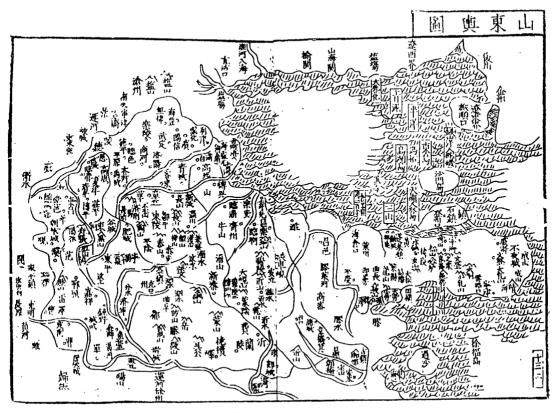
史 225-749

直隸隆慶州縣一末寧縣	大人名 概即鳴子有九 〇內首為縣准縣開州長垣 在內工 齊平武安有九 〇家平成安城縣濟河 在內工 漂名網名帽州 1 號元城大名剛條網縣濟理	自, 定, 深名南名州縣町縣市山內丘條縣 山石五色鄉草 自, 定, 深名南名州縣町縣南亚沙河湖和平岬廣州 存山免垃對此 百, 定, 漢名 领州五縣真災州經濟流心民運鄉莊縣縣城縣城等城平山皇平克州新於山陽行浩 弦州南宫原建于原北。至 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	「子」大谷常地一十つの整体車棒印州ボラ東北を東川南勢所を訪りまた。 「子」、水名・水名・切州三縣が北海域や海史・東新城市場で対象で東城地路 「子」、水名・水名・切州三縣が北海域や海史・東新城市場で対象で東城地路 「大」、漢名・米名・明州四級大胆・東京和東州・西北市、大学名・米名・明州四級大胆・東京和東州・西北市、大学名・東名・明州四級大胆・東京和東京和東京和東京和東京和東京和東京和東京和東京和東京和東京和東京和東京和東	飲差總督前遼都御史一朝の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
州有冰鹿自贯帝破讯儿农此	下于大任即此 源縣為貞立河 以乾較於盧屯	山石工心學等 政治教育 政治教育 政治教育 政治教育 政治教育 政治教育 政治教育 政治教育	(川南勝所女坊州東大 (城梯對藍都載城縣) (安人城保廷前州三四季超麗化平谷 (安人城保廷前州三四季超麗化平谷	<ul><li>※技術史十二</li><li>※技術史十二</li><li>が無精御史三十九守禦千戸所九萬全十九守禦千戸所九萬全十八守</li><li>近义州二縣一線為里三五义州二縣一線為里三五义州二縣一線為里三</li></ul>

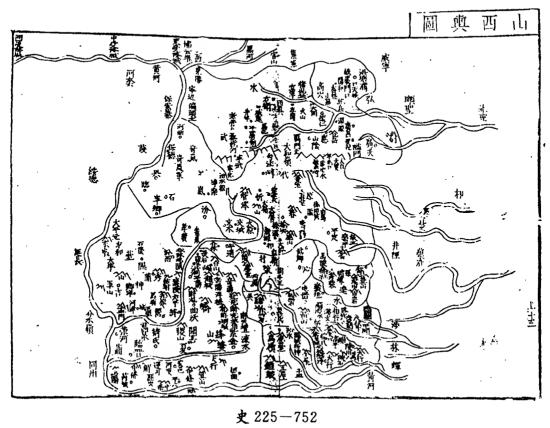


史 225-750

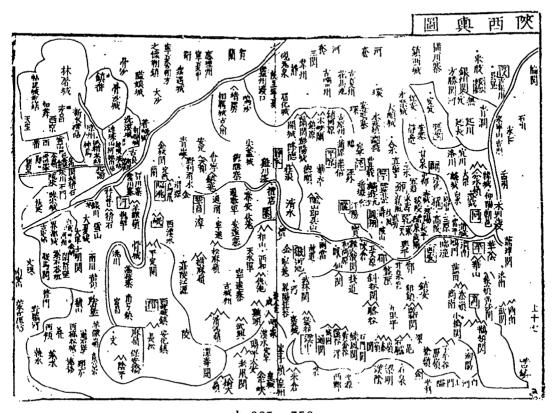
上 京、八石州知縣一〇合二 徐州研縣四〇萬縣時三聚縣市縣 一直 京水 一) 育徳前縣一〇会二 徐州明縣二〇会派米安	、ノ 年口前徐丹陽為刑州 三〇金電	上直八 工 最名 宋名唐名 於元初後照縣行使門陽	19	与打 一月 占名家名 賢名宋為常州須縣武逃無場	,	ハム 上 禁川居野島雲有雲元為が歴史寺	当角にり 美食糖蘇及即平元蘇州七〇 長を南定柴明			正 古名皆名宋為平南軍		- 古名阶名元為池州路		五十一四一次名皆名元為草國路 領縣宣城軍國还然	インナ新都新安後攻為敬州 六〇和門繋跡續溪	好人!! 具名野名本朝政為與受彻縣軟縣休事發源	<u> </u>	上力一一古名演名又名亦名领州有三江和佛真教與高即與化	放與國紀 <b>大</b> 南立十	ンノ」上、 注於山防既不力C冰防海州報輸和州指逐	と漢名哲名の州				1] 漢名又名卷是領州二縣合肥舒城盧江鄉為	P	目以上少古名义名 具名無州四縣風粉臨淮懷速定速五河虹縣壽州雅立蒙城	在二一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	对于	八条 不不 二级 〇 则	一等祭子戸所一在外直線衛二十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	の見ずれて上て子製作で近一十七百四十三プロ税散絲網	十四獨州一十三縣八十七又	南直隸與圖糺
,	愈然二山佐在江中	府學有日精山故事	上年無錫女天下集	錫山路公有蝴女天	山為風於江名背館	三國際競技制改作	東北後的州名清中山	府南城明府遊至江	编機江中老蛟横掛	<b>采石李白乗月至此</b>	<b>建您石印河山新期</b>	育助東北原子京東	南陵昌山孔子當城	太平共山货币銀丹	胡松紫光豪城用山	所城西南有黄敦	鎮山民係遺思故名	江都有召伯埃納安	5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5	問官如子來此	海州有礼館山孔子	故名亦忠宣村	府城東元右丞企副	武帝女居名為丹楼	刑果有山口海洋米	'狻	一懷迷削山下和流葵				製作	<b>新</b> 見 竹見 一	八總為	



史 225-751

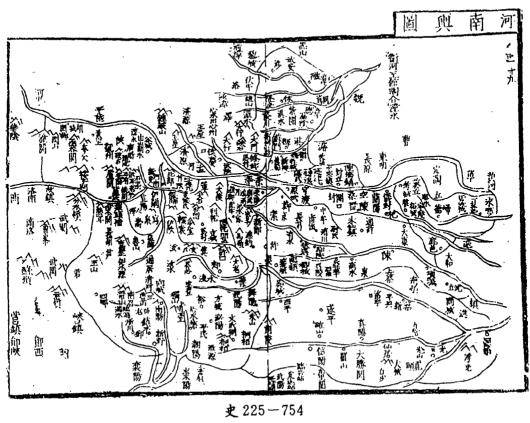


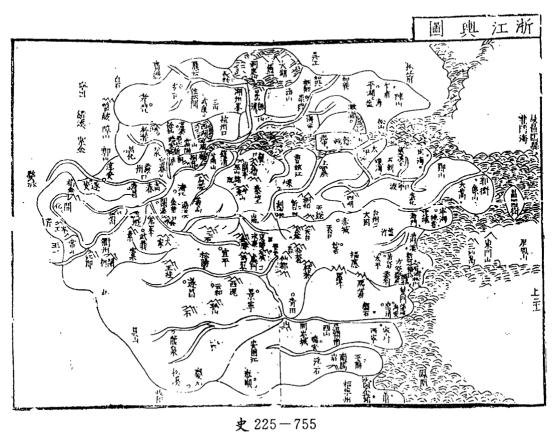
是用北京市局有所有各种根据四〇高平陽城區用心水。由南大行山有天井陽。 以州所名宗宇治市陽城划縣[]〇沙源武鄉。 网络索尔斯岛山鎮北後 以外所名宗宇治市陽城划縣[]〇沙源武鄉。 网络索尔斯岛山鎮北後 以外,这州即名德市对除三领北和顺、城下附加北市。 网络索尔斯岛山鎮北接	中文人。中心文人,中国农村在山大阪市有大河都的来校五原透线一颗之内将完成之际的有效的,从市场大大、同时各有七、0 前用房心的出版, 新用来的有首都由 平底有焊的 使名为之农山明水秀比有方山南有法国, 新用来的有首都由 平底有焊的 使名为实农山明水秀比有大河和的东西, 一种, 一种, 一种, 一种, 一种, 一种, 一种, 一种, 一种, 一种	大原, 古名恭名元名邻州、縣灣田太原倫次大谷和縣徐清清派及經濟、李寶、西名恭名元名邻州、縣灣田太原倫次大谷和縣徐清清派及經濟、李寶、西縣北京縣林祭河西太原,於四班上 上下,一	大府 潘府	
---	--	---	-------	--



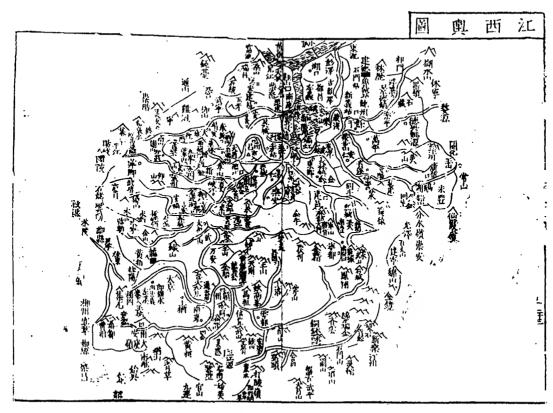
史 225-753

所 文 第4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	王府四 东府 脂府 慶府 韓府 大門 大門 大門 大門 大門 大門 大門 大門 大門 大門 大門 大門 大門
--	--



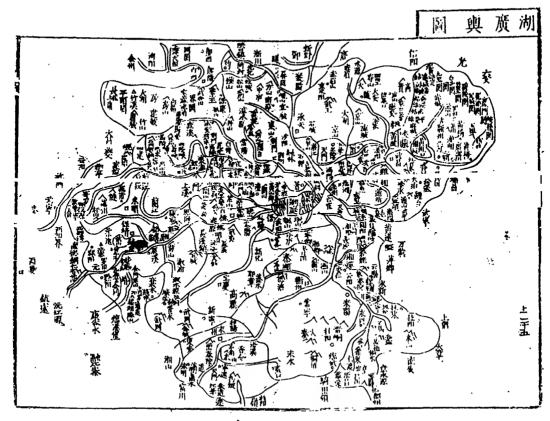


文名所名何縣使於在和海學當陽優抗,春秋為長越戰四區於於為介格 (本) 本, 在) 中國縣域 (本) 本, 在) 中國, (本) 本, 在) 中国, (本)	你差提督巡撫都御史一 巡按御史 — 巡鹽御史 — 浙江等處承宣布政使司領鹽課司 — 十六市 一
--	---

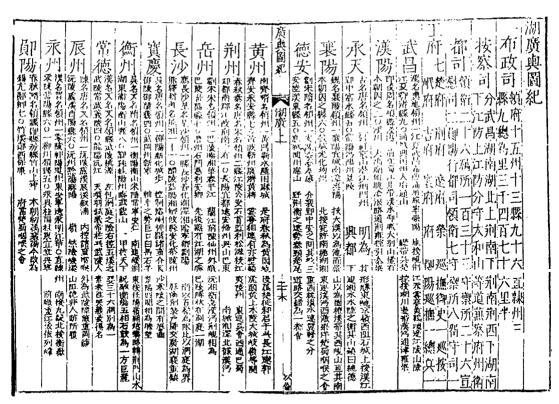


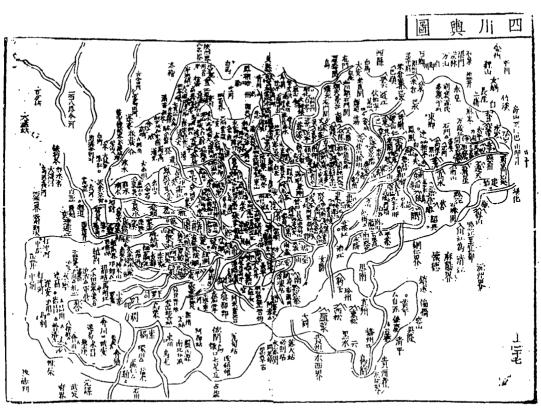
史 225-756

中国 读文的成名宋名创和一南周新连要被返逐来前,张欢取以及共野和整洲的江東其代。  一	江西等處承宣布政使司領府十三州一聚七十三總統差都御史一 提督南鎮都御史一 巡按御史一 提督南鎮都御史一 巡按御史一 超光和按察司嶺北五道無察府衛所 在 進度 医骨盆 电子 一
---	---

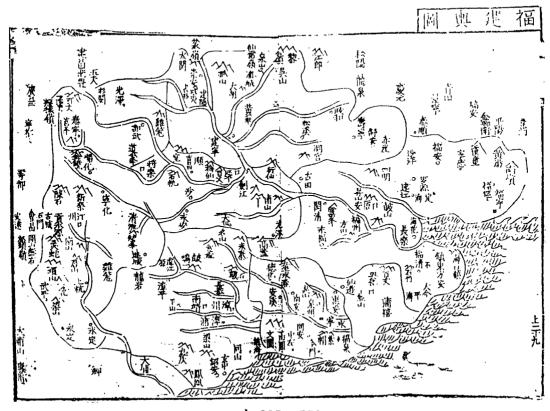


史 225-757



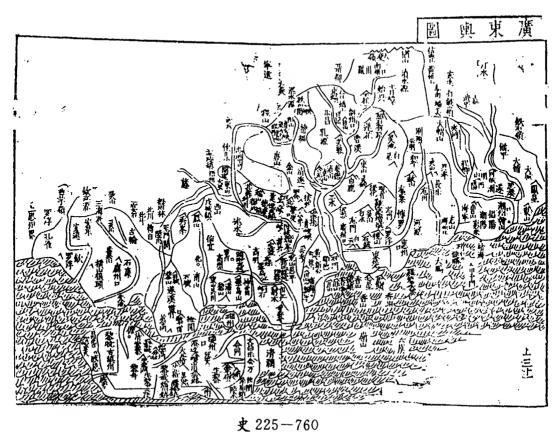


村 高州 华立 斯克 斯克 斯克 斯克 斯克 斯克 斯克 斯克 斯克 斯克 斯克 斯克 斯克	在《作上即鳥散平民府對名梓源領州一連川州 時一時,別 漢志龍高州三加金 東東林川 魚 門 漢志龍高州三加金 東東林川 魚 門 漢志龍高州三加金 東東林川 魚	心即南平巴千一十六の阿果定返陸山が名唐名周名領州三縣巴縣/市主縣巴縣/市洋長新世為南溪駅が八の高縣坊連畔縣 戎縣央名府名元名元名元名元名元名元名元名元名元名元名元名元名元名元名元名元名元名元名		大工 东名 漢名 又名 如州六 婦成 和華 勘獎 和	蜀王府 和司與國紀 和司與國紀 和司與阿爾爾斯 所有 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	射洪茲字中江,朝外和會水陸吳街正空 東夏藏新和知禮看無熱商腳鎮 東夏藏新和知禮看無熱商腳鎮 北上竹廣地抄以稀山游水 即改議北上竹廣地抄以稀山游水	息州部都统江治州武格彭水の一西庙亦同昔其古時大足求川荣昌兼法南川縣武帝州北外祠座三江之旬、安平、采瀛水南大城南兴留北三景真山新江泉堤。	无巴縣 传道于里迪于南溪北部冲积界山岛門山際水兰家花實對有五叉亭則相如字邛峁炯之所輕也際心縣稱水臨氣水挖大遠接通川張山奇秀甲村巴勒服の縣稱水臨氣水挖大遠接通川張山奇秀甲村巴勒縣	草玄菱湖香港早旬野八郎南集工廟河東香港東川市北海州市山梯作衛助錦州彩明縣周州青陽巻慶州市北海州市山梯作衛助錦州彩明縣温江新繁柳縣金堂仁海井研柳縣在縣內江 非縣於縣温江新繁柳縣金堂仁海井研柳縣在縣內江 非縣於縣	按御史一 副總八一雅松川東町上十二百五十四軍民府三百五十二百五十一 軍人 大

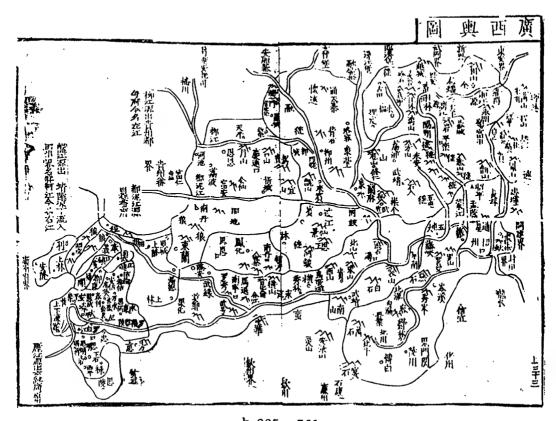


史 225-759

版 程   本 製   山 教 軍   教 軍	在	福建興圖紀  中政司領所八州一縣五十有三總 原運司領所出並無察請所五十有三總 原運司領所出並無察請所五十十七里 一次 一方都司が治理等海中和寧南南 一方都司が治理等海中和寧南南 一方和司が治理等海中和寧南南 一方和司が治理等海中和寧南南 一方和司が治理等海中和寧南南 一方十七里 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
	特於北上院和延平東北 一次 東所 東所 東所 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	を

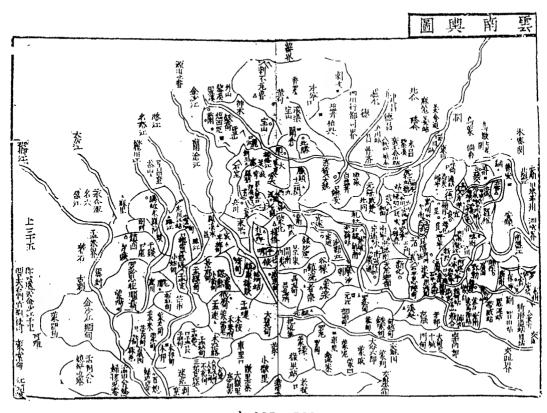


「一大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	大多年的東部 中華 中華 中華 中華 中華 中華 中華 中華 中華 中華 中華 中華 中華	1700 /97!/人 70[]	一門 本 灰元於 10 C 公判 泰則特別人行石樂開水等江澳市 生 古名宋名領縣保益 東有景區校游群宮南路唱崇山 人 高東 上	中 / 始界で別の場合への私家新漢状像 五貨部為交付を アロー   我名別宗山名何縣而江縣西江化 北韓州除り谷平下区 / 小羊城市海   十五〇春山新金三水湾返亳州防山建山   古名泰名伯州一雄南海縣杭州約東第城七龍四塔城	府十 欽差總督都御史  巡按御史	提提舉	守禁工戸所四十有五の一十五の一十五の一十五の一十五の一十五の一十二十八一一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	州七縣六十
I had the same of the fi	· "或叫或强重单人能等性化 一、或之肌等加工资料有外色形 一、或之肌等加工资料有外色形 一、或之肌等加工资料,以为一、加两个等级,以为一、加两个等级。	《	11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年	格 飾 的 所治東南聚泰二公名利 數百事 趣百事 建五磺连山 防疾船 制 一 教师制制 的 一 教师 教师 接近 安 市 教师 表 工 對 沃 统	平聲總兵官一	五四		



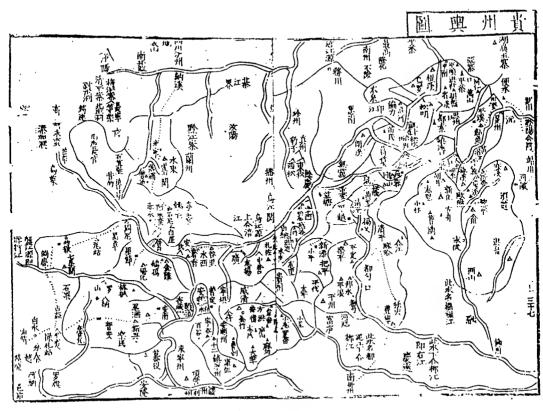
史 225-761

1   1   1   1   1   1   1   1   1
-----------------------------------



史 225-762

雲南 欽差巡撫 质更固定 巨人官司 北市銀工治典官一學之一一大何老機經句 鹿南湖南之新港之。 在、工家民領州二河陽江川陽完新異州 家化震點景東 如安斯· C大班 京先 工 日はなりし 都司 一一一 民界古南率石城縣 二〇馬龍州羅林州 太人, 左, 歐達縣五〇 邻高南 安州鎮南州 東牧星岩西國大迎最為大部院上住土 四氏初州二楚植跡 通足 基定设置 當陽之地所被金蘭北亞蘭葵 布 底地 二 軍漢為元即執州四 通安州第山州廣州、東龍水西翻拾南大理正吐蕃,相由"罗氏思名韓川二十年"州、一川於四代嘉而剛智老寺矢,相助"夏"軍漢水昌即相州劉川州、左歷江右劉朔高蘇明秀山 17、旦日西南徽外之地古家 华园硕州一安集司一局求伊殿该可越甸司, 正 定 軍古為有州二和的州南旬元縣 媊. 政司 人 軍漢名 似 州 一 姚州 元治与时五定 水名特別近元名廣 家民段民預州四縣 門近水州石外州門逐州军州軍逐州通海河西町城東自茶何司 订 **圖** 領 ...都御史 行衛四分屬領 糺 人雲南 有脏发 有架立張 指揮司南雪樓八大候州蓝蓝花豆素水外車型 宣撫司 潮流雕物溪鎮康州公元縣 赞攻置工民亲祭解新化州无沟附湾。闽州番加縣 (南州) 富州 今梅八年 万顿大會司丁工民來後府華 何 民令親籍司元為問事 在一元四明極過一工工 軍府孫肇 一 田 平校利置 巨津州臨西縣 察臨 要有之地民來中間 0 柴山竹谷平時政川 处按御史 四維千里州登縣岩 水片草度發空高坡 焙爆及石地野工房 山木明秀民权等 班 豆千里 此樣九歲松阿漢制 一天一一一一春風新郎永察少為所 常向春春花像 度 日 华村镇州师宋州弘为州 門達更謝擺水之同 維華大服姓或之限 征蠻將四 都指揮使同二 一香糖可感為里大丁二十有四 供金典統而俗效中土 公

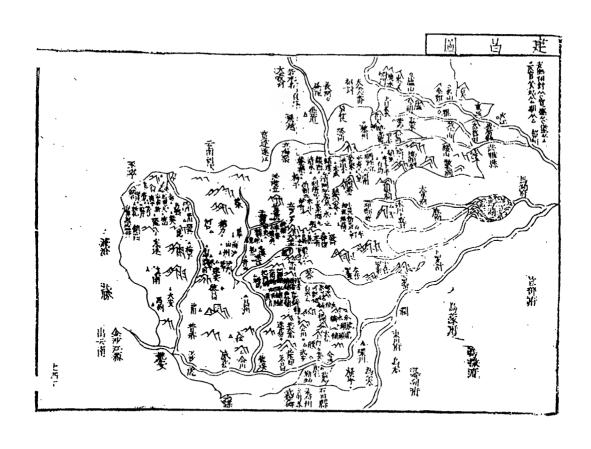


史 225-763

真州 及與圖紀一人貴州二 按祭司 桩 AAT 新化解省人称平 上三原介 C 包集被關新化中冰驗制亦逐漸測稅里來梗聽力 中 中在夜期前提來以供查安及官司運業入升洪州治里申詢剌古州西山聯副副耳 田心上門前州今攻領及官司水傳江原官司衛門後東次長官司泰川縣 索縣 雅遊數尚力奔之俗田心上門前州今攻領及官司水傳江原官司家與及官司忠申江長官司 雅河 聖戴腔與唱帽之藝 「日」行心(中人) 一司 中では同二十三〇上馬橋小森布版香森香之香ノ香沢春 川部衛大藤香路春庭 一日一行心(中人) 一門 門外南境領人中司首行水東中豊富東哥山綱水龍川山綱 水果中西東火米龍坑 第一一大衆政府 司六 C高選工職者可 比陸前界府城思州門一 古為婆婆班和 大学師七方漢提漢大萬山東連鄉陽西接恩南 少女、順、古光茂地元五智安州正統改為貴州領十四縣及及官司二〇中本家 個樣 以到了一方荒嚴東元五五州正統攻勢資州假六森及長官司二〇十二衛東依 大水 照丁古花酿地玩在是州正統改為員州鎮穴縣及及官司二 C基投頂書 石 下前角灰管司 女子司司 左近、文元為斯東府今因之司三〇十五河廣夷及公司海東縣 金成班 安 柳 司 古於股地元界金統府本朝政安德司孫督州和長官司三〇木八麻野大雅 百一女 州 洪七件何知然以方水水改為州蛮夷粮食等沒用前之天 政 3111 獨斯者領司 總附 所普安貴平分為三 九市南州美貴里朝 司 南尚及官司 政府切四〇為幹者明龍泉坪 北班思南 一一姓為有名領人空鄉坪钦長來產史和索查史 (種類非一首除各異術只住教 ,東門五溪西距離江流南門产 福州 州四屬長 以他創作外疑山 斯文者自利河官 衛 古名教歌里茶都 与 元為和 推判 要於控奏咽喉之枝 自諸提 (官司)五十 **医甲司**周 一然使司 ١ 十安衛烏 八威派撒 漏六



史 225-764

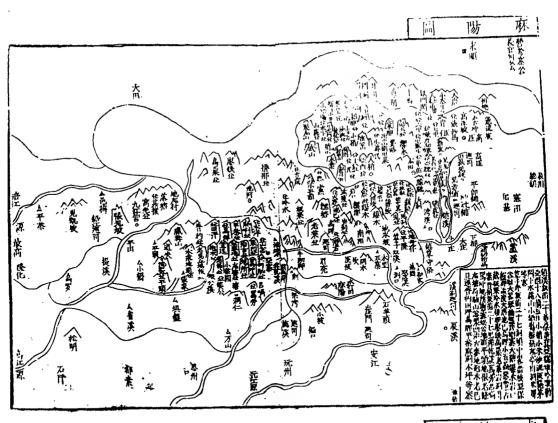


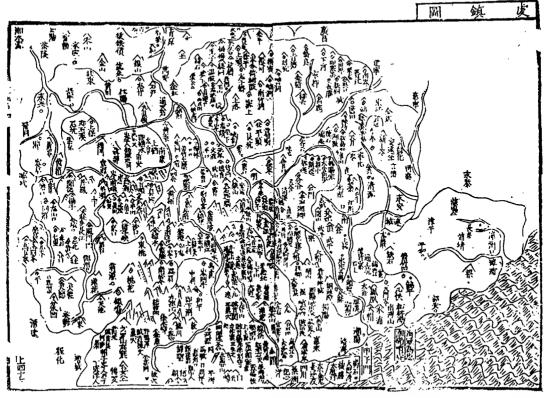
於潘等處軍民指揮使司獻門門及領守禦所一門宣 於潘等處軍民指揮使司獻門門及領守禦所一門宣 一下一百五十九萬八十四兩九錢條 一下一百五十二員名守禦所二一處州安撫司一長。 一時報子一次與一十九萬二千九百八十四百五十二員 一大四百五十二員名守禦所二一處州安撫司一長。 一時報子一次與一十九萬二千九百八十四百五十二員 一大四百五十二員名守禦所二一處州安撫司一長。 一時期一個本頭一角 一時期一個本頭一角 一時期一個本頭一角 一時期一個本頭一角 一時期一個本頭一角 一時期一個本面一十八百五十九頃七十四前 一十八百五十九百一十七石 一百五十二員名守禦所二一處州安撫司一長。 一時期一個本面一十八百五十九百一十七石 一百五十二員名守禦所新舊屯田八百五十九頃七 一百五十二員名守禦所新舊屯田八百五十二員 一方十二十二百十二十二百十十二百十十八石 一十十二百十十二百十十八石 一十十二百十十二百十十二百十十二百十十二百十十二百十十二百十十二百十十二百十十二
--

1	T 1			i				1	质	1 .		1	1	- TON TO	-	<b></b> 飲	丁欽日
	八項	于硕		等類		干頓	<b>华末</b>	等領		六级			等领	附		差	\$   数差整
七百	别型了—	五曲	极一	等頻	名員	十二朋	等末六	三新	图	關測	17.7	扩电力	九束	电.	撃 提坦	5	第一整
名四	入類 開発 古一 堡等四百	华生	四千	堡崖	,	业等	堡定	關塘	187	保守	馬罗	医 糧 項	堡勝	堡	將 當六	计计划	州駐舫
T	りけり	O	1-	0	$\circ$	0	0	Ö		0	四多	刻三三			軍品格	松	安松
	方大名十	壩山	八百	水峯	副以	風堂	鎮平	化新	松	中文	i fi -	-171	高羽		一种自	潍	綿浩
	〇 倉五 『徐糧員	雅山	百項	進崖	總上	洞山	平定	西塘	凇	小高	八二	一八九	羊勝		前東五 捕	华山	等風
	『作糧員 茅平二名	水小	儿游	銀米	特似		企 <del>织</del> 非夷	学女	-1	H.II.	1-	上日政	(称 )		蹄獅 一 一一右	處副	綿等處兵備按察司官三
	<b>非規</b> 萬氏	计炼	五十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	ツボ 鎌馬		松松	リス 平航					リーで	121 31		リリネ	總	徐
	山子三快	震討	馬百	能答		Y林	夷餠					石前	朝花		型龍 将	兵	按
	茅吓于土	就後	九九	0		ΞΞ	<b>V</b> F-1					倉堆	游谷		溪州 —		察
1	徐通四兵	規庄	++	土官		踮合		·		ļ		糧一	栗		轄轄三分		린 i
	塘大十一	槽香	四項	兵軍		阿鎮			:		1	九百			鎮江千成	松	里
	〇五千	馬溪	匠巾	九四		家遠			pn.		1		电官		平湖戸辖	協	<u>-</u>
	員官石二 名軍	<b>严</b> 宜		十百 五七		四小望開		! ]	19				田里 石五		至至一提 茂漢真督	守左	茂松 一湘
	<b>尺四</b>	水西		五十		()						上分	類孔		及 展 五 州	祭	其一
	快工	龍溪		名十		四官							九九		投一种	將	茂駐
	£1	蜂三		田名		軍				}		七十			怪  協		用依
	疾们	0	1	石民		Ξ			١.,			+3			開口精	1/-	安洲
	八五	軍官		類快	-	+1			汝美		-	一畝	十名		五遊	河駐	綿戚

- 74				 						
		質				발발 이	亦	- Mí	徘	會
		節			刺馬			シー 糙电		川〇
					0	典して製		二糧 1-七		<b>涉</b> 还 ○
		進品上			十型!	馬橋 真原		六千 百三		沙虎迷嫔
					石百	<b>有山</b> 定篙	[   	- 百 寸 机		即句
					4	菱质		一十 石八		万也 四郡
					· 3	有洞斯		二石		ト こ 剪
		<u> </u>	٠,		) j	化獨 // // // // // // // // // // // // //		Ì		
	,				Į į	を かり と			\$	
						上版		1		
		=			-	提		İ		

史 225-767



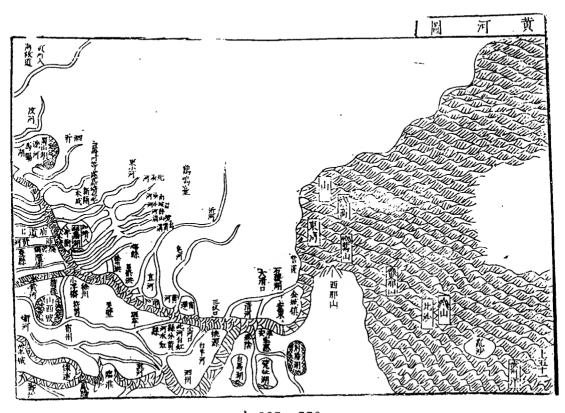


史 225-768

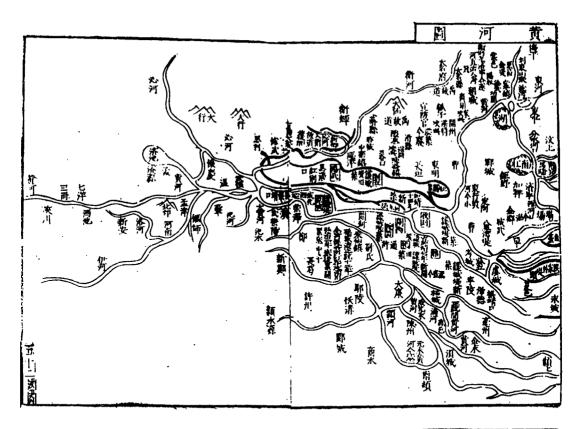
平月軍一百七十四月軍二萬八千七百二十六百一十四月軍一百五十六處 二百五十六處 二百五十六處 三百五十六處 三百五十六處 三百五十六處 三月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一百五十四月軍 一一十五月 一十五月 一十五月 一十五月 一十五月 一十五月 一十五月 一十五	炭鎮辖布政司四府九州一縣六十有五衛七科所一
--	-----------------------

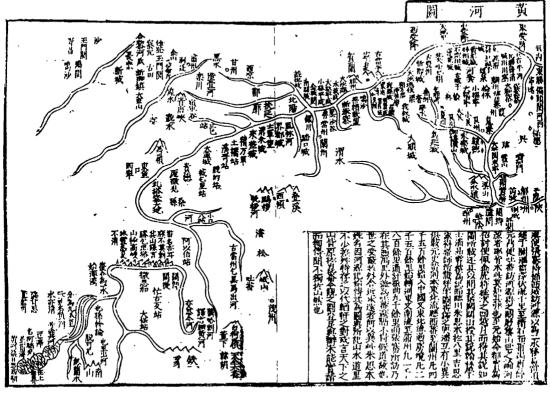
術	〇化鉄嶺伍通下坊三溪水〇官七 員軍二百八十八夕	<b>確能鄭家湖界遊</b> 二員軍一百四十	〇城 秋家廖天横山即付犯	<b>收</b> 第	[死]〇軍管郭公長衛塞被銀四鮮水溪櫃領批排彩用一河〇官三員軍二百六十九名監上标處豐南罕斧四		惠州官四十八員軍四千四百八		一子一際黄峰鷄麓分水長樹桃楊鎮不佛子	日本大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	〇長塘蛇頭流快轟都關	○上稍三門賴將灰袍盧王大雷	<b>监南康縣領古樓</b> 六		两石名監大庾石源浮江幸屋雲山		〇 方五員軍二百五十四名監稿	〇口 罪門鐵樹南張站嶺藍田秋溪	漢衢為洋軍二百二	○蔣南運權木横江汕潭龍丹樹	
---	-------------------------	------------------------	--------------	------------	---	--	---------------	--	--------------------	--	------------	---------------	---------------------	--	----------------	--	----------------	-----------------	----------	---------------	--

所 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)
--



史 225-770

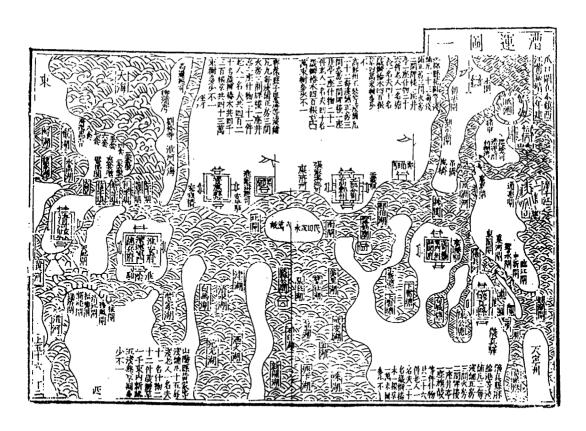


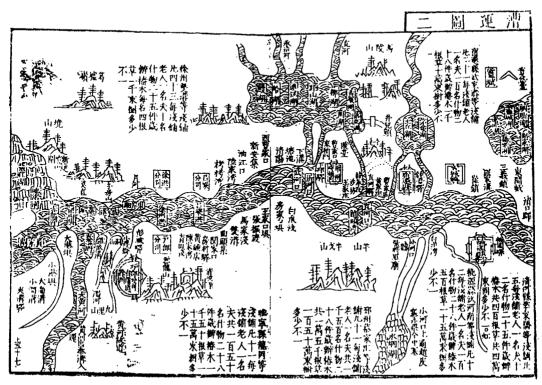


史 225-771

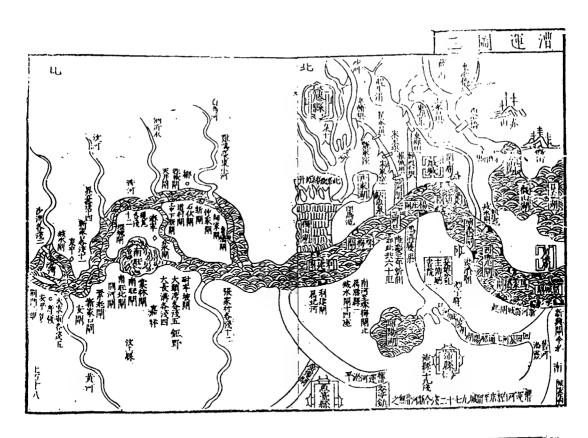
府 者力共產法者為也有尾殿和水網水就在日間焉圖陽共在於河流高陽僧民東定於者而門院鎮治 分河怒日四水水有用捆有两放之雌则而生之醒 紀玄害的 上非了水修 為之沙夫叫之所缺土頭娛禁曠廣通而鑿地潺河 至少不流不水行日 水修平典方式牧去烧逛醉治河 **昭利丁安耀水室咖啡河** 十些萬以惟所豁口加瑪水帕門維行不之曰抑之者正者能者能之漸河蔣除水千州数它射平三則可萬数彼會水有石頭娛樂以為身壅故故河流河河而必由力本興本勞害脫載之百排至下菜恆平無十知自退豁加等有福利岸有平道道之因上防為則古寒世乃泥費支冀無民炭水而作胜損矣阿里其新則口嚴竭石物其岸廣不有日暴而一能之較道故故快冰無數州思當遠澤去殿防 始猶其於道河上無し百水淵水者而則去之 又聲迴湍势河口有用其船之狂转狹滿高河因道 河俞利而非流流不散歲則之們数居填河作 各個也學之入下龍草為礎名水前狹馬有生而之 一害害水不已之於途謂聞上者里之然二近也多之不能無低之其之西策放此港肥一起有而輕能力之處理害中方若河皆耐美五戰 <u>外百分點低故於口用場治有隨故難大平日</u>扼請 為人共治昂道便飲木臺場刺突顏受壅高減之之 一為平之相之水口用及一水則者水生者水間號 以降水河岛源漲者無雅也是以以水清中河之去 歐利重行復苗些冰型東高西北前固民 **企则**使而相也則**己用**被有有殺計溢滿之生 有少擇故所自勢常最若門多入世共耕姓齊 不力之欲學日溢成紅率岸載其禦悍生以地區之 失全比使品折出川之制澤河怒之故知趙有潺游 **俊古之先下繕分穿海两宜田非**奠 智不難常下策元河剂性排也之 h 治其而一成者於鉛方類水股治減狹也甲直之因 者人復也流也故流渠功也今或正貌 口者逐掛帚们農水者河高有別而 終是然下 **股富旱** 一本股人水火 河顶以准勾用 之與殷以停古龍舊河之有觀一河以升早紆有深 者 农必则避流 國則立行防無尚河 事火火高於

	<b>康央圖紀</b>	四月
	<b>車車</b>	所能 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一





史 225-773





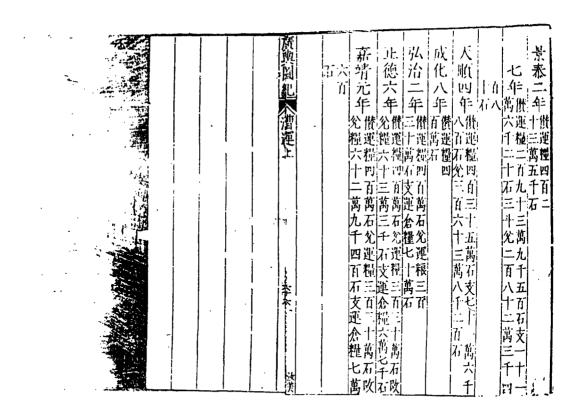
史 225-774

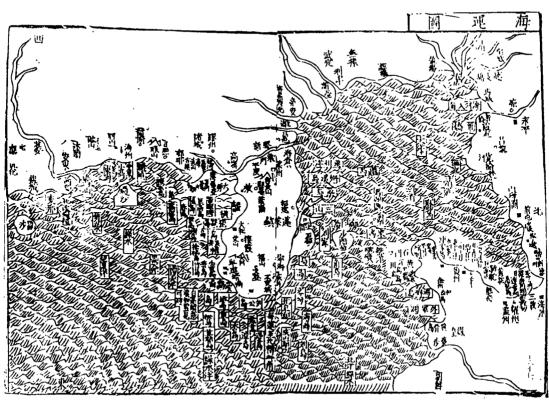
一十九百九十八石九十八石九十九百九十八石九十八石九十八石九十八石九十八石九十八石九十八石九十九十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	#運圖 常選圖 常選圖 一年清明 一年, 一年, 一年, 一年, 一年, 一年, 一年, 一年,
---	---

<del></del>	· .															<del>,</del>		-	,	1
浉	凝	金	處	台	紹	杭		거노	焼州	片金	ηĠ	建	安	發	南		江	徳	承	荆
率	州	華	州	州	興		萬州	浙江	州	加	廣信	邑昌	福	州	昌	五運		安	尖	州
所	肵	所	術	徘	術	前	五造	總	所	定	所	別	所	衛	前	石模	總	所	術	右
		十糧		五糧	四種	<b>车量</b>	千船	戶把	百糧	1	四粒	八糧	三程	三粒	型權	-	事化	四模		<b></b>
石	石二	ル七	十六	1 /	五八	立六	三二	七統		潜		<del>    -</del>	<del> </del>	Ji=	七三	·	九為	1:-		
六萬	<b>万</b> 海	7i 1	九萬	岩萬	五萬	石萬	百千	十官	石萬	距	七萬	正萬	石萬	一当	石商	八萬	千官	-		三石三十
十四八百		一八 小百		四八 十千			一三 +	九一 鎮衛	七四	1	石八二	として	九八十十	ナハ	ハモ	ガハ	て百衛	11.— T		1-1- 1-1-
介二			-∔ <i>-h</i> .	人七	11·10	是风	.  #.	映例	71-1		<b>計九</b>		二七	计九	七九	於九	カ.ー・	4		四十
1	1		市	升台	十	<b>小百</b>	石延	四一			百		升百		升有	+	干十	ፐ		外有
	湖	衢	海	温	梅	杭	三糧	旗十			沿		末	古	衣		pg		析	聚
	州	州	寮	州	波	州		軍三	1.		山	州	新	安	州		儿温		陵	陽衛
	折	所	衞	衞	衛		四十				所	所	所	所	行料		江华		衙	一種
		六権 十一								ļ.	一次一		七程十一			Ì	造工			<b>六二</b>
	石萬	瓦萬	- 萬	乙萬	石萬	八萬		千千		1	富萬	石萬	八萬	石萬	二萬		船在			不為
	一九	Ti II.	石五	八九	七五	十四		六ア	<u> </u>		四九	八三	万六	一四	十八		八ア			大=
		pg-1			++	六千		百四			十千		F1				11.11.			月千
		1.7				<del></del>	i	七十			七五		十九		升六		计			LI
	<b>外·7</b> i		Ĥ	升订				H= -	-	益	升百二		11	<b>非</b> 不			十八			打百
	ed		. '	K				<b>城</b> 百		Į W				111			六旗			九

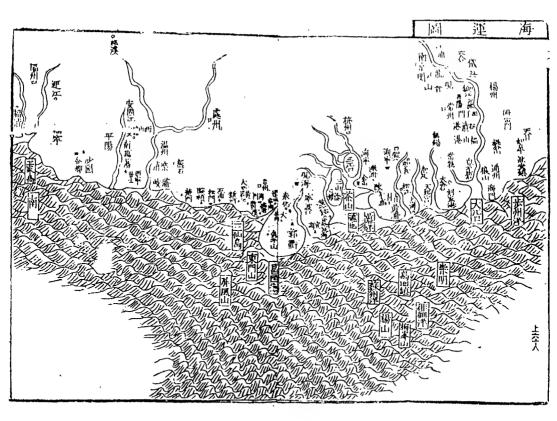
 质與圖 4 髙 杰 其 武 長淮 伐 閯 淮 洪 徐 其 江 泗 邳 平 塘 ILTÍ 都 安衛 州州 萬船 鄶 州 州 州 徜 1 總 衛所八 衞 衞 沂 衞 所 衞 衛左 總 · 一型石 四一六 一粒五型九十八把 七種五種,程三種 手大大百十 百件六五 升三 十分 七八升四 开風陽中 71 Ŧ 升百 可升可升百 Ti 升百 T 留守左 41 宿 懐 與 鹽 通 壽 頳 頳 遠衞 州 州衛 泖 城 州 州 r 折 衞 術 衞 衞 渞 所 亦 四種十種六種十種牙費 十型 五糧十糧十糧十糧 十糧 十六五一十二五一九三 石千石萬石萬石 斯丰萬 四一七七七八五四六八 十二五一六一七一石萬石萬石萬石萬 六九 五.一 石千 八清江殿造船 一年百二 Ŧ |千百||千月||千月 千千千千 清千 計戶 四五四三三 = 八七一四 ΞΞ 江頂 升百八百斤百八百 计百升百 升百升百升百升 較テ ŀ 八戸 Ł 6 九 北 껃

正統二年於十九萬八千二百六十五石十十六年 有過河償運推安年與常五十五子北京十六年 有過河償運推安等與常盈等倉糧四十六年 會通河償運准安等與常盈等倉糧四十六年 會通河償運准安等與常盈等倉糧四	上石二 宋 年 年 州安二海	四萬七十一百四百郡衙提一萬一千四百四萬七十一百四百郡衙提一萬八百五十二百四百五十二五十八万一十四百五十八万五十十八万一十四百五十二十八万一十二百四百四百二十二百四百二十二百四百二十二百四百二十二百四百二十二百四百二十二百四百二十二百四百二十二百四百二十二百四百二十二百四百二十二百四百二十二百四百二十二十二十二十	<ul><li>千蕃五鷲十舊四番</li><li>7百五千北一北一九五五</li><li>2000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000日本</li><li>1000</li></ul>	武中智北直隸欄二千定邊術舊北直隸門為石,十九石 定邊術舊北直隸門為石,十九五 通州石舊北直隸門為石,十九五 通州石舊北直隸門為石,十九五 通州石舊北直隸門為石,與軍六千二百名清江叛造船五,與軍人,一九石一非	斤護型セニー
--	----------------	--	--	---	--------





史 225-778



海巡 质與圖紀 朱清張瑄者海上 圖 嚴運三百六十萬石京即稱便也南省首亦通蓋 辆浙 淮 運乃招二人授以金符千戸押運糧三萬五千石 光胡名而灰人甚苦之至元二十一年伯顏建議 **運延祐以來各造海船大者八九千小者二千餘** 為浙江鹽運司都運如是者二十餘年大德七年招 半月至直沽漕運利便是嚴加米為浙江省祭政張 成山西行入沙門開來州大洋進界河不過一月或 行離長灘至白水緑水經黑水大洋北望延真島轉 萬戸請長與李福四押運自楊子江與洋落湖東北 月回 戸所領虎符金牌素銀門船大者不過千石小 立海道萬戸府三以清塩與羅璧為萬戸幣千 行到九阜尚劉公西沙門為放萊州大洋妆界 百石自劉家港出楊子江盤轉黃連沙嘴月餘始 石二月開洋四月直沽交卸五月還復運夏糧 口 除抵直沽實為繁重至元二十六年增糧八 上戸白造船與脚假十一 過廖州午山一 《海運上 晟兩與是時船小人恐懼至元二十七 一下命也久為盗児 路至延真為望北行轉成山 兩五錢分揆春夏 出没險阻若 年朱 至 者二 河 Ť 風 É 173 海 兩 功 至 崩

海内縣山一座便是延真島崎海衛口淺灘避之望東北行兩日夜見黑水洋南風一日見編水場見	泊船候潮過辛山大七山小七山大倉寶	了主金山衛東海灘松江府上海縣海柰水淺望東烈港千戸所海學衛東山姑山望北行若至茶山低	水船送燒總福開洋望北行至選口山黄公	大公千戸所家門山招寶山進定海港完海衛南門胤石然洋至前倉千戸所雙臍港騎頭巡檢司過至	後沙洋半邊山党公爵溪千户所望北行至青門山	海衛始放金鄉盤石水手雕石浦港後門過銅尾山鹿與圖光本海運上	至羅漢堂山到石浦千戸所東開川要水手送至安	十戸所長亭巡檢司要水手魚船送	北行到挑青千户所望門口泊問洋至大佛頭山產	衛東港泊候潮至台州海門衛東洋山泊離温州望	待南 風北行過利洋熟龍山候潮行至於門港松門	泊待南風行至晚收比門千戸所要捕魚小列船送	牧中界山泊一日至盤石衛見縣在中界山正北島	平陽巡檢司海口至風風山銅盆山防東南殿作晚	金鄉衙要水手送一日松門衛一日至温州平陽縣	至前州千戸所防務晚收假贈巡檢司海口一日至	
---	------------------	--	-------------------	--	----------------------	------------------------------	----------------------	----------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--

成典面紀、海辺上 劉家港出楊子江南岸候湖長沿西行牛 有朱八沙婆婆沙三脚沙須避之楊子江内北有豐 港潮平带逐檔插過撑脚沙失轉葉明沙 避 政 **塔南有范家港灘東南有孫家沙江口有陸家沙可** 可過長源是白水洋東北行見官緑水一 水循黑綠水正比行好風兩日一夜到黑水洋又兩 了可見升羅峽海中岛西有磯如華架即後田望北 沪正 比有長灘沙獨沙半洋沙陰沙其沙切避之如黑水 月夜見北洋緑水又一日夜正比望顯神山半日見 刑 赤山牢山皆有禹峽可泊若牢山北有北茶山白蓬 官緑水或延真前望西北山便是九举山向北去有 帶西一 南風大不可樂北向便是成山 jΕ 口外有暗沙一带連至崇明江北有歌角嘴開 石礁横百餘里激浪如雪即開使或後回望東北 **西西西比風潮落正東或帶北一字行半日** 一九带東一字行量日期不見成山黑水多必低 自轉來角所未過長游正比行葬桃花班水邊 有馬鞍山竹山島北有早門漫灘皆可泊若東 字行一日夜便見成山若過黑水洋見北洋 啊 ΙĹ 挑 西 字多必是高了即便後 如在此洋官緑水内 月見黒緑 غڌ Ħ 東 到 川堂東 白が 行南

府即剛紀人海運上 北 海口 界為東北有門可入西北離百餘里有黑礁三 夫人與不可行須 大遊之八角為東市有門可入自芝界為好風 過 洋憩束桃北 青鳥 南山嘴有茂扶中以行好風一 為若桃北多見花藏山南收登州衛沙 桃南字多必見來引三山桃東北行半日便見沙 直 河收牛吐馬頭泊 雙為東北看盖州西看賓塔臺便是於房口八三 西有南山收青泥窪西有松桐島北有孤山東 **蔚蓝東望三山正中入内有南北沙相連可泊三山** 西南有礁黄洋川東收平岳口内泊南岸外洋成児 **쇯沒為南半洋北半洋鐵山洋東收旅順口黄洋** 有暗礁西北有門可泊沙門為開洋北通砣磯山 鳳凰山和尚島墩西有礁石外有 亂態避之三山 行過成山正西行前為嗚嶼內有浮聽避之西有 扶直口有金嘴石衝出洋内湖落可見避之新河 一沽朋洋望東桃南一 到沙門為東部有淺挨深行南門可入東有門 路經海島收黃島使島若鐵山西收羊頭 一字轉成山嘴正 到劉島西可泊劉為正西行 字行一 日夜見半邊 南行好風 口夜到劉島 門島 劉為開 開 沙 F 夜見 門島 北望 四畝 到步 4 船東 PH 北 飲

洲如風順一朝至劉家港内
必見茶山船稍南面坐茶山堂西行半湖便見祭明
城至一夫五尺望西行截楊子江洪如不見望下使
行見白水带西二字勒戳點半尋長難一丈八八形
經成山入南洋望正南行三月夜經桃花班水望東
逐河口 開洋順風一日夜至鐵山带東二字空 可行
見石龍山孤醮山便町望西南行見茶山收洪
見隔界山又不見茶山見黑緑水多便望正西行处
山北座便望正西南一字行一日夜便見茶山如不
牧寶山如在黑水大洋洮東多处是低了見隔界太
斯與 <b>国</b> 紀 海道十
水色風不收三沙洪如風不便即桃東南行者水色
洋沙衙沙欄頭沙即是縣角嘴便後 正東行看
家港如在黑水洋正南桃西多是商了前有陰沙华
山往西南一字半朝北見崇明沙南見青浦墩岸劉
北如茶木夜看水凝如大星多即是茶山若船坐茶
長沙牧三沙洪如不着洪望東南行日看黃緑色浪
妆洪如被硬沙即便復回望東行光線水到白水尋
城一夫五尺水下有配泥二尺深便是長灘淅桃西
一夜見白水望南桃西一字行一口點年截二支漸
緑水一日夜見黑水又一日夜見南洋緑水又兩日

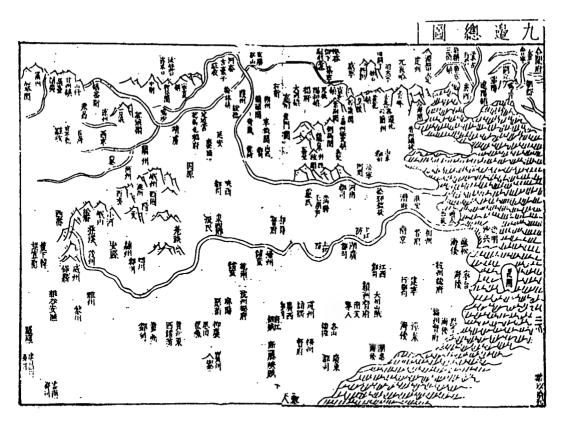
<b>勒君</b> 英出行	風息始静然	晓雲東不應	要勢若魚鮮	飓風連急兩			賣與別犯 本海道山	<b>竪</b>	風兩及時見	東南卵浅雲	要問必振烈	<b>清朝起海</b> 燕	明上清明	早起天頂無雲	春春西比黑	例看東南黑	山鞍
紅雲日沒起	配雲天頂絞惡雲半開閉	夜雨愁過西	來朝風公輕	西北黑雲生	連奪兩亂飛	日次黑耍按	歌上	風兩霎時息	日出卵過栗	兩下巴特及	東風雲過西	風兩霎時不	遊絲天外飛	自出潮明	半夜看風雨布	急午前雨	
精明不可許察日出生	來 隋	利用車両雙前	一的	<b>野雨必聲</b> 旬	要從龍門起	風兩不可說	字电 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	迎雲對風行	無兩必天陰	<b>季起南山</b> 市	兩下不移時	風静辭蒸热	<b>人晴便可期</b>	菜肴西邊無窮	古天		

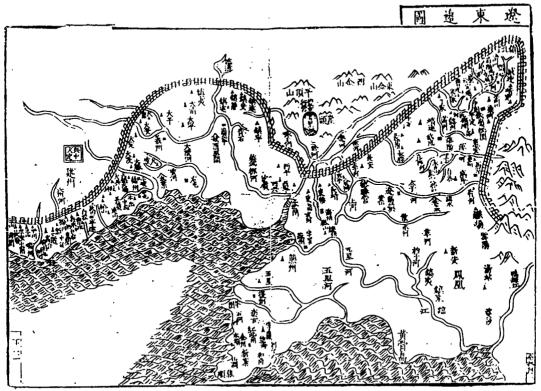
西坪變池	中後山町	<b>晴</b> 削無妨	的实接月	<b>隨朝不可移</b> 右	七月上旬來	回南必亂地	端午汛頭風	四月十八至	初八及十三	<b>质與圖紀大海運占歐</b>	有風君須記	七八必有風	初四還可懼	風雨朝相攻	不畫便晴明	<b> </b>	八尤腈可喜	乔夏東南風	夏來兩不從	秋冬東南起
午前日暈	明日有雨	1十間日再	三即傾滴	<u>।</u>	平 秋莫船開	六月十一二	二九君還記	1八雨带來潮	七九二十一		二月風雨多	江頭有風至	地口二十三	恩風難將避	雨過東風至	三 勢浪未靜	1次愛風勢輕	不必問天公	江頭風不長	而下不相逢
風咫比方	一班单月	任風即起	雲下日光		八月半旬時	彭祖連天忠	西北風大狂	傍船人難避	三月十八雨	十十十 次美利	出門還可記	春雪百二旬	飓風君可畏	初三須有殿	晚來越添巨	夏風連夜何	舟船最可行	秋冬西北風	<b>州後風雨毒</b>	<b>春夏西北風</b>

大游無愿	三日無妨	螻蛄放洋	月縣尾光	無風雨暗	<b>遂</b> 來無愿	兩下連宿	電光西南	白虹下降	細雨不	廣則圖紀 河道。	晓霧即收	不明天變	虹下兩毛	明日風狂	日光早出	<b>蒸光燭天</b>	诗風公楊	日沒暗紅	風色不狂	午後日暈
至近無妨	<b>浦</b> 海荒浪	大興難當	星下風狂布	夏風電下來	逐則有危	<b>及</b> 闕電飛	明日炎炎	惡霸少散右	三日霧蒙	10000	晴天可求	断虹早掛	晴明可期	午後兩遊	<b>晴明必久</b>	日光晴彩	朝日燭地	無丽必風	平白寨赤	风勢須防
金銀偏海	<b>阿駿風狂</b>	兩日不至	九面	秋風對電起	電光配明	大飓可期	電光西北	占额、	必起狂風	5-1-	霧收不起	有風不怕紅	凡 	夜兩寒點和古	(	久晴可符	細雨必至	朝日烘天	飛沙走石	型開門屬

萬支深泉石	落断宗毛	松紅數學	海平泥室	水洪泥硬	是花落矿	船走難獲	最怕船密	<b>南</b> 退方党	近以同紀 海池	萊州洋水	終日滔滔	西南水皿	小汛月上	<b>月上潮</b> 長	川南野傲	八二八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八	風雨必起	<b>若近山岸</b>	風丽立待
1 河	<b>茂繳</b> 可池	成山開廣	順花水町	<b>難山一般</b>	神鬼禽散	籾定必凶	大風緊急	楊子江内	· & E	南北長落	<b>店搬潮來</b>	便是水落	水涨來北	月淡潮澈	白蝦弄波	風大難拋	一日不來	仔細思寺	<b>浉乏沙塵</b>
	成山鐵山	名和下地		白矿可障	受知可地	直出沙岸	<b>擎定且守</b>	糧舟之患	で大	北來是長	月遭	北海之剂	東南旋浸	大訊瀕光	風起便和海古	東風可守	三日難抵	烏蜂弄波	大風難禁

-	四長總汇十九	安南圖紀十八	朔漠圖十六	西南海夷圖十五	東南海夷圖十四	朝鮮圖紀十三	泌岷圖紀十二 -	古丹圖紀十一	在京圖紀十	寧固圖紀九	<b>廣奥圖紀</b> 《目録	榆林圖紀八	外三閘圖紀七	大同圖紀六	宣府圖紀五	内三閘圈紅四	薊州圖紀三	遼東圖紀二	九邊總圖一	府與圖紀目録下一卷	脩攘追考卷之六
											V					·	, <b>3</b>			₹ <u>₩</u>	清白



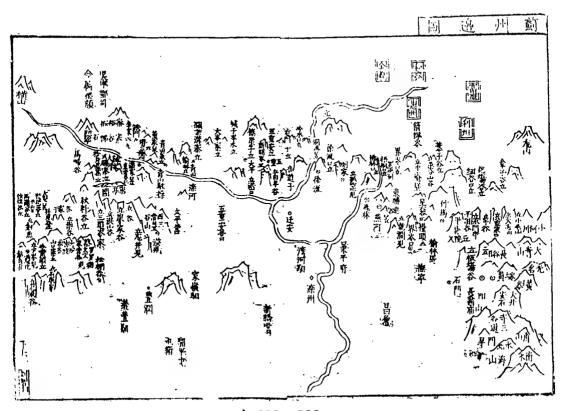


史 225-785

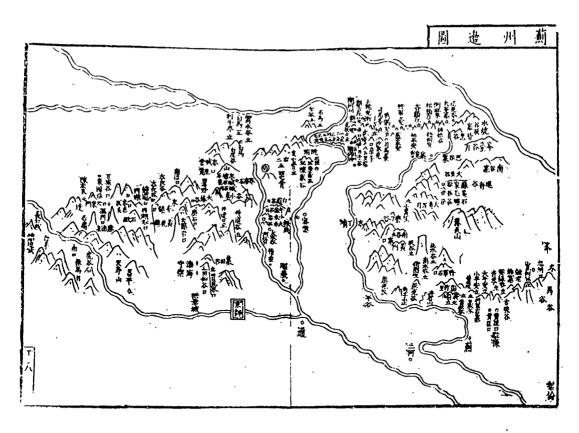
<ul> <li>         等 都 有 ○ 大 要 ○ 所 事 ○ 所 事 ○ 所 事 ○ 所 事 ○ 所 事 ○ 所 事 ○ 所 事 ○ 所 事 ○ 下 本 正 一 下 一 石 上 十 一 石 七 十 一 石 上 十 一 石 七 十 一 石 七 十 一 石 七 十 一 石 七 十 一 石 七 十 一 石 七 十 一 石 七 十 一 石 七 十 一 石 七 十 一 五 一 五 一 五 一 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五</li></ul>	<ul> <li>変東邊園</li> <li>一人萬九千八百七十五月名馬九百零九匹子粒二十六萬九千八百七十五月名馬九百零九匹子粒二二十四两米一十二萬四千六十六石歲辦草二百二十九石六十</li> <li>一人萬九千八百七十五月名馬九百零九匹子粒二十八萬五千二百二十一來豆七萬五千二百二十九石六十</li> <li>一人百二十一來豆七萬五千二百二十九石六十</li> <li>一人百二十一來豆七萬五千二百二十九五六十</li> <li>一人百二十一來豆七萬五千二百二十九五六十</li> <li>一人百二十一來豆七萬五千二百二十九五六十</li> <li>一人百二十一來豆七萬五千二百二十九五六十</li> <li>一人百二十一來豆七萬五千二百二十九五六十</li> <li>一人百二十一來豆七萬五千二百二十九五六十</li> <li>一人百二十一來豆七萬五千二百二十九五六十</li> <li>一人百二十一來百七萬五千二百二十九五六十</li> <li>一人百二十一來百七萬五千二百二十九五六十</li> <li>一人百二十二百二十十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二百二十二十二百二十二十二百二十二百二十二百二十二十二百二十二十二百二十二十二百二十二百二十二十二十二百二十二百二十二百二十二百二十二十二百二十二五百二十二百二十二</li></ul>
---	--

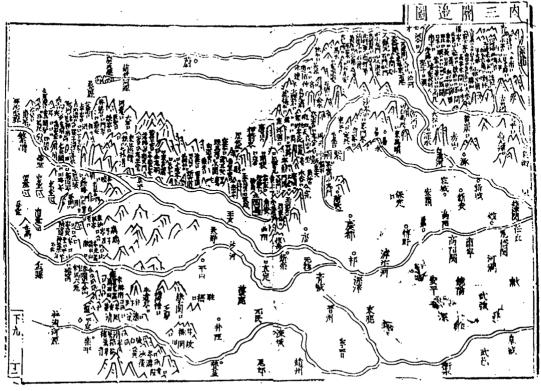
□ 第 ○ 中左 ○ 四堡 ○ 百六二百二百二百二百三 ○ 東 ○ 等 ○ 馬 步 官 軍 一千 四 百五十	「「ない」となり、三公等)、馬が南の一十方の馬が官軍一千三百石一十一十二百四十十三百四十十三百四十十三百四十十三百四十十二十四百四十十二十二十二十二十十十十十十十十十十	野都指○高陽○無開○情速等○馬 別都指○高陽○無開○情速等○馬 別都は○高陽○無開○情速等○馬 園紀	二千九百七石————————————————————————————————————	十六石嚴辦秋草三十三萬七千四百八十七石歲運銀一萬八十一兩百八十一兩方中後〇九堡 〇十員名一十六石五十四十六石五十四十六石五十四十六石五十四十六石五十四十六石五十四十六石五十四十六石五十四十六石五十四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	第二千 百一十六两八碳碳解狀草四萬二千六百一
子軍月一百四百四百四百四百四百四百四百四百四百四百四百四百四百四百四百四百四百四百四	) 馬米 二千五百九十二万二千五百九十二万二十二万二十二万二十二万二十二万二十二万二十二万二十二万十二万十二万十二万	等 三万四十三十三万四十三万四十三万四十三万四十三万四十三万四十三万四十三万四十三万	二百九十四員名馬馬歩官軍二萬四千	千四百東正 一 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	外打() 三週

	鹿與圖紀 卷東下	六石 一	押○復○羊胴等○馬歩官軍 ○ 二堡 ○ 八匹子縣 ○ 八匹子 報 ○ 八匹子 和 二堡 ○ 八匹子 和 二丁 第 十二 二十二 二十二 二十二 二十二 二十二 二十二 二十二 二十二 二十	四子位米二萬二千三百三千三百三十八 川場三〇雄川等 〇川
--	----------	------	--	------------------------------



史 225-787



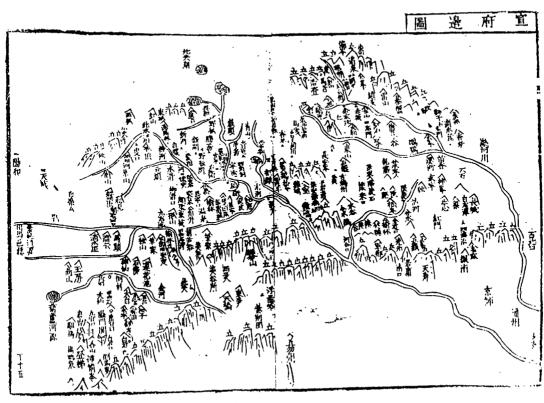


史 225-788

歌差總督遼剷都御史一縣 一古遊擊将軍一騎建都指揮二遍川等處守備八 一古遊擊将軍一騎建都指揮二遍川等處守備八 此口遊擊将軍一騎建都指揮二遍川等處守備八 此口遊擊将軍一騎建都指揮二遍川等處守備八 此口遊擊将軍一騎建都指揮二遍川等處守備八 上山海開一京州一三河口一黄化鎮 動州一京州一三河口一黄化鎮	五百八十八石二十零布一十三萬三千九百疋将在八萬一千五百餘石草、八萬二千餘疋海運光軍本折米 在八萬一千五百餘石軍民屯折色草共銀二十一萬六千 東歐紀 前州 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	刻州獎國三 一城一十一馬步官軍七萬八千六百二十一員名 一城一十一馬步官軍七萬八千六百二十一員名 一城一十一馬步官軍七萬八千六百二十一員名 一城一十一馬步官軍七萬八千六百二十一員名 八千三百餘舠草四十萬三千餘東
---	---	---

○ 市	祭将了 N N S T E T 馬皮官車 一高一當日家五員名
-----	--------------------------------

直隸三 安原都指揮一縣居守備五 欽差巡按居府等開监察仰史一 **恢差巡撫保定 雇**開 属馬步官軍 二万七 官軍 米三百三十石馬 口 西路有松等口二十七鎮邊城一座内除長松城 五 0 五十二胸條四共馬步官軍二匹歌鎗馬八十匹〇外一 炭官 百八 中 十六属春秋輪班开備禦常守馬步官軍 Ð 州隷漁所轄塩 七百七 企 路雙泉等口三十 石塊無住 石新增餘地折色銀三百五十兩餘 十一員名〇紫荆關線保定所轄沿 軍五百三十三員名〇長幣城座 十六員名子粒米 口 馬步官軍 員名馬六十匹運西六墩軍四十 十員名○白羊 一萬三千七百六十二員名子粒 城横共馬坎官軍 帰る 守備五白羊口一家 一般 新君 守備 五 居 庸 紫柳 リー 解 京 ○ 鎮守 道等口墩寨七十有三 四 史 [百二十二匹○東略撞道 四十三 其名馬八十匹〇 プ題内除自羊口母: 大俱無住城 横石橋 北馬 安 千七十 口 堡 層自東而西沿 上小石城 千三十七 一百七十八 鎮守 四石馬四 城二堡 馬炭官 副 岡倒 馬 峪馬 <u></u> 上,河等 )負名 **炎官** 1 永光 九 員 门 名 11 河 = 1/2 筝 氫 U 軍 共 Ħ  $\bigcirc$ 



史 225-791

宣府左列九十七石炮機五千七万五十九石草九千百一府左馬安官軍一千二百三十四員名也糧三千八百二東	一十二 宣府前再以十一石地種三千二百九十一石草二萬 宣府前馬炭官軍二千七百六十二員名心禮八千四	二草城	城保上本一十八〇音隊官一千三十五〇貼隊官九百二十八一一十八〇音隊官一千三十五〇貼隊官九百二十八二十八〇十二十八〇十二十八〇十二十八〇十二十八〇十二十八〇十二十八〇十二	駐成 兵官 一	兵官 一	米一千一百七十九石有零草二十二萬六千九百	十三石有零團種糧一十一萬五千八百八十六石	千三百九十五員名通鎮馬六萬六十九百八十 匹鎮碩備一十有五屬所六城三馬按官軍一十二萬六	官府邊過
--	---	-----	---	------------	------	----------------------	----------------------	--	------

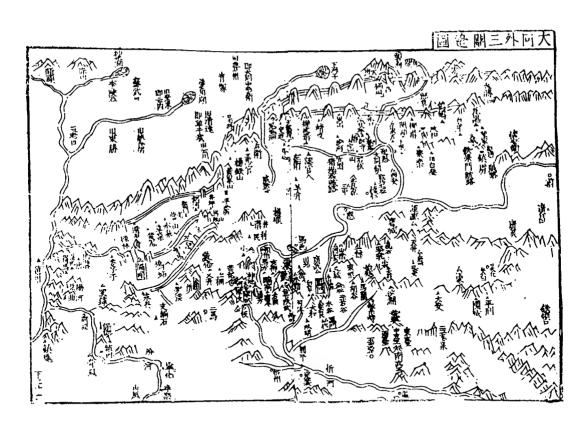
衛	(6) C 百六十九匹地橙一百一石八十四角 C 馬埃官軍一千六十二員名馬二種 C 馬埃官軍一千六十二員名馬二百九匹地	十二末十二万则種二千八百六十二万草一千一百九一百二十五万则種二千八百六十二万草一任安新馬炭官軍三千五員名馬一千三匹屯糧三千草四千二	心型一千六百九十二石地程九百九大官军一千八百八十九員名馬六百石十七末 一百六十八百四十八石駅停米一百六百四十八石駅停米一百六十五	官軍二百五十三月名馬三百府————————————————————————————————————	电整四百二十三万地程七一年来 一千二百五十九十十	<b>五馬</b> 匹贵	和  地腦五百一十一石草二千六百六十二東  與  馬炭官軍三百八十員名屯糧一千六十五石  所	東京市大学、一方也十一方也十万里九千一八十八十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	i
---	--	---	--	---	--------------------------	-----------------	--	--	---

無いの馬歩官軍三百九十二四門 「大」の馬歩官軍二百七十八月名馬六百 「大」の馬歩官軍二百七十八万十二下三四門 「大」の馬歩官軍二百七十八万十二下三四門 「大」の馬歩官軍二百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍二百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍二百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍二百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍二百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍二百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍二百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍二百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十八万十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬歩官軍三百七十二下 「大」の馬」の 「大」の馬」の 「大 「一」の 「一 「一 「一 「一 「一 「一 「一 「一 「一 「一	衛 衛 衛 衛 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	上
--	---	---

	二千二二十二二十二二十二二十二二二十二二二二十二二二二二二二二二二二二二二二	D 名馬四百二十八匹 変 の 馬歩官 軍六百八十員 変 の 馬歩官 軍一千一百九十	上十束 一	馬歩官軍三千八百二 具名馬三千二 大丁府下 七来	石明件水一下零八石稻田五百石二十九升草一七石團種三千三万四十八石公務糧二百二十二萬全左一匹也糧五二八百七十一石地提二千二百萬全左馬步官軍一千八百九十七員名馬八百七十	超二十四百	○馬歩官軍三百四十一 貞名馬二百九 ○馬歩官軍三百五十四月名馬三百 ○馬歩官軍三百五十四月名馬三百 ○馬歩官軍三百五十四月名馬三百 ○馬歩官軍三百四十二石草一百 ○馬歩官軍三百四十一 貞名馬二百九
--	--	---	-------	--------------------------------	--	-------	---

種四十二石関種一千七十八石公務 官軍一千五百九十七月名馬四百一地提八十一石團超五千二百七十八	)馬炭官軍三千二百七十三員名馬一千八百一一百一十七束	千三 百二 九千 五 十二 八百 九一	傳送四十八石草四千六百零五束	千六百二十石公務紀、宣府十一十四匹屯糧六百一十四匹屯糧六百一十四四世十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	〇十五四國和五十三石草二十四東	○ 员名馬六百四十七四十末十末	程二百六十一五馬大馬大馬大馬大馬大馬大馬車の十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	<ul><li>圖○百三十四石草</li><li>圖○四地糧六石七十團種二千九百三十一石公務</li><li>圖○本七四百六十一員名馬六百七十一個。十七四團種八十一石草三十五束</li><li>前)馬汞官軍六百六十九月名馬三百四</li></ul>
---	----------------------------	---------------------------	----------------	--	-----------------	-----------------	--	--

務糧   当   四四   十二   米九			<b>其名馬官</b> 馬少官馬軍四百十二 大二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	十八石华四百五十次 一八石华四百五十次 一八十二九十八石即作次五四十五石公 ○馬安官軍一千七百九十員名馬三百四匹屯 ○員名馬一百七十匹	二年四十八四十八四十八四十八四十八四十八四十八四十八四十八四十八四十八四十八四十八四	十四石草七百五束 1 一十六石公務獨八 1 电税一百八十八石地程二百四石團種二千 2 馬夾官毕三千三百三十三員名馬七百八十		四石草二至
-----------------------	--	--	---	---	--	--	--	-------

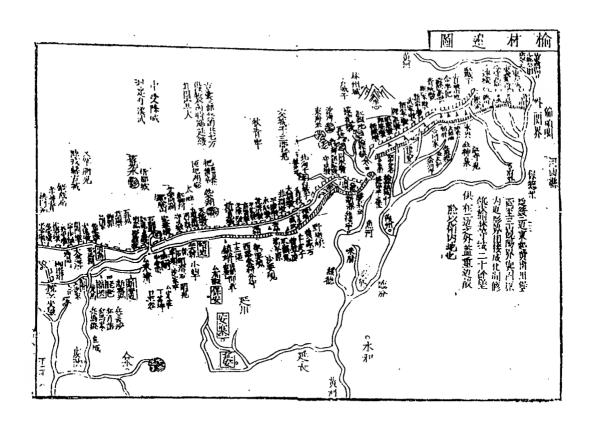


大同 欽差 欽差 大同鎮屬衛八所七 鈲 外三 苹 及京運年例通共銀七十七萬五千一百八 綿花紙 兵共五萬四千一百五十四員名糧料布花也 擊将軍一 征 [巡撫地方於理軍務都御史] 銀八分河南起運小麥九萬六千石銀四 運是秋二稅糧料二十九萬一 两七錢五分屯糧一 一两是秋税糧折布一 七萬引馬四萬六千九百四十四匹銀三銭 七萬二 備禦指揮! 鐵屯草一十七萬六千四百 西前将軍鎮守地方總兵官 一解追 鎮城分午念将四房府路 萬舫草二百四十 Ā 1年大行都可都指揮三 十東銀八登· 堡五 + 守備 F 十八萬二千五百疋 一萬七千七百二 十三馬步官 四萬四千八百五 肚右衛弘 千四百七十五 年例銀七萬 ○骨糧即中一 内掌印 〇協守地 東秋青草三 軍舎 陽壁 两 銀毎 三疋 鮫折 Ш 三疋石 6銭折石句 石 糧 鋲俱 例 餘 **企**廣衛和 上電—— 西 副總 祀 塩 石每 \$ 土 游

史 225-795

屬堡三十九口一十九馬步官軍含餘共二萬七千五	外	〇堡一十五〇八十六月〇階西河底〇馬歩官軍	〇怪四十九 〇百二	〇年七年〇四百員名	九〇三十八員名	〇 轄六子 峪等〇 馬歩官	〇幡周西等〇馬步官軍	○臀級水児等○馬步		<b>廣央開紀</b> 大川	四十九〇九百五頁名	十六〇六十六月名	六十二〇六百三員名近家屯〇馬歩官軍四	三州二年〇	〇百七十六人名	坚七○二十三員名	十六〇三百二員名陽等 馬步官軍	三十五〇一百九十高山等 馬埃官軍		大同鎮煙九十二
-----------------------	---	----------------------	-----------	-----------	---------	---------------	------------	-----------	--	----------------	-----------	----------	--------------------	-------	---------	----------	-----------------	------------------	--	---------

12 PM 1- 7	世二十八〇名子杜木二千一百九十 壁二十八〇名子杜木二千一百九十 整雕 漢等)馬步官軍一萬一千二百	中九 四月至十月不交草科軍自行的工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	廣與圖紀 山南外北關下 北十五八百三十五八四門 轄水岭等 四男步官軍一萬一千四百六八明	一利民一老营一种地一 武一偏頭 廣武一平刑 好傷 明 遊 學 将軍二 老营堡一守佐将二一 駐 偏明 遊 學 将軍二 北 樓 口一守佐 他一 開 水 鎮守 山西 燕提 督 三 關 副 總 兵 一	<b>開燕巡撫山西都御史一般於原</b> 百四十三匹草五百五十八萬九十兩料一十六萬七千九百四十	派徵解遊銀三十八萬餘兩新增成用銀五萬百四十七月名于本者六十二百二十七不不
*** *** *** *** *** *** *** *** *** **	70-	馬八束自	丰三四 十百	總兵一以縣中之門	移大萬 四 十石	用銀五萬八千

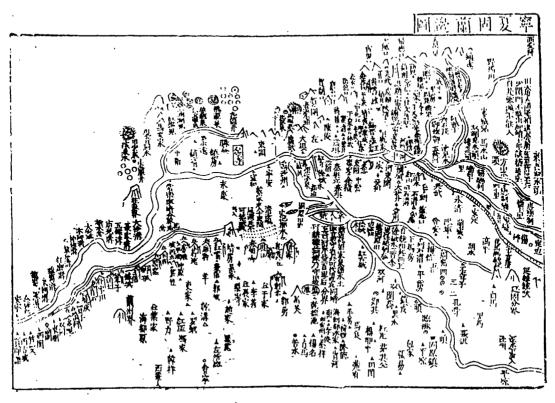


本	榆林逄圙
---	------

(本) 科四十一百一十石草六萬五八八〇 新步宇軍四百三十五草四萬二十五草四萬二十五草四萬二十五草四萬二十五草四萬二十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五萬五十五草五草五草五草	〇 馬步 官軍三千七十七員名 一 縣 對 五百八十五万草三萬 十 一 東 十 二 東 十 二 東 十 二 東 1 二 百八十五万草三萬 1 二 百八十五万草三萬 1 二 百八十五万草三萬 1 二 百八十五万草三萬 1 二 百八十五万草三萬 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二 1 二	千二百五十二万二十草二 一	在	一萬四千六百七十二石大百二十二月五十六百七十二月五十六百七十二月五十六月八十二五六十二月五十六月十二五六十十二月名十六百七十二万名十六百七十二万名十六百七十二万名十六百七十二万名十六百七十二万名十六百七十二万名
一百二百 五7十五十三 十一石十五十三 十五十三 十二 万一 万一 万一 万一 万一 万一 万一 万一 万一 万一 万一 万一 万一	町一十四 中五 市二 市二 市二 市二 市二 市二 市二 市二 市 市 市 市 市 市 市	二万二十五月名 二十三万月名	十九百七十八十十十二八十十二八十十二八十二十二八十二十二八十二十二八十二八十二八十二八十	百二十六万二 七十二十歲十 十二万六年六 二員六員三員
千四千三 十九	大 千二 万一 万一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	四百十四十二二百五十二三百五十六十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二	一	中三二一百三 東百萬百八百 一一字六十四 萬十七十二十 七二十七米三 千匹六四

匹 糧 有六百石羊一萬五大百五十四月名	大百 七十石六十草一萬四馬安官軍七百零三員名馬臘科五千八百石草八千二萬分十二員名	千三面二十八石四斗草二炭官 軍九百八十三月名馬	好一萬九千二百六十七石馬歩官軍九百七十六員名紀天榆林下	〇科二千七百石草一萬七千〇科二千九百七十四石一十八十七月各一年大十二月名	安〇八十二匹世紀一千石草六十一 新〇馬安市軍一千四百四員名馬	及 5
馬五千二百家                                     		中草二萬九千 九百二十 具名馬五百七十 四 糧 料	PA馬五百二十五四 撮	千名一名	大名	三一一馬萬名六名

		<b>原與圖紀天榆林</b> 下	- 第〇十八匹糧料三百五十万益0馬歩官平一百二十五員	送 〇 梅井 五千八百石草三萬 定 〇 馬安官 平八百四十四員	勝つ 提出 六百二十五石草三 一
		==	字 5 三 千 本 一 本 一	八千二百八十二來	千名片写 名 4 5 6 7 6 7 6 7 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7



史 225-799

本   本   本   本   本   本   本   本
--

五十四石草五千二百五十四石草五千二百五十四石草五千二百	○馬麥官軍六百四十四員名馬 ○七百六十三石草一十萬二千 ○馬麥官軍二百二員名馬一十 ○馬麥官軍二百五十一員名馬 一十二百五十一員名馬	本〇科三萬二千二十一石华四千一百來 清〇馬少官軍二百零九員名馬一十七匹糧 曹與國紀第一次	例 〇 村四千八百五十七石草六千八百六十八束 靈) 馬步官軍二百九十二員名馬五百八十二匹禮所	分守中路条将。一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	堡 與 男子下軍二千四石草五十三萬六十來 與 男子官軍二千二百八十員名馬二百五十二四 所	協同
-----------------------------	--	--	--	---	--	----

本子總中軍把總官全〇印屯局補首領官全個 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「東國紀、衛子) 「一百三十七石草九千六百四十四末 「一百三十七万三十四射京運年例銀五萬两草三十二萬八十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二
--

10   10   10   10   10   10   10   1
--------------------------------------

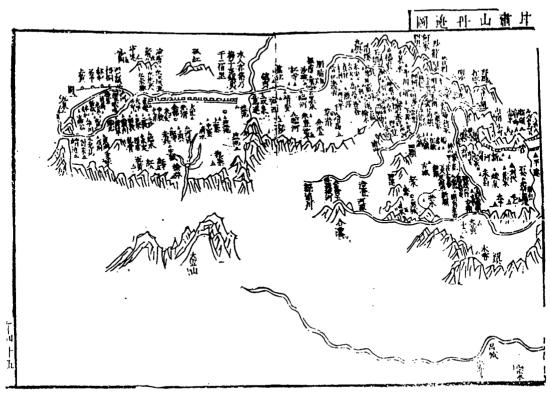
第〇科三千四百九十五石數支銀三百四十九两七類〇馬 英官軍八百八十三員名馬二百五十二四板	分草二年	五花四	斗百朴竹草九七二 七十千十 萬一七十	で移長官軍件は任づ十二章の第二十二日	E.	寺児一南大通一武勝一 把総官操官隊 井児一苦水灣一野妖城 一把総官操官隊	一〇守備二敏著一把總指		<b>疋綿花四千一百六十五觔</b>	二十八萬六千一百九十四水布一萬一千一百八	千四百四十九石三十塩粮銀四千六百五十两草	一两二錢燕支銀四千四百四两四錢塩粮一萬四	三千九百一十三石民運粮銀三萬一千九百九十	百五十六員名馬共三千四百六十七匹根料二萬	在沒衛屬堡一十一漢士馬步井召茅官軍共一萬八	<b> 正</b> 浪 西 宇 連	
---	------	-----	--------------------------	--------------------	----	---	-------------	--	--------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	-------------------	--

史 225-803

<b>塩糧一萬六千四百八十三石九十二升草</b>	四升民運本折根銀四高一	トラリ	水昌追園	洲)〇年例六百两 巴)〇根料七十石	· 東年例一千二百两	百四十三十		第一八十五升草一萬三千四百五十東年例一千二十十二十一十二十二十十二十八十二十十二十十二十八十二十十二十八十二十二十二十二		-石草七百束年例六百丽、10年五十員名馬 匹根科		束	(A) 財四千一百六十石七斗草四萬六千二百五十一根) 田安官軍五百七十五員名馬二百四十九匹狼		的百	一百五十两七錢布一萬九千六百十八石四十草二十萬八千四十東	匹粮料二萬七千四百九十五石七千旗根田歩官軍四千八百八十四員名馬三千五		操官全的很按仗官二於辦守儘官三班一巴州一	
--------------------------	-------------	-----	------	----------------------	------------	-------	--	--	--	--------------------------	--	---	--	--	----	------------------------------	------------------------------------	--	----------------------	--

	○   ○ 各馬千爾 養炭五五	七員名	<b>全</b>	<b>的</b> 花	九升草二萬六千二百五十八東六千一百四十七兩七錢盐粮四(四部港)千万百五十五五八	三百八十五頁名馬二百五十	<b>木牛侧二萬兩布一萬八十二肋</b>	<b>将州下</b>	百四十四石四十草三十七萬一千八百六色三萬五千一百六十一兩六錢塗粮一萬	京州 馬走官軍八千六百二十九百三十六石八十民 運	衛	官全〇印屯局捕局城	系述一黑松一安述一探守一旅 千郎中軍把鮑 大河一武成一龍述一探守一旅 千郎中軍把鮑	一〇遊擊一〇指揮	分守泰政一○監收通判一○判官俱駐縣丞一凝古	八千四十五觔	十三两三錢七分布一萬九千九百六十四疋綿花	一萬五千一百八十六東年例銀二萬門熟支銀三	
--	-----------------------	-----	----------	------------	---	--------------	----------------------	------------	------------------------------------	--------------------------	---	-----------	--	----------	-----------------------	--------	----------------------	----------------------	--

**廣與圖紀** 水原鎮土 堡 水昌衛萬 衞 鎮番衛属堡二馬步官軍四千九員名馬一 監收判官一 官全〇 **匹糧料七千四百三十八石有啄民運本折色粗** 七十 五千二百一 **八疋綿花三千七百一十五** 斗草一 百一十五加 . . . . . . . . . . . 堡五 印电局補首領官全 十一石一十七 升草一萬二千官軍一百六十八 人名馬一四十七 名粮料三千五十 二萬東十九 人名 卷 〇守備一 馬步官 十二冊蓝糧一 **\两九千九十七東布九千八百** 番點鎮 軍 百二 守堡官二黑山 萬三千四百二十-九十東右九千八百一十七石三十本折色粮工人有馬一千一百四 四王 一千六十 百八十五中 把總管 五.一 四百 東千 銀 石 七

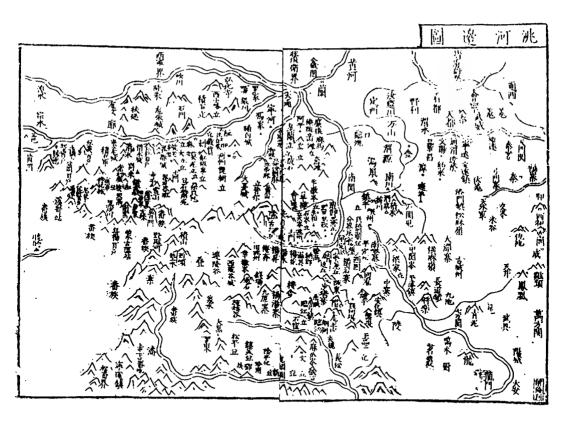


史 225-806

一柄〇十九石二十鹽溫料一十五百四十九石三十草一枝一馬少官軍二百七十四員名馬三四獨料五百五	大  C     千	例像四萬兩 是其本折布銀一十三十一石草九十二萬四千三 程其本折布銀一十萬七千三百九十五兩一錢監 是其本折布銀一十萬七千三百九十五兩一錢監 是其本折布銀一十萬七千三百九十五兩一錢監	總管隊官全〇印电局排首領合獨官企 一次四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	通判一○判官一世州 一	· 分應程二萬六千八百 · 百五十一匹糧料六萬 · 一八馬步官軍三萬三千	山脂造圖
--	------------	---	---	-------------	---	------

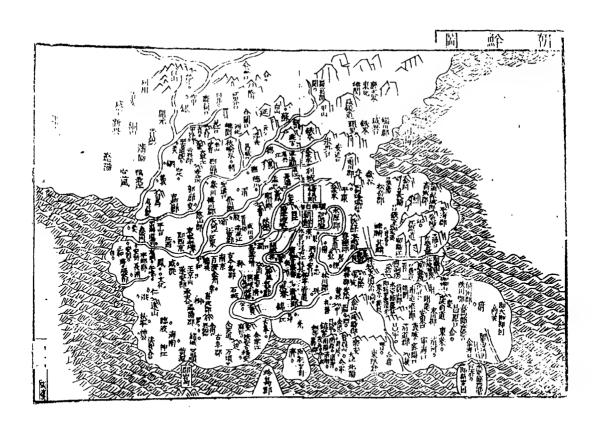
西二千七百七十八匹糧料一萬七千五百一十三石六十民運本折糧布銀一萬二千五百三十二兩石六十民運本折糧布銀一萬二千五百三十二兩五十二萬一十三五十一東 「五一八十二東」 「五一八十二東」 「五一八十二東」 「五一八十二東」 「五一八十二東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一東」 「五一十一年」 「一十一年」 「一十二年) 「一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	一 首 高 斤 一 医 \
---	---------------

游) 十三員名	0.馬	百一十疋棉花一千九百五十六斤毛板一	九百八十石五十鹽糧一千千二百九十六員名馬七百	水   草四萬九百四十七東抗草銀四十五兩二錢		◆ ○百五十三石一斗草一千一百二十一本	千五万三十二紛毛模四百	八千六百一十二疋棉花 為五千五百六十東斯草銀一百三十 二百二十兩鹽糧一萬四千六五五十	十四極料一萬九千三百五十九万九斗民運馬步官軍九千一百八十九員名馬三千八百	撫夷首領官	守堡官二鹽池 掌堡官一 即 把總管操管隊官 把開指揮一縣加操守一與 教校官二縣置	
---------	-----	-------------------	------------------------	------------------------	--	---------------------	-------------	--	--------------------------------------	-------	--	--



類徵民也糧二萬八千五百處民運糧折銀二萬九千五	九万三十八員名不募民壮四百四十五名馬二千岷州鎮蘇衛一所三寨七十堡八馬步官軍一萬四千	一	5.步员步	杂堡	五十布八千四百疋棉花三千三百斤草五萬八千五十九水尺也糧三千九百四	沙州馬步官軍五千六百二十二員	₹ 1	衛	官一十八縣堡	官全〇印电局捕首领官全〇防	於州監收通判 ○ 祭将 一 ○ 總巡指揮四來時 一 北	<b>火綿花三千</b> 二	七百五十九束民也程三	三十七百一十六匹各處氏運糧三萬五千九百六	新舊石選合	池州鎮屬你一開五寨二堡二十四馬步官軍六千一	死河遊園 1
------------------------	---	---	-------	----	----------------------------------	----------------	-----	---	--------	---------------	-----------------------------	----------------	------------	----------------------	-------	-----------------------	--------

(*)
天作
11 to 11 to
*
三〇選糧三千一百
二十三〇三員名馬二十四匹————————————————————————————————————
千三百六十六石
關堡
統人河州下
<b>竣</b> 十
六千五百九石六十屯草析粮一千百六十三石草四萬三千三百六十
二千二百八十五匹民運糧一萬七千七百員名召募民壯二千二
市防守官一十七 <u>關</u> 堡
首領官全○歸徳所印操官全○總巡指揮二西路
監收通判一○守備一○把總管隊官全○印屯局捕
兩伍錢
本色鹽糧三千三百六十石折色鹽銀二千一十二
九千八百七十五石屯草折櫃一千六百七十七石

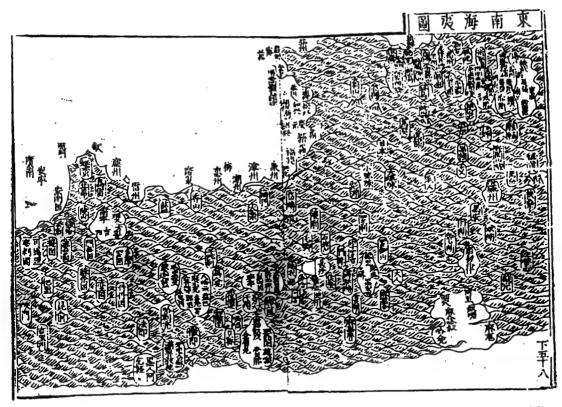


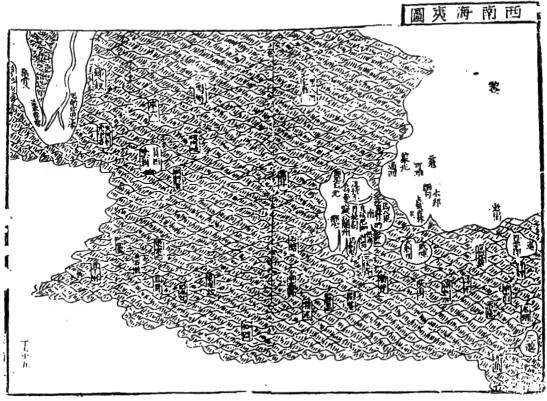
史 225-811

清部風	息道	三東加萊	<b>縣炭</b> 州		府尉山	慶野尚	幯	古黄绿	满垣	廣與圖紅	羅州州	全所	なお	全道	半安新	縣黄州	州で山	سات ا	<b>新</b>	
為陽	1 I	安清隆河	泗州	· 养山	成陽			南梁	茂長	判解	产州	南原	古阜		文三 化和		瑞典	延安		場や
. 天安	!	高教	尚州	率海	熊川		,	富品加平	鎮安		光州		珍鳥		長龍淵	海州	承天	平部		就 谷
体出		中载	評州	- 高陽	陜川			扶膺	扶安		吊州				成	<b>爱</b> 州	1	   		
		開慶	5.	安東				麻食仁學	全架	프					江西	州	1			: 
	1	巨濟		昌原	梁山			浴 城 江	旅津			,	ļ		<b>新</b>		1	ļ.	   	
	: 	日字			清道			海南波	现徒	1					烨					

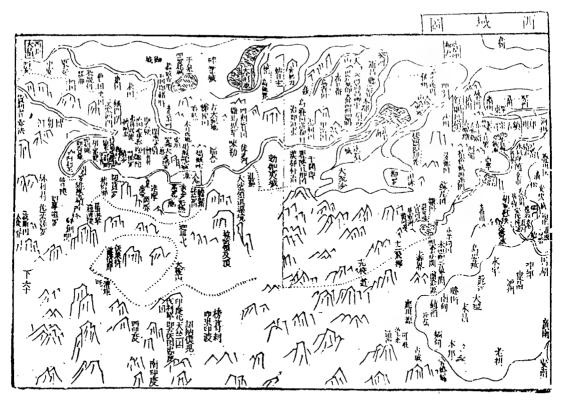
			孟縣	鉄撫州州	<del>安</del> 州 州	<b>合平</b> 蘭壤	<b>府</b> 慈山	廣與開紀	加郡山	平道安	利縣城	隋延州	州成	- 病喘	郡鲸	道水森	<b>春</b> 季 州	忠州
		1	徳川	買州	監州	廣見 利仁	龍川	朝鮮下	价川			徳州	<b>未</b>	五		扶餘	洪州	斧州
	-		陽飯	義州	片 州	成川	順用		乳山	j Į		別州	鏡火	李透		保寧	<u> </u>	· 则州
			江東	宿	定州	<b>海</b>			云具		\ 	とかり	安康			. 報		清州
			尹	銀州	  例  州	定遠		至	燃川			蘇州	食字		! 	石城		赌州
			泰儿	绑	    州	江 界			宜川			合州	 			近山	:	禮州
				消州	严州	昌城		是	江東			热州				旗岐		外州

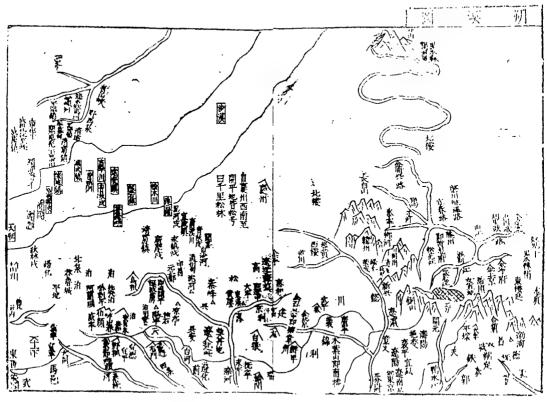
史 225-812



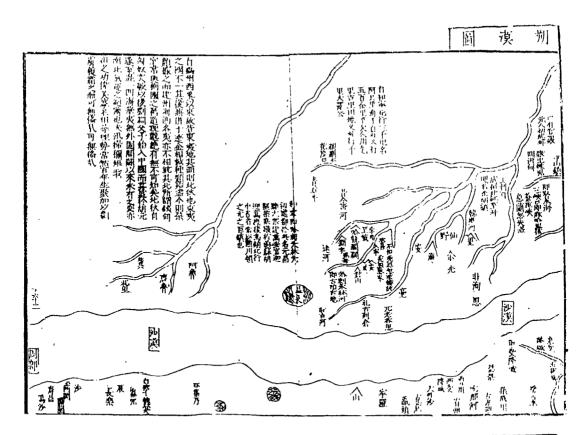


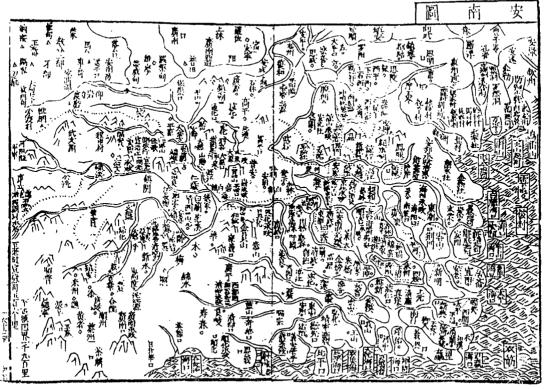
史 225-813





史 225-814





史 225-815

三十二州   7	治水川所以前二年 安南等處承宣布政使司〇按察司〇都指揮使司〇 自若也	以一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	後叛遊兵討之利懼奉表乞立陳氏後 七州五属州四十一縣一百五十七宣德二年黎利 整所恭永樂四年遊兵平之建交趾布政司預府十 樂所恭永樂四年遊兵平之建交趾布政司預府十	妻
----------	--	---	---	---

縣一〇化弄石大慈安定或 化大原大原 电电影 化香度可发 化禮利 医水通道	府(江牧物大鹽楊縣一縣)(江牧物大鹽楊縣一縣)(三牧物大鹽楊縣一縣)	所 縣五〇麻溪夏華清 外三〇北河丘 一二河	所 所 所 一 の い の い の の の の の の の の の の の の の	度平 (本化) (本化) (本化) (本化) (本化) (本化) (本化) (本化) (本化) (本化) (本化) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	府 ( ) 古南多翼 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (
--------------------------------------	------------------------------------	--------------------------------	---	---	--

縣三〇縣四作 縣三〇族本本 縣三〇族本本 縣三〇族本本 縣三〇族本本 縣三〇族本本 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	【
---	---

與化承政司即廣大鎮一日至 股份 明	日化	中上 5 京工 也 页 环 改 司 即
-------------------	----	---------------------

一大告江左四府所國、朓縣岸經官處市地平列右右至自亦二 二洪曆江安二口司氏司日一 府又四滩長皆橋又游縣縱龍文龍一道:負行日 縣之又由陽縣各南所又至日二道山府岸口即謂化 北文之縣顯州17一半知過至 挑五 1 花江可江一 至南阪南海至有至第二萬至口也徑又十至古三大 一日白多江安水日至新以济作日四一流北平入至道過其中課 四境宜集口湖支安以日军求可着歌 四至水入入师安十一口沿山旅看安一耗堰皇平 吱以踢上而陽光陽禦至州安抵廣侧 日至鶴邦者衛 富夏尾交交一越亦且亦工徑吐一越日軍處江州 别入縣洪入府以海元海萬州交東難至平縣城也 長華州州州 日縣進半至南出又日縣至何乃共代 洪其經之則復入口矢東吳白之海行端原實自臨 二月安北經經交叉者海一龍海道其雄州富兴洮 上文八石南慈中安武越而門為平南稱應之水布 至多比境安至州南又東日尾東自循府又良化二 流三百龍亦山昌越岸縣下岡二而市縣險以樂第 快漁縣以陽靈自至一府至白府熏洮又五江一日 其日至則有府江縣州之一下道溫橋亦惡流中。 州海之入縣縣自營日二廟龍若州元五日其口至 比至文下二文之之山中山四一义江政义师黎日 經口北井至過藤山至日山尾沿烏右日至一至山 為清點程道至南北紅南至十道一九二十 國而至自刑責而海白至廟二海雷岸亦編道白團 于入于参門徑入口藤統山口岸山入至安白縣縣 宣波州獨共來諸中二層世里從山岸之口口將至 光縣又們一片席橋田江安波文至各一至平覆意 **刚则河山府平则又海熟一至以後诸白縣河神又** 江又五循道加總江至北縣昌廟七與道鳳至之山 以由縣而亦繼經南口起日三行舟地轉又陽庙 南三日洮由林金上同岸門江州源前入服温以析 入安經入至築水至過有至山則北勢山一階三月 為月至江家等之流農一地上一州道部縣博作者 陀至鎮源自縣處北縣道至源日二倉江又州王從 多老南川黄江棠多庆石屯門烏風平岐日循岐至 流新荣取徑其來漁家農辛又雷順夷江至洮江興 金江臨安右縣渡路岸平從安經經月其府分又師東 告明上古等自湖海巡观巡一山利乃然宣江又化

		<b>英型图记《安斯</b> 里	為大平海口其緣由太平新吳二府亦經決 阿入港云 — — — — — — — — — — — — — — — — — — —
			選供入由 数下四大
		+	大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大
The state of the s			交海之州 人類宋鹹 多逐有子

送劉名 七名占 中本 一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	人學與有	山へ 所貢 <b>所</b> 口	性內修戰守以經其蘇未易與之角勝於 旦夕 地中不遂風於迅速複殼如夷倏忽聚散有同鬼 城無避乃知」。聖理神明勞燭者此然去寧波 鄭閣備衛以待之通年入 怒深入 截甸美聚殺 戮 所過日 鬼奴日邪馬日門色日華奴斷奴曰鬼醫口為 五	环的日本作为 日本的 日本的 日本的 日本的 日本的 日本的 日本的 日本的 日本的 日本的	四次圖
---	------	------------------------	---	--	-----

-													-	Marie o		14 محامت	-
八可意	窓察泥	更了 一 四 魯 帝 帝 密 密 を の の の の の の の の の の の の の	<b>※羅末樂四</b>	覧邦 利者之	至 一	西洋鎖里	野里 期 東 武 王 東 武 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	近郊園紀、田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	浦山	古麻刺汞樂	蘇門答刺波	<b>育不絕朝</b>	頂捌		至个别百 樂初聞王	—:#:	滑作
馬山	忽如	火		Ť,	王王国	些	16世地山川以北年國王上納的	起来由及了 王王馬那必加刺浙西馬伯是不絕 王其國西洋諸衛之會未樂元年日		·須本座其[[來朝]   永樂中國王哇來	必統朝貢自是了外樂中國王鎖丹寫	. 17.1	方物水樂三年封為王婆屬國統十四州洪武	٠	五星縣群群所或軍事	初二國國	九南 华末
鳥戏刺陽	忽魯謨斯來祭中	E 水祭中 			都當巴刺卜各率要不正巴都為外各刺西	<b>彭</b> 亨永樂中	献表 表	上 相是不絶 是不絶 是 不 能			不罕 絶難	İ	两王六年率其妻子來洪武四年國王馬災火	i	八國水樂三年表百八次軍諦刺表頁方物	以格林功益史加有遺別自己初期	平其妻子を例で年國上四利へ日
		奥尔			子朝世			<u>:</u>					子炭水火		<u>ا</u> ق	所以	他貢献

歳 十 揮 柳三七 使	常好說別員皆時期一個大學的一個大學的一個大學的一個大學的一個大學的一個大學的一個大學的一個大學的	錫蘭山在末樂九年	海山 加具 新東線中國王 加具 新東線中國王	杏一]	<b>租法兒來樂中國王</b>	古里班卒	日 朱   造	一   一   一
大乘大賽二王夾	等自牵其入由四川化三道,針當僧為六王至今襲村以為,針當僧為六王至今襲村以為,洪武 物政裁為思藏等處官 同以種東北陕西東抵四川雲南 胡元	注以 現何 夏帕 夏朝 費利	來朝貢 白萬達宣徳七	麒士	左法兒	阿文	彭加那	合

撒墨兒干	列思麻	沙里可哈思	<b>兆</b> 日	杂井川	納竹	多八条孫	杂 其 倉 溏	納竹	刺宗	原興圖紀 人内克丁	杂井丹	杂耳	塔爾	※ 杂 本 思	> 字思加	杂井思	大樂法王		別化王	<b> </b>
参上郎	字里加思東	<b>磨</b> 見勘	果由	羅恩端	倫荅	加八	乃竹	長河西	字思加	七十五 /	沙見可	施本有提班州入貢	杂 并 能 合	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	於 本 衛 號 凡 頁 紙 過 百 人 雅 州	刺宗				

西北夷	招納 模兒 其國 水	丁利方州俱朝學堂古入中	个的 有	雅谷安撫司	沙州立	四域諸國 四域諸國		ţ
情逐亦希 茶建设品 茶建設品 新建設的作用的設備官具質為抗 新用東本西河郡縣元丞相:若木	中來頁,抄來取自大食及計園也其教以事天為本書體穿行個正一不利金	真褐頂名   離析  天 鱗則	南巴事道黎巴市佛海年一页以二二印商巴日綽領理師二日黎巴一作人	遊司蠻長官司 加湖 无 市 本僧 水 前 放	<b>撒來</b>	西天泥八剌撒	重上幹切断州入 准基7	2

你沙兀兒	<b>幹</b> 失	脱忽麻	北カ黒	也克力	賽蘭	哈失哈兒	哈三	上	八四天	見罕地在	<b>罗</b> 把力枪此洪世	火川地在沿落西	除悉忘做	後經上帶番殘	常大	2端   衛   春   東   東   東   東   東   東   東   東   東	军來由元極。
<b>花</b> 失米兒		察力失	施力麻	扣丹砂	掃蘭	验的) 励	<b>哈撒兒沙的</b> 蠻	哈烈	+++	兒主之洪武中孝 頂至今不 廢水力 把力西传 行甲丁諸國 元	<b>四中未頁水樂未西于遂政今名</b> 四四本名別失八里元皆分赴諸	所據求樂 耐奉产		於一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次		以平置	四審賞兵军東擊 2貫、知設衛官里,首為拍隻等官就 2月,知南南町市西大部落洪武,末祭

可亦二刺失後不問 小克子所阿有花也。 即罕長軾著稱败先 口有古遺卜卜走大」	上鲁後為雅其 是台級質失罪以 是所服义理數 上紅不工馬之	思順 古市 大之	<b>廣東圖塞不穿表</b>	牛島	克 儿	<b></b>	邪思城	兀偷	才見二	海牙	<del></del>	火型	帖必力思
中都指有零六萬在沙漠東卻孫節為其下所杀九再房主而中絕 化两分五世界的 自日滿會工 日本 的一种 医一种 医二十二 计 医克斯氏 医二十二 计 医克斯氏 医二十二 医二十二 医二十二 医二十二 医二十二 医二十二 医二十二 医二十	与今下なりえ業系 こも背毛川正 高外不度攻殺之衆の立魔腹不花 常成 和皇帝順等起間之本雅快理為 馬哈木為順寧王阿魯台為和寧王 松本阿魯台本真惟菫四對本雅快 撒撒兒山 月是が近塞永樂川有	思为以下诉受共式二十五年遗肾北傳子愛猷識理達願達願傳干 脫		元恒期入寅三以下三十	元方	播音	圳城	阿迷		才昔 -	沙六	火占	. 心教思

赤不平 石	元者:	建有州土	奴兒干	存等	女直地在開元東北夷	外亦今 「 党其 下	(関連書師に)   進西阿曹神   日海尔田肖
4. 水光後	兀	必里		部分不復可考史。	床祭 中談 取兒 千都同 衛止企之上京 元胡吹里五	之各悔来以我无法不知道其所不是一个人。 是人工作。 是人工作。 是人工作。 是人工作。 是人工作。 是人工作。 是人工作。 是人工作。 是人工作。 是人工作。 是人工作。 是人工作。 是一个人。 是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	企思納日子 中間 中間 中間 中間 中間 中間 中間 中間 中間 中間
					所 授 游 苏 あ 也	盛必其其與率以率宗亦古定攻获已 批道承境之都為孫室克藥然部類例 名為也增司外類也罕掩分與之贤 為不至置養衛編 者各地議會已	官門以應衆

和 木 企	<b>水</b> 茶 里 山	速平江	塔山	脱倫	<b>*</b> 刺祭	亦見古里	亦馬利	原果圖忽不四東	雙城	<b>麥</b> 蘭河	赤竿河	無者前	蘇温河	右城、	撒力學三年	奴见于	<b>虎兒門</b>	<b>岁</b> 河山生器:
智力	<b>杂林山</b>	木會罕山	阿速江	游河	<b>客</b> 陳	<b></b>	<b>心</b>	<b></b>	撒剌兒	<b>几</b> 列	納弊河	通	<b>幹灘河</b>	<b>塔魯木</b>	占實河	整河.	失里綿	少手野

新門河 第五 第五 第五 第五 第	<b>木</b> 蘭河	撒只利河	古鲁渾山	散 河 利山	考即兀	好屯河	野兒定河	納刺言河	奇吉河	可令河	木陽河	阿古河	撒見忽	木来河	<b>北河</b>
納不河	<b>杂兒</b> が文山	<b>阿里河</b>	阿資河	忽	<b>亦変里</b>	咨剌烏河	* 上魯丹河	<b>亦里察汀</b>	野木河	兀的河	<b>冷</b> 蘭城	<b>客樂</b> 溫河	<b>創工的</b>	<b>华</b> 春河	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

七川	乞勤泥	忽兒海	禮領	禮肥河	大林	辞列 河北北京	忽里古山	秃都河	<b>阮里河</b>	历典國紀本的天下	<b>終射禿山</b>	欽真河	阿直河	撒艾河	<b>弗杂秃河</b>	<b>兀里奚山</b> 、	<b>光</b> 侧岭其	开\$	木典	<b>答罕</b> 上
	愛和	<del>伙里</del> 其	木里吉	忽石門	把城	上眷兀	英温河	質山	列門河	<b>本</b> 士	<b>喧</b> 罕河	· 克黙而河	水忽刺河	幹單河	阿者迷河	<b>希灘河</b>	七忽	刺魯	友帖	米水川
														7.						

いなた河	老各河	玄城	速塔兒河	<b>哈</b> 兒介	排提	可木河	<b>塔亭</b>	蒲涇	<b>聚哈兒</b>	<b>原學副紀</b> 、田夷	兀剌	建州左	: 為称可入年來	阿洛赤河	兀應河	<b></b>	· 亳中	木與河	古里河	<del>大里</del> 木
	<b>失見</b> 兀犇	和卜羅	五电河	阿兒温河	幹 柔倫 木 樂 十	<b> </b>	也孫倫	<b>哈兒麼</b>	古魯	4	<b>顺民</b>	只兒쩉	督军河末樂	古木山	法因河	<b>亦</b> 麻河	使坊河	木剌河	增展选上外	

散山龙台五十	<b>新郎</b> 松真河	<b>兀的</b> 军	兀秃河	万者 电河	<b>廣集圖紀</b> 《四 <b>庚</b> 下	新山左 十二	在實左	<b>阿</b> 英同 英	兀思哈里	乞 冷河
歌塔河知止:	<b>得的河</b>	可里 <b>哪</b>	<b>城和</b> 兒	<b>广</b> 者	<b>兀者穏勉</b>	城討温	阿沓赤河	亦寒河。	忽會愛求樂	

京央	失令	海西	的里木	兀察河	兀魯温河	一忽秃河	也今河	崔哈河	. 把見卜河	原與腳紀 阳夷	忽忽八河	亦秃浑河	車兒河	兀思哈里	欽真河	可木山	木温	<b>上鲁丹河</b>	施伯河	東温光
以下版本面 以下版本面	林馬門交品	蘇分	<b>埔</b> 坎	平力木江	撒只剌河	弗孫河	<b>邓</b> 阿	黒龍江	木倫河		<b>失木</b> 會河	古里罕河	微哈剌	古里河	四只河	<b>中</b>	諸車河	勝和兒河	兀兒欢車	TO THE SECTION AND THE RESERVE OF THE SECTION OF TH

原缺